
モルモン書

イエス・キリストについての
もう一つの証

モルモン書

イエス・キリストについての
もう一つの証

発行

末日聖徒イエス・キリスト教会
アメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティー

英語版初版発行 1830年

ご感想・ご提案をお寄せください。

電子メール宛先：scriptures@ChurchofJesusChrist.org、

郵便宛先：Scriptures Coordination,

50 East North Temple Street, 24th Floor,

Salt Lake City, UT 84150-3220 USA

© 2021 Intellectual Reserve, Inc.

All rights reserved.

Printed in the United States of America 12/2021

English approval: 3/15

Translation approval: 3/15

Translation of the Book of Mormon

Japanese

モルモン書

モルモンがニーファイの版から取つて自分の手で別の版に書き記した記録

したがつてこれは、ニーファイの民とレーマン人についての記録を短くまとめたものである。—イスラエルの家の残りの者であるレーマン人、ならびにユダヤ人と異邦人の残りの者であるレーマン人、ならびにユダヤ人と異邦人にあてて書き記されたもの—戒めにより、また預言と啓示の靈により書き記されたもの—書き記され、封じられ、主に託して隠され、損なわれることのないようになされたもの—神の賜物と力によりもたらされ、翻訳されるもの—定められたときに異邦人によつて伝わるよう、モロナイの手により封じられ、主に託して隠されたもの—また、神の賜物により翻訳されるものである。

これには、エテル書から取つて短くまとめたものも含まれている。エテル書はヤレドの民の記録であり、ヤレドの民は主が民の言語を乱されたとき、すなわち民が天に達しようとして一つの塔を建てていたときに散らされた人々であ

る。—これはイスラエルの家の残りの者に、主が彼らの先祖のためにどのような偉大なことを行われたかを示すものであり、また、彼らはどこしえに捨てられないという主の聖約を、彼らに分かるように示すものである。—また、ユダヤ人と異邦人に、イエスがキリストであり、永遠の神であり、すべての国民に御自身を現されることを確信させるものである。—ところで、もし誤りがあるとすれば、それは人の犯した間違いである。したがつて、キリストの裁きの座で染みがないと認められるために、神にかかるものを非難しないようになさい。

諸版よりの英語への原訳
ジョセフ・スマス・ジュニア

	序文	三人の証人の証	八人の証人の証	預言者ジョセフ・スミスの証	概説	絵	ニーファイ第一書	ニーファイ第二書	ヤコブ書	エノス書	福音書対観表	モルモンの言葉	モーサヤ書	アルマ書	ヒラマン書	第三ニーファイ	第四ニーファイ	モルモン書	エテル書	モロナイ書	聖句ガイド	年表	年表	福音書対観表			
オムナナイ書	192	195	283	522	578	660	665	692	736	1	181	155	185	188	vii	ix	x	xi	xvi	xix	70	1	155	181	185	192	目次

略語

日約聖書	
創世……	創世記
出エ……	出エジプト記
レビ……	レビ記
民数……	民数記
申命……	申命記
ヨシ……	ヨシュア記
士師……	士師記
ルツ……	ルツ記
サ上……	サムエル記上
サ下……	サムエル記下
列上……	列王紀上
列下……	列王紀下
歴上……	歴代志上
歴下……	歴代志下
エズ……	エズラ記
ネヘ……	ネヘミヤ記
エス……	エステル記
ヨブ……	ヨブ記
詩篇……	詩篇
箴言……	箴言
伝道……	伝道の書
雅歌……	雅歌
イザ……	イザヤ書
エレ……	エレミヤ書
哀歌……	哀歌
エベ……	エペソ人への手紙
モ言……	モルモンの言葉
モサ……	モーサヤ書
アル……	アルマ書
ヒラ……	ヒラマン書
3ニフ……	第三ニーフアイ
4ニフ……	第四ニーフアイ
モル……	モルモン書
エテ……	エテル書
モロ……	モロナイト書
ビリ……	ビリビ人への手紙
コロ……	コロサイ人への手紙
1テサ……	テサロニケ人への第一の手紙
2テサ……	テサロニケ人への第二の手紙
1テモ……	テモテへの第一の手紙
2テモ……	テモテへの第二の手紙
1ペテ……	ペテロの第一の手紙
2ペテ……	ペテロの第二の手紙
1ヨハ……	ヨハネの第一の手紙
2ヨハ……	ヨハネの第二の手紙
3ヨハ……	ヨハネの第三の手紙
ユダ……	ユダの手紙
黙示……	ヨハネの黙示録
モセ……	モーセ書
アブ……	アブラハム書
ジマタ……	ジョセフ・スミス—マタイ
ジ—歴史……	ジョセフ・スミス—歴史
箇条……	信仰箇条
KJ……	欽定訳聖書
JS……	ジョセフ・スミス訳
GS……	聖句ガイド

高価な眞珠

モセ……	モーセ書
アブ……	アブラハム書
ジマタ……	ジョセフ・スミス—マタイ
ジ—歴史……	ジョセフ・スミス—歴史
箇条……	信仰箇条

その他の略語と説明

KJ……	欽定訳聖書
JS……	ジョセフ・スミス訳
GS……	聖句ガイド
GS……	聖句ガイド
オム……	オムナイ書

序

文

『モルモン書』は『聖書』と肩を並べる聖典である。この聖典は、アメリカ大陸の昔の住民に對する神の導きの記録であり、この書物には完全な永遠の福音が記されている。

この書物は、昔の多くの預言者たちが啓示と預言の靈によつて書き記したものであり、モルモンという名の預言者であり歴史家であつた人物が、金版に書き記された言葉を引用し、短くまとめたものである。この記録は、偉大な文明を持つ二つの民のことについている。一つの民は、紀元前六百年にエルサレムからやつて来て、後にニーファイ人およびレーマン人として知られる二つの民に分かれた。

もう一つの民はそれよりもはるか以前に、主がバベルの塔で言語を乱されたときにやつて来た人々で、ヤレド人として知られている。しかし數千年後には、これらの文明の民はレーマン人のほかはすべて滅びてしまつた。このレーマン人もアメリカインディアンの先祖である。

『モルモン書』に記録されている中で最も栄光ある出来事は、主イエス・キリストが復活後間もなく、二ーファイ

人の間で親しくその務めを果たされたことである。また、『モルモン書』は福音の教えを宣言し、救いの計画の概要を説き、人がこの世で平和を得、後の世で永遠の救いにあずかるには何をしなければならないかを告げている。

モルモンは自分の記録を終えると、それを息子のモロナイに渡した。モロナイは、自分の言葉を多少付け加えて、その版をクモラの丘に隠した。その後、千八百二十三年九月二十日に、復活し栄光を受けた同じモロナイが預言者ジヨセフ・スミスに現れて、古代のその記録について指示を与え、やがてそれが英語に翻訳されることを告げたのである。

その後、時が訪れて、ジヨセフ・スミスはその版を渡され、神の賜物と力によつて翻訳した。そして、その記録は現在、イエス・キリストが生ける神の御子であられることを証し、またイエス・キリストのもとに来て、イエス・キリストの福音の律法と儀式に従うすべての人が救われることを証する、新たなもう一つの証の書物として、数多くの言語で出版されている。

この記録について、預言者ジヨセフ・スミスは次のように
に言つてゐる。「わたしは兄弟たちに言つた。『モルモン書』はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができ
る。」

主はジヨセフ・スミスに加えて、ほかに十一人の人々を、金版を実際に目にし、『モルモン書』が神から与えられた真実の書物であることを証する、特別な証人として立てられた。彼らの証は、「三人の証人の証」ならびに「八人の証人の証」として、この書物に收められている。わたしたちはあらゆる地に住むすべての人に、『モルモ

ン書』を読み、この書物に含まれている教えを心の中で深く考へ、そして、この書物が真実かどうか、キリストの名によつて永遠の父なる神に問うようにお勧めする。この手順を踏んで、信仰をもつて問う人々は、『モルモン書』が神から与えられた真実の書物であるという証を、聖靈の力によつて得るであろう（モロナイ書 第十章三一五節）。

聖なる御靈を通じて神からのこの証を得る人々は、その同じ力によつて、イエス・キリストが世の救い主であられ、ジヨセフ・スミスがこの終わりの時代の主の啓示者であり、主の預言者であることを、そして末日聖徒イエス・キリスト教会が、メシヤの再臨に先立つて地上に再び設立された主の王国であることを知るであろう。

三人の証人の誓

この書物を手にするすべての国民、部族、国語の民、民族にこのことをお知らせする。わたしたちは、父なる神と主イエス・キリストの恵みによつて、この記録が記されてゐる版を見た。これはニーファイの民と、その同胞であるレーマン人と、聖典に述べられているあの塔から来たヤレドの民についての記録である。また、その版が神の賜物と力によつて翻訳されたことも知つてゐる。神の声がわたしたちにそのことを宣言されたからである。したがつて、わたしたちはこの書物が真実であることを確かに知つてゐる。また、その版に刻まれている文字を見たことと、それがわたしたちに示されたのは人の力ではなく神の力によることを証する。また、一人の天使が天から降つて来て、携えて来たその版を目の前に置いたので、わたしたちはその版とそれに刻まれてゐる文字を見たことを謹んで言明す

る。目で見て、これらのものが眞実であると証するのは、父なる神と主イエス・キリストの恵みによるものであることを知つてゐる。これはわたしたちの目に驚くべきことではあるが、主の声がこのことを証するようにわたしたちに命じられたので、わたしたちは神命に従つてこのことを証する。わたしたちは、キリストにあつて忠実であるば、すべての人の血をわたしたちの衣から取り除いて、キリストの裁きの座で染みがないと認められ、キリストとともに天に永遠に住めることを知つてゐる。一つの神である御父と御子と聖靈に誉れがあるようだ。アーメン。

オリバー・カウドリー
デビッド・ホイットマー
マーティン・ハリス

八人の証人の証

この書物を手にするすべての国民、部族、国語の民、民族にこのことをお知らせする。わたしたちは、この書物の翻訳者ジョセフ・スマス・ジュニアから、前述の金に見える版を見せてもらい、またスマス氏が翻訳を終えた部分を手で触れてみた。また、その版に刻まれている文字も見たが、それらはすべて、昔のもののように、入念な造りに見えた。わたしたちは実際に目で見、手で持ち上げ、今まで語つてゐる版をスマス氏が所有していたことを確かに知つてゐるので、スマス氏がわたしたちに見せてくれたことを謹んで証するものである。そしてわたしたちは、自分たちが見たことを世の人々に証するために、

各自の名を公にする。わたしたちは偽りを言わない。がそのことを証される。

神

クリスチャン・ホイットマー

ジエイコブ・ホイットマー

ジョン・ホイットマー

ピーターホイットマー・ジュニア

ジョセフ・スマス・シニア

ハイラム・スマス

サミュエル・H・スマス

預言者ジヨセフ・スマスの証

預言者ジヨセフ・スマスは、『モルモン書』が世に出されたに至った次第を、次のように述べている。

「〔千八百二十三年〕九月二十一日の夜のことである。わたしは……全能の神に……祈つて嘆願した。……わたしはこのように神を呼び求めていたとき、室内に光が現れたのに気づいた。その光は次第に明るさを増し、ついにその部屋は真昼の時よりも明るくなつた。すると、すぐに一人の方がわたしの寝台の傍らに現れ、空中に立たれた。というのは、その足が床から離れていたからである。

その方はこの上なく美しい白さの、ゆつたりとした衣を着ておられた。それは、わたしがこれまで見たこの世のいかなるものにも勝る白さであった。この世のいかなるものも、これほど白く輝いて見えるようにすることはできないと思う。その方の手はあらわで、衣の裾は手首の少し上まで、その足もあらわで、衣の裾は足首の少し上までしかなかつた。その頭と首も覆われていなかつた。その方の

胸が見えるほど衣がゆつたりとしていたので、わたしはその方がその衣のほか何も着ておられないのに気づいた。その衣が非常に白かつただけでなく、その全身も筆紙に尽くし難い輝きに満ち、その顔はまことに稻妻のようであつた。部屋は非常に明るかつたが、その方のすぐ周りほど明るくはなかつた。わたしは最初にその方を見たときに恐れたが、その恐れはすぐに去つた。

その方はわたしの名を呼び、自分は神の前から遣わされた使者であると、その名はモロナイであること、神がわたしのなすべき業を備えておられること、またわたしの名が良くも悪くもすべての国民、部族、国語の民の中で覚えられること、すなわち、良くも悪くもすべての民の中で語られるることをわたしに告げられた。

その方はまた、この大陸の先住民の話と彼らの起源を伝える、金版に記された書が隠されていることを告げられた。また、それには救い主がその昔の住民に述べられたままに完全な永遠の福音が載っていることも告げられた。

また、銀のつるにはめた二つの石も版とともに隠されていること——これらの石は胸当てに付けてあって、ウリムとトンミムと呼ばれるものを成す——これらの石を所有して使つた者が昔すなむち前の時代の『聖見者』となつたこと、ならびにその書を翻訳するため神がそれらを備えてくださつたことを、その方は告げられた。……さらに、わたしがその方の語つたその版を受け取るとき——というのは、それを手に入れる時はまだ来ていないかつたからである——その版や、ウリムとトンミムの付いた胸当てを、それらを見せるように命じられた人々のほかにはだれにも見せてはならない、もしも見せたならば滅ぼされる、とその方はわたしに告げられた。その方が版についてわたしと語つておられる間に、わたしの心に示現が開いてわたくしと語つておられる間に、わたしの心に示現が開かれ、わたしはその版の隠されている場所を見ることができた。そして、それは非常に明瞭ではつきりとしていたので、そこを訪れたときにはその場所が分かつた。

この指示を受けた後、わたしが見ると、室内の光はたちまち、わたしに語つておられたその方の周りに集まり始めた。そして、光は集まり続け、その方のすぐ周りを除いてついにその部屋は再び暗くなつた。その途端に、わたしが見ると、あたかも一筋の道が天に向かつてまっすぐに開

いたかのようで、その方は昇つて行かれ、ついにその姿がまったく見えなくなつた。そして、その部屋は、この天の光が現れる前の状態に戻つた。

わたしはその奇異な有様をつくづくと考へ、またこの常ならぬ使者によつて告げられたことを不思議に思いながら横になつていた。このようにも思ひにふけつてゐる最中に、わたしは、突然部屋が再び明るくなり始めたのに気づいた。そして、あたかも突然であるかのよう、同じ天の使者が再びわたしの寝台の傍らにおられた。

その方は語り始め、最初に訪れたときに述べたこととまったく同じことを少しもかえずずに再び述べられた。それを述べた後、飢餓と戦争と疫病によるひどい荒廃を伴つて地上に来ようとしている大きな裁きについてわたしに告げ、またこれらの厳しい裁きがこの時代に地上に来ることを告げられた。これらのことを述べた後、その方は再び前と同じように昇つて行かれた。

このときには、心に受けた印象が非常に深かつたので、わたしは目がさえて眠れなくなつており、見たり聞いたりしたことへの驚きに圧倒されて横になつていて。ところが何とも驚いたことに、わたしはまたもや寝台の傍らに同じ使者を見、その方が前と同じことをわたしに詳しく語

られるのを、すなわち、再び練り返し語られるのを聞いたのである。そして、その方はわたしに一つの警告を加え、（父の家族は貧しい暮らしをしていたので）金持ちになるために版を手に入れるように、サタンがわたしを誘惑しようとするとであろうと告げられた。そしてその方は、このようないることのないようにわたしに命じ、版を手に入れるに当たつては神の榮光を手にする以外の目的を抱いてはならないこと、また神の王国を築こうとする動機以外のいかなる動機にも左右されではならないこと、そうでなければそれを手に入れることはできないことを告げられた。

この三度目の訪れの後、その方は前のようにまた天に昇つて行かれた。そして、わたしはたつた今経験したことのふ不思議さをまた深く考へ続けた。その天の使者が三度目にわたしを離れて昇つて行かれたのとほとんど同時に、鶴が鳴いたので、わたしは夜明けの近いことを知つた。したがつて、わたしは一晩中その使者と会見していくことになる。

わたしはその後間もなく起きて、いつものように、その日にしなければならない仕事に出かけた。しかし、わたしは普段のようにならぬ仕事に出かけた。しかし、わたしは普段のように働くことをしたが、まったく働けないほど疲れ果てているのを知つた。わたしと一緒に働いていた父

は、わたしの具合が悪いのに気づき、家に帰るように言った。そこで、わたしは家に帰ろうとして出かけた。しかし、囲いを越えて畑から出ようとしたときに、すっかり力を失つてぐつたりと地に倒れ、しばらくの間まったく意識を失つていた。

わたしが思い出せる最初のことは、わたしの名を呼んで、わたしに語りかける声があつたことである。見上げると、あの同じ使者が前のよう光に包まれて、頭上に立つておられるのが見えた。それからその方は、前夜わたしに話したすべてのことを再びわたしに話し、父のところへ行つて、わたしが受けた示現と命令のことを告げるよう命じられた。

わたしはそれに従い、畑にいた父のところへ戻つて、父にすべてのことを詳しく告げた。すると、父はわたしに、それは神から出でいると答え、その使者から命じられたとおりにするよう告げた。わたしは畑を去つて、版が隠されていると使者から告げられた場所へ行つた。すると、それに関して受けていた示現が明瞭であつたので、そこに着くとすぐにその場所が分かつた。

ニューヨーク州オントリオ郡マンチエスターの村の近くに、かなりの大きさの丘が一つある。そこはその界かい

切つての高い丘である。この丘の頂上から遠くない西側の所にかなりの大さの石があつて、その石の下にあつた石の箱の中に版が置かれていた。この石は厚みがあつて、上部の中央が丸みを帶びており、へりに行くに従つて薄くなつていたので、その中央部は地上に見えていたが、へりはすべて土に覆われていた。

わたしは土を取り除いて、てこを一本手に入れ、それをその石のへりの下に差し込んで、わずかな力でそれを持ち上げた。中をのぞき込むと、あの使者から言われたように、実際にそこに、版と、ウリムとトンミムと、胸当てが見えた。彼らが納められた箱は、ある種のセメントの中に石を置いて造つたものである。箱の底には、横向きに二個の石が置かれ、その石の上に版とその他の物が一緒に載せられていた。

わたしはそれらを取り出そうとしたが、あの使者に止められた。そして、それらを出す時はまだ来ていなことを知られた。また、そのときから四年たないと、それが来るまでわたしはそれを続けなければならない

とを告げられた。

それで、わたしは命じられたとおりに、一年ごとにそこで行き、その度にあの使者にお会いした。そして、お会いする度に、主が何を行おうとしておられるか、また終わりの時に主の王国がどのように指導されるべきかに関して、その方から指示と知らせとを受けた。……

ついに、版と、ウリムとトンミムと、胸当てを手に入れる時がやつて來た。一千八百一十七年九月二十二日、わたしはいつものよう満一年目に、それらが隠されている所へ行くと、あの同じ王の使者が、それらを次の責任とともにわたしに渡してくださつた。すなわち、わたしはそれらに対する責任を持たなければならぬ、もしわたしが不注意や自分の怠慢でそれらを失うならば、わたしは絶たれるであろう、しかしその方、つまりその使者がそれらを取りに来られるまで、わたしはそれらを保存するためあらゆる努力を尽くすならば、それらは守られる、というのであつた。

わたしは間もなく、なぜそれらを安全に保つためにそのときからちょうど一年目にその場所に来るよう、そされば彼がわたしに会つてくださること、また版を手に入れる時が来るまでわたしはそれを続けなければならない

よくなつた。それで、わたしは命じられたとおりに、一年ごとにそこで行き、その度にあの使者にお会いした。そして、お会いする度に、主が何を行おうとしておられるか、また終わりの時に主の王国がどのように指導されるべきかに関して、その方から指示と知らせとを受けた。……

ついに、版と、ウリムとトンミムと、胸当てを手に入れる時がやつて來た。一千八百一十七年九月二十二日、わたしはいつものよう満一年目に、それらが隠されている所へ行くと、あの同じ王の使者が、それらを次の責任とともにわたしに渡してくださつた。すなわち、わたしはそれらに対する責任を持たなければならぬ、もしわたしが不注意や自分の怠慢でそれらを失うならば、わたしは絶たれるであろう、しかしその方、つまりその使者がそれらを取りに来られるまで、わたしはそれらを保存するためあらゆる努力を尽くすならば、それらは守られる、というのであつた。

わたしは間もなく、なぜそれらを安全に保つためにその

よくなつた。それで、わたしは命じられたとおりに、一年ごとにそこで行き、その度にあの使者にお会いした。そして、お会いする度に、主が何を行おうとしておられるか、また終わりの時に主の王国がどのように指導されるべきかに関して、その方から指示と知らせとを受けた。……

ついに、版と、ウリムとトンミムと、胸当てを手に入れる時がやつて來た。一千八百一十七年九月二十二日、わたしはいつものよう満一年目に、それらが隠されている所へ行くと、あの同じ王の使者が、それらを次の責任とともにわたしに渡してくださつた。すなわち、わたしはそれらに対する責任を持たなければならぬ、もしわたしが不注意や自分の怠慢でそれらを失うならば、わたしは絶たれるであろう、しかしその方、つまりその使者がそれらを取りに来られるまで、わたしはそれらを保存するためあらゆる努力を尽くすならば、それらは守られる、というのであつた。

わたしは間もなく、なぜそれらを安全に保つためにその

それらを持つてゐることが知れるやいなや、わたしからそれらを奪おうとするあらんかぎりの努力が払われたからである。そのために思いつくかぎりのあらゆる策略が実行に移された。迫害は以前にも増して激しく、容赦のないものとなり、大勢の人が、できればわたしからそれを奪おうと絶えず機会をうかがつた。しかし、わたしが求められたことをそれらによつて成し遂げるまで、それらは神の知恵によつて、わたしの手の中で無事であつた。そして、前もつて定められたとおり、使者がそれらを取りに来られたとき、わたしはそれらを使ふに引き渡したのである。そし

て、千八百三十八年五月一日の今日まで、その使者がそれらを管理しておられる。』

さらに詳しい話については、『高価な眞珠』の「ジョセフ・スミス—歴史」を参考していただきたい。

このようにして、地の中から語る一つの民の声として地から取り出され、神の断言によつて明らかなように、神の賜物と力によつて近代の言語に翻訳されたこの古代の記録書は、千八百三十年に、THE BOOK OF MORMON (『モルモン書』) として初めて世に出された。

『モルモン書』についての概説

聖な記録であり、金属版に刻まれていたものである。この記録を編さんする資料として、次のものが用いられた。

一. ニーファイの版。小版と大版の二種類がある。

小版には、特に靈的な事柄と預言者たちの務めと教えが記されており、一方大版は、大部分が世俗の歴史で占められている（ニーファイ第一書第九章一二四節）。しかし、モーサヤの時代以後は、大版にも、靈的に際立つて重要な事柄が記された。

二. モルモンの版。モルモンがニーファイの大版から短くまとめた記事と、多くの解説文から成る。この版には、モルモンが書き継いだ歴史と、息子モロナイが付け加えた記事が載っている。

三. エテルの版。ヤレド人の歴史を伝えるものである。モロナイはこの記録を短くまとめて、これに自分の解説を織り込み、「エテル書」という表題を付けて、全体の歴史に組み入れて編集した。

四. 真鍼の版。紀元前六百年に、リーハイの民がエルサ

レムから携えて来たものである。この版には、「モーセの五書」……また、世の初めからユダの王ゼデキヤの統治の初めに至るユダヤ人の記録……また……聖なる預言者たちの預言」（ニーファイ第一書第五章十一—十三節）が載っている。イザヤやその他、聖書の預言者や聖書に現れない預言者たちの言葉が、この版からたくさん『モルモン書』に引用されている。

『モルモン書』は、一つの例外はあるものの、ほかはすべて「書」として知られる十五の主部すなわち区分から成っている。これらの「書」には通常、その主要な著者の名が付けられている。「オムナイ書」までの最初の六つの書は、ニーファイの小版からの翻訳である。また、「オムナイ書」と「モーサヤ書」の間に「モルモンの言葉」と呼ばれる挿入記事がある。これは、小版に刻まれている記録とモルモンが大版から短くまとめた記録をつなぐものである。

「モーサヤ書」から「モルモン書」第七章に至る長い部分は、モルモンがニーファイの大版から短くまとめたもの翻訳である。また、「モルモン書」第八章から卷末までの残りの部分は、モルモンの息子モロナイが刻んだものである。モロナイは父の生涯について記録を終えた後、「エテル書」としてヤレド人の記録を短くまとめたものを作り、その後、「モロナイ書」として知られている部分を付け加えた。

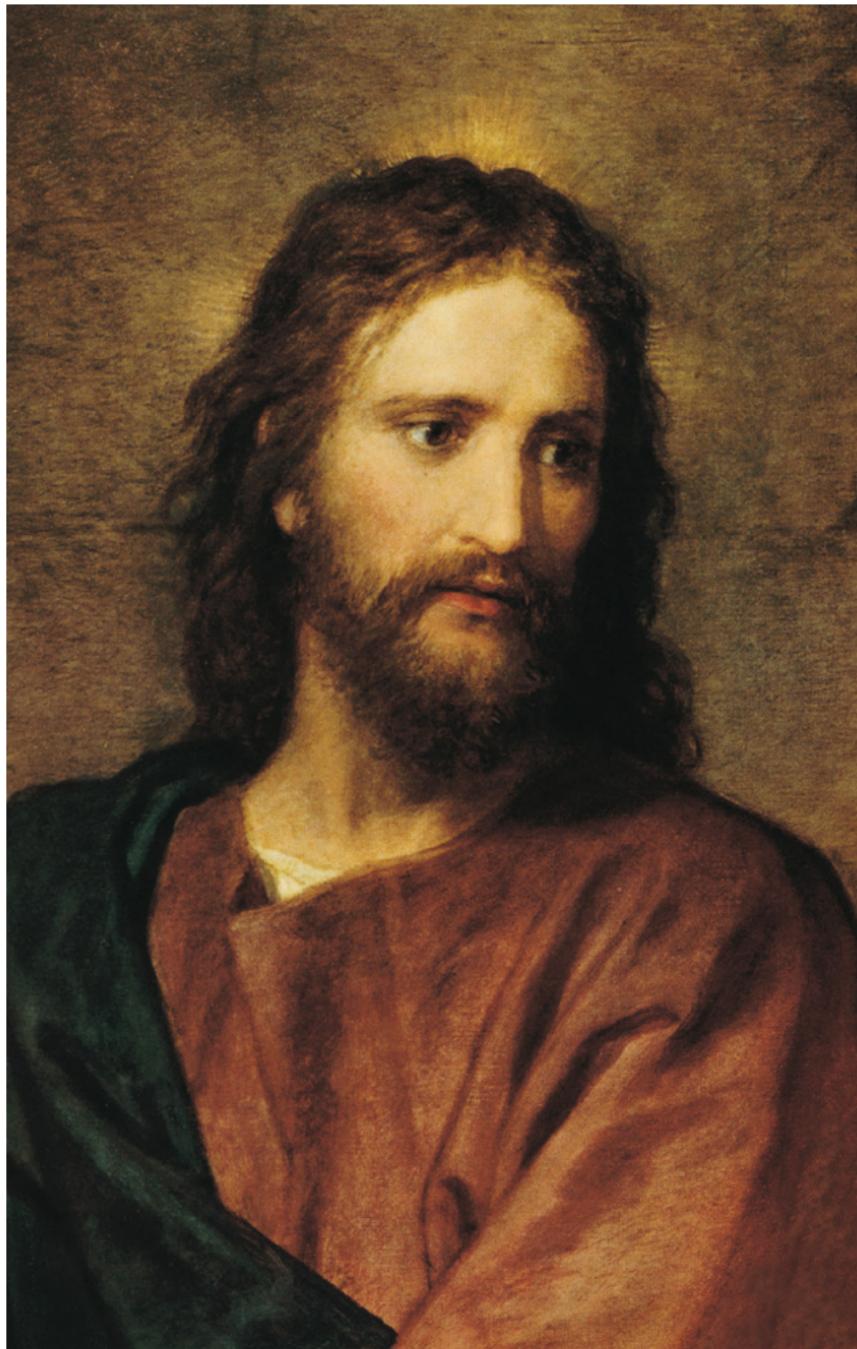
紀元四百二十一年、あるいはそれに近いある年に、二十一ファイ人の最後の預言者であり歴史家であるモロナイは、昔の預言者たちを通じて神の声により予告されたとおりに、末日に明らかにされるよう、その神聖な記録を封じ、主に託して隠した。そして紀元八百二十三年に、當時復活していたこの同じモロナイが預言者ジョセフ・スミ

スを訪れ、後に、記録の刻まれているその版を彼に渡したのである。

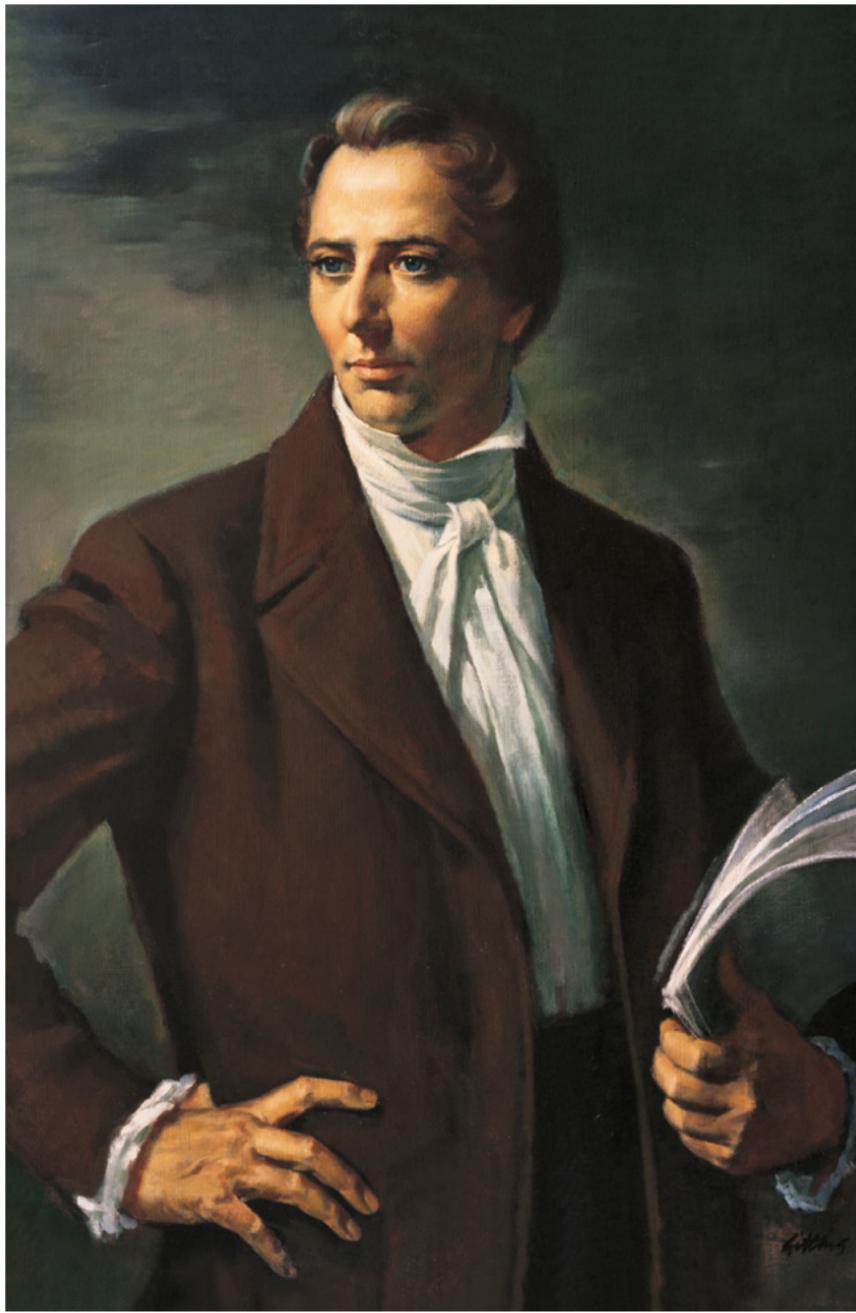
本版について一目次のページのすぐ前にある原文のタイトルページは、版から取られたものであり、神聖な本文の一部である。章の前書きと書体を異にするニーファイ第一書の序文やモーサヤ書第九章の直前にある序文もまた、神聖な本文の一部である。章の前書きなど、本文とは書体が異なるものは神聖な本文からのものではなく、学ぶ助けとして、読むときの便宜を図つて書き加えられたものである。

過去に出版された英文の『モルモン書』の本文には、小さな誤りが幾つか残っていた。本版は、出版前の原稿と預言者ジョセフ・スミスが校訂した初期の版に合わせて、適切と思われる訂正を加えたものである。

繪



主イエス・キリスト
ハインリッヒ・ホフマン画



預言者ジョセフ・スミス
アルビン・ギッティンズ画

「預言者ジョセフ・スミスの証」xi - xv ページ参照



リーハイ、リアホナを見つける
アーノルド・フリー・バーグ画

1=--ファイ 16章、43-47ページ参照



リーハイとその民、約束の地に着く
アーノルド・フリーバーグ画

1 ニーファイ 18 章、54 – 57 ページ参照



アルマ、モルモンの泉でバプテスマを施す

アーノルド・フリーバーグ画

モーサヤ 18 章、244 - 247 ページ参照



レーマン人サムエル、預言をする
アーノルド・フリーバーグ画

ヒラマン 16 章、574 – 577 ページ参照



イエス・キリスト、アメリカ大陸を訪れられる
ジョン・スコット画

3ニーファイ11章、606-610ページ参照



モロナイ、ニーファイ人の記録を埋める
トム・ラベル画

モルモン 8 章、682 – 686 ページ参照

ニーファイ第一書

くことなど。これはすべて、ニーファイが記すところによる。言い換えれば、わたしニーファイがこの記録を書き記したのである。

ニーファイの統治と務め

リーハイと妻サライア、および（長男から始めて）レーマン、レムエル、サム、ニーファイと呼ばれた四人の息子たちの話。リーハイが民に向かつて彼らの罪悪について預言をし、民がそのリーハイの命を奪おうとしたので、主はリーハイにエルサレムの地を立ち去るよう警告される。リーハイは、家族を連れて荒れ野に三日間の旅をする。ニーファイ、兄たちと共に、ユダヤ人の記録を手に入れるためにエルサレムの地に戻る。一行が遭つた苦しみの話。ニーファイと

1 わたしニーファイは善い両親から生まれたので、父が学んだすべてのことの中から幾らかの教えを受けた。わたしはこれまでの人生で多くの苦難に遭つたが、生まれてこのかた主の厚い恵みを受け、まことに神の慈しみと奥義を深く知つた。そこで、生まれてからこれまでの間に行つてきたことを記録する。

2 まことにわたしは父の言葉で記録するが、それは、ユダヤ人が学んできたこととエジプト人の言葉から成つてゐる。一行が大海を渡つて約束の地に着いたとき、尼ーファイは反抗する。ニーファイ、兄にフルと名付ける。一行が大海に来る。ニーフア

第1章

ニーファイ、自分の民について記録を始める。リーハイ、示現の中で火の柱を目にし、また預言の書を読む。リーハイ、神をほめたたえ、メシヤの来臨を予告し、エルサレムの滅亡を預言する。リーハイ、ユダヤ人に迫害される。紀元前約六百年。

3 わたしは、自分の書く記録が現実であることを知つてゐる。わたしはこれを自分の手で書き、自分に知つてることに従つて書く。

4さて、ユダの王ゼデキヤの統治第一年の初めに（父リーハイは生まれてこのかた工ルサレムに住んでいた）、その同じ年に多くの預言者が現れて、民に向かい、悔い改めなければ大きな都のエルサレムは滅ぼされるに違ひないと預言した。

5さて、父リーハイは、出て行つて民のためにまことに一心に主に祈つた。

6そして、祈つていたときに、火の柱が現れて、父の前にある岩の上にとどまつた。そして父は、多くこのを見たり聞いたりした。父はこれらの見たり聞いたりしたことを聞いたり聞いたりした。父はエルサレムにある自分の家に帰つて来たが、御靈と自分が見たものに圧倒され、床に伏してしまつた。

8このように御靈に圧倒されていたとき、父は示現に引き込まれ、まことに天が開くのを見た。また父は、神が御座に着き、御自身を贊美しほめたたえる様子で群れ集まる、無数の天使たちに取り囲んでしまつた。

9そして父は、天の真ん中から降りて来られる一人の御方を見たが、その輝きは真昼の太陽の輝きにも勝るものであつた。

10また父は、このほかにこの御方に従う十二人の人も見たが、その明るさは大空に輝く星の明るさをしのいでいた。

11そして、この人たちは天から降りて来て地の面を進んで行つた。やがて最初の人が父の前に来て立ち、一つの書物を渡して読むよう言つた。

12そこでその書物を読むと、父は主の御靈に満たされた。

13父は声に出して読んだ。「災いである。エルサレムは災いである。わたしはあなたの忌まわしい行いを見たからである。」そして父は、エルサレムについて多くのことを読んだが、それはエルサレムが滅ぼされ、その地に住むものも滅ぼされ、多くが剣で殺され、多くが囚われの身となつてバビロンへ連れ去られるということであつた。

14さて、父は多くの大いなる驚くべきことを読んだり見たりした後、主に向かい、「おお、全能の主

3	1二フ 14·30、 モサ 1·6、エテ 5·1·3、 教義 17·6
4	①歴下 36·10、エレ 年、付録の「年表」を 参照
5	②紀元前五百九十八 年、付録の「年表」を 参照
6	③歴下 17·9·3 15·16·エレ 7·
7	④歴下 13·15 16·エレ 7·
8	GS 25·26、 エレ 26·18、2二フ 「リーハイの父」
9	⑤「リーハイ」 エラ 8·20 ヒラ 5·16 新ヤコブ 5·16
10	⑥出エ 13·21 ヒラ 5·24、43、 教義 29·12、43、 ジ歴史 1·16
11	⑦ダニ 10·8、9·1二フ ヒラ 5·16 新ヤコブ 5·16
12	⑧歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
13	⑨歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
14	⑩歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
15	⑪歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
16	⑫歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
17	⑬歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
18	⑭歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
19	⑮歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
20	⑯歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
21	⑰歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
22	⑱歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
23	⑲歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
24	⑳歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
25	㉑歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
26	㉒歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
27	㉓歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
28	㉔歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
29	㉕歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
30	㉖歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
31	㉗歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
32	㉘歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
33	㉙歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
34	㉚歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
35	㉛歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
36	㉜歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
37	㉝歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
38	㉞歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
39	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
40	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
41	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
42	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
43	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
44	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
45	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
46	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
47	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
48	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
49	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
50	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
51	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
52	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
53	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
54	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
55	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
56	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
57	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
58	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
59	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
60	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
61	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
62	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
63	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
64	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
65	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
66	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
67	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
68	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
69	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
70	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
71	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
72	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
73	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
74	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
75	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
76	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
77	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
78	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
79	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
80	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
81	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
82	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
83	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
84	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
85	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
86	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
87	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
88	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
89	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
90	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
91	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
92	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
93	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
94	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
95	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
96	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
97	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
98	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
99	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
100	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
101	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
102	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
103	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
104	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
105	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
106	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
107	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
108	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
109	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
110	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
111	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
112	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
113	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
114	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
115	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
116	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
117	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
118	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
119	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
120	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
121	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
122	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
123	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
124	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
125	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
126	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
127	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
128	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
129	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
130	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
131	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
132	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
133	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
134	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
135	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
136	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
137	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
138	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
139	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
140	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
141	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
142	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
143	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
144	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
145	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
146	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
147	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
148	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
149	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
150	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
151	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
152	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
153	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
154	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
155	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
156	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
157	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
158	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
159	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
160	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
161	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
162	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
163	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
164	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
165	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
166	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
167	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
168	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
169	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
170	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
171	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
172	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
173	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
174	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
175	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
176	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
177	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
178	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
179	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
180	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
181	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
182	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
183	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
184	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
185	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
186	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
187	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
188	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
189	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
190	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
191	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
192	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
193	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
194	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
195	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
196	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
197	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
198	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
199	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
200	㉟歴史 1·20 エセ 1·1、使徒 教義 13·1 ジ歴史 1·16
201	㉟歴史 1·20 エ

なる神よ、あなたの御業は何と偉大で驚くべきものでしよう。あなたの御座は高く天にあつて、あなたの力と慈しみと憐れみは地に住むすべての者に及んでいます。あなたは憐れみ深い御方ですから、あなたのみもとに来る者が滅びるのを許されません」

などと、大声で多くのことを叫んで言つた。

15 このような言葉で神をほめたたえたのは、父が見たこと、すなわち主が父に示されたことで父が心から喜び、まことに胸がいっぱいになつたからである。

16 ところで、わたしニーファイは、父が書き記したことを残らず述べることはしない。それは、父が示現や夢で見たことをたくさん書き記しており、また子供たちに預言をしたり語つたりしたこともたくさん書き記しているからであつて、わたしはそのことについて残らず述べるつもりはない。

17 そうではなく、わたしは生まれてからこれまでの間に自分が行つてきたことを述べる。見よ、わたしは自分の手で造った版に父の記録を短くまとめる。そして父の記録を短くまとめてから、次にわたしの生涯について述べるつもりである。

18さて、あなたがたに知つていてもらいたいと思うことがある。すなわち、主が父リーハイに、非常に多くの驚くべきこと、まことにエルサレムの滅亡について示されてから、見よ、父は民の中に出て行つて、自分が先に見たり聞いたことについて預言し、また告げ知らせ始めた。

19さて、ユダヤ人は、父が彼らについて証をしたことのために父をあざ笑つた。父が、ユダヤ人の悪事と彼らの忌まわしい行いについて、ありのままに証したからであり、自分が見聞きしたことや、あの書物で読んだことが、メシヤの来臨と世の贖いをはつきり表していると、証したからである。

20ユダヤ人は、これらのこと聞いて父に腹を立てた。まことに、彼らが昔の預言者に腹を立てたのと同じである。彼らは預言者を追い出し、石を投げつけ、殺してしまつた。そして、今また彼らは父の命をねらい、殺してしまおうとしたのである。しかし見よ、主の深い憐れみは、信仰があるために主から選ばれたすべての者のうえに及び、この人たちを強くして自らを解放する力を与えることを、わたしニーファイはあなたがたに示そう。

20 GS「憐れみ」	20 ①②GS ヒラ アル 34 13 38 24 26	19 ①②GS 「預言」	18 ② エレ 25 4 1 ニフ 2 13 7 14	17 16 ① ニフ 2 9 1 ニフ 6 1 ニフ 5 29 33 2 ニフ 5 1 ニフ 9 2 ニフ 5 2 ニフ 9 5	14 ① アル 5 33 36
---------------	--	--------------------	---	---	--------------------------------

第2章

へ出て行つた。

リーハイ、家族を連れて紅海に近い荒れ野に出発する。
財産を後に残す。主に犠牲をささげ、息子たちに主の戒めを守るように教える。レーマンとレムエル、父に対しうつぶやく。ニーファイは従順であり、信仰をもつて祈る。主、ニーファイに語られ、ニーファイは兄たちを治める者として選ばれる。紀元前約六百年。

1さて見よ、主はまことに夢の中で父に告げてこう言われた。「リーハイよ、あなたはこれまで行つてきたことのために、幸いである。あなたは忠実であり、わたしが命じたことをこの民に告げ知らせたため、見よ、彼らはあなたの命を奪おうとしている。」

2そして、主は夢の中で父に、家族を連れて荒れ野へ出て行くように命じられた。
3そして、父は主の言葉に従順であったので、主が命じられたとおりにした。

4そして、父は荒れ野へ出て行つた。父は自分の家族と食糧と天幕のほかは何も持たずに荒れ野の受け継ぎの地、金や銀、貴重品を後に残して、

5そして父は、まず紅海の海辺に近い境の地の辺りに下つて行つて、それから、さらに紅海に近い境の地の荒れ野を進んだ。父は荒れ野の中を家族と一緒に下つて旅をしたが、その家族とは、母サライアと兄たち、すなわちレーマン、レムエル、サムであった。
6さて、父は荒れ野を二日の間旅してから、ある谷で、水の流れている川のほとりに天幕を張つた。
7そして父は、石で一つの祭壇を築き、主にささげ物をして、主なるわたしたちの神に感謝をささげた。
8さて、父はその川をレーマンと名づけた。その川は紅海に注ぎ、その谷は河口に近い境の地についた。
9父は、その川の水が紅海の源に注ぐのを見て、レーマンに向かつて言つた。「おお、おまえはこの川のように、絶え間なくあらゆる義の源に流れ込むようだ。」
10またレムエルに向かつて言つた。「おお、おまえはこの谷のようだ。主の戒めを守ることにおいて堅

2 1 ② ① GS 1 2 二 ニフ 10, 20, エテ 1, 42, アブ 2, 3 42,
5 ① 19 1 ニフ 16, 14, エテ 1, 42, アブ 2, 3 42,
7 6 ① ② GS 1 申命 27 出エ 20, 25, エテ 1, 42, アブ 2, 3 42,
4 3 ① ② GS 1 1 ニフ 10, 4, エテ 1, 42, アブ 2, 3 42,
2 1 ② ① GS 1 2 二 ニフ 10, 20, エテ 1, 42, アブ 2, 3 42,

く確固として、搖るぎなくあるよう。」

11 ところで、父がこう言ったのは、レーマンとレムエルが強情であつたからである。見よ、この二人は多くのことで父に對してつぶやいた。それは、父が幻を見人で、自分たちの受け継ぎの地や、金や銀、貴重品を後に残して、エルサレムの地から自分たちを連れ出し、荒れ野で死ぬほなかつたためであった。そして、父がこのようにしたのは、心に浮かんだつまらない空想のためだ、と彼らは言つた。

12 このように、いちばん年上のレーマンとレムエルは父に對してつぶやいた。彼らがつぶやいたのは、自分たちを造られたあの神の計らいを知らないためであつた。

13 またこの二人は、あの大きな都のエルサレムが、預言者たちが言つたように滅ぼされることも信じなかつた。彼らは、父の命を奪おうとしたエルサレムのユダヤ人のようであつた。

14 そこで父は、レムエルの谷で御靈に満たされ、ふたりの体が自分の前で打ち震えるまで力強く彼らに語つた。そして父が二人を言い伏せたので、

15 二人は一言も言い返さず、父の命じるとおりにした。
15 父は天幕に住んだ。

16 さて、わたしニーファイはまだとても若かつたが、もう身の丈は高く、また神の奥義を知りたいという大きな望みを抱いていたので、主に叫び求めた。すると見よ、主がわたしを訪れ、心を和らげてくださつたので、わたしは、父がこれまでに語つた言葉をすべて信じた。そのためにわたしは、兄たちのように父に逆らおうとはしなかつたのである。

17 そしてわたしはサムに、主が聖なる御靈によつてわたしに明らかにしてくださつたことを話して聞かせた。そこで、サムはわたしの言葉を信じた。
18 しかし見よ、レーマンとレムエルは、わたしの言うことに決して聞き従おうとしなかつたので、わたしは二人の心がかたくななのを悲しく思い、二人のために主に叫び求めた。

19 そこで主は、わたしに告げて言われた。「ニーフアイよ、あなたは信仰があるので幸いである。あなたがへりくだつた心で、熱心にわたしを求めたからである。

19	18	11
15 ① 3 ① ⑤ ④ ② ① ② ③ GS ② ① ② ③ GS 「つぶやき」	16 14 13 12 1 二フ 1 二フ 1 二フ 5 2 4	箴言20. 17.
11 1 二フ 7 16 24 12,	アル 5 17 10 8 4, GS 「力」	エレ 13 4 6, GS 「神の奥義」
7 16 24, 12,	アル 5 17 10 8 4, GS 「父（現世の）」	詩篇8:4,
		アル 5:7, 17, 37,

20 あなたがたは、わたしの命令を守るかぎり榮え
て、約束の地に導かれるであろう。まことにそこ
は、あなたがたのためにわたしが備えた地であつ
て、それはまことに、ほかのあらゆる地に勝ったえ
り抜きの地である。

21 あなたの兄たちは、あなたに背くかぎり主の前か
ら絶たれるであろう。

22 またあなたは、わたしの命令を守るかぎり、兄に
たちを治める者、教える者とされるであろう。

23 見よ、彼らがわたしに背くその日に、まことにわ
たしはひどいのろいをもつて彼らをのろうであろ
う。また、あなたの子孫がわたしに背いた場合を
除いて、彼らがあなたの子孫を支配する権力を得る
ことは決してないであろう。

24 しかし、もしあなたの子孫がわたしに背くなら
ば、彼らは、あなたの子孫に主を思い出させるた
めに、あなたの子孫にとつて鞭となるであろう。」

リーハイの息子たち、真鍼の版を手に入れるために工
ルサレムに戻る。ラバン、真鍼の版を渡すのを拒む。二

1 ファイ、兄たちを促し、励ます。ラバン、彼らの持ち
物を奪い、彼らを殺そうとする。レーマンとレムエル、
二ーファイとサムを打ち、天使にとがめられる。紀元前
約六百年から五百九十二年に至る。

1さて、わたしニーファイは、主と話をしてから父の天幕に帰つた。

2 そこで父は、わたしに次のよう言つた。「見よ、わたしは夢を見た。その夢の中で主は、あなたと兄たちをエルサレムに戻らせるようにわたしに命じられた。

3 それは見よ、ラバンがユダヤ人の記録とわたしの先祖の系図を持つているからであつて、それらは真鍼の版に刻まれている。

4 それで主はわたしに、あなたとあなたの兄たちがラバンの家へ行つてその記録を何とか手に入れ、それを荒れ野の中のここまで持つて来るよう命じられたのである。

5 ところで、見よ、あなたの兄たちは、わたしの求めていることが難しいと言つて、つぶやいている。
しかし、見よ、わたしが彼らにそれを求めたのでは

第3章

3 ① GS 「夢」	2 ① 士師 2:22-23, 23:5, 25	24 ① 教義 41:1	23 ① 创世 1:1, 2:12, 22:23, 29	22 ① 申命 33:1, 11:2, 12:5, 13:17, 18:7, 19:13, 20:5, 20:11, 21:1, 22:5, 23:18, 24:13, 25:13, 26:1, 27:1, 28:1, 29:1, 30:1, 31:1, 32:1, 33:1, 34:1, 35:1, 36:1, 37:1, 38:1, 39:1, 40:1, 41:1, 42:1, 43:1, 44:1, 45:1, 46:1, 47:1, 48:1, 49:1, 50:1, 51:1, 52:1, 53:1, 54:1, 55:1, 56:1, 57:1, 58:1, 59:1, 60:1, 61:1, 62:1, 63:1, 64:1, 65:1, 66:1, 67:1, 68:1, 69:1, 70:1, 71:1, 72:1, 73:1, 74:1, 75:1, 76:1, 77:1, 78:1, 79:1, 80:1, 81:1, 82:1, 83:1, 84:1, 85:1, 86:1, 87:1, 88:1, 89:1, 90:1, 91:1, 92:1, 93:1, 94:1, 95:1, 96:1, 97:1, 98:1, 99:1, 100:1, 101:1, 102:1, 103:1, 104:1, 105:1, 106:1, 107:1, 108:1, 109:1, 110:1, 111:1, 112:1, 113:1, 114:1, 115:1, 116:1, 117:1, 118:1, 119:1, 120:1, 121:1, 122:1, 123:1, 124:1, 125:1, 126:1, 127:1, 128:1, 129:1, 130:1, 131:1, 132:1, 133:1, 134:1, 135:1, 136:1, 137:1, 138:1, 139:1, 140:1, 141:1, 142:1, 143:1, 144:1, 145:1, 146:1, 147:1, 148:1, 149:1, 150:1, 151:1, 152:1, 153:1, 154:1, 155:1, 156:1, 157:1, 158:1, 159:1, 160:1, 161:1, 162:1, 163:1, 164:1, 165:1, 166:1, 167:1, 168:1, 169:1, 170:1, 171:1, 172:1, 173:1, 174:1, 175:1, 176:1, 177:1, 178:1, 179:1, 180:1, 181:1, 182:1, 183:1, 184:1, 185:1, 186:1, 187:1, 188:1, 189:1, 190:1, 191:1, 192:1, 193:1, 194:1, 195:1, 196:1, 197:1, 198:1, 199:1, 200:1, 201:1, 202:1, 203:1, 204:1, 205:1, 206:1, 207:1, 208:1, 209:1, 210:1, 211:1, 212:1, 213:1, 214:1, 215:1, 216:1, 217:1, 218:1, 219:1, 220:1, 221:1, 222:1, 223:1, 224:1, 225:1, 226:1, 227:1, 228:1, 229:1, 230:1, 231:1, 232:1, 233:1, 234:1, 235:1, 236:1, 237:1, 238:1, 239:1, 240:1, 241:1, 242:1, 243:1, 244:1, 245:1, 246:1, 247:1, 248:1, 249:1, 250:1, 251:1, 252:1, 253:1, 254:1, 255:1, 256:1, 257:1, 258:1, 259:1, 260:1, 261:1, 262:1, 263:1, 264:1, 265:1, 266:1, 267:1, 268:1, 269:1, 270:1, 271:1, 272:1, 273:1, 274:1, 275:1, 276:1, 277:1, 278:1, 279:1, 280:1, 281:1, 282:1, 283:1, 284:1, 285:1, 286:1, 287:1, 288:1, 289:1, 290:1, 291:1, 292:1, 293:1, 294:1, 295:1, 296:1, 297:1, 298:1, 299:1, 300:1, 301:1, 302:1, 303:1, 304:1, 305:1, 306:1, 307:1, 308:1, 309:1, 310:1, 311:1, 312:1, 313:1, 314:1, 315:1, 316:1, 317:1, 318:1, 319:1, 320:1, 321:1, 322:1, 323:1, 324:1, 325:1, 326:1, 327:1, 328:1, 329:1, 330:1, 331:1, 332:1, 333:1, 334:1, 335:1, 336:1, 337:1, 338:1, 339:1, 340:1, 341:1, 342:1, 343:1, 344:1, 345:1, 346:1, 347:1, 348:1, 349:1, 350:1, 351:1, 352:1, 353:1, 354:1, 355:1, 356:1, 357:1, 358:1, 359:1, 360:1, 361:1, 362:1, 363:1, 364:1, 365:1, 366:1, 367:1, 368:1, 369:1, 370:1, 371:1, 372:1, 373:1, 374:1, 375:1, 376:1, 377:1, 378:1, 379:1, 380:1, 381:1, 382:1, 383:1, 384:1, 385:1, 386:1, 387:1, 388:1, 389:1, 390:1, 391:1, 392:1, 393:1, 394:1, 395:1, 396:1, 397:1, 398:1, 399:1, 400:1, 401:1, 402:1, 403:1, 404:1, 405:1, 406:1, 407:1, 408:1, 409:1, 410:1, 411:1, 412:1, 413:1, 414:1, 415:1, 416:1, 417:1, 418:1, 419:1, 420:1, 421:1, 422:1, 423:1, 424:1, 425:1, 426:1, 427:1, 428:1, 429:1, 430:1, 431:1, 432:1, 433:1, 434:1, 435:1, 436:1, 437:1, 438:1, 439:1, 440:1, 441:1, 442:1, 443:1, 444:1, 445:1, 446:1, 447:1, 448:1, 449:1, 450:1, 451:1, 452:1, 453:1, 454:1, 455:1, 456:1, 457:1, 458:1, 459:1, 460:1, 461:1, 462:1, 463:1, 464:1, 465:1, 466:1, 467:1, 468:1, 469:1, 470:1, 471:1, 472:1, 473:1, 474:1, 475:1, 476:1, 477:1, 478:1, 479:1, 480:1, 481:1, 482:1, 483:1, 484:1, 485:1, 486:1, 487:1, 488:1, 489:1, 490:1, 491:1, 492:1, 493:1, 494:1, 495:1, 496:1, 497:1, 498:1, 499:1, 500:1, 501:1, 502:1, 503:1, 504:1, 505:1, 506:1, 507:1, 508:1, 509:1, 510:1, 511:1, 512:1, 513:1, 514:1, 515:1, 516:1, 517:1, 518:1, 519:1, 520:1, 521:1, 522:1, 523:1, 524:1, 525:1, 526:1, 527:1, 528:1, 529:1, 530:1, 531:1, 532:1, 533:1, 534:1, 535:1, 536:1, 537:1, 538:1, 539:1, 540:1, 541:1, 542:1, 543:1, 544:1, 545:1, 546:1, 547:1, 548:1, 549:1, 550:1, 551:1, 552:1, 553:1, 554:1, 555:1, 556:1, 557:1, 558:1, 559:1, 560:1, 561:1, 562:1, 563:1, 564:1, 565:1, 566:1, 567:1, 568:1, 569:1, 570:1, 571:1, 572:1, 573:1, 574:1, 575:1, 576:1, 577:1, 578:1, 579:1, 580:1, 581:1, 582:1, 583:1, 584:1, 585:1, 586:1, 587:1, 588:1, 589:1, 590:1, 591:1, 592:1, 593:1, 594:1, 595:1, 596:1, 597:1, 598:1, 599:1, 600:1, 601:1, 602:1, 603:1, 604:1, 605:1, 606:1, 607:1, 608:1, 609:1, 610:1, 611:1, 612:1, 613:1, 614:1, 615:1, 616:1, 617:1, 618:1, 619:1, 620:1, 621:1, 622:1, 623:1, 624:1, 625:1, 626:1, 627:1, 628:1, 629:1, 630:1, 631:1, 632:1, 633:1, 634:1, 635:1, 636:1, 637:1, 638:1, 639:1, 640:1, 641:1, 642:1, 643:1, 644:1, 645:1, 646:1, 647:1, 648:1, 649:1, 650:1, 651:1, 652:1, 653:1, 654:1, 655:1, 656:1, 657:1, 658:1, 659:1, 660:1, 661:1, 662:1, 663:1, 664:1, 665:1, 666:1, 667:1, 668:1, 669:1, 670:1, 671:1, 672:1, 673:1, 674:1, 675:1, 676:1, 677:1, 678:1, 679:1, 680:1, 681:1, 682:1, 683:1, 684:1, 685:1, 686:1, 687:1, 688:1, 689:1, 690:1, 691:1, 692:1, 693:1, 694:1, 695:1, 696:1, 697:1, 698:1, 699:1, 700:1, 701:1, 702:1, 703:1, 704:1, 705:1, 706:1, 707:1, 708:1, 709:1, 710:1, 711:1, 712:1, 713:1, 714:1, 715:1, 716:1, 717:1, 718:1, 719:1, 720:1, 721:1, 722:1, 723:1, 724:1, 725:1, 726:1, 727:1, 728:1, 729:1, 730:1, 731:1, 732:1, 733:1, 734:1, 735:1, 736:1, 737:1, 738:1, 739:1, 740:1, 741:1, 742:1, 743:1, 744:1, 745:1, 746:1, 747:1, 748:1, 749:1, 750:1, 751:1, 752:1, 753:1, 754:1, 755:1, 756:1, 757:1, 758:1, 759:1, 760:1, 761:1, 762:1, 763:1, 764:1, 765:1, 766:1, 767:1, 768:1, 769:1, 770:1, 771:1, 772:1, 773:1, 774:1, 775:1, 776:1, 777:1, 778:1, 779:1, 780:1, 781:1, 782:1, 783:1, 784:1, 785:1, 786:1, 787:1, 788:1, 789:1, 790:1, 791:1, 792:1, 793:1, 794:1, 795:1, 796:1, 797:1, 798:1, 799:1, 800:1, 801:1, 802:1, 803:1, 804:1, 805:1, 806:1, 807:1, 808:1, 809:1, 810:1, 811:1, 812:1, 813:1, 814:1, 815:1, 816:1, 817:1, 818:1, 819:1, 820:1, 821:1, 822:1, 823:1, 824:1, 825:1, 826:1, 827:1, 828:1, 829:1, 830:1, 831:1, 832:1, 833:1, 834:1, 835:1, 836:1, 837:1, 838:1, 839:1, 840:1, 841:1, 842:1, 843:1, 844:1, 845:1, 846:1, 847:1, 848:1, 849:1, 850:1, 851:1, 852:1, 853:1, 854:1, 855:1, 856:1, 857:1, 858:1, 859:1, 860:1, 861:1, 862:1, 863:1, 864:1, 865:1, 866:1, 867:1, 868:1, 869:1, 870:1, 871:1, 872:1, 873:1, 874:1, 875:1, 876:1, 877:1, 878:1, 879:1, 880:1, 881:1, 882:1, 883:1, 884:1, 885:1, 886:1, 887:1, 888:1, 889:1, 890:1, 891:1, 892:1, 893:1, 894:1, 895:1, 896:1, 897:1, 898:1, 899:1, 900:1, 901:1, 902:1, 903:1, 904:1, 905:1, 906:1, 907:1, 908:1, 909:1, 910:1, 911:1, 912:1, 913:1, 914:1, 915:1, 916:1, 917:1, 918:1, 919:1, 920:1, 921:1, 922:1, 923:1, 924:1, 925:1, 926:1, 927:1, 928:1, 929:1, 930:1, 931:1, 932:1, 933:1, 934:1, 935:1, 936:1, 937:1, 938:1, 939:1, 940:1, 941:1, 942:1, 943:1, 944:1, 945:1, 946:1, 947:1, 948:1, 949:1, 950:1, 951:1, 952:1, 953:1, 954:1, 955:1, 956:1, 957:1, 958:1, 959:1, 960:1, 961:1, 962:1, 963:1, 964:1, 965:1, 966:1, 967:1, 968:1, 969:1, 970:1, 971:1, 972:1, 973:1, 974:1, 975:1, 976:1, 977:1, 978:1, 979:1, 980:1, 981:1, 982:1, 983:1, 984:1, 985:1, 986:1, 987:1, 988:1, 989:1, 990:1, 991:1, 992:1, 993:1, 994:1, 995:1, 996:1, 997:1, 998:1, 999:1, 1000:1, 1001:1, 1002:1, 1003:1, 1004:1, 1005:1, 1006:1, 1007:1, 1008:1, 1009:1, 1010:1, 1011:1, 1012:1, 1013:1, 1014:1, 1015:1, 1016:1, 1017:1, 1018:1, 1019:1, 1020:1, 1021:1, 1022:1, 1023:1, 1024:1, 1025:1, 1026:1, 1027:1, 1028:1, 1029:1, 1030:1, 1031:1, 1032:1, 1033:1, 1034:1, 1035:1, 1036:1, 1037:1, 1038:1, 1039:1, 1040:1, 1041:1, 1042:1, 1043:1, 1044:1, 1045:1, 1046:1, 1047:1, 1048:1, 1049:1, 1050:1, 1051:1, 1052:1, 1053:1, 1054:1, 1055:1, 1056:1, 1057:1, 1058:1, 1059:1, 1060:1, 1061:1, 1062:1, 1063:1, 1064:1, 1065:1, 1066:1, 1067:1, 1068:1, 1069:1, 1070:1, 1071:1, 1072:1, 1073:1, 1074:1, 1075:1, 1076:1, 1077:1, 1078:1, 1079:1, 1080:1, 1081:1, 1082:1, 1083:1, 1084:1, 1085:1, 1086:1, 1087:1, 1088:1, 1089:1, 1090:1, 1091:1, 1092:1, 1093:1, 1094:1, 1095:1, 1096:1, 1097:1, 1098:1, 1099:1, 1100:1, 1101:1, 1102:1, 1103:1, 1104:1, 1105:1, 1106:1, 1107:1, 1108:1, 1109:1, 1110:1, 1111:1, 1112:1, 1113:1, 1114:1, 1115:1, 1116:1, 1117:1, 1118:1, 1119:1, 1120:1, 1121:1, 1122:1, 1123:1, 1124:1, 1125:1, 1126:1, 1127:1, 1128:1, 1129:1, 1130:1, 1131:1, 1132:1, 1133:1, 1134:1, 1135:1, 1136:1, 1137:1, 1138:1, 1139:1, 1140:1, 1141:1, 1142:1, 1143:1, 1144:1, 1145:1, 1146:1, 1147:1, 1148:1, 1149:1, 1150:1, 1151:1, 1152:1, 1153:1, 1154:1, 1155:1, 1156:1, 1157:1, 1158:1, 1159:1, 1160:1, 1161:1, 1162:1, 1163:1, 1164:1, 1165:1, 1166:1, 1167:1, 1168:1, 1169:1, 1170:1, 1171:1, 1172:1, 1173:1, 1174:1, 1175:1, 1176:1, 1177:1, 1178:1, 1179:1, 1180:1, 1181:1, 1182:1, 1183:1, 1184:1, 1185:1, 1186:1, 1187:1, 1188:1, 1189:1, 1190:1, 1191:1, 1192:1, 1193:1, 1194:1, 1195:1, 1196:1, 1197:1, 1198:1, 1199:1, 1200:1, 1201:1, 1202:1, 1203:1, 1204:1, 1205:1, 1206:1, 1207:1, 1208:1, 1209:1, 1210:1, 1211:1, 1212:1, 1213:1, 1214:1, 1215:1, 1216:1, 1217:1, 1218:1, 1219:1, 1220:1, 1221:1, 1222:1, 1223:1, 1224:1, 1225:1, 1226:1, 1227:1, 1228:1, 1229:1, 1230:1, 1231:1, 1232:1, 1233:1, 1234:1, 1235:1, 1236:1, 1237:1, 1238:1, 1239:1, 1240:1, 1241:1, 1242:1, 1243:1, 1244:1, 1245:1, 1246:1, 1247:1, 1248:1, 1249:1, 1250:1, 1251:1, 1252:1, 1253:1, 1254:1, 1255:1, 1256:1, 1257:1, 1258:1, 1259:1, 1260:1, 1261:1, 1262:1, 1263:1, 1264:1, 1265:1, 1266:1, 1267:1, 1268:1, 1269:1, 1270:1, 1271:1, 1272:1, 1273:1, 1274:1, 1275:1, 1276:1, 1277:1, 1278:1, 1279:1, 1280:1, 1281:1, 1282:1, 1283:1, 1284:1, 1285:1, 1286:1, 1287:1, 1288:1, 1289:1, 1290:1, 1291:1, 1292:1, 1293:1, 1294:1, 1295:1, 1296:1, 1297:1, 1298:1, 1299:1, 1300:1, 1301:1, 1302:1, 1303:1, 1304:1, 1305:1, 1306:1, 1307:1, 1308:1, 1309:1, 1310:1, 1311:1, 1312:1, 1313:1, 1314:1, 1315:1, 1316:1, 1317:1, 1318:1, 1319:1, 1320:1, 1321:1, 1322:1, 1323:1, 1324:1, 1325:1, 1326:1, 1327:1, 1328:1, 1329:1, 1330:1, 1331:1, 1332:1, 1333:1, 1334:1, 1335:1, 1336:1, 1337:1, 1338:1, 1339:1, 1340:1, 1341:1, 1342:1, 1343:1, 1344:1, 1345:1, 1346:1, 1347:1, 1348:1, 1349:1, 1350:1, 1351:1, 1352:1, 1353:1, 1354:1, 1355:1, 1356:1, 1357:1, 1358:1, 1359:1, 1360:1, 1361:1, 1362:1, 1363:1, 1364:1, 1365:1, 1366:1, 1367:1, 1368:1, 1369:1, 1370:1, 1371:1, 1372:1, 1373:1, 1374:1, 1375:1, 1376:1, 1377:1, 1378:1, 1379:1, 1380:1, 1381:1, 1382:1, 1383:1, 1384:1, 1385:1, 1386:1, 1387:1, 1388:1, 1389:1, 1390:1, 1391:1, 1392:1, 1393:1, 1394:1, 1395:1, 1396:1, 1397:1, 1398:1, 1399:1, 1400:1, 1401:1, 1402:1, 1403:1, 1404:1, 1405:1, 1406:1, 1407:1, 1408:1, 1409:1, 1410:1, 1411:1, 1412:1, 1413:1, 1414:1, 1415:1, 1416:1, 1417:1, 1418:1, 1419:1, 1420:1, 1421:1, 1422:1, 1423:1, 1424:1, 1425:1, 1426:1, 1427:1, 1428:1, 1429:1, 1430:1, 1431:1, 1432:1, 1433:1, 1434:1, 1435:1, 1436:1, 1437:1, 1438:1, 1439:1, 1440:1, 1441:1, 1442:1, 1443:1, 1444:1, 1445:1, 1446:1, 1447:1, 1448:1, 1449:1, 1450:1, 1451:1, 1452:1, 1453:1, 1454:1, 1455:1, 1456:1, 1457:1, 1458:1, 1459:1, 1460:1, 1461:1, 1462:1, 1463:1, 1464:1, 1465:1, 1466:1, 1467:1, 1468:1, 1469:1, 1470:1, 1471:1, 1472:1, 1473:1, 1474:1, 1475:1, 1476:1, 1477:1, 1478:1, 1479:1, 1480:1, 1481:1, 1482:1, 1483:1, 1484:1, 1485:1, 1486:1, 1487:1, 1488:1, 1489:1, 1490:1, 1491:1, 1492:1, 1493:1, 1494:1, 1495:1, 1496:1, 1497:1, 1498:1, 1499:1, 1500:1, 1501:1, 1502:1, 1503:1, 1504:1, 1505:1, 1506:1, 1507:1, 1508:1, 1509:1, 1510:1, 1511:1, 1512:1, 1513:1, 1514:1, 1515:1, 1516:1, 1517:1, 1518:1, 1519:1, 1520:1, 1521:1, 1522:1, 1523:1, 1524:1, 1525:1, 1526:1, 1527:1, 1528:1, 1529:1, 1530:1, 1531:1, 1532:1, 1533:1, 1534:1, 1535:1,

決してない。それは主の命令なのだ。

6だからわが子よ、行きなさい。あなたはつぶやくことがなかつたので、主から恵みを受けるであらう。」

「そこで、わたしニーファイイは父に言った。「わたし
しは行つて、主が命じられたことを行ひます。主
が命じられることには、それを成し遂げられるよ
うに主によつて道みちを⁽²⁾備えられており、それでなく

ては、主は何の命令も人の子らに下されないことを承知しているからです。」

8さて、父はこの言葉を聞くと、わたしが主から祝福を受けていたことを知つて非常に喜んだ。

立だつた。

10 そしてエルサレムの地に着くと、わたしと兄たち
は相談した。
そうだん

11 わたしたちは、だれがラバンの家に入つて行くか、くじを引いた。そして、そのくじがレーマンに当たつた。それでレーマンはラバンの家に入つて行き、座に着いているラバンと話をした。

12 そして彼は、真ちゅうの版に刻まれていて、父の系統が載っている記録を譲つてくれるようラバン

13 そこで見よ、ラバンは、ひどく怒つてレーマンを
自分のもとから追い出し、その記録を渡そうとは
しなかつた。それで、ラバンはレーマンに、「見
よ、おまえは盜賊だ。殺してやる」と言つた。
14 しかしレーマンは、ラバンのもとから逃げ出して
来て、ラバンのしたことをわたしたちに話した。そ
れでわたしたちは大いに悲嘆に暮れ、兄たちは荒
れ野にいる父のところへ帰つてしまおうとした。
15 しかし見よ、わたしは兄たちに言つた。「主が生
きておられ、またわたしたちが生きているように、
わたしたちは主から命じられたことを成し遂げる
までは、荒れ野にいる父のところへは下つて行き
ません。

16 だから、主の命令を忠実に守りましよう。父の
受け継ぎの地へ行きましょう。まことに、父は金
や銀など、あらゆる富を後に残してきているからで
す。そして父は、これをすべて主の命令によつて
したのです。

16	12	11	1
4 ② ① 5	① 使徒 ③	教義	ニフ
34 1 1 14 1	ネへ 10 ⑤	5 34	17
ニフ ニフ	26 34	(神の)	3
2 2	3,		50
2, 4	3,		

17 それは父が、民の悪事のためにエルサレムが必ず減ぼされることを知つていたからです。

18 まことに、エルサレムの民は預言者たちの言葉を拒みました。だから、もし父がこの地から逃げなかつたのです。

19 そしてまことに、これらの記録を手に入れるのは、神の知恵です。そうすれば、先祖の言葉を子孫に残すことができるし、

20 また、世の初めから現在に至るまで、すべての聖なる預言者の口を通して語られ、神の御靈と力によつて語られてきた御言葉を、子孫に残すことができるので。

21 わたしは、兄たちが神の命令を忠実に守るようにな、このような言葉で说得したのであつた。

22 さて、わたしたちは受け継ぎの地へ下つて行つて、わたしたちの金や銀、貴重品を集めめた。

23 そしてこれらの品々を集めてから、もう一度ラバンの家に行つた。

24 さて、わたしたちはラバンのところに行つて、金や銀やすべての貴重品を渡す代わりに、真鍮の版に刻まれた記録をわたしたちに譲つてくれるよう頼んだ。

25 そこで、ラバンはわたしたちの持つてゐるものを目にして、しかもそれが大したものであるのを見て、欲しくてたまなくなつた。それで彼は、わたしたちを追い出し、わたしたちの持つてゐるもの自分ものにするために、召し使いにわたしたちを殺させようとした。

26 そこでわたしたちは、ラバンの召し使いたちの前から逃げ出した。そして、持つていたものは後に残してくるよりほか仕方がなかつたので、それはラバンのものになつてしまつた。

27 さて、わたしたちは荒れ野に逃げ込み、またラバンの召し使いたちに追いつかれなかつたので、とある岩の洞穴に身を隠した。

28 さて、レーマンはわたしと父に腹を立てた。またレムエルも、レーマンの言葉に聞き従つたのでともに腹を立てた。それでレーマンとレムエルは、弟であるわたしたちに多くの荒々しい言葉を吐き、

28	①り 1 ニフ 17 17 18	25 24 22 ①①① GS 1 「食欲、もさば	20 ① ① ニフ 1 モザ 1 2 6	17 エレ 39 1 ニフ 1 13 1 モザ 1 2 6
----	---------------------------------	------------------------------------	---	--

そのうえ棒でわたしたちを打つた。

29さて、彼らがわたしたちを棒で打つていると、見
よ、一人の主の天使が来て、彼らの前に立ち、こ

のように言つた。「なぜあなたがたは自分の弟を棒
でたたくのか。主が彼を選んであなたがたを治め
るものになさつたこと、そしてこれがあなたがたの罪
のためであることを知らないのか。さあ、もう一
度エルサレムへ上つて行きなさい。そうすれば、主
はラバーンをあなたがたの手に渡されるであろう。」

30この天使はわたしたちにこのように語ると、立た
ち去つた。

31天使が立ち去つてから、レーマンとレムエルはま
たもつぶやき始め、こう言つた。「主がどのように
して、ラバーンを我々の手に渡すことができるといふ
のか。見よ、ラバーンは力のある人で、五十人を指
とさえできる。それならば、どうして我々を殺せな
いわけがあろうか。」

真鍼の版を手に入れる。ゾーラム、荒れ野にいるリーハ
イの家族と行動を共にする。紀元前約六百年から五百九
十二年に至る。

1さて、わたしは兄たちに言つた。「わたしたちは
またエルサレムへ上つて行きましょう。そして、
主の命を忠実に守りましょう。まことに、主は
全地にも増して力ある御方なのですから、どうし
てラバーンとその家来の五十人よりも力が劣ること
があるでしょうか。いや、ラバーンに何万人あつて
も主の力にはかないません。

2だから行きましょう。モーセのようによくなら
うではありませんか。事実、モーセが紅海の水に
語りかけると、紅海の水は右と左に分かれました。
そして、わたしたちの先祖は囚われの身から逃れ
て、乾いた土の上を通つて来ました。ところがパロ
の軍勢は、後を追つて来て、紅海の水におぼれて死
にました。

3さてまことに、あなたがたは、これがほんとうで
あることを知っています。また、一人の天使があ
なたがたに語りかけたことも知っています。それで

31 30	29
① ② GS 「天 <small>てん</small> 使 <small>し</small> 」	1 二 <small>に</small> フ <small>フ</small> 2 38 22
GS 「つぶやき」	10、1 二 <small>に</small> フ <small>フ</small> 2
モサ 7 17 26 21、8	1 二 <small>に</small> フ <small>フ</small> 7 11 12
モサ 7 19 26 21、8	1 二 <small>に</small> フ <small>フ</small> 7 11 12

7	3 ① ② GS 「天 <small>てん</small> 使 <small>し</small> 」
10	2 ① ② GS 1 二 <small>に</small> フ <small>フ</small> 7 11 8
	3 ③ 出エ 14 11 12
	モサ 7 19 26 21、8
	モサ 7 19 26 21、8

いて、どうして疑うことができるのですか。行きましよう。主は、わたしたちの先祖を救われたよううに、わたしたちも救い、エジプト人を滅ぼされたように、ラバンをも滅ぼすことがおきになるのです。」

4 わたしがそう言つてからも、まだ兄たちは憤つてつぶやき続けた。それでも彼らはわたしの後について来て、わたしたちはエルサレムの城壁の外まで来た。

5 時はもう夜であつた。わたしは兄弟たちを城壁の外に忍ばせた。彼らが身を隠してから、わたし二ノ男はぶどう酒に酔つてわたしの前の地面に倒れ進んで行つた。

6 わたしは、前もつて自分のなすべきことを知らないま、御靈に導かれて行つた。

7 にもかかわらず、そのようにして進んで、ラバノンの家の近くに来ると、一人の男を見かけた。その男はぶどう酒に酔つてわたしの前の地面に倒れていた。

8 近づいてみると、それはラバンであつた。そして、そ

れをさやから引き抜いた。柄は純金であつて実に見事な造りで、刃は最も上等な鋼でできていた。
10 さて、わたしはラバンを殺すように強く御靈に促された。しかし心の中で、「わたしは今までどんなときにも人の血を流したことはない」と言つた。わたしはしりごみをし、ラバンを殺さなくて済むようと思つた。

11 すると御靈が再び、「見よ、主はすでに、この男をあなたの手に渡された」と言われた。そしてわたしも、ラバンがわたしの命を奪おうとしたことと、ラバンが主の命令に聞き従わないだろうということ、またわたしたちの持つているものを奪つたことを知つていた。

12 そして御靈が、またわたしに言われた。「この男を殺しなさい。主はあなたの手にこの男を渡された。

13 見よ、主は、義にかなつた目的を果たすためには、悪人を殺される。一人の人滅びるのは、一つの國民が不信仰に陥つて滅びてしまうよりよい。」

14 わたしニーファイはこの御言葉を聞いたとき、

13	11	10	9	6
③教義 アル 30 47	①②アル 17 32	①②サル 17 41	②ニフ 3 26	ヘブ 11 5 14
98	1 17 33	1 49	GS 「邪惡」 3 38	GS 「靈感」 2 14
31	17	41 11	1 38	

主が荒れ野でわたしに言われた、「あなたの子孫はわたしの命令を守るかぎり、約束の地で榮える」という御言葉を思い出した。

15 そしてわたしはまた、もしもわたしの子孫にモーセの律法がなかつたならば、子孫はその律法に従つて主の命令を守ることができなくなるとも考えた。

16 またわたしは、その律法が真鑑の版に刻まれていることも知っていた。

17 さらにわたしは、この理由、すなわち、わたしが主の命令に従つてあの記録を手に入れることができるようにという理由で、主がラバーンをわたしの手に渡されたことを知っていた。

18 それでわたしは御靈の声に従い、ラバーンの髪の毛をつかみ、ラバーン自身の剣で彼の首を打ち落とした。

19 わたしは、ラバーン自身の剣で彼の首を打ち落としながら、ラバーンの衣服を取つて一つ残らず身に着け、また彼の武具を腰にまとつた。

20 それからわたしは、ラバーンの宝物蔵へ進んで行つた。ラバーンの宝物蔵へ進んで行くと、見よ、宝

物蔵の鍵を持っているラバーンの召し使いに出会つた。それでわたしは、ラバーンの声色を使つて、わたしとともに宝物蔵に入るよう命じた。

21 召し使いは、わたしの衣服と腰に帶びてある剣を見つけて、わたしを主人のラバーンだと想ひ込んでいた。

22 彼は、主人のラバーンがその夜ユダヤ人の長老たちのところへ出かけて行つたのを知つていたので、その長老たちのことわざに話した。

23 わたしはラバーンのふりをして彼に話をした。

24 わたしはまた、真鑑の版に刻まれたものを、城壁の外にいるわたしの兄弟たちのところへ持つて行くのだと言つた。

25 そしてその召し使いに、ついて来るよう言つた。

26 するとその召し使いは、教会の兄弟たちのこと

を言つてゐるのだと想ひ、またわたしのことを、わたしが手にかけたあのラバーンだとほんとうに思ひ込んでいたので、後について来た。

27 また召し使いは、城壁の外にいる兄たちのところへ行く途中で、何度もわたしに向かつてユダヤ人の長老たちのことを話した。

24	20	18	16	14
19	①	①	①	④
24	1	2	S GS 1	モサオム
5	ニ	ニ	フ 2	エテ
10	3	1	51	1 ニフ 7 12
22				ヤコ 2 12 17 13 14

「モサオムの律法」

さて、レーマンはわたしを見ると非常におびえ、またレムエルもサムもともにおびえて、わたしの前から逃げ出した。わたしをラバンだと思い、ラバンがわたしを殺して、自分たちの命も奪いに来たと思つたからである。

そこでわたしは、逃げる後から兄たちを呼んだけ。すると兄たちは、わたしの声を聞いて、わたしの前から逃げるのをやめた。

そして、ラバンの召し使いは、兄たちを見ておののき始め、わたしの前から逃げてエルサレムの都へ帰ろうとした。

しかしわたし二ーファイは、身の丈が高いうえに主から強い力を授かっていたので、ラバンの召使いを捕まえて、逃げないように押さえつけた。

そしてわたしは、わたしの言うことに聞き従うならば、主が生きておられ、またわたしが生きているように、まことにそのように、わたしたちの言うことに聞き従うならば、命を助けてやると言つた。

また、恐れるには及ばないこと、そしてもしわざしたちと荒れ野へ下つて行くならば、わたしたちと同様に自由の身になることを、まことに誓つて言

34 わたしはまた言った。「主は確かに、このことを行うようにわたしたちに命じられた。わたしたちは主の命令を熱心に守るべきではないか。もしあなたが荒れ野へ下つて、わたしの父のところへ行くならば、わたしたちとともに暮らせるだろう。」

35 さて、ゾーラムは、わたしの語った言葉を聞いて勇気を得た。ところで、ゾーラムとはこの召し使いの名である。彼は荒れ野へ下つて行つて、わたしの父のところへ行くと約束した。そしてまた、その先わたしたちとともに住むと誓つた。

36 ところでわたしたちには、ゾーラムが行動を共にするのを願う理由があつた。それは、わたしたちが荒れ野へ逃げたことをユダヤ人に知られ、追いかけられて殺されることのないようにするためであつた。

37さて、ゾーラムがわたしたちに誓つたので、彼についての心配はなくなつた。

38 そこでわたしたちは、真鑑の版を持ち、ラバノの召し使いを連れて荒れ野へ出發し、父の天幕に向かつて旅路を進んだ。

37	35	34 33	31
GS 伝道	GS 2 ① 3	① ア ①	ア ①
「善い」 4、 9、	人 1 16 1	ルモ 56 9	モサ
5、 9、 1	「ブ」 5 フ	ニ ブ	「善い」
21、	ラム 5 16	2 、	17、
	6、 7、	2、	
	1 ラ		

サラライア、リーハイに向かつて不平を言う。「一人ともも、息子たちが帰つて来たことを喜び、犠牲をささげる。真鍮の版には、モーセと預言者たちの記録が載せらる。真鍮の版には、モーセと預言者たちの記録が載せられている。その版から、リーハイがヨセフの子孫であることが分かる。リーハイ、自分の子孫と真鍮の版の保存について預言する。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1さて、わたしたちが荒れ野へ下つて来て父のこところに着くと、見よ、父は喜びに満たされた。また母のサラライアも、ほんとうにわたしたちのことで悲しんでいたので、非常に喜んだ。

2母は、わたしたちが荒れ野で死んでしまつたところに着くと、見よ、父は喜びに満たされた。また母のサラライアも、ほんとうにわたしたちのことで悲しんでいたので、非常に喜んだ。

3母は、このような言葉で、わたしたちのことを知つてゐる。母は、わたしたちが荒れ野で死んでしまつたと思つたからである。母はまた、父のことを幻を見た人だと言つて父に不平を言い、「御覧なさい、あなたがわわたしたちを受け継ぎの地から連れ出し、息子たちとはいなくなつてしましました。そして、わたしたちも荒れ野で死んでしまうのです」と言つていた。

4そこで父は母に言つた。「わたしは自分が幻を見る者であることを知つてゐる。もしわたしのが、示現の中でも神が示してくれださつた事柄を見なかつたらば、わたしは神の慈悲みを知らず、エルサレムにとどまつて、同胞とともに滅びてしまつたであろう。

5しかし見よ、わたしは約束の地を頂いており、そのことについて喜ばしく思う。またわたしは、主が息子たちをラバヌの手から救い出し、荒れ野にいるわたしたちのもとにまた連れ戻してくださることを知つてゐる。」

6父リーハイはこのような言葉で、わたしたちのことをついて母サラライアを慰めたのであつた。それは、わたしたちがユダヤ人の記録を手に入れるために、荒れ野をエルサレムの地へ向かつて旅をしていた間のことであつた。

7そこで、わたしたちが父の天幕に帰つて来るとき、見よ、父は喜びに満たされ、母は慰めを得た。

8母は言つた。「主が夫に荒れ野へ逃げるよう命じられたことが、今確かに分かりました。また、

第5章		5	4 1
① GS	② GS	1 二フ	「サラライア」
1 ニフ	2 11	8	示現
ニフ	2 20	23、	約束の地
2	13、	22	「信仰」

主が息子たちを守り、ラバンの手から救い出し、
主が命じられたことを成し遂げるための力を息子
たちにお与えくださつたことが、確かに分かりま
す。母はこのよな言葉で話した。

9 そして父母は、非常に喜び、犠牲と燔祭を主に
ささげ、イスラエルの神に感謝した。

10 二人でイスラエルの神に感謝をささげてから、父
リーハイは真鑑の版に刻まれた記録を手に取り、
最初から調べてみた。

11 父が見ると、その中には、世界の創造とわたし
たちの最初の先祖であるアダムとエバの話を載せ
た、モーセの五書があつた。

12 また、世の初めからユダの王ゼデキヤの統治の初
めに至るユダヤ人の記録もあり、

13 また、世の初めからゼデキヤの統治の初めに至
る聖なる預言者たちの預言や、そのほか、エレミ
ヤの口を通して語られた多くの預言も載せてあつ
た。

14 そして父リーハイは、真鑑の版に自分の先祖の
系図も見つけ、それで自分がヨセフの子孫である
ことを知った。このヨセフとは、ヤコブの子のヨ
セフであつて、エジプトへ売られ、父ヤコブとその
家のすべての者が飢餓で死ぬことのないように守
るために主の手によって守られたあのヨセフである。

15 彼らは自分たちを守つてくださつたあの同じ神に
よつて、囚われの身から救い出され、エジプトの地
から導き出されたのである。

16 このようにして、父リーハイは自分の先祖の系図
を見つけた。ラバンもまたヨセフの子孫であつた
ので、ラバンとその先祖がこの記録を書き記して
おいたのである。

17 ところで、父はこれらのことすべて見ると、御
靈に満たされ、自分の子孫について預言し始めた。
18 すなわち、この真鑑の版が父の子孫であるすべ
ての国民、部族、國語の民、民族に伝わるとい
うことである。

19 それで父は、この真鑑の版は決して朽ちること
なく、またこれから先どれだけ歳月を経ても、さび
て読めなくなることはまつたくないと言つた。そ
して彼は、自分の子孫について多くのことを預言
した。

20 さて、わたしと父は、主が下された命令をこれ

19 16	15	14	13	12	11	10	9 8
① ① 教義	① ⑤ ④ ④ 创世記	GS 「真鑑版」	GS 「モーセの律法」				
ア 1 103	ア 1 20	アル 10:3	エ 37:1	エ 37:1	エ 23:23	エ 23:23	エ 23:23
37 7 4	37 7 17	エ 36:17	エ 32:1	エ 32:1	エ 19:23	エ 19:23	エ 19:23
5 2	18 31	エ 20:14	エ 14:3	エ 14:3	エ 13:24	エ 13:24	エ 13:24
136	22	モ 3:1	モ 3:1	モ 3:1	モ 2:19	モ 2:19	モ 2:19

まで守つてきだ。

21 そしてわたしたちは、主^{しゆ}が手^てに入れるようにと言^いわれた記録^{きろく}を手^てに入れ、また、それを調べて、それが望^{のぞ}ましいものであることを知^しつた。まことに、それは、子孫^{しじん}に主^{しゆ}の戒め^{いまじめ}を残^{のこ}すことができるもので^{あり}、したがつて、わたしたちにとつて大きな価値^{おおきなけいじょ}のあるものである。

22 それゆえ、わたしたちが約束の地を目指して荒れ野を旅するときに、この版を携えて行くのは、主の知恵であつた。

第6章

二ーファイ、神にかかる事柄を書き記す。二ーフアイの目的は、アブラハムの神のもとに来て救われるよう人々に説き勧めることである。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

さて、わたしニーフアイは、わたしの記録のこの部分に先祖の系図を書き記さない。また、わたしが今書き記しているこの版には、今後も書き記さない。それは、父が書いた記録に載っていること

だからである。したがつて、この版にはそれを書き記さない。

2 わたしたちがヨセフの子孫であると言えば、それで十分である。

わたしは、父について残らず詳しく述べようとは思わない。この版には神にかかる事柄を書き

記すための余白が欲しいので、残らず詳しく書き記すことはできないからである。

4 わたしが一心に志すのは、人々がアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神のもとに来て救われ②と

るよう^に、⁽²⁾と説き勧めることである。
したがつてわたしは、俗世の人々にとつて喜ばれ

とを書き詠す
6 それでわたしは、人の子らにとつて価値のない

ことでの版を埋めではならないと、子孫に命じよう。

第7章

リーハイの息子たち、エルサレムに戻り、イシマエル

とその一家を約束の地に向かう旅の一行に招く。レーマンとほかの者たち、背く。ニーファイ、主を信じる信仰を持つよう兄たちに勧める。兄たち、ニーファイを縄で縛り、殺そうとする。ニーファイ、信仰の力によつて自由の身となる。兄たち、赦しを求める。リーハイとその一行、犠牲と燔祭をささげる。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1 ところで、ここであなたがたに知らせたいと思うことがある。それは、父リーハイが自分の子孫について預言をした後、そこで主が再び父に、家族だけを連れて荒れ野へ行くのは父リーハイにとってよくない、約束の地へ行つて主のために子供をもうけられるよう、息子たちがよその娘たちを妻に迎えるよう、と言われたことである。

2 そこで主は父に、わたしひーファイと兄たちを再びエルサレムの地へ帰して、イシマエルとその家族を荒れ野に連れて来させるように命じられた。

3 そこでわたしひーファイは、再び兄たちとともにエルサレムへ上つて行くために、荒れ野へ出て行つた。それでわたしたちはイシマエルの家に行つた。そ

して、イシマエルの好意を得たので、主の言葉を彼に話した。

5 そこで主は、まことにイシマエルの心を和らげ、また彼の家族の心も和らげられたので、彼らはわたしたちとともに、父の天幕に向かつて荒れ野へ旅をした。

6さて、荒れ野を旅する途中で、見よ、レーマンとレムエル、イシマエルの一人の娘、イシマエルの一人の息子とその家族がわたしたちに背いた。まことに、わたしひーファイとサム、また彼らの父イシマエルとその妻、それにイシマエルのほかの三人の娘たちに背いたのである。

7 そして彼らは、そのように背いて、エルサレムの地へ帰りたがつた。

8 それでわたしひーファイは、彼らの心がかたくななのを悲しく思い、彼らに、すなわちレーマンとレムエルに言つた。「まことに、あなたがたはわたしの兄さんではありませんか。それなのに、弟のわたしがあなたがたに話をし、模範を示さなければならぬほど、心がかたくなで思いがくらんでいるのはどういうわけですか。

9
主の御言葉に聞き従わないのは、どういうわけ

10 主の天使に会つたことを忘れたのは、どういう
わけですか。

11 また、わたしたちをラバンの手から救い出すにあつて、主がなされた偉大な事柄と、また、主があの記録を手に入れさせてくださったことを忘れたのは、どういうわけですか。

されば、主は彼らのために、御心のままに何でもお好きになります。そのことを忘れたのは、どういふわけですか。主に忠誠を尽くそうではあります。しかし、主に忠実であれば、わたしたちは約束の地を手に入れ得るでしょう。またあなたがたは、エルサレムの滅亡についての主の御言葉が成就するのを、将来いつか知ることでしょう。主がエルサレムの滅亡について語られたすべてのこととは、必ず成就するに違ひないからです。

13 主に忠実であれば、わたしたちは約束の地を手に入れるでしょう。またあなたがたは、エルサレムの滅亡についての主の御言葉が成就するのを、将来いつか知ることでしょう。主がエルサレムの滅亡について語られたすべてのことは、必ず成就するに違いないからです。

14 まことに主の御靈は、彼らを励ますことをもうすゞやめるでしょう。まことに、彼らは預言者たち

を決して受け入れず、エレミヤを牢に入れたからです。また、わたしの父の命を奪おうとして、父をその地から追い出しました。

さてまことに、あなたがたに言つておきます。
あなたがたがエルサレムへ戻るなら、あなたがた
もエルサレムの民とともに滅びてしまうでしよう。
もしそうしたいのであれば、エルサレムへ行けばよ
い。しかし、行けばあなたがたも滅びるという、わ
たしの語った言葉を覚えておいてください。主の御
靈がこう言うように、わたしを強く促すからです。」
さて、わたしが弟たちにこう言う
と、兄たちはわたしに腹を立てた。そして見よ、
彼らは非常に憤り、わたしを捕まえて、縄で縛つ
た。わたしを荒れ野に捨てて猛獸に食わせ、命を奪
た。おうとしたのであった。

17 そこでわたしは主に祈つて言つた。「おお、主よ、あなたを信じるわたしの信仰により、兄たちの手から救い出してください。まことに、わたしを縛つていてこの縄を^{なん}_①ちぎり切る力をお与えください。」

18 そして、わたしはこのように言うと、見よ、繩がわたしの手足から解けたので、わたしは兄たちの前

17	16		14		13		12	11	10
①	①	③	②	GS	2	1	①	ヒ	オ
ア	1	1	エ	背	13	フ	ラム	ニ	フ
ル	ニ	ニ	レ	レ	13	ゼ	エ	フ	ミ
14	F	フ	37	く	1	5	20	15	4
26:	18	2	15		18	6	21	8	章
28:	11	1	1		20		25	21	9
	15						10		3

に立つて、また話をした。

19そこで兄たちはまた腹を立て、わたしに手をかけようとした。しかし見よ、イシマエルの娘の一人とその母、それにイシマエルの息子の一人が兄たちに執り成してくれたので、兄たちは心を和らげて、

わたしの命を奪おうとするのをやめた。

20そして兄たちは自分たちの悪事を悲しみ、わたしの前にひざまずいて、わたしに對してしたこと赦してくれるよう頼み込んだ。

21そこでわたしは、兄たちのしたことをすべて心から赦し、主なる彼らの神に赦しを求めて祈るように勧めた。それで彼らは、そのとおりにして祈つた。彼らが主に祈り終えると、わたしたちはまた、父の天幕を目指して旅を続けた。

22そして、ついにわたしたちは、父の天幕に着いた。わたしと兄たちとイシマエルの家に属するすべての者が父の天幕に着くと、彼らは主なる彼らの神に感謝をした。そして犠牲と燔祭をささげた。

食べ、家族にも食べてほしいと思う。また鉄の棒と、細くて狭い道と、人々を包む暗黒の霧を見る。サラライアとニーファイとサムはその実を食べるが、レーマンとレムエルは拒む。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1さて、わたしたちは、すべての種類の種、すなわちあらゆる穀物の種とあらゆる果物の種を集めでおいた。

2さて、父は、荒れ野にとどまつていたときに、わたしたちに次のように言つた。「見よ、わたしは夢を見た。別の言葉で言えば、示現を見た。

3そして見よ、わたしは、自分が見たことのため、ニーファイとサムについては主にあつて喜ばずにはいられない。彼らとその子孫の多くは救われると思うからである。

4しかし見よ、レーマンとレムエルよ、わたしはあなたがたについて非常に心配している。見よ、わたしは夢の中でひどく暗くて寂しい荒れ野を見たように思う。

5そして、わたしは一人の男の人を見た。その人は白い衣を着ていて、わたしの方に来て、わたしの

5	4	3	2	①	22 21 19
①	①	①	GS	②	① GS 「啓示」「夢」
1	ニフ	10	1	ニフ	1 ニフ 「示現」
ニフ	8	17	ニフ	8	ニフ 「救済」
史	35	14	歴	9	5 紀元前約六百年から五百九十二年に至る。
30	36	18	史		
		32			

前に立つた。

6 そして、その人はわたしに言葉をかけて、後に
ついて来るよう^いに言つた。

7 そこでついて行くと、わたしは自分が暗くて寂し
い荒れ野にいることが分かつた。

8 そして暗闇の中を長い間進んだところで、わた
しは、主がその豊かな深い憐れみによつてわたし
を憐れんでくださるよう^いに、主に祈り始めた。

9 そして主に祈り終えると、大きく広々とした野の
原が見えた。

10 そして、一本の木が見えたが、その実は人を幸

せにする好ましいものであつた。

11 そこで、行つてその木の実を食べると、それは、

今までに味わつたどんな実よりもずっと甘いことが

分かつた。またその木の実は白く、今までに見た

どんな白いものにも勝つて白かった。

12 そしてその木の実を食べると、わたしの心は非

常に大きな喜びに満たされた。それでわたしは、

家族にも食べてほしいと思つた。その実が、

ほかのどんな実よりも好ましいことが分かつたか
らである。

13 それで、自分の家族もいるのではないかと辺りに
目をやると、水の流れている川が見えた。それ
は、わたしが実を取つて食べた、あの木のそばを流
れていた。

14 その川がどこから來るのかと眺めると、少し離れ
た所に川の源があつた。そして、その源の所にあな
たがたの母サラライアとサムとニーファイがいるのが
見えたが、彼らは、どちらへ行つたらよいか迷つて
いるかのよう立っていた。

15 そこでわたしは手招きをして、わたしのところに
来て、ほかのどんな実よりも好ましいその実を食べ
るように、大声で言つた。

16 そこで彼らは、わたしのところにやつて来て、そ
の実を食べた。

17 さて、わたしは、レーマンとレムエルもここに
来て、その実を食べてほしいと思つた。それで、
二人の姿が見えはしないかと、川の源の方へ目をや
つた。

18 そして一人が見えたが、一人はわたしのところに
来てその実を食べようとはしなかつた。

19 それから、一本の鉄の棒が見えた。それは川の

19	18	13	12	11	10	9	8
15	1	15	1	12	1	1	1
23	1	15	①	2	2	2	1
24	1	15	③	2	2	2	1
30	1	2	②	2	2	2	1
15	1	2	①	2	2	2	1
23	1	2	②	2	2	2	1
24	1	2	③	2	2	2	1
30	1	2	2	2	2	2	1
11	1	2	2	2	2	2	1
25	1	2	2	2	2	2	1
	(付録)						

岸に沿つてずっと延び、わたしの立つてゐるそばの大所だから。

20 また一本の細くて狭い道も見えた。その道はここまではまことにほそでせまい。

の鉄の棒に沿い、わたしの立っているそばの木の所まで来て いた。その道はまた、流れの源のそばを通 り、まるで一つの世界かと思われるような、大きくな

ひろびろ
廣々とした野原に通じていた。
②のはら つう
ひとびと み
一
つ
こ
は
ま
よ
し
ま
る
む
す
う

じる道にたどり着こうとして押し進んでいた。
そして、その人たちが進んで来ると、木に通じ
ている道を去り台わせた。

23 そこで、暗黒の霧が起つた。まことに、非常ひじょう

は深い暗黒の霧であつたため道を歩き始めいた
ひとびとみちみうしなまよすがたみ人々は道を見失い、迷つて姿が見えなくなつてしま

つた

24 そして、わたしはまた、押し進んで来るほかの人々を見たが、この人々は進んで来て、鉄の棒の端をつかんだ。そして彼らは、鉄の棒にすがりながら暗黒の霧の中を押し進み、ついに進んで来てその木の実を食べた。

25 そして彼らは、木の実を取つて食べると、恥じるかのように辺りを見回した。

それでわたしも辺りを見回すと、水の流れている川の向こう側に、一つの大さく広々とした建物が見えた。それは地上に高くそびえ、ちょうど空

中にあるかのよう立つていた。
27 その建物は、老若男女を問わず人々でいっぱい

であつた。この人々の衣服の装いは、非常に華や
いどびとひふくよめおひじょうはな

きてその実みを食べたている人々ひとびとを指さし、あざけり

笑つてゐる様子であつた。
それでその木の所までやつて來た人々は、その唐み

を味わつた後にあの人々にあざけり笑われたので

恥ずかしく思ひ 禁じられた道に踏み込んで婆が
見えなくなつてしまつた。」

29 ところで、わたしニーフアイは、父の言葉をすべて述べることはしない。

30 しかし、手短に記すと、見よ、父は、このほか
おおせいのひとが、おなまえをさういふに思つてゐる。

は、しつかり鉄の棒につかまりながら道を押し進んで来たのを見た。この人々には大勢の人か押し進んで来たのを見た。
進んで来て、鉄の棒の端をつかんだ。そして彼らは、しつかり鉄の棒につかまりながら道を押し進んで来たのを見た。

30 29	28 27	26	25 24	23 21	20
①① ③ ヨル 8 ② ①① 12 ① モア 2 ① ① 15 ① ① ② 2 ①					
1 1 GS 12 8 ハカ 38 マ 2 GS 18 1 ルテ	1 8 46 モ	1 24 1 GS	ニマ	ニマ	
ニニ 二	コベ	1	1	ニマ	
フフ 背 42 11	4 テ 高	フ 38 21,	1 フ	道	三十三 7
15. 1 教 43 15,	14 2 慢	11,	8, 16 8	12	38, 17 14,
23 16 背	19	35	10	17,	20
24 17 信	20				
		36	12		

み、ついにやつて來ると、ひれ伏して木の実を食た。

31 父はまた、ほかに大勢の人が、大きく広々とし
た建物の方へ道を探りながら進んでいるのを見た。
32 そしてまた、多くの人が、流れの深みにおぼれて死に、また多くの人が、見知らぬ道に迷つて父の視界から消えてしまった。
33 「あの奇妙な建物の中に入った人々の数は非常に多かった。彼らはその建物に入ると、わたしやほかにその実を食べていた人々を指さしてあざけり笑つた。しかしわたしたちは、彼らのことを気に留めなかつた。」
34 これらはわたしの父の言葉である。「それは、これらの人々を気に留めた者は皆、道を外れてしまつたからである。」
35 そして父は、「レーマンとレムエルはその実を食べなかつた」と言つた。

していると言つた。まことに、父は一人が主の前から捨てられはしないか心配であると言つた。
37 また父は、優しい親の情を込めて、父の言葉に聞き従うように、そうすれば恐らく主は憐れみを示し、追い出すようなことはなさらないと彼らに勧めた。このように、父は彼らに説き聞かせたのである。
38 父はこの一人に説き聞かせ、また多くの事柄を預言した後、主の命令を守るように告げて、彼らに語るのをやめた。

第9章

二ーファイ、二組の記録を作る。どちらも二ーファイの版と呼ばれる。大きい方の版には世俗の歴史が載つており、小さい方の版には、おもに神聖な事柄が採り上げられている。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1 これらのことはすべて、父がレムエルの谷で天幕を張つて住んでいたときには見聞きし、話してくれたことである。父はまた、この版に書き記せないもつと多くのことも見聞きし、話してくれた。

1	①	35	34	33	32	31
8、	1	1	2	1	2	1
14	ニフ	ニフ	ニフ	ニフ	ニフ	マタフ
15	2	8	17	24	17	26
16	4	18	18	19	18	29
6	6					

37 ① GS 「親」 「家族」

第9章

2ところで、この版について前に述べたように、見よ、これはわたしの民の歴史を残らず述べる版では決してない。わたしの民について残らず述べる版には、ニーファイという名を付けておいた。したがつて、それはわたしの名にちなんでニーファイの版と呼ぶが、この版もまたニーファイの版と呼ぶ。3にもかかわらず、わたしは、民に対する務めについての話を刻むという特別な目的のためにこの版を造るよう、主から命令を受けた。

4ほかの版には、もちろん王の統治と、わたしの民の戦争や争いに関する話を刻むことになつていふ。したがつて、この版はおおよそが民に対する務めについてであり、ほかの版はおおよそがもろもろの王の統治と、わたしの民の戦争や争いについてのものである。

5さて、主はある賢明な目的のために、わたしにこの版を造るように命じられたが、その目的はわたしには分からぬ。しかし、主は初めてのことを行つておこなう。したがつて、人の子らの中で御自身のすべての業を成就するために、ある方法を備えておられ

る。それは見よ、主は御自分のすべての言葉を成就する一切の権威を持つておられるからである。まことにそのとおりである。アーメン。

第10章

リーハイ、ユダヤ人がバビロニア人に捕らえられて連れ去られることを預言する。そして、ユダヤ人の中に救い主であり贖い主であるメシヤが来られることを告げる。また、神の小羊にバブテスマを施す人が現れることも告げる。リーハイ、メシヤの死と復活について告げる。また、イスラエルの散乱と集合をオリーブの木にたとえる。ニーファイ、神の御子と聖霊の賜物と義が求められることとを述べる。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1ところでわたしニーファイは、わたしが行つてきたことと、わたしの統治と民に対するわたしの務めについての話をこの版に続ける。さて、わたしの話を続けるには、父と兄たちのことをある程度述べる必要がある。

2さて見よ、父は夢の話を語り聞かせ、レーマン

2 ①	1ニフ	19	2、
ヤコ	3	11、	14、
モ言	1	2	4、
教義	10	38	40、
GS	1	版	1
3 ②	1ニフ	6	3
ヤコ	1	2	4、
モ言	1	10	3、
教義	38	2、	
モセ	1	ニフ	19、
アル	37	2、	12、
マタ	28	9	20、
GS	1	ニフ	14、
「全知」	18	2	
マタ	28	1	
1 ①	1ニフ	9	1—5、
ヤコ	1	1—6	
1ニフ	8	1—4	

とレムエルにちからをきり励むように勧めてから、ユダヤ人について一人に話して聞かせた。

3 ユダヤ人は滅び、まことにあの大きな都のエルサレムも滅んで、そこに住む多くの者がバビロンへ囚われの身となつて連れ去られる。しかし、主がふさわしいと思われる時機になると、これらの人々はまた帰つて来る。すなわち、囚われの身から連れ戻される。そして、囚われの身から連れ戻されてから、彼らは再び受け継ぎの地を所有する。

4 そして、まことに父がエルサレムを去つてから六百年後に、主なる神はユダヤ人の中に一人の預言者すなわちメシヤ、言い換えれば、世の救い主を立てられる。

5 父はまた預言者たちのことについても話して、非常に多くの預言者がこれらのこと、すなわち父が話をしたこのメシヤ、つまり世の贖い主について証言しているとも語つた。

6 また、すべての人類は、迷い堕落した状態にあることを述べた。

7 また父は、主の道を備えるためにメシヤに先立

8 まことにその預言者は、荒れ野に出て行つて叫ぶであろう。「主の道を備え、その道筋をまつすぐにして立つておられるからである。その御方はわたしよりも力のある御方で、わたしはその御方の履物のひもを解く值打ちもない。」父はこのことについて多くの話をした。

9 そして、父が言うには、この預言者はヨルダンのかなたベテアバラでバプテスマを施す。またバプテスマは水で施し、まことにメシヤに水でバプテスマを施す。

10 そして彼は、メシヤに水でバプテスマを施してから、世の罪を取り除く神の小羊にバプテスマを施したこと認め、その証をする。

11 さて、父はこれらの言葉を語つてから、ユダヤ人の間に宣べ伝えられる福音について、またユダヤ人が不信仰に陥ることについて兄たちに語つた。

ユダヤ人は降臨されるメシヤを殺すが、メシヤは殺された後に死者の中からよみがえり、聖靈によつて異邦人に御自身を現される。

ある。

まことに父は、異邦人とイスラエルの家について多くの話をし、イスラエルの家は、枝が折られて地の全面に散らされる、一本のオリーブの木にたとえられると語った。

したがつて父が言うには、地の全面に散るという主の言葉が成就するため、わたしたちは一つとなつて約束の地へ導かれる必要がある。

そして、イスラエルの家は散らされてから、再び集められる。要するに、異邦人が完全な福音を受け入れてから、オリーブの木の枝、すなわちイスラエルの家の残りの者のたちは接ぎ木される。すなわち、彼らの主であり贍い主であるまことのメシヤを知るようになる。

父はこのような言葉で兄たちに預言し、語り、また、もつと多くの事柄についても預言し、語つた。しかし、それはこの書には書き記さない。わたしのほかの書に、わたしにとって益になることをたくさん書き記しておいたからである。

今までに語つたことはすべて、父がレムエルの谷に天幕を張つて住んでいたときに起こつたことで

17さて、わたしニーファイは、父が示現の中⁽¹⁾で見たこと、また父が来るべきメシヤである神の御子を信じる信仰により授かつた聖靈の力によつて語つたことについて、父の言葉をすべて聞いた後、わたしニーファイもまた、聖靈の力によつてこのようなことを見聞きし、また知りたいと思つた。聖靈とは、昔の時代でも、またメシヤが人の子らと一緒に自身を現される時でも、およそ神を熱心に求めるすべての人に神が与えられる賜物である。

18神は、昨日も、今日も、またどこしえに変わることのない御方だからである。人々が悔い改めて神のもとに来るならば、世の初めから、すべての人にその道が備えられてゐる。

19熱心に求める人は見いだすであろう。神の奥義は聖靈の力によつて、昔の時代のみならず今の時代にも、同じようによの人々に明らかにされる。したがつて、主の道は一つの永遠の環である。

20だから、人々よ、あなたがたは、自分のすべての行いについて裁きを受けるということを覚えておきなさい。

それで、自分たちの試しの生涯じぶんのじょうがいをわるいことをしようとしたならば、あなたがたは神の裁きかみのさいの座ざの前まえで清くない者きよくないものとされるであろう。清くない者は神の座の前にさばくのである。清くない者きよくないものとともに住むことができないので、あなたがたはどこしえに捨てちがられるに違ちがいない。

聖靈はわたしに、これらのこと語かたる権能けんのうを授さずけてくださつてるので、わたしは黙もくすることをしない。

たか
高い山へ連れて行かれた。それは、まだ一度も見
たことがなく、一度も足を踏み入れたことのない山
であった。

2 そして御靈みたまがわたしに、「見よ、あなたは何なにを見
んでいるのか」と言われた。

3 それでわたしは、「父ちちの見たことをわたしも見た
いと望のぞんでいます」と言つた。

4 すると御靈みたまはわたしに、「あなたは、父ちちの語かたつた

二ーファイ、主の御靈を目にし、示現の中で命の木を見せられる。彼は神の御子の母を目にし、神が御自身を低くされることを知る。また神の小羊のバプテスマと務め、十字架の刑を見る。彼はまた、小羊の十二使徒の召めしと務めを見る。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1さて、わたしは、父の見たことを知りたいと思ひ、また主がそれを明らかにしてくださると信じて、^①思ひにふけりながら腰を下ろしていたとき、主の御靈に捕らえられて、まことに、非常に

わたしはこれらの言葉を語る、御靈は声高らかに叫んで言われた。「いと高き神にまします主に、ホサナ。主は全地を支配される神、まことにすべてのものの上にまします神であられる。ニーフアイよ、あなたはいと高き神の御子を信じていいるので幸いである。それゆえ、あなたは望んでいたものを見るであろう。

そして見よ、このことが一つのしるしとしてあなたに授けられる。すなわち、あなたは父が味わつたに授けられる。すなわち、あなたは父があじ

「そして見よ、このことが一つのしるしとしてあなたに授けられる。すなわち、あなたは父が味わつ

た実を結ぶ木を見てから、一人の男の人が天から降つて来るのを見る。その人をあなたは見る。そしてその人を見た後、あなたはその人が神の御子であることを証する。』

8 そして、御靈はわたしに「見なさい」と言われた。そこでわたしが見ると、一本の木が見えた。その木はちょうど父が見た木のようであつて、その木の美しさはほかに比べようがなく、まことにあらゆる美しいものをしのいでいた。またその白さは、風に舞う雪の白さにも勝っていた。

9 そこでわたしは、その木を見てから御靈に言つた。「わたしは、あなたがあらゆるものに勝つて貴い木を見せてください」と言われた。

10 すると御靈はわたしに、「何を望むか」と言われた。

11 それではわたしは御靈に、「その木の解き明かしを知ることです」と言つた。わたしは人が人に語るよう御靈に語つた。御靈が人の形をしておられるのみ見たからである。にもかかわらず、わたしはその御方が主の御靈であられることを知つていた。そして御靈もわたしに、人が人に語るように語られた。

12 さて、御靈がわたしに「見なさい」と言われた。それで御靈を仰ぎ見るよう眺めると、その御姿は見えなかつた。すでにわたしの前を去つておられたからである。

13 そこでわたしが眺めると、大きな都のエルサレムをはじめ、そのほかのもうもうの町が見えた。またナザレの町も見えた。そしてわたしはナザレの町に一人のおとめを見たが、それはまことに色が白く美しいおとめであつた。

14 そしてわたしは、天が開くのを見た。そして、一人の天使が降つて来てわたしの前に立ち、「ニーファイよ、何が見えるか」と言つた。

15 それでわたしは言つた。「ほかのどんなおとめにも勝つて美しく、また麗しいおとめが見えます。」

16 すると天使はわたしに、「神が御自身を低くされることはあなたに分かるか」と言つた。

17 それでわたしは、「わたしは、神がその子供たちを愛しておられるることは知っていますが、すべてのことの意味を知つてているわけではありません」と言つた。

18 すると天使は言つた。「見よ、あなたが見ている

13	11	9	8	7
①	②	①	②	GS
アル	マリヤ（イエスの母）	創世記	二二	二二
ルカ	マリア	エテ	四〇	八
一	一	三	一五	一六
二	二	二	二七	二五
三	三	三	一	
四	四	四	一	
五	五	五	一	
六	六	六	一	
七	七	七	一	
八	八	八	一	

^①おとめは、
肉に關して神の御子の母である。^②

19 そしてわたしは、そのおとめが御靈に連れて行かれるのを見た。そのおとめが御靈に連れて行かれた。

れてからしばらくして、天使がわたしに「見なさい」と言つた。

20 それで眺めると、腕に幼子を抱いたおとめが見えた。

21 すると天使がわたしに言った。『神の小羊、まことに永遠の父なる神の御子を見なさい。あなたは父が見た木の意味を知つていいるか。』

22 それでわたしは答えて言つた。「はい、その木はひと人の子らの心にあまねく注がれる神の愛です。だから、どんなものよりも好ましいものです。」

23 すると天使はわたしに、「そのとおり。それは人にもつて最も嬉しいものである」と言つた。

24 天使はこれらのことと言つてから、またわたしに「見なさい」と言つた。眺めると、神の御子がおお

の子らの中に進んで行かれるのが見えた。また多くの人がその足もとに伏して、御子を拝むのが見

25 そしてわたしは、父の見た鉄の棒が生ける水えた。

の源すなわち命の木に導く神の言葉であることを知つた。その水は神の愛の表れである。そして、命の木が神の愛の表れであることも知つた。

26 そして、天使がまたわたしに、「神が御自身を低くされる様子を眺めてみなさい」と言った。

27 それで眺めると、父の語つた世の上の贖い主が見え、また贖い主の前に道を備える預言者も見えた。ま

た神の小羊が進み出て、その預言者から^③バブテスマを受けられた。バブテスマを受けられると、天^{てん}がひらいて聖靈^{せいれい}が鳩^{はと}の形^{かたち}を取つて降つて来て、神^{かみ}の小羊^{こひつじ}

のうえにとどまられるのが見えた。
28 またわたしには、小羊ひつじが出て行き、力ちからと大きいな

る栄光をもつて人々にお仕えになるのが見えた。また、幾つもの大勢の人々の群れが、その小羊の言はき

葉を聞くために集まつたのが見えた。そして、彼らが自分たちの中から小羊を追い出すのが見えた。

29 そしてほかに十二人のひとが小羊に従うのを見えた。すると、この十二人のひとは、わたしの前から

御靈によつて連れ去られ、姿が見えなくなつた。
そこで、天使がまた「見なさい」と言うので眺めると、天がまた開いて、天使たちが人の子らの

もとに降つて来て、彼らに仕えるのが見えた。

なが

31 天使がまたわたしに、「見なさい」と言うので眺めると、神の小羊が人の子らの中に出て行かれるのが見えた。また病氣の人々や、様々な悪いに苦しんでいる人々、悪靈や汚れた靈につかれて苦しんでいる人々の群れが見えた。天使はこれらのことを見てわたしに語り、また見せてくれたが、これらの人々は神の小羊の力によつて癒され、また悪靈や汚れた靈は追い出された。

32 さて、天使がもう一度「見なさい」と言うので眺めると、神の小羊が人々に捕らえられるのが見えた。まことに、永遠の神の御子は世に裁かれた。わたしはこれを見たので、その証をする。

33 わたしニーファイは、神の小羊が世の罪のために十字架につけられて殺されたのを見た。

34 また神の小羊が殺されてから、世の幾つもの大勢の人々の群れが集まつて、主の天使が小羊の使徒と呼ぶあの十二人の人々と戦いをしようとするのが見えた。

35 このように、世の大勢の人々が集まつていたが、彼らが、父の見た建物のようなく広々とし

た建物の中にいるのが見えた。このとき、主の天使がまたわたしに言つた。「世の人々と彼らの知恵を見なさい。まことに、イスラエルの家が小羊の十二使徒と戦うために集まつてゐるのを見なさい。」

36 そこでわたしは、あの大きく広々とした建物が世の人々の高慢であることを見て、その証をする。その建物は崩れて、その崩れ方は非常に甚だしかつた。主の天使が再び、わたしに向かつて言った。「小羊の十一使徒と戦うすべての国民、部族、國語の民、民族の滅亡は、まさにこのようになるであろう。」

第 12 章
二ーファイ、示現の中で約束の地を見る。その地に住む者の義と罪惡と没落。神の小羊が約束の地に住む者をお訪られる様子。一二弟子と一二使徒がイスラエルを裁く様子。不信仰に陥る人々の不快で汚らわしい状態。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1 さて、天使がわたしに、「あなたの子孫と兄たち

36	35	33 32	31
① 12 ② GS	3 二フ 27 14	モサ 3 ① ③ ② GS 「靈魔」	マコ 5 7 20
GS 18	1 ニフ 8 26	ヨハ 3 9 10 16 17 19 20	「靈魔」

の子孫を眺めてみなさい」と言つた。それで眺める
と、約束の地が見え、また大勢の人々の群れが見
えたが、まことにその人々の数は海の砂のように多
かつた。

2 そして、大勢の人々の群れが、互いに戦うために
集まつてゐるのが見えた。また戦争が見え、戦争
のうわさがあり、わたしの民の中で剣によつて大
虐殺が行われるのも見えた。

3 そしてその地で、戦争や争いの有様で多くの世
代が過ぎていくのが見えた。また多くの町が見えた
が、それはまことに見え切れないのであつた。

4 そしてわたしは、約束の地の面に暗黒の霧を見
た。また稻妻が見え、雷や地震、そのほかあらゆ
る騒がしい物音を聞いた。また大地や岩が裂ける
のを見た。また山々が崩れるのを見た。また平地が
砕けるのを見た。また多くの町が沈むのを見た。
が地の震動のために地に崩れ落ちるのを見た。
5 さて、これらのことを見た後、暗黒の霧が地の
面から消去るのが見えた。そして見よ、わたし
は、主のこの大変な恐ろしい裁きによつても倒れな

の子孫を眺めてみなさい」と言つた。それで眺める
と、約束の地が見え、また大勢の人々の群れが見
えたが、まことにその人々の数は海の砂のように多
かつた。

6 そしてわたしは、天が開いて神の小羊が天から
降つて来られるのを見た。神の小羊は降つて来て、
彼らに御姿を現された。

7 わたしはまた、聖靈がほかの十二人に降つて來
られるのを見たので、それを証する。この十二人は
神によって聖任され、選ばれた人々である。

8 天使はわたしに、「小羊の十二弟子を見なさい。
この人々たちはあなたとの子孫に仕えるために選ばれ
る」と言つた。

9 また天使はわたしに言つた。「あなたは小羊の十
二使徒を覚えているか。見よ、彼らはイスラエル
の十二部族を裁く人々である。したがつて、あな
たの子孫から出る十二人の仕える者は、この十二使
徒によつて裁かれる。あなたがたはイスラエルの家
に属するからである。

10 あなたが見ているこの十二人の仕える者は、あ
なたの子孫を裁く。見よ、この十二人は、神の小
羊を信じる信仰のために小羊の血によつて衣を白
くされているので、とこしえに義人である。」

11 さて、天使がわたしに、「見なさい」と言うので

10	GS	①	12	9	7	6	4	2	1
3	13	②	モル	3	ニフ	10	③	エノ	1
11	11	アル	7	18	12	9	3	24	24
27	13	示	27	19	19	8	8	8	8
19	21	14	27	27	13	20	14	14	10
20					1	2	2	19	19
					17	26	19	19	19
					1	3	2	2	2
					11	12	3	1	1
					13	13	13	13	13

眺めると、三世代^①が義のうちに世を去り、その間^②人の衣はまことに神の小羊^③のように白かつた。天使がわたしに言つた。「この人々の衣は、小羊を信じる信仰のために小羊の血によつて白くされたのである。」

12さて、わたしがニーフアイは、四代目の人々の中にも義のうちに世を去つた人々が多くいるのを見た。13さて、わたしは、「世の大勢の人々が群れ集まるのを見なさい」と言つた。

14天使がわたしに、「あなたの子孫と兄弟たちの子孫に向かい、大勢の人々の群れとなつて集まるのが見えた。彼らは戦うために集められたのである。15そこで眺めると、わたしの子孫の民が兄弟たちの子孫に向かい、大勢の人々の群れとなつて集まるのが見えた。16また天使が言つた。「あなたの父が見た汚れた水の流れ、すなわちあなたの父が語つた川を見なさい。その深みは地獄の深みである。17また、あの暗黒の霧は悪魔の誘惑である。それは人の子らの目をくらまし、心をかたくなにし、広い道に踏み込ませて、彼らが滅び失われるよう

に仕向ける。

18また、あなたの父が見たあの大きく広々とした建物は、人の子らのうぬぼれた空想と高慢である。また、一つの大きな恐ろしい淵があつて、彼らを隔てている。まことに、それは、永遠の神と神の小羊であるメシヤの正義の御言葉であつて、このメシヤについては、世の初めから今に至るまで、

また今から後^④とこしえに、聖靈がその証^⑤をされる。19そして、天使がこれらの言葉を語つていた間に、わたしが眺めると、天使の言葉のとおりに、兄弟たちの子孫がわたしの子孫と戦うのが見えた。そして、わたしの子孫の高慢と悪魔の誘惑のためには、兄弟たちの子孫がわたしの子孫の民を打ち負かすのが見えた。

20そしてわたしは、兄弟たちの子孫の民はわたしの子孫を打ち負かしてから、幾つもの大勢の人々の群れとなつて、地の面^⑥に出て行くのが見えた。21そしてわたしは、彼らが幾つもの大勢の人々の群れとなつて集まるのを見た。そして、彼らの中に戦争と戦争のうわさがあるのを見た。そして、戦争

21	19	18	17	16 16 15	11
GSモロ ¹ 〔戦争〕	モロ ¹ 〔正義〕	モロ ¹ 〔高慢〕	モロ ¹ 〔地獄〕	モロ ¹ 〔汚れ〕	モロ ¹ 〔背信〕
モロ ² 〔モル〕	モロ ² 〔エ〕	モロ ² 〔レ〕	モロ ² 〔ニフ〕	モロ ² 〔ニフ〕	モロ ² 〔ニフ〕
モロ ³ 〔モル〕	モロ ³ 〔ジ〕	モロ ³ 〔カ〕	モロ ³ 〔ガ〕	モロ ³ 〔モル〕	モロ ³ 〔モル〕
モロ ⁴ 〔モル〕	モロ ⁴ 〔エ〕	モロ ⁴ 〔レ〕	モロ ⁴ 〔ニフ〕	モロ ⁴ 〔ニフ〕	モロ ⁴ 〔ニフ〕
モロ ⁵ 〔モル〕	モロ ⁵ 〔ジ〕	モロ ⁵ 〔カ〕	モロ ⁵ 〔ガ〕	モロ ⁵ 〔モル〕	モロ ⁵ 〔モル〕
モロ ⁶ 〔モル〕	モロ ⁶ 〔エ〕	モロ ⁶ 〔レ〕	モロ ⁶ 〔ニフ〕	モロ ⁶ 〔ニフ〕	モロ ⁶ 〔ニフ〕
モロ ⁷ 〔モル〕	モロ ⁷ 〔ジ〕	モロ ⁷ 〔カ〕	モロ ⁷ 〔ガ〕	モロ ⁷ 〔モル〕	モロ ⁷ 〔モル〕
モロ ⁸ 〔モル〕	モロ ⁸ 〔エ〕	モロ ⁸ 〔レ〕	モロ ⁸ 〔ニフ〕	モロ ⁸ 〔ニフ〕	モロ ⁸ 〔ニフ〕
モロ ⁹ 〔モル〕	モロ ⁹ 〔ジ〕	モロ ⁹ 〔カ〕	モロ ⁹ 〔ガ〕	モロ ⁹ 〔モル〕	モロ ⁹ 〔モル〕
モロ ¹⁰ 〔モル〕	モロ ¹⁰ 〔エ〕	モロ ¹⁰ 〔レ〕	モロ ¹⁰ 〔ニフ〕	モロ ¹⁰ 〔ニフ〕	モロ ¹⁰ 〔ニフ〕
モロ ¹¹ 〔モル〕	モロ ¹¹ 〔ジ〕	モロ ¹¹ 〔カ〕	モロ ¹¹ 〔ガ〕	モロ ¹¹ 〔モル〕	モロ ¹¹ 〔モル〕
モロ ¹² 〔モル〕	モロ ¹² 〔エ〕	モロ ¹² 〔レ〕	モロ ¹² 〔ニフ〕	モロ ¹² 〔ニフ〕	モロ ¹² 〔ニフ〕
モロ ¹³ 〔モル〕	モロ ¹³ 〔ジ〕	モロ ¹³ 〔カ〕	モロ ¹³ 〔ガ〕	モロ ¹³ 〔モル〕	モロ ¹³ 〔モル〕
モロ ¹⁴ 〔モル〕	モロ ¹⁴ 〔エ〕	モロ ¹⁴ 〔レ〕	モロ ¹⁴ 〔ニフ〕	モロ ¹⁴ 〔ニフ〕	モロ ¹⁴ 〔ニフ〕
モロ ¹⁵ 〔モル〕	モロ ¹⁵ 〔ジ〕	モロ ¹⁵ 〔カ〕	モロ ¹⁵ 〔ガ〕	モロ ¹⁵ 〔モル〕	モロ ¹⁵ 〔モル〕
モロ ¹⁶ 〔モル〕	モロ ¹⁶ 〔エ〕	モロ ¹⁶ 〔レ〕	モロ ¹⁶ 〔ニフ〕	モロ ¹⁶ 〔ニフ〕	モロ ¹⁶ 〔ニフ〕
モロ ¹⁷ 〔モル〕	モロ ¹⁷ 〔ジ〕	モロ ¹⁷ 〔カ〕	モロ ¹⁷ 〔ガ〕	モロ ¹⁷ 〔モル〕	モロ ¹⁷ 〔モル〕
モロ ¹⁸ 〔モル〕	モロ ¹⁸ 〔エ〕	モロ ¹⁸ 〔レ〕	モロ ¹⁸ 〔ニフ〕	モロ ¹⁸ 〔ニフ〕	モロ ¹⁸ 〔ニフ〕
モロ ¹⁹ 〔モル〕	モロ ¹⁹ 〔ジ〕	モロ ¹⁹ 〔カ〕	モロ ¹⁹ 〔ガ〕	モロ ¹⁹ 〔モル〕	モロ ¹⁹ 〔モル〕
モロ ²⁰ 〔モル〕	モロ ²⁰ 〔エ〕	モロ ²⁰ 〔レ〕	モロ ²⁰ 〔ニフ〕	モロ ²⁰ 〔ニフ〕	モロ ²⁰ 〔ニフ〕
モロ ²¹ 〔モル〕	モロ ²¹ 〔ジ〕	モロ ²¹ 〔カ〕	モロ ²¹ 〔ガ〕	モロ ²¹ 〔モル〕	モロ ²¹ 〔モル〕
モロ ²² 〔モル〕	モロ ²² 〔エ〕	モロ ²² 〔レ〕	モロ ²² 〔ニフ〕	モロ ²² 〔ニフ〕	モロ ²² 〔ニフ〕
モロ ²³ 〔モル〕	モロ ²³ 〔ジ〕	モロ ²³ 〔カ〕	モロ ²³ 〔ガ〕	モロ ²³ 〔モル〕	モロ ²³ 〔モル〕
モロ ²⁴ 〔モル〕	モロ ²⁴ 〔エ〕	モロ ²⁴ 〔レ〕	モロ ²⁴ 〔ニフ〕	モロ ²⁴ 〔ニフ〕	モロ ²⁴ 〔ニフ〕
モロ ²⁵ 〔モル〕	モロ ²⁵ 〔ジ〕	モロ ²⁵ 〔カ〕	モロ ²⁵ 〔ガ〕	モロ ²⁵ 〔モル〕	モロ ²⁵ 〔モル〕
モロ ²⁶ 〔モル〕	モロ ²⁶ 〔エ〕	モロ ²⁶ 〔レ〕	モロ ²⁶ 〔ニフ〕	モロ ²⁶ 〔ニフ〕	モロ ²⁶ 〔ニフ〕
モロ ²⁷ 〔モル〕	モロ ²⁷ 〔ジ〕	モロ ²⁷ 〔カ〕	モロ ²⁷ 〔ガ〕	モロ ²⁷ 〔モル〕	モロ ²⁷ 〔モル〕
モロ ²⁸ 〔モル〕	モロ ²⁸ 〔エ〕	モロ ²⁸ 〔レ〕	モロ ²⁸ 〔ニフ〕	モロ ²⁸ 〔ニフ〕	モロ ²⁸ 〔ニフ〕
モロ ²⁹ 〔モル〕	モロ ²⁹ 〔ジ〕	モロ ²⁹ 〔カ〕	モロ ²⁹ 〔ガ〕	モロ ²⁹ 〔モル〕	モロ ²⁹ 〔モル〕
モロ ³⁰ 〔モル〕	モロ ³⁰ 〔エ〕	モロ ³⁰ 〔レ〕	モロ ³⁰ 〔ニフ〕	モロ ³⁰ 〔ニフ〕	モロ ³⁰ 〔ニフ〕
モロ ³¹ 〔モル〕	モロ ³¹ 〔ジ〕	モロ ³¹ 〔カ〕	モロ ³¹ 〔ガ〕	モロ ³¹ 〔モル〕	モロ ³¹ 〔モル〕
モロ ³² 〔モル〕	モロ ³² 〔エ〕	モロ ³² 〔レ〕	モロ ³² 〔ニフ〕	モロ ³² 〔ニフ〕	モロ ³² 〔ニフ〕
モロ ³³ 〔モル〕	モロ ³³ 〔ジ〕	モロ ³³ 〔カ〕	モロ ³³ 〔ガ〕	モロ ³³ 〔モル〕	モロ ³³ 〔モル〕
モロ ³⁴ 〔モル〕	モロ ³⁴ 〔エ〕	モロ ³⁴ 〔レ〕	モロ ³⁴ 〔ニフ〕	モロ ³⁴ 〔ニフ〕	モロ ³⁴ 〔ニフ〕
モロ ³⁵ 〔モル〕	モロ ³⁵ 〔ジ〕	モロ ³⁵ 〔カ〕	モロ ³⁵ 〔ガ〕	モロ ³⁵ 〔モル〕	モロ ³⁵ 〔モル〕
モロ ³⁶ 〔モル〕	モロ ³⁶ 〔エ〕	モロ ³⁶ 〔レ〕	モロ ³⁶ 〔ニフ〕	モロ ³⁶ 〔ニフ〕	モロ ³⁶ 〔ニフ〕
モロ ³⁷ 〔モル〕	モロ ³⁷ 〔ジ〕	モロ ³⁷ 〔カ〕	モロ ³⁷ 〔ガ〕	モロ ³⁷ 〔モル〕	モロ ³⁷ 〔モル〕
モロ ³⁸ 〔モル〕	モロ ³⁸ 〔エ〕	モロ ³⁸ 〔レ〕	モロ ³⁸ 〔ニフ〕	モロ ³⁸ 〔ニフ〕	モロ ³⁸ 〔ニフ〕
モロ ³⁹ 〔モル〕	モロ ³⁹ 〔ジ〕	モロ ³⁹ 〔カ〕	モロ ³⁹ 〔ガ〕	モロ ³⁹ 〔モル〕	モロ ³⁹ 〔モル〕
モロ ⁴⁰ 〔モル〕	モロ ⁴⁰ 〔エ〕	モロ ⁴⁰ 〔レ〕	モロ ⁴⁰ 〔ニフ〕	モロ ⁴⁰ 〔ニフ〕	モロ ⁴⁰ 〔ニフ〕
モロ ⁴¹ 〔モル〕	モロ ⁴¹ 〔ジ〕	モロ ⁴¹ 〔カ〕	モロ ⁴¹ 〔ガ〕	モロ ⁴¹ 〔モル〕	モロ ⁴¹ 〔モル〕
モロ ⁴² 〔モル〕	モロ ⁴² 〔エ〕	モロ ⁴² 〔レ〕	モロ ⁴² 〔ニフ〕	モロ ⁴² 〔ニフ〕	モロ ⁴² 〔ニフ〕
モロ ⁴³ 〔モル〕	モロ ⁴³ 〔ジ〕	モロ ⁴³ 〔カ〕	モロ ⁴³ 〔ガ〕	モロ ⁴³ 〔モル〕	モロ ⁴³ 〔モル〕
モロ ⁴⁴ 〔モル〕	モロ ⁴⁴ 〔エ〕	モロ ⁴⁴ 〔レ〕	モロ ⁴⁴ 〔ニフ〕	モロ ⁴⁴ 〔ニフ〕	モロ ⁴⁴ 〔ニフ〕
モロ ⁴⁵ 〔モル〕	モロ ⁴⁵ 〔ジ〕	モロ ⁴⁵ 〔カ〕	モロ ⁴⁵ 〔ガ〕	モロ ⁴⁵ 〔モル〕	モロ ⁴⁵ 〔モル〕
モロ ⁴⁶ 〔モル〕	モロ ⁴⁶ 〔エ〕	モロ ⁴⁶ 〔レ〕	モロ ⁴⁶ 〔ニフ〕	モロ ⁴⁶ 〔ニフ〕	モロ ⁴⁶ 〔ニフ〕
モロ ⁴⁷ 〔モル〕	モロ ⁴⁷ 〔ジ〕	モロ ⁴⁷ 〔カ〕	モロ ⁴⁷ 〔ガ〕	モロ ⁴⁷ 〔モル〕	モロ ⁴⁷ 〔モル〕
モロ ⁴⁸ 〔モル〕	モロ ⁴⁸ 〔エ〕	モロ ⁴⁸ 〔レ〕	モロ ⁴⁸ 〔ニフ〕	モロ ⁴⁸ 〔ニフ〕	モロ ⁴⁸ 〔ニフ〕
モロ ⁴⁹ 〔モル〕	モロ ⁴⁹ 〔ジ〕	モロ ⁴⁹ 〔カ〕	モロ ⁴⁹ 〔ガ〕	モロ ⁴⁹ 〔モル〕	モロ ⁴⁹ 〔モル〕
モロ ⁵⁰ 〔モル〕	モロ ⁵⁰ 〔エ〕	モロ ⁵⁰ 〔レ〕	モロ ⁵⁰ 〔ニフ〕	モロ ⁵⁰ 〔ニフ〕	モロ ⁵⁰ 〔ニフ〕
モロ ⁵¹ 〔モル〕	モロ ⁵¹ 〔ジ〕	モロ ⁵¹ 〔カ〕	モロ ⁵¹ 〔ガ〕	モロ ⁵¹ 〔モル〕	モロ ⁵¹ 〔モル〕
モロ ⁵² 〔モル〕	モロ ⁵² 〔エ〕	モロ ⁵² 〔レ〕	モロ ⁵² 〔ニフ〕	モロ ⁵² 〔ニフ〕	モロ ⁵² 〔ニフ〕
モロ ⁵³ 〔モル〕	モロ ⁵³ 〔ジ〕	モロ ⁵³ 〔カ〕	モロ ⁵³ 〔ガ〕	モロ ⁵³ 〔モル〕	モロ ⁵³ 〔モル〕
モロ ⁵⁴ 〔モル〕	モロ ⁵⁴ 〔エ〕	モロ ⁵⁴ 〔レ〕	モロ ⁵⁴ 〔ニフ〕	モロ ⁵⁴ 〔ニフ〕	モロ ⁵⁴ 〔ニフ〕
モロ ⁵⁵ 〔モル〕	モロ ⁵⁵ 〔ジ〕	モロ ⁵⁵ 〔カ〕	モロ ⁵⁵ 〔ガ〕	モロ ⁵⁵ 〔モル〕	モロ ⁵⁵ 〔モル〕
モロ ⁵⁶ 〔モル〕	モロ ⁵⁶ 〔エ〕	モロ ⁵⁶ 〔レ〕	モロ ⁵⁶ 〔ニフ〕	モロ ⁵⁶ 〔ニフ〕	モロ ⁵⁶ 〔ニフ〕
モロ ⁵⁷ 〔モル〕	モロ ⁵⁷ 〔ジ〕	モロ ⁵⁷ 〔カ〕	モロ ⁵⁷ 〔ガ〕	モロ ⁵⁷ 〔モル〕	モロ ⁵⁷ 〔モル〕
モロ ⁵⁸ 〔モル〕	モロ ⁵⁸ 〔エ〕	モロ ⁵⁸ 〔レ〕	モロ ⁵⁸ 〔ニフ〕	モロ ⁵⁸ 〔ニフ〕	モロ ⁵⁸ 〔ニフ〕
モロ ⁵⁹ 〔モル〕	モロ ⁵⁹ 〔ジ〕	モロ ⁵⁹ 〔カ〕	モロ ⁵⁹ 〔ガ〕	モロ ⁵⁹ 〔モル〕	モロ ⁵⁹ 〔モル〕
モロ ⁶⁰ 〔モル〕	モロ ⁶⁰ 〔エ〕	モロ ⁶⁰ 〔レ〕	モロ ⁶⁰ 〔ニフ〕	モロ ⁶⁰ 〔ニフ〕	モロ ⁶⁰ 〔ニフ〕
モロ ⁶¹ 〔モル〕	モロ ⁶¹ 〔ジ〕	モロ ⁶¹ 〔カ〕	モロ ⁶¹ 〔ガ〕	モロ ⁶¹ 〔モル〕	モロ ⁶¹ 〔モル〕
モロ ⁶² 〔モル〕	モロ ⁶² 〔エ〕	モロ ⁶² 〔レ〕	モロ ⁶² 〔ニフ〕	モロ ⁶² 〔ニフ〕	モロ ⁶² 〔ニフ〕
モロ ⁶³ 〔モル〕	モロ ⁶³ 〔ジ〕	モロ ⁶³ 〔カ〕	モロ ⁶³ 〔ガ〕	モロ ⁶³ 〔モル〕	モロ ⁶³ 〔モル〕
モロ ⁶⁴ 〔モル〕	モロ ⁶⁴ 〔エ〕	モロ ⁶⁴ 〔レ〕	モロ ⁶⁴ 〔ニフ〕	モロ ⁶⁴ 〔ニフ〕	モロ ⁶⁴ 〔ニフ〕
モロ ⁶⁵ 〔モル〕	モロ ⁶⁵ 〔ジ〕	モロ ⁶⁵ 〔カ〕	モロ ⁶⁵ 〔ガ〕	モロ ⁶⁵ 〔モル〕	モロ ⁶⁵ 〔モル〕
モロ ⁶⁶ 〔モル〕	モロ ⁶⁶ 〔エ〕	モロ ⁶⁶ 〔レ〕	モロ ⁶⁶ 〔ニフ〕	モロ ⁶⁶ 〔ニフ〕	モロ ⁶⁶ 〔ニフ〕
モロ ⁶⁷ 〔モル〕	モロ ⁶⁷ 〔ジ〕	モロ ⁶⁷ 〔カ〕	モロ ⁶⁷ 〔ガ〕	モロ ⁶⁷ 〔モル〕	モロ ⁶⁷ 〔モル〕
モロ ⁶⁸ 〔モル〕	モロ ⁶⁸ 〔エ〕	モロ ⁶⁸ 〔レ〕	モロ ⁶⁸ 〔ニフ〕	モロ ⁶⁸ 〔ニフ〕	モロ ⁶⁸ 〔ニフ〕
モロ ⁶⁹ 〔モル〕	モロ ⁶⁹ 〔ジ〕	モロ ⁶⁹ 〔カ〕	モロ ⁶⁹ 〔ガ〕	モロ ⁶⁹ 〔モル〕	モロ ⁶⁹ 〔モル〕
モロ ⁷⁰ 〔モル〕	モロ ⁷⁰ 〔エ〕	モロ ⁷⁰ 〔レ〕	モロ ⁷⁰ 〔ニフ〕	モロ ⁷⁰ 〔ニフ〕	モロ ⁷⁰ 〔ニフ〕
モロ ⁷¹ 〔モル〕	モロ ⁷¹ 〔ジ〕	モロ ⁷¹ 〔カ〕	モロ ⁷¹ 〔ガ〕	モロ ⁷¹ 〔モル〕	モロ ⁷¹ 〔モル〕
モロ ⁷² 〔モル〕	モロ ⁷² 〔エ〕	モロ ⁷² 〔レ〕	モロ ⁷² 〔ニフ〕	モロ ⁷² 〔ニフ〕	モロ ⁷² 〔ニフ〕
モロ ⁷³ 〔モル〕	モロ ⁷³ 〔ジ〕	モロ ⁷³ 〔カ〕	モロ ⁷³ 〔ガ〕	モロ ⁷³ 〔モル〕	モロ ⁷³ 〔モル〕
モロ ⁷⁴ 〔モル〕	モロ ⁷⁴ 〔エ〕	モロ ⁷⁴ 〔レ〕	モロ ⁷⁴ 〔ニフ〕	モロ ⁷⁴ 〔ニフ〕	モロ ⁷⁴ 〔ニフ〕
モロ ⁷⁵ 〔モル〕	モロ ⁷⁵ 〔ジ〕	モロ ⁷⁵ 〔カ〕	モロ ⁷⁵ 〔ガ〕	モロ ⁷⁵ 〔モル〕	モロ ⁷⁵ 〔モル〕
モロ ⁷⁶ 〔モル〕	モロ ⁷⁶ 〔エ〕	モロ ⁷⁶ 〔レ〕	モロ ⁷⁶ 〔ニフ〕	モロ ⁷⁶ 〔ニフ〕	モロ ⁷⁶ 〔ニフ〕
モロ ⁷⁷ 〔モル〕	モロ ⁷⁷ 〔ジ〕	モロ ⁷⁷ 〔カ〕	モロ ⁷⁷ 〔ガ〕	モロ ⁷⁷ 〔モル〕	モロ ⁷⁷ 〔モル〕
モロ ⁷⁸ 〔モル〕	モロ ⁷⁸ 〔エ〕	モロ ⁷⁸ 〔レ〕	モロ ⁷⁸ 〔ニフ〕	モロ ⁷⁸ 〔ニフ〕	モロ ⁷⁸ 〔ニフ〕
モロ ⁷⁹ 〔モル〕	モロ ⁷⁹ 〔ジ〕	モロ ⁷⁹ 〔カ〕	モロ ⁷⁹ 〔ガ〕	モロ ⁷⁹ 〔モル〕	モロ ⁷⁹ 〔モル〕
モロ ⁸⁰ 〔モル〕	モロ ⁸⁰ 〔エ〕	モロ ⁸⁰ 〔レ〕	モロ ⁸⁰ 〔ニフ〕	モロ ⁸⁰ 〔ニフ〕	モロ ⁸⁰ 〔ニフ〕
モロ ⁸¹ 〔モル〕	モロ ⁸¹ 〔ジ〕	モロ ⁸¹ 〔カ〕	モロ ⁸¹ 〔ガ〕	モロ ⁸¹ 〔モル〕	モロ ⁸¹ 〔モル〕
モロ ⁸² 〔モル〕	モロ ⁸² 〔エ〕	モロ ⁸² 〔レ〕	モロ ⁸² 〔ニフ〕	モロ ⁸² 〔ニフ〕	モロ ⁸² 〔ニフ〕
モロ ⁸³ 〔モル〕	モロ ⁸³ 〔ジ〕	モロ ⁸³ 〔カ〕	モロ ⁸³ 〔ガ〕	モロ ⁸³ 〔モル〕	モロ ⁸³ 〔モル〕
モロ ⁸⁴ 〔モル〕	モロ ⁸⁴ 〔エ〕	モロ ⁸⁴ 〔レ〕	モロ ⁸⁴ 〔ニフ〕	モロ ⁸⁴ 〔ニフ〕	モロ ⁸⁴ 〔ニフ〕
モロ ⁸⁵ 〔モル〕	モロ ⁸⁵ 〔ジ〕	モロ ⁸⁵ 〔カ〕	モロ ⁸⁵ 〔ガ〕	モロ ⁸⁵ 〔モル〕	モロ ⁸⁵ 〔モル〕
モロ ⁸⁶ 〔モル〕	モロ ⁸⁶ 〔エ〕	モロ ⁸⁶ 〔レ〕	モロ ⁸⁶ 〔ニフ〕	モロ ⁸⁶ 〔ニフ〕	モロ ⁸⁶ 〔ニフ〕
モロ ⁸⁷ 〔モル〕	モロ ⁸⁷ 〔ジ〕	モロ ⁸⁷ 〔カ〕	モロ ⁸⁷ 〔ガ〕	モロ ⁸⁷ 〔モル〕	モロ ⁸⁷ 〔モル〕
モロ ⁸⁸ 〔モル〕	モロ ⁸⁸ 〔エ〕	モロ ⁸⁸ 〔レ〕	モロ ⁸⁸ 〔ニフ〕	モロ ⁸⁸ 〔ニフ〕	モロ ⁸⁸ 〔ニフ〕
モロ ⁸⁹ 〔モル〕	モロ ⁸⁹ 〔ジ〕	モロ ⁸⁹ 〔カ〕	モロ ⁸⁹ 〔ガ〕	モロ ⁸⁹ 〔モル〕	モロ ⁸⁹ 〔モル〕
モロ ⁹⁰ 〔モル〕	モロ ⁹⁰ 〔エ〕	モロ ⁹⁰ 〔レ〕	モロ ⁹⁰ 〔ニフ〕	モロ ⁹⁰ 〔ニフ〕	モロ ⁹⁰ 〔ニフ〕
モロ ⁹¹ 〔モル〕	モロ ⁹¹ 〔ジ〕	モロ ⁹¹ 〔カ〕	モロ ⁹¹ 〔ガ〕	モロ ⁹¹ 〔モル〕	モロ ⁹¹ 〔モル〕
モロ ⁹² 〔モル〕	モロ ⁹² 〔エ〕	モロ ⁹² 〔レ〕	モロ ⁹² 〔ニフ〕	モロ ⁹² 〔ニフ〕	モロ ⁹² 〔ニフ〕
モロ ⁹³ 〔モル〕	モロ ⁹³ 〔ジ〕	モロ ⁹³ 〔カ〕	モロ ⁹³ 〔ガ〕	モロ ⁹³ 〔モル〕	モロ ⁹³ 〔モル〕
モロ ⁹⁴ 〔モル〕	モロ ⁹⁴ 〔エ〕	モロ ⁹⁴ 〔レ〕	モロ ⁹⁴ 〔ニフ〕	モロ ⁹⁴ 〔ニフ〕	モロ ⁹⁴ 〔ニフ〕
モロ ⁹⁵ 〔モル〕	モロ ⁹⁵ 〔ジ〕	モロ ⁹⁵ 〔カ〕	モロ ⁹⁵ 〔ガ〕	モロ ⁹⁵ 〔モル〕	モロ ⁹⁵ 〔モル〕
モロ ⁹⁶ 〔モル〕	モロ ⁹⁶ 〔エ〕	モロ ⁹⁶ 〔レ〕	モロ ⁹⁶ 〔ニフ〕	モロ ⁹⁶ 〔ニフ〕	モロ ⁹⁶ 〔ニフ〕
モロ ⁹⁷ 〔モル〕	モロ ⁹⁷ 〔ジ〕				

と戦争のうわさの中で、多くの世代が過ぎ去るのを見た。

22 すると天使がわたしに、「見よ、これらの人々は不信仰に陥る」と言つた。

23 そこでわたしを見ると、これらの人々は不信仰に陥つてから、肌の黒ずんだ不快な汚らわしい民、まつたくの怠け者であらゆる忌まわしい行いをする民になつた。

第
13
章

二、ファイ、示現の中で異邦人のなかに設けられる悪魔の教会を見る。またアメリカ大陸の発見と入植、聖書の分かりやすく貴重多くの部分が失われること、異邦人の背教がもたらす有様についても見る。さらに福音の回復と末日の聖典の出現、シオンの建設について見る。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

さて、天使がわたしに、「見なさい」と言った。
それでわたしは眺めると、多くの国民と王国が見

2 天使がわたしに、「何が見えるか」と言つたの

で、わたしは、
「多くの国民と王国が見えます」と
答えた。

3 天使はわたしに、「これらは異邦人の國民とその
王国である」と言つた。

4 そしてわたしは、異邦人の国民の中に一つの大
きな教会が設立されるのを見た。
5 天使はわたしに言つた。「ほかのあらゆる教会に
も増して忌まわしい教会が設立されるのを見なさ

い。この教会は神の聖徒たちを殺し、苦しめ、縛り上げ、鉄のくびきを負わせて、囚われの身に陥

れるものである。」
「そしてわたしは、この大きな忌まわしい教会を

見て、悪魔がその創設者であるのを知つた。

わたしはまた金と銀と絹と紺の衣とこまやかに織つた亞麻布、それにいろいろな種類の高価な衣

るい
み
てんし
い
み
きん
ぎん
きぬ
ひ

類を見た。また、多くの娼婦を見た。

8 天使がわたしに言つた。—見よ、金と銀と絹と紺の衣(ころも)をこまやかに織つた亜麻布(あまぬの)、それに高価な衣類(こうるい)、また娼婦(しょうふ)などは、この大きな忌まわしい教会(きみわいきゅうかい)

が好むものである。
9 また彼らは、世の誉れを得るために神の聖徒た

ちを殺し、彼らを囚われの身に陥れる。」

10 さて、わたしが眺めると、大海があつて、それが異邦人と兄たちの子孫とを隔てているのが見えた。

11 そして天使がわたしに、「見なさい。神の怒りが

あなたの兄たちの子孫のうえにある」と言つた。

12 それで眺めると、異邦人の中に一人の男が見

え、その男は大海によつてわたしの兄たちの子孫

から隔てられていた。すると神の御靈が降つてこ

の男に働きかけ、この男が大海を渡つて、約束の

地にいるわたしの兄たちの子孫のところへ行くの

が見えた。

13 そして、神の御靈がほかの異邦人にも働きか

け、彼らが囚われの身の上から逃れて大海を渡つ

て行くのが見えた。

14 そして、約束の地に大勢の異邦人の群れがいる

のが見え、神の激しい怒りが兄たちの子孫に下り、

彼らが異邦人の前から散らされ、打ち負かされる

のが見えた。

て得るのを見た。また彼らが、殺される前のわたしの民のように肌の色が白く、非常に麗しく美しいのが見えた。

16 そして、わたしニーファイは、囚われの身から逃れて来た異邦人が主の前にへりくだり、主の力が彼らとともにあるのを見た。

17 わたしはまた、彼らの母国の中の異邦人が、彼らと戦うために海にも陸にも集まるのを見た。

18 そしてわたしは、神の力が彼らとともにあり、また神の激しい怒りが、彼らと戦うために集まつたすべての人間に下るのを見た。

19 そしてわたしニーファイは、囚われの身から逃れて来た異邦人が、神の力によつて、ほかのすべての国民の手から救い出されるのを見た。

20 そしてわたしは、彼らがその地で栄えるのを見た。また、一冊の書物が見え、それが彼らの中で広まるのが見えた。

21 すると天使が、「この書物の意味が分かるか」と言つた。

22 わたしは天使に、「分かりません」と答えた。

23 すると天使は、「見なさい。この書物はユダヤ人

20	19 16	15	14 12 9
①エ テ ニ フ 14. 23	①①③ ニ 12. 14. 21.	②① モル 101. 80 10 10 14 14	①①①① GS GS GS 默示 「約東の地」 モル 5. 19 22. 7 19 20 8

の口から出でている」と言つた。わたしニーファイがそれを見ると、天使はわたしに言つた。「あなたが見ている書物はユダヤ人の記録であつて、主がイスラエルの家に立てられた聖約が載つており、それにはまた、聖なる預言者たちの語つた多くの預言も載つてゐる。それは真鍮の版に刻まれて記録に似たものであつて、ただその量が少ないのである。それでもその中には、主がイスラエルの家に立てられた聖約が載せてあるので、異邦人にとつて大きいに価値のあるものである。」

24 また、主の天使はわたしに言つた。「あなたはその書物がユダヤ人の口から出て来たのを見たが、それがユダヤ人の口から出て来たときには、主の完全な福音が載つていた。この主については、じつに二使徒が証をしており、彼らは神の小羊にある真理によつて証をしている。

25 したがつて、これらのこととは神の内にある真理によつてユダヤ人から異邦人に純粹なまま伝わる。

26 そして、これらが小羊の十二使徒の手によつてユダヤ人から異邦人に伝わつてから、あなたに

は、ほかのあらゆる教会にも増して大きな忌まわしい教会が設立されるのが見える。見よ、その教会の者たちは、分かりやすく大変貴い多くの部分を小羊の福音から取り去り、また主の多くの聖人の子らの目をくらまし、その心をかたくにするためである。

約も取り去つてしまつたからである。

彼らがこれをしたのは、主の正しい道を曲げて人の子らの目をくらまし、その心をかたくにするためである。

したがつてあなたには、あの書物があの大好きな忌まわしい教会の手を経て出て来てからは、神の小羊の書物から分かりやすく貴い多くの部分が取り去られていることが分かる。

そして、これらの分かりやすく貴い部分が取り去られてから、この書物は異邦人であるすべての国民に伝わる。まことに、それが囚われの身から逃れた異邦人とともに、あなたの見た大海を渡つて、異邦人であるすべての国民に伝わった後、ひじょうにお多くの人人がつまずき、まことにサタンがその人々を大いに支配する力をを持つほどになるのが見える。それは、神の小羊にある明瞭さによつてひとの子らに理解しやすかつた、分かりやすく貴人の子らに理解しやすかつた、分かりやすく貴

い多くの部分が、その書物から取り去られてしまつたため、すなわち小羊の福音からこれらのことが取り去られてしまつたためである。

30 しかししながら、あなたは見る。囚われの身を逃れる異邦人、ほかのあらゆる地に勝つたえり抜きの地、すなわち、あなたの子孫が受け継ぎの地として所有すると、主なる神があなたの父に聖約された地の面において、神の力によつてすべてのほかの國民より高められる異邦人を。それゆえ、あなたの兄たちの中に生きている、あなたの子孫で血が混じつた者たちが、この異邦人によつてごとく滅ぼされてしまうのを、主なる神は許されない。このことをあなたは見る。

31 また主なる神は、この異邦人があなたの兄たちの子孫を滅ぼすのも許されない。

32 また主なる神は、異邦人が恐ろしい盲目の状態にとこしえにとどまることも許されない。あなたが見る彼らのその状態は、小羊の福音の分かりやすくて大変貴い部分があの忌まわしい教会によつて差し止められたためである。そして、あなたはその教会が設立されるのを見たのである。

33 したがつて、神の小羊は言われる。『わたしは異なる裁きをもつて報いを加える』と。

34 そして、主の天使はわたしに言つた。『神の小羊は次のように言われる。『見よ、わたしはイスラエルの家の残りの者、すなわちわたしが話しているこの残りの者とは、あなたの父の子孫であるが、彼らに裁きをもつて報いを加え、異邦人の手によつて彼らを悩ました後、また娼婦の母であるあの忌まわしい教会が、小羊の福音の大変分かりやすくて貴い部分のため、すなわちその部分があの忌まわしい教会によつて差し止められたために、異邦人が甚だしくつまずいた後、小羊はこう言われ、さらに『その日わたしは異邦人を憐れみ、力をもつて、わたしの福音の中の分かりやすくて貴い多くの部分を彼らに明らかにしよう』

35 見よ、小羊は言われる。『わたしはあなたの子孫にわたし自身を現し、わたしが教える分かりやすくて貴い多くのことを記させる。そして、あなたの子孫が滅ぼされ、また不信仰に陥り、またあな

31	②	①	GS	「約束の地」
32	①	GS	「悪魔」	「惡魔」
33	GS	「ヨセフ（ヤコブの息子）」	モル	モル
34	④	③	GS	「福音」
35	2	ニフ	26	20
	②	1	ニフ	14
	GS	1	ニフ	1
	「福音の回復」	3	3	3
GS	10	18	19	10
教義	12	5	5	14
「福音の回復」	16	8	9	7
	10	12	5	9
	12	5	5	14
	16	8	9	7
	20	21	21	14
	26	20	20	10
	32	14	14	9
	34	3	3	10
	35	3	3	10

れ、そして異邦人に、次にユダヤ人に御姿を現され。このように、後の者は先になり、先の者は後になる。」

第14章

天てん使し、異邦人いほうじんに及び祝福およしゆくとのろいについてニーファイに伝える。教会はただ二つ、神の小羊こひつじの教会と惡魔あくまの教会があること。すべての国々くにぐににいる神の聖徒せいとたち、大きな忌まわしい教会によつて迫害はくがいされる。使徒ヨハネが世の終わりについて書き記す。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1さて、神の小羊こひつじが御言葉みことばと力をもつて、確かに異邦人いほうじんに御姿みすがたを現し、つまずきの石いしを取り除のぞかれる日、もし異邦人が神の小羊の御言葉に聞き従したがい、

2神の小羊こひつじに対して心こころをかたくなにしなければ、彼らは、あなたの父の子孫いえのこの中に数えられるようになる。まことに、彼らはイスラエルの家いえの中に数えられ、約束あくせくの地ちでこそしえに祝福およしゆくされた民たみとなり、もう囚われの身となることはない。そして、イ

スラエルの家いえは再び乱されることがない。
 3神の小羊こひつじは言われる。「人の靈れいを地獄じごくに誘さそい落おちすために、惡魔あくまが自分の子らとともに築いたあの大きな穴あなを掘ほつたが、まことに人々を滅ぼぼすために掘られたその大きな穴あなは、それを掘つた者たちでいっぱいになります。彼らはことごとく滅ぼびてしまふ。しかし滅ぼびるといつても、靈れいが滅ぼぶのではなく、終わりのないあの地獄じごくに投げ込まれることをいうのである。
 4見よ、これは惡魔あくまの束縛そくぱくと神の正義せいぎに従したがつて人々に及ぶもので、神の御前みまえに悪事あくじと忌まわしい行おこないをするすべての人に及ぶのである。」
 5そこで天使は、またわたしニーファイに言つた。「あなたは、異邦人も悔い改めれば幸いであるのを見た。また、主じゅがイスラエルの家いえと交わされた聖約せいやくについても知り、悔い改めない者はだれでも減ぼびなければならぬことも聞いている。
 6したがつて、異邦人は神の小羊こひつじに對して心こころをかたくなにするならば、災さいである。
 7神の小羊こひつじは言われる。「わたしが大きいなる驚くべき業わざを人の子らの中なかで行おこなう時ときが来る。その業は、

1 ①	1 テサ 1: 5,	1 ②	ヤコブ 14: 14, 14: 15, 13: 30, 63
2 ①	ガラ 3: 7, 29, 2 ②	ニフ 26: 20, 29, 34,	ニフ 14: 6, 16: 6, 13: 19, 21: 6,
3 ①	ニフ 22: 13, 18, 22: 2, 9	ニフ 6: 12, 11:	ニフ 14: 1, 13: 1, 13: 20
4 ①	ニフ 27: 1, 27: 2, 27: 3, 27: 4, 27: 5	ニフ 27: 1, 27: 2, 27: 3, 27: 4, 27: 5	ニフ 27: 1, 27: 2, 27: 3, 27: 4, 27: 5
5 ①	ニフ 22: 14, 22: 15, 22: 16, 22: 17, 22: 18, 22: 19, 22: 20, 22: 21, 22: 22, 22: 23, 22: 24, 22: 25, 22: 26, 22: 27, 22: 28, 22: 29, 22: 30, 22: 31, 22: 32, 22: 33, 22: 34, 22: 35, 22: 36, 22: 37, 22: 38, 22: 39, 22: 40, 22: 41, 22: 42, 22: 43, 22: 44, 22: 45, 22: 46, 22: 47, 22: 48, 22: 49, 22: 50, 22: 51, 22: 52, 22: 53, 22: 54, 22: 55, 22: 56, 22: 57, 22: 58, 22: 59, 22: 60, 22: 61, 22: 62, 22: 63, 22: 64, 22: 65, 22: 66, 22: 67, 22: 68, 22: 69, 22: 70, 22: 71, 22: 72, 22: 73, 22: 74, 22: 75, 22: 76, 22: 77, 22: 78, 22: 79, 22: 80, 22: 81, 22: 82, 22: 83, 22: 84, 22: 85, 22: 86, 22: 87, 22: 88, 22: 89, 22: 90, 22: 91, 22: 92, 22: 93, 22: 94, 22: 95, 22: 96, 22: 97, 22: 98, 22: 99, 22: 100, 22: 101, 22: 102, 22: 103, 22: 104, 22: 105, 22: 106, 22: 107, 22: 108, 22: 109, 22: 110, 22: 111, 22: 112, 22: 113, 22: 114, 22: 115, 22: 116, 22: 117, 22: 118, 22: 119, 22: 120, 22: 121, 22: 122, 22: 123, 22: 124, 22: 125, 22: 126, 22: 127, 22: 128, 22: 129, 22: 130, 22: 131, 22: 132, 22: 133, 22: 134, 22: 135, 22: 136, 22: 137, 22: 138, 22: 139, 22: 140, 22: 141, 22: 142, 22: 143, 22: 144, 22: 145, 22: 146, 22: 147, 22: 148, 22: 149, 22: 150, 22: 151, 22: 152, 22: 153, 22: 154, 22: 155, 22: 156, 22: 157, 22: 158, 22: 159, 22: 160, 22: 161, 22: 162, 22: 163, 22: 164, 22: 165, 22: 166, 22: 167, 22: 168, 22: 169, 22: 170, 22: 171, 22: 172, 22: 173, 22: 174, 22: 175, 22: 176, 22: 177, 22: 178, 22: 179, 22: 180, 22: 181, 22: 182, 22: 183, 22: 184, 22: 185, 22: 186, 22: 187, 22: 188, 22: 189, 22: 190, 22: 191, 22: 192, 22: 193, 22: 194, 22: 195, 22: 196, 22: 197, 22: 198, 22: 199, 22: 200, 22: 201, 22: 202, 22: 203, 22: 204, 22: 205, 22: 206, 22: 207, 22: 208, 22: 209, 22: 210, 22: 211, 22: 212, 22: 213, 22: 214, 22: 215, 22: 216, 22: 217, 22: 218, 22: 219, 22: 220, 22: 221, 22: 222, 22: 223, 22: 224, 22: 225, 22: 226, 22: 227, 22: 228, 22: 229, 22: 230, 22: 231, 22: 232, 22: 233, 22: 234, 22: 235, 22: 236, 22: 237, 22: 238, 22: 239, 22: 240, 22: 241, 22: 242, 22: 243, 22: 244, 22: 245, 22: 246, 22: 247, 22: 248, 22: 249, 22: 250, 22: 251, 22: 252, 22: 253, 22: 254, 22: 255, 22: 256, 22: 257, 22: 258, 22: 259, 22: 260, 22: 261, 22: 262, 22: 263, 22: 264, 22: 265, 22: 266, 22: 267, 22: 268, 22: 269, 22: 270, 22: 271, 22: 272, 22: 273, 22: 274, 22: 275, 22: 276, 22: 277, 22: 278, 22: 279, 22: 280, 22: 281, 22: 282, 22: 283, 22: 284, 22: 285, 22: 286, 22: 287, 22: 288, 22: 289, 22: 290, 22: 291, 22: 292, 22: 293, 22: 294, 22: 295, 22: 296, 22: 297, 22: 298, 22: 299, 22: 300, 22: 301, 22: 302, 22: 303, 22: 304, 22: 305, 22: 306, 22: 307, 22: 308, 22: 309, 22: 310, 22: 311, 22: 312, 22: 313, 22: 314, 22: 315, 22: 316, 22: 317, 22: 318, 22: 319, 22: 320, 22: 321, 22: 322, 22: 323, 22: 324, 22: 325, 22: 326, 22: 327, 22: 328, 22: 329, 22: 330, 22: 331, 22: 332, 22: 333, 22: 334, 22: 335, 22: 336, 22: 337, 22: 338, 22: 339, 22: 340, 22: 341, 22: 342, 22: 343, 22: 344, 22: 345, 22: 346, 22: 347, 22: 348, 22: 349, 22: 350, 22: 351, 22: 352, 22: 353, 22: 354, 22: 355, 22: 356, 22: 357, 22: 358, 22: 359, 22: 360, 22: 361, 22: 362, 22: 363, 22: 364, 22: 365, 22: 366, 22: 367, 22: 368, 22: 369, 22: 370, 22: 371, 22: 372, 22: 373, 22: 374, 22: 375, 22: 376, 22: 377, 22: 378, 22: 379, 22: 380, 22: 381, 22: 382, 22: 383, 22: 384, 22: 385, 22: 386, 22: 387, 22: 388, 22: 389, 22: 390, 22: 391, 22: 392, 22: 393, 22: 394, 22: 395, 22: 396, 22: 397, 22: 398, 22: 399, 22: 400, 22: 401, 22: 402, 22: 403, 22: 404, 22: 405, 22: 406, 22: 407, 22: 408, 22: 409, 22: 410, 22: 411, 22: 412, 22: 413, 22: 414, 22: 415, 22: 416, 22: 417, 22: 418, 22: 419, 22: 420, 22: 421, 22: 422, 22: 423, 22: 424, 22: 425, 22: 426, 22: 427, 22: 428, 22: 429, 22: 430, 22: 431, 22: 432, 22: 433, 22: 434, 22: 435, 22: 436, 22: 437, 22: 438, 22: 439, 22: 440, 22: 441, 22: 442, 22: 443, 22: 444, 22: 445, 22: 446, 22: 447, 22: 448, 22: 449, 22: 450, 22: 451, 22: 452, 22: 453, 22: 454, 22: 455, 22: 456, 22: 457, 22: 458, 22: 459, 22: 460, 22: 461, 22: 462, 22: 463, 22: 464, 22: 465, 22: 466, 22: 467, 22: 468, 22: 469, 22: 470, 22: 471, 22: 472, 22: 473, 22: 474, 22: 475, 22: 476, 22: 477, 22: 478, 22: 479, 22: 480, 22: 481, 22: 482, 22: 483, 22: 484, 22: 485, 22: 486, 22: 487, 22: 488, 22: 489, 22: 490, 22: 491, 22: 492, 22: 493, 22: 494, 22: 495, 22: 496, 22: 497, 22: 498, 22: 499, 22: 500, 22: 501, 22: 502, 22: 503, 22: 504, 22: 505, 22: 506, 22: 507, 22: 508, 22: 509, 22: 510, 22: 511, 22: 512, 22: 513, 22: 514, 22: 515, 22: 516, 22: 517, 22: 518, 22: 519, 22: 520, 22: 521, 22: 522, 22: 523, 22: 524, 22: 525, 22: 526, 22: 527, 22: 528, 22: 529, 22: 530, 22: 531, 22: 532, 22: 533, 22: 534, 22: 535, 22: 536, 22: 537, 22: 538, 22: 539, 22: 540, 22: 541, 22: 542, 22: 543, 22: 544, 22: 545, 22: 546, 22: 547, 22: 548, 22: 549, 22: 550, 22: 551, 22: 552, 22: 553, 22: 554, 22: 555, 22: 556, 22: 557, 22: 558, 22: 559, 22: 560, 22: 561, 22: 562, 22: 563, 22: 564, 22: 565, 22: 566, 22: 567, 22: 568, 22: 569, 22: 570, 22: 571, 22: 572, 22: 573, 22: 574, 22: 575, 22: 576, 22: 577, 22: 578, 22: 579, 22: 580, 22: 581, 22: 582, 22: 583, 22: 584, 22: 585, 22: 586, 22: 587, 22: 588, 22: 589, 22: 590, 22: 591, 22: 592, 22: 593, 22: 594, 22: 595, 22: 596, 22: 597, 22: 598, 22: 599, 22: 600, 22: 601, 22: 602, 22: 603, 22: 604, 22: 605, 22: 606, 22: 607, 22: 608, 22: 609, 22: 610, 22: 611, 22: 612, 22: 613, 22: 614, 22: 615, 22: 616, 22: 617, 22: 618, 22: 619, 22: 620, 22: 621, 22: 622, 22: 623, 22: 624, 22: 625, 22: 626, 22: 627, 22: 628, 22: 629, 22: 630, 22: 631, 22: 632, 22: 633, 22: 634, 22: 635, 22: 636, 22: 637, 22: 638, 22: 639, 22: 640, 22: 641, 22: 642, 22: 643, 22: 644, 22: 645, 22: 646, 22: 647, 22: 648, 22: 649, 22: 650, 22: 651, 22: 652, 22: 653, 22: 654, 22: 655, 22: 656, 22: 657, 22: 658, 22: 659, 22: 660, 22: 661, 22: 662, 22: 663, 22: 664, 22: 665, 22: 666, 22: 667, 22: 668, 22: 669, 22: 670, 22: 671, 22: 672, 22: 673, 22: 674, 22: 675, 22: 676, 22: 677, 22: 678, 22: 679, 22: 680, 22: 681, 22: 682, 22: 683, 22: 684, 22: 685, 22: 686, 22: 687, 22: 688, 22: 689, 22: 690, 22: 691, 22: 692, 22: 693, 22: 694, 22: 695, 22: 696, 22: 697, 22: 698, 22: 699, 22: 700, 22: 701, 22: 702, 22: 703, 22: 704, 22: 705, 22: 706, 22: 707, 22: 708, 22: 709, 22: 710, 22: 711, 22: 712, 22: 713, 22: 714, 22: 715, 22: 716, 22: 717, 22: 718, 22: 719, 22: 720, 22: 721, 22: 722, 22: 723, 22: 724, 22: 725, 22: 726, 22: 727, 22: 728, 22: 729, 22: 730, 22: 731, 22: 732, 22: 733, 22: 734, 22: 735, 22: 736, 22: 737, 22: 738, 22: 739, 22: 740, 22: 741, 22: 742, 22: 743, 22: 744, 22: 745, 22: 746, 22: 747, 22: 748, 22: 749, 22: 750, 22: 751, 22: 752, 22: 753, 22: 754, 22: 755, 22: 756, 22: 757, 22: 758, 22: 759, 22: 760, 22: 761, 22: 762, 22: 763, 22: 764, 22: 765, 22: 766, 22: 767, 22: 768, 22: 769, 22: 770, 22: 771, 22: 772, 22: 773, 22: 774, 22: 775, 22: 776, 22: 777, 22: 778, 22: 779, 22: 780, 22: 781, 22: 782, 22: 783, 22: 784, 22: 785, 22: 786, 22: 787, 22: 788, 22: 789, 22: 790, 22: 791, 22: 792, 22: 793, 22: 794, 22: 795, 22: 796, 22: 797, 22: 798, 22: 799, 22: 800, 22: 801, 22: 802, 22: 803, 22: 804, 22: 805, 22: 806, 22: 807, 22: 808, 22: 809, 22: 810, 22: 811, 22: 812, 22: 813, 22: 814, 22: 815, 22: 816, 22: 817, 22: 818, 22: 819, 22: 820, 22: 821, 22: 822, 22: 823, 22: 824, 22: 825, 22: 826, 22: 827, 22: 828, 22: 829, 22: 830, 22: 831, 22: 832, 22: 833, 22: 834, 22: 835, 22: 836, 22: 837, 22: 838, 22: 839, 22: 840, 22: 841, 22: 842, 22: 843, 22: 844, 22: 845, 22: 846, 22: 847, 22: 848, 22: 849, 22: 850, 22: 851, 22: 852, 22: 853, 22: 854, 22: 855, 22: 856, 22: 857, 22: 858, 22: 859, 22: 860, 22: 861, 22: 862, 22: 863, 22: 864, 22: 865, 22: 866, 22: 867, 22: 868, 22: 869, 22: 870, 22: 871, 22: 872, 22: 873, 22: 874, 22: 875, 22: 876, 22: 877, 22: 878, 22: 879, 22: 880, 22: 881, 22: 882, 22: 883, 22: 884, 22: 885, 22: 886, 22: 887, 22: 888, 22: 889, 22: 890, 22: 891, 22: 892, 22: 893, 22: 894, 22: 895, 22: 896, 22: 897, 22: 898, 22: 899, 22: 900, 22: 901, 22: 902, 22: 903, 22: 904, 22: 905, 22: 906, 22: 907, 22: 908, 22: 909, 22: 910, 22: 911, 22: 912, 22: 913, 22: 914, 22: 915, 22: 916, 22: 917, 22: 918, 22: 919, 22: 920, 22: 921, 22: 922, 22: 923, 22: 924, 22: 925, 22: 926, 22: 927, 22: 928, 22: 929, 22: 930, 22: 931, 22: 932, 22: 933, 22: 934, 22: 935, 22: 936, 22: 937, 22: 938, 22: 939, 22: 940, 22: 941, 22: 942, 22: 943, 22: 944, 22: 945, 22: 946, 22: 947, 22: 948, 22: 949, 22: 950, 22: 951, 22: 952, 22: 953, 22: 954, 22: 955, 22: 956, 22: 957, 22: 958, 22: 959, 22: 960, 22: 961, 22: 962, 22: 963, 22: 964, 22: 965, 22: 966, 22: 967, 22: 968, 22: 969, 22: 970, 22: 971, 22: 972, 22: 973, 22: 974, 22: 975, 22: 976, 22: 977, 22: 978, 22: 979, 22: 980, 22: 981, 22: 982, 22: 983, 22: 984, 22: 985, 22: 986, 22: 987, 22: 988, 22: 989, 22: 990, 22: 991, 22: 992, 22: 993, 22: 994, 22: 995, 22: 996, 22: 997, 22: 998, 22: 999, 22: 1000, 22: 1001, 22: 1002, 22: 1003, 22: 1004, 22: 1005, 22: 1006, 22: 1007, 22: 1008, 22: 1009, 22: 1010, 22: 1011, 22: 1012, 22: 1013, 22: 1014, 22: 1015, 22: 1016, 22: 1017, 22: 1018, 22: 1019, 22: 1020, 22: 1021, 22: 1022, 22: 1023, 22: 1024, 22: 1025, 22: 1026, 22: 1027, 22: 1028, 22: 1029, 22: 1030, 22: 1031, 22: 1032, 22: 1033, 22: 1034, 22: 1035, 22: 1036, 22: 1037, 22: 1038, 22: 1039, 22: 1040, 22: 1041, 22: 1042, 22: 1043, 22: 1044, 22: 1045, 22: 1046, 22: 1047, 22: 1048, 22: 1049, 22: 1050, 22: 1051, 22: 1052, 22: 1053, 22: 1054, 22: 1055, 22: 1056, 22: 1057, 22: 1058, 22: 1059, 22: 1060, 22: 1061, 22: 1062, 22: 1063, 22: 1064, 22: 1065, 22: 1066, 22: 1067, 22: 1068, 22: 1069, 22: 1070, 22: 1071, 22: 1072, 22: 1073, 22: 1074, 22: 1075, 22: 1076, 22: 1077, 22: 1078, 22: 1079, 22: 1080, 22: 1081, 22: 1082, 22: 1083, 22: 1084, 22: 1085, 22: 1086, 22: 1087, 22: 1088, 22: 1089, 22: 1090, 22: 1091, 22: 1092, 22: 1093, 22: 1094, 22: 1095, 22: 1096, 22: 1097, 22: 1098, 22: 1099, 22: 1100, 22: 1101, 22: 1102, 22: 1103, 22: 1104, 22: 1105, 22: 1106, 22: 1107, 22: 1108, 22: 1109, 22: 1110, 22: 1111, 22: 1112, 22: 1113, 22: 1114, 22: 1115, 22: 1116, 22: 1117, 22: 1118, 22: 1119, 22: 1120, 22: 1121, 22: 1122, 22: 1123, 22: 1124, 22: 1125, 22: 1126, 22: 1127, 22: 1128, 22: 1129, 22: 1130, 22: 1131, 22: 1132, 22: 1133, 22: 1134, 22: 1135, 22: 1136, 22: 1137, 22: 1138, 22: 1139, 22: 1140, 22: 1141, 22: 1142, 22: 1143, 22: 1144, 22: 1145, 22: 1146, 22: 1147, 22: 1148, 22: 1149, 22: 1150, 22: 1151, 22: 1152, 22: 1153, 22: 1154, 22: 1155, 22: 1156, 22: 1157, 22: 1158, 22: 1159, 22: 1160, 22: 1161, 22: 11		

いずれにおいても永遠のものである。すなわち、彼らに確信を与えて平安と永遠の命を得させるか、それとも彼らが心をかたくなにし、思いをくらませるに任せて、彼らを束縛された状態に陥らせ、悪魔の束縛、これについては前に話したことがあるが、この束縛にあって、肉体的にも靈的にも滅びに至らせるか、そのいすれかである。』

8 そこで天使は、これらの言葉を語つてからわたしに向かい、「御父がイスラエルの家と交わされた聖約を覚えているか」と言つたので、わたしは天使に、「はい」と答えた。

9 そこで天使はわたしに言つた。「見なさい。忌まわしい行いの母であり、悪魔を創設者とする大きい忌まわしい教会を見なさい。』

10 天使はわたしに言つた。「見よ、教会は二つしかない。一つは神の小羊の教会であり、もう一つは悪魔の教会である。したがつて、神の小羊の教会に属していない者はだれでも、忌まわしい行いの母であるの大好きな教会に属する者である。彼女は全地の淫婦である。』

11 そこでわたしがあの全地の淫婦眺めてみる

12 そして、神の小羊の教会が見えたが、この教会に属している者の数は、多くの水の上に座を占めている、あの淫婦の悪事と忌まわしい行いのために少なかつた。それでも、神の聖徒である小羊の教会の人々もまた、地の全面にいるのが見えた。しかし、地の面における彼らの占める場所は、わたしの見た大淫婦の悪事のために小さかつた。

13 そして、あの忌まわしい行いの大いなる母が、神の小羊と戦うために、異邦人のすべての国民の中にあって、全地の面に大勢の人を寄せ集めるのが見えた。

14 そしてわたしニーファイは、神の小羊の力が、小羊の教会の聖徒たち、また地の全面に散つている主の聖約の民のうえに下るのを見た。彼らは義と神の力をもつて、大いなる栄光のうちに武装してゐた。

15 そしてわたしは、神の激しい怒りがある大きな忌まわしい教会のうえに注がれ、そのため、地

15	14	13	12	11	10	9	8	7
①教義38 教義1 13 38 14	①教義12 教義13 12 3 14	①教義24 教義23 13 5 8	①教義26 教義26 14 14 15	①教義35 エレ51 17 15 13 11	②教義22 エレ26 17 15 13 11	③教義35 アル12 エレ51 17 15 13 11	GS「アーラムの契約」 GS「アーラムの契約」 アル12 エレ51 17 15 13 11	GS「永遠の命」 アル12 エレ51 17 15 13 11
15	14	13	12	11	10	9	8	7
15	14	13	12	11	10	9	8	7
15	14	13	12	11	10	9	8	7

のすべての国民と部族の中^{(2)くみんぶぞくなか}で戦争と戦争のうわさがあるのを見た。

そして、あの忌まわしい行いの母は、隠してゐるすべての国民の中で戦争が始まり、戦争のうわさが出来始めたときに、天使がわたしに言つた。「見よ、神の激しい怒りは娼婦たちの母に下る。そして見よ、あなたにはこれらのことすべてが見える。」娼婦たちの母、すなわち悪魔が創設者である全

地の大きな忌まわしい教会に、神の激しい怒りが注がれる日が来ると、その日、御父の業が始まり、御父は、イスラエルの家に属する御自分の民と交わされた聖約を果たすための道を備えられる。」
そこで、天使はわたしに語つて、「見なさい」と言つた。

19 眺めると、白い衣を着ている一人の男の人が見えた。

すると天使はわたしに言った。「小羊の十二使徒の一人を見なさい。」
21見よ、彼は、これらのことの残りの部分と、また今までにあつた多くのことを見て書き記す。

21 見よ、彼は、これらのことの残りの部分と、今までにあつた多くのことを見書き記す。また、世の終わりについても書き記す。

み 23 彼が書き記すことは正しく眞実である。そして
見よ、それらのことは、あなたがユダヤ人の口か

ら出だのを見みた書物しょもつの中なかで書き記かきじされる。そして、それらがユダヤ人の口くちから出て来た當時とうじ、すなわちその書物しょもつがユダヤ人の口くちから出て来た當時とうじは、書き記かきじされたことは分かりやすく純粹じんすいであり、また大変たいへん貴くて、すべての人に理解りやくせんしやすい

ものであつた。
こひつじ
①し
と
か
しる
お
お

見よ、この小羊の使徒の書き記すことの多くを、あなたは見た。そして見よ、これからあなたはその残りの部分を見るであろう。
しかし、これからあなたが見ることは書き留め

てはならない。主なる神が、それらのことを書き記すように、あの神の小羊の使徒を任じられたか

26 神はまた、かつてこの世に生きたほかの人々に
らである。

も、すべてのことを示され、彼らはそれらのこと書き記した。そしてそれらの記録は、主御自身がふさわしいと思われるときに、小羊の内にある真理によつて純粹なままでイスラエルの家に伝わ

るよう^に、今は封じられて^{いる。}」

27 わたしニーファイは、天使の言葉により、この小羊の使徒の名がヨハネであることを聞き、ここに証する。

28 そして見よ、わたしニーファイは、見聞きしたことの残りの部分書き記すことを禁じられているので、今まで書き記したことで満足するが、これまで書き記したことは、わたしが見たことの一部分にすぎない。

29 わたしは父の見たことを見、そして主の天使がそれを証する。

30 わたしは、御靈に連れ去られたときに見たことについての話を、これで終わりにする。わたしの見たことがたとえすべて書き記されていなくても、今まで書き記したことは真実である。まことにそのとおりである。アーメン。

第 15 章
リーハイの子孫は、末日に異邦人から福音を受ける。イスラエルの集合は、オリーブの木に元の自然の枝が接ぎ戻されることにたとえられる。ニーファイ、命の木の

示現を解き明かし、また義人と悪人を分ける神の正義について語る。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1さて、わたしニーファイは、御靈に連れ去られて以上のことをすべて見てから、父の天幕に帰つて来た。

2そこで兄たちに会うと、彼らは以前に父が話したことについて言い争つていた。
3父はまことに偉大なことを多く兄たちに語つたが、それは主に尋ねないかぎり理解しにくいことであつた。兄たちは、心がかたくなであつたので、当然なすべきことではあつたが、主を仰ぎ見るこことをしなかつた。

4そこでわたしニーファイは、兄たちの心がかたくなであつたために、また今までいろいろなことを見てきたため悲しく思った。わたしは、人の子らの犯す大きな惡事のために、それらのことが間違なく起ることを知つたのである。

5そしてわたしは、わたしの民が倒れるのを見たので、彼らの滅亡のために自分の悩みが何にも増して大きく思われて、その悩みのために圧倒され

てしまつた。

6 そしてその後、わたしは力を取り戻すと、言い争いの訳を知りたいと思ふ、兄たちに尋ねた。
7 すると兄たちは、「見よ、父がオリーブの木の元の自然の枝と異邦人について語つたが、その意味が分からぬ」と答えた。

8 それでわたしは彼らに、「あなたがたは主に尋ねたのですか」と言つた。
9 すると彼らは、「主に尋ねてはいない。主はこんなことを我々に明らかにしてくださらないからだ」と答えた。

10 見よ、わたしは彼らに言つた。「どうしてあなたがたは、主の戒めを守らうとしないのですか。なぜ心をかたくなにして滅びを招こうとするのですか。主が言われたことを覚えていないのでですか。主

11 は、「もしあなたがたが心をかたくなにせず、わたしの戒めを熱心に守りながら、答えを与えられると信じて信仰をもつてわたしに求めれば、これらのことばは必ずあなたがたに明らかにされる」と言いました。

12 まことに、わたしはあなたがたに言います。父

は、自分に宿つた主の御靈によつて、イスラエルの家をオリーブの木にたとえました。まことに、わたしたちは、イスラエルの家から折り取られたものではありませんか。イスラエルの家の一枝ではありますませんか。

13 ところでわたしたちの父は、異邦人が満ちみちる恵みにあずかることによつて語りましたが、それは、メシヤが人の子らに肉体をもつて御姿を現された後に、わたしたちの子孫がまことに長い間、しかも多くの世代にわたつて不信仰に陥るようになつた末日において、メシヤの完全な福音が異邦人に与えられ、次いで異邦人からわたしたちの子孫の残りの者に伝えられるようになるということです。

14 その日、わたしたちの子孫の残りの者は、自分たちがイスラエルの家に属する主の聖約の民であることを知るでしょう。それから彼らは、自分たちの先祖のことを知つて理解するようになり、また彼らの贖い主によつて先祖に伝えられた贖い主の福音も理解するようになるでしょう。このようにして、彼らは贖い主とその教義の詳しい点について

14	13	12	11 10	8
① GS 教義 22 ④ ③ 二 1 GS 「福音」	2 ② ① 1 GS 「メシヤ」	1 ① GS 「創世記」	エノ 1 15	ジモセ 1 10
「異邦人」	二 1 二 2 二 22	1 二 2 12 22	モサ 7 15	歴史 1 13
3 二 5 10 26	1 二 5 13 42	10 49 22	40 3 26	背教 13 20
3 二 5 10 26	1 二 5 13 42	12 14 26	新ヤコブ 1 5 6	48
モル 7 1 9 10	モル 2 2 3 12	モル 7 15	アル 40 3	
教義 3 16 20	モル 5 2 3 12	モル 7 15		
モルモン書のタイト	モルモン書のタイト	モルモン書のタイト	モルモン書のタイト	モルモン書のタイト

理解するようになり、どうすれば贅い主のみもと

に帰つて救いを得られるかを知るのです。

彼らは自分たちの岩であり教いてある
永遠の神を喜び、賛美せずにいられるでしようか。
まことにその日、まことのぶどうの木から力
と養いを受けないでいられるでしようか。まこと
に、神のまことの羊の群れに入らないでいられるで
しょうか。

まことに、わたしはあなたがたに言います。そ

うです。彼らはイスラエルの家のなかで再び覚えらえられ、またオリーブの木の元の自然の枝であるので、まことのオリーブの木に接ぎ戻されるのです。

18 それで父は、末日に成就する聖約について触れながら、わたしたちの子孫のことだけでなく、イ

スラエルの家に属するすべての者についても語ったのです。その聖約とは、主がわたしたちの先祖アブラハムに立てられたもので、主は、「あなたの子孫により、地のすべての部族は祝福を受けるであろ

「う」と言われました。

さて、わたしニーファイは、これらのことについて兄弟たちにたくさんのこと話を語つた。まことに、わたしは末日におけるユダヤ人の回復について、彼らに語つたのであつた。

く述べた。イザヤはユダヤ人、すなわちイスラエルの家の回復について語り、また、彼らが回復されてからはもう乱されることもなければ、再び散らされることもない、と語っている。そして、わたしが兄たちに多くの言葉を述べたので、兄たちは心が和らいで主の前にへりくだつた。

21 そして、兄たちは再びわたしに、「父が夢の中で見たことは何を意味するのか。父の見た木は何を意味するのか」と言つた。

22 それでわたしは、「その木は命の木を表すもので
す」と言つた。

23 すると兄たちは、「あの木の所に通じている、父ちゃんが見た鉄の棒は何を意味するのか」と言つた。

24わたしは兄たちに、それは神の言葉であつて、だれでも神の言葉に聞き従つて、それにしつかりもののかみことばきしがつたがつて、それにつかりつかまる者は、決して滅びることがなく、また敵たいする者の誘惑や火の矢も、彼らを打ち破つて盲もくちとし、滅びに至らせることがないと言つた。

27わたしは、父の見た水は汚れであるが、父は、水の汚れは見えなかつたと言つた。

28 またわたしは、それは悪人あくにんを命の木や神の聖徒せいとから隔てている恐ろしい淵おもであると彼らに言つた。
29 そして、それは悪人のために用意よういつされていると
天使てんしが語かたったあの恐ろしい地獄じごくを表あらわしていると、

わたしは彼らに言った。

30 また、神の正義も悪人を義人から隔てており、
それを父も見たと、わたしは彼らに言つた。その輝
きは、とこしえにいつまでも神に向かつて立ち上

31 するどんにあにたちはわたしに言つた。「今まで言つたこと
は、この試しの生涯で肉体が受ける苦痛を指すの
か、または肉体が死んでから後の、靈の最後の状

32 そこでわたしは、それは現世のことにも靈的なことにもかかわることを表していと、言つた。それは、兄たちが自分のなした行い、すなわち、試しの生涯において肉体をもつてなした行いによつて裁かれなければならぬ日が、必ず来るからである。

33 したがつて、もし彼らが邪悪なままで死ぬならば、彼らは義にかかる靈的なことからも捨てられなければならない。したがつて、彼らは自分を行ひについて裁きを受けるために、神の前に引き出されなければならない。そして、もし彼らの行いが汚れているならば、彼らは必ず汚れているに違いない。もし彼らが汚れているならば、決して神の

王国に住むことはできない。もし彼らが住めるとしたら、神の王国もまた汚れているに違いない。
34「しかしことに、わたしはあなたがたに言います。神の王国は汚れてはいません。清くないものは、どのようなものでも神の王国に入ることができないのです。したがつて、汚れたもののためには、汚れたものの場所が必ず用意してあります。

35事実、用意された場所が一つあります。まことに、それはわたしが話したあの恐ろしい地獄で、それを用意したのは悪魔です。ですから、人の最後の状態は、神の王国に住むか、そうでなければ、わたしが話したあの正義によつて追い出されるかのどちらかです。

36したがつて、悪人は義人から拒まれ、また命の木からも拒まれます。その命の木の実は非常に貴く、ほかのあらゆる実よりも好ましいもので、またそれは、神のあらゆる賜物の中でも最も大きいものです。」わたしはこのように兄たちに語つた。アーメン。

ち、イシマエルの娘たちと結婚する。リアホナ、荒れ野での一行の進路を指し示す。主の御告げが時々リアホナに記される。イシマエル、死ぬ。イシマエルの子供たち、苦難のためにつぶやく。紀元前約六百年から五百九十二年に至る。

1さて、わたしニーフアイが兄たちに語り終えると、見よ、兄たちは、「おまえは我々が聞くに堪えないほど厳しいことを言つた」とわたしに言つた。

2そこでわたしは兄たちに、真理に従い、悪人にとつて厳しいことを言つたのはよく承知していると話した。わたしは義人を義とし、彼らが終わりの日に高く上げられるこれを証した。そのため、罪のある者は真理が胸の底まで刺し貫くので、真理を厳しいものと思うのである。

3「兄さんたち、もし兄さんたちが義にかなつていて、神の御前をまつすぐ歩めるように、進んで真理に聞き従い、それを心に留めるならば、その真理のためにつぶやいて、『おまえは我々に厳しいことを言つた』などとは言わないでしよう。」

第 16 章
悪人は真理を厳しいものと考える。リーハイの息子たた

3	2	2 ①	2 ②	2 ③	33
に GS ① ヒラ 13 ② エノ 1 23 ④ GS ③ 教義 1 35 ⑤ GS 「正義」	ニフ 33: 5, 20	モサ 13: 7	モサ 2 GS 「汚れ」	モサ 2 GS 「地獄」	アル 3 4 詩篇 15 篇、
「歩む ⑤ 24 ⑥ 21, 26	モサ 13: 7	モサ 13: 7	モサ 2 GS 「汚れ」	モサ 2 GS 「地獄」	アル 3 4 詩篇 15 篇、
（神とともに）	9	10	9	14 27	モサ 2 GS 「汚れ」
	40		12	19	モサ 2 GS 「地獄」

めを守るように力の限り勧めた。

そこで、兄たちが主の前にへりくだつたので、わたしは兄たちが義の道を歩むようになることを喜び、またそのことに大きな希望を抱いた。

6さて、以上のことはすべて、父がレムエルと名付けた谷で天幕に住んでいたときに語られ、またおこなわれたことである。

「さて、わたしニーファイは、イシマエルの娘のひとりを妻にめとり、兄たちもまた、イシマエルの娘たちを妻にめとつた。そしてゾーラムも、イシマエルの長女を妻にめとつた。

8 このようにして 父は主から受けた戒めをことごとく果たし、またわたしこ二つアイも、主から非常に豊かな祝福を受けた。

さて、夜に、主の声が父に語りかけ、翌日に荒れ野へ旅立つように命じられた。

を指していた。

11 そこでわたしたちは、荒れ野へ持つて行くべき
一切のものと、主が与えてくださつた食糧の残り
をことごとく集めた。また、荒れ野へ持つて行くた
めあらゆる種を携えた。
てんまく も
がわ

12 渡つて荒れ野へ出發した。
そしてわたしたちは天幕を持ち、レーマン川を
13 そして、わたしたちは四日間、ほぼ南東の方
角へ旅路を進み、再び天幕を張つてその地をシェ
ザーと名付けた。

14 そこでわだしたちは、弓矢を携え、家族の食糧にする獲物をとりに荒れ野へ出かけて行つた。そして獲物をとると、荒れ野の家族のもとに、すなはちシエザーに帰つて來た。そして、また前と同じ方角に、①紅海に近い境の地の荒れ野の中で、最も肥沃な所をたどりながら進んで行つた。

15 そしてわたしたちは、道々、弓矢や石、石投げで食糧にする獲物をとりながら幾日もの間旅をした。

16 そして、その球の指す方向へ進んで行つたが、

所へ導いて行つた。

17 わたしたちは、いくにちある間旅をしてからしばらく天幕を張り、体を休めて、家族の食糧にする獲物をとることにした。

18 そして、わたしニーファイは食糧にする獲物をとるために出て行つたが、見よ、純良な鋼でできているわたしの弓を折つてしまつた。それで、弓を折つてからは、食糧を得ることができなかつたので、見よ、兄たちは弓を使えなくしたことでわたくしに大いに腹を立てた。

19 そこでわたしたちは、食糧がないままに家族のもとに帰つたが、家族の者は旅のためにひどく疲れいでいたので、食糧がないことで非常に苦しんだ。

20 そして、レーマンとレムエルとイシマエルの息子たちは、荒れ野での苦しみと苦難のためにひどくつぶやき始め、また父も主なる神に対してつぶやき始めた。彼らは皆、非常に嘆き悲しみ、主に対してつぶやいたのであつた。

21 さて、わたしニーファイは、自分の弓を使えなくしたために兄たちから苦しめられたが、兄たちの弓も弾力がなくなつたので事態はさらに深刻にな

り、まことにわたしたちは、食糧をまったく得ることができなかつた。

22 そして兄たちが、主なる神に對して不平を言うほどまた、心をかたくなにしたので、わたしニーフアイは兄たちにたくさんのこと話を語つた。

23 さて、わたしニーファイは木で一つの弓を作り、まっすぐな枝で一本の矢を作つた。それでわたしは、弓と矢、石投げと石で身を固め、「食糧を得るのにどこへ行つたらよいですか」と父に尋ねた。

24 そこで父は主に尋ねた。わたしが精力を込めて、彼らにたくさんのこと話を語つたので、わたしが語つた言葉で父も家族もすでにへりくだつていたからである。

25 さて、主の声が父に聞こえて、主に對してつぶやいたことでひどく懲らしめられたので、父は深い悲しみに沈んだ。

26 そこで、主の声が父に、「球を見て、記してあることをよく心に留めなさい」と言われた。

27 そこで父は、球の上に記してあることを見て非常に恐れおののき、また兄たちもイシマエルの息子たちも、わたしたちの妻も同様に恐れおののい

た。

28 そこで、わたしニーファイが球の中にある指針を見ると、それらは、わたしたちがそれに寄せる信仰と熱意と注意力に応じて働いた。

29 また、それらの指針の上には新しい言葉が記されていて、それは読みやすく、主の道についてわたくしに理解を与えてくれるものであつた。そしてその言葉は、わたしたちが寄せる信仰と熱意に応じて、時々書き替えられた。このようにして、主は小さな手段によつて大きなことを成し遂げられることが分かるのである。

30 さて、わたしニーファイは球の上に現れた指示に従つて、山の頂まで登つて行つた。
31 そして、野の獸を何頭もとつたので、家族のための食糧が手に入った。

32 そこでわたしは、とつた獸を運んで天幕に帰つた。すると、わたしが食糧を手に入れたのを見た。ときの家族の喜びようは、大いなものであつた。それで彼らは、主の前にへりくだり、主に感謝した。
33 さて、わたしたちは再び旅路に就き、初めとほぼ同じ道筋を進んで行つた。そして、幾日もの間

旅をした後、しばらくとどまるためにまた天幕を張つた。

34 そして、イシマエルが死んで、ネホムという所に葬られた。

35 さて、イシマエルの娘たちは、父を亡くしたため、また荒れ野の中の苦難のために非常に嘆き悲しんだ。そして彼女たちは、自分たちをエルサレムの地から連れ出したのはわたしの父であつたことから、父に向かつてこうつぶやいた。「父は死んでしまいました。わたしたちは長い間荒れ野をさまよい、多くの苦難に遭い、飢えと渴きと疲労に苦しんできました。このような苦しみに遭つた末に、結局荒れ野の中で飢えて滅びてしまふに違いないのです。」

36 イシマエルの娘たちはこのように、父とわたしに対してつぶやき、エルサレムに帰ることを望んだ。
37 レーマンは、レムエルとイシマエルの息子たちに言つた。「さあ、父と第二ニーファイを殺してしまおうではないか。ニーファイは兄である我々の支配者となり、我々を教える者になつてはいる。

29	28
② ① GS ①	「アル」 「信解」 列下 5, 13,
新ヤコ 3, 4,	アル 37: 40,
アル 37: 6, 7,	教義 123: 7, 41,
1 ニフ 7: 2	1 ニフ 7: 2
1 ニフ 17: 44,	16: 6, 7,
創世 37: 9—11,	18: 11,
ニフ 22: 1—11,	10

38 彼は主が自分に語られたと言い、また天使たちが仕てくれたとも言つてゐる。しかし見よ、我々には、彼が偽りを言つてることが分かつてゐる。彼はそのようなことを言いながら、策略をもつて多くのことをなし、我々の目をくらまし、恐らくどこか見知らぬ荒れ野に我々を誘い込めると思つてゐるのだろう。そして我々を誘い込んでしまつたら、彼は我々の王となり、支配者となつて、意のまま、思いのままに振る舞おうと思つてゐるのだ。」兄のレーマンは、このようにして彼らの心をあおり立てて怒らせた。

39さて、主はわたしたちとともにおられ、まことに主の声が聞こえて彼らに多くの御言葉を語り、彼らをひどく懲らしめられた。彼らは主の声によつて懲らしめを受けると、怒りを静め、罪を悔い改めた。そして、主が再び食糧を与えて祝福されたので、わたしたちは滅びずに済んだ。

1さて、わたしたちはまた荒れ野の中を旅し、このときからはほぼ東の方へ進んで行つた。わたしたちは旅をしながら、多くの苦難を乗り越えていつた。そして妻たちは荒れ野の中で子供を産んだ。

2そして、主の祝福が大変豊かであったので、妻たちは荒れ野で生肉を食べて暮らしていたのに、子供に乳を十分飲ませ、しかもまことに男のように強かつた。彼女たちはつぶやかずに旅に耐えるようになつた。

3このように、神の命令は必ず成し遂げなければならぬことが分かる。もし人の子らが神の戒めを守るならば、神は彼らを養い、強くし、また御自分が命じられたことを成し遂げる手段を与えたれる。それで神は、わたしたちが荒れ野にとどまつていたときにも、わたしたちに手段を与えられた。

38	39 ①	1 ニフ 3 · 30
2 ①	モサ 2 · 41	17 · 12
② GS 「靈らしめ」	アル 26 · 12	「従順、従う」
1 ニフ 3 · 7	3	31

4 そしてわたしたちは、長い間、まことに八年も
の間荒れ野の中などまつた。

5 そして、果実と野蜜が豊かであることからバウ
ンティフルと名付けた地に来た。これらのものは
すべて、わたしたちが滅びないように主が備えて
くださつたのであつた。わたしたちはここで海を
見て、イリアンタムと名付けた。それは多くの水
という意味である。

6 さて、わたしたちは海辺の近くに天幕を張つ
た。わたしたちはこれまで多くの苦難や困難に、
まことに書き尽くせないほど多くの苦難や困難に
遭つたが、海辺に着いて非常に喜びを感じ、そこ
は果実が豊かであることから、その地をバウンテ
ィフルと名付けたのであつた。

7 さて、わたしニーファイが、バウンティフルの
地で何日も日を過ごしたところで、主の声が聞こ
えて、わたしに、「立つて山へ行きなさい」と言わ
れた。そこでわたしは、立つて山へ行き、主に叫け
び求めた。

8 そこで主は、わたしに言われた。「わたしがこれ
から示す方法に従つて、一隻の船を造りなさい。
もと

この大海を越えて、わたしがあなたの民を連れて行
けるようにするためである。」

9 それではわたしは、「主よ、お示しくださった方法
に従つて船を作るための道具を造るには、どこへ
行つてあらがねを見つけたらよろしいでしょうか」
と言つた。

10 そこで主は、その道具を造れるように、あらが
ねの見つかる場所をわたしに教えてくださつた。

11 そこでわたしニーファイは、火を吹くためのふ
いごを獣の皮で作つた。そして火を吹くためのふ
いごを作つてから、二個の石を打ち合わせて火を
おこした。

12 荒れ野を旅するときに、主はこれまでわたした
ちに、あまり火をおこすことを許されなかつた。
主が、「わたしがあなたがたの食物の味を良くする
ので、煮炊きするには及ばない。

13 わたしはまた、荒れ野であなたがたの光となろ
う。あなたがたがわたしの命令を守るならば、わ
たしはあなたがたの前に道を備えよう。したがつ
て、あなたがたはわたしの命令を守るかぎり、約
束の地に導かれるであろう。そして、あなたがた

	13	12	8	6
③	ヤコ	②	①	①
出エ	コ2	1	ニ	ニ
	フ37	17	18	4
6	12	2	38	2
7				20
				39

を導いているのがわたしであることを知るであろう」と言わされたからである。

14 主はまた言われた。「あなたがたは約束の地に着いた後、主なるわたしが神であり、また主なるわたしがあなたがたを滅亡から救い出したこと、またあなたがたをエルサレムの地から連れ出したことを知るであろう。」

15 それでわたしニーファイは、主の命令を守るよう努め、また兄たちにも、忠実であり勤勉であるように勧めた。

16 さて、わたしは岩石から溶かし出したあらがねで道具を造つた。

17 兄たちは、わたしが船を造ろうとするのを見るにと、わたしのことをつけやいで言つた。「弟は愚か者だ。弟は船が造れると思つてゐるし、この大海を渡れると思つてゐる。」

18 このように、兄たちはわたしのことで不平を言ひ、働くくてもよいようにと思つてゐた。彼らは、わたしに船が造れることを信じようとせず、またわたしが主から指示を受けていたことも、信じようとしなかつたからである。

19 そこでわたしニーファイは、兄たちの心がかたくななためにひどく悲愴した。すると兄たちは、わたしが悲しみだしたのを見て心の中で喜び、わたしのことでうれしく思つたほどで、このように言つた。「おまえに船が造れないのは分かつていた。分別が足りないからだ。おまえには、そんな大仕事を成し遂げることはできない。」

20 おまえは、心に浮かぶつまらない空想に惑わされた父によく似ている。まことに、父は我々をエルサレムの地から連れ出し、我々は長年の間荒れ野をさまよつてきた。そして、我々の妻は身重の体で身を粉にして働き、荒れ野で子を産み、ただ死ななかつただけであらゆる苦しみに遭つた。妻たちちは、このような苦難に遭うくらいなら、エルサレムを出る前に死んだ方がましだった。

21 見よ、我々は、長年の間荒れ野で苦しんできたが、その間に自分たちの財産や受け継ぎの地を欲しいままにして、幸せに暮らせたかもしれない。我々は、エルサレムの地にいた民が義の民であつたことを知つてゐる。なぜなら、彼らはモーセの律法に従つて、主の掟と裁決と主のすべての戒め

に従つていたからだ。だから我々は、彼らが義の民であることを知つてゐる。ところが、父は彼らを裁いた。そして、我々が父の言葉に聞き従つたので、我々をエルサレムから連れ出した。弟は父によく似てゐる。兄たちはこのような言葉でつぶやき、父とわたしに対して不平を言つた。

23 そこで、わたしがニーファイは兄たちに言つた。「あなたがたは、イスラエルの子らであるわたしたちの先祖が主の御言葉に聞き従わなかつたとして、エジプト人の手から導き出されていましたと信じてゐるのですか。

24 まことに、あなたがたは、主がモーセに彼らを奴隸の状態から導き出すよう命じられなかつたとしても、先祖が奴隸の状態から導き出されたと思つてゐるのですか。

25 あなたがたは、イスラエルの子らが奴隸の状態になつていたことや、彼らが堪え難いほどの苦役を負つていたことを知つています。ですから、彼らが奴隸の状態から導き出されることが、彼らにとって良いことであつたに違いないことを、あなたがたは知つてゐるのです。

26 あなたがたは、モーセがあの大いなる業を行つてゐます。またモーセの言葉によつて、紅海の水が右と左に分かれ、イスラエルの子らが乾いた地を渡つたことも知つてゐます。

27 しかしながらあなたがたは、パロの軍勢であるエジプト人が、紅海でおぼれて死んでしまつたことも知つてゐます。

28 あなたがたはまた、イスラエルの子らが荒れ野において、マナで養われたことも知つてゐます。

29 またモーセが、自分の内にある神の力によつて言葉を発して岩を打つたところ、水がわき出し、これを飲んでイスラエルの子らが渴きをいやすことができたことも知つてゐます。

30 彼らの神であり贖い主である主は、彼らに先立つて進み、昼は彼らを導き、夜は彼らに光を与へ、人が受けて益になるあらゆることを彼らのためにしてくださいました。そのようにして導かれたにもかかわらず、彼らは心をかたくなにし、思いをくらまして、モーセとまことの生ける神をののしりました。

24	①	出工	3	2	1	2	二工	3	19	9	10
25	①	出工	2	1	2	二工	3	19	9	10	25
26	②	出工	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
27	②	出工	2	1	2	二工	3	19	9	10	25
28	①	出工	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
29	①	申出	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
30	①	申出	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
工	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
教	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
義	88	①	1	2	1	2	二工	3	19	9	10
民	88	①									

31 そこで神は、御自分の御言葉のとおりに彼らを減ぼし、御自分の御言葉のとおりに彼らを自分の御言葉のとおりに彼らを導き、御を行われました。神の御言葉によらないで行われた

ことは何もありません。
32 そして彼らがヨルダン川を渡ると、主は彼らを、その地に住む人々を追い散らして滅ぼすほどにまで強大にされました。

33 さて、この地の人々、すなわち、約束の地に住んでいてわたしたちの先祖に追い出された人々、あなたがたはその人々を義人だと思いますか。まことにわたしは、決してそうではなかつたと言います。

34 あなたがたは、彼らがもしも義人であつたなら、

わたしたちの先祖は彼らよりもさらにえり抜かれた者になつてゐますか。わたしはそうではな

かつたと言います。

35 まことに、主はすべての人を公平に重んじら

れ、義にかなつた者は神から恵みを受けます。し

かしまことに、この民は、神のすべての御言葉を
拒んで罪悪が熟しました。それで、神の満ちみち
た激しい怒りが彼らに下り、主は彼らに対しては

地をのろい、わたしたちの先祖のためにには地を福されました。すなわち、彼らに対しては、地をのろつて彼らを減びに至らせ、わたしたちの先祖のためには、地を祝福してその地を治める力を得させてくださいました。

36 まことに主は、人が住めるように大地を造り、それを所有できるように御自分の子供たちを造られました。

37 そして主は、義にかなつた一つの国民を起こして、邪惡な者たちから成る国民を滅ぼされます。

38 そして主は、義人を貴い地へ導き、また悪人を行ひがそうさせるのです。

39 天は主の御座であつて、地は主の足台ですから、主は高く天にあつて支配されます。

40 そして主は、主を神とする人々を愛されます。まことに、主はわたしたちの先祖を愛し、彼ら、すなわちアブラハム、イサク、ヤコブと聖約を交わされました。そして主は、御自分が交わした聖約を覚えておられます。それで、わたしたちの先祖をエジプトの地から導き出されたのです。

39	38	37	36		35	32	31
ア 教 義 2 38 イギ レ ^s 7 17 66 20 約 6 10 、 22 東 の 地	教 義 チ G5 17. ^c ニ アル GS 82. ^b イザ 「 24 45 10 4 10 2 17 22 30. ^a 25 18 145 20 」 創 造 球 25 18 、 13 、 34 、 創 造 （ 地 ） — す	① ② ① 教 義 チ アル GS 82. ^b イザ 「 24 45 10 4 10 2 17 22 30. ^a 25 18 145 20 」 創 造 球 25 18 、 13 、 34 、 創 造 （ 地 ） — す	① ② ① 教 義 チ アル GS 82. ^b イザ 「 24 45 10 4 10 2 17 22 30. ^a 25 18 145 20 」 創 造 球 25 18 、 13 、 34 、 創 造 （ 地 ） — す	① ② ① 教 義 チ アル GS 82. ^b イザ 「 24 45 10 4 10 2 17 22 30. ^a 25 18 145 20 」 創 造 球 25 18 、 13 、 34 、 創 造 （ 地 ） — す	ヨ シ 24. ^a 使 徒 10. ^b 8 シ 24. ^a 使 徒 11. ^b 15. ^c 52. ^a 18. ^b 15. ^c 53. ^a	ヨ シ 24. ^a 使 徒 10. ^b 8 シ 24. ^a 使 徒 11. ^b 15. ^c 52. ^a 18. ^b 15. ^c 53. ^a	ヨ シ 24. ^a 使 徒 10. ^b 8 シ 24. ^a 使 徒 11. ^b 15. ^c 52. ^a 18. ^b 15. ^c 53. ^a

④ 聖約
申命 4:37

41 しかし、わたしたちの先祖がちょうどあなたがたのように心をかたくなにしたので、主は荒れ野で、杖をもつて彼らを苦しい目に遭わせられました。主は、彼らの罪悪のために、彼らを苦しい目に遭わせられたのです。主は火の飛ぶ蛇を彼らの中に送り、また彼らがかまれた後で、癒されました。彼らがしなければならなかつたことは、ただ目を向けて見るだけのことでした。が、その方法が単純であつたため、すなわち容易であつたために、死んだ人が大勢いました。

42 彼らは時々心をかたくなし、モーセをののしり、また神をもののしりました。にもかかわらず、彼らが神のたぐいない力によつて約束の地に導かれたことは、あなたがたがよく承知していることです。

43 そして、すべてこれらのことがあつて、彼らは邪悪になり、まことにほぼ熟するほど邪悪になりました。今日にも滅ぼされるかもしけません。囚われの身となつてよそへ連れて行かれるわずかな者を除いて、彼らが滅ぼされる日が必ず来るに違ないことを、わたしは知つています。おお、

44 そのため、主は父に荒れ野へ出て行くように命じられました。またユダヤ人が父の命を奪おうとしたこともありました。あなたがたもまた、父の命を奪おうとしたことがあります。したがつて、あなたがたは心の中で人殺しをしたのであって、まるでユダヤ人のようです。

45 あなたがたは罪悪を行なうのは早いけれども、主なるあなたがたの神を思い起こすのは遅い。あなたがたは一人の天使に会い、その天使はあなたがたに語りかけました。まことに、あなたがたはその声を時々聞いています。天使は静かな細い声で語りかけましたが、あなたがたは心が鈍つっていたので、その言葉を感じることができませんでした。それで天使は雷のような声であながたに語りかけ、その声は、まるで引き裂くほどに大地を振り動かしました。

46 またあなたがたは、主が全能の御言葉の力をもつて、この大地を過ぎ去らせることがおできになることを知っています。また主が、御自分の御言葉によつて起伏の激しい地を平らにし、平らな所を崩すことがおできになることを知っています。おお、

		46	45	45	44	42	41				
①	③	②	①	②	①	GS	②	①	④	②	①
ヒエ	1	モサ	1	ニフ	1	「背く」	申命	1	ヨハ	2	①
ラベニ	1	サザ	13	16	2	1	民数	33	アル	33	アリ
12	4	フ	29	37	1	2	84	15	ハル	15	21
6	19	3				25	14	37	アル	18	17
18						12	24	47	ヨハ	15	9
						1	1	15	アル	20	23
						2	2	13	ヨハ	18	15
						22	22	22	アル	21	21
						1	1	1	ヨハ	17	7
						2	2	2	アル	15	9
						4	4	4	ヨハ	23	23

それなのにどうしてあなたがたは、そのように心をかたくなにしていられるのですか。

47 まことに、わたしの心はあなたがたのことで苦しんで張り裂け、わたしの胸は痛みます。あなたがたがとこしえに捨てられてしまふことを、わたしは恐れます。まことに、わたしは神の御靈に満たされて、体の力がなくなりそうです。」

48 さて、わたしがこれらの言葉を語り終えると、兄たちはわたしに腹を立てて、わたしを海の深みに投げ込んでしまおうと思つた。そして、兄たちがわたしを捕まえようとして近寄つて来たところで、わたしは言つた。「全能の神の御名によつて命じる。わたしに手を触れるな。わたしは身が燃え尽きるほどに神の力に満たされているから、わたしに手をかける者はだれでも、枯れた葦のようにしおれてしまうであろう。また、神がその人を打たれるから、神の力の前に取るに足りない者となるであろう。」

49 そして、わたしニーファイは兄たちに、これからも父に対してもうやつぶやいてはならないこと、また神がわたしに船を作るよう命じられたので、わたし

とともに働くことを拒んではならないことを話した。

50 わたしはまた彼らに言つた。「どのようなことでも神がわたしに命じられれば、わたしにはそれができる。もし、神がわたしにこの水に向かつて『陸になれ』と言うように命じられれば、水は陸になる。わたしがそう言えば、そのとおりになる。」

51 主がこのように偉大な力をお持ちになつて、これほど多くの奇跡を人の子らの中で行われたとすれば、どうしてわたしに一隻の船を造ることを教えられないことがあろうか。」

52 さて、わたしニーファイが兄たちに多くのことを言つたので、兄たちは言い伏せられてわたしと言ひ争うことができず、それから長い間、あえてわたしに手をかけることも、指で触れることもしなかつた。神の御靈が非常に力強かつたので、兄たちはわたしの前で枯れてしまふことのないように、あえてそうしなかつたのである。神の御靈は、それほどまでに彼らに働きかけられたのであつた。

53 そして主は、「あなたの手を、もう一度あなたの兄たちに向けて伸ばしなさい。彼らはあなたの前で枯れはしないが、わたしは彼らの体を震えさせよ

52	51	50	48	47
① 1	① 2	① 3	ミカ 2	ミカ 3
ニフ	GS	列上	モサ 13	モサ 19
「聖靈」	18	13	ニフ 3	ニフ 8
		14	4	26
		16	7	7
			13	20
			14	27

う。こうするのは、わたしが主なる彼らの神であることを知らせるためである」と言われた。

54 そこでわたしは、片方の手を兄弟に向けて伸ばすと、兄弟はわたしの前に枯れはしなかつたが、主は語られた御言葉のとおりに彼らの身を震えさせられた。

55 そこで兄弟たちは、「主がおまえとともにおられることが、確かに分かつた。我々の身を震えさせたのが主の力であることが、分かつてわかるだ」と言い、わたしの前にひれ伏して、わたしを拝もうとした。しかし、わたしはそれをさせないで言つた。「わたしはあなたがたの兄弟です。弟ではありませんか。ですから、主なるあなたがたの神を拝して、主があなたがたに授けてくださる地で長く暮らせるように、父と母を敬つてください。」

船が完成する。や「コブとヨセフの誕生が述べられる。一行、約束の地に向かつて出發する。イシマエルの息子たちとその妻たち、空騒ぎと反逆に加わる。ニーファイは縛られ、船はさまじい暴風雨で吹き戻される。解き

放されたニーファイが祈ると、嵐が静まる。一行、約束の地に着く。紀元前約五百九十年から五百八十九年にいたる。

1さて、兄弟たちは主を拝して、わたしとともに出てかけた。そしてわたしたちは、材木を入れ念な造りにこしらえた。主は船材をどのようにこしらえるかを、わたしに度々示してくださいさつた。

2またわたしニーファイは、人が学んだ方法で材木を細工することもなく、船も人の方法で造らなかつた。わたしは、主がわたしに見せてくださった方法で船を造つた。それで、それは人の方法とは違つていた。

3わたしニーファイは度々山の中へ行き、度々主に祈つた。それで、主はわたしに大いなることを示してくださいさつた。

4そして、わたしは主の言葉に従つて船を造り上げると、兄弟たちはその出来栄えの良いのと、その造りが非常に見事なのを見た。それで兄弟たちは、再び主の前にへりくだつた。

5さて、主の声がわたしの父に聞こえ、わたした

第18章

ちは立ち上あがつて船ふねに乗り込のむよう^に言いわれた。

6 そしてその明くる日、わたしたちは主の命に従い、荒れ野でとつた多くの木の実や肉、たくさん

の蜂蜜、そのほかの食糧など、すべてのものの準備を終えてから、すべての荷物と種、また各々が用意された。おおやうに、

離に応じて携えて来たすべての品物を持つて、船に乗り込んだ。わたしたちは、妻子とともに一同が船ふきこみで乗組んだのである。

「それで父は、荒れ野にいた間に一人の息子をもうけており、兄の方をヤコブ、弟の方をヨセフといった。」

さて、わたしたちは、命じられた食糧と品物を
携えて、一同船に乗り終えると、海に乗り出し、
約束の地に向かって追い風に吹かれて進んだ。

お風に吹かれて多くの日が過ぎたところで、見よ、兄たちとイシマエルの息子たち、それにその妻たちは、浮かれて踊り歌い、多くの下品な話を始めた。まことに、彼らは、何の力によつて自分たちがそこまで導かれて来たのかも忘れてしまうほどで、果ては非常に下品になつてしまつた。

10 それでわたしニーファイは、罪悪のために主が

怒いかつてわたしたちを懲らしめられ、そのために、わ
たしたちが海の深みにのまれてしまうのではないか
と、非常に恐れるようになつた。そこでわたし二一
ファイは、兄たちに真剣に語り始めた。しかし見
よ、彼らはわたしに腹を立てて、「我々は弟に支
配されたくない」と言つた。

11 そしてレーマンとレムエルは、わたしを捕らえて縄で縛り、情け容赦なくわたしを扱った。それでも主は、悪人たちについてかねてから言われていた御言葉を成就して、御自分の力を現すために、これをそのままにしておかれた。

さて、彼らがわたしを縛つて動きなくしてしまふと、主が用意された羅針盤の働きが止まつてしまつた。

13 そのため、彼らはどちらへ船を向けてよいか分
からず、そのうえ大きな嵐、まことに激しくすさま
じい暴風雨が起こり、わたしたちは三日間、海の
上をもと来た方へ吹き戻された。彼らは海におぼれ
てしまうのではないかと非常に恐れたが、それで
もわたしを自由にしてはくれなかつた。

14 そして、風に吹き戻されてから四日目、暴風雨

が非常に激しくなつた。

15 そこでわたしたちは、まさに海の深みにのまれてしまいそうであつた。そして四日間、海の上を吹き戻されたところで、兄たちは神の裁きが自分たちに及んでおり、罪悪を悔い改めなければ滅びてしまふに違ひないことに気づき始めた。それで彼らはわたしのもとに来て、わたしの手首を縛つていた縄を解いたが、見よ、わたしの両方の手首は大きくなれば上がり、両方の足首もまたひどくはれて、その痛みは激しかつた。

16 それでもわたしは神に頼り、一日中神を賛美し、わたしの遭つた苦難のことで主に対してつぶやくことはしなかつた。
17 ところで父リーハイは、彼らに多くのことを語り、またイシマエルの息子たちにも語つたが、見よ、彼らは、だれでもわたしのために言い開きをする人に對して、ひどい脅しの言葉を吐いた。両親は年も取つていて、また子供たちのためにひどく悲しい目に遭つたので、とうとう病の床に就いてしまつた。

18 両親は、深い憂いとひどい悲しみと、兄たちの

罪惡のために、この世から連れ去られて神と顔を合わせるばかりの状態となつた。まことに、彼らの白髪は、葬られてちりの中に低く横たわるばかりであり、まことに悲しくも、一人が大海の墓に投げ込まれるのは間近いことであつた。

19 ヤコブとヨセフも幼くて、十分な栄養を必要としていたので、母の遭つた苦難のことでつらい思いをした。また、わたしの妻や子供たちも涙を流し、また祈つたが、兄たちの心が和らいでわたしを解き放すには至らなかつた。

20 兄たちを滅ぼそうと脅かした神の力のほかに、彼らの心を和らげるのできることはは何もなかつた。そのようなわけで、兄たちは自分たちがまさに海の深みにのまれようとするのを見て、今までの行いを悔い改めて、わたしを解き放したのであつた。

21 さて、兄たちがわたしを解き放したところで、見よ、わたしが羅針盤を手に取ると、それはわたししが望むように動いた。そこで、わたしは主に祈りをささげた。祈り終えると風がやみ、嵐が収まり、きわめて穏やかになつた。

22 そこでわたしニーファイは、船の舵を取り、再

23 ① GS 「約束の地」

第19章

主に立ち返る。紀元前約五百八十八年から五百七十年に至る。

び約束の地に向かつて船を走らせた。
 23 そして幾日も航海した後、わたしたちは約束の地に着いた。そして陸に上がつて天幕を張り、そこを約束の地と名付けた。
 24 そしてわたしたちは、地を耕して種をまき始めた。まことに、エルサレムから持つて来た種をすべて地にまいた。すると、この種は非常によく育つた。そして、わたしたちは豊かな祝福を受けた。
 25 そしてわたしたちは、荒れ野の中を旅したとき、この約束の地には森の中にあらゆる獣、すなわち雌牛と雄牛、またろばと馬、やぎと野やぎ、そのほか人の役に立つあらゆる獣がいるのを知つた。またわたしたちは、金や銀や銅など、あらゆるあらがねも見つけた。

1さて、わたしは主に命じられたので、民の記録を刻むためにあらがねで版を造つた。そして、その版に父の記録と荒れ野での旅のこと、父の預言、またわたし自分が語った多くの預言を刻んだ。
 2 わたしがその版を造つたときには、後に主から、別にこの版を造るよう命じられるとは知らないがつた。したがつて、父の記録や先祖の系図、それに荒れ野での行動の大部分は、わたしが先に述べた最初の版に刻んである。それで、わたしがこの版を造る前に起つたことは、まことにいつそう詳しく最初の版に述べられている。

第19章
 ニーファイ、あらがねで版を造り、民の歴史を記録する。イスラエルの神は、リーハイがエルサレムを去つてから六百年で来られる。ニーファイ、イスラエルの神が受けられる苦しみと十字架の刑について述べる。ユダヤ人は末日になるまでさげすまれ、散らされて、末日には

3 主の命令によつてこの版を造つた後で、わたしがニーファイは、務めと預言、すなわちそれらの中で分かりやすく貴重な部分を、この版に書き記すように命じられた。また、これからこの地を所有するわたしの民を教えるために、それにまた主が御存じである賢明な目的のために、この版に書き記されたことを保存するようにとの命を受けた。

3	2	1	1	GS
10	②	①	ニフ	「版」
51	3	1	9	6
	19	13	1	30
	20	14	4	5
		1	4	16
		5	1	17
		4	5	
		1	4	
		5	1	

4 それでわたしこ二ーフアイは、民の戦争と争いと滅亡のいきさつをいつそう詳しく述べる話を、ほのかの版に記録した。わたしはこれを行つてから、わたしの死んだ後にしなすべきことを民に命じ、また主が後に命じられるまでは、これらの版を代々譲り伝え、また預言者から預言者へ譲り伝えるよ

5わたしはまた、後にこの版を造つたいきさつを述べるの、見よ、今はわたしがこれまで話したことに従つて書き進める。わたしがこうするのは、より神聖な事柄が保存されて、それが民にとつて知識となるようにならうと思うからである。

6 それで もわたしは、神聖であると思うことではな
く、何事も版に書き記さない。そのようにす
れば、何事も版に書き記さない。（あやま　おか　むかし）

ひとでも誤りを犯したのであるが、他人の例を引いて申し開きをするのではなく、ただ、肉においてもひつともわざと誤りを犯すなら昔の

のわたしの弱さのためであると申し開きをしよう。
7ある人々が肉体にも靈にも大いに価値があると思ふことを、ほかの人々が何とも思わないで足の下に踏みつけることがある。まことに、イスラエル

のまことの神かみですら人々は足あしの下したに踏ふみつける。あしの下したに踏ふみつけると言ひつたが、言い換かえれば、かれらは神かみを取うるに足ありない者ものとし、その勧めの声こゑに聞き従すうわないということである。

8 そして見みよ、天使てんしの言葉ことばによれば、イスラエルの神かみは、父ちちがエルサレムを去さつてから六百年ねんご後に

おいでになる。

しかし、世の人々は自分たちの罪悪のために、この御方を取るに足りない者と判断する。それで彼らはこの御方を鞭打つが、この御方はそれに耐えられる。また彼らはその御方を打つが、この御方はそれにも耐えられる。まことに、彼らはこの御方につけきを吐きかけるが、この御方はそれにも耐えられる。それは、この御方が人の子らに対して愛にあふれた優しさと寛容に富んでおられるからである。

われたいたぢの先祖の神すなれかれたしたひちの先祖を奴隸の状態から救つて、エジプトから導き出し、荒れ野の中で彼らを守られた神、まことには、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神は、あの天使の言葉のように一人の人として悪人たる手に身をゆだねて、ゼノクの言葉のように上

⑥ 聖文	GS 3 ニフ ニフ ニフ 27. 14.	ヒラ テ アル 19. 15. 16. わ れた	⑤ ④ アル 33. 20. 15. 16. 17. 18.	GS 教義 136 「工ホバ」 21. 19. 32. 9、	③ 創世 サザ 世22 15. 15.
------	--------------------------------------	---	--	---	------------------------------------

10	9
① マタ 27	② GS 「イエス・キリスト降誕と死に關する
モサ 7	預言
ニル 11	イザ 50
11 38 27,	5—6、
14 39 27 12、	
15 30	
	31

げられ、ニアムの言葉のよう^(ことば)に十字架^(じじか)につけられ、ゼノスの言葉^(ことば)のように墓^(はか)に葬^(はむ)られるのである。ゼノスは三日間^(みつかん)の暗闇^(くらやみ)について語^(かた)つたが、それはこの御方が亡くなられるときのしるしであつて、海島々^(しましま)に住む者たち、特にイスラエルの家に属する者に与えられるしるしである。

11 預言者ゼノスは言つた。「その日、主なる神は必ずイスラエルの家に属するすべての者に臨み、ある者には、彼らの義のゆえに御声をもつて臨んで大きな喜びと救いを与へ、またほかの者には、御力の起こそ雷鳴と稻妻をもつて、暴風雨、火、煙、暗黒の霧、地割れ、盛り上がる山々をもつて臨まれる。」

12 預言者ゼノスはさらに言う。「これらのこととは、すべて必ず起ころ。そして地の岩は必ず裂ける。また大地がうなりを起ころので、海の島々にある多くの王は神の御靈に動かされ、『万物の神が苦しみに耐えておられる』と叫ぶ。」

19 したがつてわたしは、イスラエルの家のすべてのものがこれらの記録を手に入れたときのために、イスラエルの家のすべての者に向かつて語るのである。

20 見よ、エルサレムにいる人々のため、わたしの心は大いに立ち騒いでおり、全身の関節が緩むほど、わたしは疲れ果てている。もし主が、昔の預言者たちに示されたように、わたしを憐れんで、エルサレムにいる人々のことをわたしにも示されなかつたら、わたしもまた滅びてしまつていたからである。21 主は確かに、昔の預言者たちに、エルサレムにいる人々についてすべてのことを示され、またわたしたちについて多くの預言者に示された。それでこれらのこととは、真鑑の版に書き記されているので、当然のことながら、わたしたちは彼らについて知つてゐるのである。

22 さて、わたしニーファイは、兄たちにこれらのこととを教えた。そして、主がほかの地で昔の人々の中へ行われたことを、兄たちも知ることができるよう、真鑑の版に刻まれてゐる多くのことを読んで聞かせた。

23 わたしはまた、モーセの書に書き記してある多

くのことを読んで聞かせたが、主なる贖い主を信じるようさらに十分に勧めるために、預言者イザヤが記したことを持てて読んで聞かせた。すべての聖文を自分たちに当てはめて、それが自分たちの利益となり、知識となるようにするためであつた。

24 それでわたしは兄たちに言つた。「この預言者の言葉を聞いてください。イスラエルの家の残りの者であつて、元木から折られた一本の枝である兄さんたち、イスラエルの家のすべての者に向けて書き記された預言者の言葉を聞いてください。そしてあなたがたの同胞、すなわちあなたがたはその同胞から折り取られた者ですが、その同胞と同様に望みを抱くことができるよう、その言葉を自分自身に当てはめてください。この預言者はそのように書き記しているからです。」

第 20 章
主はイスラエルに御自分の目的を示される。苦難の炉の中へ選ばれたイスラエルは、バビロンから出でる。イザヤ書第四十八章と比較。紀元前約五百八十八年から五百年に至る。

24	21
① ④ 2 二 ニフ 4 ③ GS 「聖文—聖文の値値」	モル 5 16 ① GS 「預言者」
2 二 ニフ 25 4 6 22 10 17 22 1 16 7 9	アモ 3 7 13 17 14 1 16 17
3 ニフ 23 1 11 41	モセ 1 40 1 16
ニフ 15 22 26	ニフ 1 20
3 4 5	ニフ 5 17

1 「イスラエルといふ名で呼ばれ、ユダの水から、すなわちバブテスマの水から出て、主の名によつて誓い、イスラエルの神のことを口にしながら眞実をもつて誓わず、義をもつても誓わないヤコブの家よ、耳を傾けてこれを聞け。

2しかし彼らは、自ら聖なる都の者であると言ひながら、万軍の主であるイスラエルの神にとどまることをしない。まことに、万軍の主とは主の名である。

3『見よ、わたしは、先にあつたことを世の初めから告げ知らせてきた。それらはわたしの口から出、わたしはそれらを示した。わたしはにわかにそれらを示したのである。

4わたしがそれを行つたのは、あなたが強情で、あなたの首が鉄の筋であり、あなたの額が真鍮であることを知つていたからである。

5そこでわたしは、まさに世の初めからあなたに告げ知らせてきた。それが起ころに先立つて、それらをあなたに示した。それらのことを示したのは、「わたしの偶像がそれらのこととした。わたしの彫像」とようとわたしの铸像がそれらのことを命じた」とあ

なたが言うことのないようにするためである。

6あなたはこのことをすべて見聞きしてきた。それでもあなたは、それらのことを告げ知らせずにおかれていたことさえも、告げ知らせずにおくだろうか。それらはあなたの知らなかつたことである。

7それらのことは、今造られたのであって、初めからあつたのではない。あなたがそれらのことを聞く前から、それらのことは告げ知られていた。それは、「見よ、わたしはそれらを知つてゐる」とあなたが言うことのないようにするためである。

8まことに、あなたは聞かなかつた。まことに、あなたは知らなかつた。まことに、あのときからあなたたの耳は開かれなかつた。それはあなたがひどく不眞実で、また生まれながらにして背く者と呼ばれたことを知つていたからである。

9にもかかわらず、わたしはわたしの名のために自らを制して、あなたを絶つことをしない。

10見よ、わたしはあなたを精錬し、苦難の炉の中であなたを選んだからである。

10	9	8	5	4	3	2	1
①ヨハ GS 「逆境」	①①① 詩篇 上23 サ22 12:3	①①① 詩篇 下22 サ3	② 頼46 イザ46 「エルサレム」 の意 9 10	GS 「バブテスマ」 52:1 「エルサレム」 の意 10	GS 「イスラエルのこ と」	イザ 52:1 「エルサレム」 の意 10	
1 GS 「逆境」	2 GS 「逆境」	3 GS 「逆境」	4 GS 「逆境」	5 GS 「逆境」	6 GS 「逆境」	7 GS 「逆境」	8 GS 「逆境」

わたし自身のため、まことにわたし自身のためにわたしはこのことを行う。それは、わたしはわたしの名が汚されるのを許さず、またわたしの栄光をほかの者に与えようとは思わないからである。

おお、ヤコブよ、わたしが召したイスラエル
よ、わたしに聞き入え。わたしは神である。わたし
は初めてあり、また終わりである。

13 わたしの手は地の基を握る、わたしの右の手は天あそを測つた。わたしが天地を呼ぶと、天地はともにいた。

14 あなたがたすべてのものよ、皆集まつて聞け。彼かれ

らの中でこれらのこととを彼らに宣べたのはだれか。その人を主は愛された。まことに、その人は、彼らを通じて告げ知らせてきた自らの言葉を成就し、その望むままをバビロンに行い、その腕をカルデアへひきうえに下す。

や人のことをいふかたは、また、『主であるわたし、まことにわたしを語つた。まことに、わたしは告げ知らせるために、その人を召し、その人を連れて來た。彼は自らの道を榮えさせるであろう』と言われる。

はない。初めから、それが告げ知らされたときからわたしは語つてきた。そして、主なる神と主の御靈がわたしを遣わされた。

17 あなたの贖い主、イスラエルの聖者なる主はこのように言われる。『わたしがその人を遣わした。あなたの大益となるように教え、あなたをその行くべき道に導く、主なるあなたの神がこれを行つた。

18 おお、あなたはわたしの戒めに聞き従つたらよかつたものを。そうすればあなたの平安は川のようで、またあなたの義は海の波のようであつたであろう。

19 またあなたの子孫は砂のようであつたであろう。あなたの腹から生まれる子は砂の粒のようになくなり、その子の名はわたしの前から絶たれることも、滅ぼされることもなかつたであろう。』

20 バビロンから出よ。カルデヤから逃れよ。あなたがたは歌聲をもつて宣べ、これを伝え、地の果てに至るまで告げ知らせよ。すなわち、『主はその僕ヤコブを贖われた』と言え。

21 彼らは渴くことがなかつた。主が彼らを導いて沙漠を行かせ、彼らのために岩から水をわき出さ

せられた。岩を割られると水がほとばしり出たのである。

22 すべてのことや、これよりもさらに偉大なことを行つてきたにもかかわらず、『悪人に平安がない』と主は言われる。』

第21章

メシヤは異邦人の光となり、捕らえられている者を解き放される。終わりの時に、イスラエルは力をもつて集められる。王たちが彼らの養父となる。イザヤ書第四十九章と比較。紀元前約五百八十八年から五百七十年に至る。

1 「再び言う。聴け、おお、あなたがたイスラエルの家よ、わたしの民の牧者たちの惡事のために折り取られ、追い出されたあなたがたすべての者よ、まことに、わたしの民であつて、折り取られ、広く散らされたあなたがたすべての者よ、おお、イスラエルの家よ。おお、もろもろの島よ、わたしに耳を傾けよ。あなたがた遠くの民よ、聴け。わたしが胎内にいたときから主はわたしを召し、わたしが母の腹の中にいるときから主はわたしの名を口にされた。

2 主は、わたしの口を鋭い剣のようにして、御手の陰にわたしを隠し、わたしを研ぎ澄ました矢として、その矢筒の中にわたしを隠された。

3 そしてわたしに言われた。『おお、イスラエルよ、あなたはわたしの僕である。わたしはあなたによつて栄光を得よう。』

4 そのとき、わたしは言つた。『わたしはいたずらに働き、益なくむなしく力を費やした。まことに、わたしへの裁きは主とともにあり、わたしの働きは神とともににある。』

5 わたしが胎内にいたときから、ヤコブを再び主に連れ戻すためにわたしを僕とされた主は言われる。『イスラエルがたとえ集められなくても、わたしは主の目にかなつて栄光を得、わたしの神はわたしの力となる。』

6 主は言われた。『あなたをわたしの僕としてヤコブのもろもろの部族を起させ、イスラエルの守られてきた者たちを回復させるのは、小さなことである。わたしはまたあなたを異邦人の光とし、地の果てまでわたしの救いとしよう。』

7 イスラエルの贖い主、イスラエルの聖者なる主

22 ① GS 「平安、平和」
2 ① 1 二フ 22.4.
1 ① 1 二フ 10. 20. 22
3 ① 2 レビ 25. 55.
教義 1. 1
イザ 41. 8. 55
93. 45. 46
イザ 44. 24. 46

第21章

6 ① GS 「イスラエルの十二部族」
1 ① 1 二フ 21. 22.
2 ② 3 二フ 21. 22.
3 ① 2 レビ 25. 55.
教義 1. 1
イザ 44. 24. 46
93. 45. 46
アブ 2. 10. 11. 10.
11. 8. 11. 10.

は、人に侮られる者、もろもろの国民に忌み嫌われる者、治める者の僕に向かつて、『主が眞実であるためにもろもろの王は見て立ち上がり、もろもろの王も挙する』と言われる。

8 主はこう言われる。『おお、海の島々よ、わたしは心にかなつたときにあなたの言葉を聞き、救いの日にあなたを助けた。わたしはあなたを守り、民への聖約として、わたしの僕をあなたに与えて地を築かせ、荒れ果てた受け継ぎの地をあなたに継がせよう。

9 あなたは捕らえられている者たちに「出よ」と言い、暗闇に座している者たちに「現れよ」と言いうことができる。彼らは道すがら食物を食べ、その牧場はすべての高い所にある。

10 彼らは飢え渴くことがなく、熱も太陽も彼らを悩ますことはない。彼らに憐れみの心を持つ者が彼らを導き、泉のほとりに彼らを連れて行くからである。

11 わたしはあらゆる山を道とし、わたしの大路を高くする。

12 そして、おお、イスラエルの家よ、見よ、これ

らの者は遠くから来る。見よ、これらの者は北から、西から、またシニムの地から来る。』

13 おお、天よ、歌え。おお、地よ、喜べ。東にいる者たちの歩みが定まるからである。おお、もろもろの山よ、声を放つて歌え。彼らはもはや打たれることがないからである。主は御自分の民を慰め、また苦しむ者に憐れみをかけられるからである。

14 しかし見よ、シオンは言つた。『主はわたしを見捨てられた。わたしの主はわたしを忘れられた。』

しかし、主はそうされなかつたことを示される。15 女が乳飲み子を忘れ、自分の産んだ子を哀れまないことがあるうか。まことに、たとえ女たちが忘れようとも、おお、イスラエルの家よ、わたしはあなたを忘れない。

16 見よ、わたしはあなたを、わたしの手のひらに彫り刻んだ。あなたの石垣はいつもわたしの前に立つかい、あなたを荒らした者たちは、あなたから出て行く。』

17 あなたの子孫は、あなたを滅ぼす者たちに速やかに立ち向かい、あなたを荒らした者たちは、あなたから出て行く。』

18 あなたの目を上げて辺りを見回せ。これらの者

17	15	13	12	11	9	8
① 教義 3 61 ニ 36 フ 21 21 12 20	② ① ① GS イザ 44 41 8 17	① ③ ② ① イザ 43 23 62 34 3 5	モル 8 16 25 11 6 15			
アル イザ 23 62 34 3 5	イエ ニ エ 2 23 10 14 3 25	モル 8 16 25 11 6 15				
イエ ニ エ 2 23 10 14 3 25	モル 8 16 25 11 6 15					

は、皆集まつてあなたのものに来る。』主はまた言つた。
『わたししが生きているように、あなたは必ず彼らを皆飾り物のように身にまとい、花嫁のように彼らを常に結ぶ。

19 あなたの荒れ衰えた所、あなたの荒廢した所、そしてあなたの滅びの地は、今に人が住むにはすぎるようになり、あなたをのみ尽くした者たちは遠く離れ去る。

子たちを腕に抱き、あなたの娘たちを肩に乗せて来る。
23 王たちはあなたの養父となり、王妃たちはあなた
の養母となる。彼らは顔を地に向けてあなたに身
をかがめ、あなたの足のちりをなめる。こうしてあ
なたは、わたしが主であることを知る。わたしを
待ち望む者は恥を受けないからである。

24 勇士から獲え物をどうして取り返せようか。また
正当な捕虜をどうして救い出せようか。」

王妃たちはあなた^の養父^となり、王妃たちはあなた^の養母^{となる}。彼らは顔を地に向けてあなた^に身^をかがめ、あなたの足のちりをなめる。こうしてあなた^はわたし^{しが}主^{である}ことを知る。わたしを待ち望む者は恥を受けないからである。

24 勇士から獲物^をどうして取り返せようか。また正^{ただ}當^{とう}捕^ほ虜^をどうして救^{すく}い出せようか。』

25 しかし、主はこのように言われる。『勇士の捕ら

25しかし、主はこのように言われる。『勇士の捕らえた捕虜さえ取り返され、荒々しい者に奪われたのをも、一々苛めず、さしむかづかずして、その者を

争い、またあなたの子供たちを救うからである。

わたしは、あなたを虐げる者に彼ら自身の肉を

ぶん
ちよ
よ
彼らは、甘いぶどう酒に酔うように自
身のものもしゃ

分の血に酔う。こうしてすべての者は、主なるわた

しかあなたの救い主、あなたの贖い主、ヤコブの
ちからあるもので、うるここをさうこなる。

力ある者であることを知るよん」はなる。

第
22
章

イスラエルはやがて地の全面に散らされる。終わりの

時に、異邦人は福音でイスラエルを養い育てる。イスラエルは集められて救われる。悪人はわらのよう燃え、悪魔の王国は滅ぼされ、サタンは縛られる。紀元前約五百八十八年から五百七十年に至る。

さて、わたしニーフアイが、眞鍼の版に刻んであるこれらのことを見て終ると、兄たちがやつて來てわたしに言つた。「おまえが讀んだこれらのことはどういう意味なのか。見よ、これらのことは肉によるのではなく、靈によつて起ころる靈的なこととして解釈するのか。」

そこでわたしニーフアイは、彼らに言つた。「まことに、これらのことは御靈の声によつて、その預言者に示されたものです。すべてのことは御靈によつて預言者たちに知らされ、肉において人の子らに起くるからです。

3 ですからわたしのが読んだことは、現世のことにも靈的^{れいてき}なことにもかかわることです。イスラエルの家^{いえ}は遅^{おぞ}かれ早^{はや}かれ地^ちの全面^{ぜんめん}に、またすべての国民^{みん}の中に散ら^{なげら}されると思^{おも}われるからです。

すでに行方の分からなくなっている人が大勢います。まことに、全部族の大半がすでに連れ去られ、海の島々のここかしこに散らされています。わたしたちは、彼らが連れ去られたことだけは知っていますが、どこにいるかはだれも知りません。
5 これらのこととは、彼らが連れ去られて以来彼らにかかることとして預言されており、また、これからイスラエルの聖者によつて散り乱されるすべての人についても預言されています。それは、彼らがイスラエルの聖者に対して心をかたくななし、そのためすべての国民の中に散らされ、すべての人から憎まれるようになるからです。

6 にもかかわらず、彼らが異邦人に養いてられました後、主は異邦人のうえに御手を挙げ、異邦人を旗として立てられます。そして異邦人は、イスラエルの子らを腕に抱き、娘らを肩に乗せて来ます。まことに、ここで言われていることは必ずこの世で起こることです。主がわたしたちの先祖と、そのように聖約を交わされたからです。これらのことは、これからわたしたちのことを指し、またイスラエルの家に属するすべての同胞のことも指さ

しているのです。

7 またそれは、イスラエルの家に属するすべての者がことごとく散り乱されてから、主なる神がまことにこの地の面において、異邦人の中に一つの強大な国民を起させれ、彼らによつてわたしたちの子孫が散らされる時が來ることを指しています。

8 そして、わたしたちの子孫が散らされてから、
主なる神はわたしたちの子孫にとつてお大いに価値
のある驚くべき業を、異邦人の中で始められま
す。それでこれは、わたしたちの子孫が異邦人に
養われ、その腕に抱かれ、その肩に乗せられて來
るのにたとえられます。

9 それは、異邦人いほうじんにとつても価値ひぢやくのあるものであります。また、異邦人いほうじんだけではなく、イスラエルの家いえに属するすべての者ものにとつても価値ひぢやくのあるものであります。天の御父おんもちちがアブラハムアーブラハムに対たいして、『あなたの子孫しそんにより、地のすべての部族ぶぞくは祝福ゆきふをうけらる』と言いわれた聖約せいやくが、これで知しらされるのです。

10 天の御父が、もうもろの国民の目の前にその御腕を現されないかぎり、地のすべての部族が祝福

を受けることはないということを、わたしは兄さんたちに知つてほしいと思います。

11 それで主なる神は、イスラエルの家に属する者たちに聖約と福音をもたらし、やがて、すべての国民の目の前にその御腕を現されるのです。

12 それで主は、イスラエルの家の者たちを囚われの身から再び連れ出されます。彼らはその受け継ぎの地に集められます。そして暗闇から、また暗黒から連れ戻されます。彼らは、主が自分たちの救い主、贖い主、イスラエルの力ある者であることを知るのです。

13 また、全地の淫婦であるあの大きな忌まわしい教会の人々の流した血は、彼ら自身にはね返ります。彼らは互いに戦争をして、自分の手に持つ劍を自分の頭上に落とし、自分自身の血を飲んで酔うからです。

14 おお、イスラエルの家よ、あなたと戦うすべての国民は互いに敵対し、主の民を陥れようとしてシオンに向かつて戦う者は皆滅び、主の正しい道を曲げたあの大淫婦、まことに、あの大きな忌ま

11 それで主なる神は、イスラエルの家に属するたちに聖約と福音をもたらし、やがて、すべての国民の目の前にその御腕を現されるのです。

12 それで主は、イスラエルの家の者たちを囚われの身から再び連れ出されます。彼らはその受け継ぎの地に集められます。そして暗闇から、また暗黒から連れ戻されます。彼らは、主が自分たちの救い主、贖い主、^⑤イスラエルの力ある者であることを知るのです。

13 また、^{ゼンチ}全地の淫婦であるあの大きな忌まわしい
教会の人々の流した血は、彼ら自身の頭にはね返ります。^{おお}
彼らは互いに戦争をして、^{かえ}自分の手に持つ劍を自分の頭上に落とし、自分自身の血を飲んで酔うからです。

14 おお、イスラエルの家よ、あなたと戦うすべての国民は互いに敵対し、主の民を陥れようとして掘つた穴に自分が落ちてしまふでしよう。そしてシオンに向かつて戦う者は皆滅び、主の正しい道を曲げたあの大淫婦、まことに、あの大きな忌ま

わしい教会は地に崩れ落ちますが、その倒れ方はひどいでしょう。

十五まことに、預言者は言つています。「サタンがもはや人の子らの心を支配できなくなる時が、速やかに来る。すべて高ぶる者と悪を行つ者がわらのようになる日が、すぐに来るからである。彼らが焼かれる日が来る。

16 すべての人の子らに神の満ちみちる激しい怒りを下し、
が注がれる日が、速やかに来る。神は、悪人が義人を滅ぼすのを許されないからである。

17 そのため神は、満ちみちる激しい怒りを下し、
義人いじんを守るために火をもつて敵を滅ぼすことになつても、御自分ごじぶんによつて義人を守られる。したがつて、義人いじんは恐れるには及ばない。たとえ火によつてでも、彼らは救われるであろう。』預言者はそ

のよう言っています。

18 まことに、兄さんたち、あなたがたに言います。これらのことは間もなく必ず起ります。また、血と、火と、立ち込める煙は必ず及びます。これらのことは、この大地の面で起こるに相違なく、人々がイスラエルの聖者に対して心をかた

くなにするならば、肉において人々に及ぶのです。

19 まことに義人は滅びません。シオンに敵対してたなかたちがすべて絶たれる時が、必ず来るからです。

20 そして主は、確かに御自分の民のために方法を設けて、モーセの言葉を成されまし。モーセは言いました。『主なるあなたがたの神は、あなたがたのために、わたしのような預言者を一人お立てになる。その預言者があなたがたに語るすべてのことを耳を傾けなさい。その預言者に耳を傾けない者はすべて、民の中から絶たれるであろう。』

さて、わたし二二一福音はあなたがたに言明します。モーセが語ったこの預言者とはイスラエルの聖者のことです。ですからこの御方は、義をもつて裁きをされます。

22 義人ぎじんは打ち破うちふらることのない人々ひとびとですから、恐れるには及およびません。恐れるのは悪魔あくまの王国おうこくで、肉體にくたいを持つ人々ひとびとの中に設けられます。

23 利を得るために設けられるすべての教会、人の
うえに支配権を得ようと設けられるすべての教会、

23	21	20	17 16		15 14
GS 2 ニ 偽 考 教	○① 二 六 20 14 10	モ ② 七 三 20 18 23 9	① ② ① 二 七 13 14 63 19	モ ② ① 一 ニ 11 17 33 17	GS 教 義 「 29 二 篇 25 21 23 6 15 1 10 5 25 23 12
			清 「 地 球 」 （ 地 球 ）		
			— 地球		
	18	7	40	133	24
			40	64	

世の人々の目にかなつて評判を得るために設けられた
れる教会、肉欲やこの世のものを求め、あらゆる罪
悪を行ふ教会、要するに、悪魔の王国に属するすべ
ての教会が恐れて震えおののく日が、速やかに来
ます。これらの教会はちりの中に引き倒され、わ
らのように焼き尽くされなければならぬので
す。これは預言者の言葉のとおりです。

24 また、義人が牛舎から出る子牛のようには必ず導
かれ、イスラエルの聖者が主権と威勢と力と大い
なる栄光をもつて必ず統治される日が、速やかに
来ます。

25 そして聖者は、地の四方からその子らを集め、そ

の羊を数えられ、聖者を知るようになります。
それから一つの群れ、一人の羊飼いとなつて、聖
者は御自分の羊を養われ、羊は聖者によつて牧草

を見いだします。

26 また、聖者の民の義のために、サタンはまつた
く力を持たず、長い年月にわたつて解き放される
ことはありません。民が義のうちに住み、イスラエル
の聖者が統治されるので、サタンは彼らの心を

支配する力を持たないからです。

27 さてまことに、わたしひーファイはあなたがた
に言ひます。これらのことはすべて、必ず肉におい
て起ころう。

28 しかしまことに、すべての国民、部族、国語の
民、民族は、もしも悔い改めるならば、イスラエル
の聖者によつて安全に暮らせんでしょう。

29 ところでわたしニーファイは、これらのことにつ
いてあえてこれ以上語ろうと思わないので、こ
れで終わりにします。

30 そこで兄さんたち、わたしはあなたがたに、真
鑑の版に書き記されている事柄が眞実であることを
知つてほしいのです。これらの事柄は、人が神の戒めに従順でなければならぬことを証してい
ます。

31 ですから、わたしと父だけが証をし、神の戒め
を教えたのだと考へる必要はありません。あなたが
たは、神の戒めに従順で最後まで堪え忍ぶならば、終わりの日に救われるでしょう。まことにその
とおりです。アーメン。』

31	30	28	26	25	23
GS ① ①	GS ③ ②	GS 88 「惡魔」	アル 48 「良い羊飼い」	イスラエルの集合	アル 1:3 ルカ 6:26
「戒め(神の)」	マタ 19:17	ヤコブ 5:76	10, 43, 45, 55	詩篇 23 篇	マラ 4:2, 25:2 アモ 6:4, 20:2, 2

ニーファイ第一書

リーハイの死。ニーファイの兄たち、ニーファイに背く。主、ニーファイに荒れ野へ立ち去るよう警告される。荒れ野での旅など。

第一章

リーハイ、自由の地について預言する。リーハイの子孫は、イスラエルの聖者を拒むならば散らされ、打たれる。リーハイ、義の武具を身に着けるように息子たちに勧める。紀元前約五百八十八年から五百七十年に至る。

1さて、わたしニーファイが兄たちに教え終えてから、父のリーハイもまた多くのことを兄たちに話し、主が彼らをエルサレムの地から連れ出すに当たり、どれほど大きいなることをなさつたかを彼らに語つた。

2父はまた、彼らが海の上で背いたことや、神が彼らを憐れんで、海にのみ込まれないように命を

助けてくださつたことについて、彼らに語つた。
 3さらに父は、彼らが得た約束の地について話し、また、エルサレムの地から逃れるよう警告してくださつた主がいかに憐れみ深い御方であるかを、彼らに語つた。
 4見よ、父は言った。「わたしは示現を受け、エルサレムがすでに滅びてしまつたことを知つていた。」
 5父は言つた。「しかし、わたしたちはいろいろな苦難に遭つたにもかかわらず、約束の地を手に入れた。これはほかのあらゆる地に勝つたえり抜きの地であつて、主なる神がわたしの子孫の受け継ぎの地としてわたしに聖約してくださつた地である。まことに、主はこの地を、わたしやわたしの子孫に与えると聖約された。

6それでわたしリーハイは、わたしの内にある御靈の働きによつて預言する。すなわち、主の御手によつてほかの国々から導かれて来るすべての人にもよつて導かれて来るのでなければ、だれもこの

い。深い眠りから、すなわち地獄の眠りから目覚めて、あなたがたを縛つてゐる恐ろしい鎖を振り払いなさい。その鎖は人の子らを縛つて、不幸と災いの永遠の淵に連れ去る鎖である。

14 目を覚ましなさい。そして地から立ち上がり、おののく父の菜籠を聞きなさい。あなたがたは間もなく父の体を冷たい無言の墓に横たえなければならぬ。そこからはどんな旅人も決して戻つて来ることができない。あとわずかで、わたしは世のすべての人のたどる道を行く。

15 しかし見よ、主はわたしを地獄から贖つてくださつた。わたしは主の栄光を見た。そして、主の愛の御腕に永遠に抱かれていく。

16 わたしは、あなたがたが主の捉と裁決を忘れずに守ることを願つてゐるが、見よ、これは、初めからわたしの心配していいたところである。

17 わたしの心は時々、悲しみに押しつぶされるようであった。それは、あなたがたの心がかたくなために、主なるあなたがたの神が満ちみちる激しい怒りを下され、あなたがたが絶たれ、とこしえに滅ぼされてしまうのではないかと恐れてき

18 あるいは、多くの代にわたつてのろいがあなた
がたに及び、剣や飢饉に見舞われ、忌み嫌われ、
また魔の意志に惑わされ、捕らえられはしない
かと恐れできたからである。

19 おお、息子たちよ、これらのことがあなたがたに
及ぶことなく、あなたがたが主に選ばれた愛され
る民となるように願っている。しかし見よ、主の
道はとこしえに義であるから、御心が行われるよ
うに。

20 しゅ
主は『あなたがたはわたしの命令を守るかぎり
地に榮える。しかし、わたしの命令を守らなければ
ば、わたしの前から絶たれる』と言られた。

21 さて、わたしの靈があなたがたにあつて喜びを
得て、あなたがたのことを喜びながらこの世を去
ることができるよう、また、わたしの心が憂いを
や悲しみを抱いて墓に入るとのないよう、息子たちよ、地から立ち上がりつて、男らしくありな
さい。そして思いを一つにし、心を一つにして決
意を固め、あらゆることに結束しなさい。これは
あなたがたが囚われの身に陥らないためである。

22 また、ひどいのろいをもつてのろわれないためで
あり、^{①こうせい}公正な神の不興^{ふきょう}を自分に招いて、滅びを、
まことに靈と体の両方の永遠の滅びを受けることの
ないようにするためである。

23 目を覚ましなさい、息子たちよ。義の武具^{ぶぐ}を身
に着けなさい。あなたがたを縛つている鎖を振り
払い、暗闇^{くらやみ}を抜け出て、地から立ち上がりなさい。
24 これからはもう、あなたがたの弟に背かないよ
うにしなさい。彼の見た示現は莊嚴なものであつ
て、彼はわたしたちがエルサレムを出たときから
神の命令^{めいれい}を守り、神の御手^{みて}に使われる者としてわ
たしたちを約束の地へ導いて来た。もし彼がいな
かつたなら、わたしたちはきっと荒れ野で飢え死
にしていたであろう。にもかかわらず、あなたが
たは彼の命を奪おうとした。そして、彼はあなた
がたのためにひどく憂い悲しんだ。

25 わたしは、この後またニーファイが苦しむのでは
ないかと、見よ、あなたがたのことで非常に恐れお
ののいている。それはあなたがたが、彼があなたが
たを支配する権力^{けんりょく}と機能^{きのう}を求めてと言つて彼をひ
どく責めてきたからである。しかしひーファイは、

あなたがたを支配する権力と機能を求めたのではな
く、神の栄光とあなたがた自身の永遠の幸いを求め
てきたのである。わたしはそのことを知っている。

26 あなたがたは、彼がはつきり言つたのでつぶやい
た。あなたがたは、彼が厳しかった、自分たちに對
して怒つたなどと^いう。しかし見よ、彼の厳しさ
は、彼の内にある神の御葉^{みこほ}の力の厳しさであつ
て、またあなたがたの言う怒りとは、神の内にある
真理にほかならない。それをニーファイは自ら抑え
ることができなくて、あなたがたの罪惡について大
胆に明あかにしたのである。

27 神の力が彼とともににあるのは必要なことであつ
て、彼が命じたことにあなたがたは従わなければ
ならない。しかし見よ、彼が口をつぐむことがで
きないほど彼の口を開いて語らせたのは、彼自身
ではなく、彼の内にある主の御靈^{みたま}であつた。

28 さて、わたしの息子レーマン、それにレムエ
ル、サム、ならびにイシマエルの息子であるわたし
の息子たちよ。見よ、あなたがたがニーファイの声
に聞き従うならば、滅びないであろう。そして彼
に聞き従うならば、わたしはあなたがたに祝福^{いっしゆくふく}

28 生得權 ^{じゆくせん}	GS 長子の特權 ^{ながごのとくせん}	27 教義 ^{きょうぎ} ③ ② ①	26 ① ② ① ① ① ①	25 ① ② ① ① ① ①	24 ① ② ① ① ① ①	23 教義 ^{きょうぎ} ③ ② ① ① ① ①
モロ 9	1 ニフ 16	1 ニフ 41	1 ニフ 16	1 ニフ 6	1 ニフ 11	エベ 6
121	48	43	37	32	17	37
33	48	43	9	11	17	4

を、それも第一の祝福を残そう。

29 しかし、もしあなたがたが彼に聞き従わないな
らば、わたしは第一の祝福、まことにわたしの祝福
を取り上げて、それをニーファイに授けよう。

30 さて、ゾーラムよ、わたしはあなたに告げる。見
よ、あなたはラバンの僕であつたが、エルサレム
の地から連れて来られた。わたしはあなたが息子
ニーファイにとつて、とこしえに眞の友であるこ
とを知つてゐる。

31 したがつて、あなたが忠実であつたので、あな
たの子孫はニーファイの子孫とともに祝福を受け
て、長くこの地の面に住んで栄えるであろう。そ
してあなたの子孫の中で罪悪が行われないかぎ
り、この地の面で栄えるのを損なつたり阻害した
りする者は、とこしえにないであろう。

32 それで、あなたがたが主の命令に従うならば、
主はこの地を聖別し、あなたの子孫をわたしの息子
の子孫とともに、安全に守つてくださるであろう。」

1 「さて、ヤコブよ、わたしはあなたに告げる。あ
なたは、わたしが荒れ野で艱難に遭つていたとき
に最初に生まれた子である。見よ、あなたは、幼いとき、あなたの兄たちが乱暴なためにひどい苦
難を味わい、つらい思いをした。

2 しかしながら、荒れ野で最初に生まれたわたし
の子ヤコブよ、あなたは神の偉大さを知つてゐる。
神はあなたの苦難を聖別して、あなたの益として
くださる。

3 そのため、あなたは祝福されて、兄ニーファイと
ともに安全に暮らすであろう。そして、神に仕えて
生涯を送るであろう。それでわたしは、あなたが贖
い主の義によつて贖われてることを知つてゐる。
それは、時が満ちると人に救いをもたらすために贖
い主が来られることを、あなたが見たからである。

4 またあなたは、若いときに贖い主の榮光を見た。

第2章
贖いは聖なるメシヤを通してもたらされる。

選択の自じ

由は存在と進歩にとつて欠かせない。アダムが墮落した
のは人が存在するためである。人は自由と永遠の命を選
ぶことを許されている。紀元前約五百八十八年から五百
七十年に至る。

4 ①	1 ①	アブ	1 3
2 二	ニフ	4	6 20
5	11	18	
3, 7			

ヤコブ
第2章

だからあなたは、贖い主が肉にあつてお仕えになるときにそれを受ける人々と同じように幸いである。それは、御靈は昨日も、今日も、またどこしえに変わらない御方だからである。人の墮落以来、方法が用意されており、救いは無料である。

5人は善惡をわきまえることを十分に教えられてゐる。また、人は律法が与えられている。しかし、この律法によつて義とされる者はだれもいない。すなわち、この律法によつて人は絶たれるのである。まことに、現世にかかる律法によつて人は絶たれ、また靈にかかる律法によつても人は絶たれて、どこしえに惨めな状態になる。

6したがつて、贖いは聖なるメシヤによつて、またメシヤを通じてもたらされる。それは、メシヤが恵みと真理に満ちておられるからである。

7見よ、メシヤは律法の目的を達するため、打ち碎かれた心と悔いの靈を持つすべての人のために、罪に対する犠牲として御自身をささげられる。このような人々のためにしか、律法の目的は達せられないのである。

が用意されており、救いは無料である。
5人は善悪をわきまえることを十分に教えられて
いる。また、人は律法が与えられている。しかし、この律法によつて義とされる者はだれもいない。すなわち、この律法によつて人は絶たれるのである。まことに、現世にかかる律法によつて人は絶たれ、また靈にかかる律法によつても人は良いものから絶たれて、とこしえに慘めな状態

8 したがつて、これらのこととを地に住む者に知らせて、聖なるメシヤの功德と憐れみと恵みによらなければ、だれも神の御命を守める者がいないことに気づかせるのは、何と大切なことであろうか。聖なるメシヤは、肉において御自分の命を一度捨てて、そして、死者の復活をもたらすために御靈の力によって再びそれを得て、最初によみがえる者となられる。

9 したがつて、メシヤは神にとつて初穂となられるので、すべての人の子らのために執り成しをしてくださる。だから、メシヤを信じる者は救われるのである。

10 また、すべての人への執り成しががあるので、人は皆、神のみもとに来る。そのため、彼らは神の御前に立ち、神の内にある真理と聖さによつて裁かる。したがつて、聖人が授けられた律法の目は、定められた罰の執行にあり、贖罪の目的を達するため定められた罰を科することは、同じで定められている幸福を与えることと相対して

10 また、すべてのひんとの執り成しがあるので、ひんとは皆、神のみもとに来る。そのため、彼らは神の御み前に立ち、神の内にある真理と聖さによつて裁かれる。したがつて、聖者が授けられた法律の目的は、定められた罰の執行にあり、贖罪の目的を達するためには定められた罰を科することは、同じ目的で定められている幸福を与えることと相対している。

子よ、もし事物に反対のものがなければ、義は生じ得ないし、邪惡も、聖さも慘めな状態も、善も悪も生じ得ない。そうすると、すべての事物は混じり合つて一つとならざるを得ない。したがつて、事物が一体となるならば、生も死も、朽ちない状態もなく、幸不幸も、意識も無意識もなく、死んだ状態で続かなければならぬ。

12 そうすると、すべての事物は無用に造られたといふことになり、したがつて、創造には何も目的がないことになる。そのため、この一体となつた事物は神の知恵とその永遠の目的、また神の力と憐れみと公正を滅ぼしてしまふに違ひない。

13 もし律法がないと言うならば、罪もないと言わなかつたことになる。そのため、この一体となつた事物は神の知恵とその永遠の目的、また神の力ともないと言わなければならぬ。そして、もし義がなければ、罰も幸福もない。そして、義も幸福もなければ、神は実在しない。神が実在しなければ、わたしたちは存在せず、大地もない。なぜならば、作用するものも作用されるものもなく、事物の創

ぞう
造はり得なかつたからである。そこで、すべての
じぶつ
事物は消えうせていたに違ひない。

14さて、息子たちよ、わたしがこれらのこととをあなたがたに話すのは、あなたがたの利益となり知識となるようにするためである。それは、神が実在し、すべての事物を、すなはち天地とその中にある万物創造されたからである。

12 そうすると、すべての事物は無用に造られたということになり、したがつて、創造には何も目的がないことになる。そのため、この一体となつた事物は神の知恵とその永遠の目的、また神の力と憐れみと公正を滅ぼしてしまふに違ひない。

13 もし法律がないと言ふならば、罪もないと言わなければならぬ。つまり云ふば、きみが

15 また、神がわたしたちの最初の先祖と野の獸と空の鳥、^{とり}要するに、^{ようするに}創造されて現在あるすべての事^じ物^{ぶつ}の^のを創造された後、^{のち}人の行く末にかかる永遠の^{えいえんの}命^{めい}の^の力を達するため^{てき}に反対のものが備えられなくてはならなかつた。すなわち、禁斷^{きもん}の^の実^みに對しては、^{たいしては}命^{めい}の^の一方は甘く他方^{ほかほう}は苦かつてゐる。

「もないと言わなければならぬ。そして、もし義がなければ、幸福はない。そして、義も幸福もなければ、罰も不幸もない。そしてこれらのものがなければ、神は実在しない。」神が実在しなければ、わ

16 そのようにして、主なる神は思ひのままに行ふ。されど、
することを人に許された。しかし人は、一方に誘うておもひのままに行ふ。
われるか、他方に誘われるかでなければ、まことに行動することはできなかつた。

「わたしひーハイは、自分が読んだことから考へるのだが、記録にあるとおり神の一人の天使が天

18 彼は天から落ちて、どこしえに惨めな状態になつたので、全人類もまた慘めな状態にしようとした。そこで彼、すなわち悪魔であり、あらゆる偽善悪を知つて神のようになるであろうと言つた。

19 アダムとエバは禁断の実を食べた後、エデンの園から追い出され、地を耕すことになつた。

20 そして彼らは、子供をもうけ、まことに全地の家族をもたらした。

21 また、人の子らの命は、肉にある間に悔い改めることができるよう、神の御心によつて引き延ばされた。したがつて、彼らの状態は試しの状態となり、彼らの寿命は主なる神の子らに与えられた命令で長くされた。主なる神が、すべての人は悔い改めなければならぬと命じられたからである。主なる神はすべての人に、先祖の背きのために彼らが道に迷つた状態にあることを示されたのである。

22 ところで見よ、アダムがもし背なかつたなら
ば、彼は墮落をせずにそのままエデンの園にいた
であろう。そして創造されたすべてのものは、創
造された後の状態そのままで存続したに違ひな
い。また、すべてのものはとこしえに存続し、終お
わりがなかつたに違いない。

23 そして、アダムとエバは子供を持たなかつたで
ある。また、不孝を知らないので喜びもなく、
罪を知らないので善も行わず、罪のない状態にと
どまつていたであろう。

24 しかし見よ、すべての物事は、万事を御存じで
ある御方の知恵によつて行われてきた。

25 アダムが墮落したのは人が存在するためであ
り、人が存在するのは喜びを得るためである。

26 そして時が満ちると、人の子らを墮落から贖う
ためにメシヤが来られる。人の子らは墮落から贖う
われているので、すでにとこしえに自由となり、
善悪を知るようになつていて。彼らは神が下さ
れた戒めによつて、大いなる終わりの日に律法に
伴う罰を受けるほかは、思いのままに行動するこ
とができる、強いられることはないのである。

27 そのため、人は肉においては自由であり、人のために必要なものはすべて与えられる。そして人には、すべての人の偉大な仲保者を通じて自由と永遠の命を選ぶことも、あるいは悪魔の束縛と力に応じて束縛と死を選ぶことも自由である。悪魔は、すべての人が自分のように惨めになることを求めているからである。

28 ところで、息子たちよ、わたしはあなたがたが偉大臣の仲保者に頼り、主の大いなる戒めに聞き従い、主の御言葉に忠実であつて、主の聖なる御靈の御心に添つて永遠の命を選んでほしいと思つてゐる。

29 肉の思いとその中に潜む悪と、永遠の死を選んではならない。肉の思いは、悪魔の靈に力を与え、あなたがたを捕らえて地獄に落とし、悪魔は彼自身の王国であなたがたを支配するであろう。

30 息子たちよ、わたしは自分の試しの生涯が終わるうとするに当つて、これらのわずかな言葉を、あなたがたすべての者に告げておく。わたしは預言者の言葉に従つて善なるものを選んできた。わたしには、あなたがたの永遠の幸いを願う以外に何

の目的もないものである。アーメン。』

第3章

エジプトにおいてヨセフは示現でニーファイ人を見た。ヨセフは、末日の聖見者ヨセフ・スマスと、イスラエルを救い出すモーセと、世に出る『モルモン書』について預言した。紀元前約五百八十八年から五百七十年に至る。

1 「わたしの末の子であるヨセフよ、わたしはあなたに告げる。あなたはわたしが苦難に遭つた荒れ野で生まれた。まことに、わたしが大いに嘆き苦しんでいたころに、あなたの母はあなたを産んだ。
2 あなたとあなたの子孫がイスラエルの聖者の戒めを守ることにより、主があなたの受け継ぎとして、またあなたの同胞とともにあなたの子孫が受け継ぐ地として、またとこしえに安全な地として、最も貴い地であるこの地を聖別してくださるようになさってください。わたしは苦難に遭つた荒れ野から連れて来た末の子ヨセフよ、主がとこしえにあなたを祝福してください。あなたの子孫がことごとく地の上に生きるようだ。

2 1
2 ① ①
1 ニフ 2 18
12 20, 7

第3章

29 28
モセ 6・56
ガラ 5・1
① ② GS GS GS 「永遠の命」
アロマ 6・16
仲保者 11・18
GS 「地獄」

く滅びてしまうことはないであろう。

4 見よ、あなたはわたしの腰から出た者でるものであり、また
① いた囚われの身こみとなってエジプトへ連れて行かれたり
ヨセフの子孫しそんだからである。主しゅがヨセフに立てられた
聖約せいやくは偉大偉だいである。

5すなわち、ヨセフはまことにわたしたちの時代を見た。そしてヨセフは、主なる神がイスラエルの家にかなつた枝^(さだ)を起^(おこ)されると、主の約束を受けた。その枝^(えだ)といふのはメシヤではなく、折り取られる一本の枝^(いだ)のことである。この枝^(えだ)は、折り取られるにもかかわらず、主の聖約^(せいやく)の中で思^(おも)い起^(おこ)される。その聖約^(せいやく)とは、彼らを暗闇^(くらやみ)から光に連れ出^(だ)すために、まことに隠れた暗闇^(くらやみ)と東縛^(とうばく)から自由へ連^(つ)れて出すため、メシヤが力の靈^(れい)によつて末日^(まつじつ)にその御姿^(みがた)を彼らに現^(あらわ)されるというものである。

ヨセフはまことに誓して言つた。『主なるわたしの神は、ひとりの聖見者を立てられる。それは、わたしの腰から出た者のためのえり抜きの聖見者である。』

こう言われた。「わたしはあなたの腰から出た者のなかから、一人のえり抜きの聖見者を立てよう。彼はあなたの腰から出た者のなかでおおいに尊ばれるであろう。わたしはその聖見者に、彼の同胞であるあなたの腰から出た者のために一つの業を行いうように命じよう。その業は、彼らにとつて大いに価値のあるものであり、わたしがあなたのお先祖と交わした聖約をあなたの腰から出た者に知らせるものである。

8 わたしはその聖見者に、わたしが命じる業のはかには何の業も行わないように命じよう。彼はわたしの業を行うので、わたしは彼を、わたしの目にかなった偉大なる者としよう。

9 その聖見者はモーセのよう偉大である。モーセとは、わたしの民を救い出すために、おお、イスラエルの家よ、わたしがあなたのために立てると言つておいた者である。

10 わたしはモーセを立てて、あなたの民をエジプトの地から救い出そう。

11 しかし、わたしはあなたの腰から出た者のなかひとりの聖見者を立て、わたしの言葉をあなたの腰から出た子孫に伝える力を彼に授けよう。また、

わたしの言葉を伝えるだけではなく、すでに彼らの中へ伝わっているわたしの言葉を確信させる力も授けよう。

12 そのために、あなたの腰から出た者は書き記す。またユダの腰から出た者も書き記す。そして、あなたたちの腰から出た者が書き記すものと、ユダの腰から出た者が書き記すものは一つに合わされて、偽りの教義を打ち破り、争いを鎮め、あなたの腰から出た者の中に平和を確立し、また末日に先祖についての知識を彼らに与え、そしてまた、わたしの聖約についても知らせる。』主はそう言われる。

13 「おお、イスラエルの家よ、あなたを元どおりにするために、わたしの業がわたしのすべての民の中で始まるその日、その聖見者は弱さを強くされると主は言われる。』

14 またヨセフは次のように預言した。『見よ、主はその聖見者を祝福される。わたしがわたしの腰から出た者について主から頂いたこの約束は、必ず果たされるので、その聖見者を滅ぼそうとする者は打ち破られる。見よ、わたしは、この約束が果たされることを確信している。』

15 その聖見者の名はわたしにちなんで付けられ、またその名は彼の父の名を取つて付けられる。そして、彼はわたしのようである。主が彼の手により、主の力によつてもたらされるものが、わたしの民を救いに至らせるからである。』

16 まことにヨセフは、次のように預言した。『わたしは、モーセについての約束を確信しているように、このことも確信している。それは主が、「あなたの子孫をとこしえに守ろう」とわたしに言われたからである。

17 また、主は言られた。『わたしはモーセを立てよう。そして、杖をもつて彼に力を与え、また明瞭に書き記す力も彼に与えよう。しかしあたしは、彼の舌を緩めて、彼がよく語れるようにはしない。わたしは彼を、語るに力ある者はとはしないからである。しかしわたしは、自分の手の指でわたしの律法を彼に書き与え、また彼のために一人の代弁者を備えよう。』

18 主はまたわたしに言られた。『わたしはあなたの腰から出た者のために聖見者を立て、また彼のためには一人の代弁者を備えよう。そして見よ、わたしは

12	17	16	15	モル	モル	エゼ
②モセ	①①	②①	⑥モロ	7	1	37
出申命	創世記	歴史	18	2	11	聖書
エ	10	1	8	30	10	13
4	19	1	3	5	15	23
16	2	1	8	14	41	29
			4	9	20	29
				10		

その聖見者に、あなたの腰から出た者の書き記したものをあなた腰から出た者に書き伝えさせる。ま

た、あなたの子孫の代弁者がそれを告げしらせる。

19 その聖見者が書き記す言葉は、わたしの知恵になつて、あなたの腰から出た者に伝わる言葉である。それはあたかも、あなたの腰から出た者が、

地から叫んでいるかのようである。わたしは、彼らの信仰を知つてゐるからである。

20 あなたの腰から出た者は、地から叫ぶ。すなわち、多くの時代が過ぎてから、彼らの同胞に悔い改めを叫ぶ。そして、彼らの叫びは分かりやすい言葉で伝わる。

21 彼らの信仰のゆえに、彼らの言葉はわたしの口から出て、あなたの腰から出た者である彼らの同胞に伝わる。わたしは彼らの言葉の弱いところを、彼らの信仰のゆえに強くし、わたしがあなたの先祖と交わした聖約を思い起させよう。』

22 さて見よ、わたしの息子ヨセフよ、わたしの遠い先祖はこのように預言した。

23 したがつて、あなたたはこの聖約によつて祝福されている。あなたの子孫はその書物の言葉に聞き

従うので、滅ぼされないからである。

24 あなたの子孫の中に、一人の力ある者が現れる。その者は神の御手に使われる者として、篤い信仰をもつて、言葉にも行いにも大いに善をなし、偉大な驚嘆すべきことを行い、また神の目に大きいことを行い、イスラエルの家とあなたの兄たちの子孫に對して十分な回復をもたらす。

25 さて、ヨセフよ、あなたたは幸いである。見よ、あなたたはまだ若いので、兄のニーファイの言葉に聞き従いなさい。そうすれば、わたしの語つた言葉のとおりになるであろう。もうすぐこの世を去ろうとする父の言葉を覚えておきなさい。アーメン。』

第4章

リーハイ、子孫に勧告と祝福を残す。その後、死んで葬られる。二ーファイ、神の慈しみを喜び、とこしえに主に信頼を寄せる。紀元前約五百八十八年から五百七十年に至る。

1 さて、わたしニーファイは、エジプトに連れて行かれたヨセフに關し、父が語つた預言について述

べ
る。

見よ、ヨセフは自分のすべての子孫について預言した。そして、彼の書き記した預言に勝るものはない。彼はわたしたちと、わたしたちの将来の子孫について預言した。その預言は真鑑の版に書き記されている。

3 それで父は、ヨセフの預言について語り終えると、レーマンの子供、すなわちレーマンの息子、ちよつての息子や娘であるわたしの孫たちよ、わたしの言葉に耳を傾けてほしい。

4 それは主なる神が、「あなたがたは、わたしの命を守るかぎり地に榮える。しかし、わたしの命を守らなければ、わたしの前から絶たれる」と言われたからである。

しかし見よ、わたしの孫たちよ、わたしはあなたがたに祝福を残さなければ、墓に入ることがでない。見よ、わたしは、あなたがたが行くべき道から離れないことに従つて育てられるならば、その道から離れないことを知つておられるからである。

「あなたがたがたから取り去られた、見よ、そののろいがあなたがたに帰するように、わたしはあなたがたに祝福を残す。」

「したがつて、わたしの祝福のゆえに、主なる神がお前を、とこしえに憐れんでくださるであろう。」

「さて、父はレーマンの息子、娘たちに語り終えると、次にレムエルの息子、娘たちを自分の前に連れて来させた。

「そして、父は彼らに言つた。「見よ、わたしの次男の息子や娘である孫たちよ、見よ、わたしはレーマンの息子、娘たちに残した祝福と同じ祝福をあなたがたに残す。したがつて、あなたがたはことごとく減ぼされてしまうことはなく、あなたがたの孫は、最後には祝福されるであろう。」

「そして父は、彼らに語り終えると、見よ、イシマエルの息子たちと、またイシマエルの家のすべての者に語つた。

「そして、彼らに語り終えると、父はサムに言つた。「あなたとあなたの子孫は幸いである。あなたは弟の二ツアイと同様に、地を受け継ぐからであ

10		7	6	5	4	3	2	1
①	ヒ	ヤ	ニ	教	①	①	②	①
1	ラ	コ	二	義	①	②	GS	2
15	ニ	コ	一	2	教	ニ	二	フ
12	フ	10	ニ	箴	言	二	フ	3
7	15	18	13	17	「	福	一	初子」
6	13	9	18	30	22	福師の	9	初子
	、	19	31	25	6	祝		
				6				

る。あなたの子孫は、ニーファイの子孫とともに數えられる。そして、あなたは弟と同じようになり、あなたの子孫は弟の子孫と同じようになる。そしてあなたは生涯、祝福を受けるであろう。」

12 そして父リーハイは、自分の心に感じるままに、また自分の内にある主の御靈に従つて、自分の家のすべての者に語つた後、年老いて、死んで葬られた。

13 さて、父の死後幾日もたたないうちに、レームエル、それにイシマエルの息子たちは、主の勸告のことでわたしに腹を立てた。

14 それは、わたしが主の言葉に促され、やむを得ず彼らに語つたからである。わたしはそれまでに多くのことを彼らに語り、父も生前によくことを彼らに語つてきた。そして、語つたことで、やむを得ず彼らに語つたからである。わたしはの多くは、わたしの造つたほかの版には、歴史に関する部分が多く書き記してあるからである。

15 そしてこの版には、わたし自身のことと、真鑑の版に刻まれている聖文の多くを書き記す。わたしは聖文に喜びを感じるからである。わたしは聖文

について心に深く考え、わたしの子孫の知識となり利益となるようにこれを書き記す。

16 見よ、わたしは主に関することに喜びを感じる。わたしの心は、これまでに見聞きしたこと

絶えず深く考へていて。

17 それでも、主が深い慈悲を、大いなる驚くべき業の中でわたしに示してくださつているにもかかわらず、わたしの心は、「おお、わたしは何と惨めな人間なのだろう」と叫ぶ。まことに、わたしの心はわたしの肉のために苦悩し、わたしの靈はわたしの罪惡のために嘆く。

18 わたしは、非常にたやすくまとわりつく誘惑と罪に取り囲まれている。

19 そしてわたしが喜ばうとすると、心は罪のためにうめき苦しむ。それでもわたしは、これまでに自分がだれに頼つてきたかを知つていて。

20 わたしを支えてこられたのは神である。神はわたしが荒れ野で苦難に遭つていたときには、いつもわたしを導き、また底知れない深みの海の上でも、わたしを守られた。

21 神は、わたしの肉体が燃え尽きるほどに、わたし

18	17	16	15	14
① GS GS	② GS GS	③ GS GS	④ GS GS	⑤ GS GS
教義	ニフ	「心」	「聖文」	「深く
ロマ	9	10	6	16
7	7	24	4	17
ヘブ	21	23	1	1
7	1	23	23	1
12	1	23	19	1
1	2	23	19	1

を愛で満たされた。
（①あいみ）

22 また、わたしの敵を辱め、わたしの前で彼らの身を震えさせられた。

23 見よ、神は、日中はわたしの嘆願を聞き、夜は示現によつてわたしに知識を授けられた。

24 また日中、わたしは神の前に熱烈な祈りを力強くささげ、まことにわたしの声を天に向かって上げ

た。すると天使たちが降つて来て、わたしに仕えてくれた。

25 わたしの体は神の御靈の翼に乗せられて、非常
に高い山の上に運ばれて行つた。そしてわたしの
目は数々の偉大なことを、まことに人にとつてあま
りにも偉大すぎるを見た。そのためわたくし
は、それらのことを書き記してはならないと告げ
られた。

26 おお、わたしのがそれほど偉大なことを見たのであれば、そして主が、人の子らに対して御自身を低くして、それほど深い憐れみをもつて人々を訪れてこられたとするならば、たとえわたしが苦難に遭つたからと⁽¹⁾言つて、どうしてわたしの心が涙し、わたしの靈が悲しみの谷にとどまり、わたしの肉体

がやせ衰え、わたしの力が弱くなつてよいだらうか。

27 またわたしの肉のことで、どうして罪に負けてよいだろうか。まことに、どうして誘惑に負け

て、悪しき者がわたしの心に入つて、わたしの平安を破り、わたしの靈を苦しめるのを許してよいだ

ろうか。わたしが敵のことで怒りを抱くのはなぜなのか。

28 目覚めよ、わたしの靈よ。もはや罪の中でおれ
るな。喜べ、おお、わたしの心よ。もうわたしの

敵に場所を与えてはならない。
29 わたしの敵のこと^{てき}で二度と怒つてはならない。
なん ちから よわ 苦く

難のため力を弱くしてはならない。
よろこび、おお、わたしの心よ。主に叫び求めて言い

え。「おお、主よ、わたしがどこしえにあなたをほめたたえます。まことに、わたしの神かみであり、わたくしの主よのじです。

しの救いの岩であるあなたの喜びます。

を離の手からお救いください。わたしは罪の兆に震えおののくようにしてください。

悔っていますので、地獄の門がいつもわたしの前

に閉じて います ように。おお、主よ、わたしが低い
谷の道を歩み、しっかりと平坦な道を進むことがで
きる ように、わたしの前で義の門を閉ざさないでく
ださい。

33 おお、主よ、あなたの義の衣でわたしを包み込
でください。おお、主よ、わたしが敵の前から逃れ
られる ように道を備えてください。わたしの前に道
をまっすぐにしてください。つまずかせるものを
わたしの道に置かず、わたしの前に道を開いてくだ
さい。わたしの道を遮らず、敵の道をふさいでくだ
さい。

34 おお、主よ、わたしはあなたを頼つてまいりまし
た。これからもとこしえに、あなたを頼つてまい
ります。わたしは肉の腕に頼る者はのろわれること
とを知つて いるので、肉の腕には頼りません。まこと
とに、人に頼る者、すなわち肉を自分の腕とする
者はのろわれます。

35 まことに、わたしは、神は求める者には惜しみ
なく与えられることを知つています。わたしが道理に外れた求め方をしなければ、わたしの神はわ
たしに与えてくださいます。それでわたしはあなた

に声を上げ、まことに、わたしの神、わたしの義の岩であるあなたに叫び求めます。まことに、わたしの声はわたしの岩であり、永遠の神であるあなたのものとに、とこしえに上ることでしよう。アーメン。」

第5章

二ーファイ人はレーマン人から分かれ、モーセの律法を守り、神殿を建てる。レーマン人は不信仰のために主の前から絶たれ、のろいを受け、二ーファイ人にとって鞭となる。紀元前約五百八十八年から五百五十九年に至る。

1さて見よ、わたしニーファイは、兄たちが腹を立てたので、主なるわたしの神に切に叫び求めた。
2しかし見よ、わたしに対する兄たちの怒りは激しくなり、彼らはわたしの命を奪おうとした。

3まことに彼らは、わたしに向かつてつぶやいて言つた。「弟は我々を支配しようと思つてゐる。我々は彼のためひどい試練を受けてきた。見よ、もう弟の言葉で苦難を味わわなくとも済むよ

3 1
モサ 10.
14.
15.
38 14.

第5章

35
④ ③ ① ③
モサ 32
新ヤコ 1.
ヒラ 10.
申命 4.

32
GS「歩む
ともに」
モル 3.
エレ 17.
詩篇 44.
6 8.

うに、弟を殺してしまおう。は決してさせない。この民を支配する権利は、兄の我々にある。」

4 ところでわたしは、兄たちがわたしに對してつぶやいた言葉のすべてをこの版に載せることはしない。ただ、彼らがわたしの命を奪おうとしたと言えれば十分である。

さて、主はわたしニーファイに、彼らのもとを去つて荒れ野へ逃げるよう、またわたしとともにいきたい者も皆、そうするよう警告された。
①

「そこでわたしニーフアイは、自分の家族と、ゾーラムとその家族、兄サムとその家族、弟のヤコブとヨセフ、わたしの姉妹たち、そのほかわたしとともに行きたい者たち全員を連れて出た。わたしはとくとく行くことを望んだ者たちは皆、神の警告と啓示を信じる者たちであつたので、わたしの言葉に聞き従つた。

7 わたしたちは天幕と持てるものをすべて携え
て、幾日も荒れ野を旅した。そして、幾日も荒れ
野を旅した後、わたしたちは天幕を張った。

ぶことを^{のぞ}望んだので、わたしたちはその地^ちを二ーフ
アイと名付けた。

9 また、わたしとともにいた者たちは皆、自分たちを二ーファイの民と呼ぶことにした。
ちを二ーファイの民と呼ぶことにした。
(りきっぽう したが なにいふ)

10 わたしたちはモーセの律法に従つて、何事にも
主の裁決と捉と戒めを守るように努めた。

11 そして、主がわたしたちとともにおられた。わたしたちは種をまき、豊かに収穫して、非常に榮え

たゞまたわだしたちは大小の家畜の群れとあらゆる動物を飼い始めた。
（①しんちゅう）はん

わたしニーリファイは、眞鑑の版に刻まれた記録と、前にわたしがこの版に刻んだとおり、主の手に(③らしんばん)

よつて父のために備えられた球、すなわち羅針盤も持つて来た。

そこでわたしは非常に驚えて、その地で増え始めた。

それでわたし二
リーフアイは、テバンの剣を取
り、それに倣つて多くの剣を造つた。それは今や
一マノハニ乎ばして、いんまだ、つこくらを

「ほんと叫はれていた耳が、わたしを苦しめた。彼は滅ぼすことのないようになるためであつた。彼らがわたしとわたしの子供たちと、またわたしの民

14	12	10 9	8	6	5
② モヤ ① 教 26 ③ GS 1 GS ① ① GS ① ② ①	2 16	1 ① ② ①			
言コ 一義 17 37 18 1 モ版「モヤサ 9 オムニ」	7、	1 GS サ	ニ靈 10		
GS 1 1 二ニ 1 38 12 フ 1 七ニ 1 二ニ 1 警告	1	1	30	4 感	13
「レ 13 10 4 47 21 16 16 3 法 4, 14 28 27	32	35			
一マ 9 、 10 4 法」	16				

と称する者たちを憎んでいることを、わたしは知つてからである。

15 わたしは民に、建物を建てるのことを教え、また非常に豊富にあつた木材や鉄や銅、また真鍮や鋼や金や銀や貴重なあらがねなど、あらゆる材料で物を作り出すことを教えた。

16 また、わたしニーファイは神殿を建てた。ソロモンの神殿に倣つて建てたが、その違いは、建てるのでそれほど多く貴重な品を使わなかつたことである。そのような貴重な品がこの地になかつたため、ソロモンの神殿と同じように建てることができるなかつた。しかし、建築の様式はソロモンの神殿と同じで、その造りは非常に見事であつた。17 そしてわたしニーファイは、民を勤勉に働かせ、また手を使つて働くようにさせた。

18 さて、民はわたしが彼らの王になることを望んだ。しかしあたしニーファイは、彼らには王がない方がよいと思つた。それでも、わたしの力の及ぶかぎり彼らのために尽くした。

19 見よ、主は兄たちについて、わたしが彼らを治める者になり教える者になると言われたが、その

主の言葉はすでに成就していた。したがつて、彼らがわたしの命を奪おうとしたときまで、わたしは主の命令どおりに彼らを治める者、教える者となつてゐたのである。

20 それで、主がわたしに言われた、「あなたの言うことに聞き従わなければ、彼らは主の前から絶たれる」という御言葉は成就した。見よ、彼らは御前に下された。まことにひどいのろいを下された。見

21 主はまた、彼らの罪惡のために、のろいを彼らに下された。まことにひどいのろいを下された。見よ、彼らが主に対して心をかたくなにし、あたかも火打ち石のように硬くなつてしまつたからである。

それで主なる神は、彼らが肌の白い、非常に麗しく喜ばしい者たちであつたので、わたしの民に誘惑とならないよう、彼らの肌を黒ずんだ肌にされた。

22 主なる神はこう言われる。「彼らが自分たちの罪悪を悔い改めなければ、わたしは彼らをあなた

民にとつて不快な者としよう。」

23 彼らの子孫と縁を結ぶ者の子孫はのろわれる。それらの者は同じのろいを受けるからである。」主はそう言われ、そのとおりになつた。

23	22	21	19	18	17	16	15
①	②	①	①	①	①	①	①
GS	GS	GS	GS	GS	GS	エテ	エテ
「結婚・異なつた信仰を持つ人のとの	「二フ」	「二フ」	「ニフ」	「ニフ」	「アル」	創世記	創世記
結婚	23	16	14	12	9	3	3
					14	9	11
					21	22	23
					21	22	23

24 彼らは、自分たちに下されたのろいのために、
悪意と狡猾さに満ちた怠惰な民となり、荒れ野で
猛獸をあさつた。

25 主なる神はわたしに言われた。「彼らはあなたの
子孫にわたしのことを思いこさせるため、あなた
の子孫にとつて鞭となるであろう。そして、あなた
の子孫がわたしを覚えて、わたしの言葉に聞
き従わなければ、彼らはあなたの子孫を、滅びに
至るまで鞭打つであろう。」

26 さて、わたしニーファイはヤコブとヨセフを任
じ、彼らをわたしの民の地における祭司と教師にし
らした。

27 そして、わたしたちは幸福の習わしに従つて暮
三十年が過ぎた。

28 そして、わたしたちがエルサレムを去つてから
三十年が過ぎた。

29 わたしニーファイはこれまで、自分の造つた版
にわたしの民についての記録を付けてきた。

30 そこで、主なる神はわたしに、「ほかに版を造
り、あなたの民の益となるように、わたしの目に
善しとする多くの事柄をそれに刻みなさい」と言
った。

31 それでわたしニーファイは、主の命令に従い、
行つてこの版を造り、これらのこととを刻んだ。
32 わたしは神に喜ばれる事柄を刻んだ。もしもわ
たしの民が神にかかわる事柄を喜ぶならば、彼ら
はこの版にわたしが刻んだことも喜ぶであろう。
33 また、もしもわたしの民が自分たちの歴史につ
いてもつと詳しく知りたいならば、わたしの造つた
ほかの版を調べなくてはならない。

34 しかし、もう四十年が過ぎ去り、兄弟との間
にすでに戦争や争いがあつたと言えば、それで十
分であろう。

第 6 章

ヤコブ、ユダヤ人の歴史を詳しく述べる。バビロニア
捕囚と帰還。イスラエルの聖者の務めと十字架の刑。異
邦人から受ける助け。ユダヤ人がメシヤを信じるとき
起ころる末日のユダヤ人の回復。紀元前約五百五十九年か
ら五百四十五年に至る。

1 ニーファイの弟ヤコブがニーファイの民に語つた

言葉。

2 「見よ、わたしの愛する同胞よ、わたしヤコブは神から召され、神の聖なる位に従つて聖任され、またあなたがたが王すなわち保護者として頼り、身の安全のよりどころとしているわたしの兄ニーフアイによつて任じられたので、見よ、あなたがたも知つているように、わたしは非常に多くのことをあなたがたに語つてきた。

3 にもかかわらず、わたしはあなたがたの幸いを願つて、あなたがたに再び話ををする。まことに、わたしはあなたがたのことを非常に心配している。また、あなたがたも知つているように、わたしはこれまで心配してきた。そのためにわたしは、力の限りあなたがたに説き勧め、父の言葉をあなたがたに教え、また、世界の創造以来書き記されたすべての事柄について、あなたがたに語つてきた。

4 ところで、見よ、わたしはあなたがたに、現在あることとこれから起ることについて話したいと思う。それで、イザヤの言葉を読んで聞かせよう。これらの言葉は、わたしがあなたがたに話すようにと兄が望んだものである。わたしは、あなたがたに語つてきた。

5 さて、わたしがこれから読む言葉は、イザヤがイスラエルの家に属するすべての者について述べたものである。したがつて、あなたがたはイスラエルの家の者であるので、それらをあなたがたにたとえて差し支えない。また、あなたがたはイスラエルの家の者であるので、イザヤが述べたことの中には、あなたがたにたとえて差し支えないものがたくさんある。

6 ところで、イザヤの述べた言葉は次のとおりである。『主なる神はこう言われる。「見よ、わたしは異邦人に向かつて手を挙げ、もろもろの民に向かつてわたしの旗を掲げよう。すると彼らはあなたの息子たちを腕に抱き、あなたの娘たちを肩に乗せて来る。』

7 王たちはあなたの養父となり、王妃たちはあなたの養母となる。彼らは顔を地に向けてあなたに身をかがめ、あなたの足のちりをなめる。こうしてあなたたは、わたしが主であることを知る。わたしを待ち望む者は恥を受けないからである。』

モセ	7	6	4	2
1	①	②	①	①
6	GS	イザ	ニフ	ヤコ
133	「旗」	49	23	1
45		22	1	11
		23		

がイスラエルの聖者なる神であられることを知るのである。

16 「勇士から獲物をどうして取り返せようか。また正当な捕虜をどうして救い出せようか。」

17 しかし主はこのように言われる。『勇士の捕らえた捕虜さえ取り返され、荒々しい者に奪われたも

のさえ奪い返される。』力の神が御自分の聖約の民

を救い出されるからである。主はこう言われる。

『わたしはあなたと争う者と争う。』

18 わたしはあなたを虐げる者に、彼ら自身の肉を食わせる。彼らは甘いぶどう酒に酔うように自分の血に酔う。こうしてすべての者は主なるわたしがあなたの救い主、あなたの贖い主、ヤコブの力ある者であることを知るようになる。』

第 7 章

ヤコブ、イザヤ書から読み続ける。——イザヤ、メシヤに

ついて述べる。メシヤは博学な者の舌を持つておられる。また、打つ者に御自分の背を向けられる。メシヤは辱められることはない。イザヤ書第五十章と比較。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「まことに、主はこう言われる。『わたしはあなたを去らせたか。どこしえにあなたを捨てたか。』主は言われる。『あなたの母の離縁状はどこにあるか。わたしはあなたをだれのもとに去らせたか。どの債主にあなたを売り渡したか。わたしはだれにあなたを売り渡したか。見よ、あなたは自分の罪悪のために自分自身を売り渡し、あなたの母は、あなたの背きのために捨てられた。』

2 それゆえ、わたしが来たときにはだれもいなかつた。わたしが呼んだときに、まことに、答える者はだれ一人いなかつた。おお、イスラエルの家よ、わたしの手が短くて贖うことができないのか。わたしには救う力がないのか。見よ、わたしは海をしかつて干上がらせず、川を荒れ野とする。水が乾いてその中の魚は悪臭を放ち、渴きのために死ぬ。

3 わたしは天を暗黒で覆い、粗布をその覆いとする。』

4 おお、イスラエルの家よ、主なる神は博学な者の舌をわたしに与えて、わたしがあなたに、時宜を得た言葉をどのように語ればよいか分かるようになされた。あなたが疲れているとき、主なる神は

①	②	③	④	⑤	⑥	詩篇	1	2	1
ル	黙	出	ヨ	義	詩	133	106	1	イザ
カ	示	エ	シ	3	68	9	14	21	創世記 GS「背教、背信」
46	12	21	21	15	69				17
47					16				18 ① ③ ④ ⑤ ⑥ 17 ② ④ ⑤ ⑥ 19 ① ③ ④ ⑤ ⑥ 20 ② ④ ⑤ ⑥ 21 ③ ④ ⑤ ⑥ 22 ④ ⑤ ⑥ 23 ⑤ ⑥ 24 ⑥ 25

第 7 章

イザヤ書 GS「背教、背信」
17 ② ④ ⑤ ⑥ 18 ① ③ ④ ⑤ ⑥ 19 ① ③ ④ ⑤ ⑥ 20 ② ④ ⑤ ⑥ 21 ③ ④ ⑤ ⑥ 22 ④ ⑤ ⑥ 23 ⑤ ⑥ 24 ⑥ 25

16 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ 17 ② ④ ⑤ ⑥ 18 ① ③ ④ ⑤ ⑥ 19 ① ③ ④ ⑤ ⑥ 20 ② ④ ⑤ ⑥ 21 ③ ④ ⑤ ⑥ 22 ④ ⑤ ⑥ 23 ⑤ ⑥ 24 ⑥ 25
イサヤ書 GS「背教、背信」
17 節の主の聖約の

朝ごとに目覚めさせてくださる。主なる神はわたしの耳を開いて、博学な者として聞けるようにしてくださる。

5 主なる神は、わたしの耳を開かれた。わたしは逆らわず、退くこともしなかった。
 6 わたしは打つ者にわたしの頬を任せた。わたしは侮辱されても、つばきをかけられても、顔を隠さなかつた。
 7 主なる神がわたしを助けてくださるので、わたしは恥を受けない。それで、わたしは顔を火打ち石じのようにした。わたしは自分が辱められないことを知つてゐる。

8 主は近くにいて、わたしを義とされる。わたしと争う者はだれか。さあ、ともに立とう。わたしの敵はだれか。近くに来させよ。そうすれば、わたしは口の力をもつてその敵を打とう。
 9 主なる神がわたしを助けてくださる。わたしを罪に定める者は皆、見よ、衣のように古び、しみが彼らを食い尽くす。
 10 あなたがたの中で、主を畏れ、主の僕の声に従い、暗闇の中を歩いて光を持たない者はだれか。

11 見よ、火をともし、火の粉で自分の身を囲む者よ。あなたがたは皆、自分たちの火の光の中を歩み、自分たちのともした火の粉の中を歩め。あなたがたがわたしの手から受けるのは、苦しみのうちに横たわることである。」

第8章

ヤコブ、イザヤ書から読み続ける。——終わりの時に、主はシオンを慰め、イスラエルを集められる。贖われた者はおおきな喜びのうちにシオンに来る。イザヤ書第五十一章および第五十二章一一節と比較。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「義を追い求める者よ、わたしに聞き従え。あなたがたが切り出された岩と、あなたがたが掘り出された穴とを思いみよ。
 2 あなたがたの父アブラハムと、あなたがたを産んだサラとを思いみよ。わたしは彼ただ一人を召し、かれを祝福した。』
 3 主はシオンを慰め、すべてその荒れた所を慰められる。主はその荒れ野をエデンのようにし、そ

3	2 1
6 7	1 ② ① ② ① ① GS 「岩」
7	13 24 49 17 1 8
17	1 ① ① GS 「創世記」
17	1 ① ① GS 「創世記」
6 38 31	27 9 5 26 1

11	10	9	6	5
1 ① ①	1 ① ①	2 二	マタ 9 :	教義 58
士師 17 1	8	6	9	5 26 1

の砂漠^{さばく}を主^{しゆ}の園^{その}のようにされる。そこには喜びと樂^{よろこび}しみがあり、感謝^{かんしゃ}と歌声^{うたごえ}がある。

4『わたしの民^{みん}よ、わたしに聽け。おお、わたしの國民^{こくみん}よ、わたしに耳^{みみ}を傾けよ。律法^{りつぽう}はわたししからで出^だ、わたしは、わたしの裁き^{さばき}を民^{たみ}を照らす光^{ひかり}とする。

5わたしの義は近い。わたしの救いはすでに出ており、わたしの腕は民を裁く。もろもろの島はわたしを待ち望み、わたしの腕に頼る。

よ。天は煙けむり^①のように消えうせ、地は衣のよう^②に古ふるみ^③たしの救いはとこしえに続^{つづ}き、わたしの義は廢^{すた}れない。

フ 知ぎをしるものよ、わたしが心の中にわたしの律法りつぽうを書き記した民よ、わたしに聽け。人のそしりを恐れるな。ののしりを怖がるな。

9 みが彼らを衣のように食い尽くし、虫が彼らを羊の毛のように食う。しかし、わたしの義はどこしえに続き、わたしの救いは代々に及ぶ。』

13 天を広げ地の基を据えた、あなたの造り主である主を忘れるあなたは、何者であるか。虐げる者がまるで滅ぼす用意が整つたかのように憤つているのを、日々絶え恐れてきたあなたは、何者であるか。虐げる者の憤りはどこにあるのか。

14 流れの囚われ人は速やかに解き放されて、穴の中へ死ぬことなく、パンが尽きることもない。

12『そうしたのはわたしである。まことに、わたし
しがあなたがたを慰める者である。見よ、あなたは
何者なので、いつかは死ぬ人を、また草のようにな
る人の子を恐れるのか。

11 それゆえ、主に贋ぐられた者は帰つて来ます。^{(2)うた}
いながらシオンに帰つて来ます。そして、永遠の
喜びと聖さは彼らの頭上にあり、彼らは楽しみと
喜びを得、悲しみと嘆きは逃げ去ります。

の御腕よ、力をまとつてください。昔のように目を覚ましてください。かつてラハブを切り裂き、龍を貫いた御方は、あなたではありますんか。

10 かつて海を、すなわち大いなる深みの水を干上あがらせ、海の深みを贖われた者の通る道とされたお方は、あなたではありませんか。

15 わたしは波(なみ)をとどろかせる、主なるあなたの神(かみ)である。万軍の主とは、わたしの名である。

16 わたしは天(てん)を設け、地(ぢ)の基(もとい)を据え、シオンに向かつて、見よ、あなたはわたしの民(みん)である、と言うために、あなたはわたしの民(みん)である、と言うしの手の陰(かげ)であなたを覆つた。』

17 おお、エルサレムよ、目覺めよ、目覺めよ、立ち上がる。あなたは先に主の手から主の憤り(いきどお)の杯(さがさき)を飲んだ。すなわち、あなたは震える杯の搾り取つたかすを飲み干した。

18 彼女(かれじょ)が産んだすべての息子(むすこ)の中に、彼女(かれじょ)を導く者は一人もなく、彼女(かれじょ)が育て上げたすべての息子(むすこ)の中に、彼女の手を取る者は一人もいない。

19 これら二人の息子があなたのもとに来ている。この二人はあなたの荒廃と滅亡、飢饉と剣のゆえにあなたを哀れに思う。わたしはだれによつて、あなたを慰めようか。

20 あなたの息子たちは、この二人のほかは皆、気きを失つた。この二人はすべての通りの起點に当たる場所で横たわっている。網にかかつたかもしれないに、この二人には主の憤り、あなたの神の

責めが満ちている。

21 それゆえ、苦しむ者よ、ぶどう酒によらず酔つている者よ、今これを聞け。

22 あなたの主、御自分の民のこととを弁護なさるあなたの神、主はこう言われる。『見よ、わたしはあなたの手から震える杯を、すなわちわたしの憤りの杯のかすを取り除いた。あなたは二度とそれを飲むことはない。』

23 わたしは、あなたを苦しめる者の手にそれを渡そう。彼らは先にあなたに、「身をかがめて、我々が踏み越えて行けるようになせよ」と言った。そしてあなたは、自分の体を地面のようによつて通りのよう横たえて、彼らが踏み越えて行くに任せた。』

24 おお、シオンよ、目覺めよ、目覺めよ、力を着よ。おお、聖なる都エルサレムよ、美しい衣を着よ。これからはもう、割礼を受けない者と清くない者は、あなたの中に入つて来ることはないからである。

25 あなたの身からちりを振り落とせ。おお、エルサレムよ、立ち上がりつて座せ。おお、囚われたシオンの娘よ、あなたの首の縄を解き捨てよ。』

25	24	23	22	21	19	17	16	15
①	②	③	④	①	①	エ	二	ニ
④	②	①	①	①	①	ルカ	フ	フ
②	教義	13	ヨエ	3	17	25	3	4
13	9	7	1	8	11	イザ	9	2
10					15	セカ	29	24
					15	エレ	27	9
					12	50	4	2
					9	34	3	1
					1	1	1	1

ヤコブ、説き明かす。—ユダヤ人は将来に、彼らに約束されたすべての地に集められる。贖罪は人を堕落から贖う。死者の体は墓から出でて来る。その後、人は裁きを受ける。贖罪は人を死と地獄、悪魔、無窮の苦痛から救う。義人は神の王国に救われる。罪に対しては罰が宣告される。イスラエルの聖者門を守る御方である。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「さて、わたしの愛する同胞よ、わたしがこれらのことを見たのは、イスラエルの家に属するすべての者と交わされた主の聖約について、あなたがたに知らせるためである。

2 この聖約は、ユダヤ人が神のまことの教会と群衆に復され、彼らの受け継ぎの地に集め戻され、彼らに約束されたすべての地に定住する時が来るまで、主がはじめから代々、聖なる預言者たちのことを読んだのは、イスラエルの家に属するすべての者と交わされた主の聖約について、あなたがたに知らせるためである。

3 見よ、わたしの愛する同胞よ、わたしがこれらのことがあなたがたに話すのは、主なる神があな

たがたの子孫に授けられる祝福のことで、あなたがたが喜びを味わい、どこしえに頭を上げていらるようにするためである。

4 わたしはあなたがたが、すなわちあなたがたの多くが将来のことを探求して、大いに探し求めてきたことを知っている。その結果わたしに分かるのは、わたしたちの肉体は必ず衰えて死ぬけれども、将来わたしたちが肉体に附いて神にまみえることを、あなたがたが知っているということである。

5 また、まことにわたしに分かるのは、わたしたちが出て来たエルサレムで、将来、神が肉体に附いて人々に御自身を現されることを、あなたがたが知っているということである。そのことが、彼らの中で起こることが必要だからである。すべての人人が大いなる創造主に従うようになるためには、創造主御自身が肉に附って人のなすがままになり、すべての人のために亡くなられることが必要なのである。

6 死がすべての人には必ずようになつたので、大いなる創造主の憐れみに満ちた計画を成就するためには、復活の力が必ずなければならない。その復活

1 ① GS 「ア布拉ハムの聖約契約」	2 ① GS 「約束の地」
2 ② GS 「イスラエルの福の回復」	3 ② GS 「イスラエルの詩篇」
3 ① JS 詩篇 24・7-10 〔付録〕	4 ① GS 「創造、創造する」
モル 9:13-14, 15-16, 21-23	アル 11:41, 45, 42, 23,
ヨハ 12:26, 27-29, 32, 33-34	ヨハ 12:26, 27-29, 32, 33-34

い。墮落は背きのゆえに生じたのである。そして、人は墮落したために主の御前から絶たれてしまつた。

7 したがつて、贖罪は無限の贖罪でなければならぬ。もしそれが無限の贖罪でなければ、この朽ちるものが朽ちないものを着ることはできない。したがつて、人に下つた最初の裁きが限りなく続いたがつて、人間に下つた最初の裁きが限りなく続かなければならぬ。もしそうならば、この肉体は横たえられ、朽ち果てて母なる大地に返り、もう一度と起き上がるところがないに違ひない。

おお、神の知恵、神の憐れみと恵みよ。見よ、もしも肉体がもう二度と起き上がるこ^トがないとすれば、わたしたちの靈は、永遠の神の御前から落ちて惡魔となつたあの天使に従うようになり、もはや起き上^がることはない。

9 そして、わたしたちの靈は、あの天使のようになつてゐたに違ひない。わたしたちは惡魔の使いである惡靈となつて、神の御前から締め出され、偽りの父とともに、彼自身のように慘めな状態にどまつていたに違ひない。まことに、その者はわた

したちの始祖をだました者であり、⁽⁴⁾ 光の天使であ⁽⁵⁾

るかのよう^に、人の子らをそそのかして人殺^{ひとう}しをする秘密結社^{ひみつけいしゃ}を作^{つく}らせたり、あらゆる隠^{かく}れた闇^{やみ}の業^{わざ}を行わせたりする者^{もの}である。

10 おお、神の慈しみのなんが深いことか。わたしたちがこの恐ろしい怪物に捕まらないように、神は逃れる道を備えてくださつてゐる。まことに、その恐ろしい怪物とは死と地獄であり、わたしはそれを肉体の死および靈の死と呼ぶ。

11 イスラエルの聖者であるわたしたちの神の解放の道により、わたしが語つてきたこの死は肉体の死であつて、やがてその死者を解き放す。その死と墓のことである。

の死もやがてその死を解き放す。その靈の死とは地獄のことである。したがつて、死と地獄とはその死を解き放さなければならぬ。すなわち、地獄はそこに囚われている靈を解き放し、墓はそこに囚われている肉体を解き放して、人々の肉体と靈は互に復される。それはイスラエルの聖者の復活の力によるのである。

13 おお、わたしたちの神のかみの計画のけいかくの何なんと偉いだいなこと

よ。今語つたことのほかに、神のパラダイスは義人の靈を解き放し、墓は義人の体を解き放さなければならぬ。そして、その靈と体は再び本来のものに回復され、すべての人は不朽となり、不死となる。彼らは生けるものであつて、わたしたちのようにも肉にあつて完全な知識を持つ。わたしたちが持

14 つて いる 知識は、そ のとき に 完全 に なる の で ある。
それで わたし た ち は、自 分 に 罪 が あ る こと、汚 け が
れ て い る こ と、裸 で あ る こ と に つ い て、す べ て 完
全 な 知識 得 る。ま た 義 人 は、自 分 の 喜び と 自 分
の 義 に つ い て 完 全 な 知識 得 得、潔 白 を、ま こと に
義 の 衣 を ま と う。

15 そしてすべての人は、この第一の死から命に移行すると、すでに不死となつてるので、イスラエルの聖者(いせうしゃ)の裁き(さばき)の座の前に出なければならぬ。それから裁き(さばき)があつて、すべての人は神の聖なる裁きによつて裁かれなければならない。

16 そして、義にかなつた者はそのまま義の状態にあり、汚れている者は、そのまま汚れた状態にある。このことは、主が生きておられるように確かにある。主なる神がそう言わされたからであり、これ

は、決して過ぎ去ることのない神のえいえんの御言葉ば
である。ところで、汚れている者は悪魔と悪魔の使
使いであり、これらの者は、彼らのために用意され
た永遠の火の中にに入る。彼らの苦痛は、炎がどこ
しえに立ち上つて消えることのない、火と硫黄の
池のようである。

17 おお、わたしたちの神の偉大で公正なことよ。
神は御心のすべての御言葉がすでに神の口から出たもので、その律法は成就されなければならぬものだ
からである。

18 しかし見よ、義人、すなわちイスラエルの聖者

の聖徒たち、イスラエルの聖者を信じてきた者たち、世の十字架を堪え忍んできた者たち、世の辱めをいとわなかつた者たち、これらの人々は、世の初めから彼らのために用意された神の王国を受け継ぐ。そして彼らの喜びは、どこしえに満たさ

れるであろう。

19 おお、イスラエルの聖者であるわたしたちの神の憐れみ深いことよ。神は御自分の聖徒たちをあらう。恐ろしい怪物、すなわち悪魔と死と地獄と、無む

19	18 17
② ① ⑥ ⑤ ④ ③ ② ① ① 教	2 ⑦ ⑥ ⑤ モ
GS 1 GS 教 GS アル GS GS 63	ニフ 黙モ GS 1
「ニ『永45昇1314聖正17」	示サ「」
「地フ水洋界」	28: 21 27 悪4

	16	15
教義	④ ③	教義
列	88	モル
上義	9	アル
38 8	56 35	1 GS
14 21		ニフ
		「汚」
		30
		「ニフ」
		19
		詩篇
		GS
		箴言
		「31」
		終

14	13
⑥ ⑤ ④ ア ③ ② ① ⑥ ⑤ ④ ③ GS ②	
教 GS GS ル モ GS 教 GS GS ア 「教 義 「「 5 サル 「義 「「 11 ル パ 09 清 義 18 3 9 罪 130 完 不 138 ダラ	

窮の苦痛であるあの火と硫黄の池から救われる。

おお、わたしたちの神の聖さは何と偉大なことか。神はすべてのことを御存じであり、神の御存じでないことはない。

21 神は、神の声に聞き従うすべての人を救うために、この世に来られる。見よ、神はすべての人の苦痛、まことに男、女、子供の区別なく、アダムの家族に属する、生けるものすべての苦痛を受けられる。

22 神がこれを受けられるのは、復活がすべての人におび、大いなる裁きの日に、すべての人が神の御前に立つようにするためである。

23 また神は、すべての人に、イスラエルの聖者に対し完全な信仰を抱きながら、悔い改めて、神のみによつてバブテスマを受けなければならぬと命じておられる。そうでなければ、人は神の王国に救われない。

24 もし彼らが、悔い改めて神の御名を信じることをせず、またその御名によつてバブテスマを受けることなく、最後まで堪え忍ぶことをしなければ、彼らは罰の定めを受ける。イスラエルの聖者

である主なる神が、そう言われたからである。
25 それゆえ、イスラエルの聖者は律法を授けられた。律法がないところには罰がない。また罰のないところには罪の宣告もない。そして、罪の宣告の者の方によつて救われているからである。
26 その贖罪は、律法を与えたことのないすべての人にとっても、神の正義の要求を満たすので、これらの人々は、あの恐ろしい怪物、すなわち死と地獄と悪魔と、無窮の苦痛である火と硫黄の池から救われて、彼らに息を与えてなつたイスラエルの聖者である神のみもとに連れ戻されるのである。

27 しかし、すでに律法を与えられ、まことにわたしたちと同じように神のすべての戒めを受けていたがら、それらに背き、自分の試しの生涯をいたずらに過ごす者は災いである。その者の状態は恐ろしいものである。

28 おお、悪しき者のあの狡猾な策謀よ。おお、人

28 27	①② GS	26	25	24	23	21	20 19
①② GS	26	25	24	23	21	20 19	教義「イエス・キリスト」
アブ 5 93	アル 34 15	アル 42 12	新ヤコ 4 17	GS GS GS 「イエス・キリスト」	教義「アダム」	教義「アダム」	聖書「イエス・キリスト」
アルカ 28 12	モサ 15 24	モサ 15 24	トモサ 18 19	GS GS GS 「堪え忍ぶ」	GS GS GS 「堪え忍ぶ」	GS GS GS 「堪え忍ぶ」	聖書「堪え忍ぶ」

の虚榮と意志の弱さと愚かしさよ。人は學識がある。ひとは、^{（さうい）}がくしきがある。
ると自分は賢いと思い、神の勧告に聞き従わな
い。そして自分で分かると思つて神の勧告を立
無視するので、彼らの知恵は愚かであつて役に立
たない。そして彼らは滅びるのである。

しかし、神の勧告に聞き従うならば、學識があ
るのによいことである。

とされるからである。

35 故意に人を殺す者は災いである。彼は死ぬからである。

36 みだらな行いをする者は災いである。彼らは地獄に突き落とされるからである。

37 偶然を押する者は災いである。すべての悪靈がある。彼らは神のみもとに帰つて神の御顔を仰ぐが、罪の中にとどまるからである。

38 要するに、罪を抱いたまま死ぬ者は皆、災いである。彼らは神のみもとに帰つて神の御顔を仰ぐが、罪の中にとどまるからである。

39 おお、わたしの愛する同胞よ、あの聖なる神に背くことの恐ろしさと、あの狡猾な者の誘惑に負うことの恐ろしさを思い起こしなさい。肉の思いを抱くことは死であり、靈的な思いを抱くことは永遠の命であることを覚えておきなさい。

40 おお、わたしの愛する同胞よ、わたしの言葉に耳を傾けなさい。イスラエルの聖者の偉大さを思ふ起こしなさい。わたしがあなたがたに対してひどいことを語つたと言つてはならない。もしそう言うなら、あなたがたは真理をののしることになる。わたしはあなたがたの造り主の御言葉を語つ

てきたからである。わたしは真理の言葉が、すべての汚れに対し厳しいことを知っている。しかし、人は真理を愛しており、おののかないので、真理の言葉を恐れない。

41 おお、それで、わたしの愛する同胞よ、聖者なる主のみもとに来なさい。主の道が義にかなつてゐることを覚えておきなさい。見よ、その道は人にとつて狭いが、人の前にまつすぐであり、門を守るものは、イスラエルの聖者である。聖者はここには僕を使われない。またその門を通る以外に、ほかの道はない。そしてその御方を欺くことはできなない。その御方の御名は、主なる神だからである。

42 そして、たたく者にはだれにでも、主なる神は門をお開けになる。しかし、自分に学識のあることを誇る知者や、恵のあることを誇る学者、富のあることを誇る富者、まことに、これらの人々を主なる神はさげすまれる。彼らがこのようなものを持てて、神の御前で自分を愚かな者だと思つてに門をお開けにはならない。

心底謙遜になるのでなければ、主は彼らのためにして、知者と賢者にかかるもの、すなわちに門をお開けにはならない。

聖徒たちのために用意されているあの幸福は、彼らからとこしえに隠されるのである。

41	40
ヤ ① 2 ②	
コ 1 ニ フ 1	
1 ニ 28 ニ	
フ . 7	
、 6 28 16	
4 33 2	
.	
5	

てきたからである。わたしは真理の言葉が、すべての汚れに対して厳しいことを知っている。しかし、人は真理を愛しており、おののかないの真理の言葉を恐れない。

44 おお、わたしの愛する同胞よ、わたしの言葉を覚えておきなさい。見よ、わたしは自分の衣を脱いで、これをあなたがたの前で振り、わたしの救いの神に、そのすべてを見通す目でわたしを見てください

① ヒ 2 ③ 教
ラ ニ ル 義
ニ フ カ .
. 33 13 22
フ 29 .
1 9 .
30 24 25
、
7

ことを覚えておきなさい。見よ、その道は人にとつて狭いが、人の前にまつすぐであり、門を守るもの

者はイスラエルの聖者である。聖者はここには僕を使われない。またその門を通る以外に、ほかの

4. そして、たたく者にはたれはねも主なる神は
門をお開けになる。しかし、自分に学識のあるこ
とをほこ学者や、ちえ財恵のあることをほこ学者かくしや、とみとみ

のあることを誇る富者、まことに、これらの者を
なる神はさげすまれる。彼らがこのようなもの

を捨てて、神の御前で自分を愚かな者だと思つて心底謙遜になるのでなければ、主は彼らのために入門をお開けにはならない。

43 そして、
知者と賢者にかかるもの、すなわち

46 義人(ぎじん)に公正(こうせい)な報い(ほうい)が与えられるあの榮えある日、すなわち裁き(さいき)の日のために、あなたがた自身(おののそな)備えなさい。そうすればあなたがたは、ひどく恐れてしまりごみしなくて済む。また、自分(じぶん)のひどい罪悪(あく)をことごとく思い出して、『おお、全能の神(ぜんのうのかみ)な

る主よ、神聖です。あなたの裁きは神聖です。わたしは自分に罪のあることを知っています。わたしはあなたの律法に背きました。わたしの背きはわたし自身が犯したものです。そして、わたしはすでに悪魔に捕えられており、悪魔のひどい惨めな状態のとりこになっています』と、やむを得ず呼ばなくて済むであろう。

47しかし見よ、わたしの同胞よ、わたしがあなたがたに、これらの事柄が恐ろしい現実であることを自覚させる必要があるだろうか。あなたがたの思いが清かつたならば、わたしはあなたがたをひどく苦しめたりするだろうか。もしあなたがたが罪から解放されているならば、わたしは、真理の率直さに従つてあなたがたにも率直であろうとするだろうか。

48見よ、もしあなたがたが聖なる状態であるならば、わたしは、聖さについてあなたがたに語るだろう。しかしあなたがたは、今聖なる状態ではな

49見よ、わたしの靈は罪を忌み嫌い、わたしの心は

義を喜ぶ。そしてわたしは、神の聖なる御名をほめたたえよう。

50さあ、わたしの同胞よ、渴いている者は皆、水の所に来なさい。金のない者は、さあ、買って食べなさい。まことに、さあ、金を出さず、代価を払わないで、ぶどう酒と乳を買いなさい。

51それゆえ、価値のないものに金を使つてはならない。満足を得られないものに労力を費やしてはならない。熱心にわたしに聞き従い、わたしがこれまでに語った言葉を覚えておきなさい。そして、イスラエルの聖者のみもとに来て、腐ることも朽ちることもないものを食べて、豊かなものによつてあなたの自身を喜ばせなさい。

52見よ、わたしの愛する同胞よ、あなたがたの神の御言葉を覚えておきなさい。日中は絶えず神に祈り、夜は神の聖なる御名に感謝し、心を喜ばせなさい。

53主の聖約がどれほど偉大で、人の子らに対しても御自身を低くされる姿がどれほど偉大であるかを見なさい。主の偉大さと、主の恵みと憐れみのゆえに、主はわたしたちの子孫が肉においてことご

53 52	51 50 49 48
②①① ①② ③ 32 ② ①② ①① ②① GS GS GS 「聖約」 〔構成〕	3 32 ② ①② ①① ②① 3 2 イア GS 1 ニル「罪」 〔構成〕 〔契約〕

とく滅ぼされてしまうことはなく、主御自身が守つてくださると、わたしたちに約束された。また、後の時代にわたしたちの子孫が、イスラエルの家のため一本の義にかなつた枝になるとも約束された。

54さて、わたしの同胞よ、わたしはもつとあなたがたに話したい。しかし明日、わたしの言葉の残りを告げ知らせることにしよう。アーメン。」

第10章

ヤコブ、説き明かす。ユダヤ人は将来、自分たちの神を十字架につける。ユダヤ人は、主を信じるようになるとまで散らされる。アメリカは将来、支配する王のいない自由の地となる。人は神と和解し、神の恵みによつて救いを得るようにしなければならない。紀元前約五百九十九年から五百四十五年に至る。

1「さて、わたしの愛する同胞よ、わたしやコブは、先にわたしが語ったこの義にかなつた枝について、もう一度あなたがたに話そう。

2見よ、わたしたちが得た約束は、肉におけるわたしたちへの約束である。だからわたしに示され

たように、わたしたちの子孫の中には、不信仰のために肉において滅びる者が多い。しかし、それでも神は多くの者に憐れみをかけられる。それで、わたしたちの子孫は元に戻され、自分たちの贖い主について真実の知識を与えるものを得る。

3それゆえ、わたしが先にあなたがたに語つたように、キリストは（この名こそが贖い主の御名である）わたしは昨晩天使から告げられたが（ユダヤ人の中に、すなわち世の人々の中でいちばん邪悪な者たちの中に来られる必要がある。そして、彼らはキリストを十字架につける。それがわたしたちの神にとつて必要だからである。彼らのほかには、自分たちの神を十字架につけるような国民は、地上のどこにもいない）。

4もし大きな奇跡がほかの国民の中で行われたならば、その民は悔い改め、その奇跡を行われた御方が自分たちの神であられることに気づくからである。

5しかし、エルサレムにいる人々は、偽善売教と罪惡のために、キリストに対して心をかたくなにして、キリストを十字架につける。

6 それゆえ、彼らの罪悪のために、滅ぼと飢饉、疫病、流血が彼らを襲う。また滅ぼされなかつた者は、すべての国民の中に散らされる。

12 わたしは、ほかのすべての国民に**こくみんたい**してこの地ちを防ふせぎ固かためよう。

8	7	6
①	②	①
1	2	GS
ニ	ニ	「イ
フ	フ	スラ
22	25	エル
4	16	—
	17	14、

「しかし見よ、主なる神はこう言われる。『彼らがわたしをキリストであると信じる日が来ると、わ

13 シオン（たなが）と戦（さか）う者（もの）は滅（ほろ）びる。
14 わたしに逆らつて王（おう）を立（た）てる者は滅（ほろ）びる。
主（しゆ）で

2二フ 10. 20—22、
教義 133・8
② GS 「イスラエル—
イスラエルの集合」

8 しあわせのまゝに、彼は、この國へ歸る。しかし、彼の心は、國を離れてゐる。彼は、國を離れてゐるが、國のことを心に留め、國のことを想ひ、國のことを憂ふ。彼は、國を離れてゐるが、國のことを心に留め、國のことを想ひ、國のことを憂ふ。彼は、國を離れてゐるが、國のことを心に留め、國のことを想ひ、國のことを憂ふ。

あり天の王であるわたしが彼らの王となり、わたしはこの言葉を聞く彼らにとつて、わたしはこそしえに彼らの光となるからである。

	14	13	11	10	9
の	②	モ	128	教	①
光	セ	7	22	②	①
	ギ	38	38	①	教
	光	53	23	イ	②
	キ	53	21	モ	1
リ	ス	60	50	GS	1
ト	ト	60	22	ニ	イ
		22	31	サ	イ
		50	31	フ	1
		14	32	フ	9
		19		フ	8
				フ	23
				フ	22

まことに異邦人の王たちは、彼らにとつて養父よぶとなる、王妃たちは養母よぼとなる。したがつて主の

16 そのために、シオンに挑む者は、ユダヤ人等も異邦人も、束縛された者も自由な者も、男も女もす

15
③ GS ② ①
GS 「秘密結社」
「暗闇」(靈的)
ヒラ3・23、GS「聖約(契約)」

約束は、異邦人にとつて偉大である。主がそう言つた。これがこれこ又々べきはどうか。

べて滅びる。⁽²⁾これらの中の者は全地の淫婦だからである。つこ⁽³⁾末かた⁽⁴⁾一な、首は、つこ⁽⁵⁾こ又付す

16
②①な
1 GS
ニ「
フシ
オ
ン
—
5

われたがりておらず、かれがこれい反駁してさうしたが
10 しかし見よ、神は言われた。『この地はあなたの
受け継ぎの地となる。また、異邦人はこの地で祝
福される。

る者だからである。わたしたちの神はこう言わ
れる。

17				
①	⑤	④	エ	3 2 ③
教	マ	1	テ	ニ ニ フ 1
義	タ	2	フ	16 28
タ	1	12	9	1 . フ
38	30	14	8	15 23
		10	15	32 13
				23

11 そして、この地は異邦人にとつて自由の地となり、将来異邦人のために立つ王は、この地に一人

らが肉にある間にわたしが彼らに行うと約束したことを果たす。』

18 それで、愛する同胞よ、神はこう言われる。わたしは異邦人の手によって、あなたの子孫を苦しめられます。それでも、わたしは異邦人の心を和らげるので、彼らはあなたの子孫にとつて父親のようになる。それで、異邦人は祝福されて、イスラエルの家の中に数えられる。

19 さて、わたしはあなたの子孫と、あなたの子孫に数えられる者のために、この地を受け継ぎの地としてとこしえに聖別しよう。』神はわたしにそう言われる。『この地はわたしにとつて、ほかのあらゆる地に勝つたえり抜きの地である。それゆえわたしは、ここに住むすべての者がわたしを礼拝することを望む。』神はそう言われる。

さて、わたしの愛する同胞よ、わたしたちの懇親は多く
れみ深い神は、これらのことについて、このように
多くの知識を与えてくださつたので、わたしたち
は神を覚えて、罪を捨てようではないか。わたした
ちは捨てられてはいいないので、うなだれるのはやめ
よう。わたしたちは受け継ぎの地から追い出され
たが、主が海をわたしたちの道とされたので、わ
たしたちはもつと良い地に導かれて來た。そし

て、わたしたちは今、^{いま}₍₄₎海の島にいる。
しかし、⁽¹⁾海の島々にいる者たちに対する主の約束は偉大である。また、島々というからには、このほかにもつとあるに違いない。そこにもわたしたちの同胞が住んでいる。

22 それは見よ、主なる神が御自分の意のまま、思ひのままに、時々イスラエルの家から人々を連れ出されたからである。そして見よ、主は、折り取られた者をすべて覚えておられるので、わたしたちのことも覚えておられる。

23 それゆきぶん心を喜はせなうどうしてあなたかたは、自分の思うとおりに行動すること、すなわち永遠の死の道を選ぶことも、永遠の命の道を選ぶことも自由であるのを覚えておきなさい。

24 さて、わたしの愛する同胞よ、神の御心と和解しないさい。悪魔の意志と肉の思いに、おもいにからだを従わせてはならない。また、神と和解した後にあなたがたが救われるのには、ただ神の恵みによること、また神の恵みを通じてであることを覚えておきなさい。

25 そして、神が復活の力によつて、あなたがたを死からよみがえらせ、また贖罪の力によつて、永

25	24	23	22	21	20	19	18
①	②	③	④	①	②	③	①
GS	GS	GS	申	2	GS	1	4
「贖罪	「命	「救	「30	「返	「約	「ニ	「ガ
み」	み」	30	2	ザ	1	ニ	エ
19	2	2	19	「	1	フ	ベ
16	の	16	19	「	1	フ	ル
自由	4	自由	地	「	2	9	カ
由」	15	16	地	「	11	16	45
	12	12	地	「	1	14	7
			地	「	2	3	3
			地	「	2	13	7
			地	「	1	13	30
			地	「	2	1	28
			地	「	2	7	30
			地	「	2	29	30
			地	「	2	29	30
			地	「	2	6	30

遠の死からもよみがえらせてくださつて、あなたがたが神の永遠の王国に迎え入れられ、神の恵みによつて神をほめたたえることができるようにな。アーメン。

第11章

ヤコブ、贖い主にまみえる。モーセの律法はキリストの予型であり、キリストが来られることを立証する。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 ところで、ヤコブはそのときに、もつと多くのことをわたしの民に語つたが、わたしは以上のことを書き記すにとどめた。わたしが書き記してだけを書き記すにとどめた。わたしはイザヤの言葉に喜び2 さて、わたしニーファイは、わたしの子孫に伝えよう。わたしが贖い主にを感じるので、もつと彼の言葉を書き記そう。わたしは彼の言葉をわたしの民に当てはめ、また彼の言葉をわたしの子孫に伝えよう。わたしが贖い主にまみえたと同じように、まことに彼も贖い主にまみえたからである。

3 わたしの弟のヤコブもまた、わたしが贖い主に

まみえたと同じように、すでに贖い主にまみえている。それで、わたしは自分の言葉が眞実であることをわたしの子孫に立証するため、この二人の言葉を子孫に伝えよう。神はかつて、「わたしは三人の言葉をもつて、わたしの言葉を確かなものとする」と言われた。にもかかわらず、神はさらに多くの証人を遣わして、御自分の言葉をことごとく立証される。

4 見よ、わたしは、キリストの來臨が眞実であることを、わたしの民に立証することに喜びを感じる。モーセの律法は、まさにそのために与えられたのである。世の初めから神が人に与えてこられたすべてのものは、キリストの予型である。

5 わたしはまた、主がわたしたちの先祖に立てられた聖約を喜んでいる。まことに、死から人々を解放する、偉大な永遠の計画に見られる主の恵みと公正、力、憐れみを喜んでいる。

6 またわたしは、キリストが来られなければすべての人があなたが必ず滅びるということを、わたしの民に立証することを喜ぶ。

7 というのは、もしキリストが実在しなければ神

第11章		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
①	聖約	ヤコブ	2	モサ	エテ	「アブラハムの	ニフ	2	2	2	1
2	契約	7	モサ	3	12	ニフ	31	2	27	2	6
2	ニフ	15	ニフ	3	2	2	1	2	12	23	1
13			13		2	4	5	4	5	2	3

は実在せず、神が実在しなければ創造はあり得ない。ので、わたしたちの存在もないからである。しかししながら、神は実在しておられ、その神はキリストであつて、御自身の定められた時が満ちると来られるのである。

8 さて、わたしはイザヤの言葉を少し書き記して、わたしの民の中でこれらの言葉を見る者が心を高めて、すべての人のために喜べるようにしよ。さあ、その言葉は次のとおりである。あなたがたはこれらを、自分自身とすべての人に当てはがたはこれらを、自分自身とすべての人に当てはめてみるがよい。

第 12 章

イザヤ、末日^{まつじ}の神殿^{しんでん}とイスラエルの集合^{しゅうごう}、それに福^{ふく}千^{せん}年の裁きと和平を見る。高ぶる者と悪を行ふ者は、主の再臨^{さいりん}の時に低くされる。イザヤ書第一章と比較^{ひかく}。紀元前^{ぜん}約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「アモツの子イザヤが、ユダとエルサレムについて見た言葉。⁽²⁾

2 さて、終わりの時に次のことが起ころ。主の家⁽¹⁾え

の山は山々の頂に堅く立ち、もろもろの丘よりも高くそびえ、すべての国民はそこに流れ来る。多くの民が来て言う。『さあ、わたしたちは主に登り、ヤコブの神の家へ行こう。主は御自分で道をわたしたちに教えてくださる。わたしたちは主の道を歩もう。』律法はシオンから出、主の言葉はエルサレムから出るからである。

4 主は国民の中で裁きを行い、多くの人を責められる。彼らは剣を鋤先に、槍を鎌に打ち直し、国民に向かつて剣を上げず、彼らはもう戦いのことを学ばない。

5 おお、ヤコブの家よ、さあ、わたしたちは主の光の中を歩もう。さあ、歩もうではないか。あなたがたは皆、これまで惡の道に迷つてきた。

6 それゆえ、おお、主よ、あなたはあなたの民、ヤコブの家を捨てられた。それは彼らが、東方からものを国に満たし、ペリシテ人のように占い師に聴き、見知らぬ者の子供たちと交わるのを好むからである。

7 彼らの地には銀と金が満ち、彼らの宝には限りがない。彼らの地には馬も満ち、戰車も限りなくある。

7 ② GS「創造、創造する」

第 12 章

1 ① 2 ニフ¹² - 24 章は、ニーファイ¹章が真鑑版からイザ²章が引用されたものであるが、多少言い回しに違いがある。② ヘブライ語は「カザ」で「示現を見る」の意。イザヤは主からこの示現によつて御告げを受けたということ。③ GS「神殿、主の宮」ヨエ³、17、シオン¹。

2 ① GS「歩む（神と）もに」

3 ③ 教義⁴⁹、25 GS「歩む（神と）もに」

4 ① 2 ニフ²¹ - 2 - 9

5 ② ヘブライ語で「教え」「教義」の意。

6 ① 各種な教えや異国詩篇¹⁰⁶、35 ② GS「ペリシテ人」ヘブライ語で「手を打ち合う」「契約を結ぶ」の意。

世俗につかつて、のろいと苦しみを受ける。イザヤ書しょ第だい三章さんじょうと比較ひかく。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「見よ、万軍の主なる主は、エルサレムとユダか
ら柱はしらと杖つえ、すなわち、杖つえと頼むすべてのパンと、
柱はしらと頼むすべての水を取り去られる。」

2 また勇士ゆうし、戦士せんし、さばきつかさ、預言者よげんしゃ、賢者けんじや、
長老ちょうろう、

3 五十人の長なが、高官こうかん、議官ぎかん、熟練じゅくれんした職人しょくにん、雄弁ゆうべん
な演説家えんぜつかを取り去られる。』

4 «わたしは子供たちを彼らの君きみとし、みどりごが
彼らかれを治める。』

5 民みんは互たがいに虐しのげ合い、隣人りんじん同士どうしが虐しのげ合い、子供こどもは長老ちやうろうに向かつて高ぶり、地位地位の低い者は高貴こうきなものに向むかつて高ぶる。』

6 そのとき、人は自分の父ちちの家いえにいる兄弟きょうだいに取り
すがつて言う。『あなたには衣ころもがあります。わたし
たちを治める者になつて、あなたの手でこの破滅はめつが起らぬよいにしてください。』

7 その日、彼は誓つて言う。『わたしの家いえにはパン
きを行われる。あなたがたはふどう園えんを食くい尽さばく

も着る物ものもないので、わたしは癒す者ものにはなれません。わたしを民たみを治める者ものにしないでください。』

8 民たみの舌したと行おこないが主しゅに背そむいて、主しゅの栄光えいこうの目めを怒いからせたために、エルサレムは滅ほろぼび、ユダは倒たおれたのである。

9 彼らの顔かおつきは彼らかれについて不利ふりな証言しょうげんをし、
彼らの罪つみがあたかもソドムのようであることを表あらわしており、彼らはそれを隠かくすことができない。彼らは災わざわざいである。彼らは自ら悪あくの報ほういを受けたのである。

10 義人ぎじんに、彼らかれは幸さいわいであることを告げなさい。
彼らは自分の行おこないの実みを食べるからである。

11 悪人あくにんは滅ほろぼるので災わざわざいである。彼らの手の報ほういが彼らに及ぶからである。

12 わたしの民みんは子供たちこどもに虐しのげられ、女おんなたちに治められる。おお、わたしの民みんよ、あなたを導みちびく者ものたちはあなたの誤あやまらせ、あなたの歩あゆむ道みちを絶きりやす。』

13 主しゅは弁護べんごするため立ち上がり、民たみを裁さばくために立たたたれる。

14 主しゅは御自分おじぶんの民たみの長老ちやうろうたちと君きみたちについて裁さばきを行おこなわれる。あなたがたはふどう園えんを食くい尽さばく

し、あなたがたの家には貧しい者から奪つたものがある。

15 「どういうつもりなのか。あなたがたはわたしの民を打ち碎き、貧しい者の顔をすりつぶす。」万軍の主なる神はそう言われる。

16 さらに主は言われる。『シオンの娘たちは高ぶり、首を伸ばして目でこびを売りながら歩き、小また歩きながら、その足で鈴の音を出す。』

17 それゆえ、主はシオンの娘たちは頭の頂を打つてかさぶたで覆い、また主は彼女たちの隠し所をあらわにされる。

18 その日、主は彼女たちの鈴の音を出す飾り物、髪にかぶせる網、月形の飾り物、

19 鎖、腕輪、

20 頭飾り、すね飾り、結わえひも、香の入れ物、

21 指輪、耳飾り、鼻飾り、

22 礼服、外套、頭巾、髪を編らすもの、

23 鏡、こまやかに織つた亞麻布の衣服、ターバン風の帽子、かぶり物などの装いを取り除かれる。

24 そして、芳香は変わつて悪臭となり、帶は変わ

つて裂けた布となり、美しく整えた髪は変わつてかぶるとなり、胸衣は変わつて粗布の帯となり、美しさは変わって焼け傷となる。

25 あなたの男たちは剣に倒れ、あなたの勇士たちは戦いで倒れる。

26 シオンの門は嘆き悲しみ、シオンは荒れ廢れて、地に座する。』

第14章

シオンとその娘たち、福千年に贖われ、清められる。イザヤ書第四章と比較。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「その日、七人の女が一人の男に取りすがつて言う。『わたしたちは自分のパンを食べ、自分の着物を着ます。ただわたしたちをあなたの名で呼ばれるようにして、わたしたちの恥を取り除いてください。』

2 その日、主の枝は麗しく栄光に満ち、地の産物は、イスラエルの逃れた者にとつて並外れて麗しくなる。

3 そして、シオンに残る者、エルサレムにとどま

1 ①未婚で子供がない
2 ①いという汚名
2 ②イザヤ60:21、
2 ③ニフ3:5、
ヤコ2:25

14 ④2ニフ28:12-13
14 ⑤横領したもので歩くこと
14 ⑥ヘブライ語で「露
14 ⑦出させる」の意。恥を
14 ⑧かかせる」ということ
14 ⑨3日月の形をした
14 ⑩23節に挙げられ
14 ⑪具体的に何を指すか
14 ⑫三月の形をした
14 ⑬23節に挙げられ
14 ⑭3日月の形をした
14 ⑮ヘブライ語で
14 ⑯「かぶり物」の意
14 ⑰ヘブライ語で
14 ⑱「きらびやかな衣服」
14 ⑲「衣」の意
14 ⑳「髪の毛がないこと
14 ㉑あるいは「焼き印」
14 ㉒(奴隸のしるし)

る者、すなわちエルサレムで暮らす者として書き記すものか。

4 主がその裁きの靈と焼き尽くす靈によつて、
されてゐるすべての者は、聖なる者と呼ばれる

ンの娘たちの汚れを洗い清め、エルサレムの血をそのなかからすすぎ清められるとき、そのことは起くる。

5 主はシオンの山のすべての住まいと、その集会所のうえに、昼は雲と煙、夜は燃える火の輝きを設けり。

けられる。シオンのすべての栄光のうえに守りがあるためである。

6 また一つの幕屋^{まくや}があつて、昼^{ひる}は暑^{あつ}さを避ける陰^{かげ}
となり、また避け所^{よけどころ}となり、嵐^{あらわ}と雨^{あめ}をしのぐ隠れ
場所^{ばしょ}となる。」

第
15
章

主のぶどう園（イスラエル）は荒れ廃れ、主のみは散らされる。背教し、散らされた状態にある彼らに、数々の災いが及ぶ。主は一つの旗を掲げ、イスラエルを集められる。イザヤ書第五章と比較。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

「そのときに、わたしは深く愛する者に、その人

のぶどう園についてわたしの愛する者の歌を歌えた。う。わたしの愛する者は、よく肥えた丘にぶどう園を持つていた。

2 彼はそこに垣を巡らし、その中の石を取り除き、そこに最も良いぶどうを植え、その中にやらを建て、またそこにぶどうの搾り場を設けた。そして、ぶどうがなるのを待ち望んだ。ところが、なつたのは良くないぶどうであつた。

3 さて、おお、エルサレムに住む者たちと、ユダの人々よ、さあ、わたしとぶどう園との間を裁きなさい。

4 「わたしがぶどう園にしたことのほかに、何かもつとそこでできることがあつただろうか。わたしはその垣を取り去つて、食い尽くされるに任せた。また、その壜を取り壊して、踏みにじられるに任せた。わたしはそれを荒れるままにしておき、刈り込むこともせず、いはらとおどろを生むことも、耕すこともせず、

4 ① 主が地球を清めら れるとき

4 ② マラ3・2-3、
1

5
①③
出 GS
エ「
13 洗
い」
21

6
教義
15
6 25
4、

11

第15章

6 5 2
① ① ①
イザ 7 80 21
詩篇 23 12 21
32
32
1
① 預言者がぶどう園
での事もしくは寓話詩を作ること。
これには、神の憐れみ
イスラエルの民のか
くな様子が表現さ
れている

えさせる。またわたしは、雲に命じ、その上に雨うめいを降らせない。』

7 万軍の主しゆのぶどう園えんはイスラエルの家いえであり、

ユダの人々は主しゆが樂しみにして植えられた苗木なぎである。主は公平こうひを望のぞまれたのに、見よ、叫び。

8 空地あきちがなくなるまで家いえに家いえを建て連ね、自分た

ちだけが国の真まん中にいようとする者は災さいいであ

る。

9 万軍の主しゆがわたしの耳みみに言われた。『多くの家いえが

必ず荒れ廃あわれ、大きな麗うるわしいもろもろの町まちは住すむ

者のない所ところとなる。』

10 まことに、十エーカーのぶどう園えんは一バテの実み

しか結ばず、一ホメルの種たねはわずかに一エパの実み

か結ばない。』

11 朝早く起きて強つよい酒さけを追い求め、夜まで飲み続つづ

けて、ぶどう酒さけに身みを焼やかれる者は災さいいである。

12 彼らの酒宴しゅえんには、琴と豎琴わざと笛ふえとぶどう酒さけがある。しかし、彼らは主の業わざに見向きもせず、

主の手の働きに目を留めない。』

身みとなる。彼らの高官こうかんたちは飢うえ、民衆みんしゅうは渴かわきで干ひ上がる。

14 それゆえ、地獄じごくは広ひろがり、その口を限りなく開ひらく。そして彼らの榮華えいがと、彼らのどよめきと、彼らの華はなやかさ、および喜び楽しむ者は、その中に落おちこち込む。

15 地位ちいの低い者はさら下さげられ、力ちからある者は低ひくくされ、高たかぶる者の目は低ひくくされる。

16 しかし、万軍の主しゆは公平こうひによつてあがめられ、聖なる神かみは義ぎをもつて神聖しんせいであるとたたえられる。

17 そのとき、子羊こひつじたちは自分の牧場まきばにいるように草くさをはみ、見知らぬ者みしたちは肥ひえた者たちの食べ残のこしを食べる。

18 虚栄きよえいの縄つなで悪あくを引き寄せ、車くるまの綱つなでするよう罪ひみを引き寄せる者は災さいいである。

19 彼かれは言う。『我々に見えるように、彼かれを急いそがせ、

彼の業わざを早くさせよ。我々が知しることができるよう

に、イスラエルの聖者せいじやの勸告かんごをそば近くに寄せよ。』

20 悪あくを善ぜんと呼び、善あくを惡ぜんと呼び、闇やみを光ひかりとし、光ひかりを闇やみとし、苦あまいものを甘あまい、甘あまいものを苦あまいとする

7 6 ① エレ3・3 樹園(主の) GS 「ぶどう園」

8 ① ミカ2・1・2 GS 「うぬぼれ」

9 ② GS 「知識」

10 ① エゼ2・1・2 GS 「恵の言葉」

11 ① ジエゼ30・31 GS 「箴言」

12 ① GS 「詩篇」

13 ① GS 「福音」

14 ① GS 「福音」

15 ① GS 「福音」

16 ト・裁き GS 「福音」

17 ① GS 「福音」

18 ① GS 「福音」

19 ① GS 「福音」

20 ① GS 「福音」

21 ① GS 「福音」

22 ① GS 「福音」

21 自分を見て賢いと思う者、自分を見て分別があると思う者は災いである。

22 ぶどう酒を飲むのに強い者、強い酒を混ぜ合わせる剛の者は災いである。

23 彼らはわいろのために悪人あくにんを義ぎとし、義人ぎじんかから
その義ぎを奪うう。
かれら
いのち
う
う
や
つ
まわり
う
がう

24 それゆえ、火がわらを焼き尽くし、炎ほがもみ殻くずをなめ尽くすように、彼らの根ねは腐くさり、彼らの花はなはすすきとちからへん。

ちりのよう^しに飛び散る。彼らが万軍の主の律法を捨て、イスラエルの聖者^{せいじや}の言葉^{ことば}を棄^{あきら}めたからである。

主は彼らに對して御手を伸ばし、彼らを打たれた。

もろもろの丘は揺れ動き、彼らのしかばねは通りで引き裂かれた。それでも主の怒りは解かれず、

なおも御手は伸ばされて いる。
主は遠く離れた國民に一つの旗を掲げ、
地の果は

てから彼らを呼ばれる。すると、彼らは急いで速やかに来る。見よ、彼らの中には疲れる者も、つまづくもの

く者もない。
27 また、まどろむ者も、眠る者もない。彼らの腰こしの帶は解けず、靴のひもも切れない。

第
16
章

28 その矢は鋭く、その弓はことごとく張っている。
そして、その馬のひづめは火打ち石のように、その車輪は旋風のように、そのとどろきはライオンのように思われる。

29 彼らは若いライオンのようにはえる。ほえて、獲物を捕らえると、確実に運び去るので、だれも救い出す者はいない。

30 その日、彼らは海鳴りのようにはえる。もし彼らが地を見るならば、見よ、暗闇と悲しみがあり、光は天で暗くなる。」

イザヤ、主を目にする。イザヤの罪は赦される。イザヤ、預言するよう召され、ユダヤ人がキリストの教えを拒むことを預言する。残りの者が帰つて来る。イザヤ書第六章と比較。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「ウジヤ王が死んだ年に、わたしは高く上げられ
た御座に主が坐しておられるのを見た。主の衣の
すそは神殿に満ちていた。

2 その上方にセラピムがいて、それぞれ六つの翼^{つばさ}を持つており、二つの翼で顔を覆い、二つの翼で両足^{あし}を覆い、二つの翼で飛んでいた。

3 そして、一人が別の一人に叫んで言つた。『聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、萬軍の主。全地は萬軍の主の栄光に満ちる。』

4 そのように叫んだ者の声で入り口の柱^{ぐら}が揺れ動き、宮には煙^{みや}が満ちた。

5 それでわたしは言つた。『わたしは災厄^{わざわい}だ。わたしは滅ぼされる。わたしは唇の清くない者で、唇の清くない人々の中に住んでいる。ところが、わたしの目は萬軍の主なる王を見たからである。』

6 そのとき、セラピムの一人が、火把^{ひば}で祭壇^{さいだん}の上から取つた燃え盛る炭^{すみ}を手に携えて、わたしのところに飛んで来た。

7 そして、彼はそれをわたしの口に当てて言つた。『これがあなたの唇に触れたので、あなたの悪^{あく}は取り去られ、あなたの罪は清められた。』

8 また主の声があつて、こう言われた。『だれを遣かわそうか。我々のためにだれが行くだろうか。』それでわたしは言つた。『わたしがここにいます。』

たしをお遣わしください。』

9 すると主は言われた。『行つてこの民に必ず聞けと告げなさい。』しかし彼らは理解しなかつた。『必ず見よと告げなさい。』しかし彼らは悟らなかつた。

10 また主は言われた。『この民の心を鈍くし、彼らの耳を重くし、彼らの目を閉ざしなさい。彼らが自分^{じぶん}の目で見、自分の耳で聞き、自分の心で理解し、心^{こころ}を改めて、癒^{いや}されることがないためである。』

11 それでわたしは、『主よ、いつまでですか』と言つた。すると主は言われた。『もろもろの町が荒廃して住む者がいなくなり、家々に人がいなくなり、地もすつかり荒れ果てるときまである。』

12 そして、そのただ中には荒れ廃れた所^{ところ}が増えるので、主は人々を遠くに移した。

13 しかし、それでもなお十分の一の者がいる。彼らは帰つて来るが、食い尽くされる。しかし、テレビ^{ビン}の木とかしの木^きがその葉を落としても幹^幹が木の中^{なか}にあるように、聖なる子孫^{しそん}はその幹となる。』

4 ① GS 「ケルビム」
りの土台が揺れた

5 ① ヘブライ語で「断ち切られる」の意。自分と民の罪に気づき、それに圧倒されるということ

6 ① GS 「罪の赦し」
① マタ13:14, 15
列17:18, 20
13 12 10 ① 11
木のように葉は落ちても命^{いのち}を生じさせる力はの中にあ

からお生まれになる。イザヤ書しょだい第七章じだいと比較ひかく。紀元前約きげんぜんやく五百五十九年ねんから五百四十五年ねんに至る。

1 「さて、ユダの王、ウジヤの子のヨタムの子、ア

ハズの時代じだいに、スリヤの王レヂンとレマリヤの子で

あるイスラエルの王ペカが、エルサレムに上のぼつて来て

攻めたが、勝つことができなかつた。

2 ときに、スリヤがエフライムと同盟どうめいをしていると

ダビデの家いえに知らせがあつた。それで、王の心も、

民の心も、森の木々が風に揺らぐようになに動搖どうようした。

3 そのとき、主はイザヤに言われた。『あなたとあなた

の子シヤル・ヤシユブとは出て行つて、布さ

らしの野の大路あいにある上の池の水道かみの端すいとうでアハズに

会い、

4 彼に言いなさい。気を落ち着けて静かにしてい

なさい。恐れてはならない。スリヤを率いるレヂン

とレマリヤの子が激しく怒つても、それは二つのく

すぶつているたいまつきよねの燃えさしにすぎないので、

あなたに對して悪事を企てて言つている。

5 スリヤとエフライム、およびレマリヤの子は、

6 「我々はユダに攻め上のぼつて、これを惱なやまそう。そして我々のためにこれを分けて、タビエルの子をそこで王にしよう。」

7 主なる神はこう言いわれる。そのことは行われない。また起ることはない。

8 スリヤの頭かしらはダマスコ、ダマスコの頭かしらはレヂンである。エフライムは六十五年のうちに破やぶられて、

一つの民たみを成さなくなる。

9 またエフライムの頭かしらはサマリヤ、サマリヤの頭かしらはレマリヤの子である。もしあなたが信しのぶじなければ、しつかりと立たつことはできない。』

10 さらに主は、再びアハズに言われた。

11 『主なるあなたの神じみにしるしを求める所ところにも、また頭かしら上の高い所ところにも求めなさい。深い

所ところにも、また頭かしら上の高い所ところにも求めなさい。』

12 しかしあハズは言つた。『わたしは求めるません。』

13 そこでイザヤは言いつた。『おお、ダビデの家よ、聞きなさい。人を煩うるわすことはあなたがたにとつて

ささいなことだろうか。そのようにして、わたしの神じみまでも煩うるわそうとするのか。』

14 それゆえ、主は自らしるしをあなたがたに与え

16 その子が悪を退け、善を選ぶことを知るようになる前に、あなたが忌み嫌つた地は二人の王から捨てられる。

17 主は、あなたと、あなたの民と、あなたの父の家に、エフライムがユダから離れた日以来まだ臨んだことのない日をもたらされる。それはアツスリヤの王である。』

18 さて、その日、主はエジプトの果ての地にいるあぶと、アツスリヤの地にいる蜂を呼ばれる。

19 すると、彼らはやつて来て、荒れた谷や岩の裂け目に、またすべてのいばらと、すべての灌木の上にとどまる。

20 その同じ日に、主は雇い入れたかみそり、すなわち川の向こうの者、アツスリヤの王によつて、頭と足の毛をそり、またひげもそり落とす。

21 そしてその日、一人の男が若い雌牛一頭と羊二頭を飼う。

22 そして、これらは乳をたくさん出すので、彼はバターを食べる。その地に残された者は皆、バターと蜂蜜を食べる。

23 そしてその日に、かつて銀千枚に値した千株のぶどうの木のあつた所は、すべていばらとおどろの生える所となる。

24 全地がいばらとおどろになるので、人々は弓と矢を持つてそこへ行く。

25 しかし、鍬で掘り耕されたすべての丘は、いばらとおどろの生える恐れがない。そこは牛を放す所、小さな家畜の踏む所となる。』

第 18 章

キリストはつまずきの石、妨げの岩のようである。さえずる口寄せにではなく、主に求めよ。律法と証に頼つて導きを得よ。イザヤ書第八章と比較。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「さらに、主の言葉がわたしに言われた。『大きな巻き物を一巻取り、それに普通の文字でマヘル・シャラル・ハシ・バズと書きなさい。』

1 ① ヘブライ語で「急いで略奪しようと、速やかに獲物にする」の意

第18章

21 ① 羊、あるいは、やぎ

20 ① 列下 5:5-9
② 外国からの侵入者

18 ① あるいは、「口笛で呼ばれる」。合図する、の意。

14 ① GS 「おとめ」
「神はわたしたちとともに」ということ。GS 「おとめ」の意。
2 ② GS 「インマヌエル」
2 二フ 18:4
16 ① 列下 15:30、16:9
17 ② 列下 12:19、16:1
19 ① あるいは、「口笛で呼ばれる」。合図する、の意。

2 わたしは、証言する確かな証人として、祭司立てた。リヤとエベレキヤの子のゼカリヤをわたしのために立てる。

3 わたしが女預言者のもとに行くと、彼女は身ごもつて男の子を産んだ。すると、主はわたしに言われた。『この子の名をマヘル・シャラル・ハシ・バズと呼びなさい。

4 それは、見よ、この子がまだ「お父さん、お母さん」と呼ぶことを知らないうちに、ダマスコの富とサマリヤの分捕り品が、アッスリヤの王のもとに運び去られるからである。』

5 主はまた重ねてわたしに言われた。

6 『この民は緩やかに流れるシロアの水を捨てて、レヂンとレマリヤの子とを喜んでいる。』

7 それゆえ見よ、主は勢いと水量のある川の水、すなわちアッスリヤの王と彼のすべての榮光を彼らのうえにもたらす。それはすべての水路にあふれ、すべての堤を越え、

8 ユダに流れ込み、あふれみなぎつて、首にまで達する。おお、^インマヌエルよ、彼の翼は伸びて、あなたの國の広がりのすべてを覆う。』

9 おお、民よ、聯合せよ。それでもあなたがたは打ち碎かれる。遠くの国々のすべての者よ、耳を傾けよ。腰に帶をせよ。それでもあなたがたは打ち碎かれる。腰に帶をせよ。それでもあなたがたは打ち碎かれる。

10 ともに諮詢。しかし、それは無帰する。言葉を出せ。しかしそれは行われない。^①神がわたしを出せ。しかしそれは行われない。^②神がわたしを出せ。しかし、それは無帰する。言葉を出せ。しかしそれは行われない。^③神がわたしを出せ。しかし、それは無帰する。言葉を出せ。しかしそれは行われない。^④神がわたしを出せ。しかし、それは無帰する。言葉を出せ。しかしそれは行われない。^⑤神がわたしを出せ。しかし、それは無帰する。言葉を出せ。しかしそれは行われない。^⑥神がわたしを出せ。しかし、それは無帰する。言葉を出せ。しかしそれは行われない。^⑦神がわたしを出せ。しかし、それは無帰する。言葉を出せ。しかしそれは行われない。^⑧神がわたしを出せ。しかし、それは無帰する。言葉を出せ。しかしそれは行われない。^⑨神がわたしを出せ。しかし、それは無帰する。言葉を出せ。しかしそれは行われない。^⑩神がわたしを出せ。しかし、それは無帰する。言葉を出せ。しかしそれは行われない。^⑪主は強いて手をもつて次のようにわたしに語り、この民の道を歩まないようにならしを諭された。

11 『この民が「同盟を」というすべての相手に、あなたがたは「同盟を」と言つてはならない。彼らの恐れるものを恐れてはならない。おののいてはならない。』

12 『この民が「同盟を」と言つてはならない。あなたがたは「同盟を」と言つてはならない。彼らの恐れるものを恐れてはならない。おののいてはならない。』

13 万軍の主を聖なる御方としてたたえ、その御方をあなたがたの恐れとし、また、あなたがたのおののきとしなさい。

14 そうすれば、その御方は聖所となる。しかし、イスラエルの両家にはつまずきの石となり、妨げの岩となる。また、エルサレムに住む者には、わなとなり、落とし穴となる。

14 ②	13 ①	12 ①	11 ①	10 ①	9 ②	8 ①	7 ①	6 ①	5 ③	4 ②	3 ④	2 ①	1 ①
ヤコ 4.	15	14 1	13 ①	12 ①	11 ①	10 ①	9 ②	8 ①	7 ①	6 ①	5 ③	4 ②	3 ④
15	14 8.	13 ①	12 ①	11 ①	10 ①	9 ②	8 ①	7 ①	6 ①	5 ③	4 ②	3 ④	2 ①
15	14 1	13 ①	12 ①	11 ①	10 ①	9 ②	8 ①	7 ①	6 ①	5 ③	4 ②	3 ④	2 ①
15	14 1	13 ①	12 ①	11 ①	10 ①	9 ②	8 ①	7 ①	6 ①	5 ③	4 ②	3 ④	2 ①

15 そして彼らの多くがまづき、倒れ、碎かれ、わ
なにかかり、捕らえられる。』

16 証を束ね、律法をわたしの弟子たちの中に封じ
ておきなさい。

17 わたしは、ヤコブの家から御顔を隠しておられ
る主を待ち望む。わたしは主を待ち受ける。

18 見よ、わたしと、主がわたしに賜わつた子供たち
は、シオンの山に住んでおられる万軍の主からイス
ラエルに与えられたしであり、不思議である。

19 人々があなたに、「靈媒に求めよ、さえずりささ
やく口寄せに求めよ」と言うとき、民は死る者から
知らせを受けようとする生者のために、自分たち
の神に求めるべきではないだろうか。

20 律法と証に求めなさい。もし彼らがこの言葉に
従つて語らないとすれば、それは彼らの中に光が
まつたくないためである。

21 彼らはそこでつらい目に遭い、飢えに苦しむ。
そして、彼らは飢えるといらだつて、自分たちの王
と神をのろつて上を見る。

22 また彼らが地を見ると、見よ、災難と暗闇と苦
しみの闇があり、彼らは暗闇に追いやられる。』

第19章
イザヤ、メシアについて語る。暗闇の中にいる人々は
大きな光を見る。わたしたちのために、ひとりのみどりご
が生まれる。そのみどりごは平和の君となり、ダビデの
王座に着いて治める。イザヤ書第九章と比較。紀元前
約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「しかし、その闇は、初め主がゼブルンの地とナ
フタリの地を少しばかり苦しめ、後にそれよりも激
しく、ヨルダンの向こうの紅海の道沿いにもろもろ
の国民の住むガリラヤを苦しめられたときの、その
苦しみのようではない。」

2 暗闇の中を歩いていた人々は大きな光を見た。
死の陰の地に住む者たちのうえに光がさした。
3 あなたは民を増やし、喜びを増し加えられた。彼ら
は刈り入れのときに喜ぶように、また男たちが分振り
品を分けるときには喜ぶように、あなたの前で喜ぶ。
4 あなたが彼の重荷のくびきと、彼の肩の棒と、
彼を虐げる者の鞭を折られたからだ。

5 戰士の戦いには、ことごとく騒がしい音と血と
まみれた衣が伴うが、しかしこれは、焼き払いと火

16 15 ① マタ21:42-44
〔教え「教義」の意。〕

GS
イザヤと息子たち
イサラエルは聞き
の前には「エホバの者は
は帰る」「急いで略奪し
ようと、速やかに獲物
にする」という意味がある。

18 17 ① レビ20:6-20
〔魔術師、占い師の
こと〕
〔あるいは「死者に
代わって」〕
〔サ上28:6-20〕

〔福音
イサラエルは聞き
従わないでの因われの
身となる〕の意。

19 ① マタ4:12-16
〔闇〕と〔暗闇〕は
背教と捕囚を指す。「大
きな光」とはキリスト
のこと
〔イサ9:3〕

第19章

の薪によつて行われる。

れたままである。

6 わたしたちのためにひとりのみどりごが生まれる。わたしたちのために一人の男の子が与えられる。主の権は彼の肩にあり、その名は靈妙、助言者、力ある神、永遠の父、平和の君となえられる。

13人々が自分たちを打つ御方に立ち返らず、また万軍の主を求めないからである。

8 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲
葉(第8-21節)は、イエスラエルと呼ばれた北の十部族への警告である。

7 ダビデの王座にも、また彼の王国においても、彼の主権と平和とは増し加わつて限りなく、これから後とこしえに公平と公正によつて王国は整えられ、確立される。万軍の主の熱意がこれを行うのである。

14 それゆえ、主は一日のうちに、イスラエルから頭と尾、また枝と葦を断ち切られる。15その頭とは長老であり、その尾とは偽りを教える預言者である。

8 主はヤコブに言葉を送られ、それはイスラエルに及んだ。9すべての人は知るであろう。エフライムやサマリヤに住む者でさえ高ぶりおごつた心でこう言うのを。10『れんがが崩れても切り石で建てよう。いちじくの木が切り倒されても杉の木でそれに代えよう。』

16 この人々を導く者は民を誤らせ、彼らから導きを受ける者は滅びる。17それゆえ、主は彼らの若い男たちを喜ばず、父のいない子供ややもめに憐れみをかけられない。彼らはことごとく偽善者であり、悪を行つ者であつて、すべての口が愚かなことを語るからである。それでも主の怒りは解かれて、主の手は伸ばされたままである。

11 それゆえ、主はレザンの敵を彼に対して立て、彼の敵を連合される。12前方にスリヤ人がおり、後方にはペリシテ人がいて、彼らは大口を開けてイスラエルを食い尽くす。それでも主の怒りは解かれず、主の手は伸ばさ

18 悪は火のよう燃え盛る。火はいばらとおどろを焼き尽くし、森の茂みを燃え立たせ、茂みは煙の柱のように巻き上がる。

19 万軍の主の激しい怒りによつて地は暗くなり、民は火の薪のようになるが、だれ一人その兄弟を救う者はいない。

19 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲
列下16-5-9
17 13 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯
列下17-6-18
12 11 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯
アザ 4-6-12
10 18
4
19 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯
ヤコ 5-7-6-4
47-28-29
ルカ 2-11-14
マタ 28-11-18
ヨハ 14-11-13
テト 27-38-39
GS 14-11-14
「政府」 44
44

21^① ナセはエフライムを、エフライムはマナセを攻め、両者はともにエダを攻める。それでも主の怒りは解かれず、主の手はなお伸びはされたままである。」

第
20
章

アツスリヤの滅亡は、主の再臨の時の悪人の滅亡の予型である。主が再び来られた後に残る人々はわずかである。その日には、ヤコブの残りの者が帰つて来る。イザヤ書第十章と比較。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「不義な法令を制定する者と、自分の定めた圧制の法書き記す者はひいである。
2 彼らは乏しい者を公平から遠ざけ、わたしの民の中の貧しい者から権利を奪い、やもめを食い物にし、父のいない子供から略奪する。
3 あなたがたは、刑罰の日に遠くから荒廃が来るとき、どうするつもりか。あなたがたは、だれのも

「しかし、彼はそのように思わず、その心もそのようには考へない。彼の心にあるのは、多くの國民を滅ぼし、絶つことである。

8 彼は言う。「わたしの諸侯は皆、王ではないか。

9 カルノはカルケミシのようではないか。ハマテはアルパデのようではないか。サマリヤはダマスコのようではないか。

10 わたしの手は偶像の王国を幾つも焼き、その影はエルサレムやサマリヤのものに勝つていた。

11 わたしは、サマリヤとその偶像に行つたよう

かがみ、殺された者の中に伏し倒れる。それでも主の怒りはやまず、主の手は伸ばされたままである。
5 「おお、アツスリ人よ、わたしの怒りの鞭よ。
かれらの手にある杖は彼らの憤りである。
6 わたしは彼を遣わして偽善の國を攻めさせ
かれに命じてわたしの激しい怒りの民を攻めて物を奪
わせ、獲物を奪わせて、彼らをちまたの泥のように踏みにじらせる。

第20章

21 20
①①
GS 申
命
マ 28
ナ
セ 53
— 57

に、エルサレムとその偶像にも同じように行わないだらうか。』

12 そして、主がシオンの山とエルサレムで御自分
のすべての業を成し遂げられると、わたしはアツ
スリヤの王の頑強な心の実と、彼らの誇らしげな
高ぶりを罰しよう。

13 それは、彼がこう言うからである。「わたしは自
分の手の力で、また自分の知恵でこれらのことを行
つた。わたしは賢いからだ。わたしは人々の境を移
し、彼らの宝を略奪した。わたしは勇士のように
住む者を征服した。』

14 わたしの手は、人々の富を鳥の巣のように見つ
けた。また、残された卵を人が集めるように、わた
しは全地を集めました。しかし、翼を動かす者も、口を
開く者も、さえずる者もなかつた。』

15 斧は、それを使つて切る者に向かつて、自分を
誇るだらうか。のこぎりは、それをひく者に向か
つて高ぶるだらうか。それはちよど、鞭がそれを
振り上げる者に向かつて、自分を打ち振るようなも
のであり、また、杖が木ではないかのよう、自ら
を持ち上げるようなものである。

16 それゆえ、万軍の主なる主は、彼の肥えた者たちの中に衰弱を送り、彼の栄光の下で、火が燃えるように炎を燃え上がらせる。

17 イスラエルの光は火となり、その聖者は炎とな
り、燃え上がって、一日のうちに彼のいばらとおどろとを焼き尽くす。

18 また、彼の森とよく肥えた烟の榮えを、靈も体
も二つながらに焼き尽くす。そこで、旗手が弱り果
てるようにならもそのようになる。

19 その森に残る木はわずかであつて、子供でさえ
も、それを書き留めることができるであろう。

20 そしてその日には、イスラエルの残りの者とヤ
コブの家の逃れた者は、自分たちを打つた者にもは
や頼らず、イスラエルの聖なる主に真心から頼る。
21 残りの者、すなわちヤコブの残りの者は、力あ
る神に立ち返る。

22 あなたの民イスラエルは海の砂のようであつて
も、その中の残りの者だけが帰つて来る。滅びは
すでに定まり、義があふれようとしている。

23 万軍の主なる神が、すでに定められている滅び
を全地に及ぼされるからである。

12 ①ゼバ 2:13
13 ②アッスリヤの王
14 第13節

15 ①王は神に背いて榮
えられるだらうかの意
16 ②この節の隠喩はす
べて同じことを問い合わせ
ている。すなわち「人(例え
ばアッスリヤの王)は神に背いて榮
えられるだらうか」とい
うのがその問いである。

17 ①アッスリヤの王
18 ①アッスリヤは完全
に消滅するの意
19 ①アッスリヤの軍隊
20 ①末日のこと
21 ①アモ 9:8-9
22 ①イザ 11:11-12
23 ①宣言された滅びを
もたらすの意

22 GS ①教義 63:34
22 ②世の終わり
問が来ようとも、の意
構みもある、の意
もたらす、の意

24 それゆえ、万軍の主なる神はこう言われる。『おお、シオンに住むわたしの民よ、アツスリヤ人を恐れてはならない。彼はエジプトに倣つて鞭であるたを打ち、杖をあなたに向かつて振り上げる。

25 しかし、もうしばらくすれば憤りはやみ、わたの怒りが彼らを滅ぼすであろう。』

26 万軍の主は、かつてミデアン人がオレブの岩で殺されたときのように、彼に向かつて鞭を振るわれる。また、海の上に杖がかざされたように、主は工

ジプトでの例に倣つて、それを振り上げられる。

27 そしてその日には、彼の重荷はあなたの肩から取り去られ、彼のくびきはあなたの首から取り除かれ、

28 彼はアイアテに着き、ミグロンを過ぎ、ミクマシに荷を置いた。

29 彼らは渡し場を過ぎてゲバに宿つた。ラマはおののき、サウルのギベアは逃げ去つた。

30 おお、ガリムの娘よ、声を上げよ。おお、哀れなアナトテよ、その声をライシに聞かせよ。

31 マデメナはすでに逃げ去り、ゲビムに住む者は集まつて逃げ出そうとしている。

32 しかしその日、彼はノブにとどまり、シオンの娘の山、エルサレムの丘に向かつて手を振る。

33 見えよ、万軍の主なる主は、恐ろしい勢いで大枝を切り払われる。丈の高いものは切り落とされ、そびえ立つものは低くされる。

34 主は鉄で森の茂みを切り倒され、レバノンは力ある御方によつて倒される。』

第21章

1 「エツサイの株から一つの芽が出、その根から一つの枝が生じる。

2 そして、そのうえに主の御靈がとどまる。それは知恵と理解の靈、深慮と能力の靈、主を知る知識と主への畏れの靈である。

3 主の御靈は、主を畏れることを彼に早く悟らせ。彼は自分の目で見たことによつて裁かず、自分

24 ① エジプト人がかつて行つたように、の意。

25 出工1:13-14
士師7:25-1:2、
GS「油注がれた者」

26 ② GS「油注がれた者」
エジプト人の軍隊が述べられ、次いで第34節、彼らに対する主の業が比喩的に述べられている。

27 ① イザ14:25
28 アツスリヤの軍隊のエルサレムへの行程が述べられ、次いで第34節、彼らに対する主の業が比喩的に述べられている。

29 ① GS「エツサイ」
エスの誕生を迎えることになるダビデの血統のことが紹介されてい

30 ① ③ 教義11:3-1
ヨハ6:1-3
イザ7:1-3
ヘブ7:14
ミカ5:2、
出工1:13-14
士師7:25-1:2、
GS「油注がれた者」

31 ① ③ 教義11:3-1
ヨハ6:1-3
イザ7:1-3
ヘブ7:14
ミカ5:2、
出工1:13-14
士師7:25-1:2、
GS「油注がれた者」

の耳で聞いたことによつて責めることをしない。

4しかし、彼は義をもつて貧しいものを裁き、公平をもつて地の柔かな者のために責められる。また、彼の口の鞭で世を打ち、彼の唇の息で悪人を殺す。
5 義は彼の腰の帯となり、忠信は彼の腹の帯となる。

おおかみは子羊とともに宿り、ひょうは子やぎとともに伏し、子牛若いライオンと肥えた若い家畜はともにいて、幼い子供がこれらを導く。

8 雌牛とくまはともに食べ、その子らはともに伏し、ライオンは牛のよう^うにわらを食べる。
9 乳飲み子は毒蛇の穴^{あな}の上で戯れ、乳離れした子^こ

はまむしの穴に手を置く。
①かれ
9彼らはわたしの聖なる山のどこにおいても、
あたることも損なうこともない。水が海を覆つ
を与えることを損なうこともない。水が海を覆つ
が害

てゐるよう、主しゆを知しる知識じちが地ちに満みちるからで

ある。
10 その日、エツサイの根ねが民たみの旗はたとして立ち、た
異邦人いほうじんはこれに求もとめ、彼かれの安息あんそくは榮光えいこうに満みちる。
11 そしてその日、主しゆは再び、残のこされていく御ご自分のぶん

民の残りの者を、アッスリヤ、エジプト、パテロス、クシ、エラム、シナル、ハマテ、および海の島々から元戻す業をはじめられる。

12 主はもろもろの国民のために旗を掲げ、イスラエルの追放された者を集め、ユダの散らされた者を地の四方から集められる。

13 また、エフライムのねたみは消え去り、ユダの敵は絶たれる。エフライムはユダをねたまず、ユダもまたエフライムを悩まさない。

14 彼らは西の方のペリシテ人の肩に飛びかかり、またともに東の民から強奪する。彼らはエドムとモアブにも手を伸ばし、またアンモンの子孫を従わせる。

15 主はエジプトの海の入江をことごとく涸らされる。また、強風を伴つて川の上まで手を振り動かし、それを打つて七つの流れとし、乾いた靴で人々を渡らせられる。

16 残された主の民の残りの者のために、アッスリヤからの大路がある。イスラエルがエジプトの地から上つて来た日に、イスラエルのために備えられたように。」

4
モサ
9.
272
2—4、

③② GS 「柔軟」
ヘブライ語で

8 「判決を下す」の意 ① エジプトにいる さな毒蛇

9
①② 別の種類の毒蛇
イザ2・4、

◎ ② GS
「福千年」
教義 101 · 32 — 33

10
① 130
末日のこと。
9

歴史 12,40

教義 115

11
25 ①
17 2
29 フ
1 6
14 行

12
②①
3 GS
二フ「旗」
15
15、

③ 16
ネ 1
ヘ 4
9
2

S教 1
義 2
イ 45
ス 22
ラ 24
ニ 10
レ 25
、 12

3
G
形
ラエルの集合

②(列上12・16-20)
ユダと二

ライムによつて導いたそれぞれの部族は

歴史上敵対する者
つた。末日に、こ

S エ 意は解消する。
ゼ 37. 16
ニ 16
ヌ 22

ペ GS 「ユダ」
リシテ人の頃

1
であつた西側の傾斜を攻撃すること

15
①
ゼ
カ
10
11

第22章

福千年内には、すべての人が主をほめたたえる。の中にとどまられる。イザヤ書第十二章と比較。約五百五十九年から五百四十五年に至る。

紀元前主は民

1「その日、あなたは言う。『おお、主よ、わたしはあなたをほめたたえます。あなたはかつて、わたし

はのことをお怒りになりましたが、今はあなたの怒りも解かれ、あなたはわたしを慰めてくださいました。』

2『見よ、神はわたしの救いである。わたしは信頼して恐れない。主なるエホバはわたしの力であり、わたしの歌である。また、主はわたしの救いとなつてくださった。』

3それゆえ、あなたがたは喜んで、救いの井戸から水をくむ。

4その日、あなたがたは言う。『主をほめたたえ、主の御名を呼び、主の行われたことを人々の中に告げ知らせ、主の御名があがめられていることを話しなさい。

5主をたたえて歌いなさい。主はすばらしいことをある。』

されたからである。このことは全地に知られている。

6シオンに住む者よ、大声を上げて叫びなさい。

イスラエルの聖者は、あなたの中にあつて大いなる御方なのだから。』

第23章

バビロンの滅亡は、主の再臨の時に悪人が滅びることの予型である。やがて怒りと報復の日が来る。バビロン（世）はとこしえに倒れる。イザヤ書第十三章と比較。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1「アモツの子イザヤが見た、バビロンについての託宣。

2高い山の上に旗を掲げ、彼らに向かって声を上げ、手を振つて、彼らを貴族の門に入らせなさい。

3わたしは聖別した者たちに命じた。また、わたしその勇士たちを召した。わたしの怒りは、わたしが高い位にあることを喜ぶ者には及ばないからである。

4群衆のような山々のとどろき。寄り集まつたも

教義 16 ①イザ 133. 27. 35. 8.

第22章

2 ①モサ 4. 6.
ヒラ 12. 1.
出エ 15. 2.
詩篇 83. 18.
エホバ「生ける水」

6 ①①①GS「感謝」
ゼバ 1. 28.
14. 54. 1. 136. 1.
イザ 1. 18. 1.

第23章

1 ①イザ 13. 14 章に預言された罪悪なバビロンの歴史的な滅亡は、邪悪な世が最後には滅びることを示すものである。

教義 13. 5. 7. 14. GS「バビロン、バベル」
合図を送ること
減亡を告げる言葉
12. 3. ゼカ 12. 3. 聖徒のこと

ろもろの民の王国のどよめき。万軍の主が軍隊を召集しておられる。

5 彼らは遠い地方から、天の果てからやつて来る。まことに、主と主の憤りの武器が全地を滅ぼすために来る。

6 泣きわめけ。主の日は近づいているからである。それは全能者から滅亡として来る。

7 それゆえ、すべての手は弱り、すべての人の心はくじける。

8 彼らはおののき、ひどい苦しみと悲しみが彼らを捕らえる。彼らは互いに見合つて驚き、彼らの顔は炎のようになる。

9 見よ、主の日が来る。憤りと激しい怒りを伴う容赦のない日が来て、地を荒れ廃れさせる。そして主は、そこにいた罪人を滅ぼされる。

10 天の星と星座は光を放たず、太陽は日の出から暗く、月もその光を輝かさない。

11 『わたしは惡のために世を罰し、罪悪のために悪人を罰する。また、誇る者の傲慢をとどめ、荒々しい者の高慢を抑える。

12 わたしは人を純金よりも、オフルの金塊よりも

少なくする。

13 それゆえ、わたしは天を震わせる。また、万軍の主の激しい怒りにより、主のすさまじい怒りの日に、地はその場所から移る。』

14 それは、狩り出されるかもしかのようであり、集める者のいない羊のようである。彼らは各自の民に帰り、各々自分の国に逃げ戻る。

15 誇る者は皆、剣によつて倒れる。彼らは皆、刺し貫かれ、また悪人の仲間に加わる者は皆、劍によつて倒れる。

16 彼らの子供たちは目の中で投げ碎かれ、彼らの家は強奪され、彼らの妻は犯される。

17 『見よ、わたしはメデア人は金銀に見向きもせず、それを喜びもしない。

18 彼らの弓は若い男たちを射碎く。彼らは胎の実を哀れます、彼らの目は子供たちを容赦しない。

19 もろもろの王国の誉れであり、カルデヤ人の卓越した麗しさであるバビロンは、かつて神がソドムとゴモラを滅ぼされたときのようになる。

20 そこに住む者は一人もなく、代々住みつく者もない。アラビア人もそこには天幕を張らず、羊

20 ①エレ 50	13 12 ①GS 2 ニフ 13, 9	11 ①マラ 4, 1 ②教義 64, 24 申命 29, 23, 1 4, 24 25,	10 ①GS 1 GS 「地」—最 終的な状態 「地」—地 球の清め 「一世の終わ り」
-----------------	-------------------------------	---	--

飼いたちもそこには羊の廻いを設けない。
21 砂漠の野獸がそこに伏し、彼らの家々には陰氣な生き物が満ち、ふくろうがそこに住み、鬼神がそこで踊る。

22 島々の野獸が彼らの家でほえ、彼らの華麗な宮殿には龍が鳴く。バビロンの時は間近であり、その日は延ばされない。わたしは速やかにバビロンを滅ぼす。まことに、わたしは自分の民を憐れむが、悪人は滅びる。』

第24章

イスラエルは集められ、福千年の安息を享受する。ルシフェルは彼いたために天から追い出された。イスラエルはバビロン(世)に打ち勝つ。イザヤ書第十四章と比較。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 「主はヤコブを憐れみ、やがてイスラエルを選んで、彼らをかれじしんちに置かれる。また、見知らぬ者たちが彼らに連なり、ヤコブの家に結びつく。人々は彼らを連れて、彼らの地に導く。まことによくから地の果てまで彼らを導く。そして、遠くから地の果てまで彼らを導く。そして、

彼らは自分たちの約束の地に帰る。イスラエルの家はそれらを所有し、主の地は僕のものとなり、はしためのものとなる。そして彼らは、かつて自分たちをとりこにした者をとりこにし、自分たちを虐げた者を治める。

3 そしてその日、主はあなたの悲しみと恐れを取り除き、またあなたが服したつらい苦役を解いて、あなたに安息を与える。

4 そしてその日、あなたはバビロンの王に対して次に言葉を告げて言う。『虐げる者がどうして果てたのか。黄金の都はどうして滅びたのか。

5 主は悪人の杖、支配者たちの笏を折られた。

6 激しい怒りをもつて民を打ち��けて苦しめた者、怒りのうちに国民を治めた者は今責められる。

そして、それをとどめる者はだれもない。

7 全地は安息を得、穏やかになり、人々は声を放つて歌う。

8 まことに、のみの木も、レバノンの杉の木もあなたのこと喜んで言う。「あなたが倒れてから、わたしたちを切りに来るきこりは一人もない。」

21 ①イザヤ34:14-15
22 ②ハーライ語で「雄
の意」
③ヘブライ語で「館」
④ヘブライ語で「惡
らく」「ジャッカル」「野犬」の意

第24章

1 ①ゼカ1:17
2 ②イサ3:5、10
3 ①ヨシ1:13、
②GS「約束の地」
4 ①GS「バビロン、
バベル」
5 ①イザ55:12
6 ①教義84:24
7 ①GS「木の意」
8 ①ヘブライ語で「木
を切る者はわざしたものいませ」
9 ①ヨシ1:13、
②GS「地獄」

く。あなたのために死者を、すなわち地のすべて

の指導者たちを振り起こす。また、国々のすべて

の王たちをその王座から立ち上がらせる。

10 彼らは皆、あなたに告げて言う。「あなたもま

た、わたしたちのように弱くなつたのか。あなた

も、わたしたちと同じようになつたのか。」

11 あなたの華やかさは墓に葬られ、あなたの琴の

音は聞こえない。うじがあなたの下に敷かれ、また

あなたを覆う。

12 おお、暁の子ルシフェルよ、あなたはどうして

天から落ちたのか。もろもろの国々を打ちのめした

あなたが、地に切り倒されるとは。

13 あなたはかつて心の中で言つた。「わたしは天に

昇り、わたしの王座を神のもろもろの星よりも高く

しよう。また、北の果てにある集会の山に座そう。

14 わたしは雲の頂に昇り、いと高き者のようにな

る。」

15 しかし、あなたは地獄に落とされ、穴の底に入

れられる。

16 あなたを見る者はつくづくあなたを見、あな

たに目を留めて言う。「これが地を震わせ、もろも

ろの王国を振り動かした者か。

17 世界を荒れ野のようにし、そのもろもろの町を

滅ぼし、捕らえた者たちを釈放しなかつた者か。」

18 もろもろの国の王たちは皆、まことにすべての

王たちはそれぞれ、尊い有様で自分の家に横たわ

つてゐる。

19 しかし、あなたは忌み嫌われる枝のように墓の

外に投げ出される。また、剣で刺し殺された者の残

りは、穴の底に投げ落とされる。まるで、足で踏み

つけられるしかばねのようである。

20 あなたは自分の國を滅ぼし、自分の民を殺した

ので、彼らとともに葬られない。悪を行ふ者の

子孫は、決して名を知られることがない。

21 先祖が罪悪を犯したので、彼の子孫が立つて地

を占領して、世界の面をもろもろの町で満たすこ

とのないよう、子孫を殺す備えをしなさい。」

22 万軍の主は言われる。「わたしは彼らに逆らつて、バビロンからその名と、残りの者と、息子

と、孫とを絶とう。」そう主は言われる。

23 「わたしはバビロンをさきの住みかとし、水の池

9 ②肉体から分離した

靈たちのこと

けの明星「暁の子」の

意。邪悪な世(バビロ

ン)の支配者がすべて

の惡の支配者であるル

シフェルとして述べら

れる。GS「惡魔」

による神々の住む所。

12 ①ハブライ語で明

けの明星「暁の子」の

意。邪悪な世(バビロ

ン)の支配者がすべて

の惡の支配者であるル

シフェルとして述べら

れる。GS「惡魔」

による神々の住む所。

13 ②バビロニアの信仰

による神々の住む所。

14 ルシフェル

15 教義76・26

16 ①ヘブライ語で「横

る枝」

17 詩篇48:2

18 ①自分の家族の墓の

こと

19 ①切れ、捨てられ

る枝

20 ①GS「罪惡」

21 詩篇21:10-11、

22 ①ヨクス

23 ①ヨクス

24 ①ヨクス

25 ①ヨクス

26 ①ヨクス

27 ①ヨクス

28 ①ヨクス

29 ①ヨクス

30 ①ヨクス

31 ①ヨクス

32 ①ヨクス

33 ①ヨクス

34 ①ヨクス

35 ①ヨクス

36 ①ヨクス

37 ①ヨクス

38 ①ヨクス

39 ①ヨクス

40 ①ヨクス

41 ①ヨクス

42 ①ヨクス

43 ①ヨクス

44 ①ヨクス

45 ①ヨクス

46 ①ヨクス

47 ①ヨクス

48 ①ヨクス

49 ①ヨクス

50 ①ヨクス

51 ①ヨクス

52 ①ヨクス

53 ①ヨクス

54 ①ヨクス

55 ①ヨクス

56 ①ヨクス

57 ①ヨクス

58 ①ヨクス

59 ①ヨクス

60 ①ヨクス

61 ①ヨクス

62 ①ヨクス

63 ①ヨクス

64 ①ヨクス

65 ①ヨクス

66 ①ヨクス

67 ①ヨクス

68 ①ヨクス

69 ①ヨクス

70 ①ヨクス

71 ①ヨクス

72 ①ヨクス

73 ①ヨクス

74 ①ヨクス

75 ①ヨクス

76 ①ヨクス

77 ①ヨクス

78 ①ヨクス

79 ①ヨクス

80 ①ヨクス

81 ①ヨクス

82 ①ヨクス

83 ①ヨクス

84 ①ヨクス

85 ①ヨクス

86 ①ヨクス

87 ①ヨクス

88 ①ヨクス

89 ①ヨクス

90 ①ヨクス

91 ①ヨクス

92 ①ヨクス

93 ①ヨクス

94 ①ヨクス

95 ①ヨクス

96 ①ヨクス

97 ①ヨクス

98 ①ヨクス

99 ①ヨクス

100 ①ヨクス

101 ①ヨクス

102 ①ヨクス

103 ①ヨクス

104 ①ヨクス

105 ①ヨクス

106 ①ヨクス

107 ①ヨクス

108 ①ヨクス

109 ①ヨクス

110 ①ヨクス

111 ①ヨクス

112 ①ヨクス

113 ①ヨクス

114 ①ヨクス

115 ①ヨクス

116 ①ヨクス

117 ①ヨクス

118 ①ヨクス

119 ①ヨクス

120 ①ヨクス

121 ①ヨクス

122 ①ヨクス

123 ①ヨクス

124 ①ヨクス

125 ①ヨクス

126 ①ヨクス

127 ①ヨクス

128 ①ヨクス

129 ①ヨクス

130 ①ヨクス

131 ①ヨクス

132 ①ヨクス

133 ①ヨクス

134 ①ヨクス

135 ①ヨクス

136 ①ヨクス

137 ①ヨクス

138 ①ヨクス

139 ①ヨクス

140 ①ヨクス

141 ①ヨクス

142 ①ヨクス

143 ①ヨクス

144 ①ヨクス

145 ①ヨクス

146 ①ヨクス

147 ①ヨクス

148 ①ヨクス

149 ①ヨクス

150 ①ヨクス

151 ①ヨクス

152 ①ヨクス

153 ①ヨクス

154 ①ヨクス

155 ①ヨクス

156 ①ヨクス

157 ①ヨクス

158 ①ヨクス

159 ①ヨクス

160 ①ヨクス

161 ①ヨクス

162 ①ヨクス

163 ①ヨクス

164 ①ヨクス

165 ①ヨクス

166 ①ヨクス

167 ①ヨクス

168 ①ヨクス

169 ①ヨクス

170 ①ヨクス

171 ①ヨクス

172 ①ヨクス

173 ①ヨクス

174 ①ヨクス

175 ①ヨクス

176 ①ヨクス

177 ①ヨクス

178 ①ヨクス

179 ①ヨクス

180 ①ヨクス

181 ①ヨクス

182 ①ヨクス

183 ①ヨクス

184 ①ヨクス

185 ①ヨクス

186 ①ヨクス

187 ①ヨクス

188 ①ヨクス

189 ①ヨクス

190 ①ヨクス

191 ①ヨクス

192 ①ヨクス

193 ①ヨクス

194 ①ヨクス

195 ①ヨクス

196 ①ヨクス

197 ①ヨクス

198 ①ヨクス

199 ①ヨクス

200 ①ヨクス

201 ①ヨクス

202 ①ヨクス

203 ①ヨクス

204 ①ヨクス

205 ①ヨクス

206 ①ヨクス

207 ①ヨクス

208 ①ヨクス

209 ①ヨクス

210 ①ヨクス

211 ①ヨクス

212 ①ヨクス

213 ①ヨクス

214 ①ヨクス

215 ①ヨクス

216 ①ヨクス

217 ①ヨクス

218 ①ヨクス

219 ①ヨクス

220 ①ヨクス

221 ①ヨクス

222 ①ヨクス

223 ①ヨクス

224 ①ヨクス

225 ①ヨクス

226 ①ヨクス

227 ①ヨクス

228 ①ヨクス

229 ①ヨクス

230 ①ヨクス

231 ①ヨクス

232 ①ヨクス

233 ①ヨクス

234 ①ヨクス

235 ①ヨクス</p

軍の主はそう言われる。

24 万軍の主は誓つて言わたした。『わたしが思つたように必ず事は成り、わたしが定めたように必ず立つ。』

25 わたしはアツスリヤ人をわたしの地に入らせ、わたしの山々の上で踏みにじろう。そのとき、アツスリヤ人のくびきはイスラエルから取り去られ、その重荷は彼らの肩から取り除かれる。』

26 これは全地に對して定められたことであり、またこれは、すべての国々の上に伸ばされた御手である。

27 万軍の主が定められたものを、だれが取り消せ

ようか。主の手が伸ばされているのを、だれが押し戻せようか。

28 アハズ王の死んだ年に、この託宣があつた。

29 『ペリシテの全地よ、あなたを打つた者の鞭が折れたからといって喜んではならない。蛇の根からま

むしが出、その実は火の飛ぶ蛇となるからである。

30 貧しい者の初子は食物を得て、乏しい者は安らかに伏す。わたしはあなたの根を飢饉で枯らし、

彼はあなたの残りの者を殺す。』

31 おお、門よ、泣きわめけ。おお、町よ、叫べ。ペ

リシテの全地よ、崩れよ。北から煙が来るからである。定められたときに獨りでいる者はだれもない。』

32 そのとき、國々の使者たちは何と答えるだろうか。『主はシオンを築かれた。主の民の貧しい者はそれに頼る』と答える。』

第25章

ニーファイは、分かりやすいことを喜びとする。終わ

りの時にはイザヤの預言が理解される。ユダヤ人はバビロンから帰り、メシヤを十字架につけ、散られ、苦し

められる。ユダヤ人はメシヤを信じるようになると、元の状態に戻される。リーハイがエルサレムを去つて六百

年たつと、メシヤの最初の来臨がある。ニーファイ人はモーセの律法を守り、イスラエルの聖者であるキリストを信じる。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 ところで、わたしニーファイは、イザヤの口を通して語られた御言葉をこれまで書き記してきた

25 ① 主題が紀元前

七百一年のユダにおけるアッシリヤの攻撃と衰退で移っている(第24章)。

26 ② イザヤとイスラエルの山々

27 ③ イザヤ10:27 やがてこのよう

に、この世の國々は覆される

28 ① 列下16:20 紀元前約七百二十

年に出されたこの託宣

29 ② ジエラード GS「シオン」

30 ③ ゼバ3:12 あるいは「その中

に避け所を得ようとす

が、今これらについて少し話をしよう。見よ、イザヤが語つた多くの事柄は、わたしの民の多くの者にとって理解しにくいものである。それは、彼らがユダヤ人の預言の仕方を知らないからである。

2 それは、ユダヤ人が闇の業にふけり、忌まわしい行いに走つていたので、わたしニーファイはユダヤ人の風習について多くのことを民に教えなかつたからである。

3 それで、わたしは自分の民に、また、わたしが今書いているこれらのものを将来受けするすべての人に書き記して、彼らが神の語られた御言葉のとおりに、すべての国民に及ぶ神の裁きについて知ることができるようにしよう。

4 したがつて、聴きなさい、おお、イスラエルの家に属するわたしの民よ。わたしの言葉に耳を傾けなさい。イザヤの言葉はあなたがたには分かりにくいが、預言の靈に満たされている人々には分かりやすい。わたしはあなたがたに、わたしの内にある御靈によつて預言する。すなわち、父とともにエルサレムを出たときから絶えず示してきた、分かりやすい言葉で預言する。見よ、わたしは、民

が学べるよう分かりやすい言葉で話すことを喜びとしているからである。

5 また、わたしは自分がエルサレムから出て来た者であり、この目でユダヤ人にかかるを見てきたので、イザヤの言葉を喜んでいる。ユダヤ人は、預言者たちの述べた事柄をよく理解している。しかも、ユダヤ人に話された事柄をユダヤ人ほどよく理解できる者は、ユダヤ人の風習を教わっていないかぎり、ほかにいない。このことをわたしは知つてゐる。

6 しかし見よ、わたしはユダヤ人の風習について自分の子供たちに教えなかつたが、見よ、わたし自身はかつてエルサレムに住んでいたので、その周りの地方について知つてゐる。また、わたしは子供たちに、イザヤが語つたすべての事柄のとおりに、すでにユダヤ人に神の裁きが下つたことを告げた。それについてはここには書かない。

7 しかし見よ、わたしは分かりやすい言葉で自分の預言を続けよう。分かりやすく述べれば、だれも誤解しようがないことを知つてゐるからである。しかし、イザヤの預言が成就する日に、すなわち

7	6	5	4	2	1
① 2	3 ② ① ① ①	コ 4 33 ③ ② ① ① ①	ヤ 2 GS 2 GS 「預言」	列下 17 13 5	ニフ 31 3
13 2	2 2 23 1	ニフ 19 23	「ユダヤ人」	ニフ 6 8	「聖靈」
23 32	20 21 7	7			25 5
				20	20

それらの預言が事実となるときに、人々はそれが確かであることを知るであろう。

8 それゆえ、イザヤの預言は人の子らにとつて価値がある。価値がないと思う者に特にわたしは語る。また、わたしの民にとつてだけ語る。それはイザヤの言葉が、終わりの時に、彼らにとつて大いに価値のあるものとなることを知っているからである。彼らはその日に、イザヤの言葉を理解するからである。それゆえ、わたしは彼らのためにそれらを書き記してきたのである。

9 ユダヤ人の中で一代の人々がすでに罪悪のために滅びたように、代々のユダヤ人も彼らの罪悪のために滅びてきた。彼らの中には、主の預言者たちから予告を受けることなしに滅びた者は、これまでにまだ一人もいない。

10さて、ユダヤ人は、わたしの父がエルサレムを去つたすぐ後に滅亡^{めっぽう}が及ぶことを告げられていた。にもかかわらず、彼らは心をかたくなにした。囚^{とら}の身となつてバビロンへ連れ去られた者以外は、わたしの預言どおりに滅ぼされてしまつた。

11わたしは今このことを、わたしの内にある御靈^{みだま}

によつて語られた。彼らは連れ去られたにもかかわらず、将来再び帰つて来て、エルサレムの地を所自有する。彼らの受け継ぎの地に再び戻されるのである。

12 しかし見よ、彼らの中には戦争と戦争のうわさがある。また、御父の独り子、すなわち天地の父が肉にあつて彼らに御自身を現される日が来る。

13 見よ、彼らは独り子を立架につける。しかし、独り子は三日間墓に横たえられた後、御自身の翼にある癒しによつて死者の中からよみがえられる。そして、独り子の名を信じる者は皆、神の王国に救われる。わたしは、この独り子について預言することによろびを感じる。それは、わたしはすでにこの独り子の生涯を見たからである。したがつて、わたしの心は独り子の聖なる名を賛美する。

14 そして見よ、メシヤが死者の中からよみがえり、御自分の民に、すなわち御名を信じる多くの者に御自身を現された後、見よ、エルサレムは再び滅ぼされる。神と神の教会の聖徒たちに逆らつ

とのできる名は天下に与えられていないということを、あなたがたに言つておく。

21さて、このようない理由で、主なる神は、わたしが書き記すこれらのものが保存され、残されて、代々わたしの子孫に伝えられると約束してくださつた。それによつて、ヨセフの子孫は大地のあるかぎり決して滅びることはないという約束が、ヨセフに對して果たされるのである。

22それゆえ、これらのものは大地のあるかぎり代々伝わる。神の御心と思いまことに伝わるのである。そして、これらのものを所有する国民は、書き記されている言葉によつて裁かれるのである。

23わたしちは子孫と同胞に、キリストを信じ、神と和解するように説き勧めるために、熱心に記録し続けようと努めている。それは、わたしが自分分の行為をすべて行つた後に、神の恵みによつて救われることを知つてゐるからである。

24また、わたしちはキリストを信じてゐるが、今はモーセの律法を守り、律法が成就するまで確固としてキリストを待ち望む。

25この目的のために律法が与えられたからであ

る。それゆえ、律法はわたしたちにとつてすでに無用となつて、わたしたちは信仰により、キリストによつて生かされている。それでも、神の戒めに従つて律法を守るのである。

26わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、また、どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために、自分たちの預言したことを書き記すのである。

27それゆえ、律法について語るのは、わたしたちの子孫に律法が無用であることを知らせるためである。また彼らが、律法が無用であることを知つて、キリストの内にある命を待ち望み、律法が何の目的で与えられたかを知ることができるようにするためである。さらに、キリストによつて律法が成就して律法が廃されるときに、彼らがキリストに対し心をかたくなにすることがないようになるためである。

28さて見よ、わたしの民よ、あなたがたは強情な民であるから、誤解しようのないよう、わたしは分かりやすく語つてきた。わたしが語つてきた言こと

28	26	25 24	23	21	20
① ④ ③ ② モ GS GS サ 「罪の赦し」	① ② ① GS ジエロ 10 13 14	ヤコ 4 4 5 ロマ 7 4 6	「行い」 2 2 2 2 2 2	アル 42 13 11 12 10 9	モサ 5 8 16 17 14
モサ 3 14	モサ 11 12 13 14	モサ 4 12 32 33	モサ 3 23 27 27	モセ 6 15 16 17	モセ 5 15 16 17
カタ	カタ	カタ	カタ	カタ	カタ

葉は、どんな人にでも正しい道を教えるのに十分であるから、あなたがたを責める証になる。正しい道とは、キリストを信じること、キリストを否定しないことである。キリストを否定すれば、預言者と律法も否定することになる。

29 さて見よ、わたしはあなたがたに言つておく。正しい道とはキリストを信じること、キリストを否定しないことである。そして、キリストとはイスラエルの聖者である。それゆえ、あなたがたはキリストの前にひれ伏し、あなたがたの勢力と思ふ力と力を尽くし、全身全靈を込めてキリストを拝さなければならぬ。これを行えば、あなたがたは決して追い出されることはない。

30 モーセに与えられた律法が成就するまで、必要なかぎり、あなたがたは神の勤めと儀式を守らなければならぬ。

第 26 章

キリストは将来、二ノアイ人を教え導かれる。二ノアイ、自分の民の滅亡を予見する。彼らは地から語る。異邦人、偽りの教会と秘密結社を作る。主は偽善者

教を禁じられる。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 キリストは死者の中からよみがえった後、あなたがた、すなわちわたしの子孫と愛する同胞に御自身を現される。そして、そのときにはキリストがあなたがたに語られる御言葉は、あなたがたが守らなければならぬ法律となる。

2 見よ、わたしはあなたがたに言つておく。将来多くの代が過ぎて、わたしの民の中に大きな戦争と争いがあるのを、わたしは見た。

3 メシヤが来られると、わたしの民にメシヤの降誕のしるしが数々与えられる。また、死と復活のしるしも数々与えられる。その日は悪人にとつて大変な恐ろしい日となる。彼らはその日に滅びるからである。彼らが滅びるのは、預言者と聖徒を追い出し、石を投げつけ、殺すからである。そのため、聖徒の血の叫びが地から神のもとに上つて、彼らのことを訴えるのである。

4 それであるから、すべて高ぶる者と悪を行ふ者

30	① GS	29	② GS	28
「儀式」	「証」	「申命」	「二ノアイ」	「降臨と死に関するト」

30	① GS	29	② GS	28
「儀式」	「証」	「申命」	「二ノアイ」	「降臨と死に関するト」

4	1	1	1	1
9	2	2	2	2
9	3	3	3	3
9	4	4	4	4
9	5	5	5	5
9	6	6	6	6
9	7	7	7	7
9	8	8	8	8
9	9	9	9	9
9	10	10	10	10
9	11	11	11	11
9	12	12	12	12
9	13	13	13	13
9	14	14	14	14
9	15	15	15	15
9	16	16	16	16
9	17	17	17	17
9	18	18	18	18
9	19	19	19	19
9	20	20	20	20
9	21	21	21	21
9	22	22	22	22
9	23	23	23	23
9	24	24	24	24

万軍の主は言われる。彼らはわらのようになるからである。
 5 預言者と聖徒を殺す者は地の深い所にのみ込まれると、万軍の主は言われる。山々が彼らに覆いかかる。旋風が彼らを運び去り、建物が彼らの上に倒れかかる。彼らを押しつぶし、粉みじんにしてしまつ。

6 また彼らは、雷や稲妻、地震、およびあらゆる破壊に見舞われる。それは、主の怒りの火が彼らに対して燃え上がり、彼らはわらのようになり、やがて彼らを焼き尽くしてしまつ。日が来るからである。このように万軍の主は言われる。

7 おお、わたしの民の中の殺されて失われる者のゆえに、わたしの心は痛み、苦しむ。わたし二十一はそれを見たので、主の前に燃え尽きてしまった。しかし見よ、預言者たちの言葉に聞き従い、また彼らを滅ぼそうとすることなく、どのように迫害を受けても与えられたしるしを心に留めて、確を得ない。

8 しかし見よ、預言者たちの言葉に聞き従い、まことにユダヤ人に確信させることについて語つたが、異邦人にもイエスはキリストであり、永遠の

である。彼らはわらのようになるからである。
 5 預言者と聖徒を殺す者は地の深い所にのみ込まれると、万軍の主は言われる。山々が彼らに覆いかかる。旋風が彼らを運び去り、建物が彼らの上に倒れかかる。彼らを押しつぶし、粉みじんにしてしまつ。

10 しかし、これらのことがあつてから、速やかな滅亡がわたしの民に下る。わたしの心は痛むが、わたしはそれを見たので、将来そのことが起ることを知っている。彼らは価値のないものに自分自身を売り渡すのである。わたしの民は、高慢と愚かな行いの報いとして滅亡を刈り取る。彼らは悪魔に従い、光よりも闇の業の方を選ぶので、地獄へ下つて行かなければならぬ。

11 主の御靈はいつでも人を励ますわけではないからである。そして、御靈が人を励ますのをやめると、速やかに滅びが来る。わたしが悲しく思うのは、このためである。

12	わたしが、イエスがまことのキリストであられる」とユダヤ人に確信させることについて語つた	11	10	9	8	7	5
③ GS モル	モル	モル	ヒラ	ニフ	ニフ	ニフ	ニフ
2 ニニヤ人	2 ニニヤ人	8 ニニヤ人	13 アル	12 ニフ	11 ニフ	10 ニフ	10 ニフ
25 人	30 人	3 人	27 正義	17 危害	10 害	19 害	11 害
18	7	9	14	10	12	12	13

設けられる。

22 また昔のようすに、悪魔の結社である秘密結社もある。悪魔はすべてこれらのものの創設者、まことに、殺人やいろいろな闇の業の創始者である。そ

して悪魔は、麻縄を彼らの首にかけて引つ張つて行き、ついには強い縄で、とこしえに彼らを縛つてしまふのである。

23 見よ、わたしの愛する同胞よ、あなたがたに言つておく。主なる神は暗闇の中で業を行ふようなことはなさらない。

24 主は、世のためになることではなれば何事もなさらない。すべての人をみもとに引き寄せるために御自分の命を捨てるほど、主は世を愛しておらるからである。したがつて主は御自分の救いにあずかつてはならないと、だれにも命じられることはない。

25 見よ、主がだれかに向かつて、「わたしのもとから去れ」と呼ばれるだろうか。見よ、わたしはあなたがたに言う。そのようなことはない。むしろ、「地の果てに至るすべての者よ、わたしのもとに来きて、金を出さず、代価を払わぬいで、乳と蜜を買は

いなさい」と言われる。

26 見よ、主はだれかに、会堂、すなわち礼拝の家から立ち去るように命じられたことがあるだろうか。見よ、わたしはあなたがたに言う。そのようなことはない。

27 また主がだれかに、主の救いにあずかつてはならぬと命じられたことがあるだろうか。見よ、わたしはあなたがたに言う。そのようなことはない。むしろ主は、すべての人に救いを無料で授けてこられた。そして、すべての人に悔い改めを説き勧めるよう、主の民に命じてこられた。

28 見よ、主がだれかに、主の慈しみにあずかつてはならないと命じられたことがあるだろうか。見よ、わたしはあなたがたに言う。そのようなことはない。むしろすべての人に、ほかの人と同様の者となる特権が与えられており、それを禁じられる者はだれ一人いない。

29 主なる神は、偽善売教はあるてはならないと命じられる。見よ、偽善売教とは、利益と世の誉れを得るために、説教をして自分自身を世の光とすることであつて、シオンの幸いを求めるところでは

29	28	27	25	24	22
②①	①③	②③	①②	①①	①①
教義	ニフマ	エGS	アルハ	ヨハ三	「秘密結社」
121	25	55	9	33	27
34	33	1	14	16	14
37	35	2	35	15	

30 見よ、主はこのことを禁じられた。それゆえ主なる神は、人は皆、慈愛すなわち愛を持つようによるとの戒めを与えた。慈愛がなかつたならば人は何の価値もない。それゆえ、もし人に慈愛があれば、シオンで働く者を死なせたりはしないであろう。

31しかし、シオンで働く者は、シオンのために働くべきである。もしも金錢のために働くならば、減びるであろう。

32また、主なる神は、人を殺してはならない、偽りを言つてはならない、盜んではならない、自分たちの神である主の名をみだりに唱えてはならない、ねたんではならない、悪意を抱いてはならない、互いに言い争つてはならない、みだらな行いをしてはならない、これらのことを行つてはならないと命じられた。これらのことを行う者は減びるからである。

33これらの罪惡は、いずれも主から来るものではない。主は人の子らの中で、ためになることを行わるからである。また主は、人の子らにとつて分かりやすいことでなければ、何事も行われない。そ

して主は、御自分のもとに来て主の慈しみにあずかるように、すべての人のを招かれる。したがつて主は、黒人も白人も、束縛された者も自由な者も、男も女も、主のもとに来る者を決して拒まれない。主は異教徒さえも心にかけられる。ユダヤ人も異邦人も、すべての人が神にとつて等しい存在なのである。

第27章
終わりの時に暗黒と背教が地を覆つ。「モルモント書」が出て来る。その書物について三人の証人が証する。学者はその封じられた書物を読むことはできないと言ふ。主は驚くべき業と不思議を行われる。イザヤ書第二十九章と比較。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1しかし見よ、終わりの時、すなわち異邦人の時代になると、見よ、異邦人とユダヤ人のすべての国民は、この地に来る者もほかの地にいる者も、すなわち全地の者が皆、見よ、罪惡とあらゆる忌ましい行いで酔う。

2その日が来ると、万軍の主は、雷、地震、大音

れる。響、嵐、暴風雨、焼き尽くす火の炎を彼らに下さ

6 そして主なる神は、ある書物の言葉をあなたがたにもたらされる。それは眠りに就いた者たちの言葉である。

3 そして、シオンと戦い、シオンを悩ますすべての国民は、夜の幻のようになる。すなわち、飢えた者が夢を見るようである。見よ、飢えた者が夢の中でも食べても、目を覚ませば空腹である。あるいは

「見よ、その書物は封じられており、その中に
は、世の初めから世の終わりまでの神からの啓示じ
が載つてゐる。」

は、のどの渴いた者が夢を見るようである。見よ、のどの渴いた者が夢の中で飲んでも、目を覚ませば、見よ、体は弱つており、渴きは続いている。またことに、シオンの山と戦うすべての国民の群れも、そのようになる。

8 また、封じられているものがあるので、封じられているものは、^(たみ) 民が悪事と忌まわしい行いにふけつている時代には授けられない。したがって、その書物は人々から隠される。

4 見よ、罪悪を行ふ者たちよ、あなたがたは皆立ち尽くして驚嘆せよ。あなたがたは大声で叫

る。そして彼は、その書物の中の言葉、すなわち地なかで眠りに就いている者たちの言葉を、別の男

び、わめくであろう。まことに、あなたがたは酔うが、ぶどう酒によるのではない。震えるが、強い酒によるのではない。

に授ける。
しかし彼は、封じられて いる言葉は授けない
し、その書物も渡さない。その書物は神の力によ

5 見よ、主はあなたがたのうえに、深い眠りの雲霧を注がれ。それは見よ、あなたがたが目を開け、預言者たちを拒んだからである。それで、主はあなたがたの罪惡のために、統治者と聖見者を隠してしまわれたのである。

10 しかし彼は、封じられている言葉は受けないし、その書物も渡さない。その書物は神の力によつて封じられており、また、主がふさわしいと思われる時が来て世に出て、その書物の中に保たれるからである。見よ、それらの啓示は世の初めから世の終わりまで、すべてのことを示すものである。

11 こうして、封じられた書物の言葉が屋根の上で
読み上げられ、またキリストの力によつて読まる
日が来る。そして、かつて人の子らの中にあつたこ
とと、またこれから世の終わりまでに起ることが
すべて、人の子らに示される。

12 それゆえ、わたしが前に述べた男に、その書物が
授けられる日に、その書物は世の人々の目につかな
いように隠される。そして、その書物を授けられる
男のほかに、三人の証人が神の力によつてそれを
見るが、そのほかにはだれも見ない。そしてこの三
人は、その書物とその中に書いてあることが眞実
であることを証する。

13 このほかにそれを見る者は、ただ神の御心に従
つて人の子らに神の言葉について証を述べる少數
の者だけで、だれもほかにいない。主なる神は、忠
実な者の言葉はあたかも死者から出るかのように
語る、と言われた。

14 それゆえ、主なる神はその書物の言葉をもたら
し、また適切であると見なされる人数の証人の口
を通して、御自分の言葉を確かなものとされる。
したがつて、神の言葉を拒む者は災いである。

15 しかし見よ、そこで主なる神はその書物を受け
取る男にこう言われる。「封じられていないこれら
の言葉を取つて別の男に渡し、彼が学者にそれを
見せて、『どうぞ、これを読んでください』と言う
ようにしなさい。するとその学者は、『その書物を
ここに持つて来てください。そうすれば読みましょ
う』と言う。」

16 ところで先の男は、『その書物は封じられているの
で、持つて来ることはできません』と言う。

17 すると、学者は、『それでは、わたしには読めな
い』と言う。」

18 そこで、主なる神はその書物とその中の御言葉
をもう一度学識のない者に授けられる。すると学識
のない者は、「わたしは無学です」と言う。

19 そのとき、主なる神は言われる。「学者は、これ
らの言葉を受け入れなかつたので、読めない。し
かし、わたしにはわたし自身の業を行ふ能力があ
るので、あなたはわたしが授ける言葉を読むであ

11	① ルカ	12	3
12	① 教義	12	31
13	① GS 「偽善宗教」	13	15
14	① エテ	14	28
15	② 申命	15	17
16	モロ	16	20
17	エテ	17	30
18	エテ	18	33
19	エテ	19	13
20	エテ	20	15
21	エテ	21	11
22	エテ	22	3
23	エテ	23	4
24	エテ	24	5
25	エテ	25	15
26	エテ	26	8
27	エテ	27	11
28	エテ	28	3
29	エテ	29	15
30	エテ	30	12

ろう。

21 封じられている部分に触れてはならない。わたし
しは、自分がふさわしいと思うときにそれらをもたらすからである。そして、わたしにはわたし自身の業を行なう能力があることを、人の子らに示そう。

22 それゆえ、あなたはわたしの命じた言葉を読み、またわたしがあなたに約束した証人たちを得たら、その後、あなたは再びその書物を封じて、わたしに託して隠すようにしなさい。そうすればわたしは、人の子らにすべてのことを明らかにするのがわたしの知恵にかなうと思うときまで、あなたのまだ読んでいない言葉を保つておくことができる。

23 さて見よ、わたしは神である。奇跡の神である。わたしは昨日も、今日も、またとこしえに変わらないこと、また、わたしは人の子らの信仰に応世の人々に示そう。」

24 そしてまた、主は御言葉を授けられて、それを読む先の男に言われる。『この民は口ではわたしに近づき、唇ではわたしをあがめるが、彼らの心はわたしから遠く離れて

いる。彼らがわたしを畏れ敬うのは、人の訓戒によつて教えられているからである。

26 それゆえ、わたしはこの民の中で驚くべき業を、まことに驚くべき業と不思議を行う。知者と学者の知恵は失われ、賢者の知識は隠される。』

27 自分たちはかりごとを奥深く隠して、主に知られないようにしようとする者は、災いである。彼らの行いは闇の中にあり、彼らは、「だれがわたしたちを見ていいよか。だれがわたしたちを知つてい

ようか」と言う。彼らはまた、「確かに、あなたがたが物事を転倒して考へてることは、陶器師の粘土のようなものだ」と言う。しかし見よ、万軍の主は言われる。「わたしは彼らのあらゆる行いを知つていることを彼らに示そう。造られたものがそれを造つた者について、『彼はわたしを造らなかつた』と言えるだろうか。形造られたものが形造つた者について、『彼には分別がない』と言えるだろうか。』

28 しかしこ見よ、万軍の主は言われる。「わたしは人の子らに、もうしばらくするとレバノンがよく肥えた煙に変わり、そのよく肥えた煙が森のように

27	26	25	23	22 21
② ① 2 ② GS	2 ① ③ ② ① GS	エ ③ ② ① GS	エ ① ① GS	エ ① ① GS
エイザレ 18 29 6 15 17 14	イザ 29 29 1 2, 8, 31	マタ 29 15 22 8 13 22	イザ 7 11 13 8	エテ 5 1 ハブ 11 章、8
14	29	22 28	7	奇跡
		31		

思われる時が来ることを示そう。」

そしてその日、耳の聞こえない者もその書物の御言葉を聞き、目の見えない者も暗闇から、また暗黒から出て見えるようになる。

30 また、柔軟な者たちも増えて主にあつて喜びを得、人々の中の貧しい者たちは、イスラエルの聖者によつて喜びを味わうようになる。

31 荒々しい者はいなくなり、あざける者は焼き尽くされ、罪惡の機をうかがう者は絶たれることを、主が生きておられるように確かに、彼らは知るからである。

32 たつた一言のために人を悪く見る者、門でとがめる者に對してわなを仕掛ける者、また価値のないもののために正しい者を退ける者、これらの者は断たれる。

33 さて、アブラハムを贖われた主は、ヤコブの家についてこう言われる。「それゆえ、ヤコブはもはや恥を受けることなく、また、もはや顔色を失うこともない。」

34 彼が自分の中にわたしの手の業である自分の子孫を見るとき、彼らはわたしの名を神聖であると

たたえ、ヤコブの聖者を神聖な御方としてたたえ、イスラエルの神を畏れ敬う。

35 心に誤解を生じていた者も理解するようになり、つぶやいていた者も教義を知るようになる。」

第 28 章

終わりの時に、多くの偽りの教会が設けられる。これらの教会は、偽りの、むなしの、愚かな教義を教える。偽教師がいて基督教が広がる。悪魔は人々の心の中で荒れ狂う。悪魔はあらゆる偽りの教えを広める。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1 さて見よ、わたしの同胞よ、わたしは御靈によつて促されるままに、あなたがたに語つてきた。したがつて、これらのことが将来必ず起ることを、わたしは知つている。

2 その書物から書き記される事柄は、人の子らのために、特にイスラエルの家の残りの者であるわたしたちの子孫のために、大いに価値がある。

3 そしてその日には、主のために設けられたのではない数々の教会があつて、ある者は別の者に向む

35	34	32	31	30
①	①	③	②	①
教義	2	イザ	アルカ	GS イザ
ダニ	33	2	モニ	柔和
12	4	2	モニ	18
		28	29	29
		23	28	10
		5	11	54
		12	29	20
		4	16	36
		14	24	

モ	4	1	2	3
ル	8	2	2	①
	28	1	22	②
	32	25	23	34
	38	29	10	42
			13	

かつて、「見よ、わたしは主の教会の者だ」と言い、別の者も、「わたしこそ主の教会の者だ」と言ふ。教会を設けた者たちは皆、主のために設けたのではないにもかかわらず、このように言う。

4 そして、彼らは互いに言い争う。また、その職者たちも互いに言い争つて、自分の学識で教え、語る言葉を与えてくださる聖霊を否定する。

5 彼らはイスラエルの聖者である神の力を否定し、人々に言う。「わたしたちに耳を傾け、わたしたちの訓戒を聞きなさい。見よ、今日、神は存在しないからである。主なる贖い主はすでに御自分の業を終え、御自分の力を人に与えられた。

6 見よ、わたしの訓戒を聴きなさい。もし主の手によつて奇跡が行われたと言ふ者がいても、信じてはならない。今日、神は奇跡の神ではないからである。神はすでに御自分の業を終えられた。」

7 また、次のように言う者も大勢いる。「明日は死ぬ身なのだから、飲み食いし、楽しみなさい。そうすれば、わたしたちは幸せだ。」

8 次のように言う者もまた大勢いる。「飲み食いし、楽しみなさい。しかし同時に神を畏れなさい。」

神は少しの罪を犯すことは許してくださる。だから、少しばかり偽りを言い、人の言葉に付け込んで欺き、隣人を陥れる穴を掘りなさい。これは少しも悪いことではない。わたしたちは明日は死ぬ身なのだから、これらのことをして行いなさい。たとえわたしたちに罪があるとしても、神はわたしたちをほんの少し鞭打たれるだけで、結局わたしたちは神の王国に救われる。」

9 このように、偽りの、むなしの、愚かな教義を教え、心の中で誇り高ぶり、自分たちのはかりごとを深く隠して主に知られないようにしようとする者が大勢いる。彼らの行いは、闇の中にある。

10 そのとき、聖徒たちの血が、地から叫んで彼らを訴える。

11 まことに、彼らは皆、道から外れ、堕落してしまつている。

12 彼らの教会は、高慢のために、また偽教師と偽りの教義のために腐敗している。彼らの教会は思いい上がつており、高慢のために、彼らは誇り高ぶつてゐる。

13 彼らは立派な聖堂を建てるために貧しい者から

13	11	10	9	8	7	6	5
① 教義 ヒラ 4	② 教義 モル 8 ヒラ 4	① 教義 エテ 8 モル 8 ヒラ 4	② 教義 マタ 15 モル 8 ヒラ 13	① 教義 エセ 14 モル 8 ヒラ 13	② 教義 モセ 4 モル 8 ヒラ 17	① 教義 アル 30 モル 8 ヒラ 15	① 教義 アル 30 モル 8 ヒラ 26
ヒラ 4	モル 8 ヒラ 4	モル 8 モル 7 モル 7 モル 41	モル 8 モル 6 モル 6 モル 9 モル 9 モル 11				
12	31	27	27	31	18	15	9

奪い取り、また華やかな衣をまとうために貧しい者から奪い、柔和な者と心の貧しい者を苦しめる。高慢のために誇り高ぶつてゐるからである。

14 彼らは心をかたくなにして、頭を高くする。そして、キリストに従う少數の謙遜な者たちを除いて、すべての者が、高慢と悪事と忌まわしい行いとみだらな行いのために迷つてしまつてゐる。しかし、キリストに従う少數の者たちも誘いを受けて、人の訓戒によつて教えられるので、度々過ちを犯す。

15 おお、心を高慢にして誇り高ぶる知者、学者、怪物持ち、また偽りの教義を説くすべての者、みだらな行いをして主の正しい道を曲げるすべての者、これらの者は災いである、災いである、災いである。全能の主なる神がこう言われる。これらの者は地獄に突き落とされるからである。

16 價値のないもののために正しい者を退け、善いことをののしつて、それは何の価値もないと言ふ者は、災いである。主なる神が地に住む者に、速やかに報いを下される日が来るからである。罪惡が完全に熟すその日に、彼らは滅びるのである。

17 しかし見よ、地に住む者が自分たちの惡事と忌まわしい行いを悔い改めるならば、彼らは滅ぼされることはないと、万軍の主は言われる。

18 しかし見よ、全地の淫嬈であるあの大きな忌まわしい教会は、地に崩れ落ち、その倒れ方はひどい。悪魔の王国は必ず揺れ動く。また、それに属する者は、必ず悔い改めるよう促される。そうでなければ彼らは悪魔の永遠の鎖に縛られ、怒るようにならせる。

19 20 見よ、その日、悪魔は人の子らの心の中で荒れ狂い、人の子らをそそのかして善いことに対しても怒らせる。

21 また、悪魔はほかの人々をなだめ、彼らを欺いて現世での安全を確信させるので、彼らは、「シオンの中では、すべてが良い。まことに、シオンは栄えており、すべてが良い」と言う。悪魔はこのようにして人々をだまし、巧みに地獄に誘い落とすのである。

22 そして見よ、悪魔はほかの人々にへつらい、「地獄はない」と告げ、「悪魔はいないので、わたしは

22	21	20	19	18	16	15	14	13
①	②	①	③	②	①	②	①	③
GS	2	モ教	アル	ア	エイ	3	歳言	アエゼ
ニル	8	アル	12	ニフ	テザ	29	「ザ」	5321
地獄	9	10	34	22	29	29	高樹	534
	31	20	11	35	19	2	21	5
	39	27			23	3	10	7

悪魔ではない」と言う。悪魔はこのように彼らの耳みみ

おののくからである。

にささやいて、決して逃げられない恐ろしい鎖で縛つてしまふ。

23 まことに彼らは、死と地獄に捕らえられる。そ

して、死と地獄と悪魔と、それらに捕らえられたすべての者は、神の御座の前に立たなければならぬ。そして、彼らは自分の行いに応じて裁かれる。それから彼らは、自分たちのために用意された場所、すなわち無窮の苦痛である火と硫黄の池に入らなければならない。

24 したがって、シオンでのんきに暮らす者は、災いである。

25 「すべてが良い」と大声で叫ぶ者は、災いである。26 まことに、人の訓戒に耳を傾け、神の力と聖靈の賜物を否定する者は、災いである。

27 まことに、「わたしたちは受けているので、もう

これ以上は必要ない」と言う者は、災いである。28 要するに、神の真理のゆえに身を震わせて怒る者は皆、災いである。見よ、岩の上に建てられる者は喜んで神の真理を受け入れるが、砂の土台の上に建てられる者は、倒れるのではないかと震えるからである」と主なる神は言われる。

29 「わたしたちは、すでに神の言葉を頂いている。もうこれで十分だから、これ以上神の言葉は必要ない」と言う者は、災いである。

30 見よ、主なる神はこう言われる。「わたしはここにも少し、そこにも少しと、教えに教え、訓戒に

訓戒を加えて、それを人の子らに与えよう。わたしの訓戒を聴き、わたしの勧めに耳を貸す者は、知恵を得るので幸いである。わたしは受け入れる者

にさらに多く与え、「もう十分である」と言う者からは、彼らが持っているものさえも取り上げる。」

31 人に頼る者、すなわち肉を自分の腕とする者は

のろわれる。すなわち、聖靈の力によつて与えられる訓戒ではなく、人の訓戒に耳を傾ける者はのろわ

れる。

32 万軍の主なる神は言われる。「異邦人は災いである。わたしが日々腕を伸べてゐるにもかかわらず、彼らはわたしを拒むからである。それでも、彼らが悔い改めてわたしのもとに来るならば、わたしは彼らを憐れもう。わたしは終日、腕を伸べてい

ト裁き」「最後の裁

き」アル36¹エス・キリスト裁き

2 2 ニフ 9¹ 16¹, 19¹

28 27 26¹ 1 2 ニフ 9¹ 16¹, 19¹

29 ① GS 33¹ 1 2 ニフ 9¹ 16¹, 19¹

28 27 26¹ 1 2 ニフ 9¹ 16¹, 19¹

30 ① GS 33¹ 1 2 ニフ 9¹ 16¹, 19¹

32 31 ② GS 33¹ 1 2 ニフ 9¹ 16¹, 19¹

② ① ① 教義 50¹ 24 ④ ③ ② GS 33¹ 1 2 ニフ 9¹ 16¹, 19¹

ヤコブ 1 2 ニフ 9¹ 16¹, 19¹

5 47¹ 14¹ 19¹ 10 18¹

6 6 20¹

4

多くの異邦人は『モルモン書』を拒む。彼らは、「ほかに聖書は必要ない」と言う。主は多くの国民に語られ、主は書き記される数々の書によつて世人の人々を裁かれる。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

「しかし見よ、わたしが異邦人の中が(日本)で驚くべき業を始めるその日には、異邦人の数は多い。わたしのが驚くべき業を行うのは、人の子らに立てた聖約をおもいおをして、イスラエルの家に属するわたしの民を再び連れ戻す業に着手するためである。

2 また、あなた二ーファイとあなたの父に立てた約束、すなわち、あなたがたの子孫を覚え、あなたがたの子孫の言葉がわたしの口から出て、あなたがたの子孫に伝わるようにするという約束を、わたし自分が思い起こして守るためである。わたしの言葉は地の果てまで響ひ渡り、イスラエルの家に属するわたしの民にとつて約束となる。

3 そして、わたしの言葉がひびき渡るので、多くの異邦人は、「聖書か、聖書か。我々はすでに聖書を持っています。これ以外に聖書があるはずがない」と

言
う。

4しかし、主なる神はこう言われる。「おお、愚かなものよ、彼らは聖書を持つが、それは昔わたしが聖約を交わした民、ユダヤ人から出るものである。彼らはユダヤ人から得る聖書について、ユダヤ人にはどのように感謝しているか。まことに、異邦人はどういうつもりか。彼らはユダヤ人が負った労苦と努力、骨折り、また自分たちに救いを得させることに、なつたユダヤ人の、わたしに対する努力を思ひ起おもひ起してゐるか。

おお、異邦人よ、あなたがたは、昔わたしが聖
を交わした民、ユダヤ人を覚えていたか。いや、
逆にあなたがたは彼らをのろい、憎み、彼らを元
の状態に戻そうとはしなかつた。しかし見よ、主
なるわたしはわたしの民を忘れたことはないので、
これらすべてのことの責めをあなたがた自身の頭
に求める。

6 「聖書か。我々はすでに聖書を持つてゐる。だから、ほかに聖書は必要ない」と言う者よ、あなたがたは愚か者である。あなたがたはユダヤ人によらずに聖書を手に入れたか。

6	5	4	3	2	1
① ① 木	② GS ① 書	GS ① 旗	モ 口 ニフ	GS 21 11	2 二 ニフ 27
1 3 ニフ	GS 「教義」	「旗」	10 15 26	2 二 ニフ 26	福「アブハムの
13 29	「ユダヤ人」	「聖書」	21 26 18	2 二 ニフ 14	聖約「契約」
38 8	ユダの	「モルモン」	21	1 17	「イスラエル」イズ

7 あなたがたは、國民は數多くあることを知らないのか。主であり、あなたがたの神であるわたしがすべての人を造つたこと、またわたしが海の島々にいる者たちを覚えていることを知らないのか。またわたしが上は天で治め、下は地で治めていることと、そしてわたしの言葉を人の子ら、すなわち地のすべての國民にもたらすことを知らないのか。

8 さて、なぜあなたがたは、わたしの言葉がもつと多く与えられるからと言つてつぶやくのか。二つの國民の証が、わたしが神であることと、一つの國民をもう一つの國民と同じように覚えていることの、あなたがたへの証拠となることを知らないのか。わたしは一つの國民に語ると同じ言葉を別の國民にも語る。そして、その二つの國民が合わせられるとき、二つの國民の証も合わせられるのである。

9 わたしがこれを行うのは、わたしが昨日も、自身の望むままにわたしの言葉を語るということと、それを、多くの人に証明するためである。したがつてわたしが一言語つたので、もう一言も語れないと、わたしも、またどこしえに変わることと、わたの國民にも語る。そして、その二つの國民が合わせられるとき、二つの國民の証も合わせられるのである。

10 それゆえ、聖書を持つていて、わたしの言葉がすべてそこに含まれていると思つてはならない。また、わたしがもつと大切なことを書き記せなかつたと思つてもならない。

11 わたしは、東の地、西の地、北の地、南の地、また海の島々にいるすべての者に、わたしの語る言葉を書き記すように命じるからである。わたしは書き記される数々の書によつて、世のあらゆる人を、書き記されていることに従い、彼らの行いに応じて裁く。

12 見よ、わたしがユダヤ人に語れば、彼らはそれを書き記し、ニーファイ人に語れば、彼らはそれを書き記す。また、わたしが連れ出したイスラエルのほかの部族に語れば、彼らもそれを書き記す。さらにわたしが地のすべての國民に語れば、かれらはそれを書き記す。

13 そしてユダヤ人はニーファイ人の言葉を得て、

13	12	11	10	9	8	7
①③	②①	GS ④	③②	①	GS ②	GS ①
モル	ニフ	ニフ	アル	ヘセ	マタ	創造
5	26	13	2 GS	13	18	創造す
12	13	テモ	25	14	16	
14	33	16	22	15	13	
	38	23	14	20	38	
		42	29			

二ーファイ人はユダヤ人の言葉を得る。また、二一
ファイ人とユダヤ人は、イスラエルの行方の知れな
ない部族の言葉を得て、イスラエルの行方の知れな
い部族は、ニーファイ人とユダヤ人の言葉を得る。
14 そして、イスラエルの家に属するわたしの民
は、彼らの所有の地に集め戻され、わたしの言葉も
一つに集められる。こうして、わたしが神である
ことと、わたしがアブラハムに彼の子孫をとこし
えに覚えると聖約を立てたことを、わたしの言
葉とイスラエルの家に属するわたしの民に逆らつ
て戦う者たちに示そう。」

第30章
改宗した異邦人は聖約の民とともに数えられる。多く
のレーマン人とユダヤ人が書物の御言葉を信じて、臺は
しい状態になる。イスラエルは元の状態に戻り、悪く人は
滅ぼされる。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に
至る。

1 さて見よ、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなたがたに語りたい。わたしニーフアイはあなたがた

に、自分たちが異邦人以上に義にかなっていると思つてほしくないからである。見よ、神の命令に従わないならば、あなたがたも皆同じように滅びる。しかし、すでに述べられた言葉があるからといって、異邦人がことごとく滅ぼされると考えてはならない。

2 それは、見よ、あなたがたも皆同じように滅びる。あつても悔い改める者は皆、主の聖約の民となり、ユダヤ人であつても悔い改めない者は皆、捨てられるからである。悔い改めてイスラエルの聖者である御子を信じる者でなければ、主はだれとも聖約されないからである。

3 ところで、わたしはユダヤ人と異邦人についてもう少し預言した。わたしが前に書いたあの書物が出て、異邦人に書き伝えられ、再び封じられて主に託された後、書き記されたそれらの御言葉を信じる人々が大勢いる。彼らはそれらの御言葉を、わたしたちの子孫の残りの者に広める。

4 その後、わたしたちの子孫の残りの者は、わたくしたことと、わたしたちがエルサレムから出て来た次第と、自分たちがユダヤ人の子孫であることを知る。

3	2	14	13
② ① ③ GS ② ①	④ ② GS	「イスラエル 族の知れないと族 方行の如き」	行方の如き
1 3 GS 「マタ・ラ ニフニフ・アーハー」	アーハー	創世記 12: 17 30: 16 17: 18	創世記 12: 17 30: 16 17: 18
22: 16 「改め」	アーハムの聖約 契約」	13: 1 27: 40	エゼゼル 37: 17 37: 17
8: 6 「め」	ニフニフ	13: 2 9: 1 9: 3	ニフニフ
9: 7	ニフニフ	13: 2 9: 1 9: 3	ニフニフ

5 そして、イエス・キリストの福音が彼らの中なかで
告げ知らされる。それゆえ彼らは、自分たちの祖先についての知識を再び得て、また先祖の中で知識も得られていたイエス・キリストについての知識も得るようになる。

6 そこで彼らは、それが神のかみの手から自分たちに与えられた祝福であることを知つて、喜ぶであろう。また、暗黒のうろこが彼らの目からはれ始め、多くの世代が過ぎないうちに、彼らは清い、喜ばしい民になる。

7 そして、散らされているユダヤ人もキリストを信じ始め、地の面に集まり始める。そして、キリストを信じる者は皆、喜ばしい民になる。

8 そして主なる神は、御自分の民を地上で回復するため、すべての国民、部族、国語の民、民族の中で御自分の業を始められる。

9 そして主なる神は、義をもつて貧しい者を裁き、公平をもつて地の柔軟な者のために責められる。また、その口の鞭で世を打ち、その唇の息で悪人を殺される。

10 主なる神が、民の中に甚だしい分離を引き起こ

される時が速やかに来る。そのとき、主なる神は悪人を滅ぼし、御自分の民を救われる。まことに、たとえ火で悪人を滅ぼさなければならなくとも、そのようにされる。

11 義はその腰の帶となり、忠信はその腹の帶とな

る。
12 またそのとき、おおかみは子羊とともに宿り、ひょうは子やぎとともに伏し、子牛と若いライオントと肥えた若い家畜はともにいて、幼い子供がこれらを導く。

13 雌牛とくまはともに食べ、その子らはともに伏し、ライオンは牛のようにわらを食べる。

14 乳飲み子は毒蛇の穴の上で戯れ、乳離れした子はまむしの穴に手を置く。

15 彼らは、わたしの聖なる山のどこにおいても、害を与えることはなく損なうこともない。水が海を覆つているように、主を知る知識が地に満ちるからである。

16 また、すべての国民のことが知られるようになる。まことに、すべてのこと人が人の子らに知られるようになる。

16	12	11	10	9	7	6	5
②	①	GS ① ①	GS ① ③	GS ② ①	GS ② ①	GS ② ①	GS ② ①
21	11	イザ 11	モセ 11	イザ 11	モセ 11	モセ 11	モセ 11
エ	28	「福千年」	23	23	23	23	23
テ	29	32	4	22	25	25	25
4	35	35	15	17	13	14	14
6			17	17	14	10	10
7			14	14	14	14	14
			65	65	65	65	65

第
31
章

二ーファイ、キリストがバプテスマを受けられた訳を告げる。救いを得るために、人はキリストに倣つてバプテスマを受け、聖靈を授かり、最後まで堪え忍ばなければならぬ。悔い改めとバプテスマは、細くて狭い道に至る門である。永遠の命は、バプテスマを受けた後も戒めを守る人々に与えられる。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

記せない。また、弟のヤコブの言葉も少ししか書き記せない。

しかし、これまで書き記してきたことで十分である。ただ、キリストの教義については少し述べておかなければならない。それで、わたしの分かれやすい預言の仕方で、あなたがたに分かりやすく述べておく。

3 わたしは、分かりやすいことを喜びとする。なる神は分かりやすい方法で、人の子らの中で業を行われるからである。主なる神は理解力に光をお与えになる。主なる神は、人々が理解できるようには彼らの言葉に倣つて語られる。

4 そこで、主がわたしに示されたあの預言者、すなわち世の罪を取り除かれる神の小羊にバプテスマを施す預言者について、わたしが前に述べたことを思い起こしてもらいたい。

5 さて、神の小羊が聖なる御方であつても、あらゆる義を満たすために水でバプテスマをお受けになる必要があるとすれば、おお、聖くないわたしたちがバプテスマを、すなわち水でバプテスマを受けすることは、なおさら必要ではないだろうか。

6 そこで、わたしの愛する同胞よ、神の小羊は水でバプテスマをお受けになることによつて、どのようにならゆる義を満たされたのか、わたしはあるたがたに尋ねたい。

あなたがたは小羊こひつねが聖くあられたことを知らなか
いのか。しかし小羊こひつねは、聖いにもかかわらず、肉にく

ある。おいては御父の前にへりくだることを人の子らに示される。そして、御父の戒めを守ることについて御父に従順であることを、御父に証明されるのである。

8 それゆえ、小羊こひつねが水みずでバブテスマバブテスマをお受けになら
ると、聖靈せいれいが鳩はとの形かたちを取とつて小羊こひつねのうえに降おろつて
来きられた。

9 そしてまた、それは人の子らに、道が細くて彼らの入る門が狭いことを示しており、小羊は彼らの前に模範を示されたのである。

10 小羊は、「わたしに従^{したが}いなさい」と人の子らに
言^いわれた。それゆえ、愛する同胞よ、進んでお父^{おも}ちも^う
の戒めに従^{いたさ}わないで、わたしたちはイエスに従^う。

11 おんちち
御父は言われた。「悔い改めよ。悔い改めよ。」

たしの愛する子の名によつてバブテスマを受けよ。」
12 また、御子の声がわたしに聞こえて言われた。もの
「父は、わたしの名によつてバブテスマを受ける者
に、わたしに授けてくださつたと同じように聖靈
を授けてくださる。それゆえ、わたしに従い、わ
たしが行うのを見たそのことを、あなたがたも行

いなさい。」
13 したがつて、わたしの愛する同胞よ、もしあなたがたが十分に固い決意をもつて御子に従い、神

の前に決して偽善と欺きを行ふことなく誠意をもつて行動し、罪を悔い改め、バプテスマによつて、まことに、あなたがたの主であり救い主である御方に従い、主の言葉のとおりに水に入り、バプテスマを受けることによつて、キリストの名を喜んで受けることを御父に認めるならば、見よ、そのとき、あなたがたは聖靈を受ける。すなわち、そのとき火と聖靈によるバプテスマを受ける。するとあなたがたは天使の言葉で語り、イスラエルの聖者に賛美の声を上げることができるのである。わたしはそれを知つてゐる。

しかし見よ
わたしの愛する同胞よ、御子の声

が次のように聞こえてわたしに言われた。「あなたがたは罪を悔い改め、水によるバプテスマを受けたことによってわたしの戒めを進んで守ることを御父に証し、火と聖靈によるバプテスマを受け、新しい言葉、すなわち天使の言葉で語れるようになつた後に、わたしを否定するのであれば、わたしを知らなかつた方があなたがたのためによかつたであろう。」

15 わたしはまた、御父がこう言われる声を聞いた。「まことに、わたしの愛する者の言葉は眞実であり、確かである。最後まで堪え忍ぶ者は救われる。」

16さて、わたしの愛する同胞よ、このことから、人は生ける神の御子の模範に倣つて、最後まで堪え忍ばなければ救われないことが分かる。

17 したがつて、わたしがあなたがたの主であり贖い。あなたがたがこの細くて狭い道に入つたならば、それですべて終わりであろうか。見よ、わたしはそうではないと言う。もしキリストを信じる確固とした信仰をもつてキリストの言葉に従い、人を救う力を備えておられるこの御方の功德にひたすら頼らなかつたならば、あなたがたは、ここまで進んで來ることさえできなかつたからである。

18 したがつて、あなたがたは、永遠の命に至る細くて狭い道にいることになる。まことに、あなたがたはその門から入つている。あなたがたは御父と御子の戒めに従つてこのように行つている。またあなたがたは、御父と御子について証をされる聖靈を受けている。こうして、その方法によつて入るならば受けると主が約束された、その約束が果たされたのである。

19 さて、わたしの愛する同胞よ、わたしは尋ねた。あなたがたがこの細くて狭い道に入つたならば、それですべて終わりであろうか。見よ、わたしはそうではないと言う。もしキリストを信じる確固とした信仰をもつてキリストの言葉に従い、人を救う力を備えておられるこの御方の功德にひたすら頼らなかつたならば、あなたがたは、ここまで進んで來ることさえできなかつたからである。

20 したがつて、あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神

14	①マタ10:32-33、 アル24:1-5、 トモサ2:21
15	「教義」1:5、 アル5:13, 38:2、 GS「赦されない罪」
16	トモサ2:21 「イエス・キリストの戒め」
17	教義20:18-10, モサ1:5-13, 38:2、 GS「バプテスマ」
18	教義20:18-10, モサ1:5-13, 38:2、 GS「聖靈」
19	教義3:20 モサ4:10-12 GS「信仰」
20	教義3:20 モサ4:10-12 GS「希望」

とすべての人を愛して力強く進まなければならぬ。そして、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父も名も天下に与えられていない。見よ、これがキリストの教義であつて、限りなく一つの神である御父と御子と聖靈の唯一の真正な教えである。アーメン。

第32章

天しは聖靈の力によつて語る。人は祈り、自分でも聖靈のから知識を得るようにしなければならない。紀元前約五百五十九年から五百四十五年に至る。

1さて見よ、わたしの愛する同胞よ、あなたがたはその道によつて入つてからどのようすにすればよいのか、多少心の中で深く考へてゐると思う。しかし見よ、なぜこれらのことを見心の中で深く考へているのか。

2 あなたがたは、聖靈を受けたら天使の言葉で語ったことができる。また聖靈によらなければ、どうして天使の言葉で語ることができようか。

3 天使は聖靈の力で語る。したがつて、天使はキリストの言葉を語る。さて、わたしは、キリストの言葉をよく味わうようにあなたがたに言つた。見みすべて告げるからである。

4 さて、わたしがこれらのことについて述べても、あなたがたが理解できないとすれば、それはあなたがたが求めもせず、また、門をたたきもしないとあります。それゆえ、あなたがたは光の中に導かれず、闇の中滅びてしまうに違ひない。

5 見よ、わたしは、もう一度あなたがたに言つておく。あなたがたがその道によつて入り、聖靈を受けるならば、聖靈は、あなたがたがなすべきことをすべてあなたがたに示されるであろう。

6 見よ、これがキリストの教義である。キリストが肉にあつてあなたがたに御自身を現される時まで、これ以上の教義は与えられない。そして、キ

リストが肉にあつてあなたがたに御自身を現され
る時には、あなたがたはキリストが言わること
を行ふように努めなければならない。

7さて、わたしニーファイはこれ以上言うことが

できない。御靈がわたしの語るのを止められるから
である。わたしは、人々が不信で、邪悪で、無む

知であり、強情であるのを悲しく思う。彼らは知

識を求める所をよとしない。また、偉大な知識を分か
りやすく、可能なかぎりはつきりした言葉で教えら
れても、それを理解しようとしない。

8さて、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなた
がたがまだ心の中で深く考へておられる。そして、このことについてあなたがたに述べ
なければならぬのは、わたしにとつて悲しいこと
である。あなたがたは、祈るように人に教えてく
ださる御靈に耳を傾けるならば、祈らなければなら
ないことが分かるであろう。惡靈は祈るようにと
は人に教えず、かえつて祈つてはならないと人に教
える。

9しかし見よ、わたしはあなたがたに言つてお
く。あなたがたは氣を落とさずに常に祈らなければ
ならない。そのため、これらの人々は、書き記
されている多くのことを捨てて、これらを価値の

ばならない。そして、主があなたがたの行うこと
を神聖にしてくださり、あなたがたの行うことが
自分自身に幸いをもたらすものとなるように、
キリストの名によつてまず御父に祈らずには、主
のためにどんなことも行つてはならない。

第33章

ニーファイの言葉は眞実であり、キリストについて証
する。キリストを信じる者はニーファイの言葉を信じ
る。彼の言葉は裁きの法廷で証言となる。紀元前約五百
五十九年から五百四十五年に至る。

1さて、わたしニーファイは、民の中で教えられ
たことをすべて書き記すことはできない。また書
くときには話すときほどの力もない。人が聖靈の
力によつて語るときは、聖靈の力がそれを人の
子らの心に伝えるからである。

2しかし見よ、聖なる御靈に対して心をかたくな
にする人が大勢いる。彼らには聖なる御靈は宿り
たまはない。そのため、これらの人々は、書き記
されている多くのことを捨てて、これらを価値の

第33章

2	1	①	②	①	エテ	12	7
①	教義	100	1	GS	2	1	GS「不信仰」
ヒラ	6	35	7	35	2	13	2
		35	7	23		13	31
		36	8	24		2	2

8	ヤコ	4	1	GS「祈り」
②	GS	2	13	モサ4, 14,
モサ	4	14,		モセ
アル	34	20	1,	アル34, 27
5	75	11	1,	モセ5, 27

ないものと見なす。

3しかし、わたしニーフアイは、これまで書き記してきたものを大いに価値があると考え、特にわたしの民にとつてそうであると考えている。わたしは昼は絶えず民のために祈り、夜は彼らのことを心配して涙で枕をぬらしている。そしてわたしは、信仰をもつて神に叫び求めている。わたしは、神がわたしの嘆願を聞き届けてくださることを知っている。

4また、主なる神がわたしの祈りを民の益となるよう、神聖なものとしてくださることを、わたしは知っている。また、弱点がありながらも書き記してきた言葉は、わたしの民のために力強いものとなるであろう。それは、この言葉が善を行いうように説き勧め、また彼らに先祖のことを知らせ、イエスについて述べ、イエスを信じて最後まで堪え忍ぶようにならせる。ここに彼らに説き勧めるものだからである。イエスを信じて最後まで堪え忍ぶならば、永遠の命を授かるのである。

5また、真理が率直であることから、わたしが書き記してきた言葉は、罪に対する厳しく語る。そ

れゆえ、悪魔の靈を宿している者でないかぎり、だれもわたしが書き記してきた言葉に腹を立てないであろう。

6わたしは率直さに誇りを感じ、真理に誇りを感じる。また、イエスがわたしを地獄から贖つてくれる。わたしはイエスを誇りとする。

7わたしは自分の民に慈愛を抱いており、また、キリストの裁きの座でまつたく染みのない多くの人に会えるであろうと、キリストに深い信仰を抱いている。

8わたしはユダヤ人に對しても慈愛を抱いている。ここでいうユダヤ人とは、わたしが出て来た他の民のことである。

9わたしはまた異邦人に對しても慈愛を抱いている。しかし見よ、これらの人々はだれであつても、細かい道を歩み、試しの生涯の最後までその道を歩み続けないかぎり、わたしはその人のために何も望むことができない。

10さて、わたしの愛する同胞よ、ユダヤ人よ、地ちの果てに至るすべての人よ、これらの言葉を聴き、

3	① GS	聖文—聖文の
2	② エノ 1 - 9 - 12	価値
4	モロ 7 - 13 - 27	モロ 7 - 13 - 27
5	モロ 12 - 26	モロ 12 - 26
6	ヤコ 1 - 8	モロ 7 - 13 - 27
7	モロ 2 - 31 - 3	モロ 7 - 13 - 27
8	モロ 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
9	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
10	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
11	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
12	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
13	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
14	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
15	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
16	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
17	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
18	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
19	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
20	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
21	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
22	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
23	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
24	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
25	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
26	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
27	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
28	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
29	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
30	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
31	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
32	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
33	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
34	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
35	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
36	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
37	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
38	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
39	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
40	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
41	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
42	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
43	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
44	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
45	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
46	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
47	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
48	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
49	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
50	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
51	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
52	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
53	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
54	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
55	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
56	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
57	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
58	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
59	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
60	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
61	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
62	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
63	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
64	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
65	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
66	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
67	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
68	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
69	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
70	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
71	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
72	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
73	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
74	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
75	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
76	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
77	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
78	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
79	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
80	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
81	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
82	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
83	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
84	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
85	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
86	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
87	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
88	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
89	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
90	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
91	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
92	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
93	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
94	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
95	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
96	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
97	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
98	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
99	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27
100	モロ 2 - 16 - 1 - 3	モロ 7 - 13 - 27

ヤコブ書

ニーファイの弟ヤコブの書

同胞に説き教えるヤコブの言葉。ヤコブ、キリストの教義を覆そくうとする男を言い伏せる。ニーファイの民の歴史についての言葉。

第1章

ヤコブとヨセフ、キリストを信じてキリストの戒めを守るようひどいと書き勧める。ニーファイの死。ニーフアイ人の中に悪事が広がる。紀元前約五百四十四年から四百二十二年に至る。

1さて見よ、リーハイがエルサレムを去つたときからもはや五十五年が過ぎ去つた。そして、ニーフアイはわたしやコブに、これらの事柄が刻まれている小さい版について指示を与えた。

2彼はまたわたしやコブに、いちばん貴いと思うわ

ずかなことだけをこの版に書き記すこと、またニーファイの民と呼ばれるこの民の歴史については、少ししか触れてはならないことを命じた。

3ニーファイは、彼の民の歴史は彼のほかの版に刻まなければならないこと、そしてこの小さい版にはわたしが保存して、代々わたしの子孫に伝えなければならぬことを告げた。

4また神聖な説教や重要な啓示、あるいは預言があれば、それらの要点をこの版に刻むように、そしてキリストのため、またわたしたちの民のためにできるだけ多く書き記すようにと言つた。

5わたしたちは信仰を持ち、また民のことを大いに心配していたので、将来彼らに何が起るかが、すでに明らかにされていた。

6また、わたしたちは多くの啓示を受け、十分な預言の靈を授かっていたので、将来来られるキリストのことも、将来築かれるキリストの王国のことも知つていた。

7それゆえ、わたしたちは、民が神の安息に入るようにするために、民の中で熱心に働いて、キリストのもとに来て神の慈しみにあづかるようになつた。

らに説き勧めた。もし民がそうしなければ、かつてイスラエルの子らが荒れ野にいた試練の日々にて神の怒りを引き起こしたときのように、神が激しい怒りを示して、わたしたちの民も安息に入つてはならないと誓いをされる恐れがあつたからである。

それで、わたしたちが神に願つたのは、すべての人が神に背くことや神を怒らせるなどをせず、キ

11 そのために、民は彼の名を記憶にとどめておきたいと願つた。それで民は、ニーファイに代わつて治める者を、それがだれであろうと、王たちの統治に従つて、ニーファイ一世、ニーファイ三世などと呼んだ。彼らの実際の名がどうであろうと、民はこのように呼んだのである。

リストを信じ、リストの死について考え、リストを信じ、キリストの死について考えて、キリストを信じ、キリストの死について考える。トの十字架を負い、世の辱めを忍耐するよう、わたしたちが彼らを説得できるようにということであつた。それゆえ、わたしやコブは、兄ニーファイから命じられたことを果たす責任を引き受けるのである。

13さて、レーマン人でない民は二ーファイ人であつたが、民はそれぞれニーフアイ人、ヤコブ人、ヨセフ人、ゾーラム人、レーマン人、レムエル人、イシマエル人と呼ばれた。
14しかし、わたしやコブは、今後このような名で民を区別しない。ニーファイの民を滅ぼそうとする

9 ところで、ニーファイは年を取つてきて、自分で死(し)が近(ちか)いことを知(し)つた。それで彼は一人の男に油を注(そそ)ぎ、彼(かれ)を王(おう)たちの統治(とうち)に従(したが)つてその民(たみ)を治め(おさ)る王(おう)とし、統治者(とうちしゃ)とした。

しかし、わたしやコブは、今後このような名で
民を区別しない。ニーファイの民を滅ぼそうとす
る者をレーマン人と呼び、ニーファイに好意を持
つてゐる者をニーファイ人、すなわち、王たちの
統治に従つてニーファイの民と呼ぶ。

10 民はニーフアイを非常に愛していた。ニーフアイ
イは彼らの偉大な守り手であり、彼らを守るために
ラバンの剣を振るい、生涯民の幸いのために働いたからである。

15さて、二代目の王の治世になつて、ニーフアイの民は次第に心をかたくなにし始め、多く悪習にふけるようになつた。その悪習とは、昔ダビデと息子ソロモンが、多くの妻とそばめを好んだようないことである。

15	14	13	10	9	8	7
① ③ ② ②	ア ① ④ ③ ②	教義	モサ ① ② ①	ルカ 付記	アル ヒラ	ニフ 民数
教 2 2 2	モサ 1 GS 3	エ 17.	ニフ 5	GS 27	ビラ 7.	ミツ 26
ニフ 12	ニフ 11 25	エ 18.	ニフ 7	油注	1 GS 12	メア 23
5 4	12 36	13.	ニフ 7	タ 16	23 35	申 1
38	9 11	12 37 35	14	25	37, 30,	教義 84
39			9, 2,	26		アル 1 GS 12

16 そのうえ彼らは、多くの金と銀を探し求めるようになり、また多少高慢になり始めた。

17 それで、わたしやコブは、すでに主から務めを託されていたので、神殿で教えを説いたときにつきの言葉を彼らに告げた。

18 わたしやコブと弟ヨセフは、ニーファイの手によつてこの民の祭司と教師に任じられていたからである。

19 そしてわたしたちは、もし自分が力の限り神の言葉を民に教えなければ、民の罪を自分たちの頭に受けるという覚悟で責任を受けたので、主に対する自分の務めを尊んで大いなるものとした。そしてわたしたちは、民の血がわたしたちの衣にかかることのないよう、力の限り働いた。そうしなければ、彼らの血がわたしたちの衣にかかるつて、わたしたちは終わりの日に染みのない者とは認められないであろう。

第2章

ヤコブ、富を愛することや高慢、不貞を非難する。胞を助けるためであれば、富を求めることができる。

主はら

は、ニーファイ人の中の男はだれも一人以上の妻を持つてはならないと命じられる。主は婦人たちの貞節を喜ばれる。紀元前約五百四十四年から四百二十一年に至る。

1 ニーファイの死後、ニーファイの弟ヤコブがニーファイの民に語った言葉。

2 「さて、わたしの愛する同胞よ、わたしやコブは、はじめて自分の務めを尊んで大いなるものとするという責任を神から受けており、また、わたしの衣からあなたがたの罪を取り除きたいので、今日こうして神殿に来て、あなたがたに神の御言葉を告げる。

3 あなたがたも知つていて、わたしは召された職務にこれまで努め励んできた。しかし今日のわたしは、あなたがたの幸いを願う気持ちと心配がこれまでよりも大きいので、心が沈んでいる。

4 見よ、あなたがたは、今までわたしが宣べてきた主の御言葉に従つてきた。

5 しかし見よ、わたしの言うことをよく聴きなさい。そして、わたしが天地の全能の創造主の助けによつて、あなたがたの思いについて告げること

ができるということを知りなさい。それはどうい
うことかといえど、あなたがたが、わたしにとつて
非常に忌まわしく、また神にとつても忌まわしく
思われる罪を犯し始めていることである。

6 まことに、あなたがたの心が邪悪であることをあ
なたがたに証言しなければならないのは、わたし
にとつて悲しいことであり、またわたしはこのため

に、造り主の御前で恥じて縮み上がる思いである。
7 また、あなたがたの妻子の前で、あなたがたのこ
とをひどくあからさまに話さなければならぬの

は、わたしにとつて悲しいことである。あなたがた
の妻子の多くは、神の御前にあつて非常に感じや
すく、清く、穢細である。これは神にとつて喜ばし
いことである。

8 そしてあなたがたの妻子は、喜びをもたらす神

の御言葉、まことに傷ついた心を癒す御言葉を聞
こうとして、ここに来たことと思う。

9 それゆえ、わたしの心は重い。というのは、神
から受けた厳しい命令があるので、どうしてもあ
なたがたの罪惡についてあなたがたを戒めなけれ
ばならず、そのようにすることで、すでに傷を負

10 しかし、この務めが大変であつても、わたしは
神の厳しい命令に従つてこれを果たし、心の清い
者と打ち碎かれた心を持つ者の前で、また全能の
神が鋭い目で御覧になる所で、あなたがたの悪事
と忌まわしい行いについて、あなたがたに告げな
ければならない。

11 したがつて、わたしは神の御言葉の率直さのま
ま、あなたがたに事實を告げなければならない。見
よ、わたしが主に尋ねたところ、主の御言葉がわた
しに下つて、「ヤコブよ、明日神殿に行き、わたし
があなたに授ける言葉をこの民に告げ知らせなさ
い」と言われた。

12さて見よ、わたしの同胞よ、わたしがあなたがた
に告げ知らせる言葉は次のとおりである。あなた
がたと子孫のための約束の地であるこの地に非常

12 GS ①	11 2	10 8 2	7 2	1 ① ② ① ② ①
「約束の地」	3	2 2 ニフ 9	44	GS 「戒め」 5
	25	ニフ 25	4	アル 31 「神の」 43
	20	ニフ 20	31	

に豊富にある金や銀、そのほかあらゆる貴重なあらがねを、あなたがたの多くは探し求めるようになつてきた。

13 このようにしてあなたがたは、神の御心の御手であなたがたにほほえんで、たくさんの富を手に入れた。ところがある者たちは、ほかの者より豊かに富を得たことで心が高慢になり、また自分の衣服が高価なことで強情になつて高ぶり、さらにはほかの者よりも優れていると思つて同胞を苦しめている。

14 さて、わたしの同胞よ、あなたがたはこのようなことを行つていて、神から義とされるとと思うか。見よ、わたしはあなたがたに言う。そうではない。かえつて神はあなたがたを罪に定められる。このようないふなことを続けるならば、神の裁きが速やかに下るに違ひない。

15 おお、神があなたがたを刺し貫き、一目であなたがたを地に打ち倒すこともおできになることを、あなたがたに示されるように。

16 おお、神があなたがたを、この罪悪と忌まわしい行いから解き放してくださるように。おお、あなた

たがたが神の命じられる御言葉を聴き、心の高慢によつて靈に滅びを招かないように。

17 同胞を自分自身のように思いなさい。そして、すべての人と親しくし、あなたがたのように彼らも豊かになれよう、所有物を惜しみなく与えなさい。

18 しかし、富を求める前に神の王国を認めなさい。

19 キリストに望みを抱いてから富を求めるならば、富は得られるであろう。しかし、富を求める目では、裸でいる者に着せ、飢えている者に食物を与えて、束縛されている者を自由にし、病人や苦しんでいる者を救うなど、善を行ふことである。

20 さて、わたしの同胞よ、わたしは高慢についてあなたがたに語つた。神から与えられたものを心中で誇つて、隣人を苦しめ恼まし、虐げてきた者よ、あなたがたは今そのことをどのように考えているか。

21 このようなことは、すべての人を造られた御方にとつて忌まわしいことであるとは思わないか。神の目には、人は皆等しく貴い存在である。すべての人はちりから造られている。そして、神の戒

21	19	18	17	16	13	12
ア	① ① ② ② GS	マコ	エラ	ニフ	18	12
ブ	モサ 4 12	ニフ	6	6	9	10
3	7	10	11	11	11	23
25	31, 27, 17	上	3	4	8	39
11	31	13	13	福	35	25,
26	20, 26, 22	下	13	社	39	18.
21	31	13	13	高慢	39	25,

めを守り、どこしえに神をあがめるという同一の目的をもつて、神により造られたのである。

22 わたしはこれで、高慢についてあなたがたに語ることを終わりにするが、もつとひどい罪悪について話さなくてよかつたならば、あなたがたのことで心に非常に大きな喜びを感じたであろう。

しかし、あなたがたのもつとひどい罪惡のため
に、神の御言葉がわたしに重くのしかかっている。
見よ、主はこう言われる。『この民の罪惡はますま
すひどくなつてゐる。彼らは聖文を理解しておら
むすこ
いか
しる

す、ダビデとその息子ソロモンについて書き記されていることをもって、自分たちがみだらな行いをしていることの言い訳にしようとしている。

24 見よ、ダビデとソロモンは事実、多くの妻とそばめを持ったが、それは、わたしの目に忌まわしいことであった。』

25 そして、主は言われる。『それゆえわたしは、わ
うで ちから たみ ち

たしの腕の力によつてこの民をエルサレムの地から連れ出し、ヨセフの腰から出た者の中から一本の義にかなつた枝をわたしのために起こせるようになつた。

26 それゆえ主なる神であるわたしは、この民が昔のものたちのような行いをするのを許さない。』

27 したがつて、わたしの同胞よ、わたしの言うことを聞き、主の御言葉に耳を傾けなさい。万軍の主はこう言われる。「あなたがたの中のどの男も、妻ひとりは一人しか持つてはならない。また、そばめは一人も持つてはならない。

28 主なる神であるわたしは、婦人たちの貞節を喜ばしく思う。みだらな行いは、わたしの目に忌まわ

29 さて、この民は、わたしの戒めを守らなければならぬことである。

らない。さもなければ、地は民のためにのろわれ
るであろう。』

30　万軍の主は言われる、「将来わたしのために子孫を起こしたいと思つう時が来れば、わたしは民に命じよう。その旨合ひばな、あいだは、己はこれらのことこ

聞き従わなければならぬ。 ちよつと、その命令がない間に、耳はこれらのことばをす

31 見よ、主なるわたしは、エルサレムの地に住むわたしの娘たちと、わたしの民が住む全地の娘たちが、夫の悪事と忌まわしい行いのために悲しむのを見、嘆くのを聞いた。

32 わたしがエルサレムから導き出したこの民の美しい娘たちの叫びが、わたしの民の男たちのことをしてはならない。

33 男たちは、わたしの民の娘たちを、彼女たちの優しさに付け込んで奴隸のようにしてはならない。さもなければ、わたしは男たちにひどいのろいを下し、彼らを滅ぼしてしまうであろう。男たちは昔の者のようにみだらな行いをしてはならない。』万軍の主はこのように言われる。

34 さて見よ、わたしの同胞よ、あなたがたは父りハイにもこの戒めが与えられたことを知っている。したがつて、あなたがたは以前からこの戒めを知つていた。にもかかわらず、あなたがたは、行つてはならないこれらのことを行つたので、重い罪の宣告を受けたのである。

35 見よ、あなたがたは、同胞であるレーマン人よりもひどい罪を犯した。あなたがたは妻子の前に良くない手本を示して、感じやすい妻の胸を張り裂けさせ、子供たちの信頼を失つた。彼らの心のむせび泣きが神のみもとに上つて、あなたがたを

訴えている。また、あなたがたを責める神の御言葉が厳しくために、多くの心が深い傷を負つて死んでしまつた。』

第3章
心の清い者は、喜びをもたらす神の言葉を受け入れる。レーマン人の義が二ーファイ人の義をしのぐ。ヤコブ、不貞や好色、そのほかあらゆる罪を遠ざけるよう戒める。紀元前約五百四十四年から四百二十一年に至る。

1 「しかし見よ、わたしやコブは、心の清いあなたがたに述べたい。確固とした思いをもつて神に頼り、篤い信仰をもつて祈りなさい。そうすれば、神は苦難のときにはあなたがたを慰めてくださる。また、あなたがたのことと弁護してくださり、あなたがたを滅ぼそうとする者たちに罰を下される。

2 おお、あなたがた、心の清いすべての人よ、頭を上げて、喜びをもたらす神の御言葉を受け入れ、神の愛をよく味わいなさい。あなたがたの思いが確固としていれば、とこしえにそうすることができるからである。

3しかし、心が清くなく、今日、神の御前に汚れている者は災いである。災いである。悔い改めなければ、地はあなたがたのためにのろわれるからである。レーマン人はひどいのろいをもつてのろわれているが、あなたがたのように汚れてはいない。そのレーマン人はあなたがたをひどく苦しめ、滅ぼすであろう。

4また、あなたがたが悔い改めなければ、レーマン人があなたがたの受け継ぎの地を所有し、さらに主なる神があなたがたの中から義人を連れ出される時が速やかに来る。

5見よ、あなたがたは、自分たちの同胞であるレーマン人を、彼らが汚く、またのろいをその肌に受けていることで嫌うけれども、彼らはあなたがたよりも義にかなっている。彼らは、わたしたちの父に与えられた主の戒め、すなわち、妻は一人しか持つてはならない、そばめは一人も持つてはならない、民の中にみだらな行いがあつてはならない、という戒めを今でも忘れていいからである。

6彼らは今も、この戒めを守るように努めている。したがつて、この戒めを守ろうとこのように努める。

7見よ、レーマン人の夫は妻を愛し、妻は夫を愛し、夫と妻は子供たちを愛している。彼らの不信仰とあなたがたに対する憎しみは、彼らの先祖の罪悪のためである。そうであるとすれば、大いなる創造主の目から見て、あなたがたは彼らよりも立派だと言えるだろうか。

8おお、わたしの同胞よ、あなたがたが罪を悔い改めなければ、彼らとともに神の御座の前に連れ出されると、彼らの肌はあなたがたの肌よりも白いである。

9さて、わたしは戒めをあなたがたに与える。これは神の御言葉である。あなたがたは彼らの肌が黒ずんでいるからといって、彼らを二度とののしつてはならない。汚いからといって彼らをののしつてはならない。むしろ、あなたがた自身の汚れを思起こし、彼らが汚いのは彼らの先祖のためであることを覚えておきなさい。

10そして、あなたがたは自分の子供たちのこと

10 思い起こし、自分が彼らの前に示した手本で、どれほど彼らの心を悲しませてきたかを考えなさい。また、あなたがたは自分の汚れのために子供たちを滅びに至らせる恐れがあり、そうなれば彼らの罪が、終わりの日にあなたがたの頭に積み上げられるということを覚えておきなさい。

11 おお、わたしの同胞よ、わたしの言葉を聴きなさい。あなたの精神に宿る能力を奮い立たせなさい。身を震わせて死の眠りから目覚めなさい。悪い魔の使いとなつて第二の死であるあの火と硫黄の池に投げ込まれることのないように、地獄の苦しみから自分自身を解き放しなさい。」

12 さて、わたしやコブはこのほかにも多くのことを二ーファイの民に語り、不貞や好色、そのほかあらゆる罪を遠ざけるように戒め、これらの罪がもたらす恐ろしい結果を告げた。

13 今やおびただしい数になり始めたこの民の行いは、百分の一もこの版に書き記せない。しかし、大きい版には民の行いの多くが書き記されており、戦争と争い、王たちの統治のことも書き記されてゐる。

14 この版はヤコブの版と呼ばれているが、ニーフアイの手で造られたものである。ここでこれらのことをお述べのを終わりにする。

第4章

預言者はすべて、キリストの名によつて御父を挙げた。アブラハムがイサクをささげようとしたことは、神と神の独り子の相似であつた。人は贖罪を通じて神と和解しなければならない。ユダヤ人は土台石を拒む。紀元前約五百四十四年から四百二十一年に至る。

1 さて見よ、わたしは、言葉で民に多くのことを教えてきた。(しかし、わたしたちの言葉を版に刻むのは難しいので、わたしは自分の言葉を少ししか書き記すことができない)わたしちは、版に書き記すことは必ず残ることを知つてゐる。

2 しかしながら、版でないほかのものに書き記することは、すべて朽ちて消え去つてしまふに違ひない。しかし、わたしたちは子孫と愛する同胞に、わたしたちについて、すなわち彼らの先祖について少々知らせるために、版にわずかばかりの言葉を書き

記すことができる。

さて、このことをわたしたちは喜んでいる。わたしたちは、愛する同胞とわたしたちの子孫が感謝の心をもつてこれらを受け、またこれらを見て、自分たちの最初の先祖のことを悲しみや悔いではなく、喜びをもつて知るようになることを望みながら、これらの言葉を版に刻むことに励んでいる。

4 わたしたちがこれらのことと書き記してきたのは、わたしたちがキリストのことを知っていたことと、キリストの来臨の何百年も前にキリストの栄光を待ち望んでいたこと、また、わたくちばかりでなく、前の時代の聖なる預言者もすべてキリストの栄光を待ち望んでいたことを、彼らが知ることができるようになるためである。

ささげるようとにとの神の命令に従順であった、荒れ野のアブラハムが義とされたのと同様である。アブラハムがイサクをささげようとしたことは、神と神の独り子の相似であつた。

6 それゆえ、わたしたちは預言者の書を調べていいる。また、わたしたちには多くの啓示があり、またた預言の靈がある。このように証するものが數々あるので、わたしたちは希望を抱いており、わたしたちの信仰は揺るぎないものになつてゐる。実際にイエスの名によつて命じれば、木々も山々も海の波も従うほどである。

7 にもかかわらず、主なる神はわたしたちの弱点を示される。それは、このようなことを行う力がないわたしたちにあるのは、神の恵みと人の子らに対する神の大いなるへりくだりによるということを、わたしたちに分からせるためである。

見よ、預言者たちはキリストを信じ、キリストの名によつて御父を拝した。また、わたしたちも、キリストの名によつて御父を拝している。モーセの律法は、わたしたちの心をキリストへ向けるものであるから、わたしたちは今それを守つている。そして、そのためにはわたしたちは聖められ、義とされているのである。それはまさに、息子イサクを

見よ、主の業は大いなる驚くべきものである。主の道を知り尽くすことは、とても人にできることではない。主の道は、啓示されないかぎりだれも知ることはできない。それゆえ同胞よ、神の啓示を侮つ

てはならない。

見よ、神の言葉の力によつて人は大地の面に現れ、その大地も神の言葉の力によつて創造された。したがつて、神が御言葉を發して世界が存在した。

するようになり、また、御言葉を發して人が造られたとするならば、おお、どうして神は御自分の意のまま、思いのままに、^{おも}_③大地やその面にある神の手により造られたものに、命令をお下しになれないことがあろうか。

10 それゆえ、主に助言しようとしている
で、主の手から助言を受けようとしている
よ、あなたがたは、主が、造られたすべてのものに
知恵と公正と深い憐れみをもつて助言を与える
ことを知っているからである。

11 それゆえ、愛する同胞よ、神の独り子キリストの贖罪(しょざい)を通じて神と和解(わかい)しなさい。そうすれば、あなたがたはキリストの内にある復活(ふっかつ)の力によつて復活(ふっかつ)することができる。またあなたがたは信仰(しんこう)を持ち、キリストが肉にあつて御自身(ごじしん)を現される前に、キリストにある栄光(えいこう)を確固(かっこ)として待ち望んでいたので、キリストの初穂(はつほ)として神のためにささ

げられるのである。

さて、愛する人々よ、わたしがこれらのことであなたがたに述べているのを驚いてはならない。キリストの贖罪について語るのに、また復活と来るべき世についての知識を得ると同じように、キリストについて完全な知識を得るのに、何の差し支えがあるうか。

13 み見よ、わたしの同胞よ、預言する者には、人々が理解できるように預言させなさい。御靈は眞実を語り、偽りを言われることがない。したがって、御靈は現在のことがありのままに示し、未来のこと

もまた、ありのままに述べられる。それゆえ、これらのことはわたしたちの救いのために、わたしたちに分かりやすく示されているのである。しかし見よ、これらのことについての証人は、わたしたちだけではない。神は昔の預言者にもこれらのこと

14 しかし見よ、ユダヤ人は強情な民であつて、彼らは分かりやすい言葉を侮り、預言者たちを殺し、自分たちの理解できないものを求めた。それゆえ、彼らは的のかなたに目を向けたために盲目とされ、(もうもく)

なり、盲目のために堕落しなければならなかつた。神が分かりやすいことを彼らから取り去り、彼らが理解できないことを多く伝えられたからであり、彼らがそれを望んだためである。彼らが望んだので、神はそのように行われ、彼らはつまずいた。15 そして今、わたしやコブは、預言するよう御靈に促されている。わたしは、わたしの内にある御靈の働きによって、ユダヤ人が、自分がつまずいたためにそのつまずいた石を拒むことを知つてゐる。その石は、その上に建物を建てるのできることのである。

16 しかしながら見よ、聖文によると、その石は、ユダヤ人がその上に建物を建てることができる、偉大な、最後の、しかも唯一の堅固な土台となるのである。

17さて、わたしの愛する人々よ、これらの者がその堅固な土台を拒んだ後に、どうしてそれを隅のからしら石として、その上に建物を建てる事ができるのであるうか。

18 見よ、わたしの愛する同胞よ、もしわたしが何かによつて強い御靈を失つたり、あなたがたを中心

第5章

ヤコブ、栽培されたオリーブの木と野生のオリーブの木の比喩について述べたゼノスの言葉を引用する。それらのオリーブの木は、それぞれイスラエルと異邦人とをたとえたものである。イスラエルの散乱と集合があらかじめ示される。二ーファイ人とレーマン人、およびイスラエルの家に属するすべての者について示される。異邦人はイスラエルに接がれる。果樹園は最後に焼かれる。紀元前約五百四十四年から四百二十一年に至る。

16 しかしながら見よ、聖文によると、その石は、ユダヤ人がその上に建物を建てるとのできる、偉大な、最後の、しかも唯一の堅固な土台となるものである。

17さて、わたしの愛する人々よ、これらの者がその堅固な土台を拒んだ後にどうしてそれを隅のからしら石として、その上に建てる事ができるか?

18 見よ、わたしの愛する同胞よ、もしわたしが何なにかによつて強い御靈を失つたり、あなたがたを心から

「聴きなさい、おお、あなたがたイスラエルの家
よ。主の預言者であるわたしの言葉を聞きなさい。
見よ、主はこう言われる。『おお、イスラエルの
ゼノスがイスラエルの家に語った彼の言葉を読ん
だのを覚えていないか。その言葉は次のとおりで
ある。

第5章

3 1
GS ① ①
「イヌラエル」 GS 「ゼノス」
エゼ 36・8、

15 14
 ③ ② 2 1 ① ④
 1 GS ニフリ イ 2 ニフ
 ニ 「18 1 ザ 8 25
 フ 岩 」 13 23 13
 10 「 15 15 1
 11 隅 の 石 2

家よ、わたしはあなたを、人が自分の果樹園に植うえて養いを与えた、一本の栽培されたオリーブの木にたとえよう。その木は生長し、やがて老い、朽ち始めた。

4 そして、果樹園の主人がやつて来て、オリーブの木が朽ち始めたのを見て言つた。「この木を刈り込み、木の周りを掘り、養いを与えるよう。そうすれば、恐らくこの木は柔らかい若枝を出し、枯れないのであるう。」

5 さて、主人はその言葉のとおりにその木を刈り込み、木の周りを掘つて養いを与えた。

6 そして、多くの日の後に、その木は柔らかい若枝を少し出し始めた。ところが見よ、その木の中の先の方が枯れ始めた。

7 そこで、果樹園の主人はそれを見て僕に言つた。「この木を失うのは悲しい。だから、野生のオリーブの木から何本か枝を切り取つて、わたしのところに持つて来なさい。わたしたちは枯れ始めた。」「この木を失うのは悲しい。それで、根を枯らさせ、木を刈り込ませ、養いを与えて言つた。

10 そこで、僕は果樹園の主人の言葉のとおりにし、野生のオリーブの木の枝を接いだ。
11 また、果樹園の主人は僕にその木の周りを掘らせ、木を刈り込ませ、養いを与えて言つた。「この木を失うのは悲しい。それで、根を枯らさずにしておくことができると思い、また、わたし自身のために残しておくことができると思つてこうしたのである。

12 さあ、仕事にかかり、わたしの言葉のとおりに木を見守り、養いを与えないさい。

8 また見よ、果樹園の主人は言つた。「わたしはこ

燃やしてしまおう。」

9 あなたは野生のオリーブの木の枝を何本か取つて、枯れた枝の代わりにそれらの枝を接ぎなさい。わたしは切り落としたこれらの枝を、果樹園の土地をふさがないように、火の中に投げ込んで燃やしてしまおう。」

い場所で、わたしが良いと思つ所に置こう。それがどこか、あなたは知らなくてよい。こうするのは、わたし自身のためにこの木の自然の枝を残し、また実のとれない時節に備えてわたし自身のために実を蓄えられるようにするためである。この木と実の両方を失うのは悲しいことだからである。」

14 そして、果樹園の主人は仕事にかかり、栽培したオリーブの木の自然の枝を、果樹園のいちばん低い場所で、自分の意のまま、思いのままに、ある枝はあちらに、ある枝はこちらにと隠した。

15 さて、久しく時がたつて、果樹園の主人は僕に、「さあ、一緒に果樹園に行つて働こう」と言つた。

16 そして、果樹園の主人と僕は、働くために果樹園に行つた。そのとき、僕は主人に、「御覧ください。ここです。この木を御覧ください」と言つた。

17 そこで、果樹園の主人がそちらを向いて、野生のオリーブの枝を接いた木を見ると、その木はすぐ枝を伸ばし、実を結び始めていた。見ると、それは良く、その実は自然の実のようであつた。

18 主人は僕に言つた。「見よ、野生の木の枝はこの

木の根から養分を吸い上げ、根は十分な力を与えている。そして、根に十分な力があるので、野生の枝は、栽培した木が結ぶような実を結んだ。これらの枝を接がなかつたならば、この木は枯れていたであろう。さて見よ、この木が結んだたくさんの実を蓄えよう。実のとれない時節に備えて、わたし自身のためにこの木の実を蓄えることにしよう。」

19 そして、果樹園の主人は僕に言つた。「さあ、一緒に果樹園のいちばん低い場所へ行き、その木の自然の枝もたくさん実を結んでいるかどうか見よう。実を結んでいれば、実のとれない時節に備えて、わたし自身のためにその実を蓄えることができる。」

20 そして、一人は、前に主人がその木の自然の枝を隠した所へ行つた。そして、主人は僕に、「これらの枝を見なさい」と言つた。僕が最初の枝を見るとき、それはたくさんの中を結んでいた。僕には、それが良いものであることが分かつた。また、主人は僕に言つた。「この実をとり入れ、わたし自身のために保存できるように、実のとれない時節に備えてこれを蓄えなさい。見よ、わたしがこれまで長い間養いを与えてきたので、これはたくさんの中を結んでいた。

んだ。

21 そこで僕は主人に言つた。「この木を、いや、木のこの枝を植えるために、どうしてここにおいでになつたのですか。まことに、ここはあなたの果樹園のすべての土地の中でいちばんやせた場所です。」

22 果樹園の主人は僕に言つた。「わたしに助言は要らない。わたしはここがやせ地であることを知つていた。わたしが前にあなたに言つたように、わたくしはこれまで長い間これに養いを与えてきた。それであなたの見るとおり、これはたくさんのが実を結んだのである。」

23 さて、果樹園の主人は僕に言つた。「こちらを見なさい。わたしはもう一本、木の枝を植えておいた。あなたの知つているように、この土地は最初の土地よりもやせていた。しかし、この木を見なさい。わたしはこれまで長い間にこれに養いを与えてきたい。わたしはこれまで長い間にこれに養いを与えてきました。」

24 そして、果樹園の主人は再び僕に言つた。「こちらも見なさい。わたしが前に植えたもう一本の枝

見なさい。これにも養いを与えてきたので、実を見
結んだ。」

25 また、主人は僕に言つた。「こちらを向いて、最後の枝を見なさい。見よ、わたしはこれを良い土地に植え、これまで長い間養いを与えてきたが、この木は一部分だけが、栽培した木が結ぶような実を結び、ほかの部分は野生の実を結んだ。見よ、わたしは、この木にもほかの木と同じように養いを与えてきた。」

26 そして、果樹園の主人は僕に言つた。「良い実を結ばなかつた枝は切り落として、火の中に投げ込みなさい。」

27 しかし見よ、僕は主人に言つた。「木を刈り込み、木の周りを掘つて、もうしばらく養いを与えてましょう。そうすれば、恐らくこの木はあなたのために良い実を結び、実のとれない時節に備えて実を蓄えられることでしよう。」

28 そして、果樹園の主人と僕は、果樹園のすべての實に養いを与えた。

29 さて、久しく時がたつて、果樹園の主人は僕に言つた。「さあ、一緒に果樹園に行つて、また果樹園の実に養いを与えたので、これにも養いを与えてきたので、実を見なさい。これにも養いを与えてきたので、実を見
結んだ。」

園で働こう。見よ、時が近づいており、終わりはすぐにある。だから実のとれない時節に備えて、わたし自身のために実を蓄えなければならない。」
 30 そして、果樹園の主人と僕は果樹園へ行き、自らの枝を折り取つて野生の枝を接いだ木の所へ行つてみた。すると見よ、いろいろな種類の実を木につぱいに結んでいた。

31 そこで、果樹園の主人は、その実を種類ごとにすべて味見して見つた。「見よ、わたしたちは、これまで長い間この木にやいをえ、実のとれない時節に備えてわたし自身のためにたくさんの実を蓄えてきた。

32 ところが見よ、この度はたくさんの実を結んだけれども、一つとして良い実はない。見よ、あるのはすべて悪い種類の実であり、わたしたちのあらゆる骨折りにもかかわらず、まったくわたしの利益にならない。しかし、この木を失うのは悲しい。」
 33 そして、果樹園の主人は僕に、「もう一度わたし自身のためにこの木の良い実を保存できるようにするには、どうすればよいだろうか」と言った。すると僕は、主人に言つた。「まことにあなたが

野生のオリーブの木の枝を接がれたので、枝が根を養い、根は今も枯れずに生きています。ですから御覧のとおり、根はまだ大丈夫です。」
 35 そこで、果樹園の主人は僕に言つた。「この木が悪い実を結ぶかぎり、これはわたしにとつて何の利益にもならないし、またこの根も何の役にも立たない。

36 それでもわたしは、この根が良いことを知つており、わたし自身のためにこれを残してきた。この根は十分な力があつたので、これまで野生の枝に良い実を結ばせてきた。

37 ところが見よ、野生の枝が生長して根を負かしてしまった。野生の枝が根を負かしてしまったために、この木は悪い実をたくさん結んだ。そして、この木は悪い実をたくさん結んだために、あなたの見るとおり枯れ始めている。だから、わたしたちがこれを残すために何かしなければ、これはすぐだめになつてしまい、火の中に投げ込まれることになる。」
 38 さて、果樹園の主人は僕に言つた。「さあ、果樹園のいちばん低い場所へ行き、元の自然の枝も悪い実を結んでいかどうか、見ることにしよう。」

39 そして、二人が果樹園のいちばん低い場所へ行つてみると、元の自然の枝の実も悪くなつていた。ことに、最初の枝も、第一の枝も、また最後の枝も、実がすべて悪くなつていた。

40 また、最後の枝の野生の実は、木の良い実を結んだ部分を負かしてしまい、枝は弱り果てて枯れていた。

41 そこで、果樹園の主人は涙を流し、僕に言つた。

「わたしの果樹園のために、これ以上何ができるであろうか。」

42 見よ、果樹園の実が、これらのものを除いてすべて悪くなつていたことは分かつっていた。ところが、かつて良い実を結んでいたこれらの枝も悪くなつてゐる。わたしの果樹園の木はどれもこれも役に立たないので、切り倒して火の中に投げ込むしかない。

43 見よ、もう枝が枯れてしまつたこの最後の木は、わたしが良い土地に植えたものである。まことに、ここはわたしの果樹園の中で、ほかのあらゆる土地に勝つたり抜きの土地であつた。

44 しかも、あなたの見たとおり、わたしは、この土地をふさいでいたものを切り払つて、その代わり

にこの木を植えた。

45 また、あなたの見たとおり、この木の一部分は良い実を結び、また一部分は野生の実を結んだ。しかし、わたしが野生の実を結んだ枝を切り落として火の中に投げ込まなかつたので、見よ、その枝は良い枝を負かして枯らしてしまつた。

46さて見よ、わたしたちが果樹園でできるだけの世話をしたにもかかわらず、果樹園の木はだめになつてしまい、少しも良い実を結ばない。わたしはこれらの木を残しておいて、実のとれない時節に備えて、わたし自身のために実を蓄えようとしてきた。ところが、見よ、これらの木は野生のオリーブの木のようになつてしまつた。これらの木はもう何の価値もないでの、切り倒して火の中に投げ込んでしまうしかない。これらの木を失うのは、わたしには悲しいことである。

47 しかしながらわたしは、果樹園でこれ以上何ができるであろうか。わたしは怠けて養いを与えなかつたであろうか。いや、わたしは養いを与えてきた。果樹園を掘り起こし、刈り込み、肥料もやつた。ほどんど一日中、手を差し伸べてきた。しかし、終わ

りが近づいている。果樹園の木をすべて切り倒し、火の中に投げ込んで燃やしてしまわなければならぬのは、わたしには悲しいことである。わたしの果樹園をだめにしたのは何者であろうか。

48 そこで、僕は主人に言つた。「それは果樹園の木が高くそびえているからではありませんか。そのために、木の枝が良い根を負かしたのではありませんか。枝が根を負かしたために、まことに、枝が根のかかり以上に生長し、勢力を奪つたのです。まことに、果樹園の木がだめになつた原因はこれであると、わたしは申し上げます。」

49 そこで、果樹園の主人は僕に言つた。「行つて果樹園の木を切り倒し、火の中に投げ込み、それらの木が果樹園の土地をふさがないようにしよう。わたしは手を尽くしてきた。果樹園のためにこれ以上何ができるであろうか。」

50 しかし見よ、僕は果樹園の主人に、「もうしばらくくお待ちください」と言つた。

51 すると主人は言つた。「よろしい。果樹園の木を失うのは悲しいので、もうしばらく待つことにしよう。

52 そして、わたしが果樹園のいちばん低い場所に植えておいたこれらの木の枝を取り、親木に接ぎ返そう。いちばん渋い実のなる枝を何本か親木から切り落とし、代わりに親木の元の自然の枝を接ぐことにしよう。

53 わたしがこうするのは、親木を枯らさないためである。こうすれば、わたし自身のためにその根を残せるかもしれない。

54 また見よ、わたしが良いと思う所に植えた親木の自然の枝の根は、まだ生きている。これらの根もわたし自身のために残せるよう、この親木の枝を取つて、これらの根に接ごう。まことに、これらの根にその親木の枝を接げば、わたし自身のためにそれらの根も残すことができ、根が十分に強くなると恐らくわたしのために良い実を結べるようになる。そうすれば、わたしは果樹園の実によつて、まだ栄えを得ることができる。」

55 そして二人は、すでに野生のようになつた自然の親木から枝を取り、これまでに野生のようになつた自然の木にそれらを接いだ。

56 また二人は、すでに野生のようになつた自然の

木の枝を取り、それらを親木に接いだ。
 果樹園の主人は僕に言つた。「いちばん渋い実を結ぶ枝のほかは、野生の枝を木から切り落としてはならない。また、切り落とした木には、わたしが言つたように接ぎ木をしなさい。

58 わたしたちは、もう一度果樹園の木に養いを与えて、枝を刈り込もう。また、もう実を結ばず、枯れることが分かつている枝は、木から切り落として、火の中に投げ込んでしまおう。

59 わたしがこうするのは、根がまだ良いので、枝を取り換えることで根がまた強くなり、良い枝が悪い枝を負かしてしまうのではないかと思うからである。

したちは果樹園で力を尽くして熱心に働き、もう一度自然の実を結ばせる準備をしよう。自然の実は良い実であり、ほかのどんな実よりも価値のあるものである。

62 だから、行つて、この最後の時に当たつて、わたしたちの力を尽くして働く。見よ、終わりは近づいている。これはわたしが果樹園で刈り込みをする最後の時である。

63 枝を接ぎなさい。最後の枝が最初となり、最初の枝が最後となるよう、最後の枝から始めなさい。そして、古い木も新しい木も、最初の木も最後の木も、その周りを掘つて、最後の木から最初の木までのすべてが、最後にもう一度養いを与えられるようにしなさい。

64 終わりが近づいているので、最後にもう一度木の周りを掘り、刈り込み、肥料をやりなさい。そして、これらの最後の接ぎ穂が生長して自然の実を結ぶようであれば、生長できるように必要な準備をしなさい。

65 そして、接ぎ穂が生長し始めたら、良い枝の力とその大きさに応じて、渋い実を結ぶ枝を取り除くんだ根と枝を残したこと非常に喜びに感じるであろう。

61 だから、行って僕たちを呼び集めなさい。わた

きなさい。しかし、悪い枝を一度にすべて取り除^{のぞ}る。

いてはならない。そのようなことをすれば、接ぎ穂^ほに対して根^ねの方が強くなりすぎて、接ぎ穂^ほが枯れてしまい、果樹園^{かじゅえん}の木を失^{うしな}ってしまうことになる。

66 果樹園^{かじゅえん}の木を失^{うしな}るのは悲しいことである。だからあなたがたは、根^ねとこずえの力^{ちから}の釣り合^あいを取りながら、良い枝^{えだ}が生長するに応じて悪い枝^{えだ}を取り除^{のぞ}き、良い枝^{えだ}が悪い枝^{えだ}を負かすようにしなさい。それから、悪い枝^{えだ}を切り取つて火^ひの中に投げ込み、悪いものが果樹園^{かじゅえん}の土地^{とち}をふさがないようにしなさい。

このようにして、わたしは自分の果樹園^{かじゅえん}から悪いものを一掃^{いつそう}してしまおう。

67 わたしは、元^{もと}の自然^{しぜん}の木^きの枝^{えだ}を、もう一度自然^{しぜん}の親木^{おやき}に接ぎ返^{かえ}そう。

68 また、自然^{しぜん}の親木^{おやき}の枝^{えだ}を、親木^{おやき}の自然^{しぜん}の枝^{えだ}に接^つぎ合^あう。こうしてわたしは、再びそれらのものを組み合わせて、それらの木^きが自然^{しぜん}の実^みを結^{むす}び、一つとなるようしよう。

69 そして、悪いものをわたしの果樹園^{かじゅえん}の全体^{ぜんたい}から捨て去^{すき}る。そのため見^みよ、わたしはもう一度だけ、わたしの果樹園^{かじゅえん}の刈り込みをしよう。

70 そして、果樹園^{かじゅえん}の主人は僕^{わたくし}を遣^{つか}わした。それで僕^{わたくし}は行^はつて、主人から命じられたとおりにし、ほかの僕^{わたくし}たちを連れて來^{きた}た。その数は少なかつた。

71 それで果樹園^{かじゅえん}の主人は僕^{わたくし}たちに言つた。「行^はつて、果樹園^{かじゅえん}で力を尽くして働きなさい。見よ、これが、わたしが果樹園^{かじゅえん}に養いを与える最後の時^{とき}である。終わりはすでに近く、時節はすぐに来る。

しかし、あなたがたがわたしと一緒に力を尽くして働くならば、わたしがもうすぐやつて来る時節に備えてわたし自身^{じしん}のために実^みを蓄^{たま}える、その実^みによつてあなたがたは喜びを得るであろう。」

72 そこで、僕^{わたくし}たちは行^はつて、力を尽くして働いた。果樹園^{かじゅえん}の主人も彼らと一緒^{いっしょ}に働いた。僕^{わたくし}たちは何事もすべて果樹園^{かじゅえん}の主人の命令^{めいれい}に従つた。

73 すると、自然^{しぜん}の実^みがまた果樹園^{かじゅえん}で結^{むす}び始め、自然^{しぜん}の枝^{えだ}も生長してよく生い茂り始めた。それで、野生^{やせい}の枝^{えだ}を切り落^{おち}とし、捨て始めた。僕^{わたくし}たちは、木^きの根^ねとこずえの力^{ちから}に応じて、それらの釣り合^あいを保つようにした。

74 こうして、僕^{わたくし}たちは果樹園^{かじゅえん}の主人の命じた通りに、力の限り働き、とうとう悪い枝^{えだ}を果樹園^{かじゅえん}から

71	①	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
72	②	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
73	③	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
74	④	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
75	⑤	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
76	⑥	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
77	⑦	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
78	⑧	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
79	⑨	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
80	⑩	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
81	⑪	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
82	⑫	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
83	⑬	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
84	⑭	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
85	⑮	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
86	⑯	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
87	⑰	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
88	⑱	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
89	⑲	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
90	⑳	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
91	㉑	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
92	㉒	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
93	㉓	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
94	㉔	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
95	㉕	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
96	㉖	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
97	㉗	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
98	㉘	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
99	㉙	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
100	㉚	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
101	㉛	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
102	㉜	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
103	㉝	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
104	㉞	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
105	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
106	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
107	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
108	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
109	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
110	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
111	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
112	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
113	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
114	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
115	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
116	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
117	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
118	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
119	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
120	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
121	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
122	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
123	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
124	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
125	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
126	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
127	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
128	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
129	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
130	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
131	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
132	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
133	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
134	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
135	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
136	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
137	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
138	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
139	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
140	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
141	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
142	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
143	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
144	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
145	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
146	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
147	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
148	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
149	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
150	㉟	マタタク	28	2	二二	30	9	教義	33	3	1	ニフ	22	6	1	教義	86
151																	

ら捨ててしまつた。そして、主人は自分自身のため
に木を保存し、これらの木は再び自然の実を結んだ。
また、これらの木は一つの体のようになり、実はすべて同じであつた。
こうして、果樹園の主人は、
はじめから自分にとつて最も価値があると考へていた
自然の実を、自分自身のために保存できたのである。

75 そして果樹園の主人は、その実が良く、また自分の
果樹園がもはや悪い状態にないことを知ると、
僕たちを呼び集めて、彼らに言つた。「見よ、この
最後の時に、わたしたちは果樹園に養いを与えて
きた。あなたがたの見るとおり、わたしは自分の望
むままに行ひ、自然の実を保存した。その実は最初
の時と同じように良い実である。あなたがたは幸
いである。あなたがたは、わたしの果樹園でわ
しと一緒に熱心に働き、わたしの命じたことを守
り、わたしのために再び自然の実が得られるよう
にしてくれたからである。わたしの果樹園はもは
や悪くない。悪い枝は捨ててしまつた。見よ、あな
たがたはわたしの果樹園の実のことと、わたしと
一緒に喜びを得るであろう。

76 さて見よ、わたしはしばらくの間、もうすぐや
あいだ

つて来る実のとれない時節に備えて、わたし自身の
ために果樹園の実を蓄えよう。わたしはこれを最
後として、果樹園に養いを与えてきた。刈り込
み、周りを掘り、肥料をやつてきた。わたしはす
ぐにして、将来再びわたしの果樹園に悪い実が生
じる時が来れば、わたしはそのときには良い実と悪い
実を実を蓄えることにしよう。

77 そして、将来再びわたしの果樹園に悪い実が生
じる時が来れば、わたしはそのときには良い実と悪い
実を実を蓄めさせ、良い実はわたし自身のために保存
し、悪い実はそれ相応の場所に捨ててしまおう。
その後、実を結べない時節、すなわち終わりが来
る。そうすれば、わたしは自分の果樹園を火で焼
かせよう。』

第6章

主は終わりの時にイスラエルを回復される。世界は火
で焼かれる。人は火と硫黄の池を避けるには、キリスト
に従わなければならぬ。紀元前約五百四十四年から四
百二十一年に至る。

1 さて見よ、わたしの同胞よ、わたしは前にあな
はらからまえ

たがたに預言よげんをすると言つたが、見よ、わたしの預言よげんは次のとおりである。すなわち、この預言者よげんしゃ^①ノスがイスラエルの家を栽培されたオリーブの木にたとえて語つたことは、必ず起るに違ひない。

2 主なる神よしが主の民を元に戻す業に再び着手されるのは、主の僕たちが主の果樹園に養いを与えるのは、すなわち最後の時である。そして、その後すぐ刈り込みを行うために主の力をもつて出て行く終わりが来る。

3 主の果樹園で熱心に働いてきた人々は、何と幸いであろうか。また、自分の定められた場所に投げ込まれる者たちは、何と災いであろう。世界は火で焼かれるであろう。

4 神はわたしたちに対して何と憐れみ深いことか。神はイスラエルの家を根も枝もともに覚えて、終じかれ日彼らに手を差し伸べておられる。ところが、彼らは強情で反抗的なる民である。しかし、心をかたくなにしない者たちは皆、神の王国に救われる。

5 だから、わたしの愛する同胞よ、あなたがたが悔い改めて、十分に固い決意をもつて神のもとに来て、神があなたがたを心にかけてこられたと同じ

よう、あなたがたも神に堅くついて離れないと云はうに、わたしはまじめな言葉であるあなたがたに勧める。神の憐れみの腕が、昼の光の中であなたがたに伸べられている間、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。

6 まことに今日、神の声を聞こうとするならば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。なぜあなたがたは死のうとするのか。

7 見よ、あなたがたは、終日神の善い言葉によつて養われてきた後に悪い実を結び、そのため切り倒されて、火の中に投げ込まれなければならないようなことをするのだろうか。

8 見よ、あなたがたはこれらの言葉を拒むのだろうか。預言者たちの言葉を拒むのだろうか。非常に多くの人がキリストについて語つた後に、あなたがたはキリストについて語られた言葉をすべて拒むのだろうか。またあなたがたは、キリストの善い言葉と、神の力と、聖靈の賜物を否定し、聖なる御靈を退けて、あなたがたのために備えられた偉大な贖いの計画をあざけるのだろうか。

9 もしもあなたがたがこれらのことを行なうなら

8	7	6	5	4	3	2	1
① 3 ① ① ①	3 ② ① ③ ②	4 ② ① ④ ⑤ ④	5 ① ⑥ ⑤ ⑤ ④	6 ② ② ③ ④ ④	7 ① ⑦ ⑥ ⑤ ⑤	8 ② ② ③ ④ ④	9 ① ① ① ① ①
GS 「聖靈の賜物」	「アルエ」 18: 11 12	「モサ」 13: 29 47 24 33 34	「ヤコ」 5: 77 2, 10 14	「ヤコ」 5: 7 2, 11 27 30 14	「ヤコ」 5: 7 2, 11 27 30 14	「ヤコ」 5: 7 2, 11 27 30 14	「ヤコ」 5: 7 2, 11 27 30 14
	「エゼ」 18: 5 18 21 23	「アル」 5: 33 34	「サザ」 7: 1 25	「サザ」 7: 1 25	「サザ」 7: 1 25	「サザ」 7: 1 25	「サザ」 7: 1 25

ば、キリストの内にある贖いと復活の力が、あなたがたを恥とひどい罪悪感をもつて神の法廷に立たせる。あなたがたはこのことを知らないのか。

10 正義の要求は拒めないので、正義の力によつて、

あなたがたは、炎が消えることなく上り、煙がと

こしえにいつまでも立ち上るあの火と硫黄の池

に、必ず投げ込まれることになる。その火と硫黄

の池は、無窮の苦痛である。

11 おお、わたしの愛する同胞よ、悔い改めなさい。

そして、狭い門から入り、永遠の命を得るまで細い道を歩み続けなさい。

12 おお、賢くありなさい。わたしはこのうえ、何に

を言えようか。

13 最後に、悪人を非常に恐れおののかせる神の樂しい法廷であなたがたに会うまで、わたしはあなたがたに別れを告げる。アーメン。

第 7 章

シーレム、キリストを否定し、ヤコブと議論してしるしを求め、神によつて打たれる。預言者はすべてキリストとキリストの贖罪について語る。二ーファイ人は流浪

の民として生涯を過ごし、艱難の中で生まれ、レーマン人に憎まれる。紀元前約五百四十四年から四百二十一年に至る。

1さて、それから何年かたつて、シーレムという名の男がニーフアイの民の中にやつて来た。

2 そしてこの男は、民の中で教えを説き、キリストなどというものは存在するはずがないと、民に宣べ始めた。また彼は、民にへつらう事柄をたくさん説いた。これは彼が、キリストの教義を覆そそうとして行つたことである。

3 彼は、民の心を惑わそうと熱心に努めたので、多くの人を迷わすのに成功した。また彼は、わたしゃコブが将来来られるキリストを信じているのを知つていたので、わたしのもとに来る機会をしきりに求めていた。

4 彼は博学で、民の言葉に完全に通じていたので、悪魔の力によつて多くの甘言と十分な弁舌の力を用いることができた。

5 そして、彼はわたしの信仰を動搖させることができたと思つていた。それでも、わたしはこれらの事

13 12 11	10 9
① ① ④ ③ GS ①	モサ 15·26、
2 GS 「罪悪感」	「正義」
アルニ 40·9·14 28·41	2 ニフ 28·23、

「地獄」 「罰の定め」

柄について多くの啓示を受け、またたくさんのこと

とをすでに見ていた。わたしは実際に天使たちに会い、その天使たちがわたしに仕えてくれたからである。また主の声がまことにわたしに言葉をかけてくださるのを時折聞いていた。そのため、わたしは動搖することはなかつた。

6さて、彼はわたしのところに来ると、このように言つた。「ヤコブ兄弟、わたしはあなたと話ができるようになり度々機会を求めてきました。あなたが方々を巡つて、あなたが福音と呼んでいるもの、す

なわちキリストの教義を宣べ伝えていることをわたしは耳にし、知つてゐるからです。

7あなたがこの民の多くの者を惑わしたので、彼らは神の正しい道を曲げ、正しい道であるモーセの律法を守つていません。また、モーセの律法を変えてしまふを誓っています。さてまことに、わたしシーレムはあなたに言明します。これは神への冒瀆です。

だれにもそのようなことは分からぬからです。だれも将来のことを告げることはできません。」このようにして、シーレムはわたしに論争を仕掛け

た。

8しかし見よ、主なる神がわたしに神の御靈を注いでくださつたので、わたしは彼のすべての言葉について彼を説き破つた。

9わたしは彼に言つた。「あなたは将来来られるキリストを否定するのですか。」すると彼は言つた。

「キリストが必ず存在するのであれば、わたしは否定しません。しかし、キリストなどというものが、現在にも、過去にも、未来にも存在しないことを、わたしは知つています。」

10次にわたしが、「あなたは聖文を信じていますか」と言つた、彼は、「はい」と言つた。

11それでわたしは彼に言つた。「それならば、あなたは聖文を理解していません。聖文はまことにキリストについて証しているからです。見よ、わたしはあなたに言いますが、このキリストについて述べることなしに書き記したり預言したりした預言者は一人もいません。

12それだけではない。キリストのことは、わたしにも示されました。わたしは目で見、耳で聞いたからです。また、聖靈の力によつてもわたしに明らか

11 ① 默示 GS 「イエス・キリスト」	12 ① GS 「神・神会聖靈なる神」「聖靈」
1 二つ 10、5、	2 ニフ 2、11、3、
7 ① ヤコ 4、4、	7 ① ヤコ 4、5、
モサ 13、33、	アル 30、13、5、
教義 20、26、33、	「靈感」

にされました。ですから、贖罪が行われなければ、全人類が必ず失われた状態になることを、わたしは知っています。」

13 そこで、彼はわたしに、「それでは、そのように多くのことをあなたに教える聖靈のその力によつて、わたしにしるしを見せてください」と言つた。

14 それで、わたしは彼に言つた。「わたしは何者なので、あなたがすでに真実であると知つていて、しるしをあなたに見せるために神を試みることができますか。あなたはしるしを見ても否定するでしょう。あなたは悪魔に従うだからです。しかしながら、わたしの思いが行われるのではなく、神があなたを打たれるならば、それがすなわち、神が天と地の両方で力を持つておられることと、キリストが将来来られることをあなたに示すしるしとなるでしょう。おお、主よ、わたしの思いではなく、あなたの御心が行われますよう

に。」

15 さて、わたしゃコブがこれらの言葉を語り終えると、主の力が彼に下り、彼は地に倒れた。その後、かれなんにちかいはうう彼は何日もの間、介抱を受ける身となつた。

16 そこで、彼は民に言つた。「明日集まつてほしい。わたしはもう死ぬ。だから死ぬ前に民に話しておきたい。」

17 さて、翌日、大勢の人が集まつた。すると、シーレムは彼らにはつきり語つて、自分がこれまで彼らに教えてきたことを取り消し、キリストと、聖靈の力の実在と、天使の働きを告白した。

18 また彼は、彼らにはつきりと、自分が悪魔の力によつて欺かれていたことを語り、地獄と永遠と永遠の罰についても語つた。

19 また、彼は言つた。「わたしは赦されない罪を犯したのではないかと恐れています。神に偽りを言ったからです。また、聖文を信じていると言ひながら、キリストを否定したからです。聖文は確かにキリストのことを証しています。わたしはこのように神に偽りを言つたので、わたしの境涯が恐ろしいものになるのではないかと非常に恐れています。

しかし、わたしは神に告白します。」

20 そして、彼はこれらの言葉を語り終ると、何も言えなくなつて息絶えた。

21 群衆は、シーレムがまさに息を引き取ろうとす

20	19	18	14	13 12
① ② ① GS	② ① GS	アル	アル	① ②
エモサ GS 「欺き」	アル	30	30	タニフ
28 15 「赦されない罪」	53	53	41	60、
17	17	42	42	1 4、

るときにこれらのことを見たのを見て、非常に驚いた。そのために、神の力が彼らに及び、彼らは圧倒されて地に倒れた。

22 ところで、これはわたしヤコブにとつてうれしいことであった。わたしはこのことを前もつて天におられる御父にお願いし、御父はわたしの嘆願に耳を傾けて、祈りにこたえてくださつたからである。

23 そして、平和と神の愛が再び民の中に回復されたり。民は聖文を詳しく調べ、二度とこの邪惡な男の言葉に聞き従わなかつた。

24 さて、レーマン人を再び正して真理の知識のもとに連れ戻すために、多くの手段が講じられたが、

いずれも無駄に終わつた。彼らは戦争と流血を喜びとし、また、彼らの同胞であるわたしたちに 대하여、永遠の憎しみを抱いていたからである。そして彼らは、武力で絶えずわたしたちを滅ぼそうとした。

25 それゆえ、二ーファイの民は自分たちの救いの岩である神に頼りながら、武器とあらんかぎりの力をもつて、レーマン人に対する防備を固めた。そのため、この当時までは敵に勝利を収めていた。

26 さて、わたしヤコブは年を取つてきた。この民の記録は二ーファイのほかの版に書き継がれるので、わたしは自分の知つてゐるかぎりの事柄を書き記してきたことを宣言し、この記録を終えることにする。わたしたちの時はもう過ぎ去つた。一生はあたかも夢のように過ぎてしまつた。わたしたちは孤独でまじめな民であり、流浪の民であつて、エルサレムから追い出され、艱難のただ中に荒れ野で生まれ、わたしたちの同胞に憎まれてきた。そして、その憎しみが戦争と争いを引き起こし、わたしたちは生涯を嘆き悲しんで送つてきたのである。

27 わたしヤコブは、間もなく墓に入らなければならぬことを知つた。それで息子のエノスに、「この版を受け継ぎなさい」と言い、また兄二ーファイから命じられたことを告げたところ、息子はその命令に従うこと約束してくれた。これまで書き記してきたことはわずかであるが、わたしはこの版に書き記すのをこれで終える。そして、わたしの同胞の多くがわたしの言葉を読めるように期待しながら、わたしは読む者に別れを告げる。同胞よ、さらば。

27	26 25	24 23 21
② ① ② GS ヤコブ 1 1 4	① ① GS エノス 1 1 4	① ① ① ① アルエノル 2 1 17 19

エノス書

エノス、熱烈に祈り、罪の赦しを得る。主の声がエノスの思いに告げて、将来レーマン人に救いが与えられることを約束する。二ーファイ人、レーマン人を再び正そと努める。エノス、自分の贖い主のことを喜ぶ。紀元前約四百二十年。

1さて見よ、わたしエノスは、父が正しい人で、つたことを知つていい。父はわたしを父の言葉で、また主の薰陶と訓戒によつて教えてくれたからである。神の御名がほめたたえられるように。

2わたしは罪の赦しを受けるに先立つて神の前で味わつた苦闘について、あなたがたに述べよう。3見よ、わたしは森で獣を狩ろうとして出かけた。かつてわたしは、父が永遠の命と聖徒たちの喜びについて語るのを度々聞いていたのだが、その父の言葉が、そのときになつてわたしの心に深くしみ込んできた。

4すると、わたしの靈は飢えを感じた。それで、わたしは造り主の前にひざまずき、自分自身のために熱烈な祈りと懇願をもつて造り主に呼び求めた。わたしは一日中造り主に呼び求めた。また夜になつても、声が天に届くように、まだ大きな声を上げていた。

5すると、わたしに声が聞こえた。「エノスよ、あなたの罪は赦された。あなたは祝福を受けるであろう。」

6わたしエノスは、神は偽りを言われるはずがないので、わたしの罪がすでにぬぐい去られたのを知つた。

7それでわたしは、「主よ、それはどうしてですか」と尋ねた。

8そこで、主はわたしに言われた。「あなたが、これまでに声を聞いたことも見たこともないキリストを信じているからである。多くの歳月が過ぎた後、キリストは肉にあつて自分自身を現すであろう。それゆえ、行きなさい。あなたの信仰があなたを罪のないものとしたのである。」

9さて、この御言葉を聞いたとき、同胞である二

エノス書	第1章
② GS ① ① ③ ② GS 「エノス (ヤコ) の息子」	1 ① GS 「エノス (ヤコ) の息子」
マタ 9:22	2 二フ 2:2 4
マタ 9:22	3 ニフ 1:1 2
マタ 9:22	4 アル 8:10; 1 ニフ 1:1 2
マタ 9:22	5 GS 「悔い改め」
マタ 9:22	6 エベ 6:4
マタ 9:22	7 创世記 32:24
マタ 9:22	8 アル 8:10; 1 ニフ 1:1 2
マタ 9:22	9 GS 「罪の赦し」
マタ 9:22	10 GS 「敬虔」
マタ 9:22	11 ニフ 10:17; 19,
マタ 9:22	12 ニフ 17:21
マタ 9:22	13 ニフ 9:51;
マタ 9:22	14 アル 36:17; 19,
マタ 9:22	15 ニフ 10:17; 19,
マタ 9:22	16 ニフ 17:21
マタ 9:22	17 ニフ 9:51;
マタ 9:22	18 ニフ 10:17; 19,
マタ 9:22	19 ニフ 17:21
マタ 9:22	20 ニフ 9:51;
マタ 9:22	21 ニフ 10:17; 19,
マタ 9:22	22 ニフ 17:21

レフアイ人の幸いを願う気持ちがわいてきた。それでわたしは、彼らのためにわたしの心のすべてを神に注ぎ出した。

10 わたしがこのように心を込めて祈つてゐると、見み
よ、再び主の声がわたしの思いに告げて、次のよ
うに言われた。「わたしはあなたの同胞を、わたし
の戒めを守る勤勉さに応じて訪れよう。わたしは
かれ彼らにこの地を与えた。この地は聖なる地である。
罪悪のゆえでなければ、わたしはこれをのろわな
い。それゆえ、わたしはすでに述べたように、あな
たの同胞を訪れよう。また、彼らの背きに對して
は、彼ら自身の頭に悲しみを下そう。」

11 わたしエノスは、この御言葉を聞くと、主を信じる信仰が搖るぎないものになつてきた。そしてわたしの同胞、すなわちレーマン人のために、何度も長い時間熱烈に主に祈つた。

12 そして、わたしが祈り、
主はわたしに、「あなたの信仰のゆえに、わたしは
あなたの願いを望みどおりに聞き届けよう」と言
われた。

さて見よ、わたしが主に望んだことは、わたし

の民たみの二にーフフアイアイ人が戒いましめに背そむくようになつて、何ならかの方法ほうほうで減ほほばされてしまつても、レレーマンマン人が減ほほばされなければ、主しゆなる神かみが聖せいなる腕うでの力ちからによつてでもわたしの民たみニニーフフアイアイ人の記き録ろくを残のこし、それが将来よるまいつかレレーマンマン人に伝つたえられて、彼らが救すくいにあずかれるようにしていただくことであつた。

14 現在げんざいのところ、レレーマンマン人じんを眞実しんじつの信仰しんこうに連つづ戾いたそうとするわたしたちの努力どりょくは、むなしいものとなつてゐる。彼らは激はげしい怒いかりをもつて、何なんかしてわたしたちの記き録ろくとわたしたち自身じしんを、それにわたしたちの先祖せんそのすべての言いい伝えつたを絶なやしてしまおうと誓ちかつてゐるのである。

15 しかわわたしは、主しゆなる神かみがわたしたちの記き録ろくを残のこす力をもつておられることを知しつてゐたので、また主しゆなる神かみがかつてわたしに、「あなたがたは必ず与えられると信じしんじて信仰しんこうをもつてキリストの名なによつて求めれば、何なんでも与えられる」と言いわれたので、わたしは続けて神かみに叫さけび求めた。わたしは信仰しんこうを持つていたので、わたしたちの記き録ろくを残のこすように神かみに叫さけび求めた。すると神かみは、おじしん自身じしんがふさわしいと思うときにそれらの記き録ろくを

レーマン人に伝えると聖約された。

17 わたしエノスは、神が立てられた聖約のとおりになることを知っていたので、心が安らかになつた。

18 また、主はわたしに言われた。「あなたの先祖たちも、わたしにこのことを求めた。このことは彼らの信仰に応じて行われるであろう。彼らの信仰も、あなたの信仰と同様であつた。」

19 そこでわたしエノスは、ニーファイの民の中をめぐ巡つて、将来起ることを預言し、また自分の見聞きしたことについて証した。

20 わたしは、ニーファイの民がレーマン人を、神を信じる真実の信仰に連れ戻そうと熱心に努めたことを証する。しかし、わたしたちの働きは無益であつた。レーマン人の憎悪は凝り固まつていた。そして彼らは、邪悪な性質に任せて野蛮で残忍で血に飢えた民となり、偶像礼拝と汚れに満ちた民となり、猛獸を食料として天幕に住み、短い皮帶を腰に締めて、頭をそつた姿で荒れ野をさまよつていた。彼らは弓や三日月刀や斧を使うことを得意としていた。また、彼らの多くは生肉のほかは何も食べなかつた。そして、彼らは絶えずわたしたちを

滅ぼそうとしていた。

21さて、ニーファイの民は地を耕し、あらゆる穀物や果実を作り、大きな家畜の群れやあらゆる家畜の群れ、また、やぎや野やぎ、多くの馬を飼つてい

た。22 また、わたしたちの中には非常に厳しく、戦争と争いと滅亡について説き、預言し、また死や永遠の来世、神の裁きと力など、これらすべてのことを絶えず思いさせ、主を畏れる気持ちを抱くように、絶えず彼ら

を奮い立たせるほかに、方法はなかつた。これらのことと、きわめて率直に語ることのほかに、彼らが速やかに滅亡に落ちて行くのをとどめる方法はなかつたと、わたしは言う。わたしが彼らについて書き記すのは、以上のとおりである。

24 わたしは一生の間、ニーファイ人とレーマン人と戦争を見てきた。

25 さて、わたしは年を取つてきた。わたしたちの祖先リーハイがエルサレムを去つたときから、すで

	25	23	22 21	20 16
①	アル 1 ニ フ 2 2 — 4	④③ ジエロ 12 3 5 33 「宣べ伝える」	②①①④ ジエロ 1 12 3 2 16 2 18	①①③ モロ 9 10 8 モサ 9 10 18
②		1 ニ フ 16 2 3	モサ 9 10 8 モサ 9 10 18	モサ 9 10 8 モサ 9 10 18
③		モサ 9 10 8 モサ 9 10 18	モサ 9 10 8 モサ 9 10 18	モサ 9 10 8 モサ 9 10 18
④		モサ 9 10 8 モサ 9 10 18	モサ 9 10 8 モサ 9 10 18	モサ 9 10 8 モサ 9 10 18

に百七十九年が過ぎ去った。

26わたしは、自分もやがて墓に入らなければならないことを知つた。わたしはこの民に教えを説き、預言しなければならないこと、またキリストにある真理に従つて御言葉を告げ知らせなければならぬことを、神の力によつて感じてきた。それでわたしは、生涯それを宣べ伝え、俗世のことよりもそれを喜びとしてきた。

27わたしは間もなく安息の場所へ行く。それは、贖い主のもとでの安息である。わたしは、贖い主によつて安息を得ることを知つてゐるからである。わたしは自分の死すべき体が不死のものをして、贖い主の前に立つ日のあることに喜びを感じる。そのとき、わたしは喜んで贖い主の顔を拭するであろう。そして、贖い主はわたしに、「祝福された者よ、わたしのもとに来なさい。わたしの父の住まいには、あなたのために用意された場所がある」と言われるであらう。アーメン。

ジエロム書しよ

1 さて見よ、わたしジエロムは、わたしたちの団体を書き継ぐようにして、少しお言葉を書き記す。
2 この版は小さく、またこれらのこと柄は、わたしたちの同胞であるレーマン人に益を与えるといふことを書き記されているので、わたしも少し書き記す必要がある。しかし、わたしの預言したことや、わたしが受けた啓示について書き記さない。わたしの先祖たちが書き記してきたこと以上に、わたしに書き記せることがあるであろうか。彼らは救いの計画を明らかにしていないで、あらうか。

さて見よ、すでに二百年が過ぎ去り、ニーファイ
の民はこの地で強くなつた。彼らはモーセの律法
を守り、また安息日を主のために聖なる日として
守つた。彼らはまた、不敬な言葉を口にせず、神
聖を汚さなかつた。そして、国の法律は非常に厳
しかつた。

彼らは地の面に広く散らされた。また、レーマン
人も同様であつた。しかし、ニーファイ人に属す
者よりも、レーマン人の方がはるかにおびただし

4 またなかには啓示を多く受けている者が大勢いる。そして、強情にならずに信仰を抱いている者は皆、その信仰に応じて人の子らに物事を明らかにされ、聖なる御靈と交わりを持っている。

二ーファイ人はモーセの律法を守り、キリストの來らざる者を待ち望み、その地で榮える。二ーファイ人を眞理の道にとどめるために、多くの預言者者が働く。紀元前約三百九十九年から三百六十一年に至る。

を傾けようとせず、思いをくらまし、強情になつてゐるからである。にもかかわらず、神は彼らに非常に深い憐れみを示し、これまでのところ、彼らを地の面から一掃してはおられない。

に言う。わたしにはそれで十分である。

い数で、彼らは殺人を好み、獸の血をよく飲んでいた。

7 そして彼らは、度々わたしたちニーフアイ人に攻めかかって来た。しかし、わたしたちの王や指導者は、主を信じる信仰の篤い人々であり、また民に主の道を教えていたので、わたしたちはレーマン人に立ち向かい、彼らをわたしたちの地から一掃した。そしてわたしたちは、自分たちの町や、そのほかのあらゆる受け継ぎの場所の防備を固める仕事に取りかかった。

8 わたしたちは非常に増えて、地の面がり、金や銀や貴重な品々、見事な造りの木工品や建物や機械、それに鉄や銅、真鍮、鋼などを豊かに持つようになつた。そして、地を耕すためにあらゆる道具を作り、また戦争の武器、まことに、鋭いやじりの矢と矢筒、投げ矢と投げ槍を造り、さらに戦争のためにすべての準備を整えた。

9 わたしたちがこのようにしてレーマン人と戦う準備を整えていたので、彼らはわたしたちに対して榮えることはなかつた。そして、主がわたしたちの先祖に言われた、「あなたがたはわたしの命令を

守るかぎり地に榮える」という主の言葉が実証されたのである。

10 そして主の預言者たちは、もし民が戒めを守らず、背くようになるならば、彼らは地の面から滅ぼし去られるという神の言葉に従つて、ニーフアイの民に強い警告の言葉を発した。

11 そして、預言者や祭司や教師たちは熱心に働き、民にも熱心であるよう、あくまでも寛容な心で勧めた。またモーセの律法とそれが与えられた目的を彼らに教え、さらにメシヤを待ち望み、あたかもメシヤがすでに来ておられるかのように、将来来るられるメシヤを信じるよう民に勧めた。彼らはこのようにして民を教えた。

12 そして、そうすることによつて、彼らは民が地の面で滅ぼされるのを防いだ。彼らが言葉で民の心を刺激し、絶えず民に悔い改めを促したからである。13 そして、二百三十八年が過ぎ去り、その間、多くの歳月が戦争と争いと不和の有様で暮れた。

14 わたしたじエロムは、版が小さいのでこれ以上書き記さない。しかし見よ、わたしの同胞よ、ニーフアイのほかの版を見るがよい。見よ、わたしたち

14	12	10 8	7	6
① ②	① ③	モサ 10 8	モサ 1 14	エノ 1 24
ニル	エテ 2 12	モサ 12 8	ヤコ 1 9	エノ 1 20
フ 31	エテ 2 13	モサ 12 19	モサ 1 19	ヤコ 1 5
9 2 4	エテ 2 16	モサ 12 24	モサ 1 20	エテ 2 15
	6	モサ 12 27		モサ 1 15

の戦争の記録は、王たちの書き記したとおりに、
 または彼らが書き記させたとおりに、その版に刻ま
 れているからである。

わたしは先祖たちの命令どおりにこの版が書き
 繙がれるよう、息子オムナイの手にこの版を渡す。
 15 ① ヤコ一・1-4

オムナイ書

しょ

オムナイ、アメーロン、ケミシ、アビナドム、アマレカイが順次記録を書き継ぐ。モーサヤ、ゼテキヤの時代にエルサレムから来たゼラヘムラの民を発見する。モーサヤ、彼らを治める王とされる。ミュレクの子孫は、かつてゼラヘムラで、ヤレド人の最後の生存者であつたコリアンタマーを発見していた。ベニヤミン王、モーサヤの跡を継ぐ。人は自分自身をキリストへのささげ物としてささげなければならない。紀元前約三百二十三年から百三十年に至る。

1 見よ、わたしオムナイは、わたしたちの系図を残すためにこの版に多少のことを書き記すように、父ジエロムに命じられた。

2 それゆえ、わたしはあなたがたに知らせたいことがある。わたしは、自分の民ニーファイ人が敵であるレーマン人の手に落ちないよう、彼らを守るために生涯剣を取つてよく戦つた。しかし見よ、

6なぜならば、主はニーファイ人をエルサレムの地から連れ出し、敵の手に落ちないように守つてこられたので、かつて先祖に言われた、「あなたがたはわたしの命令を守らないかぎり、地に榮えることはない」という御言葉が実証されないことを許されないからである。

7それゆえ、主は彼らに厳しい裁きを下された。し

3そして、すでに二百七十六年が過ぎ去った。その間、平和な時代も多くあり、また激しい戦争と流血の時代も多かつた。そして要するに、すでに二百八十二年が過ぎ去つた。わたしは先祖の命令に従つて、この版を保存してきた。そしてわたしは息子アメーロンにこれを託した。わたしはこれまで記録を終える。

4わたしアメーロンは、今わたしが書き記すことを少しではあるが、父の書に書き記す。

5さて見よ、すでに三百二十年が過ぎ去り、ニーフアイ人の中のひときわ悪い者たちは滅ぼされてしまつた。

3 ① ヤコ 1:1-4、
ジエロ 1:15
5 ① ジエロ 1:9-10

第1章

オムナイ書

かしながら、主は義人が滅びることのないようには彼らの命を助け、彼らを敵の手から救われた。
8 そしてわたしは、この版を兄弟のケミシに渡した。

9 わたしぱミシは、今書きしているわずかなことだけを、兄弟と同じ書に書き記す。見よ、わたしは兄弟が書き記した最後の記事を見たが、それは彼が自分自身で書き記したものである。彼は、わたしに版を渡してくれたその日にそれを書き記した。このように、わたしたちは記録を書き継いでいる。それは、わたしたちの先祖の命令によるのである。わたしはこれで記録を終える。

10 見よ、わたしアビナドムはケミシの子である。見よ、わたしは、わたしの民である二ーファイ人とレーマン人の間に多くの戦争や争いを見た。またわたしは、同胞を守るために、自分自身の剣で多くのレーマン人の命を奪つてきた。

11 見よ、この民の記録は、歴代の王が所有する版に刻まれている。わたしは、すでに書き記されてゐる啓示や預言のほかには何一つ知らない。したがつて、十分なことが書き記されている。わたしは

これで記録を終える。

12 見よ、わたしはアビナドムの子、アマレカイである。見よ、わたしはゼラヘムラの地を治める王とされたモーサヤについて、少しあなたがたに述べよう。見よ、モーサヤはニーファイの地から逃げ出すように、また、主の声に聞き従う者も皆、モーサヤとともにその地から荒れ野へ出て行くようには、主から警告を受けた。

13 そこでモーサヤは、主に命じられたとおりにした。また、主の声に聞き従う者も皆、その地から荒れ野へ出て行つた。そして、幾度にもわたる説教と預言によつて導かれ、また神の言葉により絶えず訓戒を受けた。また彼らは、神の腕の力によつて導かれ、荒れ野を通り過ぎてゼラヘムラの地と呼ばれる地に着いた。

14 そして彼らは、ゼラヘムラの民と呼ばれた民を見た。そのため、ゼラヘムラの民の中に大きな喜びが起つて、またゼラヘムラ自身も、主がモーサヤの民を遣わされたので、ことのほか喜んだ。

15 さて見よ、モーサヤが知つたところによれば、ゼラヘムラの民は、ユダの王ゼデキヤがバビロンへ囚われの身となつて連れ去られたときに、エルサレムから出て来た民であつた。

16 そして、この民は荒れ野を旅し、主の手によつて導かれて大海を渡り、モーサヤが彼らを発見した地に來た。そのときから、彼らはいつまでもそこに住んでいた。

17 そして、モーサヤが発見したときには、彼らは常に大きな数になつていた。しかし、その前に多くの戦争と激しい争いがあつて、民が剣によつて倒れたことも度々あつた。また、彼らの言葉はなまつており、そのうえ、彼らは何一つ記録を持つて來ておらず、しかも、自分たちの創造主の存在を否定していた。それでモーサヤも、モーサヤの民も、彼らのことを理解できなかつた。

18 そこでモーサヤはゼラヘムラの民に、モーサヤの言葉を教えさせた。そして、彼らがモーサヤの言葉を教わった後、ゼラヘムラは自分の記憶に従つて先祖の系図を述べた。その系図は書き留められているが、この版には載せない。

19 さて、ゼラヘムラの民とモーサヤの民は連合し、モーサヤが彼らの王に選任された。

20 そしてモーサヤの時代に、文字の刻まれている一つの大大きな石が彼のもとに運ばれてきた。それで彼は、神の賜物と力によつて、刻まれていたものを解読した。

21 それには、コリアンタマーという人物と、彼の民の中の殺された者たちの話が載つていた。このコリアンタマーはゼラヘムラの民によつて発見され、九ヶ月の間彼らとともに暮らしたのであつた。

22 また、コリアンタマーの先祖についても少し述べられていた。彼の最初の先祖は、主が人々の言葉を乱されたときに、塔のある所から出て來たのである。そして、主の公正な裁きによつて彼の民に主の厳しい罰が下り、現在、北方の地に彼らの骨が散り散りになつている。

23 見よ、わたしアマレカイはモーサヤの時代に生まれ、生きている間にモーサヤの死を見た。そして、彼の息子ベニヤミンが父に代わつて治めている。

24 見よ、わたしはベニヤミン王の時代に、ニーフアイ人とレーマン人の間で一度激しい戦争があり、

23	22	21	20	19 17	15
① ③ ②	① GS ①	② ① GS ①	モサ 8	ヒラ 8	モサ 25
モ言 1 8 3	エテ 1 33 17	モサ 11 6 9	モサ 1 21 12 25	エテ 12 13 14 15	エレ 39 2
モサ 8 3	モサ 8 13 19	モサ 8 13 19	モサ 1 2 6	モサ 1 10	モサ 2 10

またひどい流血があつたのを見た。しかし見よ、ニーファイ人じんがレーマン人じんよりも大に優勢ゆうせいであつたので、ベニヤミン王おうはゼラヘムラの地から彼らを追い出した。

さて、わたしは年とを取つてきた。そして、わたしは子供こどもがなく、またベニヤミン王おうが主の前に正しい人ひとであることを知つてゐるので、この版わを彼に渡す。わたしはすべての人に、イスラエルの聖者せいしゃである神かみのもとに来て、預言よげんと啓示けいし、天使の働き、異言いげんで語る賜物たまもの、言語げんごを解釈する賜物たまもの、そのほかすべての善いことを信じるように説き勧めよう。主から出るもののはかに、善いものは何一つないからである。悪いものは悪魔あくまから出る。

ところで、わたしの愛する同胞ぱはからよ、わたしはあなたがたがイスラエルの聖者であるキリストのもとに入りて、キリストの救いと、キリストの贖いの力にあずかるように望んでゐる。まことに、キリストのもとに来て、自分自身じぶんじしんをキリストへのささげ物ささげものとしてささげ、断食だんじゆと祈りを続け、最後まで堪え忍のぞむの

びなさい。そうすれば、主しゅが生きておられるよう

に、あなたがたは救われるであろう。

ところでわたしは、ニーファイの地へ帰ろうとして荒れ野あらのへ行つたある人々のことについて、少々述べたい。自分たちのかつての受け継ぎの地を手

に入れたいと思つた者たちが、大勢いたのである。それで、彼らは荒れ野あらのへ行つた。ところが、彼らの指導者しどうしゃは屈強な力の強い男おとこで、そのうえ強情な男おとこであつたので、彼らのなかに争いを引き起こした。

そして、五十人を除く全員ぜんいんが荒れ野あらのの中で殺され、これらの五十人の者たちは、再びゼラヘムラの地に引き返して來た。

そして彼らは、またほかの人々ひとひとを大勢連れて、再び荒れ野あらのへ旅立たびだつた。

わたしあマレカイには一人の兄弟きょうだいがいたが、彼かれもこれらの人々ひとひとと一緒に行つた。その後の彼らの消息しようは分からぬ。わたしは今や、まさに墓に身を横たえようとしている。この版はんはすでに書き尽くされている。わたしはこれで述べることを終わりにする。

30 28	26	25
① ④ ③ ②	モル ① モサ ①	モ言 ①
1 モ GS GS 3 ニ 10 29	ロフ 32 2 1	モ言 13
ニ サ 「フ 9 断食」 20	アル 5 40 10	17
フ 6 章 1 4	モロ 7 15 7 17	18

モルモンの言葉

モルモン、二ーファイの大版たいはんを短くまとめて、小版しょうはんをほくこない、間に平和を確立する。紀元約三百八十五年。

「ところで、わたしモルモンは、これまで自分が作つてきたりを息子モロナイトの手に渡そうとしている。見よ、わたしはすでにわたしの民である二一人がほんどうべて滅びてしまうのを見た。

2 キリストの来臨後數百年たつた今、わたしはこれら記録を息子の手に渡す。息子は、わたし

息子が彼らよりも長く生きて、彼らについて多少のことを、またキリストについても多少のことを書き記して、それがいつの日か彼らを益するもの

3 ところで、わたしはこれまで書き記してきたことについて少し述べよう。わたしは二ーフアイの版

4 この版に書き記されていることの中に、キリストの來臨の預言があるので、わたしは喜んでいる。わたしの先祖は、預言の多くが成就したのを知っていた。そして、わたしもまた今日まで、わたしたちについて預言されてきたことがすべて成就したこと、また将来についての預言もすべて必ず成し就することを知っている。

5 それゆえ、わたしはこれらのことから事柄を選んで、それらに関連させてわたしの記録を終えよう。わたしの記録の残りの部分は、二ーファイの版から抜いて書きこう。わたしは、自分の民のことを百分の一も書き記すことができない。

6 しかし見よ、わたしはこれらの預言と啓示の載つてゐるこの版を取つて、わたしの記録の残りの

モルモンの言葉

部分と一緒にしよう。これらの預言と啓示はわたしにとつて貴いものであり、またわたしの同胞にも貴いものになることを知つていてるからである。

7わたしは、ある賢明な目的のためにこのようにする。わたしの内にある主の御靈の働きによつて、わたしにそのようななさやきがあるからである。わたしはすべてのことを知つていてるわけではないが、主は将来起ることをすべて御存じである。したがつて主は、御自分の御心どおりに行うように、わたしに働きかけられるのである。

8わたしが神にささげる祈りは、わたしの同胞のことであつて、彼らが再び神について、まことにキリストの贖いについて知るようになり、また再び喜ばしい民となれるようによつてある。

9さて、わたしモルモンは、二ーファイの版から抜き書きして作るわたしの記録を書き上げる仕事を続けよう。わたしはこの記録を、神が授けてくれた、彼の代まで歴代の王が譲り伝えてきた記録を

11そしてこれらは、ベニヤミン王から代々譲り伝えられて、わたしの手に入つたのである。わたしモルモンは、これから先も残されるように神に祈つてゐる。またこれらが残されることをわたしは知つてゐる。これらの版には重要な事柄が書き記されており、わたしの民とその同胞は、書き記されてゐる神の言葉のとおりに、大いなる終わりの日にそのことによつて裁きを受けるからである。

12ところで、このベニヤミン王のことであるが、彼の時代に民の中に多少の争いがあつた。

13そして、レーマン人の軍隊が二ーファイの地から下つて来て、ベニヤミン王の民を攻めた。しかし見よ、ベニヤミン王は軍隊を召集して彼らに立ち向かつた。彼はラバンの剣を持ち、自分自身の腕の力を振るつて戦つた。

14そして、ベニヤミン王の軍隊は主の力を頂いて敵と戦い、ついにレーマン人を何千人も殺した。彼らはレーマン人と戦つて、自分たちの受け継ぎの地の全域からレーマン人を追い払つたのである。

15また、偽キリストが現れたが、彼らは口を閉ざ

され、罪科に応じて罰せられた。
 16 そして、民の中に偽預言者や偽説教者、偽教師も現れたが、彼らも皆、それぞれの罪科に応じて罰せられた。また、多くの争いが起り、多くの者が離反してレーマン人のもとへ去つて行つたが、その後、見よ、ベニヤミン王は、民の中にいる聖なる預言者たちの助けを得た。

17 見よ、ベニヤミン王は聖なる人であり、義をもつて自分を治めた。また、国内には聖なる人が大勢おり、彼らは力と権能をもつて神の言葉を非常に厳しい言葉を用いた。

18 こうして、ベニヤミン王はこれらの人々の助けを得て、自分の体力の限りを尽くし、能力の限りを尽くして働くことによつて、預言者たちの助けを受けながら、国内にもう一度平和を確立したのであつた。

モーサヤ書

て知ることができるようとした。

第1章
ベニヤミン王、息子たちに彼らの先祖の言葉と預言を教える。いろいろな版に書き継がれた記録のおかげで、彼らの宗教と文明が残される。モーサヤ、王として選ばれ、また、記録とほかの品々を保管する責任が与えられる。紀元前約百三十年から百二十四年に至る。

1さて、ゼラヘムラの全地では、ベニヤミン王に従つたすべての民の中に、もはや争いが起らなかつたので、ベニヤミン王は残る生涯を引き続き安らかに送つた。
2さて、彼には三人の息子があつて、それぞれモーサヤ、ヒローラム、ヒラマンと名付けられた。彼は、先祖のすべての言葉によつて彼らが教育を受けられるようにし、それによつて彼らが思慮分別のある者となるよう、また先祖の口を通して語られ、主の手によつてもたらされた数々の預言について

3また彼は、真鑑の版に刻まれた記録についても彼らに教え、次のように言った。「息子たちよ、これらの記録とこれら戒めが載つているこの版がなかつたならば、わたしたちは今でも神の奥義を知らずに無知のままでいたに違ひない。あなたがたは、このことを覚えておいてほしい。

4この版の助けがなければ、先祖のリーハイは、これら事柄をすべて思い出して子供たちに教えることなどできなかつたであろう。彼はエジプト人の言葉を教えられていたので、これらの刻まれたものを読み、それを子供たちに教えることができた。そして、子供たちもまたその子供たちに教え、そのようにして現在に至るまで、神の命令が果たされてきたのである。

5息子たちよ、わたしはあなたがたに言う。これらのものが神の御手によつて書き継がれ、そして残されたのは、わたしたちがこれを読んで神の奥義を理解し、神の戒めを常に目の前に置いておけるようにするためであつて、もしこれらのものがなかつたならば、わたしたちの先祖でさえも不信仰に陥つ

ていたであろう。そしてわたしたちは、同胞のレーマン人はからうじんのようになつていたに違ちがいない。レーマン人はこれらのことについてまつたく知しらず、たとえ教えられても、彼らの先祖せんその正しくない言い伝えいづけが

あるために信じないのである。

6 おお、息子たちよ、わたしが望むのは、これらの言葉ことばが真実しんじつであり、これらの記録きろくも真実しんじつであることを覚えておいてほしいということである。そして見よ、エルサレムを出たときから今に至るまでの先祖の記録きろくと言葉ことばが載つているニーファイの版はんも真実しんじつである。これが今わたしの目の前にあるので、これが確かかなであることが分かる。

7さて、息子たちよ、あなたがたはこれらの記録きろくを努めて丁寧ていねいに調べることを忘れず、それによつて益えきを得るようにしてほしい。また、神の戒めいましを守り、主しゆがわたらしたちの先祖に立てられた約束やくそくどおりに、この地で榮えることができるようにしてほしい。

8 そしてベニヤミン王おうは、ほかにもこの書しょに書き記かきしてされていない多くのことを息子たちに教えた。そして、息子たちに教えた後のち、ベニヤミン王おう

は年老おとこいて、自分ももうすぐに世のすべての人が行く道みちを行かなければならぬことを知しつていたので、王位おういを息子の一人ひとりに譲ゆずる方が望ましいと考かんがえた。

10 そこで、王はモーサヤを自分の前に連れて来させた。王おうがモーサヤに語かたつた言葉ことばは次のとおりである。「息子よ、全地のすべての民に、すなわちこの地に住んでいるゼラヘムラの民とモーサヤの民に、皆集まるように布告ふごくを出してもらいたい。それは明日、わたしの口から、あなたが、主なるわたしたちの神かみが託たくしてくれた、民を治める王おうであり統治者とうぢしゃであることを、民に宣言おもせらわせらわせするためであつたからである。

11 そしてさらに、わたしはこの民に一つの名なを与え、主なる神かみがエルサレムの地から連れて来られたほかのすべての民と区別くべつできるようにしよう。わたしがこうするのは、彼らが主の戒めいましを熱心ねっしんに守る民たみであつたからである。

12 そしてわたしは、彼らに名なを与えるが、それは戒めいましに背そむかなければ決して消されることはない。また、わたしはさらにあなたに言あたつておく。主しゆの

12	11	10	1	④	③	7	6	5
①	①	②	①	ニ	モ	モロ	モサ	モサ
GS	モ	サ	オム	二	アル	二	二	一
「罪」	5	2	1	詩篇	50	27	10	11
	8	30	14	12	22	9	11	3
	12		20	6	14	20	17	

厚い恵みを受けているこの民が、戒めに背くようになり、邪悪で不義な民となるならば、主は彼らを引き渡される。その結果、彼らは同胞のように弱くなるであろう。そして主は、これまでわたしたちの先祖を残してこられたように、もはやそのたぐい驚くべき力でこの民を残すことはなさらない。

14 わたしはあなたに言うが、もしも主が御腕を伸べてわたしたちの先祖を残していくださらなかつたならば、先祖はレーマン人の手に落ちて、彼らの憎惡の犠牲になつていたに違ひない。」

15 そして、ベニヤミン王は息子にこれらの言葉を語り終えると、王国の政務のすべてに関する責任を息子にゆだねた。

16 そしてさらに、彼は真鑑の版に刻まれた記録と、

二ノファイの版と、ラバンの剣と、荒れ野の中で祖先を導いた球、すなわち指示器についても息子に責任をゆだねた。この指示器は、先祖がそれぞれ主に向けた注意力と熱意に応じて導かれるよう

に、主の手によつて備えられたものである。17 したがつて、彼らが忠実でないときには、旅は順調に進まず、またはかどらず、かえつて押し

戻されて、神の不興を招いた。そしてまた彼らは、自分たちの義務を思い出すように促す飢饉と、ひどい難難に悩まされたのであつた。

18さて、モーサヤは父から命じられたとおりに行い、ゼラヘムラの地にいるすべての人に、皆連れ立つてモーサヤの父の語る言葉を聞くために神殿に集まるように布告を出した。

第2章

ベニヤミン王、民に語る。自分の治世が平等かつ公正で、靈的な意義の深いものであつたことを述べる。天の王に仕えるよう民に勧告する。神に背く者は消すことのできない火のような苦しみを受ける。紀元前約百二十年。

さて、モーサヤが父から命じられたとおりに行い、全地に布告を出したところ、民は全地から集まり、ベニヤミン王の語る言葉を聞くために神殿にやつて來た。

2 そして、集まつた者の数はたいそう多く、数え切れないほどであった。民はすでに非常に増えて、

17	③	②	①	13
教義	17	1	モサ	ヘブ
1	1	ニフ	1	4
ニフ	16	4	8	6
18	10	13	19	24
12	10	1	1	26
13				4

この地で大きな数になつていったからである。

3 そして彼らはまた、自分たちの家畜の群れの初子も連れて来た。それは、モーセの律法に従つて犠牲と燔祭をささげるためであつた。

7 集まつた群衆が非常に大勢であつたため、ベニヤミン王は神殿の中ですべての人を教えることができなかつた。そこで彼は、自分の語る言葉を民が聞き難いように、やぐらを建てさせた。

4また、主なる神に感謝をするためでもあつた。
この神は彼らをエルサレムの地から連れ出し、敵の手から救い出し、また正しい人々を教師に任せ、また一人の正しい人を王に任じてくださつた。
そしてその王は、ゼラヘムラの地に和平を確立し、神の戒めを守るように民に教えて、民が喜びを味わい、神とすべての人に対する愛で満たされようとしたのであつた。

5さて、かれらは神殿に来ると、その周囲に天幕を張つた。男たちは皆、自分の妻と息子、娘、孫から成る各々の家族に応じて、最年長の者から最少の者まで、すべての家族が互いに離れて場所を取つた。

9 このときにベニヤミン王が語つて書き取らせた
ことば 言葉は、次のとおりである。「こうして連れ立つて
集まり、今日わたしが語る言葉を聞くことのできる
同胞よ、わたしがあなたがたにここに来るよう命めい
じたのは、これからわたしが語る言葉を軽んじさせ
せるためではない。わたしの言葉を聴かせるため
である。だから、耳を開いて聞き、胸を開いて理り
解し、また心を開いて、神の奥義があなたがたの
心に明らかにされるようにしなさい。

10 わたしがあなたがたに、ここに来るよう命じた
のは、あなたがたにわたしを畏れさせるためでも
なければ、わたしが死すべし人間以上の者であると
いふことをおぼえています。

7 集まつた群衆が非常に大勢であつたため、ベニヤミン王は神殿の中ですべての人を教えることができなかつた。そこで彼は、自分の語る言葉を民が聞けるように、やぐらを建てさせた。

8 そして王は、そのやぐらから民に語り始めた。しかし、大勢の群衆であつたため、王の言葉を聞きないものもいた。それで王は、自分の語る言葉を書き取らせ、それを声の届かない所にいる人々のもとに送つて、彼らにもその言葉を知らせた。

と思わせるためでもない。

11わたしはあなたがたと同じで、心身ともにあらゆる弱さを持つている。それでもわたしは、この民を治める統治者となり王となるように、この民に選ばれた、父によって任じられ、主の御手によつて認められた。そして、主から授かつた勢力と思いと力を

尽くしてあなたがたのために努めるように、主のたぐいない力によつて守られてきたのである。

12あなたがたに言うが、わたしは現在まで、生涯をあなたがたのための務めに費やすことを許されたり。しかし、金も銀も、そのほかどんな富もあなたがたに求めたことはない。

13わたしはあなたがたを地下牢に閉じ込めるよも、あなたがたが互いに奴隸にするとも、殺すことも、略奪することも、盗むことも、姦淫を犯すこととも許したことはない。また、あなたがたがどのような悪を行ふことも許したことはなく、主から命じられたすべてのことについて、主の戒めを守るようになつたがために教えてきた。

14そして、わたし自身でさえ、自分の手を使つて働いてきた。それは、わたしがあなたがたのため

に務めることができるよう、またあなたがたが税に苦しむことなく、それに堪え難いことを何一つ身に受けなくてもよいようにするためであつた。わたしがこれまで語つたこれらすべてのことについては、今日あなたがた自身がその証人である。

15しかし、わたしの同胞よ、わたしは自慢するためにこれらのことを行つてきたのでもなければ、あなたがたを責めるためにこれらのこと語つてゐるのでもない。これらのこと語るのは、わたしが今日神の御前で澄んだ良心をもつて申し開きができるということを、あなたがたに知らせるためである。

16見よ、わたしはあなたがたに言う。わたしは自分の生涯をあなたがたのための務めに費やしてきたと言つたが、それは自慢したくて言つたのではない。わたしは神のために務めてきたにすぎないからである。

17そして見よ、わたしがこれらのこと語るのは、あなたがたに知恵を得させるためである。すなわち、あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるの

であるということを悟らせるためである。

18 見よ、あなたがたは、わたしのことを王と呼んできた。あなたがたが王と呼んでいるわたしでさえも、あなたがたのために務めているとすれば、ましてあなたがたは、互いに務め合うようにすべきではないだろうか。

19 また見よ、あなたがたから王と呼ばれ、生涯をあなたがたのための務めに費やし、それによつて神に仕えてきたわたしが、あなたがたから幾らかでも感謝を受ける値打ちがあるとすれば、おお、あなたがたはどれほど天の王に感謝すべきであろうか。

20 わたしの同胞よ、わたしはあなたがたに言う。あ

なたがたを造り、あなたがたを守り、あなたがたに喜びを得させ、互いに平和に暮らせるようにしてくれださった神に、たとえあなたがたが全身全靈の力を尽くして一切の感謝と賛美をささげたとしても、のままに生きて動き、行動できるようになながめからあなたがたを造り、あなたがたが自分の意のままに生き、あなたがたがまた、たとえ世の初に息を与えて日々守り、いかなる瞬間にもあなたがたを支えてくださっている御方に、たとえぜん

身全靈をつくして仕えたとしても、それでもなお、あなたがたはふつかな僕である。

22 見よ、神があなたがたに要求しておられるのは、神の戒めを守ることだけである。そして神は、戒めを守るならばこの地で榮えると約束してくださつていている。神は一度言われたことは決して変更されないので、あなたがたが神の戒めを守れば、神はあなたがたを祝福し、榮えさせてくださる。

23さて、まず第一に、神はあなたがたを造り、あなたがたに命を与えた。そのため、あなたがたは神に恩を受けている。

24 そして第二に、神はあなたがたが神から命じられたとおりに行うこととを要求しておられる。そして、あなたがたが命じられたとおりに行うならば、神はすぐに祝福を授けてくださる。また現にこれまで、あなたがたに報いてくださつた。そのためあなたがたは、今も神に恩を受けているし、これからもとこしえにいつまでも恩を受けるであろう。だから、あなたがたに何か自慢できるものがあるだろうか。

25 さて、わたしは尋ねたい。あなたがたは自分自身のことを持つか少しでも言えるだろうか。言えないと、わたしはあなたがたに答える。あなたがたは、大地のちりに等しい者であるとさえ言うことができない。あなたがたは大地のちりから造られたが、見よ、そのちりは、あなたがたを造られた御方のものである。

26 そしてわたし、すなわちあなたがたが王と呼ぶわたしでさえも、あなたがたより優れていはない。わたしもちら造られた者だからである。そして、あなたがたの見るとおり、わたしは年を取り、まさに死すべき体を母なる大地に返そうとしている。27 それでわたしは、自分が澄んだ良心をもつて神の御前を歩みながら、あなたがたのために務めてきたと言つたが、この度わたしがあなたがたを集めさせたのは、わたしがあなたがたに関して神から命じられてきたことについて、神に裁かれるために立つときに、わたしが罪なしと認められるように、また、あなたがたの血がわたしに降りかかることのないようにするためである。

28 わたしはあなたがたに言う。わたしがあなたが

たを集めさせたのは、わたしがまさに墓に入ろうとしているこの時期に、わたしの衣からあなたがたの血を取り除いて安らかに行けるように、またわたしの不滅の靈が天の聖歌隊に加わつて、公正な神を贊美して歌えるようにするためである。

29 さらにあなたがたに言う。あなたがたを集めたは、わたしもはや、あなたがたの教師ではなく王でもないことを告げ知らせるためである。

30 あなたがたに語つてある今でさえ、わたしの全身はひどく震えている。しかし、主なる神がわたしを支えてくださつてゐる。そして、主なる神はあなたがたに語れるようにしてくださり、息子モーザヤがあなたがたを治める王であり統治者であることを、今日宣言するようにわたしに命じられた。

31 さて、わたしの同胞よ、今まで行つてきたことをこれからも行つてほしい。あなたがたはわたしが命じたことと、わたしの父が命じたことを守つてさかへ、敵の手に落ちないよう守られてきたが、同じように今後もわたしの息子の命じること、すなわち息子があなたがたに告げる神の戒めを守るならば、あなたがたはこの地で榮え、敵はあなたがたを

25 ①創世記 3:19
ヤコブ 21:19
②GS「創造、創造する」
GS「歩む（神とともに）」
モルモント・モルモント
7:7 「靈」
モルモント
7:7 「靈」

支配する権力をまったく持たないであろう。

しかし、おお、わたしの民よ、あなたがたの中
に争いが起ころないよう、また父のモーサヤが
語った悪靈に従おうとすることのないように氣を
つけなさい。

33 見よ、あの靈に従おうとする者には、災いが宣
言される。もしも惡靈に従うことを見んで、罪の
中にとどまつたまま死ぬならば、自分自身に罰の
定めを招く。なぜならその人は、知つていながら神の
律法に背き、その報いとして永遠の罰を受ける
からである。

34 わたしはあなたがたに言う。あなたがたの中に若い子供たちを除いて、これらのことについて教えられない者はだれ一人おらず、あなたがたは自分の持ち物と能力をすべてささげるに値するほど、天の御父にとこしえに恩を受けていることを知っている。また、わたしたちの先祖リーハイがエルサレムを去るときまで、聖なる預言者たちが語ってきた数々の預言を載せている記録についても、あなたがたは教えられてきた。

35 また、これまで先祖が語ってきた事柄もすべて

37 わたしはあなたがたに言うが、このようをする
ものは、公然と神に背く者であつて、悪靈に従う
とを望み、あらゆる義の敵となる。したがつて、主
は清くなない宮には住まわれないので、このような
ものうちの内には決して宿られない。

38 そこで、その者がもしも悔い改めず、神の敵であ
る状態で死ぬならば、神の正義の要求が、その者
の不滅の靈に烈烈な罪の意識を起こせる。そし
て、その罪の意識のために、その者は主の御前か
らしりごみし、またその胸は罪悪感と心痛と苦し
みで満たされる。その罪悪感と心痛と苦しみは、

おし
教えられている。そして見よ、彼らは、主から命じられたことを語つたので、それらは正しくて眞実である。

はらから

38	37	33	32
③ ② ① ② GS	ヒ ① ② ① ①		
GS GS GS ア「ラ	モ教 GS 3		
罪「正悔」7	背「サ」義「ク」8	19	罰「の」11
悪感「い改め」	ル「24」21	25 12	6 定め「29」
		10	30
		12	

炎がとこしえにいつまでも立ち上る、消すことのできない火のようである。

さて、わたしはあなたがたに言う。そのような者には憐れみは及ばない。したがつて、その者の最いには憐れみは及ばない。したがつて、その後の状態は、決して終わることのない苦痛に耐えることである。

おお、わたしの言葉を理解できるすべての年老いた人々よ、若い人々よ、幼い子供たちよ。わたしはあなたがたが理解できるように、分かりやすく語つてきた。わたしはあなたがたが目を覚まして、神の律法に背いた者の受ける恐ろしい状態を思い起こそうに祈つている。

41 そしてさらになながたは、神の戒めを守る者の祝福された幸福な状態についても考えてほしい。見よ、これらのは物質的にも靈的にも、すべてのことについて祝福を受ける。そして、もし最後まで忠実であり続けるならば、彼らは天に迎えられ、決して終わりのない幸福な状態で神とともに住めるのである。おお、これらのことが眞実であることを記憶にとどめ、覚えておきなさい。主なる神がこれを言われたからである。」

39 さて、わたしはあなたがたに言う。そのような者は憐れみは及ばない。したがつて、その後の状態は、決して終わることのない苦痛に耐えることである。

40 おお、わたしの言葉を理解できるすべての年老いた人々よ、若い人々よ、幼い子供たちよ。わたしはあなたがたが理解できるように、分かりやすく語つてきた。わたしはあなたがたが目を覚まして、神の律法に背いた者の受ける恐ろしい状態を思い起こそうに祈つている。

第3章 ベニヤミン王、説教を続ける。全能の主が将来、土の幕屋に宿つて、人々の中で教導される。主が世の罪を贖われるとき、あらゆる毛穴から血が流れ出る。主の名は救いをもたらす唯一の名である。人は贖罪によつて、生まれながらの人を捨てて聖徒となることができる。悪人の受けける苦痛は、火と硫黄の池である。紀元前約百四十年。

1 「また、わたしの同胞よ、わたしはもう少しあなたがたに話したいことがあるので、さらにあなたがたの注意を促したい。見よ、将来起こる出来事について述べることがある。

2 そして、これから述べることは、神から遣わされた天使がわたしに知らせてくれたものである。天使がわたしに、「目を覚ましなさい」と言つたので目を覚ましたところ、見よ、天使はわたしの前に立つていた。

3 そして、天使はわたしに言つた。「目を覚まして、わたしが告げる言葉を聞きなさい。見よ、わたしはあなたに、胸躍る大いなる喜びのおとずれを

3 ①	2 ①	41 ④	40 ③	GS 15 ①	39 ①
ルカ 2:10	GS 「天使」	GS 「喜び」	GS 「祝福」	アル 5:18	アル 34:8-9,
11	6:13	6:13	6:13	15:18	18:

告げ知らせよう。

4 主はあなたの祈りを聞き、あなたの義裁をさばかれ
た。そして、わたしを遣わしてあなたに告げ知らせ、あなたが喜びを得られるように、またあなたが民に喜びに満たされる
ようになされた。

わたつてまします全能の主が、力をもつて天から人々の中に降つて来て、土の幕屋に宿り、人々の中に出で行つて大きな奇跡を行われる時が来る。しかもそれは遠い先のことではない。この御方はそのときにも病人を癒し、死者を生き返らせる。足の不自由な者を歩けるようにし、耳の聞こえない者を聞こえなくするようにし、すべての病気を癒される。

6 またこの御方は、悪靈、すなわち人の子らの小なかの中にとどまる悪い靈などを追い出される。
7 見よ、この御方は數々の試練に耐え、肉体の苦痛や飢え、渴き、疲労に耐えられるが、それは、人にとっては死ぬ以外に耐えようのないものである。見よ、御自分の民の惡事と忌まわしい行いのため

にこの御方おかたが受けられる苦しみは非常に激しく、あらゆる毛穴けあなから血けちが流れ出ながでるほどだからである。

8 そしてこの御方は、イエス・キリスト、神の御子、天地の父、時の初めからの万物の創造主と呼よばれ、母はマリヤと呼ばれる。

見よ、この御方は、御自分の民のところに来られ、人の子らがその御名を信じる信仰を持ちさえすれば、救いが与えられるようになる。ところ

が、このようなことがあるにもかかわらず、彼らはこの御方をただのひとと思ひ、また悪魔につかれていふと言ひ、この御方を鞭打ち、十字架につける。しかし、この御方は、三日目に死者のからよみ

がえられる。そして見よ、この御方は世を裁く立場に立たれる。また見よ、これらのことはずべて、の子らに義にかなつた裁きが下されるために行われ

11 そして見よ、この御方の血は、アダムの背きの
ために墮落した者たちの中で、自分たちに閑する
神の御心を知らずに死んだ者たち、あるいは火はげづ
かみの心で死んだ者たちである。

神の命を知りて死んでしまったが、おもろいに気がしないで、罪を犯したものたちの罪も贖う。

る者は、災いである。災いである。悔い改めて、^②主イエス・キリストを信じるのでなければ、このような者には決して救いは与えられないからである。

13 そして、主なる神はこれらのことすべての部族、国民、国語の民に告げ知らせるために、聖なる預言者たちをすべての人の子らの中に遣わされた。

またそのことによつて、キリストが来られると信じるすべての者が、あたかもキリストが自分たちの中^①にすでに来ておられるかのように自分たちの罪の赦しを受け、また非常に大きな喜びを味わえるようになされた。

14 しかし、主なる神は御自分の民が強情な民であることを知つて、彼らに律法、すなわちモーセの律法を定められた。

15 そして主なる神は、御自分の來臨に関する多くの見よ、主は裁きをなさり、その裁きは公正である。そして、幼いときに死ぬ乳飲み子は滅びることがない。しかし、大人はへりくだつて幼い子供のようになり、救いは過去も現在も未来も、全能の主であるキリストの贖いの血によって、また贖いの血を通じてのみ与えられるということを信じないかぎり、自分自身に罰の定めを招く。

16 また幼い子供たちは、たとえ罪を犯すことがで
きるとしても、贖罪がなければ救いは得られない。しかし、あなたに言つておくが、幼い子供たちは祝福されている。見よ、アダムによつて、すなわち生まれながらの本性のために人は堕落することがあるが、それと同じように、キリストの血は人の罪を贖うからである。

17 さらにわたしはあなたに言う。全能の主であるキリストの御名のほか、またその御名を通じてでなければ、どのようなくとも道も方法も、人の子らに救いをもたらすことはできない。

18 見よ、主は裁きをなさり、その裁きは公正である。そして、幼いときに死ぬ乳飲み子は滅びることがない。しかし、大人はへりくだつて幼い子供のようになり、救いは過去も現在も未来も、全能の主であるキリストの贖いの血によって、また贖いの血を通じてのみ与えられるということを信じないかぎり、自分自身に罰の定めを招く。

19 生まれながらの人は神の敵であり、アダムの堕落以来そうであつて、今後もそうである。また人は、聖なる御靈の勧めに従い、主なるキリストの贖罪により、生まれながらの人を捨てて聖徒とな

19 ① ④ GS ③ GS 「生まれながらの人」
GS 历下 30 · 8

19 ヒラ 5 · 9
モサ 16 · 2 · 3 · 14

18 ② ③ GS 「救い」
モサ 18 · 3 · 4 · 2

17 ト「御名を受ける」
モサ 13 · 27

16 ① ② GS 「子供」
モロ 8 · 8 · 9

15 14 ト「キリストの予型と象徴」
モサ 13 · 27

13 12 ジエロ 1 · 11 · 25 · 24 · 27

25 そして、もし行いが悪ければ、彼らは自分の罪と
忌まわしい行いの恐ろしい思いに引き渡される。
そして、その恐ろしい思いは彼らを主の前からしり
ごみさせ、決して戻ることのできない、慘めな無
窮の苦痛の状態に彼らを陥れる。これらの者は、
自分自身に罰の定めを招いたのである。

22 また、今までさえ、すなわちあなたが主なる神から
命じられてきたことを民に教える現在でさえ、わたし
しがあなたに語っている言葉に従わなければ、彼ら
はもはや神の目から見て罪がないとは認められない。
23 さて、わたしは主なる神が命じられた御言葉を
語り終えた。

26 それゆえ、これらの者は神の激しい怒りの杯から飲んだのである。正義は彼らに対する怒りの杯を取り消すことはできない。それは、アダムが禁断の実を食べたために墮落することになったのを取り消せないと同様である。したがつて、憐れみはもはやどこしえに彼らに及ぶことはない。

27 そして、彼らの受ける苦痛は、消えることなく炎が上り、どこしえにいつまでも煙を吐く火と硫黄の池のようである。」主はこのように言うことをわたくしに命じられた。アーメン。』

24 そして、主はこのように言われる。「これらの言葉は裁きの日にこの民を責める明らかなる証となる。」

26 それゆえ、これらの者は神の激しい怒りの杯から飲んだのである。正義は彼らに対する怒りの杯を取り消すことはできない。それは、アダムが禁断の実を食べたために墮落することになったのを取り消せないと同様である。したがつて、憐れみはもはやどこしえに彼らに及ぶことはない。

27 そして、彼らの受ける苦痛は、消えることなく炎が上り、どこしえにいつまでも煙を吐く火と硫黄の池のようである。」主はこのように言うことをわたくしに命じられた。アーメン。』

ぶ。救われるよう^に神を信じること。忠実であることによつて罪の赦しを保つこと。貧しい者に持ち物を分け与えること。賢明に秩序正しくすべてのことを行なうこと。紀元前約百二十四年。

1さて、ベニヤミン王が、主の天使から告げられた言葉を語り終えて、群衆を見渡したところ、見よ、彼らは地に伏していた。主への畏れが彼らに生じたからである。

2そして彼らは、自分たちがこの世的な状態にあり、大地のちりよりも劣つてゐると思つた。そして彼らは皆、声を合わせて大声で叫んだ。「おお、憐れんでください。わたしたちが罪の赦しを受け心が清められるように、キリストの贖いの血の効力を及ぼしてください。わたしたちは、天地と万物の御靈が彼らに降られた。そして彼らは、罪の赦れる神の御子イエス・キリストを信じています。」

3そして、彼らがこれらの言葉を語り終えると、主の御靈が彼らに降られた。そして彼らは、喜びに満たされた。それは、彼らがベニヤミン王の語った言葉

のとおりに、将来来られるイエス・キリストを深く信じたためである。

4それからベニヤミン王は、再び口を開いて彼らに語り始めた。「わたしの友よ、わたしの同胞よ、わたしの親族よ、わたしの民よ、これからわたしが語る言葉を聞いて理解できるように、もう一度あなたがたの注意を促したい。

5見よ、もしも今、あなたがたが神の慈しみを知つたことで、自分たちを無力な者、值打ちのない者、堕落した状態にある者と感じるようになつてゐるならば、

6あなたがたに言うが、もしあなたがたが、神の慈しみと神のたぐいない力、神の知恵、神の忍耐、人の子へへの神の寛容を知るようになり、また主人に頼り、主の戒めを熱心に守つて、自分の生涯、すなわち、死すべき体の生涯の最後まで信仰を持ち続ける人に救いが与えられるように、世の初めから贖罪が備えられてきたことをも知るようになつたならば、

7わたしは言うが、その人は、アダムの墮落以来この世に住んだ、あるいは現在住んでいる、あるいは

2 1 ① ② ③ ④ GS 「畏れ、恐れ」	6 5 ① ② ③ ④ GS 「現世的」	3 ① ② ③ GS 「罪の赦し」	2 1 ① ② ③ ④ GS 「良心」
詩篇 36, 7, 8 2 ② ③ GS 「信頼」	モセ 1, 10 モサ 12, 7 モサ 12, 8 モサ 12, 9 モサ 12, 10 モサ 12, 11 モサ 12, 12 モサ 12, 13 モサ 12, 14 モサ 12, 15 モサ 12, 16 モサ 12, 17 モサ 12, 18 モサ 12, 19 モサ 12, 20 モサ 12, 21 モサ 12, 22 モサ 12, 23 モサ 12, 24 モサ 12, 25 モサ 12, 26 モサ 12, 27 モサ 12, 28 モサ 12, 29 モサ 12, 30 モサ 12, 31 モサ 12, 32 モサ 12, 33 モサ 12, 34 モサ 12, 35 モサ 12, 36 モサ 12, 37 モサ 12, 38 モサ 12, 39 モサ 12, 40 モサ 12, 41 モサ 12, 42 モサ 12, 43 モサ 12, 44 モサ 12, 45 モサ 12, 46 モサ 12, 47 モサ 12, 48 モサ 12, 49 モサ 12, 50 モサ 12, 51 モサ 12, 52 モサ 12, 53 モサ 12, 54 モサ 12, 55 モサ 12, 56 モサ 12, 57 モサ 12, 58 モサ 12, 59 モサ 12, 60 モサ 12, 61 モサ 12, 62 モサ 12, 63 モサ 12, 64 モサ 12, 65 モサ 12, 66 モサ 12, 67 モサ 12, 68 モサ 12, 69 モサ 12, 70 モサ 12, 71 モサ 12, 72 モサ 12, 73 モサ 12, 74 モサ 12, 75 モサ 12, 76 モサ 12, 77 モサ 12, 78 モサ 12, 79 モサ 12, 80 モサ 12, 81 モサ 12, 82 モサ 12, 83 モサ 12, 84 モサ 12, 85 モサ 12, 86 モサ 12, 87 モサ 12, 88 モサ 12, 89 モサ 12, 90 モサ 12, 91 モサ 12, 92 モサ 12, 93 モサ 12, 94 モサ 12, 95 モサ 12, 96 モサ 12, 97 モサ 12, 98 モサ 12, 99 モサ 12, 100 モサ 12, 101 モサ 12, 102 モサ 12, 103 モサ 12, 104 モサ 12, 105 モサ 12, 106 モサ 12, 107 モサ 12, 108 モサ 12, 109 モサ 12, 110 モサ 12, 111 モサ 12, 112 モサ 12, 113 モサ 12, 114 モサ 12, 115 モサ 12, 116 モサ 12, 117 モサ 12, 118 モサ 12, 119 モサ 12, 120 モサ 12, 121 モサ 12, 122 モサ 12, 123 モサ 12, 124 モサ 12, 125 モサ 12, 126 モサ 12, 127 モサ 12, 128 モサ 12, 129 モサ 12, 130 モサ 12, 131 モサ 12, 132 モサ 12, 133 モサ 12, 134 モサ 12, 135 モサ 12, 136 モサ 12, 137 モサ 12, 138 モサ 12, 139 モサ 12, 140 モサ 12, 141 モサ 12, 142 モサ 12, 143 モサ 12, 144 モサ 12, 145 モサ 12, 146 モサ 12, 147 モサ 12, 148 モサ 12, 149 モサ 12, 150 モサ 12, 151 モサ 12, 152 モサ 12, 153 モサ 12, 154 モサ 12, 155 モサ 12, 156 モサ 12, 157 モサ 12, 158 モサ 12, 159 モサ 12, 160 モサ 12, 161 モサ 12, 162 モサ 12, 163 モサ 12, 164 モサ 12, 165 モサ 12, 166 モサ 12, 167 モサ 12, 168 モサ 12, 169 モサ 12, 170 モサ 12, 171 モサ 12, 172 モサ 12, 173 モサ 12, 174 モサ 12, 175 モサ 12, 176 モサ 12, 177 モサ 12, 178 モサ 12, 179 モサ 12, 180 モサ 12, 181 モサ 12, 182 モサ 12, 183 モサ 12, 184 モサ 12, 185 モサ 12, 186 モサ 12, 187 モサ 12, 188 モサ 12, 189 モサ 12, 190 モサ 12, 191 モサ 12, 192 モサ 12, 193 モサ 12, 194 モサ 12, 195 モサ 12, 196 モサ 12, 197 モサ 12, 198 モサ 12, 199 モサ 12, 200 モサ 12, 201 モサ 12, 202 モサ 12, 203 モサ 12, 204 モサ 12, 205 モサ 12, 206 モサ 12, 207 モサ 12, 208 モサ 12, 209 モサ 12, 210 モサ 12, 211 モサ 12, 212 モサ 12, 213 モサ 12, 214 モサ 12, 215 モサ 12, 216 モサ 12, 217 モサ 12, 218 モサ 12, 219 モサ 12, 220 モサ 12, 221 モサ 12, 222 モサ 12, 223 モサ 12, 224 モサ 12, 225 モサ 12, 226 モサ 12, 227 モサ 12, 228 モサ 12, 229 モサ 12, 230 モサ 12, 231 モサ 12, 232 モサ 12, 233 モサ 12, 234 モサ 12, 235 モサ 12, 236 モサ 12, 237 モサ 12, 238 モサ 12, 239 モサ 12, 240 モサ 12, 241 モサ 12, 242 モサ 12, 243 モサ 12, 244 モサ 12, 245 モサ 12, 246 モサ 12, 247 モサ 12, 248 モサ 12, 249 モサ 12, 250 モサ 12, 251 モサ 12, 252 モサ 12, 253 モサ 12, 254 モサ 12, 255 モサ 12, 256 モサ 12, 257 モサ 12, 258 モサ 12, 259 モサ 12, 260 モサ 12, 261 モサ 12, 262 モサ 12, 263 モサ 12, 264 モサ 12, 265 モサ 12, 266 モサ 12, 267 モサ 12, 268 モサ 12, 269 モサ 12, 270 モサ 12, 271 モサ 12, 272 モサ 12, 273 モサ 12, 274 モサ 12, 275 モサ 12, 276 モサ 12, 277 モサ 12, 278 モサ 12, 279 モサ 12, 280 モサ 12, 281 モサ 12, 282 モサ 12, 283 モサ 12, 284 モサ 12, 285 モサ 12, 286 モサ 12, 287 モサ 12, 288 モサ 12, 289 モサ 12, 290 モサ 12, 291 モサ 12, 292 モサ 12, 293 モサ 12, 294 モサ 12, 295 モサ 12, 296 モサ 12, 297 モサ 12, 298 モサ 12, 299 モサ 12, 300 モサ 12, 301 モサ 12, 302 モサ 12, 303 モサ 12, 304 モサ 12, 305 モサ 12, 306 モサ 12, 307 モサ 12, 308 モサ 12, 309 モサ 12, 310 モサ 12, 311 モサ 12, 312 モサ 12, 313 モサ 12, 314 モサ 12, 315 モサ 12, 316 モサ 12, 317 モサ 12, 318 モサ 12, 319 モサ 12, 320 モサ 12, 321 モサ 12, 322 モサ 12, 323 モサ 12, 324 モサ 12, 325 モサ 12, 326 モサ 12, 327 モサ 12, 328 モサ 12, 329 モサ 12, 330 モサ 12, 331 モサ 12, 332 モサ 12, 333 モサ 12, 334 モサ 12, 335 モサ 12, 336 モサ 12, 337 モサ 12, 338 モサ 12, 339 モサ 12, 340 モサ 12, 341 モサ 12, 342 モサ 12, 343 モサ 12, 344 モサ 12, 345 モサ 12, 346 モサ 12, 347 モサ 12, 348 モサ 12, 349 モサ 12, 350 モサ 12, 351 モサ 12, 352 モサ 12, 353 モサ 12, 354 モサ 12, 355 モサ 12, 356 モサ 12, 357 モサ 12, 358 モサ 12, 359 モサ 12, 360 モサ 12, 361 モサ 12, 362 モサ 12, 363 モサ 12, 364 モサ 12, 365 モサ 12, 366 モサ 12, 367 モサ 12, 368 モサ 12, 369 モサ 12, 370 モサ 12, 371 モサ 12, 372 モサ 12, 373 モサ 12, 374 モサ 12, 375 モサ 12, 376 モサ 12, 377 モサ 12, 378 モサ 12, 379 モサ 12, 380 モサ 12, 381 モサ 12, 382 モサ 12, 383 モサ 12, 384 モサ 12, 385 モサ 12, 386 モサ 12, 387 モサ 12, 388 モサ 12, 389 モサ 12, 390 モサ 12, 391 モサ 12, 392 モサ 12, 393 モサ 12, 394 モサ 12, 395 モサ 12, 396 モサ 12, 397 モサ 12, 398 モサ 12, 399 モサ 12, 400 モサ 12, 401 モサ 12, 402 モサ 12, 403 モサ 12, 404 モサ 12, 405 モサ 12, 406 モサ 12, 407 モサ 12, 408 モサ 12, 409 モサ 12, 410 モサ 12, 411 モサ 12, 412 モサ 12, 413 モサ 12, 414 モサ 12, 415 モサ 12, 416 モサ 12, 417 モサ 12, 418 モサ 12, 419 モサ 12, 420 モサ 12, 421 モサ 12, 422 モサ 12, 423 モサ 12, 424 モサ 12, 425 モサ 12, 426 モサ 12, 427 モサ 12, 428 モサ 12, 429 モサ 12, 430 モサ 12, 431 モサ 12, 432 モサ 12, 433 モサ 12, 434 モサ 12, 435 モサ 12, 436 モサ 12, 437 モサ 12, 438 モサ 12, 439 モサ 12, 440 モサ 12, 441 モサ 12, 442 モサ 12, 443 モサ 12, 444 モサ 12, 445 モサ 12, 446 モサ 12, 447 モサ 12, 448 モサ 12, 449 モサ 12, 450 モサ 12, 451 モサ 12, 452 モサ 12, 453 モサ 12, 454 モサ 12, 455 モサ 12, 456 モサ 12, 457 モサ 12, 458 モサ 12, 459 モサ 12, 460 モサ 12, 461 モサ 12, 462 モサ 12, 463 モサ 12, 464 モサ 12, 465 モサ 12, 466 モサ 12, 467 モサ 12, 468 モサ 12, 469 モサ 12, 470 モサ 12, 471 モサ 12, 472 モサ 12, 473 モサ 12, 474 モサ 12, 475 モサ 12, 476 モサ 12, 477 モサ 12, 478 モサ 12, 479 モサ 12, 480 モサ 12, 481 モサ 12, 482 モサ 12, 483 モサ 12, 484 モサ 12, 485 モサ 12, 486 モサ 12, 487 モサ 12, 488 モサ 12, 489 モサ 12, 490 モサ 12, 491 モサ 12, 492 モサ 12, 493 モサ 12, 494 モサ 12, 495 モサ 12, 496 モサ 12, 497 モサ 12, 498 モサ 12, 499 モサ 12, 500 モサ 12, 501 モサ 12, 502 モサ 12, 503 モサ 12, 504 モサ 12, 505 モサ 12, 506 モサ 12, 507 モサ 12, 508 モサ 12, 509 モサ 12, 510 モサ 12, 511 モサ 12, 512 モサ 12, 513 モサ 12, 514 モサ 12, 515 モサ 12, 516 モサ 12, 517 モサ 12, 518 モサ 12, 519 モサ 12, 520 モサ 12, 521 モサ 12, 522 モサ 12, 523 モサ 12, 524 モサ 12, 525 モサ 12, 526 モサ 12, 527 モサ 12, 528 モサ 12, 529 モサ 12, 530 モサ 12, 531 モサ 12, 532 モサ 12, 533 モサ 12, 534 モサ 12, 535 モサ 12, 536 モサ 12, 537 モサ 12, 538 モサ 12, 539 モサ 12, 540 モサ 12, 541 モサ 12, 542 モサ 12, 543 モサ 12, 544 モサ 12, 545 モサ 12, 546 モサ 12, 547 モサ 12, 548 モサ 12, 549 モサ 12, 550 モサ 12, 551 モサ 12, 552 モサ 12, 553 モサ 12, 554 モサ 12, 555 モサ 12, 556 モサ 12, 557 モサ 12, 558 モサ 12, 559 モサ 12, 560 モサ 12, 561 モサ 12, 562 モサ 12, 563 モサ 12, 564 モサ 12, 565 モサ 12, 566 モサ 12, 567 モサ 12, 568 モサ 12, 569 モサ 12, 570 モサ 12, 571 モサ 12, 572 モサ 12, 573 モサ 12, 574 モサ 12, 575 モサ 12, 576 モサ 12, 577 モサ 12, 578 モサ 12, 579 モサ 12, 580 モサ 12, 581 モサ 12, 582 モサ 12, 583 モサ 12, 584 モサ 12, 585 モサ 12, 586 モサ 12, 587 モサ 12, 588 モサ 12, 589 モサ 12, 590 モサ 12, 591 モサ 12, 592 モサ 12, 593 モサ 12, 594 モサ 12, 595 モサ 12, 596 モサ 12, 597 モサ 12, 598 モサ 12, 599 モサ 12, 600 モサ 12, 601 モサ 12, 602 モサ 12, 603 モサ 12, 604 モサ 12, 605 モサ 12, 606 モサ 12, 607 モサ 12, 608 モサ 12, 609 モサ 12, 610 モサ 12, 611 モサ 12, 612 モサ 12, 613 モサ 12, 614 モサ 12, 615 モサ 12, 616 モサ 12, 617 モサ 12, 618 モサ 12, 619 モサ 12, 620 モサ 12, 621 モサ 12, 622 モサ 12, 623 モサ 12, 624 モサ 12, 625 モサ 12, 626 モサ 12, 627 モサ 12, 628 モサ 12, 629 モサ 12, 630 モサ 12, 631 モサ 12, 632 モサ 12, 633 モサ 12, 634 モサ 12, 635 モサ 12, 636 モサ 12, 637 モサ 12, 638 モサ 12, 639 モサ 12, 640 モサ 12, 641 モサ 12, 642 モサ 12, 643 モサ 12, 644 モサ 12, 645 モサ 12, 646 モサ 12, 647 モサ 12, 648 モサ 12, 649 モサ 12, 650 モサ 12, 651 モサ 12, 652 モサ 12, 653 モサ 12, 654 モサ 12, 655 モサ 12, 656 モサ 12, 657 モサ 12, 658 モサ 12, 659 モサ 12, 660 モサ 12, 661 モサ 12, 662 モサ 12, 663 モサ 12, 664 モサ 12, 665 モサ 12, 666 モサ 12, 667 モサ 12, 668 モサ 12, 669 モサ 12, 670 モサ 12, 671 モサ 12, 672 モサ 12, 673 モサ 12, 674 モサ 12, 675 モサ 12, 676 モサ 12, 677 モサ 12, 678 モサ 12, 679 モサ 12, 680 モサ 12, 681 モサ 12, 682 モサ 12, 683 モサ 12, 684 モサ 12, 685 モサ 12, 686 モサ 12, 687 モサ 12, 688 モサ 12, 689 モサ 12, 690 モサ 12, 691 モサ 12, 692 モサ 12, 693 モサ 12, 694 モサ 12, 695 モサ 12, 696 モサ 12, 697 モサ 12, 698 モサ 12, 699 モサ 12, 700 モサ 12, 701 モサ 12, 702 モサ 12, 703 モサ 12, 704 モサ 12, 705 モサ 12, 706 モサ 12, 707 モサ 12, 708 モサ 12, 709 モサ 12, 710 モサ 12, 711 モサ 12, 712 モサ 12, 713 モサ 12, 714 モサ 12, 715 モサ 12, 716 モサ 12, 717 モサ 12, 718 モサ 12, 719 モサ 12, 720 モサ 12, 721 モサ 12, 722 モサ 12, 723 モサ 12, 724 モサ 12, 725 モサ 12, 726 モサ 12, 727 モサ 12, 728 モサ 12, 729 モサ 12, 730 モサ 12, 731 モサ 12, 732 モサ 12, 733 モサ 12, 734 モサ 12, 735 モサ 12, 736 モサ 12, 737 モサ 12, 738 モサ 12, 739 モサ 12, 740 モサ 12, 741 モサ 12, 742 モサ 12, 743 モサ 12, 744 モサ 12, 745 モサ 12, 746 モサ 12, 747 モサ 12, 748 モサ 12, 749 モサ 12, 750 モサ 12, 751 モサ 12, 752 モサ 12, 753 モサ 12, 754 モサ 12, 755 モサ 12, 756 モサ 12, 757 モサ 12, 758 モサ 12, 759 モサ 12, 760 モサ 12, 761 モサ 12, 762 モサ 12, 763 モサ 12, 764 モサ 12, 765 モサ 12, 766 モサ 12, 767 モサ 12, 768 モサ 12, 769 モサ 12, 770 モサ 12, 771 モサ 12, 772 モサ 12, 773 モサ 12, 774 モサ 12, 775 モサ 12, 776 モサ 12, 777 モサ 12, 778 モサ 12, 779 モサ 12, 780 モサ 12, 781 モサ 12, 782 モサ 12, 783 モサ 12, 784 モサ 12, 785 モサ 12, 786 モサ 12, 787 モサ 12, 788 モサ 12, 789 モサ 12, 790 モサ 12, 791 モサ 12, 792 モサ 12, 793 モサ 12, 794 モサ 12, 795 モサ 12, 796 モサ 12, 797 モサ 12, 798 モサ 12, 799 モサ 12, 800 モサ 12, 801 モサ 12, 802 モサ 12, 803 モサ 12, 804 モサ 12, 805 モサ 12, 806 モサ 12, 807 モサ 12, 808 モサ 12, 809 モサ 12, 810 モサ 12, 811 モサ 12, 812 モサ 12, 813 モサ 12, 814 モサ 12, 815 モサ 12, 816 モサ 12, 817 モサ 12, 818 モサ 12, 819 モサ 12, 820 モサ 12, 821 モサ 12, 822 モサ 12, 823 モサ 12, 824 モサ 12, 825 モサ 12, 826 モサ 12, 827 モサ 12, 828 モサ 12, 829 モサ 12, 830 モサ 12, 831 モサ 12, 832 モサ 12, 833 モサ 12, 834 モサ 12, 835 モサ 12, 836 モサ 12, 837 モサ 12, 838 モサ 12, 839 モサ 12, 840 モサ 12, 841 モサ 12, 842 モサ 12, 843 モサ 12, 844 モサ 12, 845 モサ 12, 846 モサ 12, 847 モサ 12, 848 モサ 12, 849 モサ 12, 850 モサ 12, 851 モサ 12, 852 モサ 12, 853 モサ 12, 854 モサ 12, 855 モサ 12, 856 モサ 12, 857 モサ 12, 858 モサ 12, 859 モサ 12, 860 モサ 12, 861 モサ 12, 862 モサ 12, 863 モサ 12, 864 モサ 12, 865 モサ 12, 866 モサ 12, 867 モサ 12, 868 モサ 12, 869 モサ 12, 870 モサ 12, 871 モサ 12, 872 モサ 12, 873 モサ 12, 874 モサ 12, 875 モサ 12, 876 モサ 12, 877 モサ 12, 878 モサ 12, 879 モサ 12, 880 モサ 12, 881 モサ 12, 882 モサ 12, 883 モサ 12, 884 モサ 12, 885 モサ 12, 886 モサ 12, 887 モサ 12, 888 モサ 12, 889 モサ 12, 890 モサ 12, 891 モサ 12, 892 モサ 12, 893 モサ 12, 894 モサ 12, 895 モサ 12, 896 モサ 12, 897 モサ 12, 898 モサ 12, 899 モサ 12, 900 モサ 12, 901 モサ 12, 902 モサ 12, 903 モサ 12, 904 モサ 12, 905 モサ 12, 906 モサ 12, 907 モサ 12, 908 モサ 12, 909 モサ 12, 910 モサ 12, 911 モサ 12, 912 モサ 12, 913 モサ 12, 914 モサ 12, 915 モサ 12, 916 モサ 12, 917 モサ 12, 918 モサ 12, 919 モサ 12, 920 モサ 12, 921 モサ 12, 922 モサ 12, 923 モサ 12, 924 モサ 12, 925 モサ 12, 926 モサ 12, 927 モサ 12, 928 モサ 12, 929 モサ 12, 930 モサ 12, 931 モサ 12, 932 モサ 12, 933 モサ 12, 934 モサ 12, 935 モサ 12, 936 モサ 12, 937 モサ 12, 938 モサ 12, 939 モサ 12, 940 モサ 12, 941 モサ 12, 942 モサ 12, 9		

は世の終わりまでに住む全人類のために、世の初めから備えられた贖罪によつて救いを受ける人である。

8 これが救いが与えられる方法である。これまで語られてきたこのことのほかにどのような救いもななく、わたしがあなたがたに述べてきた条件のほかに人が救われる条件はない。

9 神を信じなさい。神がましますことと、神が天と地の万物を創造されたことを信じなさい。すべての知恵を備え、また天と地の両方で一切の権威を持つておられることを信じなさい。さらに、人は主が理解される事柄すべては理解しないといふことは、ゆかりのかげらでいふべきだ。

10 さらにあなたがたは、罪خطを悔آتھい改آتھめてその罪خطを捨て、神の御前にへりくだらなければならぬことしんを信じなさい。そして、神کہنがあなたがたを赦آتھしてくださるよう真心から求めなさい。これらのことすべて信じるならば、必ずそれを実行آتھしなさい。

11 そして再び、すでに詰つたように、わたしはあるなたがたに言う。あなたがたはすでに神の栄光を知るようになつたので、すなはち、神の慈しみを知り、

かみの愛いを(あじ)わい、心にこのような大きさ(ひじょう)におおきな喜び(よろこび)を(よろこび)えた。神の偉大(だい)さと自分自身の無力さ(むりょくさ)、それに取るに足りない人間(にんげん)であるあなたがたに対する神の慈しみと寛容(ゆうゆう)、これらを覚えて、いつも記憶(おく)にとどめておくようにしてほし。また、心底(こころそこ)謙遜(けんそん)にへりくだつて、日々主(ひびし)の御名(ごよみ)を呼び(呼び)、天使(てんし)の口(くち)を通して語(は)られた将来(しょうらい)の出来事(できこと)を確固(かつこ)として信じ(しんじ)続けてほし。

12 そして見よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたがこのようにするならば、いつも喜び(よろこび)を感じ(かんじ)、神の愛(こころ)で満たされ、またいつも罪(つみ)の赦し(ゆる)を保てるであろう。またあなたがたを造られた御方(おおかた)の栄光(えいこう)、すなわち、正しく眞実(じんじつ)な事柄(ことがら)をますます知るようになるであろう。

13 またあなたがたは、互いに傷つけ合う心を持たず、^う平和に暮らし、あらゆる人にその人が当たる受けるべきものを与えたいと思うようになるであろう。

14 またあなたがたは、自分の子供たちが飢えていたり、着るもののがなかつたりするのをほうってはおかないのであろう。あなたがたは子供たちが神の律法

に背くのも、互いに戦うのも、争い合うのもほう
つてはおかしいであろう。また、罪の頭である悪魔、すなわち、わたしたちの先祖が語ってきた悪靈であり、あらゆる義の敵である悪魔に仕えることも許さないであろう。

15 むしろあなたがたは、彼らに真理の道をまじめに歩むように教えるであろう。互いに愛し合い、互いに仕え合うように教えるであろう。

16 そしてまた、あなたがたは自分自身でも、助けを必要としている人を助け、乏しい人に自分の持ち物を与えるであろう。また、物乞いがあなたがたに請い願うのに応じないで、追い払つて死なせるようなことをしないであろう。

17 あるいは、あなたがたは次のように言ふかもしれない。『その人は自分でその不幸を招いたのだから、わたしは手を差し伸べない。彼が苦しまなくて済むように食物を与えることはしないし、持ち物を分けることもしない。彼が罰を受けるのは当然なのだから。』

18 しかし、おお、人々よ、わたしはあなたがたに言ふ。このようにする者はだれでも、大いに悔い改め

る必要がある。このような者は、自分の行つてき

たことを悔い改めなければ、とこしえに滅びて、神の王国にあずかることはない。

19 見よ、わたしたちは皆、物乞いではないだろうか。わたしたちは皆、持つてゐるすべてのものについて、すなわち食物も衣服も、金も銀も、そのほか持つてゐるあらゆる富について、同一の御方、すなわち神に依存してはいられないだろうか。

20 そして見よ、今までさえあなたがたは神の御名を呼び、罪の赦しを請い願つてゐる。神はあなたがたが請い願うのに応じないで、聞き流してこれらただろうか。いや、神はあなたがたに御靈を注ぎ、あなたがたの心を喜びで満たし、あなたがたが語る言葉を見いだせないで口をつぐむほどにされた。それほどあなたがたの喜びが非常に大きかつたのである。

21 さて、もしもあなたがたを造られた神、あなたがたが自分の命についても自分の持ち物と能力のすべてについても頼つてゐる神が、あなたがたが必ず与えられると信じて、信仰をもつて求める正当なものを、何でもすべて与えてくださるとすれば、ましてあなたがたは、自分たちの持つてゐるものと互いに

に分かち合つて当然ではないだろうか。

22 また、死を免れるために物乞いをするひとを、あなたのたがたが裁いて罪に定めるならば、自分の持ち物

を与えないことで罪に定められることの方が、も

つと理にかなつてはいないだろうか。あなたがたの持ち物はあなたがたのものではなく、神のものであり、命もまた神のものである。にもかかわらず、あなたがたは神にまつたく物乞いをせず、自分の行つてきたことを悔い改めもしれない。

23 わたしはあなたがたに言う。そのような者は災いである。その持ち物はその者とともに滅びるからである。わたしはこれらのこと、この世のものに富んでいる者たちに告げる。

24 さらに、わたしは、富めるほどではないが、日々ある。わたしはこれらのこと、この世のものに富んでいる者たちに告げる。

貧しい人々、すなわち、自分にはないからということで、物乞いに与えることを断るあなたがたに言う。あなたがたは心の中で、『わたしにはないので与えないが、もしあれば与えるであろう』と言うようにしてほしい。

25 さて、心の中でこう言うかぎり依然として罪はない。

26 さて、あなたがたに語つてきたこれらのことのため、すなわち、神の御前を罪なく歩めるよう、日々罪の赦しを続けて受けるために、自分の持ついる分に応じて、それぞれ持ち物を貧しい人に分け与えるようにしてほしい。例えば、飢えている人に食べさせ、着るものない人に着せ、病人を見舞い、各々の入り用に応じて靈的にも物質的にも助けを与えることである。

27 これらのことはすべて、賢明に秩序正しく行うようにななさい。人が自分の力以上に速く走ることは要求されとはいひないからである。しかしまだ、賞を得るために勤勉に励むのは必要なことである。したがつて、何事も秩序正しく行うようにしなさい。

28 また、このことを覚えておいてほしい。あなたがたはだれであつても、隣人から物を借りたら、その物を約束どおりに返すようにしなければならない。そうでなければ、自分が罪を犯すばかりでな

い。そうでなければ罪に定められる。まだ得ていかないものをむさぼるのであるから、罪の宣告を受けて当然である。

27	26	25	24	23	22	21
①教義 10	②GS「施し」 18	③GS「ヤコブ」 10	④GS「アル」 17	⑤GS「セカ」 17	⑥ヨハネ福音書 17	⑦マタイ福音書 17
4	10	17	27	10	ヨハネ福音書 17	マタイ福音書 17
11	19					

く、恐らく隣人にも罪を犯させることになる。

29 最後に言うが、あなたがたが罪を犯すとになることをすべて告げることはできない。その方法や手段はいろいろあって、数え上げられないほど多いからである。

30しかし、これだけは言える。もし自分自身や自分の思い、言葉、行いに注意を払わず、神の戒めを守らず、主の来臨について聞いた事柄を生涯の最後まで信じ続けないならば、あなたがたは滅びるに違いない。おお、人々よ、覚えておきなさい。滅びてはならない。』

第5章

聖徒たちは、信仰によってキリストの息子および娘となる。その後、キリストの名によつて呼ばれる。ベニヤミン王、確固として揺らぐことなく善い行いをするように民に説き勧める。紀元前約百二十四年。

1さて、ベニヤミン王はこのように民に語り終えると、自分の語つた言葉を民が信じているかどうかしりたいと思い、使いを民の中に遣わした。

2すると民は皆、声を合わせて叫んだ。「そのとおり、わたしたちは、王がわたしたちに語つてくださった言葉をすべて信じています。また、全能の主の御靈のおかげで、わたしたちは王の言葉が確かに真実であることを知っています。御靈は、わたしたちが悪を行う性癖をもう一度と持つことなく、絶えず善を行う希望を持つように、わたしたちの中に、すなわちわたしたちの心の中に大きな慈悲みと神の御靈の現れによって、将来起ることをはつきりと示されており、ふさわしければすべての物事について預言することができます。

3そして、わたしたち自身もまた、神の限りない慈しみと神の御靈の現れによって、将来起ることをはつきりと示されており、ふさわしければすべての物事について預言することができます。

4また、この偉大な知識が与えられたのは、わたしたちが、王が語つてくださつたことを信じたからです。その結果、わたしたちはこのように、非常に大きな喜びを得ています。

5そしてわたしたちは、残りの全生涯、神の御心を行ひ、神から命じられるすべてのことについて神の戒めに従うという聖約を交わします。そして、天使によつて告げられたような、決して終わる

第5章

5	2	30
③②① GS	②① アル 19	マコ 7 18 「思ひ」 モサ 15 18 「不敬」 3 3 18 「アル 12 14、 見守る、見守る者」
モサ 2 10	5 14、 「再び生まれる」	マタ 20、 「アーリ 12 14、 見守る、見守る者」
25 27		

ことのない苦痛を自分自身に招くことのないようになります。」

6さて、これはベニヤミン王が彼らから聞きたいと望んでいた言葉であった。そこで、王は彼らに言つた。「あなたがたは、わたしの望んでいた言葉を語つてくれた。あなたがたが交わした聖約は義にかなつた聖約である。」

7さて、あなたがたが交わした聖約のために、あなたがたはキリストの子と呼ばれ、キリストの息子および娘と呼ばれる。見よ、それは、今日キリストが靈的にあなたがたを子としてもうけられたからである。あなたがたは、キリストの御名を信じて心が改まつたと言う。だから、あなたがたはキリストから生まれ、キリストの息子および娘となつたのである。

8そしてあなたがたは、この称号の下で自由を得た。このほかにはあなたがたに自由を得させる称号はない。救いをもたらす名はほかに与えられていない。だから、キリストの御名を受け、神と聖約を交わしたあなたがたは皆、生涯の最後まで従順であつてほしい。

9そして、このとおりにする者はだれでも、自分がどのような名で呼ばれるか分かるので、神の右に見いだされるであろう。なぜならば、キリストの御名で呼ばれるからである。

10そして、キリストの御名を受けない者はだれでも、何かほかの名で呼ばれる。それゆえ、神の左にいる自分に気づくであろう。

11そして、これこそが、戒めに背かなければ決して消されることのない名で、わたしがあなたがたに与えると言つたその名であることをあなたがたは覚えておいてほしい。だから、この名があなたがたの心から消えてなくならないように、あなたがたは戒めに背くことのないよう注意しなさい。

12わたしはあなたがたに言う。あなたがたはこの名をいつも心にしつかりと記しておくことを忘れまいようにしてほしい。そうすればあなたがたは、神の左に見いだされることなく、自分がどの声で呼ばれ、どの名で呼ばれるかが聞いて分かるであろう。

13なぜならば、仕えたこともなく、見も知らぬ他

12	11	10	8
① GS ① ② ① アル ① GS ⑤ GS	① モサ ② GS ⑥ GS	モセ ⑦ GS	モサ ② GS
教義 18: 23: 25:	モサ 11 33 38 12 15 5 11 26 18 14 30 1 15 10 11	ロマ 6: 16 18 30 ガラ 6: 1 18 30 教義 11: 10 11 ヒラ 4: 10 12 12	モサ 11 10 11 「再び生まれる」
「イエスキリストを受ける」	11 39	アル 21: 9 4 10 12	モサ 26: 9 10 12

人で、心の思いと志を異にしている主人を、どのようにして人は知ることができようか。

14 人はまた、隣人の持ち物であるろばを連れて来て、これを飼うだらうか。そのようなことはしないと、わたしはあなたがたに言おう。人は、そのろばが自分の群れの中で草をはむことさえ許さず、それを驅り立てて追い出すであろう。わたしはあなたがたに言う。もしあなたがたがどの名で呼ばれるのか知らなければ、同じようなことがあなたがたの中で起こるであろう。

15 したがつて、あなたがたは確固として搖らぐことなく、いつも多くの善い行いをして、全能者である主なる神、キリストから御自分のものとして印を押されるように、また天に招き入れられて、永遠の救いと永遠の命にあずかるようにしてほしい。この永遠の救いと永遠の命は、天地の万物を創造された、あらゆるものに勝る神の知恵と力、公正、憐れみによつて与えられるものである。アーメン。」

ちを任命する。モーサヤ、義にかなつた王として統治する。紀元前約百二十四年から百二十一年に至る。

1さて、ベニヤミン王は民に語り終えると、神の戒めを守るという聖約を神と交わしたすべての人の名を書き留めておく方がよいと思つた。
 2そこで民は、幼い子供を除いて一人残らず聖約を交わし、キリストの名を受けた。
 3そして、さらにベニヤミン王は、これらのことすべて終えると、息子モーサヤを聖別して民の統治者とし、王とし、王國に関する一切の責任を彼にゆだねた。また、民を教える祭司たちも任命した。人々が神の戒めを聞いて知ることができるよう、またすでに立てた誓いを思ひ起こすように促すためである。その後、ベニヤミン王は群衆を解散させた。そこで民は、それぞれ家族ごとに各自の家へ帰つて行つた。

4そして、モーサヤが父に代わつて統治を始めた。モーサヤが統治を始めたのは三十歳の年であり、リーハイがエルサレムを去つてからおよそ四百七十六年後のことになる。

第6章 ベニヤミン王、民の名を記録し、彼らを教える祭司た

5 そしてベニヤミン王は、その後三年生き長らえ
て死んだ。

6 さて、モーサヤ王は主の道を歩み、主の掟と裁
決を守り、主から命じられたすべてのことについ
て主の戒めを守つた。

7 またモーサヤ王は、民に地を耕させた。そし
て、彼自身も地を耕して、民に負担をかけること
のないようにして、すべてのことについて、父の行つ
たとおりに行おうとした。そして三年間、民の中
にはまったく争いがなかつた。

第7章

アンモン、リムハイが王となつてゐるリーハイ・ニ
ファイの地を発見する。リムハイの民、レーマン人の奴
隸の状態にある。リムハイ、自分の民の歴史を語る。預
言者（アビナダイ）はキリストが万物の神であり父であ
ることを証した。汚れをまく者は旋風を受け、主を信頼
する者は救われる。紀元前約百二十二年。

1 さて、モーサヤ王は三年間引き続き平和を保つ
た後、かつてリーハイ・ニーファイの地、すなわ

ちリーハイ・ニーファイの町に住もうとして出て
行つた人々のことを知りたいと思つた。それは、そ
の人々がゼラヘムラの地を去つて以来、何の音さ
たもなかつたので、民がうるさく訴えて王を煩わ
したからである。

2 そこでモーサヤ王は、十六人の屈強な男たちが
リーハイ・ニーファイの地へ出かけて行つて、同胞
のことを調べるのを許した。

3 そしてその翌日、彼らはアンモンという男とともに
もに出发した。このアンモンは屈強な力の強い男
で、ゼラヘムラの子孫であつて、一行の統率者で
もあつた。

4 さて、彼らは、リーハイ・ニーファイの地へ行く
のに、荒れ野をどの方向へ旅をしてよいか分からな
かつたので、荒れ野の中をさまよつた。実に、四十
日間もさまよつた。

5 そして、四十日間さまよつた後に、彼らはシヤ
イロムの地の北方にある丘にたどり着き、そこに天
幕を張つた。

6 そしてアンモンは、一行の中からアマレカイ、ヘ
レム、ヘムという名の三人の同僚を連れて、二一

7 ① 2コリ11・9
1 ① オム1 27
2 ニフ5 8
モサ9 6, 8,
13 30

6 ① ② オム1 27
モサ9 6, 8,
13 30

ファイの地へ向かつた。

さて、アンモンは話すのを許されたことを知る

と、王の前に進み出て身をかがめ、また再び身を

口ムの地に住む人々の王に出会つた。そして、王

おこすと、次のように言つた。「王様、わたしは

の衛兵に取り囲まれて捕らえられ、縛られて牢に

今日、自分がまだ生きていて、話すのを許された

入れられてしまつた。

ことを、神の御前に深く感謝しています。わたし

8 そして彼らは、牢に二日置かれてから再び王の

は思い切つて話したいと思ひます。

前に連れて行かれ、縄を解かれた。そして彼らが

13 王様は、もしわたしのことを知つておられた

9 王の前に立つと、王の問い合わせに答えるのを許され

ら、きっとわたしを縛ることはなさらなかつたでし

た。いや、答えるように命じられた。

ょう。わたしはアンモンといつて、ゼラヘムラの

10 王は彼らに言つた。「見よ、わたしはリムハイと

子孫で、ゼニフがゼラヘムラの地から連れて出来た

11 ゼニフは先祖の土地であつたこの地であり、このゼニフは先祖の土地であつたこの地

ものだからです。」

12 を継ごうとしてゼラヘムラの地から出て来て、民

14 そこでリムハイは、アンモンの言葉を聞いて非常

の声によつて王となつた者である。

に喜んで言つた。「ゼラヘムラの地にいた同胞が、

15 10 ところで、わたしが衛兵と町の門の外にいたとき、おまえたちはなぜあえて城壁に近づいて來たのか。

今もなお生きていることが確かに分かつた。うれしいことだ。明日、わたしの民にも喜んでもらおう。

11 わたしはそのことを尋ねるために、おまえたちを生かしておいた。そうでなければ、衛兵に殺さ

15 見よ、我らは今、レーマン人の奴隸となつて堪え難い税をかけられていい。しかしながら、見よ、

のを許す。」

同胞は我らを奴隸の状態から、すなわちレーマン

人の手から救い出してくれるであろう。そうした

がたの税をかけられていい。しかししながら、見よ、

16 我らは同胞の奴隸になろう。レーマン人の王

に貢ぎ物を納めるよりも、ニーファイ人の奴隸になる方がよい。」

16 そこでリムハイ王は衛兵たちに、もうアンモンも彼の同僚たちも縛ってはならないと命じた。そして、アンモンたちをシャイロムの北方にある丘に行かせ、同僚たちを町に連れて来させて、彼らが飲食し、旅の疲れをいやせるようにした。彼らは多くの苦しい目に遭い、飢えと渴きと疲労に苦しんできたからである。

17 そして翌日、リムハイ王はすべての民の中に布告を出し、すべての者が連れ立つて神殿に集まり、王の語る言葉を聞くようになされた。

18 そして民が連れ立つて集まると、リムハイ王は彼らにこのように言つた。「おお、わたしの民よ、頭を上げて慰めを得なさい。見よ、我らがもはや敵に隸従しなくて済む時が近づいている。それは遠い先のことではない。これまでの多くの戦いは実を結ばなかつたが、実りある戦いがまだ残されていることを、わたしは確信している。

19 だから、頭を上げて喜び、神に頼りなさい。アブラハム、イサク、ヤコブの神に頼りなさい。この

神はイスラエルの子らをエジプトの地から導き出し、乾いた地を歩いて紅海を渡らせ、また彼らが荒れ野で滅びることのないよう、マナで彼らを養われた。そのほか、もつと多くのことをイスラエルの子らのためになさつた。

20 さらに、この同じ神は、我らの先祖をエルサレムの地から導き出し、現在に至るまで御自分の民を守つてこられた。見よ、その神が我らを奴隸の状態に落とされたのは、我らの罪悪と忌まわしい行いのためである。

21 今日、あなたがたは皆、わたしが次に述べることの証人である。かつてこの民を治める王とされたゼニフは、先祖の地を受け継ぎたいという望みが強すぎたので、レーマン王の悪知恵と悪巧みにだまされてしまつた。レーマン王はゼニフ王と条約を結び、国の領土の一部であるリーハイ・ニーフアイの町とシャイロムの町、およびその周辺の土地をゼニフ王の手に渡した。

22 レーマン王がこうしたのは、この民を従える、すなわち奴隸の状態に置くというただ一つの目的があつたからである。そして見よ、今我らは貢ぎ物

	22	21	20	19	17
①	①	①	ヨ	①	2
モ	モ	ニ	シ	ニ	二
サ	サ	フ	36	フ	5
10	9	12	16	19	6
18	1	7	28	12	10
	3	8	40	41	16
	3	35			

として、どうもろこしの半分と大麦の半分とあらゆる穀物の半分、および大小の家畜の群れの増加分の半分をレーマン人の王に納めている。レーマン人の王は、実際に我らの持つ、すなわち所有するすべてのものの半分を、我らから厳しく取り立ててある。これを出さなければ、我らの命を求める。

23 これは堪え難いことではないか。我らの受けているこの苦難は、甚だしいではないか。見よ、嘆き悲しんで当然ではないか。

24 まことに、あなたがたに告げる。嘆き悲しんで当然な理由がたくさんある。見よ、何と多くの同胞が殺され、血が無駄に流されたことか。これはすべて罪悪の結果である。

25 もしこの民が戒めに背かなかつたならば、主はこのように大きな災いが民のうえに及ぶのを許されなかつたであろう。ところが見よ、民は主の御言葉に聞き従おうとしなかつた。そして、民の中に争いが起こり、それが高じて彼らは血を流し合つた。

26 また彼らは主の預言者、すなわち神の選ばれた人も殺した。まことに、その人は民に彼らの悪事を忌まわしい行いについて告げ、将来起ころ多く

のこと、まことにキリストの来臨さえ預言した。
 27 その人は民に、キリストは万物の父なる神であると述べ、またキリストは後に人の形を取られると述べ、またキリストは後に人の形を取られること、そしてその形は人が初めにそれに倣つて造られた形であることを告げた。言い換えれば、人が神の形に造られたこと、また神が人の子らの中へ降つて来て血肉を受け、地の面に出て行かれることを、その人は民に告げたのである。

28 さて、その人がそう言ったので、民は彼を殺してしまつた。また彼らは、ほかにももつと多くのことを行い、神の怒りを自分たちに招いたのである。だから、この民が現在奴隸の状態にあること、またひどい苦難に打たれていることを不思議に思う者がだれかいるであろうか。

29 見よ、主は言われた。『わたしは、自分の民が戒めに背く日にはこれを助けず、彼らが栄えないよううにその道をふさごう。彼らの行いは、彼らの前に置かれたつまずきの石のようになる。』

30 さらに主は、『わたしの民は、もし汚れをまくなら旋風の中でのその殻を取り入れることになる。そしてその結果は毒である』と言われる。

30	29	27 26
①	①	モサ 17 モサ 12
②	②	創世一 神・神会
ガラ 6 モサ 13 モサ 17 モサ 28	エテ 3 エテ 20 モサ 17 モサ 28	モサ 17 モサ 26 モサ 28
ガラ 6 モサ 13 モサ 17 モサ 28	モサ 17 モサ 26 モサ 28	モサ 17 モサ 26 モサ 28
「刈り入れ」	「汚れ」	
GS モサ 33 モサ 34	GS モサ 12 モサ 15 モサ 14	
GS モサ 33 モサ 34	GS モサ 12 モサ 15 モサ 14	

31 また、「わたしの民は、もし汚れをまくなら、速にやかな滅亡をもたらす東風を招くことになる」と言われる。

32 さて見よ、主の約束は果たされ、あなたがたは打たれて苦しんでいる。

33 しかし、もしあなたがたが十分に固い決意をもつて主に立ち返り、主に頼り、力の限り主に仕えるならば、もしあなたがたがこのようにするならば、主は御自分の意のまま、思いのままに、奴隸の状態から救い出してくださるであろう。」

第 8 章
アンモン、リムハイの民を教える。アンモン、ヤレド人の二十四枚の版のことを知る。聖見者は昔の記録を翻訳することができる。聖見者の賜物より大きいなる賜物はない。紀元前約百二十一年。

1 さて、リムハイ王は民に多くのことを語つたが、わたしはその中からわずかな事柄だけをこの書に書き記した。王は民に語り終えると、ゼラヘムラの地にいる同胞についても、すべてのことを

彼らに告げた。

2 そして彼はアンモンを群衆の前に立たせて、ゼニフがゼラヘムラを立ち去つたときからアンモン自身がゼラヘムラを出るときまでに同胞に起こつたことを、すべて詳しく語らせた。

3 そこでアンモンはリムハイ王の民に、ベニヤミン王がゼラヘムラの民に教えた最後の言葉についても詳しく述べ、またリムハイ王の民がベニヤミン王の語つた言葉をすべて理解できるように、その言葉を解説した。

4 そして、アンモンがこれをすべて終えると、リムハイ王は群衆を解散させ、一人残らず各自の家に帰らせた。

5 そして王は、彼の民がゼラヘムラの地を出たときからの記録が載つていてる版をアンモンの前に持つて来させ、彼がそれを読めるようにした。

6 さて、アンモンがその記録を読み終えるとすぐには、王は彼に外国の言葉を翻訳できるかどうか尋ねた。アンモンはできないことを王に告げた。

7 そこで王はアンモンに言つた。「わたしは民の苦難を見て悲しく思ひ、民の中から四十三人の者を

荒れ野へ旅立たせた。彼らがゼラヘムラの地を見つけ、彼らを奴隸の状態から救い出してくれるようには同胞に頼めると思つたからである。

8 ところが彼らは、幾日もの間荒れ野の中で迷つてしまつた。それでも彼らは熱心に探したので、

ゼラヘムラの地は見つからなかつたものの、またこの地に戻つて来た。その間、彼らは多くの水のある地方を旅し、人間と獣の骨が辺り一帯に散乱しており、またあらゆる建物の廃墟が一面に散在している地を発見した。すなわち、イスラエルの大群ほどに数多くの人が住んでいた地を発見した。

9 そして彼らは、自分たちの語ることが真実であるという証拠として、文字が一面に刻んである二十四枚の版を持ち帰つた。その版は純金でできている。

10 また見よ、彼らは幾つかの大きな胸当ても持ち帰つたが、それらは真鎧と銅でできており、まったく傷んでいない。

11 さらに彼らは、剣も何本か持ち帰つたが、その柄は朽ち、刃はさびで腐食していた。ところで、その言葉、すなわちその版に刻まれている事柄を

解釈できる者はこの地に一人もいない。だからあなたに、翻訳できるかと尋ねたのである。

12 わたしはもう一度言うが、あなたは翻訳のできる人をだれか知つてゐるか。わたしはこの記録をわたしたちの言葉に翻訳してもらいたい。そうすればこの記録から、この記録を残して滅びた民の残りの者のことが恐らく分かるであろう。あるいは、滅びてしまつたこの民そのものについて、分かるかもしれない。わたしは、彼らが滅びた訳を知りたい。」

13 そこでアンモンは王に言つた。「王様、わたしはその記録を翻訳できる人を確かにお教えできます。その方は、あるものを持つていて、それを使って見れば、昔の記録でもすべて翻訳することができます。それは神から授けられた賜物です。それは解説器と呼ばれており、神から命じられないに命じられる人は、聖見者と呼ばれます。

14 まことに、ゼラヘムラの地にいる民の王が、これらのことを行つよう命じられた方で、神から

この貴い賜物を授かっています。――

15 すると王は、「聖見者は預言者よりも偉大である」と言つた。

16 そこでアンモンは言つた。「聖見者は啓示者であり、預言者でもあります。だれ一人として持つことのできないこの神の力を備えていなければ、これより大きいなる賜物をだれも持つことはできません。しかし、大きな力が神から授けられることもあります。」
17 聖見者は過去のこととも将来のこととも知ることができます。解説器によつてすべてのことが示され、隠れたことが明るみに出るのです。知らないことが解説器によつて知られるようになり、またほかの方法では知ることのできないことがあります。

18 このように、神は人が信仰によつて偉大な奇跡を行ふことができるよう、一つの手段を与えてくださいました。それでその人は、同胞に大きな利益をもたらすようになるのです。――

19さて、アンモンがこれら言葉を語り終えると、王は非常に喜び、次のように言いながら神に感謝

した。「これらの版には疑いもなく大いなる奥義が載つてゐる。そしてその解説器は、このようすべての奥義を人の子らに明らかにするために備えられたものである。――

20 おお、主の業は何と驚くべき業であろう。主は何と長い間、民のために耐えてこられたことか。人の子らは何と理解力がなく鈍感なことか。人の子らは知恵を求めようとせず、また知恵に支配されるのを望まない。

21 まことに人の子らは、羊飼いから逃げて散り散りになり、森の獣に追われてえじきになる野生の羊の群れのようだ。――

ゼニフの記録――ゼラヘムラの地を出てからレーマン人の手より救い出されるまでのゼニフの民の話。――
次の第九一一二二章がそれに相当する。

第9章
ゼニフ、リーハイ・ニーフアイの地を所有するために

ゼラヘムラから人々を率いて行く。レーマン人の王、彼らがその地を受け継ぐことを認める。レーマン人とゼニフの民の間に戦争が起る。紀元前約二百年から百八十七年に至る。

1 わたしゼニフはニーフアイ人の言葉のすべてを教えられており、また先祖の最初の受け継ぎの地であるニーフアイの地のことも知っていたので、密偵としてレーマン人の中に遣わされた。それは、レーマン人の軍を偵察し、わたしたちの軍がこれを襲つて滅ぼすためであった。しかし、わたしはレーマン人の中に善いものがあるのを見て、彼らが滅ぼされないように願つた。

2 そこでわたしは、荒れ野で同胞と論争をした。わたしたちの統率者にレーマン人と条約を結んでいたからである。ところが、この統率者は冷酷で、血を流すことを好む男であつたから、わたしを殺すように命じた。しかしあたしは、多くの流れ血の末に救い出された。父親同士が戦い、兄弟同士が戦つて、とうとうわたしたちの軍の大部分が荒れ野で死んでしまつた。そこでわたしたち、すな

わち命の助かつた者は、ゼラヘムラの地に帰り、死んだ者の妻と子供たちにその出来事を話した。

3 それでもわたしは、先祖の地を受け継ぎたいという望みが強すぎたので、行つてその地を所有したいと思う人々を集め、その地へ出て行こうとした。再び荒れ野へ旅立つた。しかしわたしたちは、主なるわたしたちの神に思い起こすのが遅かつたので、飢饉やひどい苦難に悩まされた。

4 にもかかわらず、わたしたちは多くの日を荒れ野でさまよつた末、前に同胞の殺された場所に天幕を張つた。そこは、わたしたちの先祖の地に近い所であつた。

5 そしてわたしは、一行のうち四人の男たちを伴つて再び町へ行き、王のもとを訪れた。それは、王の意向を知り、またわたしの民を連れてその地へ入り、平穩にその地を所有できるかどうかを知るために近づいた。

6 王のもとに行くと、王はわたしにリーハイ・ニーフアイの地とシャイロムの地を所有してもよいと誓約してくれた。

7 王はまた、その地に住んでいる民に立ち退くよ

うに命じてくれた。そこでわたしとわたしの民はこの地に入り、ここを所^{しょゆう}することになった。

8 そこで、わたしたちは数々の建物を建設し、町の城壁、すなわち、リーハイ・ニーファイの町とシャイロムの町の城壁の補修に着手した。

9 また、わたしたちは地を耕し、あらゆる種^{たね}、すなわち、とうもろこしや小麦、大麦の種^{たね}、またニアスや、シウム、それにすべての種類の果物の種^{たね}をまき始めた。こうしてわたしたちはこの地で増え、栄え始めた。

10 レーマン王がこの地を譲つて、わたしたちがこれを所有できるようにしてくれたのは、わたしの民を奴隸^①にしようとする彼の悪知恵と悪巧みによるものであった。

11 さて、わたしたちがこの地に住んで十二年たつと、レーマン王は、わたしの民が何らかの方法でこの地で強くなり、自分たちがわたしの民を打ち負かして奴隸にすることができなくなるのではないかと、心配になってきた。

12 レーマン人は怠惰で偶像^②を礼拝する民であつたから、わたしたちを奴隸にして、わたしたちの手の

労働によつて腹を満たし、まことに、わたしたちの牧場の家畜の群れを飽きるほど食べたいと思つていた。

13 そこでレーマン王が、民を扇動してわたしの民と戦わせるようにしたので、この地に戦争と争いが起^おこり始めた。

14 ニーファイの地でのわたしの治世の第十三年に、民がシャイロムの地のはるか南で畜の群れに水を飲ませ、草をはませ、また地を耕していたとき、レーマン人の大軍が襲いかかつて彼らを殺し始め、家畜の群れと畑のとうもろこしを奪い始めた。

15 そして、レーマン人に追いつかれた者は皆、ニーファイの町へ逃げ込み、わたしに保護を求めてきた。

16 そこでわたしは、弓と矢、剣、三日月刀、こん棒^{ぼう}、石投げ、そのほか考へつくかぎりのあらゆる武器で彼らを武装させた。そして、わたしと民はレーマン人と戦うために出陣した。

17 まことにわたしたちは、主の力を受けて、レーマン人と戦うために出陣した。わたしと民は、先祖が救われたことを思い出し、わたしたちを敵の

手から解放してくださるよう、主に熱烈に叫び求めた。

すると神は、わたしたちの嘆願を聞き、祈りにこたえてくださつた。そして、まことにわたしたちは神の力を受けて出て行き、レーマン人と戦つて一夜に三千四十三人を殺した。わたしたちはレーマン人を殺して、とうとうわたしたちの地から彼らを追い払つてしまつた。

そしてわたしも、自分の手でレーマン人の死体を葬るのを手伝つた。しかし見よ、わたしたちにとつて非常に悲しく、また痛ましいことであるが、わたしたちの同胞も二百七十九人殺された。

第10章
レーマン王、死ぬ。レーマン人は野蛮であり、残忍で、偽りの言い伝えを信じている。ゼニフと彼の民、レーマン人に勝利を得る。紀元前約百八十七年から百六十年に至る。

さて、わたしたちは再び王国の確立に着手し、また再び平穩にその地を所有することになつた。

わたしはあらゆる武器を造らせ、レーマン人がまたやつて来てわたしの民と戦いをするときには備えて、民が武器を持てるようにした。
 2また、わたしはこの地の周囲に見張りの兵を置き、レーマン人がまた不意に襲つて来て、わたしたちを滅ぼすことのないようとした。こうしてわたしは、民と家畜の群れを守つて、敵の手に落ちないようにした。
 3そして、わたしたちは長年、まことに二十二年の間先祖の地を受け継いだ。
 4わたしは、男たちには地を耕させて、あらゆる穀物とあらゆる果物を栽培させた。
 5そして、おんなたちには糸を紡がせ、骨折つて働かせ、わたしたちの裸にまとうあらゆる織り目の細かい亜麻布と、あらゆる織物を織らせた。このようにして、わたしたちはこの地で栄え、二十二年間この地は引き続き平和であった。

6さて、レーマン王が死んで、代わつて息子が統治を始めた。彼は、わたしの民に敵対して立ち上

6	5	①	モサ	29	20
24	3	モサ	9	1	29
3	9				9
					11

の民と戦おうとした。

7しかしわたしは、^①シェムロンの地の方々に密偵みつていを出して、いた。そうすることによつて、^②レーマン人じんの準備の状態じょうたいを知つて彼らに対する防備ぼうびを固め、民たみが襲おそわれて滅ほろびることのないようになつたのである。

8さて、彼らは大軍たいぐんでシャイロムの地ちの北方ほうぽうに進軍くんじゆして來た。その兵へいは、弓ゆみと矢や、劍つるぎ、三日月刀みかづきとう、石いし、石投げいしなげで武装ぶつぞうしており、頭あたまをそり、腰こしに皮帶かわおびを締めていた。

9そこでわたしは、民たみの中なかの女子供おんなこどもを荒れ野あらはらに隠かくれさせた。そして、武器ぶきを持てる男おとこたちを、年老としとおいた者ものも若い者わかいものも皆みな、レーマン人と戦うために集しゆう合あつさせ、それぞれの年齢ねんれいに応じて整列せいれつさせた。

10そしてわたしたちは、レーマン人と戦うために出て行つた。わたしも年老としとおいたが、レーマン人と戦うために出て行つた。わたしたちは戦うために主じゅの力を受けて出て行つた。

11さて、レーマン人は主じゅについても主力ちからについてもまつたく知らなかつたので、自分の力だけを頼みにしていた。しかし、人の力について言え

ば、彼らは強よい民たみであつた。

12彼らは野蠻いたばんで残酷ざんにんで、血ちに飢えた民たみであつて、先祖せんその言い伝えいづけを信じていた。彼らが信じている言い伝えとは、彼らの先祖せんそはそのままに祖先せんその罪惡ざいあくのためにエルサレムの地ちから追い出されたこと、そして、荒れ野あらはらで同胞こうぼうから不当ふとうな扱あつかいを受け、また航海こうかい中なかにも不當ふとうに扱あつかわれたということである。

13そしてまた、海うみを渡わたつた後のちも、彼らは最初さいしょの受け継ぎけついの地ちで不当ふとうな扱あつかいを受けたといつた。しかし、これはすべて、ニーファイが兄弟きょうだいよりも忠実ちゆうじつに主じゅの戒めいまれいを守まつつたためである。そのためニーファイは主じゅの恵みめぐみを受けた。主じゅはニーファイの祈りきりを聞いて、祈りにこたえられた。そしてニーファイは、荒れ野あらはらで彼らの旅たびを導いたのである。

14ところが兄弟きょうだいは、主じゅの計らいひらいを理解りかいしなかつたので、ニーファイに對して腹はらを立てた。彼らは主じゅに對して心こころをかたくなにしたので、海うみの上うえでも彼かれに對して腹はらを立てた。

15そしてまた、彼らは約束やくそくの地ちに着いてからも、二ヶにか国こくアイが民たみを治める権限けんげんを自分じぶんたちから奪うつたと言つて彼かれに對して腹はらを立て、彼かれを殺ころとした。

15	14	13	12	10	8	7
①	②	①	②	①	②	①
2	1	1	1	1	2	アル
ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ル	ジアモサ
フ	フ	フ	フ	フ	17	信頼
5	18	15	17	18	5	14
3	10	7	35	23	1	8
11	11				3	5

16 そしてまた、ニーファイが主に命じられるままに荒れ野へ出て行き、しかも真鑑の版に刻まれた記録を持って行つたので、彼らはニーファイがその記録を自分たちから盗んだと言つて、彼に対して腹を立てた。

17 このようにして、彼らは子供たちに、ニーフアイの子孫を憎むように、また彼らを殺すように、彼らから盗み、略奪し、彼らを滅ぼすためにできるかぎりのことをするようになされた。そのためレーマン人は、ニーフアイの子孫に對して、尽きることのない憎しみを抱いていた。

18 まさにこのために、レーマン王は悪知恵と悪巧みを働かせ、もつともらしい約束をしてわたしをだまし、この民をこの地へ連れて来るようになさせて、彼の民にわたしの民を滅ぼさせるようにしたのである。それでわたしたちは、長年の間この地で苦しんできた。

19さて、わたしがニーフアイは、レーマン人についてこれらのことをするべて民に語り終えると、主を信頼して、力を尽くして戦いに出るよう民を励ました。それからわたしたちは、レーマン人と相対し

て戦つた。

20 そしてわたしたちは、レーマン人を再び自分たちの国から追い払つた。わたしたちはレーマン人を大勢殺し、その人数は実に多かつたので数えなかつた。

21 そして、わたしたちは再び自分の土地へ帰り、民はまた家畜の群れの世話をし、地を耕し始めた。

22 さて、わたしは年老いて、王位を息子の一人に譲つたので、これ以上は述べない。主がわたしの民を祝福してくださいるように。アーメン。

第 11 章

ノア王、邪惡な統治をし、妻やそばめたちとの放埒な生活にふける。アビナダイ、民が奴隸になることを預言する。ノア王、アビナダイの命をねらう。紀元前約百六十年から百五十年に至る。

1さて、ゼニフが王位を息子の一人ノアに譲つたので、ノアが父に代わつて統治を始めた。しかし、彼は父の道を歩まなかつた。

2見よ、ノア王は神の戒めを守らず、自分の心の望むままに歩んだ。彼は多くの妻とそばめを持

ち、また民にも罪を犯させ、主の目から見て忌まわしいことを行わせた。そして彼の民は、みだらなこととあらゆる悪事とを行つた。

3 また彼は、民が所有するすべてのものに五分の一の税をかけた。すなわち、民の金と銀の五分の一を、そしてジフと銅と真鍮と鉄の五分の一を、また民の肥えた若い家畜の五分の一を、それに穀物の五分の一を徵稅した。

4 そして彼は、この税をすべて、自分自身と妻たちとそばめたち、また祭司たちとその妻たちとそばめたちの生活を支えるために取り立てた。このようにして彼は、王国の政務を変えてしまつた。

5 彼はかつて父が任命した祭司たちをすべて辞めさせ、代わりに高慢な、心の高ぶつている新しい祭司たちを任命した。

6 このようにして、祭司たちは怠惰に暮らして、偶像を拝し、みだらな行いをしながら、ノア王が民に課した税で養われた。このように、民は罪悪を支えるために、非常な骨折りをしたのであつた。

7 そして民はまた、王や祭司たちのむなしいへつらいの言葉にだまされ、彼らも偶像を礼拝するよう

になつた。王や祭司たちが民にへつらい事を語つたからである。

8 そしてノア王は、風雅で広々とした建物をたくさん建て、それらの建物を見事な木細工と、金や銀、また鉄や真鍮やジフや銅などのあらゆる貴重な品から造つた見事な細工で飾つた。

9 彼はまた、自分のために大きな宮殿を建ててその中に玉座を設けたが、それらはすべて上等な材木で作り、金や銀や貴重な品で飾つた。

10 彼はまた職人たちに、上等な材木と銅と真鍮で、神殿内にあらゆる見事な細工をさせた。

11 そして彼は、ほかのすべての座よりも高い、大い祭司たちのために設けられた座を純金で飾つた。そして、大祭司たちがむなしい偽りの言葉を民に述べるときに、体と腕をもたせかけることができるよう、台を作らせた。

12 そして彼は、神殿の近くに一つの塔、つまり非常に高い塔を建てた。それはきわめて高く、その上に立てば、シヤイロムの地と、レーマン人の所有しているシエムロンの地と、付近一帯の地を見渡すことができた。

13 そして彼は、シャイロムの地にも多くの建物を建てさせ、シャイロムの地の北方の丘の上にも一つの大きな塔を建てさせた。そこはかつて二ーフアイの子らが、この地から逃げ出したときに集合場所とした所であった。ノア王は民に課税して得た富でこのように行つた。

14 さて、王は富に心を寄せ、妻たちやそばめたちとの放埒な生活に時を過ごした。また、王の祭司たちも娼婦たちと時を費やした。

15 そして彼は、国内の至る所にぶどう園を設け、ぶどうの搾り場を設けてぶどう酒をたくさん造つた。そのために、彼も民も大酒飲みになつてしまつた。

16 そこで、少數でいるノア王の民を、烟にいるときや家畜の群れの世話をしているときに、レーマン人が襲いかかつて殺すようになった。

17 そこでノア王は、レーマン人の來襲を防ぐために見張りの兵を国の周囲に送つた。しかし、彼が民を襲つて殺し、この国から家畜の群れをたくさん連れ去つた。このようにして、レーマン人は彼

18 さて、この大勝利のために、ノア王の民は高慢な心を募らせ、おごり高ぶりながら、自分たちの五十人は数千人のレーマン人に立ち向かうことができると言つて、血を見ることと同胞の血を流すこととを喜んだ。これは、王や祭司たちの悪事がもたらしたものである。

19 さて、ノア王の民の中に、アビナダイという名の一人の男がいた。彼は人々の中に出で行つて、預言して言つた。「見よ、主は次のように言われ、次のようにわたしに命じられた。『出て行つて、この民に主が次のように言われると告げなさい。この民は災いである。わたしはこの民の忌まわしい行いと、悪事と、みだらな行いを見たからである。悔い改めなければ、わたしは怒つて彼らを罰しよう。』

20 彼らが悔い改めて主なる神に立ち返らなければ

の民を滅ぼし始め、また彼らに憎しみをあらわにするようになった。

18 そこでノア王は軍隊を送り、彼らを撃退した。すなわち、ノア王の軍は一時レーマン人を撃退した。そこで彼らは分捕り品を得たことを喜びながら帰つて来た。

19 15
① GS ① GS 「知恵の言葉」
GS 「高慢」
GS 「アビナダイ」

ば、見よ、わたしは彼らを敵の手に渡そう。彼らはう。
奴隸になり、敵の手によつて苦しめられるであろ

22 そして彼らは、わたしが主なる神であり、わたしたちの民の罪悪を罰するねたむ神であることを知るようになる。

23 そしてこの民は、悔い改めて主なる神に立ち返らなければ、奴隸になるであろう。そのときには、主なる全能の神のほかに、だれも彼らを救うこと

24 そして、彼らがわたしに叫び求めて、わたしはその叫びを聞き届けることを遅くし、彼らが敵に打たれるままにしよう。

ともしない。』主はこのように言われ、このようにわたしに命じられた。』

ら救い出された。

27 ノア王はアビナダイが人々に語った言葉を伝へ聞くと、彼もまた腹を立てて言った。「わたしとわ

たしの民を裁くアビナダイとは何者か。そのように
ひどい苦難をわたしの民にもたらす主とは何者か。
28 わたしが殺すことのできるよう、アビナダイ
をここに連れて来るよう、おまえたちに命じる。
その男はわたしの民を扇動して互いに怒らせ、民
の中に争いを生じさせようとして、これらのこと
を述べた。だからわたしはその男を殺そう。」
29 さて、人々は目をくらまされていたので、アビ
ナダイの言葉に対して心をかたくなにした。それ
で彼らは、そのときからアビナダイを捕らえよう
とした。またノア王は、主の言葉に対して心をか
たくなにし、自分の悪い行いを悔い改めなかつた。

アビナダイ、民の滅亡めいぼうとノア王の死を預言よげんして投げ出とうげしゆつされた。偽祭司たち、聖文を引用いようし、モーセの律法を守つてゐると主張しゅそうする。アビナダイ、彼らに十戒を教え始めることから約四百八十年ねんである。紀元前約四百八八年ねん。

第
12
章

さて、アビナダイが人々にこれらの言葉を語り終えると、人々は彼に腹を立てて、彼の命を奪おうとした。しかし主は、アビナダイを彼らの手から

1さて、それから一年後、アビナダイは人に分か
らないように姿を変えてやつて来て、人々の中で預
言し始めた。「主はわたしに次のように命じられ
た。『アビナダイよ、行つてわたしのこの民に預言
しなさい。彼らは、わたしの言葉に對して心をかた
くなにしており、まだ自分たちの悪い行いを悔い
改めていない。それゆえ、わたしは怒つて彼らを
罰する。まことに、彼らの罪悪と忌まわしい行い
に対して、わたしは激しく怒つて彼らを罰しよう。
2まことに、この時代の人々は災いである。』主は
またわたしに言われた。「あなたの手を伸ばし、次
のように預言しなさい。主はこのように言われる。
この時代の者は罪悪のために奴隸にされ、頬を打
たれ、人々に追われて殺される。また、空を飛
ぶはげたかと、犬と、野獸がその肉を食う。
3そして、ノア王の命は、熱い炉の中の衣ほど
値打ちもなくなる。彼はわたしが主であることを知
るであろう。

4そして、わたしはこの民をひどい苦難で、また
飢餓と疫病で打とう。彼らは終日泣きわめくで
ある。

5また、わたしは、彼らが重荷を背に負わされ、
物を言えないろばのよう追い立てられるようにし
よう。

6また、わたしは、彼らの中に電を降らせ、彼ら
を打せよう。彼らは東風にも悩まされるであろ
う。また、昆虫が彼らの地を襲い、穀物を食うで
ある。

7また、彼らはひどい疫病に悩まされるであろう。
わたしは、彼らの罪悪と忌まわしい行いのゆえ
に、すべてこのように行おう。

8そして、彼らが悔い改めなければ、わたしは彼
らを地の面からことごとく滅ぼし去つてしまお
う。しかし彼らは記録を後に残すであろう。わた
しはその記録を将来、この地を所有するほかの國
民のために残そう。わたしがこのように行うのは、
この民の忌まわしい行いをほかの国民に明らかにす
るためにである。』アビナダイはこのほか、この民に
災いとなる多くの事柄を預言した。

9そこで人々は彼のことを怒り、彼を捕らえて縛
り上げ、王の前に連れて行つた。そして、王に言つ
た。「御覧ください。あなたの民について災いを預
よ

8	7	6	5	4	3	2	1
②	①	①	②	①	②	①	①
モサ							
アル							
8	45	3	10	31	18	21	11
14	9	18	1	7	3	9	6
16	14	12		10		4	15

言し、神がこの民を滅ぼすと語つた男を御前に連れてまいりました。

10 この男はまた、あなたの命についても災いを預言し、あなたの命は火の燃える炉の中の衣のようになると言っています。

11 この男はまた、あなたが草の茎、それも獸に踏まれて足で踏みにじられる、野の枯れた茎のようになると言っています。

12 この男はまた、あなたのことを、満開のときには風が吹けば地面に吹き散らされてしまうあざみの花のようになると言っています。そしてこの男は、主がそのように語つたと主張しています。またこの男は、あなたが悔い改めなければ、このことはすべてあなたに起こる、あなたの罪惡のためにこのことが起こると言っています。

13 王様、あなたがどのような大きな悪事をなさり、またあなたの民がどのような重大な罪を犯したので、わたしたちは神から罪に定められ、またこの男から裁かれなければならないのでしょうか。王様、御覧ください。わたしたちは罪はあります。王様、あなたもこれまで罪を犯してはこら

れませんでした。ですから、この男があなたについて語つたことは偽りであり、ありもしないことを預言したのです。

15 まことに、わたしたちは強いので、これから先、奴隸になることも、敵に捕らえられることもありません。そして、あなたはこの地で栄えてこられましたし、今後も栄えられることであります。

16 御覧ください。ここにいるのがその男です。わたしたちはこの男をあなたの手にお渡しますので、お好きなようになさつてください。」

17 そこでノア王は、アビナダイを牢に投げ込ませた。そして、祭司たちに集まるように命じ、アビナダイをどのようにするかについて、彼らと協議するための会合を開いた。

18 そこで祭司たちは王に、「その男をここへ連れて来て、わたしたちが尋問できるようにしてください」と言つた。そこで王は命令を下して、アビナダイを祭司たちの前に連れて来させた。

19 そこで祭司たちは彼に尋問し始め、彼に矛盾したことと言わせて、彼を訴える口実を得ようとしました。しかし、アビナダイは大胆に答え、まことに祭

司たちが驚くほど、彼らのすべての問い合わせを論破した。アビナダイはすべての問い合わせについて彼らを論破し、彼らのすべての言葉について彼らを言い負かした。

20 そこで、祭司の中の一人がアビナダイに言つた。「記録に記されていて、わたしたちの先祖から教わつてきた次の言葉はどういう意味か。」

21 『よきおとずれを伝え、平和を告げて広め、善いを告げて広め、シオのよきおとずれを伝え、救いを告げて広め、シオンに向かつて「あなたの神が統治しておられる」と言う者の足は、山の上にあつて何と麗しいことであろう。』

22 あなたの一見張り人は声を上げ、声を合わせて歌う。主がシオンを元に戻されるとき、彼らはそれ

を目の当たりに見るからである。

23 エルサレムの荒れた所よ、喜びの声を上げ、ともに歌え。主が御自分の民を慰め、エルサレムを現された。地の果てに至るすべての人は、わたし贖われたからである。

24 主はその聖なる腕を、すべての国民の目の前に現された。地の果てに至るすべての人は、わたくちの神の救いを見るであろう」とある。』

25 そこでアビナダイは彼らに答えた。「あなたがたは祭司であり、また自分たちはこの民を教えており、預言の靈に通じていると主張しているながら、これらのことが何を意味するかをわたしから聞いて知りたいと言うのか。』

26 わたしはあなたがたに言う。主の道を曲げてゐるあなたがたは災いである。あなたがたはこれらのことを探理解しているかもしれないが、それを民に教えてこなかつたので、主の道を曲げてきたことになる。』

27 あなたがたは心を注いで理解しようとしてこなかつた。したがつて、あなたがたは賢明ではなかつた。あなたがたはこの民に何を教えているのか。』

28 すると彼らは、「我々はモーセの律法を教えていた」と言つた。

29 そこでアビナダイはまた彼らに言つた。「もしかなたがたがモーセの律法を教えているのならば、なぜそれを守らないのか。なぜあなたがたは富に執着するのか。なぜみだらな行いをし、娼婦と過ごして精力を費やすのか。また、なぜこの民に罪を犯させるのか。それゆえ主はこの民に対しても預

言を、まことにこの民に對して大きな災いの預言を述べるために、わたしを遣されたのである。

30 あなたがたは、わたしが真実を語つてゐるのを知らないのか。いや、あなたがたは、わたしが真実を語つてゐるのを知つてゐる。だからあなたがたは、神の御前で震えおののかなればならない。

31 そしてあなたがたは将来、自分の罪惡のために打たれるであろう。あなたがたはモーセの律法を教えてゐると言つてゐるからである。モーセの律法についてあなたがたが知つてゐるのは何か。^① モーセの律法によつて救いが与えられるのか。あなたがたは何と答えるか。』

32 すると彼らは、モーセの律法によつて救いが与えられると答えた。

33 そこでアビナダイは彼らに言つた。「あなたがたが神の戒めを守れば救われることを、わたしは知つてゐる。まことに、主がシナイの山でモーセに告げられた戒めを守るならば、あなたがたは救われる。その戒めは次のとおりである。

34 『わたしは主なるあなたの神であつて、あなたをエジプトの地へ奴隸の家から連れ出した者である。

35 あなたはわたしのほかに、何ものをも神としてはならない。

36 あなたは自分のために、刻んだ像を造つてはならない。上は天にあるもの、下は地にあるものの、どのような形をも造つてはならない。』

37 そしてアビナダイは彼らに言つた。「あなたがたはこれをすべて守つてきたか。いや、守つてこなかつたとわたしはあなたがたに言う。あなたがたはこの民に、これらのことをして守るように教えてきたか。いや、教えてこなかつたと、わたしはあなたがたに言う。』

第 13 章

アビナダイ、神の力によつて守られる。十戒を教え
る。救いはモーセの律法だけでは与えられない。将来、
神御自身が贖罪を行われ、御自身の民を贖われる。紀元
前約百四十八年。

1 さて、王はこれらの言葉を聞くと、祭司たちに、「この男を連れ出して、殺してしまえ。我らはこの男と何のかかわりがあるか。この男は気が狂

37	35	モサ	13	アル	モサ
① GS	① ホセ	13	19	25	32
モサ	13	19	40	51	9
モサ	13	4	17	2	16
モサ	25	12	20	4	20

つてはいる」と言つた。

2 そこで祭司たちが前に出て、アビナダイを捕らえようとしたところ、アビナダイは彼らを防いで言った。

3 「わたしに触れるな。わたしに手をかければ、神があなたがたを打たれるであろう。わたしは、主がわたしを遣わして告げさせようとされたことをまだ伝え終えていない。また、あなたがたがわたしに説明するように求めたことについても、まだ説明しない。したがつて、神はわたしが今滅ぼされることを許されない。」

4 わたしは神から受けた命令を果たさなければならぬ。わたしが真実を告げたので、あなたがたはわたしに対して怒っている。また、神の御言葉を告げたので、あなたがたはわたしを氣が狂つていると言つて裁いた。」

5 さて、アビナダイがこれらの言葉を語ったところ、ノア王の民はあえて彼に手をかけようとしなかった。主の御靈がアビナダイのうえにあつたからである。そして、彼の顔は非常な輝きを放つてゐた。それはまるで、モーセがシナイの山で主と語つた。

たときの顔の輝きのようであつた。

6 そしてアビナダイは、神から受けた力と権能をもつて語り、言葉を続けた。

7 「あなたがたは、わたしを殺す力があなたがたにないことを知つてゐる。だからわたしは、自分の伝えたいことを言つてしまおう。わたしはあなたがたの罪惡について真実を告げるのに、それがあなたがたの心を刺すことを承知している。

8 そして、わたしの言葉によつてあなたがたは不思議な思いと驚きと、また怒りに満たされている。

9 しかし、わたしは自分の言うことを伝えてしまおう。その後、自分がどこへ行くことになろうとも

まわないし、救われればそれでよいと思つてゐる。

10 ただ、これだけはあなたがたに言つておく。これから後あなたがたがわたしに対してすることは、将来起ることの予型であり、影となる。

11 さて、あなたがたに神の戒めの残りの部分を読んで聞かせよう。これらの戒めが、まだあなたがたの心に書き記されていないことが分かるからである。あなたがたがこれまで人生の大半を、罪惡を習い、教えることに費やしてきたことを、わたしは知

つて いるから である。

12さて、あなたがたが覚えているように、わたしは前にこう言つた。『あなたは自分のために刻んだ像を造つてはならない。上は天にあるもの、下は地にあるものの、地中にあるものの、どのよくな形をも造つてはならない。』

さらばに、このようにある。「あなたはそれらにひれ伏してはならない。それらに仕えてはならない。
主なるあなたの神であるわたしは、ねたむ神であるから、わたしを憎む者には、先祖の罪悪を子孫に報いて、三代、四代にまで及ぼし、
わたしを愛し、わたしの戒めを守る者には、千代に及ぶまで憐れみを示すからである。

14 わたしを愛いし、わたしの戒めを守る者には、千
代に及ぶまで憐れみを示すからである。

17 六日の間働いて、あなたのすべての仕事をしなさい。

安息日には、あなたはどのような仕事もしてはならない。あなたもあなたの息子、娘、僕、はしめた畜産、それにあなたの門の内にいる来訪者もそうである。

19 主は六日の間に、天地と海と、その中にある万物を造ったからである。それで、主は安息日を祝福し、これを聖なるものとした。

20 あなたの父と母を敬いなさい。主なるあなたの神があなたに与える地で、末長く暮らせるためである。

21 あなたは殺してはならない。

22 あなたは姦淫してはならない。あなたは盗んではならない。

23 あなたは隣人に対する偽証してはならない。

24 あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻も、僕も、はしたためも、牛も、ろばも、何であつても隣人のものをむさぼってはならない。」

25 さて、アビナダイはこれらの言葉を語り終えると、彼らに次のように言つた。「あなたがたはこれらの戒めを守るために、これらのことすべて努めて行うようこの民に教えてきたか。

26 いや、教えてこなかつたと、わたしはあなたが
たに言う。もしあなたがたが教えていれば、主はわ
たしを遣わして、この民について災いを預言させる
ようなことはされなかつたであらう。

27 さて、あなたがたは先ほど、救いはモーセの律法
によつて与えられると言つた。わたしはあなたが
たに言う。今はまだモーセの律法を守る必要があ
る。しかし将来、もはやモーセの律法を守る必要
のない時が来ることを、あなたがたに言つておく。
28 そしてさらに、わたしはあなたがたに言う。救
いは律法だけで与えられるものではない。もしも
神御自身が民の罪と不義のために行われる贖罪が
なければ、たとえモーセの律法があつても、彼ら
は滅びるほかはない。

29 さて、わたしはあなたがたに言う。イスラエル
の子らに律法が、まことに非常に厳しい律法が与
えられたのは必要なことであつた。彼らは強情な
民で、罪悪を行ふことは早いが、主なる彼らの神
を思い起すことの遅い民であつたからである。
30 そこで、彼らに律法が、まことに、勤めと儀式
の律法が与えられた。その律法は、神と、神に対す

る義務を思ひ起させるために、日々厳密に守ら
なければならないものであつた。

31 しかし見よ、わたしはあなたがたに言う。これ
らのものはすべて、将来起ることの予型であつ
た。

32 さて、彼らは律法を理解しただらうか。いや、
すべてのものが理解したわけではないとわたしはあな
たがたに言う。それは、彼らの心がかたくなであつ
たからである。神の贖いによらなければだれも救
われないことを、彼らは理解しなかつた。

33 見よ、モーセはメシヤの来臨について、また神
が御自分の民を贖わることについて、彼らに預言
しなかつたであらうか。また、世界が始まって以
來、預言を述べてきたすべての預言者たちも、こ
れらのことにについて多少にかかわりなく述べてこ
なかつたであらうか。

34 神御自身が人の子らの中に降つて来て、人の形
を取り、偉大な力をもつて地の面に出て行かれる
ことを、彼らは述べてこなかつたであらうか。
35 また、神が死者の復活をもたらされることと、
神御自身が虐げられ、苦しめられることも、彼ら

27
GS 「モーセの律法」

35	34	33 32	31	30	29	28	27
① GS 15	① GS 15	① GS 15	① GS 15	② ① GS 15	③ ② ① GS 15	モサ 25	モサ 25
ニフ 8	ニフ 19	ニフ 19	ニフ 19	アル 15	モサ 16	アラ 15	アラ 15
イザ 2	イザ 7	イザ 7	イザ 7	モサ 14	モサ 14	モサ 14	モサ 14

は述べてこなかつたであらうか。」

第14章

イザヤ、メシヤについて述べる。メシヤが受けられる屈辱と苦難が宣言される。メシヤは御自分を罪のためのさざげ物とし、背く者のために執り成しをされる。イザヤ書第五十三章と比較。紀元前約百四十八年。

1「まことにイザヤは次のように述べているではないか。『だれがわたしたちの告げたことを信じたか。主の腕はだれに現されたか。』

2「彼は主の前に、か弱い苗木のように、また乾いた土から出る根のように育つ。彼には見目の良さもなく、華麗さもない。わたしたちが彼を見るときに、彼を慕うような美しさも彼にはない。

3「人々から侮られて捨てられている彼は悲しみの人で、悲哀を知っている。そこでわたしたちは、彼から顔を背けるかのように振る舞つた。彼は悔られ、わたしたちは彼を尊ばなかつた。

4「まことに彼はわたしたちの悲哀を負い、わたしたちの悲しみを担つた。ところがわたしたちは彼の

ことを、打たれ、神に罰せられ、苦しめられているのだと受け止めた。

5「しかし彼は、わたしたちの背きのために刺し貫かれ、わたしたちの罪惡のために傷つけられた。わたしたちの平安のために、懲らしめが彼に及んだ。彼の鞭の打ち傷によつて、わたしたちは癒されている。

6「わたしたちは皆、羊のようになまつて、各自の道に向かつて行つた。主はわたしたちすべての者の罪惡を彼に負わせられた。

7「彼は虐げられ、苦しめられたが、口を開かなかつた。彼は小羊のようにはぶり場に引かれて行く。毛を刈る者の前の物を言わぬ羊のようには口を開かなかつた。

8「彼は獄から連れ去られ、裁きから取り去られたが、だれが彼の子孫であると名乗るだらうか。なぜなら、彼は生きているもの地から絶たれたからである。また、わたしの民の背きのために、彼は打たれたからである。

9「また彼は、悪人とともにその墓を設け、死んでは富裕な者とともにあつた。なぜなら、彼は決し

9 ヤの」 ヤセフ アリマタ	「過越」 マコ15:27 〔アリマタ〕 43—46 57—60	7 GS「イエス・キリスト」 〔神の小羊〕	6 GS「神の小羊」 〔マコ15:37〕 15—3、 28—36 14—24 1—25	5 モサ15:1 モサ15:2 モサ15:7 モサ15:11 モサ15:12	4 アル11 アル12 アル9 アル7 アル8
-------------------------	---	-----------------------------	---	---	--

て悪を行はず、その口には少しの欺きもなかつた
からである。

孫である。キリストは復活をもたらされる。
ちは永遠の命を得る。紀元前約百四十八年。

10 それでも、かれを傷つけることは主の御心にかなつていた。主は彼に苦痛を受けさせられた。あなたがれを罪のささげ物とするとき、彼は自分の子孫を見てその命を延ばし、主の御心は彼の手によつて榮える。

11 彼は自分自身の苦しみを知り、それに満足する。彼の知識により、わたしの義にかなつた僕は多くの者を義とするが、それは、彼が彼らの罪悪を身に負うからである。

12 それゆえ、わたしは彼に大いなる者とともに物を分かち取らせ、得たものを強いものに分け与えよう。彼が自分の魂を死に至るまで注いだからである。彼は背く者たちとともに数えられ、多くの者の罪を負い、背く者たちのために執り成しをした。」

キリストが御父であり、御子である理由。キリストは執り成しをし、御自分の民の背きを身に負われる。キリストの民とすべての聖なる預言者たちは、キリストの子

4 そしてお二の方は一つの神、まことに、天地のまことの永遠の父であられる。

5 このように、肉体が御靈に従い、あるいは御子が御父に一つの神として従われた後、御子は誘惑を受けてもその誘惑に負けず、かえつて御自分の民からあざけられ、鞭打たれ、追い出され、拒まれるままになさる。

4 そしてお二の方は一つの神、まことに、天地のまことの永遠の父であられる。

3 ので、御父にして御子なのである。
①おんちち
御父とは、神のか力によつて胎内に宿られるから
であり、御子とは、肉体を持たれるからである。こ
のようにして、御父にもなり、御子にもなられるの
である。

さて、アビナダイは彼らに言つた。「わたしはあなたがたに、^①神御自身が人の子らの中に降つて来て、御自分の民を贖われるということを理解してほしいと思う。

かみ
くにたい
やど

かみ
おんこ
よ

孫である。キリストは復活をもたらされる。ちは永遠の命を得る。紀元前約百四十八年。

6 そして、このようなことの後(のち)、また人の子(ひと)らのなかで多くの大きな奇跡(きせき)が行われた後(のち)、この御方は、イザヤが、「毛(け)を刈(かる)る者の前(まえ)の物(もの)を言わない羊(ひつじ)よ、うに、彼は口(くち)を開かなかつた」と言つたように連れてい行かれる。

「まことにこの御方は連れて行かれて、十字架につけられ、殺され、その肉体は死に従うが、御子の御心は御父の御心にのみ込まれてしまふ。」

8 こうして、神は死の繩目を断つて死に対戦しておんもんを御勝ちなさい。人の子らのために執り成しをする力を御授けられる。

9 また天に昇り、憐れみの心を持ち、人の子らをあわれむ思いに満たされており、ひとの子らと正義の間に立ち、死の縄目を断ち、人の子らの罪悪と背きを身に負い、彼らを贖い、正義の要求を満たさ

れる。

さて、わたしはあなたがたに言うが、だれが御子の子孫であると名乗るであろうか。見よ、わたしはあなたがたに言う。御子は罪のためのささげ物にされると、御自分⁽¹⁾の子孫を御覧になる。では、あなたがたは何と答えるか。御子の子孫とはだれか。

11 見よ、わたしはあなたがたに言う。預言者た
ち、まことに、主の来臨について預言してきたす
べての聖なる預言者の言葉を聞いた人々、預言者た
ちの言葉を聞き、主が御自分の民を贖われるこ
とを信じ、自分たちの罪の赦しのためにその日を
待ち望んできたすべての人、わたしはあなたがた
に言うが、これらの人々が御子の子孫なのである。
すなわち、彼らは神の國を受け継ぐ者である。
12 これらの人々は、御子が罪を負おうとしてくださる
人々だからである。御子はこれらの人々を背きか
ら置おうとして、彼らのために死なれた。だから
彼らは、御子の子孫ではないだろうか。

13 また、口を開いて預言し、戒めに背くことのな
かつたすべての預言者、すなわち世界が始まつて
以来のすべての聖なる預言者も、御子の子孫では
ないだろうか。彼らは御子の子孫であると、わた
しはあなたがたに言う。

14 そして彼らは、平和を告げて広め、善のよきお
とずれを伝えた人々であり、救いを告げて広め、
シオンに向かつて、『あなたの神が統治しておられ
る』と言つた人々である。

15 おお、彼らの足は山の上にあつて何と麗しかつたことであろう。

16 そしてまた、今なお平和を告げて広めている者たちの足も、山の上にあつて何と麗しいことであらう。

17 そしてまた、これから後どこしえに平和を告げて広める者たちの足も、山の上にあつて何と麗しいことであろう。

18 見よ、わたしはあなたがたに言うが、これだけではない。おお、よきおとずれを伝えられる御方、平和の創始者、すなわち御自分の民を贖われた主、御自分の民に救いを授けられた御方、まことに、この御方の足は、山の上にあつて何と麗しいことであろう。

19 もし、御自分の民のために主が行われる、世の初めから備えられた贖いがなければ、わたしはあなたがたに言うが、これがなければ、全人類は滅びるほかはなかつた。それがあなたがたに言つたことである。

20 しかし見よ、死の縄目は断たれ、御子が統治し、死者を治める力を持たれる。そこで、御子は死し、彼らの復活をもたらされる。

21 こうして、復活が起る。これは第一の復活、すなわち、過去の人々と、現在の人々と、キリストの復活までの将来の人々の復活である。御子はキリストと呼ばれる。

22 さて、すべての預言者と、預言者たちの言葉を信じた人々、すなわち神の戒めを守つたすべての人の復活は、最初の復活の時にある。したがつて、その復活は第一の復活である。

23 彼らはよみがえつて、彼らを贖つてくださつた神とともに住む。このようにして彼らは、死の縛目を断つてくださつたキリストによつて、永遠の命を得るのである。

24 彼らは、第一の復活にあずかる人々である。また、これらの人々こそ、救いのことを告げ知らされなかつたために無知のまま、キリストが来る前に死んだ人々である。主はこれらの人々に回復をもたらされる。そして彼らは、主に贖われて第一の復活にあずかり、永遠の命を得る。

25 また、幼い子供たちも永遠の命を得る。

26 しかし見よ、あなたがたは神の御前で畏れ、震えおののきなさい。あなたがたは震えおののいて当

然である。主は、ご自分に背いて罪の中の死ぬ
すなわち、世界が始まって以来、故意に神に背く
神の戒めを知つていながらそれらを守ろうとせ
ず、罪の中にほら中に滅びてしまつたすべての者について
は、決して贖いをなさらないからである。これら
の者は、第一の復活に決してあずかれない者たち
である。

27だから、あなたがたは震えおののいて当然ではある。まつたく、主はこのよくな者の贖われないからであります。まつたく、主はこのよくな者の贖うことがおできにならない。主は御自分の御言葉をお取り消されになれないからである。主は正義がその権利を主張するときに、^①正義を拒むことがおできにならないか。救いはこのよくな者には決して与えられない。主はこのよくな者を贖われないからであります。主は御自分の御言葉をお取り消すことができない。

28 さて、あなたがたに言つておく。将来、主の救いがあらゆる国民、部族、国語の民、民族に告げ知らされる時が来るであらう。

29 まことに主よ、あなたの見張り人は声を上げ、声を合わせて歌うことでしょう。主がシオンを元に戻されるとき、彼らはそれを目の当たりに見る。

第
16
章

神は人々を、迷い堕落した状態から贖われる。肉欲にふける者は、あたかも贍いがないかのような状態にとどまる。キリストは復活をもたらし、人は無窮の命か、無窮の罰の定めを受ける。紀元前約百四十八年。

さて、アビナダイはこれらの言葉を語り終えると、手を伸ばして言つた。「将来、すべての人が主の救いを見る時が来る。あらゆる国民、部族、國語の民、民族が目と目を合わせて見て、神の裁きが公正であることを神の御前で認める時が来る。

2 そのとき、悪人は追い出されるであろう。そして、彼らは泣きわめき、涙を流し、嘆き悲しみ、

エルサレムの荒れた所よ、喜びの声を上げ、どもに歌え。主が御自分の民を慰め、エルサレムを贖われたからである。

31 主はその聖なる御腕を、すべての国民の目の前に現された。地の果てに至るすべての人は、わたしたちの神の救いを見るであろう。」

アルカ	ル	2 ②	1 ①	2 ②	1 ④	第16章	見守る者」	29 28 見①①	27 42①	26 モロニエ
40 13	マ	教	モ	G S	GS G S	I	ア	教	アル	10 ニエ
13 28	タ	義サ	「	」	」	」	ル	義	34 76 15 18	1 ラフ
13 28	13	63 27	「救	」	」	」	」	」	40 26 17 28	2 ラフ
41 53	31	」	」	」	」	」	」	」	15 81 19 21	2 ラフ
42 54	」	」	」	」	」	」	」	」	16 86 33 21	2 ラフ

歯ぎしりをするに違いない。それは、彼らが主の声に聞き従おうとしたかったからである。そのため、主は彼らを貰われない。

3 かれらは肉欲にふけり、悪魔に従うので、悪魔が彼らを支配する力を持つ。この悪魔はわたしたちの始祖をだました、年を経たあの蛇である。その年を経た蛇が始祖をだましたために始祖は堕落し、そのためにはての人は肉欲や官能におぼれ、悪魔に従い、善と悪を知りながら悪魔に従うようになつた。

4 このようにして、全人類は迷つた状態になつた。そして見よ、もし神が御自分の民を迷い堕落した状態から贖われなければ、彼らは限りなく迷つた状態になつていだであろう。

5 じぶんじしんの肉の性質の中とにどまり、罪の道と神に背く道を進む者は、その堕落した状態にとどまって、悪魔がその者を支配するすべての力を持つということを忘れるな。だから、その者は神の敵であつて、あたかも贖いがなかつたかのようである。悪魔もまた神の敵なのである。

6さて、将来起ることをすでに起こつたことの

ように話すと、もしもキリストがこの世に来られなかつたならば、贖いは決してあり得なかつた。
7 また、墓が勝利を得ないよう、そして死がとげを持たないよう、もしキリストが死者の中からよみがえられなかつたならば、すなわち死の縄目を断たれなかつたならば、復活はあり得なかつた。
8しかしながら、復活は実際にあるので、墓は勝利を得ず、死のとげはキリストにのみ込まれてし
まう。

9 キリストは世の光であり命であられる。まことに、決して暗くなることのない無窮の光であり、また決して死ぬことのない無窮の命であられる。

10 この死すべき体は不死をまとい、この朽ちるものは朽ちないものをまとつて、神の法廷に立つようになれば、自分の行いが善いか悪いか、その行いに応じて神に裁かれる。

11 すなわち、行いが善ければ無窮の命と幸福の復活にあずかる。また、行いが悪ければ無窮の罰の定めの復活にあずかることになるが、それは、彼らを服従させてきた悪魔に引き渡されるというこ
とである。

12 彼らは、自分の肉の思いと欲望のままに振る舞
い、主の憐れみの御脣が伸べられている間にも決
して主に請い願わず、主の憐れみの御脣が彼らに伸
べられても、彼らは頬ろうとせず、罪悪について戒
められても、それから離れようとせず、悔い改める
よう命じられても、悔い改めようとしなかつた。
13 そこであなたがたは、震えおののいて罪を悔い改
め、キリストによつて、またキリストを通じてのみ
救われるということを覚えておくべきではないか。
14 それゆえ、あなたがたがモーセの律法を教える
のであれば、それは将来起ころこれらのことの影
であるといふことも教えなさい。

15 贖いはまことの永遠の父である主なるキリスト
を通じて与えられるということを、民に教えなさ
い。アーメン。」

第 17 章

アルマ、アビナダイの言葉を信じて書き留める。アビ
ナダイ、火で焼かれて死ぬ。アビナダイ、自分を殺す者
たちが病気になり、また火で焼かれて死ぬことを預言す
る。紀元前約百四十八年。

1さて、アビナダイがこれらの言葉を語り終える
と、王は祭司たちに、彼を捕らえて殺させるよう
に命じた。

2 ところが、祭司たちの中に①アルマという名の者が
いて、彼もまた二ーファイの子孫であった。彼は
年の若い男で、アビナダイが語った言葉を信じた。
アビナダイが彼らに向かつて証言した罪惡のこと
を、彼は知つていたからである。そこで、彼は王
に、アビナダイを怒らずに、彼が安らかに去るの
を計すように懇願し始めた。

3 しかし、王はますます腹を立てて、彼らの中から
アルマを追い出させ、そのうえ、召し使いたち
に彼の後を追わせて殺させようとした。

4 しかし、アルマは彼らの前から逃げ出し、彼ら
に見つからないように身を隠した。彼は幾日も隠
れたままで、その間にアビナダイが語った言葉を
すべて書き記した。

5 さて、王は衛兵にアビナダイを取り開んで捕ら
えさせた。そこで衛兵は彼を縛り、牢に投げ込んだ。
6 それから三日後、王は祭司たちと相談した末、

第 17 章		15 14 12 エ ① ① ① モサ 3 GS GS モサ 3 「憐れみ」 モサ 8 「モーセの律法」 モサ 5 7 モサ 10 6 モサ 11 1 モサ 12 6 モサ 13 9 モサ 14 5 モサ 15 10 モサ 16 1 モサ 17 1 モサ 18 1 モサ 19 1 モサ 20 1 モサ 21 1 モサ 22 1 モサ 23 1 モサ 24 1 モサ 25 1 モサ 26 1 モサ 27 1 モサ 28 1 モサ 29 1 モサ 30 1 モサ 31 1 モサ 32 1 モサ 33 1 モサ 34 1 モサ 35 1 モサ 36 1 モサ 37 1 モサ 38 1 モサ 39 1 モサ 40 1 モサ 41 1 モサ 42 1 モサ 43 1 モサ 44 1 モサ 45 1 モサ 46 1 モサ 47 1 モサ 48 1 モサ 49 1 モサ 50 1 モサ 51 1 モサ 52 1 モサ 53 1 モサ 54 1 モサ 55 1 モサ 56 1 モサ 57 1 モサ 58 1 モサ 59 1 モサ 60 1 モサ 61 1 モサ 62 1 モサ 63 1 モサ 64 1 モサ 65 1 モサ 66 1 モサ 67 1 モサ 68 1 モサ 69 1 モサ 70 1 モサ 71 1 モサ 72 1 モサ 73 1 モサ 74 1 モサ 75 1 モサ 76 1 モサ 77 1 モサ 78 1 モサ 79 1 モサ 80 1 モサ 81 1 モサ 82 1 モサ 83 1 モサ 84 1 モサ 85 1 モサ 86 1 モサ 87 1 モサ 88 1 モサ 89 1 モサ 90 1 モサ 91 1 モサ 92 1 モサ 93 1 モサ 94 1 モサ 95 1 モサ 96 1 モサ 97 1 モサ 98 1 モサ 99 1 モサ 100 1 モサ 101 1 モサ 102 1 モサ 103 1 モサ 104 1 モサ 105 1 モサ 106 1 モサ 107 1 モサ 108 1 モサ 109 1 モサ 110 1 モサ 111 1 モサ 112 1 モサ 113 1 モサ 114 1 モサ 115 1 モサ 116 1 モサ 117 1 モサ 118 1 モサ 119 1 モサ 120 1 モサ 121 1 モサ 122 1 モサ 123 1 モサ 124 1 モサ 125 1 モサ 126 1 モサ 127 1 モサ 128 1 モサ 129 1 モサ 130 1 モサ 131 1 モサ 132 1 モサ 133 1 モサ 134 1 モサ 135 1 モサ 136 1 モサ 137 1 モサ 138 1 モサ 139 1 モサ 140 1 モサ 141 1 モサ 142 1 モサ 143 1 モサ 144 1 モサ 145 1 モサ 146 1 モサ 147 1 モサ 148 1 モサ 149 1 モサ 150 1 モサ 151 1 モサ 152 1 モサ 153 1 モサ 154 1 モサ 155 1 モサ 156 1 モサ 157 1 モサ 158 1 モサ 159 1 モサ 160 1 モサ 161 1 モサ 162 1 モサ 163 1 モサ 164 1 モサ 165 1 モサ 166 1 モサ 167 1 モサ 168 1 モサ 169 1 モサ 170 1 モサ 171 1 モサ 172 1 モサ 173 1 モサ 174 1 モサ 175 1 モサ 176 1 モサ 177 1 モサ 178 1 モサ 179 1 モサ 180 1 モサ 181 1 モサ 182 1 モサ 183 1 モサ 184 1 モサ 185 1 モサ 186 1 モサ 187 1 モサ 188 1 モサ 189 1 モサ 190 1 モサ 191 1 モサ 192 1 モサ 193 1 モサ 194 1 モサ 195 1 モサ 196 1 モサ 197 1 モサ 198 1 モサ 199 1 モサ 200 1 モサ 201 1 モサ 202 1 モサ 203 1 モサ 204 1 モサ 205 1 モサ 206 1 モサ 207 1 モサ 208 1 モサ 209 1 モサ 210 1 モサ 211 1 モサ 212 1 モサ 213 1 モサ 214 1 モサ 215 1 モサ 216 1 モサ 217 1 モサ 218 1 モサ 219 1 モサ 220 1 モサ 221 1 モサ 222 1 モサ 223 1 モサ 224 1 モサ 225 1 モサ 226 1 モサ 227 1 モサ 228 1 モサ 229 1 モサ 230 1 モサ 231 1 モサ 232 1 モサ 233 1 モサ 234 1 モサ 235 1 モサ 236 1 モサ 237 1 モサ 238 1 モサ 239 1 モサ 240 1 モサ 241 1 モサ 242 1 モサ 243 1 モサ 244 1 モサ 245 1 モサ 246 1 モサ 247 1 モサ 248 1 モサ 249 1 モサ 250 1 モサ 251 1 モサ 252 1 モサ 253 1 モサ 254 1 モサ 255 1 モサ 256 1 モサ 257 1 モサ 258 1 モサ 259 1 モサ 260 1 モサ 261 1 モサ 262 1 モサ 263 1 モサ 264 1 モサ 265 1 モサ 266 1 モサ 267 1 モサ 268 1 モサ 269 1 モサ 270 1 モサ 271 1 モサ 272 1 モサ 273 1 モサ 274 1 モサ 275 1 モサ 276 1 モサ 277 1 モサ 278 1 モサ 279 1 モサ 280 1 モサ 281 1 モサ 282 1 モサ 283 1 モサ 284 1 モサ 285 1 モサ 286 1 モサ 287 1 モサ 288 1 モサ 289 1 モサ 290 1 モサ 291 1 モサ 292 1 モサ 293 1 モサ 294 1 モサ 295 1 モサ 296 1 モサ 297 1 モサ 298 1 モサ 299 1 モサ 300 1 モサ 301 1 モサ 302 1 モサ 303 1 モサ 304 1 モサ 305 1 モサ 306 1 モサ 307 1 モサ 308 1 モサ 309 1 モサ 310 1 モサ 311 1 モサ 312 1 モサ 313 1 モサ 314 1 モサ 315 1 モサ 316 1 モサ 317 1 モサ 318 1 モサ 319 1 モサ 320 1 モサ 321 1 モサ 322 1 モサ 323 1 モサ 324 1 モサ 325 1 モサ 326 1 モサ 327 1 モサ 328 1 モサ 329 1 モサ 330 1 モサ 331 1 モサ 332 1 モサ 333 1 モサ 334 1 モサ 335 1 モサ 336 1 モサ 337 1 モサ 338 1 モサ 339 1 モサ 340 1 モサ 341 1 モサ 342 1 モサ 343 1 モサ 344 1 モサ 345 1 モサ 346 1 モサ 347 1 モサ 348 1 モサ 349 1 モサ 350 1 モサ 351 1 モサ 352 1 モサ 353 1 モサ 354 1 モサ 355 1 モサ 356 1 モサ 357 1 モサ 358 1 モサ 359 1 モサ 360 1 モサ 361 1 モサ 362 1 モサ 363 1 モサ 364 1 モサ 365 1 モサ 366 1 モサ 367 1 モサ 368 1 モサ 369 1 モサ 370 1 モサ 371 1 モサ 372 1 モサ 373 1 モサ 374 1 モサ 375 1 モサ 376 1 モサ 377 1 モサ 378 1 モサ 379 1 モサ 380 1 モサ 381 1 モサ 382 1 モサ 383 1 モサ 384 1 モサ 385 1 モサ 386 1 モサ 387 1 モサ 388 1 モサ 389 1 モサ 390 1 モサ 391 1 モサ 392 1 モサ 393 1 モサ 394 1 モサ 395 1 モサ 396 1 モサ 397 1 モサ 398 1 モサ 399 1 モサ 400 1 モサ 401 1 モサ 402 1 モサ 403 1 モサ 404 1 モサ 405 1 モサ 406 1 モサ 407 1 モサ 408 1 モサ 409 1 モサ 410 1 モサ 411 1 モサ 412 1 モサ 413 1 モサ 414 1 モサ 415 1 モサ 416 1 モサ 417 1 モサ 418 1 モサ 419 1 モサ 420 1 モサ 421 1 モサ 422 1 モサ 423 1 モサ 424 1 モサ 425 1 モサ 426 1 モサ 427 1 モサ 428 1 モサ 429 1 モサ 430 1 モサ 431 1 モサ 432 1 モサ 433 1 モサ 434 1 モサ 435 1 モサ 436 1 モサ 437 1 モサ 438 1 モサ 439 1 モサ 440 1 モサ 441 1 モサ 442 1 モサ 443 1 モサ 444 1 モサ 445 1 モサ 446 1 モサ 447 1 モサ 448 1 モサ 449 1 モサ 450 1 モサ 451 1 モサ 452 1 モサ 453 1 モサ 454 1 モサ 455 1 モサ 456 1 モサ 457 1 モサ 458 1 モサ 459 1 モサ 460 1 モサ 461 1 モサ 462 1 モサ 463 1 モサ 464 1 モサ 465 1 モサ 466 1 モサ 467 1 モサ 468 1 モサ 469 1 モサ 470 1 モサ 471 1 モサ 472 1 モサ 473 1 モサ 474 1 モサ 475 1 モサ 476 1 モサ 477 1 モサ 478 1 モサ 479 1 モサ 480 1 モサ 481 1 モサ 482 1 モサ 483 1 モサ 484 1 モサ 485 1 モサ 486 1 モサ 487 1 モサ 488 1 モサ 489 1 モサ 490 1 モサ 491 1 モサ 492 1 モサ 493 1 モサ 494 1 モサ 495 1 モサ 496 1 モサ 497 1 モサ 498 1 モサ 499 1 モサ 500 1 モサ 501 1 モサ 502 1 モサ 503 1 モサ 504 1 モサ 505 1 モサ 506 1 モサ 507 1 モサ 508 1 モサ 509 1 モサ 510 1 モサ 511 1 モサ 512 1 モサ 513 1 モサ 514 1 モサ 515 1 モサ 516 1 モサ 517 1 モサ 518 1 モサ 519 1 モサ 520 1 モサ 521 1 モサ 522 1 モサ 523 1 モサ 524 1 モサ 525 1 モサ 526 1 モサ 527 1 モサ 528 1 モサ 529 1 モサ 530 1 モサ 531 1 モサ 532 1 モサ 533 1 モサ 534 1 モサ 535 1 モサ 536 1 モサ 537 1 モサ 538 1 モサ 539 1 モサ 540 1 モサ 541 1 モサ 542 1 モサ 543 1 モサ 544 1 モサ 545 1 モサ 546 1 モサ 547 1 モサ 548 1 モサ 549 1 モサ 550 1 モサ 551 1 モサ 552 1 モサ 553 1 モサ 554 1 モサ 555 1 モサ 556 1 モサ 557 1 モサ 558 1 モサ 559 1 モサ 560 1 モサ 561 1 モサ 562 1 モサ 563 1 モサ 564 1 モサ 565 1 モサ 566 1 モサ 567 1 モサ 568 1 モサ 569 1 モサ 570 1 モサ 571 1 モサ 572 1 モサ 573 1 モサ 574 1 モサ 575 1 モサ 576 1 モサ 577 1 モサ 578 1 モサ 579 1 モサ 580 1 モサ 581 1 モサ 582 1 モサ 583 1 モサ 584 1 モサ 585 1 モサ 586 1 モサ 587 1 モサ 588 1 モサ 589 1 モサ 590 1 モサ 591 1 モサ 592 1 モサ 593 1 モサ 594 1 モサ 595 1 モサ 596 1 モサ 597 1 モサ 598 1 モサ 599 1 モサ 600 1 モサ 601 1 モサ 602 1 モサ 603 1 モサ 604 1 モサ 605 1 モサ 606 1 モサ 607 1 モサ 608 1 モサ 609 1 モサ 610 1 モサ 611 1 モサ 612 1 モサ 613 1 モサ 614 1 モサ 615 1 モサ 616 1 モサ 617 1 モサ 618 1 モサ 619 1 モサ 620 1 モサ 621 1 モサ 622 1 モサ 623 1 モサ 624 1 モサ 625 1 モサ 626 1 モサ 627 1 モサ 628 1 モサ 629 1 モサ 630 1 モサ 631 1 モサ 632 1 モサ 633 1 モサ 634 1 モサ 635 1 モサ 636 1 モサ 637 1 モサ 638 1 モサ 639 1 モサ 640 1 モサ 641 1 モサ 642 1 モサ 643 1 モサ 644 1 モサ 645 1 モサ 646 1 モサ 647 1 モサ 648 1 モサ 649 1 モサ 650 1 モサ 651 1 モサ 652 1 モサ 653 1 モサ 654 1 モサ 655 1 モサ 656 1 モサ 657 1 モサ 658 1 モサ 659 1 モサ 660 1 モサ 661 1 モサ 662 1 モサ 663 1 モサ 664 1 モサ 665 1 モサ 666 1 モサ 667 1 モサ 668 1 モサ 669 1 モサ 670 1 モサ 671 1 モサ 672 1 モサ 673 1 モサ 674 1 モサ 675 1 モサ 676 1 モサ 677 1 モサ 678 1 モサ 679 1 モサ 680 1 モサ 681 1 モサ 682 1 モサ 683 1 モサ 684 1 モサ 685 1 モサ 686 1 モサ 687 1 モサ 688 1 モサ 689 1 モサ 690 1 モサ 691 1 モサ 692 1 モサ 693 1 モサ 694 1 モサ 695 1 モサ 696 1 モサ 697 1 モサ 698 1 モサ 699 1 モサ 700 1 モサ 701 1 モサ 702 1 モサ 703 1 モサ 704 1 モサ 705 1 モサ 706 1 モサ 707 1 モサ 708 1 モサ 709 1 モサ 710 1 モサ 711 1 モサ 712 1 モサ 713 1 モサ 714 1 モサ 715 1 モサ 716 1 モサ 717 1 モサ 718 1 モサ 719 1 モサ 720 1 モサ 721 1 モサ 722 1 モサ 723 1 モサ 724 1 モサ 725 1 モサ 726 1 モサ 727 1 モサ 728 1 モサ 729 1 モサ 730 1 モサ 731 1 モサ 732 1 モサ 733 1 モサ 734 1 モサ 735 1 モサ 736 1 モサ 737 1 モサ 738 1 モサ 739 1 モサ 740 1 モサ 741 1 モサ 742 1 モサ 743 1 モサ 744 1 モサ 745 1 モサ 746 1 モサ 747 1 モサ 748 1 モサ 749 1 モサ 750 1 モサ 751 1 モサ 752 1 モサ 753 1 モサ 754 1 モサ 755 1 モサ 756 1 モサ 757 1 モサ 758 1 モサ 759 1 モサ 760 1 モサ 761 1 モサ 762 1 モサ 763 1 モサ 764 1 モサ 765 1 モサ 766 1 モサ 767 1 モサ 768 1 モサ 769 1 モサ 770 1 モサ 771 1 モサ 772 1 モサ 773 1 モサ 774 1 モサ 775 1 モサ 776 1 モサ 777 1 モサ 778 1 モサ 779 1 モサ 780 1 モサ 781 1 モサ 782 1 モサ 783 1 モサ 784 1 モサ 785 1 モサ 786 1 モサ 787 1 モサ 788 1 モサ 789 1 モサ 790 1 モサ 791 1 モサ 792 1 モサ 793 1 モサ 794 1 モサ 795 1 モサ 796 1 モサ 797 1 モサ 798 1 モサ 799 1 モサ 800 1 モサ 801 1 モサ 802 1 モサ 803 1 モサ 804 1 モサ 805 1 モサ 806 1 モサ 807 1 モサ 808 1 モサ 809 1 モサ 810 1 モサ 811 1 モサ 812 1 モサ 813 1 モサ 814 1 モサ 815 1 モサ 816 1 モサ 817 1 モサ 818 1 モサ 819 1 モサ 820 1 モサ 821 1 モサ 822 1 モサ 823 1 モサ 824 1 モサ 825 1 モサ 826 1 モサ 827 1 モサ 828 1 モサ 829 1 モサ 830 1 モサ 831 1 モサ 832 1 モサ 833 1 モサ 834 1 モサ 835 1 モサ 836 1 モサ 837 1 モサ 838 1 モサ 839 1 モサ 840 1 モサ 841 1 モサ 842 1 モサ 843 1 モサ 844 1 モサ 845 1 モサ 846 1 モサ 847 1 モサ 848 1 モサ 849 1 モサ 850 1 モサ 851 1 モサ 852 1 モサ 853 1 モサ 854 1 モサ 855 1 モサ 856 1 モサ 857 1 モサ 858 1 モサ 859 1 モサ 860 1 モサ 861 1 モサ 862 1 モサ 863 1 モサ 864 1 モサ 865 1 モサ 866 1 モサ 867 1 モサ 868 1 モサ 869 1 モサ 870 1 モサ 871 1 モサ 872 1 モサ 873 1 モサ 874 1 モサ 875 1 モサ 876 1 モサ 877 1 モサ 878 1 モサ 879 1 モサ 880 1 モサ 881 1 モサ 882 1 モサ 883 1 モサ 884 1 モサ 885 1 モサ 886 1 モサ 887 1 モサ 888 1 モサ 889 1 モサ 890 1 モサ 891 1 モサ 892 1 モサ 893 1 モサ 894 1 モサ 895 1 モサ 896 1 モサ 897 1 モサ 898 1 モサ 899 1 モサ 900 1 モサ 901 1 モサ 902 1 モサ 903 1 モサ 904 1 モサ 905 1 モサ 906 1 モサ 907 1 モサ 908 1 モサ 909 1 モサ 910 1 モサ 911 1 モサ 912 1 モサ 913 1 モサ 914 1 モサ 915 1 モサ 916 1 モサ 917 1 モサ 918 1 モサ 919 1 モサ 920 1 モサ 921 1 モサ 922 1 モサ 923 1 モサ 924 1 モサ 925 1 モサ 926 1 モサ 927 1 モサ 928 1 モサ 929 1 モサ 930 1 モサ 931 1 モサ 932 1 モサ 933 1 モサ 934 1 モサ 935 1 モサ 936 1 モサ 937 1 モサ 938 1 モサ 939 1 モサ 940 1 モサ 941 1 モサ 942 1 モサ 943 1 モサ 944 1 モサ 945 1 モサ 946 1 モサ 947 1 モサ 948 1 モサ 949 1 モサ 950 1 モサ 951 1 モサ 952 1 モサ 953 1 モサ 954 1 モサ 955 1 モサ 956 1 モサ 957 1 モサ 958 1 モサ 959 1 モサ 960 1 モサ 961 1 モサ 962 1 モサ 963 1 モサ 964 1 モサ 965 1 モサ 966 1 モサ 967 1 モサ 968 1 モサ 969 1 モサ 970 1 モサ 971 1 モサ 972 1 モサ 973 1 モサ 974 1 モサ 975 1 モサ 976 1 モサ 977 1 モサ 978 1 モサ 979 1 モサ 980 1 モサ 981 1 モサ 982 1 モサ 983 1 モサ 984 1 モサ 985 1 モサ 986 1 モサ 987 1 モサ 988 1 モサ 989 1 モサ 990 1 モサ 991 1 モサ 992 1 モサ 993 1 モサ 994 1 モサ 995 1 モサ 996 1 モサ 997 1 モサ 998 1 モサ 999 1 モサ 1000 1 モサ 1001 1 モサ 1002 1 モサ 1003 1 モサ 1004 1 モサ 1005 1 モサ 1006 1 モサ 1007 1 モサ 1008 1 モサ 1009 1 モサ 1010 1 モサ 1011 1 モサ 1012 1 モサ 1013 1 モサ 1014 1 モサ 1015 1 モサ 1016 1 モサ 1017 1 モサ 1018 1 モサ 1019 1 モサ 1020 1 モサ 1021 1 モサ 1022 1 モサ 1023 1 モサ 1024 1 モサ 1025 1 モサ 1026 1 モサ 1027 1 モサ 1028 1 モサ 1029 1 モサ 1030 1 モサ 1031 1 モサ 1032 1 モサ 1033 1 モサ 1034 1 モサ 1035 1 モサ 1036 1 モサ 1037 1 モサ 1038 1 モサ 1039 1 モサ 1040 1 モサ 1041 1 モサ 1042 1 モサ 1043 1 モサ 1044 1 モサ 1045 1 モサ 1046 1 モサ 1047 1 モサ 1048 1 モサ 1049 1 モサ 1050 1 モサ 1051 1 モサ 1052 1 モサ 1053 1 モサ 1054 1 モサ 1055 1 モサ 1056 1 モサ 1057 1 モサ 1058 1 モサ 1059 1 モサ 1060 1 モサ 1061 1 モサ 1062 1 モサ 1063 1 モサ 1064 1 モサ 1065 1 モサ 1066 1 モサ 1067 1 モサ 1068 1 モサ 1069 1 モサ 1070 1 モサ 1071 1 モサ 1072 1 モサ 1073 1 モサ 1074 1 モサ 1075 1 モサ 1076 1 モサ 1077 1 モサ 1078 1 モサ 1079 1 モサ 1080 1 モサ 1081 1 モサ 1082 1 モサ 1083 1 モサ 1084 1 モサ 1085 1 モサ 1086 1 モサ 1087 1 モサ 1088 1 モサ 1089 1 モサ 1090 1 モサ 1091 1 モサ 1092 1 モサ 1093 1 モサ 1094 1 モサ 1095 1 モサ 1096 1 モサ 1097 1 モサ 1098 1 モサ 1099 1 モサ 1100 1 モサ 1101 1 モサ 1102 1 モサ 1103 1 モサ 1104 1 モサ 1105 1 モサ 1106 1 モサ 1107 1 モサ 1108 1 モサ 1109 1 モサ 1110 1 モサ 1111 1 モサ 1112 1 モサ 1113 1 モサ 1114 1 モサ 1115 1 モサ 1116 1 モサ 1117 1 モサ 1118 1 モサ 1119 1 モサ 1120 1 モサ 1121 1 モサ 1122 1 モサ 1123 1 モサ 1124 1 モサ 1125 1 モサ 1126 1 モサ 1127 1 モサ 1128 1 モサ 1129 1 モサ 1130 1 モサ 1131 1 モサ 1132 1 モサ 1133 1 モサ 1134 1 モサ 1135 1 モサ 1136 1 モサ 1137 1 モサ 1138 1 モサ 1139 1 モサ 1140 1 モサ 1141 1 モサ 1142 1 モサ

アビナダイをもう一度自分の前に連れて来させた。

7 そして王は彼に言つた。「アビナダイよ、おまえの罪状は確定している。おまえは死に値する。^①神自らが人の子らの中に降つて来ると言つたからだ。だから、わたしとわたしの民について災いを述べた言葉をすべて取り消さないかぎり、おまえはこの理由で殺されることになる。」

9 すると、アビナダイは王に言つた。「わたしは王に申し上げます。わたしがこの民についてあなたに申し上げた言葉は真実ですから、わたしは取り消しません。わたしはその言葉が確かであることをあなたに知つていただくために、自らあなたの手に落ちることにしたのです。

からである。

10 そして、わたしは死に至るまでも苦しみに耐え、自分の言葉を取り消すことはせず、その言葉はあなたを責める証となるでしょう。わたしを殺すならば、あなたは罪のない者の血を流すことになり、これもまた、終わりの日にあなたを責める証となるでしょう。」

11 そこでノア王は、彼の言葉を恐れ、彼を釈放しようとした。神の裁きが自分に下ることを恐れた

12 ところが祭司たちは、彼に對して声を上げ、彼のことを訴えて、「この男は王をののしった」と言った。そのため王は、彼に對する怒りをかき立てられ、彼を殺すために引き渡した。

13 そこで祭司たちはアビナダイを捕らえて縛り上げ、薪を燃やしてその肌を焼き苦しめ、火あぶりにして殺した。

14 さて、炎が体を焼き始めると、彼は祭司たちに叫んで言つた。

15 「見よ、まことにあなたがたがわたしに行つたように、あなたがたの子孫も多くの人々に、わたしが今受けている苦しみ、火あぶりの死の苦しみを与えるであろう。その人々が、主なる彼らの神の救いを信じているという理由でそうするのである。

16 そしてあなたがたは、自分の罪惡のために、あらゆる病気で苦しむであろう。

17 またあなたがたは、至る所で打たれ、野生の羊の群れが猛獸に追われるよう、追われてあちらこちらに散らされるであろう。

17	15	10	8
①アル	①モサ	①アルモサ	モサ
モサ	25	モサ	13
21	4	13	60
1	12	9	13
5			25
13			33
			34

らえられ、その後、わたしが今受けているように、
火あぶりの死の苦しみを受けるであろう。

19 このようにして、神は御自分の民を滅ぼす者に報復をされる。おお、神よ、わたしの靈をお受けください。」

20 アビナダイはこれらの言葉を述べ終えると、倒れて焼け死んだ。まことに、彼は神の命令を拒もうとしなかつたために殺され、自分の言葉が眞実であることを死によつて確かなものとしたのである。

第 18 章

アルマ、ひそかに教えを説く。バブテスマの聖約を宣げんし、モルモンの泉でバブテスマを施す。キリストの教会を設立し、祭司たちを聖任する。祭司たち、自活し、民を教える。アルマと彼の民、ノア王から逃れ、荒れ野のに旅立つ。紀元前約百四十七年から百四十五年に至る。

1さて、ノア王の召し使いたちから逃れたアルマは、自分の罪と不義を悔い改め、人々の中をひそかに巡つて、アビナダイの言葉を教え始めた。2まことに、将来起くる事柄について、また死者

の復活について、そしてキリストの力や受難、死、復活、昇天によつてもたらされる人々の贖りについて、教え始めた。

3 そしてアルマは、自分の言葉を聞こうとする人々すべてに教えた。彼は王に知られることのない

よう、ひそかに教えた。そして、多くの人がアルマの言葉を信じた。

4 そして、アルマの語ったことを信じた人々は皆、モルモンと呼ばれた地へ行つた。そこは王がその名を付けた所で、境の地にあり、時節によつては野獸が群れを成していた所である。

5 さて、モルモンには水の清らかな泉があり、アルマはそこへ行つた。そこには、泉の近くに小さな木の茂みがあり、彼は日中そこに身を隠して王の搜索から逃れた。

6 そして、アルマの語ったことを信じた人々は皆、彼の言葉を聞くためにそこへ行つた。

7 さて、多くの日の後、アルマの言葉を聞くためにモルモンの地に集まつた人々は、相當な数に上つた。まことに、彼の言葉を信じた人々は皆、彼の語ることを聞くために集まつた。そこで彼は、

これらの人々を教え、悔い改めと贖いと主を信じる信仰とを説いた。

と
叫
ん
だ。

8 そして、アルマは言つた。「見よ、ここにモルモンの泉がある。（この泉はこのように呼ばれていた。）あなたがたは神の羊の群れに入つて、神の民と呼ばれたいと願つており、重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合うことを望み、

9 また、悲しむ者とともに悲しみ、慰めの要る者を慰めることを望み、また神に贖われ、第一の復活にあずかる人々とともに数えられて永遠の命を得られるように、いつでも、どのような所にいても、どのようなことを神の証人になることを望んでいる。

10まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたが心からこれを望んでいるのであれば、主かられますます豊かに御靈を注いでいただけるようになります。主に仕えて主の戒めを守るという聖約を主と交わした証拠として、主の御名によつてバプテス

マを受けるのに何の差し支えがあろうか。」
人々はこの言葉を聞くと手をたたいて喜び、「それこそわたしたちが心から望んでいることです」

と叫んだ。

12 さて、アルマは、最初この地にやつて来た人々の一人であるヘラムを連れて水の中に立ち、祈り言つて言った。「おお、主よ、あなたの僕が聖い心でこの務めを果たせるように、僕にあなたの御靈を注いでください。」

13 そして彼がこの言葉を語つたとき、主の御靈が彼のうえにあつた。そこで彼は言つた。「ヘラム、わたしは全能の神から権能を授かっているので、あなたの肉體が死ぬまで全能の神に仕えるという聖約を交わした誓拠として、あなたにバプテスマを施す。主の御靈があなたに注がれるようだ。また全能の神が、世の初めから備えてくださつているキリストの贖いによって、あなたに永遠の命を授けられるようだ。」

14 アルマがこれらの言葉を語り終えると、アルマとヘラムはともに水の中に沈んだ。それから一人は立ち上がり、御靈に満たされて、喜びながら水から出て来た。

15 さらに、アルマはまた別の一人を連れて、もう一度水の中に入つて行くと、最初のときと同じよ

さて、アルマは、最初この地にやつて来た人々の一人であるヘラムを連れて水の中に立ち、祈り願つて言つた。「おお、主よ、あなたの僕が聖い心でこの務めを果たせるように、僕にあなたの御靈を注いでください。」

13 そして彼がこの言葉を語つたとき、主の御靈があなたの肉体が死ぬまで全能の神に仕えるという誓約を交わした証拠として、あなたにバプテスマを施す。主の御靈があなたに注がれるように。また全能の神が、世の初めから備えてくださつてゐるキリストの贖いによつて、あなたに永遠の命を授

けられるよう。」
14 アルマがこれらの言葉を語り終えると、アルマ
とヘラムはともに水の中に沈んだ。それから一人は
立ち上がり、御靈に満たされて、喜びながら水か

15 さらに、アルマはまた別のひとを連れて、もう一度水の中に入つて行くと、最初のときと同じよ

うにバブテスマを^{ほどこ}したが、今度は自分自身は水の中に沈まなかつた。

16 このようにして、彼はモルモンの地にやつて來たすべての人にバブテスマを^{ほどこ}した。その数は二百四人ほどであつた。そして、これらの人々はモルモンの泉でバブテスマを受けると、神の恵みに満たされた。

17 そしてそれ以後、彼らは神の教会、すなわちキリストの教会と呼ばれた。また、神の力と権能によつてバブテスマを受けた人々はだれでも、神の教会に加えられた。

18 そしてアルマは、神から権能を授かつていていたので、祭司たちを聖任した。すなわち、彼は五十人ごとに一人の祭司を聖任して、彼らに教えを説き、また神の王国にかかる事柄について教えられるようにした。

19 またアルマは祭司たちに、自分が教えたことと、聖なる預言者たちの口を通して述べられたことのほかは、何も教えないように指示した。

20 まことに、彼は祭司たちに、悔い改めと、御自分で自分の民を贖われた主を信じる信仰のほかは、何も

説かないように指示したのである。

21 また彼は祭司たちに、決して互いに争うことなく、互いに和合し、愛し合つて結ばれた心を持ち、一つの信仰と一つのバブテスマをもつて、一つの目で将来を見詰めるようにと指示した。

22 彼はこのように祭司たちに、教えを説くように指示した。このようにして、人々は神の子となつた。

23 また、アルマは彼らに、安息日を守つて聖なる日として保つこと、また毎日主なる自分たちの神に感謝することを指示した。

24 また、聖任を受けた祭司たちは自分自身の手を使つて生活の糧を得るようにすべきであると、アルマは指示した。

25 さらに、彼らが人々を教え、また主なる自分たちの神を礼拝するためには毎日を週に一日定めること、またほかにもできるかぎりしばしば集まるのこととした。

26 そして、祭司たちは生活の糧を人々に頼るべきでなく、自分の労働に對して神の恵みを受けるべきであるとされた。それは、彼らが御靈を受けて

26	25	24	23	22	21	20	18	17	16
①アルマ	モサ	モセ	モサ						
GS GS 「恵み」	27	14	3	18	3	15	1	25	18
	3	11	2	28	3	6	22	26	21

GS 「イエス・キリストの教会」
GS 「神権」
GS 「教える、教師」
GS 「争い」
GS 「一致」
GS 「教義」
GS 「争い」
GS 「一致」
GS 「教義」
GS 「神権」

強くなり、神の知識を得られるようにするため、また神からの力と権能をもつて教えることができるようにするためである。

27 アルマはまた、教会の人々が各々自分の持つている分に応じて持ち物を分け与えるように、つまり、ほかの人よりも豊かに持つていれば、ほかの人よりも多く分け与えるべきであり、少ししか持つていらない人には少ししか求めず、持つていらない人には分け与えるべきであると指示した。

28 このように、人々は自分の自由意志と神にかかる善い望みから、自分の持ち物を、それを必要としている祭司たちと、乏しくて着る物のないすべての人間に分け与えなければならなかつた。

29 アルマは神から命じられたので、このように彼らに告げた。そして彼らは、各々の必要と入り用に応じて物質的にも靈的にも互いに助け合い、神の前をまつすぐに歩んだ。

30 さて、これはすべてモルモンにおいて、まことにモルモンの泉のそば、つまりモルモンの泉に近い森の中へ行われたことである。モルモンの地も、モルモンの泉も、自分たちの贖い

主を知るようになった人々の目には何と麗しいことか。また、これらの人々は何と祝福されていることか。だから、彼らはどこしえに贖い主を賛美して歌うであろう。

31 これらのこととは、ノア王に知られることのないよう、に國の境で行われた。

32 しかし見よ、王は民の中に動きがあるのを知り、召し使いたちを遣わして民を見張らせた。そのため、人々が神の言葉を聞こうとして集まつた日に、彼らのことが王に知られてしまつた。

33 そこで王は、アルマが民を扇動して自分に對する謀反を起こしていると言つて、アルマと彼に従う人々を減ぼすために、軍隊を派遣した。

34 そこでアルマと主の民は、王の軍隊が来るといふ知らせを受けたので、天幕を持ち、家族を連れて荒れ野へ旅立つた。

35 その数はおよそ四百五十人であつた。

第 19 章
ギデオン、ノア王を殺そうとする。レーマン人が攻め込んで来る。ノア王、火で焼き殺される。リムハイ、貢

ざ物を納め、王として統治する。紀元前約百四十五年か
ら百二十二年に至る。

て来ており、我らを滅ぼそうとしている。まことに、民を滅ぼそうとしている。」

1さて、王の軍隊は主の民を捜し回ったが、徒労に終わり、引き返した。

2さて見よ、王の軍勢は人数が減つて小規模になり、残つた民の中に分裂が生じ始めた。

3そして少數派が王を脅す言葉を吐き始め、残りの民の中にひどい争いが起つた。

4さて、少數派の中にギデオンという名の者がいた。彼は屈強な男で、王を敵としていたので、自分分の剣を抜き、王を殺すと怒りの誓いを立てた。5そして彼は王と戦つた。王は彼に打ち負かされそうになつたところで逃げ出し、走つて神殿の近くにある塔に登つてしまつた。

6そこでギデオンは王の後を追いかけ、王を殺すためにその塔に登ろうとした。このとき、王がシエムロンの方を見ると、見よ、レーマン人の軍隊がすでに国境を越えていた。

7そこで王は心に苦しみを覚え、叫んで言つた。「ギデオンよ、命を助けてくれ。レーマン人が攻め

オヌは王の命を助けた。

8 実のところ、王は民のことよりも自分の命のことを中心配していたのである。にもかかわらず、ギデ

命じて、自分がその先頭に立つて逃げた。民も女や子供たちを連れて荒れ野へ逃げ込んだ。

9そこで王は、レーマン人から逃れるようになみに命じた。彼を殺し始めた。

10そこでレーマン人は彼らを追いかけ、追いついて彼らを殺し始めた。

11そこで王は男たちに、皆、妻子を捨ててレーマン人から逃れるように命じた。

12しかし、妻子を捨てるくらいなら、一緒にとどまつて死ぬ方がよいと考える者が多かつた。ほかの者たちは妻子を捨てて逃げ去つた。

13そして妻子とともにとどまつた者たちは、美しい娘たちを前に立て、自分たちを殺さないようにレーマン人に懇願させた。

14そこでレーマン人は、彼らの娘たちの美しさに魅せられ、哀れみの心を示した。

15レーマン人は彼らの命を助け、彼らを捕虜にし

てニーファイの地へ連れ戻した。そして、ノア王をレーマン人の手に引き渡すこと、また彼らが所有するものの半分、金や銀やすべての貴重な品々の半分を渡すことを条件として、彼らがその地を有する所を許した。このようにして、彼らは毎年、レーマン人の王に貢ぎ物を納めることになつたのである。

16さて、捕らえられた者たちの中に王の息子が一人おり、その名をリムハイといつた。

17さて、リムハイは、父が殺されることのないようになると願っていた。それでもリムハイ自身は正しい人であったので、父の犯した罪悪を知らないわけではなかつた。

18さて、ギデオンは、ひそかに人々を荒れ野に遣わして、王と、また王と一緒にいる者たちを捜させた。すると彼らは荒れ野で、王とその祭司たちを除くすべての人間に会つた。

19彼らはニーファイの地へ帰つて、もし妻子や一緒にとどまつた者たちが殺されていたら、その敵を討つて、一緒に死のうと心に誓つていた。

20ところが、王が彼らに帰らないように命じたの

21また彼らは、祭司たちも捕らえて殺そうとしたが、祭司たちは逃げてしまつた。

22そして、彼らがちょうどニーファイの地へ帰ろうとしていたところで、ギデオンに遣わされた人々は彼らに、自分たちの妻子に起こつたすべてのことを告げ、またレーマン人に自分たちの所有するすべてのものの中分を貢ぎ物として納めることによつて、その地を所有できると、レーマン人から認められたことを話した。

23また彼らも、ギデオンに遣わされた人々に、自分が王を殺したことと、王の祭司たちが荒れ野の奥へ逃げ込んでしまつたことを告げた。

24そして彼らは、あいさつを終えると、自分たちの妻子が殺されなかつたことを喜びながら、ニーファイの地へ帰つた。それから彼らは、自分たちが王に行つたことをギデオンに告げた。

25さて、レーマン人の王は、自分の民がニーファイ人を殺すことはないとのニーファイ人に誓つた。

26そしてまた、ノア王の子であり、民から王位を

20 16
25 ① ① アルモモサ
モササ 7 21 11 17 7
9 3 13 9
19

与えられたりムハイも、レーマン人の王に、自分の民は所有するすべてのものの半分を貢ぎ物として彼に納めると誓つた。

27 そして、リムハイは王国を確立し、民の中に平和を確立する業に着手した。

28 またレーマン人の王は、その国の周間に見張りの兵を配置し、リムハイの民を国内にとどまらせ、荒れ野に出て行くことのないようにした。そして王は、二ーフアイ人から受け取る貢ぎ物の一部で見張りの兵を養つた。

29 さて、リムハイ王は、二年間引き続き王国の平和を保ち、レーマン人は彼らを苦しめ悩ますことも、彼らを滅ぼそうとすることもなかつた。

五年から百一十三年に至る。

1さて、シエムロンには、レーマン人の娘たちが

集まつて歌い、踊り、そして楽しむ場所があつた。

2 そしてある日のこと、少數のレーマン人の娘たちが、歌つたり踊つたりするためにそこに集まつた。

3 ノア王の祭司たちはニーフアイの町へ帰ることを恥じ、また民に殺されることを恐れたので、妻子のところへ帰る勇気がなかつた。

4 そして、荒れ野にとどまつていたときにレーマン人の娘たちを見つけたので、彼らは身を伏せて娘たちを見ていた。

5 そして、踊るために集まつた娘たちが少ないときには、彼らは隠れている所から飛び出して娘たちを捕まえ、荒れ野へ連れ去つた。まことに、レーマン人の娘たちを二十四人、荒れ野へ連れ去つてしまつた。

6 さて、レーマン人は娘たちがいなくなつたことを知ると、リムハイの民の仕業であると思つて、リムハイの民のことを怒つた。

7 それで彼らは軍隊を出した。まことに、王自身が民を率いて、リムハイの民を滅ぼすためにニーフアイの地へ向かつた。

第20章

8 しかしながら、リムハイはすでに塔の上から彼らを見ていた。まことに、彼らが戦いの準備をするべて整えているのを見た。そこで彼らは、自分の民を召集し、畑でも森でもレーマン人を待ち伏せた。

9 そして、レーマン人がやつて来ると、リムハイの民は待ち伏せていた場所から襲いかかり、彼らを殺し始めた。

10 そして、彼らは獲物を襲うライオンのように戦つたので、その戦闘は非常に激しいものになつた。11 そして、リムハイの民は、レーマン人を追い散らし始めた。彼らはレーマン人の半数にも満たなかつたが、自分たちの命のため、また妻子たちのために戦つていたので、力を尽くし、龍のように戦つた。

12 そして彼らは、レーマン人の死体の間にレーマン人の王を見つけた。しかし、王は傷を負っていただけで死んではいなかつた。兵の逃げ足が速かつたために、その場に置き去りにされたのであつた。

13 そこでリムハイの民は、王を捕らえて傷口に包帯を巻き、リムハイのもとへ連れて来て言つた。「御覧ください、ここにいるのはレーマン人の王で

す。王は負傷してレーマン人の死体の間に倒れ、置き去りにされました。御覧ください、わたしたちは、この王を御前に連れてまいりました。殺してしまいましょう。」

14 しかし、リムハイは彼らに、「殺してはならぬ。わたしが会えるように、ここに連れて来なさい」と言つた。そこで、彼らはレーマン人の王を連れて來た。そして、リムハイは彼に尋ねた。「あなたがたはどのような理由で、わたしの民と戦うために戦めて來たのですか。まことに、わたしの民は、わたしがあなたに立てた誓いを破つてはいません。それなのに、なぜあなたはわたしの民に立てた誓いを破つたのですか。」

15 すると、レーマン人の王は言つた。「わたしのが誓いを破つたのは、おまえの民がわたしの民の娘たちを連れ去つたからだ。だから、わたしは怒つて、おまえの民と戦うためにわたしの民に攻めさせたのだ。」

16 さて、リムハイはこのことについて何も聞いていなかつたので、「わたしは民の中を捜し、そのようなことをした者はだれであろうと殺す」と言つ

た。そして、彼は民の中を捜索させた。

「さて、ギデオンはこれらのことを見くと、彼はリムハイ王の軍隊の長であつたので、王のもとへ行つて、言つた。「どうか思いとどまり、この民を調べることのないようにしてください。」

18 父君の祭司であつて、この民が殺そうとした者

たちのことを王は覚えておられませんか。彼らは

今、荒れ野にいるではありませんか。レーマン人の娘たちをさらつたのは、彼らではないでしょうか。

19 どうかレーマン人の王にこれらのことをお話しください。そうすれば、王は彼の民に話し、彼らは

わたしたちに対して心を和らげることでしよう。

まことに、彼らはわたしたちを攻めようと、すでに準備を進めています。まことに、また、わたし

たちの人数はわずかです。

20 そしてまことに、彼らは大軍でやつて来ます。ですから、もしこの王がわたしたちに対して彼らの心を和らげてくれなければ、わたしたちは滅びてしまふに違ひないのです。

21 わたしたちについてアビナダイが預言した言葉は

は、わたしたちが主の御言葉に聞き従つて自分たちの罪悪から離れようとしなかつたので、すべて成就しているではありませんか。

22 ですから、王の心を和らげましょう。わたしたちは王に立てた誓いを守ります。わたしたちは、命を失うよりも奴隸の状態にある方がよいからです。ですから、このように多くの血を流すことはやめましょう。」

23 そこでリムハイはレーマン人の王に、自分の父のことと、荒れ野へ逃げ込んだ祭司たちのことをすべて話し、レーマン人の娘たちを連れ去つたのはその祭司たちの仕業であると告げた。

24 そこでレーマン人の王は、リムハイの民に對して心を和らげ、彼らに言つた。「武器を持たないで、わたしの民に会いに行こう。そうすれば、わたしの民がおまえの民を殺さないことを誓つて約束する。」

25 そして彼らはレーマン人の王に従い、武器を持たずにレーマン人に会いに出かけた。そして、彼らはレーマン人に会つた。するとレーマン人の王は、自分の民の前に伏して、リムハイの民のために執

り成してくれた。

26 そこでレーマン人は、リムハイの民が武器を持つていなゐのを見て、彼らを哀れに思ひ、心を和らげ、王とともに安らかに自分の国へ帰つて行つた。

第21章

リムハイの民、レーマン人に打たれ、打ち負かされる。リムハイの民、アンモンに会い、改宗する。アンモンにヤレド人の二十四枚の版のことを告げる。紀元前約百二十二年から百三十一年に至る。

1さて、リムハイと彼の民はニーフアイの町に帰り、再び平和にその町に住むことになった。
2そして多くの日の後、レーマン人はまたニーフアイ人に對して怒りをかき立てられ、周囲の境の地に侵入して来るようになつた。
3しかし、彼らの王がリムハイに立てた誓いがあるので、彼らはあえてニーフアイ人を殺しはしなかつた。それでも彼らは、ニーフアイ人の頬を打つて、權力を振るつた。そして彼らの背に重荷を負

わせ、彼らを物を言えないろばのよう追い立てるようになつた。

4まことに、これはすべて、主の言葉が成就するために起こつたことである。

5さて、ニーフアイ人の苦難はひどかつたが、レーマン人にあらゆる方面から取り囲まれていたので、彼らがレーマン人の手から逃れる手立てはまったくなかつた。

6そして民は、自分たちの苦難のことで王につぶやくようになり、また、レーマン人に向かつて出て行つて戦いたいと願うようになつた。このように、彼らが不平を言つてひどく王を惱ましたので、王は彼らに望みどおりにすることを許した。

7そこで彼らは再び集まり、よろいを着け、レーマン人を自分たちの國から追い出すために、彼らに向かつて出て行つた。

8そして、レーマン人が勝つてリムハイの民を追い返し、多くの者を殺した。
9そのため、リムハイの民の中に大きな嘆きと悲しみがあつた。やもめは夫のために嘆き、息子と娘は父のために嘆き、兄弟は兄弟のために嘆いた。

10 さて、国内には非常に多くのやもめがおり、そのやもめたちはレーマン人にに対するひどい恐れが募つていて、毎日毎日激しく泣き叫んだ。

11 そして、やもめたちが絶え間なく泣き叫んだため、リムハイの民の残りの者たちは、レーマン人に對する怒りをかき立てられた。そして、彼らは再び戦いに出たが、大きな損害を被り、またもや追い返された。

12 まことに彼らはもう一度、すなわち三度目の戦いに出たが、同じように損害を被つた。そして、殺されなかつた者たちは、ニーファイの町にまた帰つた。

13 また彼らは、地に伏すほどにへりくだつて、奴隸のくびきを受け、敵の望むままに打たれ、あちらこちらに追いやられ、荷を負わされるに任せた。

14 それで彼らは、心底謙遜にへりくだつて、神に熱烈に叫び求めた。彼らは、自分たちの受けている苦難から救い出してくださるように、終日神に叫び求めた。

15 しかし、主は彼らの罪惡のために、彼らの嘆願を聞き届けるのを遅くされた。それでも主は、彼ら

16 さてその後、彼らはその地で次第に栄え始めた。以前よりも豊かに穀物を栽培し、大小の家畜の群れを飼うようになったので、飢えに苦しむことはなかつた。

17 ところが、女の数が非常に多くて男の数を上回つていたので、リムハイ王は、やもめとその子供たちが飢えて死ぬことのないよう、すべての男に、生活の糧を彼らに分け与えるよう命じた。殺された者がおびただしい数に上つていたので、彼らはそうしたのである。

18 さて、リムハイの民はできるかぎり一団となつて生活し、自分たちの穀物と家畜の群れを守つた。

19 また、王自身も何らかの方法でレーマン人の手に落ちることを恐れ、衛兵を連れずには、町の城壁の外に安心して出ようとはしなかつた。

20 また王は、自分の民に周辺の地を見張らせた。

そして、荒れ野のなかに逃げ込んでレーマン人の娘じん⁽¹⁾を捕らえさせようとした。

21 リムハイの民は、彼らを捕らえて罰したいと思つていた。それは彼らが、夜二ーファイの地へやつて来て、民の穀物や多くの貴重な品々を運び去つたからである。それで民は彼らを待ち伏せした。

22 そしてその後、アンモンと彼の同僚たちがその地に来るまで、レーマン人とリムハイの民の間に二度と争いがなかつた。

23 そして、王が衛兵とともに町の門の外にいたときには、アンモンと彼の同僚たちを見つけていたのであつた。そのとき、王は彼らのことをノアの祭司たちだと思つたので、彼らを捕らえて縛らせ、牢に投げ込ませたのであつた。もし彼らがノアの祭司たちであつたら、王は殺させたことであろう。

24 ところが王は、彼らがそうではなく、自分の同胞で、ゼラヘムラの地からやつて来たことを知り、非常に大きな喜びに満たされた。

25 さて、リムハイ王は、アンモンが来る前にゼラ

ヘムラの地を探すために少數の人々を派遣したことがあつた。しかし、彼らはその地を見つけることができなくて、荒れ野の中で迷つてしまつた。

26 それでも彼らは、かつて人々の住んでいた地、干からびた骨が辺り一帯に散乱していた地、まことに、かつて人々が住み、滅びてしまつた地を発見した。そして彼らは、そこをゼラヘムラの地であると思つて、二ーファイの地に引き返し、アンモンが来る少し前に、境の地に到着したのであつた。

27 そのときに、彼らは記録を持ち帰つた。すなわち、彼らが発見した、骨を残した民の記録を持ち帰つた。それは金属の版に刻まれていた。

28 さて、リムハイは、モーサヤ王が神からの賜物を持っており、それによつてこのようないくつかの記録を解釈できるということをアンモンの口から聞いて、またもや喜びに満たされた。そして、アンモンも喜んだ。

29 しかし、アンモンと彼の同僚たちは、自分たちの同胞がそのように大勢殺されていたので、悲しみでいっぱいになつた。

30 またノア王と彼の祭司たちが、そのように多く

28	26	25	23	22	20
モサ	モサ	モサ	モサ	モサ	モサ
28	28	28	28	28	28
11	11	11	11	11	11
16	16	16	16	16	16
20	20	20	20	20	20
22	22	22	22	22	22

の人に神に對して罪と不義を犯させたことについても、彼らは悲しんだ。また彼らは、アビナダイが死んだことも、アルマや彼と行動を共にした人々が立ち去つたことについても、悲しんだ。アルマとその人々は、神の力と權威と、またアビナダイが語った言葉を信じる信仰によつて、神の教会を設立していた。

31 まことにアンモンと彼の同僚たちは、彼らが立ち去つたことを悲しんだ。リムハイと彼の民は、彼らがどこへ逃げて行つたか知らなかつたからである。もし知つていれば、アルマや彼とともにいた人々は、神に仕え、神の戒めを守るという聖約を神と交わしていたので、リムハイと彼の民は、喜んで彼らと行動を共にしたことであつう。

32 さて、アンモンがやつて來た後、リムハイ王も彼の民の多くの者も、神に仕え、神の戒めを守るという聖約を神と交わした。

33 そして、リムハイ王と彼の民の多くの者は、バブテスマを受けたいと願つた。しかしその地には、神から權能を授かっている者は一人もいなかつた。またアンモンは、自分自身をふさわしくない

僕であると考えて、そのことを行うのを辞退した。そこで彼らは、そのとき自分たちで教会を設けることをせずに、主の御靈を待ち望むことにした。彼らは荒れ野に逃げ込んだアルマと彼の同胞のようになりたいと願つていた。

34 そこで彼らは、そのとき自分たちで教会を設けて、また証明としてバブテスマを受けたいと願つた。彼らは心を尽くして喜んで神に仕える証拠とし、また証明としてバブテスマを受けたいと願つて、いたにもかかわらず、その時期は引き延ばされた。彼らのバブテスマについての話は、後に載されることにする。

35 さて、アンモンとその一行、およびリムハイ王とその民は、レーマン人の手から、また奴隸の状態から抜け出すことをひたすら考え続けた。

36 さて、アンモンとその一行、およびリムハイ王とその民が、レーマン人の下での奴隸の状態から逃れるための計画が立てられる。レーマン人、酒に酔う。民は逃れ、ゼラヘムラに帰り、モーサヤ王の臣民となる。紀元前約百二十二年から百二十年に至る。

1 さて、アンモンとリムハイ王は、奴隸の状態か

ら抜け出す方法について民と相談を始めた。彼らはすべての民を連れ立つて集ませた。彼らはこの件について民の声を聞くことができるよう、こうしたのである。

2さて、彼らが奴隸の状態から抜け出すには、おんな子供を伴い、大小の家畜の群れを連れ、天幕を携えて荒れ野へ出て行く以外に何の方法も見いだせなかつた。レーマン人が非常に大勢であつたため、リムハイの民は剣によつて奴隸の状態から抜け出そうと考えても、彼らと戦うことは不可能だったからである。

3さてこのとき、ギデオンが進み出て王の前に立ち、そして言つた。「王様、わたしたちが同胞であるレーマン人と戦つたときに、あなたはこれまでに何度も、わたしの言葉を聞き入れてくださいました。

4そして王様、もしわたしをふつつかな僕であつたと思われなければ、すなわち、これまで多少なりともわたしの言葉をお聴きになつて、それがあなたのお役に立つていましたならば、この度もわたしの言葉をお聴きくださるようにお願いいたしま

す。わたしはこれからもあなたの僕となり、この民を奴隸の状態から救い出しましよう。」
5そこで、王は彼に語ることを許した。すると、ギデオンは王に言つた。

6「町の裏手の城壁を通つて行く裏道に御注目ください。そこにいるレーマン人、すなわちレーマン人の見張りの兵は、夜は酒に酔つています。ですから、民の全体に布告を出して大小の家畜の群れを集めさせ、夜の間に荒れ野に群れを追つて行けるようにしましよう。」

7そして、わたしはあなたの命令に従い、最後の貢ぎ物であるぶどう酒をレーマン人に納めます。すると彼らは、飲んで酔うでしよう。彼らが酔つて眠つている間に、わたしたちは彼らの宿営の左手にある間道を通つて行きましょう。

8こうしてわたしたちは、おんな子供を伴い、大小の家畜の群れを連れて荒れ野に出で行き、シャイロムの地を回つて進みましょう。」

9そこで王は、ギデオンの言葉を聞き入れることにした。

10そこでリムハイ王は、民に彼らの家畜の群れを

集めさせた。また王は、貢ぎ物のぶどう酒をレーマン人に贈り物としていつもよりたくさん届けた。すると彼らは、リムハイ王が届けたぶどう酒をふんだんに飲んだ。

さて、リムハイ王の民は、夜の間に大小の家畜の群れを連れて荒れ野へ出て行つた。彼らは荒れ野の中をシヤイロムの地を回つて行き、アンモンとの同僚たちに導かれて、ゼラヘムラの地へ向かつて道を進んだ。

彼らは、自分たちの金や銀、貴重な品々、それに食糧を運べるかぎり持つて荒れ野に出て、旅を続けた。

このようにして、彼らは荒れ野の中で幾日も過ごした後、ゼラヘムラの地に到着してモーサヤの民に加わり、彼の臣民となつた。

そして、モーサヤ王は喜んで彼らを迎え入れ、記録を受け取つた。

さて、彼らの記録と、以前にリムハイの民が見つけた記録を受けて行つたことを知ると、彼らを追跡するためには、荒れ野に軍隊を送り出した。

1さて、アルマは、ノア王の軍隊がやつて来ると主から警告を受け、それを民に知らせたので、民は家畜の群れを集め、穀物を持ち、ノア王の軍隊を避けて荒れ野に出て行つた。

2主は彼らを強くし、ノア王の民に追いつかれて

ノア王の民により荒れ野に追われたアルマと主の民の話。

次の第二十三一一二十四章がそれに相当する。

第 23 章

アルマ、王になることを断る。アルマ、大祭司として務める。主、御自分の民を懲らしめられる。レーマン人、ヘラムの地を征服する。ノア王の邪悪な祭司たちの統率者であるアミユロン、レーマン人の王の臣民を治める。紀元前約百四十五年から百二十二年に至る。

16軍隊は一日間彼らを追跡した後、もはやその跡を見つけることができず、荒れ野の中で迷ってしまった。

滅ぼされることのないようになされた。
3 それで彼らは、荒れ野に逃げ込んで、八日間旅をした。

4 彼らは非常に美しく、心地よい地、清らかな水のある地に着いた。

5 そこで彼らは天幕を張り、地を耕し、建物を建て始めた。まことに、彼らは勤勉であり、非常によく働いた。

6 また民は、アルマを愛していたので、彼が王になることを願つた。

7 しかし、彼は民に言つた。「まことに、わたしたちに王がいるのは決して望ましいことではない。主は、『あなたがたは、ある人をほかの人よりも優れていると思つてはならない。すなわち、人は自分自身をほかの人よりも優れていると考へてはならない』と言われた。したがつて、あなたがたに王がいるのは望ましいことではないと、わたしはあなたがたに言う。」

8 しかしながら、あなたがたが正しい人をいつも王に頂くことが可能であれば、王がいるのもよいであろう。

9 しかし、ノア王と彼の祭司たちの罪悪を思い出だ

してほしい。わたし自身もわなにかかり、主の目から見て忌まわしいことをたくさん行い、つらい悔い改めをした。

10 にもかかわらず、わたしが多くの艱難を味わつた後、主はわたしの嘆願を聞いて、わたしの祈りにこたえ、わたしを主の御手に使われる者にしてくださいり、このように、あなたがたの多くに主の真理を知らせることができるようにしてくださった。

11 それでも、わたしはこのことを誇らない。わたしは自分自身について誇るにふさわしくないからである。

12 今、わたしはあなたがたに言う。あなたがたはかつてノア王に虐げられ、彼と彼の祭司たちに対しても、彼らによって罪悪に引き込まれたため、罪悪の縛目をかけられてしまった。

13 ところがあなたがたは、神の力によつてこれらのかせから、すなわちノア王と彼の民の手から、また罪悪のかせから救い出されているので、わたしはあなたがたが解放されたこの自由にしつかりと立つよう、まだれもあなたがたを治める王としないように望んでいる。

14 また、神の道を歩み、神の戒めを守っている神の御子様は、このようにアルマは、人は皆、自分自身のようにならぬことを、彼の民に教えた。
15 さて、アルマは彼らの教会の創設者であつたので、彼らの大祭司であつた。されば、アルマは、民の中に決して争いがないようにしなければならないことを、彼の民に教えた。

のを、御みにかなうこと見ておられる。まことに、主は民の忍耐と信仰を試される。

22	21 18	17 16	15 14
② ① ② GS 教	① 権	① ① ② ① ①	
1 GS GS 懸 95	ヒ ラ	GS ソ ナ	モ サ
ニ 「信 忍 し ら 21 12	テ モ 神	「愛 26 7	18
13 領 賄 3 4	權 威	11	18
37	3 6	28	22
	權 限	29	

17 そして、アルマを通して神から与えられなれば、だれも説教をする権能や教える権能を受けられなかつた。したがつてアルマは、民のすべての祭司とすべての執事きょうしを任命にんめいした。また、正しい人でなければだれも任命にんめいされなかつた。

18 そして、彼らは民みんを見守り、義ぎにかかわることをもつて彼らを養つた。

19 さて、彼らはその地ちで非常に榮え、その地ちをヘラムヘルムと名付けた。

23 見よ、わたしは、これからあなたがたに、
奴隸の状態に落とされたことと、主なる彼らの神、
すなわちアブラハムとイサクとヤコブの神のほか

に、たれも彼らを救い出せなかつたことを示そう。
24さて、主が彼らを救い出し、彼らに御自分の偉
大な力を示されたので、彼らの喜びは大きかつた。
25さて見よ、彼らがヘラムの地、まことに、ヘラ
ムの町にいて周^{まわ}らの地を耕^{たが}していたところ、見
よ、レーマン人の軍隊がその地の境に現れた。

26 そこでアルマの同胞は、畑から逃げてヘラムの町に集まつた。レーマン人が現れたことで、彼らはひどくおびえていた。

19 さて、かれらはその地で非常に榮え、その地をへ
ラムと名付けた。

20 そして、彼らはヘラムの地で増え、非常に榮え

た。そして、一つの町を築いてヘラムの町と名付けた。

21 にもかかわらず、主は御自分の民を懲らしめる

ちと妻子を助けてくれるよう、彼らの心を和らげてくださることを主に叫び求めた。

29 そこで主は、レーマン人の心を和らげてくださつた。そこで、アルマと彼の同胞は出て行つて、自分たちの身を彼らにゆだねた。そしてレーマン人は、ヘラムの地を占領した。

30 ところで、リムハイ王の民を追つていたレーマン人の軍隊は、幾日もの間荒れ野をさまよつていた。

31 そして見よ、彼らは、ノア王の祭司たちがアミユロンと名付けた地で、その祭司たちを見つけた。

32 そして、祭司たちの統率者の名はアミユロンと始めた。

33 さて、アミユロンはレーマン人に懇願し、さらにはレーマン人の娘である妻たちを遣わして、夫を殺すことのないよう、同胞に懇願させた。

34 そこでレーマン人は、アミユロンと彼の仲間を哀れみ、その妻たちに免じて彼らを殺さなかつた。

35 このようにして、アミユロンと彼の仲間はレーマン人に加わつた。そして彼らは、二ーフアイの地ち

を探して荒れ野の中を旅して、アーラムと彼の同胞が所有していたヘラムの地を発見したのである。

36 さて、レーマン人はアルマと彼の同胞に、二ファイの地へ通じて、道を教えるならば命を助けて、自由を認めると約束した。

37 ところが、アルマがニーフアイの地へ通じる道を教えたところ、レーマン人はその約束を守ろうとせず、彼らはアルマと彼の同胞を見張る兵をヘラムの地の周辺に置いた。

38 そして、残りの者はニーフアイの地へ向かつた。それから一部の者は、ヘラムの地に残された見張りの兵の妻子を連れて、またこの地に戻つて来た。

39 レーマン人の王はアミユロンに、ヘラムの地にいる自分の王となり統治者となることを許していた。しかし、それでも彼は、レーマン人の王の意に反して事を行う力は持つていなかつた。

されることになる。主は彼らの重荷を軽くされる。主は彼らを奴隸の状態から救い出され、彼らはゼラヘムラの地に帰る。紀元前約百四十五年から百二十年に至る。

1さて、アミュロンはレーマン人の王の歓心を買つた。そこで、レーマン人の王はアミュロンと彼の仲間を、自分の民、すなわちシエムロンの地とシャイロムの地とアミュロンの地に住んでいる民を教える者として任命させた。

2レーマン人は、すでにこれらの中をすべて占領して、いたからである。またそのためにレーマン人の王は、これらすべての地を治める王たちを任命していた。

3ところでレーマン人の王の名は、その父の名を取つて付けられ、レーマンといった。そのため、彼はレーマン王と呼ばれた。彼は大勢の民を治める王であつた。

4彼は自分の民が所有するあらゆる地で、アミュロンの仲間にから教える者を任命した。このようにして、レーマン人のすべての民の中で、二ーフアイの言語が教えられるようになつた。

5レーマン人は互いに親しみ合う民であつた。しかし、神を知らないかった。アミュロンの仲間は彼らに、主なる自分たちの神についてはどのようなことを教えず、モーセの律法についても教えなかつた。また、アビナダイの言葉も教えなかつた。

6しかし彼らは、記録を書き記すようにレーマン人に教え、また彼らが互いに文書でやり取りができるようになって、教えた。

7このようにしてレーマン人は富を殖やし始め、互いに商売をして富むようになった。また彼らは、俗世の知恵とということでは必ず賢く抜け目のない民、まことに、非常に悪知恵にたけた民になり、自分が仲間以外に対しても、あらゆる悪事と略奪を働くのを喜びとした。

8さて、アミュロンはアルマと彼の同胞に對して権力を振るうようになり、アルマを迫害し、また自分の子供たちにアルマとその同胞の子供たちをいじめさせるようになつた。

9アミュロンはアルマを知つており、アルマがかつてノア王の祭司の一人であり、アビナダイの言葉を信じて王の前から追い出された者であること

しはアルマに憤りを感じていた。彼はレーマン王の支配を受けていたにもかかわらず、アルマと彼の同胞に対して権力を振るい、彼らに苦役を課し、彼らを見張る監督を置いた。

さて、彼らの苦難は非常に大きかつたので、彼らは熱烈に神に呼び求めるようになつた。

11 ところが、アミエロンは呼び求めることをやめよう。に彼らに命じた。そして、彼らを見張る者を置いて彼らを見張らせた。神に呼び求めているところを見つかった者はだれであろうと、殺すこととした。

12 そこでアルマと彼の民は、主なる自分たちの神に声を上げることなく、自分たちの心を主に注ぎ出した。そして主は、彼らの心の思いを御存じであった。

13 そして、苦難の中にいる彼らに主の声が聞こえ、言われた。「あなたがたの頭を上げて喜びなさい。わたしは、あなたがたがわたしと交わした聖約を知っている。わたしは自分の民と聖約を交わし、その民を奴隸の状態から救い出す。

11 ところが、アミエロンは叫び求めるることをやめ
るようにならに命じた。そして、かれを見張る者
を置いて彼らを見張らせた。神に叫び求めていた
ところを見つかった者はだれであろうと、殺すこ
とにした。

12 そこでアルマと彼の民は、主なる自分たちの神
に声を上げることなく、自分たちの心を主に注ぎ
だだ出した。そして主は、彼らの心の思いを御存じであ

14 またわたしは、あなたがたの肩に負わされる荷を軽くし、あなたがたが奴隸の状態にある間、あなたがたの背にその荷が感じられないほどにしようと。わたしがこのようにするのは、あなたがたがこの後、わたしのために誠人になれるようにするために、また主なる神であるわたしが、苦難の中にいる自分の民を訪れるということを、あなたがたが確かに知ることができるようにするためである。」

15 そこで、アルマと彼の同胞に負わされた重荷は軽くなつた。まことに、主は、彼らが容易に重荷に耐えられるように彼らを強くされた。そこで彼らは心楽しく忍耐して、主の御心にすべて従つた。

16 さて、彼らは信仰が篤く、忍耐かつたので、主の声が再び聞こえて、言われた。「喜びなさい。明日、わたしはあなたがたを奴隸の状態から救い出す。」

17 そして、主はアルマに言われた。「あなたはこの民の先頭に立たなければならぬ。わたしはあなたとともに行き、この民を奴隸の状態から救い出そう。」

の群れを集め、また穀物の幾分かを集めめた。まことに、彼らは一晩中家畜の群れを集め続けた。
 19 そして朝、主はレーマン人を深く寝入るようになされたので、彼らの監督たちは皆、深い眠りに落ちていた。
 20 そこで、アルマと彼の民は荒れ野に出て行つた。そして彼らは一日中旅をして、ある谷に天幕を張つた。彼らは、アルマが荒れ野の中で彼らを導いたので、その谷をアルマの谷と名付けた。
 21 そして、神が自分たちに憐れみをかけ、重荷を軽くし、自分たちを奴隸の状態から救い出してくださつたので、彼らはアルマの谷で神に感謝の気持ちを表出した。彼らは奴隸の状態にあつて、主なる彼らの神のほかに、だれも彼らを救い出すことができなかつたからである。

22 そして、彼らは神に感謝をささげた。まことには、男も女も子供も、語ることのできる者は皆、声を上げて神を賛美した。

23 すると、主がアルマに言われた。「あなたとこの民は急いでこの地を立ち去りなさい。レーマン人が目を見まして、あなたを追つてるので、この

地を立ち去りなさい。レーマン人がこれ以上この民を追わないように、わたしは彼らをこの谷でどめよう。」
 24 そして、彼らはその谷を出て、荒れ野に旅立つた。
 25 そして彼らは、十二日間荒れ野を旅した後、ゼラヘムラの地に着いた。モーサヤ王は喜んで彼らを迎え入れた。

第 25 章

1 さて、モーサヤ王はすべての人を集めさせた。
 2 当時ニーフアイの子ら、すなわちニーフアイの子孫であつた人々は、^①ミユレクと、また彼とともに荒れ野へ出た人々の子孫である、ゼラヘムラの民ほど多くはなかつた。

3 また、ニーファイの民とゼラヘムラの民を合わせても、レーマン人ほど多くはなかつた。まことには、彼らはその半分にも満たなかつた。

4 さて、ニーファイの民は皆集まり、ゼラヘムラの民も皆集まつた。彼らは集まつて二つの集団を作つた。

5 そして、モーサヤ王は民にゼニフの記録を自ら読んで聞かせ、また人にも読ませた。まことに、彼らは、ゼニフの民がゼラヘムラの地を立ち去つたときから再び帰つて来るまでの、彼らの記録を読んで聞かせた。

6 彼はまた、アルマと彼の同胞の話と、また彼らがゼラヘムラの地を立ち去つたときから再び帰つて来るときまでに受けた、あらゆる苦難の話を読んで聞かせた。

9 また彼らは、レーマン人に殺された自分たちの同胞のことを思つては、悲しみでいっぱいになり、悲哀の涙を流した。

10 さらに彼らは、アルマと彼の同胞をレーマン人の手と奴隸の状態から救い出してくださつた神の直接の慈しみと神の力のことを思つては、声をあげ、神に感謝をささげた。

11 また彼らは、罪深く汚れた状態にある自分たちの同胞のレーマン人のことを思つては、彼らの幸いを案じて苦痛と苦悩にさいなまれた。

12 さて、レーマン人の娘たちを妻としたアミユロントと彼の仲間の子供たちは、自分の父たちの行為を快く思つていなかつた。そして、彼らはもはや父たちの名で呼ばれるのを望まなかつたので、ニーファイの名を受けた。それは、ニーファイの子らと呼ばれ、ニーファイ人と呼ばれる人々の中

7 さて、モーサヤ王がこれらの記録を読み終えると、その地にとどまつていた彼の民は、不思議な思いと驚きに打たれた。

8 彼らには思いも及ばなかつたからである。奴隸の状態から救い出された人々を見たときに、彼らは非常に大きな喜びに満たされたからである。

11 ①モサGS「人(靈を持つ存在としての)一人の
価値」
12 モサ28「4、
アル13・27・19
オム1・19

13 今やゼラヘムラの民はすべて、ニーファイ人とともに数えられた。それは、ニーファイの子孫である人々のほかに、だれにも王位が授けられなかつたからである。

14 さて、モーサヤ王は民に語り終え、読み終えると、アルマにも民に語つてもらいたいと思つた。

15 そこでアルマは、民が幾つもの大きな集団を成して集まつてゐるときに、彼らに語つた。彼は一つの集団から次の集団へと巡つて、悔い改めと主を信じる信仰を民に宣べ伝えた。

16 また彼は、リムハイと彼の同胞から成る民、すなわち奴隸の状態から救い出されたすべての人間に、彼らを救い出してくださつたのが主であることを覚えておくよう勧めた。

17 さて、アルマが民に多くのことを教え、彼らに語り終えると、リムハイ王はバプテスマを受けたいと願つた。また、彼の民も皆、バプテスマを受けたいと願つた。

18 そこでアルマは水の中に入つて行き、彼らにバプテスマを施した。まことに、彼はモルモンの泉で同胞に授けた方法で、彼らにバプテスマを施した。そして、彼がバプテスマを施した人々は皆、神の教会に属した。それは彼らがアルマの言葉を信じたからである。

19 さて、モーサヤ王はゼラヘムラの全地に教会を

設立することをアルマに許し、またそれぞれの教会をつかさどる祭司と教師を聖任する力を彼に授けた。

20 さて、このように行われたのは、人々の数が非常に多く、ひとりの教師ですべての人をつかさどることができなかつたからであり、また一つの集会ですべての人に神の言葉を聞かせることもできなかつたからである。

21 それで彼らは、教会と呼ばれた別々の集団に集まつた。それぞれの教会に祭司と教師がいて、祭司は皆、アルマの口により伝えられたとおりの言葉を宣べ伝えた。

22 このように、多くの教会があつたにもかかわらず、それらはすべて一つの教会、すなわち神の教会であつた。どの教会でも、悔い改めと神を信じる信仰以外に、どのようなことも説かれなかつたからである。

23 さて、ゼラヘムラの地には七つの教会があつた。そして、キリストすなわち神の名を受けることを望んだ者はだれでも皆、神の教会に加わつた。そして、彼らは神の民と呼ばれた。主は彼らに

主の御靈を注がれ、彼らは祝福され、その地で榮えた。

第26章
多くの教會員が不信仰な者たちによつて罪に誘い込まれる。アルマ、永遠の命を約束される。悔い改めてバブテスマを受ける者は赦しを得る。罪を犯した教會員で、悔い改めてアルマと主に告白する者は赦される。そのようにしない者は教會の民の中に數えられない。紀元前約百二十年から百年に至る。

1さて、当時の若者の中には、ベニヤミン王が民に語つたときにまだ幼い子供であつたために、彼の言葉を理解できなかつた者が大勢いた。彼らは、自分たちの先祖の言い伝えを信じなかつた。

2彼らは、死者の復活について述べられたことも信じなければ、キリストの来臨についても信じなかつた。

3また、彼らは自分の不信仰のために、神の言葉を理解できなかつた。そして、彼らの心はかたくなであつた。

4彼らは、バブテスマを受けようともしなければ、教會に加わろうともしなかつた。彼らは信仰に関してはまつたく違つた民になつており、いつまでもそのまま肉欲にふける罪深い状態にとどまつていた。彼らは主なる自分たちの神に請い願おうとしなかつたからである。

5モーサヤ王の治世に、このような者の数は神の民の半分に満たなかつたが、教會の兄弟たちの中には不和が起こつたために、やがて神の民よりも多くなつた。

6そして、これらの者は教會に属していた多くの者をだまし、彼らに多くの罪を犯させた。そのため、教會に属していながら罪を犯した者を、教會は説諭しなければならなかつた。

7そこで、教師たちはこれらの者を祭司たちの前に連れて行き、祭司たちに引き渡した。そして祭司たちは、彼らを大祭司アルマの前に連れて行つた。

8当時モーサヤ王は、教會を管理する権能をアルマに与えていた。

9さて、アルマは彼らのことについて知らなかつたが、彼らを訴える証人は大勢いた。まことに、

第26章		4 ① GS	5 ① GS	6 ① GS	7 ① GS
「警告」	「争い」「背教、	「理解」	「生まれながら」	「57」	「58」

人々は立つて、彼らの罪惡についてたくさんの中を言をした。

10 ところで、このよなことはこれまで教会の中でおこつたことがなかつたので、アルマは心の中で思ひ悩み、これらの者を王の前に連れて行かせた。

11 そして、アルマは王に言つた。「まことにわたしのことは、教会の兄弟たちから訴えられたこれらの多くの者を、王の御前に連れてまいりました。彼らはいろいろな罪惡を犯して連れて来られた者たち

ですが、自分たちの罪を悔い改めません。ですから、罪科に応じて王に裁いていたくために、王の御前にこれらの者を連れてまいりました。」

12 ところが、モーサヤ王はアルマに言つた。「まことに、わたしはこの人々を裁きません。あなたが裁くようにあなたの手で渡します。」

13 そこでアルマは、再び心を悩ました。そして彼は、この問題について何を行えばよいか主に尋ねた。神の目にかなわないことを行うのを恐れたからである。

14 アルマが自分の心のすべてを神に注ぎ出したところ、主の声が聞こえて言われた。

15 「アルマよ、あなたは幸いである。モルモンの泉でバプテスマを受けた者たちも幸いである。あなたはわたしの僕であるアビナダイの言葉だけを深く信じたので、幸いである。

16 また彼らは、あなたが彼らに語った言葉だけを深く信じたので、幸いである。

17 あなたはこの民の中に教会を設立したので、幸いである。この民は立てられ、わたしの民となるであろう。

18 まことに、喜んでわたしの名を受けるこの民は幸いである。わたしの名によつて彼らは呼ばれるからである。彼らはわたしのものである。

19 あなたは、戒めに背いた者についてわたしに尋ねたので、幸いである。

20 あなたはわたしの僕である。わたしはあなたに、あなたが永遠の命を受けると聖約する。あなたはわたしに仕え、わたしの名によつて出て行き、わたしの羊を集めなさい。

21 そして、わたしの声を聞く者はわたしの羊となる。あなたはその者を教会に受け入れなさい。その者をわたしも受け入れよう。」

18	17	20	15
① GS	② GS	① GS	① GS
「選び」 GS	「永遠の命」 モサ 17 「良い羊飼い」 モサ 25 モサ 1 モサ 11 モサ 19 モサ 24 モサ 5 モサ 8	① GS モサ 17 モサ 30 モサ 23 モサ 18 モサ 19 モサ 24 モサ 5 モサ 8	教義 42 モサ 18 モサ 23 モサ 19 モサ 24 モサ 5 モサ 8

22 見よ、これはわたしの教会である。バプテスマ

を受ける者はだれでも、悔い改めのためのバプテスマ

を受けなければならぬ。あなたが受け入れる者は

はだれでも、わたしの名を信じなければならぬ。

そうすれば、その者をわたしは惜しみなく赦そう。

23 世の罪を負うのはわたしである。世の人々を造

つたのはわたしであり、最後まで信じる者にわたし

の右の場所を与えるのは、わたしである。

24 見よ、これらの者はわたしの名によつて呼ばれ

る。これらの者はわたしを知るならば、進み出で

て、永遠にわたしの右に一つの場所を得るであろ

う。

25 そして、第一のラッパが鳴ると、そのとき、わ

たしをまったく知らなかつた者たちが出て来て、わ

たしの前に立つであろう。

26 そのとき、彼らはわたしが主なる彼らの神であ

り、彼らの贖い主であることを知るであろう。し

かし、彼らは贖われないのである。

27 そのとき、わたしは彼らに、彼らをまったく知

らなかつたと告げよう。これらの者は、悪魔とそ

あらう。

28 わたしはあなたに言う。わたしの声に耳を傾け

ない者を、あなたはわたしの教会に受け入れては

ならない。そのような者を、わたしは終わりの日に

受け入れないからである。

29 わたしはあなたに言う。行きなさい。そして、

だれであろうとわたしに背く者を、あなたはその者

の犯した罪に応じて裁きなさい。もしその者があ

なたとわたしの前で罪を告白し、真心から悔い改

めるならば、その者をあなたは赦しなさい。わた

しもその者を赦そう。

30 そしてわたしは、民が悔い改める度に、わたし

に対する彼らの過ちを赦そう。

31 あなたがたも互いに過ちを赦し合わなければ

ならない。まことに、わたしはあなたに言う。隣人が

悔い改めると言うときにその過ちを赦さない者は、

自分自身に罪の宣告を招くことになる。

22 GS ① 2 二二九、

23 GS 「バプテスマ」
「罪の赦し」

24 GS ② 二二一
「贖い主」
創造、創造す

25 GS ① ヨハ二三、

26 GS ② 二二四
「職任を負う」
14 三二九、

27 GS ③ 二二五
「裁き」
14 三二九、

28 GS ④ 二二六
「告白」
14 三二九、

29 GS ⑤ 二二七
「悔い改め」
14 三二九、

30 GS ⑥ 二二八
「赦し」
14 三二九、

31 GS ⑦ 二二九
「救い」
14 三二九、

32 GS ⑧ 二二九
「悔い改め」
14 三二九、

33 GS ⑨ 二二九
「民」
14 三二九、

34 GS ⑩ 二二九
「悔い改め」
14 三二九、

35 GS ⑪ 二二九
「民」
14 三二九、

36 GS ⑫ 二二九
「悔い改め」
14 三二九、

37 GS ⑬ 二二九
「悔い改め」
14 三二九、

38 GS ⑭ 二二九
「悔い改め」
14 三二九、

39 GS ⑮ 二二九
「悔い改め」
14 三二九、

40 GS ⑯ 二二九
「悔い改め」
14 三二九、

41 GS ⑰ 二二九
「悔い改め」
14 三二九、

42 GS ⑱ 二二九
「悔い改め」
14 三二九、

43 GS ⑲ 二二九
「悔い改め」
14 三二九、

44 GS ⑳ 二二九
「悔い改め」
14 三二九、

45 GS ㉑ 二二九
「悔い改め」
14 三二九、

46 GS ㉒ 二二九
「悔い改め」
14 三二九、

47 GS ㉓ 二二九
「悔い改め」
14 三二九、

48 GS ㉔ 二二九
「悔い改め」
14 三二九、

49 GS ㉕ 二二九
「悔い改め」
14 三二九、

50 GS ㉖ 二二九
「悔い改め」
14 三二九、

51 GS ㉗ 二二九
「悔い改め」
14 三二九、

52 GS ㉘ 二二九
「悔い改め」
14 三二九、

53 GS ㉙ 二二九
「悔い改め」
14 三二九、

54 GS ㉚ 二二九
「悔い改め」
14 三二九、

33 さて、アルマはこれらの御言葉を聞くと、それ
を保存できるように、また神が命じられたとおり
に教会の人々を裁けるように、それを書き記した。
34 そして、アルマは行つて、罪悪を犯して連れて
来られた者たちを主の言葉に従つて裁いた。

35 また、罪を悔い改めてそれを告白した者はだれ
であろうと、教会の人々の中に数えた。
36 しかし、罪を告白しようとせず、罪悪を悔い改
めようとしている者は、教会の人々の中に数えられ
ることなく、彼らの名は消された。

37 そして、アルマは教会の諸事をすべて整えた。
人々は再び平和を得て、教会の諸事において非常
に栄えるようになり、神の前を慎み深く歩み、多く
の人に受け入れ、多くの人にバプテスマを施した。
38 さて、ともに教会を管理したアルマと彼の同僚
たちは、これらのことすべてを行い、力の限り歩
み、すべてのことについて神の言葉を教え、あらゆ
る苦難に耐え、また、神の教会に属していなす
べての者から迫害を受けた。また、彼らも
39 彼らは教会の兄弟たちを戒めた。また、かれ
々々、神の言葉により、自分の罪、すなわち過方に
犯した罪に応じて戒めを受けた。

2 そしてモーサヤ王は、不信者は神の教会に属し
ている者を迫害してはならないと、周辺の全地に

犯した罪に応じて戒めを受け、絶えず祈るよう
に、またすべてのことについて感謝をささげるよ
うに神から命じられた。

第 27 章

モーサヤ、迫害を禁じ、平等を指示する。息子アルマ
とモーサヤの四人の息子たち、教会を滅ぼそうとする。
ひとりの天使が現れ、悪行をやめるように命じる。アル
マ、口が利けなくなる。人は皆、救いを得るために再
び生まれなければならぬ。アルマとモーサヤの息子た
ち、喜びのおとずれを告げ知らせる。紀元前約百年から
九十二年に至る。

1 さて、不信者たちが教会員に加える迫害が
非常にひどくなつたので、教会員はつぶやき、そ
の件について指導者たちに訴え始めた。そこで、
指導者たちはアルマに訴えた。アルマはその件を
王であるモーサヤの前に持ち出し、モーサヤは祭
司たちに意見を求めた。

2 ① GS 「迫害」	39 ① GS アル 1:24; 32:33, 「命の書」「警告」	36 ① GS 出エ 24:32, 「感謝」
-------------	-----------------------------------	------------------------

ふこくだ
布告を出した。

3 また、すべての教会に次のような厳しい命令が
出された。すなわち、教会の中に迫害があつては
ならない。すべての者は平等でなければならぬ。

4 高慢あるいは傲慢になつて、平和を乱すような
ことがあつてはならない。すべての者は隣人を自分
自身のように尊ばなければならぬ。また、自分

5 また、教会の祭司と教師は皆、病気のときやひ
どく生活に困ったときのほかは、どのような場合で
も、自分自身で働いて生活の糧を得るようにしな
ければならない、というものであつた。彼らはこれ
らのことを守つたので、神の恵みを豊かに受けた。

6 そして、国内は再び非常に平和になつてきた。
また、民は非常に多くなり始め、地の面に、まこと
きな町や村を築き始めた。

7 そして、主は彼らを顧み、栄えさせられた。そ
のため、彼らは裕福で大きな民となつた。

8 ところで、モーサヤの息子たちは不信仰な者た
ちの中に数えられており、アルマの息子の一人も

その中に数えられていた。アルマのその息子は、父
の名を取つてアルマと名付けられていた。にもかか
らず、彼は非常に邪悪な男で、偶像を礼拝する

者になつてしまつた。また、彼は言葉数の多い男
で、民に多くの世辞を述べ、多くの者に自分と同
じような罪悪を犯させた。

9 そして彼は、神の心を奪つて民の中にひどい不
和を生じさせ、神の敵に民を支配する権力を振る
う機会を与えたので、神の教会の繁栄にとつて大
きな妨げとなつた。

10 さて、彼が神の教会を滅ぼそうとして歩き回つ
ていたときに、すなわち、彼が神の戒めにも王の命
令にも逆らつて、教会を滅ぼし、主の民を惑わそ
うと、モーサヤの息子たちとともにひそかに歩き回
ついたときに、

11 わたしが前に述べたように、彼らが神に背いて
歩き回つていたときに、見よ、主の天使が彼らに
現れた。その天使は、まるで雲に包まれて來たか
のように降つて来て、さながら雷のような声で語
り、その声は彼らの立つていた大地を震わせた。

12 彼らはそのためにひどく驚き、地に倒れた。し

11	9	8	5	4	3
①	①	②	①	②	モサ
GS	GS	S	GS	GS	「尊ぶ」
GS	GS	サ	GS	モサ	「平和」
アルマ	「偶像」	「恵み」	「背く」	「アールマ」	「アルマ」
アル	使徒	天使	下	15	23
8	1	6	1	7	29
15	9	1	1	1	32

かし、彼らには天使の語つた言葉が分からなかつた。

13 それでも天使は、また大声で言つた。「アルマよ、起き上がりつて立ちなさい。あなたはなぜ神の教会を迫害するのか。主はかつて、『これはわたしたしの教会である。わたしがこれを設ける。わたしの民の背きのほかに、これを覆すものはない』と言つた。」

14 天使はまた言つた。「見よ、主は、御自分の民の祈りと、御自分の僕であり、またあなたの父であるアルマの祈りを聞かれた。あなたの父が、あなたが真理の知識に導かれるように、深い信仰をもつてあなたのことにつづってきたからである。したがつて、わたしは神の力と権能が存在することをあなたに認めさせるために来た。神の僕たちの祈りが、彼らの信仰に応じてかなえられるためである。」

15 さて見よ、あなたは神の力に抵抗することができないか。あなたには、わたしがあなたの前にいるのが見えないか。わたしは神から遣わされた者である。」

16 さて、わたしはあなたに言う。あなたの先祖が

ヘラムの地とニーファイの地で囚われの状態にあつたことを思い出しなさい。また、神があなたの先祖のために、どれほど大いなることを行われたかを思い起こしなさい。あなたの先祖は奴隸の状態にあつたが、神が救い出してくださつた。アルマよ、わたしはあなたに言う。行きなさい。これからはもう教会を滅ぼそうとしてはならない。たとえあなた自身が捨てられようとも、彼らの祈りが聞き届けられるためである。」

17 そしてこれは、天使がアルマに語つた最後の言葉である。そのようにして、天使は去つて行つた。18 さて、アルマと、またアルマとともにいた者はちは、ひどく驚いて、再び地に倒れた。それは、自分の目で主の天使を見、天使の声が雷のようであつて大地を震わせ、また大地を震わせてそれが引き裂けるほどに揺さぶる。これが引き裂けるほどになつた。そこで、身動きができないまま彼

19 このときアルマは、ひどく驚いたために物が言えなくなつた。口を開くことができなくなつたのである。また、体の力が弱くなり、手も動かせないほどになつた。そこで、身動きができないまま彼

と一緒にいた者たちに運ばれて、彼の父の前に置かれた。

20 そして彼らは、彼の父に、自分たちに起こつたことをすべて詳しく告げた。すると彼の父は、それ

が神の力によつて起こつたことを知つて喜んだ。

21 彼は主が自分の息子と、また息子と一緒にいた

ものたちに行われたことを見せようとして、大勢の

人を集めた。

22 また、彼は祭司たちも集めた。そして、彼らは

断食して、主なる自分たちの神に祈り始め、アルマ

の口を開いて物が言えるようにしてくださること、

また彼の手足に力が与えられること、そして、それ

によって民の目が開かれて、彼らが神の慈しみと

栄光を見て知るようになることを請い願つた。

23 そして、彼らが一日一晩断食して祈つたとこ

ろ、アルマの手足は力を取り戻した。そして、アル

マは立ち上がりと、彼らに語り始め、安心するよう

に彼らに言つた。

24 彼はこのように述べた。「わたしは自分の罪を悔く

い改め、主に贖われました。まことに、わたしは

御靈によつて生まれました。

25 主はわたしに言われました。『全人類、すなわち男女を問わず、すべての国民、部族、国語のみならず、民族が再び生まれなければならぬことを不思議に思つてはならない。まことに、人は神から生まれ、肉欲にふける堕落した状態から義の状態に変わつて、神に贖われ、神の息子や娘にならなければならぬ。』

26 このようにして、彼らは新たな者となる。このよ

うにならないかぎり、決して神の王国を受け継ぐことはできない。』

27 わたしは皆様に申し上げます。人は実際にこの

ような状態にならないかぎり、必ず捨てられま

す。わたしは一度捨てられそうになつたので、この

ことが分かります。

28 にもかかわらず、多くの難難を耐え抜いて、死

ぬほどの悔い改めをしたところ、主はわたしを憐れ

んで、永遠に燃える火からわたしを救い出すこと

がふさわしいとされました。そして、わたしは

今、神から生まれたのです。

29 わたしはすでに苦汁と罪惡のかせから贖われま

した。わたしはかつて、最も暗く深い淵の中にい

24	2	ニフ	2	6	7
①	②	GS	③	④	⑤
モサ	ロマ	6	7	11	1
モセ	アル	5	14	7	1
モハ	モサ	5	7	6	1
ニフ	モサ	3	19	59	1
9	モサ	5	16	16	3
16	モサ	5	16	16	3

ましたが、今は神の驚くべき光を見て います。わたしはかつて永遠の苦痛に責めさいなまれました が、今は救い出されており、もう心に苦痛を感じません。

30 わたしはかつて贖い主を拒み、わたしたちの先祖が語つてきたことを受け入れませんでした。しかし今は、贖い主が将来来られるのを全人類が先見できること、また贖い主が御自分の造られたすべてのものを覚えていて、将来すべての人間に御自身を現されるということをわたしは知っています。

31 まことに、すべてのひざがかがみ、すべての舌が贖い主の御前で告白します。すべての人があなわぬ間に裁かれる終わりの日に、彼らは贖い主が神であられることを告白します。またそのとき、神に頼らずにこの世の中生きている者たちは、永遠の罰の裁きが自分たちにとつて公正であることを告白します。そして、彼らはすべてのことを見通す贖い主の目の下で震えおののき、縮み上がります。」

32 さて、アルマはこのとき以来、民を教え始めた。また、天使が現れたときにアルマと一緒にいた

者たちとともに、全地を旅して回り、自分たちの聞いたり見たりしたことすべての人に告げ、多くの難難の中で神の言葉を宣べ伝えた。そして、不信者がたちからひどい迫害を受け、彼らの多くから打たれた。

33 しかし、このような目に遭つたにもかかわらず、彼らは教員に大きな慰めを与え、彼らの信仰を強め、また、ひどい苦労をしながらも、寛容をもつて彼らに神の戒めを守るように勧めた。

34 これらの者のうちの四人はモーザヤの息子であり、その名をアンモン、アロン、オムナ、ヒムナイといつた。以上はモーザヤの息子たちの名である。

35 そして、彼らはゼラヘムラの全地を旅し、モーザヤ王が治めているすべての民の中を巡つて、自分たちがかつて教会に加えたすべての害悪の償いをしようと熱心に努め、自分たちのすべての罪を告白し、自分たちが見たすべてのことを告げ、また自分がたちの言葉を聞きたいと望んだすべての人々に、預言と聖文について解説した。

36 このようにして、彼らは神の手に使われる者と

31 ①モサ 2:38
モサ 16:1-2, 9-11,
ビリ 2:38
教義 88:104
ト ② GS GS 「アーモン・神会」
③ アル 41:11
裁き
④ GS GS 「アーモン・神会」
モーザヤの息子」

なつて多くの人おおひとを真理しんりの知識ちしきに導みちびき、まことに、贖あがながい主ぬしについて知しらせた。

37 なん 何と彼らは祝福されていることか。彼らは平和を告げて広め、善のよきおとずれを告げて広め、主が統治しておられるることを民に告げ知らせたからである。

第
28
章

モーサヤの息子たち、レーマン人に宣べ伝えに行く。
モーサヤ、二つの聖見人の石を使つてヤレド人の版を
訳する。紀元前約九十二年。

さて、モーサヤの息子たちはこれらのことをするべて終えた後、少數の人々を連れて、自分たちの父である王のもとに帰つた。そして、自分たちの選んだこれらの人々とともに、二ノアファイの地へ行き、同胞であるレーマン人に自分たちの聞いたことを宣べ伝え、神の言葉を告げることができるように、許可を与えてほしいと願つた。

2 それは、このようにすれば、レーマン人に主なる彼らの神のことを悟らせ、彼らの先祖の罪悪を

立証し、ニーファイ人じんに対する憎惡ぞうおをなくさせ、
主なる彼らかれらの神かみを信じて喜ばせ、互いに友好ゆうこうを深め
させて、またニーファイ人じんとレーマン人の両方りょうほうに、
対して主なる彼らかれらの神かみが与えてくださつた全地ぜんちに、
もはや争あらざいがないようになることができると思おもつた
からである。

さて、モーサヤの息子むすこたちは、救すくいがすべての
造られたものに告げしるし知しらされることを願ねがつた。彼ら
は、だれであろうと人が滅ほろびるのに耐えられなか
つたからである。まことに、無窮むきゅうの苦痛くつうを受け
人がいるとかんがえただけで、彼らは震えおののいた。
このように、主の御靈みたまが彼らに働きかけた。彼
らはかつて罪人つみびとの中なかでも最も罪深い者つかひであつた。
しかし主は、その限りない憐れみにより、彼らを
救うのが御心みこころにかなうとされた。それでも彼ら
は、自分たちの罪悪ざいあくのために心にひどい苦くるしみを
受け、とこしえに捨てられてしまうのではないか
と非常に悩み、心配こころばした。

そして彼らは、ニーファイの地ちへ行くことがで
きるよう、に、幾日いくじも父ちちに懇願こんがんした。

と非常に悩み、心配した。
5 そして彼らは、二ーフアイの地ちへ行くことがで
きるよう、いくにちも父ちちに懇願こんがんした。

6 そこでモーサヤ王は、息子たちをレーマン人の

中へ行かせて御言葉を宣べ伝えさせるべきかどうか、主に尋ねた。

「すると、主はモーサヤに言われた。「彼らを行かせなさい。多くの者が彼らの言葉を信じるからである。そして、彼らは永遠の命を得るであろう。また、わたしはあなたの息子たちをレーマン人の手から救い出そう。」

8 そこでモーサヤは、彼らの願いどおりにすることを許した。

9 そして、彼らは荒れ野に旅立ち、レーマン人の中で御言葉を伝えるために出かけて行つた。彼らが行ったことについての話は後に書き記す。

10 さて、モーサヤ王には王位を継ぐ者が一人もいなかつた。王の息子たちの中に、王位を受けたいと思う者がだれもいなかつたからである。

11 そこでモーサヤ王は、リムハイの民が発見し、リムハイの手から王に渡された金の版の記録を翻訳し、書き取らせた後、真鑑の版に刻まれた記録と、二ーファイの版と、神の命令に従つて王自身が守り、保存してきたすべてのものを取りまとめた。

12 彼がそうしたのは、彼の民がそれを切望したからである。彼らはすでに滅びてしまつた人々のこと非常に知りたいと思つた。

13 さて、彼は、弓形のものの両端にしつかり取り付けられたあの二つの石を用いて、それらを翻訳した。

14 これらのは世の初めから用意され、言語を解説するために代々伝えられたものであり、15 また、この地を所有するすべての者に、御自分民の罪悪と忌まわしい行いを明らかにするために、主が御自分の手により守り、保存してこられたものである。

16 そして、これらのものを持つ者は、昔言われたように聖見者と言われる。

17 さて、モーサヤがこの記録を翻訳したところ、見よ、それはすでに滅びた民についての話であつた。彼らが滅びたときからさかのぼつて、主が民の言葉を乱されて、民が全地の面に広く散らされた時代の大きな塔の建設に至るまでのこと、さらにその時代からさかのぼつて、アダムの創造に至るまでのことが書き記されていた。

18さて、モーサヤの民はこの話を聞いて非常に嘆き、まことに、悲しみでいっぱいになつた。しかし、それでも彼らはこの話から多くのことを知り、喜びも得た。

19そして、この話の中に書き記されることを知るのは、見よ、すべての人にとって望ましいので、この話は後に書き記すことにする。

20さて、前にあなたがたに述べたように、モーサヤ王はこれらのことを行つた後、真鑑の版と、自分が保存してきたすべてのものを取りまとめ、これらのものをアルマの子であるアルマに託した。また、すべての記録と解説器を取つて彼に与え、これらものを守り、保存すること、また民の記録を書き続けること、そして、リーハイがエルサレムを出たときから伝えられてきたように、今後も代々これらのものを伝えることを彼に命じた。

大祭司も務める。父アルマとモーサヤ、死ぬ。紀元前約九十二年から九十三年に至る。

1さて、モーサヤはこれを終えると、だれが民の王になるべきかについて民の気持ちを知りたいと思ふ、全地に、すなわち民の全員に自分の言葉を伝えた。

2そして、「わたしたちは王の子アロンが王となり、統治者となることを願っています」というのが民の声であつた。

3ところが、アロンはすでに二ーフアイの地へ行つた後であつたので、王は彼に王位を譲れなかつた。またアロンも、王位を受けることを望まなかつたであろう。さらに、モーサヤの息子たちの中に、王位を受けたいと思う者はだれもいなかつた。

4そこでモーサヤ王は、民にもう一度自分の言葉を伝えた。すなわち、自分の言葉を書き記した文書を民に送つた。その言葉は次のとおりである。

5「見よ、おお、わたしの民、わたしの同胞よ、わたしはあなたがたを同胞と思つてゐるので、考慮するよう求められている事柄について、よく考

モーサヤ、王の代わりにさばきつかさを選ぶことを提案する。不義な王は民を罪に陥らせる。息子アルマ、民の声によつて大さばきつかさに選ばれる。また、教会の

第 29 章

慮してほしい。あなたがたは王を持ちたいと願つてゐるからである。

6さて、あなたがたに告げる。王位を繼ぐ権利のある者は辞退し、王位を受けようとしている。

7もし彼の代わりにほかの者が任命されるならば、見よ、あなたがたの中に争いが起る恐れがある。

王位を繼ぐ権利のあるわたしの息子が後に怒つて、民の一部を率いるようにならないともかぎらない。そうなれば、あなたがたの中に戦争と対立が起ることで、多くの血が流され、主の道が曲げられる原因になり、また多くの人の靈が滅ぼされることになる。

8わたしはあなたがたに告げる。知恵をよく働かせて、これらのことによく考えよう。わたしたちに

せり、わたしの息子は、もし再び高慢になり、むなしに戻るならば、自分が前に言つたことを取り消し、王国に対する自分の権利を主張するであろう。そうなれば、わたしの息子もこの民もひどい罪を犯すことになる。

10そこでわたしたちは、知恵を働かせてあらかじめこれらのことを考え、この民の平和に役立つことを行うようにしよう。

11したがつて、わたしは余生をあなたがたの王として過ごすことにする。しかしわたしたちは、自分たちの法に従つてこの民を裁くさばきつかさを任命しよう。また、神の戒めに従つてこの民を裁く賢明な人々をさばきつかさとして選任し、この民の政務を新たに整えよう。

12さて、人は、神に裁かれる方が人に裁かれるよりもよい。神の裁きはいつも公正であるが、人の裁きは必ずしも公正でないからである。

13したがつて、もし神の律法を確立して、神の律法に従つてこの民を裁こうとする正しい人々を、王に持つことが可能であれば、まことに、もしもわたしの父ベニヤミンがこの民のために行つたように行おうとする人々を、自分たちの王に持つことができるならば、あなたがたに告げる、もしもこのようについてもできるのであれば、いつもあなたがたを治める王がいるのが望ましいであろう。

14そして、わたし自身、戦争や争い、盗み、略

奪、殺人、そのほかどのような罪悪も存在することのないよう、わたしの持つあらゆる力と知力を働かせて、あなたがたに神の戒めを教えようと、また全地に平和を確立しようと努めてきた。

15 また、わたしは罪悪を犯した者に、それがだれであろうと、わたしたちの先祖から与えられた法に従つて、その者の犯した罪科に応じて罰を与えてきた。

16 さて、あなたがたに告げる。すべての人は必ずしも正しくないので、あなたがたを治める王、あるいは王たちがいるのは望ましいことではない。

17 見よ、一人の悪い王が犯させる罪悪は何とひどいことか。また、滅亡の何と大きいことか。

18 まことに、ノア王を思い出しなさい。ノア王の悪事と忌まわしい行いと、また彼の民の悪事と忌まわしい行いを思い出しなさい。見よ、何と大きな滅亡が彼らに及んだことか。また彼らは、自分たちの罪悪のために奴隸の状態に陥つてしまつた。

19 もしも彼らが心から悔い改めて、全知の創造主の介在を受けなかつたならば、彼らは必ず現在まで奴隸の状態のままでいたに違ひない。

20 しかし見よ、彼らが主の御前にへりくだつたので、主は彼らを救い出された。また、彼らが主に熱烈に呼び求めたので、主は彼らを奴隸の状態から救い出された。このように、どの場合でも、主は人の子らの中で御自分の力をもつて働き、主に頼る者に憐れみの御腕を伸ばされる。

21 そして見よ、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたは罪深い王を退位させる場合、ひどい争いと多くの流血によらなければ、それができない。

22 見よ、罪深い王には罪悪を犯す仲間がいる。また彼は、身辺に衛兵を置き、自分よりも前に義をもつて治めてきた王たちの法を破棄し、神の戒めを足の下に踏みにじり、

23 新しい法律、まことに、自分の悪事にかなう法律を制定して民の間に発布し、その法律に従わない者はだれであろうと殺させ、自分に背く者にはだれであろうと軍隊を派遣して戦わせ、できればそれらの者を滅ぼそうとするからである。このように、不義な王はあらゆる義の道を曲げる。

24 さて見よ、わたしはあなたがたに告げる。このような忌まわしいことがあなたがたに及ぶのは、

23	22	20	18	17	15
①①	モ④③	アル	モサ	モサ	モサ
GS列	GS	ア3	テ6	モサ	モサ
「罪惡」	「信賴」	エ3	モサ	モサ	モサ
8	50	23	13	23	1
14	11	25	15	8	32
				10	9
				18	33
				15	16

望ましいことではない。

25 したがつて、あなたがたは、わたしたちの先祖から与えられた法に従つて裁かれるように、この民の声によつてさばきつかさを選びなさい。先祖によつて与えられた法は正しいものであつて、主の御手によつて先祖に授けられたものである。

26 さて、民の声が正しいことに反する事柄を望むのはまれであるが、民の少數が正しくないことを求めるのは度々あることである。したがつて、あなたがたは民の声によつて職務を果たすように留意し、それをあなたがたの法とすべきである。

27 そして、もしも民の声が罪悪を選ぶ時が来れば、それは神の裁きがあなたがたに下る時であり、神がこれまでこの地に報いを下してこられたように、あなたがたにひどい滅亡を及ぼされる時である。

28 さて、もしあなたがたにさばきつかさたちがいて、彼らが与えられている法に従つてあなたがたを裁かなければ、あなたがたは、彼らを上級さばきつかさに裁いてもらうことができる。

29 もし上級さばきつかさが義にかなつた判決を下

さなければ、あなたがたは下級のさばきつかさを集め、彼らに民の声に従つて上級さばきつかさを裁かせるようにしなさい。

30 わたしはあなたがたに、主を畏れてこれらのことを行うようにと命じる。わたしはあなたがたに、王を行ふようにと命じる。わたしはあなたがたに、王を持つことなくこれらのことを行ふように命じる。

31 見よ、わたしはあなたがたに告げる。過去の多くの人の罪は、彼らの王の罪悪によつて引き起こされた。したがつて、彼らの罪悪の責任は彼らの王の頭に帰する。

32 さて、わたしはもう一度とこの不平等がこの地に、特にわたしのこの民の中になることを願つている。この地が自由の地となり、わたしたちがこの地に住んでこれを受け継ぐことを、主が御心にかなうと見なしてくださるかぎり、またわたしたちの子孫が一人でもこの地の面に残つてゐるかぎり、すべての人が権利と特權を等しく享受できることを、わたしは願つてゐる。」

33 モーサヤ王は、ほかにも多くのことを民に書き

記し、義を守る王の直面するあらゆる試練と苦難、まことに、民のために感じる心の苦しみのすべて、民が王に訴える不平のすべてを彼らに明らかにし、また彼らにそれをすべて説明した。

34 また、モーサヤ王は彼らに、このよくなことはあつてはならないこと、責任は民の全体で分担して、すべての人が自分の責任を負わなければならぬことを告げた。

35 彼はまた、不義な王が治めるときに民が被る不利益、

36 まことに、不義な王のすべての罪悪と忌まわしい行い、またすべての戦争と争い、流血、盗み、略奪、みだらな行い、そのほか一々数え上げられないすべての罪悪について彼らに明らかにし、またこれらのことがあつてはならないこと、これらのことは明らかに神の戒めに反することを彼らに告げた。

38 そして、モーサヤ王がこれらのことを民に書き送つたところ、彼らは王の言葉が真実であると確信した。

39 国中のすべての人が平等な機会を得ることを非常に切望するようになつた。そして、すべての人が自分自身の罪の責任を喜んで負うことを説明した。そこで彼らは、自分たちに与えられた法に従つて裁く、さばきつかさとなるべき人々を、自分たちの声によつて選ぶため、国の方々で幾つかの集団を成して集まつた。そして彼らは、自分たちに与えられた自由を非常に喜んだ。

40 彼らはモーサヤ王への愛の気持ちをますます深め、ほかのだれよりも彼を敬つた。彼らは王のことを、利益すなわち人を堕落させるあの利得を追求する暴君とは思わなかつたからである。彼らは民から富を厳しく取り立てたことはなく、血を流すことなく、国内に平和を確立し、民があらゆる束縛から救い出されるようにしてきたからである。そのため、彼らは王を非常に、まことに計り知れないほど敬つた。

41さて、彼らは自分が治めるさばきつかさたち、すなわち法に従つて自分たちを裁くさばきつかさたちを任命した。彼らは國中でこれを行つた。

42 そして、アルマは最初の大さばきつかさに任命され、そこで彼らは、王を持とうとする望みを捨て、

されたが、彼は大祭司でもあつた。アルマの父はかれにその職を受け、教会の諸事全般に関する責にん任をゆだねていた。
 43さて、アルマは主の道を歩み、主の戒めを守り、義にかなつた裁きを行つたので、引き続き國中が平和であった。

44このようにして、ゼラヘムラの全地で、すなわち二ーフアイ人と呼ばれたすべての民の中で、さばきつかさの統治が始まつた。そして、アルマが最初のさばきつかさであり、大さばきつかさであつた。
 45さて、アルマの父は神の命令を果たし終えるまで生きて、八十二歳で死んだ。
 46そしてモーサヤも、在位の第三十三年に、六十歳で死んだ。リーハイがエルサレムを出たときから数えて五百九年になる。
 47このようにして、二ーフアイの民を治めた王たちの統治は終わり、また、民の教会の創設者であつたアルマの時代も終わつた。

43 ① GS 「歩む（神とと
もに）」
モサ 6:4

アルマ書

アルマの息子アルマの書

アルマの息子であり、ニーファイの民を治める最初のさばきつかさであり、大さばきつかさでもあります。教会の大祭司でもあつたアルマについての話。さばきつかさの統治と、民の中の戦争と争いについての話。ニーファイ人とレーマン人の間の戦争についての話。これは、最初のさばきつかさであり、大さばきつかさであったアルマの記録による。

第1章

二一ホル、偽りの教義を教え、教会を設立し、偽善売教を始め、ギデオンを殺す。二一ホル、罪科に応じて死し刑にされる。偽善売教と迫害が民の中に広まる。祭司たちは自活し、民は貧しい人々を助け、教会は栄える。紀元前約九十年から八十八年に至る。

1さて、モーサヤ王は善の戦いに従事し、神の前をまつすぐに歩み、自分に代わって統治する者をだれも残すことなく、世のすべての人の行く道を行つたが、世を去る前に法律を制定し、民がそれを承認した。したがつて、ニーファイの民を治めるさばきつかさの統治の第一年以降、民はモーサヤ王の定めた法律に従わなければならなかつた。
 2さて、アルマがさばきつかさの職に就いて治めた最初の年に、裁判を受けるために、彼の前に連れ出された一人の男がいた。その男は体が大きく、力が強いことで名高かつた。
 3彼は人々の中を巡り歩いて、自分で神の言葉と称したことを持て宣べ伝え、教会に圧迫を加え、また、祭司と教師は皆、人望を得るはずであつて、自分の手で働く必要はなく、人々によつて生活を支えられて当然であると宣言した。
 4彼はまた、全人類は終わりの日に救われるので、人は恐れる必要もおののく必要もない、むしろ頭をあげて喜ぶがよい、主がすべての人を造られ、すでにすべての人を贖つておられ、結局すべての人が永遠の命を得るからであると、人々に公言した。

5さて、彼はこれらのことをお多く教えたので、おおく
の者が彼の言葉を信じ、彼の生活を支え、金錢を彼
に贈るようになった。

6そこで彼は、高慢な心で高ぶり始め、非常に高価な衣服を身に着けるようになり、自分の説き教えることにかなう教会を設立するようにさせなつた。

7そして彼は、自分の言葉を信じる者たちに説教するために出かけて行く途中で、神の教会に属する者、すなわち教会の教師の一人に出会った。

8そこで彼はその人と激しく論争し、教会の人々を惑わそうとした。しかし、その人は彼に反論し、神の言葉をもつて彼を諭した。

9さて、その人の名はギデオンという。かつて、神の手に使われる者となつて、リムハイの民を奴隸の状態から救い出した人である。

10さて、ギデオンが神の言葉をもつて彼に反論したので、彼はギデオンに対し、腹を立てて、剣を抜いてギデオンに打ちかかつた。ところが、ギデオンは年を取りつていたので、その男が切りかかつてくるのに抗することができず、剣によつて殺されてしまつた。

それで、ギデオンを殺したその男は教会のひとびとに捕えられて、アルマの前に連れて行かれ、彼の犯した罪に従つて裁判されることになった。
11 そこで彼は、アルマの前に立つと非常に大胆に自己弁護をした。

12 しかし、アルマは彼に言つた。「見よ、この民のなかで偽善売教が起こつたのは、これが初めてである。見よ、あなたは偽善売教の罪を犯しただけではなく、剣によつてそれを強要しようとした。この民の中では偽善売教が行われれば、民は完全に滅びてしまうであろう。

13 また、あなたは義人、まことに、この民の中で多くの善を行つてきた人の血を流したので、もしわたしたちがあなたを赦したならば、彼の血が報復を求めてわたしたちに降りかかるであろう。

14 したがつて、わたしたちの最後の王モーサやかあとえられた法律により、あなたに死刑を宣告する。この法律はこの民によつて承認されたものであるから、この民はこの法律に従わなければならぬい。」

15 そして、人々は彼を捕らえた。彼の名は二一ホ

ルといった。そして人々は、彼をマンタイの丘の頂上に運んで行つた。そこにおいて彼は、自分が民に教えてきたことが神の言葉に反するものであつたことを、天地の間で白状させられた、いや、自分から認めた。そして、彼は不名誉な最期を遂げた。

16にもかかわらず、偽りを賣教^{きせんぱいきょう}が國中^{くにじゅう}ひろまるのはやまなかつた。俗世のむなしいものを非常に好む者が大勢^{おおぜい}いたからである。彼らは出て行つて偽りの教義^{ぎぎ}を宣べ伝えた。^{ひとみ}富と誉れを得ようとして、このように行つたのであつた。

17それでも、偽りを言う者は罰せられるので、彼らは法律を恐れて、あえて公然^{こうせん}とは偽りを言わなかつた。それで、自分の信条^{しあんじょう}に従つて教えを説いているふりをした。法律は、人の信条^{しあんじょう}について、はだれをも罰する力をを持たなかつたからである。

18また、盜みを働く者は罰せられるので、彼らは法律を恐れて、あえて盜みをしなかつた。彼らは死刑^{しけい}を殺す者は死刑に処せられたからである。

19しかし、神の教会に加わつていない者たちは、

神の教会に属してキリストの名を受けた人々を迫害し始めた。

20まことに彼らは、神の教会に属する人々を迫害し、あらゆる言葉で苦しめ悩ました。これは、教会の人々が謙遜^{けんそん}であり、彼らの目に高ぶりがなく、また金を出さず、代価^{だいか}を払わないで、互いに神の言葉を交え合つていただらである。

21さて、教会の人々の中には厳しい律法があり、教会に属している人は、教会に属していない人を苦しめてはならない、また互いに苦しめ合つてはならないとされていた。

22にもかかわらず、彼らの中には高ぶり、相手と激しく論争して殴り合いさえするようになつた者が大勢^{おおぜい}いた。まことに、彼らは互いにこぶしで殴り合つた。

23さて、これはアルマの統治第一年にあつたことで、教会がひどい苦しみに遭う原因となり、またそれに、ひどい試練^{しじん}を受ける原因となつた。

24それは、多くの者の心がかたくなであつたからである。そして、これらの者の名が消されたため、彼らはもはや神の民の中で思い出されることはなかつ

た。また、多くの者が自ら神の民のもとを去つた。²⁵さて、これは信仰にしつかりと立つてゐる人々にとつて大きな試練であつた。にもかかわらず、彼らは確固として動かず神の戒めを守り、また自分たちに加えられる迫害に辛抱強く耐えた。²⁶そして祭司たちが、神の言葉を民に告げるために仕事を休めば、民もまた神の言葉を聞くためには仕事を休んだ。そして、祭司たちが彼らに神の言葉を説く者を告げ終えると、彼らは皆、再び自分たちの仕事を戻り、熱心に働いた。教えを説く者は聞く者よりも偉いわけではなく、教える者は学ぶ者よりも偉いわけではないので、祭司は自分自身を自分の話を聞く者よりも優れているとは思わなかつた。²⁷また彼らは、各自自分の持つている分に応じて、貧しい者や乏しい者、病気の者、苦しんでいる者に自分の持ち物を分け与えた。彼らは高価な衣服を身に着けてはいなかつたが、その装いはござつぱりして麗しかつた。²⁸このように、彼らは教会の諸事を整えた。

た、あらゆる迫害にもかかわらず、彼らはまた引き続き平和を保つようになつた。²⁹さて、教員は堅実であつたので、非常に物持ちになり、自分たちが必要としたすべてのものを豊かに持つようになつた。すなわち、大小の家畜の群れや、あらゆる若い肥えた家畜、それに穀物や金銀や貴重な品々、また絹や、より糸で織つた亞麻布、あらゆる丈夫で素朴な織物、これらのものを豊かに持つようになつた。³⁰このようにして、彼らは裕福な暮らしの中で、着る物のない者や飢えている者、渴いている者、病気の者、栄養の足りない者を追い払うことがなかつた。また、彼らは富に執ることもなかつた。そのため、老いた者にも若い者にも、束縛された者にも自由な者にも、男にも女にも、また教会員であるなしの区別なく、助けの必要な人々については人を偏り見ることなく、すべての人間に物を惜しまなかつた。³¹このように彼らは栄え、教会に属していない者たちよりもはるかに裕福になつた。³²それは、教会に属していない者が魔術や偶像礼

24	25	26	27	28	29	30	31	32
アル	背信	GS	アル	モサ	モサ	モサ	モサ	モサ
46	7	GS	42	10	18	24	24	24
7	忍耐	GS	4	14	19	22	22	22

①教義 ②アル ③アル ④賛成 ⑤モサ
GS 35 16 14 19 19 19 19 19 19
「偶像礼拝」

拝にふけり、あるいは怠惰に浸り、また無駄話や
ねたみや争いにふけり、高価な衣服を身に着け、
高慢な目で高ぶり、迫害し、さらには偽りを言い、
盗み、強盗をし、みだらな行いをし、人を殺し、そ
のほかあらゆる悪事を行つたからである。しか
し、法律に背いた者にはすべて、できるかぎりそ
の法律が適用された。

33 そして、法律に背いた者には、その法律が適用
され、すべての者が自分の行つたことに応じて処
罰されたので、彼らは前よりも穏やかになり、あえ
て公然とこのような悪事を行おうとしたなかつた。
そのため、さばきつかさの統治第五年まで、二一
ファイの民の中は十分に平和が保たれていた。

1さて、さばきつかさの統治第五年の初めに、民
の中に争いが起つた。これは、アムリサイとい
う男のために起つたものである。この男は非常に
狡猾な男、まことに、俗世の知恵に関するいえば
賢い男であり、かつて剣でギデオンを殺し、法律
によつて死刑にされた男の教団に属していた。
2さて、このアムリサイは、悪知恵によつて多く
の人を引き寄せて自分につかせた。そして、その人
数が非常に多かつたので、彼らは大いに勢力を増
し、アムリサイを立てて民を治める王にしようとし
始めた。

3さて、これは教会の人々にとつても、また、ア
ムリサイの説得に引き寄せられなかつたすべての
人にとつても、憂慮すべきことであつた。法律に
よれば、このようなことは民の声によつて決めな
ければならないということを、彼らは知つていたか
らである。

4したがつて、もし民の支持を得るようにならなければ、アムリサイは邪惡な男であつたので、教会
の権利と特權を民から奪つつもりであつた。神の
教会を滅ぼすことが彼の目的であつたからである。
す。紀元前約八十七年。

第2章

32	①	②	③	④	⑤	GS	GS	GS	GS
4	①	②	③	④	⑤	アル	ヤコ	「愚昧」	「ねたみ」
ヒラ	アル	アル	アル	アル	アル	モサ	モル	モル	モル
5	4	5	6	7	8	29	28	25	23
2	10	16	17	18	19	27	28	25	23
19									

第2章

5さて、人々は國の至る所で各々思いのままに、アムリサイに味方する者と反対する者が分かれ集まつた。り、そこには、ひどい論争と驚くほど争いが見られた。

6このようにして、彼らは集まつてこの件について投票し、その投票をさばきつかさたちの前に置いた。

7そして、民の声はアムリサイに反対であつたので、彼は民を治める王になれなかつた。

8さてこれは、彼に反対であつた人々には大いに喜ばしいことであつた。しかし、アムリサイは自分に好意を寄せる者たちを扇動し、自分に好意を寄せない人々に対して怒りを抱かせた。

9そして、彼らは集まり、アムリサイを自分たちの王に任じた。

10さて、アムリサイは彼らを治める王になると、同胞に對して武器を取るよう命じた。彼は民を自分に従わせようとして、このように行つたのである。

11ところで、アムリサイの民はアムリサイの名で区別されて、アムリサイ人と呼ばれ、残りの者は二

ーファイ人、すなわち神の民と呼ばれた。

12ニーファイ人はアムリサイ人の意図を知つて、彼らと戦いを交える用意をした。まことに、彼らは剣と三日月刀、弓と矢、また石と石投げ、そのほかあらゆる武器で武装した。

13このように、彼らはアムリサイ人が攻めて来たときのために、彼らと戦いを交える用意をした。また、人数に応じて隊長と大隊長、連隊長が任命された。

14また、アムリサイもあらゆる武器で自分の兵を武装させ、自分の民をつかさどる統率官と指揮官を任命し、同胞と戦う指揮を執らせた。

15そしてアムリサイ人は、ゼラヘムラの地のそばを流れるシドン川の東にあるアムナナイフの丘にやつて来て、そこでニーファイ人と戦いを始めた。

16さて、アルマはニーファイの民の大さばきつかさであり、総督であつたので、自分の民とともに、すなわち隊長や連隊長たちとともに、まことに軍隊を率いて、戦うためにアムリサイ人に向かつて行つた。

17そして、彼らはシドン川の東の丘でアムリサイ人

16	15	12	11	5
①	②	①	②	①
モサル	オム	モサ	モサ	モサ
29	3	14	10	11
42	3	13	12	13
		8	4	14
		15		

を殺し始めた。しかし、アムリサイ人が非常な力でニーファイ人と戦つたので、多くのニーファイ人がアムリサイ人の前に倒れた。

18 それでも、主がニーファイ人の手を強くされたので、彼らはアムリサイ人を大勢殺し、アムリサイ人は彼らの前から逃げ始めた。

19 そこで、ニーファイ人は終日アムリサイ人を追撃し、多くの者を殺したので、アムリサイ人の戦死者は一万二千五百三十二人に及び、またニーフアイ人の戦死者も六千五百六十二人に及んだ。

20 そしてアルマは、もはやアムリサイ人を追撃できなくなると、民にギデオンの谷で天幕を張らせた。この谷は、ニーホルの手によつて剣で殺された。この谷は、ニーホルの手によつて剣で殺されたあのギデオンにちなんで名付けられた所である。この谷で、ニーファイ人はその夜天幕を張つた。

21 また、アルマは密偵遣をしてアムリサイ人の残りの者を追わせ、彼らの計画と陰謀を知ろうとした。そうすることによって、彼らに対する防備を固め、自分の民が滅びるのを防ごうとしたのである。

ハーリという名の者たちであつた。これらの者たちは、アムリサイ人の宿営をうかがうために、自分たちの兵を連れて出かけた。

23さて、その翌日、彼らは大いに驚き、またひどく恐れて、ニーファイ人の宿営に大急ぎで帰つて来て言つた。

24 「まことに、わたしたちはアムリサイ人の軍を追つて行きましたが、何とも驚いたことに、ニーフアイの地へ行く途中の、ゼラヘムラの地上に当たるマイノンの地で、レーマン人の大軍を見ました。」

まことに、アムリサイ人は彼らと連合して、います。そして、彼らはその地でわたしたちの同胞を襲い、同胞は家畜の群れと妻子を連れて、彼らの前をわたしたちの町を目指して逃げています。急がなければ彼らはわたしたちの町を占領し、わたしたちの父と妻子たちを殺してしまうことでしょう。」

26 そこでニーファイの民は天幕を携え、ギデオンの谷を出て、自分たちの町であるゼラヘムラの町へ向かつた。

27 そして見よ、彼らがシンドン川を渡つていたとき

27	26	24	20	19
① ② ③	① ② ③	① ② ③	① ② ③	① ② ③
ジオム 1 エロ 6 1 14 18	ニフ 5 14 8	アル 3 1 14 13 18	アル 6 1 7 15	アル 3 1 14 12

人とアムリサイ人が、彼らを滅ぼそうと襲いかかつて来た。

28 にもかかわらず、ニーフアイ人は主の手によつて強くされ、また彼らが敵の手から救い出されるようとに主に熱烈に祈つたので、主は彼らの嘆願を聞いて強くしてくださり、レーマン人とアムリサイ人は彼らの前に倒れた。

29 さて、アルマはアムリサイと一対一で、剣で戦つた。彼らは互に激しく戦つた。

30 そして、神の人であつたアルマは、強い信仰に鼓舞され、叫んで言つた。「おお、主よ、わたしを憐れんで命を助け、わたしがあなたの御手に使われるものとなつてこの民を救い、守ることができるよう者となつてこの民を救い、守ることができるようにしてください。」

31 さて、アルマはこのように言い終えると、再びアムリサイと戦つた。そして、アルマは強くされたので、剣でアムリサイを殺した。

32 彼はまたレーマン人の王とも戦つた。しかし、自分でアムリサイを殺した。

33 しかし、アルマは自分の衛兵とともにレーマン人

34 このようにして、彼はその地の、いや、シドン川の西の岸の妨げとなるものを一掃し、殺されたレーマン人の死体をシドンの水に投げ込んだ。そうすることによって、彼の民が川を渡り、シドン川の西側でレーマン人とアムリサイ人と戦う場所を得られるようにしたのである。

35 さて、彼らが全員川を渡り終えると、レーマン人とアムリサイ人は数え切れないほど大勢であつたにもかかわらず、彼らの前から逃げ始めた。

36 そして、レーマン人とアムリサイ人は、ニーフアイ人の前から、境の地のはるか向こう、西と北の荒れ野へと逃げ出したので、ニーフアイ人は力の限り彼らを追撃して殺した。

37 まことに、彼らは至る所で戦いを交え、殺され、追われ、西へ北へと散らされて、ついにハーモンツという荒れ野に行き着いた。そこは飢えた猛獸が群れを成して住んでいる荒れ野の一部であつた。

38 そして多くの者は、負傷していたためにその荒れ

野で死に、それらの獸や空を飛ぶはげたかに食われてしまつた。後に、彼らの骨が探し出されて、地上に積み上げられた。

第3章

アムリサイ人、預言された言葉のとおりに自分の身にしるしを付ける。レーマン人は背いたためのろいをすでに受けている。人は自分の招いたのろいを自分自身に受けれる。ニーファイ人、レーマン人のほかの軍隊を打ち破る。紀元前約八十七年から八十六年に至る。

リサイ人の多くは、シドンの水に投げ込まれたので、見よ、彼らの骨は今、海の深みにあり、その数は多い。

アムリサイ人はレーマン人に倣つて、額に赤いしるしを付けていたので、ニーファイ人と見分けることができた。しかし彼らは、レーマン人のように頭髪をそつてはいなかつた。

一方、レーマン人は頭髪をそつており、腰に皮をまとい、よろいを着け、弓と矢、石と石投げなどを持つてはいなかつた。

またレーマン人の肌は、彼らの先祖に付けられたしるしのとおりに黒ずんでいた。そのしるしは、先祖が戒めに背く、兄弟たちに背いたために受けたのろいであつた。また、その兄弟たちは、正しい聖なる人々であつたニーファイとヤコブ、ヨセフ、サムである。

これらの人々の兄たちは、これらの人々を滅ぼそうとしたために、のろわれたのであつた。主なる神が彼ら、まことにレーマンとレムエル、およびイスマエルの息子たちとイシマエル人の女たちにしるしを付けられたのである。

さて、武器によつて殺されなかつたニーファイ人は、殺された者たちを葬つた後、すなわち、殺された者はおびただしい数に及んだので、それを数えることもなく死体を葬り終えた後、彼らは皆、自分たちの土地、自分たちの家、自分たちの妻子のもとに帰つた。

2 ところが、多くの女と子供たちが殺されており、家畜の群れも多く殺され、また穀物畑の多くも軍隊に踏み荒らされていた。

3 さて、シドン川の岸で殺されたレーマン人とアム

8 そして、このことが行われたのは、彼らの子孫を
その兄弟たちの子孫と見分けられるようにするた
めであった。それによつて主なる神は、御自分の民
がのろいを受けた民と縁を結んで間違つた言い伝
えを信じ、滅びることがないように、彼らを守ろう
とされたのである。

9さて、自分の子孫をレーマン人の子孫と結婚させ
た者はだれであろうと、その子孫に同じのろいを招
いた。

10したがつて、レーマン人に惑わされた者はだれで
あると、その呼び名で呼ばれ、しるしを付けら
れた。

11そして、レーマン人の言い伝えを信じようと思
ふに、エルサレムの地から持つて来たあの記録と先
祖の正しい言い伝えを信じた者、神の戒めを信じて
守つた者はだれであろうと、そのとき以降、二ーフ
アイ人、すなわち二ーフアイの民と呼ばれた。

12そしてこの民は、自分の民とレーマン人の民につ
いての記録を書き継いでおり、その記録は眞実で
ある。

13さて、再びアムリサイ人のことに話を戻すと、彼
である。

らもまたしるしを付けた。まことに、彼らは自分
の身にしるしを、すなわち自分の額に赤いしるし
を付けた。

14このようにして、神の言葉は成就した。神がか
つて二ーフアイに言われた御言葉は次のとおりであ
る。「見よ、わたしはレーマン人をのろつた。わた
しは彼らにしるしを付けて、今より後とこしえに、
彼らと彼らの子孫が悪を悔い改めてわたしに立ち
返らないかぎり、あなたとあなたの子孫から区別さ
れるようになる。」

15そしてまた、わたしはあなたの兄弟たちと種を
交える者にもしるしを付け、彼らものろおう。

16そしてまた、わたしはあなたやあなたの子孫と
戦う者にもしるしを付けよう。

17そしてまた、あなたのもとを去る者は、もはやあ
なたの子孫と呼んではならない。わたしはあなた
と、またあなたの子孫と呼ばれる者たちを、これから
先とこしえに祝福しよう。」これは、二ーフアイ
と彼の子孫にあてた主の約束である。

18ところで、アムリサイ人はその額に自分でしるし
を付け始めたとき、自分たちが神の言葉を成就し

8	① GS 「結婚—異なつた信仰を持つ人の結婚」
②	モサ 10. 11 - 18.
アル 9.	アル 17. 9 - 11
エテ 4. 6 - 11	モサ 1. 6, 11
アル 3. 4 - 6	アル 17. 9 - 11
ニブ 30. 4 - 6	モサ 1. 6, 11
エテ 4. 6 - 11	モサ 1. 6, 11
アル 3. 4 - 6	アル 17. 9 - 11

ているのを知らなかつた。しかし、彼らは公然と神に背いた。したがつて、のろいが彼らに下つて当然であつた。

19さて、あなたがたは、彼らが自分自身にのろいを招いたということを知つてほしい。また、のろいを受ける者は皆、そのように自分自身に自分の罪の宣告を招くのである。

20さて、レーマン人とアムリサイ人によるゼラヘムラの地での戦闘の後、あまり日のたないうちに、レーマン人の別の軍隊がニーフアイ人の民を襲撃した。そこは、かつてレーマン人の最初の軍隊がアムリサイ人と合流した所である。

21そこで、彼らをその地から追い払うために軍隊が派遣された。

22さて、アルマ自身は負傷していたので、出て行つてレーマン人と戦うことはしなかつた。

23しかし、彼は大規模な軍隊を派遣した。そして、軍隊は出て行って多くのレーマン人を殺し、残りの者たちを境の地から外へ追い払つた。

24そして、彼らはまた帰つて来て、その後しばらく敵に悩まされなかつたので、国内に平和を確立

した。統治第五年に起つた。まことに、これらの戦争と争いはすべて、その年に始まって同じ年に終つた。

25さて、これらのことはすべて、さばきつかさの世に送られた。彼らはそこで、自分の行いが善いか、それとも悪いか、その行いに応じて報いを刈り取り、自分が従おうとした靈が善い靈であつたか、悪い靈であつたか、その靈に応じて永遠の幸福あるいは永遠の不幸を刈り取るのである。

26そしてその一年間に、何千何万という人々が永遠の世に送られた。彼らはそこで、自分の行いが善い灵であり、自分が従おうとした靈が善い靈であつたか、悪い靈であつたか、その靈に応じて永遠の幸福あるいは永遠の不幸を刈り取るものである。

27人は皆、自分が従おうとした者から報いを受けるものである。これは預言の靈の言葉によるものであるから、真理にかなつてそのようになるであろう。このようにして、さばきつかさの統治第五年が終わつた。

第 4 章

アルマ、改心した数千の人々にバブテスマを施す。罪悪が教会に入り込み、教会の発展が妨げられる。ニーフアイハ、大さばきつかさに任命される。アルマ、大祭司

27	26	22	20	19	18
② GS	① GS	① GS	① GS	④ ニフ	38、
アルモサ	ラ	アルモサ	アルモサ	アルモサ	アルモサ
5. 41	14. 29	16. 31	29. 33	21. 25	21. 25
42. 31	33.				

とての務めに専念する。紀元前約八十六年から八十三年に至る。

三千五百人に上つた。このようにして、ニーフアイの民のさばきつかさの統治第七年が終わり、その間は引き続き平和であつた。

さて、ニーフアイの民のさばきつかさの統治第六年には、^{ねん}
ゼラヘムラの地に争いも戦争もなかつた。^{とうじだい}
しかし、民は司はらからうしなひ、大小の家畜の群れを、^{たみ}^ち^{あらそ}^{せんそう}

失い、レーマンによつて足で踏みつらされて穀物畑を失つたので苦しんだ。

3すべての者が嘆き悲しんで当然なほど、彼らの受けた苦難はひどいものであつた。そして彼らは、自分たちの悪事と忌まわしい行いのために神にさばきがくだされたと思い、目覚めて自分たちの義務を思い起こした。

6さて、さばきつかさの統治第八年には、教会の
人々は次第に高慢になり始めた。それは、彼らが勤め
であることによつて得た非常に多くの富と織り
目の細かい絹と、より糸で織つた亞麻布と、大小の
多くの家畜の群れと、金と銀、あらゆる貴重な品々を
ためであつた。彼らはこれらのものに恵まれて
非常に高価な衣服を身に着けるようになり、高慢
な目をもつて高ぶつた。

4 そして彼らは、さらに完全に教会を確立する業に取りかかり、多く人がシドンの水でバプテヌマを受けて、神の教会に加えられた。彼らはアル

マの手によつてバプテスマを受けた。このアルマは、彼の父アルマの手によつて、教会の人々を見守る大祭司に聖任されていた。

さて、さばきつかさの統治第七年には、神の教會に加わつた者、バプテスマを受けた者は、およそ

9 このようにして、さばきつかさの統治第八年
 に、教会の人々の中にひどい争いが起つた。す
 なわち、ねたみ、争い、悪意、迫害、高慢があり、
 彼らの高慢は神の教会に属していな者の高慢よ
 りもひどかった。

10 このようにして、さばきつかさの統治第八年が終
 わつた。教会の悪事は、教会に属していな者たちにとつて大きなつまづきの石となり、そのため
 に教会の発展が鈍り始めた。

11 そして第九年の初めに、アルマは教会員の悪事を
 見た。また、教会員の良くない手本のために信
 仰心のない者たちが次々と罪悪を犯し、民の滅亡が
 訪れようとしているのも見た。

12 まことに彼は、人々の中にひどい不平等があ
 り、一部の者たちが高慢になつて高ぶり、ほかの者
 をさげすみ、乏しい者や着ぐるみのない者、飢えて
 いる者、渴いている者、病氣の者、苦しんでいる
 者に背を向けているのも見た。

13 さてこれは、人々の中に憂いをもたらした大きな
 原因であったが、その一方で、ある人々はへりくだ
 り、自分の持ち物を貧しい者や乏しい者に分け与

え、飢えている者に食物を与えるなどして、助けを
 必要としている者を助けており、さらにあらゆる苦
 難に耐えていた。彼らは預言の靈の示すとおりに、
 将來来るられるキリストを信じていたからである。

14 また彼らは、キリストの来臨の日を待ち望んで、
 罪の赦しを保ち、イエス・キリストの御心と力と死
 の縄目からの解放とによつて死者の復活がもたらさ
 れることを考へて、大きな喜びに満たされた。

15 さて、アルマは神に従う謙遜な人々の受けつい
 る苦難と、ほかの者たちが彼らに加える迫害と、
 民のあらゆる不平等を見て、非常に嘆いたが、そ
 れでも主の御靈は彼から離れなかつた。

16 アルマは教会の長老たちの中から一人の賢明な
 人を選び、民の声によつて彼に権限を授けて、彼
 がすでに定められてゐる法律に添う法律を制定す
 る限りと、また人々の悪と罪科とに応じてその法
 律を適用する権限を持つてゐるようにした。

17 さて、この人の名はニーフアイハといつて、大さ
 ばきつかさに任命された。そして、彼は人々を裁判
 し、また治めるために、さばきつかさの職に就いた。

17	16	15	14	13	12	11	9
①	②	①	①	②	①	①	①
アル	アル	教義	「義認」	アル	コ	ヤコ	「争い」
50	1	GS	「喜び」	モサ	2	イザ	サ
37	1	28	「逆境」	35	12	11	下
14	3	27	GS	4	17	3	ねたみ
18	7	49	モサ	26	12	14	「」
		20	10				

に授けることなく、さす
大祭司の職は自分で保有し、さ

ばきつかさの職だけをニーフアイハに譲つた。
19 彼がこのようにしたのは、彼自身が民の中に、
すなわちニーフアイの民の中に出て行つて、人々に
神の言葉を宣べ伝えて、彼らの義務を思い起こす
ようになつたため、また人々の中にあるあらゆる高慢と
悪巧みと争いを、神の言葉によつて取り除くた
めである。それは、純粹な証をもつて責めるほか
に、人々を改心させる方法がないことを知つてい

20 このように、ニーファイの民のさばきつかさの系統
ちだい ねん はじめに、アルマはニーファイハにさば
治第九年の初めに、アルマはニーファイハにさば
きつかさの職を譲り、自分はひたすら神のかみの聖なる位
きつかさの職を譲り、自分はひたすら神のかみの聖なる位
の②大いさいしの大祭司に専念し、啓示と預言の靈に従つて
の②大いさいしの大祭司に専念し、啓示と預言の靈に従つて
御言葉を証した。
みことばあかし

かみ
神の聖なる位による大祭司であるアルマが、
まち
の町と村で人々に告げた言葉。

次の第五章から始まる。

第5章

救いを得るために、人は悔い改めて戒めを守り、再び生まれ、キリストの血によつて衣を清め、へりくだつて高慢とねたみを除き去り、きの業わざをおこななければならぬ。良い羊飼いは御自分の民を呼び集められる。悪い行いをする者は悪魔の子である。アルマ、自分の語るの意味が眞実であることを証し、人々に悔い改めるのようになんじる。義人の名は命の書に書き記される。紀元前約八十年。

さて、アルマは最初にゼラヘムラの地で、その後、国内の至る所で、人々に神の言葉を告げ始めた。アルマ自身の記録によると、彼がゼラヘムラの町に設けられた教会で人々に語つた言葉は、次のとおりである。

3 「わたしアルマは、父アルマによつて神の教會の大祭司に聖任された。父はこのことを行う力と権能を神から授かつていたからである。見よ、わたしはあなたがたに言う。父は二ーフアイの地のまことに、モルモンの地と呼ばれた所で教会の設立

に取りかかり、モルモンの泉で同胞にバプテスマを施した。

4 そして見よ、わたしはあなたがたに言う。彼らは神の憐れみと力により、ノア王の民の手から救い出された。

5 そして見よ、その後、彼らは荒れ野でレーマン人(じん)の手によつて奴隸の状態となつた。あなたがたに言う。まことに、彼らは囚われの状態にあつたが、再び主は御言葉(ことば)の力によつて彼らを奴隸の状態から救い出された。そしてわたしたちはこの地に導かれ、この地でも至る所に神の教会を設立するようになつた。

6 さて見よ、今この教会に属している同胞よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは、先祖(せんそ)が囚われの状態にあつたことをよく覚えているか。先祖(せんそ)に対する神の憐れみと寛容をよく覚えているか。また神が彼らを地獄から救い出されたことをよく覚えているか。

7 見よ、神は彼らの心を改めさせ、彼らを深い眠りから覚ませたので、彼らは目覚め、神に従つた。見よ、彼らはかつて暗闇のただ中にいたにもかからなかった。彼らはかつて暗闇のただ中にいたにもかからなかった。

かかわらず、後に永遠の御言葉の光に照らされるようになつた。まことに彼らは死の繩目と地獄の鎖に縛られ、永遠の滅びが彼らを待ち受けていた。

さて、わたしの同胞よ、わたしはあなたがたに言へる。彼らは滅ぼされたか。見よ、あなたがたに言う。いや、滅ぼされなかつた、と。

わたしはまた尋ねる。死の繩目は断たれ、彼らを縛つていた地獄の鎖は解かれたか。わたしはあなたがたに言う。そのとおり、死の繩目と地獄の鎖は解かれ、彼らの心は広がり、彼らは贋いをもたらした愛について歌つた。彼らは今、救われている、

わたしはあなたがたに言う。

それであなたがたに尋ねるが、彼らはどのような条件で救われてるのであろうか。まことに、彼らは何を根拠にして、救いを望むことができたのであろうか。彼らが死の繩目と地獄の鎖から解かれた理由は何であろうか。

見よ、わたしはあなたがたに告げることができる。父アルマは、アビナダイの口から告げられた御言葉を信じなかつたか。アビナダイは聖なる預言者ではなかつたか。彼は神の御言葉を語らなかつた。

11	10	7	5	4
① 救	① 教	② ① ② 24	① ①	
モい」	GS 138	義 ア モ も サ	モ サ	
サ	「 ル サ サ サ	モ サ サ		
17	贖 23 12 15 24	15	23	23
—	11 8 17	37	1	
—			39	3
4				

つたか。^{ちち}父アルマはそれを信じなかつたか。

た。見よ、わたしはあなたがたに言う。このことはすべて眞実である。

13 そして見よ、父はあなたがたの先祖に御言葉を宣べ伝え、彼らの心の中にも大きな変化が生じた。

そして、彼らはへりくだり、まごとの生ける神様に信頼を寄せた。そして見よ、彼らは最後まで忠実であつたので、救われたのである。

に尋ねる。あなたがたは神から生まれてい
るか。あなたがたの顔に神の面影を受けて
いるか。あなたがたは心の中に、この大きな変化を経験

15 あなたがたは、自分たちを造られた御方の贋あかないを信じる信仰を働かせているか。あなたがたは信仰の目をもつて待ち望み、この死すべき体がよみがえつて不死のものとなり、この朽ちるものがよみがえつて朽ちないものとなつて、死すべき体にあつてなした行いに応じて裁さばかれるために神の御前に立つてある様を見ていらるか。

わたしはあなたがたに言う。あなたがたはその日、『祝福された者たちよ、わたしのものとて來なさい。見よ、地の面でのあなたがたの行いは義の業であつた』と言われる主の声を聞く自分自身を、今、心に描くことができるか。

17 それとも、あなたがたが今、心に描いているのは、その日主に向かって偽りを言い、「主よ、地の面おもてでのわたしの行おこないは義ぎにかなつた行おこないでした」（おこな）」（おこな）と語しゃべつて、主から救えいを得じぶんようとし、自分自身じぶんじしん」

であろうか。

どは自分の犯したすべての悪をことごとく思
い出し、まことに、神の戒めを無視してきたことを
おもい起こしながら、罪悪感と悔恨の情にさいなま
れながら、神の裁きの座に連れ出される自分自身
を、今、心に描くことができるであろうか。

19 わたしはあなたがたに言う。あなたがたはその日、純真な心と清い手をもつて神を仰ぎ見ることができるか。あなたがたに言うが、あなたがたは、自分の顔に神の面影を刻まれた有様で仰ぎ見るこ

とができるか。

19	18 17 16	15	14	13 12
① アモ 2	① ① ① ③ ②	す ① GS モモ ② GS モモ ① ④ ③ 教義	モ GS ② ① ①	
ルサニ	ニエ 3 マ GS GS	セガ「改宗」	「ル」 20 GS モモ GS 20 ルサ	
1 11 3	ラフニエ 25 タ「最後話」	セサ 6 5 2 8 11 「再び、生まれる」	「再び、27 基督」 19 「信頼」 19 9 18 「改宗」	
ハ 43 25	20 14 14 31 「復活」	セサ 6 5 2 8 11 「再び、生まれる」	「再び、27 基督」 19 「信頼」 19 9 18 「改宗」	
3 :	14, 43, 21 46 「裁き」	セサ 6 5 2 8 11 「再び、生まれる」	「再び、27 基督」 19 「信頼」 19 9 18 「改宗」	
1	23	セサ 6 5 2 8 11 「再び、生まれる」	「再び、27 基督」 19 「信頼」 19 9 18 「改宗」	
3		セサ 6 5 2 8 11 「再び、生まれる」	「再び、27 基督」 19 「信頼」 19 9 18 「改宗」	

20わたしはあなたがたに言う。あなたがたは、たとえ自分の身をゆだねて悪魔の手下になつたとして救われる、と考えているだろうか。

21わたしはあなたがたに言う。あなたがたが救いを得られないことは、その日に分かるであろう。だれも衣を白く洗い清められないかぎり、救いを得られないからである。まことに、人の衣は、わたしたちの先祖がこれまで語つてきた御方の血によつて、すべての汚れがきれいになるまで清められなければならない。その御方は、御自分の民を罪から贖うために必ず来られる。

22そこで、わたしの同胞よ、わたしはあなたがたに尋ねる。あなたがたの中で血とあらゆる汚れで汚れた衣を着たまま神の法廷に立つ人がいるとすれば、その人はどのように感じるであろうか。見よ、それらのものは、あなたがたについてどのような不利な証言をするであろうか。

23見よ、それらのものは、あなたがたが人殺しであること、また、あらゆる悪事を犯した者であることを証言しないであろうか。

24見よ、わたしの同胞よ、あなたがたはこのようないい人が、今清められていて染みのない、清くて白い衣を着ているアブラハム、イサク、ヤコブ、そのほかすべての聖なる預言者とともに、神の王国で座に着く場所を得られると思うか。

25わたしはあなたがたに言う。それは得られない。あなたがたがわたしたちの創造主を世の初めから偽り者としないかぎり、または世の初めから偽り者としないかぎり、このようないい。あなたがたがわたしたちの創造主を世の初めから偽り者であると思わないかぎり、このようないい。人々が天の王国で住む場所を得られるとは思えない。かえつて、このような人々は悪魔の王国の子であるから、追い出されるであろう。

26さて見よ、わたしの同胞よ、わたしはあなたがたに言う。もしあなたがたが心の変化を経験しているのであれば、また、贖いをもたらす愛の歌を歌おうと感じたことがあるのであれば、今でもそのように感じられるか尋ねたい。

27あなたがたは、罪のない状態で神の御前を歩んできたか。あなたがたは、もし今死ぬように召されたとして、心の中で自分は十分にへりくだつていてと言えるであろうか。また、自分の衣は、将来御自分の民を罪から贖うために来られるキリスト

27	26	25	24	23	22	21	20
③②①	①②①	①①	①②	①③	3	アル	モサ
GS る	GS 20	モア	GS 2	ルカザ	1 GS	モサ	1 GS
「贖い、贖う」	「義認、義とさ	モル	ニフ	イザ	「汚され」	27	数2
「義認、義とさ	34	サ	9	13	19	11	12
「贖い、贖う」	12	13	9	13	20	13	10
	31	4	28	12	3	13	
			13	59	59	27	
			12	13	19	11	
			9	9	13	12	

の血によつて清められ、白くされていと言えるであらうか。

28 見よ、あなたがたは高慢な心を取り去つてゐるか。わたしはあなたがたに言う。もし取り去つていなければ、神にお会いする用意ができるでない。見よ、あなたがたは早く用意をしなければならない。天の王国はすでに近く、このような人は永遠の命を得られないからである。

29 見よ、わたしは言う。あなたがたの中にねたみを取り去つていない人がいるか。わたしはあなたがたに言う。このような人は用意ができていないので、早く用意をしてほしい。時は近づいており、いつその時が来るか分らないからである。そして、このような人は罪がないとは認められない。

30 また、わたしはあなたがたに言う。あなたがたの中に自分の兄弟をあざけつてゐる人、あるいは兄弟に迫害を加えている人がいるか。

31 このような人は、用意ができていないので災いである。悔い改めなければならない時が近づいていある。悔い改めなければ救われないのである。

32 まことに、罪悪を行ふ人はすべて災いである。

『悔い改めよ。悔い改めよ』と主なる神は言われた。33 見よ、主はすべての人を招き、憐れみの御腕を伸べて、『悔い改めよ。そうすれば、わたしはあなたがたを受け入れよう』と言われる。

34 まことに、主は言われる。『わたしのもとに来なさい。あなたがたは命の木の実を食べるであろう。あなたがたは儉なしに命のパンを食べ、命の水を飲むであろう。

35 まことに、わたしのもとに来て、義の業を行ひなさい。そうすれば、あなたがたは切り倒されて火の中に投げ込まれることはない。

36 見よ、良い実を結ばない者、すなわち義の業を行わない者の嘆き悲しむ時が近づいている。』

37 おお、罪悪を行ふ人々よ。俗世のむなしいものと誇る人々よ。義の道を知つていると公言しながら、羊飼いがこれまでも、また現在も呼んでおられるにもかかわらず、その声を聽こうとしないで、まるで羊飼いのいない羊のように迷つてゐる人々よ。

38 見よ、あなたがたに言う。良い羊飼いはあなたがたを呼んでおられる。しかも御自分の御名、す

38	37	36	33 32 30 29 28
①モサ GS 「良い羊飼い」	②イザエル	③アルエレ	④マタタク
28 ⑤④ GS 14 14	29 ⑥④ GS 12 9	30 ⑦④ GS 12 7	31 ①④ GS 3 2 2 2 2
④④ GS 14 14	31 ⑧④ GS 12 9	32 ⑨④ GS 12 8	33 ⑩④ GS 3 2 2 2 2

なわちキリストの御名によつてあなたがたを呼んでおられる。もしあなたがたがその良い羊飼いの声を、将来その名によつてあなたがたが呼ばれるそこの御名を聽こうとしないならば、見よ、あなたがたはその良い羊飼いの羊ではない。

さて、もし良い羊飼いの羊でなければ、あなたがたは何の羊の群れに属してゐるのであろうか。見よ、わたしはあなたがたに言う。悪魔があなたがたの羊飼いであり、あなたがたは悪魔の羊の群れに属してゐる。これを否定でける者がだれかいるであろうか。見よ、わたしはあなたがたに言う。これを否定する者は偽り者であり、悪魔の子である。

わたしはあなたがたに言う。善いものは何であろうと神から出で、悪いものは何であろうと悪魔から出るからである。

したがつて、人がもし善い行いをするならば、その人は良い羊飼いの声を聞き、良い羊飼いに従う。しかし、悪い行いをする者はだれであろうと、悪魔の子になる。悪魔の声を聞き、悪魔に従うからである。

そして、このように行う者はだれであろうと、悪く

魔から報いを受ける。したがつて、このような者はすべての善い行いに對して死んだ有様になるので、義にかかわることについて報いとして死を受けるのである。

さて、わたしの同胞よ、わたしの言うことを聞いてほしい。わたしは心を込めて語つており、またあなたがたが誤解しないように、見よ、分かりやすく語つてきた。すなわち、神が命じられるままに語つてきた。

わたしは、キリストなるイエスにある神の聖なる位に従つて、このように語るよう召されてゐるからである。まことに、わたしは、将来起ることについて先祖が語つてきたことを、立つてこの民に証するよう命じられている。

そしてこれだけではない。あなたがたは、わたし自分がこれらのことについて知つてゐることに気づかないのか。見よ、わたしは、自分が語つてきたこれらのことが眞実であることを知つてゐる。あなたがたは、わたしがどのようにしてこれらのことが確かであるのを知つたと思うか。

見よ、わたしはあなたがたに言う。これらのこと

45	44	42	41	40	39	38
① GS ③ ② 教義	① GS ③ ② 教義	ア ル 11	モ ロ 7	モサ 5	ルカ 16	18 ②
ヒラ 29	ア ル 3 23 16	モサ 11	モ ロ 4	モサ 10	マタ 6	モサ 31 ③
「証」13 竜 6 16 23	モサ 16 17	モ ロ 12 12	モ ロ 9	モサ 12	マタ 6 24	モサ 5 8
6 「」18	モサ 27	モ ロ 14	モ ロ 15	モサ 16	マタ 6 13	モサ 14 20
	モサ 5	モサ 14	モサ 15	モサ 17	マタ 6 13	モサ 14 20
	モサ 20	モサ 16	モサ 17			

は、神の聖なる御靈によつてわたしに知らされているのである。見よ、わたしは自分でこれらのこととしを知ることができるように、幾日もの間、断食をして祈つてきた。そして、これらのこととが眞実であるのを、わたしは今、自分自身で知つてゐる。主なる神が神の聖なる御靈によつてこれらのこととをわたしに明らかにされたからである。わたしの内にあらる啓示の靈によつて知らされたのである。

47 さらに、あなたがたに言う。先祖が語つてきたこと葉が眞実であることは、わたしの内にある預言の靈によつてもわたしに示された。これはまた、神の御靈の現れによるものである。

48 わたしはあなたがたに言う。将来起ることにつけられることは、何事もすべて眞実であると、わたしは自分で知つてゐる。わたしはあなたがたに言う。わたしはイエス・キリストが将来来られることを知つてゐる。イエス・キリストは御子、すなわち御父の独り子で、恵みと憐れみと真理に満ちておられる。見よ、世の罪、まことにその御名を確固として信じるすべての人の罪を取り除くため来られるのは、この御方である。

49 わたしはあなたがたに言う。まことに、わたしの愛する同胞とこの地に住むすべての人に教えを説き、まことに、老いた人にも若い人にも、束縛された人にも自由な人にも、まことに、老人にも中年人にも青年にも、すべての人に教えを説き、まことに、彼らに悔い改めて再び生まれなければならぬことを叫び求める事、これが、わたしが召された位である。

50 まことに御靈は言われる。『地の果てに至るすべての者よ、悔い改めよ。天の王国はもう近い。まことに、神の御子は、栄光、威勢、尊嚴、力を主權を帶びて来られる。』まことに、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなたがたに言う。御靈は、『見よ、全地の王であり、また天の王でもある御方の栄光が、間もなくすべての人の子らの中に輝き渡る』と言われる。

51 御靈はまたわたしに語り、まことに、力強い声でわたしに叫んで、『出て行つてこの民に、「悔い改めよ。悔い改めないかぎり決して天の王国を受け継ぐことはできない」と言ひなさい』と言われるのである。

51 ① GS 「イエス・キリスト」
② GS 「天」

49 ① GS GS GS 「断食」
② GS GS GS 「召し」
③ GS 「神の召し」
④ GS 「イエス・キリスト」
トの再臨
〔詩篇24篇、マタ2:2、ルカ23:2、2二福音10:14、教義38:21、22、128:22、53、モセ7:23、〕

52 またわたしはあなたがたに言う。御靈は言われる。『見よ、^{①おの}斧は木の根元に置かれている。したがつて、良い実を結ばない木はことごとく切り倒され、火の中に、まことに燃え尽きることのない火、すなわち消すことのできない火の中に投げ込まれる。見よ、聖者がこのように言われたということをよく覚えておきなさい。』

53 さて、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたはこれらの御言葉に反^{はん}する。あなたがたの心を高慢にして誇^{ほこ}ることができるか。まことに、これらのことを行^{おこ}なすことができるか。まことに、足の下に踏みつけることができるか。まことに、服を着て、俗世のむなしいもの、自分の富に執着し続けるつもりか。

54 まことに、あなたがたはこの後もなお、自分はほかの者よりも優れていると思^{おも}い続けるつもりか。まことに、へりくだり、神の聖なる位に従^{したが}つて歩む同胞を、迫害し続けるつもりか。その同胞は、神の聖なる位によつてこの教会に導かれ、聖なる御靈によって聖められており、そして今、悔い改めに

ふさわしい行いをしている。
55 また、あなたがたはこの後もなお、貧しい人や
乏しい人に背を向け、彼らにあなたがたの持ち物を
あたへた。
56 最後に、自分の惡の中にとどまるつもりのすべて
の人に言う。これらの人々は、すぐに悔い改めない
かぎり、切り倒されて火の中に投げ込まれてしまう
であろう。
57 さて、良い羊飼いの声に従いたいと望んでいる
すべての人に、わたしは言う。悪人から去り、離
れ、彼らの清くないものに触れてはならない。見
よ、悪人の名は消され、義人の名の中には数えられ
ない。それは神の御言葉が成就するためである。
神は言われる。『悪人の名が、わたしの民の名とど
もに並べられることはない。

58 義人の名は命の書に書き記されるからである。
わたしは義人に、わたしの右において受け継ぎを
授ける』と。さて、わたしの同胞よ、あなたがた
はこれに對して、何か反論することがあるであろ
うか。わたしはあなたがたに言う。たとえ反論し
たとしても、大したことはない。神の御言葉は必

じょうじゅ

59 お多く
お多くは、羊を飼つてゐるとき、おおかみが入つてき
て、羊の群れを食ひ尽くすことのないよう、羊の
番をしない羊飼いがあなたがたの中にいるであろ
うか。そして見よ、おおかみが羊の群れの中に入つ
て来れば、羊飼いはそのおおかみを追い払わない
であろうか。そして最後に、できれば羊飼いは、
そのおおかみを殺すであらう。

さて、わたしはあなたがたに言う。良い羊飼いはいま、あなたがたを呼んでおられる。あなたがたがそこの声を聴くなれば、良い羊飼いはあなたがたを御自分で羊の群れに導き入れ、あなたがたは良い羊飼いの羊になる。また良い羊飼いは、あなたがたが減るごとのないように、飢えたおおかみをあなたがたの中に決して入れてはならないと、あなたがたに命じておられる。

61 さて、わたしアルマは、あなたがたに語つてきました
言葉を、わたしに命じられた御方の御言葉のとおり
実行するように、あなたがたに命じる。

62 わたしは教会に属しているあなたがたに、これらのことを命令として告げる。そして、教会に属

第6章

していな**い人々**には、**招きの言葉**として次のように
い**う。『あなたがたも命の木の実を食べる者となれ**
るように、**来て、悔い改め**のためのバプテスマを受けなさい』と。」

さて、アルマはゼラヘムラの町に設けられた教会の人々に詔り終えると、神の位に従つて、挨拶により、教会を管理し見守る祭司たちと長老たちを聖任した。

2 そして、教会に属していない者たちの中なかで、罪つみを悔くい改あらためた者は、悔くい改あらためのためのバプテスマを受け、教会に受け入れられた。

3 そして、きょうかいに属していながら自分の悪事を
い改めず、神の前にへりくだらない者、すなはち高ぶる者ほど拒まれて、
慢な心で高ぶる者はだれであろうと、拒まれて、
その名は消され、彼らの名は義人の中に数えられた。

かつた。

4 このようにして祭司たちと長老たちは、ゼラヘムラの町で教会の秩序を確立するようになった。さて、あなたがたは神の言葉がすべての人に自由に与えられたこと、神の言葉を聞くために集会をする特権が、だからも奪われなかつたことを理解してほしい。

5 それでも神の子たちは、しばしば集まって、神を知らない者たちの幸いのためにともに断食し、熱烈に祈るように命じられた。

6 さて、アルマはこのように整え終えると、彼らのもとを、まことに、ゼラヘムラの町にある教会を去り、シドン川の東に渡つてギデオンの谷へ行つた。二ホルの手によつて剣で殺された、ギデオンの名にちなんで名付けられたこの谷には、ギデオンの町という一つの町があつた。

7 そして、アルマはそこへ行き、彼の先祖が語つた言葉が眞実であることを告げる啓示に従つて、また彼の内にある預言の靈に従つて、さらに、御自分で自分の民を罪から贖うために来られる神の御子イエス・キリストの証と、彼が召された聖なる位によつて、ギデオンの谷に設けられている教会に神の

言葉を宣言した。書き記されているのは以上のとおりである。アーメン。

アルマがギデオンに住む民に告げた言葉。これはアルマ自身の記録による。

次の第七章がそれに相当する。

第 7 章

キリストはマリヤからお生まれになる。キリストは死の縄目を解き、御自分の民の罪を負われる。悔い改めてバブテスマを受け、戒めを守る者は、永遠の命を得る。汚れた者は神の王国を受け継ぐことができない。謙遜と信仰、希望、慈愛が求められる。紀元前約八十三年。

1 「見よ、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなたの内にある機会を得たので、わたし自身の言葉で、まことに、わたしの口からあなたがたに話をしたいくつとも思つた。わたしにはあなたがたのもとに来られないほど多くの務めがあり、さばきつかさの職

にすっかり掛け切りになっていたので、直接あなたがたに語るのはこれが初めてである。

2 また、もしもさばきつかさの職を、わたしに代わって治めるほかの人に譲れなかつたとしたら、

わたしはこの度も来られなかつたであろう。しかしこ
主は、深い憐れみをもつて、わたしがあなたがた

のものに来られるようにしてくださいました。

三まだ見よ
わたしはあなたかたが神の御前にへり
くだり、神の恵みを懇願し続けていること、あなた
かみ みまえ つみ す

がたが神の御前に罪のないこと、ゼラヘムラに住んでいる同胞が陥っているひどい苦境にあなたがたはからからおもい

が陥つていなないこと、これらのことを探りたいと
いう大きな期待と深く、希望を抱いてやって来た。

4 神の御名をほめたたえまつる。ゼラヘムラに住んす

とを、神はわたしに知らせてください、まことにそ
うして、おおよろこびあつた

れによって、非常に大きな喜びをわたしに与えてくださったからである。

5わたしは、自分の内にある神の御靈によつて、あなたがここついても喜べるであらうと確言して、

る。しかしわたしは、あなたがたについての喜び

が、ゼラヘムラの同僚^{はらから}のことで感じたような、ひどい苦しみと悲しみの末に得られるものでないことを願つてゐる。見よ、彼らについてのわたしの喜びは、ひどい苦しみと悲しみに耐え抜いた末に得られたものだからである。

6 しかし見よ、わたしは、あなたがたが同胞のよう
にひどい不信仰な状態にないことを確信してい

る。わたしは、あなたがたが高慢な心で高ぶつてい
まいにこまへる。

ないことを確信している。まことにあなたがたか
とみ ぞくせ しゆううちやく
富や俗世のむなしいものに執着していないこと

を、わたしは確信している。まことに、あなたがたが偶像を礼拝しておらず、まことの生ける神を礼

拜していること、そして、永遠の信仰をもつて、
尋ねる
うえうれる自分の罪の赦しを待ち望んでいる

ことを、わたしは確信している。

「見よ、わたしはあなたがたに言う。将来多くのことがある。そして見よ、それらのどれよりも重

要なことが一つある。見よ、贖い主が命を得て、御
自分の民の中に来られる時は遠くない。

8 見よ、贖い主が御自分の死すべき幕屋に宿つて

おられるときにわたしたちの中に来られるとは、

わたしは言わない。見よ、御靈はそのようにはわたしに言われなかつた。今わたしは、このことについては知らない。しかし主なる神が、御自分の御言葉のとおりにすべてのことを行つ力をお持ちであるということ、これについてわたしは知つてゐるといふ

た。しかし見よ、御靈はわたしにこれだけを言われ
た。この民に叫んで言いなさい。⁽¹⁾悔い改めよ。⁽²⁾
の道を備えよ。まつすぐな主の道を歩め。見よ、天
の王国は近づいており、神の御子は地の面に来ら

10 そして見よ、神の御子は、わたしたちの先祖の地であるエルサレムで、マリヤからお生まれになる。マリヤは聖靈の力により覆われて身ごもり、男の子、まことに神の御子をもうけるおとめであつて、尊い選ばれた器である。

11 そして神の御子は、あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。これは、神の御子は御自分の民の苦痛と病を身に受けられるという御言葉が成就する

12 また神の御子は、御自分の民を束縛している死の繩目を解くために、御自身に死を受けられる。ま

た神の御子は、肉において御自分の心が憐れみでたされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることがで、彼らの弱さを御自分に受けられる。

さて、御靈はすべてのことを御存じである。にもかかわらず、神の御子は御自分の民の罪を負い、御自分の解放の力によつて彼らの背きを取り消すために、肉において苦しみを受けられる。さて見よ、これがわたしの内にある証である。

14さて、わたしはあなたがたに言う。あなたがたは悔い改め、^①再び生まれなければならぬ。再び生まればならない。^②あなたがたは罪から洗い清められ、神の小羊を信じる信仰を持てるよう、やつて来て、悔い改めのためのバプテスマを受けなさい。神の小羊は世の罪を取り除く御方であり、人々を救い、すべての不義から清める力を持つ御方である。

15 まことに、あなたがたに言う。来なさい。恐れてはならない。^①たやすくまとわりつき、あなたがたを束縛して滅亡に至らせるすべての罪を捨てなさい。

まことに、来て、罪を進んで悔い改める気持ちの
あること、また、神の戒めを守るという神との聖
約に進んで入ることを、神に示しなさい。そして、
今日バプテスマの水に入ることによつて、神にその
ことを証明しなさい。

16 だれであつてもこのように行い、その後、神の戒
めを守る人は、わたしがその人に言うことを覚えて
いるであろう。まことに、わたしの内で証する聖な
御靈の証によつて、わたしがその人に永遠の命を
得るであろうと語つたことを、その人は覚えている
であろう。

17さて、わたしの愛する同胞よ、あなたがたはこれ
らのこと信じるか。見よ、あなたがたに言う。ま
ことに、わたしは、あなたがたがこれらのこと可信
じてゐるのを知つてゐる。あなたがたがこれらのこ
とを信じてゐることが分かるのは、わたしの内にあ
る御靈の示しによる。そしてそれについて、すなわ
ちわたしが語つてきた事柄について、あなたがたが
深く信じてゐるので、わたしは大いに喜んでゐる。
18 わたしは初めに、あなたがたが同胞のようによ
境に陥つていないこと深く望んでいふと言つた

が、わたしの望みがそのとおりにかなえられたこ
とを、わたしは知つた。

19 それは、あなたがたが義の道にいることがわたし
には分かるからである。あなたがたが神の王国に通
じる道にいること、まことに、神の道をまつすぐ
にしていることが、わたしには分かる。

20 神は曲がつた道を歩まれないということが、神
の御言葉の証によつてあなたがたに知らされてき
たことを、わたしは知つてゐる。神は一度言われた
ことは変更されないし、右から左へ、すなわち正し
いことから誤つたことへ転じる気配さえもお見せ
にならない。したがつて、神の道は一つの永遠の環
である。

21 また、神は清くない宮には住まわれない。それ
ばかりでなく、汚れや清くないものは神の王国に受け
入れられない。したがつて、わたしはあなたがた
に言う。汚れている者が、その汚れの中にとどま
る時が来る。それは終わりの日である。

22 さて、わたしの愛する同胞よ、これらのことがあ
なたがたに語つてきたのは、神への義務感をあなた
がたに自覺させ、あなたがたが神の御前を罪のな

い状態で歩めるように、またあなたがたが、かつてそれによつて受け入れられた神の聖なる位に従つて歩めるようにするためである。

23さて、わたしはあなたがたが謙遜であり、従順で素直であり、容易に勧告に従い、忍耐と寛容に富み、すべてのことについて自制し、いつも熱心に神の戒めを守るように、また靈的にも物質的にも、必要としているものは何でも求め、与えられるものについては何であろうといつも神に感謝するよう願つている。

24また、あなたがたは信仰と希望、慈愛を必ず持つようにしてほしい。そうするときに、あなたがたはいつも多くの善いおこないをするであろう。

25主があなたがたを祝福し、あなたがたの衣を染みのない状態に保つてくださつて、最後にはアブラハム、イサク、ヤコブ、および世界が始まって以来この世に住んだ聖なる預言者たちとともに、彼らの衣が染みのない状態であるようにあなたがたも天の王国で座に着けるようになつた。

26さて、わたしの愛する同胞よ、わたしは自分の内

で証する御靈によつて、これらの言葉をあなたがたに語つてきた。あなたがたが非常に熱心に、注意深くわたしの言葉を聞いてくれたので、心からうれしく思う。

27神の平安が、あなたがたの信仰と善い行いに応じて、今から後どこしえに、あなたがたと、あなたの住まい、土地、家畜の群れ、すべての所有物、および婦人たちと子供たちのうえにとどまるようになつたのは以上のことおりである。わたしが語つたのは以上のとおりである。アーメン。

第8章

アルマ、ミレクで教えを説き、バブテスマを施す。アモナイハで拒まれ、そこを去る。一人の天使が、引き返して民に悔い改めを叫ぶようにアルマに命じる。アルマ、アミュレクに迎えられる。アルマとアミュレク、アモナイハで教えを説く。紀元前約八十二年。

1さて、アルマはここに書き記せない多くのことをギデオンの民に教え、また、以前ゼラヘムラの地で行つたように教会の秩序を確立した後、まこと

に、ギデオンの地からゼラヘムラの自宅に帰り、それまで果たしてきた務めを離れて休んだ。

2 このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第九年が終わった。

3 そして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第十年の初めに、アルマはゼラヘムラを出て、シドン川の西にあって西方に荒れ野を望むミレクの地へ旅立つた。

4 そして彼は、自分が召された神の聖なる位に従つて、ミレクの地で人々を教え始めた。彼はミレクの全地で人々を教え始めたのである。

5 そこで、その地の荒れ野の境の全域で、人々が彼のもとにやつて来た。そして、その地の全域で、人々はバプテスマを受けた。

6 このようにして、彼はミレクの地で務めを終えると、そこを去り、ミレクの地の北方を三日間旅した。そして、アモナイハという町に着いた。

7 さて、ニーフアイの民の地や町や村は、小さい村であつてもすべて、最初にそこを所有した人の名を付けるというのが彼らの習わしであった。アモナイハの地についても同様であった。

8 さて、アルマはアモナイハの町に着くと、人々に神の言葉を宣べ伝え始めた。

9 しかし、サタンがすでにアモナイハの町の人々の心をしつかりと捕らえていたので、彼らはアルマの言葉を聽こうとしなかつた。

10 それでも、アルマは精神を込めて熱心に働き、神に取りすがつて熱烈に祈り、その町に住む人々に御靈を注いでくださるよう、また、彼らに悔い改めのためのバプテスマを施させてくださるよう願つた。

11 それでも、彼らは心をかたくなにして、彼に言った。「見よ、我々はおまえがアルマであることを知つてゐる。またおまえが、おまえたちの言い伝えによつて国内の多くの場所に設けた教会の大祭司であることも、我々は知つてゐる。我々はおまえの教会の者ではないし、そのような愚かな言い伝えは信じていない。

12 また、我々はおまえの教会の者ではないから、おまえには我々を治める力がないことも、我々は知つてゐる。おまえはもうさばきつかさの職を二ファイハに譲つてしまつたので、我々を治める大き

10	① GS ② 3 ③ 1 ④ 2 ⑤ 20	11	① GS ② 3 ③ 27 ④ 28 ⑤ 19 ⑥ 22
12	① GS ② 3 ③ 27 ④ 20 ⑤ 19 ⑥ 22	13	① GS ② 3 ③ 27 ④ 28 ⑤ 19 ⑥ 22

ばかりつかさではない。」

13人々はこのように言つて、彼の言葉にことごとく反論し、彼をののしり、彼につばきを吐きかけ、彼を自分たちの町から追い出したので、彼はそこを去つてアロンという町へ向かつて旅立つた。

14さて、彼がアモナイハの町に住んでいる人々の悪事のために悲しみに打ちひしがれ、多くの艱難と苦しみに耐えながら旅をしていたときに、すなわち、アルマがこのように悲しみに打ちひしがれていたときに、見よ、主の天使が彼に現れて言つた。

15「アルマ、あなたは喜んである。頭を上げて喜びなさい。あなたには喜んでよい十分な理由がある。あなたは幸いである。」

16そして見よ、わたしが遣わされたのは、あなたが忠実に神の戒めを守つてきたからである。見よ、わたしはあなたにその御告げを伝えた者である。

17見よ、彼らは今、あなたの民の自由を損なおうともくろんでいる。(主がこのように言われる。)それは、神が御自分の民に与えられた掟と裁決と戒めに反することである。」

18さて、アルマは主の天使から御告げを受けると、すぐにアモナイハの地へ引き返した。そして、別の道、すなわちアモナイハの町の南にある道を通つて町に入った。

19町に入つたとき、彼は飢えていたので、一人の人間に、「神の至らない僕に何か食べるもの下さいませんか」と言つた。

20するとその人は、彼に言つた。「わたしはニーフアイ人であり、あなたが神の聖なる預言者であること存じています。示現の中で天使が、『迎えなさい』と、あなたのことを告げたからです。ですから、一緒にわたしの家においでください。わたしの食べ物を差し上げます。わたしは、あなたがわたしと家族に祝福をもたらす方であることを存じています。」

21そしてその人は、アルマを自分の家に迎えた。その人はアミュレクといつた。彼はパンと肉を運んで来ると、アルマの前に置いた。

22 そこでアルマは、パンを食べて満たされた。そして彼は、アミュレクとその家族を祝福し、また神に感謝をささげた。

23 彼は食事をして満たされると、アミュレクに言った。「わたしはアルマであり、全地の神の教会を管理する大祭司です。

24 そしてまことに、わたしは啓示と預言の靈によつて、このすべての民の中で神の御言葉を宣べ伝えよう。召されて、この地にやつて来ましたが、人々はわたしを受け入れようとせず、追い出しました。そこでわたしは、とこしえにこの地に背を向けるつもりでした。

25 ところがまことに、わたしはもう一度引き返してこの民に預言し、彼らの罪惡について彼らを責める証を述べるように命じられました。

26 さて、アミュレク、あなたは食べ物を与え、わたしを受け入れてくれたので、祝福を受けます。わたしは幾日もの間断食をしていたので、飢えていました。

27 それからアルマは民に教えを説き始めるまで、

28 さて、民はますますひどい罪惡を犯すようになつた。

29 そこで、御言葉がアルマに下つた。「行きなさい。また、わたしの僕アミュレクにも告げなさい。『出て行つて、この民に預言し、悔い改めるように言いなさい。悔い改めなければ主は怒つてこの民を罰し、その激しい怒りを解かれないと言いなさい』と。』

30 それでアルマとアミュレクは、神の言葉を告げ知らせるために人々の中に出て行つた。そして、二人は聖靈に満たされた。

31 また彼らは、だれも彼らを地下牢に閉じ込めることもできなければ、殺すこともできないほどの力を与えられていた。それでも彼らは、縄で縛られて牢に投げ込まれるまで、その力を使わなかつた。それは、主が彼らによつて主の力を現されるようにするためであつた。

32 さて、彼らは出て行くと、主から授かつた御靈と力によつて、人々に教えを説き、また預言し始めた。

アモナイハの地にいる民に告げ知らされたアルマ

の言葉とアミュレクの言葉。アルマとアミュレクは牢に投げ込まれたが、彼らの内にある奇跡をおこす神の力によつて救われる。これはアルマの記録による。

次の一章がそれに相当する。

第9章

アルマ、アモナイハの民に悔い改めるように命じる。主は終わりの時にレーマン人に懺れみを示される。二年後、光を捨てればレーマン人によつて滅ぼされ、神の御子が間もなく来られる。神の御子は、悔い改めてバブテスマを受け、御子の名を信じる人々を贖われた。紀元前約八十二年。

1さらに、わたしアルマは、アミュレクを連れて出で行つて、もう一度この民に、すなわちアモナイハの町にいる人々に教えを説くように神から命じられたので、彼らに教えを説き始めたところ、彼らはわたしと論争を始めて言つた。

2「おまえは何者だ。人一人が大地は過ぎ去ると

我々に説いて、我々がその人の証を信じるとでも思うのか。」

3彼らは、自分たちの語った言葉を理解していなかつた。大地が過ぎ去ることを、彼らは知らなかつたからである。

4彼らはまた、「たとえおまえが、この大きな町が一日で滅びてしまうと預言しても、我々はおまえの言葉を信じない」と言つた。

5彼らは、心がかたくなで強情な民であつたので、神にそのような驚くべき業がおできになることが分からなかつた。

6また彼らは言つた。「神は何者なので、そのように大いなる驚くべき業が現実に起ることをこの民に告げ知らせせるのに、権能を持つ者をたつた一人しか送らないのか。」

7そして、彼らはわたしを捕らえようとして進んで來たが、しかし見よ、捕らえなかつた。そこで、わたしは彼らに告げ知らせるために勇気を奮つて立ち、まことに、彼らに大胆に証して言つた。

8「見よ、おお、邪悪でよこしまな時代の人々よ、どうしてあなたがたは先祖の言い伝えを忘れてしま

8	6	4	2
① ②	モサ	① ①	申命
アル	モサ	アル	17 16 17
10 10	5	16 27	6
17 12	2	9	モサ 11
			10
	25		

つたのか。まことに、何と早く神の戒めを忘れてしまったことか。

9 あなたがたは、わたしたちの先祖リーハイが神の御手によつてエルサレムから導き出されたことを覚えていないのか。あなたがたは、彼らが皆、神に導かれて荒れ野を通り抜けたことを覚えていないのか。

10 またあなたがたは、神が何度もわたしたちの先祖を敵の手から救い出し、また、彼ら自身の同胞の手にかかるて滅びることのないように彼らを守つてくださつたことを、こんなに早く忘れてしまつたのか。

11 まことに、もしも神のたぐいない力と、神の憐れみと、わたしたちに対する神の寛容がなかつたならば、わたしたちは間違いなく、はるか以前に地の面から絶たれていたであろうし、また恐らく無窮の悔みで不幸な状態に置かれていたことであろう。しかし見よ、あなたがたに言う。神はあなたがたに、悔い改めるよう命じておられる。悔い改めなければ、あなたがたは決して神の王国を受け継ぐことはできない。しかし見よ、そればかりではない。神は

あなたがたに悔い改めるように命じてこられたので、悔い改めなければ、神はあなたがたを地の面からごとく滅ぼされるであろう。まことに、神は怒つてあなたがたを罰し、その激しい怒りを解かれるはないであろう。

13 見よ、あなたがたは、神がリーハイに、「あなたがたはわたしの命令を守るかぎり地に榮える」と言われた御言葉を覚えていないのか。また神は、「わたしの命令を守らなければ、わたしの前から絶たれる」とも言つておられる。

14 レーマン人は神の戒めを守らなかつたので、主の御前から絶たれた。あなたがたはこのことを覚えておいてほしい。わたしたちは、このことにおいて主の御言葉がすでに実証されていることを知つてゐる。レーマン人はこの地で戒めに背き、主の御前から絶たれた。

15 にもかかわらず、わたしはあなたがたに言う。もしあなたがたが自分の罪の中などまるならば、裁きの日には、彼らの方があなたがたよりも堪えやすいであろう。また、あなたがたが悔い改めなければ、まことに、この世でも彼らの方があなたが

たよりも堪えやすいであろう。

16 それは、レーマン人に与えられている約束が多くのあるからである。彼らを無知の状態にとどめたのは、彼らの先祖の言い伝えである。したがつて、主は彼らを憐れみ、彼らがこの地に長く住めるようにされるであろう。

17 そして、彼らはある時期に、専かれて主の御言葉を信じ、自分たちの先祖の言い伝えが正しくないことを知るようになるであろう。そして、彼らの多くが救われるであろう。主は御名を呼ぶすべての人間に憐れみを示されるからである。

18 しかし見よ、わたしはあなたがたに言う。もしあなたがたが悪い事を続けるならば、この地でのあなたがたの生涯は延ばされない。レーマン人があなたがたのもとに送られるからである。もしあなたがたが悪い改めなければ、彼らが気づかないうちにやつて来て、あなたがたは完全な滅亡に見舞われるであろう。これは神の激しい怒りによるのである。わざと減ぼすことを、主は許されないからである。わたしはあなたがたに、そのとおりであると言う。わ

ニーファイの民と呼ばれる主の民が、主なる自分が、たちの神から授けられた非常に多くの光と非常に多くの知識を受けた後、罪と背きに陥るようなこと

があるとすれば、主はむしろレーマン人がニーフアイの民をことごとく滅ぼすのを許されるであろう。

20 まことに、ニーファイの民は、そのように主から厚い恵みを受けた民であり、まことに、ほかのあらゆる国民、部族、国語の民、民族に勝る恵みを受け、彼らの望みと信仰と祈りに応じて、過去、現在、未来のことをして示され、

21 また、神の御靈の訪れを受け、天使と語り、主の声による御告げを受け、預言の靈と啓示の靈と、そのほか異言で語る賜物、説教の賜物、聖靈の賜物、翻訳の賜物など、多くの賜物を受けてきた。

22 また、神によりエルサレムの地から主の御手によつて救い出され、飢饉や病気、あらゆる患いから救われ、戦闘の際には滅ぼされないように強くされ、幾度も奴隸の状態から導き出されて現在に至つてまで守られ、保護され、そしてこのように栄えてあらゆるものに富むようになった。

23さて見よ、わたしはあなたがたに言う。このよう

22 21 20 19 18 17 16
②① 28 モ①①② アル 19 ① ③ ② ① ④
モ 2 11 サオ GS アル 20 10 11 15
サニ 13 8 ム「ル 45 12 13 10
27 17 13 1 啓 24 10 12 15
16 1 19 20 示 30 14 29 9 15
4 3 3 8 1 16 16 2 1 12 15
モサ 10 12 11 15
エノ 1 13 10 12
アル 38 5 11
アル 16 16 2 3
エリ 15 12
モサ 13 17
モサ 11 17

に多くの祝福を主の御手から受けたこの民が、もし現在受けている光と知識に背くとすれば、わたしはあなたがたに言うが、もし彼らが戒めに背くならば、レーマン人の方がこの民よりもはるかに堪えやすいであろう。

24 見よ、主の約束がレーマン人に与えられているからである。しかし、あなたがたが戒めに背くならば、主の約束はあなたがたには及ばない。もし主に背くならば、あなたがたは地の面からことごとく滅ぼされてしまうと、主がはつきり約束し、そう明確に定めておられないであろうか。

25 このために、すなわちあなたがたが滅ぼされるこのためには、主は天使を遣わして御自分の民の多くの者を訪れさせられた。そして、天使はこれらの人者に、出て行つて、この民に次のように力強く叫ぶように告げた。『悔い改めよ。天の王国は近づいている。』

26 今から多くの日が過ぎないうちに、神の御子が榮光のうちに来られる。神の御子の榮光は御父の独り子の榮光であり、その独り子は恵みと公平と真理に満ち、忍耐と憐れみと寛容に富み、御自分

27 そして見よ、神の御子は、御子の御名を信じて悔い改めのためのバプテスマを受ける人々を贖うたのも早い御方である。

28 だから、主の道を備えなさい。すべての人が自分が義になつていれば、イエス・キリストの力と解放によつて自分自身の救いを刈り取り、その行為によつて悪ければ、悪魔の力と束縛によつて自分自身に来られる。

29 さて見よ、これが民に向かつて叫ぶ天使の声である。

30 そこで、わたしの愛する同胞よ、あなたがたはわたしの同胞であるから、愛されて当然である。しかし、あなたがたの心は神の御言葉に對して非常にかたくなになつており、あなたがたは、迷い堕落した民となつてるので、悔い改めに導く行いをしなくてはならない。』

31 さて、わたしアルマがこれらと言葉を語り終える

30	28	27	26	25	24
②①③②①②①⑤④③②	ヒラ	アラル	マタ	二ニフ	マタ
GS詩教篇申命「バブテスマ」	7	7	11	30	22
アヨ一罰の定め	7	7	12	32	4
12ハ411	10	16	11	5	6
33	6	6	32	9	6

と、見よ。人々はわたしに腹を立てた。わたしが彼言つたからである。^{トモ}

32 また、わたしが彼らのことを見失い堕落した民であるとも言ったので、彼らは腹を立て、わたしを捕らえて牢に投げ込もうとした。

33 しかしそのとき、主は彼らがわたしを捕らえて牢に投げ込むのを許されなかつた。
34 そこで、アミユレクも進み出て、彼らに教えを説き始めた。この書にはアミユレクの言葉をすべては書き記さず、その言葉の一部だけを記すことにする。

第
10
章

リーハイはマナセの子孫である。アミコレク、アルマの世話ををするよう、天使から命じられたことを述べる。義人の祈りは人々の命が救われる元となる。不義な法律家とさばきつかさが、民の滅亡の基を据える。紀元前約八十二年。

5 それでもわたしは、主の道と、主の奥義と、驚くべき力については、まだ多くのことを知らない。いや、わたしはこれらのことについて多くを知らないと言つたが、しかし見よ、それは間違いである。わたしはすでに、主の奥義と、まことにこの民の命を守るために現された主の驚くべき力を、多く見

4 そして見よ、わたしも、わたしを知っているすべての人の中では少なからず信譽を得ている者であり、まことに見よ、わたしには多くの親族と友人がいる。わたしはまた勤勉に働いて大きな富も得た。

5 それでもわたしは、主の道と、主の奥義と、驚くべき力については、まだ多くのことを知らない。いや、わたしはこれらのことについて多くを知らないと言つたが、しかし見よ、それは間違いである。わたしはすでに、主の奥義と、まことにこの民の命を守るために現された主の驚くべき力を、多く見

3 そして、アミナダイはニーファイの子孫であり、
ニーファイはエルサレムの地から來たリーハイの
子、リーハイはマナセの子孫、マナセは兄たちの手

わたしはアミュレクである。わたしはギドーナの子であり、ギドーナはイシマエルの子、イシマエルはアミナダイの子孫である。このアミナダイは、神殿の壁に神の指で書き記された言葉を解き明かした、あのアミナダイである。

てきたからである。

6 それでもわたしは、心をかたくなにした。幾度となく呼ばれたが、わたしは聞こうとしなかつた。だからわたしは、これらのことについて知つていながら、知りたいと思わなかつた。そこでわたしは、悪い心のまま、さばきつかさの統治第十年のこの七月の四日まで、神に背き続けた。

7 そしてわたしが、ごく身近な親族に会おうとして出かけたときに、見よ、主の天使がわたしに現れてこう言つた。『アミユレクよ、あなたは主の預言者に食べ物を与えるなければならないので、家へ戻りなさい。その預言者は聖なる人であり、神の選ばれた人である。その人は、この民の罪のために、彼らに食べ物を与えなさい。そうすれば、彼はあなたとあなたの家族を祝福し、主の祝福があなたとあなたの家族のうえにとどまるであろう。』

8 そこでわたしは、その天使の声に従い、我が家へ向かつた。そして、我が家へ帰る途中で、天使がわたしに『自分の家に迎えよ』と言つたその人に

に会つた。見よ、そのひこそ、これまであなたがたに神にかかる事柄について語つてこられた、この方である。

9 天使は、この方が聖なる人であるとわたしに言った。それでわたしは、この方が聖なる人であることを知つている。神の天使がそう言つたからである。

10 わたしはまた、この方が証されたことが眞実であることを知つている。見よ、わたしはあなたがたに言う。主が生きておられるように、まことにそのよう、主は御自分の天使を遣わして、これらのことをわたしに明らかにしてくださつた。この方アルマがわたしの家に住んでおられたときに、天使がこれを明らかにしたのである。

11 見よ、この方はわたしの家族を祝福された。わたしと、女たち、子供たち、わたしの父、わたしの親族、すなわちわたしの一族全員を祝福されたので、この方の告げられた言葉のとおりに、主の祝福がわたしたちのうえにとどまつた。』

12 さて、アミユレクがこれらの人々を語り終えると、人々は、自分たちが責めを受けている事柄に

11	10	9	8	7	6
①	②	①	①	③	①
アル	アル	アル	アル	アル	アル
8	8	11	10	8	39
22	27	30	19	30	5
31			31	21	35
					6
					6

「断食」 「聖」 「使徒」 「10」 「19」 「30」

ついて証する証人が一人にとどまらなかつたので、またその証人たちがその内にある預言の靈によつて将来起ることも証したので、驚いた。

13 それでも彼らの中には、この二人を問い合わせようとした者たちがいた。これらの者は、狡猾な策略によつて二人の言葉じりをとらえ、彼らに不利な証拠を見つけ、彼らをさばきつかさたちに引き渡して法律によつて裁いてもらひ、自分たちが彼らについて見せかけることができた、あるいは投獄された罪科に応じて彼らを殺すか、あるいは投獄するかしようとした。

14 さて、この二人を滅ぼそうとしたのは法律家たちであつた。法律家とは、人々が裁判のときに、すなわち人々がさばきつかさの前で犯罪の審理を受けるときに、彼らに雇われて、または任命されて法律を取り扱う者たちであつた。

15 この法律家たちは、民のあらゆる策略と悪知恵に通じていた。そして、それによつて彼らはその職業を巧みにこなしていた。さて、彼らはアミュレクに質問を始め、彼に言葉の混乱を起こさせようと、すなわち、彼の語る

言葉に矛盾を生じさせようとした。

17 しかし彼らは、アミュレクに自分たちの企てが知れてしまつたのを知らなかつた。彼らが質問を始めたとき、アミュレクは彼らの思いを見抜いて言つた。「おお、^② 邪惡でよこしまな時代の人々よ、法律家たちと偽善者たちよ。あなたがたは惡魔の基を据えている。神の聖なる人々を捕らえるために、わなと落とし穴を仕掛けている。

18 義人の道を曲げるために策を巡らし、自分たちの頭に、この民が全滅するまで神の怒りを招こうとしている。

19 まことに、我々の最後の王モーサヤが王位を譲ろうとしたときは、適切であつた。モーサヤ王が王位を譲る相手がだれもいなかつたので、この民は、民自身の声によつて治められることになつた。そのときに、もしこの民の声が罪悪を選ぶ時が来れば、すなわちこの民が戒めに背く時が来れば、民の滅亡の機が熟しているとモーサヤ王が言つたが、實にそのとおりであつた。

20 さて、わたしはあなたがたに言う。主があなたがたの罪悪を裁かれるのはふさわしいことである。

19	18	17	14	13	12
①	③	②	①	①	①
アル	アル	アル	アル	アル	アル
使徒	使徒	使徒	使徒	使徒	使徒
モサ	モサ	モサ	モサ	モサ	モサ
13	10	21	21	21	21
29	27	27	27	27	27
3	6	6	6	6	6
16	13	12	12	12	12
32	32	32	32	32	32
16	12	12	12	12	12
3	3	3	3	3	3
14	24	24	24	24	24
27	27	27	27	27	27
18	18	18	18	18	18

主が御自分の天使たちの声によつてこの民に、「悔くあらたに改めよ。悔い改めよ。天の王国は近づいてゐるか

らである」と呼ばれるのはふさわしいことである。
まことに、主が天使の声によつて、「わたしは公平と公正を手に携えて、わたしの民の中に降ろう」と呼ばれるのはふさわしいことである。

またわたしはあなたがたに言う。もしも今、この地に住む義人の祈りがなかつたならば、あなたがたは完全な滅亡に見舞われていたことである。しかし、それはノアの時代の人々のよう⁽²⁾に、水によるのではなく、飢饉と疫病と剣によつたこ⁽³⁾とであろう。

しかし、あなたがたが救われているのは、義人(ぎじん)の祈り(いのり)による。したがつて、もしあなたがたが自分たちの中から義人(ぎじん)を追い出(おしりだ)すならば、そのときには主は手をとどめず、激しい怒り(いかり)のうちに降つて来て、あなたがたを責め(せ)られるであろう。そのとき、あなたがたは飢饉(ききん)と疫病(えきびやう)と剣によつて打たれるであろう。あなたがたが悔い改(あらた)めなければ、その時までに近(ちか)い。」

そこで、民はますますアミュレクに腹を立てた。

「この男は我々の公正な法律と我々の選んだ賢い法律をののしっている」と叫んだ。

しかし、アミュレクは手を伸ばし、さらに力強ちからづけに彼かれらに叫さけんだ。「おお、邪悪じやくあくでよこしまな時代じだいの人々ひとびとよ、なぜサタンはこのようにあなたがたの心をしつかりと捕つかまえたのか。なぜあなたがたはサタンに自分自身じぶんじしんをゆだねようとするのか。サタンはあなたがたに告げられている御言葉みことばを、あなたがたがその真実じんじつなままに理解かいしないように、あなたがたを支配する力を得て、あなたがたの目めをくらまし

見よ、わたしはあなたがたの法律に逆らう證を述べたか。あなたがたは分かつていない。あなたがたは、わたしがあなたがたの法律をけなしたと言ふが、わたしはそのようなことはしていない。むしろわたしは、あなたがたの法律を支持し、あなたがたが罪に定められることを語つた。

27
見よわたしはあなたかたに言う。あなたかたの法律たちとさばきつかさたちの不義によつて、この民の滅亡の基が据えられている。」

さて、アミュレクがこれらの言葉を詰つたところは、かた

27	25	23		22	21	20
① アル	②	① GS	3	② ニフ	モサ	①
14	2	ア GS	創世	モサ	モサ	アル
カ	コ	ア	ア	ヤ	ヤ	
11	6	リ	34	世	ヤ	8
45	4	34	析の	8	13	
52	4	32	時代	21	5	34
	35		の	16	16	14
			洪水			16

ろ、人々は彼を非難して叫んだ。「我々には分かる。この男は悪魔の子だ。我々にうそを言つている。この男は我々の法律をけなした。それなのに、

法律をけなさなかつたと言つてゐる。

29 そのうえこの男は、我々の法律家とさばきつかさをののしつた。」

30 そして法律家たちは、アミュレクを責めるためにこれら的事柄を覚えておくように、人々の心の中へそれを植え付けたのである。

31 その法律家たちの中に、ゼーヴロムという名の者がいた。彼は法律家の手中では最も有能な者の一人であり、民の中で多くの仕事を抱えていたので、アミュレクとアルマを責めたを中心人物であつた。

32 この法律家たちの目的は利益を得ることであり、彼らは自分の働きに応じて利益を得たのであつた。

われる。すべての人が不死不滅の状態によみがえる。復活後には死はない。紀元前約八十二年。

1さて、モーサヤ王の法律では、法律のさばきつかさであるすべての者、すなわち、さばきつかさとして任命されている者たちは、彼らの前に連れて来られた者たちを裁判するために働いた時間に応じて、俸給を受けることになつていた。

2そこで、もしもある人がほかの人へ借金をしてそれを返さないならば、その人はさばきつかさに訴えられた。すると、さばきつかさは職權行使し、役人たちを遣わしてその人を自分の前に連れて来させた。そして、さばきつかさはその人を法律と、その人に對して提出された証拠によつて裁判した。その結果、その人は強制的に借金を払わされるか、強制的に持ち物を取り上げられるか、または盜人や強盗として強制的に民の中から追い出された。

3また、さばきつかさは自分の働いた時間に応じて俸給を受けた。すなわち、一日について金一セナイン、または銀一セヌムを受けた。銀一セヌムは

第 11 章

二ーファイ人の貨幣制度についての説明。アミュレ

ク、ゼーズロムと論じ合う。キリストは人々を罪のあるままで救われない。天の王国を受け継ぐ人々だけが救

金一セナインに相當する。これは、定められた法律による。

4さて、二ーフアイ人の各種の金貨と銀貨の名称は、その価値に従つて擧げると次のとおりである。この名称は二ーフアイ人が付けたものである。彼らはエルサレムにいたユダヤ人の方法では計算していなかつた。また、ユダヤ人の方法で量ることもしなかつた。彼らはモーサヤ王が確立したさばきつかさの治世に至るまで民の意向と状況に応じて、時代ごとに貨幣単位と度量法を変えてきたのである。

5さて、その貨幣単位は次のとおりである。すなわち、金一セナイン、金一セオン、金一シユム、金一リムナ。

6銀一セヌム、銀一アムノル、銀一エズロム、銀一

オンタイがあり、
7銀一セヌムは金一セナインに等しく、どちらも大麦一升、または各種の穀物一升分に相当した。
8さて、金一セオンの額はセナインの二倍の価値があり、また、金一シユムはセオンの二倍の価値があり、

10また、金一リムナは、一セナインと一セオントーシュムを合わせた価値があつた。

11また、銀一アムノルは二セヌムに等しく、

12また、銀一エズロムは四セヌムに等しく、

13また、銀一オントイは、一セヌムと一アムノルと一エズロムを合わせたものに等しかつた。

14さて、貨幣単位の小さいものの価値は次のとおりである。

15一シプロンは一セヌムの半分である。したがつて、一シプロンは大麦半升分に相当する。

16また、一シブルムは一シプロンの半分であり、

17そして、一レアは一シブルムの半分である。

18さて、これが二ーフアイ人の貨幣評価による数の取り方である。

19また、金一アンテオンは三シプロンに等しい。

20さて、さばきつかさたちは利益を得ることを唯一の目的としており、自分たちの働きに応じて俸給を受けたので、騒動を起こすように、またあらゆる争いと悪事を行うように人々を扇動した。それは、自分たちがさらに多くの働きができるよう、そして、自分たちの前に持ち出される訴訟によつて金

錢を得られるようにするためであった。そこで、彼らは人々を扇動してアルマとアミュレクに逆らわせたのである。

21 それで、ゼーツロムはアミュレクに質問を始め、「わたしが尋ねる少しの質問に答えてもらえるだろうか」と言つた。ゼーツロムは善いことを損なうために悪魔の策略に長じていた男であつたので、アミュレクに、「わたしが質問することに答えてもらえるだろうか」と尋ねたのである。

22 そこで、アミュレクは彼に、「もしそれがわたしの内にある主の御靈にかなうならば答える。わたしは主の御靈にかなわないことは何も言わない」と答えた。するとゼーツロムは彼に、「見よ、ここに銀六オンタイがある。あなたが至高者の実在を否定するならば、わたしはこれをすべてあなたに進呈しよう」と言つた。

23 そこでアミュレクは言つた。「おお、地獄の子よ、なぜわたしをそそのかすのか。義人はこのようないるではないか。

24 あなたは神がおられないと信じているのか。い

や、わたしはあなたに言うが、あなたは神がおられることを知つてゐる。しかし、あなたは神よりもその金の方を愛している。

25 さて、あなたは神の御前でわたしに偽りを言った。あなたはわたしに、「この大枚の六オンタイを見なさい。これを進呈しよう」と言つたが、あなたは心中では、それをわたしに渡すまいと考えている。あなたの望みはただ、わたしにまことの生ける神を否定させて、わたしを滅ぼす口実を得ることであった。さて見よ、あなたはこの大きな悪事のために報いを受けるであろう。」

26 そこで、ゼーツロムがまた彼に、「あなたはまことの生ける神がいると言うのか」と問うた。

27 そこでアミュレクは、「そのとおり、まことの生ける神がおられる」と答えた。

28 そこでゼーツロムが、「神は何人もいるのか」と問うので、

29 彼は、「そうではない」と答えた。

30 またゼーツロムが重ねて、「どうしてあなたは、これらのことを知つてゐるのか」と問うので、

31 彼は、「天使がわたしにそれを知らしてくれた」

と答えた。

32 そして、ゼーヴロムがまた、「将来来るというのはだれか。神の子なのか」と問うので、
33 彼は「そのとおり」と答えた。

34 ゼーツロムはまた、「神の子は、自分の民を罪がなつてゐるまま救うのか」と言つた。そこで、アミュレクは答えて言つた。「わたしはあなたに、そうではないと言おう。神の御子は御自分の御言葉を否定しないからである。」

「あなたがたはこれらのことを見つかり覚えていて、ゼーズロムは人々に向かって言つた。

ほしい。この男は、神はただ一人であると言つた。
しかし、神の子は将来来るが、自分の民を救わなければ
いとこの男は言う。まるで、この男は神に命じる権能を持つてゐるかのようだ。」

さて、アミニユレクはまた彼に言つた。「見よ、あなたは偽りを言つてゐる。神の御子が御自分の民を罪のあるまま救われないとわたしのが言つたことで、わたしが神に命じる権能を持つてゐるかのよう

37 わたしはもう一度あなたに言う。
神の御子は

ひとびと
①つみ
人々を罪のあるまま救うことはおできにならな

い。わたしは神の御子の御言葉を否定することはできない。神の御子は、清くない者は決して天の王を受け継ぐことができないと言われた。天の王を受け継がなければ、どうして救われるであろう

か。だから、あなたがたは罪のあるまま救われる
ことはできないのである。――

さて、ゼーヴルムはまた彼に、「神の子はまこと
かみこ

の永遠の父であるのか」と尋ねた。
39 そこでアミュレクは彼に答えた。「そのとおり。
神の御子は、天地とその中にある万物のまこと
の永遠の父である。神の御子は初めであり終わり

40 であり、最初であり最後である。
また、神の御子は御自分の民を贖うために、①あがな 將しよう

らるゝ世に來られ、御自分の御名を信じる人々の
そも 背きを負われる。これらの人々は永遠の命を得る
ひとびと 人々であり、これ以外の人々に救いは与えられな
ひとびと

41 したがつて、悪人はあたかも贖いがなかつたか
のような有様^{ありさま}であり、ただ死の纓^{なわめ}から解放^{かいほう}だけ
がある。見よ、すべての人^みが死者^{ひと}の中からよみが
①あがな

41	40	39	37	34
ア②教義①教義 アル・ ^示 スル・ ^現 88	モイザエ ハシマ・ ^示 スル・ ^現 19	モサコロ マサゴ・ ^示 スル・ ^現 53	アルの王 GSの王 ニフリ40 二ノフリ26 ヒラ5 ヒラ5 10	アルの王 GSの王 ニフリ40 二ノフリ26 ヒラ5 ヒラ5 10
23 20 33 12 16 5 12 13	イ ヨ ハ ミ エ 世 18 19 15 12 12	イ ザ ス サ マ 11 9 2 1 6 26 6 27 7 天	イ ザ サ コ マ 9 2 1 16 16 16 16 天	アルの王 GSの王 ニフリ40 二ノフリ26 ヒラ5 ヒラ5 10 33 9 11 10

た死すべき体の復活についてあなたに語つてきた。
わたしはあなたに言う。この死すべき体は不死不滅の體によみがえる。死から、すなわち第一の死から命に移り、すべての人があらう死ぬことはあり得ない。彼らの靈は体と結合して、決して分離しない。このように相合したものは、靈的な、不死不滅のものとなり、彼らはもはや朽ちることがない。」
さて、アミュレクがこれらの言葉を語り終えると、人々はまた驚き、ゼーズロムもおののき始めた。このようにして、アミュレクの話は終わつた。すなわち、わたしが書き記した言葉はこれだけである。

第
12
章

アルマ、ゼーズロムに語る。神の奥義は忠実な人々だけ示される。人は自分の思い、信じてること、言葉によつて裁かれる。悪人は靈の死を受ける。この死すべき生涯は試しの状態である。贋いの計画は復活をもたらし、また信仰によつて罪の赦しもたらす。悔い改めた者は、神の独り子を通じて憐れみを受ける権利を持つ。紀元前約八十二年。

アルマ、ゼーズロムに語る。神の奥義は忠実な人々だけ示される。人は自分の思い、信じてること、言葉によつて裁かれる。悪人は靈の死を受ける。この死すべき生涯は試しの状態である。贋いの計画は復活をもたらし、また信仰によつて罪の赦しもたらす。悔い改めた者は、神の独り子を通じて憐れみを受ける権利を持つ。紀元前約八十二年。

	45	44	43 42 41
⑤ 教義	④ ③ ② ① 教義	④ GS ③ ② ① アルサ	① ① ③ アル
1 63 黙	GS GS なる神	モサ 2 GS 二ニフ	2 GS 二ニフ
コリ 49 21 黙	復活 GS 神、神会	アル 5 3 二ニフ [最後の裁き]	40 12 [最後の裁き]
44 88 116	「不死不滅」	20 41 18 25 9 16	23 9 16
		14	13、
		36	

1さて、ゼーヴロムは、アミユレクを滅ぼすための^①偽りと欺きをアミユレクに見やぶられ、かれに沈黙してしまうとともに、自分の罪を自覚して震えおののき始めた。アルマはその様子を見ると、口を開いてゼーヴロムに語り、アミユレクの言葉を確認し、さらに多くのことを説き始めた。すなわち、アミユレクよりもさらに詳しく聖文を説き明かし始めた。

2さて、アルマがゼーヴロムに語った言葉は、取り卷いていた人々にも聞こえた。群衆は大勢であった。アルマは次のように語つた。

3「ゼーヴロムよ、あなたの偽りと悪巧みは見破られてゐる。あなたは人に偽りを言つただけでなく、神にも偽りを言つたのだ。見よ、神はあなたの思ひをすべて御存じである。そして、あなたも分かつてゐるよう、あなたの思いは神の御靈によつてわたしたちに知らされている。

4あなたも分かつてゐるよう、わたしたちは、あなたのばかりごとが悪魔の狡猾さによつて非常に狡猾であつて、この民を偽り欺いて彼らにわたしたちに対する反感を抱かせ、わたしたちをののし

り、追い出させるのに有効であることを知つてゐる。

5これはあなたの敵のはかりごとであつて、彼はあなたの中で力を行使してきたのである。さて、わたしがあなたに告げることは、すべての人に告げることもある。あなたがたはそのことを覚えておいでほしい。

6見よ、わたしはあなたがた全員に言う。これはこの民を捕らえるために敵対する者の仕掛けたわなであり、これによつて彼は、あなたがたを自分に服従させ、鎖であなたがたを縛り、束縛の力によつてあなたがたに鎖をかけたまま、永遠の滅びに陥れようとしたのである。」

7さて、アルマがこれらの言葉を語り終えると、ゼーヴロムはさらにひどくおののき始めた。彼はますます神の力を感じ、またアルマとアミユレクが自分分のことを知つていると分かつたからである。彼は、二人が自分の心の思ひと意図を知つてこと気づいた。彼ら一人は、預言の靈によつてこれらに気づいた。彼ら一人は、預言の靈によつてこれらことが分かるように、力を与えられたのである。

8そこでゼーヴロムは、神の王国についてもつと多く知ろうとして、熱心に彼らに尋ね、アルマにこ

9 そこでアルマは、このことを次のように詳しく述べて彼に言つた。「神の奥義を知ることは多くの人に許されてゐる。しかしこれらの人々は、神が人の子らに授けておられるだけの御言葉しか伝えてはならないという、厳しい命令を受けている。神の御言葉は、人の子らが神に寄せる注意力と熱意の度合いに応じて与えられる。

10 したがつて、心をかたくなにする者はわざかな御言葉しか受けないが、心をかたくなにしない者は、さらに多くの御言葉を与えられて、ついに神の奥義が十分に分かるようになるまで、奥義を知ることが許される。

11 また、心をかたくなにする者はわざかな御心事
葉しか与えられず、ついに神の奥義をまつたく知
らない有様となる。その後、これらの者は悪魔に
捕らえられて、悪魔の意のままに滅びに引き込まれ

る。
③地獄の鎖とはこのことを意味する。

12 そしてアミュレクは、死と、この死すべき状態から不死不滅の状態によみがえることと、行いに応じて裁かれるために神の法廷に連れ出されるところについて分かりやすく話した。

13 したがつて、もしわたしたちの心がかたくな
あり、まことに、わたしたちが御言葉に對して心を
かたくなにして、御言葉がわたしたちの中に見い
だされないようになれば、そのとき、わたしたちの
状態は恐ろしいものになるであろう。そのとき、
わたしたちは罪に定められるからである。

14 わたしたちの言葉がわたしたちを罪に定め、まことに、行いもすべてわたしたちを罪に定めるので、わたしたちは染みのない者とは認められない。また、わたしたちの思いもわたしたちを罪に定める。そして、このような恐ろしい状態の中で、わたしたちはあえて神を仰ぎ見ようとはしないであろう。

う。そして、神の御前から隠れるために、岩や山に自分の上に落ちてくるよう命じることができれば、喜んでそうするであろう。

て、栄光と力、威勢、尊嚴、主権を帶びておられる神の御前に立ち、永遠の恥辱を感じながら、神の裁きがすべて公正であること、神がすべての業を公正に進めておられること、神が人の子らに對して悔い改めにふさわしい実を結ぶあらゆる人を救う一切の權威を持つておられることを、認めなければならない。

16さて見よ、わたしはあなたに言う。そのときには死がやつて来る。第二の死、すなわち靈の死がやつて来る。それは、肉体の死に關して罪のあるまま死ぬ者が靈の死をも受ける時である。まことにその人は、義にかかることについて死ぬのである。

17それは、彼らの受ける苦痛が、炎がとこしえにいつまでも立ち上る、火と硫黄の池のようになる時である。またそれは、彼らがサタンの力と束縛によつて鎖をかけられて、永遠の滅びに至る時である。それは、サタンが意のままに彼らを従わせてし

めで、贖いがなかつたかのようになるであろう。彼らは神の正義によれば、贖いを受けることができないからである。また彼らは、もはや朽ちることがないので、死ぬこともできない。」

19さて、アルマがこれらの言葉を語り終えると、人々はことのほか驚いた。

20ところが、人々の中に高官の一人でアンテオナという人がいた。彼は進み出ると、アルマに言った。「人は死者の中からよみがえって、この死すべき状態から、決して死ぬことのできない不死不滅の状態に変えられるとあなたは言つたが、それはどういうことか。」

21聖文には、神がエデンの園の東にケルビムと燃える剣を置いて、わたしたちの始祖が園に入つて命の木の実を食べ、とこしえに生きることのないようになされたとあるが、それはどういう意味か。そうであるとすれば、わたしたちの始祖がとこしえに生きるという可能性がまったくないことになる。」

22そこで、アルマは彼に言つた。「わたしは、それをお説明しようと思つていた。わたしたちの知つているように、アダムは禁断の実を食べたことによ

モサ	モサ	モサ	モサ	モサ
モサ	モサ	モサ	モサ	モサ
モサ	モサ	モサ	モサ	モサ
モサ	モサ	モサ	モサ	モサ
モサ	モサ	モサ	モサ	モサ

25 さて、もし世の初めから備えられていた贖いの計画がなかつたならば、死者の復活はあり得なかつたであろう。しかし、前に語つた死者の復活をしたちの知つてゐるよう、アダムが堕落したことにより、全人類は迷い堕落した民となつた。

23 さて見よ、わたしはあなたに言う。もしそのときアダムが命の木の実を食べることができたとすれば、死ぬことはなく、御言葉はむなしくなつて、神は偽り者とされていたことであろう。なぜなら神は、「もし食べればあなたは必ず死ぬであらう」と言われたからである。

24 そして、わたしたちの知つてゐるよう、現に死人が人類に及んでいる。まことに、アミュレクが語つた死、つまり肉体の死が及んでいる。にもかかわらず、人が悔い改めることができるよう、猶予期間が与えられた。したがつて、この世の生涯の状態、すなわち神にお会いする意をする時期、わたしたちが前に語つた死者の復活後に訪れるあの無窮の状態に対し用意をする時期となつた。

もたらす贖いの計画はすでに備えられていた。
26 さて見よ、もしもわたしたちの始祖が行つて命
の木から食べることができたとすれば、準備のじょう
態がまつたくないでの、始祖はとこえに不幸な
状態でいたことであろう。したがつて、贖いの計画
は挫折し、神の御言葉はむなしくなつて、何も成
就しなかつたであろう。

27 しかし見よ、実際はそのようにはならず、人々
は死ななければならぬこと、そして死後に裁きを
受けなければならぬことが定められた。その裁
きとは、わたしたちが前に語つたあの裁きであり、
すなわち終わりである。

28 また、神はこれらのこと人が人に起るよう定
められた後、見よ、御自分が人のために定められ
たことについて、人が知つておくのが望ましいと
認められた。

29 そこで神は天使たちを遣わして人々と語らせ、
天使たちは人々に神の栄光を示した。

30 すると人々は、そのときから神の御名を呼ぶよ
うになつた。そこで神は人々と語り、世の初めか
ら備えていた贖いの計画を人々に示された。

これを神は、彼らの信仰と悔い改め、彼らの聖な
おこなわる行いに応じて示された。

31 そして、神は人々に数々の戒めを与えた。され
ひとびと人々がすでに現世にかかるることについての最初
の戒めに背き、神々のように善悪をわきまえて行
動する状態に自分自身を置いたため、すなわち、
自分の意のまま、思いのままに、悪でも善でも行
える状態に置かれたためである。

32 そこで神は、贖いの計画を人々に示された後、
悪を行つてはならないという戒めを彼らに与えられた。悪を行ふことに対する罰は第二の死、すな
わち義にかかることについての永遠の死であつた。このような者には、贖いの計画は何の力も及
ばない。神の至善によれば、正義の働きが損な
われてはならないからである。

33 しかし神は、御自分の御子の御名によつて人々
に勧めて言われた。(これが用意された贖いの計
画である)「もしあなたがたが悔い改めて、心をか
たくなにしなければ、そのとき、わたしは独り子
を通じてあなたがたに憐れみを示そう。」
34 それゆえ、悔い改めて、心をかたくなにしない

者はだれであろうと、わたしの独り子を通じて憐
れみを受け、罪の赦しを得る権利を持つ。これら
の者はわたしの安息に入るであろう。

35 しかし、心をかたくなにして、罪悪を行おうと
する者はだれであろうと、見よ、わたしは怒つて、
その者をわたしの安息に入れないと誓う。」

36 さて、わたしの同胞よ、見よ、わたしはあなたが
たに言う。もしあなたがたが心をかたくなにする
ならば、あなたがたは主の安息に入れないであろ
う。そこで、あなたがたの罪悪は神を怒らせ、ち
ょうど人々が最初、神の怒りを引き起こしたとき
のように、神はあなたがたに怒りを下される。ま
ことに、最初の時と同じように、最後の時にも神
の御言葉のとおりに怒りが下され、あなたがたは
永遠の滅びに至るのである。したがつて、あなた
がたは神の御言葉のとおりに、最初の死と同じよ
うに最後の死も受ける。

37 さて、わたしの同胞よ、わたしたちはこれらの
ことを知つており、これはほんとうのことであるの
で、主なるわたしたちの神がわたしたちに与えてく
ださつたこれらの第二の戒めについて神を怒らせ、
はらから

31	32	33
②①創世記「戒め(神の)」	②①創世記「選択の自由」	③創世記「死(靈の)」
モセ4:22-23	モセ2:16-17	モセ5:1-9
アル42:1-8	モサ15:16-27	モサ15:42
GS「罰の定め」	GS「安息」	GS「憐れみ」
6:9-14	7:1-8	14:1-15

神の激しい怒りを招くことのないよう、悔い改めて、心をかたくにしないようにしようではないか。そして、神の御言葉のとおりに備えられている神の安息に入ろうではないか。」

第13章
人びとが大祭司として召されるのは、その自身の非常に深い信仰と善い行いのためである。大祭司は戒めを教えなければならない。彼らは義によつて聖められ、主の安息に入る。メルキゼデクはその一人であつた。天使たち、國中で喜びのおとずれを告げ知らせる。天使たちは将来、キリストの実際の来臨を知らせる。紀元前約八十二年。

1 「さて、わたしの同胞よ、主なる神が御自分の子供たちにこれらの戒めを与えたときのこと、あなたがたの注意を向けたいと思う。あなたがたは、主なる神が、御子の位に従う聖なる位に従つようになされたことを覚えておいてほしい。

2 その祭司たちは神の御子の位に従つて聖任され

たが、人々はその聖任の次第から、どのようにすれば神の御子を待ち望んで贖いを得られるかを知ることができた。

3 そして、祭司たちが聖任された次第は次のとおりである。すなわち、祭司たちは彼らの非常に深い信仰と善い行いのために、神の先見の明によつて世の初めから召され、備えられていた。彼らは初めに善を選ぶのも悪を選ぶのも任せされていた。そこで彼らは、善を選んで、非常に深い信仰を働かせたので、現在、聖なる召しを受けている。まことに、このような者のために前もつて用意された贖いとともに備えられ、また贖いに応じて備えられた、その聖なる召しを受けている。

4 このように、祭司たちは彼らの信仰のゆえにこの聖なる召しを受けたのである。一方、ほかの者たちは、その心がかたくなで、思いをくらませるために、神の御靈を拒んだ。もしそうでなかつたならば、彼らはその同胞と同じ大きな特權を得ることができたであろう。

5 要するに、彼らは初めはその同胞と同じ立場にいた。このように、この聖なる召しは、心をかた

5	4	3	2	1
① ②	① 神の召し	① 教義	① アブ	37
2	GS GS GS 「神の召し」	127:2, 「前世」	1 二フ 1:8, ヒラ 7:18,	① やコ 1:17,
ニフ	エテ 12:10	「予任」	アル 13:2	② アル 6:9,
26	17	13:55-56	16	30、
28	32	「選び」 「選択の自由」	2	
		13:1	11	
		13:25		
		30		

てない人々のために世の初めから備えられており、前もって用意された神の独り子の贖罪に

よつて、また贖罪しやくざいを通じて定められている。

6 このように、祭司さいしたちは人の子こらに神の戒めいましを
教えて、彼らかれも神の安息あんそくに入はいることができるよう
にするため、この聖なる召めしによつて召めされ、神の
聖なる位くらゐの大神權だいしんけんに聖任せいにんされたのである。

この大神権は神の御子の位に従うものであり、その位は世の初めから存在していた。言い換れば、それは日^①の初めもなく年の終わりもなく、すべての物事に対する神の先見の明によつて、永遠から永遠にわたつて備えられているのである。

さて、彼らは次のようにして聖任された。すなはち、彼らは聖なる召しによつて召され、聖なる儀式によつて聖任されて、聖なる位の大神権を受うけた。この召しと儀式と大神権は、初めもなく終わりもない。

9 このようにして、彼らはとこしえに御子の位に従う大祭司となる。この御子は御父のもうけられるとひよ子であり、日の初めもなく年の終わりもなない御方であり、恵みと公平と真理に満ちておられ

る御方おかたである。まことにそのとおりである。アーメン。

さて、この聖なる位くらいい、すなわち大神權だいしんけんについて述べたように、聖任せいにんされて神の大祭司だいさいしになつた人はおおぜいた。それは彼らの非常に深い信仰きょうおうと悔い改めと、神の御前みまえでの彼らの義によるものであり、かれらは滅ぼろびることよりも、むしろ悔い改めて義を行おこなふ。

う方を選んだのである。
11 そのために、彼らはこの聖なる位に従つて召され

れ、聖められて、彼らの衣は小羊の血によつて白く洗い清められた。

12 そして彼らは、^{かれ}_{せいれい}聖靈によつて聖められ、衣を白くされ、^{かみ}_{まえ}神の御前^{きよ}_{まへ}に清く、染みのない状態^{じよたい}_{じよたい}になつた。

たので、⁽⁴⁾**罪**を見て忌み嫌うのを禁じることができなかつた。このよう青かられて、⁽⁵⁾主なる神のあん

息に入つた人々は大勢おり、非常に多くの数に上つた。

13 さて、わたしの同胞よ、あなたがたもその安息
はい はらから かみ みまえ く あらた

に入れるように、神の御前にへりくだり、悔い改めにふさわしい実を結んでほしい。

14 まことに、^① メルキゼデクの時代の民のようにへ

りくだりなさい。メルキゼデクも、わたしがこれまで語つてきたこの同じ位に従う大祭司であり、どこしえに大神權を受けた人である。

15 アブラハムが什分の一を納めた相手はこのメルキゼデクであつた。まことに、わたしたちの先祖アブラハムは、彼の所有したすべてのものの十分の一をこの人に納めたのである。

16 さて、これらの儀式は、それによつて人々が神の御子を待ち望めるよう定められた。それは神の御子の位の予型、すなわち神の御子の位そのものであつた。これが行われたのは、人々が自分の罪の赦しを受けるために神の御子を待ち望んで、主の安息に入れるようにするためであつた。

17 ところで、このメルキゼデクは、サレムの地を治める王であつた。彼の民はかつて罪悪と忌まわしい行いを募らせていた。彼らは皆迷つて、あらゆる惡事にふけつていたのである。

18 しかし、メルキゼデクは力強い信仰を働かせ、神の聖なる位に従う大神權の職を受けたので、民に悔い改めを説いた。すると見よ、彼らは悔い改めた。そして、メルキゼデクは生涯その地に平和を確立した。そのため、彼はサレムの王であつたので、平和の君と呼ばれた。彼はその父の下で国を治めた。

19 さて、メルキゼデクよりも前に多くの人がおり、メルキゼデクよりも後にも多くの人がいたが、彼よりも偉大な人は一人もいなかつた。そのため、人々が彼について述べることは特別であつた。

20 さて、わたしがそのことを並べ立てる必要はない、これまで語つてきただことで十分であろう。見よ、聖文はあなたがたの前にある。もし聖文を曲げて解釈するならば、あなたがた自身の滅びを招くであろう。

21 さて、アルマは彼らにこれらの言葉を語り終えると、彼らに向かつて手を伸ばし、力強い声で叫んだ。「今こそ悔い改める時である。救いの日は近づいている。

22 主の声は、天使たちの口を通して、すべての国民にそれを告げ知らせておられる。まことに、彼らが胸躍る大いなる喜びのおとずれを得られるよう、それを告げておられる。主は御自分のすべての民の中に、すなわち地の面に広く散らされて

22 21 ①①アル ア GS 41 10・20	20 ②②教義 2 GS 40 17・55	19 ①②教義 2 GS 17 1・4	18 ①神權 GS GS GS 「聖文」	15 ②創世 マラ 3・8 14・18 20
「悔い改め」			「メルキゼデク」	

いる御自分の民に、これらの喜びのおとずれを告げて広めておられる。そして、それはわたしたちにも明らかにされたのである。

23 また、そのおとずれは、わたしたちが誤りなく理解できるように、分かりやすい言葉で知らされている。

これは、わたしたちが異郷で流浪の民となつてゐるからである。このようにわたしたちは、自分のぶどう園の全城でこれらの喜びのおとずれを告げ知らされているので、非常に恵まれている。

24 見よ、①天使たちはわたしたちの地で多くの人にそれを宣言している。これは、主が栄光のうちに来られるときには、人の子らが主の御言葉を受け入れるように、彼らの心を備えさせるためである。

25 そして、今や主の来臨について、天使たちの口を通じてわたしたちに告げ知らされる、喜びに満ちたおとずれを聞くのを待つばかりである。どれくらい早く来るか分からぬが、その時が来るからである。それがわたしの生きている間であるようにと

通して、^①正しい聖なる人々に知らされるであろう。それは、わたしたちの先祖が彼らの内にある預言の靈に従つて主について語つてきたとおりに、彼らの言葉が成就するためである。

27 さて、わたしの同胞よ、まことにわたしが心痛を感じるほどにひどく心配するとともに、心の底から願つてゐることがある。それは、あなたがたがわたしの言葉を聴き、罪を捨て、悔い改めの日を先に延ばすことのないようによつていうことである。

28 しかし、あなたがたは主の御前にへりくだり、主の聖なる御名を呼び、自分が耐えられないような誘惑を受けないように、目を覚ましていて絶えず祈りなさい。そのようにして、聖なる御靈の導きを得て、謙遜、柔和、従順になり、忍耐強くなり、愛に富み、限りなく寛容になつて、

29 さらに主を信じる信仰を持ち、永遠の命を得る希望を抱き、常に心の中に神の愛を持つて、終わりの日に上げられて神の安息に入れるようにしてほしい。

30 主があなたがたに悔い改めることを許してください、あなたがたが主の激しい怒りを招くこと

も、わたしはそれを喜ぶ。

26 主の来臨の時には、そのことが天使たちの口を

29	28	27	26	25	24	31
③ GS ② ① ② ① ①	GS GS ④	ル ① ② ① ②	ヤコ 3	ニフ 2	エテ 12	ニフ 7
教義 84	モサ 28 8 1	カラ 2 3 7	ヤコ 7 39	モサ 3 11	ヤコ 10 13 32	モサ 7 8
24	31 24	「祈り」	10 26	1 10 10	1 10 39	19
		「忍耐」				
	76					
	116					

のないよう、また地獄の鎖につながることのないよう、そして、第二の死を受けることのないように願つてゐる。」
31 アルマはこの書に書き記されていないもつと多くの言葉を人々に語つた。

第14章

アルマとアミュレク、投獄され、打たれる。信じた者たちと彼らの聖文が火で焼かれる。これらの殉教者たち、栄光のうちに主によつて受け入れられる。牢の壁は裂けて崩れ落ちる。アルマとアミュレクは救われ、迫害された者は殺される。紀元前約八十二年から八十一年に至る。

さて、アルマが人々に語り終えた後、多くのひとがアルマの言葉を信じ、悔い改めて聖文を調べ始めた。
しかし大半の人々は、アルマとアミュレクを殺してしまいたいと思つていた。アルマがゼーズロムにあからさまに語つたことで、彼らはアルマに怒りを抱いたからである。彼らはまた、アミュレクが

自分たちに偽りを言い、自分たちの法律と、法律家と、さばきつかさをののしつたと言つた。

3 彼らは、アルマとアミュレクのことを怒つたので、一人をひそかに殺してしまおうとした。

4 しかし、結局彼らはそうせずに、一人を捕らえ、丈夫な縄で縛つて、その地の大さばきつかさの前に連れて行つた。

5 そして、人々は進み出て、一人について不利な証言をした。彼らは二人が法律とその地の法律家たち、さばきつかさたち、またその地にいるすべての人をのしり、さらに、唯一の神がおられてその御子を人々の中に遣わされるが、御子は人々を救われないと述べたと証言した。人々はアルマとアミュレクについてこのように多くの不利な証言をした。これはその地の大さばきつかさの前行われた。

6 そこでゼーズロムは、告げられた言葉に驚くとともに、自分の虚言によつて人々の思いがくらまされたのを知つた。そのため、彼は自分の罪を自覺して心をひどく苦しめ始めた。まことに、彼は地

獄の苦しみに包まれ始めたのである。

7 そしてゼーヴロムは、人々に向かつて叫び、「見よ、わたしには罪がある。この方々は神の御前に染みがない」と言つた。そして彼は、そのときから二人の弁護を始めた。しかし、人々は彼をののしり、「おまえも悪魔に取りつかれたのか」と言つて、彼につばきを吐きかけて、彼を追い出した。また、アルマとアミユレクの語つた言葉を信じた人々も全員追い出された。人々はこれらの手を追い出したうえ、追手を出してこれらの人々に石を投げつけさせた。

8 また彼らは、追い出された人々の妻子たちを集めて、神の言葉を信じている者たちと信じるようになしに教えられた者たちを火の中に投げ込ませた。さらには、神の言葉を信じる者たちが持つていなかた聖文の載つてゐる記録を持ち出し、それも火の中に投げ込んで、焼き捨ててしまつた。

9 そして彼らは、アルマとアミユレクを引き出すと、一人を殉教の場へ運んで行き、火で焼かれている人々の死ぬ様子を見せた。

10 するとアミユレクは、火で焼かれている女や子

供たちの苦しみを見て自分も苦痛を感じ、アルマに向かつて、「この痛ましい有様をどうして見ていいられましょうか。わたしたちの手を伸べ、わたしたちの内にある神の力を行使して、彼らを炎から救い出しましよう」と言つた。

11 しかし、アルマは彼に言つた。「御靈が、手を伸べてはならないとわたしを制されます。まことに、主はこの人々を榮光のうちに御自分のみもとに受け入れられるからです。主は彼らがこのことを行うのを、すなわち人々が心のかたくなままにこの人々にこのことを行うのを黙認しておられます。それは、主が怒つて彼らに下される罰が公正なものとなるためです。罪のない者の血は彼らを責める証拠となり、終わりの日に彼らを非難して激しく叫ぶことでしょう。」

12 すると、アミユレクはアルマに、「まことに、彼らは恐らくわたしたちも火あぶりにするでしょう」と言つた。

13 そこで、アルマは言つた。「主の御心のままであるように。しかしまことに、わたしたちの務めはまだ終わっていないので、彼らがわたしたちを火

あぶりにすることはないでしよう。

ルの教団に属している多くの法律家やさばきつか

14 さて、火の中に投げ込まれた人々の体と、また彼らとともに火の中に投げ込まれた記録が焼けてしまった。その他の大きさの小さな書類も専ら焼けてしまった。

まのアルマとアミュレクの前にやつて来て立ち、手で二人の頬を打つて言つた。「おまえたちはこれ見てもなお、この民に、火と硫黄の池に投げ込まれるとまた説くつもりか。

15 見よ、おまえたちが分かつたように、おまえたちには、火に投げ込まれた者のたちを救い出す力は持つてない。彼らはおまえたちと同じ信仰を持つていたが、神は彼らを救わなかつたではないか。」それから、このさばきつかさはまた一人の頬を打ち、「おまえたちは何と弁解するのか」と言つた。

16 ところで、このさばきつかさはギデオンを殺して、^①た二一ホルの教団に属し、同じ信仰を持つていたものである。

17さて、アルマとアミユレクはさばきつかさに何なにを答こたえなかつた。そこで、彼かれはもう一度いちふたり一人を打うつ

18 ち、役人に引き渡して牢に入れさせた。

えなかつた。
20 そこで彼らは去つて行つた。ところが、彼らはまた翌日にやつて来て、あのさばきつかさがまた二人の顔を打つた。それから、ほかに多くの者たちも進み出て、二人を打つて言つた。「おまえたちはまた立つてこの民を裁き、我々の法律を非難するつもりか。おまえたちにそのような大きな力があるならば、なぜ自分自身を救わないのであるのか。」
21 そして、彼らは歯ぎしりをし、二人につばきを吐きかけながら、このようにたくさんのことを並べ立て、「我々は罰の定めを受けるとき、どのようないふたりの顔を打つた。それから、ほかに多くの者たちも進み出て、二人を打つて言つた。「おまえたちはまた立つてこの民を裁き、我々の法律を非難するつもりか。おまえたちにそのような大きな力があるならば、なぜ自分自身を救わないのであるのか。」
21 そして、彼らは歯ぎしりをし、二人につばきを吐きかけながら、このようにたくさんのことを並べ立て、「我々は罰の定めを受けるとき、どのようないふたりの顔を打つた。それから、ほかに多くの者たちも進み出て、二人を打つて言つた。「おまえたちはまた立つてこの民を裁き、我々の法律を非難するつもりか。おまえたちにそのような大きな力があるならば、なぜ自分自身を救わないのであるのか。」

ルの間に屬している多くの法律やさばきつかり、祭司、教師たちがやつて来て牢の中に入り、ふたりに会つた。そして彼らは、二人に多くの事柄について質問したが、一人は何も答えなかつた。そこで、あのさばきつかさが一人の前に立て、「なぜこの人々の質問に答えないのか。おまえたちを炎の中に投げ込ませる力がわたしにあることを、おまえたちは知らないのか」と言つた。そして、彼は答えるように二人に命じたが、二人は答

22 また彼らはたくさんのことと、まことにこのようなことをいろいろと二人に言つた。このように、彼らは幾日もの間一人をあざけつた。そのうえ彼らは、二人を飮えさせるために食物を与えて、渴かせるために水も飲ませず、また、二人の着物をはぎ取つて裸にした。このようにして二人は、丈夫な縄で縛られ、牢に閉じ込められていた。

23 そして、一人がこのように幾日もの間苦しんだ後(二一)、アモナイハの地の大さばきつかさ(二二)日に、アモナイハの地の大さばきつかさ(二三)と、多くの教師と法律家が、アルマとアミユレクが縄で縛られて閉じ込められていた牢に入つて来た。

24 そして、大さばきつかさは二人の前に立つと、二人をまた打ち、「もしおまえたちに神の力があるのであれば、この縄から自分自身を解き放て。そうすれば、おまえたちの言葉のとおりに主がこの民を滅ぼすと、いうことを、我々は信じよう」と言つた。

25 そして、ほかの者たちも、最後の一人に至るまで皆進み出て、大さばきつかさと同じことを言いながら二人を打つた。ところが、最後の者が二人に言い終えたとき、神の力がアルマとアミュレクに

下つた。そこで、一人は起きて、立ち上がつた。

26 そして、アルマは叫んで言つた。「おお、主よ、われたしたちはいつまでこのようないどい苦しみに耐えればよろしいのでしょうか。おお、主よ、キリストを信じるわたしたちの信仰に応じて、自由に生き力をわたしたちにお与えください。」そして二人は、自分たちを縛つていた縄を断ち切つた。人々は怖に震われ、逃げ始めた。

27 さて、彼らの恐れは非常に大きかつたので、彼らは地に倒れ、牢の外側の出口までも逃げ出せなかつた。そして、地が激しく揺れ動き、牢の壁が二つに裂けて崩れ落ち、アルマとアミユレクを打つた大さばきつかさと法律家たち、祭司たち、教師たちは、崩れ落ちた壁に打たれて死んでしまつた。

28 そして、アルマとアミユレクは牢を出た。二人はキリストを信じる彼らの信仰に応じて主から力を授けられていたので、傷も負つていなかつた。彼らは牢からすぐに出で來たが、彼らを縛つていた縄は解けていた。牢はすでに崩れ落ちており、牢の中にいた者は、アルマとアミユレクを除いて

ことごとく死んだ。そこで、二人はすぐに町に入つて行つた。

29 そのとき、大きな物音を聞いた民が、その訳を知らうとして群れを成して走つて来た。そして彼らは、アルマとアミュレクが牢から出て来たのを目にして、また牢の壁が地に崩れ落ちているのを見ると、ひどい恐怖に襲われ、アルマとアミュレクの前から逃げた。それはまるで、やぎが子やぎを連れて二頭のライオンの前から逃げるのに似ていた。このように彼らは、アルマとアミュレクの前から逃げたのである。

第15章

アルマとアミュレク、シドムへ行き、教会を設立する。アルマ、ゼーズロムを癒し、ゼーズロムは教会に加入する。多くの人がバブテスマを受け、教会が栄える。アルマとアミュレク、ゼラヘムラへ向かう。紀元前約八

1さて、アルマとアミュレクはその町を立ち去る。よう命じられたので、そこを去つてシドムの地へ十一年。

3 また、ゼーズロムもシドムにいて、燃えるような高熱を出して病床に伏していた。その高熱は、自分の悪事のことで心にひどい苦しみを受けたために起つたものであった。彼はアルマとアミュレクがもう生きていないと想い、一人が殺されたのは自分の罪悪のためであると考えたからである。この大きな罪と、そのほか数多くの罪により心をひどく苦しめられて、とうとう介抱する手立てもないほど心をひどく痛めてしまつた。そして、そのためには彼は燃えるような熱で身を焼かれ始めたのである。

4 ところがゼーズロムは、アルマとアミュレクがシドムの地にいると聞くや、心が奮い立ち、すぐに二人に伝言を送つて、自分のもとに来てほしいと

3	2	1
①	②	①
アル	アル	アル
14	14	14
6	8	7
7	14	3

伝えた。

5 そこで二人は、ゼーヴロムからの伝言に応じて、すぐに出かけた。そして、ゼーヴロムのいる家に入つて行つたところ、彼は燃えるような高熱で実際に弱々しい有様で病んで床に伏していた。また彼は、自分の罪悪のためにひどく心を痛めていた。そして、二人を見ると、手を伸ばし、癒してほしいと懇願した。

6 そこでアルマは彼の手を取つて、「あなたは救いを得させるキリストの力を信じますか」と尋ねた。7 すると彼はそれに答え、「はい。わたしはあなたが教えた言葉をすべて信じています」と言つた。8 そこでアルマは、「キリストの贖いを信じるならば、あなたは癒しを得られます」と言つた。9 すると彼は、「はい。わたしはあなたの言葉のとおりに信じています」と答えた。

10 そこでアルマは、主に叫び求めて言つた。「おお、主なるわたしたちの神よ、この人に憐れみを示し、キリストを信じるこの人の信仰に応じて癒しをお与えください。」

11 アルマがこれらの言葉を語り終えると、ゼーヴ

ロムは立ち上がり、そして歩き始めた。これは、民のすべての者にとつて大きな驚きであった。そして、このことはシドムの全地に知れ渡つた。

12 アルマはゼーヴロムにバプテスマを施して主に属する者とし、ゼーヴロムはそのとき以来、民に教えを説き始めた。

13 そしてアルマは、シドムの地上に教会を設立し、その地で祭司たちと教師たちを聖任して、バプテスマを受けたいと望むすべての人々にバプテスマを施し、主に属する者とするようにした。

14 さて、バプテスマを受けたいと望む人々は多く、シドムの周囲のすべての地方から群れを成してやつて来て、バプテスマを受けた。

15 しかし、アモナイハの地に住む人々は依然として心のかたくなな、強情な民であつたので、アルマとアミュレクの力はすべて悪魔によるものであるとして、自分たちの罪を悔い改めなかつた。彼らは二一ホルの教団に属しており、自分たちの罪を悔い改める必要があるとは信じていなかつたからである。

16 さて、アミュレクはかつて自分の友であつた者たちから拒まれ、また自分の父親や親族からも拒

まれたので、アモナイハの地にある自分の金、銀、貴重な品々をすべて神の言葉のために捨てた。

17 したがつて、アルマはシドムに教会を設立した後、大きな抑制が働いたこと、まことに、民がその心の高ぶりを抑え、神の前にへりくだるようになり、聖壇の前で神を礼拝するために聖堂に集まつて、サタンと死と滅亡から救われるよう、目を覚まして絶えず祈るようになったことを知り、18 すでにわたしが語ったように、アルマはこれらのことを見てから、アミュレクを連れてゼラヘムラの地へ向かい、自分の家に彼を迎えた。そして、艱難に遭っているアミユレクに必要なものを与え、主にあつて彼を強くした。
19 このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第十年が終わつた。

第 16 章
レーマン人、アモナイハの民をほろぼす。ゾーラム、二ノファイ人を率いてレーマン人に勝利を得る。アルマとアミユレクとそのほか多くの人、御言葉を宣べ伝え、キリストが復活後に二ノファイ人に御自身を現されること

を教える。紀元前約八十一から七十七年に至る。

1さて、ゼラヘムラの地は非常に平和であり、二ノファイの民のさばきつかさの統治第十二年二月五日までの数年の間、戦争もなければ争いもなかつた。ところが、第十二年の二月五日に、全地で戦争を告げる叫びが聞かれた。
2見よ、レーマン人の軍隊がすでに荒れ野の方から境の地に侵入してアモナイハの町に入り、民を殺して町を破壊し始めたからである。
3そして、ニーファイ人がレーマン人をその地から追い払うに足る軍隊を起こす前に、レーマン人はアモナイハの町にいた人々を殺し、ノアの地の境付近でもかなりの人々を殺し、また残りの人々を捕らえて荒れ野へ連れ去つてしまつた。

4そこでニーファイ人は、囚われの身となつて荒れ野に連れ去られた人々を取り戻したいと思つた。
5そのため、ニーファイ人の軍隊を指揮する司令官に任命された人（その名はゾーラムといい、彼には二人の息子、リーハイとエーハがいた）、すなわち、ゾーラムと彼の二人の息子は、アルマが教

会を管理する大祭司であることを知つておる、またアルマが預言の靈を受けていることも聞いて知つてゐたので、彼のもとを訪れ、レーマン人に捕らえられた同胞を捜すのに、主は自分たちが荒れ野のどこへ行くのを望んでおられるか知りたいと彼に告げた。

6 そこでアルマは、その件について主に尋ねた。それから戻つて来ると、彼らに言つた。「見よ、レーマン人はマンタイの地の境のはるか向こうにある南の荒れ野でシドン川を渡るでしょう。見よ、あなたがたはシドン川の東側で彼らを迎えて戦いなさい。そうすれば主はあなたがたに、レーマン人に捕らえられた同胞を渡されます。」

7 そこで、ゾーラムと息子たちは、軍隊を率いてシドン川を渡り、マンタイの地の境を越えて、シドン川の東側に当たる南の荒れ野まで進軍した。8 そして彼らは、レーマン人の軍隊に追い払つた。このようにして彼らは、レーマン人に捕らえていた同胞を取り戻した。しかも、捕らえられていた同胞は一人も失わていなかつた。そして彼ら

は、同胞に連れられて、それぞれの土地に帰つた。
9 このようにして、さばきつかさの統治第十年が終つた。レーマン人はすでにその地から追い払われ、アモナイハの民は滅びた。まことに、アモナイハ人はことごとく殺され、非常に大きいので神でも破壊できないと彼らが述べた、その大きな町もまた滅びた。
10 見よ、その町は一日で荒れ廢れた所となり、しかばねは犬と荒れ野の野獸に食い裂かれてしまつた。
11 それでも多くの日の後、彼らの死体は地面に積み上げられ、薄く土がかけられた。しかし、そのにおいがとてもひどかつたので、長年の間、アモナイハの地に来てそこを所有しようとする者はいなかつた。そして、その土地は「ニーホル人の廃墟」と呼ばれた。それは、そこで殺された者たちがニーホルの教団に属し、彼らの地が荒れ廢れたままであつたからである。

12 ニーファイの民のさばきつかさの統治第十四年まで、レーマン人は再びやつて来てニーファイ人と戦うことをしなかつた。このようにして三年間、ニーファイの民は引き続き全地に平和を保つた。

11	10	9	6
24	① ②	① ①	アル
28	アル	18	8 43
30	9	15	24
15	4	1	22
			16 23
			24

13 そして、アルマとアミュレクは出て行つて、ユダヤ人に倣つて建てられた神殿や聖堂や会堂で、民に悔い改めを宣べ伝えた。

14 そして彼らは、自分たちの言葉を聞こうとするすべての人々に、偏り見ることなく、絶えず神の言葉を告げた。

15 このように、アルマとアミュレクと、その務めを果たすようにはえらばれたさらに多くの人は、全地に御言葉を宣べ伝えるために出て行つた。そして全地で、すなわち周辺のすべての地方で、ニーフアイ人に属するすべての人の中に広く教会が設立されるようになった。

16 また、教会員の中には少しの不平等もなかつた。主は人の子らの心を備えさせるために、すなわち、主の来臨の時に、彼らの中で教えられる御言葉を受け入れるに彼らの心を備えさせるために、その地の全面に主の御靈を注がれた。

17 彼らが御言葉に對してかたくなになることがなく、また不信仰になつて滅亡に至ることもなく、むしろ喜んで御言葉を受け入れて、一つの枝としてまことに、ぶどうの木に接がれ、主なる彼らの神の安んじ

息に入れるようにするためである。

18 さて、民の中に出て行つたその祭司たちは、あらゆる偽りと欺き、ねたみ、争い、悪意、ののしり、盜み、強盗、略奪、殺人、姦淫、およびあらゆる好色を責める教えを説き、これらのことを行つてはならないと訴えた。

19 そして彼らは、間もなく必ず起ること、まことに、神の御子の來臨と、御子のお受けになる苦しみと死、死者の復活について説いた。

20 それで多くの人は、神の御子が來られる場所について尋ね、神の御子が復活後にこの民に御自身を現されるということを教わつた。そして人々は、これを聞いて非常に喜んだ。

21 このように、教会が全地に設立され、悪魔に勝利し、神の言葉が純粹なままに國中に宣べ伝えられて、主は人々に祝福を注がれた。このようにして、ニーフアイの民のさばきつかさの統治第十四年が終わつた。

神の言葉のために王位を継ぐ権利を放棄し、レー

21 ① 3 ② 2 アル 15 17	20 ① ③ ② ① GS 26 14 9	18 ① ② ① ③ GS GS GS 12 13 13	17 ② ① GS 5 37	16 14 ① ② ① モサ 1 1 18 1 19 29	13 ② ① ヤコ 5 12 24 37
ニ フ 二 ニ 二 11 7	ニ フ 二 ニ 二 12 4 6	「ねたみ」 「イエス・キリスト降誕と死に関する予言」	「ぶどう園(果樹園)」 「アル」 「アル」 「アル」 「アル」	アル モサ モサ モサ モサ	アル モサ モサ モサ モサ

マン人に教えを説こうとしてニーフアイの地へ上のば
て行つたモーサヤの息子たちの話。彼らの受けた苦
難と解放。これはアルマの記録による。

第
17
章

モーサヤの息子たち、預言と啓示の靈を受ける。レー
マン人に御言葉を告げ知らせるために、各自別々の道を行く。アンモン、イシマエルの地へ行き、ラモーナイ王の僕になる。アンモン、セブスの泉のそばで王の羊の群れを救い、敵を殺す。第一一三節は紀元前約七十七年、第四節は約九十一一七七年、第五一三十九節は約九十一年の出来事である。

さて、アルマはギデオンの地から南方のマンタ
イの地へ向かつて旅をしていたとき、見よ、思ひが
けず、ゼラヘムラの地を指して旅をしていたモーサヤの息子たちに出会つた。
モーサヤのこの息子たちは、天使が初めてアルマに現れたときにアルマとともにいた人々である。

そのため、アルマは自分の仲間に会えたことであつたならず喜んだ。しかも、彼らがなおも主にあつて兄弟であつたので、その喜びはいつそう深かつた。さらに、彼らは正しい理解力を備えた人々であり、また神の言葉を知るために聖文を熱心に調べてきたので、すでに真理を深く知るようになつていた。

3 そればかりではない。彼らはしばしば祈り、また断食もしたので、預言の靈と啓示の靈をうけていた。そして、教えるときには、神の力と権能をもつて教えた。

4 そして彼らは、それまで十四年間レーマン人のなかで神の言葉を教えて、多くの人に真理を知らせることに大きな成功を収めていた。まことに、彼らの言葉の力によつて、多くの人が神の聖壇の前に登り、かれ、神の名を呼び、神の前で自分たちの罪を告白した。

5 さて、彼らが旅をしていた間の状況は次のとおりである。彼らは多くの苦難に遭い、飢えや渴き、疲れ、多くの靈的な労苦など、肉体的にも精神的にもひどく苦しんだ。

6さて、彼らの旅は次のとおりであった。彼らの父モーサヤが彼らに王位を譲りたいと思ふ、また民も同じ思いを抱いていたが、彼らは王位を受けることを辞退し、さばきつかさの統治の第一年

に、父に別れを告げて出かけた。

7彼らは、讓位の話があつたにもかかわらずゼラヘムラの地を去つたのである。彼らは自分たちの剣と槍、弓、矢、石投げを持って行つた。荒れ野で食べ物を手に入れるためであつた。

8このように、彼らはすでに選んでおいた人々とともに荒れ野に旅立ち、レーマン人に神の言葉を宣べ伝えるためにニーフアイの地へ上つて行つた。

9そして、彼らは荒れ野の中を幾日も旅をした。

10また彼らは、主が御靈の一部を授けて自分たちに伴わせてくださいり、またどめてくださることを願つて、大いに断食し、大いに祈つた。それは、彼らが

神の手に使われる者となり、できれば自分たちの同胞であるレーマン人に真理を知らせ、彼らの先祖の正しくない言い伝えが不純であることを知らせるためであつた。

11そこで主は彼らに御靈を下し、「慰めを得なさい」と言われた。そこで彼らは慰めを得た。

12そこで、モーサヤの息子たちと一緒にいた人々は、レーマン人のところへ行つて彼らに神の言葉を告げ知らせる勇気を得た。

13そこで彼らは、レーマン人の地の境に着くと、主が刈り入れの後に自分たちを再会させてくださることに信頼を寄せ、各々別れて次々に去つて行つた。彼らは自分が取りかかつた業が大変なものであると考へていた。

14そして確かに、それは大変なものであつた。彼らは、野蛮でかたくなで残忍な民に神の言葉を宣べ伝えようとしていたからである。その民は、二

15斐アイ人を殺したり、ニーフアイ人のものを盗んだり、奪つたりすることを喜びとしていた。ま

14	13	11	10	9	6
① ② ① GS ① ③ ② ② GS ① ① ①	② GS ① ② ① ③ ② ② GS ① ① ①	② GS ① ② ① ③ ② ② GS ① ① ①	② GS ① ② ① ③ ② ② GS ① ① ①	② GS ① ② ① ③ ② ② GS ① ① ①	② GS ① ② ① ③ ② ② GS ① ① ①
モアサル 10 21 12 1 37	アサル 20 26 5 29 27 16	モアサル 10 21 12 1 37	モアサル 26 5 29 27 16	モアサル 10 21 12 1 37	モアサル 26 5 29 27 16
「忍耐」 マタ 9 「聖靈」 聖 3 3 23 「折衷」 アル 20 26 5 29 27 16	「アル」 アル 26 5 29 27 16	「アル」 アル 26 5 29 27 16	「アル」 アル 26 5 29 27 16	「アル」 アル 26 5 29 27 16	「アル」 アル 26 5 29 27 16
17 3 10	10	10	10	10	10

た彼らは、富すなわち金銀や宝石に執着してお
り、しかも彼らは、これらのものを手に入れるのに
自分の手で働くことなく、殺人や略奪によつて手
に入れようとしていた。

15 このように、彼らは非常に怠惰な民であり、そ
の中の多くの者は偶像を礼拝していた。そして、彼ら
の先祖の言い伝えのために、神ののろいが彼ら
に下つていた。それでも、悔い改めを条件とし
て、主の約束が彼らに与えられていたのである。
16 したがつて、モーサヤの息子たちは、恐らく彼ら
を悔い改めさせることができると思い、また恐ら
く彼らに贖いの計画を知らせることができと思
つて、その業に着手したのであつた。

17 そこで彼らは、各自別れて、自分に与えられた
神の言葉と力をもつて、独りでレーマン人の中へ入
つて行つた。

18 さて、アンモンは彼らの指導者であつたので、
いや、彼らに必要なものを与え、各々の職に応じ
て彼らに祝福を授け、彼らに神の言葉を告げた
後、すなわち自分の出發に先立つて彼らに祝福を
授けた後、彼らのもとを去つた。このようにして、
かもしだせません」と答えた。

19 彼らはそれぞれ別れて全地に旅立つた。
20 そして、アンモンはイシマエルの地へ行つた。
そこは、レーマン人となつたイシマエルの息子に
ちなんで名付けられた地である。

21 アンモンがイシマエルの地へ入つたところ、レ
ーマン人は彼を捕らえて縛つた。レーマン人は、自
分たちの手に落ちた二ーフアイ人を皆縛つて、王の
前に連れて行くのを習わしとしていたからであ
る。そして、捕らえた二ーフアイ人を殺すか、束縛
の身に置くか、牢に入れるか、それともその地か
ら追い出すか、それは王の意のまま、思いのまま
に任されていた。

22 王はアンモンに、この地にいてレーマン人の中
で暮らしたいか、すなわち自分の民の中で暮らした
いかどうか尋ねた。

23 そこでアンモンは王に、「はい。しばらくこの民
の中で暮らしたいと思います。死ぬまでここに住む
かもしだせません」と答えた。

	19	18	16	15
①	①	①	②	①
1	GS	モサ	28	アル
ニ	福	1	16	9
フ	7	3	19	24
4	4	6		

そこでラモーナイ王は、アンモンのことを非^{おう}常に^{じょう}気に入り、彼を縛つて^{しば}いる繩を解かせた。そして、アンモンに自分の娘の一人を妻にめとらせようとした。

しかしアンモンは、「そうではなく、王の僕になつたいのです」と言い、ラモーナイ王の僕になつた。

そして彼は、レーマン人の習わしに従つて、ほかの僕たちの中に加えられてラモーナイ王の家畜の群れを守ることになつた。

そして彼は、三日間王に仕えた後、レーマン人の群れをここに追つて来て水を飲ませるのである。

27 こうして、アンモンと王の僕たちが家畜の群れをこの水のある場所に追つて行く途中、見よ、すでに家畜の群れに水を飲ませてしまつたあるレーマン人の一団が立つていて、アンモンと王の僕たちが連れた家畜の群れを追い散らした。そして、彼らが追い散らしたために、家畜は方々に逃げ去つてしまつた。

28 すると、王の僕たちは、「我々の仲間は前に、この連中の悪事のために群れを追い散らされたので、王に殺されてしまった。我々も王に殺される」とつぶやき始めた。そして、「見よ、我々の群れはもう散つてしまつた」と言いながら、激しく泣き始めた。

29 彼らは殺されるのを恐れて泣いたのである。アンモンはこれを見ると喜びで胸がいっぱいになり、「王のためにこの家畜を元どおりにして、同僚であるこの僕たちにわたしの力を、すなわちわたしの内にある力を示し、同僚であるこの僕たちの信頼を得て、彼らにわたしの言葉を信じさせるようしよう」と言つた。

30 さて、これはアンモンが自分の同僚と呼んだ者たちの悩む様子を見て、心に思つたことであつた。

31 そしてアンモンは、次のように言つて彼らをなだめた。「同僚たち、元気を出してください。群れを捜しに行きましょう。群れを集めて水のある場所へ連れ戻しましょう。こうして王のために群れを守れば、王はわたしたちを殺さないでしよう。」

32 そして、彼らは群れを捜しに行つた。彼らはア

ンモンに従つて大急ぎで走つて行き、王の家畜の先に立つて、群れを再び水のある場所に集めた。

33 ところが、あの男たちが、アンモンたちの家畜の群れを追い散らそうとしてまた立つていた。そこでアンモンは同僚たちに、「群れが逃げ出さないよう周りを開んでいてください。わたしは行つて、わたしたちの群れを散らすあの男たちと戦います」と言つた。

34 そこで彼らは、アンモンから指示されたとおりにした。一方、アンモンは進んで行くと、セブスの泉のそばに立つている者たちと戦う身構えをした。しかし、相手は少ない数ではなかつた。

35 そのため彼らは、ひとりでも思いのままにアンモンを殺せると思い、彼を恐れなかつた。主がモーサヤに、レーマン人の手から彼の息子たちを救い出すと約束しておられたことを、彼らは知らなかつたからである。彼らはまた、主のことをまったく知らなかつたので、自分たちの同胞が滅びるのを喜びとしていた。そのために彼らは、王の家畜の群れを追っていた。そこでアンモンは、進み出て身構えると、石投

36 げを使って彼らに石を投げ始めた。まことに、彼は大いなる力で彼らの中に石を投げた。このようにして、彼がその幾人かを殺したので、彼らはその方に驚き始めた。それでも、彼らは仲間の中の殺された者のために怒り、アンモンを必ず倒そうと心に決めた。そこで彼らは、石でアンモンを撃てないことを知ると、こん棒を持つて近づき、彼を殺そうとした。

37 しかし見よ、アンモンを打とうとしてこん棒を振り上げた者は、ことごとくアンモンの剣で腕を切り落とされた。アンモンが剣の刃で彼らの腕を打つて、彼らが打ちかかつてくるのを防いだからである。そのため彼らは驚いて、彼の前から逃げ始めた。彼らの数は少なくなかつたが、アンモンはその腕の力によつて彼らを退けたのである。

38 ところで、石投げで倒れた者は六人であつたが、アンモンは首謀者のほかは剣でだれも殺さず、自分に向かつて腕を振り上げた者の腕を切り落としただけであつた。それでも、その数は少なくなつた。

39 アンモンは彼らを追い払うと、引き返して来

た。そして彼らは群れに水を飲ませ、王の牧場に群むれを連れ戻した。それから彼らは、アンモンを殺そうとした者たちの、剣で切り落とされた腕を持つて王のもとへ行つた。それらの腕は、彼らが行つたことの証拠として、王のもとに運ばれたのである。

第18章

ラモーナイ王、アンモンを大靈であると思ふ。アンモン、創造と人々に対する神の計らいと、キリストを通して与えられる贖いについて王に教える。ラモーナイ、それを信じて地に倒れ、死んだようになる。紀元前約九十年。

1さて、ラモーナイ王は僕たちを前に立たせ、その事件について見たことをすべて証言させた。
2そして、彼らが皆自分たちの見たことを証言し始めたので、王はアンモンが忠実に自分の家畜の群れを守つたことと、また殺そうとした者たちと戦つたときに大きいなる力を振るつたことを知つた。そして王は非常に驚いて、「確かに、その人は人間以上の人である。見よ、彼は、この民が行う

殺人の罪のために重い罰を下す、あの大靈ではないだろうか」と言つた。

第18章

5 4 3
GS ① ① ①
「神、神会」
アル 17 17
19 25 28 34
27 31 38

3すると、彼らは王に答えて言つた。「彼が大靈か、それとも人間か、わたしどもには分かりません。しかし、彼は王様の敵に殺されるような人ではなく、また技量と大きな力があるので、わたしたちと一緒にいるときは敵も王様の群れを追い散らせないということだけは、わたしどもにも分かれます。わたしどもは、彼が王様の味方であることを知っています。王様、ただの人間にこのような大きな力があるとは思えません。彼はほかの者に殺されるような人ではないことを、わたしどもは知つてゐるからです。」

4すると王は、これらの言葉を聞いて彼らに言つた。「わたしにはその人が大靈であることが分かる。わたしは前におまえたちの仲間を殺したが、それと同じようにおまえたちを殺すことのないよう、その人はおまえたちの命を守るために降つて來たのだ。その人は我らの先祖が語つていた大靈だ。」
5このように、大靈が実在するということは、ラモーナイが彼の父から受けた言い伝えであった。そ

して彼らは、大靈たいれいを信じていたにもかかわらず、自分たちの行うことはすべて正しいと思つていた。しかしラモーナイは、僕たちを殺ころしたことで自分が間違ちがいを犯おかしたのではないかという恐れを抱いだき、非常に心配になつてきた。

6 僕たちが水のある場所ばしょで同胞はらからによつて家畜かちくの群ぐんむれを追い散おきらされたことで、王は大勢おおぜいの僕を殺ころしていたからである。このように、僕たちは家畜かちくを散おきらされたために殺ころされていた。

7さて、これらのレーマン人じんたちは、いつもセブスの泉のそばに立つていて、民みんの家畜かちくの群ぐんれを追い散おきらしていた。そして、散おきつた家畜かちくをたくさん自分たちの地ちへ追おい立て行くのである。これが彼らの略奪りやくだつの手口てぐちであった。

8さて、ラモーナイ王おうは僕たちに、「そのような大きな力ちからのあるその人はどこにいるか」と尋ねた。
9すると彼らは、「まことに、王様おうさまの馬うまにえさをやつています」と答こたえた。王は僕たちに、王の馬と馬車を用意よういして二にフアイの地ぢへ案内あんないして行くように、彼らが群みずれに水みずを飲のませに行く前に命めいじておいたのである。全地ぜんちを治める王おうであるラモーナイ

の父ちちが、ニーフアイの地せいだいで盛大えんかいな宴会もよおを催すことになつてゐたからである。
10さて、ラモーナイ王おうは、アンモンが王おうの馬と馬車の用意よういをしていると聞いて、アンモンの忠義ちゆうぎにますます驚いて言いつた。「まことにわたしの僕くわいの中にいるまだかつてこの人のよう忠実ちゆうじつな者はいなかつた。この人ははわたしの命めいじたことをよく覚えていて、すべてそれを行おこなう。

11わたしにはこの人が大靈たいれいであることが確かに分かる。わたしのところに来てもらいたいと思つてはいるが、わたしにはその勇氣ゆうきがない。」
12さて、アンモンは王と僕たちのために馬と馬車の用意よういを終おえると、王のもとに入はいつて來きた。しかし、王の顔色かおいろが変わかわったのを見て、彼は王の前まえを立ち去さろうとした。

13そのとき、王の僕くわいの一人ひとりが彼に、「ラバナ」と言つた。ラバナとは勢力せいりょくのある王おう、すなわち大王だいおうといふ意味みである。彼らの王は皆みな勢力せいりょくがあると考えられてゐたのである。このように王の僕くわいの一人ひとりが彼に、「ラバナ、王様おうさまはあなたがいてくださることを願ねがつておいでです」と言いつた。

14 そこでアンモンは、王に向き直つて、「王様、わ
たしが何をすることをお望みでしようか」と尋ね
た。ところが王は、何と言つてよいかわからなかつ
たので、彼らの時間で一時間、アンモンに返答しな
かつた。

15 そこで、アンモンはもう一度王に、「わたしに何
をお望みですか」と尋ねたが、この度も返答がな
かつた。

16 さて、アンモンは神の御靈に満たされ、王の思い
を見抜いて言つた。「王様は、わたしが王様の僕た
ちと家畜の群れを守つて、石投げと剣で同国人を七
人殺し、また王様の家畜の群れと僕たちを守るため
に、ほかの者たちの腕を切り落としたと聞いて、ま
ことに、そのことで驚いておられるのですか。

17 王様に申し上げますが、王様はどうしてそんな
に驚いておられるのですか。まことに、わたしはた
だの人間であつて、王様の僕です。ですから、わた
しは王様がお望みになることで正しいことは何でも
いたします。」

18 王はその言葉を聞くと、アンモンが自分の思い
を見抜くことができたのを知つて、またもや驚い
た。しかし、それでもラモーナイ王は口を開き、
「おまえはだれなのだ。すべての物事を知つてゐる
の大靈か」と尋ねた。

19 アンモンは王に答えて、「そうではありません」と言つた。

20 すると、王は言つた。「どうしてわたしの心の思
いが分かるのか。はつきりと言つてよい。わたし
に話しなさい。わたしの家畜の群れを追い散らす
同国人を殺したり、その腕を切り落としたりした
のは何の力によつたのかも、わたしに話してくれ。
21 おまえがもし、これらのことわざをわたしに話して
くれるなら、何でも望むものをやろう。必要であ
れば、軍隊でおまえを守ろう。しかし、おまえが
わたしの全軍よりも強いことを、わたしは知つて
いる。それでも、おまえがわたしに望むものは何
でもやろう。」

22 アンモンは賢いけれども素直な人であつたの
で、ラモーナイ王にこう言つた。「もしわたしが何
の力によつてこれらのことを行つたか申し上げ
ば、王様はわたしの言葉をお聞きくださいますか。
わたしが王様に望むのはそのことです。」

23 すると王は、彼に答えて、「分かつた。わたしはおまえの言葉をすべて信じよう」と言つた。このようにして、王は策に乗つたのである。

24 そこでアンモンは、王に大胆に語り始めて、「王様は神のましますことを信じますか」と尋ねた。

25 すると王は答えて、「わたしにはそれがどういう意味か分からぬ」と言つた。

26 そこでアンモンは、「王様は大靈のましますことを信じますか」と尋ねた。

27 すると王は、「信じる」と答えた。

28 そこでアンモンは、「その大靈が神です」と言つた。アンモンはまた王に、「王様は、神でましますこの大靈が天地にある万物を創造されたことを信じますか」と尋ねた。

29 すると王は、「信じる。わたしは神が地にある万物を創造されたことを信じる。しかし、わたしは天というものを知らない」と答えた。

30 そこで、アンモンは王に、「天とは、神と神のすべての聖なる天使が住んでおられる所です」と言つた。

31 するとラモーナイ王は、「それは地の方にあ

32 そこでアンモンは、「そのとおりです。そして、神はすべて人の子らを見下ろしておられます。また、人の子らはすべて初めから神の御手によつて造られたので、神はその心の思いと志をすべて御存じです」と言つた。

33 するとラモーナイ王は、「わたしはあなたの語つたこれらのことをすべて信じよう。あなたは神から遣わされたのか」と言つた。

34 アンモンは王に言つた。「わたしはただの人間です。人は初めに神の形に造られました。わたしはこの民にこれらのことをお教へて、正しい眞実のことを知らせるために、神の聖なる御靈によつて召されています。

35 そして、その御靈の一部がわたしの内にとどまつていて、神に対するわたしの信仰と望みに応じて、理解と力を与えてくれるのです。」

36 さて、アンモンはこれら言葉を述べてから、世界の創造とアダムの造られたことから始めて、ひと人の堕落に関する一切のことを行つて、また預言者たちが語つてきたことを、自分たちの先祖リーハ

イガエルサレムを去つた當時に至るまで語り、そ
の民の記録と聖文を王の前に置いた。

37 アンモンはまた彼ら（王と王の僕たち）に、自
分たちの先祖が荒れ野を旅したこと、彼らが飢え
や渴きに苦しんだこと、彼らの劳苦など、すべての
ことを語つた。

38 また彼らは、レーマンとレムエルとイシマエルの
息子たちの反抗についても彼らに語つた。まことに、
彼は彼らの反抗についてすべて話をした。そして彼は、リーハイがエルサレムを去つたときから
その時点までのすべての記録と聖文について、彼ら
に説き明かしたのである。

39 しかも、それだけではなかつた。彼は世の初め
から備えられていた贖いの計画についても彼らに
説き明かし、またキリストの来臨についても彼らに
知らせ、主のすべての業について彼らに明らかにし
たのである。

40 さて、アンモンがこれらのことすべて述べ、
王にそれを説き明かしたところ、王は彼の言葉をす
べて信じた。
41 そして王は主に向かつて、「おお、主よ、憐れみ
おあわへよ」とおおいだ。王は彼の言葉をす

をおかけください。あなたがこれまでニーファイの
民に示してこられた深い憐れみにより、わたしと
わたしの民にも憐れみをおかけください」と叫び
求めた。

42 そして、王はそのように言うと、地に倒れて死
んだようになつた。

43 そこで王の僕たちは、王妃のもとに運んで
行き、床の上に横たえた。王は二日一晩まるで死んだ
よう横たわっていた。また、王妃と王の息子たちと娘たちは、王を亡くしたことを深く悲しみ、レーマン人の習わしに従つて王の喪に服した。

第 19 章
ラモーナイ、永遠の命の光を受け、贖い主を見る。王の家の者たち、意識を失つて倒れ、多くの者は天使を見る。アンモン、奇跡的に守られる。アンモン、多くの人にバプテスマを施し、彼らの中に教会を設立する。
紀元前約九十年。

1 さて、二日一晩たつてから、彼らは死者を葬る
ために造つておいた墓に王の遺体を運んで、まさに

葬ほうむろうとしていた。

2 そのとき、王妃おうひはアンモンの名めいせいを聞いていたので、人ひとを遣つかわして、アンモンに自分のところに来てほしいと告つげた。

3 そこでアンモンは、命めいじられたとおりに王妃おうひのもとへ行き、自分が何なにをすることを望のぞんでいるのか知しりたいと言つた。

4 すると、王妃おうひは彼かれに言つた。「夫おとの僕しもべたちは、あなたが聖せいなる神かみの預言者よげんしゃであり、あなたには神かみの御名みなによつて多くの力ちからある業わざを行おこなう力ちからがあると、わたしに教えてくれました。」

5 もしそうであれば、入はいつてわたしの夫おとに会あつてほしいのです。夫おとは一日二晩ふつかふたばんの間あいだ、床ベッドに伏ふしたままで。夫おとはまだ死んでいないと言う者ものもいれば、もう死んでいて悪臭あくしゅうを放はなつてゐるので墓はかに葬ほうむらなければならぬと言う者ものもいます。しかし、わたしが見たところ、においはありません。」

6 さて、これはアンモンが望のぞんでいたことであつた。アンモンは、ラモナイ王おうが神かみの力ちからの下もとにありますか」と尋たずねた。すると、王妃おうひは彼かれに、「あなたとの言葉ことばとわたしたちの僕しもべたちの言葉ことばのほかに何なんの證拠しおこもありませんが、あなたの言つたとおりに

つあること、そしてその心こころを照てらす光ひかり、神かみの榮光えいこうの光ひかりであり神かみの慈いつくしみの驚おどろくべき光ひかりであるこの光ひかりが、まことに、王おうじしん自身なかの中に大きな喜びよろこびを注そそぎ込こんで暗黒あんこくの雲くもが消きえ去さり、永遠えいえんの命いのちの光ひかりが王おうじしん自身なかの中なかにともされたことを知しつていた。まことに、アンモンはこれが王おうの肉体にくたいに打ち勝うちかつて、王おうが神かみによつて意識いしきを失うしなつていたことを知しつていたのである。

7 したがつて、王妃おうひが彼かれに求めたことは、彼かれがただ一つ願ねがつてゐたことであつた。そこで、彼かれは王妃おうひから求められるままに、王おうに会あうために入はいつて行ゆつた。そして、彼かれは王おうを見みると、王おうがまだ死んでいなことが分かつた。

8 そこで彼かれは王妃おうひに、「王おうは亡なくなつていません。神かみによつて眠ねむつてゐるので、明日あさ、再び起き上あがります。ですから王おうを葬ほうむつてはなりません」と言つった。

9 そしてアンモンは王妃おうひに、「このことをお信じになりますか」と尋たずねた。すると、王妃おうひは彼かれに、「あなたとの言葉ことばとわたしたちの僕しもべたちの言葉ことばのほかに何なんの證拠しおこもありませんが、あなたの言つたとおりに

なると信じます」と答えた。

10 そこで、アンモンは王妃に言つた。「お妃様は信仰が非常に深いので幸いです。お妃様、わたしは申し上げます。二ーファイ人のすべての民の中にさ

え、これほどの深い信仰はありませんでした。」

11 さて、王妃はそのときから、王が起き上がるとアンモンが告げた翌日のその時刻まで、夫の床のそ

ばで起きていた。

12 そして王は、アンモンの言葉のとおりに起き上がつた。そして王は、起き上がりると、王妃に向かって手を伸ばして言つた。「神の御名がほめたたえられるように。また、あなたは幸いである。

13 あなたが生きているように確かに、見よ、わたしひは贖い主を見た。贖い主は将来おいでになり、ひとりの女からお生まれになり、御名を信じるすべての人を贖われる。」王はこれららの言葉を言い終え

14 アンモンは、罪悪と言ひ伝えのためにこれまで二

15 さて、王の僕たちは彼らが倒れたのを見ると、主への畏れが生じていたので、彼らもまた神に叫び求めた。以前に王の前に立つて、アンモンの大きな力について王に証言したのは、この僕たちであつた。

16 そして彼らは、力の限り主の名を呼び、ついに一人のレーマンの女を除いて、全員が地上に倒れてしまつた。この女は名をエービシといい、父の驚くべき示現のために、何年も前からすでに主に帰依していた。

17 このようにして、エービシは主に帰依していたので、ほかの者たちにはそのことを知られてはいなかつたものの、ラモーナイの僕たちが皆、地上に倒され、また自分の主である王妃も王も、またアンモンまでが地に倒れて横たわっているのを見ると、

ひどい嘆きをもたらしてきた同胞のレーマン人に、自分の祈りに応じて主の御靈が注がれたのを見て、ひざまずいた。そして、その心を注ぎ出して祈り、神が自分の同胞のために行つてくださつたことについて神に感謝した。それから、彼もまた喜びのあまり力を失つてしまつた。このように、彼らは三

それが神の力であることを知つた。そして、この機会に彼らの中へ起こつたことを知らせてこの有様を見せれば、人々は神の力を信じるようになるであろうと思つたので、エービシは家から家へと走り回つて、人々にそのことを知らせた。

18 そこで人々は、王の宮殿に集まり始めた。そして、大勢の人々がそこにやつて来ると、驚いたことに、王と王妃と彼らの僕たちが地に倒れていた。彼らは皆死んだようによこに横たわっていた。また、人々はアンモンも見たが、見よ、その人は二ファイ人であつた。

19 そこで人々は、互いにつぶやき始めた。そして、ある者たちは、王がこの二ーファイ人にこの地に住むことを許したので、彼ら、すなわち王と王の家に属するすべての者に大きな災いが及んだのだと言つた。

20 しかし、別の者たちは彼らをたしなめて、「王はセブスの泉で家畜の群れを追いつめられた。彼らを殺したために、この災いを王の家に属するすべての者に招いてしまつたのだ」と言つた。

21 しかし、こう言つた者たちも、セブスの泉のそ

ばに立つていて王の家畜の群れを追い散らした者たちからとがめられた。これらの者たちは、アンモンがセブスの泉で王の家畜の群れを守つたときに仲間を何人も殺したこと、アンモンに怒りを抱いていたからである。

22 そして、その中に、アンモンの剣によつて兄弟を殺された者がいた。その男はアンモンのことを非常に怒つていたので、剣を抜くと前に進み出て、その剣でアンモンを殺そうとした。そして、アンモンを殺そうとして剣を振り上げたところ、見よ、その男は倒れて死んでしまつた。

23 これでわたしたちは、だれもアンモンを殺せないことが分かる。主が彼の父モーサヤに、「わたしは彼の命を救おう。あなたの信仰に応じてそれは彼に起こる」と言われ、モーサヤが主にアンモンのことをお任せしたからである。

24 さて、大勢の人は、アンモンを殺そうとして剣を振り上げた男が倒れて死んだのを見て、皆恐れを抱き、アンモンにも、倒れているほかの者にも、あえて手を伸ばして触れようとはしなかつた。そして彼らは、この大きな力の元は何であろうか、これ

らのことは皆どのようない味があるのか、と思ひ始めた。

25 さて、彼らの中には、アンモンが大靈であると言ふ者があつたが、大靈から遣わされたのだという者もいた。

26 しかし、その両者をたしなめて、アンモンは自分たちを苦しめるためにニーファイ人から遣わされた怪物であると言う別の者たちもいた。

27 またある者たちは、アンモンは自分たちが罪悪を犯したので、自分たちを苦しめるために大靈から遣わされた者であり、大靈はいつもニーファイ人にについていて、自分たちの手から彼らを救い出してきたとも言つた。これらの者たちは、自分たちの同胞であるレーマン人を大勢滅ぼしてきたのはこの大靈であると言つた。

28 このようにして、彼らの中で非常に激しい争いが起つた。そして、彼らがそのように言い争つていたときに、その大勢の人を集めたはしためがやつて來た。その女は大勢の人が言い争つてゐるのを見ると、ひどく嘆いて涙を流した。

29 そしてその女は、王妃のそばに行くと、王妃を

地から起き上がらせようとでもするかのようには、その手を取つた。すると、その女が王妃の手に触れた途端、王妃は起きて立ち上がり、大声で叫んだ。「おお、恐ろしい地獄からわたしを救われた、祝福に満ちたイエス様。おお、祝福に満ちた神様。この民に憐れみをおかけください。」

30 そして、王妃はこのように言うと、喜びに満たされて両手を組み、人々の理解できかない多くの言葉を語つた。そして、語り終えて、ラモーナイ王の手を取ると、見よ、王も起きて立ち上がつた。

31 そして、王は民の間に争いがあるのを知ると、すぐにして出て行つて彼らをたしなめ、アンモンから聞いた言葉を彼らに教え始めた。すると、王の言葉を聞いた人々は皆信じて、主に帰依した。

32 しかし、王の言葉を聞こうとしない者たちもたくさんいて、彼らは立ち去つた。

33 そして、アンモンも起き上がると、彼らに教えを授け、ラモーナイの僕たちも皆同じようにした。彼らは皆すでにその心が改まつており、もう二度と悪を行いたいとは思わなかつたので、そのことを口をそろえて人々に告げた。

34 そして見よ、多くの僕たちが⁽¹⁾天使を見、また天使と話をしたと告げた。このように、彼らは神と神の義にかかるることを人々に述べたのである。

35 そして、彼らの言葉を信じた人々は大勢いて、信じた人々は皆バブテスマを受け、義にかなつた民となり、自分たちの中に教会を設けた。

36 このようにして、主の業がレーマン人の中に始まり、主は彼らに主の御靈を注がれた。このことから、主の腕が、悔い改めて主の名を信じるすべての人々に伸べられることが分かるのである。

第 20 章

アンモンが牢にいる兄弟たちを救い出せるように、主は彼をミドーナイの地に遣わされる。アンモンとラモーイ、全地を治める王であるラモーナイの父に会う。アンモン、その年取った王に自分の兄弟たちの釈放を認めた。紀元前約九十年。

1 さて、彼らがその地に教会を設立した後、ラモーナイ王はアンモンを自分の父に会わせたいと思ひ、自分とともにニーファイの地へ行くようになされた。紀元前約九十年。

に求めた。

2 すると、主の声がアンモンに聞こえて、「あなたはニーフアイの地へ上つて行つてはならない。見よ、王があなたの命をねらうであろう。見よ、あなたの兄弟アロンと、ミユロカイ、アンマが牢に入っているので、ミドーナイの地へ行きなさい」と言われた。

3 さて、アンモンはこの御言葉を聞くと、ラモーナイに言つた。「見よ、わたしの兄弟と同僚たちがミドーナイの牢に入れられているので、わたしは行つて彼らを救い出します。」

4 すると、ラモーナイはアンモンに言つた。「わたしはあなたが主の力で何事でもできることを知っています。しかし見よ、わたしも一緒にミドーナイの地へ行きましょう。ミドーナイの地の王はその名をアンテオムノといい、わたしの友です。ですから、わたしもミドーナイの地へ行つて、その地の王をなだめましよう。そうすれば、彼はあなたの兄弟たちを牢から出してくれるでしょう。」また、ラモーナイは彼に、「あなたの兄弟たちが牢に入つているとあなたに告げたのはだれですか」と尋ねた。

5 そこでアンモンは彼に、「わたしに告げたのはほ

かでもない、神です。神がわたしに、「あなたの兄弟たちがミドーナイの地で牢に入っているので、行つて救い出しなさい」と言われたのです」と答えた。

6 ラモーナイはこの言葉を聞くと、僕たちに自分の馬と馬車を用意させた。

7 そして、彼はアンモンに言つた。「さあ、わたしもあなたとともにミドーナイの地へ行き、あなたの兄弟たちを牢から出すように王に頼みましよう。」

8 さて、アンモンとラモーナイがその地へ向かつて旅をしていたところ、彼らは途中で、ラモーナイの父である全地を治める王に出会つた。

9 すると見よ、ラモーナイの父はラモーナイに、「わたしが息子たちと民のために宴会を催したあの特別な日に、なぜおまえはその宴会に来なかつたのか」と尋ね、

10 また、「おまえは偽り者の子孫の一人であるこの二ーファイ人と連れ立つて、どこへ行こうとしているのか」と言つた。

11 そこでラモーナイは、父を怒らせるのを恐れ、自分がどこへ行こうとしているかを語つた。

12 彼はまた、父が用意した宴会に出るために父のもとへ行かずに自分の国にいた理由をすべて父に告げた。

13 さて、ラモーナイがこれらのことすべて語つたところ、見よ、意外なことに、彼の父は彼に怒りを示し、「ラモーナイ、おまえはその二ーファイ人たちを救い出そうとしているが、その者たちは偽り者の子孫だ。見よ、その偽り者は我らの先祖から物を奪つた。そして、今その子孫も我らの中にやつて来て、悪知恵と偽りによつて我らを欺き、また我らから持ち物を奪おうとしている」と言つた。

14 そしてラモーナイの父は、剣でアンモンを殺すようになモーナイに命じた。また、ミドーナイの地へ行かず、自分とともにイシマエルの地へ帰るよう命じた。

15 しかし、ラモーナイは父に言つた。「わたしはアンモンを殺すつもりはありませんし、イシマエルの地へも帰りません。ミドーナイの地へ行つて、アンモンの兄弟たちを解き放します。わたしは彼らが正しい人々であり、まことの神の聖なる預言者でありますことを知つているからです。」

16 彼の父はこれらの言葉を聞くと、彼に怒りを発した。剣を抜いて彼を地に打ち倒そうとした。

17 そのとき、アンモンが進み出て、ラモーナイの父に言つた。「まことに、あなたたは自分の息子を殺してはなりません。まことに、彼はすでに罪を悔い改めているので、もし殺されたとしても、あなたが倒れるよりはよいでしょう。しかし、あなた自身は、今怒つたまま倒れるならば救われません。

18 あなたは思いどまつた方がよいでしょう。もしあなたが自分の息子を殺せば、彼には罪がないのでは、彼の血は地から主なる神に向かつて、あなたに報復するように叫ぶでしょう。そして、恐らくあなたは命を失うでしょう。」

19 アンモンがラモーナイの父にこれらの言葉を語り終えると、彼はそれに答えて、「わたしは、息子を殺せば罪のない者の血を流すことになるのを知つて、おまえこそわたしの息子を滅ぼそうとした者だ」と言つた。

20 そして、彼は腕を伸ばして、アンモンを殺そうとした。しかし、アンモンは彼が打ちかかってくるのを防ぐとともに、彼の腕を打つてその腕を利かなくした。

21 そこで王は、アンモンに自分を殺す力があるのを知つて、命を助けてほしいとアンモンに懇願し始めた。

22 しかし、アンモンは剣を振り上げ、「まことに、わたしの兄弟たちを牢から出すのを認めないかぎり、わたしはあなたを討つ」と言つた。

23 すると王は、「命を失うのを恐れ、『わたしの命を助けてくれれば、おまえの求めるものは何でも与えよう。王国の半分でも与える』と言つた。

24 そこでアンモンは、自分の望みどおりにその年老いた王に影響を与えることができたのを知つて、こう言つた。「わたしの兄弟たちを牢から出すことと、ラモーナイに彼の王位を保たせることと、ラモーナイに對して怒りを示さず、何事でも彼の望むままに彼の考えていることを行わせることを認めるならば、わたしはあなたの命を助けよう。そうでなければ、あなたを地に打ち倒す。」

25 さて、アンモンがこれらの言葉を語り終ると、王は自分の命が助かることを喜んだ。

た息子ラモーナイを深く愛していることを知つて、非常に驚いて言つた。「おまえが求めたのはただ、おまえの兄弟たちを解放することと、わたしの息子ラモーナイに彼の王位を保たせること、それだけであるから、まことにわたしは、これから先とこしえに息子に王位を保たせ、今後二度と息子に指図をするまい。

27 わたしはまた、おまえの兄弟たちを牢から出すことと、おまえとおまえの兄弟たちがわたしの国でわたしのもとに来ることを認めよう。わたしはぜひおまえに会いたいからである。」王はアンモンが語った言葉と、息子ラモーナイが語った言葉に非常に驚き、それを知りたいと思つたのである。

28さて、アンモンとラモーナイは、ミドーナイの地へ旅を続けた。そして、ラモーナイはその地の王の好意を得、アンモンの兄弟たちは牢から連れ出された。

29 アンモンは、彼らに会うと非常によろしく見よ、彼らが裸であつたうえに、丈夫な縄で縛られていたため、体の皮膚がすりむけていたからであつた。また、彼らは飢えと渴きとあらゆる苦難を受

けて苦しんでいた。それでも、彼らはすべての苦しみに耐えていたのである。

30 このように、彼らはアンモンが出来た人々よりももつとかたくなで、もつと強情な人々の手に落ちる巡り合せについたのである。人々は彼らの言葉を聽こうとせず、彼らを追い出し、打ちたたき、家から家へ、こちらからあちらへと彼らを追い払い、とうとう彼らはミドーナイの地へやつて来た。そこで彼らは捕らえられ、牢に入れられて丈夫な縄で縛られ、幾日もの間牢に閉じ込められていて、ラモーナイとアンモンによつて救い出されたのであつた。

アロンとミュロカイと彼らの同僚たちがレーマン人に教えを説いたことについての話。

次の第二十一—二十五章がそれに相当する。

第 21 章
アロン、アマレカイ人にキリストとキリストの贖罪に

ついて教える。アロンと彼の同僚たち、ミドーナイで投獄される。アロンたち、解放された後、会堂で教え、多くの人を改宗させる。ラモーナイ、イシマエルの地の人々に信教の自由を認める。紀元前約九十年から七十七年に至る。

1さて、アンモンと彼の同僚たちがレーマン人の國の境でそれぞれ別れたとき、見よ、アロンは、レーマン人がエルサレムと名付けた地を指して旅をした。そこは彼らの先祖の生まれた地にちなんで名付けられた所で、はるか遠くモルモンの地と境を接していた。

2レーマン人とアマレカイ人とアミユロンの民は、そこに大きな町を築き、エルサレムと名付けた。

3ところで、レーマン人はもともと相当地にかたくなであつたが、アマレカイ人とアミユロン人はことのほかかたくなであつたので、彼らはレーマン人の心をさらにかたくなにさせ、悪事と忌まわしい行いにふけるようにさせた。

4さて、アロンはエルサレムの町に着くと、最初にアマレカイ人に教えを説き始めた。アロンは彼ら

の会堂で教えを説き始めたが、それは彼らが二ホルの教団の会堂を幾つも建てていたからである。アマレカイ人とアミユロン人の多くがニーホルの教団に属していたのであつた。

5そこでアロンが、人々に教えを説くために、彼らの会堂の一つに入つて彼らに語ついたときに、見よ、一人のアマレカイ人が立ち上がり、アロンと論じ始めた。「おまえが証したは何のことだ。おまえは天使に会つたのか。なぜ天使は我々にも現れないのか。見よ、この民はおまえの民よりも善くないと言うのか。

6おまえはまた、我々が悔い改めないかぎり滅びると言つたが、どうしておまえに我々の心の思いと志が分かるのか。我々に悔い改めなければならぬ理由があることがどうしておまえに分かるのか。我々が義にかなつた民でないことがどうしておまえに分かるのか。見よ、我々は聖堂を建てたし、神を礼拝するため集まっている。我々は、神がすべての人を救われることを信じている。」

7そこでアロンは彼に「あなたは、神の御子が人類を罪から贖うために来られるということを信じて

いますか」と尋ねた。

するとその人はアロンに言つた。「我々は、おまえにそのようなことが分かるとは信じない。我々は

そのような愚かな

言い伝えは信じない。

また、おま

えに将来のことが分かるとも信じないし、おまえの先祖と我々の先祖が、自分たちが語つた将来のことについて分かつては信じない。」

そこでアロンは、キリストの來臨と死者の復活

についての聖文を彼らに説明し、キリストの死と苦

しみと、キリストの血による贖罪によるほかに、

人類のための贖いはあり得ないことを話し始めた。

10 そして、アロンがこれらの人々を彼らに説き明

かしたところ、彼らはアロンに怒りを示し、また彼をあざけり始めた。そして、彼らは彼の語る言葉を聞こうとしなかつた。

11 そこでアロンは、彼らが自分の言葉を聞こうと

しないのを見て、会堂を去り、アナイ・アンタイと

呼ばれている村を訪れた。そこで彼は、人々に御

言葉を宣べ伝えていたミユロカイに出会い、また

アンマと彼の同僚たちに会つた。それから彼ら

は、御言葉について多くの人と論じ合つた。

12 そして彼らは、人々が心をかたくなにするのを見

みて、そこを去り、ミドーナイの地を訪れた。そし

て彼らは、多くの人に御言葉を宣べ伝え、わずか

な人が彼らの教えた御言葉を信じた。

13 にもかかわらず、アロンと彼の同僚たちの中の数人は、捕らえられて牢に入れられた。また、残り

の同僚たちは、ミドーナイの地から周辺の地へ逃

れて行つた。

14 そして、牢に入れられた人々は多くの苦しみを

受けたが、後にラモーナイとアンモンの手によつて

救い出された。そして、食べる物と着る物を与えた

れたのである。

15 それから、彼らは御言葉を告げ知らせるために

再び出て行つた。彼らが初めて牢から救い出され

た次第は以上のとおりであり、彼らが苦しんだ次

第も以上のとおりである。

16 そして彼らは、主の御靈に導かれる所へならば

どこへでも行き、彼らが入ることのできたアマレカ

イ人のすべての会堂で、またレーマン人のすべて

の集会で、神の言葉を宣べ伝えた。

17 そこで、主が彼らに祝福を授けてくださるよう

になり、彼らは多くの人に真理を知らせることがで
きた。すなわち、彼らは多くの人に、各自に罪のあ
ることと、彼らの先祖の言い伝えが正しくないこと
を納得させた。^{①なつとく}

18 そして、アンモンとラモーナイは、ミドーナイ
の地からラモーナイと彼の民の受け継ぎの地である
イシマエルの地へ帰つた。

19 ラモーナイ王は、アンモンを自分に仕えさせよ
うとせず、自分の僕でいることを許そうとしなか
つた。

20 また王は、イシマエルの地に幾つもの会堂を建
てさせた。また彼は自分の民、すなわち自分の統
治下にある人々をともに集めさせた。

21 そこで彼は、集まつた人々を見て喜び、彼らに
多くのことを教えた。また、彼らが自分の下にあ
る民であることと、自分の父である王の圧制を受
けない自由の民であることを彼らに告げ知らせ
た。ラモーナイ王の父が彼に、イシマエルの地と
その周辺の全地にいる人々を治めることを認め
たのである。

22 ラモーナイ王はまた、自分の統治下にある地で

あればどこでも、自分たちの望むままに、主なる
自分たちの神を礼拝する自由が彼らにあることを
告げ知らせた。

23 そしてアンモンは、ラモーナイ王の民に教えを
説いた。彼は、義にかかることについてあらゆる
事柄を民に教えた。アンモンは日々力の限り彼ら
に説き勧め、また彼らは彼の言葉を心に留めて、
熱心に神の戒めを守つた。

第22章

アロン、創造と、アダムの墮落と、キリストによる贖
いの計画についてラモーナイの父に教える。王と王の家
のすべての者が改宗する。ニーファイ人とレーマン人の
領土の区分についての説明。紀元前約九十年から七十
七年に至る。

1さて、アンモンはこのようにして引き続きラモ
ーナイの民を教えていたので、話をアロンと彼の同
僚たちのことに戻そう。アロンはミドーナイの地
を去つた後、御靈によつてニーファイの地へ導かれ、
王の宮殿に行つた。この王は、イシマエルの地

父であつた。

⑨のぞ
ゼンチ
オカ
タマ
ミタマ
タマ

を除く全地を治めている王であり、ラモーナイの

2 そこでアロンは、彼の同僚たちとともに王の宮

殿に入り、王のもとに進み出て、王の前にひれ伏し

て言つた。「まことに、王様、わたしたちはアンモ

ンの仲間であり、あなたに牢から救い出していた

だいたい者であります。

3 王様、わたしたちの命を助けてくださるなら

ば、わたしたちは王様の僕になります。」すると王

は彼らに言つた。「立ちなさい。わたしはあなたが

命を許そう。しかし、わたしの僕になることは

認めない。その代わりに、わたしにぜひとも教えて

もらいたい。あなたの兄弟アンモンの言葉が寛大

であり、偉大であつたので、わたしは少々心に思

い悩んでいることがある。また、アンモンがあなた

とともにミドーナイから上つて来なかつた理由も知

りたい。」

4 そこでアロンは王に、「まことに、主の御靈が彼

をほかの場所へ呼ばれたのです。彼はラモーナイの

民を教えるために、イシマエルの地へ行きました

と言つた。

5 すると、王は彼に言つた。「あなたは主の御靈について語つてゐるが、それはどういうことなのか。見よ、わたしが思い悩んでいるのはそのことである。

6 アンモンは、『悔い改めるならば救われるが、悔く

い改めなければ終わりの日に捨てられる』と言つた

が、それはどういうことなのか。』

7 そこでアロンは王に答えて、「王様は神がましま

すことを信じておられますか」と言つた。すると、

王は、「アマレカイ人が神がいると言つているのは

知つてゐる。わたしは彼らが集まつて神を礼拝す

ることができるよう、幾つかの聖堂を建てるこ

とを彼らに許してきた。だから、今あなたが神は

ましますと言うならば、見よ、わたしは信じよ

う」と答えた。

8 さて、アロンはこれを聞いて心に喜びを覚え、

王様、まことに、あなたが今生きておられるよう

に確かに、神はまします」と言つた。

9 すると王は、「神とは、我らの先祖をエルサレム

の地から導き出したあの大靈のことか」と尋ねた。

10 そこでアロンは王に、「そのとおりです。神とは

あの大靈のことです。神は天と地の両方で万物を創造されました。王様はこのことをお信じになりますか」と言つた。

11すると、王は答えた。「まことに、わたしは信じる。わたしは大靈が万物を創造されたことを信じる。だから、これらすべてのことについてわたしに話してほしい。わたしはあなたの言葉を信じよう。」

12そこでアロンは、王が自分の言葉を信じようとするのを見て、聖文を王に説んで聞かせながら、アダムの造られたこと、すなわち神が御自分の形に人を創造されたことから始めて、神がアダムに戒めを与えたことや、人が背きのために堕落したことを話して聞かせた。

13そしてアロンは、アダムが造られたことから始めて王に聖文を説き明かし、人が墮落したことと、人類のこの世の状態と、贖いの計画について話した。この贖いの計画は、キリストの名を信じようとするすべての人のために、キリストによつて世人の初めから備えられたものである。また人類は墮落したので、自分自身で何も良い

報いを得ることはできなかつた。しかし、信仰と悔い改めなどによつて、キリストの苦しみと死がかれの罪を贖うのである。そして、キリストは死の縄目を断ち、墓は勝利を得ず、死のとげは栄光の望みの中にのみ込まれてしまう。アロンはこれらのこととすべて王に説き明かした。

15さて、アロンがこれらのことと王に説き明かした後、王は言つた。「あなたの語ったこの永遠の命を得るには、わたしは何をすればよいのか。まさに、わたしは何をすれば、この悪い靈をわたしのからことごとく取り除いて、神から生まれ、神の御靈を受けて、喜びに満たされ、終わりの日に捨てられなくて済むのか。見よ、この大きな喜びを得るために、わたしは持ち物をすべて捨てよう。まことに、王位も譲ろう。」

16しかし、アロンは王に言つた。「あなたがこのことを願い、神の御前にひれ伏すならば、まことに、あなたの罪をすべて悔い改め、神の御前にひれ伏して、与えられると信じて信仰をもつて神の御名を呼ぶならば、そのときあなたは、今願つているものを得るでしょう。」

16	15	14	13	12 11
① 19 ③ ② ① ① GS 2 GS 「贖罪」	④ GS 2 GS 「贖いの計画」	① ③ ② ① アル 37 1 GS 「信じる」	① ② ① ① アル 37 1 GS 「創造、創造する」	
エ GS 16 ② 22 ③ ② ① ① GS 2 GS 「贖罪」	コリ 15 25 8 16	コリ 15 25 8 16	コリ 15 25 8 16	
テ 12 改 宗 4 44 14 37 4 46, 49	アル 42 10 25 23	アル 34 8 25 23	アル 34 8 25 23	
マク 5 2 2	タラ 13 5 2 2	タラ 13 5 2 2	タラ 13 5 2 2	

17 そして、アロンがこれらの言葉を語ると、王はひざまずいて主の前にひれ伏した。まことに、王は地に平伏し、熱烈に叫び求めた。

18 「おお、神よ、アロンは、あなたがましますことをわたしに告げました。もしも神がましますならば、そしてあなたがその神であられるならば、あなた御自身のことをわたしにお知らせください。わたしはあなたを知り、死者の中からよみがえり、終わりの日に救われるよう、自分の罪をすべて捨てます。」王はこれら言葉を語り終えると、打たれて死んだようになつた。

19さて、王の僕たちが走つて行つて、王の身に起つたことをすべて王妃に知らせたので、王妃は王のもとに來た。そして、死んだように横たわつてゐる王と、張本人であるかのように立つてゐるアロンと彼の同僚たちを見て、王妃は彼らに怒りを發し、自分の僕たち、いや王の僕たちに、彼らを捕らえて殺すように命じた。

20 ところが僕たちは、王が倒れた訳を知つてゐたので、アロンと彼の同僚たちにあえて手をかけようと

せす、王妃に懇願して言つた。「どうしてこの人々を

殺すようにお命じになるのですか。まことに、この人々の一人は、わたしたち全員よりも強いのです。わたしたちはこの人々の前で倒れてしまうでしょう。」

21すると王妃は、僕たちが恐れているのを見て、自分に何か災いが及ぶかもしれないと思ふ、非常に恐れ始めた。そして、自分の僕たちに、行つて人々を呼び集め、アロンと彼の同僚たちを殺させるよう命じた。

22さて、アロンは王妃の決意を知ると、人々の心がかたくなであるものも知つていたので、大勢の人気が集まつて、彼らの中にはひどい争いと騒動が起つた。すると、王は力を得て立ち上がつた。

23さて、このことは王妃と多くの僕たちの前で行われた。そこで彼らは、それを見ると非常に驚き、恐れた。すると、王は前に進み出て、彼らを教え始めた。そして、王が彼らを教えたので、王の家の

24 ところが、すでに王妃が命令を出してゐたので、大勢の人気が集まつて來た。そして彼らは、アロ

ンと彼の同僚たちのことでひどくつぶやき始めた。

25しかし、王が出て行つて彼らの中に立ち、彼らを教えたので、彼らはアロンと、また彼と一緒にいた人々に對して心を和らげた。

26そして王は、人々が心を和らげたのを見ると、アロンと彼の同僚たちを群衆の中に行かせて立たせ、彼らに御言葉を宣べ伝えさせた。

27そして王は全地に、すなわち自分の国内にいるすべての民と、その周辺の全地方にいるすべての民に布告を出した。この国は東と西で海に接しており、またゼラヘムラの地とは、東の海から西の海まで続いている細長い荒れ野で隔てられていた。

29また、東方の海岸近くにも多くのレーマン人がいた。彼らはニーファイ人によつてそこに追い込まれたのである。このように、ニーファイ人はほとんどのレーマン人に囲まれていた。それでも、ニーファイ人はシンドン川の源で荒れ野に接する地の北部全体を所有してきた。その地は東から西まで荒れ野に沿つており、北方は彼らがバウンティフルと名付けた地まで達していた。

30バウンティフルの地は、ニーファイ人がデソレショント名付けた地に接していた。そのデソレショントの地ははるか北方にあつて、かつて人々が住んでいたが今はもう滅びてしまい、前に述べたようにゼラヘムラの民がその人々の骨を発見した地である。またそこは、ゼラヘムラの民が最初に上陸した所もある。

分かれていた。

28さて、レーマン人の中でさらに怠惰な者たちは荒れ野にいて、天幕に住んでいた。彼らはニーフアイの地に含まれる西方の荒れ野全体に広く住んでおり、またゼラヘムラの地の西方の海岸に近かれていた。レーマン人とニーファイ人はこのようにして分かれていた。

31彼らはそこから南の荒れ野へ上つて來た。このようにして、北方の地はデソレショントと呼ばれ、

31	30 29 28
① ③ 28	② ① ② ①
ヒラ	モサ
3 6	4 3 34,
6	12,

南方の地は、あらゆる野生動物で満ちている荒れ野があつたので、バウンティフルと呼ばれた。その野生動物の一部は、食べ物を求めて北方の地から来たものであつた。

さて、東の海から西の海までは、バウンティフルとデソレションの地の境界線上^①をニーファイ人^{じん}が一日半旅をすれば行けるわずかな距離であつた。このように、ニーファイの地とゼラヘムラの地はほとんど海に囲まれており、北方の地と南方の地の間には小さい地峡があつた。

33 そしてニーファイ人は、東の海から西の海に至るまでバウンティフルの地に住んでいた。このように、ニーファイ人は賢明に彼らの見張りの兵と軍隊をもつてレーマン人を南方に閉ざし、レーマン人が北方に領土を持つて北方の地で増え広がることのないようになした。

34 そのためニーマン人は、ニーファイの地と周辺の荒れ野の中にしか領土を持てなかつた。これはニーファイ人の知恵であつた。レーマン人は彼らの敵であつたので、彼らはあらゆる方面で苦難を受けることのないようにし、またどこへでも思つまま

に逃げて行く先を確保できるようにしたのである。35 さて、このことはこれで終わりとし、再びアンモンとアロン、オムナーとヒムナイ、および彼らの同僚たちの話に戻ることにする。

第 23 章

1さて見よ、レーマン人の王はすべての民の中に布告を出して、国内のどこにおいても、民はアンモンやアロン、オムナー、ヒムナイ、そのほか神の言葉を宣べ伝えながら旅をしているその同僚たちに、手をかけてはならないと告げた。

2まことに、王は民に布告を出して、民は彼らを捕らえて縛つたり、牢に入れたりしてはならない、つばきを吐きかけたり、打つたり、会堂から追い出したり、鞭打つたりしてはならない、また彼らに石を投げつけではならない、むしろ彼らが民の家や、

神殿や、聖堂に自由に入りできるようにしなければならないとした。

3 そのため彼らは、思いのままに巡り歩いて御言葉を宣べ伝えることができた。それは、王と王の家のすべての者が主に帰依したからである。王は民にあって全地に布告を出し、神の言葉が何の妨げにも遭うことなく国中に伝わって、先祖の言い伝えが正しくないことを民が納得するようになつた。それで全分たちは皆同胞であるので、殺人や略奪、盗み、姦淫、そのほかどのような悪事も行つてはならぬことを納得するよう仕向けていた。

4 さて、王がこの布告を出した後、アロンと彼の同僚たちは町から町へ、また礼拝の建物から建物へと巡つて、國中のレーマン人の中に教会を設け、祭司たちと教師たちを聖任して、彼らの中で神の言葉を宣べ伝え、教えるようにした。このようにして、彼らは大きな成功を収め始めた。

5 そして、何千もの人々が主を知るようになつた。まことに、何千もの人々がニーファイ人の言い伝えを信じるようになつたのである。そしてこれらの人々には、その当時まで伝えられてきた数々の

記録と預言が教えられた。

6 そして、主が生きておられるように確かに、アンモンと彼の同僚たちが啓示と預言の靈によつて行つた宣教と、彼らを通じて数々の奇跡を行われた神の力によって信仰を持つようになつたすべての人、すなわち真理を知るようになつたすべての人は、あなたがたに申し上げるが、主が生きておられるように、かれらの説教を信じて主に帰依したレーマン人は皆、一度と道を踏み外さなかつた。

7 彼らは義にかなつた民となつたのである。まことに、彼らは謀反に使う武器を捨てて、もはや神と戦わず、同胞のだれとも戦わなかつた。

8 さて、主に帰依したのは次の人々である。

9 すなわち、イシマエルの地にいたレーマン人の民、

10 また、ミドーナイの地にいたレーマン人の民、11 また、ニーファイの町にいたレーマン人の民、12 また、シャイロムの地、シエムロンの地、レムエルの町、シムナイロムの町にいたレーマン人の民。

13 以上は主に帰依したレーマン人の住んでいた町

13	12	8	6	5	3
①	①	②	①	②	①
アル	アル	アル	アル	アル	アル
モサル	モサル	モサル	モサル	モサル	モサル
53	22	26	27	26	27
10	8	3	27	63	37
11	13	11	12	19	24

の名であり、また謀反に使う武器、すなわち戦争に使うすべての武器を捨てた人々である。彼らはすべてレーマン人であった。

14 ところが、アマレカイ人はたつた一人が改宗しただけであり、アミュロン人はだれも改宗しなかつた。むしろ彼らは心をかたくなにし、彼らの住んでいる地で、すなわち彼らのすべての村と彼らのすべての町で、レーマン人の心をかたくなにさせた。

15 そのために、悔い改めて真理を知り、改宗したレーマン人の住む町の名を、すべて挙げたのである。

16 さて、王と改宗した人々は、彼らの同国人と区別される名を持ちたいと望んだ。そこで王は、何という名を受け区別されるのがよいかについて、アロンと多くの祭司たちに意見を求めた。

17 そして彼らは、自分たちをアンタイ・ニーファイ・リーハイ人と名付けた。彼らはこの名で呼ばれるようになり、もはやレーマン人とは呼ばれなかつた。

18 そして彼らは、非常に勤勉な民になつた。また彼らは、二ーファイ人と親しくなつたので、二ーフ

アイ人と交わりを持つようになった。そして、神ののろいはもはや彼らから離れ去つた。

第 24 章

レーマン人、神の民を攻める。アンタイ・ニーフアイ・リーハイ人、キリストのことを喜び、天使たちの訪れを受ける。彼らは自衛するよりもむしろ死ぬを選ぶ。さらに多くのレーマン人が改宗する。紀元前約九十年から七十七年に至る。

1 さて、アミュロンの地、またヘラムの地、さらにエルサレムの地、要するに周辺の全地にいて、改宗しておらず、アンタイ・ニーファイ・リーハイの名も受けていないアマレカイ人とアミュロン人とレーマン人たちは、アマレカイ人とアミュロン人に扇動され同胞に怒りを示すようになった。

2 そして、同胞に対する彼らの憎しみは非常にひどくなつて、ついに彼らは自分たちの王に背くようになり、その王が自分たちの王であることを望まなくなつた。その結果、彼らはアンタイ・ニーフアイ・リーハイの民に対して武器を取つた。

第 24 章

1 ① アル 21
② アル 25
1 1
13

3	2	18	14
ニフ	ニフ	① ② ファイ・リーハイ人 GS 「アンタイ・ニ	モサ 23 24
2	30	1	31 39
ニフ	5	2	23
2	6	2	1

3 ところで、王は息子に王位を譲り、彼の名をアントナイ・ニーファイ・リーハイと呼んだ。

4 そして王は、レーマン人が神の民と戦うための準備を始めたその年に亡くなつた。

5 さて、アンモンと彼の同僚たちと、彼と行動を共にしていたすべての人は、レーマン人がその同胞を滅ぼす準備をしているのを見て、ミデアンの地へ向かつた。そこでアンモンは同僚たち全員と落ち合い、そこから彼らはイシマエルの地へ向かつた。ラモーナイおよび彼の兄弟であるアントナイ・ニーファイ・リーハイとともに、レーマン人に対し自衛するために何をすればよいか協議するためであった。

6 ところが、すでに主に帰依していた人々の中に、その同胞に対し武器を取ろうとする人はだれ一人いなかつた。それだけでなく、彼らは戦いの準備をすることさえも望まなかつた。また、彼らの王も戦いの準備をしてはならないと命じたのである。

7さて、王がこの件について民に語った言葉は次のことおりである。「愛する民よ、わたしは神に感謝する。大いなる神は慈しみをもつて、同胞であるこ

のニーファイ人たちを我らのもとに遣わしてくださつた。そして、我らに教えを説き、また、不義な先祖の言い伝えが正しくないことを認めさせてくださつた。

8 また見よ、我らの心を和らげるために、大いなる神が御靈の一部をお授けくださつたことに、わたしは感謝している。おかげで我らは、同胞であるこれらのニーファイ人たちと行き来するようになった。

9 また見よ、行き来することによつて、我らが自分たちの罪と、これまでに犯した多くの殺人を自覚するようになつたことも、わたしは神に感謝している。

10 さらに、わたしの神、まことに大いなる神は、我らがこれらのことを行ひ改められるようにしてくださり、またこれまでに犯した多くの罪と殺人の罪を赦し、神の御子の功德によつて我らの心から罪を取り除いてくださつた。わたしはこのことも神に感謝している。

11 さて見よ、わたしの同胞よ、(我らは全人類の中でも最も靈的にすさんだ者であつたので) 我らがで

きることはただ、我らのすべての罪と、これまでに犯した多くの殺人の罪を悔い改めて、我らの心からそれらのものを神に取り去つて、いただくことであつた。我らができることはただ、神に我らの汚れを取り除いていただけるように、神の御前に十分に悔い改めをすることであつたからである。

さて、わたしの最愛の同胞よ、神がすでに我らの汚れを取り除いてくださり、我らの剣は光を放つようになつたので、剣を二度と同胞の血で汚すことのないようしようではないか。

見よ、わたしはあなたがたに言う。我らは剣が同胞の血で汚されることのないようにしようではないか。恐らく、もし我らが再び剣を汚すならば、それらは、将来我らの罪の贖いのために流される、大いなる神の御子の血によつて洗われて光を放つことは二度とないであろう。

大いなる神は我らを憐れみ、我らが滅びないようになつたのことを知らせてくださつた。神は我らの子供たちを愛するように我らも愛してくださつてゐるので、これらのことがあらかじめ知らせてくださつたのである。そのために、神は憐れみをもつ

て天使たちを遣わして、将来の子孫と同じように我らにも数いの計画を知らせてくださつてゐる。

おお、我らの神は何と憐れみ深いことか。さて見よ、我らは汚れを取り除いていただくためにできることはすべて行つてきて、今我らの剣は光つてゐるので、その輝きを保てるように、それを隠してしまおうではないか。そうすればその剣は、終わりの日に、すなわち裁きを受けるために神の御前に連れ出される日に、神の御言葉を伝えて我らを清めてくださつて以来、我らが剣を同胞の血で汚したことはないという、神への証拠となることであろう。

さて、わたしの同胞よ、たとえ同胞が我らを殺そうとしても、見よ、我らは剣を隠してしまおう。それを決して使わなかつたという証拠として、終わりの日に輝きを保つているように、それを地中深く埋めてしまおう。そうすれば、たとえ同胞に殺されても、見よ、我らは神のみもとへ行き、救われることであろう。」

さて、王がこのように語り終えると、民は皆集まり、自分たちの剣と、かつて人の血を流すのに使つたあらゆる武器を取つて来て、それを地中深く

14 13 11
 ① GS 「人（雲を持つ存在としての）一人の価値」
 ② GS 「贋いの計画」
 ③ アル 40. 11. 15

埋めてしまつた。^①

18 彼らがこのようにしたのは、こうする事が、武器を使つて人の血を流すことは決してないことを神と人に示す証拠になると考えたからである。かれらはこのようにして、同胞の血を流すよりは自分が命を捨て、同胞から奪うよりは同胞に与え、怠惰な生涯を送るよりは自分の手を使つて人生懸命に働くつもりであることを証明し、神に聖約したのである。

19 このことから分かるように、このレーマン人は
ちは信仰を持ち、真理を知るようになつたとき
に、確固とした者になり、罪を犯すよりは死に至
るまでも苦しみに耐えようとしたのである。また、
前に述べたことから分かるように、彼らは平和の武
器、すなわち平和を得るために戦いの武器を埋め

さて、彼らの同胞であるレーマンは戦いの準備を整え、ニーファイの地に向かって来た。彼らが目的としていたのは、王を殺してほかの者を代わりに立て、アンタイ・ニーファイ・リーハイの民もまたその地から滅ぼし尽くすことであった。

21 さて、アンタ・ニーフアイ・リーハイの民は、レーマン人が攻めて来るのを見ると、出て行つて彼らに会い、彼らの前で地に身を伏せて、主の名を呼び始めた。彼らがこのような姿勢を取つていたところ、レーマン人は彼らに襲いかかり、彼らを殺し始めた。

22 このようにして、レーマン人は何の抵抗も受けられようとせず、右にも左にも身をかわそうとせずに、伏したまま死のうとしており、剣に倒れるその最中でさえ神をほめたたえるのを見て、わたしちは知つてゐる。

23 ところでレーマン人は、自分たちの同胞が剣から逃れようとせず、右にも左にも身をかわそうとせずに、伏したまま死のうとしており、剣に倒れるその最中でさえ神をほめたたえるのを見て、彼女はすなわち、レーマン人はそれを見て、彼らを殺すことをやめた。そして、多くの者が自分たちのしたことを悔い、剣に倒れた同胞のためにひどく心を痛めた。

24 そして、これらの者は自分たちの武器を投げ捨て、人を殺してきたことにひどく苦しみを覚え、二に

度と武器を取ろうとした。それから彼らは、同胞と同じように身を伏せて、彼らを殺すために腕を振り上げた者たちのなすがままに任せたのであつた。

26 そしてその日、殺された人の数よりも多くの者が神の民に加わつた。また、殺された人々は義にかなつた人々であつたので、彼らが救われたことは決して疑う余地がない。

27 また、このようにして死んだ人々の中には一人の悪人もなく、しかも真理を知るようになつた人々は千人を超えた。このことから、主は御自分の民を救うために様々な方法を用いられることが分かる。

28 ところで、そのように多くの同胞を殺したレーマン人に属する者の大多数は、アマレカイ人とアミユロン人であり、しかもその大多数はニーホルの教団に属する者であつた。

29 主の民に加わった人々の中には、アマレカイ人やアミユロン人、あるいはニーホルの教団に属する者はだれ一人おらず、主の民に加わったのはレーマンとレムエルの実の子孫だけであつた。

30 このことから明らかに分かるように、民は一度

神の御靈に照らされ、義にかかわることに關して大いなる知識を得てから、その後、罪と背きに陥ると、前よりもいつそくたくなになる。したがつて彼らの状態は、これらのこととまつたく知らない場合よりももつと悪くなるのである。

第 25 章

レーマン人の侵略が広がる。ノアの祭司たちの子孫、アビナダイが預言したよつに滅びる。多くのレーマン人が改宗し、アンタイ・ニーファイ・リーハイの民に加わる。彼らはキリストを信じ、モーセの律法を守る。紀元前約九十年から七十七年に至る。

第 25 章

1 ① フアイ・リーハイ人^二

2 ② ベテ^一

30 ① マタル^二
29 ② アル^一
28 ③ ヘブ^一
27 ④ アル^一
26 ⑤ アル^一
25 ⑥ アル^一
24 ⑦ アル^一
23 ⑧ アル^一
22 ⑨ アル^一
21 ⑩ アル^一
20 ⑪ アル^一
19 ⑫ アル^一
18 ⑬ アル^一
17 ⑭ アル^一
16 ⑮ アル^一
15 ⑯ アル^一
14 ⑰ アル^一
13 ⑱ アル^一
12 ⑲ アル^一
11 ⑳ アル^一
10 ㉑ アル^一
9 ㉒ アル^一
8 ㉓ アル^一
7 ㉔ アル^一
6 ㉕ アル^一
5 ㉖ アル^一
4 ㉗ アル^一
3 ㉘ アル^一
2 ㉙ アル^一
1 ㉚ アル^一

3その後、彼らはニーファイ人と何度も戦つたが、
その戦いで追い払われ、殺された。

4そして、ノアの祭司であつたアミュロンと彼の仲間たちの子孫は、そのほとんど全員が殺されてレーマン人の戦死者の中にいた。彼らはニーファイ人の手によつて殺されたのである。

5また、生き残つた者たちは東の荒れ野に逃げ込んで、レーマン人を支配する権力と機能を奪い取り、彼らが信仰を持つてゐるという理由でレーマン人の多くを火あぶりにして殺させた。

6それと、いうのも、レーマン人の中の多くの者たちが、多くの同胞を失い、非常に多くの苦難を受けた後、かつてアロンと彼の同僚たちが自分たちの地で宣べ伝えた言葉を思い出すに至つたからである。そして、これらの者たちは、先祖の言い伝えを信じるのをやめて主を信じるようになり、また主がニーフアイ人に大きな力を与えられたことを信じるようになつたのである。このように、荒れ野の中

で大勢のレーマン人が改宗した。

7さて、アミュロンの子孫の生き残りの者で支配者になつた者は、まことに、これらのことを行つたのである。アビナダイが殺されるのと同じ方法で多くの人を殺すが、その後彼らは、羊飼いのいない羊が野獸に

じでいるすべての人を殺させてしまつた。

8すると、この殉教を見て多くの同胞が怒りをかき立てられ、荒れ野で争いが起つた。そして、レーマン人がアミュロンと彼の仲間の子孫を狩り出して殺し始めたため、彼らは東の荒れ野に逃げ込んでしまつた。

9そして見よ、彼らは今でもレーマン人に追い回されている。このようにして、自分を焼き殺すように仕掛けた祭司たちの子孫について、アビナダイの述べた言葉は成就した。

10アビナダイは、「あなたがたがわたしに行うことは、将来起ることの予型である」と言つたからである。

11さて、アビナダイは神を信じているという理由で火あぶりにされて死んだ最初の人であつた。しがつて、彼が言おうとしたことは、多くの人が自分と同じように火あぶりにされて死ぬということである。

12アビナダイはノアの祭司たちに、彼らの子孫はアビナダイが殺されるのと同じ方法で多くの人を殺すが、その後彼らは、羊飼いのいない羊が野獸に

11	10	8	7	6	5	4
①	①	①	②	24	①	②
モ	モ	モ	GS	1	アル	アルサ
サ	サ	サ	1	28	21	26
17	13	17	殉教者	30	3	24
13	10	18		9	15	35

追われて殺されるように、方々に散らされて殺されると述べた。見よ、これらの言葉はじよされたのである。祭司たちの子孫はレーマン人に追われ、狩かり出され、打たれたからである。

13 さて、レーマン人はニーファイ人を打ち負かせないことを知ると、再び自分の国に引き揚げた。そして、その中の多くの者がイシマエルの地とニーフアイの地上に移り住み、神の民、すなわちアンタ

イ・ニーファイ・リーハイの民に加わった。

14 彼らもまた、その同胞がしたように自分たちの武器を埋め、義にかなつた民になつた。そして主の道を歩み、主の戒めと主の掟を守るように努めた。

15 また、彼らはモーセの律法も守つた。モーセの律法はまだすべては成就していなかつたので、彼らはモーセの律法を守る必要があつたからである。しかし彼らは、モーセの律法を守つていたにもかかわらず、キリストの来臨を待ち望んでいた。彼らは、モーセの律法はキリストの来臨の予型であると考え、キリストが自分たちに御姿を現されるときまでは、それらの外形上の勤めを守らなければ

ならないと信じていたからである。

16 ところで彼らは、モーセの律法によつて救いが得られるとは思つていなかつた。しかしモーセの律法は、キリストを信じる信仰を強めるのに役立つた。このようにして彼らは、将来起ることについて告げる預言の靈に頼りながら、信仰をもつて永遠の救いにあずかることができるという希望を抱き続けたのである。

17 さて見よ、アンモンとアロン、オムナ、ヒムナイ、およびその同僚たちは、主が彼らの祈りに応じて願いをかなえてくださり、またすべてのことについて御自身の言葉を実証してくださつたことを知つて、彼らがレーマン人の中で得た成功に非常に喜びを得たのであつた。

第 26 章

アンモン、主を誇つて喜ぶ。忠実な者は主によつて強められ、知識を与えられる。人は信仰によつて何千もの人々を悔い改めさせることができる。神は一切の権威を持ち、すべてのことを悟つておられる。紀元前約九十年から七十七年に至る。

17	16	15 14 13
① ③ 13 ② ① ③ 16	② GS ジエロ 1 ① アル	① ① ①
アルテ 1 27 モ 2 ③ 14	ヤコ 4 5 、 11	カ 4 5 、 24 23
17 サ 33 12 フ 13	モサ 3 14 15 、	モサ 3 15 、
9 8 9	31 4 32	26 32

1さて、アンモンが同僚たちに語つた言葉は、次

のとおりである。「わたしの兄弟たちと同僚たちのとおりである。」²見よ、わたしあなたがたに言いたい。わたしは大いに喜んでよい。わたしたちは、ゼラヘム

ラの地を出たときに、神がこれほどまでに大きな祝福を与えてくださると想像できただろうか。

³さて、わたしは尋ねるが、神はわたしたちにどんな大きな祝福を与えてくださつただろうか。あなたがたには分かるだろうか。

³見よ、あなたがたに代わつてわたしが答えよう。わたしたちの同胞のレーマン人は、かつて暗闇の中に、まことに最も暗い、深い淵の中にいた。しかし見よ、今は何と多くのレーマン人が神の驚くべき光を見るようになつたことか。わたしたちがこ

う。わたしたちの同胞のレーマン人は、かつて暗闇の中に、まことに最も暗い、深い淵の中にいた。しかし見よ、今は何と多くのレーマン人が神の驚くべき光を見るようになつたことか。わたしたちがこ

う。わたしたちの同胞のレーマン人が今喜びを得てお祝ふである。

⁴見よ、何千人の神の群れに入つてゐる。神の羊の群れに入つてゐる者とされたことは、わたしたちに与えられた

5見よ、煙は熟してゐた。そして、あなたがたは鎌を入れ、力を尽くして刈り入れ、まことに一

6まことに、それらの東は終わりの日に嵐に打たれることなく、旋風に巻き上げられることもない。嵐が来るときに、それらの東はそのあるべき場所に集められるので、嵐がその東に吹きつけることはない。まことに、敵が追いやろうと思ふ所に暴風で押しやされることもないであろう。

7しかし見よ、それらの東は収穫をつかさどる主の御手の中にあり、それらは主のものである。主は終わりの日にそれらの者をよみがえさせてく

さる。

8神の御名がほめたたえられるように。わたしたちの神を讃美して歌おう。神の聖なる御名に感謝をささげよう。神はどこしえに義を行われるからである。

9もしわたしたちがゼラヘムラの地から来なかつたならば、わたしたちを今心から愛してくれている、またわたしたちが深く愛するこの同胞は、今も

8	7	6	5	4
②①	②①	①③	①ヨハ	①モサ
アル	アル	ニフ	ヨハ	アル
GS教義	GS教義	ヨエ	4	17.
「感謝」	「刈入れ」	ヨエ	4	モサ28.
12	25.28	33.3	5	アル6.11.9.
	22.	7	11.	コリ4.5.
		11.	37.	モサ23.10.13.

なおわたしたちに對する憎しみで苦しみ、また神を知らなかつたであろう。」

10 そして、アンモンがこれらのことばを語り終えると、兄弟のアロンが彼をたしなめて言つた。「アンモン、あなたは喜びのあまり、我を忘れて誇るようになつてしまつたのではないか。」

11 そこで、アンモンはアロンに言つた。「わたしは自分の力も知恵も誇ってはいらない。しかし見よ、わたしの喜びは満ちており、胸は喜びでいっぱいである。だから、わたしは主にあつて喜ぼう。」

12 まことに、わたしは自分が何の価値もない者であることを知つてゐる。わたしは力の弱い者である。だから、わたしは自分のことを誇るつもりはない。しかし、わたしは神のことを誇ろう。わたしは神の力によつて何事でもすることができるからである。まことに見よ、わたしたちはこの地で多くの偉大な奇跡を行つてきた。だから、とこしえに神の御名をほめたたえよう。

13 見よ、神が地獄の苦痛から解き放してくださつた同胞の数は、何千人にも上るではないか。彼らは今、贖いをもたらした愛について歌うようになつ

ている。これはわたしたちの内にある神の御言葉の力のおかげである。だから、大いに喜んでよいのではないだろうか。

14 まことにわたしたちは、とこしえに神をほめたたえて当然である。わたしたちの神はいと高き神であり、わたしたちの同胞を地獄の鎖から解き放してくださつた。

15 まことに、わたしたちの同胞はかつて永遠の暗闇と滅びに取り巻かれていたが、しかし見よ、神は彼らを御自分の永遠の光の中に、まことに永遠の救いの中に導いてくださつた。そして今、彼らはたゞいない豊かな神の愛に取り巻かれている。そして、わたしたちは神の御手に使われる者となつて、この大いなる驚くべき業を行つてきた。

16 だから、わたしたちは誇つて喜ぼう。まことに、主を誇つて喜ぼう。まことに、わたしたちの喜びは満ちてゐるので、喜びを味わおう。まことに、とこしえに神をほめたたえよう。見よ、主を誇つて喜びすぎるということがあり得ようか。まことに、主の大いなる力と、主の憐れみと、人の子らに對する主の寛容について語りすぎるということ

16	①	②	11 9
①	ロマ 15	モサ 28	モサ 28
1	コリ 1	2	モサ 28
2	コリ 10	教義 18	モサ 28
13	GS 17	エレ 9	モサ 28
14	GS 18	エレ 9	モサ 28
15	GS 32	エレ 9	モサ 28
16	光、キリスト	モサ 28	モサ 28
12	アル 29	モサ 28	モサ 28
13	アル 12	モサ 28	モサ 28
14	アル 11	モサ 28	モサ 28
15	モサ 26	モサ 28	モサ 28
16	モサ 27	モサ 28	モサ 28
17	モサ 28	モサ 28	モサ 28
18	モサ 28	モサ 28	モサ 28
19	モサ 28	モサ 28	モサ 28
20	モサ 28	モサ 28	モサ 28
21	モサ 28	モサ 28	モサ 28
22	モサ 28	モサ 28	モサ 28
23	モサ 28	モサ 28	モサ 28
24	モサ 28	モサ 28	モサ 28
25	モサ 28	モサ 28	モサ 28
26	モサ 28	モサ 28	モサ 28
27	モサ 28	モサ 28	モサ 28
28	モサ 28	モサ 28	モサ 28
29	モサ 28	モサ 28	モサ 28
30	モサ 28	モサ 28	モサ 28
31	モサ 28	モサ 28	モサ 28
32	モサ 28	モサ 28	モサ 28
33	モサ 28	モサ 28	モサ 28
34	モサ 28	モサ 28	モサ 28
35	モサ 28	モサ 28	モサ 28
36	モサ 28	モサ 28	モサ 28
37	モサ 28	モサ 28	モサ 28
38	モサ 28	モサ 28	モサ 28
39	モサ 28	モサ 28	モサ 28
40	モサ 28	モサ 28	モサ 28

があり得ようか。見よ、わたしはあなたがたに言ひうが、わたしは感じていることの万分の一も言い表せない。

17 神はわたしたちを恐ろしい、罪深い、汚れたじょうだんの態から救い出してくださつたが、神がそのように憐れみ深い御方であられることを、だれが想像できただろうか。

18 見よ、かつてわたしたちは怒つて出て行き、ひどい脅迫によつて神の教会を滅ぼそとしたり。

19 おお、そのときに神は、なぜわたしたちを恐ろしい滅びに引き渡されなかつたのだろうか。まことに、なぜわたしたちに罰の剣を下し、わたしたちを永遠の絶望の淵に落とされなかつたのだろうか。

20 おお、そのことを考へると、わたしは消え入つてしまいそうである。見よ、神はわたしたちに御自分の正義を行使されることなく、深い憐れみによつて、死と不幸のあの永遠の淵からわたしたちを救いに導いてくださつた。

21 さて見よ、兄弟たちよ、生まれながらの人でこゝらのことを知つてゐる人がいるだらうか。わたしはあなたがたに言う。悔い改めた人以外、これらの

ことを知つてゐる人はだれもない。

22 まことに、悔い改めて信仰を働かせ、善い行いをし、絶えず祈り続ける人には、神の奥義を知ることが許され、まことに、まだ明らかにされていないことを明らかにすることが許される。また、この同胞を悔い改めに導く務めがわたしたちに与えられたように、何千もの人々を悔い改めに導く務めがその人に与えられる。

23 さて、兄弟たちよ、わたしたちがゼラヘムラの地に住む同胞に、わたしたちの同胞であるレーマン人に教えを説くためにニーファイの地へ行くと言つたとき、彼らがわたしたちをあざけり笑つたのを覚えてゐるだらうか。

24 彼らはわたしたちに言つた。『あなたがたはレーマン人に真理を知らせることができると思つてゐるのか。今見るとおりの強情な民であるレーマン人に、彼らの先祖の言い伝えが正しくないことを納得させることができると思つてゐるのか。彼らは今でも血を流すことを喜びとしており、日々ひどい罪悪に明け暮れ、彼らの生活は初めから背く者の生徒だ。』兄弟たち、あなたがたは彼らがこう言つた

21	①	GS	2018
22	①	GS	モサ27・8
モサ	②	GS	2ニフ1・13、10
ヤコ	③	GS	2コリ2・9・16
アル	④	GS	ヨハネ4・5
モサ	⑤	GS	36・4・5
10	⑥	GS	13・神の奥義
11	⑦	GS	29・17

のを覚えているはずである。

25 また彼らは、『レーマン人に打ち負かされて滅ぼされることのないよう、我々は武器を取つて、彼らと彼らの罪悪を地から一掃しよう』とも言つた。

26 しかし見よ、愛する兄弟たちよ、わたしたちは同胞を滅ぼすためではなく、わずかな人でも救えるのではないかということであれ野にやつて來た。

27 そして、わたしたちが意氣消沈して、まさに引き返そうとしたとき、見よ、主はわたしたちを

慰め、『あなたがたの同胞であるレーマン人の中に行き、忍耐して苦難に耐えなさい。そうすれば、あなたがたに成功を得させよう』と言われた。

28 さて見よ、わたしたちはレーマン人の中に来て方々を巡り、様々な苦難に耐え、あらゆる窮乏をしのいできた。まことに、世の人々の憐れみに頼りながら、人々を訪れた。世の人々の憐れみばかりでなく、神の憐れみにも頼つてきた。

29 そして、わたしたちは彼らの家に入つて、彼らを教え、また通りでも、丘の上でも教えた。彼らの

神殿や会堂にも入つて教えた。そして、わたしたちは追い出され、あざけられ、つばきを吐きかけら

れ、頬を打たれた。また、石を投げつけられ、捕らえられて丈夫な縄で縛られ、牢に入れられた。その後、わたしたちは神の力と知恵によつて、再び救い出された。

30 また、わたしたちはあらゆる苦難に耐えてきた。これはすべて、だれか一人でも救う仲立ちになるようにと行つてきただことであつた。わたしたちは、だれかを救う仲立ちになれたら喜びに満たされるだらうと思つた。

31 さて見よ、わたしたちは、自分たちの労苦の成 果を見て、それを目にすることができる。その成果はわずかだらうか。あなたがたに言う。いや、その成績は多い、と。また、彼らが同胞とわたしたちに示してきた愛から、彼らの誠実さを見ることができる。

32 さて見よ、彼らは、敵の命をあつても、その命を奪うよりはむしろ自分の命を犠牲にする方を選んだ。そして彼らは、同胞を愛していたので、自分た

で全地でこれほどの深い愛があつただらうか。見

よ、あなたがたに言う。いや、ニーファイ人の中に
さえなかつた、と。

34 見よ、ニーファイ人ならば、同胞に對して武器（ほらから）
を取るであろう。殺されるに任せることはないであ
ろう。しかし見よ、これらのレーマン人の何と多く
が命を捨てたことか。これらの人々は愛があり、罪
を憎んでいたので、自分たちの神のみもとに行つた
ことをわたしたちは知つてゐる。

35 それでも、喜んでよい理由はないのだろうか。
あると、あなたがたに言おう。世界が始まつて以
来、わたしたちはどう喜んでよい、立派な理由を持つ
ている者はいない。わたしは神にあつて自分の喜び
を誇るほどまでに、今喜びに浸り切つてゐる。神
は、一切の權威（いっさい）とあらゆる知恵、あらゆる理解を
備えておられる。神はすべてのことを悟つておら
れる。神は憐れみ深い御方であり、悔い改めて神
の御名を信じる人々に救いを与えてくださる。

36 さて、もしこれが誇つてゐることになると言う
のであれば、わたしはこれからもこのようによろ
う。この御方はわたしの命、わたしの光、わたしの
喜び、わたしの救いであり、またわたしを永遠の
を譲り与える。アンタイ・ニーファイ・リーハイの民

苦惱から贖つてくださる御方である。まことに、
イスラエルの木の一枝（ひとえだ）であつて、親木から分けられ
て異郷（いきょう）でさまよつてゐるこの民を心にかけてく
ださつた神の御名（かみのみやう）がほめたたえられるように。まこ
とに、異郷で流浪の民となつてゐるわたしたちを
心にかけてくださつたわたしの神の御名（かみのみやう）がほめた
たえられるようだ。

37 さて、兄弟たち、神は民がどの地に住んでいよ
うとも、すべての民を心にかけられることが分か
る。まことに、神は御自分の民を数えておられ、神
の憐れみの心は全地のうえに及んでゐる。これがわ
たしの喜びであり、わたしの深く感謝していふと
ころである。わたしはどこしえに神に感謝をささ
げよう。アーメン。」

第 27 章

主はアンモンに、アンタイ・ニーファイ・リーハイの
民を安全な地に導くように命じられる。アンモン、アル
マに出会い、喜びのあまり力（ちから）を失う。ニーファイ人、ア
ンタイ・ニーファイ・リーハイの民にジエルシヨンの地
を譲り与える。アンタイ・ニーファイ・リーハイの民

は、アンモンの民と呼ばれる。紀元前約九十年から七十
七年に至る。

1さて、ニーファイ人に向かつて進んだレーマン
人は、ニーファイ人を攻めて、彼らを滅ぼそうと
何度も戦闘を繰り返した後、彼らを滅ぼそうとし
ても無駄であることを知つて、ニーファイの地へ
引き揚げた。

2そして、アマレカイ人は仲間を失つたことで
非常に怒っていたので、ニーファイ人に報復する
機会が得られなくなつたのを知ると、民を扇動し
て、同胞であるアンタイ・ニーファイ・リーハイ
の民に対して怒りを抱かせた。そこで彼らは、や
がアンタイ・ニーファイ・リーハイの民を殺し始
めた。

3ところがこの民は、またもや武器を取ることを
拒み、相手の思いのままに殺されるに任せた。
4アンモンと彼の同僚たちは、自分たちが非常に
深く愛するとともに、また自分たちを非常に深く愛
してくれた民の中でのこのような殺害を行わせて
のを見て、すなわち、アンモンと彼の同僚たち

は、永遠の滅びからその民を救うために神より遣わ
された天使であるかのような扱いを受けていたの
で、このようなひどい殺害が行われているのを見
て哀れみの情に動かされ、王に言った。
5「この主の民を集めて、わたしたちの同胞である
ニーファイ人のいるゼラヘムラの地へ下つて行き、
ニーファイ人のいるゼラヘムラの地へ下つて行き、
滅ぼされることのないように敵の手から逃れまし
よう。」

6しかし、王は彼らに、「見よ、我らはこれまで、
ニーファイ人に對して殺人と罪を度々犯してきた
ので、ニーファイ人は我らを殺すであろう」と答
えた。

7そこでアンモンは、「わたしは行つて、主に尋ね
ましよう。もし主がわたしたちの同胞のところへ
行くように言われたら、あなたがたは行かれます
か」と尋ねた。

8すると、王は彼に言った。「そうしよう。主がも
し行くように言われるなら、我らは同胞のところへ
行こう。そして、これまで彼らに對して度々犯
してきた殺人と罪の償いを終えるまで、彼らの奴

隸になろう。」

9しかし、アンモンは王に言つた。「わたしたちの同胞の中に奴隸がいることは、わたしの父が制定した法律に反することです。ですから、行つて、同胞の憐れみにすがりましよう。」

10しかし、王は彼に、「主に尋ねてほしい。もし主が行くよう言われるなら、我らは行く。そうでなければ、我らはこの地で滅びよう」と言つた。

11そこで、アンモンが行つて主に尋ねると、主はアンモンにこう言われた。

12「この民が滅びないように、この地を立ち去らせなさい。サタンがアマレカイ人の心をしつかりと捕らえているからである。アマレカイ人はレーマン人を扇動して、その同胞に対して怒りを抱かせ、殺させようとしている。それゆえ、あなたがたはこの地を立ち去りなさい。この時代のこの民は幸いであります。わたしがこの民を守るからである。」

13そこで、アンモンは王のもとに行き、主が言われた御言葉をすべて王に告げた。

14すると彼らは、自分たちの民、すなわち主の民を全員集め、また彼らの家畜の群れもすべて集めて、その地を去り、ニーファイの地とゼラヘムラの

地を隔てる荒れ野に入つて行つた。そして彼らは、ゼラヘムラの地の境の近くにやつて來た。

15そして、アンモンは彼らに言つた。「では、わたと同僚たちはゼラヘムラの地へ行きます。あなたがたは、わたしたちが戻つて来るまでここで待つていてください。あなたがたがその地に入ることをわたしたちの國の者が許すかどうか、彼らの気持ちを探つて来ます。」

16そして、アンモンがその地に向かつていたときには、彼と同僚たちは、前に述べた場所でアルマに出会つたのである。そして見よ、これは喜ばしい出会いであつた。

17アンモンの喜びはたとえようもなく、胸にあふれるほどであつた。まことに、彼は力が尽きてしまつた。そして、まうほどに神の喜びにのまれてしまつた。そして、彼はまたもや地に倒れた。

18これは非常な喜びではなかつただろうか。見よ、これは心から悔いて謙遜に幸福を求める者でなければ得られない喜びである。

19同僚たちに出会つたときのアルマの喜びはまことに大きく、また、アロンとオムナー、ヒムナイの

喜びも大きかった。しかし見よ、彼らの喜びはその身の力をしのぐほどではなかつた。
 さて、アルマは同僚たちをゼラヘムラの地へ案内して帰り、自分の家に連れて行つた。それから彼らは、大さばきつかさのもとに行き、自分たちの同胞であるレーマン人の中にいた間にニーフハイの地で自分たちに起こつたことを、すべて彼に話した。

21 そこで大さばきつかさは全地に布告を出し、同胞であるアンタイ・ニーフハイ・リーハイの民を国に入れることについて民の声を求めた。
 22 そして、民の声は次のとおりであった。「見よ、我々は、ひがい東の方の海のそばにあり、バウンティフルの地の南方にあつて、バウンティフルの地と境を接しているジエルショーンの地を譲ろう。このジエルシヨンの地を受け継ぎの地として同胞に譲ろう。

23 見よ、我々は、ジエルショーンの地とニーフハイの間に軍隊を配備して、ジエルショーンの地の同胞を守る。彼らが同胞に対して武器を取ることにより罪を犯すことになるのを恐れるからである。彼らがこのことをひどく恐れるのは、彼らがかつて

多くの殺人と恐ろしい悪事を行つてきたことについて、つらい悔い改めをしたからである。
 24 さて見よ、我々は同胞のためにこのようにして、彼らがジエルショーンの地を受け継ぐことができるようによう。また、彼らが物資の一部を提供して、我々の軍隊を維持できるように援助するという条件の下に、我々は軍隊をもつて彼らをその敵から守ろう。」

25 さて、アンモンはこれを聞くと、アンタイ・ニーフハイ・リーハイの民が天幕を張つて荒れ野へアルマと一緒に引き返し、これらのことをするべて彼らに知らせた。そしてアルマもまた、自分がアンモンやアロン、そのほかの同僚たちとともに改心したときのことを彼らに話した。

26 さて、アンタイ・ニーフハイの民は非常に喜び、ジエルショーンの地へ下つて行つて、そこを所有した。また彼らは、ニーフハイ人からアンモンの民と呼ばれたので、その後いつまでもその名によつて区別された。

27 また彼らは、ニーフハイの民の中にあり、神のかみ教会に属する民の中に数えられた。さらに彼ら

は、神と人々に貢献する熱心さでも秀でていた。彼らはすべてのことについてまったく正直でまつすぐであり、また最後まで確固としてキリストを信じた。

28 そして彼らは、同胞の血を流すことを最も忌まわしいことであると考えていた。そこで彼らは、同胞に対して武器を取るようになつて、それを応じなかつた。また彼らは、キリストと復活についての望みと想いがあつたので、死を少しも恐ろしいと思わなかつた。彼らにとつては、死はすでにそれに打ち勝つキリストの勝利にのまれてしまつたのである。

29 したがつて彼らは、剣や三日月刀を取つて同胞を討つよりも、むしろ同胞が加える最も無残で痛ましい死を受ける方を望んだ。

30 このように、彼らは熱心な愛すべき民であり、主から厚い恵みを受けた民であつた。

第 28 章
レーマン人は激しい戦闘で敗れる。その戦闘で、数万の人々が死ぬ。悪人は無窮の不幸な状態に置かれ、義人

は決して終わりのない幸福を得る。紀元前約七十七年から七十六年に至る。

1さて、アンモンの民がジエルシヨンの地に定住し、教会もジエルシヨンの地に設けられ、ニーフアイ人の軍隊がジエルシヨンの地の周囲に、まことに、ゼラヘムラの地の周囲の境の全域に配備された後、見よ、レーマン人の軍隊が彼らの同胞を追つて荒れ野に進んで来た。

2 このようにして、すさまじい戦闘が始まつた。まことに、リーハイがエルサレムを去つて以来、この地で人々が一度も経験したことのない規模の戦闘であつた。そして、殺され、方々に追い散らされたレーマン人は数万人にも及んだ。

3 また、ニーファイの民にもすさまじい殺戮が及んだが、それでもレーマン人は追い払われ、散らされた。そしてニーファイの民は、再び自分たちの地に帰つた。

4 これによつて國中至る所に、すなわちニーフアイのすべての民の中に大きな嘆きと悲しみの声が起つた。

5 まことに、やもめは夫のことを嘆き、父は息子のことをして、娘は兄弟のことを、まことに、兄弟は父のことをそれぞれ嘆いて泣き叫んだ。このようにすべての人の中で、殺された親族のことを嘆く叫び声が聞かれた。

6 さて、これはまことに嘆きに満ちた日であり、まことに、嚴肅な時、断食と祈りを重ねた時であつた。

7 このようにして、二ーフアイの民のさばきつかの統治第十五年が終わる。
 8 アンモンと彼の同僚たちが二ーフアイの地を旅したことと、その地で受けた苦しみ、悲嘆、苦難、計り知れない喜び、同胞がジエルションの地に迎えられて安全に暮らしたことについての話は、以上のことおりである。万人の贖い主である主が、とこしに彼を祝福してくださるように。

9 ニーフアイ人の中の戦争と争い、および二ーフアイ人とレーマン人の間の戦争についての話は以上のことおりである。これで、さばきつかの統治第十五年が終わる。

10 さばきつかの統治の第一年から第十五年まで

の間に、何千人の人々が殺された。まことに、その間に流血の惨事もあつた。

11 そして、何千もの遺体が地中に葬られたが、地面に積み上げられたまま朽ちている遺体も何千とある。また、身内を失つたことで嘆いている人々も何千人といふ。彼らが嘆くのは、主の約束によつてその親族が無窮の不幸な状態に置かれることを恐れる理由があるからである。

12 また一方では、親族を失つたことをまことに悲しみながらも、彼らがよみがえつて、決して終わることのない幸福な状態で神の右に住むであろうといふ望みに喜びを感じ、また主の約束によつてそれを知つてさえいる人々が何千人もいる。

13 以上のことから、悪魔が人の心を捕らえようとして企てた狡猾な策謀によつて生じる、罪と背きと悪魔の力とのために、人々の差異がどれほど大きくなるものであるかが、わたしたちに分かるのである。

14 また以上のことから、主のぶどう園で働く人々が勤勉であるようになり求められていることも分かる。さらに、悲しみの大きな原因と喜びの大

14	13	12	11	8	6
①	②	①	①	教義	①
樹園	GS	1	2	アル	アル
(主の)	「ぶどう園」	ニ	ニ	アル	アル
	35	28	45	48	16
		17	9	23	11
		41	46	16	2
		19			

きな原因についても分かる。悲しみは人々の中の死と滅亡のために生じ、喜びは命に至るキリストの光のために生じるのである。

第29章

アルマ、天使のよくなれい意をもつて悔い改めを叫ぶことを望む。主はすべての国民のために教える人々を与える。アルマ、主の業を誇り、またアンモンと彼の同僚たちの成功を誇る。紀元前約七十六年。

1 「おお、わたしが天使であつて、わたしの心の願いを遂げることができればよいものを。わたしの心の願いとは、出て行つて、神のラツバのように地を震わせる声で語り、すべての民に悔い改めを叫ぶことである。

2 まことに、わたしは雷のような声で、あらゆる人に悔い改めと贖いの計画を告げ知らせ、もはや地の全面に悲しみのないよう、悔い改めて神のみもとに来ることを彼らに勧めたい。

3 しかし見よ、わたしはただの人であり、このよううに願うことさえも罪である。わたしは主から与え

られたもので満足すべきだからである。

4 わたしは、公正な神の堅い定めを、わたしの願いによつて乱してはならないのである。人が死ぬことを見もうと生きることを望もうと、神が彼らの望むままにされることを知つてゐるからである。

5 またわたしは、善と悪がすべての人の前にあることも知つてゐる。善惡の分からい人は、罪のない状態にある。しかし、善惡の分かることには、善を望もうと悪を望もうと、生を望もうと死を望もうと、喜びを望もうと良心のとがめを望もうと、自分の望むままに与えられるのである。

6 さて、わたしはこれらのことを見つていたが、どうして自分の召された務めを果たすこと以上に多くのことを望んでよいだらうか。

7 わたしはどうして、天使になつて地の果てに至るすべての人々に語ることができると願つてよいだらうか。

8 見よ、主はすべての国民に、その國民を使い、

14	(2)	GS	「光、キリストの光」
8	① ②	GS	「選択の自由」
5	① ②	GS	「識別の賜物」
4	① ②	詩篇37:4	オム1, 26,
2	3	二フ21, 20	二フ1, 26,
3	2	二フ2, 18,	モロ7, 15, 19, 20
2	1	二フ29	二フ12

その国民の言葉を使つて主の御言葉を教えること
を許されるからである。まことに、主は賢明にも、
御自分が彼らにとつて^⑤ふさわしいと思われるすべて
の事柄を教えることを許される。したがつて、賢明にも主は正しく眞実なことに応じて勧告される
ということが、わたしたちは分かるのである。

9わたしは主から命じられた事柄を知つており、
それに誇りを感じている。わたしは自分自身のこと
とを誇らないで、主から命じられた事柄を誇る。
神の御手に使われる者となつて幾人かでも悔い改めに導けること、これがわたしの誇りであり、喜びである。

10見よ、わたしは、多くの同胞が心から悔いて、
主なる神のみもとに来るのを見るとき、喜びに満たされる。またそのとき、わたしは主がわたしのために行つてくださったこと、すなわちわたしの祈りを聞き届けてくださったことを思い出す。まことに、わたしはそのときに、主がかつてわたしに憐れみ深い御腕を伸べてくれたことを思い出す。

11わたしはまた、先祖が囚われの状態にあつたことも思い出す。主がわたしの先祖を奴隸の状態か

ら救い出し、そうすることによつて御自分の教会を設けられたことを、わたしは確かに知つてゐるからである。まことに、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である主なる神は、わたしの先祖を奴隸の状態から救い出してくださつたのである。

12まことにわたしは、先祖が囚われの状態にあつたことをいつも思い出す。わたしの先祖をエジプト人の手から救い出してくださつたその同じ神が、わたしの先祖を奴隸の状態からも救い出してくださつた。

13まことに、その同じ神がわたしの先祖の中に御自分の教会を設けられた。また、その同じ神が、この民に御言葉を宣べ伝えるために、聖なる召しによつてわたしを召し、わたしに大きな成功を得させてくださつた。そして、その成功によつてわたしは喜びに満たされている。

14しかしわたしは、自分の成功だけを喜ぶことはしない。ニーファイの地へ行つたわたしの兄弟たちの成功で、わたしはなおさら喜びに満たされて

14	13	12	11	10	9	8
①	①	①	①	①	③	②
アル	モ	アル	モ	アル	モ	アル
教出	サ	ササ	サ	ササ	サ	ササ
工	ル	5	24	27	26	1290
17	18	14	3	11	12	9
18	14	3	24	27	26	11
1	14	30	5	16	11	11
4	16	31	21	31	11	11

た。将来彼らの得る報いは何と大きいことだろう。

16 さて、この兄弟たちの救いを考へると、わたしの喜びは大きくて、まるで自分の靈が肉体を離れるかと思うほどに、わざと我を忘れてしまう。

17 わたしの兄弟であるこれらの人々が神の王国で座に着くことを、神がお許しくださり、また彼らの労苦の結ぶ実であるすべての人が、もはや二度と出て行くことなく、どこしえに神をほめたたえることでもお許しくださるように。神がわたしの言葉のところに、すなわち、わたしがこれまで語つてきたようになることをお許しくださるようだ。アーメン。」

第30章

反キリストのコリホル、キリストと贖罪と預言の靈を

あざける。コリホル、神は存在せず、人の墮落はなく、罪に対する罰ではなく、キリストも存在しないと教える。アルマ、将来キリストが来られることと、万物が神のもとを示していることを証する。コリホル、しるしを求めて、物が言えなくなる。悪魔が天使のようにコリホルに現れ、語ることを彼に教えていた。コリホル、踏みつけられて死ぬ。紀元前約七十六年から七十四年に至る。

1 さて見よ、アンモンの民がジエル・ヨンの地に

定住した後、またレーマン人がその地からつい払われ、レーマン人の死体がその地の民によつて葬られた後、

2 レーマン人の死体はおびただしい数であつたの

で数えられることなく、ニーフアイ人の死者も數えられなかつたが、その地の民が彼らの死者を葬つた後、そして断食と喪と祈りの日々が終わつた後、

(ニーフアイの民のさばきつかさの統治第十六年には)全地に和平が統くようになった。

3 そして民は、主の戒めを守るように努め、またモーセの律法に従つて神の儀式を厳密に守つた。彼らはモーセの律法が成就するまで、その律法を守るように教えられていたからである。

4 このように、ニーフアイの民のさばきつかさの統治第十六年には、一年間、国民の間にまつたく不和がなかつた。

5 そして、さばきつかさの統治第十七年の初めも、引き続き平和であつた。

6 ところが、第十七年の末に、ゼラヘムラの地にひとりの男がやって來た。その男は反キリストであ

第30章

1 ①アル27、25-26、

GS「アンタクイ」

ニーフアイ・リーハイ人

2 ②アル28-1-3

GS「モーセの律法」

3 ①②アル25-24-27、

GS「反キリスト」

つた。彼は預言者たちがキリストの来臨について語った。預言に反対して、民に教えを説き始めた。

7 このときには、人の信条を禁止止する法律はなかつた。人々を不平等な立場に置く法律があることは、まつたく神の戒めに反していたからである。

8 聖文には、「あなたがたの仕える者を、今日、選びなさい」とある。

9 そこで、もし人が神に仕えたいと思うならば、神に仕える特権があつた。いや、その人が神を信じるならば、神に仕える特権があつた。しかし、たとえ人が神を信じなくても、その人を罰する法律はなかつた。

10 しかし人殺しをすれば、その人は死刑に処せられた。また、略奪する者も罰せられ、盜む者も罰せられ、姦淫を行ふ者も罰せられた。まことに、すべてこのような悪事を行う者は罰せられた。

11 人々は罪科に応じて裁かれるという法律があつたからである。にもかかわらず、人の信教に反対する法律はなかつた。したがつて、人は自分の行つた犯罪についてだけ罰せられたので、すべての人々が平等な立場にあつた。

12 そして、名前をコリホルというこの反キリストは、(法律は彼をまつたく拘束できなかつたので)キリストはいないと民に教えを説き始めた。そして、彼は次のように述べた。

13 「おお、愚かでむなし希望の下に縛られている人々よ、あなたがたはどうしてこのような愚かなことにして束縛されているのか。あなたがたはどうしてキリストを待ち望んでいるのか。だれも将来起ることを知ることはできない。

14 見よ、あなたがたが預言と呼び、聖なる預言者から伝えられたと言っているこれらのこととは、見よ、あなたがたの先祖の愚かな言い伝えである。

15 あなたがたはどのようにしてそれが確かであると分かるのか。見よ、あなたがたはまだ見ていない物事を知ることはできない。だから、将来キリストが現れるということを前もつて知ることはできないのである。

16 あなたがたは将来を見通して、自分たちの罪が赦されるのが分かると言う。しかし見よ、それは精神がおかしくなつてゐる結果である。このような精神の錯乱は、実際にはないことを信じるように惑

わす、あなたがたの先祖の言い伝えのために生じたものである。』

17 コリホルはこのようなことをほかにも多く民に語り、人々の罪のために行われる贖罪などあり得ないこと、人は皆、この世の生涯を善く暮らすも悪く暮らすも、その人の対処の仕方次第であるから、人は皆自分の素質に応じて榮え、自分の力に応じて勝利を得ること、また人がすることはどんなことも決して罪にならないことを民に告げた。

18 彼は民にこのように説いて、多くの人の心を惑わし、平然と悪事を犯させ、まことに、多くの男女を惑わしてみだらな行いをさせた。そして、人が死ねばそれで終わりである、と民に語つた。

19 またこの男は、かつてレーマン人であつたアンモンの民の中でこのことを教えようとして、ジエルシヨンの地へも行つた。

20 しかし見よ、アンモンの民は多くのニーファイ人よりも賢明であった。彼らはコリホルを捕らえて縛り、その民の大祭司であるアンモンの前に連れ行つた。

21 そこでアンモンは、彼をその地から連れ出させ

た。そこで彼はギデオンの地へ行き、その地の民に教えを説き始めた。しかし、ここでもあまり成果は上がらなかつた。彼は捕らえられて縛られ、その地の大祭司と大さばきつかさの前に連れて行かれたからである。

22 そこで、大祭司はコリホルに、「なぜあなたは方々歩き回つて主の道を曲げようとしているのか。なぜキリストは現れるはずがないとこの民に教えで、彼らの喜びを妨げるのか。なぜ聖なる預言者たちのすべての預言に逆らつて語るのか」と尋ねた。

23 この大祭司の名はギドーナであつた。コリホルはギドーナに答えた。「その訳は、わたしがあなたの先祖の愚かな言い伝えをこの民に教えていたからであり、また昔の祭司たちによつて設けられた愚かな儀式と勤めに自分自身を縛りつけるように、この民に教えていないからである。昔の祭司たちは民を支配する権力と機能を奪い取り、民がその頭を上げることなくあなたの言葉に従うようにするために、民を無知の中にとどめておこうとして、それらの儀式と勤めを設けたのだ。」

24 あなたがたは、この民は自由の民であると言

う。見よ、わたしに言わせれば、この民は奴隸の状態にある。あなたがたは昔の預言は眞実であると言う。見よ、それらが眞実であることはあなたがたには分からぬ、とわたしは言おう。

25 あなたがたは、この民は親の背きのために罪のある堕落した民になつてゐると言う。見よ、子は親のために罪を負はない、とわたしは言おう。

26 またあなたがたは、将来キリストが来るとも言つてゐる。しかし見よ、将来キリストが来ることに殺されるとも言つてゐる。

27 このようにしてあなたがたは、先祖の愚かな言い伝えによつて、あなたがたの望むままにこの民を惑わしている。そしてあなたがたは、この民の労苦で飽きるほどに食べようと、まるで奴隸でもあるかのように民を抑圧している。そのため、民はあえて勇氣を奮つて頭を上げようとせず、またあえて自分たちの権利と特權を享受しようともしない。

28 まことにこの民は、祭司たちを怒らせるのを恐れて、自分自身のものもあえて使おうとしない。

この祭司たちは自分たちの望むままに民にくびきをかけ、また自分たちの言い伝えと幻想と氣まぐれと空想と偽りの奥義によつて、もし民が祭司たちの言葉のとおりに行わなければ、民は神と呼ばれる未知の存在者を怒らせることになると民に信じ込ませた。しかし、彼らの言う神は、いまだかつて人が見たこともなく知つてもおらず、過去にも現在にも未来にも決して存在しない者である。」

29さて、大祭司と大さばきつかさは、コリホルの心がかたくなであるのを見ると、また彼が神さえもののしろうとするのを見ると、彼の言葉にまつたく応じることなく、彼を縛らせて役人の手に引き渡し、ゼラヘムラの地へ送つた。それは、彼をアルマと全地の総督である大さばきつかさの前に引き出すためであつた。

30 さてコリホルは、アルマと大さばきつかさの前に引き出されても、ギデオンの地で語つたように語り、不穏な言葉を吐き分けた。

31 また彼は、アルマの前で大言壯語し、祭司たちと教師たちをののしり、彼らは民の労苦によつて生きるほど食べるためには先祖の愚かな言い伝えで

民を惑わしていると言つて彼らを非難した。

32 そこで、アルマは彼に言つた。「あなたは我々が民の労苦で飽きるほど食べるようなことはしていないことを知つてゐる。見よ、わたしは、民に神の御言葉を告げ知らせるために何度も國の方々を旅して、さばきつかさの統治の初めから今に至るまで、自分の手で働いて生活の糧を得てきた。」

33 またわたしは、教会で多くの務めを果たしてき

たが、これまで自分の働きに対して一セナインも報酬を受けたことはなかった。わたしの同胞も、さばきつかさの職を務める者は皆そうである。そして、さばきつかさの職にある者も、法律に定められるとおり、務めた時間の分の報酬を受けただけである。

34 では、もし教会での働きに對して何も報酬を受けないとすれば、我々は、真理を告げ知らせて同胞の喜ぶのを見て喜びとするほかに、どのような得があつて教会で働くのであるうか。

35 また、あなた自身、我々が何の報酬も受けないことを知つてゐるのに、どうして我々が利を得るためにこの民に教えを説いていると言ふのか。まるためには、あなたは、この民の心の中にこのよくなきよろこびがあるのです。

た、あなたは、この民の心の中にこのよくなきよろこびがあるのは、我々がこの民を欺いていたのが満ちているのは、我々がこの民を欺いていためだとでも思つてゐるのか。」

36 するとコリホルはアルマに、「そのとおり」と答えた。

37 そこで、アルマは彼に、「あなたは神がましますことを信じるか」と尋ねた。

38 すると彼は、「いや」と答えた。

39 また、アルマは彼に言つた。「あなたは神がましますことをまたもや否定し、キリストも否定するのか。見よ、あなたに言う。わたしは神のましますことと、将来キリストが来られることを知つてゐる。

40 あなたは、何の証拠があつて神は実在せず、またキリストは来られないと言ふのか。あなたの言葉のほかには何一つ証拠がないと、わたしはあなたに告げる。

41 しかし見よ、わたしはすべての事物をもつて、これらのことことが眞実であると証する。また、これらのことことが眞実であることを証するすべての事物があなたにもあるのである。それでもあなたは、これらのことを否定するつもりか。あなたはこれらのこ

とが眞実であることを信じるか。

42 見よ、わたしは、あなたが信じていてることを知つてゐる。ところがあなたは偽りを言ひ靈に取りつかれている。あなたが自分に神の御靈が宿らないよう遠ざけてしまつたので、惡魔があなたを支配する力を持つたのである。そして、惡魔は神の子たちを滅ぼすために様々な策略を働くを、あなたを行かせるのである。」

43 すると、コリホルはアルマに、「もしあなたが、神のいることを確信させるしをわたしに見せ、まことに、神に力のあることを示してくれるなら、あなたの言葉が眞実であることを納得するだろ」と言つた。

44 しかし、アルマは彼に言つた。「あなたはすでに数々のしるしを十分に持つてゐる。あなたは神を試みようとするのか。あなたの同胞であるこのすべての人の証と、すべての聖なる預言者たちの証があるのに、あなたは『しるしを見せてくれ』と言ふのか。あなたの前に聖文が置いてある。まことに、万物は神がましますことを示してある。また、大地も、大地の面にある万物も、大地の運う。

45 それでも、あなたは方々を歩き回つてこの民の心を惑わし、神は実在しないと彼らに証するつもりか。また、あなたはそれでも、このように証するすべてのものに逆らつて否定するつもりか。」するとコリホルは、「そのとおり。しるしを見せてくれないかぎり、わたしは否定する」と答えた。

46 そこでアルマは彼に言つた。「まことに、あなたの心がかたくなであつて、なおも真理の靈に逆らつて靈の滅びを招こうとしていることを、見よ、わたしは嘆かわしく思う。

47 しかし見よ、あなたが仲立ちになつて、あなたの偽りとへつらいの言葉により多くの人を滅びに至らせるよりは、むしろあなた自身が滅びる方がよい。したがつて、もしあなたがもう一度否定するならば、まことに神はあなたを打たれるであろう。あなたは物が言えなくなり、二度と口を開くことができなくなるであります。

47	44	43
① ⑤ ④ ③ ② GS 1 ヨハ ニセ フ 4 13	① ヤコ モサ 13 33 34	① 教義 詩篇 19 13 9 13 21
ヒラ 6 12 11 7 15 10	ヨブ 88 12 47 1 1 1	

48 ところが、コリホルはアルマに、「わたしは神の存在を否定はしないが、神がいるとは信じない。だから、神がいることはあなたたちには分からないと言つてゐるのだ。しるしを見せてくれなければ、わたしは信じない」と言つた。

49 そこで、アルマは彼に、「あなたにしるしを示そう。あなたはわたしの言うとおり物が言えなくなつたというものがそれである。わたしは神の御名によつて言う。あなたは物が言えなくなり、今後二度と口を利くことができないであろう」と言つた。

50 アルマがこの言葉を言い終えると、アルマの言葉のように、コリホルは物が言えなくなり、語ることができなくなつた。

51 さて、大さばきつかさはこれを見ると、手を差し伸べてコリホルに書き示し、「あなたは神の力を認めると、彼がほかの人々を苦しめることを願つたか。」

52 するとコリホルも、手を差し伸べて書き示し、

53 しかし見よ、悪魔がわたしを欺いたのです。悪魔は天使の姿でわたしに現れて、『この民は皆、未知の神を求めて迷つてゐるので、行つて改心させよ』と言いました。また悪魔はわたしに、『神はない』と言い、わたしが言うべきことも教えてくれました。そこで、わたしは悪魔の言葉を教えてきました。わたしは、悪魔の言葉が肉の思いに快いので、それを教えてきたのです。また、わたしはそれを教えてついに大きな成功を収めたので、自分でもそれが真実だとまつたく信じるようになりました。このようなわけで、わたしは真理に逆らい、とうとこの大きなのろいを招いてしまいました。」

54 さて、コリホルはこのように言うと、そののろいが取り去られるように神に祈つてほしいとアルマに懇願した。

しかし、アルマは彼に、「こののろいがあなたから取り去られると、あなたはまた、この民の心を惑わすようになるであろう。だから、主が望まれるとおりになるがよい」と言つた。

56 そして、そののろいはコリホルから取り去られなかつた。そして、彼は追い出され、食べ物を請うて家々を巡るようになった。

57 一方、コリホルの身に起こつたことは、すぐ全地に告げ知らされた。まことに、大さばきつかさが国のですべての人々に布告を出し、コリホルの言葉を信じた人々に、同じ裁きを受けることのないよう速やかに悔い改めなければならぬと告げたのである。

58 そこで彼らは皆、コリホルの悪事を認め、再び主に帰依するようになつた。そして、これによつてコリホルに倣つた罪惡は後を絶つた。コリホルは人々を巡り、食べ物を請うて命をつないだ。

59 さて、ニーフアイ人から分かれ、ゾーラムといふ名の男に率いられて自分たちをゾーラム人と呼ぶようになつた民があつたが、コリホルはその民の中を歩き回つていたときに、見よ、突き倒されて踏み

つけられ、とうとう死んでしまつた。
60 このことから、主の道を曲げる者の末路が分かることも、わたしたちに分かるのである。

第31章

アルマ、神の教えに背いているゾーラム人を改心させるために、先頭に立つて伝道の業に従事する。ゾーラム人、キリストを否定し、選民についての間違った考え方を信じ、決まり文句の祈りで礼拝する。宣教師たち、聖なる御靈に満たされる。彼らの苦難はキリストの喜びにのまれてしまう。紀元前約七十四年。

1さて、コリホルの死後、アルマは、ゾーラム人が主の道を曲げており、また彼らの指導者であるゾーラムが人々の心を迷わせて、物の言えない偶像を拝ませてゐるという知らせを受けたので、その民の罪惡のために再び心を痛めた。
2自分の民の中に罪惡があるのを知ることは、アルマにとつて深い嘆きの種であつたからである。

60	2 ①	2 二フ 9	37
② ①	モサ 13	出工 20	5
教義 5	モサ 28	モサ 35	15
GS 41	モサ 17	モサ 3	14
「魔」	モサ 17	モサ 13	13
GS 42	モサ 17	モサ 13	13
「地獄」	モサ 29	モサ 41	45
GS 26	モサ 29	モサ 41	45
27	モサ 29	モサ 41	45

したがつて、ゾーラム人がニーフアイ人から別れたことで、彼は心に非常な悲しみを覚えた。

³ ところで、ゾーラム人は彼らがアンテオヌムと名付けた地に集まっていた。その地はゼラヘムラの地の東にあり、ほとんど海岸に接しており、ジエルシヨンの地の南にあって、南方の荒れ野にも接していた。その南方の荒れ野にはレーマン人が大勢いた。

⁴ そこでニーフアイ人は、ゾーラム人がレーマン人と行き来し、そのためにニーフアイ人の側に大きな損害が出るのではないかとひどく恐れた。⁵ ところで、御言葉を説き教えることは民に正しいことを行わせるのに大きな効果があり、まことには、剣やそのほか、これまで民に起こったどのようなことよりも民に強い影響を及ぼしたので、アルマはこの度も神の言葉の力を使うのが望ましいと思つた。

⁶ それでアルマは、アンモンとアロンとオムナードを連れて出かけた。アルマはヒムナイをゼラヘムラの教会に残して、先の三人とミレクにいたアミユレクとゼーズロム、および自分の二人の息子を

連れて行つたのである。

⁷ このとき、アルマは長男を連れて行かなかつた。その長男の名はヒラマンという。また、彼が連れて行つた息子たちの名は、シブロンとコリアントンである。以上が、ゾーラム人に御言葉を宣べ伝えるために、アルマと一緒にゾーラム人の中に出かけた人々の名である。

⁸ さて、ゾーラム人はニーフアイ人から離反した者たちであつたので、彼らは以前に御言葉を聞いていた。

⁹ しかし彼らは、モーセの律法に従つて神への祈りと神の掟を守ろうと努めなかつたので、大きな過ちに陥つていた。

¹⁰ また彼らは、誘惑に陥らないために神への祈りと嘆願を日々続けるようにという教会の決まりを守ろうとしたしかつた。

¹¹ 要するに、彼らは非常に多くの点で主の道を曲げていた。それでアルマと彼の同僚たちは、彼らに御言葉を伝えようとしてその地に入つて行つたのである。

¹² さて、彼らがその地に入つてみると、見よ、驚

5 ① ヘブ 4:12
ヤコ 2:8,
アル 36:26
エノ 1:23,
アル 4:19
② GS「宣べ伝える」
アル 30:59
ジエロ 1:11-12,
③ GS「ヒラマン」
アル 30:59
教義 11:2
ルマの息子」
アル 30:59
アル 24:19
「背教、背信」

いたことに、ゾーラム人は会堂を幾つも建ててお
り、一週のうちの一日を主の日と呼んで、その日
に集まることにしていた。そして彼らは、アルマ
と彼の同僚たちがまだ一度も見たことのない方法
で礼拝していた。

13 彼らは会堂の中央に一つの場所、すなわち立ち
台を設けていた。それは人の背丈よりも高く、その
上の部分は人が一人しか立てない広さであつた。
14 そして、礼拝したいと思う者はだれでも、進み
出でてその台の上に立ち、両手を天に向けて伸ば
し、大声で次のように叫ばなければならなかつた。
15 「聖なる、聖なる神よ、わたしたちはあなたが神
でましますことを信じています。あなたが聖なる御
方であり、あなたが過去に靈であり、現在も靈であ
り、将来もどこしえに靈であられるこれを、わた
したちは信じています。

16 聖なる神よ、わたしたちは、あなたがわたした
ちを同胞から分けられたことを信じています。わた
したちは、同胞の先祖が愚かにも同胞に伝え、彼ら
が今もなお受け入れている言い伝えを信じていま
せん。しかし、あなたがわたしたちをあなたの聖い

なる子となるように選ばれたこと、またわたした
ちにキリストが現れることはないと知らせてくださ
ったことを、わたしたちは信じています。

17 またあなたは、昨日も、とこしえに変わ
らない御方でまします。あなたはわたしたちを
選んで、わたしたちが将来救われるようにしてく
ださいました。一方、わたしたちの周りの者は皆、
あなたの怒りによって地獄に投げ込まれるように定
められています。おお、神よ、わたしたちを聖い者
としてくださつたことを、わたしたちは感謝しま
す。また、わたしたちを選んで、同胞の愚かな言い
伝えに惑わされることのないようにしてくださつた
ことを感謝します。その愚かな言い伝えは彼らを
束縛してキリストを信じさせ、彼らの心を神でま
しますあなたから遠く引き離していません。

18 おお、神よ、今一度、わたしたちが選ばれた聖
なる民であることをあなたに感謝します。アーメ
ン。

19さて、アルマと同僚たちと彼の息子たちは、こ
の祈りを聞いて非常に驚いた。

20見よ、すべての男が進み出て、この同じ祈りを

ささげたからである。

21 ところで、ゾーラム^{じん}人はその場所^{ばしょ}をラミアン^アンプトムと名付けた。それは聖台^{せいだい}という意味である。
 22 さて、彼らは一人残らずこの台からまつたく同じ祈り^{いの}を神にささげ、自分が神から選ばれていたこと、また神が自分たちを同胞^{はからら}の言^い伝えに惑わされないようになされたこと、また心を奪われて、自分たちのまったく知らない将来^{しょうう}のこと可信^{しん}じるよう仕向^{しむ}けられることのなかつたことを、自分たちの神に感謝^{かんしゃ}した。

23 人々は皆この方法で感謝^{かんしゃ}をささげてから各々の家に帰つたが、その後は、再びその方法で感謝^{かんしゃ}をささげるためにその聖台に集まるまで、神のこと^をまつたく口にしなかつた。
 24 さて、アルマはこれを見ると、心が痛んだ。彼らが邪悪^{じゃあく}でよこしまな民であるのを見たからである。まことに彼らが、金銀^{きんぎん}そのほかあらゆる立派^{りつぱ}な品々に執着^{しおぢやく}しているのを見たからである。
 25 アルマはまた、彼らが心を高ぶらせて、非常に誇る^{ほひじょう}ようになり、高慢^{こうまん}になつているのも見た。
 26 そこでアルマは、天に向かつて声を上げ、叫び^{さけび}

求めた。「おお、いつまで、おお、主よ、あなたは僕たちが肉^{にく}にあつてこの地上^{じょうじ}で暮らし、人の子らの中^{なか}でこのようないどい悪事^{あくじ}を見るのをそのままにしておかれるのでしようか。

27 まことに、おお、神よ、この民^{たみ}はあなたに叫び求めていますが、その心^{こころ}は高慢^{こうまん}にのまれています。まことに、おお、神よ、彼らは口ではあなたに叫び求めながら、俗世^{そくぜ}のむなしのものをもつて、甚だしく誇り高ぶ^{たが}っています。

28 まことに、おお、わたしの神よ、彼らの高価^{こうか}な衣服^{いふく}と小環^{しょうかん}、腕輪^{わんわ}、金^{きん}の装身具^{そうしんぐ}、そのほか装飾^{そうじょく}に用いるすべての高価^{こうか}な品々を御覧^{ごらん}ください。まことに、彼らはそれらのものに執着^{しおぢやく}していながら、あなたに叫び求め、「おお、神よ、ほかの人々は滅びます^{ほろ}ますが、わたしたちはあなたにとつて選ばれた民^{たみ}であることを、あなたに感謝^{かんしゃ}します」と言つています。

29 また彼らは、キリストは現れることはないと、あなたが彼らに示されたと言つています。
 30 おお、主なる神よ、いつまでこのようないどい悪事^{あくじ}と不信^{ふしん}仰がこの民の中^{なか}にあるのをお許^{ゆる}しになるので

しょうか。おお、主よ、わたしが自分の弱さに耐えられるように、どうかわたしに力をお与えください。わたしは弱い者であり、この民の中のこのような悪がわたしを苦しめます。

31 おお、主よ、わたしの心は非常に嘆いています。どうか、キリストにあつてわたしを慰めてく

ださい。おお、主よ、この民の罪惡のためにこれらを得させてください。

おお、主よ、どうかわたしを慰め、わたしに成功を収めさせてください。また、わたしとともにいる同僚のアンモンとアロン、オムナ一、アミユレク、ゼーヴロム、および二人の息子たちにも成功を認めさせてください。おお、主よ、これらの人々をすべて慰めてください。どうかキリストにあつて彼らを慰めてください。

民の罪悪のために彼らに降りかかる苦難に耐えてください。

34 おお、主よ、どうかわたしたちがこの民をキリスト

トにあつて再びあなたののみもとに連れ戻すのに、
成功を収められるようにしてください。

まことに、おお、主よ、彼らは貴い人々であり、
その多くはわたしたちの同胞です。ですから、お
お、主よ、わたしたちが同胞であるこれらの人々を
再びあなたののみもとに連れ戻すことができるよう

36 さて、アルマはこれらの言葉を述べ終えると、ともにいたすべての人に手を置いた。すると見よ、アルマが手を置いたので、彼らは聖なる御靈みたまをかねてお

37 その後、彼らはそれぞれ分かれて出かけたが、何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかななどと思ひ煩うことはまつたくなかつた。

38
かれ
彼らが飢えることも渴くこともないよう、主に彼らのため備えをされたのである。また主は、彼らに力を与え、キリストの喜びにのまれてしまふ苦難のほか、彼らがどのような苦難も受けられることがないようにされた。これはアルマの祈りによるものであつた。彼が信仰をもつて祈つたの

で、このようになったのである。

第32章

アルマ、多くの苦しみを受けて謙遜になつた貧しい人々を教える。信仰とはまだ見ていない眞実のことを待ち望むことである。アルマ、天使たちが男も女も、子供たちをも教えることを証する。アルマ、御言葉を種にたとえる。それは植えて養いを与えないければならない。そうすればそれは生長して木になり、永遠の命の実を得ることができる。紀元前約七十四年。

貧しかつた。また、心も貧しかつた。
 4さて、アルマがオナイダの丘で人々に教え、語つていたときに、今述べた人々、すなわちこの世のものに關して貧しいために心の貧しい人々が、大きな群れを成してアルマのもとにやつて來た。
 5そして、彼らはアルマのもとにやつて來ると、その群衆の中心になつてゐる一人の人(ヒト)がアルマに言つた。「まことに、ここにいるわたしの仲間は、どうすればよいのでしようか。この人々は、貧乏であるためにすべての人から見下されています。とりわけ祭司たちに嫌われています。祭司たちは、わたしたちたちが自分の手を使つて大いに働いて建てた会堂から、わたしたちを追い出しました。わたしたちがひどく貧乏だからということで、わたしたちを追い出したのです。わたしたちは神を礼拝する場所がどこにもありません。まことに、どうすればよいでしょうか。」
 6アルマはこれを聞くと、振り返つて彼の方に面と向かい、非常に喜びながらじつと彼を見詰めた。彼らが多くの苦しみを受け心がへりくだつており、御言葉を聞く用意のできていることが、

6	5	4
③ ② ① ③ GS GS 使徒アル GS 「貧しい人」	② ① ① GS GS 33 10 23 37 38	3 2 ① ① GS 「貧しい心」
教義 101 · 8 16 謙遜	アル 「逆境」	アル 「34 · 40」
16	17	

アルマに分かつたからである。

フそこでアルマは、もうほかの群衆にそれ以上語るのをやめ、しかし、目の前にいる、心から悔い改めていたる彼らに向かつて手を伸ばして大声で言つた。

8「わたしの見るところ、今あなたがたの心はへりくだつてゐる。もしそうならば、あなたがたは幸いである。

9見よ、あなたがたの仲間の一人は、「どうすればよいでしょうか。わたしたちは会堂から追い出され、自分たちの神を礼拝できません」と言つた。

10見よ、あなたがたに尋ねたい。あなたがたは自分たちの会堂でしか神を礼拝することができないと思つてゐるのか。

11そして、さらに尋ねたい。あなたがたは週に一度しか神を礼拝してはならないと思つてゐるのか。

12あなたがたに言う。会堂から追い出されてゐることは、あなたがたが謙遜になれるので、また知恵を得ることには必要だからである。あなたがたが

が今へりくだつた心でいるのは、追い出されたいるためであり、また非常に貧しいために同胞から見下されているためである。あなたがたは、やむを得ずへりくだつてゐる。

13さて、やむを得ずへりくだつてゐるので、あなたがたは幸いである。人は時々、やむを得ずへりくだつていても悔い改めようとするからである。そして、悔い改める人はだれでも、必ず憐れみを受けれる。そして、憐れみを受けて最後まで堪え忍ぶ人は救われる。

14わたしは、あなたがたがやむを得ずへりくだつてゐるので幸いであると言つたが、御言葉のために自ら進んで心からへりくだる人々は、なおさら幸いであると思わないか。

15まことに、自ら進んで心からへりくだり、罪を悔い改め、最後まで堪え忍ぶ人は祝福を受ける。

まことにこのような人は、非常に貧しいためにやむを得ずへりくだつてゐる人々よりも、なおさら祝福を受ける。

16したがつて、やむを得ずへりくだるのではなく、自らへりくだる人々は幸いである。いや、心を

かたくなにすることなく、また御言葉を知るよう
に仕向けられたり、知るよう強いられたりして初
めて信じるというのではなく、進んで神の御言葉
を信じ、バプテスマを受ける人は幸いである。
17 まことに、もし天からしるしを見せてくれれ
ば、それが確かなことが分かるから信じようと言
う人々が大勢いる。

18さて、わたしは尋ねる。これは信仰であろうか。
見よ、わたしはそうではないと答える。もし人が
ある物事を知つてゐるならば、それを信じる理
由はない。すでに知つてゐるからである。
19さて、神の御心を知つていながらそれを行わ
ない人は、ただ信じてゐるだけで、あるいは信じる
理由があるだけで背いてしまうよりも、どれほど
ひどいのろいを受けることであろう。

20このことについて、あなたがたは判断しなけれ
ばならない。見よ、わたしはあなたがたに言う。
兩者はそれぞれ同様に裁かれ、人は皆、各々の行
いに応じて報われるのである。
21さて、信仰についてわたしがすでに語つたよう
に、信仰とは物事を完全に知ることではない。し

たがつて、もし信仰があれば、あなたがたはまだ
見ていない眞実のことを持ち望むのである。

22さて見よ、あなたがたに言う。このことを覚え
ておいてほしい。それは、神は御自分の御名を信
じるすべての人に憐れみをかけられるということ
である。したがつて、神はまず初めに、あなたが
たが、まことに神の御言葉を信じることを望んで
おられる。

23さて、神は天使によつて、人々に、まことに男
ばかりでなく女にも御自分で御言葉を伝えられ
る。それだけではない。知者や学者を辱める御言
葉が、これまで何度も幼い子供に与えられてきた。
24さて、わたしの愛する同胞よ、あなたがたは
今、苦しめられ、追い出されてるので、どうすれ
ばよいかわたしから聞いて知りたいと望んでいる。
ところで、わたしは事実によつてだけあなたがたの
ことを判断しようとしていると思われたくない。

25つまり、あなたがた全員がやむを得ずへりくだ
つてゐるのでないということである。どのような
境遇にあつても進んでへりくだらうとする人々
が、あなたがたの中に何人もいることを、わたしは

確かに信じてゐるからである。

26 さて、信仰についてわたしが言つたように、信仰とは完全に知ることではない。わたしの言葉についてもそのとおりである。信仰が完全に知ることではないのと同じように、あなたがたはわたしの言葉が確かにあることも最初から完全に知ることはできない。

27 しかし見よ、もしあなたがたが目を覚まし、能力をつくしてわたしの言葉を試し、ごくわずかな信仰でも働くかせようとするならば、たとえ信じようとする望みを持つだけでもよい。わたしの言葉の一部分でも受け入れができるほどの信仰になるまで、その望みを育ててゆけ。

28 さて、御言葉を一つの種にたとえてみよう。さて、もしあなたがたが心の中に場所を設けて、種をそこに植えるようになると、見よ、それがほんとうの種、すなわち良い種であり、またあなたがたが主の御靈に逆らおうとする不信仰によつてはあなたがたの心の中でふくらみ始めるであろう。そして、あなたがたは種がふくらみつつあるのを感じ

じると、心の中で次のように思うであろう。『これは良い種、すなわち御言葉は良いものに違いない。これはわたしの心を広げ、わたしの理解力に光を注ぎ、まことに、それはわたしにとつて味わい深いものとなり始めている。』

29 さて見よ、これによつてあなたがたの信仰は増さないであろうか。わたしはあなたがたに言う。信仰は増す、と。にもかかわらず、まだ完全に知るといふところまでは行かない。

30 しかし見よ、その種がふくらんで芽を出し、生長し始めるとき、あなたがたはその種を良いものであると思うに違いない。見よ、それがふくらんで芽を出し、生長しているからである。さて見よ、これはあなたがたの信仰を強めないであろうか。まことに、それはあなたがたの信仰を強めるであろう。あなたがたは、『これは良い種であることが分かる』と言う。見よ、それが芽を出し、生長し始めているからである。

31 ところで見よ、あなたがたはこれが良い種であると確信しているであろうか。確信していると、わたしはあなたがたに言う。種はその種独自の形を

生じるからである。

32 したがつて、もし種が芽を出して生長するならば、それは良い種である。しかし、芽を出さなければ、見よ、それは良い種ではないので捨てられる。

33 さて見よ、あなたがたはすでに試して種を植え、その種がふくらんで芽を出し、生長し始めているので、その種が良いものであることを知るに違いない。

34 さて見よ、あなたがたの知識は完全であろうか。そのとおり、あなたがたの知識はそのことに関しては完全であるが、あなたがたの信仰は眠つたままである。この理由はあなたがたが知つている。

35 というのは、あなたがたは、御言葉があなたがたの心を高めたのを知つており、またあなたがたは、それがすでに芽を出し、あなたがたの理解力に光が注がれ、あなたがたの心が広がり始めているのを知つてゐるからである。

36 36 見よ、そうでないとあなたがたに言おう。あなたがたは自分の信仰を捨ててはならない。あなたがたは、種が良いものかどうかを知ろうとして、ただ信仰を働くかせてその種を植えてみただけだからである。

37 そして見よ、木が生長し始めると、あなたがたは、『この木が根付き、生長し、わたしたちのために実を結ぶように、十分に注意して養いを与える』と言うであろう。さて見よ、あなたがたが十分に注意して養いを与えれば、それは根付き、生長し、実を結ぶであろう。

38 しかし、もしあなたがたがその木に構わず、養い育てることに心を配らなければ、見よ、それが根付くことはないであろう。そして、太陽の暑さが及んでその木を熱すると、その木はまったく根がないので枯れてしまうであろう。そこであなたがたは、その木を抜いて捨てる。

のように見分けがつくからであり、こうしてあなたがたは、それが善であることを必ず知るようになる。さて見よ、この光を経験した後、あなたがたの知識は完全であろうか。

さてこれは、種が良くなかったからでもなければ、実が好ましいものでなかつたからでもない。ただ、あなたがたの木地がやせているためである。あなたがたがその木に養いを与えるようとしないので、実を得ることができないのである。

40 このように、もし信仰の目をもつて実を期待しながら御言葉を養おうとしなければ、あなたがたは決して命の木の実を得ることができない。

41 しかし、あなたがたが御言葉に憐いを与えるとすれば、つまり、その木が生長を始めるときには、非常な熱意と忍耐を伴う信仰を働かせてその実を期待しながら養いを与えようとする。

42 あなたがたは、御言葉が自分の中に根付くよう

は根付くであろう。そして見よ、それは生長して永遠の命をもたらす木になるであろう。

42 あなたがたは、御言葉が自分の中に根付くように、熱意と信仰と忍耐をもつてそれを養うので、見よ、やがてその実を得るのである。その実は最も価値があり、どんな甘いものよりも甘く、どんな白いものよりも白く、どんな清いものよりも清い。また、あなたがたは満ち足りるまでその実を食べて、もう飢えることも、渴くこともないであろう。

43 それで、わたしの同胞よ、そのときにあなたがたは、その木があなたがたのために実を結ぶのを待ちながら示した、あなたがたの信仰と熱意と忍耐と寛容の報いを刈り入れるのである。」

第33章

ゼノス、ひとはどんな場所でも祈り、礼拝すべきであることと、御子のゆえに裁きが遠ざけられることを教え。ゼノク、御子のゆえに懲められみがかけられることを教える。モーセが荒れ野で神の御子の予型を掲げたこと。紀元前約七十四年。

2 そこで、アルマは彼らに言つた。「見よ、あなた

1 ① 2 ニフ 31・21、
モサ 15・2
② アル 32・4
43

第33章

41 ① 1 ニフ 15・2
創世記 13・9、5
② GS アル 36・23
教義 63・23
「忍耐」 33・23
42 ① GS 「熱心」 8
ニフ 10
12

がたは、自分たちの会堂から追い出されているので、神を礼拝できないと言つてゐる。しかしそうないと思つてゐるのであれば、あなたがたはひどく誤解している。聖文を調べてみると、あなたがたが聖文からそのことを教わつたと思つてゐるのであれば、あなたがたは聖文を理解していなさい。

3 あなたがたは、昔の預言者ゼノスが祈りについて、すなわち礼拝について述べたものを以前に読んだのを覚えてゐるだらうか。

4 ゼノスはこう述べている。『おお、神よ、あなたは憐れみ深い御方です。わたしが荒れ野にいたときでさえ、わたしの祈りを聞き届けてくださいました。またわたしが敵について祈つたときも、憐れみ深くあつて、彼らがわたしに心を向けるようにしてくださいました。

5 まことに、おお、神よ、わたしが煙で叫び求めたとき、わたしを憐れんでくださいました。あなたに叫び求めたとき、わたしの祈りを聞き届けてくださいました。

6 さらにまた、おお、神よ、わたしの祈りを聞き届けてくださいました。

7 また、おお、主よ、わたしが自分の部屋に戻つてあなたに祈つたとき、わたしの祈りを聞き届けてくださいました。

8 まことに、あなたの子供たちが人々にではなくあなたに聞いていたくために叫び求めるとき、あなたは彼らを憐れんで、彼らの祈りを聞き届けてくださいます。

9 まことに、おお、神よ、あなたはわたしを憐れんで、会衆の中でわたしの嘆願をお聞きくださいました。

10 また、あなたはわたしが敵から追い出され、さげすまれたときにも、わたしの祈りをお聞きくださいました。まことに、わたしの嘆願を聞き届け、わたしの敵に怒りを示されました。そして、怒つて彼らを速やかに滅ぼされました。

11 わたしが苦難に遭いながらも誠実であつたので、あなたはわたしの祈りをお聞きくださいました。あなたがこのようにわたしを憐れんでくださつたとき、わたしを憐れんでくださいました。あなたに叫び求めたとき、わたしの祈りを聞き届けてくださいました。

10	7	5	4	3
①	①	①	②	①
アル	マタ	6	34	37
34	タ	5	44	32
32	26	5	20	5
5		25		10
			6	5

GS 「ゼノス」
「礼拝」
「聖文」
「失われ
た」

それとも、不信仰のままで心をかたくなにし、怠け
て目を向けようとしてないで死ぬことを望むだらうか。
22 もしそうであれば、災いがあなたがたに降りかかるであらう。しかし、それを望まなければ、あなたがたの目を向けて、神の御子を信じるようになさい。神の御子が将来、御自分の民を救うために降臨されること、御子がその民の罪を贖うために苦しみを受け、死なれること、御子が死者の中からよみがえり、復活をもたらされること、終わりの裁きの日に、すべての人が各々の行いに応じて裁きを受けるために神の御子の御前に立つこと、これらのこと信じてほしい。

23 さて、わたしの同胞よ、あなたがたがこの御言こと葉を心の中に植えて、それがふくらみ始めたら、あなたがたの信仰によつてそれを養い育ててほしい。そうすれば見えよ、それはあなたがたの心の中で生長して、永遠の命をもたらす木になるであろう。そのときに、神があなたがたのために、神の御子の喜びによつて重荷を軽くしてくださるように。これまで述べてきたことは、もしあなたがたにこれを行ふ意志さえあれば、すべて行えることである。

アーメン。」

アミコレク、御言葉はキリストの内にあつて救いを得させるものであることを証する。贖罪が行われないかぎり、全人類は必ず滅びる。モーセの全律法が神の御子の犠牲を指示している。永遠の贖いの計画は信仰と悔い改めに基づいている。物質的な祝福のためにも、靈的な祝福のためにも祈ること。現世の生涯は人が神にお会いする用意をする時期である。神の前に畏れ自分の救いを達成すること。紀元前約七十四年。

さて、わたしの同胞よ、あなたがたがこの御言葉を心の中に植えて、それがふくらみ始めたら、あなたがたの信仰によつてそれを養い育ててほしい。

そうすれば見よ、それはあなたがたの心の中で生長して、永遠の命をもたらす木になるであろう。そのときに、神があなたがたのために、神の御子の喜びによつて重荷を軽くしてくださるよう。これまで述べてきたことは、もしあなたがたにこれを行なう意志さえあれば、すべて行えることである。

さて、アルマは彼らにこれらの言葉を語り終え
ると、地上に腰を下ろした。次いでアミュレクが立
ち上がり、彼らを教え始めた。

「わたしの同胞よ、今わたしたちはキリストが神の御子であると教えたが、わたしが思うに、そのキリストの来臨についてこれまで述べられてきたことを、あなたがたが知らないはずはない。あなたがたがわたくしたちから背いて去る前に、これらのことがあなたがたに十分教えられていたことを、わた

2	1	第	23	22
(1)	(1)	34	(2)	(1)
ア	ル	義	ア	ス
アル	16	ア	GS	ア
16	8	ル	GS	ル
13	21	31	23	22
21		32	33	32
		行	11	復活
		38	41,	9
		1	—	22
		—	44	32
			活	32
			—	22
				28
			34	
			4	

しは知つてゐる。

3 あなたがたは苦難に遭つてゐるので、どうしたらよいか教えてほしいとわたしの愛する兄弟に頼み、わたしの兄弟はあなたがたに心の備えをさせるために、多少のこと述べてきた。また彼は、信仰と忍耐をあなたがたに勧めた。

4 まことに、御言葉を心に植えるほどの信仰を持ち、その御言葉の良さを試してみると、あなたがたに勧めた。

5 そしてわたしたちは、その御言葉が神の御子の内にあるのかどうか、キリストが将来降臨されるのかどうかという大きな疑問が、あなたがたの心の中にあることが分かつた。

6 また、あなたがたも見たように、わたしの兄弟は、その御言葉がキリストの内にあつて救いに至らせるものであることを、多くの例を引きながらあなたがたに立証した。

7 わたしの兄弟は、贖いが神の御子を通して与えられるというゼノスの言葉と、またゼノクの言葉を参考した。また、モーセも引き合いに出して、これらのことが眞実であることを立証した。

8 さて見よ、わたしも、これらのことが眞実であることをあなたがたに証しよう。見よ、あなたがたに言う。将来キリストは、御自分の民の背きを負うために人の子の中に来られ、世の罪自身に負われる。わたしはこのことを知つてゐる。主なる神がそう言われたからである。

9 賛罪が行われることは必要である。というの人は、永遠の神の偉大な計画によつて贊罪が行われなければならず、そうでなければ、全人類が滅びるのは避けられないからである。まことに、すべての人はかたくになつており、墮落し、迷つた状態にあるので、贊罪によらなければ必ず滅びる。贊罪は必ず行われなければならない。

10 大いなる最後の犠牲が必要である。それは、人を犠牲にすることでも、獸や鳥類を犠牲にすることでもない。人の犠牲であつてはならず、無限にして永遠の犠牲でなければならぬ。

11さて、自分の血をささげてほかの人々の罪を贖うことができる人など、だれ一人いない。さて、ある人が人を殺した場合、見よ、わたしたちの公正な法律は、その人の兄弟の命を奪おうとするだろう

11	① 申命 24:16,	10	① トエバの「 <u>贖罪</u> 」	9	モセ 6:22	8	モセ 6:22	6	モサ 29:25	4	モサ 29:25
11	② 二二 9:7	10	② GS 「 <u>贖罪</u> 」	9	モサ 6:22	8	モサ 6:22	6	モサ 29:25	4	モサ 29:25

か。そのようなことはないと、わたしはあなたがたに言う。

12 そうではなく、法律は人を殺した当人の命を要する。したがつて、無限の贖罪でなくては世の罪を十分に贖うことはできない。

13 それゆえ、大いなる最後の犠牲が必要である。そのときに、血を流すことは終わるであろうし、また、やめなければならない。それで、モーセの律法

法が成就するのである。まことに、モーセの律法

は一点一画に至るまでことごとく成就し、むなし

くなるものは何がない。

14 見よ、これが律法の目的そのものであり、すべての部分がこの大いなる最後の犠牲を指し示して

いる。そして、この大いなる最後の犠牲となるのが神の御子であるので、まことに、これは無限にし

て永遠の犠牲である。

15 このように神の御子は、その御名を信じるすべての人には救いをもたらされる。この最後の犠牲の目的は、憐れみの心を成し遂げることであり、この憐れみは正義に打ち勝ち、また人々が悔い改めを生じる信仰を持てるようにするその道を設けるの

である。

16 このように、^①憐れみは正義の要求を満たし、これらの人々を腕に包み込んで保護する。一方、悔い改めを生じる信仰を少しも働かせない人は、正義を要求するすべての律法にこたえなければならぬ。したがつて、偉大な永遠の贖いの計画は、悔い改めを生じる信仰のある人のためにだけ備えられている。

17 それゆえ、神がわたしの同胞であるあなたがたに、あなたがたが悔い改めを生じる信仰を働かせて、神の聖なる御名を呼び始め、神の憐れみを得られるようにしてくださいますように。

18 まことに、神に憐れみを呼び求めなさい。なぜなら、神は人を救う力を備えておられるからである。

19 まことに、へりくだつて、神に祈り続けなさい。

20 牧場にいるときには、まことに、すべての家畜の群れについて神に呼び求めなさい。

21 家にいるときには、まことに、あなたがたの家のすべての者について、朝も昼も晩も神に呼び求めなさい。

21	17	16 15	14	13 12
3 ① ② ① ④ ③ ② ① ① ③ ② ① ② 19 詩篇「信頼の計画」	17 「正義」	16 「救い」	15 「モーセの律法」	12 「殺入」「死刑」
2 18 21	3 5 1 3	2 30 35 3	3 17 33 3	2 9 17
二 二 二	二 二 二	二 二 二	二 二 二	二 二 二

まことに、敵の力を防ぐことができるよう、
神に叫び求めなさい。

まことに、あらゆる義の敵である悪魔を防ぐことが出来るよう、神に叫び求めなさい。

24 あなたがたの烟の収穫が豊かであるように、
物について神に叫び求めなさい。
まほ
かちく
ふ
か
ち

あなたがたの牧場の家畜が増えるよう、家畜の群れについて叫び求めなさい。

しかし、これだけではない。あなたがたは自己の部屋でも、人に触れない場所でも、荒れ野で

も、あなたがたの心を注ぎ出さなければならぬ。27 また、声に出して主に呼び求めないときでも、

あなたがたの幸いと、あなたがたの周りの人々の幸いを遣り、気持ちを心に満たし、それが絶えずして、

28 さて見よ、わたしの愛する同胞よ、あなたがち
への祈りになるようになさる

これらのことをしておなじいから、ひょきひょうきのひとがくる。

ある物のない人を追い出さなければ、自分の人や吉い人を見舞わなかつたり、自分には持ち物がないながら、それを必要としている人々に分け

与えなかつたりするならば、あなたがたに言うが、もしあなたがたがこれらのことのどれも行うことがなければ、見よ、あなたがたの祈りはむなしく、何の役にも立たない。あなたがたは信仰を否定する偽善者と同じである。

29 したがつて、もし愛を示すことを覚えていなければ、あなたがたは精錬するものたちが（価値のないものとして）捨てて、人が足で踏みつけるかすのようなものである。

30 さて、わたしの同胞よ、あなたがたはすでに多くの託宣を得ており、聖文がこれらのことと立証しているのも知つているので、進み出て悔い改めの実を結んでもらいたい。

31 まことに、進み出て、もはや心をかたくなにしないでほしい。見よ、今があなたがたの救いの時であり、救いの日である。したがつて、あなたがたが悔い改めて心をかたくなにしなければ、偉大な贖いの計画はすぐにある。したがつて、あなたがたが悔い改めを果たす時期である。まことに、現世は人が神にお会いする用意をする時期である。まことに、現世の生涯は、人が各自の務めを果たす時期である。

33 さて、前に話したように、あなたがたにはすでに非常に多くの証拠があるのです。最後まで悔い改め

を支配するすべての力を得る。これが悪人の最後の状態である。

めの日を引き延ばすことのないよう^{えいえん}に切に勧め
る。永遠に備えるためにわたしたちに与えられていく
る現世^{げんせ}の生涯^{じやうがい}を終えると、見よ、もしわたしたち
が現世^{げんせ}にいる間に時間を有益^{ゆうえき}に用いなければ、後か
ら暗闇^{くらやみ}の夜^{よる}がやつて来る。そして、そこでは何の
働きもできない。

34 あなたがたはその恐ろしい危機に陥るとき、『わたしは悔い改めて神に立ち返ろう』と言うことはできない。あなたがたはこのように言うことはできない。なぜならば、現世^{げんせ}を去るときにあなたがたの肉体^{にくたい}を所有しているその同じ靈^{おなれい}が、あの永遠^{えんよ}の世で、あなたがたの肉体^{にくたい}を所有する力を持つからである。

35 見よ、もし死ぬときまで悔い改めの日を引き延ばしたならば、見よ、あなたがたはすでに悪魔の靈の支配を受けるようになつてゐるので、悪魔はあるたがたに自分のものであるといふ印を押す。したがつて、主の御靈はもはや退き去つて、あなたがたの内に決して宿ることはなく、惡魔があなたがた

33
③ 教義 GS 「悔い改め」
S 45 2 ヒラ 13 38、
「音韻 (豈約)

8 37	36	35 34
① ② ヒ	ア ① ② ① ①	教 ④ 「死」
ビ GS ラル	モ 2 2 アル	ヨハ(靈の)」
リ「争 2 義 24 21	ニル フフ 40 17 9	」
」 12	9 28 37 13 9 19 4、	
		14
		22

39	① GS 教義 GS 「感謝」 「誘惑」	④ ③ GS 詩篇 59 7、69 20	アルモ 5 サー ^{争い} 38 5 拝	3 ② ① モ G 5 サー ^{争い}
----	----------------------------	-------------------------------	--	---------------------------------------

38 また、あなたがたがこれから二度と聖靈に逆らうことなく、聖靈を受け、キリストの御名を受けよう。そして地に伏すほどにへりくだり、どこ

にいても靈とまことをもつて神を礼拝するよう
に、さらに、神が授けてくださる多くの憐れみと祝
福を日々感謝しながら生活するように、わたしは
願つてゐる。

39 また、わたしの同胞よ、悪魔の誘惑に惑わされ
ることなく、悪魔に打ち負かされることなく、終

わりの日に悪魔の手下になることのないよう、絶た
えず祈りに心を配ることを、あなたがたに勧め
る。見よ悪魔はあなたがたに決して良いものを
報いとして与えないからである。

40 わたしの愛する同胞よ、忍耐するように、そし
てあらゆる苦難に耐えるように、あなたがたに勧め
る。また、ひどく貧乏だからということであなたが
たを追い出した者のような罪人にならないために、
彼らをののしることのないように勧める。

41 むしろあなたがたは忍耐し、いつの日かあらゆる
苦難を離れて休めるという確固とした望みをもつ
てそれらの苦難に耐えるように、あなたがたに勧
める。』

第35章

御言葉が宣べ伝えられたことで、ゾーラム人の慣行が崩れる。ゾーラム人から追い出された改宗者たち、ジエルジョンの地に住むアンモンの民に加わる。アルマ、人々の悪を嘆く。紀元前約七十四年。

2 また、ほかの兄弟たちも、ゾーラム人に御言葉を宣べ伝えた後、ジエルジョンの地へ行つた。

3 さて、ゾーラム人の中に多数派を占める者たちは、ゾーラム人に宣べ伝えられた御言葉について協議した後、御言葉のために自分たちの慣行が崩れたことに腹を立て、宣べ伝えられた御言葉に聞き従わないことにした。

4 そして、彼らは使いを出し、その地の至る所にいるすべての民を集め、宣べられた御言葉について彼らの意見を求めた。

5 さて、ゾーラム人の指導者たちと祭司たちと教師たちは、自分たちの意図してることを民に知らせず、ひそかに民の意向をうかがつた。

6 そして、彼らがすべての人の意向を探り出した後、アルマと彼の兄弟たちが語った言葉を支持した人々は、その地から追い出された。これらの人々の数は多く、彼らもまたジエルジョンの地へ行つた。

7 そこで、アルマと彼の兄弟たちは、これらの

人々に教えを伝えた。

8さて、ゾーラム人の民は、ジエルシヨンにいるアンモンの民に腹を立てた。また、ゾーラム人の指導者の長は、非常に悪い男であったので、アンモンの民に使いを送り、ゾーラム人の地から彼らの地に行つたすべての人を、その地から追い出すように求めた。

9また彼は、アンモンの民を脅す言葉をたくさん吐いた。ところが、アンモンの民は彼らの言葉を恐れなかつたので、これらの人々を追い出すことをなく、自分たちのもとに来たすべての貧しいゾーラム人を受け入れた。そして彼らは、これらの人々に食べる物や着る物を与え、また土地を受け継ぎとして譲り与えた。彼らは、これらの人々の入り用に応じて必要なものを提供したのであった。

10さて、このことによつてゾーラム人は、アンモンの民に対する怒りをかき立てられた。そして、彼らはレーマン人と交わり始め、レーマン人を扇動してアンモンの民に対し怒らせるようにした。11このようにして、ゾーラム人とレーマン人は、アンモンの民とニーファイ人に対して戦う用意を

始めた。

12このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第十七年が終わつた。

13アンモンの民はジエルシヨンの地を去つてミレクの地に移り、ジエルシヨンの地をニーファイ人の軍に明け渡して、ニーファイ人の軍がジエルシヨンの地でレーマン人の軍およびゾーラム人の軍と戦えるようにした。このようにして、さばきつかさの統治第十八年に、レーマン人とニーファイ人の間で戦争が始まつた。この戦争の話は後に述べることにする。

14アルマとアンモンと彼らの兄弟たちとアルマの二人の息子は、神の手に使われる者となつて多くのゾーラム人を悔い改めさせた後、ゼラヘムラの地に帰つた。また、悔い改めに導かれた人々は皆、自分たちの地から追い出されたが、ジエルシヨンの地で自分たちの受け継ぎの土地を得た。そして、自身と妻子、および自分たちの土地を守るために武器を取つた。

15さて、アルマは自分の民の罪悪、すなわち民の中にある戦争と流血と争いを嘆き、出かけて行つ

て、すなわち遣わされて、あらゆる町のすべての民に御言葉を告げ知らせた。ところが、民の心はかたくなになり、また御言葉が厳しいために彼らは次第に怒るようになった。それを見たアルマの心は非常な憂いにさいなまれた。

16 そこで、アルマは息子たちを集め、義にかかるについて、息子たちにそれぞれの責任を与えることにした。アルマが息子たちを戒めた事柄の記録は今わたしたちの手もとにあるが、これはアーラム自身が記録したものである。

アルマが息子のヒラマンに与えた戒め。

次の第三十六—三十七章がそれに相当する。

第 36 章
アルマ、自分が天使によつて改心に導かれたことをヒラマンに証する。アルマが罰の定めを受けた者の苦痛を経験し、イエスの名を呼び、神から生まれたこと。快い喜びに満たされたこと。神をほめたたえる天使の群れを

見たこと。多くの改宗者も、アルマと同じように味わい、同じような光景を見た。紀元前約七十四年。

1 「わが子よ、わたしの言葉に耳を傾けなさい。
わたしはあなたに誓う。あなたは神の戒めを守るかぎり地に榮えるであろう。

2 あなたはわたしと同じように、わたしたちの祖先が囚われの身にあつたことを思い起こしてもらいたい。わたしたちの先祖は奴隸の状態にあり、アーラハムの神、イサクの神、ヤコブの神のほかにはだれも彼らを救い出せなかつた。そして神は、確かに苦難の中にいる彼らを救い出された。

3 おお、わが子ヒラマンよ、見よ、あなたは若い。だから、わたしの言葉を聞いて、わたしに学ぶようになすすめ。神に頼る者はだれであろうと、試練や災難の中にあつて支えられ、また終わりの日に高く上げられるということをわたしは知つているからである。

4 しかし、わたしがそれを自分ひとりで知つたと思つてもいたくない。物質的なものからではなく、靈的なものから知つたのであり、肉の思ひか

4	3	2	1
① GS	① GS	① GS	① GS
アル	ロマ	モサ	ヒラ
5	8	23	5
45	11	21	9
GS「知識」	GS「現世的」	GS「背教、背信」	GS「代理人、管理人の職」

らではなく、神から知られたのである。

5 見よ、わたしはあなたに言う。わたしは神から生まれていなかつたならば、これらのことを探るることはなかつたであろう。しかし、神は聖なる天使の口を通して、これらのことを探るために通してくださつた。わたし自身はまつたくふさわしくなかつたにもかかわらず、そうしてくださつた。

6 わたしはかつてモーサヤの息子たちと一緒に歩き回つて神の教会を滅ぼそうとしていた。ところが見よ、神は、聖なる天使を遣わして、道の途中でわたしたちを止められた。

7 見よ、その天使はわたしたちに語りかけたが、それはまるで雷の音のようであつた。そして、大地全体がわたしたちの足もとで揺れ動き、わたしたちは皆、地に伏した。主への畏れを覚えたからである。

8 ところが見よ、その声がわたしに、「起きなさい」と言つた。そこでわたしは起き上がりつて立ち、その天使を見た。

9 すると、天使はわたしに、「たとえあなた自身が滅ばされようとも、これ以上、神の教会を滅ぼそ

うとしてはならない」と言つた。

10 そして、わたしは地に倒れた。そして三日三晩、口を利くことができず、手足を動かすこともできなかつた。

11 天使はわたしにもつと多くのことを語り、仲間はそれを聞いたが、わたしには聞こえなかつた。わたしは、「たとえあなた自身が滅ぼされようとも、これ以上、神の教会を滅ぼそうとしてはならない」という言葉を聞いたとき、自分は滅ぼされるのではないかというひどい恐れと驚きに打たれて地に倒れ、それ以上は何も聞こえなかつたからである。

12 しかしわたしは、永遠の苦痛に責めさいなまれた。わたしはきわめてひどい苦しみを受け、自分のすべての罪に責めさいなまれた。

13 まことに、わたしは自分分のあらゆる罪と不義を思い出し、そのため地獄の苦しみを味わつた。わたしは自分が神に逆らつてきたことと、神の聖なる戒めを守つていなかつたことを知つたのである。

14 また、わたしは神の子供たちを大勢殺した。いや、彼らを惑わして滅びに至らせた。要するに、わたしの罪悪が非常に大きかつたので、神の御前に

行くことを考えるだけで、わたしは言いようのない恐怖に責めさへなまれた。

おお、そのときにわたしが思ったのは、自分が追放されで靈と肉体がともになくなつてしまえ
おも
じぶん
じぶん
さば

ば、神の御前に立たされて自分の行いを裁かれる
ことはないだろうということであった。
さて、三日三晩、わたしはまさに罰の定めを受うけた者の苦痛に責めさいなまれた。

17 そして苦痛に責めさいなまれていたときに、わ

たしは自分の多くの罪を思い出してひどく苦しみながら、見よ、かつて父がイエス・キリストという御方の来臨について民に預言するのを聞いたことをおもい出した。イエス・キリストは神の御子であり、世の罪を贖うために来られるというのである。

18 心にこの思いがはつきりと浮かんできたとき、わたしは心の中で、『おお、神の御子イエスよ、苦しを憐れんでください』と叫んだ。

19 さて見よ、このことを思つたとき、わたしはもはや苦痛を忘れることができた。まことに、わたしは二度と罪を思い出して苦しむことがなくなつた。

20 おお、なん何という喜びであったことか。何という驚くべき光をわたしは見たことか。まことに、わたくしは前に感じた苦痛と同じほどの大きな喜びに満たされたのである。

21 わが子よ、まことに、あなたに言うが、わたしはほかにあり得ないほど激しく、またつらい苦痛を味わつた。また息子よ、わたしは言う。それとは反対に、わたしはほかにあり得ないほど麗しく、また快

い喜びを味わつた。

22 思うに、ちょうどわたしたちの先祖リーハイが
見たように、わたしも神が御座に着き、神を贊美
しほめたたえる様子で群れ集まる無数の天使たち
に取り囲まれておられるのを見た思いがした。そ
して、わたしはそこに行きたいと切に望んだ。
すると見よ、わたしの手足は再び力を取り戻し
た。そこでわたしは立ち上がり、自分が神から生
まれたことを民に言明した。

24 また、そのときからまさに現在まで、わたしは絶えず働き続け、人々を悔い改めに導き、わたしが味わつた非常な喜びを味わわせ、彼らも神から生まれ、聖靈に満たされるようにしてきた。

25 そして、見よ、おお、わが子よ、今主はわたしの労苦の結ぶ実によつて非常に大きな喜びをわたしに与えてくださつてゐる。

26 主がわたしに告げてくださつた御言葉のために、見よ、多くの人が神から生まれ、わたしの味わつたように味わい、わたしが見たように目の当たりに見た。そのために彼らは、わたしが述べきたこれらのことを見たが今知つてゐるようによつて、わたしは神が今知つてゐることは、神から出たものである。

27 そしてわたしは、あらゆる試練と災難の下で、またあらゆる苦難の中で支えられてきた。まことに、神は牢から、また束縛から、死からわたしを救い出してくださつた。わたしは神を信頼している。神はこれからもわたしを救い出してくださるであろう。

28 わたしは、神が終わりの日にわたしをよみがえらせ、栄光のうちに御自身とともに住めるようにしてくださることを知つてゐる。わたしは神をとこしえにほめたたえよう。神はわたしたちの先祖をエジプトから導き出してくださつたからである。神は

エジプト人を紅海の中にのみ込ませ、御自分の力によつて、わたしたちの先祖を束縛の地に導かれた。また神は、何度も奴隸と束縛の状態から先祖を救い出してくださつた。

29 神はまた、エルサレムの地からわたしたちの先祖を連れ出してくださつた。また、永遠の力によつて、今日に至るまで何度も奴隸と束縛の状態から先祖を救い出してくださつた。わたしは先祖が囚われの身にあつたことをいつも思い起こすようになってきた。あなたもわたしと同じように、先祖が囚われの身にあつたことを思い起こすようにしなければならない。

30 しかし見よ、わが子よ、それだけではない。神の戒めを守るかぎり地上に榮えることを、わたしが知つてゐるように、あなたも知らなければならぬ。また、神の戒めを守らなければ神の御前から絶たれるといふことも、あなたは知らなければならぬ。これは神の御言葉による。

第37章
真鍮の版とそのほかの聖文が、人々を救いに導くため

30	29	28 27 26
① アル	① ④ ③ ② ② ① ① ①	
50	モサ	詩篇 34 31
19	出出エフ	17 5
22	24 14 26 51	1
	27	
	11	
	16	

に保存される。ヤレド人が彼らの悪事のために滅ぼされたこと。ヤレド人の秘密の誓いの言葉と誓約は民に隠しておかなければならぬ。自分のすべての行いについて主と相談すること。リアホナが二ーファイ人を導いたよう、キリストの言葉は人々を永遠の命に導く。紀元前約七十四年。

1 「さて、わが子ヒラマンよ、わたしはあなたに、これまでわたしに託されてきた記録を受け取るよう告げる。

2 また、わたしが行つてきたように、この民の記録を二ーファイの版に書き続け、またわたしが行つてきたように、これまでわたしが保存してきたこれらのもをすべて神聖に保つようあなたに告げる。これらのものは、ある賢明な目的のために保存されているからである。

3 また、この真鑑の版も保存しなさい。この真鑑の版には様々な記録が刻まれており、聖文も記されていて、まことに世の初めからのわたしたちの先祖の系図も載っている。

4 見よ、わたしたちの先祖が預言したように、こ

の版はあらゆる国民、部族、国語の民、民族に明らかに示され、彼らがこれに書き記されている奥義を知るようになると、これは代々保存され、伝えられ、また主の御手によつて保存され、残されることになつてゐる。

5 さて見よ、この版は、保存されるならばその輝きを保つに違ひない。確かに、この版はその輝きを保つであろう。また、聖文の載つている版はすべてそうである。

6 記録を保存するのはわたしが愚かだからであると、あなたは思うかもしれない。しかし見よ、わたしはあなたに言う。小さな、簡単なことによつて大いなることが成し遂げられるのである。そして、小さな手段が度々知者を辱める。

7 主なる神は偉大な永遠の目的を達するため、様々な手段によつて事を行われる。また、ごく小さな手段によつて、主は知者を辱め、また多くの人を救われる。

8 これまでこれらの記録が残されてきたのは、神の知恵によるものであつた。見よ、これらの記録はこの民に多くのことを思い出させ、また多くの人に

モサ	①	②	①	GS	1	①	モサ
モサ	2	2	1	GS	2	20	アル
モサ	3	3	1	「神の奥義」	1	13	45
モサ	4	4	1		1	18	2
モサ	5	5	1		12	11	8
モサ	6	6	1		16	14	
モサ	7	7	1		28	29	
モサ	8	8	1		15	19	
モサ	9	9	1		17	19	
モサ	10	10	1		15	20	
モサ	11	11	1		14	21	
モサ	12	12	1		13	22	
モサ	13	13	1		18	23	
モサ	14	14	1		17	24	
モサ	15	15	1		16	25	
モサ	16	16	1		15	26	
モサ	17	17	1		14	27	
モサ	18	18	1		13	28	
モサ	19	19	1		12	29	
モサ	20	20	1		11	30	

彼らの行いが誤つてゐることを納得させ、神について知らせて彼らが救われるようにしてきたからである。

9 まことに、わたしはあなたに言う。もしこれらの記録に載つてゐる、すなわちこれらの版に載つてゐるこれらのものがなければ、アンモンと彼の同僚たちは何千人のレーマン人に、彼らの先祖の言い伝えが正しくないことを納得させることはできなかつたであらう。これらの記録と彼らの言葉は、レーマン人を悔い改めに導いた。すなわち、これららの記録と彼らの言葉は、レーマン人に主なる神について知らせ、彼らの贖い主イエス・キリストのことを喜ぶように彼らを導いた。

10 また、だれもこれらの記録が、将来何千人のレーマン人と、また今、罪と悪事の中で心をかたくなにしてゐる、わたしたちの強情な同胞である何千人の二ーフアイ人に、彼らの贖い主について知らせる手段にならないとは言ひ切れない。

11 これらの奥義は、まだ全部はわたしに知られていないので、わたしはそれを語ることを控えなければならない。

12 ただこれらの記録は、神が御存じの、ある賢明な目的のために残されるとだけ言えば、それで十分であろう。神は御自分が造られたすべてのものに知恵をもつて助言を与えられる。そして、主の道はまつすぐで、その道は一つの永遠の環である。

13 おお、覚えておきなさい。わが子ヒラマンよ、神の戒めがどれほど厳しか覺えておきなさい。神は、「あなたがたはわたしの戒めを守るかぎり地に榮える」と言われた。しかし、神の戒めを守らなければ、神の御前から絶たれるであらう。

14 わが子よ、神がこれらのものをあなたに託されたということを覚えておきなさい。これらのものは神聖であり、神はこれまでこれらのものを神聖に保つてこられた。そしてこれからも、御自分の力を後の時代の人々に示せるように、御自分の内にある賢明な目的のためにこれらものを保存し、守られるであらう。

15 さて見よ、わたしは預言の靈によつてあなたに告げる。もしあなたが神の戒めに背くなれば、見よ、これらの神聖なものは神の力によつてあなたから取り去られる。そして、あなたはサタンに引き渡

14	13	12
① ② アル ③ ② モサ ① ③ ② ヤコ	ニフ ⑤ 22 13 ④ 10 9 28	ニフ ⑨ 10 19 20 36 5
1 GS 3 5	アル 9 1 7	アル 7 20 10 12 ① ③ ② アルモサ
ニフ 9 3	モサ 5 1 41	ニフ 2 1 11 2 二福音 36 5
3	7	10 19 22

され、サタンはあなたを風に吹かれるもみ殻のよう
にふるいにかけるであろう。

16 しかし、あなたが神の戒めを守り、主から命じ
わなければならぬかについて、一切のことを主に
されるとおりにこれらの神聖なものを扱うならば
(すなわち、あなたはこれらのものをどのように扱
う)、見よ、この世のどの
17 わなればならない)、見よ、この世のどの
請い求めなければならない)、見よ、この世のどの
ような力も、地獄のどのような力も、決してあなた
からこれらものを取り去ることはできない。神
は御自分の御言葉をすべて成就する十分な力を持
つておられる御方だからである。

18 神は、あなたに立てるすべての約束を果たされ
る。神はこれまでもわたしたちの先祖と交わした約
束を果たしてこられたからである。

19 さて見よ、神はすでに一つの目的を達せられ
た。何千人のレーマン人が再び真理を知るよう
になつたのである。そして、神はこれらの記録に
れた。

よつて御自分の力を示された。神はまた後の時代
の人々にも、これらの記録によつて御自分の力を示
されるであろう。そのために、これらのものは残さ
れる。

20 そこで、わが子ヒラマンよ、わたしはあなたに
告げる。あなたは勤勉にわたしのすべての言葉に
したがひなさい。また、神の戒めを記されているとお
りに熱心に守りなさい。

21 また、あの二十四枚の版について話そう。あな
たはあの版を保存し、様々に秘密の行いと闇の業、
隠れた業、すなわち滅ぼされてしまつたあの民の
秘密の業が、この民に明らかにされるようにしな
さい。すなわち、彼らのあらゆる殺人、強盗、略
奪、またあらゆる悪事と忌まわしい行いがこの民
に明らかにされるようにしなさい。また、あなた
はこの解説器も保存しなさい。

22 見よ、主は、御自分の民が暗闇の中で業を行
始めたこと、すなわち暗殺と忌まわしい行いをす
るようになつたことを御覧になつた。そこで主
は、もし悔い改めなければ、彼らは地の面から滅ぼ
し去られると言われた。

23 また、主は言われた。『わたしは暗闇の中で輝いて光を放つ一つの石を、わたしの僕ガゼレムのために用意しよう。それによつてわたしは、わたしに仕える民のために彼らの同胞の業、すなわち同胞の秘密の業、闇の業、悪事と忌まわしい行いを明らかにしよう。』

24 わが子よ、この解説器は神の御言葉が成就するよう備えられたものである。神はこれについて次のように言われた。

25 «わたしは彼らのあらゆる秘密の業と忌まわしい行いを暗闇から明るみに出そう。また、彼らが悔い改めなければ、彼らを地の面から滅ぼし去ろう。そしてわたしは、彼らのあらゆる秘密と忌まわしい行いを、今後この地を所有するすべての国民に明らかに示そう。』

26 さて、わが子よ、わたしたちが知つているように、彼らは悔い改めなかつたので滅ぼされてしまつた。そして、これまで神の御言葉は成就し、彼らの秘密の忌まわしい行いは暗闇から出されて、わたしたちに知らされてきた。

27 わが子よ、あなたに告げる。彼らのあらゆる誓

いの言葉と誓約と、彼らの秘密の忌まわしい行いについての取り決めを忘れないようにしなさい。また、彼らのすべての合図と不思議なことをこの民に隠して、この民がそれらのものを知ることなく、彼らも暗闇に陥つて滅ぼされることのないようにしなさい。

28 見よ、この地の全体に、一つののろいがあるからである。そののろいとは、闇の業を行う者たちの悪が完全に熟すとき、神の力によつてこれらの者たちが皆滅ぼされるというものである。わたしはこの民が滅ぼされることのないように願つている。

29 だからあなたたは、彼らの誓いの言葉と誓約から成る秘密のはかりごとを、この民に隠しなさい。彼らの悪事と殺人と忌まわしい行いだけをこの民に知らせて、そのような悪事と忌まわしい行いと殺人を忌み嫌うように彼らに教えなさい。また、これらの人々が彼らの悪事と忌まわしい行いと殺人のために滅ぼされたことも、彼らに教えなさい。

30 見よ、彼らは自分たちの中にやつて来て、その罪惡について告げ知らせた主の預言者をすべて殺した。そのため、彼らに殺された人々の血が、主な

る神に向かつて、自分たちを殺した者たちに報復するように叫んだ。その結果、神の裁きが、これらの闇の業を行ひ、秘密結社を作つた者たちに下つたのである。

31 また、それらの闇の業を行ひ、秘密結社を作つた者たちに對して、この地はとこしえにいつまでものろわれる。彼らは、惡事が完全に熟す前に悔ま

32 わが子よ、わたしがあなたに語つてきた言葉を
33 覚えておきなさい。あの秘密のはかりごとをこの民
34 に明らかにすることなく、罪と悪事を永遠に憎むる。

ことを教えなさい

33 悔い改めと主イエス・キリストを信じる信仰についてこの人に宣べ伝えなさい。謙遜になるように、また柔軟で心のへりくだつた者になるよう教えなさい。主イエス・キリストを信じる信仰をもつて、悪魔のあらゆる誘惑に立ち向かうように教えなさい。

火打のし

34 善い行いをするのに決して疲れず、柔和で心の
へりくだつた者(もの)になるようにこの民(たみ)に教えなさい。
このような者は、その靈(れい)に安息(あんそく)え(え)である。

おお、
おぼ
覚えておきなさい、わが子よ。若いうち
に知恵を得なさい。まことに、神の戒めを守るこ
とを若いうちに習慣としなさい。

36 また、あなたの必要とするあらゆる助けを神に
①さう もと 叫び求めなさい。まことに、あなたの行うことは
すべて、主のために行なうようにしなさい。どこへ
行くにも主にあつて行くようにしなさい。まこと

に、あなたの思いをすべて主に向けるようにしなさい。まことに、あなたの心の愛情をとこしえに主に向けるようにしなさい。

37 あなたのすべての行いについて主と相談しなさい。そうすれば、主はあなたのためになる指示を与えるね。

えてくださる。まことに、夜寝るときは、眠つて
いる間も主が見守つてくださるよう、寝なさい。^②そして、朝起きるときに、神への
感謝で心を満たしなさい。これらのことを行おうな
らば、終わりの日に高く上げられるであろう。

38さて、わが子よ、わたしは先祖が球、すなわち指示器と呼んだものについて少々話しておかなければならぬ。先祖はこれをリアホナと呼んだ。それは、羅針盤という意味である。主が用意して

くださつたのである。

39 見よ、これほど人念に細工のできる人はあり得

ない。見よ、それは、先祖に荒れ野の中で旅をする進路を教えるために用意されたものであった。

40 そしてこれは、神を信じる先祖の信仰に応じて働いた。したがって、先祖が信仰を持ち、神がその指針によつて自分たちの行くべき方向を示してください

ると信じたときには、見よ、そのようになつた。そこ

で彼らは、この奇跡と、また日々神の力によつて行

われたほかの多くの奇跡を経験したのである。

41 しかし、それらの奇跡は小さな手段によつて行われたため、それは彼らに数々の驚くべき業を示した。ところが、彼らが怠けて、信仰を働くかせることと熱意を示すことを忘れるなど、彼らの驚くべき業は止まつてしまい、彼らの旅は進まなかつた。

42 そのために彼らは、荒れ野に長居することになつてしまつた。すなわち、彼らはまつすぐ道を進まず、自分たちの背きのために飢えと渴きに苦しんだのである。

43 さて、わが子よ、このようなことは必ず影があることを理解してもらいたい。先祖はこの羅針

盤を心に留めることを怠つたので（これらは物質的なことであり）、旅は順調ではなかつた。靈的なことについても同様である。

44 見よ、キリストの御言葉は、永遠の喜びに至るまつすぐな道を指示するものであるが、その御言葉を心に留めることは容易であるのは、約束の地に至るまつすぐな道を示すこの羅針盤に注意を払うのが、先祖にとつて容易であったのと同じである。

45 さて、わたしは尋ねるが、このことの中に予型はないだろうか。この指示器がその示す道をたどる先祖を約束の地に導いたように、確かにキリストの御言葉は、わたしたちがキリストの御言葉の示す道をたどるならば、この悲しみの谷を越えてはるかに良い約束の地へわたしたちを導き入れてくれるのである。

46 おお、わが子よ、方法が容易だからということで怠けないようにしてよう。わたしたちの先祖がそうであつたからである。それは先祖のために備えられたもので、彼らがそれを見ていたら生き延びることができたであろう。わたしたちについても同様である。方法はすでに備えられており、わたしたち

46	②(なま)	3	ビラ	ヨハ	ヨハ	1
44	①(①)	1	二	三	四	二
41	①	1	二	三	四	二
40	①	1	二	三	四	二
39	①	1	二	三	四	二
38	②	1	二	三	四	二
37	③	1	二	三	四	二
36	④	1	二	三	四	二
35	⑤	1	二	三	四	二
34	⑥	1	二	三	四	二
33	⑦	1	二	三	四	二
32	⑧	1	二	三	四	二
31	⑨	1	二	三	四	二
30	⑩	1	二	三	四	二
29	⑪	1	二	三	四	二
28	⑫	1	二	三	四	二
27	⑬	1	二	三	四	二
26	⑭	1	二	三	四	二
25	⑮	1	二	三	四	二
24	⑯	1	二	三	四	二
23	⑰	1	二	三	四	二
22	⑱	1	二	三	四	二
21	⑲	1	二	三	四	二
20	⑳	1	二	三	四	二
19	㉑	1	二	三	四	二
18	㉒	1	二	三	四	二
17	㉓	1	二	三	四	二
16	㉔	1	二	三	四	二
15	㉕	1	二	三	四	二
14	㉖	1	二	三	四	二
13	㉗	1	二	三	四	二
12	㉘	1	二	三	四	二
11	㉙	1	二	三	四	二
10	㉚	1	二	三	四	二
9	㉛	1	二	三	四	二
8	㉜	1	二	三	四	二
7	㉝	1	二	三	四	二
6	㉞	1	二	三	四	二
5	㉟	1	二	三	四	二
4	㉟	1	二	三	四	二
3	㉟	1	二	三	四	二
2	㉟	1	二	三	四	二
1	㉟	1	二	三	四	二

が見ようとすれば、とこしえに生きることができるであろう。

47 さて、わが子よ、あなたはこれらの神聖なもの
を大切にしなさい。神に頼つて生きるようにしな
さい。この民のところへ出て行き、御言葉を告げ
知らせなさい。まじめでありなさい。さらば、わ
が子よ。」

2 わが子よ、あなたが確固としており、神に忠実であるので、わたしはあなたによつて大きな喜びを得られると確信している。あなたは若いときから主なる神に頼り始めたので、これからも神の戒めを守り続けるようにしてもらいたい。最後まで堪え忍ぶ者は幸いだからである。

アルマが息子のシプロンに与えた戒め

第38章
シプロンは義のために迫害された。救いは世の命であり光であるキリストの内にある。自分の激情をすべて制すること。紀元前約七十四年。

わたしは、あなたが縛られていたのを知つていいからである。また、御言葉のために石を投げられたのも知つている。主があなたとともにおられたので、あなたは忍耐してこれらすべてのこととに耐えた。そして、今あなたは、神があなたを救い出してくださいと知つている。

「わが子よ、わたしの言葉に耳を傾けなさい。わたしはヒラマンに言つたようにあなたにも言う。あなたは神の戒めを守るかぎり地に榮えるであろう。

5 わが子シブロンよ、神を信頼すればするほど、あなたはそれだけ試練や災難や苦難から救い出され、そして終わりの日に高く上げられるというこ

とを覚えていてもらいたい。

6 わが子よ、わたしは、自分ひとりでこれらのこととを知つたとあなたに思つてもらいたくない。わたしの内にある神の御靈が、これらのこととをわたしに知らせてくださるのである。もし神から生まれていなかつたならば、わたしはこれらのこととを知ることはなかつたであろう。

7 しかしそよ、主は深い憐れみをもつて、主の民の中での滅びの業をやめなければならぬとわたしに告げるために、主の天使を遣わされた。そして、わたしは顔と顔を合わせて天使を見、天使はわたしに語つた。その天使の声はまるで雷鳴のようで、大地全体を揺り動かした。

8 そして、わたしは三日三晩、激烈な苦痛と苦惱にさいなまれ、主イエス・キリストに憐れみを叫び求めるまでは、決して罪の赦しを受けなかつた。しかし見よ、主に叫び求めたところ、自分の靈に安息を得た。

9 わが子よ、このことをあなたに話したのは、あなたが知恵を得るため、また人が救われるのにはただキリストにより、キリストを通じてだけであ

10 あなたは御言葉を教え始めているので、今後も教え続けてもらいたい。そして、すべてのことに勤勉であり、自制するようにしてもらいたい。

11 高慢にならないようにしなさい。自分の知恵や優れた力を誇らないようにしなさい。

12 大胆でありなさい。しかし、尊大であつてはならない。また、激情をすべて制し、愛で満たされるようにしなさい。怠惰にならないようにしなさい。

13 ゾーラム人のように祈つてはならない。あなたが見たとおり、彼らは人に聞こえて自分の知恵が称賛されるように祈つているからである。

14 『おお、神よ、わたしたちが同胞よりも優れていることを感謝します』と祈つてはならない。むしろ、『おお、主よ、わたしがふさわしくない者であることをお許しください。憐れみをもつてわたしの同胞を思い起してください』と祈りなさい。まこ

14	11	9	8	7	6
②	①	②	①	②	① GS 教義
ルア	GS	モヒ	GS	モ	アル
カル	「サラ	「サ	「サ	11	再び生まれる
18	31	高	16	26	」
10	16	慢	5	17	18
14					

とに、いつも神の御前で自分がふさわしくないこと

を認めなさい。

15 主があなたを祝福し、終わりの日にあなたを王に迎え入れて、安らかに座に着かせてくださる国によう。さあ、わが子よ、行つてこの民に御言葉を教えなさい。まじめでありなさい。さらば、わが子よ。」

アルマが息子のコリアントンに与えた戒め。

次の第三十九—四十一章がそれに相当する。

第39章

性的な罪は忌まわしい行いである。コリアントンの罪

は、ゾーラム人が御言葉を受け入れる妨げとなつた。キリストの贖いは、それよりも前の時代の忠実な人々をもさかのぼつて救う。紀元前約七十四年。

1 「わが子よ、あなたには、あなたの兄弟に言つたことよりも少し多く言つておきたい。見よ、あなたは

自分の兄弟が神の戒めを守るのに確固としており、忠実であり、勤勉であつたのを見なかつたか。見よ、彼はあなたのために良い模範を示さなかつたか。

2 あなたはゾーラム人の民の中で、あなたの兄弟のようにはわたしの言葉に注意を払わなかつた。わたしがあなたに戒めたいのはこのこと、すなわち、あなたが自分の力と知恵を自慢し続けたことである。

3 わが子よ、それだけではない。あなたはわたしを悲しませることをした。あなたは神の道を説く務めを放棄して、レーマン人の境にあるサイロンの地まで娼婦イザベルを追つて行つた。

4 この娼婦は多くの人の心を奪つたが、だからといつて、わが子よ、これはあなたにとつて決して言い訳にはならない。あなたは自分に託された務めに心を注ぐべきであつた。

5 わが子よ、あなたはこのことが主の目から見て忌まわしい行いであること、まことに、罪のない者の血を流すことや聖靈を否定することを除いて、どのような罪よりも非常に忌まわしい行為で

6 見よ、聖靈が一度あなたに宿つてから、あなたがその聖靈を否定するならば、しかも自分で聖靈を否定していることを知つてゐるならば、見よ、これは赦されない罪である。神の光と知識に逆らつて人を殺す者が赦しを得るのは容易ではない。また人に殺す者は赦しを得るのは容易ではない。まことに、わが子よ、あなたに言うが、このような者を赦しを得るのは容易ではない。

7 わが子よ、あなたはそのような重大な罪を犯さなければよかつたものを。あなたの罪についてくどくどと述べてあなたをひどく苦しめることが、あなたのためにならないようであれば、わたしはそうはしなかつたであろう。

8 しかし見よ、あなたは自分の罪を神から隠すことはできない。また、悔い改めなければ、あなたはもう自分の目の欲を追うことなく、これらの罪は終わりの日にあなたを責める証となるであろう。

9 わが子よ、悔い改めて自分の罪を捨て、これからはもう自分の目の欲を追うことなく、これらのことをして断つようにしてほしい。そうしなければ、決して神の王国を受け継ぐことができないからである。おお、このことを覚えて、これらのことを

10 また、あなたが行おうとすることについて、必ず兄たちと相談するよう、わたしはあなたに告げておく。見よ、あなたはまだ若く、兄たちから助けを受ける必要があるからである。兄たちの忠告を中心としに留めなさい。

11 どんなむなしいものにも、愚かなものにも惑わされではなくない。一度と心を悪魔に惑わされて、あの邪悪な娼婦たちを追つてはならない。見よ、おお、わが子よ、あなたは何と大きな罪悪をゾーラム人に招いたことか。彼らはあなたの行いを見て、わたしの言葉を信じなかつた。

12 それで、主の御靈はわたしに、「あなたの子供たちが多くの人の心を惑わして滅びに至らることのないように、善を行ふことを彼らに命じなさい」と言われる。したがつて、わが子よ、わたしは神を畏れてあなたに命じる。罪悪から遠ざかりなさい。

13 思いと勢力と力を尽くして主に立ち返りなさい。だれの心をも悪いことを行ふように惑わしてはならない。むしろ彼らのところに帰り、あなたの過ちと、あなたが行つた悪事を認めなさい。

13 ① 教える、教師 モサフ 27 34 - 35	12 ① GS 「戒め(神の)」 アル・4:11 ローマ 13:13 アル 35:2 マ 2:21 3:21 14:23	11 ② GS 「現世的」 3 GS GS 3:12 3 GS GS 30:14	9 ① GS 「救されない罪」 6 GS GS 6:10 - 36 教義 64:10 - 36 教義 64:10 - 36 「救されない罪」
--	---	---	---

14 富やこの世のむなしいものを求めてはならない。
 見よ、あなたはそれらのものを携えて行くことはできないからである。

15さて、わが子よ、キリストの来臨についてあなたに少し述べておきたい。見よ、あなたに言う。キリストは確かに世の罪を取り除くために来られる。キリストは御自分の民に救いの喜びのおとずれを告げ知らせるために来られる。

16さて、わが子よ、あなたが召された務めは、この民にこの喜びのおとずれを告げ知らせて、彼らの心を備えること、いや、救いがこの民に与えられようにして、この民がその子孫の心を備えて、キリストの来臨の時に御言葉を聞けるようになることであった。

17さて、わたしはこの件についてあなたの心を少しあるくしよう。見よ、あなたはどうしてこれらのことが、このようにずっと前から分かるのかと不思議に思っている。見よ、あなたに言おう。今の人たちはキリストが来られる時代の人と同じように、神にとつて貴い存在ではないだらうか。贖いの計画は、この民の子孫と同じように、こ

の民にも知らされることが必要ではないだろうか。
 19今、主が天使を遣わして、この喜びのおとずれをわたしたちに告げ知らせてくださるのは、わたしたちの子孫に宣言されるのと同様に、あるいはキリストの来臨の後に宣言されるのと同様に容易なことではないだろうか。」

第40章

キリストはすべての人の復活を実現される。義人の死者はパラダイスへ行き、悪人は外の暗闇に追い出され、それぞれ復活の日を待つ。復活の際、すべてのものが本来の完全な体の造りに回復される。紀元前約七十四年。

1「さて、わが子よ、あなたに言つておきたいことがもう少しある。死者の復活について、あなたが心を悩ましていることが分かるからである。

2見よ、わたしはあなたに言つておく。キリストの来臨後までは復活はない。言い換えれば、そのときまで、この死すべき体が不死のものを着ることはなく、この朽ちるもののが朽ちないものを着る

16	①マタ6 ヤコ2 教義6 責任
17	②モサ6 31 32
18	GS「家族親の
19	①コリ15 モサ16 10 20
20	③「不死滅」 15 53 54

ことはないということである。

3 見よ、キリストは、死者の復活を實現される。

しかし見よ、わが子よ、その復活の時はまだ来ていない。あなたに一つの奥義を明らかにしよう。神御自身のほかだれも知らない隠されている奥義がたくさんある。しかし、わたしが知りたいと思つて神に熱心に尋ねた一つのことについて、あなたに告げよう。それは復活に関することである。

4 見よ、すべての人みどりが将来、死者の中から出て来る定められた時がある。さて、その時ときがいつやつて来るかはだれも知らない。しかし、神は定められているその時を御存じである。

5 さて、人が死じゆう者の中から出て来るのは一度だけか、それとも二度か、三度か、それは重要ではない。神はこれらのことすべて御存じだからである。これが事実であるということ、すなわち、すべての人みどりが死者の中からよみがえる時ときが定められていて、この人が死じゆうするといふことが分かれ、わたしにはそれで十分である。

6 さて、死ぬ時と復活の時の間には、時の隔たりが必ずあるに違ひない。

7 そこでわたしは尋ねたい。人が死んだ時から復活の定められた時に至るまで、どのようなことが人ひとに起ころるのだろうか。

8 人がよみがえるように定められている時ときが二度以上あるのかどうか、それは重要ではない。すべての人は同時に死なないからである。また、このことでも重要ではない。すなわち、神にあつてはすべてが一日のようであり、時ときが計られるのは人ひとに対してだけである。

9 したがつて、人ひとに対して、死者の中からよみがえるようく定められた時ときがある。そして、死ぬ時と復活の時の間には、時の隔たりがある。この時の隔たりに關してどのようなことが人の靈に起ころのか、それが知りたくて、わたしは主に熱心に尋ねた。そして、このことをわたしは今知つてゐる。

10 すべての人がよみがえる時ときがくると、神は人に定められている時をすべて御存じであるといふことが分かるであろう。

11 さて、死と復活の間の人の状態についてであるが、見よ、天使がわたしに知らせてくれたところによれば、すべての人の靈は、この死すべき体を離れ

3	GS「復活」
4	GS「神の奥義」
5	GS「神、神会」
6	GS「人靈を持つ存在としての」
7	GS「神、神会」
8	GS「神、神会」
9	GS「神、神会」
10	GS「神、神会」
11	GS「神、神会」
12	GS「神、神会」
13	GS「神、神会」
14	GS「神、神会」
15	GS「神、神会」
16	GS「神、神会」
17	GS「神、神会」
18	GS「神、神会」
19	GS「神、神会」
20	GS「神、神会」
21	GS「神、神会」
22	GS「神、神会」
23	GS「神、神会」
24	GS「神、神会」
25	GS「神、神会」
26	GS「神、神会」
27	GS「神、神会」
28	GS「神、神会」
29	GS「神、神会」
30	GS「神、神会」
31	GS「神、神会」
32	GS「神、神会」
33	GS「神、神会」
34	GS「神、神会」
35	GS「神、神会」
36	GS「神、神会」
37	GS「神、神会」
38	GS「神、神会」
39	GS「神、神会」
40	GS「神、神会」
41	GS「神、神会」

るやいなや、まことに、善い靈であらうと悪い靈であらうと、彼らに命を与えた神のみもとへ連れ戻される。

12 そして、義人の靈はパラダイスと呼ばれる幸ふくわらうと、彼らはそこであらゆる災難と、あらゆる不安と憂いを離れて休む。

13 さて、そのときの悪人の靈の状態はといえど、見よ、彼らは少しも主の御靈を受けずに、見よ、善い行いよりも悪い行いを好んだので、悪魔の靈が彼らの内に入り込んで、彼らの体を支配していた。それで、これららの靈は外の暗闇に追い出され、そこで涙を流し、泣きわめき、歯ぎしりをする。これらは、彼ら自身の罪惡のために、悪魔の意のままに捕らえられて連れ去られた結果である。

14 さて、これが悪人の靈の状態である。まことに、暗闇の中で、自分たちに下る火の憤りのようないまの激しい怒りを、ひどく恐れながら待つてゐる。彼らはこのように、自分たちの復活の時までこの状態にとどまるのである。

15 さて、ある人々は、復活前の靈のこの幸福な状態とこの不幸な状態を、第一の復活と解釈してきた。まことに、わたしに告げられた御言葉からすれば、靈すなわち魂が引き上げられて幸福か不幸かの状態に置かれることを復活と呼んでもよいとわたしは認める。

16 また見よ、別に第一の復活があると述べられてゐるが、それは過去にいたすべての人、現在いるすべての人、死者の中からキリストが復活されるまでの将来のすべての人の復活である。

17 さて、このように述べられているこの第一の復活とは、靈の復活があつて幸福か不幸かの状態に置かることではないと、わたしは考へてゐる。これがそういう意味であると考へてはならない。

18 見よ、わたしはあなたに言うが、そうではな

く、それはアダムの時代からキリストの復活に至るまでの人々の、靈と体との再結合を意味する。

19 さて、これらの人々が、悪人であつても義人であつても、同時に皆その靈と体が再結合されるかどうか、わたしは言わないのである。

20 ただ、彼らは皆出て来る、すなわちキリストの復活後に死ぬ人々の復活に

18	17	16	14	13	12	11
①32、 マタ50 27 52	②1 GS「復活」 17	モサ15 「21」 23 11 34	モサ7 ヤコ6 マタ8 16 12 13 20	モサ1 ヤコ6 マタ12 16 12 13 20	モサ1 ヤコ6 マタ8 16 12 13 20	モサ1 ヤコ6 マタ8 16 12 13 20

^{①さきだ}先立つて彼らの復活が起ることと言えば十分である。

先立つて彼らの復活が起ることと言えば一分である。
さて、わが子よ、わたしは彼らの復活がキリストの復活の時に起こることは言わない。しかし見よ、わたしの考え方として述べるならば、義人の靈と体は再結合される。

21 しかし、それがキリストの復活の時かその後か、わたしは言わない。しかし、肉体の死と復活の間に、^{いたい}には時の隔たりがあるとだけ言つておこう。まことに、^{れい}は神が不幸か不幸か、いざれかの状態に置かれ、この状態は神が定められた時まで続く。その時が来るとき、死者は出て来てその靈と体とが再結合され、^{おう}神の御前に連れ出されて立ち、自分の行いに応じて裁かれるのである。

まことに、これがそれらのものの回復をもたらし、その回復については、預言者たちの口を通して語られてきたとおりである。

て、手足と関節はことごとくその体に回復される。まことに、髪の毛^{かみ}が^けひどく^{うしな}だらけ^{からだ}になら^{かいわ}る。すべてのものが本来の完全な造りに回復される。

第41章 章題：復活の時
年ねん 特質と生きていこう とがない。無窮の不ふと。

24 わが子よ、これこそが預言者たちの口を通して語られてきた回復なのである。

25 そのとき、義人は神の王国で輝きをはなつ。しかし見よ、悪人には恐ろしい死が及ぶ。彼らは清くないので、義にかかわることに閑して死んだ状態になるからである。清くない者は決して神の王国を受け継ぐことができず、彼らは追い出されてしまう。自分の働きの成果、すなわち自分の悪い行いの結果を受けるようにならなければならぬのである。

26 かかるべきかの結果を受けるように定められる。そして、苦い一杯のかすを飲むのである。」

げて解釈し、このことについて大いに迷つてゐるからである。また、あなたもこのことについて心を悩ませてきたことが分かる。しかし見よ、このことについてあなたに説明しよう。

2 わが子よ、あなたに言つておく。回復の計画は
かみ 神の正義にとつて必要である。すべてのものがふさ
せいぎ わしい状態に回復されることは必要だからである。
じょうたい みる。見よ、キリストの力と復活からいえは、人の靈れいはく
がその体に回復されることと、体のあらゆる部分
かからだ が体そのものに回復されることは、必要であり正当なことである。

3 また、人々が自分の行いに応じて裁かれるこ
と、そして現世での彼らの行いが善く、心の望み
も善かつたならば、彼らが終わりの日に善なるも
のに回復されることは、神の正義にとつて必要で
ある。

4 また、彼らの行いが悪ければ、それらの行いは災いとして彼らに回復される。したがつて、すべてのものはふさわしい状態に回復され、あらゆるものはその本来の体に回復されるのである。すなわち、死すべき状態は不死に、朽ちるものは朽ちな

①このよ^うな人々は主に贖^{ゆび}われる。まことに、このよ^うな人々は、あの無窮の暗黒の夜から連れ出だされ、救^{すく}われるのである。このよ^うにして、人々は善を行^{おこな}うか自分で判断するからである。

8さて、神の定めは^{①か}變えることができない。そして、道は用意されており、望む者はだれでもその道を歩いて、救^{すく}われるようになつてゐる。

王國を受け継ぐ。すなわち、前者は一方にあり、後者は他方にある。

前者は幸福を望んだことによつて幸福に、すなわち善を望んだことによつて善によみがえり、後者は悪を望んだことによつて悪によみがえる。後者も終日悪を行ふことを望んだので、夜がやつてからであると、報いとして災いを受けるのである。

もう一方も同様である。罪を悔い改めて、生涯

いものによみがえるのである。そして、無窮の幸福な状態によみがえつて神の王国を受け繼ぐか、あるいは無窮の不幸な状態によみがえつて悪魔の王国を受け繼ぐ。すなわち、前者は一方にあり、後者は他方にある。

5 前者は幸福を望んだことによつて幸福に、すなわち善を望んだことによつて善によみがえり、後者は悪を望んだことによつて悪によみがえる。後者は終日悪を行ふことを望んだので、夜がやつて来ると、報いとして災いを受けるからである。

6 もう一方も同様である。罪を悔い改めて、生涯の最後まで義を望む者は、義にかなう報いを与えるのである。

7 このような人々は主に贖われる。まことに、このような人々は、あの無窮の暗黒の夜から連れ出され、救われるのである。このようにして、人々は立つたり倒れたりする。見よ、人々は善を行ふか悪を行ふか自分で判断するからである。

8さて、神の定めは変えることができない。そして、道は用意されており、望む者はだれでもその道を歩いて、救われるようになつてゐる。

8 ① GS 教義 選択の 38 自由	4 ② ① ④ アル 「ラ 14 42 教義 二つ 「水 15 命」 51 55	3 ② ① ④ GS 教 義 138 「復活」 17 ニフ アル 「正義」 14 9 29 31	2 ① ④ GS GS ア GS 「行い」 「裁き」 「背信」	1 ① ② 「哲教」 「責任を」
------------------------------------	---	--	---	---------------------------

さ見てみよ、わが子よ、あなたはこれまで、教義のある点について罪を犯すという危険を冒してきたが、もう二度とその点について、神に對して罪を犯さないようになさい。

10 かいふくについて述べられてはいるというので、罪かみら幸福へ回復されると思つてはならない。見よ、あなたに言っておくが、⁽¹⁾悪事は決して幸福を生じた
ござな。

さて、わが子よ、生まれながらの状態、すなはちこの世的な状態にあるすべての人は、苦汁の中に入り、罪悪の繩目を受けている。彼らはこの世で神なしに生きている人々であり、神の性質にして行動してきた。したがつて彼らは、幸福の本質に反する状態にある。

12さて見よ。回復とはあるものを自然の状態から取り去つて不自然な状態、すなわちそのものの本質に反する状態に置くことであらうか。

13 おお、わが子よ、そうではない。
悪に、肉欲を肉欲に、恶心を恶心に、
を義に、公正を公正に、憐れみを憐れみに再び
回復とは悪を善を善に、義を義に、

すことである。

第
42
章

したがつて、わが子よ、同胞に對して常に憐れみ深くありなさい。⁽¹⁾公正に振る舞い、義にかなつて裁き、絶えず善を行ひなさい。これらのことをすべて行えれば、そのときあなたたは報いを受けるのである。まことに、あなたに憐れみが再び回復され、再び公正が回復され、再び義にかなつた裁きが回復され、再び善が報われるであろう。

あなたから出るものがあなたに返つて來て、回復されるからである。したがつて、回復という言葉は罪人をさらにはつきりと罪に定めるのであつて、決して義とはしないのである。」

死すべき状態の現世は、人が悔い改めて神に仕えることを可能にする試しの時期である。墮落は全人類に肉体の死と靈の死をもたらした。贖いは悔い改めを通じて与えられる。神御自身が世の罪のために贖いをなさる。懺悔のみは悔い改める人々のためにある。悔い改めない者は皆、神の正義の支配を受けける。懺悔みは贖罪により与えられる。心から悔い改める者が救われる。紀元前

七十四年

④ 58	③ 教義	14	11	10 9
GS 27	教義	11 ① ③	GS ①	イ ① ① ラ 37
「憐れみ」	ヨグ	ハ 「正直」	モサ 13 37 マサ 38 20	教義 現世のから らの人
「憐れみ」	ヨグ	エベ 「現世的なから らの人」	21	10 23 28

1 「さて、わが子よ、今あなたの心を悩ましていいこと、あなたの理解できないことがほかにも多少あることを、わたしは知っている。それは罪人を罰する神の公正についてである。あなたは罪人が不幸な状態に置かれるのは不适当であると思つていて。幸な状態に置かれるのは不适当であると思つていて。」

2 さて見よ、わが子よ、このことをあなたに説明しよう。見よ、主なる神はわたしたちの始祖を工デンの園から追い出して、彼らの肉体が造られた土を耕すようにされた後、まことに主なる神は人を追い出された後、エデンの園の東の端にケルビムとあらゆる方向に回る燃える剣を置いて、命の木を守らせられた。

3 わたしたちが知つてゐるようには、人は神のようになり、善惡をわきまえるようになつた。そこで、人が手を伸ばして命の木からも取つて食べ、とこしえに生き長らえることのないようには、主なる神はケルビムと燃える剣とを置いて、人がその木の実を食べられないようになつた。

4 このことから分かるように、人が悔い改めることを許された期間があつた。まことに、それは試しの時期であり、悔い改めて神に仕える時期である。

5 見よ、もしアダムがすぐに手を伸ばして命の木から取つて食べていたら、彼は悔い改めの期間がまつたくないまま、神の御言葉のとおりにとこしまに生き長らえたであろう。そして、神の御言葉はむなしくなり、偉大な救いの計画は挫折していくことであろう。

6 しかし見よ、人は死ぬものと定められた。そこでは人は、命の木から絶たれたときに、地の面から絶たれることとなつた。そして人は、どこしえに迷つた状態になり、まことに、墮落した者となつたのである。

7 さて、これによつて分かるように、わたしたちの始祖は、肉体的にも靈的にも主の御前から絶たれてしまつた。このようにして、わたしたちが知つてゐるように、彼らは自分の意志に従う者となつたのである。

8 さて見よ、そのときすぐ人がこの肉体の死から救われることは、偉大な幸福の計画を損なうことになるので適当ではなかつた。

9 そこで、魂は決して死ぬことがあり得ず、また墮落は全人類に肉体の死だけでなく靈の死ももた

5 見よ、もしアダムがすぐに手を伸ばして命の木から取つて食べていたら、彼は悔い改めの期間がまつたくないまま、神の御言葉のとおりにとこしまに生き長らえたであろう。そして、神の御言葉はむなしくなり、偉大な救いの計画は挫折していくことであろう。

6 しかし見よ、人は死ぬものと定められた。そこでは人は、命の木から絶たれたときに、地の面から絶たれることとなつた。そして人は、どこしえに迷つた状態になり、まことに、墮落した者となつたのである。

7 さて、これによつて分かるように、わたしたちの始祖は、肉体的にも靈的にも主の御前から絶たれてしまつた。このようにして、わたしたちが知つてゐるように、彼らは自分の意志に従う者となつたのである。

8 さて見よ、そのときすぐ人がこの肉体の死から救われることは、偉大な幸福の計画を損なうことになるので適当ではなかつた。

9 そこで、魂は決して死ぬことがあり得ず、また墮落は全人類に肉体の死だけでなく靈の死ももた

1 ① GS 「正義」	2 ② GS 「エデン」	3 ③ GS 「ケルビム」
モサ 4:28 モサ 2:9	モサ 3:23 モサ 32:33	創世記 2:7 創世記 2:9
モサ 3:5 モサ 3:5	モサ 3:5 モサ 3:5	モサ 3:2 モサ 3:2
モサ 3:5 モサ 3:5	モサ 3:5 モサ 3:5	モサ 3:5 モサ 3:5
モサ 3:5 モサ 3:5	モサ 3:5 モサ 3:5	モサ 3:5 モサ 3:5

らしたので、すなわち彼らは主の御前から絶たれないので、人類はこの靈の死から救われることが望ま

10 人類は生まれながらの本性のために、肉欲や慾望におぼれ、悪魔に従う者となつたので、この試験の結果は彼らが用意をする状態となつた。すなわち、準備の状態となつたのである。

さて、わが子よ、覚えておきなさい。もし贖いの計画がなければ（それを捨てるならば）、人が死ぬとすぐに、その靈は主の御前から絶たれるので不幸な状態に陥つたであろう。

さて、人々をこの堕落した状態から救い出す手段はまつたくなかつた。この堕落した状態は、人が自分の不徳順のために自分自身に招いたものである。

したがつて、正義によれば、貪いの画はこのけいかく(①あがな)試しの状態(じょうたい)、すなわちこの準備(じゅんび)の状態(じょうたい)で人々(ひとびと)が悔(くや)くな(な)い改める(い)う条件(じょうけん)がなければ、正義(せいぎ)の働き(はたらき)を損(そん)なわることなしに憐(あわ)れみが効(こうりょく)力を(はつ)はつする(はつする)ことは不可能(ふかのう)である。だから(だから)である。正義(せいぎ)の働き(はたらき)が損(そん)なわることはあり

得ない。もしそのようなことがあれば、神は神でなくなる。

14 このようにして、わたしたちが知つてゐるよう
に、全人類は堕落した状態になり、正義の支配
下に入った。まことに、この正義は神の正義であ
り、全人類がとこしえに神の御前から絶たれるこ

15 さて、憐れみの計画は、贖罪が行わなければ成らぬ遂げることができないなかつた。したがつて、神のみは憐れみの計画を成し遂げるため、正義の要求を満たすため、また御自分が完全な神、正義の神、あわづみ深き神であり続けるために、御自分で世の罪のみ深き神であるのである。

さて、罰がなければ、人は悔い改めをすること
ができなかつた。この罰も靈の命と同じように永遠で
遠のものであり、靈の命と同じようによく永遠である。
幸福の画に相対して定められたのである。

17人は罪を犯さなければ、どうして悔い改めることができようか。⁽²⁾律法がまつたくなれば、どのようにして人は罪^{ひどみ}を犯すことができようか。罰^{ばつ}がなければ、どうして律法があり得ようか。

17	16		15	14	13	11	10
②	①	① GS	④	③	②	①	① GS
ロ	サ	サ	2	3	GS	GS	GS
口	教義	贖罪	16	7	2	2	現世的
マ	罪	16	7	12	1	2	死すべき状態
4	罪	7	12	11	2	1	生まながら
15	罪	7	12	11	13	14	GS
	10	8	7	48	13	14	「悔い改め」
	12			10	14	14	「懲りの計画」
					7	9	7

18 罰が定められ、公正な律法が与えられて、それらが人に良い心のとがめを生じさせた。

19 もしも人殺しをした者は死ななければならぬという律法が与えられていなければ、人は人殺しをすれば自分が死ぬことになると恐れるであろう。

20 また、もし罪を禁じる律法がまったく与えられていなければ、人は罪を犯すことを恐れないのである。

21 もし律法がまったく与えられていなければ、たとえ人が罪を犯しても、正義や憐れみに何ができるであろうか。正義も憐れみもその人について何も要求する権利を持たないのである。

22 しかし現在、律法が与えられ、罰が定められており、悔い改めが許されている。そして、憐れみは悔い改めを要求する。そうでなければ、正義の働きは損なわれ、神は神でなくなる。

23 しかし、神が神でなくなることはなく、律法は罰を負わせる。もしそうでなければ、正義は悔い改める者について権利を主張する。

① 憐れみ

は贖罪によつて与えられるのである。そして、贖罪は死者の復活をもたらし、死者の復活は人を神の御前に連れ戻す。このようにして、人は神の御前に連れ戻され、律法と正義により、自分の行いに応じて裁かれる。

24 見よ、正義は正義のすべての要求を働く、また、憐れみは憐れみを受ける資格のあるすべての者について権利を主張する。したがつて、心から悔い改める者のほかにはだれも救われない。

25 そもそも、あなたは憐れみが正義から奪えると思うのか。いや、少しも奪えない、とわたしは言おう。もし奪えるようであれば、神は神でなくなる。

26 このようにして神は、世の初めから用意されたいた御自分の偉大な永遠の目的を達せられる。そしてこのようにして、人の救いと贖いと、また滅びと不幸が生じるのである。

27 したがつて、おお、わが子よ、來たいと思う者はだれでも来て、価なしに命の水を飲むことができる。また、來たいと思わない者はだれも来るようにならない。しかしその者は、終わりの日にその行いに応じて回復を受ける。

27	26 25	23 22	21 19 18
③ 點示 ② GS ヒラ ① モセ ② 2 ニフ ① ① ① ①	モル 9 14 15 40 13 15 21 18 12 41 45 12 11 4 7 12	モサ 3 11 2 GS GS 「贖罪」 2 二フ 2 8	モサ 3 11 2 GS GS 「殺人」 2 二フ 9 25 26
アル 20 12 59 18 15	アル 1 39 30 34 1 14 30	「選択の自由」 13 3 、「正義」	「悔い改め」
		アル 40 13 15 21 24	
		14 12 59 18 15	

28 もし彼が悪を行いたいと望んで、生涯悔い改めなければ、神の回復の原則によつて、見よ、彼に災いが及ぼされる。

29 さて、わが子よ、あなたはこれからはもう、これらのことに思い悩まされることなく、ただ自分の罪にだけ心を悩まし、その悩みによつて悔い改めに導かれるようにしてもらいたい。

30 おお、わが子よ、あなたはこれからはもう、神の正義を否定しないようにしてもらいたい。神の正義を否定することによって、どんなささいなことでも罪の言い訳をしようとしてはならない。むしろ、神の正義と憐れみと寛容があなたの心の中で存分に力を振るえるようにし、そのためにはへりくだつて地にひれ伏すことができるようになさい。

31 さて、おお、わが子よ、あなたはこの民に御言葉を告げ知らせるために神から召されている。わが子よ、あなたの道を行き、誠実にまじめに御言葉を告げ知らせて、人々を悔い改めに導き、偉大な憐れみの計画が彼らについて権利を主張できるようになさい。神がまことにわたしの言葉とのおりにあなたにかなえてくださるように。アーメン。」

第43章
アルマとその息子たち、御言葉を宣べ伝える。ゾーラム人とほかの二ーエライ人の離反者たち、レーマン人となる。レーマン人、二ーエライ人を攻める。王ロナイン、二ーエライ人に防御用の武具を着けさせる。主、アルマにレーマン人の作戦を明らかにされる。二ーエライ人、自分たちの家と自由、家族、宗教を守る。モロナイの軍隊とリーハイの軍隊、レーマン人を包囲する。紀元前約七十四年。

1 さて、アルマの息子たちは御言葉を告げ知らせるために民の中に出て行つた。また、アルマ自身も休んでいることができず、彼もまた出て行つた。
2 ところで、彼らの宣教についてはこれ以上述べないが、ただ、彼らが預言と啓示の靈によつて御言葉と真理を宣べ伝えたとだけ言つておく。彼らは召されている神の聖なる位に従つて教えを説いた。
3 ここで、二ーエライ人とレーマン人の間の戦争の話に戻ろう。それはさばきつかさの統治第十八年のことである。

4 さて見よ、ゾーラム人はレーマン人となつてしまつた。

まつた。そして第十八年の初めに、ニーファイ人の民はレーマン人が攻め寄せて来るのを見て、戦争の準備をした。すなわち、彼らはジエルシヨンの地に軍隊を集めた。

さて、レーマン人は数千人の軍勢でやつて来るに、ゾーラム人の土地であるアンテオヌムの地に入つて来た。彼らの指揮官はゼラヘムナという名の男であった。

6 ところで、アマレカイ人は元来レーマン人よりももつと邪悪で、殺人を好む氣質を持つた者たちであつたので、ゼラヘムナがレーマン人を率いる連隊長として任命した者たちは皆、アマレカイ人とゾーラム人であった。

7 彼がこのようにしたのは、レーマン人に引き続きた。彼がこのようにしたのは、レーマン人を服従させ見よ、彼の企ては、レーマン人をそそのかしてニーファイ人に対して怒りを抱かせることであつた。彼がこのようにしたのは、レーマン人を支配する大きな権力を自分とのものとし、さらにニーフアイ人を奴隸にして彼らを支配する権力をも得る

5 さて、レーマン人は数千人の軍勢でやつて来るに、ゾーラム人の土地であるアンテオヌムの地に入つて来た。彼らの指揮官はゼラヘムナという名の男であった。

6 ところで、アマレカイ人は元来レーマン人よりももつと邪悪で、殺人を好む氣質を持つた者たちであつたので、ゼラヘムナがレーマン人を率いる連隊長として任命した者たちは皆、アマレカイ人とゾーラム人であった。

7 彼がこのようにしたのは、レーマン人に引き続きた。彼がこのようにしたのは、レーマン人を服従させ見よ、彼の企ては、レーマン人をそそのかしてニーファイ人に対して怒りを抱かせることであつた。彼がこのようにしたのは、レーマン人を支配する大きな権力を自分とのものとし、さらにニーフ

ためであつた。

9 ところが、ニーファイ人の目的は、自分たちの土地と家、妻子を保護して、これらのものが敵の手に落ちないようにすること、また自分たちの権利と特權と、望みのままに神を礼拝できる自由を保つことであつた。

10 彼らは、もしレーマン人の手に落ちれば、靈とまことをもつて神を、すなわちまことの生ける神を礼拝する者を皆、レーマン人が殺すことを知っていたからである。

11 彼らはまた、レーマン人が彼らの同胞、すなわちアンモンの民と呼ばれているアンタイ・ニーフアイ・リハイの民に対してひどい憎しみを抱いていることも知つていた。アンモンの民は武器を取ろうとした。彼らは聖約を交わしており、それを破ろうとはしなかつた。したがつて、もしレーマン人の手に落ちれば、彼らは滅ぼされたであろう。

12 ニーファイ人は、彼らが滅ぼされるままにしておくのを望まなかつたので、彼らに受け継ぎとして土地を譲つた。

13 そして、アンモンの民はニーファイ人に、彼ら

の軍隊を支援するために自分たちの持ち物の多くを提供了。このようなわけで、二ーファイ人はやむを得ず単独でレーマン人に立ち向かうことになつた。一方レーマン人は、レーマンとレムエルトイシマエルの息子たちの子孫、および二ーフアイ人から離反してアマレカイ人やゾーラム人になつたすべての者、ならびにノアの祭司たちの子孫から成つていた。

14 その子孫は二ーファイ人とほぼ同数どうすうであつた。したがつて、二ーファイ人は自分たちの同胞はらからと血ちを流しても戦わざるを得なかつた。

15 さて、レーマン人の軍隊がアンテオヌムの地に集あつまつてゐたので、見みよ、二ーファイ人の軍隊はジエルションの地ちで彼らと戦たたかいを交える用意よごいをした。

16 ところで、二ーファイ人の指揮官しきかん、すなわち二ーファイ人を率いる司令官じれいかんに任命にめいされた人、この司令官じれいかんがニーファイ人の全軍の指揮しきを執つたが、その人はモロナナイという名であつた。

17 モロナナイは一切の指揮しきを執り、軍政ぐんせいをつかさどつた。彼かれがニーファイ人の軍隊ぐんたいを率いる司令官じれいかんに任命にめいされたのは、わずか二十五歳さいのときであつた。

さて、彼はジエルショーンの地ちでレーマン人じんと相対した。このとき、彼の民は剣と三日月刀、そのほかあらゆる武器で武装していった。

19 レーマン人の軍隊ぐんたいがニーファイの民みんを見ると、モロナイトは胸當てと腕盾うでたてと、頭部とうぶを防護ぼうぎょする防具ぼうぐを彼の民たみに装備そうびさせていた。また、彼らは厚手あつでのこもりきを着ていた。

14 その子孫は二ーファイ人とほぼ同数であつた。
15 さて、レーマン人の軍隊がアンテオヌムの地に

さて、レーマン人の軍隊がアンテオスムの地に集まつていたので、見よ、二ーフアイ人の軍隊はジエルションの地で彼らと戦いを交える用意をした。

ところどころで二ーファイア人の指揮官すなむぢ三
ーファイア人を率いる司令官に任命された人、この
司令官がニーファイア人の全軍の指揮を執つたが、
その人はモロナイという名であつた。

17 モロナカイは一切の指揮を執り、軍政をつかさどつた。かれがニーフアイ人の軍隊を率いる司令官に任命されたのは、わずか二十五歳のときであつた。

22 見よ、そこで彼らは、ジエルシヨンの地の境で
あえて二ーフアイ人を攻めようとせず、アンテオヌ
ムを去つて荒れ野へ向かつた。そして、はるかシド
ン川の源の近くを、荒れ野の中を回りして進み、
マンタイイの地に入つてその地を占領しようとし

た。彼らは自分たちがどこへ行つたかモロナイの軍隊には分からぬであろうと思つたからである。
 23しかし、彼らが荒れ野に向かつて出發するところに、モロナイは数人の密偵を荒れ野に送り込んで、彼らの陣營をうかがわせた。モロナイはまた、人々をアルマのもとに遣わし、レーマン人を防ぐために二ーファイ人の軍隊はどこへ行けばよいか、主に尋ねてほしいと願つた。

24そこで、主の言葉がアルマに下つた。そして、アルマはモロナイの使者たちに、レーマン人の軍隊は荒れ野の中を遠回りして進んでおり、彼らはマントタイの地へ行つて民の弱い部分に攻撃を仕掛けようとしていると告げた。そこで、使者たちは帰つて、モロナイにその伝言を伝えた。

25そこでモロナイは、軍隊の一部をジエルションの地に残して、レーマン人の一部がその地にやつて来て町を占領することのないよう備えておき、軍隊の残りを率いてマンタイの地へ進軍した。

26そしてモロナイは、その地のすべての人を集め、レーマン人と戦つて彼らの土地と国、権利と

自由を守らせるようにした。このようにして彼らは、レーマン人の来襲に備えたのである。
 27さて、モロナイは、シドン川の岸に近い谷に自分の軍隊を隠した。そこはシドン川の西方の荒れ野の中であった。

28またモロナイは、方々に密偵を配置し、レーマン人の軍隊が来たときにそれが分かるようにした。
 29モロナイはレーマン人の目的を知っていた。彼らの目的は、自分たちの同胞を滅ぼすか、そうでなければ同胞を服従させて奴隸にし、全地に彼ら自身のための王国を築くことであつた。

30またモロナイは、二ーファイ人のただ一つの望みが自分たちの土地と自由と教会を守ることであるのを知つていたので、計略を用いて二ーファイ人を守ることは少しも罪ではないと思つた。そこで彼は何人の密偵を使つて、レーマン人がどの進路を取ろうとしているかを探つた。

31その結果、彼は自分の軍隊を分けて、一部を川を渡させて谷に入れ、東方に、すなわちリプラの丘の南方に彼らを隠した。

32また、残りの兵をシドン川の西方の西の谷に、

マンタイの地の境に至るまで隠した。

33 このように彼は、自分の望むままに軍隊を配置し、レーマン人と戦いを交える用意をした。

34 そして、レーマン人はモロナイの軍隊の一部が隠れている丘の北方を上つて来た。

35 そして彼らは、リープラの丘を過ぎて谷に入り、シドン川を渡り始めた。そこで、丘の南方に隠れていて、リーハイという名の人に率いられていた軍隊が、彼の指揮の下に東方からレーマン人の背後を包囲した。

36 そこでレーマン人は、二ーフアイ人が背後かと戦い始めた。

攻めて来るのを見て、向きを変えてリーハイの軍隊

37 そして、双方ともに死者が出始めたが、死者はレーマンの方がはるかに多かった。レーマン人は二ーフアイ人の剣と三日月刀による激しい攻撃にそ

の裸の体をさらしており、ほとんど一太刀ごとに死んだからである。

38 一方、二ーフアイ人は体特に大切な部分が保護されていったので、すなわち、体特に大切な部分が胸當てと腕盾とかぶとでレーマン人の攻撃から

39 そこでレーマン人は、味方が大勢殺されたことでおびえ、とうとうシドン川の方へ逃げ始めた。

40 そして彼らは、リーハイと彼の兵たちに追撃され、リーハイによつてシドンの水の中に追い込まれて、シドンの水を渡つた。しかしリーハイは、軍隊をシドン川の岸にとどめ、彼らには川を渡らせなかつた。

41 そして、モロナイと彼の軍隊がシドン川の対岸の谷でレーマン人を迎へ、攻めかかつて彼らを殺し始めた。

42 そこでレーマン人は、再び彼らの前から逃げ出しあ、マンタイの地へ向かつた。ところが、またしてもモロナイの軍隊に出会つてしまつた。

43 するところの度は、レーマン人も激しく戦つた。レーマン人はいまだかつて知られていないほど、すなわち、両者の戦争が始まつて以来一度もなかつたほど、非常に大きな力と勇気を奮つて戦つた。

44 彼らは自分たちの連隊長であり指揮官であるゾーラム人とアマレカイ人、および総隊長すなわち総指揮官であり司令官であるゼラヘムナに励まされた。まことに、彼らは龍のように戦い、多くのニーファイ人が彼らの手によつて殺された。まことには、彼らはニーファイ人のかぶとをたくさん打ち割り、ニーファイ人の胸当てをたくさん刺し貫き、二つのアイ人の腕をたくさん切り落とした。このようにレーマン人は激しく怒つて打ちかかつた。

45 しかし、ニーファイ人はもつと良い動機に励まされていた。彼らは君主制のために戦つたのではなく、権力のためでもなく、自分たちの家と自由と、妻子と、自分たちのすべてのもののために、特に礼拝の儀式と教会のために戦つていた。

46 彼らは、神に義務を負つていると感じていたことを行つていたのである。主は彼らに、また彼らの先祖に、「あなたがたは最初の攻撃についても、二度目の攻撃についても、罪を犯していないから、敵の手によつて殺されるに任せたはならぬ」と言われたからである。

47 主はまた、「あなたがたは血を流しても自分たつて集まつた。

48 さて、モロナイの兵たちは、レーマン人の勇猛ぶりと怒りを見ると、恐れをなして逃げ出そうとした。しかしモロナイは、兵たちの思いを見抜くと、使者を出し、次のこと、すなわち自分たちの土地と自由のこと、まことに奴隸の状態に陥るのを免れることを思い出させて、彼らの心を奮い立たせた。

49 そこで彼らは、レーマン人の方に向き直り、声を合わせて主なる神に、自由を保ち、奴隸の状態に陥るのを免れることができるよう呼び求めた。

50 そして彼らは、力を得てレーマン人に立ち向かつた。すると、彼らが主に自由を叫び求めるとき同時にレーマン人は彼らの前から逃げ始め、シドンの水際まで退いた。

51 レーマン人はニーファイ人よりも多く、まことに倍以上の人數であつたにもかかわらず、彼らは追いやられて、その谷でシドン川の岸に一団とな

49 47	46 45 44
モサ ^① 出 ^② 教 ^③ 義 ^④ アル ^⑤ GS GS 「自由」	① ② ③ ④ ⑤
29 2 13 ¹ 33 48 23 3 21	教義アル ⁴⁴ 44 43 5 6
20 2 11 36 14 24	義理 ⁹⁸ 3 二 ² 3 21
23 11 25	務 ⁴⁸ 23 3 21

52 そこで、モロナイの軍隊は彼らを包囲した。すな
わち、川の両側から包囲する形になつた。見よ、東
側にはリーハイの兵たちがいたからである。

53 ゼラヘムナはシドン川の東にいるリーハイの兵
とシドン川の西にいるモロナイの軍隊を見て、自分
たちが二ーファイ人に包囲されているのを知り、彼
らは恐れおののいた。

54 モロナイは彼らが恐れているのを見て、血を流
すのをやめるように兵に命じた。

第 44 章
モロナイ、平和の誓いを立てるようにレーマン人に命
じ、そうしなければ滅びると警告する。ゼラヘムナ、そ
の申し出を拒絶し、戦いが続く。モロナイの軍隊、レ
マン人を打ち負かす。紀元前約七十四年から七十三年に
至る。

1さて、モロナイの兵は戦うのをやめて、レーマン人から一歩退いた。そこで、モロナイはゼラヘムナに言った。「見よ、ゼラヘムナよ、我々は血を流す者にはなりたくない。おまえたちにも分かる

2見よ、我々がおまえたちと戦うためにやつて来たのは、おまえたちの血を流して権力を得るためでは決してない。また、だれかに奴隸のくびきをかけたいと思つてているためでもない。しかし、おまえたちが我々を攻めて来たのは、まさにこのためである。そのうえ、おまえたちは我々の宗教のことでの我々に腹を立てていてる。

3しかし、おまえたちの見るとおり、主は我々とともにおられる。おまえたちの見るとおり、主はおまえたちを我々の手に渡された。主が我々にこうしてくださつたのは、我々の宗教とキリストを信じる我々の信仰のためであることを知つてもらいたい。また、おまえたちの見るとおり、おまえたちはこの我々の信仰を打ち碎くことはできない。

4おまえたちの見るとおり、これは神のまことの信仰である。まことに、おまえたちの見るとおり、我々が神と自分の信仰と宗教に忠実であるかぎり、神は我々を支え保ち守つてくださる。また、我々が戒めに背いて自分の信仰を否定するよ

うなことがなければ、主は我々が滅ぼされるのを決してそのままにしておかれない。

5 ゼラヘムナよ、我々の腕を強くしておまえたちを打ち負かす力を得させてくださつたあの全能の神の御名によつて、また我々の信仰、宗教、礼拝の儀式、教会にかけて、妻子を養う神聖な務めにかけて、我々の国土にあいぢやく愛着を起させることば葉を守る行為にかけて、また我々にとつて非常に大切なすべてのものにかけて、わたしはおまえに命じる。

6 それだけではない。おまえたちが生き延びたいと思つてゐる望みにかけて、おまえに命じる。我々に武器を引き渡せ。そうすれば、我々はおまえたちの血を求めない。もしおまえたちが去つて、再び攻めて来ないといふのであれば、命を助けてやろう。

8 さて、ゼラヘムナはこれらの言葉を聞くと、前に進み出て、剣と三日月刀と弓をモロナイの手に渡して言つた。「見よ、我々の武器はこのとおりおまえたちに渡そう。しかし、将来我々も子孫も破ると分かつて誓いについては、これをおまえたちに立てる事はできない。だが、武器を受け取り、我々を荒れ野へ去らせてくれ。さもなければ、我々は自分の剣を渡さずに、滅びるか勝利を得るか決するまで戦い続ける。」

9 見よ、我々は、おまえたちと同じ信仰を持つてはいない。神が我々をおまえたちの手に渡したなどとは信じない。我々は、おまえたちを我々の剣から守つたのはおまえたちの悪知恵であると思つてゐる。見よ、おまえたちを守つたのは胸當てと盾だ。」

10 ゼラヘムナがこれらのことばを語り終えると、モロナイは受け取つた剣と武器をゼラヘムナに返して言つた。「さあ、戦いの決着をつけよう。」

11 わたしはすでに語つた言葉を取り消すことができないので、主が生きておられるように、二度と

我々のものに戻つて来て戦わないと誓つて去るのでなければ、おまえたちを去らせるわけにはいかない。おまえたちは我々の手の中にあるので、我々はおまえたちの血を地上に流そう。それが嫌ならば、おまえたちはわたしの告げた条件に従え。」

12 モロナイがこれらの言葉を述べると、ゼラヘムナは剣を取つた。そして、モロナイのことを怒り、モロナイを殺そうとして駆け寄つた。しかし、ゼラヘムナが剣を振り上げたとき、見よ、モロナイの兵の一人がそれを地にたたき落とした。すると、それは柄のところで折れしまつた。その兵はまた、ゼラヘムナを打つて彼の頭の皮をはぎ、それを地に落とした。そこでゼラヘムナは、自分の兵の中に逃げ込んでもしまつた。

13 そして、傍らに立つていたゼラヘムナの頭の皮をはぎ取つた兵は、その頭皮を、髪をつかんで地から拾い上げ、剣の先に引つかけてレーマン人の方に差し伸べ、大声で彼らに言つた。
14 「おまえたちが武器を引き渡して平和の誓いを立てて去らなければ、おまえたちの指揮官のこの頭の皮が地に落ちたように、おまえたちも地に倒れる

ことになるだろう。」

15 レーマン人はこの言葉を聞き、剣にかけられてる頭の皮を見て、多くの者が恐れをなした。そして、多くの者が進み出て、モロナイの足もとに武器を投げ出し、平和の誓いを立てた。そして、誓いを立てた者は皆、荒れ野へ立ち去ることを許された。

16 そこで、ゼラヘムナは非常に怒り、残つた兵たちをそそのかして怒らせ、前よりもさらに激しくニーフアイ人と戦わせた。

17 そして、モロナイもレーマン人が強情であることを怒つて、彼らを攻めて殺すように民に命じた。そこで、彼の民はレーマン人を殺し始め、レーマン人も剣を振るい、力を尽くして応戦した。

18 しかし見よ、レーマン人は、むき出しの肌と覆いのない頭をニーフアイ人の鋭い剣にさらしており、まことに見よ、彼らは刺し貫かれ、討たれて、ニーフアイ人の剣の前で見る間に倒れていた。そして、モロナイの兵が預言したように、彼らは一掃され始めた。

19 するとゼラヘムナは、彼らが皆殺しにされてし

まいそうなのを見て、モロナイに必死に叫び求め
て、残つた者の命を助けてくれるならば自分も部下
も二度と攻めて来ない」と誓うことを約束した。

20 そこでモロナイは、再び殺すのをやめさせ、レーマン人

一マン人から武器を取りあげた。こうしてレーマン人は、モロナイと平和の誓いを立てた後、荒れ

野へ立ち去ることを許された。

21 両軍の死者は多数に及んだために数えられなかつた。死者の数は二ーファイ人側でもレーマン人側でも非常に多かつた。

22 そこで彼らは死体をシンドンの水に投げ込み、死体は流れて行つて海の深みに葬られた。

23 その後、二ーファイ人の軍隊、すなわちモロナイの軍隊は引き揚げ、自分たちの家と土地へ帰つて行つた。

24 このようにして、二ーファイの民のさばきつかさの統治第十八年が終わつた。これで二ーファイの版に書き記されていたアルマの記録は終わつた。

ヒラマンの時代の二ーファイの民と、彼らの戦争

と不和についての話。ヒラマンが生涯書き続けた記録による。

次の第四十五—六十二章がそれに相当する。

第45章

ヒラマン、アルマの言葉を信じる。アルマ、二ーファイ人の滅亡を預言する。アルマ、地を祝福し、またのろう。アルマ、モーセのよつに御靈によつて取り上げられたと伝えられる。教会の中に不和が募る。紀元前約七十三年。

1さて見よ、主が再び敵の手から救つてくださつたので、二ーファイの民是非常に喜び、主なる神に感謝をささげた。そして、彼らは大いに断食し、大いに祈り、非常に大きな喜びをもつて神を礼拝した。

2さて、二ーファイの民のさばきつかさの統治第十九年に、アルマは息子ヒラマンのところに来て、「これまで書き継がれてきた記録についてあなたに語つた言葉を信じるか」と彼に言つた。

2 1	①	GS	「断食」
50	①	アル	「断食」
38	37	1-5	

20 19	①	アル	62 47
		6	17

3 そこで、ヒラマンは、「はい、信じています」と言つた。

4 すると、アルマはまた、「将来来られるイエス・キリストを信じるか」と言つた。

5 そこで彼は、「はい。お父さんの言つた言葉をすべて信じています」と言つた。

6 すると、アルマはまた彼に、「あなたはわたしの命じてきることを守るか」と言つた。

7 そこで彼は、「はい。命じられたことを、わたしは心を尽くして守ります」と言つた。

8 すると、アルマは彼に言つた。「あなたは幸いだ。主はあなたをこの地で栄えさせてくださるであろう。

9 見よ、あなたに預言しておくことが少しある。しかし、わたしがあなたに預言することを公にし

てはならない。まことに、わたしがあなたに預言めなさい。

10 その言葉は次のとおりである。見よ、わたしは自分内にある啓示の靈によつて知つている。この

民、ニーフアイ人は、イエス・キリストがこの民に御自身を現されるときから四百年たつと不信仰に陥る。

11 そのときに彼らは戦争と疫病、まことに、飢饉と流血を目にし、ついにニーフアイの民は全滅するであろう。

12 これは、彼らが不信仰になり、また闇の業と好色とすべての罪悪に陥るからである。わたしはあなたに言う。彼らが非常に大きな光と知識に対して罪を犯すからである。まことに、言つておくが、その日から第四世代の人々が全員世を去る前に、この大きな罪悪が起ころうであろう。

13 その大いなる日が来ると、見よ、今いる者たち、今ニーフアイの民の中に数えられている者たちの子孫がもはやニーフアイの民の中に数えられない時がすぐに入れる。

14 そのときに生き残つて、大いなる恐るべき日に滅ぼされない者は、主の弟子と呼ばれる少数の者を除いて、皆レーマン人の中に数えられ、レーマン人のようになる。しかも、主の弟子と呼ばれる者たちもレーマン人に追われ、ついに彼らも絶えて

14	13	12	11	10	9	8
①	①	GS	①	アル	①	①
モロ	モロ	「欲望」	ジエロ	48	ニフ	従順
9	8	モル	1	15	4	GS「戒め（神の）」
24	13	8	10	16	14	
1	9	6	7	25	12	
3	7	3	6	15	10	
			1	15	15	
			1	15	15	

しまう。罪惡のために、将来この預言は成就するであろう。』

15 さて、アルマはヒラマンにこれらのこととを述べた後、彼を祝福し、ほかの息子たちをも祝福し、さらに義人のために地をも祝福した。

16 そして、アルマは言つた。「主なる神は言われる。『地は、まことにこの地は悪く行うあらゆる国民、部族、國語の民、民族に對してのろわれる。悪が完全に熟すとき、彼らは滅びるであろう。』必ずわたしが言つたようになる。これは神が地に下されたのろいであり、祝福だからである。主はほんのわずかでも、罪を見過ごしにされることはないからである。』

17 アルマはこれらの言葉を語り終えると、教員を、すなわちそのときから後信仰にしつかりと立つすべての人を祝福した。

18 そして、アルマはこれを済ませると、ミレクの地へ向かうようにゼラヘムラの地を出て行つた。ところがそれ以降、彼の消息は絶えてしまつた。彼の死や埋葬についてわたしたちは知らない。

19 見よ、わたしたちが知つてゐるのは、彼が義ぎ

人であつたということである。また、彼は御靈によつて取り上げられた、すなわち、モーセのように主の手によつて葬られたという説が教員の間に広まつた。しかし見よ、聖文には主がモーセを御自分分のもとに受け入れられたと述べられてゐるのでもとに受け入れられたと考えてゐる。このために、わたしたちは彼の死と埋葬について何も知らないのである。

20 さて、二ーファイの民のさばきつかさの統治第十九年の初めに、ヒラマンは御言葉を告げ知らせるために民の中に出で行つた。

21 見よ、レーマン人と戦争のため、また民の中にあつた多くの小さな不和と騒動のために、神の言葉を民の中へ告げ知らせることと、教会全体にわたつて統一を図ることが必要になつたからである。

22 そこで、ヒラマンと彼の同僚たちは、すべての地に、すなわち二ーファイの民が所有している全地のすべての町に再び教会を設けるために出で行つた。そして彼らは、全地の至る所でそれぞれの

21	19	17	16
①た人	①GS	①トの教会	①アル
アル	31	「身を変えられ	46 10 62 40

教会をつかさどる祭司と教師を任命した。

23 そして、ヒラマンと彼の同僚たちがそれぞれの教会をつかさどる祭司と教師を任命した後、教員の中に不和が起り、彼らはヒラマンと彼の同僚たちの言葉を心に留めようとしなくなつた。

24 彼らは非常に豊かに富を持つようになつたために、心の中で高ぶり、次第に高慢になつた。そのたまに、彼らはますます富に目を向けるようになり、また、神の前をまつすぐ歩むようによつて、ヒラマンとその同僚たちの言葉を心に留めようとしなくなつた。

第46章

アマリキヤ、王になろうとたくらむ。モロナイ、自由の旗を掲げる。モロナイ、宗教を守るために民を呼び集める。まことの信者はクリスチヤンと呼ばれる。ヨセフの残りの者が守り残される。アマリキヤと離反者たち、二ーファイの地へ逃げる。自由の大義を支持しようとしない者たちは死刑に処せられる。紀元前約七十三年から七十二年に至る。

1さて、ヒラマンと彼の同僚たちの言葉に聞き従おうとしない者たちは皆、同胞に对抗するためにはつ集まつた。

2 そして見よ、彼らはひどく怒つて、同胞を殺そと決意した。

3 このように同胞に對して怒つた者たちの首謀者は、大きな強い男で、その名をアマリキヤといつた。

4 アマリキヤは王になることを望んでおり、また、怒りを抱いた者たちも、彼が王になることを願つた。これらの者たちはその大半が國の下級さばきつかさであり、権力を得ようとしていた。

5 彼らは、もし自分を支持して王に立ててくれれば民の指導者にしようという、アマリキヤの甘言に乗つたのである。

6 このようにして、ヒラマンと彼の同僚たちが教えを説いたにもかかわらず、また、教会をつかさどる大祭司であつた彼らの、教会に対する非常に深い配慮があつたにもかかわらず、これらの者たちはアマリキヤに惑わされて離反してしまつた。

7 そして、アマリキヤのへつらいの言葉を信じた

ものが教会の中に大勢おり、彼らは教会から離反してしまつた。

二ーファイの民はレーマン人に對して大勝利を認め、主の手によつて解放されたこと大きな喜びを得たにもかかわらず、このように彼らの状態は非常に不安定で危険であつた。

8 以上のことから、人の子らが主なる神を忘れるのがどれほど早く、また罪悪を行ふことや悪しき者に惑わされることがどれほど早いかが分かる。9 さらに、一人の非常に悪い人間が、人の子らの中に大きな悪事を引き起こす原因になることがあるといふことも分かる。

10 また、わたしたちの知つてゐるよう、アマリ

キヤは狡猾な策略に通じた男であり、多くのへつらいの言葉に長じた男であつたので、多くの人の心を惑わして悪いことを行わせ、また神の教会を滅ぼさせようとし、さらに神が二ーファイ人に与えられた自由の基、すなわち神が義人のために地の面に送られた祝福である自由の基を損なわせようとした。

11 さて、二ーファイ人の軍隊の総司令官であつたモロナイは、これらの離反について聞き、アマリキ

ヤのことを怒つた。

12 そして、自分の衣を裂いて、その一片を取り、それに「我々の神と宗教、自由、平和、妻子のために」と書いて、竿の先にしつかりとくくり付けた。

13 それから、彼は自分のかぶとと胸當てと盾をしつかりと身に着け、よろいを腰にまとい、先端に裂いた衣を付けた竿を取つて（彼はそれを自由の旗と呼んだ）、地にひれ伏し、そしてクリスチヤンの一団が残つてその地を所有してゐるかぎり、自分が同胞の自由の祝福をとどめてくださるようとに、熱烈に神に祈つた。

14 教会に属してゐる人々は忠実であつた。キリストのまことの信者は皆、教会に属していない者たちからクリスチヤンと呼ばれていた。

15 教会に属してゐる人々は忠実であつた。キリストのまことの信者であつた人々は皆、将来来られるキリストを信じていたので、呼ばれるままにキリストの名、すなわちクリスチヤンという名を喜んで受けた。

16 したがつて、このときモロナイは、クリスチヤ

15	12 11	10 9	8 7
1 ② ②	モサ 29	モサ 29	モサ 12 44
ペテ 44	アル 43	ニフ 2	アル 29
使徒 11	ネヘ 32	ニフ 1	19
26	モサ 5	7	7
16	14 16	7	18
	17	7	4
	9		20
			5

ンの大義と國の自由に神の恵みがあるようにと祈つたのであつた。

17さて、彼はその心を神に注ぎ出してから、デソレシヨンの地の南の全地を、要するに、北方も南方も含めた全地を、選ばれた地、自由の地と名付けた。

18そして、彼は言つた。「わたしたちはキリストの御名を受けているためにさげすまれるが、わたしたちが自分の背きによつて自分の身に災いを招くまでは、決して神はわたしたちが踏みにじられ、滅ぼされるのをお許しにならない。」

19モロナイはこの言葉を述べてから、民の中に出て行き、裂いた衣の一片に書いた文字がすべての人々に見えるように、その裂いた衣を空中で打ち振り、大声で叫んで言つた。

20「見よ、この地にこの旗を立てて守ろうとする者たちは皆、主の力をもつて出て来なさい。そして、主なる神から祝福を頂けるように、自分たちの権利と宗教を守るという聖約を交わそうではないか。」

21さて、モロナイがこの言葉を宣言したところ、

見よ、人々は腰によろいをまとつて走つてやつて來て、主なる神を捨てないしとして、すなわち聖約として自分たちの衣を裂いた。言い換えれば、もし神の戒めに背くならば、すなわち律法に背いてキリストの名を受けるのを恥とするならば、自分たちが衣を裂いたように、主が自分たちを裂かれてもよいということであつた。

22これが彼らの交わした聖約である。そして彼らは、自分たちの衣をモロナイの足もとに投げ出して言つた。「わたしたちは神と聖約します。わたしたちはもし戒めに背くならば、北方の地の同胞のようにならば、わたしたちが衣をあなたの足もとに投げ出し、踏みつけられるに任せられるように、神がわたしたちを敵の足もとに投げ出されますよう。」

23そこでモロナイは、彼らに言つた。「見よ、わたしたちはヤコブの子孫の残りの者である。また、わたしたちは兄弟に衣をはずたずに裂かれた、ヨセフの子孫の残りの者である。見よ、わたしたちは神の戒めを守るのを忘れないようにしよう。さもなければ、わたしたちの衣は同胞によつて裂か

23 1 ニフ 5 14 26、	21 モル 8 37 3, 31 28,	19 GS 37 3, 31 28,	17 アル 22 30 31
(3) 創世記 49 22 15 26、	(1) モルモ 8 38 8 25 28, (2) GS 3 31 28, 「ヨセフ の皇子」 (ヤコ 36		

れ、わたしたちは牢に入れるであろう。ある
いは売られたり、殺されたりするであろう。
24 わたしたちはヨセフの残りの者として自由を保
とう。ヤコブが死ぬ前に語った言葉を覚えておこ
う。見よ、ヤコブはヨセフの衣の切れ端が保存さ
れており、朽ちていないので見て言つた。『息子の
衣のこの切れ端が保存されてきたように、息子の
子孫の一部の者は神の御手によつて守られ、神御
自身のみもとに受け入れられるであろう。しかし、
ヨセフの子孫の残りの者は、彼の衣のほかの部分
のよう滅びてしまう。

25さて見よ、これはわたしにとつて悲しいことだ
が、息子の子孫の一部の者が神のみもとに受け入れ
られるので、わたしはその息子のために喜ぶ。』

26見よ、ヤコブはこのように語つた。

27ヨセフの衣のよう滅びてしまうヨセフの残り
の者はとは、わたしたちから離反した者たちではない
と、だれに分かるであろうか。わたしたちがキリスト
の信仰をもつてしつかりと立たなければ、それ
はわたしたち自身にさえ當てはまるであろう。』

28さて、モロナイはこれらの言葉を語り終えると

29さて、アマリキヤは、モロナイの民がアマリキ
ヤ人よりも多いのを見て、また自分の民が自分たち
の行つてきたことの正当性に疑いを抱いているの
を知ると、目的を達せられなくなるのを恐れて、そ
の民の中で行くことを望んだ者たちを連れてニーフ
アイの地へ向かつた。

30しかしモロナイは、レーマン人がこれ以上の兵力
を持つことは望ましくないと思つたので、アマリキヤの民の合流を阻むか、そうでなければ彼ら
を捕らえて連れ戻し、アマリキヤを殺してしまおう
と思つた。まことに、アマリキヤがレーマン人を扇
動してニーフアイ人に對して怒りを抱かせ、ニーフ
アイ人を攻めるように仕向けることを知つていたから
である。モロナイは、アマリキヤが自分の目的を
達するためにはどのようにするのを知つていた。

31そこでモロナイは、すでに集まつて武装し、平和を守るという聖約を交わしている自分の軍隊を

率いて行くのがよいと思つた。このようにして彼は、荒れ野でアマリキヤの進路を断つために、軍隊を率いて、天幕を携えて荒れ野に進軍した。

32 そして彼は、自分の望むままに行い、荒れ野に進軍し、アマリキヤの軍隊の前に立ちはだかつた。

33 そこでアマリキヤは、少數の兵とともに逃げ去つた。そして、残りの者たちはモロナイの手に引き渡されて、ゼラヘムラの地へ連れ戻された。

34 さて、モロナイは大さばきつかさたちと民の声によつて任命させていたので、二ーファイ人の

軍隊については自分の意のままにこれを組織することも、軍隊に対する権威を行使することもできる権限を持つていた。

35 そこでモロナイは、アマリキヤ人の中の、自由政体を守るために自由の大義を支持するという誓いを立てようとした者をすべて殺させた。しかし、自由の誓いを拒否した者はごくわずかであつた。

旗を掲げさせた。

37 そしてニーフアイ人は、再び國內に平和を保つようになつた。このようにして、彼らはさばきつかさの統治第十九年の終わりごろまで國內に平和を保つた。

38 また、ヒラマンと大祭司たちも、教会内の秩序を保つた。そして、四年の間、教会の中には大いに平安と喜びがあつた。

39 そして、死んだ人が大勢いたが、彼らは主イエス・キリストによつて贖われることを固く信じていたので、喜びながらこの世を去つた。

40 またある季節になると、この地によく熱病が起つたので、それにかかるて死んだ人々もいた。しかし、熱病で死んだ人はそれほど多くはなかつた。多くの草根本木皮の効能が著しかつたからである。これらの草根本木皮は、特有な気候の下で人がかかりやすい病気を原因から取り除くために、神が用意してくれたものであつた。

41 さらに、老人で死んだ人も多かつた。キリストを信じながら死んだ人々は、今キリストにあつて幸いを得ていると確信できる。

第47章

アマリキヤ、裏切りと殺人と陰謀によつてレーマン人じんの王おうとなる。ニーファイ人の離反者りはんしゃたち、レーマン人じんよりも邪惡で残忍な者じやくよでさんじんとなる。紀元前約七十二年。

1さて、アマリキヤおよび彼かれとともに荒れ野あらのへ逃にげて行つた者ものたちの記録きろくに戻もどる。見みよ、アマリキヤは、自分に従じう者ものたちを連れてニーファイの地ちへ上のぼつて行き、レーマン人じんの中に行つて、レーマン人じんを扇動せんどうしてニーファイの民みんに対たいして怒いからせた。そのため、レーマン人じんの王おうは國中こくちゆう至いたる所ところに、すなわち自分のすべての民みんの中に、ニーファイ人との戦たたかいに出でるためもう一度集あつまるようにといふ布告ふこくを出した。

2そして、その布告ふこくが彼らかれの中なかに出だされると、彼らかれはひどく恐おそれた。王おうの気持ちを損そきねるのを恐おそるとともに、ニーファイ人との戦たたかうことになるのではないかと恐おそれたので、命いのちを失うしなることにならないのではないかと恐おそれたので、あつた。そこで彼らかれは、正確に言いえば彼らかれの大半たいはんは、王おうの命令めいれいに従じおうとした。3そして王おうは、彼らかれが従じおうとしないので怒いかつ

た。そして王おうは、自分の軍隊ぐんたいの中なかの、命令めいれいに従順じゅうじゅんな者ものたちに対する指揮權しきけんをアマリキヤに与あたえ、行おこなつて強制的きょうせいてきに彼らかれに武器ぶぎを取とらせるように彼かれに命めいじた。

4さて見みよ、これはアマリキヤの願ねがつていたことであつた。アマリキヤは悪あくを行おこなうのに非常に巧ひじょうみな男おとこであつたので、レーマン人じんの王おうを王位おういから退しりぞける計画きかくを心こころの中で練ねんついていた。

5彼かれはレーマン人じんの、王おうを支持しする者ものたちに対する指揮權しきけんを得たので、次つぎに、従じわない者ものたちの歎心かんしんを買かおうとした。そこで彼かれは、オナイダじんと呼ばはれている所ところへ進すすんで行たつた。レーマン人は皆みな、そこへ逃にげていたからである。彼らかれは軍隊ぐんたいがやつて来るのを知しると、自分たちを滅ほろぼすために来たのだと思おもい、オナイダ、すなわち武器ぶぎの場所じょうしょへ逃にげたのである。

6そして彼らかれは、ニーファイ人との戦たたかわされることのないようにしようと固かたく決意けついしていたので、一人の男おとこを任命にんめいして自分たちを治おさめる王おうとし、また指揮官しきかんとしていた。

7そして彼らかれは、戦たたかう準備じゅんびをして、アンテバスと

呼ばれている山の頂上に集まつていた。

8 ところで、王の命令に従つて彼らと戦うことは、アマリキヤの本意ではなかつた。しかし見よ、彼の目的はレーマン人の軍隊の歎心を買い、自分が彼らの長の地位に就き、王を退位させて、自分が王位を手に入ることであつた。

9 見よ、そこで彼らは、自分の軍隊にアンテパス山に近い谷で天幕を張らせた。

10 そして夜になると、彼らは密使をアンテパス山に派遣し、その名をレホンタイといふ、山上にいる者たちの指揮官に、会談したいので山のふもとに下りて来るよう求めた。

11 さて、レホンタイはその伝言を受けても、山のふもとに下りて来ようとはしなかつた。そこでアマリキヤは再度伝言を送つて、下りて来るよう命じて来た。それでもレホンタイは下りて来ようとしなかつた。そこで彼らは、三度目の伝言を送つた。

12 さて、アマリキヤは、レホンタイを山から下りて来させることができないのを知ると、自分から山を登つて行き、レホンタイの宿営の近くまで行つた。そして彼は、四度目の伝言をレホンタイに送

り、下りて来るよう、また衛兵を連れて来るよう命じた。

13 そして、レホンタイが衛兵とともにアマリキヤのところに下りて来たとき、アマリキヤは彼に、夜の間に軍隊を率いて下りて来て、王が自分に指揮権を与えてくれた宿営中の兵を包围するように求めた。また、もしレホンタイが自分（アマリキヤ）を全軍の副指揮官にしてくれるならば、その兵を

レホンタイの手に引き渡してもいいと言つた。

14 そこでレホンタイは、兵を率いて下りて来て、アマリキヤの兵を包围した。このようにアマリキヤの兵は、夜が明けて目を覚ます前にレホンタイの軍隊に包围されたのであつた。

15 さて、アマリキヤの兵は、自分たちが包围されているのを見ると、滅ぼされることのないように同胞に合流させてもらいたいとアマリキヤに懇願した。これはまさにアマリキヤが願つていたことであった。

16 そこで彼は、王の命令に背いて兵を引き渡した。これは王を退位させるという企てを成し遂げるために、アマリキヤが願つていたことであつた。

ところで、レーマンの中では、総指揮官がこの役をなめらかにこなす。されることは、副指揮官を総指揮官に任命するということが習わしであつた。

18 そこでアマリキヤは、部下の一人を使つて、少しづつレホンタイに毒を盛らせた。そのために彼は死んでしまつた。

19 さて、レホンタイが死ぬと、レーマン人はアマ
リキヤを自分たちの指揮官、自分たちの総司令官に任命した。

20 そして、アマリキヤは（自分の）望みを達したので、軍隊を率いてニーフアイの地へ、すなわち首府

である二ーフアイの町へ向かつた。
21 すると王は、衛兵を伴い、彼を迎えるために出でて来た。王は、アマリキヤが自分の命令を果たし、

二ーファイアに向かつて戦いに出るために、これほどの大軍を集めてきたのだと思つたからである。ところが見よ、王が迎えようとして出て来る

と、アマリキヤは部下を先に行かせて王を迎えさせた。彼の部下は王の前に出ると、王が偉大であるために王を敬うかのように王の前にひれ伏した。

23 そこで王は、手を差し伸べて彼らを立たせよう

とした。そうすることがレーマン人の習わしであり、平和のしるしであつた。彼らはこの習わしを

二ーファイ人から取り入れたのであつた。
み 24 そして、王が最初の者を地から立たせたとき、
見よ、その男は王の心臓を突き刺したので、王は

地に倒れた

25 これを見て、王の僕たちは逃げ出した。
アマリキヤの部下たちは叫んだ。
26 「見よ、王の僕たちが王の心臓を突き刺さ
倒して逃げた。さあ、来て確かめてみよ。」

そこで、アマリキヤは自分の兵に、行つて、王に何事が起つたのか見るよう命じた。そして、彼らがその場に着いて、血まみれになつて倒れている王を見つけたとき、アマリキヤは怒つたふり

をして、「王を愛していいた者は皆
ちを追いかけて殺せ」と言つた。
そこで、王を愛していいた者た

29 王の僕たちは軍隊が自分たちを追つて来るのを見くと、王の僕たちの後を追いかけた。

て、ゼラヘムラの地ちへ行いつて、^①アンモンの民たみに加くわ

わつた。
一方、彼らを追いかけた軍隊は、追跡が無駄に終わつて戻つて來た。このようにして、アマリキヤは欺瞞によつて民の信用を得た。

31 そして、その翌日、彼らは軍隊を率いてニーフア
イの町に入り、町を支配下に置いた。

32 さて、王妃は王が殺されたことを聞くと——
うのは、アマリキヤはすでに使者を遣わして、王おう
が王妃たちによつて殺されたことと、自分が軍
隊を率いて彼らを追いかけたが、そのかいがなく彼ら
らを取り逃がしてしまつたことを、王妃に知らせ
ておいたからである——

おうひ

33 したがつて、王妃はこの知らせを受けると、アマリキヤに使者を送つて、その町の民の命を助けてくれるよう求めた。また王妃は、彼に自分のもとへ来てほしいと伝え、さらに王の死について立証する証人たちを一緒に連れて来てほしいと告げた。

34 そこでアマリキヤは、王を殺したその部下、おび王妃の座している所へ入つて行つた。そして、彼らは皆、王が王自身の僕たちによつて殺されたことを

王妃に証言し、また、「彼らは逃げました。このことは彼らに対する証拠にならないでしようか」と言つた。このようにして、彼らは王の死について王妃の問いに十分に答えたのであつた。

35 そして、アマリキヤは王妃の歓心を買うように努め、王妃を妻にした。このようにして、彼は欺瞞により、また悪賢い部下たちの助けによつて王位を得、全地の至る所で、レーマン人のすべての民の中へ王と認められた。このレーマン人の民は、レーマン人とレムエル人、イシマエル人、それに二レーファイの統治からその当時に至るまでのニーフアイ人のすべての離反者から成つていた。

36 これらの離反者たちは、ニーファイ人と同じ教えと同じ知識を得ていていた。また、同じように主について知る教えを受けけていた。にもかかわらず、不思議な話であるが、離反後間もなく、レーマン人も野蛮で邪悪、残忍な者となつてしまい、レーマン人の言い伝えを受け入れ、怠惰やあらゆる好色に身を任せ、主なる神をすっかり忘れてしまつたのである。

第48章

アマリキヤ、レーマン人を扇動してニーファイ人に反感を抱かせる。モロナイ、クリスチャンの大義を守るために民を備える。モロナイは自由と解放を喜ぶ偉大な神の人である。紀元前約七十二年。

1さて、アマリキヤは王位を得るやいなや、二ノファイの民に反感を抱くようレーマン人の心をあおり始めた。彼は幾人かの者たちを任じて、方々の塔からレーマン人に向かつてニーファイ人の悪口を言わせた。

2このようにして、彼はニーファイ人に反感を抱くようにながらの心をあおつた。そして、さばきつかさの統治十九年の末に、彼はそれまで自分の企てを成し遂げていたので、すなわちすでにレーファイ人を分配しようとした。

3彼はレーマン人の心をかたくなし、思いをくらまし、彼らの怒りをかき立てるのに成功して、自分の企てを成し遂げたので、ニーファイ人に對

して戦いで出て行くために大軍を召集した。

4彼は自分の民がおびただしい数であつたので、ニーファイ人を打ち負かして奴隸にしようと決意した。

5そのため彼は、ゾーラム人の中から連隊長を任命した。ゾーラム人がニーファイ人の戦う力と、彼らが身を隠す場所と、方々の町の最も弱い箇所を最もよく知つていたので、軍隊の連隊長に任命したのであつた。

6そして彼らは、それぞれ軍隊を率いて、ゼラヘムラの地を指して荒れ野の中を進んだ。

7さて、アマリキヤがこのように欺瞞と偽りによつて権力を手に入れていた間、一方でモロナイは、主なる神に忠実であるように民の心を備えさせていた。

8また彼は、ニーファイ人の軍隊を強化し、小さいとりで、すなわち身を隠す場所を幾つも築き、軍隊を囲む土手を作り、また軍隊を囲む石垣も築いて、ニーファイ人の方々の町と方々の地の境、まことに国周囲一帯を囲つた。

9また彼は、防御の最も弱いとりでにさらに多く

の兵を配備した。このようにして彼は、ニーフアイ人の所有する地の防備を固め、強化した。

10 このように彼は、ニーフアイ人の自由と土地、妻子、和平を維持する備えをして、彼らが主なる神のために生きることができるよう、また敵からクリスチヤンの大義と呼ばれているものを保つことができるようとした。

11 モロナイスは屈強で勢いのある人であり、完全な理解力を備えた人であり、また流血を喜ばない人であつた。そして、自分の国が自由であり、同胞が束縛や奴隸の状態にないことを喜びとした人であつた。

12 まことに彼は、神が民に授けてくださつた多くの特權と祝福について、神への感謝で胸をいっぱいにした人であり、民の幸いと安全のために大いに働いた人であつた。

13 また彼は、確固としてキリストを信じた人であり、血を流しても、自分の民と、自分の権利と、自分の國と、自分の宗教を守るに固く誓つていた。

14 ニーフアイ人は、必要であれば血を流してでも敵に対して自衛するように教えられていた。さら

に、自分から危害を加えないように、また敵に立ち向かうのでなければ、すなわち自分の命を守るためにでなければ、決して剣を振り上げないようにとも教えられていた。

15 そのようにすれば、神は自分たちをこの地で栄えさせてくださると、彼らは信じていた。言い換えれば、神の戒めを忠実に守るならば、神は自分たちをこの地で栄えさせてくださり、また自分たちの直面する危険に応じて、逃れるように、あるいは戦争の準備をするように警告してくださると、彼らは信じていた。

16 また、神は敵を防ぐためにどこへ行けばよいかを自分たちに知らせてくださり、そのとおりにすれば主は自分たちを救つてくださることも、彼らは信じていた。これはモロナイスが信じていたことであり、彼は心の中でそのことに誇りを感じていた。すなわち、血を流すことではなく、善を行うこと、民を守ること、神の戒めを守ること、罪惡に立ち向かうことに誇りを感じていた。

17 まことに、まことに、わたしはあなたがたに言う。もし過去、現在、未来のすべての人々がモロナイ

16	14	13	12	11	10
①	①	①	①	①	①
教義	アル	アル	アル	アル	アル
98	3	43	46	20	「理解」
・	3	3	3	3	12
モル	16	10	20	11	13
3	3	21	21	47	22
アル	55	19	19	19	19

のようであれば、見よ、地獄の力でさえもとこしえにくじかれてしまい、また悪魔は決して人の子らの心を支配する力を持たないであろう。

18 見よ、モロナ이는、モーサヤの息子アンモンや、モーサヤのほかの息子たち、またアルマとアルマの息子たちのような人であつた。彼らは皆、神の人であつたからである。

19さて見よ、ヒラマンと彼の同僚たちも、モロナイに劣らず民のためによく働いた。彼らは神の福音を宣べ伝え、また彼らの言葉を聴くすべての人々に悔い改めのためのバプテスマを施した。

20 そのために彼らは出て行つた。そして人々は、彼らの言葉のために謙遜になつたので、主から豊かに恵みを授けられた。したがつて四年の間に、二つアライ人の中には戦争も争いもなかつた。

21しかし、前に述べたように、第十九年の末に、二つアライ人の中は平和であつたにもかかわらず、彼らは不本意ながら同胞のレーマン人と戦わざるを得なくなつた。

22要するに、まだ不本意ではあつたが、レーマン人との戦争が長年の間絶えなかつた。

23二つアライ人は血を流すことは喜ばなかつたので、レーマン人に對して武器を取るのをつらく思つた。それだけではない。神にお会いする用意ができるいない多くの同胞を、自分たちがこの世から永遠の世に送り込むことになるのをつらく思つた。

24それでも、彼らは命を捨てるわけにはいかなかつた。命を捨てれば、妻や子供たちが、かつて同胞であつた者たちの野蛮なむごい仕打ちによつて虐殺されることになるからである。その同胞は二つアライ人の教会から離反し、彼らのもとを去り、レーマン人に加わつて彼らを滅ぼそうとしていた。

25まことに二つアライ人は、神の戒めを守る者がいるかぎり、その同胞が二つアライ人の血を流すことなどを喜ぶのに耐えられなかつた。それは、主の戒めを守るかぎり二つアライ人はその地で榮えるであろうという、主の約束があつたからである。

第 49 章

侵攻して來たレーマン人は、防備を施したアモナイハの町とノアの町を攻略できない。アマリキヤ、神をの

ろい、モロナイトの血を飲むと誓う。ヒラマンと同僚たる、教会を強化し続ける。紀元前約七十二年。

1さて、第十九年の十一月十日に、レーマン人の軍隊がアモナイハの地に近づいて来るのが見えた。

2見よ、すでにその町は再建されており、モロナイトは町の境の近くに軍隊を配備していた。そして彼らは、レーマン人の矢と石を避けるために、周囲に土を盛り上げておいた。見よ、レーマン人は石と矢で戦つたからである。

3見よ、わたしはアモナイハの町が再建されたと述べたが、町は一部分再建されたと言ひ直そう。

レーマン人は、民の罪悪のためにその町がかつて滅ぼされたことがあるので、再びそこが容易に自分たちのえじきになるであろうと思つたのである。

4しかし見よ、彼らの期待は何と大きく外れたことか。見よ、ニーファイ人は自分たちの周囲に土手を築き上げており、それが非常に高かつたので、レーマン人はニーファイ人に石を投げても矢を射ても効果を上げることができず、また入り口からでなければ彼らを攻めることができなかつたのである。

5このとき、レーマン人の連隊長たちは、ニーフアイ人が防御の場所を備えるに当たつて知恵を働かせたことに非常に驚いた。

6レーマン人の指揮官たちは、自分たちの人数が非常に多かつたので、これまでと同じように当然ニーフアイ人を攻めることができると思つていた。また、レーマン人も盾と胸當てを装備し、さらに皮の衣、まことに裸を覆う非常に厚い衣を着ていた。

7このように装備を整えていたので、レーマン人は、自分たちの意のままに容易に同胞を打ち負かして、彼らに奴隸のくびきをかけることができる、そうでなければ彼らを殺し、虐殺できると思つていた。

8しかし見よ、まったく驚いたことに、ニーフアイ人はこれまでリーハイの子孫の中にまつたく知られていないかった方法で、レーマン人に対する備えをしていた。ニーフアイ人はモロナイトの指示に従つて、レーマン人と戦う備えをしていたのである。

9そして、レーマン人、いやアマリキヤ人はニーフアイ人の戦いの備え方に非常に驚いた。

10さて、もしアマリキヤ王が軍隊を率いてニーフ

アイの地から下つて來ていたら、恐らく彼はレーマン人にアモナイハの町でニーファイ人を攻撃させていたことであろう。見よ、彼は自分の民の血など気にもかけなかつたからである。

11 しかし見よ、アマリキヤ自身は戦うために下つて來てはいなかつた。見よ、彼の連隊長たちは、アモナイハの町であえてニーファイ人を攻撃しようとしなかつた。モロナイがニーファイ人の中の諸事の管理体制を変えていたからである。そのため、レーマン人はニーファイ人が避難する場所を設けていたことに期待を裏切られ、彼らを攻めることができなかつた。

12 そこで彼らは荒れ野へ退き、軍隊を率いてノアの地へ向かつて進軍した。そこがニーファイ人を攻める次の最適地だと思つたからである。

13 彼らはモロナイがすでに國中のすべての町で防備を固めていたこと、すなわち防衛のとりでを築いていたことを知らなかつた。そのため、彼らは固い決意をもつてノアの地へ進軍した。実際に、彼らの連隊長たちは前に進み出て、その町の民を滅ぼすと誓つたのであつた。

14 しかし見よ、驚いたことに、これまで弱い所であつたノアの町は、モロナイの働きによつて今や堅固になつており、アモナイハの町の堅固さをしのぐほどになつてゐた。

15 さて見よ、これはモロナイの知恵によるものであつた。モロナイは、彼らがアモナイハの町に驚くであろうと思ひ、またこれまでノアの町がその地でいちばん弱い所であつたので、彼らはそこへ進軍して戦おうとするであつうと思つたからである。そして、それは彼の望みどおりになつた。

16 見よ、すでにモロナイはリーハイを、その町の兵を指揮する司令官に任命していた。このリーハイはシンドン川の東の谷でレーマン人と戦つたあのリーハイである。

17 さて見よ、レーマン人はリーハイがその町で指揮を取つてることを知ると、またもや意氣消沈した。彼らはリーハイを非常に恐れていたのである。それでも、彼らの連隊長たちはその町を攻撃すると固く誓つていたので、それぞれの軍隊を率いて攻め寄せた。

18 見よ、周囲に築き上げられた土手は高く、堀は

深かつたので、レーマン人は入り口による以外、ほかの道からニーファイ人の防衛のとりでに入るることはできなかつた。

19 このように、ニーファイ人は入り口以外の所から石を投げつけ、矢を射て全員を殺してしまおうと備えをしていた。

20 また彼らは、ニーファイ人の中でも最も強い兵の一団を置いて、入り口からニーファイ人の防衛地に入つて来ようとするすべての者を、剣と石投げで打ち倒そうと待ち構えていた。このように彼らは、レーマン人にに対して自衛する備えをしていた。

21 さて、レーマン人の軍隊長たちは、それぞれの軍隊を入り口の前に率いて行き、ニーファイ人の防衛地に入ろうとしてニーファイ人と戦い始めた。しかし見よ、彼らは何度も撃退され、おびただしい数の死者を出した。

22 彼らはその通路でニーファイ人に勝てないことを知ると、次に、土手を掘り崩してニーファイ人の軍隊に近づく道を開き、対等に戦う機会を得ようとした。しかし見よ、その最中に彼らは石を投げつ

けられ、矢を射られて倒された。そのため、土手を掘り崩して堀を埋める代わりに、死者や負傷者が体で多少堀が埋められることになつた。

23 このように、ニーファイ人はあらゆる点で敵に勝つていた。また、このようにレーマン人は二十九人を滅ぼそうと試みたが、とうとう彼らの連隊長たちは全員殺されてしまつた。そして、千人を越えるレーマン人が殺された。一方、ニーフアイ人で殺された者はただの一人もいなかつた。

24 しかし、負傷者がおよそ五十人いた。それは通路でレーマン人の矢が当たつた者たちである。彼らは盾と胸當てとかぶとで保護されていたので、負傷した箇所は足で、その多くが重傷であつた。

25 さて、レーマン人は、連隊長たちが全員殺されたのを知ると、荒れ野へ逃げて行つた。そして彼らはニーファイの地へ引き返し、生まれはニーファイ人でありながら今は王となつてゐるアマリキヤに、自分たちの被つた大きな損害について報告した。

26 そこで彼は、自分の民をひどく怒つた。ニーフアイ人を支配するという望みを達せられず、ニーフアイ人に奴隸のくびきをかけることができなかつ

たからである。

27 まことに、彼はひどく怒り、神とモロナイをのろい、必ずモロナイの血を飲むと誓つた。それは、モロナイが神の命じられたことを守つて、民を保護する備えをしたからである。

28 さて一方、ニーフアイの民は、主がたぐいない力で自分たちを敵つてくださつたことを、主なる神に感謝した。

29 このようにして、ニーフアイの民のさばきつかさの統治第十九年が終わつた。

30 そして、彼らの中には引き続い平和があり、また彼らが神の言葉に注意を払い、勤勉であつたために、教会は非常に大きな繁栄を見た。神の言葉はヒラマンとシプロン、コリアントン、アンモン、彼の同僚たち、および悔い改めのためのバプテスマを受け神の聖なる位によつて聖任され、民の中で教えを説くよう遣わされたすべての人により、彼らに告げ知らされたのである。

める。ニーフアイ人、多くの新しい町を築く。ニーフアイ人が悪事と忌まわしい行いに陥つた時代には、戦争と滅ぼうがニーフアイ人に降りかかつた。モリアントンと彼に従う離反者たち、テアンクムに打ち負かされる。ニーフアイハが死んで、その息子パホーランがさばきつかさの職に就く。紀元前約七十二年から六十七年に至る。

1さて、モロナイは戦争の準備をし、レーマン人から民を守る準備を整えるのをやめなかつた。彼はさばきつかさの統治第二十年の初めに、軍隊に命じて、ニーフアイ人が所有していた全地の至る所ですべての町の周囲に土を盛り上げて土壘を築く作業を開始させた。

2 彼はまた、町を囲むこれらの土手の上に木材を、すなわち人の背丈ほどの高さの木材の建造物を築かせた。

3 そして、町を開むこれらの木材の建造物の上に、先端のとがつた杭で柵を造らせた。この杭は丈夫で、丈夫が高かつた。

4 また彼は、この柵を見下ろすやぐらを建てさせ、そのやぐらの上に防御の場所を造らせて、レ

マン人の石や矢がそこにいる人々に当たらないようにした。

5 また、ニーファイ人の兵たちは自分たちの思うままに、また力の及ぶかぎり、そのやぐらの上から石を投げつけ、町の防壁に近づこうとする者を殺せるように備えをした。

6 このように、モロナイは全地のすべての町の周囲にとりでを築いて、敵の来襲に備えた。

7 そしてモロナイは、軍隊を東の荒れ野に行かせた。そこで、彼らは出て行つて、東の荒れ野にいた。そこで、彼らは出て行つて、東の荒れ野にいた。

8 ニーファイの地は、東の海からまつすぐ西の海に及んでいた。

9 さて、モロナイは、彼らの所有地の北方にある東の荒れ野からすべてのレーマン人を追い払う

と、ゼラヘムラの地とその周辺の地に住む者たちを東の荒れ野に行かせ、海岸に近い地方までやつて、その地に住まわせた。

10 彼はまた、南方の彼らの領土の境に軍隊を配置して、軍隊と民が敵の手から守られるように幾つ

もの^①とりでを築かせた。

11 このようにして、彼は東の荒れ野のレーマン人のとりでをすべて断ち切り、また西の方でも同様にして、ニーファイ人とレーマン人の間の境界線は川の源の付近を走つていた。ニーファイ人はその北上をとりでで固めた。この境界線はゼラヘムラの地とニーファイの地の間にあり、西の海からシドン川の源の付近を走つていた。

12 このようにして、モロナイは自分の軍隊をもつて、すなわち、彼の働きによつて守りが与えられると確信して日々増え続ける軍隊をもつて、レーマン人の兵力と勢力をニーファイ人の所有地から断ち切り、レーマン人がニーファイ人の所有地でまったく権力を振るえなくしようと努めた。

13 そしてニーファイ人は、一つの町の建設を始め、その町の名をモロナイと呼んだ。それは東の海の近くで、レーマン人の領土の境界線に近い南の方にあつた。

14 彼らはまた、モロナイの町とアロンの町の間に、アロンの町の境とモロナイの町の境に接して一

つの町の建設を始めた。そして彼らは、その町の名、すなわちその地の名をニーファイハと呼んだ。

15 彼らはまた、同じ年に北の方で多くの町を築き始めた。その代表的なものはリーハイと名付けた町で、北の方の海岸に近い所にあった。

16 このようにして、第二十年が終わつた。

17 また、ニーファイの民のさばきつかさの統治第二十一年の初めに、ニーファイの民はこのように繁栄していた。

18 彼らは非常に榮え、豊かになり、また増えて、その地で強くなつた。

19 以上のことから、主が人の子らに言われた御言葉をすべて成就されるに当たつて、主の計らいが皆どれほど憐れみ深く、公正であるかが分かる。また、主がリーハイに言われた御言葉が今このときでさえ実証されていることを、わたしたちは知ることができるのである。主の言われた御言葉は次のとおりである。

らなければ主の前から絶たれるということを覚えおきなさい。』

21 そして今わたしたちは、この約束がニーファイの民に実証されていることを知つてゐる。彼らの中に口論や争い、殺人、略奪、偶像礼拝、みだらな行い、忌まわしい行いがあつて、それらが彼らに戦争と滅亡を招いたからである。

22 しかし、主の命令を忠実に守つていた人々はいつも救い出された。一方、邪悪な同胞は何千人も

奴隸の状態に陥つたり、剣で殺されたり、不信仰に陥つてレーマン人と混じり合つたりした。

23 しかし見よ、ニーファイの時代からこのかた、二ーファイの民にとつて、モロナイの時代、すなわちさばきつかさの統治第二十一年當時以上に幸せな時はかつて一度もなかつた。

24 そして、さばきつかさの統治第二十二年が平穏に終わり、第二十三年も同様であつた。

25 さて、さばきつかさの統治第二十四年の初めも、リーハイの地とモリアントンの地について起こつた争いがなければ、ニーファイの民の中には平和が続いたことであろう。このモリアントンの地は

リーハイの地と境を接しており、両方とも、海岸に近い地方にあつた。

26 見よ、モリアントンの地を所有していた人々が、リーハイの地の一部について所有権を主張したのである。そのため、両者の間に激しい争いが起つて、モリアントンの民は同胞に対して武器を取り、剣で相手を殺そうとした。

27 しかし見よ、リーハイの地を所有していた人々はモロナイの宿営に逃げ込んで、モロナイに助けを求めて訴えた。見よ、彼らに非がなかつたからである。

28 さて、モリアントンという名の男の指導下にあつたモリアントンの民は、リーハイの民がモロナイの宿営に逃げ込んだことを知ると、モロナイの軍隊がやつて来て自分たちは滅ぼされてしまうのではないかと非常に恐れた。

29 そこでモリアントンは、大きな湖沼がたくさんある北方の地へ逃げて行つて北方の地を占有しようとする思いを民の心中に抱かせた。

30 そして見よ、彼らはこの計画を実行しようとした。(これが成功していれば悲しい事態が生じていたであろう)しかし見よ、モリアントンは、ひ

どく怒りっぽい男であつたので、はしための一人に腹を立て、なぐりかかつてその女をひどく打ちたたいてしまつた。

31 そこでその女は、逃げ出してモロナイの宿営にやつて来ると、その件について、また北方の地へ逃げようとしている彼らの企てについて、すべてのことをモロナイに告げた。

32 さて見よ、バウンティフルの地にいる人々は、いや、モロナイは、バウンティフルの地にいる人々がモリアントンの言葉に聞き従つて彼の民に加わり、そのため彼がその地の各所の支配権を得てニーファイの民の中に重大な結果をもたらし、二ノアの民の自由を覆すことになるのではないかと懸念した。

33 そこでモロナイは、モリアントンの民の行く手を遮つて、彼らが北方の地へ逃げるのを阻止するため、^①装備を整えた軍隊を派遣した。

34 さて、デソレションの地の境に達するまで、彼らはモリアントンの民の進路を断てなかつた。それでも、海に近く北方の地に通じており、また西も東も海に近い地峡のそばで、彼らはモリアントン

の民の進路を断つことができた。

35 そして、モロナイによつて派遣され、テアンクムという名の人によつて率いられた軍隊は、モリantonの民と相対した。ところが、モリアントンの民は（モリアントンの悪事とへつらいの言葉に感化されて）非常にかたくなになつてゐたので、両者の間で戦いが始まつた。そして、その戦いでテアンクムはモリアントンを殺し、彼の軍隊を破つて彼らを捕虜にし、モロナイの宿營に帰つた。このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第二十四年が終わつた。

36 モリアントンの民はこのようにして連れ戻された。そして彼らは、平和を守ると誓つてモリアントンの地へ返され、彼らとリーハイの民の間で和合が成立した。そして、リーハイの民も自分たちの土地へ戻つた。

37 さて、ニーフアイの民が平和を取り戻したその同じ年に、二代目の大さばきつかさであつたニーフアイハが、神の前に完全に正しくさばきつかさの職を果たして亡くなつた。二ノアは神の前に完全に正しい人であつ

たが、アルマと彼の先祖たちが最も神聖であると見なしていた、数々の記録と品々をアルマから預かるとは辞退してゐた。そこでアルマは、それらのものを息子ヒラマンに託してゐた。

39 見よ、ニーフアイハの息子が、父に代わつてさばきつかさの職を務めるようには任命された。まことに、かれは義にかなつて裁判すること、民の平和と自由を守ること、民に彼らの主なる神を礼拝する神聖な特権を与えること、生涯神の大義を支持し、守ること、悪人にそれぞれの罪科に応じた罰を科すこと、これらのことを持つて、神聖な儀式により民の大さばきつかさ兼総督に任命された。

40 見よ、この人の名はパホーランといふ。彼が父の座に着き、第二十四年の終わりにニーフアイの民を治める彼の統治が始まつた。

第 51 章
王政黨の者たち、法律を変えて王を立てるとする。パホーランと自由党、民の声によつて支持される。モロナイ、王政黨の者たちに、戦つて国を守るよう求め、従わなければ処刑することを告げる。アマリキヤとレー

マン人はとりでで固められた多くの町を占領する。ニアンクム、レーマン人の侵略を撃退し、アマリキヤを天幕の中殺す。紀元前約六十七年から六十六年に至る。

1さて、ニーファイの民のさばきつかさの統治第二十五年の初めには、彼らはリーハイの民とモリアントンの民との間に彼らの土地のことについて和解を確立しており、第二十五年が平穏に始まった。
2しかし、国内の完全な平和は長くは続かなかつた。大さばきつかさのパホーランについて民の中に争いが起つたのである。というの見よ、法律の条項を少し変えてほしいと望んだ者たちが民の中にいたからである。

3しかし見よ、パホーランは法律を変えることを望まず、また法律が変えられるのを認めようとも思わなかつた。そのため、法律の変更について請願の形で意見を表明した者たちの言うことにも、彼は耳を傾けなかつた。
4そのため、法律が変更されることを願つた者はちは彼に腹を立て、彼が引き続き國の大さばきつかさであるのを望まなかつた。その結果、その件につは耳を傾けなかつた。

いて激しい論争が起つたが、血を流すには至らなかつた。

5さて、パホーランをさばきつかさの職から退けることを願つた者は、王政党と呼ばれた。彼らは法律を変更して自由政体を廃し、国を治める王を立てるのを願つたからである。

6また、パホーランが引き続き國を治める大さばきつかさでいることを願つた人々は、自ら自由党と称した。このようにして、民の中に分裂が生じた。自由党的人々は、自由政体によつて自分たちの権利と宗教の特権を守ることを誓つた、すなわち聖約したからである。

7さて、両者の争いに関するこの件は、民の声により解決された。そして、民の声により自由党が支持を受け、パホーランはさばきつかさの職を保つた。これはパホーランの同胞と自由を願う多くの人に大きな喜びを与えた。また、このようにして彼らは王政党的者たちを沈黙させたので、王政党的者たちはあえて反対せず、仕方なしに自由の大義を守ることになつた。

8王を立てるのを支持した者たちは上流の生ま

れのものであり、自分が王になろうとしていた。そして彼らは、民を治める権力と権能を得ようとした者たちから支持を受けた。

9 しかし見よ、このような争いがニーファイの民の中にあったこのときは、危機であった。見よ、アマリキヤが再びレーマン人の民の心をあおつて、ニーファイ人の民に対し反撃を抱かせていたからである。そして彼は、自分の国の全地方から兵を集め、彼らを武装させ、着々と戦争の準備をしていった。彼はモロナイトの血を飲むと誓っていたからである。

10 しかし見よ、後に分かるように、彼が立てた約束は無分別なものであつた。それでも、彼はニーファイ人を攻めるために、自分自身と自分の軍隊を備えていた。

11 彼の軍隊はすでにニーファイ人の手によつて何千人も殺されていて、その人数は以前ほど多くなかつた。しかし、多大の損害を被つていたにもかかわらず、アマリキヤは驚くほどの大軍を集めただで、ゼラヘムラの地へ向かうことを恐れなかつた。

12 まことに、アマリキヤ自身がレーマン人を率い

て下つて來た。それはさばきつかさの統治第二十五年のことであり、大きさばかりさパホーランに関する争いの問題が収まり始めたちょうどそのときであつた。

13 さて、王政党と呼ばれた人々は、レーマン人がニーファイ人と戦うために進んで来ていると聞いて内心喜んだ。そして彼らは、武器を取ることを拒んだ。彼らは大さばきつかさと自由を願う人々のことをひどく怒っていたので、武器を取つて国を守る気持ちがなかつたからである。

14 さて、モロナイトはこのことを知り、さらにレーマン人が國境を越えているのを知ると、自分がこれまでそれらの人々を守るために精いっぱい努め非常に怒つた。彼は激怒し、彼の心は彼らに対する怒りでいっぱいになつた。

15 そして彼は、民の声を受けて、國の総督に請願書を送つてそれを読むように求め、自分たちの國を守るようにそれらの離反者たちに強要する力と、また従わなければ彼らを処刑する力を自分（モロナイト）に与えてほしいと願つた。

16 彼が第一になすべきことは、民の中にこのようない争いと和平をなくすことであつた。というのは、見よ、民の中の争いと対立がこれまで彼らの被つたすべての滅亡の原因となつてきたからである。そしてそれは、民の声に応じて聞き届けられた。

17 そこでモロナインは、自分の軍隊に、それら王政の者たちと戦つて彼らの高慢と特権意識を打ち倒し、彼らを地に倒すように、そうでなければ彼らに武器を取つて自由の大義を守らせるように命じた。

18 そこで、軍隊が彼らに向かつて進軍し、彼らの高慢と特権意識を打ち倒した。彼らの中で武器を振り上げてモロナインの兵に立ち向かう者は、切られて地に倒された。

19 そして、離反者たちの中の四千人が剣で切り倒された。また、戦いで殺されなかつた彼らの指導者たちは、捕らえられて、すぐに審理する暇がなかつたので牢に入れられた。

20 また、残りの離反者たちは、剣によつて地に打ち倒されるよりも自由の旗に従うことを選んだ。そして、仕方なく自分たちのやぐらと自分たちの町

争いと和平をなくすことであつた。というのは、見よ、民の中の争いと対立がこれまで彼らの被つたすべての滅亡の原因となつてきたからである。そしてそれは、民の声に応じて聞き届けられた。

17 そこでモロナインは、自分の軍隊に、それら王政の者たちと戦つて彼らの高慢と特権意識を打ち倒し、彼らを地に倒すように、そうでなければ彼らに武器を取つて自由の大義を守らせるように命じた。

18 そこで、軍隊が彼らに向かつて進軍し、彼らの高慢と特権意識を打ち倒した。彼らの中で武器を振り上げてモロナインの兵に立ち向かう者は、切られて地に倒された。

19 そして、離反者たちの中の四千人が剣で切り倒された。また、戦いで殺されなかつた彼らの指導者たちは、捕らえられて、すぐに審理する暇がなかつたので牢に入れられた。

20 また、残りの離反者たちは、剣によつて地に打ち倒されるよりも自由の旗に従うことを選んだ。そして、仕方なく自分たちのやぐらと自分たちの町

に自由の旗を掲げ、また国を守るために武器を取つた。

21 このようにして、モロナインは王政の者たちを滅ぼし、王政党という名で知られる者はだれ一人いなくなつた。また、このようにして彼は、高貴な血統の出であると主張した者たちの強情と高慢をくじいた。そして彼らは、同胞のように謙遜になり、奴隸とならぬいために勇敢に戦うようになった。

22 さて見よ、モロナインがこのように自分の民の中に戦いと争いを鎮め、民の中に平和と秩序を確立し、レーマン人と戦う準備をするための規則を定めている間に、見よ、レーマン人は海岸に近い地方にあるモロナインの地に入つて来た。

23 そして、モロナインの町にいたニーフアイ人は耐えられるほど強くなかつたので、アマリキヤは彼らを追い出し、多くの者を殺した。そして、アマリキヤはその町を占領し、まことにすべてのとりでを占領した。

24 そこで、モロナインの町から逃げ出した人々は、ニーフアイハの町へ行つた。また、リーハイの町の民も集まつて準備を整え、レーマン人を迎え撃つ

用意をした。

25 しかし、アマリキヤはレーマン人にニーフアイの町を攻めさせようとした。海岸近くに彼らをとどめ、それぞれの町にそこを守る兵を置いた。

26 このようにして、彼は進軍を続けて、ニーフアイの町、リーハイの町、モリアントンの町、オムナーの町、ギドの町、ミュレクの町などの多くの町を占領した。これらの町はすべて海岸に近い東の国境地方にあつた。

27 このように、レーマン人はアマリキヤの悪知恵と無数の軍勢によつて非常に多くの町を手に入れました。しかも、これらの町はどれも皆モロナイのとりでの築き方に倣つて強固に防備が固められており、レーマン人はこれらをすべて自分たちのとりとした。

28 そして、彼らは行く手のニーフアイ人を追い払ひ、また多くの者を殺しながら、バウンティフルの地に進軍した。

29 ところが、彼らはテアンクムと相対することになつた。このテアンクムはかつてモリアントンが逃走しようとしたときに彼を殺し、彼の民の前に立った。

30 そして、このテアンクムがここでまたアマリキヤの前に立ちはだかったのである。このときアマリキヤは、バウンティフルの地とその北方の地を占領しようとして、大軍を率いて進んでいた。

31 しかし見よ、テアンクムとその兵が偉大な戦士であつたために、アマリキヤは彼らに撃退されて希望みを遂げることができなかつた。テアンクムの兵は一人残らず体力の面で、また戦いの技術の面でレーマン人をしのいでいたので、彼らはレーマン人よりも優位に立つた。

32 そして、テアンクムとその兵はレーマン人を休息なく攻め、暗くなるまで彼らを殺した。それから、テアンクムとその兵はバウンティフルの地の境界で天幕を張つた。また、アマリキヤも海岸に近い境の地で天幕を張つた。彼らはここまで追われたのである。

33 さて、夜になると、テアンクムとその部下は夜に紛れてひそかに出て行き、アマリキヤの宿営に忍び込んだ。すると見よ、レーマン人は、日中の戦いと暑さのためにひどく疲れて眠り込んでいた。

34 そこでテアンクムは王の天幕に忍び込み、投げ檜を王の心臓に突き立てて王を即死させたので、王は僕たちを起こすことができなかつた。

35 それから、テアンクムがひそかに自分の宿営に帰ると、見よ、兵は眠つていた。そこで彼は兵を起として、自分が行つてきたことをすべて告げた。

36 また彼は、レーマン人が目を覚まして攻め寄せて来るのではないかと案じ、軍隊に準備をして待つて受けさせた。

37 このようにして、二ーファイの民のさばきつかさの統治第二十五年が終わり、またアマリキヤの生涯も終わるのである。

アモロン、アマリキヤの跡をついでレーマン人の王となる。モナイトアンクムとリーハイ、二ーファイ人を率いて戦い、レーマン人に勝利を得る。ミユレクの町は取り返され、ゾーラム人ヤコブは死ぬ。紀元前約六十年から六十四年に至る。

二十六年の一月一日の朝、見よ、レーマン人は目を覚まし、見よ、アマリキヤが彼の天幕の中で死んでいるのを発見した。また彼らは、テアンクムがその日彼らと戦う準備をしているのも見た。

2 レーマン人はこれを見て驚き恐れ、北方の地へ進軍する企てを捨てて、全軍がミユレクの町へ退き、とりでにこもつて守りを固めようとした。

3 そして、アマリキヤの兄弟が民を治める王に選ばれた。その王の名はアモロンという。このようにアマリキヤ王の兄弟であるアモロン王が選ばれ、アマリキヤ王に代わつて治めることになった。

4 そしてアモロン王は、血を流して奪い取つたそれらの町を守り通すようく民に命じた。彼らが多くの血を失わずに奪い取つた町は一つとしてなかつたからである。

5 さて、テアンクムは、レーマン人がこれまでに奪い取つたそれらの町と、手に入れたそれらの土地を守り通そうと決意しているのを知り、また彼らの人数がおびただしいのを見て、とりでにこもつている彼らを攻撃しようとするのは得策ではないと思つた。

第 52 章

6 それでも彼は、戦う準備をしているかのように、
兵をとりでの近くにとどめておいた。そして、実際はその間に方々に防壁を築き、身を隠す場所を用意して、レーマン人の来襲を防ぐ準備を進めていた。

7 そして、彼が戦いの準備を続けていると、やがてモロナイからテアンクムの軍隊を強化する大勢の兵が送られてきた。

8 また、モロナイからテアンクムに、彼の手に落ちた捕虜は全員そのまま捕らえておくようにとの命令も届いた。レーマン人も大勢を捕虜にしていたので、レーマン人に捕らえられている人々と交換するため、レーマン人の捕虜を全員残しておく必要があつたからである。

9 モロナイはまた、バウンティフルの地の防備を固めて北方の地に通じる地峡を守り、レーマン人がその地点に達して四方からニーファイ人を攻め悩ます力を持たないようにするなどをテアンクムに命じた。

10 さらにモロナイは彼に伝言を送り、忠実にその地域を守るように、またニーファイ人の手から奪い

取られたそれらの町を、計略やそのほかの方法で再び取り返すことができるかもしれない。できるかぎりあらゆる機会を求めてその地域でレーマン人を苦しめ悩ますように、さらに、レーマン人の手に落ちていない方々の町を防備を固めて強化するように求めた。

11 また、モロナイは彼に、「わたしはあなたのところに行きたいが、まことにレーマン人が西の海に近い境の地でわたしたちを攻めて来ており、まことに、わたしは彼らに立ち向かっているので、あなたのところへは行けない」とも述べた。

12 さて、（アモロン）王はゼラヘムラの地を去つて、王妃に自分の兄弟の死について知らせ、大勢の兵を集め、西の海に近い境の地でニーファイ人と戦うために軍隊を進めていた。

13 このようにして、彼はニーファイ人を休みなく攻めて、その地域にニーファイ人の軍の一部を引き寄せるようにした。その一方で、彼は以前に奪い取った町を守るために残してきた者たちにも、東の海に近い境の地でニーファイ人を休みなく攻め、兵力の及ぶかぎりできるだけニーファイ人の地を占

領するように命じておいた。

14 ニーファイの民のさばきつかさの統治第二十六年の終わりに、ニーファイ人はこのような危うい状況にあつた。

15 しかし見よ、さばきつかさの統治第二十七年には、モロナイは南と西の境を守る軍隊の組織を終え、以前に失った町をテアンクムと彼の兵が取り返すのを助けるために、バウンティフルの地へ軍隊を進めた。

16 さて、テアンクムは、ミュレクの町に攻撃を加えて、できればそこを取り返すようにという命令を受けっていた。

17 そこでテアンクムは、ミュレクの町に攻撃を加える準備をし、軍隊を率いてレーマン人に攻めかかる準備を整えた。しかし、レーマン人がとりでの中にいる間は打ち負かせないことを知つたので、その計画を断念し、バウンティフルの町に引き返してモロナイの到着を待ち、軍隊を増強することにした。

18 そして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第二十七年の末に、モロナイが軍隊を率いてバウンティフルの地に到着した。

19 また、第二十八年の初めに、モロナイとテアンクムと多くの連隊長たちが作戦会議を開き、レーマン人を外に出して戦わせるにはどうすればよいのか、また何らかの方法で彼らをとりでから誘い出し、彼らより優位に立つて再びミュレクの町を取り返すにはどうすればよいかを協議した。

20 そして彼らは、ミュレクの町を守っているレーマン人の軍隊に、すなわちヤコブという名の彼らの指揮官に使者を送り、軍隊を率いて出て来て二つの町の間の平原で戦いを交えるように求めた。しかしそこでモロナイは、対等の条件で彼らと戦いを交える望みを失つたため、策を用いてレーマン人をとりでから誘い出すことにした。

21 そこでモロナイは、少數の兵を連れて海岸の近くを下つて行かせた。また、モロナイと彼の軍隊は夜に紛れてミュレクの町の西方の荒れ野に進軍した。するとその翌朝、レーマン人の見張りの兵たちがテアンクムを見つけ、走つて行つて、そのことを自分の指揮官であるヤコブに知らせた。

23 そして、レーマン人の軍隊は、テアンクムの兵^{いん}の数が少なかつたので自分たちの手勢で打ち負かせると思い、テアンクムに向かつて進んで行つた。そこでテアンクムは、レーマン人の軍隊が自分に向かつて出て来たのを見て、海岸の近くを北方に退却し始めた。

24 さて、レーマン人は、彼^{かれ}が逃げ出したのを見て勇み立ち、勢いよく彼らを追つた。また、テアンクムが無駄な追跡をして来るレーマン人をこのように誘い出している間に、見よ、モロナイは自分が率いていた軍の一部に、町に入つてそこを占領するよう命じた。

25 そこで彼らは、町に入つてそこを占領し、町を守るために残つていたすべての者、すなわち武器を引き渡そうとしないすべての者を殺した。

26 このようにしてモロナイは、自分の軍の一部をもつてミュレクの町を手に入れるとともに、自分はテアンクムの追跡から戻つて来るレーマン人と戦いを交えるために、残りの兵を率いて進軍した。

27 さて、レーマン人はテアンクムを追跡し、ついにバウンティフルの町の近くまでやつて來た。そし

て、彼らはそこで、バウンティフルの町を守るために残つていたリーハイと少數の軍隊に出会つた。

28 さて見よ、レーマン人の連隊長たちは、リーハイが彼の軍隊を率いて向かつて来るのを見たとき、自分たちがミュレクの町に帰り着く前にリーハイに追いつかれるのではないかと大慌てで逃げ出した。彼らは行軍のために疲れているのに、リーハイの兵たちは元気であつたからである。

29 さて、このときレーマン人は、モロナイが彼の軍隊を率いて彼らの後方に迫つていたのを知らず、ただリーハイとその兵だけを恐れていた。

30 ところでリーハイは、モロナイとその軍隊に出会うまで、彼らに迫つこうとしなかつた。

31 そしてレーマン人は、遠くへ退く前にニーフアイ人に取り囲まれてしまつた。一方にはモロナイの兵^{いん}、もう一方にはリーハイの兵^{いん}がいて、どちらも皆、元氣で力に満ちあふれていた。それに引き替え、レーマン人は長い行軍で疲れ切つていた。

32 そこで、モロナイは兵^{いん}に、彼らが武器を引き渡すまで攻撃を続けるように命じた。

33 さて、レーマン人の指揮官ヤコブはゾーラム人^{じん}

であり、不屈の精神を持つていたので、レーマン人がモロナイに向かつて猛烈な戦いを仕掛けってきた。

34 モロナイがレーマン人の行く手を遮っていたので、ヤコブはモロナイの兵を殺し、道を切り開いてミユレクの町へ帰ろうと決意したのであつた。しかし見よ、モロナイとその兵の方が強く、レーマん人に道を譲らなかつた。

35 そして彼らは、どちらも非常に激しく戦つた。そして、双方とも多くの者が殺され、モロナイは負傷し、ヤコブは死んだ。

36 また、リーハイが屈強な兵を率いて激しく戦つた。マン人の後方を攻め立てたので、後方のレーマン人は武器を引き渡した。また残りの者たちもひどくうろたえ、どこへ行けばよいのか、どこを攻めればよいのか分からぬ有様であった。

37 それでモロナイは、彼らがうろたえているのを見つけて、「もし武器を持つて進み出て、それを引き渡すならば、見よ、おまえたちの血を流すのをやめよう」と彼らに告げた。

38 さて、レーマン人がこの言葉を聞くと、まだ殺

されていないその連隊長たちは皆進み出て、武器をモロナイの足もとに投げ出し、兵たちにも同じように行つた。

39 しかし見よ、そうすることを望まない者も多かつた。そこで、剣を引き渡そうとしない者たちは捕らえられて縛られ、武器を取り上げられた。そして、彼らの仲間とともにバウンティフルの地へ引立たれて行つた。

40 捕らえられた捕虜の人数は、殺された者の数よりも、まことに両軍の殺された者の数よりも多かつた。

第 53 章

レーマン人の捕虜はバウンティフルの町の防備を固めるために働かれる。ニーフアイ人の中の不和がもとで、レーマン人が勝利を得る。ヒラマン、アンモンの民から出た二千人の青年の指揮を執る。紀元前約六十四年、

1 さて、ニーフアイ人は捕虜のレーマン人を見張る番兵を置き、その捕虜たちにレーマン人の死体は

と、殺された二ーファイ人の死体とを葬らせた。モロナイは、彼らが働いている間彼らを見張る兵を置いた。

2 またモロナイは、リーハイとともにミュレクの町へ行き、その町の指揮権を掌握し、それをリーハイに与えた。見よ、このリーハイは、モロナイが戦場に出るときにはほとんどいつも彼とともにいた人で、モロナイに似た人物であった。そして、二人は互いの無事を喜び合い、また互いに愛し合

い、二ーファイの民も皆この一人を愛していた。

3 さて、レーマン人は同胞の死体と二ーファイ人の死体を葬り終えると、バウンティフルの地へ連れ戻された。それからテアンクムは、モロナイの命令によつて彼らにその地、もつと正確に言えばその町、バウンティフルの町の周囲に堀を築く作業を開始させた。

4 またテアンクムは、彼らに堀の内土手の上に木材で胸壁を築かせ、さらにその胸壁に堀から上げた土を盛らせた。このように二ーファイ人はレーマン人を働かせて、ついにバウンティフルの町を木材と土から成る非常に高い丈夫な防壁で囲んだ。

5 この町は、それ以来非常に堅固なとりでとなつた。そして、彼らはこの町の中で、すなわち捕虜のレーマン人の手で築かせた防壁を持つこの町の中で、捕虜たちを見張つたのであつた。レーマン人が働いている間は彼らを見張るのは容易であり、またレーマン人に攻撃を仕掛けるのに全軍が欲しかつたので、モロナイはどうしてもレーマン人を働かせなければならなかつた。

6 そしてモロナイは、レーマン人の中で最強の軍隊の一つに勝利を収め、また二ーファイの地におけるレーマン人の最も堅固なとりでの一つであるミュレクの町を手に入れたのである。そして、捕虜を抑留するとりでも一つ築いたのであつた。

7 さて、彼はその年にはもうレーマン人と戦いをしてようとせず、兵を使つて戦争の準備をし、レーマン人を防ぐためのとりでを築き、二ーファイ人の女子供を飢餓と苦難から救い、また二ーファイ人の軍隊のために兵糧の備えをした。

8 さて、二ーファイ人の中に大きな陰謀が企てられて彼らの中になどが生じたため、モロナイが出かけて不在になつた間に、西の海に近い南方のレー

マン人の軍隊がニーファイ人に対して多少優勢になり、その地方でニーファイ人の町をまとめて占領した。

9 このようにして、ニーファイ人は自分たちの罪悪のために、すなわち自分たちの中の不和と陰謀のために、最も危険な状況に陥つた。

10さて見よ、アンモンの民について少々述べておかなければならぬ。アンモンの民は初めはレーマン人であったが、アンモンとその同僚たちによつて、いや、神の力と言葉によつて主を信じるようになつた。そして彼らは、ゼラヘムラの地に連来られ、それ以来ニーファイ人によつて守られてきた。

11また彼らは、誓いを立てていたので、同胞に対してこれまで武器を取らなかつた。彼らは、これからはもう決して血を流さないと誓いを立てていたからである。したがつて、もしアンモンとその同僚たちが彼らに示した同情と深い愛情がなければ、彼らは自分たちの誓いのために滅ぼされていたらであろう。すなわち、甘んじて同胞の手に落ちていたことであろう。

12このようなわけで、彼らはゼラヘムラの地に連れて来られ、ニーファイ人によつて守られてきたのである。

13しかし、彼らは自分たちのためにニーファイ人が危険に遭い、多くの苦難と艱難を負つているのが見て申し訳なく思い、自分たちの国を守るために武器を取りたいと願つた。

14しかし見よ、彼らはまさに武器を取ろうとしたときに、ヒラマンやその同僚たちの説得を受け心を翻した。このようにヒラマンたちが彼らを説得したのは、彼らが以前に立てた誓いをまさに破ろうとしていたからである。

15ヒラマンは、彼らがそうすることによつて滅びることになりはしないかと懸念したのである。このようにして、以前にこの誓いを立てたすべての人は、当時の危うい状況の中で彼らの同胞が何とか苦難を切り抜けるのを見ていればなかつた。

16しかし見よ、彼らには多くの息子たちがおり、その息子たちは武器を取つて敵を防ぐことはしないといふ誓いをまだ立てていなかつた。そこで、彼らの内で武器を取ることのできる者は皆このとき

に集まり、自分たちをニーフアイ人と呼んだ。

17 そして彼らは、ニーフアイ人と自由のために戦うという、つまり自分たちの命を捨てても國を守るという誓いを立てた。また、自分たちの自由を決して放棄することなく、ニーフアイ人と自分

たちが奴隸の状態に陥らないようにするために、どのような場合でも戦うと誓った。

18 さて見よ、この誓いを立てて、國を守るために武器を取つた青年たちは、二千人であつた。

19 見よ、この青年たちは、これまで一度もニーフ

アイ人にとつて負担となつたことがなく、この度も大いなる助け手となつた。彼らは武器を取り、ヒラマンが自分たちの指揮官になることを願つた。

20 彼らは皆青年であつて、非常に勇敢であり、体力と活力がみなぎっていた。しかも見よ、それだけではなく、彼らは託されたことは何であろうと、いつでも誠実に果たす者たちであつた。

21 まことに彼らは神の戒めを守り、神の前をまつすぐに歩むように教えられていたので、誠実でまじめな者たちであった。

22 そしてヒラマンは、西の海に近い南方の境の地に

いる人々を支援するために、この二千人の若い兵士を率いて行つた。

23 このようにして、ニーフアイの民のさばきつかさの統治第二十八年が終わつた。

第 54 章

アモロンとモロナイ、捕虜の交換を交渉する。モロナイ、撤兵して殘忍な攻撃をやめるようレーマン人に要求する。アモロン、武器を捨ててレーマン人に服従することをニーフアイ人に要求する。紀元前約六十三年。

1 さて、さばきつかさの統治第二十九年の初めに、アモロンは捕虜を交換することを求めて、使者をモロナイに送つてきた。

2 そして、モロナイはこの要請を非常に喜んだ。というのは、捕虜のレーマン人を養うのに使つている食糧を自分の民を養うのに充てたいと思い、また民を返してもらつて自分の軍隊を増強したいと思つていたからである。

3 ところで、レーマン人は多くの女子供を捕らえていたが、モロナイのすべての捕虜、すなわち、

モロナイが捕らえていた捕虜の中には女と子供はいなかった。そこでモロナイは、できるだけ多くのニーフアイ人の捕虜をレーマン人から取り返すために、一つの策を講じることにした。

4 それでモロナイは手紙をしたため、自分に手紙を持って来てくれたアモロンの部下にそれを託した。彼がアモロンに書いた言葉は次のとおりである。

5 「アモロンよ、見よ、あなたがわたしの民に仕掛けたこの戦争、いや、あなたの兄弟がわたしの民に仕掛け、あなたが兄弟の死後もなお統けようとしているこの戦争について、わたしは以前に少しあなたに書き送つことがある。

6 見よ、わたしは、神の正義と神の激しい怒りの剣について、少しあなたに告げたい。あなたがたが悔い改めて、軍隊をあなたの土地、すなわち、あなたの所有地であるニーフアイの地上に撤退させなければ、神の激しい怒りの剣があなたのうえに迫るであろう。

7 まことに、もしこれらのことを聴く度量があるならば、まことにわたしはあなたに告げるであらう。

8 しかし、あなたはかつてこれらのことを持み、主の民に敵対して戦つたので、わたしはあなたがまたそのようにするであろうと思う。

9 さて見よ、我々にはあなたがたを迎へ擊つ用意ができる。また、あなたは自分のもくろみを捨てなければ、見よ、あなたが拒んだあの神の激しい怒りを自分の身に受け、完全な滅亡を被るであろう。

10 あなたがたが撤退しなければ、主が生きておられるように、我々の軍隊はあなたがたに攻め上り、あなたがたがたは間もなく死に見舞われるであろう。我々は自分たちの町と土地を保有し、また自分たちの宗教と神の大義を守るつもりだからである。

11 しかし見よ、これらのことをおもに述べても無駄であるとわたしには思われる。また、あなたは地獄の子であるようによつたしには思われる。したがつてわたしは、手紙を結ぶに当たつて告げる。

ひとりの捕虜に對して男一人とその妻とその子供た
ちを引き渡すという條件に同意しなければ、わたし
は捕虜の交換をしない。もしあなたがたがそ
ようにするならば、交換をしよう。

12 見よ、もしあなたがたがこれを行わなければ、
わたしは軍隊を率いてあなたがたを攻めるつもりで
ある。まことに、わたしは女たちと子供たちを武
装させてあなたを攻め、我々の最初の受け継ぎの
地である現在のあなたがたの地までも追つて行こ
う。そして、血には血を、命には命を求めよう。そ
してわたしは、あなたがたが地の面から滅ぼし去ら
れるまで戦おう。

13 見よ、わたしは怒つており、わたしの民も怒つ
ている。あなたがたはこれまで我々を殺そうとして
きたが、我々は防衛にのみ努めてきた。しかしこ
よう。そして、我々は自分たちの土地、すなわち
我々の最初の受け継ぎの地を手に入れるであろう。
14 これでわたしは手紙を結ぶ。わたしはモロナイ
であり、二ーフアイ人の民の指揮官である。」

15 さて、アモロンはこの手紙を受け取ると腹を立
て、モロナイに手紙をもう一通書いた。彼が書いた
言葉は次のとおりである。

16 「わたしはレーマン人の王、アモロンであり、おま
えたちが殺したアマリキヤの兄弟である。見よ、わ
たしはおまえたちに、兄弟の血の報復をするつもり
である。またわたしは、おまえの脅迫など恐れない
ので、軍隊を率いておまえたちを攻めよう。

17 見よ、おまえの先祖は自分の兄たちを不當に扱
つた。統治権は正当にはその兄たちのものであつ
たのに、おまえの先祖はそれを兄たちから奪つた。

18 さて見よ、もしおまえたちが武器を捨てて、統
治権の正当な所有者の統治に服するならば、その
とき、わたしも民に武器を捨てさせ、もう決して
戦争をさせないようにしよう。

19 見よ、おまえはわたしとわたしの民に脅迫の言
葉をたくさん吐いたが、見よ、我々はおまえの脅
迫を恐れない。

20 しかしながら、わたしは喜んでおまえの求める
とおりに捕虜を交換することを認め、食糧をわが
軍の兵たちのために蓄えておくようにしよう。そ

して、我々はニーファイ人が我々の權威に服従するまで、そうでなければ、ニーファイ人を永遠に絶滅させるまで、いつまでも戦争を続けよう。

21 また、我々が拒んだとおまえの言うその神についてであるが、見よ、我々はそのような者を知らないし、おまえにも分かるはずがない。しかし、もしそのようないい者がいるとすれば、その者はおまえだけでなく、我々をも造つたことになる。

22 また、もし惡魔がおり、地獄があるとすれば、見よ、わたしの兄弟を殺したうえに、彼はそのような場所に行つたとほのめかすおまえたちも、惡魔によつてそこへ送り込まれ、わたしの兄弟とともにそこで住むことにならないだろうか。しかしながら、これらのことはどうでもよい。

23 わたしはアモロンであつて、おまえの先祖によつて無理やりにエルサレムから連れ出されたゾーラムの子孫である。

24 そして見よ、今やわたしは勇敢なレーマン人である。見よ、この戦争はレーマン人が受けた不當な扱いの報復をし、レーマン人の統治権を守り、手に入れるために行わってきたものである。これで

モロナイにあてた手紙を結ぶ。』

第55章

モロナイ、捕虜を交換することを断る。レーマン人の番兵たちは誘いに負けて酔っ払い、捕虜のニーファイ人は解放される。ギドの町は血を流すことなく取り返される。紀元前約六十三年から六十二年に至る。

1さて、モロナイはこの手紙を受け取ると、アモロンが彼自身の欺瞞をよくよく承知しているのを知り、またニーファイの民と戦争をするのが正当な動機によるものではないことも承知しているのを知り、ますます怒つた。

2そして、彼は言つた。「見よ、わたしが手紙の中で述べたように、もしアモロンが彼のもくろみを捨てなければ、わたしは彼と捕虜の交換をしない。彼がこれまで得てきた力以上に大きな力を持つことを、彼に認めるつもりはないからである。」

3見よ、わたしは、レーマン人が捕虜にしたわたしの民をどこで見張つているのか、その場所をよく知つている。手紙に記したわたしの要求をアモ

23 ① 1ニフ4・31-35
1 ① アル47・12-35

ロンが認めようとしないので、見よ、わたしは、自分の言葉のとおりに彼に行おう。まことに、彼らが和平を求めるまで彼らの中に死を求めるよ。」

さて、モロナイはこの言葉を語り終えると、自分の兵の中にレーマンの子孫に当たる者がいるかも知れないと思ひ、兵の中を調べさせた。

そして、レーマンという名の者が見つかつた。この者はアマリキヤによつて殺された王の僕の一人であつた。

そこでモロナイは、レーマンと自分の少數の兵を、二ーフアイ人を見張つてゐる番兵たちのところへ行かせた。

二ーフアイ人はギドの町に囚われていたので、モロナイはレーマンを任命し、少數の兵を彼とともに行かせた。

そして、夜になつてレーマンが二ーフアイ人を見張つてゐる番兵たちのもとへ行くと、見よ、彼らはレーマンがやつて来るのを見て、彼に呼びかけた。そこで、レーマンは彼らに、「怖がるな。見よ、わたしはレーマン人だ。見よ、我々は二ーフアイ人のもとから逃げ出して來た。二ーフアイ人は口に言つてゐる。だから見よ、ふどう酒を手に入れて持つて來た。」

さて、レーマン人はこの言葉を聞くと、喜んで彼を迎え入れ、「ふどう酒を我々にも飲ませてくれ。我々は疲れているので、このようにおまえがぶどう酒を持って來てくれたことはうれしいことだ」と彼に言つた。

ところがレーマンは、「二ーフアイ人に向かつて戦いに出るまで我々のぶどう酒は取つておこう」と彼らに言つた。しかしこの言葉は、そのぶどう酒を飲みたいといふ彼らの気持ちを募らせるばかりであった。

そして、彼らは言つた。「疲れているから、今そのぶどう酒を飲もう。そのうちに配給のぶどう酒が来る。二ーフアイ人に向かつて行く力はそれでつけることにしよう。」

そこで、レーマンは彼らに、「思うとおりにするがよい」と言つた。

そこで彼らは、ぶどう酒をふんだんに飲んだ。しかも、彼らの味の好みに合つてゐたので、彼らはなおさらふんだんに飲んだ。ところが、そのぶどう

う酒は濃く造られていたので、強かつた。
 14 そして彼らは、飲むといい気持ちになり、やがて全員酔つ払つてしまつた。

15 さて、レーマンと兵たちは、番兵たちが全員酔つてぐつすり眠つてゐるのを見て、モロナイのもとに引き返して事の次第をすべて報告した。

16 これはモロナイの計画のとおりであり、モロナイは兵たちに武器を持たせて準備を整えていた。そして、レーマン人が酔つて熟睡している間に、ギドの町へ行つて町に武器を投げ込み、捕虜たちに渡した。そこで捕虜は皆武装した。

17 モロナイが捕虜を全員武装させたとき、武器を使える者は、女や子供に至るまで全員が武装した。

18 しかし、たとえレーマン人を起こしたとしても、見よ、レーマン人は酔つていたので、二ーファイ人は彼らを殺すことができたであろう。

19 しかしこよ、それはモロナイが願つていたことではなかつた。彼は殺人や流血を喜ばず、自分の民を滅亡から救うことを喜びとしていた。そして彼は、不当な行為を働くことができなかつたの

で、レーマン人が酔つている間に彼らを襲つて殺すことには望まなかつた。

20 それでも彼は、自分の願いを達していた。彼は町の城壁内側にいる捕虜の二ーファイ人を武装させ、城壁内の町を手に入れる力を彼らに与えていたからである。

21 それから彼は、自分の率いる兵を彼らから一步退かせて、レーマン人の軍隊を包囲させた。

22 さて見よ、これは夜間にを行われたので、朝レーマン人が目を覚まして見ると、外側は二ーファイ人が包囲しており、内側では捕虜たちが武装していた。

23 このようにして彼らは、二ーファイ人が自分たちを打ち負かす力を得てゐるのを知つた。このようない状況の中で、彼らは二ーファイ人と戦うのは得策ではないのを知つたので、彼らの連隊長たちは武器の引き渡しを命じた。そこで彼らは、武器を持って来て二ーファイ人の足もとに投げ出し、連隊長たちは哀れみを請うた。

24 さて見よ、これはモロナイが願つていたことであつた。そこでモロナイは、彼らを捕虜にして、

その町を占領し、捕虜になつてゐたニーファイ人を全員解放した。そしてこれらの人々は、モロナの軍隊に加わり、彼の軍隊にとつて大きな力となつた。

25 そして、彼は捕虜にしたレーマン人に、ギドの町の周囲の防備を強固にする仕事を始めさせた。26 そして彼は、自分の望みどおりにギドの町の防備を固め終えると、捕虜たちをバウンティフルの町へ連れて行かせた。そして、彼はまた非常に強力な軍隊でその町を守つた。

27 そして、レーマン人の陰謀が何度もかわらず、彼らはそれまでに捕らえたすべての捕虜を見張つて守り、また取り返したすべての土地を守り通し、優位を保ち続けた。

28 そしてニーファイ人は、再び勝利を收めるようになり、自分たちの権利と特權を取り戻し始めた。

29 レーマン人は何度も夜に紛れてニーファイ人を包囲しようとしたが、その度に彼らは、多くの者を捕虜として失つた。

30 また彼らは、ニーファイ人にぶどう酒を飲ませて毒で殺すことや、酔わせて殺すことを何度も企

てた。
31 しかし見よ、ニーファイ人は、この苦難のときにすぐ主なる神を思い起こした。そのため、レーマン人のわなにからなかつた。彼らはまず捕虜のレーマン人の幾人かに飲ませてからでなければ、レーマン人のぶどう酒を飲もうとはしなかつたのである。

32 彼らはこのように用心したので、彼らの中には毒を飲まされた者は一人もいなかつた。もしもどう酒がレーマン人を中毒させるようであれば、それはニーファイ人をも中毒させるからである。このように、彼らはレーマン人の酒をすべて試したのであつた。

33 さて、モロナイは、モリアントンの町を攻撃するためには様々な準備を整える必要があつた。見よ、レーマン人が自ら骨折つてモリアントンの町の防備を固め、それが非常に堅固なとりでとなつていたからである。

34 そして彼らは、絶えずその町に新たな軍隊と食糧を運び込んでいた。

35 このようにして、ニーフアイの民のさばきつか

さの統治第二十九年が終わつた。

第56章

ヒラマン、モロナイに手紙を送り、レーマン人と戦いの状況を詳しく述べる。アンテバスとヒラマン、レーマン人に大勝利を収める。ヒラマンの二千人の息子たちは奇跡的な力で戦い、一人も殺されない。第一節は紀元前六十二年、第二十九節は約六十六年、第三十一五十七節は約六十五一六十四年の出来事である。

から連れて来た人々の息子たち一千人のことについてです。御存じのように、アンモンが連れて来たこれらの人々は、わたしたちの先祖リーハイの長男であるレーマンの子孫です。

1さて、さばきつかさの統治第三十年の初め、一月二日にモロナイはヒラマンから手紙を受け取つたが、それには彼がいる地方の民に関する事柄が述べられていた。

2ヒラマンが書いた言葉は次のとおりである。「戦時の難難の中につても、主にあつても兄弟である、わたしの心から深く愛する兄弟、モロナイ殿。まことに、愛する兄弟、わたしはこの地方の戦況について少々お知らせしておきたいと思ひます。

3まことに、それは、アンモンがニーファイの地

5ですから、この二千人の青年たちが武器を取り、わたしに彼らの指揮官になるように望んだことを、そしてわたしたちが自分の国を守るために出て行つたこと、これらのことだけあなたに申し上げれば十分です。

6そして、あなたはまた、彼らの先祖が交わした、同胞に對して武器を取つて血を流すことはしないという聖約についても御存じです。

7しかし、第二十六年に、彼らはわたしたちが彼らのために苦難と難に陥つてゐるのを見て、わたしたちを援護するために、彼らが以前に交わした聖約を破つて武器を取ろうとしました。

8しかし、わたしは神がわたしたちを強くしてくれるので、彼らが自分たちの立てた誓いを守るな

らばわたしたちはそれ以上苦しみを受けないであります。おもろうと思ひ、彼らが以前に交わしたこの聖約を破ることを認めませんでした。

9 しかしまことに、わたしたちにとつて非常にうれしいことが一つあります。まことに、第二十六年に、わたしひラマンはこの二千人の青年たちを率いて、アンテープスを助けるためにユダヤの町へ進軍しました。

10 このアンテープスは、あなたがその地の民の指揮官に任命した人です。

10 そしてわたしは、アンテープスの軍隊にわたしの二千人の息子たち（彼らは息子と呼ばれるにふさわしい人々です）を加えたので、アンテープスはその兵力を非常に喜びました。というのは、まことによくレーマン人の軍隊によつておびただしい数の兵が殺され、彼の軍隊の兵の数が減つていたからです。このように大勢の人が殺されたことを、わたしたちは嘆き悲しまないです。

11 にもかかわらず、わたしたちは、かれらが自分たちの国と神のために死んで、今幸せな状態にあるということで、自らを慰めることができます。

12 レーマン人はまた多くの捕虜を残しており、そ

の全員が連隊長です。彼らはほかの者をだれ一人生き残らなかつたからです。彼らは今ニーフアイの地にいると思います。殺されていなければそこにいます。

13 レーマン人が、そのように多くのわたしたちの勇敢な兵たちの血を流して支配権を得た町は、次のとおりです。

14 マンタイイの地、すなわちマンタイイの町、ゼーグロムの町、クメナイの町、アンテバラの町。

15 以上は、わたしがユダヤの町に着いたときにレーマン人が占領していた町です。またわたしは、アンテープスとその兵がユダヤの町の防備を固めるのに力を尽くしているのを見ました。

16 そして彼らは、町を守り抜くために昼は勇ましく戦い、夜は夜で苦労を重ねていたので、肉体も精神も疲れ切つていました。彼らはこのように、ありとあらゆるひどい苦難に耐えてきました。

17 また彼らは、この地で勝利を得るか、そうでなければ死のうと決意していたので、あなたにも十分に想像がつくと思いますが、わたしが連れて来たこの小さな軍隊、すなわちわたしの息子たちは、

彼らに大きな希望と大きな喜びを与えた。されど、ノーマンは、アンテプスが軍隊

彼らに大きな希望と大きな喜びを与えた。され
18 さて、レーマン人は、アンテープスが軍隊に援兵を得たのを知ると、アモロンの命令で、戦闘のためにユダヤの町に来るのを、すなわちわたしたちを攻めるのを禁じられました。

ちゅう
中 に で も 、 わたし た ち の も と を 通 り 過 去 て 北 方 に は
ある ほ か の 町 に 攻 撃 を 加 え る よ う な こ と が ない よ
う 、 わたし た ち は レ ー マ ン 人 の 動 き を 見 張 る た め に は
方 各 に 密 偿 を 置 き ま し た 。

19 このようにして、わたしたちは主の恵みを受けました。というのは、もし彼らがこの弱い状態にあるわたしたちに攻め寄せていたら、わたしたちの小さな軍隊は恐らく滅ぼされていたことでしょう。しかし、このようにしてわたしたちは守られたのです。

20 彼らは、それまでに奪つてきた町を守るようにな
アモロンから命じられたのです。このようにして、
第二十六年が終わりました。第一十七年の初めに、
わたしたちは自分たちの町と自分自身を守る準備
を終えました。

23 北方ほくほうに有るそれらの町まちの人々ひとびとには、レーマン人りんじんと交戦こうせんでくるほどの力ちからがないことをわたしは知しつていたからです。したがつて、もしレーマン人がそばを通り過ぎるようであれば、彼らかれらを背後はいごから攻め、正面しょうめいからの交戦こうせんと同時に、背後はいごからも彼らかれらを攻めたいと思おもつていました。そうすれば彼らかれらを打うち負かせると思おもつたのですが、まことに、この望みはくじかれてしまいました。

21 そしてわたしたちは、レーマン人が攻めて来てくれることを願いました。わたしたちは、とりでにこもつて いる彼らを攻撃することを望まなかつたからです。

25 また彼らは、あえてゼラヘムラの町に対して進軍することも、またシドンの源を越えてニーファイハの町へ向かうこともしませんでした。
26 このよう^に彼らは、以前^に奪つたそれらの町を自分たちの軍隊で守ろうと決意していたのです。

27さて、この年の二月に、わたしの二千人の息子たちの父親から多くの食糧がわたしたちのもとに届きました。

28さらに、ゼラヘムラの地からわたしたちのもとに、二千人の兵も送られてきました。このようにして、わたしたちは一万人の兵と、この兵たちとその妻子たちのための食糧が備わりました。

29レーマン人は、このようにわたしたちの軍隊が日々増大し、またわたしたちの支えである食糧が届くのを見て恐れ始め、できればわたしたちにもう食糧と兵力を得させないようにしようということで、出撃して来るようになりました。

30わたしたちは、レーマン人がこのように次第に不安になり始めたのを知ると、彼らに一つの策を講じたいと思いました。そこでアンテペスの命を受け、わたしはあたかも食糧を運んでいるところであるかのように、若い息子たちとともに近隣のある町へ出かけて行くことになりました。

31わたしたちはアンテペラの町の近くを、あたかも海岸に近い地方にあるその先の町へ向かっているかのように進むことになりました。

32そして、食糧を運んでその町へ向かっているかのように進軍しました。

33そしてアンテペスも、町を守るために彼の軍隊の一部を残し、残りの兵とともに進軍しました。しかし、わたしが自分の若い軍隊とともにアンテペラの町に近づくまで、彼は進軍しませんでした。

34アンテペラの町には、レーマン人の最強の軍隊が最大の規模で配備されていました。

35さて彼らは、密偵から知らせを受けると、軍隊を出し、わたしたちに向かつて進んで来ました。

36そこでわたしたちは、彼らの前を北方へ逃げました。

37まことに、かなり遠くまで連れ出しました。彼らは、アンテペスの軍隊が全力で追つて来るのを知ると、右にも左にも曲がらず、まっすぐにわたしたちを追つて来ました。今思うに、彼らはアンテペスに追いつかれる前にわたしたちを殺し、わたしたちの民に取り囲まれることのないようにしようと考えたようです。

38アンテペスは、わたしたちが危ういのを見て、

行軍の速度を増しましたが、しかしまことに、夜になつてしましました。そのため、レーマン人はわたしたちに追いつかず、アンテプスもレーマン人に追いつかなかつたので、わたしたちは夜の間野営しました。

39 そして、夜明け前に、まことに、レーマン人はわたしたちを追つて来ました。しかしわたしちは、彼らと戦えるほど強くなく、またわたしは若い息子たちを彼らの手に落としたくないと思つたので、そのまま行軍を続け、荒れ野へ向かいました。

40 レーマン人は取り囮まれることを恐れて、えて右にも左にも曲がらず、わたしも彼らに追いつかれるのを恐れて、右にも左にも曲がりませんでした。わたしたちは追いつかれれば抵抗できず彼らに殺され、彼らは逃れていたことでしょう。したがつて、暗くなるまで、わたしたちは一日中荒れ野の中を逃げました。

41 そして、また翌日夜が明けると、わたしたちはレーマン人が追つて来るのを見て、彼らの前から逃げました。

42 ところが、彼らはわたしたちを遠く追わない

ちに立ち止まりました。それは七月二日の朝のことでした。

43 わたしたちには、アンテプスが彼らに追いつたのかどうか分かりませんでしたが、わたしは兵たちに言いました。『見よ、彼らは我々に攻撃をさせ、我々をわなにかけて捕らえるために止まつたのかも知れない。』

44 したがつて、わたしの息子たちよ、あなたがたはどうだろうか。彼らと戦うつもりがあるか。』

45 愛する兄弟、モロナナイ殿。わたしは申し上げます。わたしはこれまでこのような大きいなる勇気を一度も見たことがありません。二ーファイ人の中にはないことでした。

46 わたしがいつも彼らを（皆、非常に若かつたの）わたしの息子たちと呼んできたように、彼らもわたしに、「父よ、まことに、神はわたしたちとともにいて、わたしたちが敗れるとのないようにしてくださいます。ですから、出て行きましょう。もしわたしたちの同胞が仕掛けでこなければ、わたしらちは彼らを殺しません。彼らがアンテプスの軍隊を打ち負かすことのないよう、わたしたちは行き

ましょ」と言いました。

47 彼らはまだ一度も戦つことがありませんでした。そして彼らは、自分の命よりも父親たちの自由のことを考へています。たが、死を恐れませんでした。そして彼らは、自分たちは母親から、疑わなければ神が救ってくれると教わっていたのです。

48 そして彼らは、わたしに母親たちの言葉を告げて、『わたしたちは、母たちがそれを知つていたことを疑いません』と言いました。

49 そこで、わたしたちを追つて来たレーマン人と戦いかかり、激しい戦いが始まっていました。

50 しかも、アンテープスの軍隊はそのようなわざかな日時で長い道のりを進んだことで疲れており、まさにレーマン人の手に落ちようとしていたところでした。もしわたしが二千人の兵とともに引き返しました。するとまことに、アンテープスの軍隊が彼らに

からです。そしてアンテープスの兵たちは、指揮官たちが倒れたことでうろたえ、レーマン人の前から退却を始めました。

52 そこでレーマン人は勇み立ち、彼らを追撃し始めました。このように、レーマン人が激しい勢いで彼らを追撃していたときには、ヒラマンが二千人の兵とともにレーマン人の背後から攻めかかり、彼らを大いに殺し始めたのです。そこでレーマン人の全軍は立ち止まって、今度はヒラマンに向かいました。

53 するとアンテープスの民は、レーマン人が向きを転じたのを見て自分たちの兵を集め、再びレーマン人の背後を攻めました。

54 そして、わたしたちニーファイの民、すなわちアンテープスの民とわたしとわたしの二千人の兵がレーマン人を取り囲み、彼らを殺したので、彼らは仕事なく武器を引き渡し、捕虜となりました。

55 さて、彼らがわたしたちに降伏したので、まさに、わたしはともに戦ってきた青年たちが大勢殺されたのではないかと心配になり、彼らの人数を数えました。

51 アンテープスと彼の指揮官たちの多くが、行軍が速かつたために疲れ果てて、すでに剣に倒れていた

56 ところがまことに、非常にうれしいことに、彼

らのなかで地に倒れた者は一人もいませんでした。彼らはまるで神の力を得たかのように戦いました。このように奇跡的な力で戦った人はこれまでに一人もいません。彼らはレーマン人が肝をつぶすほどの大いなる力で彼らに攻めかかり、そのためには、レーマン人は降伏して捕虜になりました。

57また、そこには捕虜をレーマン人の軍隊から遠ざけて見張つておける場所がなかったので、わたしたちは殺されなかつたアンテプスの兵の一部を付けて、彼らをゼラヘムラの地に送りました。そして、残りの兵はわたし自分が率いて若いアンモン人に加え、ユダヤの町に引き返しました。

りましたが、それは、もしわたしたちが捕らえた捕虜を引き渡すならば、アンテパラの町をわたしたちに譲り渡そうというものでした。

2しかし、わたしは王に手紙を送り、わたしたちの軍隊には自力でアンテパラの町を取り返す力があると確信しているので、捕虜と町を交換するは賢明ではないと思う。したがつて、捕虜同士を交換するときのみ捕虜を引き渡すつもりである、と告げました。

3するとアモロンは、捕虜の交換はしたくなかったので、わたしの手紙での申し出を拒絶しました。そこでわたしたちは、アンテパラの町を攻める準備を整えました。

4ところが、アンテパラの民はその町を去り、彼らが支配していたほかの町へ逃げて行き、それらの町の防備を固めました。このようにして、アンテパラの町はわたしたちの手に落ちました。

5このようにして、さばきつかさの統治第二十八年が終わりました。

1「さて、わたしは王のアモロンから手紙を受け取

6さて、第二十九年の初めに、わたしたちはゼラヘムラの地と周辺の地から、食糧と六千人の援兵

を受け、またほかにアンモン人の息子たち六十人じん ①むすこが彼らの同胞ははがた、すなわち二千人にんから成るわたしの小さな軍隊ぐんたいに加わりました。そしてまことに、わたしたちは強くなり、また食糧しょくりょうもたくさん補給ほきゅうされました。

7 そこでわたしたちは、クメナイの町まちを守るために配置はいちされている軍隊と一戦いっせん交えたいと思いまして。まことにわたしたちは、クメナイの町まちの者が食糧しょくりょうを受け取ることになつて、少し前から、わたしたちの強い軍隊ぐんたいをもつて、夜その町を包囲ほういしました。

8 さて、まことに、わたしたちがやがて自分たちの望みのぞを遂げたことをあなたに明らかにしたいと思ひます。まことにわたしたちは、クメナイの町まちの者が食糧しょくりょうを受け取ることになつて、少し前から、わたしたちの強い軍隊ぐんたいをもつて、夜その町を包囲ほういしました。

9 そしてわたしたちは、幾晩もその町の周囲で野営えいしました。しかしながら、まだ見張りの兵へいを置きました。それでも彼らは、何度も襲撃しゆげきを試みて、その度に彼らの血ちが流されたのでした。

10 そのうちにやつと彼らの食糧しょくりょうが到着どうちやくし、レーマン人は夜に紛れて町に入ろうとしました。ところが、わたしたちはレーマン人じんではなく二ーフアイ人じいであつたので、彼らを捕らえ、彼らの食糧しょくりょうを奪いました。

11 しかしレーマン人は、このようにして補給ほきゅうを断たれてもかかわらず、なおもその町を守り通そうと決意けついしていました。そこでわたしたちは、それらの食糧しょくりょうを運んでユダヤに送り、また捕虜ほりよはゼラヘムラの地ちに送る必要必要がありました。

12 そして、それほど多くの日数にっすうがたたないうちに、レーマン人は救援きゆうえんを得られる望みのぞをすつかり失うしない、その町をわたしたちの手に明け渡しました。このようにして、わたしたちはクメナイの町を手に入れる計画けいかくを達成たつせいしました。

13 しかし、捕虜ほりよの数すうが甚だ多かつたので、わたしたちの兵へいの数すうが非常に多かつたにもかかわらず、わたしたちは彼らを見張るのに全軍ぜんぐんを用いるか、そうでなければ彼らを処刑しょけいするかしなければなりませんでした。

14 といふのは、まことに彼らは大勢おおぜいで逃げ出だし、石やこん棒や、そのほか手に入るものを何でも手に

取つて戦おうとしたからです。そのため、彼らが降伏して捕虜になつた後、わたしたちは彼らの中の二千人以上を殺しました。

15 そのようなわけで、わたしたちは彼らの命を取るか、そうでなければ剣を手にしたまま彼らをゼラヘムラの地へ護送して行くことが必要になりました。した。そのうえ、わたしたちが以前にレーマン人から奪つた食糧があつたにもかかわらず、食糧はわたしたちの軍隊にも十分ではありませんでした。

16 そのような危うい状況の下で、この捕虜たちについて判断を下すことは非常に重大な問題となりました。にもかかわらず、彼らをゼラヘムラの地へ送ることにしました。そして、兵の一部を選んで捕虜を見張る任務を彼らに与え、ゼラヘムラの地へ下つて行かせました。

17 ところがその翌日、彼らは戻つて来ました。それでも、まことに、わたしたちは彼らに捕虜のことを見ねませんでした。まことに、わたしたちはそのときレーマン人に攻められており、彼らはちょうどよいたきに戻つて来て、わたしたちがレーマン人の手に落ちるのを救つてくれたからです。というのは、

18 そして、わたしたちが捕虜に付けて送り出した兵たちは、わたしたちがまさにレーマン人に負かされようとしたときに、ちょうど折よく到着して彼らを食い止めてくれたのです。

19 しかしことに、二千六十人の兵から成るわたしの小さな軍隊は必死に戦い、まことに、彼らはレーマン人の前に確固として立ちはだかり、向かつて来るすべての者を殺しました。

20 わたしたちの軍隊のほかの兵たちがレーマン人の前から退却しようとしていたときに、まことにその二千六十人の兵は確固としており、ひるみませんでした。

21 まことに、彼らはすべての号令に従つてそのとおりに行うように努めたのです。そして、実に彼らの信仰に応じて、そのようになりました。そのことでわたしは、彼らが母親たちから教わったと言つてわたしに話してくれた言葉を思い出しました。

22 さてまことに、わたしたちがこの大勝利を收めたのは、実際にわたしのこの息子たちと、選ばれて

捕虜を護送して行つたその兵たちのおかげです。レーマン人を打ち負かしたのは、これらの兵たちで、しました。そしてレーマン人は、マンタイの町へ追い返されました。

23 わたしたちはクメナイの町を守り、全員が剣で滅ぼされることは避けられたものの、それでもわたしたちは大きな損害を被つてきました。

24 さて、レーマン人が逃げ去った後、わたしはすぐ、負傷した兵を死者の中から連れ出すように命令を下し、彼らの傷の手当てをし、包帯をさせました。

25 さて、わたしの二千六十人の兵のうち、二百人が失血のために意識を失つていきました。にもかかわらず、神の慈しみによつてだれ一人死なずに済んだことは、わたしたちにとつてまったく驚きであつた。またわたしたち全軍の喜びでもありました。彼らの中には傷をたくさん負わなかつた者は一人もいませんでした。

26 彼らが守られたのは、わたしたち全軍にとつており、またわたしたち全軍の喜びでもありました。彼らの中には傷をたくさん負わなかつた者は一人もいませんでした。

27 わたしは、神がましますこと、疑わない者はだれでも神の驚くべき力によつて守られるということを深く信じていたので、それが起つたのです。

28 さて、このように味方の負傷兵の世話を終え、味方の死者と多くのレーマン人の死者を葬り終えた後、まことに、わたしたちはギドに、彼らがゼラヘムラの地へ連れて行つた捕虜たちのことを尋ねました。

29 ギドは、その地に彼らを護送して行くよう命された軍隊の連隊長でした。

30 ギドがわたしに述べた言葉は、次のとおりです。『まことに、わたしたちは捕虜を連れてゼラヘムラの地へ下つて行くために出発しました。すると途中で、レーマン人の軍を見張るために遣わされていました。わたしたちの軍の密偵たちに出会いました。

31 ところが、彼らはわたしたちに向かつて、「見よ、

によつたものと考えざるを得ません。彼らは信じるようになつてゐました。彼らは信じてゐたので、すなわち、公正な神がましますこと、疑わない者はだれでも神の驚くべき力によつて守られるというこ

とを深く信じていたので、それが起つたのです。

27 わたしの述べてきたこれらの人たちは、これを信じていました。彼らは若いながらも考へはしつかりしていく、絶えず神に頼つています。

28 さて、このように味方の負傷兵の世話を終え、味方の死者と多くのレーマン人の死者を葬り終えた後、まことに、わたしたちはギドに、彼らがゼ

レーマンじんの軍ぐんがクメナイの町まちへ向むかって進すんでいる。見みよ、彼らはクメナイの町まちにいる者ものを襲おそい、わ

たしたちの民を滅ぼすつもりだ」と叫んだのです。
そこで捕虜たちは、彼らの叫び声を聞いて勇み立たち、わたしたちに對して暴動を起こしました。

33 さて、彼らが暴動を起したので、わたしたちは剣で彼らを討ちました。彼らが一団となつてわ

たしたちの剣を目にかけて走り寄って来たためわたしたちは彼らの大半を殺しました。しかし、残りの者たちはわたしたちを押し分けて逃げて行つてしましました。

34 まことに、彼らが逃げてしまい、追いつけなかつたので、わたしたちはクメナイの町へ向かつて急いで進み、まことに、ちょうどよいときには到着して、町を守つていた同胞を助けることができまし

35 まことにわたしたちは、敵の手からまた救い出されました。わたしたちの神の御名がほめたたえられますように。まことに、わたしたちの神はわたしたちを救い出し、まことに、わたしたちのためにこのような大きいなることを行つてくださいました。』

第
58
章

36さて、わたしヒラマンはギドのこの言葉を聞く
と、わたしたちを守つてわたしたち全員が滅びるこ
とのないようにしてくださつてゐる神の慈しみを思
い、非常な喜びに満たされました。またわたしは、
これまでに殺された人々の靈がすでに神の安息に入
つてゐるものと信じてゐます。」

ヒラマンとギドとテオムナー、策を用いてマンタイの町を取り返す。レーマン人、撤退する。アンモンの息子たち、しつかりと立つて自分たちの自由と信仰を擁護するときに守られる。紀元前約六十三年から六十二年に至る。

「さて、まことに、わたしたちの次の目標は、マンタイの町を手に入れるごとに、わたくしたちの小さな軍隊ではどうしてもレーマンじんをたたかう。そのため、彼らをとりでからおびき出せませんでした。その町から誘い出せませんでした。まことに、彼らはわたしたちがこれまでに行つたことを覚えていたため、彼らをとりでからおびき出せませんでした。

2 また、彼らがわたしたちの軍隊よりもはるかに

大勢おおぜいであったので、わたしたちはあえて出て行つて、とりでにこもつてゐる彼らを攻撃こうげきしませんでした。

3 また、わたしたちは、これまでに取り返した土地とちを守り通すために兵へいを使つかうことが必要になり、ゼラヘムラの地からもつと多くの援兵えんへいと新たな食糧しょくりょうが届くのを待たなければなりませんでした。

4 そこでわたしは、國の總督そうとくのもとに使者ししゃを送つて、わたしたちの民の状況じょうきょうについて知らせました。そしてわたしたちは、ゼラヘムラの地から食糧りょうと援兵えんへいが来るのを待ちました。

5 しかしまたことに、レーマン人も日々多くの援兵えんへいと多くの食糧しょくりょうを得ていたので、これは、わたしたちにとってあまり得にはなりませんでした。当時のわたしたちの状況じょうきょうは以上のとおりでした。

6 またレーマン人は、策さくを巡らしてわたしたちを滅ぼほろそうとして、時々出擊しゆきして来ました。しかし、彼らには待避所たいひしょととりでがあつたので、わたしたちは彼らと戦うことができませんでした。難しい状況じょうきょうの下で何か月も待ち、とうとう食糧しょくりょうの欠乏けっぽうで飢え死にしそうになりました。

7 このような苦しい事態じたいに至った原因げんいん、すなわち、なぜ彼らがわたしたちにもつと多くの援兵えんへいを送つてくれなかつたのか、その理由はわたしたちには分かりません。そのため、わたしたちは心を痛め、また何らかの手段じゅうんだんで神の裁さばきがわたしたちの国に下つて、わたしたちが打ち倒され、完全に滅ぼされてしまふのではないかという恐れでいっぱいになりました。

8 さて、わたしたちを援助するために来た二千人の兵から成る軍隊ぐんたいに守られて、食糧しょくりょうが届きました。しかし、わたしたちが自分自身と國とを敵の手に落ちないように守り、おびただしい数の敵てきと戦うために受け取つた援助えんじょは、ただこれだけでした。

9 このような苦しい事態に至った原因げんいん、すなわち、なぜ彼らがわたしたちにもつと多くの援兵えんへいを送つてくれなかつたのか、その理由はわたしたちには分かりません。そのため、わたしたちは心を痛め、また何らかの手段じゅうんだんで神の裁さばきがわたしたちの国に下つて、わたしたちが打ち倒され、完全に滅ぼされてしまふのではないかという恐れでいっぱいになりました。

10 そこでわたしたちは、心を神に注ぎ出して祈り、わたしたちを強めてくださるように、また敵の手から救つてくださるように、さらにわたしたちの民たみを支えるために、わたしたちの町まちと土地とちと所有物ゆうゆつを取り返す力をわたしたちに与えてくださるようにお願いしました。

11 そして、主なるわたしたちの神は、わたしたち

を救うという保証を与えてくださいました。わたしたちの靈に平安を告げ、わたしたちに大いなる信仰を授け、また主によつて解放されるという望みをわたしたちに抱かせてくださつたのです。

12 そこでわたしたちは、少數ながら援兵を得たことに勇氣を奮い起こし、敵を打ち破つて、わたしたちの土地と所有物と妻子と自由の大義を守ろうと固く決意しました。

13 このようにしてわたしたちは、マンタイの町にいるレーマン人と戦うために全勢力を注いで出て行き、その町に近い荒れ野のそばに天幕を張りました。

14 その翌日、レーマン人はわたしたちが町に近い荒れ野のそばの境の地にいるのを見ると、わたしたちの軍隊の兵数と兵力を知るために、わたしたちの周りに何人もの密偵を送つてきました。

15 そして密偵の調べで、わたしたちが兵数のうえで強力でないのが分かると、彼らは、出撃して戦いました。

16 彼らが攻撃の用意をしているのを知り、まことには、わたしはギドを少數の兵とともに荒れ野の中に隠れさせ、またテオムナーと少數の兵も荒れ野の中に隠れさせました。

17 ギドと彼の兵は右側に、ほかの者は左側にいました。彼らがこのように隠れてしまふと、まことに、わたしは最初に天幕を張つたその同じ場所にわたしの軍隊の残りの兵とともにとどまり、レーマン人が攻めて来るのを待ちました。

18 そこでレーマン人は、わたしたちに向かつて、わたしたちに剣でまさに襲いかかるうとしたとき、わたしは率いていた兵を荒れ野に退却させました。

19 そこでレーマン人は、何としてでも追いついでわたしたちを殺したいと思つたので、猛烈な速さでわたしたちの後を追い、荒れ野に入つて来ました。わたしたちはギドとテオムナーの真ん中を通り抜けたため、彼らはレーマン人に気づかれませんで

- さて、レーマン人が通り過ぎると、すなわちその軍隊が通り過ぎると、ギドとテオムナーは隠れていた場所から立ち上がり、レーマン人の密偵たちが町に帰れないように彼らの帰路を断ちました。
- そして、ギドとテオムナーと兵たちは密偵たちの帰路を断つてから町に走つて行き、その町を守るために残つていた見張りの兵たちに襲いかかつて、彼らを殺し、町を占領しました。
- これは、レーマン人が少數の見張りの兵を残して全軍を荒れ野に誘い出されてしまつたために起つたことでした。
- そしてギドとテオムナーは、レーマン人のとりで手に入れました。一方、わたしたちはしばらく荒れ野の中を逃げた後、ゼラヘムラの地の方向に進路を取りました。
- するとレーマン人は、ゼラヘムラの地に向かって進んでいるのに気づき、自分たちを滅亡に誘い込むために練られた計略があるのではないかと非常に恐れました。そこで彼らは再び荒れ野に戻り、やつて来た同じ道を引き返しました。
- そしてまことに夜になり、彼らは天幕を張りま
- さて、夜になると、わたしは兵を眠らせずに、別の道からマンタイの地へ向かわせました。
- そして、わたしたちは夜の間行軍したため、まことに、翌日にはレーマン人よりはるかに先になり、彼らよりも早くマンタイの町に着きました。
- そして、この策によつてわたしたちは血を流すことなくマンタイの町を占領しました。
- そして、レーマン人の軍隊は町の近くに到着し、わたしたちが彼らと戦いを交える用意をしているのを見て非常に驚き、またひどい恐怖を覚えて、荒れ野の中へ逃げて行きました。
- そして、レーマン人の軍隊は、この地方の全域から逃げ出しました。しかしまことに、彼らはこの地から多くの婦人たちと子供たちを連れ去つてしましました。
- かつてレーマン人に奪われた町は、現在すべて

わたしたちの所有下にあります。そして、わたしたちの父親たちと婦人たちと子供たちは、捕虜になつてレーマン人に連れ去られた人々を除いて、全員各自の家へ帰つてゐるところです。

32 しかしまことに、わたしたちの軍隊は、そのよう多くの町とそのようにたくさん領土を守り通すには小さすぎます。

33 それでもまことに、わたしたちは、それらの土地でわたしたちに勝利を得させ、かつて所有していたそれらの町と土地を取り返させてくださつた神に頼つています。

34 わたしたちには、政府がもつと多くの援兵を送つてくれない理由が分かりません。わたしたちもとに来た兵たちも、どうしてわたしたちにもつと援兵が送られなかつたのか、その訳を知りません。

35 まことに、あなたの方が首尾よくいつておらず、そちらの地方に軍隊を退却させなければならなかつたのかもしれません。もしそうであれば、わたしたちはつぶやきたくありません。

36 また、もしさうでなければ、まことに、政府の中に何らかの対立があり、彼らはわたしたちを援

助する兵をこれ以上送つてこないのではないかと、わたしたちは懸念しています。なぜならば、すでに派遣されてきた兵よりももつと多くの兵がいることを、わたしたちは知つてゐるからです。

37 しかしまことに、それはどうでもよいことです。わたしたちの軍隊が弱くても、神がわたしたちを救い、敵の手から救い出してくれることを信じています。

38 まことに、今は第一十九年の末で、わたしたちは自分たちの土地を所有しており、レーマン人は二ノアイの地へ逃げました。

39 わたしが前に大いにほめたたえたアンモンの民の息子たちは、今わたしと一緒にマンタイの町にいます。主は彼らを力づけ、剣で倒されないように守つてくださつたので、一人も殺されませんでした。

40 しかしまことに、彼らは多くの傷を負いました。それでも彼らは、神が自分たちを自由な者にしてくださつたその自由にしつかりと立つています。そして彼らは、日々主なる神をよく覚え、まことに、主の掟と裁決と戒めをいつも守るように努めており、将来起こることについての預言を深く信

じでいます。

41 愛する兄弟、モロナイ殿。わたしたちを贖い、
自由にしてくださつた主なるわたしたちの神が、い
つもあなたを御前にとどめてくださいますように。
また、主がこの民に恵みを授けてくださり、かつて
レーマン人がわたしたちから奪つた生活に必要なす
べてのものを、あなたがたが首尾よく取り返すこと
ができますように。まことに、これでわたしの手紙
を結びます。わたしはアルマの子、ヒラマンです。』

第59章

モロナイ、ヒラマンの軍隊を強化するようにパホーラ
ンに要請する。レーマン人、二ーフアイハの町を奪う。
モロナイ、政府に腹を立てる。紀元前約六十二年。

1さて、二ーフアイの民のさばきつかさの統治第一
三十年に、モロナイはヒラマンの手紙を受け取つ
て読むと、その幸いを、すなわち、以前に失つた
土地を得るのにヒラマンが大きな成功を収めたこと
を非常に喜んだ。
2また、彼は自分の民にも喜んでもらおうとして、

自分のいるその地方の全域ですべての民にそれを知らせた。

3そして彼は、すぐにパホーランに手紙を書き、
ヒラマンがそのように奇跡的に首尾よく取り返し
た地方を容易に守り通せるように、ヒラマンを、い
や、ヒラマンの軍隊を強化するために兵を集め
よう依頼した。

4そして、その手紙をゼラヘムラの地へ送ると、
モロナイは、レーマン人が二ーフアイ人から奪つた
領土と町の中でまだ取り返していない分を手に入
れるために、再び策を練り始めた。

5さて、モロナイがこのようにレーマン人を攻め
る準備をしている間に、見よ、モロナイの町、リ
ーハイの町、モリアントンの町から集まつた二ーフ
アイハの民が、レーマン人から攻撃を受けた。
6まことに、マンタイの地とその周辺の地から追
われた者たちが、この地方のレーマン人のもとに來
て合流していた。

7このようにして、彼らは非常に人数が多くなつ
たうえに、日々援兵を得たので、アモロンの命令に
よつて二ーフアイハの民を攻め、彼らに対しても大変

な殺戮を始めたのである。

8 彼らの軍隊が非常に大軍であつたので、二ーフアイハの民の中で生き残つた者たちは仕方なく彼らの前から逃げ出し、モロナイのもとへやつて来て彼の軍隊に加わつた。

9 ところでモロナイは、二ーフアイハの町にすでに兵が送られていて、その町を守り通すために民を助ける任務に就いているものと思つており、またレーマン人の手に落ちないように町を守ることの方が、それを彼らから取り返すことよりも容易であるのを知つていたので、二ーフアイハの町の民が容易にその町を守り通せると思つた。

10 そこで彼は、自分が取り返した所を何か所も守るために、自分の全軍を用いていた。

11 モロナイは、二ーフアイハの町を失つたことを知つて非常に嘆き、また二ーフアイ人が民の悪のために同胞の手に落ちてしまうのではないかと危ぶみ始めた。

12 これは彼の連隊長たちも皆同じであつた。彼らも民の悪を危ぶみ、驚いた。それは、レーマン人が二ーフアイハの町の民に勝つたからである。

13 そしてモロナイは、政府が国の自由を守るのに冷淡であるということで、彼らに腹を立てた。

第 60 章

モロナイ、政府が軍隊に心を配らないことについてパホーランを非難する。主は義人が殺されるのをそのままにしておられる。二ーフアイ人は敵を防ぐためにあらゆる力と手段を用いなければならない。モロナイ、自分の軍隊に援助が与えられなければ政府を敵として戦うと脅す。紀元前約六十二年。

1さて、モロナイは國の総督であるパホーランに再び手紙を書いた。彼が書いた言葉は次のとおりである。「まことに、わたしはゼラヘムラの町にいる大さばきつかさであり國の総督であるパホーランと、またこの戦争の諸事を統轄し取り仕切るためにこの民によつて選ばれたすべての方々にあてて、この手紙を記します。

2さてまことに、これらの方々に語つて非難したこと�이ことが少々あります。まことに、あなたがた自身御存じのように、あなたがたは兵を集め、彼らを

剣と三日月刀とあらゆる武器で武装させ、またレーマン人がわたしたちの国に入つて来る所に派遣して彼らと戦わせる、そのような職に任命されています。

3 そこでまことに、あなたがたに申しますが、わたし自身もわたしの兵も、ヒラマンも彼の兵も、とてもひどい苦難を受けてきました。飢えや渴き、疲労、そのほかあらゆる苦難を味わつてきました。

4 しかしまことに、わたしたちの受けたのがこれだけであれば、わたしたちはつぶやかず、不平も言わなかつたでしょう。

5 ところがまことに、わたしたちの民の受けた殺戮はひどく、すでに數千人の同胞が剣に倒れています。もしわたしたちの軍隊に十分な援助と援助を与えてくれていたら、このようにはならなかつたかもしれません。まことに、あなたがたはわたしたちのことをないがしろにしています。

6 今まことに、わたしたちは、このように甚だしくないがしろにされた理由を知りたいと思ひます。あなたがたが無頓着な状態にある理由を知りたいと思ひます。

7 敵があなたがたの周囲で死の業を繰り広げているのに、あなたがたは考えもなくほんやりとした状態で座に着いていらっしゃると思うのですか。まさにその間に、彼らはあなたがたの同胞を何千人も殺しているのです。

8 まことに、あなたがたの同胞はあなたがたの保護を頼りにし、自分たちを救う地位にあなたがたを任じました。まことに、自分たちのもとに軍隊を派遣して自分たちを強化し、数千の人々が剣に倒されるのを救える、そのような地位にあなたがたを任じたのです。

9 しかしまことに、それだけではありません。あなたがたは彼らに食糧を送りませんでした。それでも、多くの人はこの民の幸いを深く望んでいたので、戦いに出て血を流し、命を失いました。彼らは飢え死にしそうになりながらも、このようにしたのです。あなたがたが彼らを甚だひどく軽視したからです。

10 愛する兄弟たち、あなたがたは愛されるようすべきであり、またこの民の幸いと自由のために、もと熱心に務めるべきでした。しかしまことに、

あなたがたは彼らに心を配らなかつたので、将来數千人の血が、報復を求めてあなたがたの頭に降りかかることでしょう。まことに、彼らの嘆願と彼らの苦しみを、すべて神は御存じだからです。

11 まことに、あなたがたは、これからも自分は座に着いていることができ、神の深い慈しみのおかげで何もすることなく神によつて救われると考へることができるでしょうか。まことに、そのように考へているのであれば、それはむなしいことです。

12 非常に多くの同胞が殺されたのは彼らの悪のためであると、あなたがたは思つてゐるのですか。あなたがたに申します。もしそのように考へているのであれば、それはむなしいことです。あなたがたに申しますが、剣で殺された人々は大勢おり、まことに、あなたがたはそのため罪の宣告を受けれるでしよう。

13 主は御自分の罰と裁きを悪人に下せるように、義人が殺されるのをそのままにしておかれます。したがつて、あなたがたは、義人が殺されても捨てられたと思うには及びません。まことに、彼らは主なる神の安息に入るのです。

14 さてまことに、ここであなたがたに申しますが、わたしは神の裁きが一部の人々のひどい怠慢のために、すなわち、わたしたちの政府の怠慢のために、また同胞である殺された者たちを彼らが甚だひどく軽視したために、この民に下るのではないかと非常に懸念しています。

15 わたしたちの国の指導者から始まつた悪がなければ、わたしたちは敵を防ぐことができ、わたしたちを支配する権力を決して彼らに得させなかつたでしょう。

16 まことに、もしわたしたち自身の中に起きた内戦がなかつたならば、またわたしたち自身の中にあれほど多くの流血を引き起こした王政党的者たちがいなければ、またわたしたちの中に争いのあつたとき、これまで行つてきたようにわたしたちが力を合わせていたならば、また王政党的者たちがわたしたちを支配する権力と権能を得ようと望まなかつたならば、また彼らがわたしたちに對して武器を取つて、非常に多くの流血をわたしたちの中に行き起こすことなく、自由の大義に誠実であり、わたしたちと結束し、敵と戦つていたならば、そ

してわたしたちが主の力をもつて敵と戦つていたならば、わたしたちは敵を追い散らしていたでしょ。主の御言葉のとおりにそれは成るからです。

17 しかしまたことに、今レーマン人はわたしたちの土地を占領し、わたしたちに攻め寄せています。彼らはわたしたちの民を剣で殺し、まことに女や子供さえも殺し、またおんなんと子供を捕らえて連れて行き、あらゆる苦難を彼らに負わせています。これは権力と権威を求めている者たち、すなわちあの王政党政の者たちのひどい悪事のせいです。

18 しかしながら私は、このことをどうしてくどくどと言えましょうか。あなたがたも権威を求めていないとは言い切れないからです。あなたがたも国賊でないとは言い切れません。

19 それとも、あなたがたがわたしたちのことを心にかけず、わたしたちに食糧を送らせず、またわたしたちの軍隊を強める兵も派遣させないのは、あなたがたが國の中央部にいて、周りが安全なためなのですか。

20 あなたがたは、主なる神の戒めを忘れたのですか。まことに、あなたがたは先祖が囚われの身に

あつたことを忘れたのですか。わたしたちが幾度も敵の手から救われたことを忘れたのですか。

21 それとも、わたしたちが座に着いているまま、主から与えられた手段を利用しないでいて、主がそれでもなおわたしたちを救つてくださると思つていいのですか。

22 まことに、境の地の至る所で、何千もの人々が剣に倒れて傷つき、血を流しているのに、あなたがたは、何もせずに座している何千何万の者たちに囲まれたまま、自分も何もせずに座しているつもりですか。

23 あなたがたはただじつと座してこれらのことを見ていて、神があなたがたを罪のない者と見なしてくださるとでも思つていいのですか。まことに、わたしはあなたがたに、そのようなことはないと申します。神がかつて、「まず器の内側を清めなさい。それから器の外側も清めなさい」と言われたことを、忘れないようにしてほしいと思ひます。

24 ところで、あなたがこれまで行つてきたことを悔い改め、立ち上がり行動を起こし、わたしたちとヒラマンに食糧と兵を送り、ヒラマンがすでに

取り返したわたしたちの國のあの地方を維持できるようにし、またわたしたちにもこの地方の領土の残りを取り返せるようにしてくれなければ、まことに、わたしたちはまず内側、すなわちわたしたちの政府の最高責任者を清め終えるまで、もはやレーマン人と戦わないのが得策でしよう。

25 あなたがわたしの手紙による要請を聞き届け、まことの自由の精神をわたしに示し、わたしたちの軍隊を強化し堅固にする努力を払い、軍隊を養うための食糧を送つてくれなければ、まことに、わたしは自由党的者たちの一部を國のこの地方を守るために残し、また神の力と祝福を彼らに残してほかのいかなる力も彼らに及ばないようにしておきます。

26 彼らの深い信仰と艱難の中での忍耐のゆえに、ほかの力は彼らに及びません。

27 そして、わたしはあなたがたのもとへ行き、もしあなたがたの中に自由を求める者がいれば、まことに、自由の痕跡でも残つていれば、権力と権威を奪い取ることを願つてゐる者たちが死に絶えるまで、わたしはあなたがたの中で謀反を扇動しましよう。

28 まことに、わたしは、あなたがたの権力もあなたがたの権威も恐れません。わたしのが畏れるのはわたしの神です。わたしが國の大義を守るために剣を取ることは、神の命じられたことにかなつていません。わたしたちがこのように多大の損害を被つたのは、あなたがたの罪惡のためです。

29 まことに、もしあなたがたが自分たちの国と子供たちを守る努力を払わなければ、罰の剣があなたがたのうえに迫る時が今や近づいています。やがてそれはあなたがたのうえに落ち、あなたがたを討つてことごとく滅ぼすことでしょう。

30 まことに、わたしはあなたがたからの援助を得つています。もしあなたがたがわたしたちの救援に必要なものを与えてくれなければ、わたしはあなたがたのもとへ、まことにゼラヘムラの地へ行つて剣であなたがたを討ちます。したがつてあなたがたは、この民が自由の大義を広めるのを妨げる力を二度と持てなくなるでしょう。

31 まことに、あなたがたが生きていて罪悪を募らせ、主の義にかなつた民を滅ぼすことを、主は許さ

32 まことに、レーマン人の憎惡のものになつたのは、彼らの先祖の言い伝えであり、それは、わたしは、彼らの先祖の言い伝えであり、それは、わたしは、わたしあちから離反した者たちによつて倍加されました。一方あなたがたの罪悪は、あなたがたが誉れと俗世のむなしいものに愛着して生じたものです。そ

うであるのにあなたがたは、主があなたがたの命を救い、レーマン人に対しては裁きを下されると考へられるでしようか。

33 あなたがたは、自分たちが神の律法に背いていることを承知しています。また、神の律法を足の下に踏みつけていることも承知しています。まことに、主はわたしに、『もしあなたがたが総督に選んだ者たちが、自分の罪と不義を悔い改めなければ、あなたがたは上つて行つて彼らと戦いなさい』

と言われます。

34 さてまことに、わたしモロナイは、以前に自分が交わした聖約に応じて、神の命じられたことを果たすように強制されていました。したがつて、あなたがたが神の御言葉に従うこと、またあなたがたの食糧と兵をわたしとヒラマンのもとに速やかに送ることをわたしは願っています。

35 まことに、もしあなたがたがこうしてくださらなければ、わたしは速やかにあなたがたのもとへ行きます。まことに、わたしたちが飢えのために滅びるのを、神は許されないからです。したがつて、たとえ剣によつてであろうと、神はわたしたちにあなたがたの食糧をお与えくださるでしょう。今すぐに神の御言葉を実行に移すように手はずを整えてください。

36 まことに、わたしはあなたがたの司令官、モロナイです。わたしは権力を求めず、むしろそれを引き倒そうとしています。わたしは世の誉れを求めず、むしろ神の栄光とわたしの国の自由と幸いとを求めています。これでわたしの手紙を結びます。』

第 61 章
パホーラン、政府に對する謀反と反抗があることをモロナイに告げる。王政黨の者たち、ゼラヘムヲを奪い、レーマン人じんと同盟を結ぶ。パホーラン、謀反人たちと戦うために軍の援助を要請する。紀元前約六十二年。

1 さて見よ、モロナイは総督に手紙を送った後、

間もなくその総督であるパホーランから返事を受け取つた。彼が受け取つた言葉は次のとおりであつた。
 2 「この地の総督であるわたし、パホーランは、軍の司令官モロナイにこの言葉を送ります。まことに、モロナイ殿、あなたに申しますが、わたしはあなたがひどい苦難を受けていることを喜ばず、むしろ、そのことを深く悲愴でいます。

3 しかしまことに、あなたの苦難を喜んでいる者たちがいます。まことに、彼らはわたしに、またわたしの民の自由党員である人々に反抗して立ち上がりました。反抗して立ち上がつた者はおびただしい数に上ります。

4 わたしからさばきつかさの職を奪い取ろうとした者たちこそ、この大きな罪悪のもとになつたものたちは。彼らは多くの甘言を用い、また多くの人の心を惑わしてきました。これは将来わたしたちの中にひどい苦難を生じる原因になることでしょう。彼らはわたしたちの食糧を差し止め、また自由党の人々の勇気をくじいたので、その人々はあなたのもとへ行けなかつたのです。

5 そしてまことに、彼らはわたしを追い出しました。そこでわたしは、集められるかぎりの多くの人を伴い、ギデオンの地に逃れました。

6 またまことに、わたしは、国のこの地方の至る所に布告を出したので、まことに、人々は武器を取つて自分たちの国と自分たちの自由を守るために、またわたしたちが受けた不当な仕打ちに報復するため、日々わたしたちのもとに群れを成して集まつています。

7 そして、彼らがわたしたちのもとに來たので、わたしたちに謀反を起こした者は脅威を覚えてわたしたちを恐れ、あえてわたしたちに攻めて来ようとはしません。

8 彼らはすでにゼラヘムラの地、すなわちその町を占領し、自分たちを治める王を選びました。そしてその王はレーマン人の王に手紙を書き、彼と同盟を結び、その同盟条約の中でゼラヘムラの町を守り通すことに同意しました。彼は、そこを守り通せばレーマン人が國の残りの部分を征服できると思ひ、またこの民が征服されてレーマン人の支配下に入るべきには、自分がこの民を治める王に任

じられると思つています。

9 ところで、あなたは手紙の中でわたしをとがめました。それはどうでもいいことです。わたしは怒つておらず、むしろあなたの心の広さを喜んでいます。わたしパホーランは、民の権利と自由を守れるようにさばきつかさの職を保つこと以外、何の権力も求めません。わたしは、神がわたしたちを自由な者にしてくださったその自由にしつかりと立っています。

10 ところでもことに、わたしたちは血を流してでも悪に抵抗するつもりです。もしレーマン人が彼らの国にとどまっているならば、わたしたちは彼らの血を流さないでしよう。

11 わたしたちの同胞が謀反を起こさず、わたしたちに対する剣を取らなければ、わたしたちは同胞の血を流さないでしよう。

12 もし神の公正によつて必要とされるならば、または神がわたしたちにそうするように命じにならば、わたしたちは奴隸のくびきを受けましよう。

13 しかしまことに、神は敵に服従するようにとはわ

たちに命じられず、むしろ神に頼るようになります。

14 したがつて、愛する兄弟モロナイ殿、悪を阻止しましよう。そして、言葉で阻止できない悪、すなわち謀反や離反のような悪は剣で阻止し、わたしたちの自由を保てるように、またわたしたちの教会の大きな義と、わたしたちの贖い主、わたしたちの神の大義を喜べるようにしましよう。

15 したがつて、少數の兵を率いてすぐにわたしのもとに来てください。残りの兵はリーハイとテアンクムにその指揮を託し、國のその地方で神の御靈、すなわち彼らの内にある自由の精神に応じて戦いを指揮できるように、彼らに力を与えておいてください。

16 まことに、わたしはすでに彼らに食糧を少し送つておいたので、あなたがわたしのもとに来るまで、彼らは死ぬことはないでしよう。

17 こちらに行軍する間に、できるだけ兵を集めください。そしてわたしたちは、自分たちの内にある信仰により、神の力をもつて速やかに離反者たちを攻めましょう。

18 そしてわたしたちは、リーハイとテアンクムに送る食糧をもつとたくさん手に入れるために、ゼラヘムラの町を占領しましよう。まことに、主の力をもつて彼らと戦いましよう。そして、この大きな罪悪を根絶しましよう。

19 ところで、モロナイ殿、わたしはあなたの手紙を受け取つて喜んでいます。わたしは、わたしたちのなすべきことについて、すなわち同胞と戦うことが正当かどうかについて少々思い悩んでいたからです。

20 ところがあなたは、彼らが悔い改めなければ彼らと戦うように主が命じられたと言いました。

21 主にあつてリーハイとテアンクムを必ず強めるようにしてください。恐れないようには彼らに告げてください。神は彼らを救い、また神が自由な者にしきようだいして救つてくださるからです。これでわたしは愛する兄弟モロナイにあつてたわたしの手紙を結びます。」

21 ① ゼカ10・12
ために進軍する。国を守ることを拒む王政党的者たち、処刑される。パホーランとモロナイ、ニーフアイハの町を取り返す。多くのレーマン人がアンモンの民に加わる。テアンクム、アモロンを殺し、また自分も殺される。レーマン人がその地から追い払われ、平和が確立される。ヒラマン、神の務めに戻り、教会を確立する。紀元前約六十二年から五十七年に至る。

1さて、この手紙を受け取ると、モロナイの心は奮い立ち、またパホーランが自分の國の自由と大義に背く者ではなく忠実であつたので、非常に大きな喜びに満たされた。

2しかし同時に、パホーランをさばきつかさの職から放逐した者たち、要するに、自分たちの國と神に背いた者たちの罪悪を非常に嘆かわしく思つた。3そこでモロナイは、パホーランの望むとおり少數の兵を伴い、軍隊の残りの兵に対する指揮権をリーハイとテアンクムに与えておいて、ギデオンの地に向かつて進軍した。

4また彼は、行く先々のすべての地方で自由の旗を掲げ、ギデオンの地へ向かつて進みながら、でき

モロナイ、ギデオンの地にいるパホーランを助けるた

るだけ多くの兵を集めた。

5 そこで、何千もの人々が彼の旗の下に群れを成して集まり、奴隸にならないよう自由を守るために武器を取つた。

6 このようにして、モロナイは行軍中にできるだけ多くの兵を集めて、ギデオンの地にやつて来た。そして、彼の軍隊が連合したので、彼らは非常に強力になり、ペーカスとは、ゼラヘムラの地も強くなつた。このペーカスとは、ゼラヘムラの地から自由党の人々を追い出してその地を占領し

た、あの離反者たちの王である。

7 そしてモロナイとパホーランは、軍隊を伴つてゼラヘムラの地へ行き、町を攻め、ペーカスの兵と相対して戦つた。

8 そして見よ、ペーカスは殺され、彼の兵は捕虜となり、パホーランは元のさばきつかさの職に戻つた。あの離反者たちの王である。

9 ペーカスの兵は法律によつて裁判を受け、また捕らえられて牢に入れられた。王政党的者たちも、法律によつて裁判を受けた。そして、彼らは法律によつて処刑された。まことに、ペーカスの兵と、

王政党的者のなかで國を守るために武器を取ろうとせず、むしろ國家に反抗して戦おうとした者たちは皆、だれであろうと死刑された。

10 このように、國の安全のためにこの法律を厳しく執行することが必要になつた。そして、人々の自由を阻んでいることが明らかになつた者はだれであろうと、法律によつて速やかに処刑された。

11 このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治三十年が終わつた。この年のうちに、モロナイとパホーランは自由の大義に忠実でないすべての者に死刑を科し、ゼラヘムラの地の彼ら自身の民の中に平和を回復した。

12 さて、二ーファイの民のさばきつかさの統治第三十一年の初めに、ヒラマンが國のその地方を守るのを助けるために、モロナイは彼のもとにすぐに食糧を送らせ、また六千人の兵から成る軍隊を派遣させた。

13 彼はまた、リーハイとテアンクムの軍隊にも十分な食糧とともに六千人の兵から成る軍隊を送つた。これはレーマン人に對して國の防備を固めるために行われたことであつた。

14 さて、モロナイとパホーランは、ゼラヘムラの地に大勢の兵を残しておいて、ニーフアイハの町にいるレーマン人を打ち破ろうと決意し、大勢の兵を率いてニーフアイハの地を指して進軍した。

15 そして彼らは、その地へ進軍しながら、途中でレーマン人の兵を大勢捕らえ、多くの者を殺し、また彼らの食糧と武器を奪つた。

16 そして彼らは、これらの者を捕らえた後、二度とニーフアイ人に対して武器を取らないという誓いを彼らに立てさせた。

17 そして、これらの者が誓いを立てると、彼らはこれらの人々をアンモンの民とともに住めるように送り出した。このときに殺されなかつた者は、およそ四千人であつた。

18 さて、彼らはこれらの者を送り出してしまうと、ニーフアイハの地を指して進軍を続けた。そして、ニーフアイハの町に着くと、町に近いニーフアイハの平原に天幕を張つた。

19 モロナイは、レーマン人が出て来て平原で戦うことを見た。しかしレーマン人は、モロナイの兵が非常に勇敢であるのを知つており、また人数も

20 夜になると、モロナイは暗闇の中を出て行き、城壁の上に登つて、レーマン人が町のどこに軍隊を宿營させているかを探つた。

21 さて、彼らは、東の方の入り口のそばにおり、全員眠つていた。そこでモロナイは自分の軍へ引き返し、兵たちに急いで丈夫な縄とはしごを幾つも準備させた。城壁の上から内側に降ろすためであつた。

22 そしてモロナイは、兵を出して城壁の上に登らせ、レーマン人が軍隊を宿營させていない町の西方に彼らを降ろした。

23 そして彼らは皆、夜の間に丈夫な縄とはしごを使つて町の中に降りたので、朝には、全員が町の城壁の内側に入つていた。

24 そしてレーマン人は目を覚まし、モロナイの軍隊が城壁の内側に入つてゐるのを見ると、非常に驚き恐れ、間道を通つて外へ逃げ出した。

25 モロナイは、彼らが自分の前から逃げるのを見て、兵を彼らに向かわせた。兵は多くの者を殺し、

また多くの者を取り閑んで捕虜にした。そのほかの者たちは海岸に近い地方にあるモロナイの地へ逃げた。

26 このようにして、モロナイとパホーランは味方を一人も失うことなく、ニーフアイハの町を手に入れた。しかし、レーマン人は多くの者が殺された。^①

27 さて、捕虜になつたレーマン人の多くは、アンモンの民に加わつて自由な民になることを願つた。

28 そして、願つた者は皆、願いどおりに認められた。

31 ここでレーマン人は、モロナイが攻め寄せて来るのを見て、またもや肝をつぶし、モロナイの軍隊の前から逃げ出した。

32 ここで、モロナイと彼の軍隊は町から町へと彼らを追撃し、追われたレーマン人はリーハイとテアンクムに出会うことになつた。そしてレーマン人は、リーハイとテアンクムからも逃げて海岸に近い地方へ逃れて行き、ついにモロナイの地に至つた。

33 このようにして、レーマン人の軍隊はすべて集まり、モロナイの地で一団となつた。レーマン人の王アモロンも彼らとともにいた。

34 そして、モロナイとリーハイとテアンクムが彼らの軍隊を率いてモロナイの地の境一帯に陣を張つたので、レーマン人は南方の荒れ野によつて、また東方の荒れ野によつて、その地に包囲されてしまつた。

35 この状態で、夜ニーフアイ人は宿営した。見よ、ニーフアイ人もレーマン人も強行軍で疲れ切つていたので、その夜は何の戦略も決めず、ただテアンクムだけがそれを考えていた。彼はアモロンのことをひどく怒り、アモロンと彼の兄弟のアマニーフアイハの地からリーハイの地へ向かつた。

27 ① GS 「アンタイ・ニーフアイ人」

リキヤこそがニーファイ人とレーマン人の間のこの長い期の大戦のもとであり、このようにひどい戦争と流血と、またこのようにひどい飢饉のもとであると考えた。

36 そしてテアンクムは、怒つてレーマン人の宿営に入つて行き、町の城壁を越えて下に降りた。そして彼は、繩を持つてあちらこちらへ行き、ついに王を捜し出した。そこで彼は、王をねらって投げ槍を投げ、心臓のそばを貫いた。しかし見よ、王が死ぬ前に部下を起こしたので、テアンクムは彼らに追われて殺されてしまった。

37 さて、リーハイとモロナイは、テアンクムが死んだことを知つて非常に悲しんだ。見よ、テアンクムは自分の国のために勇ましく戦つた人であり、自由のまことの友であつたからである。彼はこれまで非常に多くのひどい苦難に耐えてきた。しかし見よ、今は死んで、世のすべての人の行く道を行つた。

38 そして翌日、モロナイは進軍してレーマン人を攻め、モロナイの兵はレーマン人を大勢殺し、その地からレーマン人を追い払つた。そして、レーマ

ン人は逃げ出し、そのときには、戻つて来てニーファイ人と戦うことはしなかつた。

39 このようにして、ニーファイの民のさばきつか年の中、戦争と流血と飢饉と苦難に遭つてきたが、それは以上のとおりである。

40 ニーファイの民の中には、殺人と争いと不和とあらゆる罪悪があつた。それでも義人がいたために、まことに、義人の祈りのおかげで彼らは救われた。

41 しかし見よ、ニーファイ人とレーマン人の間の戦争が非常に長期に及んだため、多くの者がかなくなになつた。戦争が非常に长期に及んだためにそうなつたのである。しかし、苦難を受けたために柔和になつた者も多く、彼らは神の前に心底謙遜にへりくだつた。

42 さて、モロナイは、レーマン人の攻撃をきわめて受けやすい何か所かの地方の防備を固め、それらの地方が十分堅固になると、ゼラヘムラの町へ帰つた。また、ヒラマンも彼の受け継ぎの地へ帰つた。そして、ニーファイの民の中に再び平和が確

立^り
された。

43 モロナイは、軍の指揮権をモロナイハという名の息子の手にゆだねた。そして彼は家に引きこもり、余生を安らかに送ることにした。

44 パホーランは元のさばきつかさの職に戻つた。またヒラマンも、神の言葉を民に宣べ伝える務めに就いた。このように多くの戦争と争いがあつたので、再び教会内の統一を図ることが必要になつた。

45 そこで、ヒラマンと彼の同僚たちは出て行つて、多くの人に各自の悪を自覺させるため、非常に力強く神の言葉を告げ知らせた。その結果、人々は罪を悔い改めてバブテスマを受け、主なる神の民となつた。

46 そして、ヒラマンと彼の同僚たちは、全地の至る所に再び神の教会を確立した。

47 そして、法律について数々の条例が定められた。再び非常に力をつけるようになつた。そして彼らが選ばれた。

48 ニーフアイの民は再び地で榮え始め、増え始め、再び非常に力をつけるようになつた。そして彼らは大変豊かになつた。

49 しかし彼らは、富と力と繁栄を得たにもかかわらず、高慢な目をもつて高ぶることなく、主なる神を忘れることもなく、主の前に深くへりくだつた。

50 まことに彼らは、主が自分たちのためにどれほど大いなることを行つてくださつたかを忘れず、主が自分たちを死から、束縛から、牢から、あらゆる苦難から救い出してくださつたことを忘れなかつた。からも救い出してくださつたことを忘れなかつた。

51 そして彼らは、主なる神に絶えず祈つたので、主は御言葉とのおりに彼らを祝福された。そのため、彼らはその地で力をつけ、榮えた。

52 さて、これらのこととはすべて以上のとおりになつた。そしてヒラマンは、ニーフアイの民のさばきつかさの統治第三十五年に死んだ。

第 63 章

シブルンが聖なる記録を所有し、後にヒラマンが所有する。多くのニーフアイ人が北方の地へ行く。ハゴス、何隻もの船を造り、それらの船は西の海に出る。モロナイハ、戦いでレーマン人を打ち破る。紀元前約五十六年から五十二年に至る。

1さて、ニーファイの民のさばきつかさの統治第
三十六年^{ねん}はじめに、シブロンは、アルマがヒラマン
に渡した神聖な品々を所有することになった。

2シブロンは正しい人であつて、神の前をまつす
ぐに歩んでいた。そして、絶えず善を行ひ、主なる
神の戒めを守るよう努めた。彼の兄弟もまた同
様であった。

3さて、モロナイもまた死んだ。このようにして、
さばきつかさの統治第三十六年^{ねん}が終わった。

4さて、さばきつかさの統治第三十七年には、ゼ
ラヘムラの地から北方の地へ旅立つた大きな一団
があつた。その一団は五千四百人の男たちと、彼ら
の妻子から成つていた。

5さて、ハゴスという人がおり、彼は非常に技量
の優れた人であつたので、出かけて行つて、デソレ
シヨンの地に近いバウンティフルの地の境で一隻の
非常に大きな船を建造し、それを西の海に進水さ
せた。そこは北方の地へ通じている地峡の近くで
あつた。

6そして見よ、多くのニーファイ人がそれに乗り
込み、たくさんの食糧を持って船出した。多くの
妻と子供も一緒であつた。そして、彼らは北方へ進
路を取つた。このようにして、第三十七年が終わ
つた。

7第三十八年に、この人はほかにも何隻か船を建
造した。最初の船が戻つて来ると、また多くの人が
それに乗り込み、彼らもたくさん食糧を持つて再び北方の地へ出発した。

8そして、彼らの消息は絶えてしまつた。思う
に、彼らは海の深みに沈んでおぼれてしまつたので
ある。また、ほかにも一隻が船出したが、それも
どこへ行つたかわざたちには分からぬ。

9そして、この年に多くの人が北方の地へ行つた。
そして、第三十八年が終わつた。

10さて、さばきつかさの統治第三十九年に、シブ
ロンも死んだ。コリアントンは、北方の地へ行つた
人々に食糧を届けるために船でその地へ出かけて
行つた。

11そこでシブロンは死ぬ前に、ヒラマンの息子に神
聖な品々を託さなければならなかつた。ヒラマン
のこの息子は、父の名にちなんで名付けられ、ヒ
ラマンと呼ばれていた。

11	9	①	エテ ¹⁰	5	4	GS ^②	1
「ヒラマン書」 ¹¹	書	アラ ²²	アラ ³⁸	1	12	12	2

1書を参照の前

12さて見よ、ヒラマンが所有した版に刻まれた記録は、^②おやけ公にしてはならないとアルマが命じた部分を除いて、すべて書き写されて全地の至る所の人の子らに送られた。

13それでも、これらの品々は神聖に保ち、代々伝えなければならぬので、この年に、シブロンが死ぬ前にヒラマンに託されたのである。

14さて、この年にレーマン人のもとへ去つて行つた何人かの離反者がおり、レーマン人はまたそ
のかされてニーフアイ人に対して怒つた。
15そしてこの同じ年に、^①彼らはモロナイハの民、いや、モロナイハの軍隊と戦うために大軍で下つて来た。しかし、彼らは打ち負かされ、大きな損害を受け自分たちの国へ追い返された。

16このようにして、ニーフアイの民のさばきつかさの統治第三十九年が終わつた。

17これで、アルマと、息子ヒラマンと、アルマの息子シブロンについての話は終わつた。

15 13 12
①①②①

アルル

62 37 37 18

43 4 27 36

ヒラマン書

り、ゼラヘムラを取り返す。コリアンタマー、殺される。紀元前約五十二年から五十年に至る。

ニーファイ人についての話。彼らの戦争と争いと、彼らの不和についての話。キリストの来臨前、多くの聖なる預言者たちの預言についての話。ヒラマンの息子であるヒラマンの記録、および彼らの記録によるもので、キリストの来臨の時にまで至る。また、多くのレーマン人が改宗する。彼らの改宗についての記事。レーマン人の義、およびニーフアイ人の悪事と忌まわしい行いについての記事。ヒラマンと彼の息子たちの記録によるもので、キリストの来臨の時にまで至る。この記録はヒラマン書と呼ばれる。

パホーラン二世、大きさになり、キシクメンに殺される。パクメナイ、さばきつかさの職に就く。コリアンタマー、レーマン人の軍隊を率いてゼラヘムラを奪い、パクメナイを殺す。モロナイハ、レーマン人を破る

第1章

1さて見よ、ニーフアイの民のさばきつかさの統治だい四十年の初めに、ニーフアイ人の民の中に一つのじゅうだいもんだい問題が起つた。
2見よ、パホーランが死んで、世のすべての人の行く道を行つてしまつたので、だれがさばきつかさの職に就くべきかについて、パホーランの息子たちである兄弟の中で深刻な争いが起つたからである。
3さばきつかさの職のために争つて、民をも争わせたこの兄弟たちの名は、パホーラン、パアンカイ、パクメナイという。
4パホーランの息子はこの三人だけではない。(彼には多くの息子がいた)しかし、さばきつかさの職のために争つたのはこの三人であり、彼らは民を三つの集團に分裂させてしまつた。

5それでも、パホーランが民の声によつて大きさきつかさとなり、ニーフアイの民を治める総督となるよう任命された。

6そしてパクメナイは、自分がさばきつかさの職を

得られないことを知ると、民の声に同意した。

7 しかし見よ、パーンカイと、彼が総督になることを願った民の一部の者たちは、非常に怒つた。そのため彼は、その人々にへつらって、同胞に対して謀反を起させようとした。

8 そして彼は、まさにそれを実行しようとしたときには、見よ、捕らえられ、民の声によつて裁かれ、死刑を宣告された。彼が謀反を起こし、民の自由を損なおうとしたからである。

9 ところが、彼が総督になることを願つた者たちは、彼に死刑が宣告されたことを知つて怒つた。そして見よ、彼らは、キシクメンという者をさばきつかさの職にあるパホーランのもとに遣わし、さばきつかさの席に着いているパホーランを殺した。

10 パホーランの従者たちはキシクメンを追いかけて、見よ、キシクメンの逃げ足が非常に速かつた

11 そして、彼は自分を行かせた者たちのところに帰り、彼らは全員誓いを立てた。すなわち、彼らはキシクメンがパホーランを殺したことをだれにも話さないと、自分たちの永遠の造り主にかけて、

誓つたのである。

12 そのためキシクメンは、パホーランを殺したとき姿を変えていたので、ニーファイの民に知られることはなかつた。そしてキシクメンも、彼と誓つた仲間も、見つかることのないよう民の中に交じつていたが、見つかつた者は皆、死刑を宣告された。

13 さて見よ、パクメナイが民の声によつて大さばきたつかさとなり、民の総督となるように任命され、彼の兄弟パホーランに代わつて治めることになつた。それは彼の権利にかなつていて、これはすべてさばきつかさの統治第四十年にあつたことであり、この年は終わつた。

14 さて、さばきつかさの統治第四十一年に、レーマン人はおびただしい数の兵を集め、剣と二日月刀、弓、矢、かぶと、胸当て、それにあらゆる盾で武装させていた。

15 そして彼らは、ニーファイ人と戦うためにまたもややつて來た。彼らはコリアンタマーという名の男に率いられていた。この男はゼラヘムラの子孫であり、ニーファイ人からの離反者であつて、大きな強い男であった。

16 それで、アモロンの息子で名をツバロスというレーマン人の王は、コリアンタマーが強い男であり、彼の力と深い知恵でニーファイ人に立ち向かえると思ったので、彼を行かせてニーファイ人を支配する権力を得ようとした。

17 そこでツバロスは、レーマン人を扇動して怒らせ、自分の軍隊を集め、コリアンタマーを軍隊の指揮官に任命して、ニーファイ人と戦うために彼らをゼラヘムラの地へ進軍させた。

18 さて、ニーファイ人は、政府内に多くの争いと多くの問題があつたので、ゼラヘムラの地に十分な見張りの兵を配置していなかつた。彼らはレーマン人があえて自分たちの地に入つて来て、この大きな町ゼラヘムラを攻撃することはないと思つていたからである。

21 さて、大さばきつかさであつたパクメナイは、コリアンタマーから逃れて町の城壁の所まで行つた。しかし、そこで城壁に寄りかかつた状態でコリアンタマーに討たれ、死んだ。このようにして、パクメナイの生涯は終わつた。

22 コリアンタマーは、ゼラヘムラの町が手に入つたのを見て、またニーファイ人がレーマン人の前から逃げ出し、殺され、捕らえられ、牢に入れられなどして、自分が全地でも最も堅固なとりでの占領を終えたのを見て、心が奮い立ち、全地に向かつて出て行こうとした。

23 そして、彼はゼラヘムラの地に長居せず、大军を伴つてバウンティフルの町に向かつて進軍した。それは、進んで行つて剣で道を切り開き、國の北部も手に入れようと決意していたからである。

24 また彼は、ニーファイ人の軍隊の主力が國の中央部にいると思つていたので、ニーファイ人が幾つかの小さな軍隊に集まる以外に集まる暇のないよう進軍した。このようにして、彼らはニーフ

アイ人を攻め、地に切り倒したのであつた。

25 しかし見よ、國の中央部を通たこのコリアンタマーの進軍は、殺されたニーフアイ人がおびただしい數に上つたにもかかわらず、彼らに対してモロナイハを非常に有利な立場に置くことになつた。

26 見よ、モロナイハは、レーマン人があえて國の中央部に入つて來ることはなく、これまで行つてきたようによ、境の地の方々の町を攻撃して來るであろうと思ひ、ニーフアイ人の強い軍隊に境の地の方々を守らせていたからである。

27 しかし見よ、レーマン人は彼の願つたように恐れず、國の中央部に入つて來て首府であるゼラへムラの町を奪い、國の最も重要な地方を経由して進みながら、男、女、子供の区別なく民を大勢殺し、多くの町と多くのとりでを占領した。

28 モロナイハはこれを知り、彼らがバウンティフルの地へ達する前に遠回りして彼らの進路を断つため、すぐにリーハイを軍隊とともに派遣した。そして、リーハイはそのように行つた。彼はレーマン人がバウンティフルの地に達する前に、彼らの進路を断つて攻撃したので、彼らはゼラヘムラ

の地に向かつて退却し始めた。

30 そこでモロナイハも、退却中の彼らの退路を断つて攻撃した。そのため、非常に血なまぐさい戦いになつた。まことに、多くの者が殺され、殺された者たちの中にコリアンタマーもいた。

31 さて見よ、レーマン人はあらゆる方向からニーフアイ人に取り囲まれたので、北にも、南にも、東にも、西にも、どの方向にも退却できなかつた。

32 このように、コリアンタマーがレーマン人をニーフアイ人のただ中へ突入させたので、彼らはニーフアイ人の手中に落ちて、コリアンタマー自身も殺されてしまつた。そして、レーマン人はニーフアイ人に降伏した。

33 そこでモロナイハは、ゼラヘムラの町を取り返し、捕虜になつたレーマン人を安らかに国外へ去らせた。

34 このようにして、さばきつかさの統治第四十一年が終わつた。

ヒラマンの息子ヒラマン、だいさばきつかさになる。ガ

第二章

デアントン、キシクメンの団を率いる。ヒラマンの僕が
キシクメンを殺し、ガデアントンの団は荒れ野へ逃げ
る。紀元前約五十年から四十九年に至る。

デアントン、キシクメンの団を率いる。ヒラマンの僕が

なつた。

5そこで彼は、仲間とキシクメンとをおだてて、も
し自分をさばきつかさの職に就かせてくれるなら
ば、團に所属する者たちを民の中で権力と権威の
ある地位に就かせようと言つた。そこでキシクメン
はヒラマンを殺そうとしたのである。

6さて、キシクメンがヒラマンを殺すためにさばき
つかさのもとへ向かつていたとき、見よ、ヒラマン
の僕に会つた。この僕は、前に夜出て行つて姿を変
えてこの團に紛れ込み、この團がヒラマンを殺すた
めに企てた計画を知つていた。

7そこで彼は、キシクメンに会うと合図を送つた。
それでキシクメンは自分がしようとしていることを
打ち明け、ヒラマンを殺せるように自分をさばき
つかさの席に案内してもらいたいと言つた。

8ヒラマンの僕はキシクメンの心がすべて分かつ
た。人を殺すことが彼の目的であり、また人を殺
し、盗み、権力を得ることが彼の團に所属してい
るすべての者のものもくべきである。（これが彼らの陰謀
である。）ヒラマンの僕はこのことを知ると、キシクメンに、「さばきつかさの職に就くべきかにつ
いて、民の中に再び争いが起つた。

2そして、ヒラマンの息子であるヒラマンが、民の
声によって選ばれ、さばきつかさの職に就いた。

3しかし見よ、以前にパホーランを殺したキシク
メンは、ヒラマンをも殺そうとして待ち伏せした。

彼は自分の仲間に支援され、その仲間はだれにも
キシクメンの悪事を知らせないと誓いを立てて
いた。

4多くの言葉を非常に巧みに操り、またひそかに
殺人と強盜を行ふ悪知恵にも非常にたけていたガ
デアントンという者がいた。この男はこのように
巧みな者であつたので、キシクメンの団の首領に

へ行こう」と言つた。

9 キシクメンはこれを非常に喜んだ。自分の企てを遂げられると思つたからである。ところが見よ、さばきつかさの席へ行く途中、ヒラマンの僕がキシクメンを心臓まで突き刺したので、キシクメンはうめき声さえ立てずに死んで倒れた。そこで、ヒラマンの僕は走つて行き、自分が見たこと、聞いたこと、行つたことをすべてヒラマンに告げた。

10 そこでヒラマンは、この強盗団の者たちを法津によつて処刑するために、人々を送つて彼らを捕らえようとした。

11 しかし見よ、ガデアントンは、キシクメンが帰つて来ないのを知ると、自分が殺されることになるのではないかとひどく心配になり、仲間に自分について来るようになつた。そして彼らは、間道を通つてその地から荒れ野へ逃げ出した。したがつて、ヒラマンが彼らを捕らえるために人々を送つたときには、彼らはどこにもいなかつた。

12 このガデアントンのことは、後でもつと述べることにする。このようにして、二ーファイの民のさば

きつかさの統治第四十二年が終わつた。

13 そして見よ、あなたがたはこの書の終わりで、このガデアントンがニーファイの民を覆す、まことにほんと完全に滅ぼしてしまう元になることを知るであろう。

14 見よ、わたしが言つるのは、ヒラマン書の終わりではなく、わたしがこれまで書いてきたすべての話のもとであるニーファイの書の終わりのことである。

第3章

多くのニーファイ人が北方の地へ移住する。彼らはセメントで家を造り、また多くの記録を記す。数万人が改宗し、バブテスマを受ける。神の言葉は人を救いに導く。ヒラマンの息子ニーファイ、さばきつかさの職に就く。紀元前約四十九年から三十九年に至る。

1さて、さばきつかさの統治第四十三年には、二ーファイの民の中にまつたく争いがなかつた。ただ教員の中にも少し高慢があり、それが民の中に多少の不和を引き起しこしたが、第四十三年の終わりにはその問題は解決した。

2また、第四十四年には民の中にまつたく争いが

なく、第四十五年にもひどい争いはなかつた。

3さて、第四十六年には、ひどい争いと多くの離反があつた。そのため、ゼラヘムラの地を去り、北の地へ行つてそこに住もうとした者が非常に勢いた。

4彼らは非常に遠くまで旅をし、幾つもの大きな湖沼と多くの川のある所に着いた。

5そして、彼らはその地の全域に広がつた。以前にその地に住んでいた多くの者のために荒らされ

ておらず、樹木もなくなつていない方々の地方に広がつた。

6その地はどこも樹木のほかは少しも荒れていなかつた。しかし、前にその地に住んでいた人々の滅亡がひどかつたので、荒れ果てた地と呼ばれた。

7その地の面には樹木がほとんどなかつたので、そこへやつて来た人々はセメントの工事が非常に上手になつた。そこで彼らは、セメント造りの家を建てて住んだ。

8そして彼らは増え、広がり、南方の地から北方の地へ移り、広がつたので、南の海から北の海まで、西の海から東の海まで、全地の面を覆い始めた。

9北方の地にいた人々は天幕やセメント造りの家に住んでいた。そして彼らは、その地の面に生える木はどんなものでも育てるようにして、将来材木を得て自分たちの家を建てられるように、まことに自分たちの町を築き、自分たちの神殿や会堂、聖堂、

そのほかあらゆる建物を建てられるようにした。10そして、北方の地には材木が非常に乏しかつたので、南方の地の人々は船で多くの材木を送つた。

11このようにして、彼らは北方の地の人々が、多くの町を木とセメントの両方で建設できるようにした。

12そして、生まれがレーマン人であつたアンモンの民も、多くの者がこの地に移つた。

13ところで、この民の多くの者がこの民の行つてきたことを書き続けてたくさん記録を残してお

り、その記録は詳細で非常に大部である。

14しかし見よ、この民が行つてきたことの百分の一も、この書に載せることができない。すなわち、レーマン人についての話と二ーフアイ人にについての話、彼らの戦争と争いと不和、宣教と預言、海運と船の建造、神殿と会堂と聖堂の建設、義と悪、

14	12	10	8	6	4	3
①	①	①	②	①	モル	モサ
アル	63	27	22	21	4	8
ニフ	5	21	5	27	25	4
ヤコ	17	16	26	8	32	27
11						

殺人と強盜と略奪、あらゆる忌まわしい行いとみだらな行い、これらについての話の百分の一も載せることはできない。

15 しかし見よ、多くの書とあらゆる多くの記録がある。これらはおもにニーファイ人が書き記してきたものである。

16 そして、ニーファイ人が戒めに背き、殺され、略奪され、狩り出され、追い出され、虐殺され、地の面に散らされ、レーマン人と交じつてもはや二ノアイ人と呼ばれなくなり、邪悪で野蛮で残忍になり、まことにレーマン人になつてしまふまで、これらはニーファイ人によつて代々伝えられてきた。17さて、わたしの話を戻ろう。わたしがこれまで述べたことは、ニーファイの民の中にひどい争い、騒動、内戦、不和があつた後に起つたことである。

18 さばきつかさの統治第四十六年が終わつた。

19 そして、この地にはなお、第四十七年にも、第四十八年にもひどい争いがあつた。

20 それでもヒラマンは、公正と公平をもつてさばきつかさの職を務めた。まことに彼は、神の掟と裁

けと戒めを守るように努めた。そして、引き続き神の目から見て正しいことを行つた。また彼は、自分の父の道を歩んだので、この地で榮えた。

21さて、彼には一人の息子があり、兄にニーフアイという名を付け、弟にリーハイという名を付けた。そして、一人は成長して主の役に立つようになつた。

22 そして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第四十八年の末には、ニーファイ人の民の中の内戦と争いは多少收まり始めた。

23 さて、さばきつかさの統治第四十九年には、秘密結社を別にして、国内は引き続き平和が確立されてゐた。強盗のガデアントンは、人々が住んでゐる地域の大半すでにこの秘密結社を設けていたが、当時この秘密結社は、政府の指導的な立場にある人々には知られてゐなかつたので、この国から駆逐されていなかつた。

24 そして、この同じ年に、教会は非常に大きな発展を遂げ、数千人が教会に加わつて悔い改めのためのバプテスマを受けた。

25 教会の発展は著しく、また人々に注がれた祝福

23	宣教師	①ヒラ	16
24		②GS	17
		③「ニーファイの息子」	18
		④GS「リーハイ」	19

はとても多く、大祭司たちや教師たちでさえ非常に驚いたほどであった。

26 そして、主の業は発展し、バプテスマを受けて神の教会に加わった人は多く、まことに数万人に及んだ。

27 これによつて分かるように、主は、真心から主の聖なる名を呼ぼうとするすべての人に憐れみをかけられる。

28 まことに、これによつて分かるように、天の門はすべての人々に、言い換えれば、神の御子イエス・キリストの名を信じようとする人々に開かれているのである。

29 まことに、望む者はだれでも、神の言葉を手に入れることができるといつことも、わたしたちに分かることである。この神の言葉は生きていて力があり、悪魔の悪知恵とわなと策略をことごとく断つ。また、悪人をのみ込むために備えられている、あの不幸の永遠の淵を横切る細くて狭い道にあつて、キリストの人を導き、

30 また彼らを、まことに彼らの不滅の靈を天の王国におられる神の右に至らせ、もはや外に出される

ことなく、アブラハム、イサク、ヤコブ、およびわたしたちのすべての聖なる先祖とともに座に着かせるものである。

31 この年には、ゼラヘムラの地と周辺のすべての地方、まことにニーフアイ人が所有していた全地に引き続き喜びがあつた。

32 そして、第四十九年の残りの期間は平和であり、非常に大きな喜びがあつた。また、さばきつかさの統治第五十年も引き続き平和であり、大きな喜びがあつた。

33 さばかりつかさの統治第五十一年も、教会の中に入り込んできた高慢を別にすれば、平和であつた。教会の中に入り込んできたと言つたが、神の教会の中ではなく、神の教会に属していると公言する人々の心の中に入り込んできたのである。

34 そして彼らは高慢になり、多くの兄弟たちを迫害するようになつた。これは大きな惡であり、このために彼らよりも謙遜な人々はひどい迫害を受け、多くの苦難を踏み越えなければならなかつた。

35 それでも彼らは、しばしば断食して祈り、ますます謙遜になり、ますますキリストを信じる信仰

35	34	30	29
③	②	①	①
GS	GS	GS	GS
「諫遜」	「祈り」	「断食」	「マタ」
34	33	30	28
34	33	30	11
34	33	28	12
34	33	28	17
34	33	28	17

を確固としたものにしたので、喜びと慰めで満たされ、まことに清められ、心の聖めを受けた。この聖めは、彼らが心を神に従わせたために受けたのである。

36 そして、第五十二年も平穩に終わったが、民の中には大変にひどい高慢が入り込んでいた。それは彼らが非常に豊かに富み、その地で栄えていためであり、それは日に日に募つてきた。

37 さて、さばきつかさの統治第五十三年にヒラマンが死んで、彼の長男ニーフアイが彼に代わつて治め始めた。彼は公平をもつてさばきつかさの職を務め、まことに、神の戒めを守り、自分の父の道を歩んだ。

1 さて、第五十四年に教会内に多くの不和があつ

た。また、民の中にも争いがあり、多くの流血があつた。
 2 そして謀反を起こした者たちは、殺されたり、国から追放されたりした。そこでこれらの者は、レーマン人の王のもとへ行つた。
 3 そして彼らは、レーマン人を扇動してニーフアイ人と戦わせようとしたが、見よ、レーマン人は非常に恐れて、離反者たちの言葉を聽こうとしなかつた。
 4 ところが、さばきつかさの統治第五十六年にも、ニーフアイ人のもとからレーマン人のもとへ行つた離反者たちがおり、彼らはほかの者たちとともに、レーマン人を扇動してニーフアイ人に対して怒りを抱かせるのに成功した。そこで、彼らはその年の間に、戦争の準備をした。

5 第五十七年に、彼らはニーフアイ人のもとに来て戦い、死の業を開始した。そして、さばきつかさの統治第五十八年に、彼らはゼラヘムラの地と、またバウントイフルの地に近い地方まですべての地を占領することに成功した。

6 そして、ニーフアイ人とモロナイハの軍隊は、バウンティフルの地に追い込まれた。

7 そこで彼らは、西の海から東の海に至るまで、その地でレーマン人にに対する防備を固めた。彼らが北の地を守るために防備を固めて軍隊を配備した。その境界線上では、西の海から東の海まで、二十一ファイ人が一日旅をすれば行ける距離であつた。

8 このようにして、二ーファイ人の離反者たちは、レーマン人の大軍の助けを得て、南方の地にあるニーファイ人の領土をすべて手に入れたのであつた。これはすべて、さばきつかさの統治第五十八年と第五十九年にあつたことである。

9 さて、さばきつかさの統治第六十一年に、モロナイハは軍隊をもつてその地の多くの地方を手に入れることに成功した。まことに、彼らはレーマン人の手に落ちていた多くの町を取り返した。

10 そして、さばきつかさの統治第六十一年には、彼らは自分たちの全領土の半分まで取り返すことに成功した。

11 ところで、二ーファイ人の被つたこの大きな損害と、彼らの中で行われたひどい殺戮は、彼らの中にあつた悪事と忌まわしい行いがもしもなかつたならば、起こらなかつたであろう。この悪事と

12 彼らは非常に富んでいたために心が高慢になり、また飢えている者に食物を与えて、着るものない者に着る物を与えず、謙遜な同胞の頬を打つなどして貧しい者を虐げ、神聖なものを使ひけり、預言と啓示の靈を否定し、人を殺し、略奪し、偽りを言い、盜み、姦淫を犯し、ひどい争いを起こし、ニーファイの地へ逃げて行つてレーマン人に加わつたために、

13 すなわち、彼らはこのように大きな悪事を行つたために、また自分の力を誇つたために、自分の力しか頼れない状態に置かれたのであつた。したがつて、彼らは榮えることなく、苦しめられ、悩まされ、レーマン人の前から追い出されて、とうとうほとんどすべての所有地を失つてしまつた。

14 しかし見よ、モロナイハは民が罪悪を犯していたので彼らに多くのことを説き、またヒラマンの息子である二ーファイとリーハイも民に多くのことを説き、また彼らの罪深い状態と、罪を悔い改めなければ彼らに起こることについて、多くのことを

預言した。

15 そこで、彼らは悔い改めた。そして、悔い改めた程度に応じて榮え始めた。

16 モロナイハは民が悔い改めたのを見ると、大胆に

もあちらこちらに、また町から町へと彼らを率いて行き、ついに彼らは自分たちの所有物の半分とすべきの所有地の半分を取り返した。

17 このようにして、さばきつかさの統治第六十一年が終わった。

18 さて、さばきつかさの統治第六十二年には、モロナイハはそれ以上レーマン人から領土を取り返すことができなかつた。

19 それで彼らは、残りの土地を手に入れる計画を断念した。レーマン人が非常に大勢であつたので、

ニーファイ人は彼らに勝つて勢力を得ることができなかつたからである。そこでモロナイハは、それまでに取り返した地方を守るために、自分の全軍を使つた。

20 そして、レーマン人の数が非常に多かつたので、ニーファイ人は打ち負かされ、踏みにじられ、殺され、滅ぼされるのではないかとひどく恐れた。

21 まことに彼らは、アルマの預言とモーサヤの言葉を思い出し始めた。そして彼らは、自分たちが強情な民であつたこと、また神の戒めを軽んじてきたこと、

22 自分たちがモーサヤの法律、すなわち主が民に与えるようにとモーサヤに命じられた法律を変更し、足で踏みつけたことを知つた。また彼らは、自分たちの法律が不正なものになつてしまつたこと、そして自分たちが邪悪な民になつてしまつたために、まさにレーマン人のように悪くなつていることを知つた。

23 また、彼らの罪惡のために、教会は衰え始めていた。そして彼らは、預言の靈と啓示の靈を信じなくなり、神の裁きは彼らの目前に迫つていた。

24 彼らは、自分たちが同胞のレーマン人のように弱くなつてしまつたこと、また主の御靈がもはや自分たちを守つてくださらないことを知つた。まことに、主の御靈は清くない宮にはとどまらないので、彼らから去つてしまわれたのである。

25 したがつて主は、奇跡を起こすたぐいない力で彼らを守ることをおやめになつた。彼らが不信仰な、

ひどい邪惡な状態に陥つて いたからである。またかれらは、レーマン人が自分たちよりもはるかに大勢であり、もし自分たちが主なる神に堅くすがらなければ必ず滅びるに違ひないということを知つた。見よ、彼らは、レーマン人の兵力が自分たちの兵力と同等であり、一人一人を比べても同等であつたのである。このように彼らは大きな背きに陥つて いた。まことに、彼らは背きに陥つたので、このように、わざかな歳月で弱くなつてしまつたのであつた。

第5章

二ーファイとリーハイ、宣教に専念する。この二人の名は、先祖に倣つて生活するようになつたのである。キリストは悔く改める人々を贖われる。二ーファイとリーハイ、多くの人を改宗させ、投獄され、火に包まれる。暗黒の雲が三百人を覆う。大地が揺れ動き、悔い改めるよう命じる声が人々に聞こえる。二ーファイとリーハイ、天使たちと語り、群衆は火に包まれる。紀元前約三十年。

1さて、この同じ年に、見よ、二ーファイはセゾーラムという名の人々にさばきつかさの職を譲つた。2それは、二ーファイ人の法律と彼らの政体が民の声によつて定められ、悪を選んだ者が善を選んだ者よりもはるかに大勢であつたために、法律が改悪されて彼らの滅亡の機が熟していたからである。

3また、これだけではない。彼らは強情な民であつたので、法律によつても正義によつても彼らを治めることができず、ただ滅亡があるのみであつた。

4そして二ーファイは、彼らの罪悪にうんざりしてしまつた。そこで彼はさばきつかさの職を譲り、神の言葉を宣べ伝える務めに余生をささげた。また、彼の弟リーハイも同じ務めに余生をささげた。5彼らは父ヒラマンが自分たちに語つた言葉を思い出したからである。ヒラマンが語つた言葉は次のとおりである。

6「見よ、わが子らよ、わたしはあなたたちが神の戒めを守ることを忘れないようにと願つて いる。また、次の言葉を民に告げ知らせてもらいたい。見よ、わたしは、エルサレムの地からやつて来たわたしたちの

4	2	1	26 25
①	②	①	ヒラ ②
アル	モサ	ヒラ	ヤコ 6
4	10	29	アル 46
15	19	25	3 8, 5
20	27		3 4

最初の先祖の名を、あなたたちに付けた。わたしがこうしたのは、あなたたちが自分の名を思うときに先祖を思い起せるように、そして先祖を思い起こすときに先祖の行いを思い起せるように、そして先祖の行いを思い起こすときに、先祖の行いが善かつたことがどのように言い伝えられ、書き記されていふかかるようにするためである。

7 わが子らよ、あなたちは先祖について言い伝えられ、書き記されてきたように、自分たちについても言い伝えられ、書き記されるように善いことをしてもらいたい。

8 わが子らよ、見よ、あなたたちに望むことがもう少しはある。それは、誇るためこれらのことを行うのではなく、まことに永遠の消えてなくなることのない宝を自分自身のために天に蓄えるため、これらのことを行ふようにといふこと、そしてわたしてもう少しある。したがつて、主は悔い改めの条件について

まことに、将来来られるイエス・キリストの贖いの血によつてのみ人は救われるのであり、ほかには一切道も手段もないことを覚えておきなさい。まことに、イエス・キリストが世を贖うために来られることを覚えておきなさい。

9 また、アミユレクがアモナイハの町でゼーヴロム

10 に語つた言葉も覚えておきなさい。アミユレクはかれに、主は確かに主の民を贖うために来られるが、彼らを罪のあるまま贖うためではなく、彼らを罪から贖うために来られるのであると語つた。

11 主は、彼らが悔い改めるときには彼らを罪から贖うために、御父から授けられた力をもつておられるのである。したがつて、主は悔い改めの条件について告げ知らせるために、天使たちを遣わしてこられた。

12 わが子らよ、覚えておきなさい。あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基

9 おお、覚えておきなさい。わが子らよ、ベニヤミン王が彼の民に語つた言葉を覚えておきなさい。

10 おお、覚えておきなさい。わが子らよ、あの貴い永遠の命の賜物をあなたたちも持てるようについてある。

11 おお、覚えておきなさい。わが子らよ、ベニヤミン王が彼の民に語つた言葉を覚えておきなさい。

12 わが子らよ、覚えておきなさい。あなたたちは、神の御子でありキリストである贖い主の岩の上に基

13 そうすれば、悪魔が大風を、まことに旋風の中に悪魔の矢を送るときにも、まことに悪魔の電と大

12	11	10	9	8	6
①マタ7:24	②①①④	③GS「贖めに従わない人々」	①マタ7:24	②①①④	①セウ「世に滅めに従
モセ6:34	GS「『贖い、贖う』」	GS「世に滅めに従	モセ7:53	モサ2:9	モサ3:17
「召・隅の石」	アル13:24	モサ2:9	「召・隅の石」	モサ3:17	モサ3:18
イザ14:34	13:25	モサ2:9	14:7	モサ3:18	モサ3:18
ヤコ4:16	16:16	モサ2:9	14:7	モサ3:18	モサ3:18
ニフ14:25	25:	モサ2:9	14:7	モサ3:18	モサ3:18
ニフ14:25	25:	モサ2:9	14:7	モサ3:18	モサ3:18

嵐があなたたちを打つときにも、それには不幸と無窮の苦悩の淵にあなたたちを引きずり落とす力はない。なぜならば、あなたたちは堅固な基であるその岩の上に建てられており、人はその基の上に築くなれば、倒れることなどあり得ないからである。』

13さてこれは、ヒラマンが息子たちに教えた言葉である。まことに、彼はここに書き記されていない多くのことと、ここに書き記されている多くのことを彼らに教えた。

14ヒラマンの息子たちは父の言葉を思い出したので、神が命じられるままに、ニーファイのすべての民の中で神の言葉を教えるために出て行つた。そして、最初にバウンティフルの町で教えた。

15そして、そこからギドの町へ行き、ギドの町からミユレクの町へ行つた。

16そして、町から町へと巡つて、ついに彼らは南方の地にいたすべてのニーファイの民の間を巡り終え、そこからゼラヘムラの地へ行つてレーマン人の中に入つて行つた。そして彼らは、大きな力をもつて教えを説き、前まえ

にニーファイ人から別れて去つた離反者たちの多くを説きやぶつた。そこで、これらの者たちは進み出でて、罪を告白し、悔い改めのためのバプテスマを受け、以前にニーファイ人に對して自分たちが行つた不当な仕打ちを償うために、すぐにニーファイ人のもとに帰つて行つた。

18そしてニーファイとリーハイは、レーマン人にも同じように大きな力と権能をもつて教えを説いた。彼らは語ることができるように力と権能を与えており、また語るべき事柄も示されたからである。

19そこで彼らは語つてレーマン人を非常に驚かせ、彼らに確信を抱かせたので、ゼラヘムラの地とその周りで悔い改めのためのバプテスマを受け、自分たちの先祖の言い伝えが正しくないことを確信したレーマン人は八千人に上つた。

20そして、ニーファイとリーハイはそこからニーフアイの地へ向かつた。

21さて、彼らは、レーマン人の軍隊に捕らえられ、牢に入れられてしまつた。まことに、アンモンと彼の同僚たちがリムハイの部下によつて入れ

られた、あの牢であつた。

22 ニーフアイとリーハイが食べるものもなく牢に入れたまま幾日も過ぎてから、見よ、人々が二人を連れ出して殺そうと、牢の中に入つて来た。

23 さて、ニーフアイとリーハイは火のようなもので包まれていた。そのため、人々は自分たちが焼かれてしまうのではないかと恐れ、あえて二人に手をかけようとしなかつた。それでも、ニーフアイとリーハイは焼かれなかつた。一人は火の中に立つているようではありながら焼かれなかつた。

24 二人は、自分たちが火の柱に包み込まれていながらも焼かれないので見て、心に勇気を得た。

25 一人は、レーマン人があえて自分たちに手をかけようとせず、またあえて近づこうともせず、驚きのあまり物が言えなくなつたかのような有様で立つてゐるのを見たからである。

26 そこで、ニーフアイとリーハイは進み出て、彼女に語り始めた。「恐れではない。見よ、あなたがたにこの驚くべきことを示されたのは神である。わたしたちに手をかけて殺すことはできないといふことが、これによつてあなたがたに示されてい

るのである。」

27 見よ、一人がこれらの言葉を語り終えると、大地が激しく揺れ動き、牢の壁がまさに地に崩れ落ちるほどに搖れた。それでも見よ、壁は倒れなかつた。

28 そして彼らは、暗黒の雲に覆われ、非常な恐怖に襲われた。

29 そして、その暗黒の雲の上方から聞こえるかのように、一つの声があつて言つた。「悔い改めよ、悔い改めよ。よきおとずれを告げ知らせるためにあなたがたのもとに遣わした僕たちを、二度と滅ぼそうとしてはならない。」

30 さて、彼らはこの声を聞いたが、見よ、それは雷のような声ではなく、大きな騒々しい音でもなく、かなな声であり、それでいて心の底までも貫いた。

31 その声は優しかつたにもかかわらず、見よ、大地は激しく揺れ動き、まさに地に崩れ落ちるほどに牢の壁は再び揺れた。見よ、彼らを覆つていた暗黒の雲は消え去らなかつた。

32 そして見よ、再び声が聞こえた。「悔い改めよ、^{あらたに}天の王国は近いからである。二度とわたしの僕たちを滅ぼそうとしてはならない。」その後、再び大地が揺れ動き、壁が揺れた。

33 それから三度目の声が聞こえ、人に言い表せない驚くべき言葉を彼らに告げた。そして、またもや壁が揺れ、大地がまさに引き裂けるほどに揺れ動いた。

34 さてレーマン人は、暗黒の雲に覆われていたので、逃げることができなかつた。また恐怖に打たれていたので、動くこともできなかつた。

35 このレーマン人の中に、生まれがニーファイ人で、かつて神の教会に属していたが、その後教会から離反して、彼は振り返ると、見よ、暗黒の雲を通じて二ーファイとリーハイの顔を見た。すると見よ、二人の顔はまるで天使の顔のように非常に輝いていた。また彼は、一人が目を天に向けて、一人には見えていた人に語りかけて、すなわち声を上げているような様子であるのも見た。

36 そこでこの男は大勢の者たちに、振り向いて見る

よう^に叫んだ。そして見よ、振り向いて見る力が彼らに与えられたので、彼らはニーファイとリーハイの顔を見た。

38 そして彼らはその男に、「見よ、これは一体どういうことなのだ。この者たちが話している相手はだれなのか」と尋ねた。

39 その男の名はアミナダブといつた。アミナダブは彼らに、「二人は神の天使たちと話している」と言った。

40 そこで、レーマン人は彼に、「我々を覆つておるこの暗黒の雲が離れ去るようにするには、我々はどうすればよいのか」と言つた。

41 そこでアミナダブは彼らに、「あなたがたは悔い改めて、アルマとアミュレクとゼーザロムがあなたがたに教えた、キリストを信じる信仰を持つてますで、先ほどの声に向かって叫び求めなければならぬ。このようにするときには、あなたがたを覆つておる暗黒の雲は離れ去るだろう」と言つた。

42 そこで、彼らは皆、大地を震わせた御方の声に向かって叫び求め、まことに、暗黒の雲が消え去るまで叫び求めた。

43 そして周りを見回すと、彼らを覆つていた暗黒の雲は離れ去り、見よ、彼らは一人残らず火の柱に包み込まれていた。

44 そして、ニーファイとリーハイが彼らの真ん中にいた。まことに、彼らは包み込まれ、まるで燃える火の中にいるかのようであつたが、その火は彼らを損なうことなく、また牢の壁に燃えつくこととなかつた。また彼らは、言いようのない、栄光に満ちた喜びに満たされた。

45 そして見よ、神の聖なる御靈が天から降つて、彼らの心の中に入られたので、彼らはあたかも火で満たされたかのようになり、驚くべき言葉を語ることができた。

46 そして彼らに声が、すなわち、まるでささやくような快い声が聞こえた。

47 「平安があるように。あなたがたは世の初めからいる、わたしの心から愛する者を信じてるので、あなたがたに平安があるように。」

48 彼らはこの声を聞くと、どこから声が聞こえてくるのか見ようとするかのように仰ぎ見た。すると見よ、天が開くのが見えた。そして、天使たち

が天から降つて来て、彼らに仕えた。

49 これらのことを見聞きした者はおよそ三百人であった。彼らは不思議に思うことなく、また疑うこともなく出て行くように命じられた。

50 そこで、彼らは出て行き、民を教え、自分たちが見聞きしたすべてのことを、周囲のすべての地方に告げ知らせた。その結果、レーマン人の大半がそれらのことを確信するようになった。彼らの得た証拠が偉大であつたからである。

51 そして、確信を得た者たちは皆、武器を捨て、また憎悪と先祖の言い伝えも捨てた。

52 そして彼らは、ニーファイ人の所有地をニーフアイ人に譲り渡した。

第6章

義じん人のレーマン人、悪くい人のニーファイ人に教えを説く。民はともに榮え、平和で豊かな時代を迎える。罪の根源であるルシフェル、悪人とガデアントンの強盗たちの心をかき立て、殺人と惡事を行わせる。強盗たち、二ノアイ人の政権を握る。紀元前約二十九年から二十三年に至る。

51	48	47	43
①	①	②	エ
ア	1	GS	19
ル	12	GS	14
31	3	ニフ	3
5	8	9	20
		「喜び」	
		「御靈の賜物」	

1さて、さばきつかさの統治第六十二年が終わつたときには、これらのことがすべて起り、レー

マン人はその大半が義人になつてゐたので、レー
マン人の義はニーファイ人の義をしのいでいた。

彼らは確固として搖るぎない信仰を抱いていたからである。

2見よ、ニーファイ人の多くはかたくなになり、悔い改めをせず、非常に邪悪になつていたので、神の言葉と彼らの中で行われた宣教と預言を少しも受け入れなかつた。
3にもかかわらず、教会の人々は、レーマン人が改宗したことと、レーマン人の中に神の教会が設立されたことで大きな喜びを得た。そして両者は互いに親しく交わり、またともに喜び、大きな幸せを得た。

4そして、多くのレーマン人がゼラヘムラの地にやつて来て、自分たちが改宗した次第くらを得た。
5そして、多くの者が非常に大きな力と権能をもつて教えを説き、ニーファイ人の多くを心底謙遜うに勧めた。

6そして、多くのレーマン人が北方の地へ行き、ニーファイとリーハイも民に教えを説くために北方の地へ行つた。このようにして、第六十三年が終つた。

7見よ、全地が平和であつたので、ニーファイ人はニーファイ人の中であろうとレーマン人の中であろうと、自分が行きたい所へはどこへでも行つた。
8そしてレーマン人も、レーマン人の中であろうとニーファイ人の中であろうと、自分の行きたい所へはどこへでも行つた。このようにして、彼らは互いに自由に交流し、自分たちの思いのままに売買をして利益を得た。
9そしてレーマン人もニーファイ人も、ともに非常に豊かになつた。また、南の地でも北の地でも、彼らは非常にたくさんの金と銀とあらゆる貴い金属を持つてゐた。
10ところで、南の地はリーハイと呼ばれ、北の地はゼデキヤの息子にちなんでミユレクと呼ばれた。主がミユレクを北の地へ導き、リーハイを南の地へ導いてこられたからである。

11 見よ、これらの地には両方とも、あらゆる金と銀、あらゆる貴いあらがねがあつた。また、あらゆるあらがねを加工し精鍛する、技量の優れた職人たちもあり、そのために彼らは豊かになつた。

12 彼らは北でも南でも豊かに穀物を栽培し、北でも南でも非常に栄えた。また、彼らは増えて、その畜の群れ、多くの肥えた若い家畜を飼育した。

13 見よ、女たちは骨折つて働き、糸を紡ぎ、裸にまとうためにあらゆる織物を、すなわち、より糸で織つた亜麻布とあらゆる織物を作つた。このようにして、第六十四年が平穩に過ぎ去つた。

14 第六十五年も、大きな喜びがあり、平和であつて、まことに多くの宣教が行われ、将来起ころうについて多くの預言が述べられた。このようにして、第六十五年が過ぎ去つた。

15さて、さばきつかさの統治第六十六年に、見よ、ゼーラムが、さばきつかさの席に着いていたときには、何者かによつて殺された。また、同じ年に、彼に代わつて民によつて任じられた彼の息子も殺されてしまつた。このようにして、第六十六年が終わつた。

16 第六十七年の初めに、民はまた非常に悪くなり始めた。

17 見よ、主が長いあいだ世の富を彼らに恵んでこられたので、彼らは扇動されて怒ることも、戦うことも、流血を起こすこともなかつた。そのため、彼らは富に執着するようになり、互いに相手の上に立てるよう、利益を得ようと求め始めた。その結果、彼らは暗殺や強盗や略奪をして利益を得始めたのである。

18さて見よ、そのような殺人者たちと略奪者たちは、キシクメンとガデアントンが作った団に所属していた。そして、ニーファイ人の中にさえガデantonの団に所属している者が大勢いた。しかし見よ、レーマン人の中の悪い者たちの中にはもつと多くの者がいた。そして彼らは、ガデアントンの強盗および殺人者と呼ばれた。

19 大さばきつかさセゾーラムとその息子を、さばきつかさの職にある間に殺したのは彼らであつたが、見よ、殺人者は見つからなかつた。

20さて、レーマン人は自分たちの中に強盗がいることを知ると、非常に嘆いた。そして彼らは、でき

るかぎりあらゆる手段を使つて、地の面から強盗た
ちを減ぼし去ろうとした。

21 ところが見よ、二ーフアイ人の大半はサタンにひ
どく心をあおり立てられ、それらの強盗の団に加
わつた。そして彼らは、どのような困難な状態に
置かれても、自分たちの殺人や略奪や盗みのため
に苦しみを受けることのないように、互いに保護
し、守り合うという誓約と誓いを交わした。

22 そして、彼らには合図、すなわち秘密の合図と秘
密の言葉があつた。これは、仲間がどのような悪
事を働いても、その仲間から、すなわちこの誓いを
立てて団に所属した者たちから害を受けることの
ないよう、誓いを立てた仲間を確認できるよう
にするためのものであつた。

23 したがつて彼らは、国に法律にも神の律法にも
背いて人を殺し、略奪し、盗み、みだらな行いを
し、あらゆる悪事を行うことができた。

24 また、団に所属している者はだれであろうと、
彼らの悪い事と忌まわしい行いを世の人々に漏らし
たならば、国の法律によつてではなく、ガデアン
トンとキシクメンが定めた、彼らの罪惡な掟によ
つて裁かれることになつていた。

25 さて見よ、これらの秘密の誓いの言葉と誓約こ
そ、アルマが息子に、民を滅亡に至らせる手段と
ならないように世の人々に公にしてはならないと
命じたものである。

26 見よ、これらの秘密の誓いの言葉と誓約は、ヒ
ラマンに渡された記録からガデアントンに伝わつた
のではない。見よ、それらは、禁斷の実を食べるよ
うにわたしたちの始祖をそそのかした者によつて、
ガデアントンの心に植え付けられたのである。

27 まことにその者は、弟のアベルを殺しても、世
の人々には分からないと、カインとはかりごとを
巡らしたその者である。その者は、そのとき以来、
カインおよび彼に従う者たちとはかりごとを巡ら
してきた。

28 また、十分に高い塔を建てて天に達することが
できるようにしようという思いを、民の心に与えた
のも、その者である。その塔からこの地に来た
人々を惑わし、闇の業と忌まわしい行いを地の全面
に広め、ついに民を完全に滅ぼし、永遠の地獄に
引きずり落としてしまつたのも、その者である。

まことに、闇の業と暗殺の業をなお続けようと
いう思いをガデアントンの心に与えたのも、その
ものである。彼は人類の始まりから現在に至るまで、
それを続けてきた。

見よ、彼こそ、あらゆる罪の根源である。見よ、
彼は、人の子らの心を支配できることなく代々闇の業
と暗殺の業を続け、カインと彼の従うたちのは
かりごとと、誓いの言葉と、誓約と、恐ろしい悪
事の策を伝えている。

さて見よ、彼は、すでに二ーファイ人的心を大い
に支配しており、そのためには、彼らは常に邪悪
になっていた。彼らの大半はすでに義の道を離れて
おり、神の戒めを足の下に踏みつけ、自分勝手な
道に向かい、自分のために金と銀で偶像を造つて
いた。

そして、これらの罪悪はすべて、わずかな年数
で彼らに起つた。しかもそのほとんどは、二一
ファイの民のさばきつかさの統治第六十七年に彼
らに起つたのであった。
そして彼らは、第六十八年にもますます罪悪を
募らせ、義人の深い悲しみと嘆きを誘つた。

このことから分かるように、二ーファイ人は不信
仰に陥つて、ますます悪事と忌まわしい行いをす
るようになつた。一方レーマン人は、神をますま
ず深く知るようになつた。まことに、彼らは神の
捉えと戒めを守り、神の前を真理にかなつてまつす
ぐに歩み始めたのであつた。

またこのことから、二ーファイ人の心が邪悪で
かたくなであつたので、主の御靈が彼らから去り
始めたことが分かる。

またこのことから、レーマン人が主の言葉を容易
に喜んで信じたので、主が彼らに主の御靈を注ぎ始
められたことも分かる。

そしてレーマン人は、ガデアントンの強盗團を
捜し、強盗團の中のひときわ悪い者たちの中で神の
言葉を宣べ伝えたので、この強盗團はレーマン人

の中から完全に絶えてしまつた。

そして、他方二ーファイ人は、強盗團の中のひ
ときわ悪い者たちをはじめとして、強盗團を盛り
上げ、彼らを支援した。そのため、ついに強盗團
は二ーファイ人の地の全体に広がり、義人の大半を
惑わしてしまつた。そしてついには、これらの者た

ちも強盜団の行うことを信頼し、奪つたものの分け前をもらうようになり、彼らと暗殺を共にし、彼らの秘密結社に加わるようになった。39 このようにして、強盜団はすべての管理権を手に入れ、貧しい者と柔軟な者と神に謙遜に従う者を足の下に踏みつけ、打ち、裂き、また彼らを無視した。

40 このことから、彼らが恐ろしい状態にあり、永遠の滅びの機が熟してきたことが分かる。

41 そして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第六十八年が終わった。

ヒラマンの息子であるニーファイの預言——神は二ノアの民に、悪事を悔い改めなければ怒りを下して罰し、ことごとく滅ぼしてしまおうと脅される。神は疫病をもつてニーファイの民を打たれる。ニーファイの民、悔い改めて神に立ち返る。レーマン人サムエル、ニーファイ人に預言する。

次の第七一十六章がそれに相当する。

第7章
ニーファイ、北方で拒まれ、ゼラヘムラの地に帰る。
ニーファイ、自分の庭にある塔の上で祈り、次いで民に悔い改めるよう求め、悔い改めなければ滅びることを告げる。紀元前約二十三年から二十一年に至る。

1 見よ、ニーファイ人の民のさばきつかさの統治第六十九年に、ヒラマンの息子であるニーファイは、北方の地からゼラヘムラの地に帰つて来た。
2 彼は北方の地にいる人々の中を巡つて、彼らに神の言葉を宣べ伝え、また多くのことを彼らに預言した。

3 ところが、彼らがその御言葉をまったく受け入れなかつたので、彼は彼らの中にとどまつてゐることができず、生まれ故郷に帰つて來たのであつた。
4 そして、彼が見ると、民はひどく邪惡な状態にあり、あのガデアントンの強盗たちがさばきつかさの職に就いていて、國の権力と権威を奪い取つていた。また、強盗たちは神の戒めを捨て、神の前に少しも正しいことを行わず、人の子らをまつたく公正に扱わず、

1 ①	ヒラ	6	6	39 ① 詩篇 09 ·
教義	56 ·	16	54 ·	アル 5 ·
18 ·	6	2	56 ·	6

5 義人を彼らの義のゆえに罪に定め、罪人と悪人は
金錢を受け取つて無罪放免とし、さらに自分たち
が利益と世の誉れを得られるよう、またもつと
安易に姦淫を犯し、盜み、殺し、自分の思いどお
りのことを行えるように、政府の要職に就いて統治
し、自分の思いどおりに行つていた。

6 このひどい罪悪は、わずかな年数で二ーファイ人
に及んでいた。二ーファイはそれを見ると、悲しみ
で胸が詰まり、苦しみもだえて叫んだ。
「おお、わたしの先祖の二ーファイが初めてエル
サレムの地からやつて来たその時代にわたしも生き
ていて、約束の地で先祖の二ーファイと一緒に喜ぶ
ことができたらよかつたのに。当時の二ーファイの
民は容易に勧告に従い、神の戒めを確固として守
り、罪悪を犯すよう誘われるのは遅く、主の御言
葉を聴くのは早かつた。

8 まことに、もしわたしがその時代に生きていた
ら、同胞の義を喜んだことだろう。
9 しかし見よ、わたしはこの時代を自分の時代と
し、同胞のこの悪事を見て悲しみに打ちひしがれ
るよう定められている。」

10さて見よ、それは、二ーファイの庭にある塔の上
で叫んだことであつた。彼の庭はゼラヘムラの町に
ある最も大きな市場へ通じている大通りのそばに
あつた。そして二ーファイは、自分の庭にあるその
塔の上でひれ伏していた。その塔も大通りに出る
庭の門の近くにあつた。

11さて、ある人々が近く通りかかり、二ーファイ
が塔の上でその心を神に注ぎ出しているのを見た。
そして、彼らは走つて行つて、自分たちの見たこと
を人々に告げた。すると人々は、彼が民の悪事を
そのように深く嘆いている訳を知ろうとして、大勢
集まつて來た。

12さて、二ーファイは立ち上がりと、大勢の人々が
集まつているのを見た。

13そして彼は口を開くと、彼らに言つた。「見よ、
何のためにあなたがたは集まつて來たのか。あなた
たがたの罪悪についてわたしに語らせるためか。
14まことに、それはわたしがあなたがたの罪悪のこ
とで心に深い憂いを覚え、その心を神に注ぎ出すた
めに塔に登つたからである。

15わたしが嘆き、悲しんでいるので、あなたがたは

集まつて驚いている。あなたがたは大いに驚く必要がある。あなたがたは悪魔に引き渡されて、心をこのように大いに支配されてきたので、驚いて当然である。

16 まことに、どうしてあなたがたは、永遠の不幸と無窮の苦悩へ投げ落とそうとしている者の誘惑に身をゆだねることができたのか。

17 おお、悔い改めなさい、悔い改めなさい。なぜあなたがたは死のうとするのか。立ち返りなさい、主なるあなたがたの神に立ち返りなさい。なぜ主はあるながたを見捨てられたのか。

18 それは、あなたがたが心をかたくなにしたからである。まことに、あなたがたは、良い羊飼いの声を聽こうとしない。まことに、あなたがたは、自分たちのことで良い羊飼いを怒らせてしまったのだ。

19 見よ、あなたがたが悔い改めようとしなければ、防ぐ力をあなたがたに与えてくださらないからである。

20 おお、どうしてあなたがたは、神が助けてくださつたその日に、神を忘れることができたのか。

21 しかし見よ、それは利益を得、人々から称賛さ

れ、また金と銀を得ようとするからである。あなたがたは富と、この世のむなしいものに執着してきだ。そのためあなたがたは人を殺し、略奪し、盗み、隣人に不利な偽証をし、あらゆる罪悪を行っている。

22 だから、悔い改めなければ、あなたがたに災いが下るであろう。もしあなたがたが悔い改めようとなれば、見よ、わたしたちの所有地にあるこの偉大な町も、周りの偉大な町々もすべて奪われ、そこにあなたがたの居場所はなくなるであろう。見よ、主は、これまでしてくださつたようには、敵を防ぐ力をあなたがたに与えてくださらないからである。

23 見よ、主はこう言われる。『自分たちの罪を悔い改め、わたしの言葉に聞き従う者でなければ、わたしは悪人にはほかの者以上に力を示すまい。』そのため、同胞よ、あなたがたが悔い改めなければ、ヒーラン人の方があなたがたよりも幸いであることを知つてほしい。

24 見よ、彼らは、あなたがたに与えられてきたあの大いなる知識に対しても罪を犯さなかつたので、あ

23 22	21 19	18 ① ①
① ① マタ ② ① ① GS 3 ニフ 10、	ヨハ 10、	エゼ 18、
ヒモ 15、エ「物欲」	アル 5、38、41、16、12、23、	アラ 12、36、1、8、
15、7、19、20、16、	ヤコ 57、	ヤコ 14、34、18、
11、29、20、16、	11、12、37、	16、12、23、
15	15	32

なたがたよりも義にかなつてゐる。そのため、主は彼らに憐れみをかけられる。まことに、主は彼らの日を長くして、子孫を増し加えられる。一方あなたがたは、悔い改めなければことごとく滅ぼされる。

25 まことに、あなたがたの中に起こつたあのひどく忌まわしいもののために、あなたがたは災いである。あなたがたはその忌まわしいもの、ガデアントンが設けたあの秘密の団に加わつてゐる。

26 まことに、あなたがたの心に募る高慢のために、いが下るであろう。その高慢は、あなたがたが非常に多くの富を得たために、度を越してあなたがたを高ぶらせた。

27 まことに、あなたがたの悪事と忌まわしい行いのために、あなたがたは災いである。

28 あなたがたは悔い改めなければ滅びるであろう。すなわち、あなたがたの土地は奪われ、あなたがたは地の面から滅ぼし去られるであろう。

29 見よ、わたしは、これらのことが起ころうであろうと、わたし自身から言うのではない。わたしがこれらのことを見つけているのは、わたしがひとりで知つたのではない。しかし見よ、主なる神がこれらのこと

とを知らせてくださつたので、わたしはこれらのことが眞実であると知つてゐるのである。したがつて、これらのことが将来起ると証する。」

第 8 章

邪悪なさばきつかさたち、民をそそのかしてニーフアイのことを怒らせようとする。アブラハム、モーセ、ゼノク、イザイアス、イザヤ、エレミヤ、リーハイ、ニーフアイは皆、キリストについて証した。ニーフアイ、大さばきつかさが殺されたことを靈感によつて告げる。紀元前約二十三年から二十一年に至る。

1さて、ニーフアイがこれらの言葉を語り終えたとき、見よ、そこには、さばきつかさでありながらガデアントンの秘密の団にも所属している男たちがおり、彼らは怒つてニーフアイに非難の声を上げ、人々に言った。「なぜあなたがたはこの男を捕らえて連れて来て、この男が犯した罪科に応じて罪に定められるようにしないのか。」

2なぜあなたがたはこの男に見とれていて、この男がこの民と我々の法律を非難するのを聞いてい

29	26	25	24
①	②	①	②
アル	ヤイ	ヒラ	アル
5	2	3	9
45	13	8	16
46		25	

るのか。」

3 見よ、ニーファイが、彼らの法律が腐敗していることについて彼らに語つたからである。まことに、ニーファイはここに書き記せない多くのことを語つた。しかし、神の戒めに反することは何一つ言わなかつた。

4 ところが、ニーファイがさばきつかさたちの隠れた闇の業について、彼らにあからさまに語つたので、さばきつかさたちは、彼に対し怒つたのである。それでもさばきつかさたちは、あえて彼を捕らえようとはしなかつた。彼らは、人々が自分たちに非難の声を上げるのではないかと恐れたからである。

5 それで彼らは、人々に向かつて叫んだ。「なぜあなたがたはこの男が我々を非難するのを許しておくれのか。見よ、この男はこの民の全員に滅亡を宣言している。告している。そのうえ、これらの偉大な町が我々から奪われ、そこに我々の居場所がなくなるともいふている。

6 我々は、このようなことがあり得ないのを知つてゐる。見よ、我々は強く、町は偉大があるので、敵に再び話し始めた。

は我々を支配する権力を持てないからだ。」

7 そして、彼らは人々を扇動してニーファイのことを怒らせ、人々の中に争いを生じさせた。というのは、次のように叫んだ人々もいたからである。「この人をそのままにしておけ。この人は立派な人だ。我々が悔い改めなければ、この人の言うことは必ず起ころう。」

8 そして見よ、この人が我々に証した裁きは、すべて我々に下るだろう。我々は、この人が我々の罪悪について正しく証したのを知つてゐる。見よ、我々の罪悪は多い。この人は、我々の罪悪を知つているように、将来我々に起ころうすべてのこととも知つてゐる。

9 まことに見よ、もしこの人が預言者でなかつたらば、それらのことについて証ができるなかつただろう。

10 そして、ニーファイを殺そうとした者たちは恐れ、彼を捕らえることはどうしてもできなかつた。そこで彼は、ある人々が自分に好意を寄せ、またそのことでほかの者が恐れているのを見て、人々

11 彼はもつと話すように強く促されて、人々に言つた。「見よ、同胞よ。あなたがたは神が一人の人モーセに、紅海の水を打つ力を与えられたことを読んだことがないのか。紅海の水は右と左に分かれたので、わたしたちの先祖であるイスラエル人は、乾いた地を通つて出て來た。また、その水はエジプト人の軍勢の上に閉じ、彼らをのみ尽くしてしまつた。

12 そして見よ、神がかつてこのような力をこの人に与えられたのであれば、なぜあなたがたは互いに論じ合うのか。あなたがたが悔い改めなければあなたがたに及ぶことになる裁きについて、知ることのできる力を、神がわたしに与えられなかつたと言うのか。

13 しかし見よ、あなたがたは、わたしの言葉を否定しているだけでなく、わたしたちの先祖が語つたすべての言葉と、このような偉大な力を与えられたこのモーセが語つた言葉、まことに、彼がメシヤの來臨に関して語つた言葉をも否定している。

14 まことに彼は、神の御子が将来来られるることを証しなかつたか。彼が荒れ野で青銅の蛇を上げたように、将来来られる神の御子も上げられるであつた。

15 また、その蛇を仰ぎ見る者が皆生きたよう、悔いる靈を抱いて、信仰をもつて神の御子を仰ぎ見る者は皆、生きることができ、永遠であるあの命にあずかるであろう。

16 さて見よ、これらのことを見ししたのはモーセだけではない。かれの時代からアブラハムの時代にさかのぼる聖なる預言者たちも皆、証した。

17 そして見よ、アブラハムは、神の御子の來臨を見て、喜びに満たされ、うれしく思つた。

18 見よ、あなたがたに言うが、これらのことを見ていたのはアブラハムだけではない。アブラハムの時代以前にも、神の位に従つて、すなわち神の御子の位に従つて召された人々が多数いた。これは、神の御子の來臨に先立つ何千年も前に、将来贖いが与えられるということを民に示すためであつた。

19 またあなたがたは、アブラハムの時代以降にもこれらのことを見しした預言者が多くいたということを知つてほしい。見よ、預言者ゼノスは大胆に証し、そのために殺された。

11	①出14:16,
12	ニフ17:26,
13	モサ7:19,
14	モセ8:23,
15	教義1:25,
16	民数21:6-9,
17	アル33:19,22,
18	ニフ25:20,
19	アル37:45-47,
20	ヤコ4:4-5,
21	アル37:17-41,
22	ヨハ8:56-57,
23	ヨハ11:25,
24	アル13:15-17,
25	アル16:19,
26	アル17:1-9,
27	アル18:1-11,
28	アル19:1-11,
29	アル20:1-11,
30	アル21:1-11,
31	アル22:1-11,
32	アル23:1-11,
33	アル24:1-11,
34	アル25:1-11,
35	アル26:1-11,
36	アル27:1-11,
37	アル28:1-11,
38	アル29:1-11,
39	アル30:1-11,
40	アル31:1-11,
41	アル32:1-11,
42	アル33:1-11,
43	アル34:1-11,
44	アル35:1-11,
45	アル36:1-11,
46	アル37:1-11,
47	アル38:1-11,
48	アル39:1-11,
49	アル40:1-11,
50	アル41:1-11,
51	アル42:1-11,
52	アル43:1-11,
53	アル44:1-11,
54	アル45:1-11,
55	アル46:1-11,
56	アル47:1-11,
57	アル48:1-11,
58	アル49:1-11,
59	アル50:1-11,
60	アル51:1-11,
61	アル52:1-11,
62	アル53:1-11,
63	アル54:1-11,
64	アル55:1-11,
65	アル56:1-11,
66	アル57:1-11,
67	アル58:1-11,
68	アル59:1-11,
69	アル60:1-11,
70	アル61:1-11,
71	アル62:1-11,
72	アル63:1-11,
73	アル64:1-11,
74	アル65:1-11,
75	アル66:1-11,
76	アル67:1-11,
77	アル68:1-11,
78	アル69:1-11,
79	アル70:1-11,
80	アル71:1-11,
81	アル72:1-11,
82	アル73:1-11,
83	アル74:1-11,
84	アル75:1-11,
85	アル76:1-11,
86	アル77:1-11,
87	アル78:1-11,
88	アル79:1-11,
89	アル80:1-11,
90	アル81:1-11,
91	アル82:1-11,
92	アル83:1-11,
93	アル84:1-11,
94	アル85:1-11,
95	アル86:1-11,
96	アル87:1-11,
97	アル88:1-11,
98	アル89:1-11,
99	アル90:1-11,
100	アル91:1-11,
101	アル92:1-11,
102	アル93:1-11,
103	アル94:1-11,
104	アル95:1-11,
105	アル96:1-11,
106	アル97:1-11,
107	アル98:1-11,
108	アル99:1-11,
109	アル100:1-11,
110	アル101:1-11,
111	アル102:1-11,
112	アル103:1-11,
113	アル104:1-11,
114	アル105:1-11,
115	アル106:1-11,
116	アル107:1-11,
117	アル108:1-11,
118	アル109:1-11,
119	アル110:1-11,
120	アル111:1-11,
121	アル112:1-11,
122	アル113:1-11,
123	アル114:1-11,
124	アル115:1-11,
125	アル116:1-11,
126	アル117:1-11,
127	アル118:1-11,
128	アル119:1-11,
129	アル120:1-11,
130	アル121:1-11,
131	アル122:1-11,
132	アル123:1-11,
133	アル124:1-11,
134	アル125:1-11,
135	アル126:1-11,
136	アル127:1-11,
137	アル128:1-11,
138	アル129:1-11,
139	アル130:1-11,
140	アル131:1-11,
141	アル132:1-11,
142	アル133:1-11,
143	アル134:1-11,
144	アル135:1-11,
145	アル136:1-11,
146	アル137:1-11,
147	アル138:1-11,
148	アル139:1-11,
149	アル140:1-11,
150	アル141:1-11,
151	アル142:1-11,
152	アル143:1-11,
153	アル144:1-11,
154	アル145:1-11,
155	アル146:1-11,
156	アル147:1-11,
157	アル148:1-11,
158	アル149:1-11,
159	アル150:1-11,
160	アル151:1-11,
161	アル152:1-11,
162	アル153:1-11,
163	アル154:1-11,
164	アル155:1-11,
165	アル156:1-11,
166	アル157:1-11,
167	アル158:1-11,
168	アル159:1-11,
169	アル160:1-11,
170	アル161:1-11,
171	アル162:1-11,
172	アル163:1-11,
173	アル164:1-11,
174	アル165:1-11,
175	アル166:1-11,
176	アル167:1-11,
177	アル168:1-11,
178	アル169:1-11,
179	アル170:1-11,
180	アル171:1-11,
181	アル172:1-11,
182	アル173:1-11,
183	アル174:1-11,
184	アル175:1-11,
185	アル176:1-11,
186	アル177:1-11,
187	アル178:1-11,
188	アル179:1-11,
189	アル180:1-11,
190	アル181:1-11,
191	アル182:1-11,
192	アル183:1-11,
193	アル184:1-11,
194	アル185:1-11,
195	アル186:1-11,
196	アル187:1-11,
197	アル188:1-11,
198	アル189:1-11,
199	アル190:1-11,
200	アル191:1-11,
201	アル192:1-11,
202	アル193:1-11,
203	アル194:1-11,
204	アル195:1-11,
205	アル196:1-11,
206	アル197:1-11,
207	アル198:1-11,
208	アル199:1-11,
209	アル200:1-11,
210	アル201:1-11,
211	アル202:1-11,
212	アル203:1-11,
213	アル204:1-11,
214	アル205:1-11,
215	アル206:1-11,
216	アル207:1-11,
217	アル208:1-11,
218	アル209:1-11,
219	アル210:1-11,
220	アル211:1-11,
221	アル212:1-11,
222	アル213:1-11,
223	アル214:1-11,
224	アル215:1-11,
225	アル216:1-11,
226	アル217:1-11,
227	アル218:1-11,
228	アル219:1-11,
229	アル220:1-11,
230	アル221:1-11,
231	アル222:1-11,
232	アル223:1-11,
233	アル224:1-11,
234	アル225:1-11,
235	アル226:1-11,
236	アル227:1-11,
237	アル228:1-11,
238	アル229:1-11,
239	アル230:1-11,
240	アル231:1-11,
241	アル232:1-11,
242	アル233:1-11,
243	アル234:1-11,
244	アル235:1-11,
245	アル236:1-11,
246	アル237:1-11,
247	アル238:1-11,
248	アル239:1-11,
249	アル240:1-11,
250	アル241:1-11,
251	アル242:1-11,
252	アル243:1-11,
253	アル244:1-11,
254	アル245:1-11,
255	アル246:1-11,
256	アル247:1-11,
257	アル248:1-11,
258	アル249:1-11,
259	アル250:1-11,
260	アル251:1-11,
261	アル252:1-11,
262	アル253:1-11,
263	アル254:1-11,
264	アル255:1-11,
265	アル256:1-11,
266	アル257:1-11,
267	アル258:1-11,
268	アル259:1-11,
269	アル260:1-11,
270	アル261:1-11,
271	アル262:1-11,
272	アル263:1-11,
273	アル264:1-11,
274	アル265:1-11,
275	アル266:1-11,
276	アル267:1-11,
277	アル268:1-11,
278	アル269:1-11,
279	アル270:1-11,
280	アル271:1-11,
281	アル272:1-11,
282	アル273:1-11,
283	アル274:1-11,
284	アル275:1-11,
285	アル276:1-11,
286	アル277:1-11,
287	アル278:1-11,
288	アル279:1-11,
289	アル280:1-11,
290	アル281:1-11,
291	アル282:1-11,
292	アル283:1-11,
293	アル284:1-11,
294	アル285:1-11,
295	アル286:1-11,
296	アル287:1-11,
297	アル288:1-11,
298	アル289:1-11,
299	アル290:1-11,
300	アル291:1-11,
301	アル292:1-11,
302	アル293:1-11,
303	アル294:1-11,
304	アル295:1-11,
305	アル296:1-11,
306	アル297:1-11,
307	アル298:1-11,
308	アル299:1-11,
309	アル300:1-11,
310	アル301:1-11,
311	アル302:1-11,
312	アル303:1-11,
313	アル304:1-11,
314	アル305:1-11,
315	アル306:1-11,
316	アル307:1-11,
317	アル308:1-11,
318	アル309:1-11,
319	アル310:1-11,
320	アル311:1-11,
321	アル312:1-11,
322	アル313:1-11,
323	アル314:1-11,
324	アル315:1-11,
325	アル316:1-11,
326	アル317:1-11,
327	アル318:1-11,
328	アル319:1-11,
329	アル320:1-11,
330	アル321:1-11,
331	アル322:1-11,
332	アル323:1-11,
333	アル324:1-11,
334	アル325:1-11,
335	アル326:1-11,
336	アル327:1-11,
337	アル328:1-11,
338	アル329:1-11,
339	アル330:1-11,
340	アル331:1-11,
341	アル332:1-11,
342	アル333:1-11,
343	アル334:1-11,
344	アル335:1-11,
345	アル336:1-11,
346	アル337:1-11,
347	アル338:1-11,
348	アル339:1-11,
349	アル340:1-11,
350	アル341:1-11,
351	アル342:1-11,
352	アル343:1-11,
353	アル344:1-11,
354	アル345:1-11,
355	アル346:1-11,
356	アル347:1-11,
357	アル348:1-11,
358	アル349:1-11,
359	アル350:1-11,
360	アル351:1-11,
361	アル352:1-11,
362	アル353:1-11,
363	アル354:1-11,
364	アル355:1-11,
365	アル356:1-11,
366	アル357:1-11,
367	アル358:1-11,
368	アル359:1-11,
369	アル360:1-11,
370	アル361:1-11,
371	アル362:1-11,
372	アル363:1-11,
373	アル364:1-11,
374	アル365:1-11,
375	アル366:1-11,
376	アル367:1-11,
377	アル368:1-11,
378	アル369:1-11,
379	アル370:1-11,
380	アル371:1-11,
381	アル372:1-11,
382	アル373:1-11,
383	アル374:1-11,
384	アル375:1-11,
385	アル376:1-11,
386	アル377:1-11,
387	アル378:1-11,
388	アル379:1-11,
389	アル380:1-11,
390	アル381:1-11,
391	アル382:1-11,
392	アル383:1-11,
393	アル384:1-11,
394	アル385:1-11,
395	アル386:1-11,
396	アル387:1-11,
397	アル388:1-11,
398	アル389:1-11,
399	アル390:1-11,
400	アル391:1-11,
401	アル392:1-11,
402	アル393:1-11,
403	アル394:1-11,
404	アル395:1-11,
405	アル396:1-11,
406	アル397:1-11,
407	アル398:1-11,
408	アル399:1-11,
409	アル400:1-11,
410	アル401:1-11,
411	アル402:1-11,
412	アル403:1-11,
413	アル404:1-11,
414	アル405:1-11,
415	アル406:1-11,
416	アル407:1-11,
417	アル408:1-11,
418	アル409:1-11,
419	アル410:1-11,
420	アル411:1-11,
421	アル412:1-11,
422	アル413:1-11,
423	アル414:1-11,
424	アル415:1-11,
425	アル416:1-11,
426	アル417:1-11,
427	アル418:1-11,
428	アル419:1-11,
429	アル420:1-11,
430	アル421:1-11,
431	アル422:1-11,
432	アル423:1-11,
433	アル424:1-11,
434	アル425:1-11,
435	アル426:1-11,
436	アル427:1-11,
437	アル428:1-11,
438	アル429:1-11,
439	アル430:1-11,
440	アル431:1-11,
441	アル432:1-11,
442	アル433:1-11,
443	アル434:1-11,
444	アル435:1-11,
445	アル436:1-11,
446	アル437:1-11,
447	アル438:1-11,
448	アル439:1-11,
449	アル440:1-11,
450	アル441:1-11,
451	アル442:1-11,
452	アル443:1-11,
453	アル444:1-11,
454	アル445:1-11,
455	アル446:1-11,
4	

20 また見よ、ゼノクも、イザイアスも、イザヤも、エレミヤもいた。(エレミヤとは、^④エルサレムの滅亡について証したあの預言者である。)そしてわたしたちは、エルサレムがエレミヤの言葉のところに滅ぼされたことを知っている。おお、それならば、どうして彼の言葉のとおりに神の御子が来られないことがあるか。

21 あなたがたはエルサレムが滅ぼされたという事実に反論するつもりか。あなたがたは、ゼデキヤの息子たちがミユレクのほか皆殺されたのに、殺されなかつたと言うつもりか。ゼデキヤの子孫がエルサレムの地を追われ、今わたしたちとともにいるのを、あなたがたは見ていないのか。しかし見よ、これだけではない。

22 わたしたちの先祖リーハイは、これらのことを見て証したためにエルサレムから追い出された。ニーフアイもこれらのことを見証し、現在に至るまでの先祖たちもほとんど皆、証した。彼らはキリストの來臨について証し、将来を見通し、将来来るキリスト

23 見よ、キリストは神であり、今わたしたちの先祖

とともにおられる。また、キリストは彼らに御自身を現し、彼らがキリストによつて贖われることを告げられた。そこで彼らは、将来起ることのために、キリストに榮光を帰した。

24 あなたがたはこれらのことを見つけており、偽りを言うのでなければこれらのこと否定できないので、このことにおいてあなたがたは罪を犯した。あなたがたは、このように多くの証拠を与えられてきたにもかかわらず、これらのことを見て受け入れなかつたからである。まことに、あなたがたはこれらのことが眞実であるという証拠として、万物を、すなわち天にあるものと地にある万物を、ともに与えられてきた。

25 しかし見よ、あなたがたは眞実を受け入れず、聖なる神に背いてきた。そして、今までさえあなたがたは、何のも朽ちない、また清くないものは何ひとつ入れない天に、自分自身のためには宝を蓄えるのではなく、裁きの日に對して自分自身のために激しい怒りを積み重ねている。

26 まことに、今までさえあなたがたは、殺人と不貞と悪事のために永遠の滅びの機を熟させてつつある。

20	①ニフ1-4	21	①ニフ1-4
聖文	②イザ53章	22	①モサ2-8、
GS「イエス・キリスト降誕と死に関する預言」	オム2-15	23	②列下25-7、
GS「不貞」	エレ39-6	24	③エゼ17-22、
	エレ39-6	25	①アル30-44、
	エレ39-6	26	モセ6-10、
	エレ39-6	27	ビラ6-17、
	エレ39-6	28	ビラ7-23、
	エレ39-6	29	ビラ8-19、
	エレ39-6	30	ビラ10-16、
	エレ39-6	31	ビラ11-19、
	エレ39-6	32	ビラ12-20、
	エレ39-6	33	ビラ13-21、
	エレ39-6	34	ビラ14-22、
	エレ39-6	35	ビラ15-23、

26	①モサ2-8、
GS「不貞」	ビラ5-8、
	ビラ13-19、
	ビラ20-21、
	ビラ23-25、

悔い改めなければ、それは間もなくあなたがたに及ぶであろう。

27 まことに見よ、それは今まであなたがたの戸口にある。さばきつかさのいる所へ行つて調べてみなさい。

見よ、あなたがたのさばきつかさは殺されており、血の中に横たわっている。彼はさばきつかさの職に就くことを求めている自分の兄弟に殺されたのである。

28 見よ、彼らは一人とも、あなたがたの秘密の団に所属している。その秘密の団の創設者は、ガデアントンと、人々の靈を滅ぼそうとしている悪しきものである。」

ると、彼らの中のある者たちがさばきつかさのいる所へ走つて行つた。すなわち、五人の者が行き、行く途中で互いに言つた。

2 「見よ、この男が預言者かどうか、またこのよう驚くべきことを我々に預言するように、神がこの男に命じたのかどうか、必ず分かるだろう。見よ、我々は神が命じたとは信じない。まことに、彼が預言者であるとも信じない。しかし、彼が大さ

ばきつかさについて言つたこのことがほんとうで、大さばきつかさが死んでいれば、彼の語ったほかの言葉もほんとうだと、我々は信じよう。」

3 そして彼らは力の限り走つて、さばきつかさのいる所に入つて行つた。すると見よ、大さばきつかさが地に倒れ、血の中に横たわっていた。

4 見よ、彼らはこれを見ると非常に驚き、地に倒れてしまつた。彼らは二ーファイが大さばきつかさについて語つた言葉を信じていなかつたからである。

5 しかし、彼らは見て信じ、二ーファイの語つた裁きがすべて民に下るのではないかという恐れに打たれた。そして、そのためには震えおののき、地

に倒れてしまつたのである。

6 ところで、さばきつかさが殺されるとすぐに、すなわち、彼の兄弟がひそかに彼を突き刺して逃げるとすぐに、従者たちは走つて行き、人々に殺害のことの大聲で告げ知らせた。

7 すると見よ、人々はさばきつかさの席のある場所に集まつて来たが、見よ、驚いたことに、五人の者が地に倒れていた。

8 さて見よ、人々は、ニーフアイの庭に集まつていた大勢の者のことは何も知らなかつたので、互いに、「この男たちはさばきつかさを殺した者たちだ。この男たちが我々から逃げられないように、神が打たれたのだ」と言つた。

9 そして彼らは、この五人を捕らえて縛ると、牢に入れた。それから、さばきつかさが殺され、殺人者たちが捕らえられて牢に入れられたということが広く告げ知らされた。

10 そしてその翌日、殺された大さばきつかさの埋葬に当たつて、人々は哀悼の意を表し、断食するため集まつた。

11 そのため、ニーフアイの庭にいて、彼の言葉を

聞いたさばきつかさたちも、埋葬に集まつていた。

12 そして彼らは人々の中で、「大さばきつかさが死んでいるかどうか調べるために遣わされた五人の者はどこにいるだろうか」と尋ねた。すると人々は、「あなたがたが遣わしたと言うその五人については、我々は知りませんが、殺人者である五人の者は牢に入れています」と答えた。

13 そこでさばきつかさたちは、彼らを連れて来るよう求め、彼らは連れて来られた。見よ、それは遣わされた五人の者たちであつた。そこで見よ、さばきつかさたちは、その件について彼らに尋ね、彼らは自分たちの行つたことをすべて、さばきつかさたに話した。

14 「わたしたちは走つて、さばきつかさのいる所に行きました。そして、ニーフアイが証したとおりのことをすべて見たので、驚いて地に倒れてしまいましました。そして、驚きが収まつて正氣に戻ると、まことに、牢に入れられました。

15 この方の殺害に関しては、わたしたちはだれがそれを行ったのか知りません。わたしたちの知つているのは、ただ、あなたがたに求められたとおりにわ

たしたちが走つて行つたところ、まことに、ニーフアイの言葉のとおりに、この方が死んでいたことです。』

す。』

16 そこでさばきつかさたちは、人々にそのことをよく説明し、ニーフアイを非難して叫んで言つた。『見よ、我々は知つている。そのニーフアイという者がだれかと共謀して、さばきつかさを殺したに違ひない。そして彼は、その後に我々にそのことを告げ、

われわれ

我々を彼の信仰へ向させて、自分が神の選ばれた偉大な者に、また預言者になろうとしたのだ。』

われわれ

17 さて見よ、我々はその男を調べよう。その男は自分の悪事を自白し、このさばきつかさのほんとうの殺害者を我々に告げるだろう。』

われわれ

18 そして五人の者は、埋葬の日に釈放された。しかし彼らは、さばきつかさたちはニーフアイを非難して語った言葉のこととで、さばきつかさたちをたしなめ、彼らの一人一人と論じ合つて、彼らを言い伏せた。

われわれ

19 にもかかわらず、さばきつかさたちはニーフアイを捕らえて縛らせ、群衆の前に連れ来させた。そして彼らは、いろいろな方法で彼を尋問し、彼

われわれ

に矛盾したことと言わせて、死刑にする訴えを起させるように謀つた。』

20 そして、彼らは彼に言つた。『おまえは共謀者だ。この殺害を行つた当人はだれだ。我々に話して、おまえの悪事を認めよ。』また言つた。『見よ、ここに金がある。もしおまえが我々に話して、おまえが殺人者と取り決めを結んだことも認めるならば、我々はおまえの命を許してやろう。』

21 しかし、ニーフアイは彼らに言つた。『おお、愚かな者、心に割礼のない者、盲目な者、強情な民よ。あなたたがたがこの罪の道を歩き続けるのを、主なる神がいつまで許されるか、あなたたがたは知つているのか。』

22 おお、あなたがたは悔い改めなければ、今あなたがたを待ち受けているひどい滅亡のために、泣きわめき、嘆き悲しむようになるに違ひない。』

23 見よ、わたしはある男と共謀して、わたしたちの大さばきつかさであるセゾーラムを殺させたと、あなたたがたは言う。しかし見よ、あなたがたに言うが、あなたたがたがそう言うのは、あなたがたがこのことについて知ることができるよう、わたしが証

したためである。すなわち、あなたがたの中にある悪事と忌まわしい行いを知つてゐる証拠として、あなたがたに証したためである。

24 ところが、わたしがこのようにしたので、あなたがたは、わたしがある男と共に謀してこのことを行わせたと言ふ。また、わたしがこのしるしをあなたがたに示したので、あなたがたはわたしのことを怒り、わたしの命を取ろうとしている。

25 さて見よ、わたしはもう一つのしるしをあなたがたに示し、あなたがたがこのことで、わたしを殺そくするかどうかを見よう。

26 見よ、あなたがたに言う。セゾーラムの兄弟であるセアンタムの家に行き、彼に、『この民について非常に多くの災いを預言していられる、自称預言者のニーファイがあなたと共に謀殺したのですか』と言ふ。

28 見よ、彼は、『そうではない』とあなたがたに言ふだろう。

29 そこで、あなたがたは彼に、『あなたが兄弟を殺したのですか』と言ふ。

30 すると彼は恐れて立ち尽くし、言葉に詰まる。そして見よ、彼はあなたがたの言葉を打ち消し、驚いたふりをするだろう。それでも、自分は潔白であるとあなたがたに告げるだろう。

31 しかし見よ、彼をよく調べなさい。そうすれば、彼の外套のすそに血が見つかるだろう。

32 あなたがたはこれを見たら、『この血はどこでついたのですか。これはあなたの兄弟の血ではないですか』と言ひなさい。

33 すると彼は震えおののき、まるで死んだように蒼白になる。

34 そこであなたがたは、『このように恐れ、また顔色が蒼白になつたからには、見よ、あなたが罪を犯したのだろう』と言ひなさい。

35 すると彼は、ますます恐れて、やがてあなたがたに自白し、自分がこの殺害を行つたことをもはや否定しないだろう。

36 それから彼は、神の力によつてわたしひーファイにそれが示されたのでなければ、そのことについて分かるはずがないと、あなたがたに告げるだろう。そのときあなたがたは、わたしが正直な男であり、

あなたがたのもとに神から遣わされていることを知るだろう。』

37 そこで彼らは行つて、ニーファイから言われたとおりにした。するとまことに、彼の言つた言葉はほんとうであつた。セアンタムはその言葉のとおりに

否定し、またその言葉のとおりに自白した。

38 そして、彼自身がまさにその殺害者であることが立証されたので、五人の者は釈放され、ニーフ

アイも釈放された。

39 ニーファイの言葉を信じた者がニーファイ人の中に何人もおり、また五人の者が証したことで信じた者も何人もいた。五人の者は、牢の中にいた間に改心していたからである。

40 そして、ニーファイは預言者であると言う者が、民の中に何人もいた。

41 また、「神でなければすべてのことを知ることができないので、まことに、この人は神だ。まことに、この人はわたしたちの心の思いを告げ、またいろいろなこともわたしたちに告げてきた。わたしたちの大さばきつかさのほんとうの殺害者さえも教えてくれた」と言う者たちもいた。

第10章

第10章

主、ニーファイに結び固めの権威を授けられる。ニーファイ、地上でも天でもつなぎ、解く力を付与される。ニーファイ、悔い改めるように民に命じ、悔い改めなければ滅びることを告げる。ニーファイ、御靈によつて群衆から群衆へと連れて行かれる。紀元前約二十二年から二十年に至る。

1さて、民の中に不一致が生じたため、彼らはあちらこちらに分かれて、それぞれ去つて行つた。そしてニーファイは、彼らの真ん中に立つていて、ただ一人残された。

2 そこでニーファイも、主が自分に示してくださつたいろいろなことを深く考えながら、家路に就いた。

3 そして、彼は深く考え、ニーファイの民の悪事と、彼らの隠れた闇の業と、殺人と、略奪と、あらゆる罪惡のことでひどく沈んでいた。そして、彼がこのようにも心の中で深く考えていたとき、まことに一つの声が彼に聞こえて、こう言われた。

4 「ニーファイ、あなたはこれまで行つてきたこと

のために幸いである。わたしがあなたに授けた言葉を、あなたが根気よくこの民に告げ知らせたことを、わたしは見たからである。あなたは彼らを恐れることなく、また自分の命を得ようとせず、わたしの思いを求め、わたしの戒めを守ろうとしてきた。

さて、あなたがこのように根気よくこのことを行つてきただので、見よ、わたしはとこしえにあなたを祝福しよう。また、わたしはあなたを言葉にも行いにも、信仰にも働きにも、力のある者にしも行いにも、信頼にも働きにも、力のある者にしよう。あなたはわたしの思いに反することを求めていないので、まことに、すべてのことがあなたの言葉のとおりに行われるであろう。

見よ、あなたはニーファイであり、わたしは神である。見よ、わたしは天使たちの前であなたに宣言する。あなたはこの民に対して力を持ち、またこの民の悪に応じて飢饉、疫病、破壊で地を打つであろう。

見よ、あなたが地上で結ぶことは何でも天で結ばれ、あなたが地上で解くことは何でも天で解かれるように、わたしはあなたに力を授ける。した

がつて、あなたはこの民の中で力を持つであろう。8したがつて、もしあなたがこの神殿に向かつて二つに裂けるように言えば、そのとおりになるであろう。

もしあなたがこの山に向かつて、『崩れて平らになれ』と言えれば、そのとおりになるであろう。

また見よ、もしあなたが神はこの民を打たれると言えれば、そのようになるであろう。

さて見よ、今わたしはあなたに命じる。あなたは行つてこの民に、『全能者である主なる神は、あなたがたは悔い改めなければ滅びるまで打たれる』と言われる」と告げ知らせなさい。』

さて見よ、主がこれらの御言葉をニーファイに言われると、ニーファイは立ち止まり、自分の家に帰らず、地の面の方々に散つて群衆のもとへ戻つて行つた。そして、彼らは悔い改めなれば滅びるという、自分に告げられた主の言葉を彼らに告げた。

さて見よ、ニーファイが大さばきつかさの死について彼らに告げて行つた、あの大きな奇跡があつたにもかかわらず、彼らは心をかたくなにし、

11 ①エ ヒ 5 2	9 モル タ 12 30 24	7 マタ 16 19 4 20	6 1 18 20	5 エノ 1 3 3 30	4 モル 4 18 20	4 エフ 1 3 3 35	4 「熱心」 「犠牲」 「教義」 「福音」 「福音」 「福音」
-------------------------	--------------------------------	--------------------------------	--------------------	------------------------------	--------------------------	------------------------------	---

主の言葉に聞き従わなかつた。

14 そこでニーファイは、彼らに主の言葉を告げ、「あなたがたは悔い改めなければ滅びるまで打たれよ」と主が言われる」と語つた。

15 さて、ニーファイが彼らにその御言葉を告げても、見よ、彼らはなおも心をかたくなし、彼の言葉に聞き従おうとしなかつた。そして彼らは、ニーファイをののしり、また牢に入れるために彼を捕らえようとした。

16 しかし見よ、神の力がニーファイとともにあつたので、彼らはニーファイを捕らえて牢に入れることができなかつた。彼らは御靈によつて取り上げられ、彼らの中から連れ去られてしまつたからである。

17 そして、彼らは御靈の内にあつて群衆から群衆へと巡り、神の言葉を告げ知らせた。そして、ついに彼はすべての者に神の言葉を告げ終え、すべての民の中にも神の言葉を伝え終えた。

18 さて、彼らはニーファイの言葉を聽こうとしなかつた。そして、争いが起つたため、彼らは分かれていに剣で殺し合うようになつた。

19 このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第七十一年が終わつた。

第二章 第11章
ニーファイ、民の戦争の代わりに飢饉があるように主に願う。多くの人が死ぬ。人々は悔い改め、ニーファイは主に雨を請い願う。ニーファイとリーハイ、多くの啓示を受ける。ガデアントンの強盗たち、その地で勢力を確立する。紀元前約二十年から六年に至る。

1 さて、さばきつかさの統治第七十二年に、争いが激しくなり、國中至る所ですべてのニーファイの民の中に戦争が起つた。

2 この滅亡と悪の業を行つたのは、あの秘密強盜団であつた。この戦争は年内統き、第七十三年にも統いた。

3 そしてこの年に、ニーファイは主に叫び求めた。

4 「おお、主よ、この民が剣で滅びることのないようにしてください。おお、主よ、むしろ国内に飢饉があるようにし、彼らに主なる彼らの神を思い起させください。恐らく彼らは悔い改めて、あ

なたに立ち返るでしょう。」

成就することのないよう、主なるわたしたちの神に、この飢饉を遠ざけてくださいと叫び求め

5すると、ニーファイの言葉のとおりになつた。

「ください。」

その地に、すなわちすべてのニーファイの民の中に大飢饉があつた。このようにして、第七十四年にも

飢饉は続き、剣による滅亡の業はやんだが、飢饉によつて滅亡がひどくなつた。

9そこでさばきつかさたちは、人々が望んだ言葉のとおりにニーファイに言つた。するとニーファイは、人々が悔い改め、粗布をまとつてへりくだつて

6この滅亡は第七十五年にも続いた。地は打たれて乾き、穀物の実る季節にも穀物を産しなかつた。また全地が打たれて、ニーファイ人の中だ

いるのを見て、再び主に叫び求めて言つた。

7けでなくレーマン人にも影響が及んだ。その結果、民は打たれ、ひときわ邪悪な地方では何千もの人々が死んだ。

10「おお、主よ、御覧のとおり、この民は悔い改めています。彼らが自分たちの中からガデアントンの

団を一掃したため、団の者たちはいなくなり、彼らは秘密のはかりごとを地中に隠してしまいました。

11おお、主よ、このように彼らは謙遜になつてい

ますので、あなたの怒りを解いてください。あなたがすでに滅ぼされたあの悪人たちの滅亡をもつて、あなたの怒りを和らげてください。

12おお、主よ、あなたの怒り、まことにあなたの激しい怒りを解いて、この地における飢饉をやませてください。

7そこで人々は、自分たちがまさに飢饉によつて減びようとしているのを見て、主なる神を思い起

こすようになり、またニーファイの言葉を思い返すようになつた。

8そして人々は、自分たちの大さばきつかさたちと指導者たちに、ニーファイに對して次のように言う

9よう頼んだ。「まことに、わたしたちはあなたが神の人であることを知っています。ですから、あなたがわたしたちの滅亡について語った言葉がすべて

10はげしくのとおりになり、地の面に雨が降り、穀物の実る季節に、地が果実と穀物を産するよう

11おお、主よ、わたしの祈りをお聴きください。わたしの言葉のとおりになり、地の面に雨が降り、穀物の実る季節に、地が果実と穀物を産するよう

にしてください。

14 おお、主よ、わたしが、『飢餓があつて、剣によつて死んでしまった』と申し上げたところ滅亡がやむようにしてください

きに、あなたはわたしの言葉をお聴きくださいました。また、あなたがかつて、『この民が悔い改め

るならば、わたしは彼らの命を助けよう」と言わ
れましたので、わたしはこの度も、あなたがわたく
しの言葉をお聴きくださることを存じて います。
まことに、おお、主よ、彼らに起こつた飢饉と
疫病と滅亡のために、彼らがすでに悔い改めて
いることを、あなたは御存じです。

16 おお、主よ、あなたの怒りを解き、彼らがあなたに仕えるかどうかもう一度お試しください。も

仕えるならば、おお、主よ、かつて言られた御言葉のとおりに、彼らを祝福してください。」
そこで、第七十六年に、主は民から怒りを遠ざけて地より涙が降るようになされたので、地は果しじつとお

穀物の実る季節に果実を産した。また、穀物の実る季節

に穀物を産した。
たみ よろこ
かみ よろこ
ち

18 そこで見よ、民は喜び、神をあがめ、喜びが地の全面に満ちた。そして彼らは、もうニーファイを

殺そうとせず、かれを偉大な預言者として、また神のかみにあつた。されど彼は少しあつた。されど彼は少しあつた。

見よ、彼の弟リーハイも、義にかかることに
関しては少しも二ーフアイに劣らなかつた。
さて、ニーフアイの民は再びその地で栄えるよ
うになり、荒れ果てた所を建て直し始めた。また彼
らは、増えて広がり始め、ついに北方と南方の地の
全面を、西の海から東の海に至るまで覆つた。

21 そして、第七十六年が平穏に終わり、第七十七年も平穏に始まつた。教会は全地の面に広がり、二ーファイ人もレーマン人も、民の大半が教会に所属し、彼らはその地で非常に大いなる平和を得た。このようにして、第七十七年が終わつた。

22 また第七十八年も、預言者たちによつて定められた教義の幾つかの点について少し争いがあつた。ほかは、平和であった。

23 ところが第七十九年に、多くの争いが始まった。
しかし、二ーフ アイトリーハイと、彼らの同僚たの多くは、教義の眞の要點について理屈を立てて、人々に教し、日々多くの啓示を受けていたので、人々に教

えを説き、その年のうちに争いを鎮めた。

まれた。

さて、何年か前にニーファイの民がラーレーマンの人のもとへ行き、自らレーマン人と名乗つた離反者たちがおり、また、その離反者たちによつて怒りをかき立てられたレーマン人の実の子孫たちもいて、二ーファイの民のさばきつかさの統治第八十年に、これらの者たちが同胞と戦争を始めた。

しかし見よ、その年のうちに、兵はそれぞれの地へ追い返された。このようにして、ニーファイの民のさばきつかさの統治第八十年が終わつた。

彼らは殺人と略奪を行つては、山の中や荒れ野や隠れ場に引き揚げて身を隠し、見つからないようになつた。そして、彼らのもとに行く離反者たちがいたため、日々その人が増えた。

また、山や荒れ野に群れを成していたその強盗団に向かつて出て行き、多くの者を殺した。しかし、彼らもひどい損害を受けた。

このようにしてついに、何年もたたないうちに、彼らは非常に大きな強盗団になつた。そして彼らは、ガデアントンの秘密のはかりごとをすべて探し出し、ガデアントンの強盗になつた。

そして、このようにしてこの年は終わつた。強盗たちは依然として増え続け、強くなつたため、二ーファイ人とレーマン人の全軍をものともしなかつた。そして、彼らは地の全面で人々をひどく恐れさせた。

さて見よ、この強盗たちは、ニーファイの民の中に、またレーマン人の民の中にも、ひどい荒廃、まことにひどい滅亡^{めつぼう}をもたらした。

まことにそれは、彼らが多くの地方を襲つて、民にひどい滅亡^{めつぼう}をもたらしたからである。すなわち、多くの者を殺し、またある者たちを、特に、女たちと子供たちを捕らえて荒れ野へ連れ去つたからである。

そこで民は、自分たちの罪悪のために受けたこ

24 さて、何年か前にニーファイの民がラーレーマン

29 しかしこれの年に向かつて出て行き、多くの者を殺した。しかし見よ、その年のうちに、兵はそれぞれの

25 人のもとへ行き、自らレーマン人と名乗つた離反者たちがおり、また、その離反者たちによつて怒りをかき立てられたレーマン人の実の子孫たちもいて、二ーファイの民のさばきつかさの統治第八十年に、これらの者たちが同胞と戦争を始めた。

30 さて、第八十一年の初めに、彼らは再びこの強盗団に向かつて出て行き、多くの者を殺した。しかし、彼らもひどい損害を受けた。

31 また、山や荒れ野に群れを成していたその強盗たちの数が非常に多かつたので、兵は再び荒れ野と山からそれぞれの地に引き揚げざるを得なかつた。

32 そして、このようにしてこの年は終わつた。強盗たちは依然として増え続け、強くなつたため、二ーファイ人とレーマン人の全軍をものともしなかつた。そして、彼らは地の全面で人々をひどく恐れさせた。

33 まことにそれは、彼らが多くの地方を襲つて、民にひどい滅亡^{めつぼう}をもたらしたからである。すなわち、多くの者を殺し、またある者たちを、特に、女たちと子供たちを捕らえて荒れ野へ連れ去つたからである。

34 そこで民は、自分たちの罪悪のために受けたこ

26 このようにしてついに、何年もたたないうちに、彼らは非常に大きな強盗団になつた。そして彼らは、ガデアントンの秘密のはかりごとをすべて探し出し、ガデアントンの強盗になつた。

35 まことにそれは、彼らが多くの地方を襲つて、民にひどい滅亡^{めつぼう}をもたらしたからである。すなわち、多くの者を殺し、またある者たちを、特に、女たちと子供たちを捕らえて荒れ野へ連れ去つたからである。

27 さて見よ、この強盗たちは、ニーファイの民の中に、またレーマン人の民の中にも、ひどい荒廃、まことにひどい滅亡^{めつぼう}をもたらした。

36 まことにそれは、彼らが多くの地方を襲つて、民にひどい滅亡^{めつぼう}をもたらしたからである。すなわち、多くの者を殺し、またある者たちを、特に、女たちと子供たちを捕らえて荒れ野へ連れ去つたからである。

28 そこで、この滅亡^{めつぼう}の業をやめさせることが必要であったので、この強盗団を捜し出して滅ぼすたために、荒れ野と山に強い兵から成る軍隊が送り込こ

37 まことにそれは、彼らが多くの地方を襲つて、民にひどい滅亡^{めつぼう}をもたらしたからである。すなわち、多くの者を殺し、またある者たちを、特に、女たちと子供たちを捕らえて荒れ野へ連れ去つたからである。

29 さて見よ、この強盗たちは、ニーファイの民の中に、またレーマン人の民の中にも、ひどい荒廃、まことにひどい滅亡^{めつぼう}をもたらした。

38 まことにそれは、彼らが多くの地方を襲つて、民にひどい滅亡^{めつぼう}をもたらしたからである。すなわち、多くの者を殺し、またある者たちを、特に、女たちと子供たちを捕らえて荒れ野へ連れ去つたからである。

の大きな災いに促され、再び主なる彼らの神を思い起こすようになつた。35 このようにして、さばきつかさの統治第八十一
年が終わつた。

36 ところが第八十二年に、彼らはまた主なる神を忘れ始めた。そして第八十三年に、彼らはさら
に罪悪を募らせ、第八十四年にも行いを改めなか
つた。

37 そして第八十五年には、彼らはますます高慢と
惡事を募らせ、そのために再び滅亡の機が熟して
きた。

38 このようにして、第八十五年が終わつた。

第12章

人は不安定で、愚かで、惡を行ふのが早い。主は御自
分の民を懲らしめられる。人の無力さと対比される神の
裁きの日に、人は永遠の命が永遠の罰の定めかのど
ちらかを受ける。紀元前約六年。

1 このことからわたしたちは、人の子らの心がど
れほど不誠実で不安定であるかを知ることができ

る。まことに、主を信頼する者たちを、主が大い
なる限りない慈しみをもつて祝福し、榮えさせら
れるということ、わたしたちは知ることができ
る。
2 また、主が御自分の民を榮えさせられるまさに
そのとき、まことに、民の畠と家畜の群れを増
し、金銀と、あらゆる自然の貴重な品々と人工の
貴重な品々を与え、民の命を助け、敵の手から民
を救い出し、また宣戦することのないよう敵の
心を和らげ、要するに御自分の民の繁栄と幸いの
ためにあらゆることを行われるそのときに、彼ら
は心をかたくなし、主なる神を忘れ、聖者を足
かに繁栄したためである。

3 またこのことから、主が多くの苦難をもつて御
自分の民を懲らしめられなければ、まことに、死
と恐怖と飢餓とあらゆる疫病を下されなければ、
彼らは主を思い起こそうとしないことが分かる。

4 おお、人の子らは何と愚かで、虚栄心が強く、
善を

おこなうのが遅いことか。何と悪しき者の言葉を聴くのが早く、俗世のむなしものに執着するのが早いことか。

まことに、何と高慢になるのが早いことか。何と誇るのが早く、あらゆる罪悪を行なうのが早いことか。人の子らは何と主なる神を思い起こすのが遅いことか。主の勧告に耳を傾けるのが遅いことか。何と知恵の道を歩むのが遅いことか。

6 見よ、人の子らは、自分たちを造つてくださつた主なる神に治められ、統治されるのを望まない。主が深い慈しみと憐れみをかけてくださつてゐるのに、人の子らは主の勧告を軽んじ、主が自分たちの導き手になつてくださるのを望まない。

「おお、人の子らは何と無力なことか。まことに、

まことに、神の力によつて全地が揺れ動く。
まことに、神の声の力によつて地の基がその中
心まで振動する。

そして、もし神が大地に向かつて、「動け」と言
われれば、大地は動く。

まことに、もし神が大地に向かつて、「逆に進
んで、昼を何時間も長くせよ」と言われば、その
とおりになる。

このように、神の言葉のとおりに大地は逆に進む
ので、人には太陽が静止しているように見える。
見よ、これは事実である。確かに動いているのは
大地であり、太陽ではないからである。

また見よ、もし神が大きいなる深みの水に向かつ
て、一言もいはずば、そのとおりとなる。

17 見よ、もし神がこの山に向かつて、「持ち上がつて、行つてあの町のうえに落ち、町を埋めよ」と言わ

れば、見よ、そのとおりになる。

見よ もしある人が地中に宝を隠し
れを隠した者の罪惡のために、それはのろわれよ

もし主が、今から後どこしえにだれにも見つかと言われば、見よ、それはのろわれる。

10 神の声の力によつてそれらは崩れて平らになり、まことに谷のようになれる。

らないよう、おまえはのろわれよ」と言われれば、見よ、これから先とこしえに、だれもそれを得られない。

20 見よ、もし主がある人に向かって、「あなたは自分の罪悪のためにとこしえにのろわれる」と言われば、そのとおりになるであろう。

21 もし主が、「あなたは自分の罪悪のためにわたしの前から絶たれる」と言われれば、主はそのようなさるであろう。

22 主からこのように言われる者は災いである。罪悪を行ふ者はそのとおりになり、その者は救われないからである。このため、人々が救われるよう、悔い改めが告げ知らされてきたのである。

23 したがつて、悔い改めて、主なる神の声に聞き従おうとする者は幸いである。救われるのはこれらの人だからである。

24 神が御自分の大いなる完全さに照らして、人々を悔い改めと善行に導き、それぞれの行いに応じた恵みに回復してくださるように。

25 わたしはすべての人があれることを願つてい る。しかし、わたしたちの読んだところによれば、

おお おお
大いなる終わりの日には、捨てられる者たち、まことに、主の前から追い出される者たち、
26 まことに、無窮の慘めな状態に置かれる者たちがいるとのことである。そして、「善を行つた者は永遠の命を受け、悪を行つた者は永遠の罰の定めを受ける」という御言葉が成就するのである。

まことにそのとおりである。アーメン。

レーマン人サムエルがニーファイ人に語った預言。
次の第十三—十五章がそれに相当する。

第 13 章

レーマン人サムエル、ニーファイ人は悔い改めなければ滅亡することを預言する。ニーファイ人と彼らの富はのろわれる。ニーファイ人は預言者たちを拒んで石を投げつけ、悪靈たちに取り囮まれ、罪悪を行ふことに樂しみを求める。紀元前約六年。

1さて、第八十六年にも、ニーファイ人は依然と

して悪事を、まことに大きな悪事を続けていた。

一方レーマン人は、モーセの律法に従つて神の戒めを厳密に守るよう努めていた。

2 そしてこの年に、レーマン人のサムエルという者がゼラヘムラの地にやつて来て、民に教えを説き始めた。彼は幾日もの間、民に悔い改めを宣べ伝えたが、民が彼を追い出したので、彼は自分の國へ帰ろうとした。

3 ところが見よ、主の声が彼に聞こえて、もう一度引き返し、心の中に浮かぶことを、どのようなことであろうと民に預けんように言われた。

4 さて、民は、彼が町に入るのを許さなかつた。そこで彼は、町の城壁の上に登り、手を伸ばして大声で叫び、主が心に与えてくださることをすべて民に預言した。

5 彼は民に言つた。「見よ、わたし、レーマン人サムエルは、主がわたしの心に与えてくださる主の御言葉を告げる。見よ、この民に告げるよう主がわたしの心に与えてくださつたことは次のとおりである。罰の剣が今この民のうえに迫つてゐる。四百年たないうちに、罰の剣はこの民のうえに振ふ

り下ろされる。

6 まことに、ひどい滅亡がこの民を待ち受けており、それは必ずこの民に下る。悔い改めて、主イエス・キリスト、すなわち、将来必ずこの世に来て、多くの苦しみを受け、御自分の民のために殺される主イエス・キリストを信じる以外に、何事もこの民を救うことはできない。

7 そして見よ、主の天使がそれをわたしに告げた。また主の天使は、わたしに喜びのおとずれを携えて来た。見よ、あなたがたもその喜ばしいおとずれを得られるように、わたしはあなたがたにそれを告げ知らせるために遣わされたのである。しかし見よ、あなたがたはわたしを受け入れようとしなかつた。

8 したがつて、主は次のように言われる。『二ーフアイ人の民の心がかたくなので、彼らが悔い改めなければ、彼らからわたしの言葉を取り去るう。また、わたしの靈も取り去ろう。そしてわたしは、もはや彼らをそのままにはしておかず、彼らの同胞に彼らに対する敵対心を抱かせよう。

9 四百年たないうちに、わたしは彼らが打たれ

9	8	7	6	5	3	1
①	①	②	①	①	①	ヒラ
ア	ラ	イ	アル	ヒラ	15	15
45	6	52	13	17	15	4
10	35	7	26	10	29	5
12				14		5

るようにしてよ。まことに、わたしは剣と飢饉と疫病を彼らに及ぼそう。

10 まことにわたしは、激しい怒りをもつて彼らを罰しよう。あなたがたの敵の第四世代の者の中に生き長らえて、あなたがたの完全な滅亡を見れば、このことは必ず起ころ』と、主は言われる。『その第四世代の者たちがあなたがたを滅ぼすであろう。

11 しかし、もしあなたがたが悔い改めて、主なるあなたがたの神に立ち返るならば、わたしは怒りを解こう』と、主は言われる。まことに、主は次のようにいである。

12 まことに、この大きなゼラヘムラの町は災いである。見よ、この町が今救われているのは、義を守っている者のおかげである。まことに、この

大きな町は災いである。多くの者、まことにこの大きな町の大半の者が将来わたしに対して心をかたくなにすることを、わたしは知つていてからであ

る』と、主は言われる。

13 しかし、悔い改める者は幸いである。わたしはその者たちの命を救うからである。しかし見よ、もしこの大きな町に義人がいなければ、見よ、わたしは天から火を下し、この町を滅ぼしていくであろう。

14 しかし見よ、この町が今助かつているのは、義人のためである。しかし見よ、あなたがたが義人を追い出すぐ時に来る。そのとき、あなたがたの滅亡の機会は熟する』と、主は言われる。『まことに、この大きな町は、その中にある悪事と忌まわしい行いのために災いである。

15 また、ギデオンの町も、その中にある悪事と忌まわしい行いのために災いである。

16 また、周りの地にある二ーフアイ人が所有しているすべての町は、その中にある悪事と忌まわしい行いのために災いである。』

17 また見よ、万軍の主は言われる。『この地にいる民のために、まことに彼らの悪事と忌まわしい行いのために、のろいが地に下るであろう。』

18 そしてこのように、万軍の主、まことにわたし

たちの大いなるまことの神は言われる。『地中に宝を隠す者は、その者が義人であつて、主に託してそれを隠すのでなければ、地のひどいのろいのため

に、もはや二度とそれを見いだせないであろう。』

19 主は言われる。『宝を隠す者はわたしに託して隠すようにわたしは望む。わたしに託すことなく宝を隠す者はのろわれる。義人以外にはだれも、わ

たしに託して宝を隠さないからである。わたしに託すことなく宝を隠す者はのろわれるし、その宝ものろわれる。また、地がのろわれるために、それを取り出す者はだれもいない。

20 人々が富に執着して自分の宝を隠す日が来る。

人々は自分の富に執着し、敵の前から逃げると同時に自分の宝を隠すであろう。しかし、彼らは宝を隠すときにわたしに託さないので、彼らも宝ものろわれる。そしてその日に彼らは打ちられる』と、主は言われる。

21 見よ、あなたがた、この大きな町の民よ、注意を払い、わたしの言葉を聞きなさい。まことに、主が言われる御言葉を聞きなさい。見よ、あなたがたは富のためにのろわれると、主は言われる。また、あ

なたがたが富に執着し、それを授けてくださつた御方の御言葉に聞き従わなかつたので、あなたがたの富ものろわれると、主は言われる。

22 あなたがたは、主なる神が授けてくださつたものについて、主を思い起こさない。あなたがたはいつも富のことを心にかけていて、主なるあなたがたの神に富のことを感謝するのを忘れている。ま

ことに、あなたがたの心は主に向いておらず、ひどくおごり高ぶつて、誇りや大言壯語、ねたみ、争い、悪意、迫害、殺人、そのほかあらゆる罪惡に陥つてゐる。

23 このために、主なる神は、のろいが地に下るようにな、またあなたがたの富にも下るようにされた。それはあなたがたの罪惡のためである。

24 まことに、この民は災いである。あなたがたは昔の人々が行つたように、今、預言者たちを追い出し、あざけり、石を投げつけ、彼らを殺し、また彼らに対してもあらゆる罪惡を行つてゐるからである。

25 あなたがたは語るとき、『わたしたちは、もし昔の先祖の時代に生きていたならば、預言者たちを

25	①	1	③	24	GS	①	エテ	モル	18
使徒	ニフ	歴下	36	GS	GS	「富物欲」	12	34	
7	51	20	15	「ねたみ」	16				

殺さなかつたであろう。預言者たちに石を投げつけることも、彼らを追い出すこともしなかつたであらう』と言ふ。

26 見よ、あなたがたは彼らよりも悪い。主が生きておられるように、もし預言者があなたがたの間に来て、あなたがたの罪と不義を証する主の御言葉を告げ知らせたならば、あなたがたはその預言者のことを怒り、追い出し、あらゆる方法を使つて殺そうとする。まことに、彼があなたがたの行いは悪いと証するので、あなたがたは、彼は偽預言者であり、罪人であり、悪魔から出た者であると言う。

27 しかし見よ、もある人があなたがたの中に来て、『これを行ひなさい。行つても罪ではない。それを行ひなさい。行つても苦しみを受けない』と言えば、また、『あなた自身の心の高ぶりに従つて歩きなさい。まことに、あなたの目の高ぶりに従つて歩きなさい。あなたの心が望むことを何でも行ひなさい』と言えば、すなわち、もある人があなたがたの中に来てこのように言えば、あなたがたは彼を受け入れ、彼は預言者であると言ふ。

28 まことに、あなたがたは彼をあがめ、彼にあなたがたの持ち物を与え、彼にあなたがたの金銀を与え、また彼に高価な衣服を着せるであらう。そして、彼があなたがたにへつらいの言葉を語り、万事よしと言うので、あなたがたは彼を非難しないであろう。

29 おお、邪悪でよこしまな人々よ、かたくなで強情な民よ、あなたがたは、主がいつまであなたがたをそのままにしておかれると思つてゐるのか。またはいつまで光よりも闇を選ぶつもりか。ことに、あなたがたはいつまで愚かな盲目の導き手たちに引かれていくつもりか。まことに、あなたがたはいつまで地をのろわれた。

30 まことに見よ、主の怒りはすでにあなたがたに向かつて燃えている。見よ、主はあなたがたの罪悪のために地をのろわれた。

31 また見よ、主があなたがたの富をのろわれて、それがなくなりやすくなり、あなたがたがそれを保つことのできない時が来る。あなたがたは、貧しいときにはそれを保てない。

32 あなたがたの貧しいときに、あなたがたは主に叫び求めるであらう。しかし、あなたがたが叫び求

31	29	28	27	26
① ④ ③ ② ① ① GS ① ④ ③ ② ① モヨマタニフニテモカミカラ30 31 18 ルハブタニフニテモカミカラ30 31 18 1 3 24 15 28 9 3 17 19 13 14 11 13 16 9 18				

めても無駄である。すでに荒廃があなたがたに及んでおり、あなたがたの滅亡が確定しているからである。そして、『その日、あなたがたは涙を流し、泣きわめくであろう』と、万軍の主は言われる。また、そのときあなたがたは嘆いて、『おお、わたしは悔い改め、預言者たちを殺さず、石を投げつけず、追い出さなければよかつた』と言うであろう。まことに、その日にあなたがたは言うであろう。『おお、主なるわたしたちの神が富を与えてくださつたその日に、主を思い起こしておけばよかつた。そうすれば、富がなくなりやすくなつて、それを失うということはなかつたであろう。見よ、わたしたちの富は今はもうわたしたちのもとにはそれなくなる。見よ、戦いのために自分の剣を捲す日には、それはなくなつている。』

34 見よ、わたしたちがここに道具を置くと、翌日まことに、わたしたちは自分の宝を隠しておい

35 たのに、地のろいのために失われてしまつた。36 おお、主の御言葉がわたしたちに及んだ日に、悔い改めておけばよかつた。見よ、地はのろわれ、

33 37 すべてのものがなくなりやすくなつており、わたしたちはそれらを保てない。見よ、わたしたちは悪霊に取り囲まれている。わたしたちの靈を滅ぼそうとしてきた者の使いに取り囲まれている。見よ、わたしたちの罪惡は大きい。おお、主よ、あなたの怒りを解いていただきませんでしようか。』これがその日にあなたがたの言う言葉である。

38 38 33 33 33 33
しかし見よ、あなたがたの試しの日はすでに過ぎ去つた。あなたがたは自分の救いの日を引き延ばしたので、とうとう永遠に間に合わなくなつてしまい、あなたがたの滅亡は確定してしまつた。まことに、あなたがたは手に入れることのできないものを、生涯をかけて求めてきたのである。あなたがたは、罪惡を行ひながら幸福を求めてきた。それはわたしたちの大きいなる永遠の頭の内にある、あの義の本質に反することである。

39 おお、この地の民よ、わたしの言葉を聞いてもらいたい。わたしは主の怒りが解かれるよう、またあなたがたが悔い改めて救われるようとに祈つて

第14章

サムエル、キリストの降誕の時には夜中も明るく、一つの新しい星が現れることを予告する。キリストは人々を肉体の死と靈の死から離れる。キリストの死のしるとして、三日間の暗闇があり、岩が裂け、自然の大変動がある。紀元前約六年。

1さて、レーマン人サムエルは、ほかにもここに書き記せない非常に多くのことを預言した。

2見よ、彼は民に言つた。「見よ、わたしはあなたがたにしるしを与える。もう五年たつと、見よ、神の御子がその御名を信じるすべての人を贖うために来られる。

3見よ、神の御子の来臨の時のしるしとして、あなたがたに次のことを知らせておく。見よ、天に大いなる光があるために、神の御子が来られる前の夜は暗闇がなく、人にはまるで昼のように思われる。

4したがつて、二昼夜一夜がまるで一日のようであつて、夜がない。これがあなたがたへのしるしである。あなたがたには日の出も日の入りも分かるので、二昼夜一夜であることが確かに分かる。しか

し、夜は暗くならない。それが神の御子のお生ま
れになる前夜である。

5また見よ、あなたがたが一度も見たことのないよう
うな一つの新しい星が現れる。これもあなたがたへのしるしである。

6そして見よ、これだけではない。天には多くのし
るしと不思議がある。

7そして、あなたがたは皆、驚き、不思議に思い、
地に倒れるであろう。

8そして、神の御子を信じる者は皆、永遠の命を受ける。

9見よ、わたしが来て、このことをあなたがたに告げるよう、主は天使を通じてわたしに命じられた。まことに、これらのことあなたがたに預言するようにと、主は命じられた。まことに、主はわたしに、「悔い改めて主の道を備えよと、この民に叫びなさい」と言われた。

10ところが、わたしがレーマン人であつて、主から命じられた御言葉をあなたがたに語つたので、また、それがあなたがたにとつて堪え難かつたので、あなたがたはわたしを怒つて、わたしを殺そう

とし、あなたがたの中からわたしを追い出した。
なが
①お

「しかし、あなたがたの中からわたしを追い出した。
あなたがたは、わたしの言葉を聞かなければならぬ。わたしがこの町の城壁に登つたのは、あなたがたの罪惡のゆえにあなたがたを待ち受けている神の裁きについて、あなたがたが聞いて知るところができるよう、またあなたがたが悔い改めの条件を知ることができるようするためである。

ない。救いがもたらされるためである。まことに、
それはイエス・キリストの務めである。死者の復活
をもたらし、それによつて人々が主の御前に導かれ
るようにするために、イエス・キリストが死なれる
ことが必要になつてゐるのである。

12 また、あなたがたがイエス・キリスト、すなわち神の御子、天地の父、時の初めからの万物の創造主の来臨を知ることができるようにするためであり、さらにあなたがたがイエス・キリストの来臨のしるしを知って、イエス・キリストの御名を信じられるようにするためである。

13 あなたがたは、イエス・キリストの御名を信じらるるならば、罪をすべて悔い改めるであろう。それによつてあなたがたは、イエス・キリストの功德を通じて罪の赦しを得るのである。

14 見よ、さらにわたしはもう一つのしるし、すな
わち、イエス・リストの死のしるしをあなたが
たに知らせておく。

17 しかし見よ、キリストの復活は人類、まことに全人類を贖つて主の御前に連れ戻す。

18 そして、それは悔い改めの結果を果たし、悔い改める者は、切り倒されて火の中に投げ込まれる。ではないが、悔い改めない者は皆、切り倒されたりに投げ込まれる。そしてこれらの者には、再び靈の死、まことに第二の死が及ぶ。彼らは義にかかる事柄に関して再び絶たれるからである。

19 だから、あなたがたは悔い改めなさい、悔い改めなさい。さもなければ、あなたがたはこれらのこと

17 しかし見よ、キリストの復活は人類、まことに全人類を贖つて主の御前に連れ戻す。

18 そして、それは悔い改めの結果を果たし、悔い改める者は、切り倒されて火の中に投げ込まれる。ではないが、悔い改めない者は皆、切り倒されたり火の中に投げ込まれる。そしてこれらの者には、再び靈の死、まことに第二の死が及ぶ。彼らは義にかかる事柄に関して再び絶たれるからである。

19 だから、あなたがたは悔い改めなさい、悔い改めなさい。さもなければ、あなたがたはこれらのこと

17 ①(4) GS GS —贋い、	16 ②(3) GS GS —死の「	15 ①(2) —エバの —アバの	13 ①(1) —堕落	12 10 エテ テラ —救主 —アダム
—贋う」	—アバの「	徒使教義 —救主の「	「イエス・キリスト」	モサラ —モサラ —モサラ —モサラ
—6 —9	—42	—16 —30 —1 —20 —31	—7 —8 —9 —15	8、2 8、2 8、2 8、2

30 覚えておきなさい。わたしの同胞よ、覚えておきなさい。滅びる者は自分で滅び、罪悪を行う者は自分でそれを行うのである。なぜなら、見よ、あなたがたは自由であり、あなたがたは隨意に行動なたがたは自由である。なぜなら、見よ、あなたがたは隨意に行動することを許されているからである。見よ、神はあなたがたに知識を与えて、あなたがたを自由にしてくださいたからである。

31 神はあなたがたが善悪をわきまえられるようにしてくださいり、また、あなたがたが生でも死でも選べるようにしてくださいた。あなたがたは善を行つて、善であるものに回復される。言い換れば、あなたがたが回復された善であるものを持つことができる。また、あなたがたは悪を行つて、あなたがたに回復された悪であるものを持つことでもきるのである。」

第 15 章
主は二ーファイ人を愛しておられたので、彼らを懲らしめられた。改宗したレーマン人は信仰が確固として堅固である。主は末日にレーマン人に憐れみをかけられる。紀元前約六年。

1 「わたしの愛する同胞よ、見よ、あなたがたに告げる。悔い改めなければ、あなたがたの家は荒れ果てたまま残されるであろう。

2 まことに、あなたがたが悔い改めなければ、あなたがたの婦人たちは乳を飲ませる日に嘆き悲しむことになる。あなたがたは逃げようとするが、避け所となる場所がない。また、子供を宿している婦人たちは災いである。身重で逃げられないからである。したがつて、その婦人たちは踏みにじられ、置き去りにされて死ぬであろう。

3 まことに、二ーファイの民と呼ばれているこの民は、自分たちに示されるこれらのしと不思議をすべて見るときに、悔い改めなければ災いである。見よ、彼らは主の選ばれた民であつたからである。まことに、二ーファイの民を主は愛してこられ、また主はこの民を懲らしめてこられた。主は二ーファイの民を愛しておられたので、彼らを懲らしめた日に彼らを懲らしめられた。

4 しかし見よ、わたしの同胞よ、主はレーマン人を憎んでこられた。彼らの行いがいつも悪かつたからであり、これは彼らの先祖の言い伝えが正し

第 15 章

30	①	モセ	2	ニフ	2	26	29
31	①	モロ	7	16	2	28	29
32	①	アル	3	27	1	29	30
33	②	アル	41	3	27	1	29
34	③	ヘブ	12	5	11	12	38
35	④	教義	95	1	3	19	37
36	GS	「言い伝え」					

くなかつたためである。ところが見よ、ニーファイ人の宣教によつて、救いがレーマン人に与えられ、このために主は彼らの時代を引き延ばされた。
 5またあなたがたは、レーマン人の大半が自分の義務の道にあり、神の御前を注意深く歩み、モーセの律法に従つて神の戒めと神の掟と神の裁決を守るように努めているのを見てもらいたい。
 6まことに、あなたがたに言うが、彼らの大半がこのように行つてゐる。そして彼らは、残りの同胞にも真理を知らせようと熱心に勤勉に努めているので、日々彼らの仲間に加わる者が多い。
 7見よ、あなたがた自身見て知つていており、彼らの多くは今真理を知つており、彼らの先祖の言い伝えが邪悪で忌まわしいことも知つており、また聖文、まことに書き記されている聖なる預言者たちの預言を信じるようになつてゐる。これらの預言者は主を信じる信仰と悔い改めに彼らを導き、その信仰と悔い改めが彼らに心の変化をもたらしている。

8したがつて、あなたがた自身知つていており、このようになつたものは皆、信仰において、また彼らに自由を得させた事柄において確固としている。9またあなたがたも知つてゐるようには、彼らは自分たちの武器を埋めてしまつた。そして彼らは、決して罪を犯してはならないと思ひ、武器を取ることを恐れてゐる。まことに、あなたがたは彼らが罪を犯すのを恐れてゐるのを見ることができる。見よ、彼らは敵に踏みにじられて殺されるに任せ、敵に対しても劍を振り上げようではない。これは、彼らがキリストを信じてゐるためである。
 10また彼らには、自分の信じてゐることを信じる確固とした強さがあり、一度啓発されると固く守り通す強さもあるので、彼らが罪悪を犯したにもかかわらず、見よ、主は将来彼らを祝福し、彼らの時代を引き延ばされるであろう。

11まことに、たとえ彼らが不信仰に陥つたとしても、主は彼らの時代を引き延ばされ、わたしたちの先祖と預言者ゼノスとそのほか多くの預言者が語つてきた時代が訪れるであろう。すなわち、同胞であるレーマン人に、再び以前のように真理が知らされることについて語つてきた、その時が訪れるであろう。

11	9	8	7	5	4
③	②	①	①	①	②
2	ヒラ	アル	アル	GS	アラ
30	8	9	24	14	13
5	19	16	17	19	9
8					27

12 まことに、あなたがたに言う。末の時代における主の約束はわたしたちの同胞であるレーマン人

に与えられている。彼らは多くの苦難に遭い、地の面であちらこちらへ追い立てられ、狩り出され、打たれ、広く散らされて、避け所となる場所がなくなるにもかかわらず、主は彼らに憐れみをかけられる。

13 これは、彼らが眞実の知識、すなわち彼らのあがなった主、彼らの大いなるまことの羊飼いを知る知識に再び導かれて、その羊飼いの羊の中に数えられるという預言にかなつていて、

14 したがつて、あなたがたに言う。あなたがたが悔い改めなければ、彼らの方があなたがたよりも幸いである。

15 見よ、これまであなたがたに示されてきた力ある業が、彼らに、まことに先祖の言い伝えのためには不信仰に陥っている彼らに示されていたならば、彼らは決して二度と不信仰に陥らなかつたであろう。あなたがた自身、それを見る事ができる。

16 したがつて主は、『彼らを完全には滅ぼさず、わたしの恵にかなう日に、彼らを再びわたしに立

ち返らせよう』と言われる。

17 また見よ、主は、ニーファイ人の民について、『もし彼らが悔い改めてわたしの思いを行いうように努めなければ、わたしが彼らの中で行つてきた多くの力ある業にもかかわらず、彼らは不信仰であるので、わたしは彼らをことごとく滅ぼそう。主が生きているように確かに、これらのこととは行われる』と言われる。』

第 16 章

サムエルの言葉を信じたニーファイ人、ニーファイからバブテスマを受ける。悔い改めないニーファイ人の矢も石も、サムエルを殺すことはできない。ある者は心をかたくなしし、別の者は天使を見る。キリストを信じることも、エルサレムにキリストが来臨されることを信じることも道理にかなつていないと、不信者たちは言う。紀元前約六年から一年に至る。

1さて、レーマン人サムエルが町の城壁の上で語る言葉を聞いた者は大勢いた。そして、彼の言葉を信じた者は皆、出て行つてニーファイを捜し

17	15	14	13	2	1	12
①	①	①	②	②	モル	エノ
ヒマ	ヒラ	7	3 GS	コ3	1	1
ラ	3	11	ニ	3	11	5
13	11	6	羊飼い	6	19	31
6	20	23	12	12	13	13
10	23					

た。彼らは行つてニーファイを見つけると、バプテスマを受けて主のものとなることを願つて、罪を彼に告白して否定しなかつた。

2しかし、サムエルの言葉を信じない者たちもおり、彼らは皆サムエルに腹を立てた。そして彼らは、城壁の上にいる彼に石を投げつけた。また、城壁の上に立つていてる多くの者が矢を射かけた。しかし、主の御靈が彼に伴つていたので、彼らは石も矢も当てることができなかつた。

3そして、当てることができないのを見て、さらに多くの者が彼の言葉を信じた。そして彼らは、バプテスマを受けるためにニーファイのもとへ行つた。

4見よ、それは、ニーフアイがバプテスマを施し、預言し、教えを説き、民に悔い改めを叫び、またキリストが間もなく必ず来れることを民に知らせるために、数々のしるしと不思議を示し、彼らの中で数々の奇跡を行つていてからである。

5ニーフアイは、間もなく起ることを民に告げていた。それらのことが実際に起つたときに信じじができるよう、あらかじめそれが知ら

されていたということを認めさせ、思い起させたためであつた。そこで、サムエルの言葉を信じた者は皆、バプテスマを受けるためにニーフアイのもとへ行つた。彼らは悔い改め、罪を告白するために行つたのである。

6しかし、民の大半はサムエルの言葉を信じなかつた。そこで彼らは、石も矢も彼に当てることができないのを見ると、彼らの隊長たちに叫び、「この男を捕らえて、縛つてくれ。見よ、この男には惡靈がついている。この男の内にある惡魔の力のために、我々は石も矢も当てることができない。だから、この男を捕らえて、縛り、追い払つてくれ」と言つた。

7そこで、隊長たちが行つてサムエルを捕らえようとしたところ、見よ、彼は城壁から飛び降りて、彼らの地から逃げ出し、自分の國へ帰つて行つた。そして彼は、自分の民の中で教えを説き、預言し始めた。

8見よ、彼がこれ以上ニーフアイ人を訪れたといふ話は一度もない。民の状況は以上のとおりであつた。

9このようにして、ニーフアイの民のさばきつかさ

の統治第八十六年が終わつた。

10 また、さばきつかさの統治第八十七年もこのよ
うにして終わり、民の大半は依然として高慢で悪
事を続けており、神の前をさらに注意深く歩んで
いたのは、少數の者にすぎなかつた。

11 さばきつかさの統治第八十八年もこのような状
態であった。

12 また、さばきつかさの統治第八十九年も、民が
さらに罪惡にふけるようになり、ますます神の戒
めに反することを行ふようになつたことを除けば、
民の状況はほんの少し変わつただけであつた。

13 ところが、さばきつかさの統治第九十年になる

と、民に数々の大きなしるしと不思議が与えられ、
預言者たちの言葉が成就し始めた。

14 また、天使たちが人々、すなわち賢い人々に現
れ、胸躍る大いなる喜びのおとずれを彼らに告げ
知らせた。このように、聖文に記されていることが
この年に成就し始めた。

15 にもかかわらず、二ーフアイ人もレーマン人
も、民の中で最も信仰の深い人々を除いて、彼らは
皆、心をかたくなにし始め、自分自身の力と自分

自身の知恵に頼るようになつて、こう言つた。

16 「このように多くのことの中で、彼らがうまく言
い当てたことも幾らかある。しかし見よ、これま
で述べられてきたこれらの大いなる驚くべき業が、
すべて現実に起ることはあり得ないのを我々は
知つている。」

17 また、彼らは互いに論じ、論争して言つた。

18 「キリストのような者が来ることは道理に合わない。
仮にそうだとして、これまで言われてきたよう
に、その人が神の御子であり天地の父であるとす
れば、なぜエルサレムにいる者たちだけでなく、
我々にも現れないのか。」

19 まことに、なぜエルサレムの地だけではなく、こ
の地にも姿を現さないのか。

20 しかし見よ、我々は、これが我々の先祖から伝
えられてきた悪い言い伝えであることを知つてい
る。これが伝えられたのは、将来起ころるある大い
なる驚くべきことを我々に信じさせるためである
が、それは我々の中ではなく、我々の知らない遠く
の地で起ころる。だから、我々はその言い伝えがほん
とうであることを自分の目で見ることができない

ので、彼らは我々を無知の中にとどめておくことができる。

21 また彼らは、悪しき者の悪知恵と不思議な術策によつて、我々の理解できぬいある大きな奇跡を起こし、我々を従えて彼らの言葉の奴隸とし、彼らの僕にしようとする。それは、我々が彼らから御言葉を教わろうとするからである。このように我々が彼らに自分の身をゆだねようとすれば、彼らは生涯我々を無知の中とどめておくだろう。」

22 民は、愚かでむなしいことをほかにもたくさん心に思い浮かべた。またサタンが絶えず罪悪を行つようになつたので、彼らはひどく心

を乱された。まことに、サタンは方々を巡つて地の全面にうわさと争いを広め、善いことと将来起ることに対して民の心をかたくなにさせたのであつた。

23 そして、主の民の中で数々のしるしと不思議が行われ、また主の民が多くの奇跡を行つたにもかかわらず、サタンは地の全面で人々の心を大いに支配するようになつた。

24 このようにして、二ーファイの民のさばきつかさの統治第九十年が終わつた。

25 これでヒラマンと彼の息子たちの記録によるヒラマン書は終わる。

強盜が多くの者を殺す。紀元約一年から四年に至る。

第三ニーファイ

第三ニーファイ

ニーファイの書

このニーファイは、ヒラマンの息子であったニーファイの息子である。

そのヒラマンはヒラマンの息子であり、そのヒラマンはアルマの息子であり、アルマはアルマの息子であり、そのアルマはリーハイの息子ニーファイの子孫であり、リーハイはユダの王ゼデキヤの治世の第一年にエルサレムを出て来た人である。

第1章

ヒラマンの息子ニーファイはゼラヘムラの地を去り、その息子ニーファイが記録を書き継ぐ。しるしと不思議がたくさんあつたにもかかわらず、悪人は義人を殺そうとする。キリストの誕誕の夜が来る。しるしが示され、新しい星が現れる。偽りと欺きが増し、ガデアントンの

1さて、第九十一年が過ぎ去った。それはリーハイがエルサレムを去ったときから六百年であり、その年には、ラコニアスが大きつかさであり、國の總督であつた。

2ヒラマンの息子ニーファイは、真鑑の版と、それまで書き継がれてきたすべての記録と、リーハイがエルサレムを去つて以来神聖に保存されてきたすべての品々に関する責任を、長男のニーファイにゆだねて、ゼラヘムラの地を去つていた。

3彼はその地を去つたが、彼がどこへ行つたかはだれも知らない。そして、彼の息子ニーファイが父に代わつて記録を、すなわちこの民の記録を書き継いだ。

4さて、第九十二年の初めには、見よ、預言者たちの預言がさらに完全に成就し始めた。民の中にさらに大きなしるしと、さらに大きな奇跡が行われ始めたからである。

5しかし、レーマン人サムエルによつて述べられた言葉の成就する時は過ぎ去つたと言ひ出す者た

5 3	①	2 1	2 1
②	GS	アル37	25
ヒラマンの孫	「ニーファイ	3	5
14	2	9	19

ちが何人かいた。

6 彼らは同胞のことを喜び始めて、「見よ、時は過ぎ去り、サムエルの言葉は成就していない。だから、あなたがたがこのことを喜び、信じたのは、むなしのことだった」と言つた。

7 そして彼らは、國中にひどい騒動を起こした。そこで、信じていた人々は、述べられていることが何らかの理由で起こらないようなことがありはしないかと、非常に悩み始めた。

8 しかし見よ、彼らは、まるで夜のない一日のような二昼夜を確固として待ち設け、自分たちの信仰がむなしいものでなかつたことを知ろうとした。9 さて、信仰心のない者たちはある一日を特に定め、預言者サムエルによつて告げられたしるしがその日までに現れなければ、これらの言い伝えを信じてゐるすべての人を殺すことにした。

10 さて、ニーファイの息子ニーファイは、自分の民のこの悪意を見て、心に非常な憂いを覚えた。
11 そこで彼は、出て行つて地に伏し、自分の民のために、すなわち先祖の言い伝えを信じてゐることで殺されようとしている人々のために、熱烈に神に

呼び求めた。

12 そして彼は、終日熱烈に主に呼び求めた。する見よ、主の声が聞こえて言われた。

13 「頭を上げて、元気を出しなさい。見よ、時は近い。今夜、しるしが示され、明日、わたしは世に来る。そしてわたしは、聖なる預言者たちの口を通して語つてきたすべてのことを成就することを、世の人々に示す。」

14 見よ、わたしは、世の初めから人の子らに知らせてきたすべてのことを成就するため、また父と子の両方の思いを行つたために、わたし自身の民のもとへ行く。わたし自身のゆえに父の御心を行い、わたしの肉のゆえに子の思いを行う。見よ、時は近い。今夜、しるしが示されるであろう。」

15 さて、ニーファイに下された御言葉は告げられたとおりに成就し、見よ、太陽が沈んでも少しも暗くならなかつた。こうして夜になつても暗くならなかつたので、民は驚いた。

16 そして、預言者たちの言葉を信じなかつた多くの者は地に倒れ、まるで死んだようになつた。預言者たちの言葉を信じた者たちに対して企てた殺害の

16	15	14	12	9
②	①④③	②①	アル	エノ
3	ヒラ	マタ	5	殉教者、殉教
ニ	14	93	46	ト
フ	7	11	17	GS「イエス・キリスト降誕と死に関する
1	9	4	18	GS
				①アル 5. 46 ②ルカ 2. 10. 11 ヨハ 1. 3 マタ 42. 26 エノ 1. 4 アル 42. 26 マタ 5. 46 エノ 1. 4 ルカ 2. 10. 11 ヨハ 1. 3 マタ 42. 26 エノ 1. 4 アル 5. 46 GS「イエス・キリスト降誕と死に関する」

大計画が破れてしまつたことが分かつたからである。また、かつて告げられたしるしがすでに現れたからである。

17 そして彼らは、神の御子が間もなく御姿を現されるに違いないといふことを知るようになった。またことに、要するに北の地でも、南の地でも、西から東に至るまで全地の面にいる人々は皆、非常に驚いて地に倒れた。

18 彼らは預言者たちが長年これらのことについて証してきたこと、またかつて告げられたしるしがすでに現れたことを知つたからである。そして彼らは、自分たちの罪悪と不信仰のために恐れ始めた。

19 そして、その夜は一晩中少しも暗くならず、まるで真昼のように明るかつた。そして朝には、いつもとおりに再び太陽が昇つた。そこで彼らは、しるしが与えられていたので、その日に主がお生まれになつたことを知つた。

20 そして、預言者の言葉のとおりに、すべてのことがことごとく成就した。

21 そして、一つの新しい星もその言葉のとおりに現れた。

22 さて、このとき以後、サタンは民の心をかたくなにして、彼らが見たそれらの数々のしるしと不思議を信じないようになると、民の中に偽りを広め始めた。しかし、これらの偽りと欺きにもかかわらず、民の半は信じて、主に帰依した。

23 さて、二ーファイは民の中に出で行き、またほかにも多くの者が出て行き、悔い改めのためのバプテスマを施し、それによつて民の中に罪の大好きな赦しがあつた。このようにして、民はその地に再び平和を保つようになつた。

24 そして、もうモーセの律法を守る必要がないことを、聖文を使つて立証しようとしたが、教えを説き始めた数人の者は、何の争いもなかつた。この数人の者は、聖文を理解していなかつたので、このことを誤解したのである。

25 さて、彼らは間もなく心を改め、自分たちが思ひ違ひをしていたことを納得した。律法はまだ成就していないことと、それはことごとく成就しなければならないことが彼らに知らされたからである。

律法は成就しなければならず、まことに、それがすべて成就するまで一点一画もむなしくなること

はないという御言葉が彼らに与えられた。したがつて、この年のうちに彼らは自分たちの思い違いをしり、自分たちの誤りを告白した。

26 このように、すべての聖なる預言者たちの預言の言葉のとおりに数々のしるしが現れ、民に喜びのおとずれがもたらされて、第九十二年が過ぎ去つた。

27 そして、第九十三年も平穏に過ぎ去つたが、ただガデアントンの強盗が山々に住んでいて、この地を荒らし回っていた。彼らのとりでと隠れ場が非常に堅固であつたので、民は彼らを打ち負かせなかつた。そのため彼らは多くの殺人を犯し、民の中でひどい殺戮を行つた。

28 そして、九十四年に、ニーファイ人の多くの離反者たちが彼らのところへ逃げ込んだため、彼らは非常に増え始めた。このことはこの地に残つているニーファイ人に深い憂いを与えた。

29 また、レーマン人の中にも深い憂いを与える事柄があつた。見よ、彼らには成人になつた子供たちと年齢の進んできた子供たちが大勢いたが、彼らはひとり立ちすると、あるゾーラム人たちの偽りとへつらいの言葉に惑わされ、あのガデアントンの強

盜の仲間になつた。

30 このようにレーマン人も苦しんだ。そして、若者たちの悪事のために、彼らの信仰と義は衰え始めた。

第2章

1さて、第九十五年も過ぎ去り、民は前に聞いたあの数々のしるしと不思議を忘れ始め、またしるし、すなわち天からの不思議に次第に驚かなくなつてきた。そして、彼らの心はかたくなになり、思ひはくらみ、彼らはかつて見聞きしたすべてのことを感じなくなつた。

2すくなわち、そのしるしは民の心を惑わし欺くために、人によつて、また悪魔の力によつて行われたものであるという、愚かな思いを心に抱くようになつた。このようにしてサタンは再び民の心を支し

配した。そして、彼らの目をくらまし、彼らを惑わして、キリストの教義は愚かでむなしいものであると信じさせた。

3 そこで民は、悪事と忌まわしい行いを重ね、さらにこれからもしるし、すなわち不思議が示されることを信じなかつた。そしてサタンは、方々を巡つて民の心を惑わし、誘惑し、民にこの地で大きな悪事を行わせた。

4 このようにして、第九十六年が過ぎ去り、また第九十七年も、第九十八年も、第九十九年も過ぎ去つた。

5 また、ニーファイ人の民の王モーサヤの時代からすでに百年が過ぎ去つた。

6 リーハイがエルサレムを去つてからすでに六百九年が過ぎ去つた。

7 キリストが世に来られるしるしが預言者たちによつて告げられたが、そのしるしが示されたときから九年が過ぎ去つた。

8 ニーファイ人はしるしが示されたこのときから、すなわちキリストの来臨から彼らの時を数え始めた。したがつて、九年が過ぎた。

9 ニーファイは記録について責任を負つていたが、その父のニーファイはゼラヘムラの地に帰つて来ず、國中どこにも見当たらなかつた。

10 そして、民の中で多くの宣教と預言が行われたにもかかわらず、民は依然として悪事を続けていた。このようにして、第十年も過ぎ去り、第十一年も罪惡のうちに過ぎ去つた。

11 そして第十三年には、國中至る所で戦争と争いが始まった。ガデアントンの強盜がおびただしい数になり、民の中の多くの者を殺し、多くの町を荒らし、國中に多くの虐殺を広めたので、民は皆、二ノアイ人もレーマン人も、彼らに対して武器を取りすることが必要になつた。

12 そのため、主に帰依していたレーマン人は皆、同胞であるニーファイ人と結束し、自分たちの命と女子供を守るために、また自分たちの権利と教会の特權、礼拝の特權と自由を守るために、仕方なくガデアントンの強盜に対しても武器を取つた。

13 そして、この第十三年が過ぎ去る前に、ニーフアイ人は、非常に激しくなつたこの戦争のために全滅の危機にさらされた。

14さて、ニーファイ人に合流していたレーマン人
は、ニーファイ人の中に数えられ、
15彼らのろいは取り去られ、彼らの肌はニーフ
アイ人のように白くなつた。
16また、彼らの若い男たちと娘たちは非常に麗しく
なり、ニーファイ人の中に数えられ、ニーファイ人
と呼ばれた。このようにして第十三年が終わつた。
17そして、第十四年の初めにも強盜たちとニーフ
アイの民の間の戦争は続き、ますます激しくなつ
た。それでも、ニーファイの民は強盜たちに対し
て幾分優位に立つたため、自分たちの土地から彼
らを山や彼らの隠れ場に追い返した。

18このようにして、第十四年が終わつたが、第十
五年に彼らはニーファイの民に向かつて出て來た。
そして、ニーファイの民の悪事と多くの争いと不
和のために、ガデアントンの強盜はニーファイの
民に対して何度も優位に立つた。

1さて、キリストの來臨から十六年目に、國の總
督であるラコニアスは、この強盜團の首領であ
り、支配者である者から手紙を受け取つた。それ
に記されていた言葉は次のとおりである。
2「國の總督であるラコニアス閣下。見よ、わた
しはあなたにこの手紙を書き、あなたとあなたの民
が、自己の権利であり自由であると考えているもの
を守るに當たつて確固としていることに、甚だ大い
なる贊辞を呈するものである。あなたがたは自分
たちの自由と自分たちの所有物、自分たちの國、す
なわちあなたがたがそのように呼んでいるものを守
るのに、まるで神の手によつて支えられているかの
ようとしていた。これは彼らの罪惡のためである。

19このようにして、第十五年が終わつた。このよう
に民は多くの苦難を受け、滅亡の剣は彼らのうえ
に迫つていて、彼らはまさにその剣によつて打たれ
ようとしていた。これは彼らの罪惡のためである。

ガデアントン強盜團の首領のギデアンハイ、降伏して
土地を明け渡すようにラコニアスとニーファイ人に要
求する。ラコニアス、ギドギドーナイを軍の總司令官
に任命する。ニーファイ人、自衛のためにゼラヘムラと
バウンティフルの地に集まる。紀元約十六年から十八年
に至る。

19 ①ヤコ3:8 ②アル17:21, 23
30:6, 21, 15, 23
アル60:29 18

3しかし、ラコニニアス閣下。あなたがたがわたしの指揮に従うこのように多くの勇敢な部下たちに立ち向かえると考へるほど、愚かでうぬぼれが強いことは、わたしには懸念に思われる。わたしの勇敢な部下たちは今、武器を身に着けて待ち、『二一人のものとへ下つて行つて滅ぼせ』という言葉を大いに待ち焦がれている。

4わたしはすでに戦場で部下たちを試して、彼らに不屈の精神があるのを知つており、また、あなたがたが彼らに行つた多くの不当な扱いのため悪を抱いていることも知つている。したがつて、彼らに、彼らがあなたがたにいつまでも変わらない憎しみを抱いていることをもつてゐる。したがつて、彼らがあなたがたに向かつて下つて行けば、あなたがたを完全に滅ぼしてしまうことだろう。

5そこでわたしは、あなたがたの幸いを思いつつこの手紙を書いて、自分自身の手で封じるものである。それは、あなたがたが自分の正しいと思つたことに対する確固としており、また戦場で高潔な精神を示しているからである。

6したがつて、わたしはあなたに手紙を書き送り、あなたがたがわたしの部下の剣を受けて滅亡す

るよりは、むしろこのわたしの民にあなたがたの町と土地と所有物を引き渡すようになります。次第である。7つまり、あなたがたが降伏し、我々と連合して我々の秘密の業をよく知り、仲間になつて我々のようになること、すなわち、我々の奴隸ではなく、仲間になり、すべての持ち物の共有者になることである。

8見よ、わたしはあなたがたに、もしこのように行なうならば、あなたがたは滅ぼされないと誓つて約束する。しかし、もしこのように行なわなければ、わたしは誓つて言うが、来月命令を下して、軍隊をあなたがたに向かつて下つて行かせよう。わたしの軍隊は手をとどめることなく、助命することもなく、あなたがたを殺し、あなたがたが絶滅するまで剣を浴びせることだろう。

9見よ、わたしはギデアンハイである。わたしはこのガデアントン秘密結社の支配者である。わたしはこの結社と結社の業が善いものであることを知つてゐる。これらは昔からあり、我々に伝えられたものである。

10ラコニニアス殿。わたしはあなたにこの手紙を書か

き送る。あなたがたは、血を流すことなく土地と所
有物を引き渡し、あなたがたから離反したこの民
が、自分たちの権利と統治権を回復できるように
してもらいたい。この民は、あなたがたが不當にも
統治権を与えたために離反したのである。

したがつて、もしあなたがたがこのようになんか
ば、わたしはこの民が受けた不當な扱いに報復し
よう。わたしはギデアンハイである。』

さて、ラコニーアスは、この手紙を受け取ると非
常に驚いた。ギデアンハイが大胆にも、ニーフア
イ人の地の所有権を要求し、民を脅迫し、また不
当な扱いを少しも受けたことのない者たちのため
に不当な扱いの報復をすると述べていたからであ
る。これらの者たちは、その邪悪な忌まわしい強
盗たちのところへ離反して行つたことで、自らに
損害を招いただけであつた。

さて見よ、総督であるこのラコニーアスはまこと
に正しい人であり、強盗の要求も脅迫も恐れなか
つた。そこで彼は、強盗の支配者ギデアンハイの
手紙をきにせず、自分の民に、強盗たちが下つて来
るときに備えて主に力を叫び求めるようにさせた。

まことに、彼はすべての民の中に布告を出し、土
地は別にして、おなごどもたいしがかくわむの家畜の群れ、それ
にすべての持ち物を一か所に集めるように伝えた。
そして彼は、民を囲むとりでを幾つも築かせ、そ
れを非常に堅固にさせた。また彼は、ニーフアイ
人と、レーマン人、すなわち二ーフアイ人の中に数
えられたすべてのレーマン人の両方から成る軍隊
を、見張りとして周囲に配置して民を見守らせ、
日夜強盗から彼らを守らせた。

まことに、彼は民に言つた。「主が生きておられ
るよう、あなたがたは罪悪をすべて悔い改めて
主に叫び求めなければ、あのガデアントンの強盗の
手から決して救われない。』

ラコニーアスの言葉と預言は、まことに大きいな
る驚くべきものであり、民の全員に恐れを生じさせた。そこで彼らは、ラコニーアスの言葉のとおりに行おうと力の限り努力した。

さて、ラコニーアスは、ニーフアイ人の全軍隊
に連隊長を任命し、強盗たちが荒れ野から攻めて
来るときに軍隊を指揮できるようにした。

また、すべての連隊長の中の最高位の者であ

る、ニーファイ人の全軍の総司令官も任命された。その人の名はギドギドーナイといつた。

19 ニーファイ人の中には、(彼らが悪事を働いていひる時代は別にして)啓示と預言の靈を持つてゐる人を連隊長に任命するという習わしがあつた。したがつて、このギドギドーナイも大さばきつかさと

同じように、民の中の偉大な預言者であつた。20 そこで、民はギドギドーナイに言った。「主に祈り上つて行き、強盜たちを攻めて、彼ら自身の土

地で滅ぼせるようにしてください。」

21 しかし、ギドギドーナイは彼らに言った。「主は許されない。もしわたしたちが彼らに向かつて上つて行けば、主はわたしたちを彼らの手に渡されるであろう。だからわたしたちは、自分たちの土地の中

央で準備し、わたしたちの全軍を集めよう。彼らに向かつて出て行かないで、彼らが向かつて来るまで待とう。主が生きておられるように、わたしたち

がこのようにすれば、主は彼らをわたしたちの手に渡してください。」

22 さて、第十七年の末に、ラコニアスの布告が

地の面の至る所に出された。そして民は、自分たちの馬と馬車、家畜、すべての大、小の家畜の群れ、穀物、そのほかすべての持ち物を携えて、何千人となく、何万人となく進んで行き、彼らは皆、敵を防ぐために集まるように指定された所へ向かつた。23 指定された地は、ゼラヘムラの地と、ゼラヘムラの地とバウンティフルの地の間の地であり、バウンティフルの地とデソレシヨンの地の間の境界にまで達していた。

24 そして、ニーファイ人と呼ばれる非常に大勢の人々がこの地に集まつた。ラコニアスが南方の地に彼らを集めさせたのは、北方の地にひどいのろいが及んでいたためである。

25 そして彼らは、敵に対して防備を固め、同じ土地に一団となつて住んだ。また彼らは、ラコニアスの語つた言葉を恐れて、自分たちのすべての罪を悔改めた。そして、主なる彼らの神に祈りをささげ、敵が攻め下つて来るときに自分たちを救つてくださるように願つた。

26 彼らは自分たちの敵のことでの深い憂いを抱いた。また、ギドギドーナイは彼らにあらゆる武器

を造らせ、自分の指示に従つてよろいと盾と小盾で身を固めさせた。

第4章

ニーファイ人の軍隊、ガデアントンの強盗を打ち負かす。ギデアンハイは殺され、彼の後継者ゼムナライハイは木につるされる。ニーファイ人、勝利を得たことで主をほめたたえる。紀元約十九年から二十二年に至る。

1さて、第十八年の末に、強盗たちの軍勢は戦いの準備をし、方々の丘や山、荒れ野、とりで、隠れ場から下つて出撃して来た。そして彼らは、南の地と北の地の両方で方々の土地を占領し始め、ニーファイ人が捨てた土地と、荒れ果てるに任せた町をすべて占領し始めた。

2しかし見よ、ニーファイ人が捨てた地には、まつたく野生の獣がおらず、獲物となる動物もいなかつた。荒れ野の中でなければ強盗たちの食糧になる鳥獸はいなかつた。

3そして強盗たちは、食糧がないために、荒れ野のでなければ暮らせなかつた。それは、ニーファイ人

が土地を荒れ果てるに任せて、自分たちの大いの家畜の群れとすべての持ち物を集め、一団となつていたからである。

4そのため強盗たちには、ニーファイ人に向かつて公然と攻め上るほかに略奪して食べ物を得る機会はなかつた。一方、ニーファイ人は一団となつていて、その数非常に多く、食糧や馬や家畜やあらゆる家畜の群れを蓄えとして持つており、七年間暮らすことができたので、彼らはその間に地の面から強盗たちを滅ぼしてしまったいと思つていた。このようにして、第十八年が過ぎ去つた。

5そして第十九年に、ギデアンハイはニーファイ人に向かつて攻め上ることが必要であることを知つた。彼らは略奪し、強奪し、人殺しをする以外に生きていく方法がなかつたからである。

6また彼らは、ニーファイ人に襲われて殺されるのではないかと恐れ、思い切つて地の面に広がつて穀物を作ることもできなかつた。そこでギデアンハイはこの年に、ニーファイ人に向かつて攻め上る命令を自分の軍隊に下した。

7そして、彼らは攻め上つた。それは六月のことだ

あり、彼らが攻め上つた日は、見よ、大変な恐ろしい日であつた。彼らは強盗風の装いをしており、腰に子羊の皮を巻き、体を血で染め、頭髪を刈り込み、かぶとをかぶついていた。ギデアンハイの軍隊はよろいをまとい、体を血で染めていたので、ひどい、恐ろしい姿であった。

8さて、二ーファイ人の軍隊はギデアンハイの軍隊の姿を見ると、全員地に伏して、主なる神に、命を助けて敵の手から救つてくださいるように叫んだ。9そこで、ギデアンハイの軍隊はこれを見て、二ーファイ人が自分たちの恐ろしい姿に恐れをなして倒れたのだと思い、喜んで、大声を上げて叫び始めた。

10しかし、彼らのこの期待は外れた。二ーファイ人は彼らを恐れたのではなかつたからである。二ーファイ人は神を畏れ、守護を叫び求めたのである。そこで、ギデアンハイの軍隊が突撃して来たときには、二ーファイ人は彼らと戦いを交える用意ができており、主の力をもつて彼らを迎えた。11戦いはこの六月に始まり、その戦いは大変な恐ろしいものであつた。まことに、その戦いでの殺戮

は大変な恐ろしいものであつて、リーハイがエルサレムをさつて以来、これほどひどい殺戮はリーハイの民の中にまつたく知られていない。

12そして、ギデアンハイの脅迫や誓いにもかかわらず、見よ、二ーファイ人が彼らを打ち負かしたため、彼らは二ーファイ人の前から退いた。

13さて、ギドギドーナイは自分の軍隊に、荒れ野の境まで彼らを追撃するよう、そして途中で二ーファイ人の手に落ちる者はだれも容赦しないよう命じた。そこで彼の軍隊は、荒れ野の境まで彼らを追撃して殺し、ギドギドーナイの命令を果たした。

14そして、立ち向かつて勇ましく戦つていたギデアンハイも、ついに逃げ出して追撃された。そして、激しく戦つて疲れていたので、追いつかれて殺されてしまった。強盗ギデアンハイの最期はこのようであつた。

15さて、二ーファイ人の軍隊は自分たちの防御の地へ引き返した。そして、この第十九年が過ぎ去り、強盗たちはもう攻めて来なかつた。また、第二十年にも彼らはやつて来なかつた。

16 第二十一年に、彼らは攻めることはなかつたものの、ニーファイの民を包围するためにあらゆる方面から上つて来た。彼らは、もしニーファイの民を

て敵を攻め、何千人も、何万人も殺した。

22 それで、ゼムナライハの民は昼も夜も大勢の人が殺されたため、自分たちの企てを取りやめたいと思ふようになつた。

17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 伏させることができると思つたからである。
17 ところで彼らは、ゼムナライハという名の別の首領を選んでいた。したがつて、この包围を行わせたのはゼムナライハであつた。
18 しかし見よ、これはニーファイ人にとって有利であつた。強盗たちがニーファイ人に何らかの影響を及ぼすほど、十分に長く包围を続けることは不可能であつたからである。というのは、ニーファイ人は多くの食糧を蓄えており、強盗たちの食糧は乏しかつたからである。見よ、彼らには命をつなぐための肉、すなわち荒れ野で手に入れた肉のほかには何もなかつた。
20 そして、野生の鳥獣は荒れ野に少なくなつたので、強盗たちはまさに飢えて死になつた。
21 しかも、ニーファイ人は昼も夜も絶えず出撃し

殺されたため、自分たちの企てを取りやめたいと思ふようになつた。
23 そして、ゼムナライハは自分の民に、包围を解いて、北方の地の最も遠い地方へ行くように命令を下した。
24 ところがギドギドーナイは、彼らの企てを知り、また食糧の不足とそれまでに受けた大きな殺戮のために彼らが弱つているのを知つていたので、夜の間に軍隊を送つて彼らの退路を断ち、また彼らの退路に軍隊を配置した。

25 彼の軍隊は夜の間にこれをを行い、強盗たちを追い越して進軍した。そして翌日、強盗たちが行軍を始めると、ニーファイ人の軍隊は前方と後方の両面から彼らを攻撃した。
26 また、南方にいた強盗たちも彼らの待避所で絶たれた。これらのこととはすべて、ギドギドーナイの命令によつて行われたことである。
27 そして、ニーファイ人に降伏して捕虜になつた者は何千人にも上り、ほかの者たちは殺された。

28 また、彼らの首領であつたゼムナライハは捕らえられ、木に、すなわち木の頂につるされて死んだ。ニーファイ人は彼をつるし、彼が死んでしまうと、その木を地に倒して大声で叫んで言つた。

29 「どうか主よ、義にかなつた、心の清い民をお守りください、この男が地に倒されたように、権力と秘密結社のために主の民を殺そうとするすべての者を地に倒れさせてくださいますように。」

30 また、彼らは喜び、再び声を合わせて、「どうかアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神よ、義にかなつたこの民を、この民が守護を求めて神の御名を呼ぶかぎりお守りくださいますように」と叫んだ。

31 そして彼らは、神が大きいなることを自分たちのために行い、敵の手に落ちないよう守つてくださつたので、皆一斉に声を放つて歌い、神をほめたたえた。

32 まことに彼らは、「いと高き神に、ホサナ」と叫び、また、「いと高き神、全能の主なる神の御名はほむべきかな」と叫んだ。

33 そして、敵の手から救つてくださつた神の深い

慈悲のため、彼らの心は喜びにあふれ、多くの涙を流した。また彼らは、自分たちが永遠の滅亡から救われたのは、悔い改めて謙遜であつたためであることを知つたのである。

第5章

ニーファイ人、悔い改めて罪を捨てる。モルモン、民の歴史を記し、また民に永遠の御言葉を告げ知らせる。イスラエルは将来、久しう散乱した状態から集められる。紀元約二十二年から二十六年に至る。

1さて見よ、ニーファイ人の民の中には、すべての聖なる預言者たちがかつて語つた言葉をわざかでも疑う者はいなかつた。彼らはそれらの言葉が必ず成就することを知つていたからである。

2また彼らは、預言者たちの言葉のとおりに多くの起つたので、かつて告げられたとおりにすべてのことが将来起ころに違ひないことも、彼らは知つていた。

3 そこで彼らは、自分たちの罪と、忌まわしい行いと、みだらな行いをすべて捨てて、日夜、力の限り神に仕えた。

4 さて、ニーファイ人は殺されなかつた強盜たちを一人も逃すことなく全員捕らえて捕虜にすると、その捕虜たちを牢に入れ、彼らに神の言葉を聞き聞かせるようにした。そして、罪を悔い改め、もう二度と殺人をしないという聖約を交わそくとした者は皆、釈放された。

5 しかし、聖約を交わさず、依然として暗殺の心を持ち続ける者、まことに、同胞を脅していることが分かつた者は皆、罪に定められ、法律に従つて罰せられた。

6 このようにして彼らは、そのようなひどい悪事と多くの殺人を犯したあの邪惡な秘密の忌まわしい結社をことごとく絶やした。

7 このようにして、第二十二年が過ぎ去り、第十三年も、第二十四年も、第二十五年も過ぎ去つた。このようにして、二十五年が過ぎ去つた。

8 ある人々の目に大いなる驚くべきことと映つた多くのことが、これまでに起つた。しかし、それら

をすべてこの書に書き記すことはできない。まことに、この書には、二十五年間にそのように多くの人が中で行われたことの百分の一も載せることができない。

9 しかし見よ、この民の行つたことをすべて載せている記録が幾つかある。また、短いけれども真実の記録がニーファイによつて記された。

10 そこでわたしは、ニーファイの版と呼ばれる版に刻まれたニーファイの記録に従つて、これまでこれらのことについて記録してきた。

記録している。

11 そして見よ、わたしは今、自分の手で造つた版に記録している。

12 見よ、わたしはモルモンと呼ばれている。この名は、アルマが人々の中に教会を、まことに彼らの背きの後で最初の教会を彼らの中に設立した地、モルモンの地にちなんで名付けられたものである。

13 見よ、わたしは神の御子イエス・キリストの弟子である。わたしはイエス・キリストの民の中でイエス・キリストの言葉を告げ知らせ、彼らが永遠の命を得られるようにするために、イエス・キリスト

12	9	8	7	4
①	①	①	①	①
アル	モサ	ヒラ	ニフ	「自由」
5	18	3	2	8
3	4	26	6	
18	1	13	15	
4		5		

トから召^めされた。

14 すでに世を去つた聖なる人々の祈りが、彼らの信仰に応じてかなえられるように、これまでに起つたこれらのことと、神の御心に従つて記録することは望ましいことである。

15 錄する。

16 まことにわたしは、リーハイがエルサレムを去つたときから現在までに起つたことを、簡潔に記

16 したがつてわたしは、自分が生まれるときまでのことを、わたしよりも前に生きていた人々が記してきた記事から取つて記録し、
17 次に、わたし自身の目で見てきたことを記録する。

18 わたしは自分の記す記録が正しく眞実の記録であることを見つけている。それでも、わたしたちの言語では書けないことがたくさんある。

トをわたしが賛美するのは正当である。神はわたしたちの先祖をエルサレムの地から連れ出された。(このことは神御自身と、その地から連れ出された人々のほかにはだれも知らない)また、神はわたしどうに憐れみをかけてこられた。

21 確かに神はヤコブの家を祝福し、ヨセフの子孫に、神は御自分の言葉のとおりに彼らを祝福し、榮えさせてこられた。

22 また、リーハイの子孫が神の戒めを守るかぎり、神は御自分の言葉のとおりに彼らを祝福し、榮えさせてこられた。

23 そして、神はヨセフの子孫の残りの者に、主なる彼らの神のことを再びお知らせになる。

24 また、主が生きておられるように確かに、主は将来、地の全面に広く散らされているヤコブの子孫の残りの者をすべて地の四方から集められる。

25 主はヤコブの家に属するすべての者と聖約されたので、主がヤコブの家と交わされた聖約は主御自身がふさわしいと思われるときに果たされ、ヤコブの家に属するすべての者に、主がかつて彼らと交わされた聖約が再び元のように知らされる。

25	24	23	22	21	20	18	17	14
①	① ②	① ③	② ③	① ④	② ④	エテ	モル	エノ
イスラエルの集合	GS 「イスラエル」	アル	ニフ	創世記	ニフ	12	1	19 1
3	3	46	3	32	4	25	1	20 13
16	5	24	12	28	36	33	13	18

26 そのとき彼らは、自分たちの贖い主、神の御子イエス・キリストを知るようになる。そして彼らは、地の四方から、散らされる前に住んでいた自分たちの土地に集められる。まことに、主が生きておられるように、それは起る。アーメン。

第六章

27 アイ人、榮える。高慢な者、富裕な者が出て、階級差別が生じる。不和のために教会が分裂する。サタン、民を惑わして公然と謀反を起こさせる。多くの預言者たち、悔い改めを叫んで殺される。殺人者たち、政府の乗つ取りを企てる。紀元約二十六年から三十年に至る。

3 また、国の平和を守ると聖約を交わし、引き続ぎレーマン人でいたいと望んだ強盗たちには、自分の労働で生きていくことができるよう、彼らの人数に応じて土地が与えられた。このようにして、彼らは全地に平和を確立した。

4 そして、彼らは再び榮えて富み始めた。第二十六年、第二十七年が過ぎ去り、国の秩序はしつかり保たれていた。また彼らは、公平かつ公正に法律を制定した。

5 民が戒めに背くことさえなければ、彼らが引き続ぎえるのを妨げるものは全地に何一つなかつた。6 国にこの大いなる平和を確立した人々は、ギドギドーナイト、大さばきつかさのラコニアスと、指導者に任命された人々である。

7 そして、多くの町が新たに築かれ、多くの古い町が改築され、8 町から町へ、地方から地方へ、地域から地域へと通じる多くの街道が造られ、多くの道路が建設された。

9 このようにして、第二十八年が過ぎ去り、民は引き続き平和を保っていた。

1さて、第一二十六年に、二ーフアイ人の民は皆各々の家族を伴い、大小の家畜の群れ、馬、牛を連れ、持ち物をすべて携えて自分の土地へ帰つて行つた。
2 そして彼らは、食糧を食べ尽くしていなかつたので、残つてゐるあらゆる穀物を、また金銀やすべての貴重な品々を携えて、南北に分かれ、北方の地と南方の地のそれぞれの所有地に帰つて行つた。

26 ① 2 二二二
20 30 · 34 5
3 二二二
20 30 · 34 5
8

ところが第二十九年に、民の中に多少の分裂が起つた。そして、ある者たちは非常に豊かに富んでいたために高慢になつて誇り、ひどい迫害され加えるようになつた。

で、眞実の信仰から離れようとした。

第6章

国には多くの商人があり、また多くの法律家と役人もいた。
11 そして民は、彼らの富と学問の機会の多少に応じて階級に区別され始めた。まことに、貧乏いだために無学な者もいれば、富んでいたので大いに教育を受けた者もいた。

15 ところで、民のこの罪悪の原因は、あらゆる罪悪を行ふようにも民をそそのかし、民を誇らせて高慢にし、民を誘惑して権力と権威、富、俗世のむなしものを求めさせる大きな力をサタンが持つていたことである。

12 13 高慢になつた者もいれば、非常に謙遜な者もいた。そして民は、かれの富と学問の機会の多少に応じて階級に区別され始めた。まことに、貧乏いだために無学な者もいれば、富んでいたので大いに教育を受けた者もいた。

16 このように、サタンがあらゆる罪悪を行ふよう民の心を惑わしたため、民が平和を享受したのはほんの数年にすぎなかつた。
17 したがつて、三十年の初めには、民はすでに悪魔の手に引き渡されて久しくたつており、悪魔が行かせたいと思う所へはどこへでも誘いに乗つて行き、また悪魔が行わせたいと思う罪悪はどんなことでもするようになつていた。そのためこの第三十年の初めには、彼らは恐ろしい邪悪な状態にあつた。

14 このように、全地にひどい不平等が生じたために、教会が分裂し始めた。まことに第三十年には、眞実の信仰に帰依している少数のレーマン人は、中の教会を除いて、全地の教会が分裂してしまつた。この少数のレーマン人は堅く確固として動かず、喜んで力の限り主の戒めを守つていたの

18 彼らは無知で罪を犯したのではない。自分たちに關する神の御心を教えられて知つていた。したがつて、彼らは故意に神に背いたのである。
19 それはラコニアスの息子ラコニアスの時代のことである。このラコニアスはその年に父の職に

18	17	14	13	12	10
②	①	①	①	①	GS
GS	GS	GS	GS	GS	「高慢」
モ	モ	モ	モ	モ	テモ6
サ	サ	サ	サ	サ	17
「誘惑」	「誘惑」	「誘惑」	「誘惑」	「誘惑」	19
背く	背く	背く	背く	背く	背く
11	11	11	11	11	11

就いて民を治めたのであつた。

24さて見よ、このことは、^に国の総督から権限を受^うけないかぎり^{ひと}人を死刑にしてはならないという國の法律に反して^{ほんぞく}いた。

20また、何人も人々が天から靈感を受け、遣わされて、全地の民中立つて教えを説き、民の罪と不義について大胆に証言し、また主が御自分の民のために行われる贖い、言い換れば、キリストの復活に關して彼らに証した。さらに彼らは、キリストの死と苦しみについても大胆に証した。

21ところが、民の中には、これらのことについて証した人々のことを非常に怒る者が多かつた。このように怒った者たちは、特に大きさきつかさたちと、かつて大祭司や法律家を務めた者たちであつた。まことに、當時法律家であつた者も皆、これ

25そこで、法律に背いて主の預言者たちに死刑を宣告したこれらのさばきつかさたちに對して、ゼラヘムラの地上にいた國の総督への訴えが起された。26そして、彼らは捕らえられ、大きさきつかさの前に連れ出され、犯した罪悪を、民によつて定められた法律に従つて裁かれることになつた。

22しかし、法律家もさばきつかさも大祭司も、國の総督が宣言書に署名しないかぎり、だれに対しても死刑を宣告する力を持たなかつた。

20①GS 「靈感」
②GS 「十字架の刑」
21①GS 「教義」
②GS 「背教」
モサ29、25、
アル1:14
ヒラ6:26-30

23ところが、キリストに關することについて大胆に証した人々の多くが、さばきつかさたちによつて捕らえられ、ひそかに殺されてしまつた。そのため、國の総督が彼らの死について知つたのは、彼らが死んだ後のことであつた。

24さて、それらのさばきつかさたちには多くの友人と親族がいた。また、ほかの者たち、すなわち法律家たちと大祭司たちもほとんど全員が集まり、法律によつて裁判されることになつたそれらのさばきつかさたちの親族と結束した。

25そして、彼らは互いに誓いを立てた。すなわち、あらゆる義に敵対して結束するためには、昔の人々によつて設けられたあの誓い、惡魔によつて与えられ実施された誓いを立てたのである。

26このために彼らは、主の民に敵対して結束し、主の民を滅ぼすという誓いを立て、また殺人罪を犯した者たちを、法律に従つて実施されようとして

いる罰の執行から救い出すという誓いも立てた。

30 そして、彼らは國の法律と權利に反抗した。また彼らは総督を殺し、國を治める王を立て、國をもはや自由な國ではなく、王の支配を受け所にしようと互いに誓いを立てた。

第7章

大さばきつかさが殺され、政府は滅ぼされ、民は部族に分かれる。反キリストのヤコブ、秘密結社の王となる。二ーファイ、悔い改めとキリストを信じる信仰を宣べ伝える。天使たち、日々二ーファイに仕える。二ーファイ、自分の兄弟を死者の中からみがえらせる。多く人が悔い改めてバブテスマを受ける。紀元約三十年から三十三年に至る。

彼らは國の政府を滅ぼした。

3 そして各部族は、彼らを治める族長や指導者を任命した。このようにして、彼らは部族の者となり、部族の指導者となつた。

4 さて見よ、彼らの中には家族や親族や友人が大勢いない者はだれひとり一人なかつたので、彼らの部族是非常に大きなものとなつた。

5 さて、このようなことがすべて行われたが、彼らの中にはまだ戦争はなかつた。この罪悪はすべて、民がサタンの力に身をゆだねたために民に及んだのであつた。

6 また、預言者たちを殺した者の友人や親族からなる秘密結社のために、政府の条例は損なわれてしまつた。

7 また、彼らがその地にひどい争いを引き起こしたので、民の中でひときわ義にかなつた者たちも、ほとんど皆すでに悪くなつてしまい、まことに、民の中に義人はほんのわずかになつた。

8 このようにして六年たないうちに、民の大半は、自分の吐いたものに帰る犬のように、あるいは泥の中に転がる豚のように、義に背いてしまつた。

さて、このようないひどい罪悪を民にもたらしたこの秘密結社の者たちは、ともに集まり、ヤコブと呼ばれた一人の男を自分たちの頭に立てた。

10 そして、彼らはヤコブを自分たちの王と呼び、彼らはこの邪悪な団を治める王となつた。預言者たちは

イエスについて証したが、この男は、その預言者たちに敵対する声を上げた首謀者の一人である。

11 さて、彼らは、同盟を結んだ民の部族ほど人数が多くなかつた。民の部族は同盟してゐたが、彼らの

法はそれぞれ部族ごとに指導者が定めていた。それでも彼らは、秘密結社に敵対していた。彼らは義を守る者たちではなかつたにもかかわらず、政府を減ぼす誓いを立てた者たちを憎むことでは一致してゐた。

12 したがつて、ヤコブはその団の王であつたので、敵が自分たちよりもはるかに多いのを見ると、自分のみの民に、その地の最北部へ逃げて行き、そこで王國を築いて離反者を加え（彼は多くの離反者が出来るようになつてゐた）、民の部族と戦うのに十分な力を蓄えるようにと命じた。そして、彼ら

13 彼らの移動は非常に速かつたので、妨げられることがなく、民の手の届かない所へ行つてしまつた。このようにして第三十年が終わつた。ニーフアイの民の状況はこのようであつた。

14 さて、第三十一年に、民は家族と親族と友人ごとに部族に分かれていた。それでも彼らは、互いに戦をしないという取り決めを結んでいた。ところが、彼らの法や統治方法は、彼らの族長と指導者の思いのままに定められていたので、一致していなかつた。しかし彼らは、部族がほかの部族を侵害してはならないという、非常に厳しい法を定めていたので、ある程度地は平和であつた。にもかかわらず、彼らの心は主なる神からそれでいた。そして彼らは、預言者たちに石を投げつけ、預言者たちを自分たちの中から追い出した。

15 さて、ニーフアイは天使の訪れを受け、主の声も聞き、天使を見て見証者となり、キリストの務めについて知る力を与えられ、また民が義から悪事と忌まわしい行いに早々と戻つたことを目撃した。

16 したがつて、彼らは民の心がかたくなで、思いをくらませていることを悲しく思い、その年に民の中に

出で行つて、悔い改めと、主イエス・キリストを信じる信仰による罪の赦しについて大胆に証し始めた。

17 彼は多くのことを民に教えたが、それを全部書き記すことはできない。また、一部では不十分であるから、この書には書き記さない。ニーファイは、力と大きな機能をもつて教えた。

18 そこで民は、彼が自分たちよりも大きな力を持つていたので、彼に腹を立てた。主イエス・キリストを信じる彼の信仰が非常に深かつたので、天使が日々彼に仕え、そのため彼らは、彼の言葉を信じないわけにはいかなかつたからである。

19 また彼は、イエスの名によつて悪霊と汚れた靈を追い出し、また、民に石を投げつけられて殺された自分の兄弟を、死者の中からよみがえらせた。20 民はそれをして、目撃し、彼に力があることで腹を立てた。また彼は、民の目の前でイエスの名によつてさらに多くの奇跡を行つた。

21 そして第三十一年が過ぎ去つた。そして、主に帰依した者はごくわずかであつたが、心を改めた者は皆、自分たちが信じているイエス・キリストの内に

ある神の力と御靈を与えたことを、民に実際に示した。

22 悪靈を追い出された者、病気や肉体の弱さを癒された者は皆、神の御靈の働きを受けて癒されたことを民に実際に告げた。また彼らは、数々のしるしを示し、民の中で多少の奇跡を行つた。

23 このようにして、第三十二年も過ぎ去つた。第三十三年の初めに、ニーファイは民に呼び、悔い改めと罪の赦しを宣べ伝えた。

24 ところで、悔い改めに導かれた者で水でバプテスマを受けなかつた者は一人もいなかつたことも、覚えておいてもらいたい。

25 したがつてニーファイは、人々をこの務めに聖任した。彼らのもとに来る人々がすべて水でバプテスマを受けられるようにするためであつた。このバプテスマは、これを受ける人々が悔い改めて罪の赦しを受けたことを、神の前に、また民に対しても立証し、証するものである。

26 この年の初めに、悔い改めのためのバプテスマを受けた人々が多くいた。このようにして、その年の下半が過ぎ去つた。

第
8
章

暴雨雨に地震、火事、旋風、自然の大変動で、キリストの十字架の刑が証明される。多くの者が滅びる。暗闇地を覆う。生き残った者たち、自分の運命を嘆く。
紀元約三十三年から三十四年に至る。

さて、わたしたちの記録によれば、そして、わたしたちはこの記録が眞実であることを知つてゐるが、見よ、それは記録を書き継いだのが正しい人で、あつたからである。①その人は、イエスの名によつて実際に多くの奇跡を行つた。そして、自分の罪悪からこそごく清められなければ、イエスの名によつて奇跡を行える人はだれもいなかつた。――

さて、わたしたちの時の計算についてこの人が間違ひをしていなければ、第三十三年が過ぎ去つた。
そして民は、レーマン人の預言者サムエルによつて知らされたしるし、すなわち地の面に三日間暗闇が続く時を、大きな期待をもつて待ち望むようになつた。

4 また、非常に多くのしるしが現れていたにもかかわらず、民の中にひどい疑いと論争が起つた。

5さて、第三十四年一月四日に、全地でこれまでにまつたく知られていなかつた。すさまじい雷があり、まさに引き裂くほどに全地を振り動かした。

6また、激しくすさまじい暴風雨もあつた。まゝいよう非常に強烈な稲妻があつた。

7さらに、全地でこれまでにまつたく知られていなかつた、すさまじい雷があり、まさに引き裂くほどに全地を振り動かした。

8そして、ゼラヘムラの町に火がついた。

9モロナイの町は海の深みに沈んで、そこに住む者はおぼれた。

10また、地がモロナハイの町の上に持ち上がり、その町のあつた所に大きな山ができた。

11南方の地にも大変な恐ろしい破壊があつた。

12しかし見よ、北方の地にはもつと大変な恐ろしい破壊があつた。見よ、暴風雨と旋風と雷と稲妻と全地の非常に激しい震動のために、地の全面が変わつてしまつた。

13街道は破壊され、平坦な道は損なわれ、多くの平らな場所が起伏の激しい所となり、多くの大きな名の知れた町が沈み、多くの町が焼や

14	13	8	6	4	3	2	1
①	③	①	②	ヒ	①	③	ヤ
ニ	フ	ヒ	テ	ラ	ヒ	モ	コ
一	二	四	五	マ	ラ	ル	ミ
二	三	六	七	14	1	9	四
八	九	12	10	1	GS	17	六
4	24	7	14	11	フ	18	使徒
			45	11	ナ	19	3
			50	11	ト	20	3
			8	11	十	19	6
			51	11	・	19	、
				11	架	20	
				11	「		
				11	刑		

け、また多くの町が揺れ動いて建物が地に倒れ、そこに住む者が死に、方々の地が荒れ果てるに任せられた。

15 残つた町も多少あつたが、それでもそれらの町の受けた被害は非常に大きく、それらの町の多くの者が死んだ。

16 また、旋風によつて運び去られた者もかなりいた。人々は彼らが運び去られたことは知つてゐるが、どこへ運ばれて行つたのかだれも知らない。

17 このよう、に、暴風雨と雷と稲妻と地の震動のため全地の面が変えてしまつた。18 そして見よ、方々の岩は二つに裂けて、全地の面に及んだので、地の全面に碎けた破片として、ひびとして、割れ目として見られるようになつた。

19 そして、雷と稲妻、嵐、暴風雨、地の震動はやんだけ。見よ、これらはおよそ三時間続いた。その後、見よ、地の面が暗くなつた。問はもつと長かつたと言う人々もいたが、このようないへん大きな恐ろしい出来事はすべて、およそ三時間続いた。その他の面が暗くなつた。

20 そして、地の全面に深い暗闇があり、それまでに倒れなかつた民がその暗黒の霧に触れると、それ

を感じることができるのであつた。

21 また、暗闇のために光はまったく存在することができず、ろうそくも、たいまつもともすことができなかつた。また、良質の十分に乾燥した木にも火をつけることができなかつたので、光はまったくなかつた。

22 地の面にある暗黒の霧が非常に深かつたので、どんな光も見えず、火も、かすかな光も、太陽も、月も、星も見えなかつた。

23 そして、光のまつたく見えない状態が三日間続き、すべての民の中に大きな悲しみとわめき声と泣き声が絶えなかつた。まことに、民に及んだ暗闇と大きな破壊のために、民のうめき声は大きかつた。24 そして、ある所では民が、「おお、この大変な恐怖しい日が来る前に悔い改めておけばよかつた。そうすれば、我々の同胞は命を助けられ、あの大きな

25 また別の所では、「おお、この大変な恐ろしい日が来る前に悔い改めておき、預言者たちを殺さず、石を投げつけず、追い出さなければよかつた。そう

24 23 ① ② ③	20 19 18 ① ② ① ①
ヒラ 13 12 10 21 10 22	ルカ 23 12 5 44 21 19
ヒラ 13 12 10 21 10 22	ヒラ 23 12 5 44 21 19
ヒラ 13 12 10 21 10 22	ヒラ 23 12 5 44 21 19
ヒラ 13 12 10 21 10 22	ヒラ 23 12 5 44 21 19

すれば、我々の母も、麗しい娘たちも、子供たちも命を助けられ、あの大きな町モロナイハで埋められるることはなかつただろう」と叫ぶのが聞かれた。このように、民は大いに、またひどくうめき苦しんだ。

第9章

暗闇の中でキリストの声が聞こえ、民の惡事のために多くの者が滅び、多くの町が破壊されたことが宣言される。キリストはまた、御自分の神性を宣言し、モーセの律法が成就したことを行つて救われるようによつて人々を招かれる。紀元約三十四年。

1さて、この地の全面で、地に住むすべての者に次のように告げる声が聞こえた。

2災いである、災いである、この民は災いである。全地の民は悔い改めなければ災いである。わたしたしの民の麗しい息子、娘たちが殺されたことを、悪魔は笑い、悪魔の使いは喜んでいる。わたしの民の麗しい息子、娘たちが倒されたのは、彼らの罪悪と忌まわしい行いのためである。

3見よ、あの大きな町ゼラヘムラとそこに住む者たちを、わたしは火で焼いた。

4また見よ、あの大きな町モロナイを、わたしは海の深みに沈め、そこに住む者たちをおぼれさせた。5また見よ、あの大きな町モロナイハとそこに住む者たちを土で覆い、彼らの罪惡と忌まわしい行いをわたしの前から隠して、預言者たちと聖徒たちの血が、もはや彼らについてわたしに訴えることのない

6見よ、ギルガルの町を沈め、そこに住む者たちを地の深みに埋めた。

7また、オナイハの町とその民、モクムの町とその民、エルサレムの町とその民も同様であり、わたしはそれらの町に代わつて水をわき上がらせ、彼らの惡事と忌まわしい行いをわたしの前から隠して、預言者たちと聖徒たちの血が、もはや彼らについてわたしに訴えることのないようになつた。

8また見よ、ガデアンダイの町、ガデオムナの町、ヤコブの町、ギムギムノの町、これらをすべて沈め、それらの場所に丘と谷を造つた。また、それらの町に住む者たちを地の深みに埋め、彼らの悪

事と忌まわしい行いをわたしの前から隠して、預言者たちと聖徒たちの血が、もはや彼らについてわたしに訴えることのないようになつた。

9また見よ、ヤコブ王の民が住んでいたあの大きな町ヤコブガスを、全地のどんな悪事も及ばない彼らの罪と悪事のゆえに、また彼らの暗殺と秘密結社のゆえに、わたしは火で焼かせた。わたしの

民の平和を破り、国の政府を滅ぼしたのは彼らである。したがつて、わたしは彼らを焼かせ、わた

しの前から彼らを滅ぼして、預言者たちと聖徒たちの血が、もはや彼らについてわたしに訴えるこ

とのないようにした。

10また見よ、レーマンの町と、ヨシの町と、ガド

の町と、キシクメンの町と、それらの町に住む者たちを、わたしは火で焼かせた。彼らが預言者た

ちを追い出すという悪事、また彼らの悪事と忌ま

わしい行いのことを彼らに告げさせるために、わ

たしが遣わした者たちに石を投げつけるという悪

事を行つたからである。

11彼らが預言者たちをすべて追い出し、彼らの中

に一人も義人がいなくなつたので、わたしは火を

下して彼らを滅ぼし、彼らの悪事と忌まわしい行いがわたしの前から隠されて、わたしが彼らの中に遣わした預言者たちと聖徒たちの血が、地から叫んで彼らについてわたしに訴えることのないようになつた。

12わたしは、多くのひどい破壊がこの地とここに住む者たちに及ぶようにさせたが、それは彼らの悪

事と忌まわしい行いのゆえである。

13おお、彼らよりも義にかなつてゐるために、命を助けられているすべての者よ。わたしがあなたがたを癒すことができるように、今あなたがたはわたしに立ち返り、自分の罪を悔い改め、心を改めようとしているか。

14まことに、あなたがたに言う。あなたがたは、わたしのもとに来るならば永遠の命を得るであろ

う。見よ、わたしの憐れみの腕はあなたがたに向

けて伸べられている。わたしは来る者をだれでも受け入れよう。わたしのもとに来る者は幸いである。

15見よ、わたしは神の子イエス・キリストであ

る。わたしは天地とその中にある万物を創造し

た。わたしは初めから父とともにいた。わたしは

15	①	③	14	12	11	9
19	3	2	14	12	10	8
23	二	ヨハ	アル	ニフ	ヒラ	モサ
29	11	9	5	10	13	17
27	17	7	33	22	13	16
	20	22	36	24	8	18
			16	28	10	10
			1	3	1	1
			16	1	9	18
			12	18	1	1
			16	32	12	12
			12	22	12	12
			16	10	10	10

父におり、父はわたしにおられる。そして、わたしによつて父は御名に栄光を受けられた。
16 わたしは自分のところに来たのに、民はわたしを受け入れなかつた。わたしの来臨に関する聖文は成就している。

17 わたしを受け入れた者に、わたしは神の子となることを許した。わたしの名を信じる者も同様にしよう。見よ、わたしによつて贖い(あがな)は可能になつており、またわたしによつてモーセの律法は成就している。

18 わたしは世の光であり命である。わたしはアル
パでありオメガであり、初めであり終わりである。
19 あなたがたは、もはや血を流すことをわたしへ
のささげ物としてはならない。あなたがたの犠牲と
燔祭は取りやめなさい。わたしはこれから、あなた
がたの犠牲と燔祭を受け入れないからである。

20 あなたがたは打ち碎かれた心と悔いる靈を、儀牲としてわたしにささげなさい。打ち碎かれた心と悔いる靈をもつてわたしのもとに来る者に、わたしはレーマン人に受けたように、火と火と聖霊によつてバプテスマを受けよう。レーマン人は改心したと

第
10
章

え、めんどりがひなを集めるように御自分の民を集めることを約束される。守られた者は、ひとりきわ義にかなつた人々であつた。紀元約三十四年から三十五年に至る。

きにわたしを信じたので、火と聖靈によるバプテスマを受けた。しかし、彼らはそれを知らないかった。
21 見よ、わたしは、世に贖いをもたらし、世の人々を罪から救うために世に来た。

22 それゆえ、悔い改めて幼子のようにわたしのもとに入る者を、わたしはだれでも受け入れよう。神の王国はこのようなる者の國である。見よ、このような者のために、わたしは自分の命を捨て、再びそれを得た。それゆえ、地の果てに至る人々よ、悔い改め、わたしのもとに来て救われなさい。」

さて見よ、この地のすべての人がこれらの御言葉を聞き、それについて証人となつた。そして、これらのお言葉の後、地はなんじかんしづかであつた。

③	3	ニサ	マ	GS	2	20	19	22	20	19	18	17	16
ヨ	フ	ニ	コ	二	二	三	一	二	一	二	一	二	一
ハ	11	19	10	19	10	19	11	15	15	15	15	15	16
15	37	31	37	37	37	31	31	38	38	38	38	38	39
18	15	15	改	13	12	13	19	14	14	14	14	14	14

と、また泣きわめくことをやめてしまつたからである。そのため、全地はなんじかんしづ時間も静かであつた。

3 そして、再び民に声が聞こえた。すべての人はそれを聞き、それについての証人となつたが、その声は次のように語られた。

4 「おお、ヤコブの子孫であり、イスラエルの家に属する者である、崩れ落ちたこれらの大きな町の民よ。めんどうりが羽の下にひなを集めるように、わたしはあなたがたを幾度集め、養つてきたことか。

5 さらにまた、めんどうりが羽の下にひなを集めよう、わたしはあなたがたを幾度集めようとしたことか。まことに、おお、罪を犯してきたイスラエルの家の民よ。まことに、おお、同じように罪を犯してきたエルサレムに住むイスラエルの家の民よ。まことに、めんどうりが羽の下にひなを集めよう、わたしはあなたがたを幾度集めようとしたことか。しかし、あなたがたは応じようとしなかつた。

6 おお、わたしが命を助けたイスラエルの家よ。あなたがたが悔い改め、十分に固い決意をもつてわたしに立ち返るならば、めんどうりが羽の下にひ

なを集めるように、わたしはあなたがたを幾度も集めよう。

7 しかし、おお、イスラエルの家よ、もし悔い改めて立ち返らなければ、あなたがたの住居のある所は、あなたがたの先祖に立てた聖約が果たされるときまで荒れ果てた所となるであろう。」

8 さて、民はこれらのお言葉を聞いた後、見よ、親族と友人を失つたことで再び涙を流し、泣き始めた。

9 そして三日たつた。そして朝になると、暗闇は地の面から消え去り、地が揺れ動くのはやみ、岩が裂けるのもやみ、恐ろしいうなりは静まり、騒々しい音はすべてやんだ。

10 地は再び合わさつてそのままになつた。また、命を助けられた人々の嘆きや泣き悲しむ声もやだ。そして、彼らの嘆きは喜びに変わり、彼らの悲しみは、彼らの贖い主なる主イエス・キリストへの賛美と感謝に変わつた。

11 預言者たちによつて述べられた聖文はここまで成就した。

12 このときに命を助けられたのは、ひときわ義に

12	11	9	7	6	5	4
①	①	①	GS	マタ23:24,7	マタ23:17,8	ニフ1:1,2
使徒	3	3	ニフ8:9	サ上7:3	ニフ13:11,7	ニフ1:13
9	2	ニフ3:19	13:26:8,18	13:26:8,19	13:26:8,19	13:26:8,19
			8,20			

かなつた人々である。彼らは預言者たちを受け入れた人々で、預言者たちに石を投げつけなかつた。また、聖徒たちの血を流したこともなかつた。

13 彼らは命を助けられ、地の中に沈められることも埋められることもなかつた。海の深みにおぼれることもなく、火で焼かれもせず、落ちて押しつぶされて死ぬこともなかつた。また、彼らは旋風に運び去られることもなく、立ち込める煙と暗黒の霧に打ち倒されるといふこともなかつた。

14 さて、読む者は理解しなさい。聖文を持つていふ者は聖文を調べて、火と煙、暴風雨、旋風、それ人々をのみ込む地の裂けた穴によるこれらの死と破壊がすべて、多くの聖なる預言者たちの預言を成就するものでないかどうか確かめなさい。

15 見よ、あなたがたに言う。まことに、多くの預言者が、キリストの来臨の時のこれらのことについて証し、そしてこれらのこととを証したために殺された。

16 まことに、預言者ゼノスはこれらのことについて証し、ゼノクもこれらのことについて述べ、彼らは特に、彼らの子孫の残りの者であるわたしたちに

ついで証した。

17 見よ、わたしたちの先祖ヤコブも、ヨセフの孫の残りの者について証した。見よ、わたしたちはヨセフの子孫の残りの者ではないだろうか。わたしたちについて証するこれらのこととは、先祖リーハイガエルサレムから持つて来た真鑑の版に書き記されてはいなだろうか。

18 さて、第三十四年の末に、命を助けられた二一人の民と、レーマン人と呼ばれた命を助けられた人々に大きな恵みが与えられ、彼らの頭に大きな祝福が注がれたことを、見よ、わたしはあなたがたに示そう。キリストは天に昇られてからすぐには、実際に彼らに御自身を現し、キリストの務めについての話は後に記すことにす。したがつて、今はわたしの言葉を終わりにする。

19 彼らに御自分の体を示し、彼らを教え導かれた。キリストの務めについての話は後に記すことにする。したがつて、今はわたしの言葉を終わりにする。

大勢の人々がバウンティフルの地に集まつたとき、イエス・キリストはニーファイの民に御自身を現

14		17 16 15	
①	①	3	2
3	ニフ	ニフ	ニフ
ニフ	5	26	19
11	11	5	11
12	11	8	19
15		19	20
		3	4
		5	5

14 GS 「聖文—聖文の
価値」
17 GS 「殉教者
殉教」

し、彼らを教え導かれた。イエス・キリストが彼らに御自身を現された次第は、次に記すとおりである。

次の第十一—二十六章がそれに相当する。

第11章

御父、愛する御子について証される。キリストが現われ、御自分の贖罪について宣言される。人々、キリストの両手と両足とわきの傷跡に触れる。人々、「ホサナ」と叫ぶ。キリスト、バブテスマの様式を述べられる。争いの心は悪魔のもの。キリストの教義とは、人は信じてバブテスマを受け、聖靈を受けなければならないというものである。紀元約三十四年。

1さて、ニーファイの民の大勢の群衆がバウンティフルの地にある神殿の周りに集まり、互いに驚き、不思議に思い、また各地に起こつた大いなる驚くべき変化について互いに話し合っていた。
2彼らはまた、すでにその死にかかるしるしが現れたイエス・キリストについても語り合つていた。

3そして、彼らが互いに語り合つていたとき、天から発せられるような声が聞こえた。しかしながら彼らは、自分たちに聞こえたその声の告げる意味が分からなかつたので、彼らの全身はことごとくそれによつて震えた。まったく、それは魂そのものにまで彼らを貫き、彼らの心を燃え上がらせた。
4そして彼らは、再びその声を聞いたが、それでもその声の告げる意味が分からなかつた。
5その声は三度まで聞こえ、彼らはこの度は耳を開いてそれを聞き、目をその声のする方へ向けて、その声が発せられる天を見詰めていた。
6すると見よ、三度目には、彼らは自分たちに聞こえたその声の告げる意味が分かつた。その声は彼らに語つた。
7「わたしの愛する子を見なさい。わたしの心にかうう者である。わたしは彼によつて、わたしの名に榮光を加えた。彼に聞きなさい。」
8そして、彼らはその意味が分かつたので、再び

7	3 ①	2 ①	1 ①
②	ビラ 5	ヒラ 14	8
3	申命 4	ニフ 3	ニフ 11
9	19 29	33 33	20 14
15	11 33	13	36 27
	17		11
		5	14

天を見上げた。すると見よ、天からひとりの男のかたへが降つて来られるのが見えた。^{(1)み}この御方は白い衣を着ておられ、降つて来て群衆の中に立たれた。全群衆の目がこの御方に注がれたが、彼らは互いの間でさえ、あえて口を開こうとはしなかつた。また彼らは、自分たちに御姿を現された御方を天使であると思つたが、これがどういうことなのかわかった。

分からなかつた。

そこでこの御方は、片手を差し伸べて人々に言ひ始めた。

「見よ、わたしはイエス・キリストであり、世に来ると預言者たちが証した者である。

見よ、わたしは世の光であり命である。わたしは、父がわたしに下さつたあの苦い杯から飲み、世の罪を自分に負うことによつて父に榮光をささげた。わたしは世の罪を負うことによつて、初めから、すべてのことについて父の御心に従つてきた。」

さて、イエスがこれらの御言葉を語り終えられると、群衆は全員地に伏した。^{(2)お}彼らは、キリストが天に昇られた後、自分たちに御自身を現される

これが預言されたのを思い出したからである。
13 そこで、主は彼らに言われた。
14 「立つてわたしのもとに来て、あなたがたの手をわたくしのわきに差し入れ、またわたしの両手と両足の釘の跡に触れて、わたしがイスラエルの神であり、全地の神であること、そして世の罪のためあり、命じられた。

15 そこで群衆は進み出て、主のわきに手を差し入れ、また主の両手と両足の釘の跡に触れた。彼らは一人ずつ進み出て、全員がこのようにし、自分の目で見自分の手で触れ、この御方が、将来来られると預言者たちによつて書き記された主であられることを、確かに知つて証した。

16 彼らは全員進み出て、自ら確認した後、一斉に叫んだ。

17 「ホサナ。いと高き神の御名がほめたたえられますように。」そして、彼らはイエスの足もとに伏して、イエスを拝した。

18 そして、イエスは（二ーファイが群衆の中にいたので）二ーファイに語りかけ、進み出るよう命じられた。

19 そこでニーフアイは、立ち上がりつて進み出て、
主の前にひれ伏し、主の両足に口づけした。

すると主は、立ち上がるようになに彼に命じられた。そこで彼は、身を起こして主の前に立つた。
すると主は彼に、「わたしはあなたに力を授ける。わたしが再び天に上げられるとき、あなたはこの力をもつてこの民にバプテスマを施しなさい」といわれた。

22 さらに主は、ほかの人々も召して、彼らにも同じように言われた。そして主は、バプテスマを施す力をこれらの人へ授けられた。それから、主は彼らに言われた。「次の方法であなたがたはバプテスマを施しなさい。あなたがたの中に決して論争があつてはならない。

23 まことに、あなたがたに言う。あなたがたの言葉によつて罪を悔い改め、わたしの名によつてバブテスマを受けたいと望む人に、次の方はうようはうでバブテスマを施しなさい。見よ、あなたがたは水の中に下りて行つて立ち、わたしの名によつて彼らにバブテスマを施しなさい。

次^{つぎ}のとおりである。まず、バプテスマを受^うける人の名^なを呼んで、

25 「わたしはイエス・キリストより権能を受けたので、^{②お立ち}御父と御子と聖靈の御名によつて、あなたにバプテスマを施します。アーメン」と言ひなさい。
26 それから、あなたがたはその人を水中に沈め、
みず あ
水から上がりなさい。

27 このような方法で、わたしの名によつてバプテスマを施しなさい。見よ、まことに、あなたがたに言ひう。父と子と聖靈は一つである。わたしは父におり、父はわたしにおられ、父とわたしは一つである。

28 わたしが命じたとおり、あなたがたはこのように
バブテストマを施しなさい。これまであつたような
論争が、今後は決してあなたがたの中にあつては
ならない。また、わたしの教義の要領の点について、
これまであつたような論争が、今後決してあなた
がたの中にあつてはならない。

29 まことに、まことに、あなたがたに言う。①あらそ
の心を持つ者はわたしにつく者ではなく、争いの父である悪魔ちからにつく者である。悪魔は互いに怒つ

て争うよう人々の心をあおり立てる。
 30 見よ、互いに怒るよう人々の心をあおり立てるのは、わたしの教義ではない。このようなことをやめるようにといつのが、わたしの教義である。
 31 見よ、まことに、まことに、あなたがたに言う。あなたがたにわたり述べるのがわたしの教義を告げよう。

32 これから述べるのがわたしの教義であり、父がわたしに与えてくださった教義である。わたしは父のことを証し、父はわたしのことを証され、聖靈は父とわたしのことを証する。父は、どこにいる人でもすべての人に、悔い改めてわたしを信じるように命じておられることを、わたしは証する。
 33 わたしを信じてバプテスマを受ける者は、だれでも救われる。神の王国を受け継ぐのはこれらの人者である。

34 また、わたしを信じないでバプテスマを受けない者は、だれでも罰の定めを受ける。
 35 まことに、まことに、あなたがたに言う。これがわたしの教義である。わたしが、父から告げられたとおりにこれを証する。わたしを信じる者は父をも信じるのである。その者に、父はわたしのことなどを証されるであろう。父はその者に火と聖靈を与える。

36 このようにして、父はわたしのことを証され、聖靈はその者に父とわたしのことを証する。父とわたしと聖靈は一つである。
 37 もう一度あなたがたに言う。あなたがたは悔い改め、幼子のようになり、わたしの名によつてバプテスマを受けなければならぬ。そうしなければ、あなたがたは決してこれらのものを受けることができない。

38 もう一度あなたがたに言う。あなたがたは悔い改め、わたしの名によつてバプテスマを受け、幼子のようにならなければならぬ。そうしなければ、あなたがたは決して神の王国を受け継ぐことができない。

39 まことに、まことに、あなたがたに言う。これがわたしの教義である。この教義の上に建てる者はわたしの岩の上に建てるのである。地獄の門もこれらの者に打ち勝つことはない。

40 また、これ以上のこと、あるいはこれに及ばないことを告げ知らせて、それをわたしの教義とす

39	37	35	33
① GS ヒラ 12 7 24 29	① ③ GS モサ 3 18 10 15	① ③ GS 「聖靈」	① GS 「バプテスマ」
② GS 「呪石」 3 ニフ 18 12	② ③ GS 「日の榮え」	② ③ GS 「救い」	② ③ GS 「キリストの教義」
③ ヒラ 12 7 24 29	③ ニフ 18 12	③ ニフ 9 20 12	③ ニフ 16 16 7
13	13	12	21

る者は、悪から出る者であり、わたしの岩の上に建たれてられてはいない。このような者は、砂の土台の上に建ててるのである。地獄の門は開かれており、洪水が起り、風が打ちつけるときにこのよくな者のを迎える。

41したがって、あなたがたはこの民の中に出て行き、わたしの語った言葉を地の果てまで告げ知らせなさい。』

第12章

イエス、十二弟子を召して力を授けられ。イエス、

二ーファイ人に山上の垂訓に似た説教をし、至福の教えを説かれる。イエスの教えはモーセの律法をしのぎ、モーセの律法に優先する。イエスと御父が完全であられるようになることが、人々に命じられる。マタイによる福音書第五章と比較。紀元約三十四年。

1さて、イエスはこれらの御言葉を二ーファイと前に召された人々（召されてバプテスマを施す力と権能を受けられた人々の数は十二人であった）に語り終ると、見よ、群衆に手を伸ばして、大き

な声で言われた。「わたしがあなたがたの中から選んで、あなたがたに仕え、またあなたがたの僕となるようにしたこの十二人の言葉に注意を払うならば、あなたがたは幸いである。わたしは水であなたがたにバプテスマを施す力をこの十二人に授けた。あなたがたが水でバプテスマを受けた後、見よ、わたしはあなたがたに火と聖靈によつてバプテスマを受けよう。あなたがたはすでにわたしを見ており、わたしが実在することを知つているので、わたしを信じてバプテスマを受けるならば、あなたがたは幸いである。

2さらにまた、あなたがたがわたしに会つたと証し、わたしが実在することを知つていると証するとき、あなたがたのその言葉を信じる人々は、なおさら幸いである。まことに、あなたがたの言葉を信じて、心底謙遜になつてバプテスマを受ける人々は、幸いである。彼らは火と聖靈を授かり、罪の赦しを受けるからである。

3まことに、わたしのもとに来る心の貧しい人々は、幸いである。天の王国は彼らのものだからである。

3 GS ② 〔謙遜〕	13 GS ③ 〔マタ11:17-28〕	3 エテ 4 11 18-30	2 GS 〔福音書〕	3 ニフ 13 14 25	1 GS 〔召し、神の召

40
①
3
ニフ
14
24
27
12章

4 また、悲しむ人々は皆、幸いである。彼らは慰められるからである。

5 柔和な人々は、幸いである。彼らは地を受け継ぐからである。

6 義に飢え渴いている人々は皆、幸いである。彼らは聖靈に満たされたからである。

7 憐れみ深い人々は、幸いである。彼らは憐れみを受けるからである。

8 心の清い人々は皆、幸いである。彼らは神を見ることからである。

9 平和をつくり出す人々は皆、幸いである。彼らは神の子と呼ばれるからである。

10 わたしの名のために迫害される人々は皆、幸いである。天の王国は彼らのものだからである。

11 わたしのため人々があなたがたをののしり、また迫害し、またあなたがたに對して偽つて悪口を言うときには、あなたがたは幸いである。

12 あなたがたは大きな喜びを得て、非常によぶようになる。天においてあなたがたの受ける報いは大きいからである。あなたがたより前にいた預言者たちも、同じように迫害されたのである。

13 まことに、まことに、あなたがたに言う。わたしはあなたがたを地の塩とする。しかし、もし塩がその塩気を失ったら、地は何によつて塩味をつけられようか。その塩はもはや何の役にも立たず、ただ外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけである。

14 まことに、まことに、あなたがたに言う。わたしはあなたがたをこの民の光とする。丘の上にある町は隠れることができない。

15 見よ、人は①ひらくそくに火をつけて升の下に置くだらうか。そのようなことはせず、燭台に立てて、家の中のすべてのものを照らす。

16 だから、あなたがたの光をこの民の前に輝かせて、この民があなたがたの善い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。

17 わたしが律法や預言者を廃するために來た、と思つてはならない。わたしが來たのは廃するためでなく、成就するためである。

18 まことに、あなたがたに言う。律法は一点一画もむなしくなることがなく、わたしによつてすべて成し就した。

18 16 15	13 12	10	9	8 7	6	5
①①① GS 「塩」	①①② GS 「神の息子、娘」	教義「22・5-9、93-1」	出人「GS 「平和をつくり」」	モサ3・19・12 GS 「柔和」	エノ1・4 GS 「地球(地)」	モサ3・19・12 GS 「柔和」
GS 3 ルカ8・16・24	教義「101・39-40、エテ12・4」	「迫害」	「清さ」	エレ29・13 GS 「憐れみ」	エノ1・4 GS 「地」	エノ1・4 GS 「地」
「モーセの律法」				2 ニフ9・51、	2 ニフ9・51、	2 ニフ9・51、

19 そして見よ、わたしはあなたがたに、わたしを信じ、罪を悔い改めて、打ち碎かれた心と悔いの靈をもつてわたしのもとに来るようによつていう父の律法と戒めを与えた。見よ、あなたがたの前には戒めがあり、律法はすでに成就している。

20 だから、わたしのもとに来て救いを得なさい。まことに、あなたがたに言う。今あなたがたに命じたわたしの戒めを守らなければ、あなたがたは決して天の王国に入れないであろう。

21 昔の人々により、『あなたがたは殺してはならぬ。殺す者はだれでも、神の裁きを受ける恐れがない。殺す者はだれでも、神の裁きを受けれる恐れがある』と言つてきたことは、あなたがたの聞いているところであり、またそれは、あなたがたの前に書き記されている。

22 しかし、あなたがたに言う。自分の兄弟に対する怒りがある。自分の兄弟に向かつて『愚か者』と言ふ者はだれでも、議会に引き渡される恐れがある。また、『ばか者』と言う者はだれでも、地獄の火に投げ込まれる恐れがある。

23 だから、あなたはわたしのもとに来るとき、ま

たはわたしのもとに来たいと思うとき、兄弟があなたに對して何か恨みを抱いていることを思い出したら、

24 あなたの兄弟のところに行つて、まずその兄弟と和解し、それから十分に固い決意をもつてわたしのもとに来なさい。そうすれば、わたしはあなたを受け入れよう。

25 自分に敵意を抱いている者と、一緒にいる間に早く仲直りしなさい。そうしないと、いつか彼はあなたを捕らえるであろう。そして、あなたは牢に入れられるであろう。

26 まことに、まことに、あなたに言う。あなたは最後の一セナインを支払つてしまふまで、決してそこから出て来ることはできない。あなたは牢の中にいて一セナインでも支払えるだらうか。まことに、まことに、あなたに言う。『支払うこととはできない』と。

27 見よ、昔の人々は、『あなたは姦淫してはならぬ』と書いている。

28 しかし、あなたがたに言う。情欲を抱いて女を見る者はだれでも、心の中ですでに姦淫を行つたはわたしのもとに来たいと思うとき、兄弟があなたに對して何か恨みを抱いていることを思い出したら、

28	27	26	24	21	19
GS ①	① ① ①	GS ①	モサ 13	③ 二フ 9、20、	「打ち碎かれた心」
教義 59:	2	アル 11	21	13、17	「教義」
42: 6	9	3	36,		「欲望」
23,					

のである。

29 見よ、わたしはあなたがたに、これらのこと^みを決して心の中に入れないようとに命じる。

30 あなたがたは、これらのこと^みを断つて自分の十^じ字架を負う方が、地獄に投げ込まれるよりもよいからである。

31 『妻を出す者は離縁状を渡せ』と書かれている。

32 まことに、まことに、あなたがたに言う。だれでも、不貞以外の理由で自分の妻を出す者は、姦淫を行わせるのである。また出された女をめどる者も、姦淫を行ふのである。

33 さらに、『偽り誓うな。』誓つたことは、すべて主^{しゆ}に対する果たせ』と書かれている。

34 しかし、まことに、まことに、あなたがたに言^いう。一切誓つてはならない。天にかけて誓つてはならない。そこは神の御座であるから。

35 また、地にかけて誓つてはならない。そこは神のみの足台であるから。

36 また、自分の頭にかけて誓つてはならない。あなたは髪の毛一筋さえ黒くも白くもすることができない。

37 あなたがたの言葉はただ、『はい、はい』『いいえ、いいえ』であるべきだ。それ以上のものから出^でるものはすべて悪である。

38 また見よ、『目には目を、歯には歯を』と書かれている。

39 しかし、あなたがたに言う。悪人に手向かつてはならない。もし、だれかがあなたの右の頬を打つなら、ほかの頬をも向けてやりなさい。

40 あなたを訴えて、下着を取ろうとする者には、上着をも与えなさい。

41 もし、だれかが、あなたを強いて一マイル行かせようとするなら、その人とともに二マイル行きなさい。

42 求める者には与え、借りようとする者を断らないようにななさい。

43 また見よ、『隣人を愛し、敵を憎め』とも書かれている。

44 しかし見よ、わたしはあなたがたに言う。あなたがたの敵を愛し、あなたがたをのろう者を祝福し、あなたがたを憎む者に善をなし、あなたがたを不^ふ当に扱い迫害する者のために祈りなさい。

44	42	39 38 34 33	32 31	30 29
①モサ ¹	②ヤコ ²	③G ³	①①①①③②②①①	ルカ ⁹ マタ ¹⁰ 8 ²³ 離婚 ¹¹
アル ⁴	ニフ ⁵	忍耐 ⁶	レビ ⁷	コ ¹⁰ 不貞 ¹²
仙 ⁸	32	34 ¹³	マ ²⁴	G ²⁰ 姦淫 ¹¹
7 ²³	17 ²⁶	6 ¹⁹	12	S ¹⁰ 「不敬」 ¹¹
59 ⁶⁰				

こうして、天におられるあなたがたの父の子となるためである。天の父は、悪い者の上にも善い者の上にも太陽を昇らせてくださるからである。

46 以前律法の下にあつたことはすべて、わたしによつて成就している。

47 古いものは廢されて、すべてのものが新しくなつたのである。

48 わたしや天におられるあなたがたの父が完全であるようにあなたがたも完全になることを、わたしは望んでいる。』

第13章

イエス、主の祈りを二ーファイ人に教えられる。人は天に宝を蓄えなければならない。主の務めに携わる十二弟子、この世のものを思ひ煩わないように命じられる。マタイによる福音書第六章と比較。紀元約三十四年。

1 「まことに、まことに、わたしは言う。あなたがたは貧しいものに施しをしてほしい。しかし、見られるために人々の前で施しをすることのないよう注意しなさい。もし、そうしないと、天におられ

るあなたがたの父から報いを受けることがないであろう。

2 だから、施しをするときには、偽善者たちが人から褒められるために会堂や通りでするように、自分の前でラツパを吹いてはならない。まことに、あなたがたに言う。彼らはその報いを受けてしまつてている。

3 あなたは施しをするとき、右の手のしていることを左の手に知らせてはならない。

4 それは、あなたのする施しが隠れているためである。そうすれば、ひそかに見ておられるあなたの父は、公に報いてくださるであろう。

5 また、祈るときには、偽善者たちのようにしてはならない。彼らは人に見せようとして、会堂や大通りのつじに立つて祈ることを好む。まことに、あなたがたに言う。彼らはその報いを受けてしまつている。

6 あなたは祈るとき、自分の部屋に入り、戸を閉じて、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい。すると、ひそかに見ておられるあなたの父は、公に報いてくださるであろう。

5 2 1 ①①① GS「祈り」	47 ① 3 ニフ 15・2、7、 教義 22・1 ニフ 27・5、48、 「完全」
GS「祈り」	3 27・35

7 また、祈るとき、異教徒のように無益に繰り返すことはやめなさい。彼らは、言葉数が多ければ聞き入れられると思つてゐる。

8 だから、彼らのまねをしてはならない。あなたの父は、求めない先から、あなたがたに必要なものを御存じだからである。

9 だから、あなたがたはこう⁽²⁾祈りなさい。『天におられるわたしたちの父よ、御名があがめられますように。

10 御心が天で行われるよう、地でも行われますように。

11 わたしたちが自分に負債のある者を赦していますように、わたしたちの負債をお赦しください。

12 わたしたちを誘惑に陥らせることのないようにし、悪からお救いください。

13 王国と力と栄光はとこしえにあなたのものであります。アーメン。』

14 もしあなたがたが人の過ちを赦すならば、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してくださいとあります。

15 もし人を赦さないならば、あなたがたの父も、

あなたがたの過ちを赦してくださらないであろう。さらに寛大な父たちは、⁽¹⁾断食をするときには、偽善者のように悲しげな顔つきをしてはならない。彼らは断食をしていてことを人に知らせようとして、自分の顔を見苦しくする。まことに、あなたがたに言う。彼らはその報いを受けてしまつてゐる。

16 あなたがたは断食をするときには、頭に油を塗り、顔を洗いなさい。

17 それは、断食をしていることを人に知られないで、隠れた所におられるあなたの父に知つていただくためである。そうすれば、ひそかに見ておられるあなたの父は、公に報いてくださるであろう。

18 あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入つて盗み出すような地上に、宝を蓄えてはならない。

19 あなたがたは自分のために、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入つて盗み出すこともない天に、宝を蓄えなさい。

20 あなたがたの宝のある所には、心もあるからである。体の明かりは目である。だから、あなたの目が正しく見ていれば、あなたの全身に光が満ちるで

22	20	18	16	14	9
①	①	GS	「断食」	マサ	マタ
教義	教義	GS	〔教〕	サ	タ
88	58	7	58	30	84
67	8	8	7	31	13

あろう。

23 しかし、あなたの目が悪を見ていれば、全身に暗闇が及ぶであろう。だから、もしあなたの内にある光が暗闇になるならば、その暗さはどんなに深いことか。

24 だれも、一人の主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。」

25さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、御自分が選んだ十二人を見て言われた。「わたしが語った言葉を覚えておきなさい。見よ、あなたがたはこの民に仕えるようにわたしが選んだ者だからである。あなたがたに言う。何を食べようか、何を飲もうかと、自分の命のことで思い煩い、何を着ようかと自分の体のことで思い煩つてはならない。命は食物に勝り、体は衣服に勝つていられないだろうか。

26 空の鳥を見なさい。まくことも刈ることもせず、倉に納めることもしない。それでも、あなたがたの天の父は鳥を養つておられる。あなたがたは、

鳥よりもはるかに優れた者ではないか。
27 あなたがたの中のだれが、思い煩つたからといって、自分の背丈を一キユビト伸ばすことができようか。

28 また、なぜ衣服のことで思い煩うのか。野のゆりがどのように育っているか考えてみなさい。野のゆりは働きもせず、紡ぎもしない。

29 しかし、あなたがたに言うが、榮華を極めたときのソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾つてはいなかつた。

30 だから、今日はあつて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神がこのように装つてくださるとすれば、あなたがたの信仰が薄くないかぎり、神はあなたがたにも同じように装わせてくださるであろう。

31 だから、「何を食べようか」「何を飲もうか」「何を着ようか」と言つて思い煩つてはならない。

32 あなたがたの天の父は、これらのものがすべてあなたがたに必要であることを御存じだからである。

33 まず神の王国と神の義を求めなさい。そうす

ば、これらのものはすべて添えて与えられるであ

にある梁を認めないのか。

4 自分の目には梁があるのに、どうして兄弟に向むかって、「あなたの目からちりを取りさせてください」といと言えようか。見よ、自分の目の中に梁があるではないか。

5 偽善者よ、まず自分の目から梁を取りのけなさい。そうすれば、はつきり見えるようになつて、兄弟の目からちりを取りのけることができるである。

14 第章
イエス、裁かないように、神を求めるように、偽預言者にきをつけるようにと命じられる。イエス、御父の御心を行ふ者に救いを約束される。マタイによる福音書第7章と比較。紀元約三十四年。

1さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、もう一度群衆の方に向き直つて、再び彼らに口を開かれた。「まことに、まことに、あなたがたに言ふ。裁いてはならない。自分が裁かれないと、あなたがたが裁くその裁きで、自分も裁かれ、めである。

7 求めなさい。そうすれば、与えられるであろう。搜しなさい。そうすれば、見いだすであろう。たたきなさい。そうすれば、開かれるであろう。

8 すべて求める者は与えられ、搜す者は見いだし、たたく者には開かれるからである。

9 あなたがたの中に、自分の子がパンを求めるのに、石を与える者があろうか。

10 魚を求めるのに、蛇を与える者があろうか。

- 11 このように、あなたがたは悪い者であつても、自分の子供には、良い贈り物をすることを知つて、いるとすれば、天におられるあなたがたの父はなさら、求めてくる者に良いものを下さらないことがあるうか。
- 12 だから、何事でも人からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにしなさい。これが律法であり、預言者である。
- 13 狹い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道も広い。そして、そこから入つて行く者が多き。
- 14 命に至る門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない。
- 15 偽預言者に気をつけなさい。彼らは羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、その内側は強欲なおおかみである。
- 16 あなたがたは、その実によつて彼らを見分けるであろう。いばらからぶどうを、あざみからいちじくを集めれる者があろうか。
- 17 そのように、すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。
- 18 良い木が悪い実を結ぶことはないし、悪い木が良い実を結ぶこともあり得ない。
- 19 良い実を結ばない木はことごとく切り倒され、火の中に投げ込まれる。
- 20 このように、あなたがたはその実によつて彼らを見分けるのである。
- 21 わたしに向かつて、「主よ、主よ」と言う者が皆、天の王国に入るのではなく、ただ、天におられるわたしの父の御心を行ふ者だけが入るのである。
- 22 その日には、多くの者がわたしに向かつて、「主よ、主よ、わたしたちはあなたの御名によつて預言したではありますんか。あなたの御名によつて多くの驚くべき業を行つたではありますんか」と言うであろう。
- 23 そのとき、わたしは彼らにはつきりこう言おう。『わたしはあなたがたをまつたく知らない。罪悪を行ふ者たちよ、わたしのもとから去りなさい。』
- 24 それで、わたしのこれら言葉を聞いて行う者は、わたしは岩の上に家を建てた賢い人にたとえよう。

24	23 22	20	15	14	13 12
① ② ⑥ ① ①	モロ 7 1 ① ② 3	エレ 23 1 二フ 27 33	ルカ 13 24	GS ① ①	
G5 ルカ 24 一モサ 5 5 36 10	アラ 5 28 9 21 12 20	マダ 3 14 8 17 9 25	二フ 1 二ニフ 22 18 41	教義 97 1 二ニフ 13 22 17 18 41	教義 31 9 2 二ニフ 13 22 17 18 41
岩 13 27 13 17	43 41 10 12, 32	45			

25 ①あめ 雨が降り、おおずい 洪水が押し寄せ、かぜ 風が吹いてその家に打ちつけたが、それは倒れなかつた。岩を土台としていたからである。

26 また、わたしのこれらのことばの言葉を聞いて行わない者は皆、砂の上に家を建てた愚かな人にたとえられる。

27 雨が降り、洪水がおこり、風が吹いてその家に打ちつけると、それは倒れてしまつた。そして、その倒れ方はひどかつた。」

第15章

イエス、モーセの律法が御自分によつて成就したこと

を告げられる。イエスがエルサレムで言われた他の羊とは、二ーファイ人のことである。エルサレムにいる主の民は、罪悪のために、イスラエルの散らされた羊のこと

を知らない。紀元約三十四年。

1さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、群衆を見回して、「見よ、あなたがたは、わたしが父のみもとに昇つて行く前に教えたことを聞いた。だから、わたしのこれらの言葉を覚えていて行う

ものを、わたしは終わりの日によみがえらせよう」と言われた。

2そしてイエスは、これらの御言葉を述べると、彼らの中に、イエスはモーセの律法をどうするおつもりかと驚き怪しんでいる人々がいるのに気づかれた。これらの人々は、古いものは過ぎ去つて、すべてのものが新しくなつたといふ御言葉の意味を、理解していかつたからである。

3そこでイエスは、彼らに言われた。「わたしが、古いものは過ぎ去つて、すべてのものが新しくなつたとあなたがたに言つたことを、不思議に思つてはならない。

4見よ、あなたがたに言う。モーセに与えられた律法はもう成就している。

5見よ、その律法を与えたのはこのわたしであり、わたしの民イスラエルと聖約した者はわたしである。律法はわたしによつて成就している。わたしは律法を成就するために来たからである。したがつて、律法は終わつた。

6見よ、わたしは、預言者を廃止することはしない。まことに、わたしはあなたがたに言う。まだわ

第15章

6	①②GS	5	①②GS	1	①新ヤコブ
3	アル	ニフ	ニフ	②	ニフ
3	ニフ	11	9	13	1
23	34	14	17	35	22
13	バ	10	20	35	37,22
1	1	1	4	13	27,31
5	1	2	9	27	31
2	1	7	17	31	31
26	①②	25	①②	25	①アル
3	ニフ	11	7	12	6
40	40	40	40	40	40

25 ①アル 26,6
②歳言 12,7
3 ニフ 11,40

たしによつて成就していなることはすべて、これから成就するであろう。

7わたしは、古いものは過ぎ去つたとあなたがに言つた。ということは、将来のものについて告げられてきたことを、廢していなといふことである。

8見よ、わたしが民と交わした聖約は、まだすべては成就していなからである。しかし、モーセに与えられた律法は、わたしによつて成就している。

9見よ、わたしは律法であり、光である。わたしに頼り、最後まで堪え忍びなさい。そうすれば、あなたがたは生きるであろう。最後まで堪え忍ぶ

10見よ、わたしはあなたがたに戒めを与えたので、わたしの戒めを守りなさい。これは律法であり、預言者である。律法と預言者は、実際にわたしについて証したからである。

11さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、御自分が選んだあの十二人に向かつて言われた。

12あなたがたはわたしの弟子である。またあなたがたは、ヨセフの家の残りの者であるこの民にとって光である。

13見よ、この地はあなたがたの受け継ぎの地である。父はこれをあなたがたに与えてくださつた。

14このことを、エルサレムにいるあなたがたの同胞に告げるよう、父は一度もわたしに命じられなかつた。

15また父が、その地から導き出されたイスラエルの家のほかの部族について、彼らに告げるようになに命じられたことも、これまでに一度もななかつた。

16彼らに告げるようになると、父がわたしに命じられたことはただ、

17『わたしにはまた、この匂いにいらない他の羊がある。わたしは彼らをも尊かねばならない。彼らもわたしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、一人の羊飼いとなるであろう』といふことだけである。

18ところが、彼らは強情であり、不信仰であつたので、わたしの言葉を理解しなかつた。そこで、

18	17	15	14	13	12	10	9	8
①	①	①	①	①	②	②	②	①
GS	GS	GS	GS	GS	GS	GS	GS	GS
①①	①①	①①	①①	①①	②②	②②	②②	①①
知	「イ	ヤ	「ヨ	モ	「サ	「サ	「サ	「サ
教	スラ	コブ	セフ	ナフ	ハ	ハ	ハ	ハ
義	エル	の息子	13	33	11	25	11	26
GS	」	」	」	」	」	」	」	」
10	59	3	3	1	3	3	2	2
教	良	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ
義	い	フ	フ	フ	フ	フ	フ	フ
GS	十	18	22	22	22	22	22	22
10	59	16	5	20	22	22	22	22
教	羊	1	4	1	4	1	4	1
義	飼	2	3	2	3	2	3	2
GS	い	3	3	3	3	3	3	3
10	59	12	12	12	12	12	12	12
教	十	13	13	13	13	13	13	13
義	部	12	12	12	12	12	12	12
GS	族	20	20	20	20	20	20	20

このことについてそれ以上彼らに言わないよう
に、わたしは父から命じられた。

19 しかしまことに、わたしはあなたがたに言う。
父から命じられたので、わたしはあなたがたに告
げる。彼らが罪悪を犯したために、あなたがたは
彼らから分けられた。だから、彼らがあなたがた
のことを知らないのは、彼らの罪悪のためである。
20 まことに、もう一度あなたがたに言う。父はほ
かにも彼らから幾つかの部族を分けられた。彼ら
がそれらの部族のことを知らないのは、彼らの罪
悪のためである。

21 まことに、あなたがたに言う。『わたしには、こ
の囲いにいない他の羊がある。わたしは彼らをも
導かねばならない。彼らもわたしの声に聞き従う
であろう。そして、ついに一つの群れ、一人の羊と
飼いとなるであろう』とわたしが言ったその羊と
は、あなたがたのことである。

22 しかし、彼らはわたしの言つたことを理解しな
かつた。それは異邦人のことであると、彼らは思
つた。異邦人は彼らの宣教によつて改宗するとい
うことを、彼らは理解していかつたからである。

19 しかしまことに、わたしはあなたがたに言う。
父から命じられたので、わたしはあなたがたに告
げる。彼らが罪悪を犯したために、あなたがたは
彼らから分けられた。だから、彼らがあなたがた
のことを知らないのは、彼らの罪悪のためである。

20 まことに、もう一度あなたがたに言う。父はほ
かにも彼らから幾つかの部族を分けられた。彼ら
がそれらの部族のことを知らないのは、彼らの罪
悪のためである。

23 また、「彼らもわたしの声に聞き従うであろう」とわたしが言った意味を、彼らは理解しなかつた。異邦人は決してわたしの声を聞かないというこ
と、すなわち、聖靈による以外にわたしは異邦人
に自分自身を現さないということを、彼らは理解
しなかつた。

24 しかし見よ、あなたがたはわたしの声を聞き、
わたしを見た。あなたがたはわたしの羊である。そ
してあなたがたは、父がわたしに与えてくださつ
た者の中に数えられている。』

第 16 章
イエスはこの後、行方の知れないイスラエルの他の羊
を訪れられる。末日に、福音は異邦人に伝わり、次いで
イスラエルの家に伝わる。主がシオンを再び元に戻され
るととき、主の民はそれを目の当たりに見るであろう。紀
元約三十四年。

1 「まことに、まことに、あなたがたに言う。わた
しには、この地におらず、エルサレムの地にもおら
ず、またわたしがこれまでに行つて教え導いた周

囲の地のどこにもいない他の羊がいる。

2わたしの言うその羊は、まだわたしの声を聞きたことがなく、またわたしも彼らに自分自身を現したことではない。

3しかし、わたしは彼らのところへ行つて、彼らがわたしの声を聞いて、わたしの羊の中に数えられるようにし、一つの群れ、一人の羊飼いとなるよううにすることを、父から命じられた。だから、わたしは行って彼らにわたし自身を現す。

4また、わたしはあなたがたに、わたしが去つた後にこれらの言葉を書き記すように命じる。エルサレムにいるわたしの民、すなわち、わたしを目に

族についても知ることができるよう、わたしの名によつて父に求めなければ、あなたがたがこれから書き記すこれらの言葉は、書き継がれて異邦人に明らかにされるであろう。それは、エルサレムにいわゆるわたしの民の不信仰のために、地の面に散らされる彼らの子孫の残りの者が、異邦人が満ちみちた

恵みにあずかることによつて導かれるためである。

すなわち、彼らの贖い主であるわたしについて知るようになるためである。

5そのとき、わたしは彼らを地の四方から集めよう。またそのとき、わたしは父がイスラエルの家のすべての民に立てられた聖約を果たそう。

6異邦人は、わたしと父について証する聖靈によつてわたしを信じるので、幸いである。

7見よ、父が言われるには、彼らはわたしを信じ、おお、イスラエルの家よ、あなたがたは信じないので、末日には異邦人に真理が明らかにされ、これらのことがことごとく彼らに知らされるであろう。

8しかし、異邦人の中の信仰心のない者は災いであると、父は言われる。彼らはこの地の面にやつて、これらのことがことごとく彼らに知らされる

来るにもかかわらず、イスラエルの家に属するわたしの民を散らすからである。そして、イスラエルの家に属するわたしの民は、彼らの中から追い出され、彼らに足で踏みつけられる。

9父は異邦人を憐れみ、イスラエルの家に属するわたしの民を裁かれるので、まことに、まことに、

8	7	6	5	4	3
②	① ①	GS 3 ② 2 ② 1 ① ③	GS ① ② ② ①	GS ③ ③ ② ①	GS ④ ③ ① ③
モル 3 二フ 20 27	二フ 11 32 32 2 二フ 30 3 13 5 26 29	二フ 1 二フ 32 35 5 30 24 29	二フ 1 二フ 21 6 42 26	二フ 3 二フ 21 6 44	二フ 1 二フ 10 14
9	13 14	36	42 26	42 13	44
29					

あなたがたに言うが、これらの後、わたしはイスラエルの家に属するわたしの民が打たれ、苦しめられ、殺され、異邦人の中から追い出され、彼らに憎まれ、軽蔑的となり、笑いぐさとなるようになる。

10 また父は、あなたがたに次のことを言うようにな、わたしに命じられた。『異邦人がわたしの福音に背いて罪を犯し、わたしの完全な福音を受け入れず、あらゆる国民、全地のあらゆる民にも増して高慢な心で高ぶり、あらゆる偽りと欺き、悪事、あらゆる偽善と殺人、偽善売教、みだらな行い、秘密の忌まわしい行いにふけるその日、もし彼らがそのようなことをすべて行い、わたしの完全な福音を受ければ、見よ、わたしは彼らの中からわたしの完全な福音を取り去ろう』と、父は言われる。

11 『そのとき、わたしはかつてわたしの民、イスラエルの家に立てたわたしの聖約を思い出し、彼らにわたしの福音を伝えよう。』

12 そして、おお、イスラエルの家よ、異邦人にはあなたがたを支配する権力がないことを、わたしはあなたがたに示そう。おお、イスラエルの家よ、

わたしはあなたがたに立てたわたしの聖約を思い出そう。そしてあなたがたは、わたしの完全な福音を知るようになるであろう。

13 しかし、もし異邦人が悔い改めて、わたしに立ち返るならば、見よ、彼らはわたしの民、イスラエルの家の中に数えられる』と、父は言われる。

14 『また、わたしはイスラエルの家に属するわたしの民が彼らの中を通り過ぎて、彼らを踏みにじることを許さない』と、父は言われる。

15 『しかし、もし彼らがわたしに立ち返らず、わたしの声に聞き従おうとしなければ、わたしは彼らが、すなはちわたしの民イスラエルの家が彼らの中を通り過ぎて、彼らを踏みにじることを許そう。彼らは塩気を失った塩のようで、もう何の役にも立たず、捨てられて、わたしの民イスラエルの家の足の下に踏みつけられるだけである。』

16 まことに、まことに、あなたがたに言う。父はわたしに、この地を受け継ぎとしてこの民に与えるようとに命じられた。

17 そのとき、預言者イザヤの言葉が成就するであろう。イザヤは言った。

17 ①教義 3 87 ニフ 5 21 20 11 12	15 アブ 2 9 ニフ 5 11 19, 15 19, 15	13 12 ①ミカ 3 11 ニフ 2, 18 13 7, 29 13	10 9 モル 5 20 ニフ 3 15 11
---	---	--	--

18 ①あなたの見張り人は声を上げ、声を合わせて彼らは歌う。
②みはにんをあわせてかかれてうたう。

それを目の当たりに見るからである。

19 エルサレムの荒れた所よ、喜びの声を上げ、
もに歌え。主が御自分の民を慰め、エルサレムを贍
あがめ

われたからである。
20 主はその聖なる腕を、すべての国民の目の前に現された。地の果てに至るすべての人は、わたしたちの神の救いを見るであろう。』

第
17
章

「さて見よ、イエスはこれらの御言葉を語り終え
ると、再び群衆を見回して言われた。「見よ、わたし
の時は近づいた。
①ときか

3 だから、自分の家に帰り、わたしが述べたこと

を深く考えなさい。そして、理解できるように、
また明日のために心が備えられるように、わたし

の名によつて父に願いなさい。わたしはもう一度あ

なたかたのところに来るであらう。
しかし、わたしは今は父のみもとに^{いま}①^{かえ}帰り、また

イスラエルの行方の知れない部族にもわたし自身

を現そう。彼らは父にとつては行方知れずではない。父は彼らを導いた先を御存じだからである。」

さて、イエスはこのように言うと、もう一度群衆に語りなが

衆を見回して彼らか涙を流しながらもうしはらくとどまつていてほしいと願うかのように、イエ

スをじつと見詰めているのを御覧になつた。そこで、今こゝはかうにいひつした。「見みつこ

そこで、イエスは彼らに言われた、「見よ、わたしひの心は、あなたがたに対する哀れみに満たされ

て いる。
あなたがたの 中に 病気の 者が いるか。
彼らを こなか び ようき もの かれ

こに連れ来てなさい。
い者、足の悪い者、手の不自由な者、重い皮膚病のもの
るもの

にかかっている者、体のまひしている者、耳の聞きこえない者、あるいはどんなことでも苦しんでいる者がいるか。彼らをここに連れて来なさい。癒してあげよう。わたしはあなたがたのことを哀れに思い、わたしの心は憐れみに満たされている。

8 あなたがたは、わたしがエルサレムにいるあなたがたの同胞に示したことを、自分たちにも示してほしいと思っている。わたしはそのことを知つておる。また、あなたがたの信仰がわたしから癒しを受けるのに十分であることも、わたしは知つている。」

9 さて、イエスがこのように言われると、群衆はこそつて、病氣の者、苦しんでいる者、足の不自由な者、目の見えない者、口の利けない者、そのほかどんなことでも苦しんでいる者たちを伴つて前に進み出た。するとイエスは、御自分のところに連れ来られた者をことごとく癒された。

10 そこで、彼らは皆、癒された者も健くな者も、イエスの足もとにひれ伏して、イエスを拝した。また、群衆の中を近づくことのできた者はイエスの足に口づけし、涙でイエスの足をぬらした。

11 さて、イエスは、幼い子供たちを連れて来るよう命じられた。

12 そこで、彼らは幼い子供たちを連れて来て、イエスの傍らに降ろした。イエスはその真ん中に立つておられた。また、群衆は道を譲つて、幼い子供たちが皆、イエスのもとに来られるようにした。

13 さて、幼い子供たちが皆連れて来られると、イエスはその真ん中に立ち、地にひざまずくようと群衆に命じられた。

14 そして、彼らが地にひざまずくと、イエスは心中で苦惱され、「父よ、イスラエルの家に属する民の悪事のために、今わたしは心が騒いでいます」と言われた。

15 そして、イエスはこのように言われると、御自分も地にひざまずき、見よ、御父に祈られた。イエスが祈られた事柄を書き記すことはできないが、イエスの祈りを聞いた群衆はそのことを証した。

16 彼らは次のように証した。「わたしたちはイエスが御父に話されるのを見聞きしたが、それは目がまだ見たこともなく、耳がまだ聞きいたこともないほど、大いなる驚くべきことであつた。」

17 わたしたちはイエスが話されるのを見聞きしたが、それはどんな古も語ることができず、どんな人も書き記しきことができず、人々の心が想像できぬほど、大いなる驚くべきことであった。またわれたしたちは、イエスがわたしたちのために御父に祈つてくださるのを聞いたが、そのときにわたしたちの心に満ちた喜びは、だれも想像することができない。

18 さて、イエスは御父に祈り終えると、立ち上がられた。しかし、群衆は喜びが非常に大きかったので力を失っていた。

19 そこで、イエスは彼らに語り、立ち上がるよう命じられた。

20 そこで、彼らは地から立ち上がった。すると、イエスは彼らに、「あなたがたは信仰がありであります。見よ、わたしの喜びは満ちている」と言わされた。

21 そして、イエスはこれらの人々を定められる。二群衆はそのことを証した。また、イエスは幼い子供たちを一人一人抱いて祝福し、彼らのために御父に祈られた。

22 そして、イエスはこれを終ると、また涙を流された。

23 また、イエスは群衆に語つて、「あなたがたの若い子供たちを見なさい」と言われた。

24 そこで彼らは、見ようとして天に目を向けたとき、天が開くのを見た。そして、天使がまるで火の中にいるかのようなく有様で天から降つて来るのを見た。天使は降つて来ると、幼い子供たちを取られ、幼い子供たちも火に包まれた。そして、天使は幼い子供たちに恵みを施した。

25 群衆はそれを見聞きして、証した。彼らは皆、自分自身で見聞きしたので、その証が眞実であることを知っている。群衆の人数はおよそ二千五百人であり、男と女と子供から成っていた。

第 18 章

イエス、二ーファイ人の中に聖餐を定められる。二ファイ人、イエスの名によつて常に祈るよう命じられる。ふさわしくないままでイエスの肉を食べ、イエスの血を飲む者は、罰の定めを受ける。弟子たち、聖靈を授ける力を与えられる。紀元約三十四年。

1さて、イエスは弟子たちに、幾らかのパンとぶどう酒を持つて来るよう命じられた。

2そして彼らがパンとぶどう酒を取りに行つている間に、イエスは群衆に、地に腰を下ろすよう命じられた。

3そして、弟子たちがパンとぶどう酒を持って来ると、イエスはパンを取り、それを裂いて祝福された。それからイエスは、弟子たちに与えて、食べるように命じられた。

4彼らが食べて満たされると、イエスは群衆にも与えるように命じられた。

5そして、群衆が食べて満たされると、イエスは弟子たちに言われた。「見よ、あなたがたの中の一人を聖任しよう。わたしはその人に力を授け、彼がパンを裂いて祝福し、わたしの教会の人々、すなわち信じてわたしの名によつてバプテスマを受けるすべての人々に、それを与えることができるようしよう。」

6またあなたがたは、わたしがしたように、すなわち、わたしがパンを裂いて祝福し、それをあなたがたに与えたように、いつもこれを行うようにしなさい。あなたがたは、わたしがあなたがたの

努めなさい。

7あなたがたは、わたしがあなたがたに示したわたしの体を記念して、これを行ひなさい。それは、あなたがたがいつもわたしを覚えているということを、父に示す証となるであろう。そして、あなたがたは、いつもわたしを覚えているならば、わたしの御靈を受けるであろう。」

8さて、イエスはこれらの御言葉を語ると、弟子たちに、器のぶどう酒を取つて飲むように告げ、さらに群衆にも与えて飲ませるよう命じられた。

9そこで、弟子たちはそのようにして、飲んで満たされた。また、彼らは群衆にも与え、群衆も飲んで満たされた。

10弟子たちがこれをなし終えると、イエスは彼らに言われた。「あなたがたはこれを行つたので、幸いである。これはわたしの戒めを守ることである。またこれは、わたしの命じたことをあなたがたが喜んで行うということを、父に証明するものである。」

11これをあなたがたは、悔い改めてわたしの名によつてバプテスマを受ける人々のためにいつもおこななさい。あなたがたは、わたしがあなたがたの

ために流したわたしの血の記念として、それを行なさい。そうすれば、あなたがたはいつもわたしを覚えているということを、父に証明することができます。そして、あなたがたは、いつもわたしを覚えていたならば、わたしの御靈を受けるであろう。

わたしはあなたがたに、これらのことを行なうよ。うにという戒めを与える。あなたがたはいつもこれらのことを行うならば、わたしの岩の上に建てられていくので、幸いである。

しかし、あなたがたの中で、これ以上のこと、あるいはこれに及ばないことを行う者は、わたしの岩の上に建てられておらず、砂の土台の上に建てられているのである。雨が降り、洪水が起これ、風が吹いてこれらの者に打ちつけると、彼らは倒れてしまう。また地獄の門は、彼らを受け入れる。

れるためにいつでも開かれて いる

14だから、あなたがたに与えるように父がわたしに命じられたわたしの戒めを守るならば、あなたがたは幸いである。

15まことに、まことに、わたしはあなたがたに言ひう。あなたがたは悪魔に誘惑されないように、ま

「見よ、まことに、まことに、あなたがたに言う。あなたがたは誘惑に陥らないよう、常に目を覚ましていて祈らなければならぬ。サタンはあなたがたを小麦のようふるいにかけることを願つてゐるからである。

19 だからあなたがたは、わたしの名によつて常に
父に祈らなければならぬ。
（しん）
な

20 与えられると信じて、わたしの名によつて父に
もと 求めるものは、正当であれば、見よ、何でもあな

たがたに与えられる。
21 あなたがたの妻子が祝福を受けるように、あなた

さて、イエスはこれらの御言葉を弟子たちに語り終えると、再び群衆の方に向き直つて、言われ

20	18	16	15	13	12
教義	教義	ト(①)GS	ト(②)GS	アルニ	「背[岩]」
モロ	マテ	ト(②)の光	GS「折り」	ニフ	教
88	7	二ツルカ	「光、」	11	「背信」
63	26	タカ	、キリスト	34	
65	5	カカ	「イエス、キリスト	17	
	21	22		39	
	22	27		27	
		17			
		31			
		18			

たがたの家族の中へ、わたしの名によつて常に父に祈りなさい。

22 見よ、あなたがたはしばしばともに集いなさい。また、ともに集うときは、どんな人もあるがたのところに来るのを禁じてはならない。彼らがあなたがたのところに来るのを許しなさい。禁じてはならない。

23 むしろあなたがたは彼らのために祈りなさい。彼らを追い出してはならない。もし彼らがしばしばあなたがたのところに来るならば、彼らのためにはわたしの名によつて父に祈りなさい。

24 あなたがたの光を掲げて、世の人々に輝き渡るようになさい。見よ、あなたがたの掲げる光とは、わたしである。すなわち、わたしが行うのをあなたがたが見た、その行いである。見よ、あなたがたはわたしが父に祈るのを見た。皆、目の当たりに見てゐる。

25 また、あなたがたが見たように、わたしはあなたがたのだれにも立ち去るよう命じることなく、むしろわたしのもとに来て、触れるように、また見るよう命じた。あなたがたも世の人々に

そのようにしなさい。この戒めを破る者はだれでも、誘惑に陥ることを自ら許す者である。』

26 さて、イエスはこれらの御言葉を語り終えると、御自分が選ばれた弟子たちにもう一度目を向けて言われた。

27 「見よ、まことに、まことに、あなたがたに言う。わたしはあなたがたにもう一つの戒めを与える。その後、わたしは父のみもとに帰り、父から与えられているほかの命令を果たさなければならぬ。」

28 さて見よ、わたしがあなたがたに与える戒めはこれである。すなわち、あなたがたは、わたしの肉と血を分け与えるとき、だれであつてもふさわしくない今までわたしの肉と血にあずかることを、承知のうえで許してはならないということである。

29 ふさわしくない今までわたしの肉を食べ、血を飲む者は、そうすることで自分に罰の定めを招くからである。だから、ある人がわたしの肉を食べ、血を飲むのにふさわしくないと分かつたならば、あなたがたはその人に禁じなさい。

30 それでもあなたがたは、その人をあなたがたの

29	28	27	25	24	23	21
② ① ② ① ① ② ①	なる神	マタ 3 3 ニル 34	アル 5 16 モサ 9 16	「神、神会」父	3 ニル 33 9 17	30
GS 教義 46 4 「聖餐」	モル 9 11 27 30	3 ニル 16 1 3	16 11 14	「血」	11 17	

十二人の弟子、民を教え、聖靈を求めて祈る。十二人の弟子、バブテスマを受け、聖靈を授かり、天使たちから仕えられる。イエス、書き記せない言葉で祈られる。イエス、これらの二ーファイ人の信仰が非常に深いことを認められる。紀元約三十四年。

1さて、イエスが天に昇つて行かれると、群衆は解散し、男たちは各自妻子を連れて家に帰った。
2そして、群衆がイエスにお会いしたことと、イエスが彼らを教えられたことと、イエスが翌日解説し、も群衆に御自身を現されることが、暗くなる前に、すぐに民の中に広く告げ知らされた。
3まことに、一晩中イエスのことが広く告げ知られた。そして彼らは、民に使いを出して、多くの者、まことに非常に大勢の者が一晩中大きいに勧された。そして彼らは、民によつて御父に祈つた。
4そしてその翌日、群衆が集まつたときに、見き、イエスが群衆に御自身を現される場所に、翌日人々が集まることができるようにした。

5そして見よ、群衆が非常に大勢であつたため、彼らは群衆を一二組に分けた。
6十二人はその群衆を教え、また見よ、彼らは群衆を地の面上にひざまずかせ、イエスの名によつて御父に祈らせた。

7また弟子たちもイエスの名によつて御父に祈つた。そして、彼らは立ち上がり、民を教えた。
8彼らは、イエスが言われたとおりの御言葉を、イエスが言われた御言葉と少しも異なることなく教えると、見よ、再びひざまずいて、イエスの名によつて御父に祈つた。

9彼らは、自分たちが最も望んでいるものを求めて祈つた。聖靈が授けられるようにと望んでいたのである。
10彼らはこのように祈り終えると、水際に下りて行き、群衆も彼らに続いた。

11 そして、ニーファイが水の中に入つて行き、バ
　　ブテスマを受けた。

12 そして彼は、水の中から出て来ると、バブテス
　　マを施し始め、イエスが選ばれた者たち全員にバ
　　ブテスマを施した。

13 そして、彼らが皆バブテスマを受けて、水から上
　　がると、聖靈が彼らに降られた。そして、彼らは聖
　　靈と火に満たされた。

14 見よ、彼らは火のようなものに包まれた。それ
　　は天から降つて来たものである。群衆はそれを見
　　て証した。また、天使たちが天から降つて来て、
　　彼らに仕えた。

15 さて、天使たちが弟子たちに仕えていたとき
　　に、見よ、イエスが来られ、彼らの中に立つて教
　　え導かれた。

16 そして、イエスは群衆に語りかけ、もう一度地
　　にひざまずくように命じ、弟子たちにも地にひざ
　　まずくように言われた。

17 そして、彼らが皆、地にひざまずくと、イエス
　　は弟子たちに、祈るように命じられた。

18 見よ、彼らは祈り始め、イエスを自分たちの

主、自分たちの神となえて、イエスに向かつて祈
　　つた。

19 そこでイエスは、彼らの中から去り、少し離れ
　　た所に行つて御自分も地に伏して、言われた。
　　「父よ、わたしが選んだこれらの者に聖靈を与え
　　てください、感謝いたします。彼らがわたしを信
　　じたので、わたしは彼らを世から選び出しました。

20 「父よ、どうか彼らの言葉を信じるすべての者に
　　聖靈をお与えください。

21 父よ、あなたは彼らがわたしを信じているの
　　で、彼らに聖靈を与えてくださいました。彼らが祈
　　るのをお聞きになつてお分かりのように、彼らはわ
　　たしを信じています。彼らはわたしに祈つていま
　　す。わたしが彼らとともにいるので、彼らはわた
　　しに祈つています。

22 さて、父よ、わたしは彼らのために、また彼ら
　　の言葉を信じるすべての者のためにお願いします。
　　彼らがわたしを信じることができるようにしてくだ
　　さい。父よ、あなたがわたしにおられるように、
　　わたしが彼らにいることができ、わたしたちが一
　　つとなれるようにしてください。」

23 さて、父よ、わたしは彼らのために、また彼ら

24 さて、イエスはこのように御父に祈り終えると、弟子たちのところに来られた。ところが見よ、彼らは、絶え間なくなおもイエスに向かつて祈り続けていた。彼らは言葉数を多くしたのではない。⁽²⁾ いた。彼らが彼らに示され、また彼らには、願い事がいつぱいあつたからである。

25 そこで、弟子たちがイエスに祈っている間に、イエスは彼らを祝福された。また、イエスは彼らにほほえみかけ、イエスの顔の光が彼らを照らした。すると見よ、彼らも、イエスの顔のように、またイエスの衣のようになくなつた。そして見よ、その白さはあらゆる白さに勝つており、まことに、地上のものでこれほど白いものはあり得ないほどであつた。

26 また、イエスは彼らに、「祈り続けなさい」と言つた。しかし、実は彼らはまだ祈るのをやめていなかつた。

27 イエスは彼らからまた向き直り、少し離れた所に行つて地に伏された。そして、再び御父に祈つて言われた。

28 「父よ、わたしは選んだ者たちを、彼らの信仰のゆえに清めてください感謝します。わたしは彼ら

のために、また彼らの言葉を信じる者たちのためにもお願いします。彼らがわたしによつて清められているように、彼らの言葉を信じる者たちも、彼らの言葉を信じることでわたしによつて清められるようにしてください。

29 父よ、わたしは世のためではなく、信仰があるということであなたが世から選んで、わたしに与えてくださつた者たちのためにお願いします。彼らがわたしによつて清められるようにしてください。

30 イエスはこれらの御言葉を語ると、また弟子たちのところに来られた。すると見よ、彼らは絶え間なく続けてイエスに向かつて祈つていた。そこでイエスは、また彼らにほほえみかけられた。見よ、彼らはイエスのようになくなつた。

31 さて、イエスはまた少し離れた所に行つて、御父に祈られた。

32 イエスが祈られた御言葉を舌は語ることができ

30	29	28	25	24
①	① GS	② GS	① GS	① GS
ヨハ	「清	民數	教義	マタ
17	三	6	50	6
17	」	23	28	30
2		7	48	7
6		29		37

ないし、イエスが祈られた御言葉を人は書き記すことができない。

33 群衆は聞いて、証してある。彼らの心は開かれ、彼らはイエスが祈られた御言葉を心の中で理解した。

34 しかし、イエスが祈られた御言葉は、まことに大きいなる驚くべきものであったので、人はそれを書き記すこともできなければ、言い表すこともできない。

35 さて、イエスは祈り終えると、また弟子たちのところに来て彼らに言われた。「わたしはすべてのユダヤ人の中で、これほどの深い信仰を見たことがない。わたしは、彼らの不信のゆえに、このように大きな奇跡を彼らに現すことができなかつた。」
36 まことに、あなたがたに言う。彼らの中には、あなたがたが見たような大きいなることを見た者、またあなたがたが聞いたような大きいなることを聞いた者は一人もいない。」

イエス、不思議な力でパンとぶどう酒を用意し、再び

聖餐を執行される。ヤコブの残りの者は将来、主なる彼らの神を知るようになり、アメリカ大陸を受け継ぐ。イエスはモーセのような預言者である。ニーファイ人は預言者たちの子孫である。主の民に属するほかの者たち、将来、エルサレムに集められる。紀元約三十四年。

1 さて、イエスは群衆と弟子たちに、祈るのをやめるように、しかし心の中で祈ることはやめないようにと命じられた。

2 また、イエスは彼らに、体を起こして立ち上がるよう命じられた。そこで、彼らは体を起こして立ち上がつた。

3 そして、イエスは再びパンを裂いて、それを祝福し、弟子たちに食べるようにお与えになつた。

4 そして、彼らが食べ終えると、イエスは彼らに、パンを裂いて群衆に与えるように命じられた。
5 彼らが群衆に与え終ると、イエスは彼らにぶどう酒も与えて飲ませ、また群衆にも与えるように命じられた。

6 ところで、弟子たちと群衆は、パンもぶどう酒も持つて来ていなかつた。

しかしイエスは、実際に彼らにパンを与えて食たた。あたたかれ

8 そして、イエスは彼らに言われた。「このパンを食べる者は、自分のためにわたしの体を食べるのであり、このぶどう酒を飲む者は、自分のためにわたしの血を飲むのである。その者は決して飢える

「さくて、群衆は皆食べ終え、飲み終えると、見み
よ、彼らは御靈に満たされた。そして、彼らは声こゑ
を合わせて叫び、自分たちが見たり聞いたりした
エヌにさあきを帚して。

10 そして、彼らが皆、イエスに榮光を帰すると、
イエスは彼らに言われた。「見よ、今、わたしはイエス
スラエルの家の残りの者であるこの民について、父
から命じられたことを果たそう。

11 あなたがたが覚えているように、わたしはあなたがたに、⁽¹⁾イザヤの言葉⁽²⁾が成就⁽³⁾するときのことを語った。見よ、イザヤの言葉は書き記されてあなたがたの前にあるので、それを調べなさい。

ヤの言葉が成就するのは、父が御自分の民、イスラエルの家に立てられた聖約が果たされるときである。

13 そのとき、地の面にひろく散らされる残りの者たちが、東から西から、南から北から集められる。そして、彼らを贖われた主なる彼らの神を知るよう

14 また父は、^{ちち}受け継ぎとしてこの地①ちをあなたがたになる。

に与えるように、わたしに命じられた。
あなたがここ言う。異邦人の民を救う

あなたがながい言葉、異邦人があれかしの眼を離した後、祝福を受けてから、もし悔い改めなければ

ば、
16 そのとき、ヤコブの家の残りの者であるあなたの

がたは、彼らの中に出て行くであろう。異邦人の数は多いが、あなたがたは彼らの中にいる。あなたがたは、彼らの中に出て行くであろう。

たは彼らの中へ森の獣の中のライオンのようであつた。

若いライオンは通り過ぎるときに踏みにじり、引ひきの群れの中の若いライオンのようである。わかれり

き裂いて、だれも救うことができない。
あなたの手はあなたに敵意を抱いている者のうち

えに振り上げられ、あなたの敵はことごとく絶た

れる。
 18 人が刈り束を床に集めるように、わたしは自分の民を集めよう。

19 父が聖約を交わされたわたしの民、わたしはあなたの角を鉄とし、またあなたのはづめを真鑑としよう。あなたは多くの民を打ち碎くであろう。わたしは彼らの利得を主のために聖別し、彼らの所有物を全地の主のために聖別しよう。見よ、それを行なうのはわたしである。

20 さて、わたしの罰の剣はその日彼らのうえに迫る。父は言われる。彼らが悔い改めなければ、それは彼らに、すなわち異邦人のすべての国民に下る、と父は言われる。

21 そしてわたしは、自分の民、イスラエルの家を築き上げよう。

22 見よ、わたしはこの民をこの地に立てて、わたしがかつてあなたがたの先祖ヤコブと交わした聖約を果たそう。この地は新エルサレムとなるであろう。天の力はこの民の中にある。まことに、わたしはあなたがたの中にいるであろう。

23 見よ、モーセが語ったのはわたしのことであ

る。モーセは言つた。『主なるあなたがたの神は、あなたがたのために、あなたがたの同胞の中からわたしのような預言者を一人お立てになる。その預言者があなたがたに語るすべてのこととに耳を傾けなさい。そして、その預言者に耳を傾けない者はすべて、民の中から絶たれるであろう。』

24 まことに、あなたがたに言う。サムエルをはじめとして、かれに統いて語つた預言者は皆、わたしについて証した。

25 見よ、あなたがたは預言者たちの子孫であり、イスラエルの家に属する者であり、父があなたがたの先祖と交わされた聖約を受けている者である。父はアブラハムに、「あなたの子孫により、地のすべての部族は祝福を受けるであろう」と言われた。

26 父はわたしをよみがえらせ、まずあなたがたに遣わされた。あなたがた一人一人を罪惡から遠ざけて祝福にあずからせるためである。これは、あなたがたが聖約の子孫だからである。

27 あなたがたが祝福にあずかつた後、父は、「あなたの子孫により、地のすべての部族が祝福を受けられるであろう」と言つてアブラハムと交わした聖約

27	26	25	24	23	22	21	20	19	18
ア ブ ラ ハ ム	2 2 2 9	① ガ ラ 3 16 14 8	ヤ コ 7 11 5 24 3 20 21 19	ミ カ 4 13 12 イ サ 2 2 5 5 7 24 16 4 8 26 15	ミ カ 4 13 12 イ サ 2 2 5 5 7 24 16 4 8 26 15				
		GS 「ア ブ ラ ハ ム の 聖 約 」	① 申 命 18 1 3 1 3 21 23 15 19	教 義 84 13 12 イ サ 2 1 1 21 23 24 5 5 7 24 16 4 8 26 15					
		② 「新 エ ル サ レ ム 」	マ ラ 3 1 1 21 22 18 1 1 21 22 15 19	イ サ 2 2 5 5 7 24 16 4 8 26 15					
		③ 創 世 12 1 3	テ 3 1 1 21 23 24 5 5 7 24 16 4 8 26 15	イ サ 2 2 5 5 7 24 16 4 8 26 15					

果たされた。それは、わたしを通じて、異邦人に聖靈が注がれるためである。異邦人はこの祝福を与えて、何者にも増して強くなり、わたしの民、イスラエルの家を散らすであろう。

28 そして異邦人は、この地の民にとつて鞭となるであろう。それでも、彼らがわたしの完全な福音を受け入れたとき、『もしもわたしに対して心をかたくなにするならば、わたしは彼らの罪惡を彼ら自身の頭に戻そう』と、父は言われる。

29 『またわたしは、自分の民と交わした聖約を思い起こそう。わたしは自分がふさわしいと思うときに彼らを集め、彼らの先祖の地を受け継ぎとして再び彼らに与えると聖約した。その先祖の地とはエルサレムの地、彼らのためのどこしえの約束の地である』と、父は言われる。

30 そして将来、わたしの完全な福音が彼らに宣べ伝えられる時が来る。

31 そして彼らはわたしを信じ、わたしが神の子イエス・キリストであることを認め、わたしの名によつて父に祈るようになるであろう。

32 そのとき、彼らの見張り人たちは声を上げ、彼

らは声を合わせて歌う。彼らは目の当たりに見るからである。

33 そのとき、父は再び彼らを集め、彼らの受け継ぎの地としてエルサレムを彼らに与えられる。

34 そのとき、彼らは喜びの声を上げる。『エルサレムの荒れた所よ、ともに歌え。父が御自分の民を慰め、エルサレムを贖われたからである。』

35 父はその聖なる御腕を、すべての国民の目の前に現された。地の果てに至るすべての人は、父の救いを見るであろう。父とわたしは一つである。

36 そのとき、書き記されていることが成就するであろう。『おお、シオンよ、目覚めよ、再び目覚めよ、力を着よ。おお、聖なる都エルサレムよ、美しい衣を着よ。これからはもう、割礼を受けていない者と清くない者は、あなたの中に入つて来ることはないからである。

37 あなたの身からちりを振り落とせ。おお、エルサレムよ、立ち上がりつて座せ。おお、囚われたシオンの娘よ、あなたの首の縄を解き捨てよ。主はこう言われる。「あなたがたは自分自身をただで売り渡した。あなたがたは金を払わずに贖わ

36	34	31	29	28	27
GS	① ②	④ ③	① ②	① ②	① ②
教義	イザ 52:9	アモ 9:14	イザ 44:21	ニフ 16:11	ニフ 16:6
「シオン」	10, 3	15	12	12	9
「シオン」	10, 3	15	12	12	9

れるであろう。』

39 まことに、まことに、あなたがたに言う。わたしの民はわたしの名を知るであろう。まことに、その日、彼らは語っている者がわたしであることを知るであろう。

40 そのとき、彼らは言う。『よきおとずれを伝え、平和を告げて広め、善のよきおとずれを伝え、救いを告げて広め、シオンに向かつて「あなたの神が統治しておられる」と言う者の足は、山の上にあつて何と麗しいことであろう。』

41 またそのとき、叫び声が起ころる。『去れ、去れ、清くあれ。』

42 あなたがたは慌てて出る必要もなければ、逃げ出よ。主の器を担う者たちよ、清くあれ。』

43 見よ、わたしの僕は賢く振る舞う。彼はあがめ前を行き、イスラエルの神があなたがたのしんがりとなられるからである。』

44 多くの人があなたに驚いたように、彼の顔つきはほかのだれよりも損なわれて、また彼の姿も、

人の子らのようではなかつた。』

45 彼は多くの国民を清める。王たちは彼を見て口をつぐむ。彼らはまだ告げられたことのないことを見、まだ聞いたことのないことを悟るからである。』

46 まことに、まことに、あなたがたに言う。これらのことはすべて、父がわたしに命じられたように必ず起ころる。そのとき、父が御自分の民と交わされた聖約が果たされる。そのとき、エルサレムは再びわたしの民の住む所となり、彼らの受け継ぎの地となるであろう。』

第 21 章

『モルモン書』が得出るときに、イスラエルは集められる。異邦人、自由な民としてアメリカ大陸に住む。異邦人に信じて従うならば救われる。そうでなければ、絶たれて滅ぼされる。イスラエルは新エルサレムを築き、行かれた方の知れない部族は戻つて来る。紀元約三十四年。

1 「まことに、あなたがたに言う。これらのことが起ころる時、すなわち、わたしが自分の民、イスラエルの家を長年の離散した状態から集めて、彼ら

46	42	41	40
①①	③ 教義	② イザ	① イザ
エ 3	15	13	ナボ
ニ ニ	19	13	15
フ 13	37	10	52
5	13	11	7
29	15	15	18
11			
末日	「終わりの時、	GS	

なかふたんの中に再びわたしのシオンを設ける時を、あなたがたが知ることのできるように、一つのしるしをあなたがたに示そう。

²見よ、わたしが一つのしるしとしてあなたがたに示すのは、次のことである。まことに、あなたがたに

たに言う。今あなたがたに告げるこれらのこと、またわたし自身と、父があなたがたに授けられる聖靈の力とによつて、わたしがこの後あなたがたに告げるこれらのことは、将来異邦人に知らされるであろう。異邦人がヤコブの家の残りの者であるこの民について、また彼らによつて散らされるこのわたしの民について、知るようにするためである。

3 まことに、まことに、あなたがたに言う。これ
らのことは父によつて彼らに知らされ、父から出て
かれからあなたがたに伝わる。

4 彼らがこの地に定住し、父の力によつて自由な
たみ
民とされて、これらのこと^が_{かれ}彼らからあなたがたの
子孫の残りの者に伝わり、父が御自分の民、イスラ
エルの家と交わされた父の聖約^が_{ちやく}が果たされるよう
になることは、父の知恵^{わざ}_{ちえ}にかなうことである。
5 これらの業と、この後あなたがたの中^{なか}で行われ
おこな

わざる業は、罪惡のためによしんこうに陥るあなたがたの子孫に、異邦人から伝わるであろう。

それは異邦人から伝わつて、父が御自分の力を異邦人に示されるようになり、またその結果、異邦人もとに来て、わたしの名によつてバプテスマを受け、わたしの教義の眞の要点を知つて、わたしの民、イスラエルの家中に数えられるようになるであろう。

「これらのこととが起つて、あなたがたの子孫が
とつて一つのしとなつて、彼らは、父がイスラ
エルの家に属する人々に立てられた聖約を果たすた
めに業を始めた、ということを知るのである。

とを見、まだ聞いたことのないことを悟るからである。

9 その日、わたしのためには父は異邦人の中で一つの業を、すなわち大いなる驚くべき業を行われ

る。一人の男が彼らにその業について告げるが、彼らの中にはそれを信じない者たちがいる。

10 しかし見よ、わたしの僕の命はわたしの手の内にあるので、彼は彼らによつて損なわれることはあつても、害は受けない。損なわれても、わたしは彼を癒そう。わたしの知恵が悪魔の悪知恵よりも深いことを、わたしは彼らに示そう。

11 さて、父はこの僕がイエス・キリストであるわたしの言葉を異邦人にもたらすことを許し、また異邦人にわたしの言葉をもたらす力を彼らに与えられる。

12 やコブの残りの者であるわたしの民は、異邦人の中でも、彼らのただ中で、森の獸の中のライオンのよう、羊の群れの中の若いライオンのようになるであろう。(それは、モーセの言つたとおりになる。)

13 彼らの手は彼らに敵意を抱いている者のうえに振り上げられ、彼らの敵はことごとく絶たれるであろう。

14 まことに、異邦人は悔い改めなければ災いである。父は言われる。『そしてその日には、わたしはあなたのうちから馬を絶やし、戦車を壊し、

15 あなたの国のもろもろの町を絶やし、あなたの城をことごとく覆す。』

16 また、あなたの国から魔術を絶やす。あなたのうちには占い師がないようになる。

17 また、あなたのうちから彫像と石の柱を絶やす。あなたは重ねて手で造つたものを拝むことはない。

18 また、あなたのうちからアシラ像を抜き倒し、あなたのものもろもろの町を滅ぼす。

19 そして、偽りや欺きやねたみ、また争いや偽善売教、みだらな行いはすべて廢される。』

20 そして、父は言われる。『その日、悔い改めてわたしの愛子のもとに來ない者を、わたしは自分の民、イスラエルの家のなかから絶とう。』

21 わたしは異教徒に及ぼすように、彼らが聞いたこともないほどの報復と怒りを彼らに及ぼそう。』

22 しかし、彼らが悔い改めてわたしの言葉に聞き従い、心をかたくなにしなければ、わたしは彼ら

19 ① GS 3 ニフ 30 2	14 ① ② モサ 13 16 「偶像拝」	11 ① ② モル 8 ミカ 5 14 2 ニフ 3 ニフ 20 16 16 18 13 15	10 ① ② 教義 13 2 ニフ 3 10 43 1 3
17 ① 出工 12 20 3 4	12 ① ② 教義 1 16 13 14 15	17 ① ② モサ 13 12 13 14 15	

の中にわたしの教会を設けよう。彼らは聖約を交わし、わたしがこの地を彼らの受け継ぎとして与えた、このヤコブの残りの者の中に数えられるであろう。

23 そして、わたしの民であるヤコブの残りの者と、将来やつて来るイスラエルの家のすべての者が、新エルサレムと呼ばれる一つの都を築くのを、彼らは助けるであろう。

24 そのとき、地の全面に散らされていいるわたしの民が新エルサレムに集まるのを、彼らは助けるであろう。

25 そのとき、天の力が彼らの中に下り、わたしも彼らの中にいるであろう。

26 またその日、すなわちこの福音がこの民の残りの者の中で宣べ伝えられるとき、父の業が始まるであろう。まことに、あなたがたに言う。その日、わたしの業は、わたしの民のすべての散らされた者の中

で、すなわち、父がエルサレムから連れ出された行方の知れない部族の中で始まるであろう。まことに父は、わたしの民のすべての散らされた者たちがわたしのもとに来て、わたしの名によつて

父に請い願うことができるよう、道を備えるためには彼らの中でその業を始められる。

28 そのとき、父は、御自分の民が彼らの受け継ぎの地に戻されるように、道を備えるためにすべての国民の中で業を始められる。

29 そして、彼らはあらゆる国民の中から出て来る。彼らは慌てて出る必要もなければ、逃げるようにして去る必要もない。わたしが彼らの前を行き、またわたしが彼らのしんがりとなるからである」と、父は言われる。』

第22章

終わりの時に、シオンとシオンのステークが確立され、イスラエルは憐れみと慈しみをもつて集められる。イスラエルは勝利を得る。イザヤ書第五十四章と比較。元約三十四年。

1 「書き記されていることは、そのときに起こる。『おお、子を生まなかつた不妊の女よ、歌いなさい。産みの苦しみを味わわなかつた者よ、声を放つて歌い、声高らかに叫びなさい。見捨てられた者

の子供は、夫のある者の子供よりも多いからである」と、主は言われる。

2 「あなたの天幕の場所を広くし、あなたの住まいの幕を張つて広げなさい。惜しむことなく、あなた

の綱を長くし、あなたの杭を強固にしなさい。

3 あなたは右にも左にも広がり、あなたの子孫は異邦人から受け継いで、荒れ果てたもろもろの町を人の住む所とするからである。

4 あなたは恥じることはないので、恐れてはならない。あなたは辱められることはないので、うろたえてはならない。あなたは若いときの恥を忘れ、若いときの恥辱を思い出さず、寡婦であつたときの恥辱を決して思い出すことはない。

5 あなたを造つた者があなたの夫であり、その名聖者であり、全地の神ととなえられる。

6 主はあなたを、見捨てられて心に痛手を負つている女のように、また若いときに拒まれた妻のよう

うに招かれたからである」と、あなたの神は言わ

れる。

みをもつてあなたを集めよう。

8 わたしはいざさか怒ら^{いかつ}て、少しの間あなたから

顔を隠したが、永遠の慈しみをもつてあなたを憐れもう」と、あなたの贖い主である主は言われる。

9 「このことは、わたしにはノアの洪水のようである。わたしはかつてノアの洪水が二度と地を覆うことはないと言つたが、そのように、わたしはあなたを怒らないと誓つた。

10 山々が去り、丘が動いても、わたしの慈しみはあなたから去ることなく、わたしの平和の聖約は動くことがない」と、あなたを憐れむ主は言われる。

11 「おお、苦しめられ、嵐にもてあそばれ、慰めを得ない者よ。見よ、わたしは麗しい色であなたの石を敷き、サファイヤであなたの基を据えよう。

12 また、めのうであなたの窓を造り、紅玉であなたの門を造り、あなたの境をすべて宝石で造ろう。

13 あなたの子孫は皆、主によつて教えを受け、あなたの子孫の平安は深い。

14 あなたは義をもつて堅く立てられる。あなたは恐れないでので、虐げされることはない。また、恐怖から遠ざかる。それはあなたに近づくことがな

14	13	11	10	9	8	4	3	2
①	①	①	①	①	①	①	①	①
GS	エ	教義	詩篇	GS	GS	「ス	「ス	「ス
レ	黙示	35:	94	GS	GS	テーク」	邦人」	テーク」
「義」	31:21	25	40:4	「ノアの時代の	54:9			
	33:18		14:					
	34:21							

いからである。

15 見よ、彼らは必ずあなたに敵対して集まるが、それはわたしによるのではない。あなたに敵対して集まる者はだれであろうと、あなたのゆえに倒される。

16 見よ、わたしは炭火を吹きおこして、自分の仕事のために道具をつくる鍛冶を造つた。また、わたしは荒らし滅ぼす者も造つた。

17 あなたを攻めるために造られる武器は、まつたく役に立たない。また、裁きの時にあなたに向かってののしる舌はことごとく、あなたがそれを罪に定める。これが主の僕たちの受け継ぐものであつて、彼らの義はわたしから出る」と、主は言われる。』

がたはこれらのことと調べなさい。まことにわたしは、これらのこととを熱心に調べるようにといふ戒めを、あなたがたに与える。イザヤの言葉はまことに偉大だからである。

2 確かにイザヤは、イスラエルの家に属するわたしの民について、すべてのこととを述べた。そこで、どうしても彼は異邦人にも語る必要があつた。

3 彼の語つたことはすべて、彼の語つた言葉のとおりにこれまで起つており、またこれからも起つてゐるであろう。

4 したがつて、わたしの言葉を心に留め、わたしがあなたがたに告げたことを書き記しなさい。これらの言葉は、父の定められたときには、父の御心のままに異邦人に伝わるであろう。

5 わたしの言葉に聞き従い、悔い改めてバプテスマを受ける者は、だれであろうと救われる。預言者の書を調べなさい。これらのことについて、証している預言者が多いからである。』

6 さて、イエスはこれらの御言葉を語り終ると、再び彼らに語り、彼らに与えられている聖文を十四年。

1 「さて見よ、わたしはあなたがたに言う。あなた

イエス、イザヤの言葉を是認される。イエス、預言者の書を調べるように民に命じられる。復活についてのレーマン入サムエルの言葉が記録に加えられる。紀元約三十四年。

第23章

1 ①	2 ②	3 ③
ルカ 24:25	GS「聖文」	GS「聖文」
2 ニフ 25:1-5	モル8:23	モル8:23
3 ニフ 20:11	「イザヤ」	「イザヤ」
12		

ていいない別の聖文を書き記すことを、あなたがたに望む」と、彼らに言われた。

7 そして、イエスはニーファイに、「あなたがたが書き継いできた記録を持って来なさい」と言われた。

8 そこでニーファイが記録を持って来てイエスの前に置くと、イエスはそれらの記録に目をやつて言われた。

9 「まことに、あなたがたに言う。わたしはレーマン人であるわたしの僕サムエルに、この民に証するようにと命じた。その証とは、父がわたしによつて御名に榮光を受けられる日に、多くの聖徒が死者の中からよみがえつて、多くの者に現れ、彼

10 そこでイエスの弟子たちは、イエスに答え、「はい、主よ、サムエルはあなたの御言葉のとおりに預言し、それはすべて成就しました」と言つた。
11 するとトイエスは彼らに、「多くの聖徒がよみがえて多くの者に現れ、彼らに仕えたことを書き記された後、イエスはそれを

記していなのはどうしてか」と言われた。

12 そこでニーファイは、このことがまだ書き記されていないのを思い出した。

13 そして、イエスが命じられたとおりにそのことが書き記された。

14 さて、弟子たちが書き記してきたすべての聖文をまとめて説き明かした後、イエスは、御自分が説き明かした事柄を教えるように、彼らに命じられた。

第 24 章
主の使者が再臨のために道を備える。キリスト、裁きの座に着かれる。イスラエル、什分の一を納め、ささげ物をするよう命じられる。覚えの書が記される。マラキ書第三章と比較。紀元約三十四年。

1 さて、イエスは、御自分がこれから告げる御言葉を書き記すように、彼らに命じられた。それは、御父がマラキに与えられた御言葉である。そして、それらの御言葉が書き記された後、イエスはそれを

14	① GS ④ ③ ③ ② ①	9
ル	「復活」	マタ「聖徒」
24	44	14 13 27 25 52 53
	46	

説き明かされた。イエスが彼らに告げられた御言葉は次のとおりである。「父はマラキに次のように言はれた。『見よ、わたしは使者を遣す。彼はわたしの前に道を備える。あなたがたの求め主、すなわちあなたがたの喜ぶ聖約の使者は、突如主の神殿に来る。見よ、主は来る』と、万軍の主は言う。しかし、主の来る日には、だれが堪え得よう。主の現れるときには、だれが立ち得よう。主は精錬する者の火のようであり、布さらしの灰汁のようである。

3 主は銀を精錬し清める者として座に着き、レビの子らを清め、金銀のようにならを清めて、彼らが義をもつてささげ物を主にささげられるようになる。

4 そのとき、ユダとエルサレムのささげ物は、昔の日のように、また先年のように主に喜ばれる。

5 「そして、わたしあなたがたに近づいて、裁きをなし、魔法を使う者、姦淫を行う者、偽りの誓いを立てる者、賃金について雇い人を虐げる者、やもめと父のいない子供を虐げる者、外來者を退ける者、わたしを畏れない者に対して速やかに証を立てる」と、万軍の主は言う。

6 「わたしは主であるので、変わることがない。それゆえ、ヤコブの子らよ、あなたがたは焼き尽くさることがない。

7 あなたがたは、先祖の時代からわたしの定めを離れて、それを守らなかつた。わたしに帰りなさい。そうすれば、わたしはあなたがたに帰ろう」と、万軍の主は言う。「ところが、あなたがたは、『どのようにして帰りましょうか』と言う。

8 人は神から盗むだろうか。ところが、あなたがたはわたしから盗んでいる。しかし、あなたがたは、『わたしたちはどのようにしてあなたから盗んでいるのでしょうか』と言う。什分の一とささげ物によつてである。

9 あなたがたはのろいをもつてのろわれる。あなたがた、まことに民のすべてがわたしから盗んでいるからである。

10 わたしの家の食物があるように、什分の一をすべてわたしの倉に携えて来なさい。これをもつてわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、受け入れる余地がないほどの祝福を、あなたがたに注ぐ

10 ②①②① GS教義 「祝福」	8 ① GS教義 64・23、 119章	7 ② GS教義 13・21、 10・8、 34・34	5 ① ヒラ モロ 9・22 13・31 10・6、 11・13	2 ① セカ 13・9、 13・13
1 ① 教義 45・9 「地球（地）—地球の再臨」	1 ② 教義 84・1 「什分の一」	1 ① 申命 10・8、 34・34	1 ② 教義 13章 ヒラ 13・31 10・6、 11・13	1 ③ 教義 128・24 「イエス・キリストの再臨」

かどうかを見なさい」と、万軍の主は言う。

「わたしは食い荒らすものをあなたがたのために抑えて、あなたがたの地の産物が荒らされないようになります。また、あなたがたのぶどうの木が熟す前に、その実を煙に落とすことのないようにします」
「諸國の民は皆、あなたがたを祝福された者と言いうであろう。あなたがたは喜ばしい国となるから」と、万軍の主は言う。

12 「諸國の民は皆、あなたがたを祝福された者と言いうであろう。あなたがたは喜ばしい国となるからである」と、万軍の主は言う。

あなたがたは言葉を激しくしてわたしに逆らつた」と、主は言う。ところが、あなたがたは、「わたしたちはあなたに逆らつて何を言いましたか」という。

14 あなたがたは言った。「神に仕えることは無益だ。神の定めを守つてきたことが、また万軍の主の前を悲しんで歩んできたことが、どんな益になつてゐるか。

15 今わたしたちは、^{たが}高ぶるものは幸で、あると言
う。まことに、悪を行う者は高く上げられ、まこと
とに、神を試みる者でさえも救われる」と。

16 そのとき、主を畏れる者たちはしばしば互いに

第
25
章

再び臨る時には、高ぶるものと悪く人は、わらのよう焼かれ
る。エリヤは、大いなる恐るべき日の前に戻つて来る。マ
ラキ書第四章と比較。紀元約三十四年。

「『見よ、炉のよう^にに燃える日^ひが来る。すべて高
るもの悪^{あく}を行^{おこな}う者は、わらのようになる。やがて
くる日^ひが彼らを焼き尽^{つく}して、根も枝も残^{さない}い』」
と、万軍の主^{しゆ}は言う。

2 「しかし、わたしの名を畏れるあなたがたのため

① あつ
語り合ひ、主はみみを傾けてこれを聞かれた。そして、主を畏れ、主の名を尊んだ者たちのために、主の前で一つの覚えの書が書き記された。

第25章

GS	②	の	GS	ジ	64	教	3	1	①
「高慢」	2	清め	歴史	ジ	23	義	ニ	フ	サ
〔ニフ〕	20	〔地〕	歴史	24	29	史	フ	サ	24
33	—	—	〔地〕	37	133	1	24	22	24
					64		2	15	6

18 17	16
① ① GS	モロ 6・5
GS 教義 101・3	モセ 6・5、 教義 85・9、
「識別の賜物」	

に、義の御子は翼に癒しを携えて現れる。あなたがたは出て行つて、牛舎の中の子牛のように育つ。

3 そしてあなたがたは、悪人を踏みつける。わたしホレブでわたしの僕モーセに命じたモーセの律法と、捷と裁決を思い出しなさい。

4 「あなたがたは、わたしが全イスラエルのためにホレブでわたしの僕モーセに命じたモーセの律法と見よ、主の大いなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エリヤをあなたがたに遣わす。6 彼は先祖の心を子孫に向けさせ、子孫の心をその先祖に向けさせる。これは、わたしが来て、のろいをもつて地を打つことのないようにするためである。」

イエス、はじめから終わりに至るまでのすべてのことについて説き明かされる。乳飲み子と小児たち、書き記せない驚くべき事柄を述べる。キリストの教会の人々、すべてのものを共有する。紀元約二十四年。

第 26 章

1さて、イエスはこれらのこと語り終えると、群衆にそれを説き明かし、また大小を問わず、あらゆることを彼らに説き明かされた。

2 そしてイエスは、「あなたがたの持つていらないこれら聖文が、後の時代の人々に伝えられることは、父の知恵にかなつていたので、父は、これらの聖文をあなたがたに伝えるようにわたしに命じられた」と言われた。

3 そして、イエスは世の初めから将来御自分が栄光のうちに来られるときまでのすべてのこと、すなわち、諸元素が酷熱に溶け、大地が巻き物のようになに巻かれ、天地が過ぎ去るときまでに地の面に起ころるすべてのことについて説き明かされた。

4 すべての民族、すべての部族、すべての国民および国語の民が、彼らの行いが善いか悪いか、行いに応じて裁かれるために神の前に立つ、大きいなものに至るまでのことを、イエスは説き

5 行いが善ければ永遠の命の復活にあずかり、悪ければ罰の定めの復活を受ける。すなわち、世の始まる前からすでにおられたキリストの内にある憐れま

第 26 章

5 ① ダニ 12:2,	4 ① ③ モサ 5:23 モサ 16:10 11, GS 「最後の裁き」	2 ① マラ 3:4 章が、 3 二フ 24:25 章に引用 されている
5 ② ヨハ 5:29, エテ 3:14, GS 「イエス・キリスト ー前世における キリスト」	3 二フ 28:31 ヒラ 12:25, 13:1 GS 「エリヤ」	2 ② アモ 6:4, 22:24 列下 2:1, 2, 教義 2:1, 110 12:17 18:13 3 二フ 21:12 出エ 3:1-6
5 ③ ヨハ 5:2 エテ 3:14, GS 「イエス・キリスト ー前世における キリスト」	6 ① 「死者の救い」 教義 2:2	5 ① GS 「死者の救い」 「結び固め」 教義 2:2

れみと公正こうせいと神聖しんせいさによつて、前ぜん者は一方いっぽうにあり、後こう者は他方たほうにあつて、互たがいに平行へいこうしてゐる。そこで、イエスが実際にじっさいに民みんに教おぼえられたことは、その百分ひぶんの一もこの書しょに書き記かきしるせない。

しかし見よ、二ーファイの版には、イエスが民に教えられたことの大いぶんが載せられている。
8 わたしがこれまで書き記したこれらのことは、イエスが民に教えられたことのほんの一部でしかない。わたしが書き記してきたのは、これらのことがイエスの言われた御言葉のように、異邦人からこの民に再び伝えられるためである。
9 彼らがまずこれを持つことは、彼らの信仰を試すのに必要である。彼らはこれを与えられたとき、これらのことを使ひじるならば、そのときにはもつと大きいなることが彼らに明らかにされる。

しかし、彼らがこれらのこととを信じなければ、
そのときにはそれより大きいことは彼らに与え
られることなく、彼らは罪の宣告を受けれるであろう。
見よ、わたしはニーファイの版に刻まれてゐる
すべてのことを書き記そうとしたところ、主はそ
れを禁じて、「わたしは自分の民の信仰を試みよ

う」と言われた。
12 そこでわたしモルモンは、主から命じられたことを書く。わたしモルモンは、これでわたしの言葉を終え、命じられたことを書き進めよう。

13 したがつて、わたしは、あなたがたに知つてもらいたい。主は実際に三日間民を教えられた。その後、主はしばしば彼らに御自身を現し、しばしばパンを裂いて祝福し、彼らに与えられた。

14 そしてイエスは前に述べた群衆の子供たちをも教え、恵みを施し、彼らの舌を緩められた。そこで子供たちは、大いなる驚くべきことを、実際に、イエスがかつて民に明らかにされたことよりも大きいことを、自分たちの父親に語つた。イエスが子供たちの舌を緩められたので、彼らは語ることができたのであつた。

15 そして、イエスが天に昇つて行かれた後、すなわち、イエスが二度目に群衆に御自身を現し、彼らの中の病氣のものも、足の不自由な者もすべて癒しし、目の見えない者の目を開け、耳の聞こえない者との耳を開き、そのほか彼らの中であらゆる癒しを与えた。一人の男を死者の中からよみがえらせ、彼

15	14	13	11	10	9	8	7	6	5
GS	①	③	②	①	GS	②	①	①	①
奇	ア	三	聖	ヨ	エ	ア	ニ	ヨ	正
跡	ニ	ラ	ニ	ハ	テ	テ	ニ	ハ	義
し	ニ	26	32	33	フ	21	12	14	版
フ	17	16	23	17	20	14	6	9	25
	9,			11	3		11	10	
					12	9		6	

た人々は、キリストの教会と呼ばれた。

らに御自分の力を示して、御父のもとに昇つて行
かれた後の、

16 見よ、その翌日、群衆は集まり、これらの子供たちが語るのを、まことに乳飲み子でさえも口を開いて驚くべきことを語るのを見聞きした。しかし、彼らの語つたことはだれも書き記してはならないと止められた。

17さて、イエスから選ばれた弟子たちは、そのと
きから、彼らのもとに来るすべての者にバプテス
マを施し、彼らを教え始めた。そして、イエスの名
によつてバプテスマを受けた者は皆、聖靈に満た
された。

18また、彼らの多くは、語つてはならない様々なるこ
とを見たり聞いたりした。今、それを書き記すこ
とは許されていない。

19また彼らは、互いに教え、互いに仕合つた。そ
して、彼らはすべてのものを共有し、皆、互いに公
正に振る舞つた。

20そして彼らは、イエスから命じられたとおりに
すべてのことを行つた。

21そして、イエスの名によつてバプテスマを受け

第 27 章

イエス、御自分の名によつて教会を呼ぶよう命じられる。イエスの使命と贖いの犠牲がイエスの福音を構成する。人々は聖靈によつて聖められるために、悔い改めてバプテスマを受けるよう命じられる。人はイエスのようにならなければならぬ。紀元約三十四年から三十年に至る。

1さて、イエスの弟子たちは旅をしながら、自分たちがそれまで聞いたり見たりしたこと宣べ伝え、イエスの名によつてバプテスマを施していた。また、弟子たちは集まり、一つになつて熱烈に祈り、断食をした。

2そして、彼らがイエスの名によつて御父に祈つてゐると、イエスが再び彼らに御自身を現された。イエスは来て彼らの中に立つと、「あなたがたはわたしから何を与えられたいのか」と彼らに言われた。

3そこで彼らはイエスに、「主よ、この教会をどの

1 ① 教義 29 : 6	21 ① GS ② GS 「断食」 GS 「イエス・キリストの教会」 GS 「奉獻、奉獻の死後の現れ」	19 ① GS ② GS 「イエス・キリスト」 GS 「奉獻、奉獻の死後の現れ」	17 ① GS ② GS 「マタ 11 : 13」 GS 「ニフ 1 : 4」 GS 「ニフ 26 : 13」 GS 「ニフ 1 : 1」 GS 「ニフ 11 : 1」 GS 「ニフ 1 : 13」
---------------	---	--	---

よくななで呼ぶべきか、わたしたちにお教えただ
きたいと存じます。この件について民の中に論争が
ござりますから」と言つた。

4すると主は、彼らに言われた。「まことに、まこ

とに、あなたがたに言う。民がこのことについてつ
ぶやき、論じ合うのはなぜか。

5彼らは、『キリストの名を受けなければならな
い』という聖文を読んだことがないのか。キリスト
とはわたしの名である。終わりの日にあなたがた

は、この名によつて呼ばれるのである。
6わたしの名を受け、最後まで堪え忍ぶ者は、終お

わりの日に救われるであろう。

7だから、あなたがたが行うことは何事でも、わ
たしの名によつて行いなさい。あなたがたは教会
をわたしの名で呼びなさい。また、父がわたしのた
めに教会を祝福してくださるように、わたしの名
によつて父に呼び求めなさい。

8わたしの名で呼ばれなければ、どうしてわたし
の教会でありますか。ある教会がモーセの名で呼ば
れれば、それはモーセの教会である。あるいは、
ある人の名で呼ばれば、それはその人の教会で

ある。しかし、わたしの名で呼ばれ、人々がわたし
の福音の上に築かれていれば、それはわたしの教会
である。

9まことに、あなたがたに言う。あなたがたはわ
たしの福音の上に築かれている。だから、あなた
がたが呼ぶものは何であろうと、わたしの名によつ
て呼びなさい。あなたがたが教会のために、わた
しの名によつて父に呼び求めるならば、父はあなた
がたの祈りを聞いてくださる。

10また、教会がわたしの福音の上に築かれていれ
ば、父は教会の中で御自分の業を示されるであろ
う。

11しかし、教会がわたしの福音の上に築かれでお
らず、人の業の上に、あるいは悪魔の業の上に築か
れていれば、まことにあなたがたに言う、彼らはし
ばらくの間は自分たちの業を楽しむが、やがて最後
が来て、彼らは切り倒されて火の中に投げ込まれ
れ、そこから二度と戻ることができない。

12彼らの業は彼らにつき従い、彼らはその業のた
めに切り倒される。だから、わたしがあなたがた
に告げたことを覚えておきなさい。

13 見よ、わたしはあなたがたに、わたしの福音に
ついて告げた。わたしがあなたがたに告げた福音とは、次のとおりである。すなわち、父がわたしを遣わされたので、わたしは父の御心を行なうために世に来た。

14 父は、わたしが十字架に上げられるようにと、わたしを遣わされた。十字架に上げられた後で、わたしはすべての人をわたしのもとに引き寄せた。わたしは人々によつて上げられたが、そのように人々は、父によつて上げられてわたしの前に立ち、自分の行いが善いか悪いかによつて、行いを裁かれるのである。

15 このために、わたしは上げられたのである。それで、父の力によつてすべての人をわたしのもとに引き寄せ、彼らが人々の行いに応じて裁かれるようになるのである。

16 さて、悔い改めて、わたしの名によつてバプテスマを受ける者はだれであろうと、満たされるであろう。そして、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、わたしはその者を、わたしが立つて世の人々を裁くその日に、わたしの父の御前で罪のない者

としよう。

17 また、最後まで堪え忍ばない者は、切り倒され火の中に投げ込まれ、父の正義のゆえに、そこから二度と戻ることができない。

18 これは父が人の子らに告げられた御言葉である。父は御自分の正義のゆえに、御自分が告げられた御言葉をことごとく成就される。父は偽らず、御自分の御言葉をことごとく成就される。

19 清くない者は、決して父の王国に入ることができない。したがつて、信仰を持ち、罪をすべて悔い改め、最後まで忠実であることによつて、わたしの血により衣を洗われた者のほかには、父の安息に入る者はいない。

20 さて、戒めは次のとおりである。地の果てに至るすべての者よ、悔い改めて、わたしのもとに来て、わたしの名によつてバプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖靈を受けて聖められ、終わりの日にわたしの前に染みのない状態で立てるであろう。

21 まことに、まことに、あなたがたに言う。以上がわたしの福音である。あなたがたは、わたしの

教義 76 · 40 · 42

モセ 6 · 38 · 39
ニフ 11 · 32 · 33
ヨハ 5 · 44

ト 1 · 2 GS GS GS
ト 1 · 2 GS GS GS
モセ 6 · 55

教義 27 · 2 GS GS GS
モセ 6 · 37 · 37
ニフ 11 · 37

ト 1 · 2 GS GS GS
モセ 6 · 37 · 37
ニフ 11 · 37

ト 1 · 2 GS GS GS
モセ 6 · 37 · 37
ニフ 11 · 37

ト 1 · 2 GS GS GS
モセ 6 · 37 · 37
ニフ 11 · 37

ト 1 · 2 GS GS GS
モセ 6 · 37 · 37
ニフ 11 · 37

ト 1 · 2 GS GS GS
モセ 6 · 37 · 37
ニフ 11 · 37

ト 1 · 2 GS GS GS
モセ 6 · 37 · 37
ニフ 11 · 37

ト 1 · 2 GS GS GS
モセ 6 · 37 · 37
ニフ 11 · 37

ト 1 · 2 GS GS GS
モセ 6 · 37 · 37
ニフ 11 · 37

ト 1 · 2 GS GS GS
モセ 6 · 37 · 37
ニフ 11 · 37

ト 1 · 2 GS GS GS
モセ 6 · 37 · 37
ニフ 11 · 37

ト 1 · 2 GS GS GS
モセ 6 · 37 · 37
ニフ 11 · 37

ト 1 · 2 GS GS GS
モセ 6 · 37 · 37
ニフ 11 · 37

ト 1 · 2 GS GS GS
モセ 6 · 37 · 37
ニフ 11 · 37

ト 1 · 2 GS GS GS
モセ 6 · 37 · 37
ニフ 11 · 37

ト 1 · 2 GS GS GS
モセ 6 · 37 · 37
ニフ 11 · 37

ト 1 · 2 GS GS GS
モセ 6 · 37 · 37
ニフ 11 · 37

ト 1 · 2 GS GS GS
モセ 6 · 37 · 37
ニフ 11 · 37

ト 1 · 2 GS GS GS
モセ 6 · 37 · 37
ニフ 11 · 37

ト 1 · 2 GS GS GS
モセ 6 · 37 · 37
ニフ 11 · 37

教会で行わなければならぬことを知つてゐる。

わたしがするのを見たその行いを、あなたがたもし

なさい。わたしが行うのを見たそのとおりのこと

を、あなたがたも行いなさい。

22 あなたがたは、これらのことを行なならば、幸いである。終わりの日に高く上げられるからであります。

23 あなたがたが見たこと、聞いたことを、禁じられてゐるものを見てすべて書き記しなさい。

24 これまで書き記されてきたように、これからもこの民の行いを書き記しなさい。

25 見よ、これまで書き記されてきた数々の書と、これから書き記される数々の書によつて、この民は裁かれるであろう。これらの書によつて彼らの行いが人々に知られるからである。

26 また見よ、すべてのことは父によつて書き記されている。したがつて、これから書き記される数々の書によつて、世の人々は裁かれるであろう。

27 あなたがたが知つてゐるように、将来あなたがたは、わたしがあなたがたに与える公正な判断力によつて、この民を裁く者となるであろう。し

たがつて、あなたがたはどのようない人物であるべきか。まことに、あなたがたに言ふ。わたしのようでなければならない。

28 さて、わたしは父のみもとに行くが、まことに、あなたがたに言つておく。あなたがたがわたしの名によつて父に求めるものは何であろうと、あなたがたに与えられる。

29 だから、求めなさい。そうすれば与えられるであろう。たたきなさい。そうすれば開かれるであろう。求める者には与えられ、たたく者には開かれるからである。

30 さて見よ、あなたがたとこの時代の人々についてのわたしの喜びは、大きくて限りがない。また父も、あなたがたとこの時代の人々のことを喜んでおられ、すべての聖なる天使たちも喜んでいる。だれ一人、失われていないからである。

31 見よ、あなたがたに理解してもらいたい。わたしが言つているのは、今この時代に生きている人々のことである。彼らはだれ一人、失われていなさい。そして、彼らのことでわたしは満ちみちる喜びを得てゐる。

31	30	29	28	27	26	25
③	②	①	①	①	①	①
GS	3	3	3	モル	モ言	モ言
「喜び」	12	12	12	3	2	2
28	23	14	7	19	11	11
		9	11	24	15	26
		12	17	32	33	33
		13	17	48	10	15

32 しかし見よ、この時代から四代目の人々について
て、わたしは悲しむ。彼らは滅びの子が捕らえられ
たように、悪魔に捕らえられるからである。彼らは

銀や金、また虫のつくものや盜人が押し入つて盜
むもののためにわたしを売るであろう。その日、わ
たしは彼らに報いを下し、彼らの業を彼ら自身の

頭上に浴びせよう。」

33 さて、イエスはこれらの御言葉を語り終える
と、弟子たちに言われた。「狭い門から入りなさ
い。命に至る門は狭く、その道は細い。そして、そ
れを見いだす者が少ない。しかし、死に至る門は広
く、その道も広い。そして、だれも働くことのでき
ない夜が来るまで、そこから入つて行く者が多い。」

1 さて、イエスはこれらの御言葉を語り終える
と、御自分の弟子たち一人一人に、「わたしが父の
みもとに行つた後、あなたがたはわたしに何を願
うか」と言られた。

2 すると弟子たちは、三人を除いて皆、「わたした
ちは人の寿命まで生き長らえたら、あなたから召
されたわたしたちの務めを終え、速やかにあなたの
の王国であなたのみもとに行けるように願つてい
ます」と答えた。

3 そこで、イエスは彼らに、「あなたがたは、わた
しにこのことを願つたので、幸いである。あなた
がたは七十二歳になると、わたしの王国でわたし
のもとに来て、わたしとともに安息を得るであろ
う」と言られた。

4 イエスは彼らに語り終えると、三人の方を向
き、「わたしは父のみもとに行つたら、あなたがた
はわたしに何をしてもらいたいか」と言られた。

る。紀元約三十四年から三十五年に至る。

第28章
十二弟子のうち九人は、死後にキリストの王国で受け
継ぎを得ることを望み、そのことを約束される。三人の
二ーファイ人は、イエスが再び来られるときまで地上に
とどまることを望み、とどまるために死を制する力を与
えられる。彼らは身を変えられ、語るのを許されていな
い数々のことを見る。彼らが現在も人々の中で仕えてい

3 ① GS 「安息」	33 ① マタ 14:13 3 ② マタ 13:7 ニフ 14:13 アル 45:10 ニフ 13:6 26 19 12 21 9 10
第28章 教義22章	

く思つていた。

6 するとイエスは、彼らに言われた。「見よ、わたしはあなたがたの思ひを知つてゐる。あなたがたは、愛するヨハネがわたしに願つたことを願つてゐる。ヨハネとは、わたしがユダヤ人によつて上げられる前に、わたしとともに務めに携わつていた者である。

7 したがつて、あなたがたはさらに幸いである。あなたがたは決して死を味わうことがない。わたしが天の力をもつてわたしの栄光のうちに来るときまで、すなはち父の御心のとおりにすべてのことが成就するそのときまで、あなたがたは生き長らえて、父が人の子らのために行われるすべてのことを見るであろう。

8 また、あなたがたは決して死の苦しみを受けることなく、わたしがわたしの栄光のうちに来るとき、一瞬のうちに死すべき状態から不死の状態に変えられる。その後、あなたがたは父の王国で祝福を受けれるであろう。

9 またあなたがたは、肉体に宿つてゐる間、苦しみを感じることなく、また世の罪に対する以外に福音を感じることなく、

悲しみを感じることもない。わたしがすべてこのように行うのは、あなたがたがわたしに願つたためである。あなたがたは世界が存在する間、人々をわたしのもとに導きたいと願つたからである。

10 このために、あなたがたは満ちみちる喜びを得、父の王国で座に着くであろう。父が満ちみちる喜びをわたしに与えてくださったように、まことに、あなたがたの喜びは満ちるであろう。そして、あなたがたはわたしのようになる。わたしは父のようであり、父とわたしは一つである。

11 聖靈は父とわたしのことを証する。そして父は、わたしのゆえに人の子らに聖靈を与える。』

12 さて、イエスはこれらの御葉を語り終ると、とどまるところになつた三人を除いて、ほかの全員に一人一人指で触れ、その後去つて行かれた。

13 すると見よ、天が開かれ、三人の者は天に引き上げられて、言い表すことのできない様々なことを見聞きした。

14 彼らはそれらのことについて語るのを禁じられ、また見聞きしたことについて語る力も与えられなかつた。

14	13	11	10	9	8	7
①	③	②	①	②	GS	①
教義	3	2	ヨハ	3	28	アル
76	2	ニフ	17	ニフ	20	モハ
114	32	20	36	5	40	12
116	2	23	38	6	11	17
4	31	17	24	23	10	14
	21		24	22	11	23

15 それが体のままであつたか、体を離れてであつたか、彼らには分からなかつた。彼らには、神のものを見ることができるように、自分たちがこの肉の体から不死の状態に変えられ、変貌したようと思われたからである。

16 さて、彼らは再び地の面で教えを説いたが、天で与えられた戒めがあつたので、自分たちが見聞きしたことについては教えなかつた。

17 ところで、彼らが変貌した日以来、死すべき状態にあつたのか不死の状態にあつたのか、わたしは知らない。

18 しかし、これまで記されてきた記録によつてわたくしが知つてゐることは次のとおりである。すなわち、彼らは地の面に出て行き、すべての民に仕え、彼らの説き教えたことを信じる者を皆、教会に加わえた。彼らにバプテスマを施したのである。そして牢に入れられた。しかし、牢は二つに裂け、彼らを閉じ込めておくことができなかつた。

20 また彼らは、地の中に投げ込まれた。しかし彼らは、

らは、神の言葉で地を打つたので、神の力によつて地の深みから救い出された。そのため人々は、彼らを閉じ込めておけるほどの穴を掘ることはできなかつた。

21 また、彼らは三度、炉の中に投げ込まれたが、何の害も受けなかつた。

22 また二度、猛獸の穴の中に投げ込まれたが、見よ、子供が乳離れしていらない子羊と遊ぶように猛獸たちと戯れ、何の害も受けなかつた。

23 そして、彼らはすべてのニーファイの民の中に出て行つて、地の面のすべての人々に、キリストの福音を宣べ伝えた。すると人々は、主に帰依し、キリストの教会に加わつた。このようにも、その時代の人々はイエスの言葉のとおりに祝福を受けた。

24 さて、わたしモルモンは、これらのことについて述べるのを少しの間やめよう。

25 見よ、わたしは、決して死を味わうことのない人々の名を書き記そうとしたが、主から禁じられた。したがつて、その名が世から隠されているので、わたしはそれを書き記さない。

26 しかし見よ、わたしはかつて彼らに会い、彼ら

はわたしを教え導いてくれた。
 27 見よ、彼らは将来異邦人の中に行くが、異邦人
 は彼らに気づかないであろう。
 28 彼らはユダヤ人の中にも行くが、ユダヤ人も彼ら
 らに気づかないであろう。

29 そして、主が御自分の知恵でふさわしいと見な
 されるとき、彼らは自分たちの望みが果たされる
 ように、また彼らの内に神の説得力があるため
 に、イスラエルのすべての散らされた部族、およ
 びすべての国民、部族、国語の民、民族に仕え、
 彼らの中から多くの人をイエスのもとに導くであ
 ろう。

30 彼らは神の天使のようであり、イエスの名によ
 つて御父に祈るならば、彼らはふさわしいと思う人
 にはだれにでも、自分自身を現すことができる。
 31 それであるから、大いなる来るべき日の前に、
 大いなる驚くべき業が彼らによつて行わるので、
 すべての人は、必ずキリストの裁きの座の前に立た
 なければならない。

32 まことに、あの裁きの日に先立て、異邦人の
 中で一つの大いなる驚くべき業が彼らによつて行
 なればならない。

33 あなたがたは、キリストの驚くべき業の一切を
 記しているすべての聖文を持つてゐるならば、キリストの言葉のとおりに、これらのことが必ず起ころう。

34 イエスの言葉と、イエスが選んで民の中に遣わされた人々の言葉に聞き従わない者は、災いである。イエスの言葉と、イエスが遣わされた人々の言葉を受け入れない者は、イエスをも受け入れないからである。イエスは終わりの日に、彼らを受け入れることはなさらないのである。

35 彼らは生まれない方が、彼らのためによかつた
 であろう。あなたがたは不当な扱いを受けた神の正義から逃れることができるとと思うか。神はかつて人々に足の下に踏みつけられ、そのためには救いがもたらされたのではなかつたか。

36 さて見よ、わたしは主が選ばれた人々、すなわち天に引き上げられた三人について、死すべき状態から不死の状態に清められたかどうか知らないと前に述べたが、

37 しかし見よ、わたしはそう書き記した後、主に

29 ① GS 「イスラエル」
 ② GS 「イスラエルの散乱」
 ③ GS 「天使」
 ④ GS 「預言者」
 34 32 31 30 3 二二
 ① ② ① ① ① 二二
 ヒテ「預言者」
 ラ 12 4 2 二二
 ヒテ「預言者」
 ラ 12 4 2 二二
 12 8 17
 12 12 25 4 5

尋ねた。すると主はわたしに、ある変化が彼らの体に生じなければならぬ、そうでなければ、彼らは必ず死を味わうということを明らかにしてくださつた。

38 彼らが死を味わないよう、ある変化が彼らの体に生じ、彼らは世の罪に対する以外に苦しみも悲しみも受けないようにになったのである。

39 ところで、この変化は終わりの日に起る変化と同様のものではなかつたが、彼らに変化が生じたので、サタンは彼らを支配する力をまつたく持てず、彼らを誘惑できなかつた。そして、彼らは肉にあつて聖められ、聖なる者となり、地の力も彼らを閉じ込めておくことができなかつた。

40 この状態で、彼らはキリストの裁きの日までどどまることになつた。そして、その日、彼らはさらにおおきな変化を受けて、御父の王国に受け入れられ、二度とそこを去ることがなく、永遠に神とともに天に住むことになるのである。

第29章
「モルモン書」が出ることは、主がイスラエルを集あ

め、御自分の聖約を果たし始められたことのしんである。末日の主の啓示と賜物を抱む者はのろわれる。紀元約三十四年から三十五年に至る。

1さて見よ、わたしはあなたがたに言う。主が御自分の知恵で、これらの御言葉を御自分の言葉のとおりに異邦人に明らかにするのがふさわしいと見なされるときには、あなたがたは、御父がイスラエルの子らと交わされた聖約、すなわち彼らが自分たちの受け継ぎの地へ回復されることについての聖約が、すでに果たされ始めていることを知るであろう。

2また、聖なる預言者たちによつて述べられた主の言葉がすべて成就するということも、あなたがたは知るであろう。あなたがたは、主がイスラエルの子らのもとに来るのを遅らせておられると言つてはならない。

3またあなたがたは、述べられてきた御言葉がむなしいと、心の中で思つてはならない。見よ、主は、イスラエルの家に属する御自分の民に立てられ、御自分の聖約を思い起こされるからである。

2 ①②モルカ
12 5 14 45 18 20 3 8

第29章

39 38 ①②③④人GS GS GS GS
「身を変えられ
「誘惑」
「聖め」
「聖さ、聖く」

4 あなたがたは、これらの御言葉があなたがたのなかで事実となるのを見るときには、主の行われることを、もはやはねつけてはならない。主の罰の剣は主の右手にあり、見よ、その日、あなたがたが主の行わることをはねつけるならば、主はその剣をすぐにあるたがたに下さるであろう。

5 主の行わることをはねつける者は、災いである。まことに、キリストとキリストの業を行わる者は、災いである。

6 まことに、主の啓示を否定し、主はもはや啓示や預言、賜物、異言、癒し、聖霊の力によつて業を行わることはないと言う者は、災いである。

7 またその日、利益を得るために、イエス・キリストによつて行われる奇跡などないと言う者は、災いである。このように言う者は、キリストの言葉のとおりに、まったく憐れみを受けなかつた滅びの子のようになるからである。

8 そして、あなたがたは、もはやユダヤ人についても、イスラエルの家のどの残りの者についても、あざけつたり、はねつけたり、嘲笑したりしてはならない。見よ、主は彼らに対する聖約を思い起

中で事実となるのを見るときに、主の行われることを、もはやはねつけてはならない。主の罰の剣は主の右手にあり、見よ、その日、あなたがたが主の行わることをはねつけるならば、主はその剣をすぐにあるたがたに下さるであろう。

5 主の行わることをはねつける者は、災いである。まことに、キリストとキリストの業を行わる者は、災いである。

6 まことに、主の啓示を否定し、主はもはや啓示や預言、賜物、異言、癒し、聖霊の力によつて業を行わることはないと言う者は、災いである。

7 またその日、利益を得るために、イエス・キリストによつて行われる奇跡などないと言う者は、災いである。このように言う者は、キリストの言葉のとおりに、まったく憐れみを受けなかつた滅びの子のようになるからである。

8 そして、あなたがたは、もはやユダヤ人についても、イスラエルの家のどの残りの者についても、あざけつたり、はねつけたり、嘲笑したりしてはならない。見よ、主は彼らに対する聖約を思い起

こし、誓われたことをそのとおりに彼らに行われる。
9 それであるから、あなたがたは、主がイスラエルの家に立てられた聖約を果たすための裁きを行えないように、あなたがたの手で主の右手を左手に変えることができると思つてはならない。

第30章

末日の異邦人は、悔い改め、キリストのもとに来て、イスラエルの家とともに数えられるよう命じられている。紀元前三十四年から三十五年に至る。

1 聴きなさい、おお、あなたがた異邦人よ。生ける神の御子イエス・キリストの言葉、すなわち、イエス・キリストがあなたがたについて述べるようにとわたしに命じられた御言葉に耳を傾けなさい。そのため見よ、イエス・キリストは、次の御言葉を書き記すようにわたしに命じられた。

2 「あなたがたすべての異邦人よ、あなたがたの悪い道を離れない。あなたの悪事、偽り、欺き、みだらな行い、秘密の忌まわしい行い、偶像礼拝、殺人、偽善、売教、ねたみ、争い、あらゆる悪事と

2 1 ①	8 ③ ② ① ③	7 ② ① ② ① ③ ②	5 エ ① ② ①
GS 3 「異邦人」	GS 5 「ユダヤ人」	GS 10 「偽善者」	GS 20 「正義」
12 —	9 —	28 —	8 —
13	14 —	32 —	17 —
	4 —	15 —	20 —
	5 —	16 —	15 —

忌まわしい行いを悔い改め、わたしのもとに来て、わたしの名によつてバプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは罪の赦しを受け、

聖靈に満たされて、イスラエルの家に属するわたしの民とともに数えられるであろう。」

ア 22 3 2 (3) 2
ブ 25 二ニガ GS
2 25 フラ 「悔い改め」
10 16 10 3
10 18 27
13 19 29
21

第四ニーファイ ニーファイの書

このニーファイは、イエス・キリストの弟子の一人であつたニーファイの息子である

ニーファイの記録によるニーファイの民の話。

ニーファイ人とレーマン人は皆、主に帰依する。すべてのものを共有し、数々の奇跡を行ひ、地で榮える。二世紀後、分裂と惡、偽りの教会、迫害が起ころ。三百年後、ニーファイ人もレーマン人もともに悪くなる。アマロン、神聖な記録を隠す。紀元約三十五年から三百二十一年に至る。

さて、第三十四年が過ぎ去り、第三十五年も過ぎ去つて、見よ、イエスの弟子たちは周囲の全地でキリストの教会を設立した。そして、彼らのところ

4さて、第三十七年も過ぎ去り、地は依然として引き続き平和であつた。
5そして、イエスの弟子たちは大いなる驚くべき業を行ひ、病氣の者を癒し、死者をよみがえらせ、足の不自由な者を歩けるようにし、目の見えない者を見るようにして、耳の聞こえない者を聞こえるようになつた。また彼らは、人の子らの中で様々な奇跡を行つた。しかし、イエスの名のほかには、どのような名でも奇跡を行わなかつた。

6このようにして、第三十八年が過ぎ去り、また第三十九年、第四十一年、第四十二年、そして第四十

に来て、罪を心から悔い改めた者は皆、イエスの名によつてバブテスマを受け、また聖靈を受けた。

第四ニーファイ
第1章

3 ①使徒 4、32、
3 二ノ26、19、
GS ② GS 「奉獻、奉獻の律法」
ヨハ 14、12、「奇跡」

九年も過ぎ去り、また第五十一年、第五十二年、さらに第五十九年も過ぎた。
7主は民を地上で非常に榮えさせられたので、まことに、彼らは以前に焼けた町のあつた所に再び町を築いた。
8まことに、あの大きな町ゼラヘムラさえも復興した。
9しかし、沈められ、水に覆われた町も多く、これらの町は再建することができなかつた。
10さて見よ、ニーファイの民は力をつけ、急速に増え、非常に麗しくてしばしい民になつた。
11彼らはめとり、嫁ぎ、主が彼らに立てられた多くの約束のとおりに祝福された。
12また彼らは、もはやモーセの律法の勤めと儀式を守ることなく、自分たちの主、自分たちの神から受けた戒めに従つて歩み、断食と祈りを続け、また祈りをささげ、主の言葉を聞くためにしばしば集まつた。
13そして、全地すべての民の中にまつたく争いがなく、イエスの弟子たちの中で数々の大奇跡がおこなわれた。跡が行われた。

さて、だい七十七一年が過ぎ、だい七十二年も過ぎ、ようするに第七十九年まで過ぎ去つた。また、第一百年も過ぎ去つた。そして、イエスが選ばれた弟子たちは、どどまることになつていて三人を除いて、全員がすでに神のパラダイスへ行き、彼らに代わつてほかの弟子たちが聖任された。また、その世代の多くの人もすでに世を去つた。

そして、民の心の中に宿つていた神の愛のためには、地の面にはまったく争いがなかつた。

また、ねたみや紛争、騒動みだらな行い、偽善などもなく、どのような好色もなく、神の手によって造られたすべての人の中で、彼ら以上に幸せな民たみは確かにあり得なかつた。

強盗も人殺しもおらず、レーマン人とか何々人とか言われる者もなく、彼らは一つであり、キリストの子であり、神の王国を受け継ぐ者であつた。

このように、彼らは何と祝福されていたことか。主が彼らの行うすべてのことについて彼らを祝福されたからである。第一百十年が過ぎ去るまで、彼らは祝福されて栄えた。そして、キリストからの最初の世代の人々が世を去つたが、全地に

少しも争いがなかつた。

19さて、ここまで記録を記したニーファイ（彼はそれをニーファイの版に記した）が死に、彼の息子アモスが代わつて書き継いだ。そして、アモスもニーファイの版に記した。

20彼は八十四年間記録を書き継ぎ、その地は依然として平和であった。ただ教会から背いて、自らレーマン人と名乗つた者たちが少數いただけである。このために再びこの地にレーマン人が存在することになつた。

21さて、アモスも死んで（それはキリストの来臨から数えて百九十四年目のことであつた）、彼の息子アモスが彼に代わつて記録を書き継いだ。息子のアモスもまた、ニーファイの版に書き記した。その記録はニーファイの書、すなわちこの書にも書き記されている。

22さて、二百年が過ぎ去り、第一世代の人々は、わずかな人々を除いてすべて世を去つた。23さて、わたしモルモンがあなたがたに知つてもらいたいのは、民が増えて地の全面に広がり、リストにあつて栄えたために非常に豊かになつた。

ということである。

24ところが、この第二百一年には、高価な衣服を着て、あらゆる見事な真珠と世の美しいものを身に着けるなどして、高慢になつた者たちが彼らの中に現れ始めた。

25そのときから、彼らはもはや自分たちの所有物と持ち物を共有しなくなつた。

26そして、彼らは階級に分かれ始めた。また、彼らは利益を得ようとして自分自身のためにはじめに教会を築き始め、キリストのまことの教会を否定するようになつた。

27さて、第二百十年が過ぎたとき、國中に多くの教会があつた。すなわち、キリストを知つてゐると公言する教会がたくさんあつた。それらの教会はキリスト福音の大半を否定し、あらゆる悪を受け入れ、また神聖なものを、ふざわしくないので与えてはならないと禁じられた者にまで与えた。

28この教会は罪惡のために、また彼らの心を捕らえたサタンの力のために、非常に人数が増えた。さらに、ほかにキリストを否定する教会もあつた。彼らはキリストのまことの教会の人々が謙遜

26 25 24 19
① ② ③ GS ④ ⑤ ⑥ ⑦ GS GS GS
「版」
教義 10 56、3
「高慢」
「偽善先教」
1 ニフ 22 23、
2 ニフ 28 3、
モル 32 38
モル 8 32
「背教」
「背信」
1 ニフ 18 28
「惡魔」
「惡魔の」
2 ニフ 29
「惡魔」
「惡魔の」

27
教会
GS
「惡魔」
「惡魔の」

で、キリストを信じていたために、これらの人々を害した。また、これらの人の中でも多くの奇跡が行われたために、彼らはこれらの人にさげすんだ。

30 そして彼らは、自分たちとともにいたイエスの弟子たちに権力と権威を振るい、イエスの弟子たちを牢に入れた。しかし、イエスの弟子たちの内にある神の言葉の力によつて牢は二つに裂け、弟子たちは出て来て人々の中で大きな奇跡を行つた。

31 にもかかわらず、またこれらのすべての奇跡にものとおりに殺そうとしたように、イエスの弟子たちを殺そうとした。

32 そして彼らは、イエスの弟子たちを猛獸の穴の中に投げ込んだが、弟子たちは子供が羊と遊ぶように猛獸たちと戯れ、何の害も受けずに猛獸たちの中から出て来た。

33 彼らはまた、イエスの弟子たちを猛獸の穴の中にもう一度投げ込んだが、弟子たちは子供が羊と遊ぶように猛獸たちと戯れ、何の害も受けずに猛獸たちの中から出て来た。

34 それでも、民は多くの教会を築き、様々な罪悪の中から出て来た。

おこな
おおく
さいし
にせよ
げんしや
ささき
わざと
はイエスの民を打つた。しかし、イエスの民は打ち返さなかつた。このために彼らは、二百三十年が過ぎるまでには、年々、次第に不信仰になり、悪くおもいに陥つていつた。

35 そして、この年、すなわち第二百三十一年に、まことに、民の中に大きな分裂があつた。

36 そしてこの年に、ニーファイ人と呼ばれる民が起つた。この民はキリストのまことの信者であつた。また、この民の中にはレーマン人からヤコブ人、ヨセフ人、ゾーラム人と呼ばれた人々もいた。

37 そこで、キリストのまことの信者、またキリストのまことの礼拝者は（この世にとどまることになつて）いたイエスの三人の弟子たちもその中にいた、ニーフアイ人、ヤコブ人、ヨセフ人、ゾーラム人と呼ばれた。

38 そして、福音を受け入れなかつた者は、レーマン人、レムエル人、イシマエル人と呼ばれた。彼らは次第に不信仰に陥つたのではなく、故意にキリストの福音に背いたのである。そして、彼らの先

38	37	34	33	32	30	29
①モ	①教	①①	②①	①	①	①
ル	GS	8	3	98	3	3
ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ
「背	10	フ	23	フ	フ	フ
く」	11	12	28	28	3	フ
	27	12	28	28	26	迫害
	6	39	22	21	19	
	7			27		
					20	

祖がはじめから信仰が薄らいでいたように、彼らは自分の子供たちに信じてはならないと教えたのであつた。

39 それは、初めの時と同じように、彼らの先祖の悪事と忌まわしい行いのためであつた。レーマン人が初めからニーファイの子孫を憎むことを教えられたように、彼らも神の子たちを憎むように教えられたのである。

40 さて、すでに第二百四十四年が過ぎ去り、民の状況はこのようであつた。そして、民の中のひときわ悪い者たちが力をつけ、神の民よりもはるかに数が多くなつた。

41 彼らは依然として自分自身のために教会を築くことを続け、あらゆる貴重な品々で教会を飾つた。このようにして、第二百五十年が過ぎ去り、二百六十年も過ぎ去つた。

42 さて、民中の悪い者たちは再びガデアントンの秘密の誓いと結社を設け始めた。

43 また、ニーファイの民と呼ばれた民も、自分たちの非常に多くの富のために心の中で誇り、同胞であるレーマン人のように虚栄心が強くなり始めた。

44 このときから、弟子たちは世の罪を悲しむようになった。
45 さて、第三百年が過ぎると、ニーファイの民もレーマン人もともに、同じように非常に悪くなつていた。

46 そして、ガデアントンの強盗たちが地の全面に広がつており、イエスの弟子たちのほかには、義人は一人もいなかつた。ガデアントンの強盗たちは金と銀を豊かに蓄え、またあらゆる商品を交易していた。

47 さて、第三百五年が過ぎ去り（民は依然として悪い状態であり）、アモスが死んで、彼の兄弟アマロンが彼に代わつて記録を書き継いだ。

48 さて、第三百二十年が過ぎ、アマロンは聖靈に強く促されて、神聖な記録、言い換えれば、キリストの来臨から三百一十年まで代々伝えられてきたすべての神聖な記録を隠した。

49 彼はそれらの記録が主の預言と約束のとおりに、ヤコブの家の残りの者に再び伝えられるよう、それらの記録を主に託して隠したのである。これでアマロンの記録は終わる。

モルモン書

モルモン書

第1章

第1章

アマロン、神聖な数々の記録についてモルモンに指示を与える。ニーファイ人とレーマン人の間に戦争が始まることで、三人のニーファイ人、よそに連れ去られる。悪事と不信者が広がり、魔術と魔法が広く行われる。紀元約三百二十一年から三百二十六年に至る。

さて、わたしモルモンは、自分がこれまでに見聞きしたことを記録して、これをモルモン書と呼ぶ。
2 アマロンは数々の記録を主に託して隠したころ、わたしのところにやつて來た。(当時わたしは十歳くらいで、わたしの教育方法に従つてかなり教育を受け始めていた)。そして、アマロンはわたしに言つた。「わたしはあなたがまじめな子供で、観察が鋭いことを知つていて」。

3 だから、あなたが二十四歳くらいになつたら、この民についてあなたが見てきたことを思い出しても

4 見よ、あなたはニーファイの版を取り出し、残りの版は今それがある場所にそのままにしておきなさい。そして、この民についてあなたが見てきたことをすべてニーファイの版に刻みなさい。」
5 わたしモルモンはニーファイの子孫であり(わたしの父の名もモルモンであつた)、わたしはアーロンから命じられたことを思い出した。
6 さて、わたしは十一歳のとき、父に連れられて南方の地、ゼラヘムラへ行つた。
7 地の全面が建物でいっぱいであり、人々はまるで海の砂のようだ大勢であつた。
8 さてこの年に、ニーファイ人とヤコブ、ヨセフ、ゾーラム人から成るニーファイ人の間に戦争が始まった。この戦争は、ニーファイ人に對して、レーマン人とレムエル人とイシマエル人が戦つたものであつた。

1 ① GS	4 ③ ① ② ②	2 ① ② ③ ④ ⑤
ニーファイ人の預言者	モサ 1 : 3 5	エテ 9 : 3 11
「版」	12,	47 11 49 18
3 ニフ	5,	
20		

マエル人じんはレーマン人じんと呼ばれていたので、この戦たたかひいはニーファイ人じんとレーマン人じんとの間あいだで行われたものであつた。

10さて、その戦争は、シドンの水のそばにあるゼラヘムラの境で始まつた。
11そしてニーファイ人は、三万人を越える大勢の兵を集めていった。この年に彼らは何度も戦い、二レファイ人はレーマン人を打ち負かして、多くのものを殺した。

和になつた。そして、およそ四年間平和が続づき、

まつたく流血がなかつた。
しかし、悪事が全地の面に広がつたので、主は御心
自分の愛する弟子たちをよそに連れ去つてしまわ
れた。そして、民の罪惡のために、奇跡と癒しの
業はやんだ。

14 また、民の悪事と不信仰のために、主から何の
賜物も与えられず、聖靈はだれにも降られなか
つた。

15わたしは十五歳で、多少まじめな心の持ち主であったので、主の訪れを受け、イエスの慈しみを味わつたのである。

つて知しつた。

そこで、わたしはこの民たみに教えを説こうとしたが、わたしの口くちは閉じられ、彼らかれらに教えを説くことを禁きんじられた。見みよ、彼らかれらが神かみに故意こいに背そむいたか

らである。また、愛された弟子たちは、民の罪悪のためにその地からよそに連れ去られてしまった。

しかし、わたしは民の中に残つた。それでも、彼らの心がかたくなであつたので、彼らに教えを説くことは禁じられた。そして、彼らがかたくなであつたので、地は彼らのために^①のろわれた。

18 また、レーマン人の中にいたガテアントンの強盗たちが、この地を荒らしまわったので、この地に住む者たちは、自分たちの宝を地中に隠すようになつた。ところが、主がすでに地をのろつておられたので、彼らの宝はなくなりやすくなつてしまい、彼らはそれらの宝を保つことも、再び所有することもできなくなつた。

19 そして、魔術と魔法と呪術が行われ、悪しき者の力が地の全面に働いて、まことにアビナダイのことばは葉とレーマン人のサムエルの言葉がすべて事実となつたのであつた。

第2章

モルモン、ニーファイ人の軍隊を率いる。流血と虐殺が地に広がる。ニーファイ人、罰の定めを受ける者の苦しみを思い、嘆き悲しむ。ニーファイ人のための猶予の日は過ぎ去る。モルモン、ニーファイの版を取り出す。戦争が続く。紀元約三百二十七年から三百五十年に至る。

をした。わたしたちは力の限りその町の防備を固めた。しかし、わたしたちは防備を固めたにもかかわらず、レーマン人に攻められ、その町から追い出された。

5 わたしたちはまた、
も 追い出された。
彼らによつてダビデの地から
かれ

さて、その同じ年に、二ーフアイ人じんとレーマン人じん

の間で再び戦争が始まった。そして、わたしは若かつたにもかかわらず、身の丈たけが高かつたので、二ーフアイの民みんはわたしを彼らの指揮官に、すなわかれくさんくさんの意い旨しをもつて、

2 そこでわたしは、十六歳になる年に、ニーファイ

た。当とうじ時にすでに三百一十六ねんが過ぎ去つていた。

きな力で攻めて来たので、わたしの軍隊は彼らにおきからせんたかきたかうニナシ、彼の地一方二面かつて暴君

4 そして、わたしたちはアンゴラの町に着いて、その町を占領し、レーマン人に対して自衛する準備する。

5 わたしたちはまた、彼らによつてダビデの地から
も追い出された。
6 そこで、わたしたちは軍隊を進め、海岸に近い
西の境にあるヨシュアの地上に着いた。
7 そしてわたしたちは、自分たちの民を一団として
集めることができるように、可能なかぎり速やかに
民を集めた。

しかし見よ、地には強盜とレーマン人が満ちてい
た。また、ひどい滅ぼしがわたしの民に迫つていたに
もかかわらず、わたしの民は、自分たちの邪悪な行
いを悔い改めなかつた。そのために、地の全面で二
レフアイ人とレーマン人の双方に流血と虐殺が広
がつた。それは地の全面に広がつた一つの完全な変
革であつた。

さて、レーマンには王がおり、その名をアロン
といった。彼は四万四千人の軍隊を伴つて、わた
したちを攻めてきた。そこで見よ、わたしは、四万

二千人にんで彼らかれらに立ち向むけかつた。そして、自分の軍隊ぐんたいで彼かれを打ち負ひかし、彼かれはわたしの前まえから逃おげ出だした。見みよ、そのようなことがあつて、三百三十年さんねんが過ぎすぎていつた。

10 さて、ニーファイアは自分たちの罪悪を悔いあらためるようになり、預言者サムエルによつて預言されたように叫び始めた。その地に盜人と強盗と人殺しがおり、また呪術と魔法が行わられていて、見つけたりながらである。

11 その結果、これらのことのために全地に嘆きとなげかな悲しみが起つた。しかも、特にニーファイアの民の中でそれがひどかつた。

さて、わたしモルモンは、彼らの悲しみと嘆きと、主の前での彼らの悲嘆ぶりを見ると、心の中で喜び始めた。わたしは主の憐れみと寛容を知つていたので、主が彼らに憐れみをかけてくださり、彼らが再び義にかなつた民になるであろうと思つたからである。

そこで、わたしの悲しみが再び戻ってきた。わたしは、彼らのための猶予の日が、この世的にも靈的にも過ぎ去つてしまつたことを知つたのである。わたしの民が、何千人も自分たちの神に公然と背いた状態で切り倒され、糞のように地の面に積み上げられているのを見たからである。このようにして、三百四十四年が過ぎ去つた。

さて、ニーフアイ人は第三百四十五年にレーマンの前から逃げ始め、追撃されて、とうとうジエショーンの地に至つた。レーマン人は、退却しているニーフアイ人をその地まで止めることができなかつた。

めに至るものではなかつた。それはむしろ、彼らに罪のある今まで幸福になるのを主がいつでも許そうとなさらないことにに対する悲しみであり、定めを受ける者の悲しみと同じであつた。14彼らは、打ち砕かれた心と悔いる靈をもつてイエスのもとに來ることをせずに、神をのろい、死ぬことを願つた。それでも彼らは、自分の命を守るた

して数々の記録を隠して損なわれないようにした地の近くにあった。そこで見よ、わたしは、アマロンの言葉のとおりに行つてニーファイの版を取り出し、アマロンの言葉に従つて記録した。

18 わたしはニーファイの版に、あらゆる悪事と忌まわしい行いを残らず記録した。しかし、この版に彼らのあらゆる悪事と忌まわしい行いを残らず記録することは控えた。それは見よ、わたしが人の道を十分に見られるようになつて以来、いつも悪事と忌まわしい行いがわたしの目の前に絶えなかつたからである。

19 彼らの悪事のためにわたしは悲しい。彼らの悪事のために、わたしの心は日々いつも悲しみに満たされてきた。それでも、わたしは自分が終わりの日に高く上げられることを知つている。

20 さてこの年に、ニーファイ人は再び狩り出され、追われた。そして、わたしたちは北方へ、セムと呼ばれる地に着くまで追立てられた。

21 そしてわたしたちは、セムの町の防備を固め、わたしたちの民を滅亡から救えるように、できるだけ大勢民を集めた。

22 さて、第三百四十六年に、レーマン人は再びわたしたちを攻め始めた。

23 そこでわたしは、自分の民に語り、レーマン人の前に断固として立ちはだかつて自分たちの妻子と家と家庭を守るために戦うように、大いに力を込めと彼らに勧めた。

24 すると彼らは、わたしの言葉で多少奮い立つたので、レーマン人の前から逃げることなく、勇ましく彼らに立ち向かつた。

25 そしてわたしたちは、三万人の軍隊で五万人の軍隊と戦い、彼らがわたしたちの前から逃げ出すほどにしつかりと彼らの前に立ちはだかつた。

26 そして、彼らが逃げ出すと、わたしたちは軍隊を率いて追撃し、再び彼らと戦いを交えて、彼らを打ち負かした。それでも、主の力はわたしたちに伴つていなかつた。主の御靈はわたしたちの内にとどまつておらず、自分の力に頼るしかなかつたので、わたしたちはすでに同胞のように弱くなつていた。

27 わたしの民の受けたこの大きな災いと、また民の悪事と忌まわしい行いのために、わたしの心は悲しみに沈んだ。しかし見よ、わたしたちは、レーマ

ン人とガデアントンの強盜たちに向かつて出て行き、再びわたしたちの受け継ぎの地を取り返した。

28 第三百四十九年が過ぎ去つた。第三百五十年に、わたしたちはレーマン人およびガデアントンの強盜たちと条約を結び、その条約によつて分割された受け継ぎの地を得た。

29 レーマン人は北方の地を、南方の地に通じる地峡までわたしたちに譲り、わたしたちは南方の地をすべてレーマン人に譲つた。

第3章

モルモン、二ーフアイ人に悔い改めを叫ぶ。二ーフアイ人、大勝利を収め、自分自身の強さを誇る。モルモン、民の指揮を執ることを断る。モルモン、祈りがかなえられるという信仰のないまま民のために祈る。『モルモン書』は、福音を信じるようイスラエルの十二部族を招くものである。紀元約三百六十年から三百六十二年にいたる。

1 の民、二ーフアイ人を使い、戦いのときのために土地と武器を備えさせた。

2 そして、主はわたしに言われた。「この民に、『悔い改めてわたしのもとに来てバプテスマを受け、わたしの教会を再建しなさい。そうすれば、あなたがたは救われる』と宣言しなさい。」

3 そこでわたしはこの民に宣言したが、無駄であつた。これまで彼らの命を助け、彼らに悔い改めの機会を与えてこられたのが主であることを、彼らは悟つていなかつた。そして見よ、彼らは主なる神に対して心をかたくなにした。

4 さて、この十年目が過ぎ去り、キリストの来臨から数えて三百六十年目になると、レーマン人の王がわたしに手紙を送つてきた。そして、彼らが再びわたしたちを攻める準備をしていることを知らせてきた。

5 そこでわたしは、自分の民をデソレションの地に、すなわち南方の地に通じる地峡のそばの境の地にある町に集めた。

6 わたしたちはまた、レーマン人の軍隊を阻止し、わたしたちの土地を少しも占領させないよう

に、軍隊を配置した。そのように、わたしたちは総力^{りきく}を挙げて彼らに對する防備^{ぼうび}を固めた。

7さて、第三百六十一年に、レーマン人はわたしたちと戦うためにデソレシヨンの町に下つて来た。しかし、その年に、わたしたちは彼らを打ち負かしたので、彼らは自分たちの土地へ引き返した。

8第三百六十二年に、彼らは戦うためにまた下つて来たが、わたしたちはまた彼らを打ち負かしておお勢^{おおぜい}を殺した。そして、彼らの死体は海に投げ込まれた。

9ところが、わたしの民ニーフアイ人は、このよくな大きな戦果を得たため、自分たちの力を誇るようになるとともに、また敵に殺された同胞の血の報復^{ほうふく}をすると天の前に誓い始めた。

10彼らは敵と戦うために上つて行つて、地の面から敵を絶つと、天にかけて、また神の御座にかけて誓つた。

11そこでわたしモルモンは、この民の悪事と忌まわしい行いのために、彼らの司令官となり指揮官としたことを、このとき以来きっぱりと断るようにした。

12見よ、わたしはこれまで彼らを導いてきた。彼らの悪事があつたにもかかわらず、わたしは何度も彼らを率いて戦い、またわたしの内にある神の愛によつて、心を尽くして彼らを愛してきた。また、彼らのために終日心を注ぎ出して神に祈つた。それでも、彼らの心がかたくなであつたので、祈りがかなえられるという信仰はわたしになかつた。

13わたしはこれまで三度、民を敵の手から救い出したが、彼らは自分たちの罪を悔い改めなかつた。

14そして彼らが、わたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストによつて禁じられていた、すべてのものにかけて、自分たちは敵のところに上つて行つて戦い、同胞の血の報復^{ほうふく}をすると誓つたとき、見よ、主の声がわたしに聞こえてこう言われた。

15「報復^{ほうふく}はわたしのすることである。わたしが報復する。この民はわたしによつて救い出された後に悔い改めなかつたので、見よ、地の面から絶たれ

15 14	12 ②	10 9
② ① ①	モル 4	モル 4
教義 GS 3	ニフ 5	ニフ 4
82 · 23	2 · 2	· 20 · 34
	34	21
	1	
	37	

たしは、将来起ることについて証をされた御靈の示しのとおりに、自分が見聞きしたことを見聞きしたことを世人々に明らかにする証人になつた。
 17 したがつて、異邦人よ、わたしはあなたがたに書き伝える。また、イスラエルの家よ、あなたがたが自分の受け継ぎの地に帰る用意をする、その業が始まるときに読めるように、あなたがたにも書き伝える。

18 まことに見よ、わたしは地の果てに至るすべての人に書き伝える。イエスがエルサレムの地で御自分弟子となるよう選ばれた十二人から、自分の行いに応じて裁きを受けるイスラエルの十二部族によ、あなたがたにも書き伝える。

19 わたしはまた、この地でイエスが選ばれた十二人から同じく裁きを受ける、この民の残りの者にも書き伝える。この十二人は、イエスがエルサレムの地で選ばれた、別の十二人から裁きを受けるであろう。

20 これらのこととは、御靈がわたしに示してくださつた。そこで、わたしはあなたがた全員に書き伝える。わたしがあなたがたに書き伝えるのは、あな

たがた全員が、まことにアダムの全人類家族に属するすべての人が、キリストの裁きの座の前に立たなければならぬこと、あなたがたの行いが善いか悪いか、自分の行いについて裁かれるために立たなければならぬことを、あなたがたに知らせるためであり、

21 また、将来あなたがたの中にあるイエス・キリストの福音を、あなたがたに信じさせるためであり、また、主の聖約の民であるユダヤ人に、彼らがかつて殺したイエスがまことのキリストであり、まことの神であられることを知らせることが出来る、彼らの見聞きした証人以外の別の証人を与えるためである。

22 わたしは地の果てに至るすべての人々に、悔い改めてキリストの裁きの座に立つ備えをするように説き勧めることができればと願つてゐる。

第4章
 戰争と虐殺が續く。悪人が悪人を罰する。これまでイスラエル全体のどこにもなかつたひどい悪事が広がる。おんな子供が偶像のいけにえにされる。レーマン人、二ーフ

22	21	20 19	18
① ④	② ③ ② ① ① ①	教義 GS 「ユダヤ人」	17 ①
アル	モサフ	29 22 29 22 12 29 30	ルカマタ 19 28 1 3 二二 29 1
2 ニフ	2 ニフ	1 ニフ 12 9	ニフ 30 3 8
27	26	11	教義「最後の裁き」
18	12	10	

アイ人を一掃し始める。紀元約二百六十三年から三百七十五年に至る。

1さて、第三百六十三年に、ニーフアイ人はレーマン人と戦つたために、デソレシヨンの地から彼らの軍隊とともに上つて行つた。
 2さて、ニーフアイ人の軍隊はデソレシヨンの地に追い返された。そして、彼らがまだ疲れているうちに、レーマン人の新手の軍隊が彼らを攻めた。そして、激しい戦いがあつて、レーマン人がデソレシヨンの町を占領し、多くのニーフアイ人を殺し、多くの者を捕虜にした。
 3残りの者は逃げて、テアンクムの町に住む者たちに合流した。テアンクムの町は海岸に近い境の地にあり、デソレシヨンの町にも近かつた。
 4ニーフアイ人が討始めたのは、彼らの軍隊がレーマン人のところに上つて行つたためである。もしそのようにしなければ、レーマン人はニーフアイ人を支配する権力を持てなかつたであろう。
 5しかし見よ、神の裁きは悪人に下る。そして、悪人によつて悪人が罰せられる。人の子らの心をあお

り立てて流血を生じさせるのは悪人だからである。
 6さて、レーマン人はテアンクムの町を攻める準備を整え、
 7そして、第三百六十四年に、テアンクムの町も占領しようとして、テアンクムの町を攻めた。
 8さて、彼らはニーフアイ人によつて撃退され、追い返された。するとニーフアイ人は、自分たちがレーマン人を追い払つたのを見て、またもや自分が何千もの人々が戦死していた。
 9さて、このようなことが終わつてみると、双方がまたニーフアイ人と戦うためにやつて來た。それでもニーフアイ人は、自分たちの行つてきた悪事を悔い改めず、絶えず悪事を続けていた。
 10さて、第三百六十六年が過ぎ去り、レーマン人がまたニーフアイ人と戦うためにやつて來た。それでもニーフアイ人は、悪くじをつけられ、流血と虐殺のすさまじい有様は、口で述べることができず、人がそれを完全に描写して書き

記すことも不可能である。彼らは一人残らず心をか

たくなにし、血を流すことを絶えず喜びとした。

12 この民の中にはあなたがどうなひどい悪いことはリーハイのすべての子孫の中に、また主の言葉によれば、イスラエルの家に属するすべての者の中にも、これまで決してなかつた。

13 そして、レーマン人はデソレシヨンの町を占領した。これができたのは、彼らの人数がニーフアイ人の人数よりも多かつたからである。まちむ

14 そして彼らは、さらにテアソクムの町に向かつて進軍し、その町から民を追い払い、女子供を大勢捕虜にし、自分たちの偶像の神にいけにえとして

ささげた。
15さて、第三百六十七年に、ニーフアイ人はレーマン人が自分たちの女子供をいけにえにしたことに腹を立て、非常に激怒してレーマン人に向かって行つたので、またもやレーマン人を打ち負かし、彼らを自分たちの土地から追い出した。

16 その後、第三百七十五年まで、レーマン人は再びニーファイ人を攻めて来ることはなかつた。しかしこの年に、彼らは全軍でニーファイ人に向む

かつて攻め下つて来た。
彼らの人数はあまりにも多

くて、
数えられなかつた。

このとき以来、二一アイン人はレーマン人に勝ちからず、朝日に露が消えるようにレーマン人によつて一掃され始めた。

19 そしてレーマン人は、デソレシヨンの町に攻め小田原へ向かう。そこで、デソレシヨンの地で非常に激しい戦いがあり、その戦いでレーマン人がニーフアイ人を打ち負かした。

逃げ出し、ボアズの町に至った。そして、彼らは

そこで非常に勇ましくレーマン人に立ち向かつたので、レーマン人は二度目の攻撃をかけるまで三ヶ人を打ち負かせなかつた。

21 そして、レーマン人が一度目に攻め寄せたとき、二ーフアイ人は追い払われ、非常に大勢の者

が殺された。さらにニーフアイ人の女子供が、また偶像のいけにえにされた。
そこでニーフアイ人は、彼らの前からまた逃に

22 そこでニーフアイ人は、彼らの前からまた逃げ、方々の町や村のすべての民と一緒に伴つて行

わたしモルモンは、レーマン人がまさに全土を征服しようとしているのを見て、シムの丘へ行き、アマロンが主に託して隠しておいたすべての記録を取り出した。

第5章

モルモン、再び二ーフアイ人の軍隊を率いて流血と虐殺の戦いに出る。イエスがキリストであることを全イスラエルに確信させるために、将来『モルモン書』が出来る。不信仰のため、レーマン人は散らされ、御靈は彼らを励ますのをやめる。レーマン人は末日に異邦人から福音を受ける。紀元約三百七十五年から三百八十四年に至る。

1さて、わたしは二ーフアイ人の中に出て行き、彼らをもう助けないと以前に誓った誓いを取り消した。すると彼らは、わたしなら自分たちを苦難から救い出せるであろうと考え、わたしにもう一度二ヶつアイ人の軍の指揮権を与えた。

2しかし見よ、わたしは主の裁きが彼らに下ることを知っていたので、望みを持つていなかつた。彼ら

が自分たちの罪悪を悔い改めず、自分たちを造られた御方に請い願うことなく、ただ自分たちの命のために戦つていたからである。

3さて、わたしたちがヨルダンの町に逃げていたので、レーマン人はわたしたちを攻めた。しかし見よ、彼らは撃退され、そのときにはその町を奪えなかつた。

4そして、彼らはまたわたしたちを攻めたが、わたしたちはその町を守り通した。ほかにも二ーフアイ人が守り通した町が幾つもあり、レーマン人はそれらの町のとりでに遮られて、わたしたちの先にある地方に入つて行つて、わたしたちの国の民を滅ぼすことができなかつた。

5しかし、わたしたちが素通りしてきた土地と、わたしたちが集めなかつた土地に住む者たちは、すべてレーマン人によつて滅ぼされ、彼らの集落や村や町は火で焼かれた。このようにして、三百七年が過ぎ去つた。

6そして第三百八十年に、レーマン人がまた攻め寄せて來たので、わたしたちは勇ましく彼らに立ち向かつた。しかし、それはまったく無駄であつた。

かれ
彼らは人數が非常に多く、二ーフアイ人の民を足で踏みにじつたからである。

そこで、わたしたちはまた逃げた。そして、逃げに足がレーマン人の追撃よりも速かつた者は逃れ、レ

10 さて見よ、わたしはこのことをこの民たみの子孫しそんと、また異邦人いほうじんに、すなわち、イスラエルの家を心にかけ、自分たちの祝福しゆくふくがどこから来るかをはつきり自覺じかくして知つている異邦人に述べる。

一マンより速くなつた者は襲はれて殺された。
さ見てよ、わたしモルモンは、自分の目で見たこの
ような流血と虐殺の恐ろしい光景を人々の前に
持ち出して、人々をひどく苦しめたいとは思わぬな
い。しかしあたしは、これらのことばが将来必ず知

らされ、現在隠されているすべてのことが将来屋根の上で明らかにされることを知っており、
もの

9 またこれらのこと我が、将来これら民の残りの者
　　(いはうじん) ⁽¹⁾
　　と異邦人に知らされることもも知つてある。主は、
　　(いはうじん)
　　異邦人がこの民を散らし、この民が彼らの中で価値
　　(たね) ⁽²⁾
　　のない者と見なされるようになると言われた。わた
　　しは以上のことをして知つてるので、あえて自分がこ
　　れまで見てきたことを全部は記録せず、小さな短
　　(ちい)
　　み

12 わたしは、これらのこと^のをヤコブの家の残りのものに書き伝えた。これらのこと^のをこのように書き伝えたのは、邪惡な者^のがこれらの記録^のを伝えることはないと、神から知らされているからである。そこでこれらのこと^のが主御自身^のがふさわしいと思われるときに伝わるよう、主に託してこれを隠しておかなければならない。

13 これがわたしの受けた命令である。そして見よ、
これらのことばは、主が御自分の知恵でふさわしい
と見なされるときに、主の命令どおりに伝わるで
あろう。

14 そして見よ、これらのこととは、ユダヤ人の中の信仰のない者に伝わる。これらのことが伝わる目的は、彼らにイエスが生ける神の御子キリストであらることを信じさせることである。また、ユダヤ人、さらに正確に言えば、イスラエルの家に属するすべての者を、主なる彼らの神がお与えになつた受け継ぎの地に連れ戻すという、あの御父の偉大な永遠の目的が、御父のこの上なく愛する御子を通じて成し遂げられ、御父の聖約が果たされる

15 またこの民の子孫に、異邦人から伝わる主の福音をさらによく信じさせることである。この民はこの後散らされて、これまでわたしたちの中になかつたほど、すなわちかつてレーマン人の中になかつたほど、肌の黒ずんだ、汚らしい、不快な民になる。

16 見よ、主の御靈は、すでにこれらの者たちの先祖を離しますのをやめてしまつた。そして彼らは、この世の中でキリストも神もなく生きており、風に吹かれるもみ殻のようにあちらこちらに追いやられている。

17 彼らはかつて喜ばしい民であつて、キリストを自らに誘われている。まるでもみ殻が風に吹かれているようであり、また船が帆や錨のないまま、あるいは舵を取り手段のないまま波間に漂つてゐるようである。彼らは、ちょうどその船のようである。

18 ところが見よ、彼らは今、サタンによつてあちらに導かれていた。

19 見よ、主は、彼らがこの地で受けることのできた祝福を、将来この地を所有する異邦人のために残しておられる。

20 しかし見よ、将来この民は異邦人に追われ、散らされるであろう。そして、彼らが異邦人に追われ、散らされた後、見よ、主はアブラハムとイスラエルの家に属するすべての者に立てられた聖約を思い出されるであろう。

21 また主は、彼らのためにささげられた義人の祈りも思い出されるであろう。

22 おお、異邦人よ、あなたがたは悔い改めて悪の道から離れなければ、どうして神の力の前に立て

14	38、 モル エノ 36	24 モル エノ 37	15	30 モル エノ 36
15	26 モル エノ 37	26 モル エノ 37	16	26 モル エノ 37
16	21 モル エノ 37	21 モル エノ 37	17	29 モル エノ 37
17	20 モル エノ 37	29 モル エノ 37	18	29 モル エノ 37
18	29 モル エノ 37	29 モル エノ 37	19	29 モル エノ 37
19	29 モル エノ 37	29 モル エノ 37	20	29 モル エノ 37
20	29 モル エノ 37	29 モル エノ 37	21	29 モル エノ 37
21	29 モル エノ 37	29 モル エノ 37	22	29 モル エノ 37

るであろうか。

23 あなたがたは自分が神の手のうちにあるのを知らないのか。あなたがたは神が一切の權威を持つておられることと、神の大いなる命令で将来大地が巻き物のように巻かれることがを知らないのか。
 24 だからあなたがたは、悔い改めて神の前にへりくだりなさい。さもなければ、神はあなたがたに罰を下される。すなわち、ヤコブの子孫の残りのものが、ライオンのようにあなたがたの中に出て行つて、あなたがたを引き裂くであろう。そして、救う者はだれもない。

第 6 章

2 そして、わたしモルモンは、レーマン人の王に手紙を書いて、クモラと呼ばれる丘に近いクモラの地に民を集め、そこでレーマン人と戦えるようにするのを認めてほしいと頼んだ。
 3 そこで、レーマン人の王はわたしが求めたことを認めてくれた。

4 そこで、わたしたちはクモラの地に進軍し、クモラの丘の周りに天幕を張った。その丘は多くの水と川、泉のある地にあつた。わたしたちはここで、レーマン人に対して優位に立てるのを期待した。

5 三百八十四年が過ぎ去つたとき、わたしたちは民の残つている者を全員クモラの地に集め終えていた。

6 そして、わたしたちが民を全員一団としてクモラの地に集め終えたとき、見よ、わたしモルモンは年を取つてきた。わたしは、これが自分の民の最後の戦闘であることを知つており、また、先祖から伝えられてきた神聖な記録をレーマン人の手に渡してはならないと主から命じられていたので（レーマン人はそれらの記録を損なうからである）、わたしはニーファイの版からこの記録を作り、主の手によ
 1さて、これでわたしの民、ニーファイ人の滅亡についてのわたしの記録を終わりにする。わたしは、レーマン人の前に進軍した。

1 ①	1 二	12	23
①	ジエロ	10	ヒラ
GS	13	14	ミカ
「版」	5	11	20
9	1	14	12
3	5	8	8
16	1	3	3

つてわたしに託されたすべての記録をクモラの丘に隠した。そして、このわずかな版だけを息子モロナイに渡す。

7さて、わたしの民は妻子たちとともに、レーマン人の軍隊がこちらに向かつて進んで来るのを見た。

そして、すべての悪人の胸に満ちているあのひどく死を恐れる気持ちをもつて、レーマン人を迎えた。

8そして、レーマン人がわたしたちに攻めかかつて来た。すると、レーマン人がおびただしい人数であつたので、わたしの民は一人残らず恐れでいっぱいになつた。

9そしてレーマン人は、剣と弓、矢、斧、そのほかあらゆる武器でわたしの民に襲いかかつた。

10そこでわたしの民、すなわちわたしとともにいた一万人の者が切り倒され、わたしも負傷してその中に倒れた。すると、レーマン人はわたしを殺さず、わたしのそばを通り過ぎて行つた。

11彼らは通り過ぎて、わたしたちの中の二十四人（この中にはわたしの息子モロナイもいた）を除くわたしの民をことごとく切り倒した。そこで、レ

ーマン人が彼らの宿営に引き揚げた翌日、生き延びたわたしたちがクモラの丘の頂上から、わたしの死んだ者たちを見たところ、わたしが率いて指揮を執つていた一万人が切り倒されているのが見えた。

12また、息子モロナイが指揮を執つていた一万人も見えた。

13また見よ、ギドギドーナの一万人が倒れており、ギドギドーナもその中に倒れていた。

14また、レーマも彼の一万人とともに倒れており、ギルガルも彼の一万人とともに倒れており、リムハも彼の一万人とともに倒れており、ジエニウムも彼の一万人とともに倒れており、クメナイハとモロナイハ、アンテオヌム、シブロム、セム、ヨシもそれぞれの一万人とともに倒れていた。

15そしてほかにも、十人の者とそれぞれの一万人が剣で倒れていた。まことに、わたしの民は、わたしたともにいた二十四人と、南の地方へ逃げて行つた少數の者と、レーマン人のもとへ脱走した少數の者を除いて、全員が倒れていた。そして、彼らの肉と骨と血は、彼らを殺した者の手によつてその

まま放置されて地の面にあり、地上で朽ち、また
朽ち果てて母なる大地に返るに任された。

16わたしの心は、わたしの民の殺された者たちのことで苦しみのあまり張り裂けてしまいそうになり、わたしは叫んだ。

17「おお、麗しい者たちよ、あなたがたはどうして主の道から離れてしまったのか。おお、麗しい者たちよ、あなたがたは両腕を広げて立つてあなたがたを受け入れようとしておられた、あのイエスをどうして拒んだのか。

18見よ、あなたがたはそのようにしなければ、倒れなかつたであろうに。しかし見よ、あなたがたはもう倒れてしまい、わたしはあなたがたを失つたことを嘆き悲しんでいる。

19おお、麗しい息子と娘よ、父と母よ、夫と妻よ、麗しい者たちよ、あなたがたはどうして倒れたのか。

20しかし見よ、あなたがたはもう去つてしまい、わたしが悲しんでも、あなたがたを連れ戻すことはできない。

21あなたがたの死すべき体が不死のものを着て、今まであなたがたの死すべき体が不死のものを見よ、わたしは命を助けられているこの民の残りの者に、もしも神がわたしの言葉を彼らに

朽ちつつあるこれらの体が朽ちない体になる日がもうすぐ来る。そのときあなたがたは、行いに信じて裁かれるために、キリストの裁きの座の前に立たなければならぬ。そして、もしあなたがたが義にかなつていれば、あなたがたはあなたがたよりも前に世を去つた先祖とともに祝福を受けるのである。

22おお、あなたがたは、この大きな滅亡が及ぶ前に悔い改めておけばよかつたものを。しかし見よ、あなたがたはもう去つてしまつた。御父は、まことに天の永遠の御父は、あなたがたの状態を御存じであり、御自分の公正と憐れみによつてあなたがたを扱われるであろう。」

第7章

モルモン、末日のレーマン人に、キリストを信じ、リストの福音を受け入れて救われるよう勧める。『聖書』を信じる者はすべて、「モルモン書」も信じるであろう。紀元約三百八十五年。

伝えてくださるならば、彼らが自分たちの先祖のことをについて知ることができるように、少々述べたい。イスラエルの家の残りの者よ、わたしはあなたがたに述べる。わたしが告げる言葉は次のとおりである。

2 あなたがたは、自分がイスラエルの家に属していることを知りなさい。

3 あなたがたは、悔い改めなければ救われないことを知りなさい。

4 武器を捨て、もはや血を流すことを喜びとせず、神から命じられるのでなければ、二度と武器を取つてはならないことを知りなさい。

5 先祖について知り、すべての罪と不義を悔い改め、イエス・キリストを信じなければならぬことを知りなさい。イエス・キリストは神の御子であり、またイエス・キリストはユダヤ人によつて殺され、御父の力によつて再びよみがえつて墓に対し勝利を得られた。そして、死のとげはイエス・キリストにのまれてしまつた。

6 そして、イエス・キリストは死者の復活をもたらされる。したがつて、人はよみがえつてイエス・

キリストの裁きの座の前に立たなければならない。

7 そして、イエス・キリストは世の贖いをもたらされた。そのため、裁きの日にイエス・キリストの前に罪がないと認められる者は、神の王国で神の

前に住み、天の聖歌隊とともに、一つの神である御父と御子と聖靈に、絶え間ない賛美の歌を歌う

ことを許され、決して終わりのない幸福な状態にいることができる。

8 だから、悔い改め、イエスの名によつてバプテスマを受け、キリストの福音を手にしなさい。キリストの福音はこの記録だけでなく、ユダヤ人から異邦人に伝わり、異邦人からあなたがたに伝わる記録によつてもあなたがたに知らされるであろう。

9 見よ、この記録を書き記しているのは、ユダヤ人から伝わる記録をあなたがたに信じさせるためである。また、あなたがたはそれを信じるならば、これも信じるであろう。そして、もしこれを信じるならば、あなたがたの先祖について知り、また

先祖の中で神の力によつて行われた驚くべき業についても知るようになるであろう。

10 またあなたがたは、自分がヤコブの子孫の残りの

5 ① アル
2 ニル
3 リ

10 12

6 ① GS
2 GS
3 GS
4 GS
5 GS
6 GS
7 ② GS
8 ③ GS
9 ④ GS
10 ⑤ GS
11 ⑥ GS
12 ⑦ GS
13 ⑧ GS
14 ⑨ GS
15 ⑩ GS
16 ⑪ GS
17 ⑫ GS
18 ⑬ GS
19 ⑭ GS
20 ⑮ GS
21 ⑯ GS
22 ⑰ GS
23 ⑱ GS
24 ⑲ GS
25 ⑳ GS
26 ㉑ GS
27 ㉒ GS
28 ㉓ GS
29 ㉔ GS
30 ㉕ GS
31 ㉖ GS
32 ㉗ GS
33 ㉘ GS
34 ㉙ GS
35 ㉚ GS
36 ㉛ GS
37 ㉜ GS
38 ㉝ GS
39 ㉞ GS
40 ㉟ GS
41 ㉟ GS

5 ト一裁き
6 ① GS
7 「最後の裁き」
8 「贖い、贖う」
9 「義認、義とされる」
10 「福音」
11 「復活」
12 「イエス・キリスト」

ものであり、そのため最初の聖約の民の中に数えられるということを知るようになるであろう。もしあなたがたがキリストを信じて、わたしたちの救い主の模範に従つて、救い主がわたしたちに命じられたとおりにまず水でバプテスマを受け、次に火と聖靈によつてバプテスマを受けるならば、あなたがたは裁きの日に幸いを得るであろう。アーメン。

第8章

レーマン人、二ーファイ人を捜し出して殺す。「モルモン書」は将来神の力によつて出る。主の業に対して怒りと争いの言葉を吐く者に宣言された数々の災い。二ーファイ人の記録は、悪事と退廃と背教の時代に出る。紀元四百年から四百二十一年に至る。

1 見よ、わたしモロナイトモルモンの記録を書き上げる。見よ、わたしが書く事柄はわずかであり、それは父から指示されたものである。

2さて、クモラでの大規模ですさまじい戦いの後、見よ、南方の地方に逃げていた二ーファイ人は、レーマン人によつて狩り出され、とうとう全員殺

されてしまった。

3わたしの父も彼らに殺された。そして、わたしだけが一人生き残り、わたしの民の滅亡の悲話を書き記すことになった。見よ、わたしの民はもう世界を去つてしまつたので、わたしは父から命じられたことを果たす。わたしはこの後レーマン人に殺されるかどうか分からぬ。

4そこでわたしは、記録を書き記して、地の中に隠そう。そうすれば、わたしはどこへ行こうとかまわらない。

5見よ、父はこの記録を作り、この記録の目的を書いた。そしてまことに、わたしも版に余地があればそれを書きたいが、その余地はない。また、あらがねもない。わたしは孤独である。わたしの父は戦いで殺され、親族も全員殺されてしまった。わたしには友もなく、行く所もない。また、主がわたしをいつまで生かしてくださるか、わたしには分からぬ。

6見よ、わたしたちの主、救い主の来臨から四年が過ぎ去つた。

7また見よ、レーマン人は、わたしの民二ーファイ

第8章				10 ① 2ニフ 31 ② 5-9
1 ①	モルモン GS 「モロナイトモルモンの息子」	5 3	2 ① ②	GS 「版」
モル 6	モロ 9	モル 6	モル 6	モル 2 18 15
アル 6	10 6	17	22	18 15
		18		

じん 人を町から町へ、地方から地方へと追い詰めて、と
うとう二ーファイ人は一人もいなくなつた。その滅
ぼう 亡はひどかった。まことに、わたしの民ニーファイ
じん 人の滅亡は、ひどく驚くべきものである。

8 そして見よ、それを行われたのは主の手である。
また見よ、レーマン人も互いに戦い合つていて、
この地の全面が殺し尽りゆうつけた絶えない有様を見せ
ており、だれも戦争の終わる日を知らない。

9 さて見よ、わたしはもう二ーファイ人のことにつ
いて述べない。地の面にいるのはレーマン人と強
盗だけで、ほかにはだれもいないからである。
10 イエスの弟子たちのほかに、まことの神を知つ
ている者はだれもない。イエスの弟子たちは民の
悪事がひどくなるまではこの地に住んでいたが、
悪い事が非常にひどくなつたので、主は彼らが民と
ともにいることをお許しにならなかつた。彼らが今
この地の面にいるかどうか、だれも知らない。

11 しかし見よ、父とわたしはかつて彼らに会い、
彼らはわたしたちを教え導いてくれた。

12 この記録を受け入れ、この中に不完全なところ
があるからといって非難したりしない者は、これ

らのことよりも大きいなることを知るであろう。見
よ、わたしはモロナイトである。できれば、わたしは
あなたがたにすべての事柄を知らせたい。

13 見よ、これでこの民について述べるのを終え
る。わたしはモルモンの息子であり、わたしの父は
ニーファイの子孫であった。

14 わたしは、主に託してこの記録を隠す者であ
る。この記録の版は、主の命令があるので、金錢
上の価値はまったくない。利益を得るためにこの
記録の版を所有する者はだれもないと、主が実
際にはいつておられるからである。しかし、この版の
記録は非常に価値がある。これを明るみに出す者
に、主は祝福を授けられるであろう。

15 これを明るみに出す力は、神から与えられるの
でなければ、だれも持つことができない。神は、神
の栄光にひたすら目を向けながらこれを明るみに
出すように、あるいは長い間散らされている昔の
主の聖約の民の幸いのためにこれを行うように望ん
でおられる。

16 この記録を明るみに出す者は幸いである。神の
言葉のとおりに、これは暗闇から明るみに出され

16	15	14	13	12	11	10	9	8	7
2	② ① ①	① ②	① ①	① ①	① ②	モロ	モル	モル	モル
イザ	11	12	13	14	15	16	17	18	19
27	2	3	3	4	5	6	7	8	9
29	14	15	16	17	18	19	20	21	22
18	6	7	8	9	10	11	12	13	14
	1	2	3	4	5	6	7	8	9

GS エテモル「三人の弟子」

る。まことに、これは地から出され、暗闇から
き出て、民に知られるようになる。それは神の力に

17 もし誤りがあるとすれば、それは人ひとの誤りである。しかし見よ、わたしたちはまったく誤りを見いださない。それでも、神かみはすべてのことを御存じで

あるので、**非難**する者は、地獄の火に投げ込まれる恐れのないように用心しなければならない。

18 「わたしに見せよ。さもなければ、おまえを打つ」という者は、主から禁じられていることを命じないよう気をつけなければならない。

19 それは見よ、軽率に裁く者は同じように軽率に人の報いは当人の行いに応じるものだから

20 見よ、
『人は打つてはならないし、裁いてもなら

ない。裁きはわたしのすることである。報復もわたしのすることである。わたしが仕返しをする」と、主が言われる」と、聖文は述べている。

聖約の民に対して、怒りと争いの言葉を吐き、「主の業に対する対して、またイスラエルの家である主のわざにたいして、」

の業を絶やそう。主はイスラエルの家に立てた聖約の中には投げ込まれる恐れがある。
22 主のすべての約束が果たされるまで、主の永遠の目的は続くからである。

書き記すことはできないが、まことに見よ、あなたがたに言つておく。この地を所有していて、わたくしよりも前に世を去つた聖徒たちは叫ぶ。まことに、彼らは地から主に叫ぶ。そして、主が生きておられるように、主は彼らと交わした聖約を思い出されるであろう。

24 主は、同胞のためにささげられた聖徒たちの祈りを御存じである。また主は、彼らの信仰も御存じである。彼らは、主の名によつて人々を移すこと

ができた。彼らは、主の名によつて地を振り動かすこともできた。また、主の言葉の力によつて牢を地に倒した。まことに、主の言葉の力のために、火の燃える炉も彼らを害することができず、猛獸も毒蛇も危害を加えることができなかつた。

25 また見よ、彼らの祈りは、将来これらのものを

世に出すことを主から許される者のためにもささげられた。

26 だれも、これらのものは出て来ることはないと言つてはならない。主が言わされたので、これらのものは必ず出て来るからである。これらのものは主の手によつて地から出て来る。だれもそれを妨げることはできない。それは、奇跡がやんできましたと言われる時代に出て来る。あたかも人が死者の中から

語るかのようにそれは出て来る。
27 聖徒たちの血（ち）が秘密結社（ひみつけっしゃ）と闇の業のことで主に叫んで訴える時代に、それは出て来る。

28 まことに、神の力が否定され、もちろんの教会が汚れたものとなり、教会の者たちが高慢な心で高ぶる時代に、それは出て来る。まことに、教会の指導者たちと教師たちが心を高慢にして、彼らになる時代に、それは出て来る。

29 まことに、ほかの国々の火と暴風雨と立ち込める煙のことを伝え聞く時代に、それは現れ出る。

30 またそのとき、様々な地における戦争と戦争のうわさと地震のこととも伝え聞くであろう。

31 まことに、地の面にひどい汚れがあり、殺人と強盗と偽りと欺きとみだらな行いとあらゆる忌まわしい行いがある時代に、また、「これを行え。あれを行え。それをしてもかまわない。主は終わりの日に弁護してくださる」と言う者が多くいる時代に、それは出て来る。しかし、このように言う者は

は災いである。彼らは苦汁（くじゅう）の中により、罪悪の縄目を受けているからである。

32 まことに、「わたしのところに来なさい。金錢と引き換えにあなたがたの罪は赦される」と言う教会が設けられている時代に、それは出て来る。

33 おお、邪惡でよこしまで強情な民よ、なぜあなたがたは利益を得ようとして自分自身のために教会を設けたのか。なぜあなたがたは神の聖なる言葉を変えて、自分に罰の定めを招くようにしたのか。見よ、神の啓示に頼りなさい。見よ、これらのことがすべて必ず成就する時が、その時代に来るからである。

34 見よ、これらのことがあなたがたの中に起るこの時代に、間もなく必ず出て来るものについて、主は大いなる驚くべきことをわたしに示してください

33	31	30	29	28	27	26
③ ② ① ③ ② ① ①	1 二フ 14·6、 ニフ 28·15·32·	マフ 24·2·3	教義 33·4· ヨエ 2·2 デ	2 ニフ 14·9· モル 6·7	モロ 7·27·30· モル 9·2·2 デ	モロ 2 二フ 26· モル 9·13·4· モロ 7·29·15· モル 9·3·1·7· モロ 15·33·26· モロ 16·1·37
GS 1 GS アル 41·11· 「罰の定め」 26·29	ニフ 28·11· ニフ 8 21·17· ニフ 27·2·3	マフ 24·2·3	教義 33·4· ヨエ 2·2 デ	2 ニフ 14·9· モル 6·7	モロ 7·27·30· モル 9·2·2 デ	モロ 2 二フ 26· モル 9·13·4· モロ 7·29·15· モル 9·3·1·7· モロ 15·33·26· モロ 16·1·37
GS 1 GS アル 41·11· 「罰の定め」 26·29	ニフ 28·11· ニフ 8 21·17· ニフ 27·2·3	マフ 24·2·3	教義 33·4· ヨエ 2·2 デ	2 ニフ 14·9· モル 6·7	モロ 7·27·30· モル 9·2·2 デ	モロ 2 二フ 26· モル 9·13·4· モロ 7·29·15· モル 9·3·1·7· モロ 15·33·26· モロ 16·1·37

れつた。

見よ、わたしはあなたがたがここにいるかのよう
に語つてゐるが、あなたがたはまだこの世にいな

いしなし見よ、イエス、ヨハネがわがしいおなたがたを見せてくださつたので、わたしはあなたがたが行うことを知つてゐる。

36 わたしは、あなたがたが心を高慢にして歩く

とを知つてゐる。心を高慢にして高ぶることをしない者はわざかしかいない。高慢な者は、非常にはなあらそあくさいはがい、悪意、迫害、

またあらゆる罪惡に染まる。また、あなたがたの教会、まことにすべての教会は、あなたがたの心が高慢なために汚れたものになつてしまつた。
見よ、あなたがたは、貧しい人と乏しい人、病ひや財産を失ふる人、人と苦しんでいる人を愛する以上に、金錢や財産、華やかな衣服を愛し、あなたがたの教会を飾ることを大切にする。

38 おお、腐食するもののために自分自身を売る汚れた者たちよ、偽善者たちよ、教師たちよ、なぜあなたがたは神の聖なる教会を汚したのか。なぜあなたがたは、キリストの名を受けるのを恥じるのか。

第
9
章

なぜあなたがたは、
無窮の幸福が、
決して尽きな

いあの不幸な状態よりも大きな価値がある
かんがえないのである。それは世の誉れのためである

39なぜあなたがたは、命のないもので自分自身を
飾りながら、飢えている人や乏しい人、着る物のない人、病人、苦しんでいる人を見過ごしにし、彼らに注意を払わないのか。

まことに、なぜあなたがたは、利益を得るために
秘密の忌まわしい行いを企て、やもめを主の前で
嘆き悲しませ、みなしごも主の前の前で嘆き悲しませ、
彼らの父と夫の血があなたがたの頭に報復が及ぶよ
う訴えて、地のなか主に叫ぶようにさせるのか。
41 見よ、報復の剣があなたがたに迫っている。主
はもはや聖徒たちの嘆願をそのままにしておかれ
ないので、主があなたがたに彼らの血のために報
復される時がすぐに来るであろう。

モロナイ、キリストを信じていない者に悔い改めるように呼びかける。忠実な者に数々の啓示を与えて、数々の奇跡の神について宣言する。

る。不信仰のために奇跡はやむ。信じる者にはしるしが伴う。賢くあつて戒めを守るよう、人々に勧告が与えられる。紀元約四百一年から四百二十一年に至る。

1さて、わたしは、キリストを信じていない者につても語ろう。

2見よ、あなたがたは刑罰の日に信じるのであるか。見よ、主が来られる時に、すなわち、^①大地が巻き物のように巻かれて、諸元素が酷熱に溶かされると、あなたがたは刑罰の日に信じるのであるか。見よ、あなたがたは神の小羊の前に立たされるあの大きいなる日に、まことに、あなたがたが堪えられるあるあの大きいなる日に、あなたがたは神はいないと言うであろうか。

3そのとき、まだあなたがたはキリストを否定するであろうか。あるいは、あなたがたは神の小羊を見ると、あなたがたは自分に堪えられるであろうか。あなたがたは、自分に罪の意識のある今まで、神の小羊とともに住みにじつたといふの意識に苦しんでいながら、あふると思ふか。あなたがたは、神の小羊の律法を踏み見よ、あなたがたに言うが、聖なる公正な神の前に自分は汚れているという意識のある今まで、神

とともに住むときの悲惨は、地獄で罰の定めを受けている者たちとともに住むときの悲惨よりもひどいであろう。

5見よ、あなたがたが、自分が神の前で裸であるのを見せられ、また神の栄光とイエス・キリストの神聖さを見せられるとき、あなたがたのうえに消すことのできな火炎が燃え盛ることであろう。

6おお、だから、信仰のない者たちよ、主に立ち返りなさい。小羊の血によつて清められて、あの大きいなる終わりの日に染みがなく、清く、美しく、潔白であると認められるように、イエスの名によつて熱烈に御父に叫び求めなさい。

7さらに、神の啓示を否定して、啓示はやんてしまつた、今は啓示も、預言も、賜物も、癒しも、異言で語ることも、異言の解釈もないと言ふあなたがたにわたしは告げる。

8見よ、あなたがたに言うが、これらのこととを否定する者は、キリストの福音を知らない者、まことに、聖文を読んだことのない者である。もし読んだことがあれば、聖文を理解していない。

9神は昨日も、今日も、どこしえに変わらない御

かた
方であります。また神には變化も變化の兆しもないといふことを読んでいないのか。

さて、もしあなたがたが変わることのある神や、変わる兆しのある神を想像しているならば、あなたがたは奇跡の神ではない神を想像しているのである。

しかし見よ、わたしはあなたがたに奇跡の神、すなわちアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神に、^{かみ}
ついて明らかにしよう。奇跡の神は、天地とその中にある万物を創造されたあの神である。

見よ、神はアダムを造られた。そして、アダムによつて人の堕落が生じ、人の堕落のためにイエス・キリスト、すなわち御父であり御子である御方おおかたが來られた。そして、イエス・キリストによつて人の贖いがもたらされた。

13 そして、イエス・キリストにより人にもたらされ
た贖いのおかげで、人は主の前に連れ戻される。ま

ことに、これがすべての人の贖われる方法である。リストの死は復活をもたらし、復活は無窮の眠りからの一瞬の贖いをもたらし、すべての人は、ラッパが鳴るときに、神の力によつてその眠りから起こされ

る。そして人は、小さな者も大いなる者も出て来る。
て、すべての人が肉体の死であるこの永遠の死の
繩目から贖われ、解き放されて、キリストの法廷
に立つ。

14 次いで、聖者の裁きが彼らに下る。それから、
汚れていた者は汚れているままになり、義にかな
つた者は義にかなつた状態にとどまり、幸せな者
は幸せなままになり、不幸な者は不幸なままにな
る時が来る。

15さておお奇跡を行えない神を心に描いてきたすべての人よ、わたしはあなたがたに尋ねたい。わたししが述べてきたこれらのことはずべて起こったか。終わりはもう来たか。見よ、まだであると、あなたがたに答えよう。また、神は奇跡の神であることをやめてはおられない。

16 見よ、神が行つてこられたことは、わたしたち
の目に驚くべきものではないだろうか。また、だれ
が神の驚くべき業を悟れるであろうか。
かみの言葉によつて天と地があること、またかみの

17

16	15
教義	教義
詩篇	毛口
76	88
ll4	35
40	35
5	35

14 13
② ① ③ ② ① ③
ア GS 教教 ヒ GS
ル 義義 ラ 「贖い、贖う」
「最後の裁き」
7 138 43 14
21 16 18 15
18

12	11
② ① GS 教義	① 創世 1・1、モサ 4・2、
モサ 「イエス・キリスト」	モサ 3・26
GS 「墮落」	24、
モサ 「アダム」	

の言葉の力によつて、奇跡が行われて

22 見よ、神の御子イエス・キリストは、群衆の聞き

18 イエス・キリストが多くの偉大な奇跡を行われ
おお いだい ①きせき おこな

なかつたと言う者は、だれであろうか。使徒たちの

9 その当時こessaやの奇跡が一丁つれこのであれば、

どうして神は奇跡の神であることをやめられたので

あるうか。それでいへて、変わらない御方であると言ふのみか。

れば、神は神であることやめられたのであろう。

しかし神に祀であることを免めでてはおれまい。

20 神が人の子らの中で奇跡を行うのをやめられる

のは
彼らが不信仰に陥り
正しい道から離れ

21 見よ、あなたがたに言うが、何も疑わないでキリ

ストを信じる者には、キリストの名によつて御父に
もと
(①なん
あた
やく

そく 東はすべての人ごと、すなわち地の果てまで及ぶもの

である。

いっている所で、この世にとどまることになつていた
御自分の弟子たちと、ほかのすべての弟子たちに次
のように言われた。「全世界に出て行つて、すべて
の造られたものに福音を宣べなさい。
信じてバプテスマを受ける者は救われる。しか

し、信じない者は罰の定めを受ける。
しん
もの
つき
①
ともな

かくはわたしの名こそよつて⁽²⁾悪靈を追お出し、

あたら
ことば
かた
ま
新しい言葉を語り、蛇を取り上げるであろう。

にんじん(3て)は毒を飲んでも害を受けない。彼はか病

25 何も疑わないでわたしの名を信じる者に、わたし

は自分の言葉が確かにすることを証明する。地の

さて見よ、
だれが主の業に立ち向かえるであらう

か。だれが主の言われたことを否定できるであろ

うか。
主のわざを毎日おこなふ者ほど、それからくるであろうか。キ

リストの子らを侮る者が、だれかいるであろうか。
（あとで）

見よ、主の業を侮るすべての者よ、あなたがたは

怪しみ、そして滅びるであろう。

27 おお、だから、悔てはならない。怪しんではならない。主の言葉に聞き従いなさい。そして、あなたがたが必要としているものは何でも、イエスの名によつて御父に求めなさい。疑つてはならない。信じなさい。昔のようになり、心を尽くして主のもとに来て、主の前に恐れおののいて、自分の救いを達成しなさい。

28 試しの生涯にあつて賢くありなさい。あらゆる汚れを取り除きなさい。求めるものを自分の欲望のために無益なものにせず、むしろどんな誘惑にも負けないで、まことの生ける神に仕えようという、確固とした決意をもつて求めなさい。

29 あなたがたは、ふさわしくない今までバプテスマを受けることのないようにななさい。ふさわしくない今までキリストの聖餐を受けないようにしない。むしろあなたがたは、ふさわしい状態ですべてのことを行い、しかも、生ける神の御子イエス・キリストの名によつて行うようにしなさい。このように行い、最後まで堪え忍ぶならば、あなたがたは決して追い出されることはないであろう。

30 見よ、わたしは今、死者の中から語つているかのようにあなたがたに述べている。わたしはあなたの者がたが将来、わたしの言葉を手に入れるることを知つてゐるからである。

31 不完全なところがあるからと云ふことで、わたしを非難してはならない。わたしの父をも、不完全なところがあるからと云ふことで非難してはならないし、父よりも前に書き記してきた人々も、非難してはならない。むしろこれまでのわたしたちよりも、あなたがたがもつと賢くなれるようになると、わたしたちの不完全なところをあなたがたに明らかにしてくださつた神に、感謝しなさい。

32さて見よ、わたしちは、わたしたちの中で改良エジプト文字と呼ばれている文字で、わたしたちの知つていることに従つてこの記録を書いてきた。この文字は、わたしたちに代々伝えられ、わたしたちの言葉の使い方に応じて変えられたものである。

33 もしわしたたちの版が十分に大きかったならば、わたしたちはヘブライ語で書き記したであろう。しかし、ヘブライ語もわたしたちによつて変えら

32	31	30	29	28	27
モサ ^① エ ^② チ ^③ ニ ^④	モロ ^① モ ^② モ ^③ モ ^④	コリ ^① ニ ^② フ ^③ ス ^④	ヨシ ^① ア ^② アル ^③ 欲 ^④	モロ ^① モ ^② モ ^③ モ ^④	ヨシ ^① ア ^② アル ^③ 欲 ^④
12 ¹ 12 ² 22 ³ 28 ⁴	10 ¹ 8 ² 8 ³ 17 ⁴	11 ¹ 27 ² 28 ³ 32 ⁴	22 ¹ 27 ² 32 ³ 35 ⁴	10 ¹ 8 ² 26 ³ 30 ⁴	22 ¹ 27 ² 30 ³ 34 ⁴
		27 ¹ 30 ² 33 ³ 32 ⁴	12 ¹ 12 ² 30 ³ 32 ⁴		25 ¹ 29 ² 34 ³ 32 ⁴

れてきた。もしわたしたちがヘブライ語で書き記したならば、見よ、わたしたちの記録は不完全なところがまつたくなかったであろう。

しかし主は、わたしたちが書き記してきたことを御存じであり、またわたしたちの言語を知っている民はほかにないということも、御存じである。そして、わたしたちの言語を知っている民はほかにないので、主はわたしたちの言語を翻訳する手段を備えられた。

35 また、これらのこと書き記したのは、不信仰に陥った同胞の血が、わたしたちの衣に降りかかる

のを避けるためである。

見よ、わたしたちが同胞について望んできたこれらのこと、まことに、彼らが再びキリストについて知ることができるようにすることは、この地に住んでいたすべての聖徒たちの祈りにかなっている。

主イエス・キリストが、信仰に応じて彼らの祈りを聞き届けてくださるように。また父なる神が、イスラエルの家と交わされた聖約を思ひ起こしてくださるように。そして、父なる神が彼らを、イエス・キリストの名を信じる信仰によつて、どこしに祝福してください。アーメン。

36	35	34
教義	①モルニ	教義テモサ
10	2	17 3
46	8	フ 1 23 8
49	24	26 28 13
		15 26 18

エテル書

モーサヤ王の時代にリムハイの民が発見した、二十四枚の版から取ったヤレド人の記録。

第1章

モロナイ、エテルの書いた記録を短くまとめる。エテルの系図。ヤレド人の言語、バベルの塔のある地で乱されることを免れる。主はヤレドの人をえり抜きの地に導き、大いなる国民とすることを約束される。

4わたしは、アダムの時代から大塔のときまでに起きたそれらの事柄については書き記さない。
それらの事柄はその版に載つてるので、その版を見つける者は、すべての内容を手に入れる力を持つであろう。

5しかし見よ、わたしが記すのはすべての話ではない。塔のときから彼らが滅びるときまで、話の一部のみを記す。

6わたしが記す話は次のとおりである。この記録を書き記したのはエテルであつて、コリアントルの子孫であつた。

7コリアントルはモロンの息子であり、

8モロンはイーサムの息子であり、

9イーサムはエーハの息子であり、

10エーハはセツの息子であり、

11セツはシブロンの息子であり、

12シブロンはコムの息子であり、

13コムはコリアンタムの息子であり、

1わたしモロナイは、この北の地の面で主の手によつて滅ぼされた、昔のあの民について話をすることにする。

2わたしは、リムハイの民が発見した二十四枚の版から取つてわたしの記録とする。その版はエテル書と呼ばれている。

3その版の記録の最初の部分には、世界の創造とアダムが造られたこと、そのときから大塔に至るま

- 14 コリアンタムはアムニガダの息子であり、
 15 アムニガダはアロンの息子であり、
 16 アロンはヘテの子孫であり、ヘテはヒアルサムの
 息子であり、
 17 ヒアルサムはリブの息子であり、
 18 リブはキシの息子であり、
 19 キシはコロムの息子であり、
 20 コロムはレビの息子であり、
 21 レビはキムの息子であり、
 22 キムはモリアントンの息子であり、
 23 モリアントンはリブレー・キシの子孫であり、
 24 リブレー・キシはシェズの息子であり、
 25 シェズはヘテの息子であり、
 26 ヘテはコムの息子であり、
 27 コムはコリアンタムの息子であり、
 28 コリアンタムはイーマーの息子であり、
 29 イーマーはオメルの息子であり、
 30 オメルはシュールの息子であり、
 31 シュールはキブの息子であり、
 32 キブはオンラインの息子であり、オンラインはヤレドの息子であった。

33 ヤレドは彼の一人の兄弟と彼らの家族、および人々のほかの人々と彼らの家族と一緒に、大塔のある所から出て来た。それは、主が民の言語を乱し、また激しく怒つて民を地の全面に散らすと誓われたときのことである。そして、主の言葉のとおりに民は散らされた。
 34 ヤレドの兄弟は体の大きな強い人であり、主か
 ら大いに恵みを受けていた人であつたので、彼の兄弟ヤレドは彼に言った。「主がわたしたちの言語を乱して、わたしたちが自分たちの言葉を理解できなくなることのないよう、主に祈り願つてほしい。」
 35 そこで、ヤレドの兄弟が主に呼び求めたところ、主はヤレドを哀れんで、ヤレドの言語を乱されなかつた。そのため、ヤレドと彼の兄弟には言語の混乱はなかつた。
 36 その後、ヤレドは彼の兄弟に言った。「もう一度主に呼び求めてほしい。そうすれば、主はわたしたちの友である人々から怒りを解いて、彼らの言語を乱されないかもしれない。」
 37 そこでヤレドの兄弟が主に呼び求めたところ、主は彼らの友人たちとその家族も哀れんで、彼ら

の言語も乱されなかつた。

38 そして、ヤレドは再び彼の兄弟に言つた。「主がわたらしたちをこの地から追い出すおつもりかどうか、行つて主に尋ねてほしい。そして、もし主がわたしたちをこの地から追い出さずおつもりであれば、わたしたちはどこに行くのか、主に祈つて尋ねてもらいたい。主は、全地の中でえり抜きの地に、わたしたちを連れ出してくださるかもしれない。もしそうであれば、わたしたちはそこを受け継ぎとして頂けるように、主に忠実であろうではないか。」

39 そこでヤレドの兄弟は、ヤレドの口を通して述べられたとおりに主に呼び求めた。

40 そこで主は、ヤレドの兄弟の祈りを聞き、彼を哀れんで言われた。

41 「行つて、あなたの家畜の群れを全種類雄も雌も集め、また地の種も全種類にわたつて集めなさい。また、あなたの族と、あなたの兄弟ヤレドと彼の家族、あなたの友人たちと彼らの家族、ヤレドの友人たちと彼らの家族を集めなさい。」

42 そして、あなたはこれを終えたら、彼らを率いて北方にある谷に下つて行きなさい。そこでわたし

はあなたに会おう。そして、わたしはあなたの前を行き、地のあらゆる土地に勝ったえり抜きの土地へとあなたを導こう。

43 そしてわたしは、あなたとあなたの子孫をそこで祝福し、またあなたの子孫と、あなたの兄弟の子孫と、あなたがたとともに行く者たちの子孫から、わたしのために一つの大いなる国民を起こそう。わたしがあなたがたの子孫からわたしのために起こす國民よりも大いなる國民は、地の全面に一つもないであろう。わたしがあなたにこのように行つのは、あなたがこのように長い間わたしに呼び求めてきたからである。」

第 2 章

ヤレド人、約束の地へ旅立つ用意をする。約束の地はえり抜きの地であり、この地の人々はキリストに仕えなければ一掃される。主は三時間ヤレドの兄弟に語られる。ヤレド人、数隻の船を造る。主はヤレドの兄弟に、どのようにして船内を明るくすることを望むかお尋ねになる。

42 ② ① ① GS 「約束の地」
③ ② ① エテ 6 : 16
アブ 2 : 3
1 ニフ 13 : 88
ニフ 30
1 - 2

1さて、ヤレドと彼の兄弟と、彼らの家族と、ヤレドの友人たちと、ヤレドの兄弟の友人たちと、友人たちの家族は、彼らの集めたあらゆる家畜の群れを雄も雌も連れて、北方にある谷に下つて行つた。（その谷の名は、力ある狩人にちなんで名付けられ、ニムロデといつた。）
 2彼らはまた、わなを仕かけて空の鳥を捕らえた。また、器を用意して水の魚を運んだ。
 3また、彼らはデゼレトも運んだ。デゼレトとは、蜜蜂という意味である。このようにして、彼らは幾つかの蜂の群れを運び、また地の面にあるあらゆるもの、あらゆる種も携えて行つた。

4さて、彼らがニムロデの谷に下つて行くと、主が降つて来て、ヤレドの兄弟と話された。しかし、主は雲の中におられたので、ヤレドの兄弟には主が見えなかつた。
 5そこで主は彼らに、荒れ野の中へ、すなわち、これまで人が決して住んだことのない地方へ行くよう命じられた。そして、主は彼らの前を行かれた。また、主は雲の中に立つて彼らと話し、彼らの旅をする方向について指示を与えた。

6そこで、彼らは荒れ野を旅し、数隻の船を造つてそれで多くの水を渡り、絶えず主の手に導かれて行つた。
 7主は、彼らが海を越えた荒れ野にとどまるることを許さず、彼らが約束の地まで行くことを望まれた。約束の地とは、ほかのあらゆる地に勝つたえり抜きの地で、主なる神が義にかなつた民のために残しておかれた所である。

8また主は激しく怒つて、この約束の地を所有する者はだれでもそのときから後とこしえに、主に、すなわちまことの唯一の神に仕えなければならず、さもなければ神の限りない怒りが彼らに下るときに彼らは一掃されると、ヤレドの兄弟に誓つておられた。

9さて、わたしたちは、約束の地であるこの地について神の定めを知ることができる。この地を所有する国民はどの国民も神に仕えなければならぬ。さもなければ、神の限りない怒りが彼らに下るときには、神の限りない怒りが彼らに下るのである。

10見よ、まことにこの地が、ほかのあらゆる地に勝つ

4	1	創世10 民数11 歴史1 出エ13 ジエ14 1 2 3
8	① GS ① エテ13 アル37 20, 28 7	5 1 21 68 14, 22

つたえり抜きの地だからである。したがつて、この地を所有する者は神に仕えなければならない。さもなければ一掃される。これは神の永遠の定めである。しかし、この地の子らの中に罪悪が満ちるまでも、彼らが一掃されることはない。

11 おお、異邦人よ、この記録をあなたがたに伝えるのは、あなたがたに神の定めを知らせるためである。また、あなたがたが悔い改めて、罪悪の満ちるまであなたがたの罪悪を続けることのないよう、

またこれまで、この地に住む民が自分のうえに神の限りない怒りを招いてきたようなことを、あなたがたもすることのないようにさせるためである。

12 見よ、この地はえり抜きの地であり、この地を所有する民はどの国民も、この地の神に仕えさえすれば、奴隸の状態にも囚われの身になることなく、天下のほかのどのような国民からも支配を受けない。この地の神とはイエス・キリストであり、わたしが書き記してきたことによつて、明らかにされた御方である。

13 さて、わたしは自分の記録を続けよう。見よ、主はヤレドと彼の同行者たちを、陸地と陸地を分けて

いる大海まで導かれた。そこで彼らは、海に着くと天幕を張り、その場所をモリアンカマーと名付けた。そして、彼らは天幕に住んだ。彼らは四年間、その海岸で天幕に住んだ。

14 さて、四年の終わりに、主は再びヤレドの兄弟を訪れ、雲の中に立つて彼と話された。そして、主は三時間ヤレドの兄弟と話し、彼が主の名を呼ぶことを思い起こさなかつたので、彼を懲らしめられた。

15 そこでヤレドの兄弟は、自分が行つた悪を悔い改め、自分とともにいた同行者たちのために主の名を呼んだ。すると、主は彼に言われた。「わたしはあなたを赦し、またあなたの同行者たちの罪を赦そう。あなたはもう罪を犯してはならない。あなたがたは覚えておきなさい。わたしの御靈はいつでも人を励ますわけではない。したがつてあなたがたは、罪の熟するまで罪を犯すならば、主の前から絶たれるであろう。これが、受け継ぎとしてあなたがたに与える土地についてのわたしの考え方である。なぜならば、この地は、ほかのあらゆる地に勝つたえり抜きの地だからである。」

15	14	12	11	10
①	②	①	②	①
モル	ニフ	創エ	GS	GS
エ	世テ	イ	ザ	自由
テ	9	16	6	15
	20	11	3	19
				28
				32
				37
				16

16 また主は、「仕事に取りかかり、あなたがたが前に造った船に倣つて船を造りなさい」と言われた。そこで、ヤレドの兄弟と彼の同行者たちは仕事に取りかかり、主の指示のとおりに、彼らがかつて造った方法で数隻の船を造つた。その船は小さく、水の上に軽く浮き、まるで水の上に軽く浮いた鳥のようであつた。

17 またその船は、透き間がなく非常によく造られており、水の漏れないことは皿のようであつた。その船底は皿のように透き間がなく、船腹も皿のように透き間がなく、船のへさきとともにはとがつておらず、船の屋根も皿のように透き間がなく、その船の長さは一本の木の長さであつた。また、船の入り口は、閉じると皿のようによく透き間がなかつた。

18さて、ヤレドの兄弟は主に祈つて言つた。「おお、主よ、わたしはあなたから命じられた務めを果たし、あなたから指示されたとおりに船を造りました。

19まことに、おお、主よ、船の中には光がありません。わたしたちはどこへ向かえればよいのでしょうか。また、わたしたちは死んでしまうことでしょう。

20すると、主はヤレドの兄弟に言われた。「見よ、屋根と船底に一つずつ穴を作りなさい。そして、空気で苦しむようになつたら、その穴の栓を抜いて空気を入れなさい。もし水が入つて来るようであれば、水があふれて死ぬことのないように、見よ、その穴をふさぎなさい。」

21そこでヤレドの兄弟は、主から命じられたとおりにした。

22そして、彼は再び主に祈つて言つた。「おお、主よ、御覧のとおり、わたしはあなたから命じられたように行いました。そして、わたしの民のために船を準備しました。そして、御覧のとおり、船の中には光がありません。まことに、おお、主よ、あなたはわたしたちに、暗闇の中でこの大海を渡らせようとなさるおつもりですか。」

23主はヤレドの兄弟に言われた。「あなたがたは、船の中に光があるようにするために、わたしに何をしてもらいたいのか。窓はばらばらに碎けるので、

見よ、窓を付けることはできない。また、火を携えることもない。火の光を使って旅をすることはないからである。

24 見よ、あなたがたは、海の中の鯨のようになるであろう。山のような波があなたがたに打ちつける。しかし、わたしは再び海の深みからあなたがたを連れ出そう。風はわたしの口から吹き出し、また雨と多くの水もわたしは送り出した。

25 見よ、わたしはこれらものに對してあなたがたを備えさせる。わたしが海の波と、吹きつける風と、寄せ来る多くの水に対してあなたがたを備えさせなければ、あなたがたはこの大いなる深みを渡ることができないからである。したがつて、あなたがたが海の深みにのまれるときに光があるように、あなたがたはわたしに何をしてもらいたいか。」

1さて（このときに準備された船の数は八隻であつた）、ヤレドの兄弟は、非常に高いために彼らがシーレム山と名付けた山に行き、一つの岩から十六個の小さな石を溶かし出した。その石は白く、透き通つており、透明なガラスのようであつた。そして、彼はそれらの石を両手に持つて山の頂上に登り、再び主に祈つて言つた。

2「おお、主よ、あなたは、わたしたちが必ず水の深みに取り閉まれると言われました。まことに、おお、主よ、あなたの僕があなたの御前にあつて弱いからということで、あなたの僕をお怒りにならないでください。わたしたちはあなたが聖なる御方であり、天に住んでおられること、そしてわたしたちがあなたの御前に取るに足りない者であることを存じています。墮落のために、わたしたちの性質は絶えず悪くなっています。にもかかわらず、おお、主よ、あなたはわたしたちに戒めを与えられ、わたしたちの望みに応じてあなたから得られるようになに請い願わなければならぬと言わされました。

ために解説器が準備される。

第3章
ヤレドの兄弟、主が十六個の石に触れられたときに主の指を見る。キリスト、ヤレドの兄弟に御自分の靈体をお見せになる。完全な知識を持つ者は、幕の内側を見ることを禁じられない。ヤレド人の記録を明るみに出すた

3 まことに、おお、主よ、あなたはわたしたちの罪悪のためにわたしたちを打ち、わたしたちを追い出されました。そして、わたしたちはこれまで何年間も荒れ野で暮らしてきました。それでも、あなたはわたしたちに憐れみをかけられました。おお、主よ、わたしたちを哀れと思い、あなたのこの民のからあなたの怒りを遠ざけ、この民が暗闇の中でこの荒れ狂う深みを越えて行くことのないようにしてください。わたしは岩から溶かし出したこれらのものを御覧ください。

4 おお、主よ、わたしはあなたが一切の権威をお持ちであり、あなたが人のために望まれることは何でもおできになることを存じています。ですから、おお、主よ、これらの中にあるあなたの指で触れて、これらの中にあるあなたの指で触れて、これらの石が暗闇の中で光を放つものとなるようにしてください。そうすれば、これらの石はわたしの準備した船の中でわたしたちのために光を放ち、わたしたちは海を渡る間、光を得ることができることになります。わたしはあなたが大きいなる力を示します。わたしはあなたが大きいなる力を示すでしよう。

5 まことに、おお、主よ、あなたにはこれがおでになります。わたしはあなたが大きいなる力を示すでしよう。

6 そして、ヤレドの兄弟がこれらの言葉を述べると、見よ、主は手を差し伸べて、指で一つ一つ石に触れられた。すると、ヤレドの兄弟の目から幕が取り除かれ、彼は主の指を見た。それは人の指のようで、血肉の指に似ていた。ところが、ヤレドの兄弟は恐怖に打たれ主の前に倒れた。

7 主はヤレドの兄弟が地に倒れたのを見て、彼に言われた。「立ち上がりなさい。なぜあなたは倒れたのか。」

8 そこで彼は主に答えた。「わたしは主の指を見て、主に打たれるのではないかと恐れました。主が血肉をお持ちであることを知らなかつたからです。」

9 すると主は彼に言わされた。「あなたは信仰があるので、わたしが将来血肉を受けるのを見たのである。これまでにあなたのようない深い信仰をもつて、わたしの前に来た者は一人もない。もしそうでなければ、あなたはわたしの指を見ることができなかつたであろう。あなたはこれ以外に何かを見たか。」

10 そこで彼は答えた。「いいえ。主よ、わたしに御

自身を現してください。

11 すると主は彼に言われた。「あなたはわたしが告げることばを信じるか。」

12 そこで、彼は答えた。「はい。主よ、わたしはあなたが眞実を告げられることを存じています。あなたたは眞理の神であり、偽りを言われることはあります。」

13 彼がこれらの言葉を述べ終えると、見よ、主は彼に御自身を現して言われた。「あなたはこれらのことを見ついているので、堕落から贖われ、わたしの前に連れ戻されている。そこで、わたしはあなたにわたし自身を現す。

14 見よ、わたしは、自分の民を贖うために世の初めから備えられた者である。見よ、わたしはイエス

ス・キリストである。わたしは父であり、子である。わたしによつて全人類は命を得る。すなわち、わたしの名を信じる者は永遠に命を得る。そして、これらの者はわたしの息子となり、娘となる。

15わたしは、これまでわたしの造った者に一度もわたし自身を現したことはない。あなたほど深くわたしを信じた者がいなかつたからである。あなた

は、あなたがたがわたし自身の形に造られている
ことが分かつたか。まことに、すべての人は初めに
わたし自身の形に造られたのである。
16 見よ、あなたが今見ているこの**体**は、わたしの
靈の**体**である。わたしは自分の**靈の体**に倣つて人
を造つた。わたしは今、靈の**状態**であなたに現れ
ているように、将来**肉**にあつてわたしの**民**に現れ

さて、わたしモロナイは、書き記されているこれらのことについて、すべてを記することはできないと、前に述べたので、次のことを言えばわたしにとつて十分である。すなわちエヌは、二ーフアイ人にして、自身を現されたときと同じように、同じ体の形で、靈の状態でこの人に御自身を現された。

18 またイエスは、二ーハアイ人を教え導かれたよう
に、彼をも教え導かれた。これはすべて、主がこれ
までこの人に示された多くの大いなる業によつて、
御自分が神であられることを彼に知らせるためで

19 この人は知識があつたので、幕の内側を見るのを禁じられなかつた。そして彼は、イエスの指を見る

て、見たときに恐れて倒れてしまった。それが主の指であることを知つたからである。彼が得ているものは、もはや信仰ではなかつた。なぜなら、彼は何の疑いもなく知つたからである。

なさい。

20 したがつて、彼は神についてのこの完全な知識を得たので、幕の内側を見るのを禁じられなかつた。それゆえ、彼はイエスにまみえた。そして、イエスは彼を教え導かれたのであつた。

24 見よ、あなたが書き記す言語はわたしがすでに乱したので、わたしは自分がふさわしいと思うときによつて人々の目に明らかにさせよう。』

21 さて、主はヤレドの兄弟に言われた。「見よ、わたしが肉にあつてわたしの名に栄光を受ける時が来るまで、あなたは見聞きしたこれらの人々に公にしてはならない。あなたは見聞きしたことを中心におき、だれにもそれを知らせてはならない。

25 主はこれらの御言葉を語ると、かつてこの世にいた地のすべての民と、これからこの世に来るすべての民をヤレドの兄弟にお見せになつた。また主は彼らを、地の果てに至るまで彼に見せずにはおかれなかつた。

22 見よ、あなたはわたしのもとに来ると、これらの人々に公にしてはならない。あなたは見聞きしたことなどを書き記し、それを封じて、だれもこれらが読めない言語でこれらのこと書き記すので、だれも読むことができない。

26 主は以前に何度か、もし自分を信じるならば、あらゆるものを見せることができる、必ず見せると、彼に言つておられた。そこで主は、彼に何事も見せずにはおかれなかつた。彼は、主があらゆるものを見せることがおできになることを、知つていたからである。

27 28 27 26 25 23 21 20
 ① ③ ② ① ① ① エテ 4 12
 教義 2 27 トニミ GS 「ウリムとモセ」 1 8
 17 1 6 3 11 13
 8 8

23 見よ、これらの二つの石をあなたに与えよう。あなたは書き記すこととともに、これらの石も封じて、主がこれらのこと人の子らに示されると

きまで、これを示してはならないと命じられた。

第4章

モロナイト、ヤレドの兄弟の記録を封じるよう命じられる。その記録は、人々がヤレドの兄弟のような信仰を持つまで明らかにされない。リスト、御自分の言葉と弟子たちの言葉を信じるように人々に命じられる。人々は、悔い改めて福音を信じることによって救いを得るよう命じられる。

1 主はヤレドの兄弟に、主の前を去つて山を下だり、見たことを書き記すよう命じられた。しかし書き記す内容は、主が十字架に上げられる後まで、人の子らに明らかにするのを禁じられた。このためにモーサヤ王は、キリストが御自分の民に御自身を現される後まで、その記録が世の人々に明らかにされることのないよう保存したのであつた。

2 そしてキリストは、実際に御自分の民に御自身を現された後、それを明らかにするようと命じられたのである。

3 その後、彼らは皆不信仰に陥り、今はレーマン

人のほかにはだれもいない。そして、レーマン人もキリストの福音を拒んだので、わたしはその記録を再び地中に隠すよう命じられている。

4 見よ、わたしは、ヤレドの兄弟が見たとおりのことをこの版に書き記した。ヤレドの兄弟に明らかにされたこと以上に大きいなることは、いまだかつて明らかにされたことがない。

5 そこで主はわたしに、それらのことを書き記すように命じられた。そして、わたしはそれを書き記した。すると、主はわたしに、それを封じるよう命じられた。また、主がその解説も封じるよう命じられたので、わたしは主の命じられたとおりに解説器も封じた。

6 主がわたしに、「異邦人が彼らの罪悪を悔い改めて、わたしの前に清くなる日まで、これらのものは異邦人に伝わることがないであろう」と言われたからである。

7 また、主は言われる。「彼らがわたしによつて聖い者となるために、ヤレドの兄弟のようにわたしを信じる日に、わたしはヤレドの兄弟が見たことを彼らに示し、わたしが啓示したことすべて彼

1	エテ 12
2	エテ 3
3	モル 8 14 21
4	エテ 5 1
5	エテ 17 1
6	エテ 1 52
7	エテ 1 GS 「ウリムとトニミム」
8	エテ 3 GS 「聖め」

らに明らかにしよう」と、神の御子であり、天地の父である万物の父であるイエス・キリストは言われる。

8 「主の言葉に逆らう者はのろわれよ。これらのことを否定するものの中のろわれよ。わたしはそのような者には、これ以上大きいなることを示すまい。このように語るのはわたしである」と、イエス・キリストは言われる。

9 「わたしの命令で天は開かれ、また閉ざされる。わたしの言葉で地は揺れ動く。また、わたしの命令で、地上に住む者はまさに火で焼かれるようにして世を去る。

10 わたしの言葉を信じない者は、わたしの弟子たちをも信じない。わたしが語つていなかどうか、考えてみなさい。今語つているのがわたしであることを、あなたがたは終わりの日に知るであろう。

11 わたしが語つたこれらのこと信じる者に、わたしはわたしの御靈の示しを与えるので、その者は知つて、証を述べるであろう。わたしの御靈のゆえに、その人はこれらのこと眞じつであることをおこなし、善を行ふようを知るであろう。わたしの御靈は、善を行ふよう

に人々を促すからである。
ひとびとうなが

12 善を行ふように人々を促すものはすべて、わたし
からで出る。善はわたし以外の者からは出ない。

ひとびと
人々をあらゆる善に導く者はわたしである。わたし
ことは、⁽²⁾しまんこ、もやは、つこひ、すなつうのこ

の言葉を信じない者はわたしをすなれぢれた
しが実在していることを信じない。わたしを信じな
るもの つか ちぢみ しん

い者は、わたしを遣わされた父をも信じない。見よ、わたしは父であり、光であり、命であり、世よ

13 おお、異邦人よ、わたしのもとに來なさい。^①わ
の真理である。^{しんり}

たしはもつと大きいなること、すなわち不信仰のた
れこ悪ざして、いふ田嶽(たけし)であなこがよこそ
う。

14 おお、イスラエルの家よ、わたしのもとに来なさ
わい隠されている知識をおながかに示す。

い。父が世の初めから、あなたがたのためにどれほど大きなものを備えてこられたかを、あなたがた

に示そう。それがまだあなたがたに知らされていないのは、
不信のためである。

15 見よ、おお、イスラエルの家よ、あなたがたを恐ろし、ハ那惡な状態、心のかたくなな状態、思ハを

くらまされた状態にとどめさせるあの不信抑の幕をあなたがたが裂くとき、世の初めからあなたが

たに對して隠されてきた大いなる驚くべきことがあきらかにされるであろう。まことに、打ち碎かれた心と悔いる靈をもつてわたしの名によつて父に呼び求めるとき、あなたがたは、父があなたがたの先祖に立てられた聖約をすでに思い出されたことを知るであろう。

16 その後(のち)、わたしが僕(しもべ)ヨハネに書き記させたわたしの啓示(けいじ)は、すべての民(たみ)の目(め)に明らかにされるであろう。覚えておきなさい。

あなたがたはこれらのことを目にするとき、その啓示が実際に明らかにされる時の近いことが分かるであろう。

17 したがつて、あなたがたはこの記録(きろく)を受けるとき、父の業が地の全面で始まつているのを知るであろう。

18 だから、地の果てに至るすべての者よ、悔い改め

めてわたしのもとに来なさい。そして、わたしの福音(いんふん)を信じて、わたしの名によつてバプテスマを受けなさい。信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、信じない者は罰の定めを受ける。わ

たしの名を信じる者にはしるしが伴う。わ
19 終わりの日に、わたしの名に忠実であると認め

られる者は幸いである。そのような者は高く上げられて、世の初めから用意されている王国に住むであろう。見よ、これを語つたのはわたしである。アーメン。」

第5章 三人の証人と書物そのものが、「モルモン書」が眞実であるとの証となる。

1さて、わたしモロナイは、命じられた言葉を記憶に従つて書き記してきた。また、わたしが封じたものについてもあなたに告げた。したがつて、封じられていてるものに手を着けて翻訳しようとしてはならない。そのことは禁じられているからである。しかし、やがてそれが神の知恵にかなう時が来るであろう。

2また見よ、あなたは、この書物を出す助けをする者たちに版を見せるのを、特別に許されるであろう。

3版は神の力によつて三人の者に示されるので、その三人はこれらのことが眞実であるのを確かに

1 ① 2 ニフ 27 · 7 · 8,	16 15
2 ① 2 ニフ 27 · 14 · 1,	17 ① 1 ニフ 27
3 ① 2 ニフ 11 · 3,	18 ② 3 ニフ 27 · 20,
2 ① 2 ニフ 15 · 12 · 14,	モロ 7 · 34 ヨハ 3 · 3 · 5,
教義 6 · 13, モサ 2 · 41	GS 「バプテスマ」必要不可欠な条件 GS 「御靈の賜物」
② 2 ニフ 9 · 18	GS 「イエスキリスト」 領名を受ける

知るであろう。

4 そして、三人の証人の口を通してこれらのことは確認される。また、三人の証とこの書物、すなわち、御父と御子と聖靈が証しておられる神の言葉と神の力を明らかにするこの書物は、終わりの日に世の人々に対する証となるであろう。^①

5 もしも世の人々が悔い改めて、イエスの名によつて御父のもとに来るならば、彼らは神の王国に迎え入れられるであろう。

6 さて、これらのこと述べる権能がわたしにならぬかどうか、考えてみなさい。あなたがたは終わりの日にわたしに会い、ともに神の前に立つとき、わたしに権能があることを知るであろう。アーメン。

第 6 章

ヤレド人の船は風に運ばれて約束の地に向かう。民は主の慈しみを思い、主をほめたたえる。オライハ、民を治める王に選ばれる。ヤレドと彼の兄弟、死ぬ。

1さて、わたしモロナイは、ヤレドと彼の兄弟についての記録を書き進めよう。

2さて、ヤレドの兄弟が山に持つて登つた石を主が備えてくださった後、ヤレドの兄弟は山を下り、すでに準備しておいた船の中の、へさきとともにその石を一つずつ置いた。すると見よ、その石によつて船の中が明るくなつた。

3このように主は、暗闇の中で石が輝くようにして、男や女、子供たちが暗闇の状態で大海を渡らなくともよいように、彼らに光を与えた。

4さて、彼らは海上で暮らせるように、あらゆる食物を準備し、また大小の家畜の群れと、一緒に連れて行くあらゆる獸や動物や鳥のためのえさも準備した。そして、これらのことすべて終えると、彼らのはしけのような船に乗り込み、主なる神に身を託して海に出た。

5そこで主なる神は、水の面上に約束の地に向かつて吹く激しい風を起こされた。そのため、船は追い風を受けて海の波の上を運ばれて行つた。

6そして船は、碎ける山のような波と、激しい風によつて生じたさまじい大暴風雨のために、何度も海の深みに沈められた。

7さて、彼らの船は深みに沈められても、皿のよう

に透き間がなく、ノアの箱船の②ようにしつかりして水が漏らなかつたので、彼らは少しも水による害を受けなかつた。そこで彼らは、海の深みに沈むと、主に叫び求めた。すると、主は船を再び水面に引き戻された。

8 そして、船が海上にある間に、風は一度もやむことなく約束の地に向かつて吹き続けた。そのため、彼らは追い風を受けて進んだ。

9 そして、彼らは主に贊美の歌を歌つた。まことに、ヤレドの兄弟は主に贊美の歌を歌い、一日中主に感謝し、主をほめたたえた。夜になつても、彼らは主をほめたたえるのをやめなかつた。

10 このようにして、彼らは進んで行き、海上に怪物も彼らの船を裂くことができず、鯨も彼らの船を害することができなかつた。また、海上にあるときも、海中にあるときも、いつも彼らには光があつた。

11 このようにして、船は海上を三百四十四日間運ばれて行つた。

12 そして、彼らは約束の地の海岸に上陸した。彼らは約束の地の海岸に足を踏み下ろすと、地の面にひれ伏して主の前にへりくだり、主が深い憐れ

13 そして彼らは、地の面に出て行き、地を耕し始めた。

14 ヤレドには四人の息子があり、その息子はジエコム、ギルガ、メーハ、オライハと呼ばれた。

15 また、ヤレドの兄弟も息子たちと娘たちをもうけた。

16 また、ヤレドの友人たちとヤレドの兄弟の友人たちの人数はおよそ二十二人であり、彼らも約束の地に来る前に息子たちと娘たちをもうけていた。そのためには彼らは多くなり始めた。

17 彼らは主の前をへりくだつて歩むことを教えられ、天からも教えを受けた。

18 そして彼らは、地の面に広がり、増えて、土地を耕し始め、その地で強くなつた。

19 ヤレドの兄弟は年を取つてきて、間もなく墓に入らなければならぬことを知つた。そこで、彼らはヤレドに言つた。「わたしたちの民の人数を数えるために、またわしたちが墓に入る前に、民がわたしたちに何を望むかを知るために、民を集めよう。」

17 16 ① ① GS 「^{モセ}_{アル}」⁷ ① GS 「^{エテ}_義」⁷ ① GS 「^{創世記}_テ」⁷ ① GS 「^上_神」⁷ ① GS 「^{歌う}₄₁」⁷ ① GS 「⁷」₉ ② GS 「⁷」₉ ② GS 「^{福音}₃₂」⁷ ② GS 「^{啓示}₃₇」⁷

20 そこで、民が集められた。ヤレドの兄弟の息子、娘の人数は二十二人、ヤレドの息子、娘の人数は十二人で、ヤレドには四人の息子がいた。

21 さて、彼らは民の人数を数えた。そして、人数を数え終えると、彼らは自分たちが墓に入る前に何をしてほしいか、民に尋ねた。

22 そこで民は、彼らの息子たちの中の一人に油を注いで、民を治める王にするように求めた。

23 さて見よ、これは彼らにとつて嘆かわしいことであつた。そこで、ヤレドの兄弟は、「そのようなことをすれば、必ず囚われの身に陥ることになる」と民に言った。

24 しかし、ヤレドは彼の兄弟に、「彼らが王を持つのを許そう」と言つた。そこでヤレドの兄弟は、「わたしたちの息子たちの中から、あなたがたが望む者を王に選びなさい」と民に言つた。

25 そこで、彼らはヤレドの兄弟の長男を選んだ。彼の名はペーガグといつた。ところが、彼は断つて、王になろうとしたしなかつた。そこで民は彼の父に、彼を何としてでも王にするよう願つたが、父はそ

はならないと民に命じた。

26 そして、民はペーガグの兄弟を次々に選んだが、彼らはだれも応じなかつた。

27 そして、ヤレドの息子たちも、ただ一人を除いて、民を治める王になつた。

28 そして、オライハが統治し始め、民は榮えるようになり、非常に豊かになつた。

29 そして、ヤレドが死に、彼の兄弟も死んだ。

30 そして、オライハは主の前をへりくだつて歩み、主が彼の父のためにどれほど偉大なことを行われたかを覚え、また主が民の先祖のためにどれほど大いなることを行われたかを民に教えた。

第 7 章
オライハ、義をもつて治める。侵略と争いの中で、シユールの王国とコーエルの王国が互いに敵対して築かれ。預言者たちが民の悪事と偶像礼拝を非難し、民は悔い改める。

1 さて、オライハは生涯この地で義をもつて裁き

を行ひ、彼の一生成常に長かつた。

2また、彼は息子たちと娘たちをもうけた。すなわち、彼は三十人の子供をもうけ、その中の二十三人が息子であった。

3そして、彼は年老いてキブをもうけた。そして、キブが彼に代わって統治し、またキブはコリホルをもうけた。

4ところがコリホルは、三十二歳のときに父に背いて、二一ホルの地へ行つて住んだ。そして彼は、息子たちと娘たちをもうけた。ところが、子供たちが非常に美しくなつたので、コリホルは多くの人を引き寄せて自分につかせた。

5そして彼は、軍隊を召集すると、王の住んでいたモロンの地へ上つて行き、王を捕らえた。このことによつて、囚われの身に陥るであろうというヤレドの兄弟の言葉が事実となつたのであつた。

6王が住んでいたモロンの地は、ニーフアイ人がデソレションと呼んでいる地に近かつた。7そして、キブは高齢になるまで囚われの身で暮らし、彼の民も、キブの息子であるコリホルの下で囚われの身であつた。それでもキブは、囚われの状

態にありながら、年老いてシユールをもうけた。8さて、シユールは兄のことを怒つた。シユールは強くなり、体力の点でも強くなり、また判断力も優れた者になつた。

9さて、彼はエフライムの丘に行き、その丘で金属を溶かし出し、自分に引き寄せていた者たちのために鋼で剣を造つた。そして彼は、剣で彼らを武装させてから、二一ホルの町に引き返し、兄のコリホルを攻めた。その結果、彼は王国を手中に收め、それを父キブに返した。

10すると、シユールがこのことを行つたので、父は王位をシユールに授けた。そこで、シユールは父に代わつて統治し始めた。

11そして彼は、義をもつて裁きを行ひ、また民が非常に大勢になつたので、地の全面に王国の領土を広げた。

12そして、シユールも多くの息子、娘をもうけた。13さらに、コリホルが彼の行つた多くの悪事を悔い改めたので、シユールは彼に王国内で力を持たせた。

14さて、コリホルにも多くの息子、娘があり、息子

たちの中にノアといいう名の者がいた。

- さて、ノアは、王のシユールと父コーホルに背いて、兄弟コーホルとほかの兄弟全員と多くの人を味方に引き入れた。
 16 そして彼は、王のシユールを攻めて、彼らの最初の受け継ぎの地を手に入れ、この地方を治める王になつた。
 17 そして彼は、また王のシユールを攻めて捕らえ、モロンに連れ去つた。
- 18 そして、ノアがまさにシユールを殺そうとしたときに、シユールの息子たちは、夜に紛れてノアの家に忍び込んでノアを殺し、牢の扉を壊して父を連れ出した。そして彼らは、シユールをシユール自身の王国で王座に着かせた。
- 19 また、ノアの息子もノアに代わって王国を築き上げたが、彼らは二度と王のシユールを支配する勢力をを持つことはなかつた。そして、シユール王の統治下にある人々は、非常に栄えて富んだ。
- 20 しかし、国は分割され、二つの王国、すなわち、シユールの王国と、ノアの息子コーホルの王国があつた。

- 21 ノアの息子コーホルは、民にシユールを攻めさせたが、その戦いでシユールは彼らを打ち負かして、コーホルを殺した。
- 22 コーホルには、ニムロデと呼ばれた息子がない。このニムロデは、コーホルの王国をシユールに譲り渡し、シユールの好意を得た。その結果、彼はシユールから大いに引き立てられ、シユールの王国内で自分の思いどおりのことを行つた。
- 23 また、シユールの治世に、主から遣わされた預言者たちが民の中にやつて来て、民の悪事と偶像礼拝が地にのろいを招いており、もし悔い改めなければ民は滅ぼされると預言した。
- 24 さて民は、その預言者たちをののしり、あざけつた。そこでシユール王は、預言者たちをののしつたすべての者を罰した。
- 25 また彼は、全地で法律を施行し、その法律によつて預言者たちに、彼らの望む所へはどこへでも行ける権限を与えた。このことによつて、民は悔い改めるようになつた。
- 26 そして民が、彼らの罪悪と偶像礼拝を悔い改めたので、主は彼らを赦された。そして彼らは、再び

地に榮え始めた。またシユールは、年老いて息子たちと娘たちをもうけた。

27 シュールの時代には、もはや戦争はなかつた。そして彼は、主が自分のために先祖のために数々偉大なことを行つて、大いなる深みを渡らせて先祖を約束の地に導いてくださつたことを思い起こし、生涯をもつて裁きを行つた。

第8章
王国全体に対立と争いがある。エーキシ、王を殺すために誓いの言葉で結ばれた秘密結社を作る。秘密結社は悪魔から出たものであり、結局は人々を滅ぼす。あらゆる地、あらゆる国民、あらゆる国々を自由を覆そうとする秘密結社について、現代の異邦人に警告が発せられる。

1さて、シユールはオメルをもうけ、オメルがシユールに代わつて統治した。また、オメルはヤレドをもうけ、ヤレドは息子たちと娘たちをもうけた。
2そして、ヤレドは父に背き、ヘテの地に行つて住んだ。彼は巧みな言葉で多くの人にへつらい、とうとう王国の半分を得るに至つた。

3そして彼は王国の半分を得ると、父を攻め、父を連れ去つて囚われの状態に置き、囚われの状態で仕えさせた。
4オメルは彼の統治の間、生涯の半分を囚われの身で過ごした。それから彼は息子たちと娘たちをもうけ、その中にエズロムとコリアンタマーがいた。
5この二人は自分たちの兄ヤレドの行つたことを非常に怒り、軍隊を組織してヤレドを攻めた。そして夜に紛れて、一人は彼を攻めたのである。
6そして彼らは、ヤレドの軍隊を滅ぼしてしまふと、ヤレドも殺してしまおうとした。するとヤレドは、殺さないでほしい、そうすれば王国を父に譲り渡そうと言つて懇願した。そこで彼らは彼の命を許した。
7さて、ヤレドは王国と世の誉れに執着していたので、王国を失つたことを非常に悲しく思った。
8ところで、ヤレドの娘は非常に利口であつたので、父が悲しんでいるのを見て、父のために王国を取り戻す策を講じようとした。
9ヤレドの娘は非常に美しかつた。そこで彼女は父と語つて言つた。「父上はどうしてそのようにひど

く悲しんでおられるのですか。わたしたちの先祖が
おおきいなる深みを渡つて持つて来た記録を、お読みに
なつたことがないのですか。まことに、秘密のは
かりごとによつて王位おういと大きな栄華を得た、昔の
人々ひとびとについての話はなしがあるではありますか。

10 父上ちちうえ、キムノルの息子のエーキシを迎えてやつて
ください。まことに、わたしは美しいので、彼の前まへ
で踊り、彼を喜ばせて、わたしを妻つまにしたいと思わ
せるようにしましよう。もし彼がわたしを妻つまにした
いと父上ちちうえに願つたら、そのとき父上おうじは、「王である
わたしの父の首あだをわたしのところに持つて来れば娘むすめを
与えよう」と言つてください。」

11 オメルはエーキシの友人であつた。さて、ヤレド
がエーキシを迎えてやると、ヤレドの娘むすめは彼の前まへ
で踊つて彼を喜ばせたので、彼は彼女を妻つまにした
いと思つた。そして、彼はヤレドに、「王であるわたし
の父の首あだをわたしのところに持つて来れば娘むすめを与え
よう。」

12 そこで、ヤレドは彼に言つた。「王であるわたし
の父の首あだをわたしのところに持つて来れば娘むすめを与え
よう。」

13 そこでエーキシは、ヤレドの家に自分の親族じぶんしんぞくを
皆集めて言つた。「わたしがこれから頼むことにつ
いて、わたしに忠誠ちゆうせいを誓ちかつてくれるだろうか。」

14 そこで彼らは皆、エーキシが求めた援助えんじょを行わな
い者はだれでも首くびをはねられ、また、エーキシから
知さられたことを何事なんごでも漏もらす者はだれでも命もの
を失うと、天てんの神かみにかけて、また天てんにかけ、地ぢにか
けて、さらに自分の頭かしらにかけて彼に誓ちかつた。

15 そして、彼らはエーキシに同意どういした。そこでエーキシは、権力けんりょくを求めて昔むかしの人々ひとびとが行つた誓ちかいを彼らに
立てさせた。これらの誓ちかいは、世の初めから人殺ひとごろし
であつたカインから伝つたえられてきたものである。

16 この誓ちかいは、民みんにこの誓ちかいを立てさせて民みんを暗闇くらやみ
の中なかにとどめるために、また権力けんりょくを求める者ものに權
力を得させ、殺人さつじんと略奪りやくだつと偽りと、あらゆる悪事あくじ
とみだらな行いを犯させるために、悪魔あくまの力によ
つて保たれてきたものであつた。

17 ヤレドの心こころの中に、これらの昔むかしのことを探り出す
氣持きもちを起こさせたのは、ヤレドの娘むすめであつた。そ
して、ヤレドがその氣持きもちをエーキシの心こころの中に起
こさせたので、エーキシは自分の親族じぶんしんぞくと友人ゆじんたちに
誓ちかいを立てさせ、もつともらしい約束やくそくで彼らを惑まどわ

して、自分の求めることを何事でも行わせたのであつた。

18 そして、彼らは昔の人々のように秘密結社を作つた。この結社は、神の目から見て、どのようなものにも増して最も忌まわしく、邪悪なものである。

19 主は秘密結社によつて事を行われる事はなく、また主は、人が血を流すことを探まれず、人が造られた以来あらゆることにおいてそれを禁じてこられた。

20 さて、わたしモロナイは、彼らの誓いの方法と結社の様式について書き記さない。これらがあらゆる民の中にあり、レーマン人の中にもあることが、わたしに知らされたからである。

21 これらが、わたしの今述べているこの民の滅亡を引き起こしたのである。また、ニーファイの民の滅亡も同じである。

22 権力と利益を得るために、このような秘密結社が全地に広がるまで支援する国民は、見よ、どのような國民でも滅ぼされる。なぜならば、なぜかによって流される主の聖徒たちの血が、秘密結社への報復を訴えて地から叫ぶからである。

23 おお、あなたがた異邦人よ、これらのことがあなたがたに知らされるのは、神の知恵にかなつてゐる。それによつてあなたがたが罪を悔い改めることができるようにするためであり、また権力と利益を得るために築かれるこれらの殺人結社に支配されるこのないようにするためで、その業、すなわち滅亡の業があなたがたに及ばないようにするためである。もしこれらのことが起ころうと、永遠なる神の罰の剣があなたがたに下り、あなたがたは打ち倒され、滅びるであろう。

24 そこで、主はあなたがたに、これらのものがあるからである。殺された者たちの血のゆえに、秘密結社は災いである。これらの者たちの血が、秘密結社への、また秘密結社を建築した者たちへの報復を訴えて、地から叫ぶからである。

25 さて、秘密結社を築く者はあらゆる地、国民、

國々の自由を覆そつとする。そして、秘密結社は
あらゆる民の滅亡をもたらす。それはあらゆる偽り者の父である悪魔によつて築かれるからである。悪魔はわたしたちの始祖をだましたあの偽り者であり、また初めから人を殺人を犯させたあの偽り者であり、また人々の心をかたくなにして、初めから人々に預言者のを殺させ、石で打たせ、追い出させたあの偽り者である。

そこでわたしモロナイは、これらのこと書き記してしるる。す
のように命めいじられている。このことによつて、悪あくい、惑わくが
なくなるようにするためであり、またサタンが人の心ひに
子こらの心こころを支配しはいする力ちからを持もつことなく、彼らが絶え
ず善ぜんを行おなうように促うながされてあらゆる義ぎの源みなもとに来て、
救すくわれる時ときが来るようにするためである。

血統により、また陰謀と殺人により、王位が次々に移る。イーマー、義の御園にまみえる。多くの預言者が悔い改めを叫ぶ。飢饉と毒蛇が民を苦しめる。

さて、わたしモロナイは記録を続ける。さて見み

第9章

よ、エーキシと彼の仲間たちは、彼らの秘密結社で、見よ、オメルの王国を倒した。
2 それでも主は、オメルとオメルを殺そうとしなかつた彼の息子たちと娘たちに憐れみをかけられた。
3 そして主は、その地を去るよう夢の中までオメルに警告された。そこでオメルは、家族を連れてその地を去り、幾日もの間旅をして、シムの丘のそばを通り、ニーフアイ人が滅ぼされた地方の近くを通り、そこから東の方に向かって、海岸に近いアプロムと呼ばれる地方に着いた。そして彼はそこに天幕を張り、またヤレドと彼の家族を除く、オメルの息子たちと娘たち、およびオメルの家のすべての者が皆、そこに天幕を張った。

4 さて、ヤレドは、悪の手によつて油を注がれて、民を治める王になり、娘をエーキシに妻として与えた。

4 さて、ヤレドは、悪の手によつて油を注がれて、また民を治める王になり、娘をエーキシに妻として与えた。

5 さて、エーキシは義父の命を取ろうとして、昔人々の誓いの言葉で誓つていた仲間に頼んだ。そして彼らはエーキシの義父の首をはねた。それは、彼が王座に着いて、民の訴えを聞いていた最

中のことであつた。

3	1	第	9	26	25
(2)	①	①	モ	(2)	①
モ	モ	モ	ロ	セ	モサ
モ	モ	モ	7	16	9
ル	工	モ	2	4	3
6	1	モ	1	3	1
3	13	モ	12	5	9
15	4	モ	フ	3	1
23		モ	フ	19	13
		モ	フ	4	
		モ	フ	26	

6 この邪悪な秘密結社は、その広がりが非常に大きく、すでにすべての民の心を腐敗させていた。そのため、ヤレドは王座に着いていて殺され、エーキシが彼に代わって統治したのであった。

7さて、エーキシは息子をねたむようになり、息子を牢に閉じ込めてほとんど食物を与えず、とうとう飢え死にさせてしまった。

8すると、死んだ息子の兄弟（その名をニムラという）が、自分の兄弟に対して行つた父の仕打ちのことで父を怒つた。

9そしてニムラは、少数の人々を集めてその地から逃げ出し、オメルのもとに行つてともに住んだ。

10さて、エーキシはほかにも息子たちをもうけた。しかし、その息子たちは、父から求められるままにあらゆる悪事を行つと父に誓つていたにもかかわらず、民の信用を得た。

11エーキシが権力を得たいと望んでいたように、エーキシの民も利得を得ることを望んでいたので、エーキシの息子たちは彼らに金錢を与えて、民の大半を引き寄せて自分たちに従わせたのである。

12そこで、エーキシの息子たちとエーキシの間で戦

13そこで、オメルは再び自分の受け継ぎの地へ戻つた。

14さて、オメルは年を取つてきたが、それでも老年に及んでイーマーをもうけた。そして、オメルはイーマーに油を注ぎ、彼を自分に代わって統治する王とした。

15オメルは、油を注いでイーマーを王とした後、二年間に、国の平和な有様を見てから死んだ。彼の一生は非常に長かつたが、悲しみに満ちたものであった。その後、イーマーが父に代わって統治し、父の足跡を歩んだ。

16主は再び地からのろいを取り去られ、イーマーの家はイーマーの統治の間に非常に榮えた。そして、六十二年の間に彼らは大きな力をつけ、非常に豊かになつた。

17彼らはあらゆる果物や穀物、絹布や織り目の細かい亞麻布、また金や銀や貴重な品々を持つよう

になり、

18 またあらゆる家畜、雄牛、雌牛、羊、豚、やぎ、
そのほか人の食用となる多くの動物も持つようになつた。

19 彼らは馬とろばも持ち、また象とクレーロムと
クモムもいた。これらはすべて人のために役立つた

が、特に象とクレーロムとクモムは役に立つた。

20 このように、主はほかのあらゆる地に勝つたえり
抜きのこの地に祝福を注がれた。そして主は、こ

の地を所有する者はだれであろうと、主のためにここに住まなければならず、さもなければ、民の罪悪が熟したときに民は滅ぼされると命じられた。

なぜならば主は、「わたしはそのような者にわたしの限りない怒りを注ぐ」と言われるからである。

21 イーマーは生涯義をもつて裁きを行い、また多くの息子たちと娘たちをもうけた。また、彼はコリアンタムをもうけ、彼に油を注いで自分に代わつて統治させた。

22 彼は自分に代わつて統治するようコリアンタム

に油を注いだ後、四年間生き長らえ、国の平和な

有様を見た。また、彼は義の御子にさえまみえ、主

の日を喜んで誇りに思い、そして安らかに死んだ。

23 さて、コリアンタムは父の足跡に従つて歩んだ。
そして、多くの大きな町を築き、生涯民に良いものを与えた。しかし、高齢になるまで彼には子供

がいなかつた。

24 そして、彼の妻が百二歳で死んだので、コリアンタムは老年に及んで若いおとめをめとり、息子たちと娘たちをもうけた。彼は白四十二歳まで生き長らえた。

25 そして、彼はコムをもうけ、コムが彼に代わつて統治した。コムは四十九年間統治した。また、彼はヘテをもうけ、ほかにも息子たちと娘たちをもうけた。

26 民はすでに再び地の全面に広がつており、地の面でひどい大きな悪事が行われ始めた。そして、ヘテは自分の父を殺そうとして、昔の秘密のはかりごとをまた受け入れるようになつた。

27 そして、彼は自分の剣で父を殺して王位から退け、自分が代わつて統治した。

28 すると、またこの地に預言者たちがやつて来て、民に悔い改めを叫び、民は主の道を備えなけれ

ばならない、さもなければ地の面にのろいが下る、すなわち、悔改めなければひどい飢饉があつて滅ぼされる、と告げた。

29 しかし民は預言者たちの言葉を信じることなく、彼らを追い出した。また、民はある預言者たちを穴の中に投げ込み、そのまま放置しておいて死なせた。そして、民はこれらのことをして、ヘ

テ王の命令によつて行つたのであつた。
30 さて、地にひどい飢饉が起り、その飢饉のためにその地に住む者たちが次から次へと死んでいつた。地の面に雨が少しも降らなかつたからである。

31 また、地の面に毒蛇も現れ、多くの人がその毒で死んだ。そして、彼らの家畜の群れは毒蛇に追われて、二ーファイ人がゼラヘムラと呼んだ南方の地へ向かつて逃げ始めた。

32 そして、途中でその多くが死んだ。それでも、ある群れは南方の地へ逃げ込んだ。

33 そこで主は蛇にそれ以上家畜の群れを追うのをやめさせ、人々が通り抜けられないようにその道をふさがせて、通り抜けようとする者が毒蛇のために倒れるようにされた。

34 そして、民は家畜の逃げた道をたどり、途中で倒れた家畜の死体をむさぼり食い、一つも残さずに食い尽くした。そして民は今や自分たちの滅びるのが避けられないことを知ると、罪悪を悔い改めて主に叫び求め始めた。

35 そして、彼らが主の前に十分に^①へりくだつたで、主は地の面に雨を降らせられた。そこで民は再び力を取り戻し、また北の地方と周囲のあらゆる地方で実がとれ始めた。このようにして、主は民を飢饉から守ることによつて彼らに御自分の力を示された。

第 10 章

王が何代も代わる。義にかなつた王もいれば、邪悪な王もいる。義が勝利を得ているとき、民は主によつて祝福され、榮える。

1 さて、ヘテと彼の家のすべての者は、シエズを除いて全員飢饉のために死んでしまつた。そこで、ヘテの子孫であつたシエズは、離散した民を再び立て直し始めた。

2 そしてシエズは、先祖が滅びたことを忘れず、義にかなつた王國を築いた。彼は、主がヤレドと彼の兄弟に大海を渡らせるに当たつて行わたることを覚えていたからである。そして彼は主の道を歩み、また息子たちと娘たちをもうけた。

3 ところが、シエズという名の彼の長男が彼に背いた。しかし、このシエズは非常に多くの富を持つていたために、強盜の手で殺されてしまつた。そして、再び彼の父に平和が戻つた。

4 さて、彼の父は地の面に多くの町を築き、民はまた地の全面に広がり始めた。そしてシエズは高齢になるまで生き長えた。また彼はリプレーキシをして、再び彼の父に平和が戻つた。

5 さて、リプレーキシは、主の目から見て正しいことを行わなかつた。彼は多くの妻とそばめを持ち、また堪え難い重荷を人々の肩に負わせたからである。彼は重い税を人々に課し、その税で多くの大きな建物を建てた。

6 彼は自分のために非常に美しい王座を作り、また牢もたくさん建てた。そして、課税に服そうとし

ない者を牢に入れ、また税を納める能力のない者も牢に入れて、彼らを絶えず働かせて生計を立てさせた。また彼は、働くことを拒む者を殺させた。

7 また彼は見事な品物をすべて手に入れた。彼は牢の中で純金を精鍊させ、あらゆる見事な細工を造らせて、それを自分のものとした。そして彼は、みだらな行いと忌まわしい行いをして民を苦しめた。

8 そこで、彼が四十二年間統治した後、民は彼に對して謀反を起こした。そして、国でまた戦争が始まつた。モリアントンが追放された者たちを大勢集め、出て行つて民を攻め、多くの町の支配権を得た。そこで、戦争は非常に激しくなり、何年の長い間続いた。そして彼は全地の支配権を得て、自分で全地を治める王になつた。

9 彼は自分で王になつた後、民の負担を軽くして、また民的好意を得た。そこで民は彼に油を注いで、彼を自分たちの王とした。

11 彼は民に對しては公正であつたが、自分自身に對してはそうではなかつた。多くのみだらな行いをしていたからである。そのため、彼は主の前から絶たれてしまつた。

12 さて、モリアントンは多くの町を築き、民は彼の統治の間に非常に豊かになつた。そして、建物や金や銀、また穀物の栽培、大小の家畜の群れ、および彼らに回復されたそのほかのものに富むようになつた。

13 また、モリアントンは非常に高齢になるまで生き長らえ、老年にキムをもうけた。そして、キムが父に代わつて統治し、八年治めたとき父は死んだ。キムは義をもつて統治しなかつたので、主の恵みを受けなかつた。

14 その後、彼の兄弟が彼に對して謀反を起こし、彼を囚われの身に陥れた。そして彼は生涯囚われの身で過ごし、囚われの身で息子たちと娘たちをもうけた。そして彼は年取つてからレビをもうけて死んだ。

15 さて、レビは父の死後四十二年間、囚われの身にあつて仕えた。その後、彼は國の王と戦い、そ

の戦争によつて王位を得た。かれは王位を得た後、主の目から見て正しいことを行い、民はこの地で栄えた。そして彼は高齢になるまで生き長らえ、息子たちと娘たちをもうけた。彼はまたコロムをもうけ、油を注いで自分に代わる王とした。

16 そして、コロムは生涯主の目から見て善いことを行い、また多くの息子たちと娘たちをもうけた。かれは多くの日を過ごした後、世のほかの人々と同じよう世を去つた。そして、キシが彼に代わつて統治した。

17 そして、コロムは生涯主の目から見て善いことを行い、また多くの息子たちと娘たちをもうけた。かれは多くの日を過ごした後、世のほかの人々と同じよう世を去つた。そして、キシが彼に代わつて統治した。

18 そして、キシも世を去り、リブが彼に代わつて統治した。

19 さて、リブも主の目から見て善いことを行つた。また、リブの時代に毒蛇が全滅したので、人々は南方の地へ行き、狩りをして民の食糧を手に入れた。その地には森の動物が満ちていたからである。そして、リブ自身も卓越した狩人になつた。

20 また、彼らは地峡のそばに、すなわち海によつて陸が分けられている場所の近くに一つの大きな町を建築した。

21 また、彼らは南方の地を、獵の獲物をとる荒れ野としてそのまま残しておいた。そして北方の地には、全面にわたつて人々が住んでいた。

22 彼らは非常に勤勉であり、売買し、互いに交易して利益を得た。

23 また、彼らはあらゆるあらがねで物を造つた。彼らは金や銀や鉄や真鍮、そのほかあらゆる金属を造つた。彼らはあらがねを地中から掘り出したので、金や銀や鉄や銅のあらがねを得るために大きな土の山が幾つもできた。そして彼らはあらゆる見事な細工を造つた。

24 彼らは絹布とより糸で織つた亞麻布を得ていた。

また、裸を覆うためにあらゆる織物を作つた。25 また、彼らは地を耕すあらゆる道具を造り、すぐ道具、種をまく道具、刈り取る道具、脱穀する道具を造つた。

26 また、彼らは家畜に付けて働かせるためのあらゆる道具を造つた。

27 彼らはあらゆる武器を造つた。また彼らは非常に念造りのあらゆる細工を造つた。

28 彼らほど祝福された民、また彼らほど主の手に

よつて繁榮を得た民はなかつた。彼らはあらゆる地に勝つたえり抜きの地に住んでいた。主がそのように言われたからである。

29さて、リブは長年生きて、息子たちと娘たちをもうけ、またヒアルサムをもうけた。

30 そして、ヒアルサムが父に代わつて統治した。しかし、ヒアルサムは二十四年間統治して、見よ、王位を奪われた。そして、彼は囚われの身で何年もの長い間、まことに、余生を仕えて暮らしたのであつた。

31 また、彼はヘテをもうけ、ヘテも囚われの身で生涯を送つた。そしてヘテはアロンをもうけ、アロンも囚われの身で生涯を送つた。そして彼はアムニガダをもうけ、アムニガダも囚われの身で生涯を送つた。そして彼はコリアンタムをもうけ、コリアンタムも囚われの身で生涯を送つた。そして彼はコムをもうけた。

32 さて、コムは王国の半分を引き寄せ、四十二年間王国の半分を統治した。それから彼はアムギド王と戦うために出で行き、両者は長年間戦つた。その間にコムはアムギドに対する支配権を得

て、王国の残りも治める権力を手に入れた。

33 ところで、コムの時代に國に強盗が始めた。

そして強盗たちは昔のはかりごとを取り入れ、昔の人々に倣つて誓いを立て、またもや王国を滅ぼそ

うとした。

34 そこでコムは大いに彼らと戦つたが、彼らに勝てなかつた。

第11章
戦争、不和、悪事がヤレド人の生活を支障する。預言者たちが、悔い改めなければヤレド人が完全に滅びることを預言する。民は預言者たちの言葉を拒む。

1 コムの時代にまた多くの預言者が来て、この大いなる民は、悔い改めて主に立ち返り、殺人と悪事を捨てなければ滅びると預言した。

2 さて、預言者たちは民に拒まれ、民に殺されそうになつたため、保護を求めてコムのもとに逃げた。

3 そして彼らはコムに多くのことを預言し、コムは残りの全生涯にわたつて祝福を受けた。

4 そして彼は高齢になるまで生き長らえ、シプロムをもうけた。そして、シプロムが彼に代わつて統治した。ところが、シプロムの兄弟が彼に背き、全地で非常に大きな戦争が始まった。

5 そして、シプロムの兄弟は民の滅亡を預言したすべての預言者を殺させた。

6 すると、全地にひどい災いが生じた。かつて預言者たちが、もしも民が悪事を悔い改めなければ、ひどいのろいが地と民に下り、地の面にかつてなかつたほどのひどい滅亡が彼らの中にあり、彼らの骨は土の山のように地の面に積み上げられると証していた。

7 ところが民は邪悪な結社があつたために、主の声に聞き従わなかつた。そのため、全地で戦争と争いが始まり、また多くの飢饉と疫病が起つて、地の面にこれまでまったく知られていなかつたほどのひどい滅亡が生じた。これはすべて、シプロムの時代に起こつたことである。

8 すると民は自分たちの罪悪を悔い改め始めた。そして、彼らが悔い改めたので、主は彼らに憐れみをかけられた。

33 ① GS「誓い」
「秘密結社」

第11章

6 ① オム 1 22,
エテ 14 21
GS 「憐れみ」

9さて、シプロムは殺され、セツは囚われの身に陥つて、生涯囚われの状態で過ごした。

10そして彼の息子エーサムは王位を得て、生涯民を治めた。しかし彼は生涯あらゆる罪悪を行い、多くの血を流したので、彼の一生は短かつた。

11また、イーサムはエーサムの子孫であり、王位を得たが、彼もまた生涯邪悪なことを行つた。

12そして、イーサムの時代に多くの預言者が来て、民に再び預言をした。預言者たちは、民が悔い改めなければ、主は地の面から民をことごとく滅ぼしてしまわると預言した。

13さて、民は心をかたくなにして、預言者たちの言葉に聞き従おうとしなかつた。そこで預言者たちは、悲しみながら民の中から去つて行つた。

14さて、イーサムは生涯悪をもつて裁きを行つた。そして彼はモロンをもうけた。その後、モロンが彼に代わつて統治し、主の前に邪悪なことを行つた。

15さて、民の中に謀反が起つた。それは権力と利益を得るために築かれたあの秘密結社のために生じたものである。また民の中に、罪悪に勢いの

ある一人の男が現れ、モロンと戦つて、その戦いで王國の半分を打ち破つた。そして、彼は長年の間その王国の半分を治めた。

16さて、モロンはこの男を倒して、再び王位を取り戻した。

17そして、また別の勢いのある男が現れた。彼はヤレドの兄弟の子孫であつた。

18そして、彼はモロンを打ち破つて、王位を得た。そのため、モロンは囚われの身で余生を送り、コリアントルをもうけた。

19そして、コリアントルも囚われの身で生涯を送つた。

20また、コリアントルの時代に多くの預言者が来て、大いなる驚くべきことを預言し、民に悔い改めを叫んで、もしも悔い改めなければ、主なる神が彼らに對して裁きを行つて、彼らを完全に滅ぼされると告げた。

21また主なる神が、かつてこの民の先祖を導いたように御自分の力によつて別の民を送り、いや、別の民を導いてこの地を所有させられると、預言者たちは告げた。

22 しかし、民は彼らの秘密結社と邪悪な忌まわし
い行いのために、預言者たちの言葉をことごとく
拒んだ。

23さて、コリアントルはエテルをもうけ、囚われ
の身で生涯を過ごして死んだ。

第12章

預言者エテル、神を信じるよう民に説き勧める。モロ
ナイ、信仰によつて行われた数々の不思議と驚くべきこ
とを列举する。信仰によつてヤレドの兄弟がキリストに
まみえたこと。主は人々が謙遜になるように、人々に弱わ
さを与えられる。ヤレドの兄弟が信仰によつてゼリン山
を移したこと。信仰と希望と慈愛は救いに欠かせない。
モロナイ、顔と顔を合わせてイエスにまみえる。

1さて、エテルとコリアンタマーは同時代の人で
ある。このコリアンタマーは、全地を治める王で
あつた。

2エテルは主の預言者であつた。そこで、エテル
はコリアンタマーの時代に出て行つて、民に預言
し始めた。彼の内に主の御靈があつたために、そ

うせにはおれなかつたからである。

3彼は朝から日の沈むまで大声を上げ、滅ぼされ
ることのないように、神を信じて悔い改めることを
民に勧め、また信仰によつてすべてが成就するこ
とを彼らに告げた。

4さて、神を信じる者はだれであろうと、もつと
良い世界を、まことに神の右に一つの場所を、確
かに望むことができる。この望みは信仰から生
じ、人々にとつてその心をしつかりとした不動のも
のにする錨となる。そしてそのような人々はいつ
も多くの善い行いをし、神をあがめるようになる。

5そして、エテルは数々の大いなる驚くべきこと
を民に預言した。しかし彼らは、現実にそれらの
ことを見なかつたので信じなかつた。

6さて、わたしモロナイはこれらのことについて
少々述べたい。信仰とは待ち望んでいながらまだ
見ていないものであることを、世の人々に示した
い。あなたがたは、自分が見ていないからというこ
とで疑つてはならない。信仰が試されてからでな
ければ、証は得られないからである。

7キリストが死者の中からよみがえられた後、わ

第12章	23
教義④③②①④③②①③②②	エノ①①
105ニルマ811ヘ GS GS	エテル②①①
19フ32811コリ66	エテル13
2621241ニヒ125	13
12111、251658	31
78	22
	20

たしたちの先祖に御自身を現されたのは、信仰による。先祖がキリストを信じてからでなければ、キリストは先祖に御自身を現されなかつた。したがつて、キリストを信じていた人々がいたに違ひない。キリストは、俗世の人々には御自身を現されなかつたからである。

8しかし、人々が信じたので、キリストは世の人々に御自身を現し、御父の名の榮光を表し、さらには、ほかの人々が天の賜物にあずかる者となれるようになつた。彼らがまだ見ていないものを待ち望むことができるよう、道を尋ねられた。

9したがつて、あなたがたも信仰を持ちさえすれば、望みを持つことができ、賜物にあずかる者となれるのである。

10見よ、昔の人々が神の聖なる位に従つて召されたのは、信仰による。

11それで、信仰によつてモーセの律法が与えられた。しかし神は、御子を送ることによつてもつとよつて、モーセの律法が成就したのである。

12もしも人の子らの中にまつたく信仰がなけれ

ば、神は人の子らの中で何の奇跡も行うことがおきにならない。したがつて、彼らが信じてからできなければ、神は御自身を現されなかつた。

13見よ、牢を地に倒したのは、アルマとアミユレクの信仰であつた。

14見よ、レーマン人に変化を生じさせて、彼らに火と聖靈によるバプテスマを受けさせたのは、二ーファイとリーハイの信仰であつた。

15見よ、レーマン人の中で①のようにおおきな奇跡を行つたのは、アンモンと彼の同僚たちの信仰であつた。

16そして、奇跡を行つた者は皆、キリスト以前にいた者でも、キリスト以後にいた者でも、信仰によつて奇跡を行つた。

17三人の弟子たちが死を味わわないという約束を得たのは、信仰によるものであつた。しかし彼らは、信じてからでなければ、その約束を得なかつた。

18どのようなときでも、信じてからでなければ奇跡を行つた者はいない。したがつて、奇跡を行つた者はまず神の御子を信じたのである。

17	16	15	14 13	10
モル①②①②①	ニフ9	20	モル②マタ8	GS①アル13
8ニブ3ヘGS	アル17	17	13 8	1コリ12
10フ28	11奇跡	26章	18 11	モロ7
127	40	39	52 29	23 31

19 キリストが来られる以前にも、非常に深い信仰を持つていた人々が多くおり、これらの人々は幕の内側を見るのを禁じられなかつたので、彼らは実際に自分の目で様々なものを見た。それらのものは、彼らがすでに信仰の目で見ていたものである。そして、彼らは喜んだ。

20 見よ、この記録で分かるように、これらの人の中の一人がヤレドの兄弟であった。神は信じる彼の信仰が非常に深かつたので、神は御自分の指を差し伸べられたときに、ヤレドの兄弟の目からその指を隠すことがおできにならなかつた。神が以前に彼に言われた御言葉があつたからである。その御言葉は、ヤレドの兄弟が信仰によつて得たものである。

21 また、主の指を見た後、ヤレドの兄弟には信仰によつて得た約束があつたので、主は彼の目から何も隠すことがおできにならなかつた。そこで、主は彼にすべてのものをお見せになつた。彼はもはや幕の外側にとどめられなかつたからである。

22 また、これらのことび異邦人を通じて同胞に伝わるという約束をわたしの先祖が得たのも、信仰によつて得た約束があつたからである。

23 わたしは主に言つた。「主よ、わたしたちの物を書き記す力が弱いので、異邦人はこれらのことについて書く力が弱いです。主よ、あなたはわたしたちを、信仰によって言葉に力のある者とはされませんでした。あなたはこの民に聖靈をお授けになり、聖靈のためにすべての者が大いに語れるようにされました。また、わたしたちの手が不器用であつたために、わたしたちがわずかしか書けないようになされました。まことに、あなたはわたしたちを、ヤレドの兄弟のように物を書き記す力のある者はされませんでした。あなたはヤレドの兄弟を物を書き記す力のある者とされたので、彼の書き記したことはあなたのものとされたので、彼の書き記したことはあなた自身のように力強く、それを読む者を圧倒するほどのものとなりました。

24 あなたはまた、わたしたちの言葉を力強くまた大きいなるものとし、わたしたちがそれを書き記せないほどのものとされました。そのため、わたしたちは書き記すときに、わたしたちの弱さを知り、また

による。そのために、主は、すなわちイエス・キリストは、わたしに命じられたのである。

24	23 22	21 20	19
① ② ① ①	教義 GS 2	アルゴ 4:4-5, ジエロ 4:4-5,	ヤコブ 2:11-14,
GS 2	67: モルノ 8: 10-11, ニフニ 8: 17-13, ティモテオ 3: 3-4, エーテル 3: 15-16,	エテル 3: 3-4, エーテル 6: 16,	エーテル 1: 11-12, エーテル 3: 1-4,
「言葉、言語」	1: 9-10, 13-13, 20-25, 26	「幕」	「幕」

わたしたちの言葉の用法を誤つてしまひます。ですから、異邦人がわたしたちの言葉をあざけるのではないかと心配です。」
 26 わたしがこのように言うと、主はわたしに言われた。「愚か者はあざけるが、後に嘆き悲しむ。わたしの恵みは柔和な者に十分であり、彼らがあなたの弱さに付け込むことはない。」
 27 もし人がわたしのもとに来るならば、わたしは彼らに各々の弱さを示そう。わたしは人を謙遜にするために、人に弱さを与える。わたしの前にへりくだるすべての者に対して、わたしの恵みは十分である。もし彼らがわたしの前にへりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。

28 見よ、わたしは異邦人に彼らの弱さを示し、また信仰と希望と慈愛が彼らをわたしのもとに、すなわち、あらゆる義の源に導くことを彼らに示そう。」

29 わたしモロナイは、これらの御言葉を聞くと慰めを得て言つた。「おお、主よ、あなたの義の御心が行われますように。わたしはあなたが人の子らの

ために、彼らの信仰に応じて働かることを存じています。

30 ヤレドの兄弟がゼリン山に向かつて、「移れ」と言うと、移りました。もし彼に信仰がなかつたらば、移らなかつたでしょう。ですから、人々が信仰を持った後に、あなたは働くれます。

31 このようにあなたは、弟子たちに御自身を現されました。彼らが信仰を持ち、あなたの御名によつて語られた後に、あなたは大いなる力をもつて彼らに御自身を現されました。

32 わたしはまた、あなたの言われたことを覚えていました。あなたは御父の住まいの中に、人のために住む所を用意したと言わされました。人がもつと大きな希望を持てるようにするためでした。ですから、人は希望を持たなければなりません。さもなければ、あなたの用意してくださいました場所に受け継ぎを得ることができません。

33 さらに、わたしはあなたの言われたことを覚えています。あなたは、世のために御自分の命を捨ててほどの世を愛したと言わされました。あなたは再び御自分の命を得て、人の子らのための場所を

33	32 31	30	28	27 26 25
① ② 教義 ヨハ「希望」 3:16 17	エノ GS「力」 ヨハ「信仰」 14:2 17:9 18:14	モロノ GS「恵み」 タマコ GS「愛」 10:6 12:9 13:9 17:20 19:47 27:14	モロノ GS「恵み」 タマコ GS「愛」 10:6 12:9 13:9 17:20 19:47 27:14	モロノ GS「恵み」 タマコ GS「愛」 10:6 12:9 13:9 17:20 19:47 27:14
① ② 教義 ヨハ「希望」 3:16 17	エノ GS「力」 ヨハ「信仰」 14:2 17:9 18:14	モロノ GS「恵み」 タマコ GS「愛」 10:6 12:9 13:9 17:20 19:47 27:14	モロノ GS「恵み」 タマコ GS「愛」 10:6 12:9 13:9 17:20 19:47 27:14	モロノ GS「恵み」 タマコ GS「愛」 10:6 12:9 13:9 17:20 19:47 27:14
① ② 教義 ヨハ「希望」 3:16 17	エノ GS「力」 ヨハ「信仰」 14:2 17:9 18:14	モロノ GS「恵み」 タマコ GS「愛」 10:6 12:9 13:9 17:20 19:47 27:14	モロノ GS「恵み」 タマコ GS「愛」 10:6 12:9 13:9 17:20 19:47 27:14	モロノ GS「恵み」 タマコ GS「愛」 10:6 12:9 13:9 17:20 19:47 27:14
① ② 教義 ヨハ「希望」 3:16 17	エノ GS「力」 ヨハ「信仰」 14:2 17:9 18:14	モロノ GS「恵み」 タマコ GS「愛」 10:6 12:9 13:9 17:20 19:47 27:14	モロノ GS「恵み」 タマコ GS「愛」 10:6 12:9 13:9 17:20 19:47 27:14	モロノ GS「恵み」 タマコ GS「愛」 10:6 12:9 13:9 17:20 19:47 27:14

用意するため、御自分の命を捨てられたのです。

34 あなたが人の子らに対して抱いておられたこの愛が慈愛であることを、わたしは存じています。ですから、人は慈愛を持たなければ、あなたが御父の住まいに用意してくださった場所を受け継ぐことができません。

35 ですから、あなたの言われたのことから、もし異邦人がわたしたちの弱さを見て慈愛を持たなければ、あなたは彼らを試し、彼らのタラントを、彼らがすでに得ているものまで取り上げて、もつと豊かに持つてある者たちに与えられるということが分かります。

36 そしてわたしは、異邦人が慈愛を持てるように、主が彼らに恵みを授けてくださることを主に祈つた。

37 そこで主はわたしに言われた。「たとえ彼らに慈愛がなくても、あなたにとつては問題ではない。あなたは忠実であったので、あなたの衣は清くされるであろう。また、あなたは自分の弱さを認めないので、強くされて、わたしが父の住まいに用意した場所に座せるようになるであろう。」

38 さて、わたしモロナイは、キリストの裁きの座の前で会うときまで、異邦人とわたしの愛する同胞に別れを告げる。その裁きの座の前で、すべての人には、わたしの衣があなたがたの血で汚れていないことを知るであろう。

39 またそのとき、あなたがたはわたしがイエスにまみえたことと、イエスが顔と顔を合わせてわたしと話をされたことと、人が人に語るようにまつたく謙遜に、イエスがわたしの言語でわたしにこれらのことについて話されたことを知るであろう。

40 しかし、わたしは物を書き記す力が弱いので、少ししか書き記さなかつた。

41 わたしは、預言者たちと使徒たちが書き記してきたイエスを求めるように、あなたがたに勧めた。そうすれば、父なる神と主イエス・キリストと、この御二方のことを証される聖霊の恵みが、ここしえにあなたがたの内にとどまるであろう。アーメン。

34	ト 裁き	38	37 36	35
① ② ③ ④	ヤコ 1.19 「イエス・キリストの死後、現れる」	GS 1.1 GS 1.1	マタ 7.14 「愛する物」	モロナイ 7.30 「慈愛」
出 27.25 創世記 30.30	GS 「イエス・キリストの死後、現れる」	ト 裁き	「タラント」	モロナイ 7.30 「慈愛」
教義 33.11 ニフ 88.11 11.63 32.38	ヤコ 1.19 「イエス・キリストの死後、現れる」	ト 裁き	エテ 12.73 27.135 4.5	モロナイ 7.30 「慈愛」
101.	ヤコ 1.19 「イエス・キリストの死後、現れる」	ト 裁き	エテ 12.73 27.135 4.5	モロナイ 7.30 「慈愛」

力に築かれることを述べる。エテルは預言し、追い出され、ヤレド人の歴史を書き記し、ヤレド人の滅亡を予告する。全地で激しい戦争が起ころ。

1さて、わたしモロナイは、これまでこの民のことを書き記してきたが、民の滅亡についてのわたしの記録を続けて、これを終えることにしよう。

2見よ、彼らはエテルの言葉をことごとく拒んだ。エテルは、人の始まりから一切のことを実際によくに彼らに告げた。水がこの地の面から引いた後、この地がほかのあらゆる地に勝つたえり抜きの地、すなわち主の選ばれた土地になつたので、主はこの地の面に住むすべての人に、御自分に仕えることを望まれたと、エテルは告げた。

3またこの地は新エルサレムが天から降つて来る場所であり、主の聖所であると、彼は告げた。

4見よ、エテルはキリストの時代を目にし、またこの地の新エルサレムについて述べた。

5彼はイスラエルの家と、リーハイが出て来る工^②ルサレムについても述べた。エルサレムは破壊された後、主のために聖なる都として再び築かれ、したがって、それは昔存在していたので、新しいエルサレムではあり得ないが、それは再び築かれて、主の聖なる都となる。それはイスラエルの家のために築かれる。

6また新エルサレムは、ヨセフの子孫の残りの者で、父はそこで死んだ。そして主は、ヨセフの父が滅びないように、彼に憐れみをかけられたと同様に、ヨセフの子孫が滅びないように、彼らに憐れみをかけ、ヨセフの子孫の残りの者をエルサレムの地から導き出された。

7ヨセフの家の残りの者は将来この地で増えて、この地は彼らの受け継ぎの地となる。そして、彼らは主のために昔のエルサレムのような聖なる都を築く。また、彼らはもはや乱されることはない、終わりが来て大地が過ぎ去る。

8ヨセフの家の残りの者は将来この地で増えて、この地は彼らの受け継ぎの地となる。そして、彼らは主のために昔のエルサレムのような聖なる都を築く。また、彼らはもはや乱されることはない、

9しかも、新しい天と新しい地がある。その天と地は以前のものに似ていて、ただ以前のものは過ぎ去り、すべてのものが新しくなるだけである。

9	8	7	6	5	4	3	2
黙示 ^① ②	①②	①	GS	③	④	GS	21
ニフ ¹	ニフ ²	ニフ ³	ヤコブ ¹	シオン ¹	エラサレム ¹	新エルサレム ¹	創世 ⁷
示 ²¹	モロ ²	約束の地 ³	アル ⁴	エラサレム ²	新エルサレム ²	12 ¹	11 ¹
ニフ ³	ベ ¹	東の地 ⁵	46 ²	18 ¹	20 ¹	21 ¹	24 ¹
26 ¹	ペ ³	象徴 ⁶	46 ²	1 ¹	20 ²	10 ¹	22 ²
23 ¹	10 ¹	息子 ⁷	46 ²	1 ¹	1 ¹	21 ¹	2
25	13 ¹	ヨセフ ⁸	7 ¹	18 ¹	20 ¹	10 ¹	24 ¹

10 その後、新エルサレムが成る。そこに住む者たちは幸いである。彼らの衣は小羊の血によつて白いからである。彼らは、イスラエルの家に属するヨセフの子孫の残りの者の中に数えられる者たちである。

11 またそのときに、昔のエルサレムも成る。そこに住む者たちは幸いである。彼らは、小羊の血によつて洗われているからである。彼らは散らされた後に、地の四方および北の地方から集められた者たちであり、神が彼らの先祖アブラハムと交わされた聖約を果たされるときに、それにあずかる者たちである。

12 これらのことが起るときに、先にいた者で後になる者がおり、また後にいた者で先になる者がいる、という聖文が事実となる。

13 わたしはもつと書き記そうとしたが、そうすることを禁じられた。エテルの預言は大いなる驚くべきものであった。ところが民は、彼を取るに足りない者と見なして、追い出してしまった。そこで彼は日中は岩の洞穴に身を隠し、夜に出て行つて、民に及ぶ様々な出来事を見た。

14 また彼は岩の洞穴に住んでいたときに、民に及んだ滅亡を夜の間に見て、この記録の残りの部分を記した。

15 さて、彼が民の中から追い出されたその年に、多く立つて、前に述べた悪事の秘密のはかりごとに、よつて、コリアンタマーを滅ぼそうとした。

16 ところがコリアンタマー自身も、あらゆる戦術によつて、コリアンタマーを滅ぼそうとした者たちを攻めた。

17 しかし彼は悔い改めなかつた。また、彼の麗しい息子たちや娘たちも、コーエルの麗しい息子たちや娘たちも、要するに全地の面にいる麗しい息子たちと娘たちはだれ一人、自分の罪を悔い改めなかつた。

18 さて、エテルが岩の洞穴に住むようになつた最初の年に、王位を得ようとしてコリアンタマーと戦つた、あの秘密結社の者たちの剣で殺された者がたくさんいた。

19 そして、コリアンタマーの息子たちは大いに戦い、ひどく傷ついた。

10 ① 黙示7:14、
11 ② ニフ12:11、
12 ③ GS「イスラエルの集合」
13 ④ GS「アブラハムの聖約契約」
14 ⑤ GS「アブラハムの教義」
15 ⑥ GS「アブラハムのエテル」
16 ⑦ GS「アブラハムのエテル」
17 ⑧ GS「アブラハムのエテル」
18 ⑨ GS「アブラハムのエテル」
19 ⑩ GS「アブラハムのエテル」

20 そして、第二年に主の言葉がエテルに下り、コ^①
 リアンタマーのもとに行つて預言するようとに言
 われた。その預言は次のとおりである。すなわち、
 もし彼と彼の家のすべての者が悔い改めるなら
 ば、主は彼に王位を与え、民の命を救われる。

21 さもなければ、彼らは滅ぼされ、彼の家のすべ
 ての者も彼一人を除いて全員が滅ぼされる。そし
 て、彼はただ一人生き長らえて、この地を受け継ぎ
 として受けける別の民について前に述べられて
 いる預言が成就するのを見る。その後、コリアンタマ
 ーは彼らによつて葬られる。^②コリアンタマーを除
 いてすべての者が滅ぼされる。

22 さて、コリアンタマーも、彼の者のたちも、
 民も悔い改めず、戦争はやまなかつた。そして、民
 はエテルを殺そうとした。しかし、彼は民の前か
 ら逃げて、再び岩の洞穴に隠れた。

23 そして、シェレドが立つて、彼もコリアンタマ
 ーを攻めた。そして、シェレドはコリアンタマーを
 打ち負かし、第三年に彼を囚われの身に陥れた。

24 しかし、第四年にコリアンタマーの息子たちが
 シェレドを打ち負かし、父のために王位を取り戻し

した。

25 さて、地の全面で戦争が始まり、男は皆それぞ
 れ自分の仲間とともに、自分の望みを遂げようと
 して戦つた。

26 また、強盗もいた。要するに、地の全面であら
 ゆる悪事が行われていた。

27 さて、コリアンタマーはシェレドのことを行つた。
 に怒り、軍隊を伴つて彼と戦うために出て行つた。
 そして、両者はひどい怒りを抱いて出会い、ギルガルの谷で戦いを交えた。その戦いは非常に激しいものとなつた。

28 そしてシェレドは、三日間コリアンタマーと戦つた。その後、コリアンタマーは彼を打ち負かし、ヘシロンの平原に着くまで追撃した。

29 そこでシェレドはその平原でまたコリアンタマ
 ーと戦い、見よ、今度は彼を打ち負かして、ギルガルの谷までまた追い返した。

30 そしてコリアンタマーはギルガルの谷でまたシ
 エレドと戦い、彼を打ち負かして殺してしまつた。

31 しかし、コリアンタマーはシェレドのためにも
 もを負傷した。そのために、彼は二年間戦いに出

なかつた。その間、地の面で民は皆、血を流し続け、それを止める者はだれもいなかつた。

第14章
民の罪悪が地にのろいを招く。コリアンタマー、ギレアデと戦い、次いでリブと戦い、シズと戦う。流血と虐殺が地を覆う。

1さて、民の罪悪のために、全地にひどいのろいが下り始めた。人が自分の道具や剣を棚の上か、それを保管しておく場所に置いておくと、見よ、翌日にはそれを見つけることができなかつたほど、地に下つたのろいはひどかつた。

2そこで、人は皆、自分のものをしつかりと手に握り締め、借りようとも貸そうともしなかつた。そして男は皆、自分の財産と命と妻子を守るためにして、いつも右手に剣の柄を握つていて。

3さて、シェレドが死んだ後二年たつて、見よ、今度はシェレドの兄弟が立ち、コリアンタマーを攻めた。しかし、コリアンタマーは彼を打ち負かし、エーキシの荒れ野まで彼を追撃した。

4そこでシェレドの兄弟は、エーキシの荒れ野で彼に攻めかかつて来た。そして、戦いは非常に激しくなり、何千人も剣で倒れた。

5そこでコリアンタマーは荒れ野を包囲した。しかし、シェレドの兄弟は夜に紛れて荒れ野から出て来て、コリアンタマーの軍隊の一部が酒に酔つていたので、彼らを殺した。

6そして彼はモロンの地へ進んで行つて、コリアンタマーの王座に上つた。

7そこで、コリアンタマーは二年間、軍隊とともに荒れ野の中で暮らし、大きな兵力を加えた。

8シェレドの兄弟はその名をギレアデといい、秘密結社のおかげで彼もまた軍隊に大きな兵力を加えた。

9さて、彼が王座に着いていたときに、彼の大祭司が彼を殺してしまつた。

10そして、秘密結社に属する者の一人が、問道でその大祭司を殺し、王位を奪つた。この男の名はリブといった。リブは非常に背丈の高い男で、民の中のだれよりも高かつた。

11さて、リブの治世第一年に、コリアンタマーは

モロンの地へ上つて行き、リブを攻めた。

12 そして、彼はリブと戦つたが、リブに腕を打たれて負傷した。しかし、コリアンタマーの軍隊がリブに攻めかかったので、リブは海岸の境の地へ逃げて行つた。

13 そこでコリアンタマーは彼を追撃した。するとリブは、海岸で彼に攻めかかつて来た。

14 そして、コリアンタマーの軍隊はリブに打了され、またもやエーキシの荒れ野に逃げた。

15 そして、リブはコリアンタマーをエーゴシの平原に着くまで追撃した。しかし、コリアンタマーはリブに追われて逃げながら、自分の逃げた地方の民をことごとく引き連れて行つた。

16 そして彼はエーゴシの平原に着くと、リブに攻めかかり、彼を討つて、とうとう殺してしまつた。ところが、今度はリブの兄弟がリブに代わつてコリアンタマーを攻め、戦いは非常に激しくなつた。そして、コリアンタマーはまたもやリブの兄弟の軍隊の前から逃げた。

17 リブの兄弟の名はシズと呼ばれた。シズはコリアンタマーの後を追い、多くの町を滅ぼし、女も

子供も殺し、幾つもの町を焼いた。

18 そして、シズに対する恐れが全地に広がり、「だれがシズの軍隊の前に立てようか。見よ、シズは地を荒らして行く」という叫び声が全地に広がつた。さて、民は地の全面で群れを成し、幾つもの集団となつた。

19 そして、彼らは分かれ、ある者たちはシズの軍隊へ逃げ込み、またある者たちはコリアンタマーの軍隊へ逃げ込んだ。

20 21 戦争は大規模で、長期間続き、また流血と虐殺の有様が久しく続いたので、地の全面に死体が散乱していた。

22 また、戦争は急激で速やかであつたことから、残つて死者を葬る者がなく、彼らは流血から流血へと進んで行き、男女子供の区別なく死体が地の面上に散乱したまま、肉に付くうじのえさになるに任された。

23 そして、そのにおいが地の面上に、すなわち地の全面に広がつたので、民は昼も夜もそのにおいに悩まされた。

をやめなかつた。それは彼が、殺された自分の兄弟の血のために、コリアンタマーに報復すると誓つていたからであり、またコリアンタマーが剣によつて倒れることはないという主の言葉が、エテルに下されていたからである。

25 これによつて分かるように、主は限りない怒りをもつて彼らを罰せられた。そして、彼らは悪事を忌まわしい行いによつて、自分たちの永遠の滅亡の道を備えていたのである。

26さて、シズはコリアンタマーを追いかけて東の方向へ、海岸に近い境の地まで進んでいた。すると、そこでコリアンタマーがシズに攻めかかり、三日間戦つた。

27 そして、シズの軍隊の被つた損害が非常にひどかつたため、民はおびえて、コリアンタマーの軍隊の前から逃げ始めた。そして彼らはコリホルの地まで逃げ、その途中で、自分たちに合流しようとしない民をことごとく滅ぼした。

28 それから彼らはコリホルの谷に天幕を張つた。一方コリアンタマーはシャーの谷に天幕を張つた。シャーの谷はコムノルの丘に近かつた。そこで、コリアンタマー、ただ一人生き残る。

コリアンタマーはコムノルの丘の上に軍隊を集め、シズの軍隊を戦いに誘い出すために、彼らに向かってラツバを吹き鳴らした。

29 そこで彼らは出て来たが、また撃退された。そして、再度出て来たが、再び撃退された。それから、彼らが三度目に出て来ると、戦いは非常に激しくなつた。

30 そして、シズはコリアンタマーを打ち、多くの手を負わせた。そのため、コリアンタマーは血を失つて意識をなくし、まるで死んだ者のように運び去られた。

31 さて、両軍ともに男女子供の区別なく死者が非常に多かつたので、シズは民に、コリアンタマーの軍隊を追わないよう命じた。そこで、彼らは自分たちの宿営に引き返した。

第 15 章

数百万人のヤレド人、戦いで死ぬ。シズとコリアンタマー、民をことごとく集めて決戦に備える。主の御靈、民を励ますのをやめる。ヤレド人の國は完全に滅びる。

1さて、コリアンタマーは傷が快復すると、エテルが告げた言葉を思い出した。

2彼は、民が二百万人ほど剣で殺されたのを見て、心の中で嘆いた。また、一百万人の屈強な男だけではなく、彼らの妻子も殺されていた。

3彼は自分がこれまで行つてきた悪事を悔い改め始め、すべての預言者たちの口を通して述べられてきた御言葉を思い出した。彼はこれまでそれらの預言がことごとく成就したのを見て、嘆き悲しみ、決して安らぐことはなかつた。

4そして、彼はシズに手紙を書き、民の命を助けほしい、そうすれば民の命の代わりに王位を譲ろうと告げた。

5そこでシズは、コリアンタマーの手紙を受け取ると返事を書き、もしコリアンタマー自身がシズの剣で殺されるためにその身を引き渡すならば、民の命を助けると告げた。

6さて、民は罪悪を悔い改めなかつた。そして、コリアンタマーの民はシズの民に対し怒りをか立てられ、シズの民もコリアンタマーの民に対して怒りをかき立てられた。そこでシズの民は、

7コリアンタマーは自分がまさに敗れそうであるのを見て、またもやシズの民の前から逃げた。

8そして、彼はリプリアンクムの海に着いた。リプリアンクムとは、広大な、すなわち、すべてをしのぐという意味である。彼らはこの海に着くと、天幕を張つた。シズもまた彼らの近くに天幕を張つた。そして翌日、彼らは戦いに出た。

9そして、彼らは非常に激しく戦い、コリアンタマーはまた負傷し、血を失つて意識をなくした。

10さて、コリアンタマーの軍隊はシズの軍隊を攻め立てて打ち負かし、彼らを敗走させた。そして、シズの軍隊は南方に逃げて、オーガスと呼ばれた場所に天幕を張つた。

11そして、コリアンタマーの軍隊は、ラマの丘の近くに天幕を張つた。その丘は、わたしの父モルモンが主に託して神聖な記録を隠したあの丘である。

12そして彼らは、それまでに殺されなかつた地の全面の民を、エテルを除いてことごとく集めた。

13さて、エテルは民の行つたことをすべて見みた。彼は、コリアンタマーに味方する者がコリアンタ

マーの軍隊に集まり、シズに味方する者がシズの軍隊に集まるのを見た。

14 彼らは四年の間、地の面にいるすべての者を集めて、得られるかぎりの兵力をすべて得ようと、民を集め続けた。

15 そして、すべての者が妻子を伴い、それぞれ自分で身を固め、盾と胸当てとかぶとを身に着け、戦いのいでたちで集まつた。男も女も子供も、武器自分で身を固め、盾と胸当てとかぶとを身に着け、戦うたのいだが、彼らは、戦うために互いに進軍し、一日中戦つたが、勝負がつかなかつた。

16 そして夜になると、彼らは疲れ果てて、それぞれの宿営に引き揚げた。そして彼らは宿営に引き揚げた後、民の殺された者たちのために泣き叫び、悲しんだ。彼らの泣き叫び、悲しむ声は非常におおきく、大気を激しくつくほどであった。

17 そして翌日、彼らはまた戦いに出た。その日は大変な恐ろしい日であつたが、それでも勝負がつかなかつた。そして、また夜がやつて来ると、彼らは民の殺された者たちのために泣き叫び、悲しむ声が大気をつんざくほどであった。

18 そこでコリアンタマーは、再びシズに手紙を書いて、もう戦いに出て来ないよう、王位を譲つてよいので民の命を助けてほしいと告げた。

19 しかし見よ、主の御靈は民を励ますのをやめており、サタンが民の心を完全に支配していた。そして彼らは心をかたくなにし、思いをくらませるに任され、滅びに至るようになされたのである。そこで彼らは、またもや戦いに出て行つた。

20 そして、彼らは一日中戦い、夜になると、剣を手にしたまま眠つた。

21 翌日も、彼らは夜になるまで戦つた。

22 夜になると、彼らはまるでぶどう酒に酔つている者のように、怒りに酔つた。そして、また剣を手にしたまま眠つた。

23 その翌日、彼らはまた戦つた。そして、夜になつたときには、五十二人のコリアンタマーの民と六十九人のシズの民を除いて、全員が剣で倒れていった。

24 そしてこの残つた者たちは、その夜も剣を手にしたまま眠り、翌日、再び戦つた。彼らは剣と盾をもつて、一日中、力の限り戦つた。

25 そして、夜になつたときには、シズの民が三十二人で、コリアンタマーの民が二十七人になつていた。

26 そこで彼らは食べて眠り、翌日の死に備えた。
彼らは体の大きな、体力のある男たちであつた。
27 そして、彼らは三時間戦い、血を失つて意識をなくした。

28 さて、コリアンタマーの兵たちは、力を得て歩けるようになると、命を惜しんで逃げ出そうとした。ところが見よ、シズと彼の兵たちは立ち上がり、シズはコリアンタマーを殺す、そうでなければ剣で死ぬと、怒つて誓いを立てた。

29 そのため、彼はコリアンタマーの民を追いかけて、翌日彼らに追いつき、彼らはまた剣で戦つた。そして、コリアンタマーとシズを除く全員が剣で倒れた後、見よ、シズは血を失つて意識をなくした。

30 そこでコリアンタマーは、自分の剣に寄りかかって少し休んでから、シズの首を打ち落とした。
31 そして、彼がシズの首を打ち落としたところ、シズは両手で身をもたげてから倒れ、息をしようとがいた後に死んだ。

32 そして、コリアンタマーも地に倒れ、まるで死んだ者のようになつた。

33 そこで、主はエテルに、「出て行きなさい」と言われた。そして、エテルは出て行くと、主の言葉がことごとく成就したのを見た。そして、彼は記録を書き終えて（わたしはその百分の一も書いていない）、それを隠し、後にリムハイの民がそれを発見したのである。

34 エテルの書き記した最後の言葉は、次のとおりである。「主がわたしの身を変えてわたしを天に移すことを望まれようと、あるいはわたしが肉にあって生き長らえ、主の御心に従つことを望まれよう、わたしは神の王国に救われるのであれば、それはどうでもよい。アーメン。」

モロナイ書

第1章

モロナイ、レーマン人のために書き記す。キリストを
否定しない二「アイン人じんは殺ころされる。紀元約四百一年か
ら四百一十一年に至る。

さて、わたしもロナイはヤレドの民のは話を短くまとめて終えた後、もうこれ以上は書き記さないとおもつたが、わたしはまだ命を失っていない。わたしはレーマン人に殺されないために、わたしのことを使らなければ、ようこそいる。

見よ、レーマン同士の戦争が今非常に激しい。また、彼らは憎しみのために、キリストを否定しない二、三人をすべて殺している。

しないニーファイ人じんをすべて殺ころしてゐる。
わたしモロナイはクリストを否定ひていしないので、命いのちの安全あんぜんを得られる場所ばしょを求めてさまよつてゐる。

さて、わたしは以前いぜんの思いとは違ちがつて、もう少すこし書き記かきしるすることにする。わたしはもう書き記かきしるさな

第
2
章

イエス、聖靈の賜物を授ける力を十二人の二ーファイ
ヒンデシの弟子たちにあたえられる。紀元約四百一年から四百二
十一年に至る。

キリストが御自分の選ばれた十二人の弟子たちに手を置かれたとき、彼らに言われた御言葉は次のとおりである。

2 キリストは彼らの名を呼んで言われた。「わたしの名によつて熱烈に祈つて父に請い願いなさい。あなたがたはこのように行つた後に、あなたがたが手を置く者に聖靈を授ける力を持つであろう。わたしの名によつて聖靈を受けなさい。わたしの使徒たちはこのように行うからである。」

徒たせはこのよんに行くからである。」
キリストは初めてその御姿を現されたとき、彼らにこれらの御言葉を語られた。群衆はこれを聞く

2	1	第	3	2
③	②	①	①	②
GS	GS	3	ニ	モ
力	[按	二	マ	ン
手	手	18	フ	フ
37	25	13	10	二の
			5	息子
			32	14
			12	一
			33	20
				—
				23

かず、弟子たちだけがこれを聞いた。そして、彼らが手を置いたすべての者に聖靈が降られた。

かれ

第4章

長老と祭司が聖餐のパンを祝福する方法についての説

3①使徒19:6

第3章
長老たち、按手によつて祭司と教師を聖任する。紀元約四百一年から四百二十一年に至る。

1①アル6:1、
2GS「聖任」
3GS「聖餐」
4GS「賜物」
5GS「罪の赦し」
6モロ6:9
713:37
820:60

1教会の長老と呼ばれた弟子たちが祭司と教師を聖任した方法は、次のとおりである。

2彼らはキリストの名によつて御父に祈つた後、聖任を受ける者に手を置いて言つた。

3「イエス・キリストの御名によつて、わたしはあなたを祭司に聖任し（もし教師であるならば、あなたを教師に聖任し）、悔い改めを宣べ伝える者、また最後までイエス・キリストの御名を信じ続けられば、イエス・キリストを通じて罪の赦しが得られることを宣べ伝える者とします。アーメン。」

4このような方法で、彼らは人々に授けられる神の賜物と召しに応じて祭司と教師を聖任した。彼らは、自分たちの内にある聖靈の力によつて聖任した。

1①長老と祭司が、教員にキリストの肉と血を分け与えた方法は、次のとおりである。彼らがキリストの命じられたとおりに執行したので、わたしらちはこの方法が正しいことを知つてゐる。長老たちは祭司がそれを執行した。

2彼らは教員とともにひざまずき、キリストの名によつて御父に祈つて言つた。

3「永遠の父なる神よ、わたしらちは御子イエス・キリストの御名によつてあなたに願い求めます。このパンを頂くすべての人々が、御子の体の記念にこれを頂けるように、また、進んで御子の御名を受け、いつも御子を覚え、御子が与えてくださつた戒めを守ることを、永遠の父なる神よ、あなたに証明して、いつも御子の御靈を受けられるように、このパンを祝福し、聖めてください。アーメン。」

1①GS「長老」
2②GS「聖餐」
3③GS「聖義」
4④ト「御名受け」
GS「聖靈」

第4章

3①使徒19:6

第5章

聖餐のぶどう酒を祝福する方法についての説明。
紀元前四百一年から四百二十二年に至る。

1 ぶどう酒を分け与えた方法は、次のとおりである。
見よ、彼らは器を取つて言つた。

2 永遠の父なる神よ、わたしたちは御子イエス・キリストの御名によつてあなたに願い求めます。こ

2 「永遠の父なる神よ、わたしたちは御子イエス・キリストの御名によつてあなたに願い求めます。このぶどう酒を頂くすべての人々が、この人々のために流された御子の血の記念にこれを頂けるようになります。また、いつも御子を覚えていることを、永遠の父なる神よ、あなたに証明して、御子の御靈を受けられるように、このぶどう酒を祝福し、聖めでください。アーメン。」

4 そして人々はバプテスマを認められ、聖靈の力
が働いて清められると、キリストの教会の民の中
に数えられ、その名が記録された。それは、彼ら
が覚えられ、神の善い言葉で養われ、そして彼ら
を正しい道にとどめるため、また絶えず祈りを心
に留めさせ、彼らの信仰の創始者であり完成者で
あるテリス、功力志向によるところである。

あるキリストの功德にだけ頼らせるためである。
①きょうかいん ②だんじき
教 会員は断食し、祈るため、また人の幸いにつ
いて互いに語り合うためにしばしば集まつた。

悔い改めた人々は、バブテスマを受けて教会員になれる。悔い改める教員は赦される。集会は聖靈の力によつて行われる。紀元約四百一年から四百二十二年に至る。

第6章

7 また彼らは、自分たちの中に決して罪悪があつてはならないということを厳密に守つた。そして、ある者たちが罪悪を犯したことが分かり、教員の三人の証人が長老たちの前でその者たちを罪があるとし、もしその者たちが悔い改めず告白もしなければ、彼らの名は消されて、彼らはキリストの民の中に数えられなかつた。

8 しかし、悔い改めて真心から赦しを求めた者は、その度に赦された。
 9 また教員の集会は、御靈の働くまさに、聖靈の力によつて教員が指導した。教えを説くこととも、勧めることも、祈ることも、請い願うこととも、歌うことも、聖靈の力によつて導かれるままに行われた。

仕える。人は永遠の命を望み、慈愛を固く守らなければならぬ。紀元四百一年から四百二十一年に至る。

1さて、わたしモロナイは、父モルモンが信仰と希望と慈愛について述べた言葉を少々書き記しておくる。父は、民が礼拝の場所として建てた会堂で彼らを教えたとき、次のように述べた。

2「さて、わたしモルモンは、愛する同胞であるあなたがたに話したい。父なる神とわたしたちの主イエス・キリストの恵みにより、また主がわたしに召しの賜物をお与えくださつたので、主の聖なる御心により、わたしは今あなたがたに語る機会を得ている。

3そこでわたしは、教会に属しているあなたがた、すなわち、今から後、天で主とともに安息を得るときまで、キリストに穩やかに従い、主の安息に入れるという十分な望みを得てゐるあなたがたに、話したいと思う。

4わたしの同胞よ、わたしは、あなたがたが人の子うにする。サタンはキリストを否定して、悪を行ふよう人に説き勧める。預言者たち、キリストの來臨について明らかにする。信仰によつて、奇跡が行われ、天使は

7	①	1	1	1	GS	教義20	81
②	①	②	①	GS	モサ	「破門」	33
召し	GS	召し	神の	GS	モサ	「召し」	31
「安息」				GS	GS	「聖靈」	
				GS	GS	「聖靈」	
				GS	GS	「聖靈」	
				GS	GS	「聖靈」	
				GS	GS	「聖靈」	

見よ、^{(1)ぜんあく}善惡をわきまえることができるよう、すべての人にキリストの御靈が与えられているからである。さて、その判断の方法をあなたがたに教えよう。善を行ふように誘い、またキリストを信じるよう勧めるものはすべて、キリストの力と賜物によつて送り出されているのである。したがつてあなたがたは、それが神から出していることを完全に理解してわきまえることができる。

しかし、^{(2)あく}悪を行つよう、キリストを信じないように、キリストを否定するよう、神に仕えない解してわきまえることができる。悪魔はこのように働くからである。悪魔はだれにも善を行ふようになり説き勧めない。また悪魔の使いも、悪魔に従うものも、そのように^{(3)とす}書き認めない。

さて、わたしの同胞よ、あなたがたは判断する際に用いる光、すなわちキリストの光について知つてゐるので、誤つて裁かないよう注意しなさい。あなたがたが裁くその裁きで、あなたがたも裁かれるからである。

19 そこでわたしは、同胞であるあなたがたに、善悪をわきまえることができるよう、キリストの光の中で熱心に求めることを切に勧める。もしあなたがたが善いものをことごとく手にして、それを非難しなければ、あなたがたは必ずキリストの子となる。

20 さて、わたしの同胞よ、どのようにすればあなたがたは、善いもののことごとく手にできるのであるか。

21 ここで、わたしが話したいと前に言つた信仰に行き着くのである。では、あなたがたが善いものをことごとく手にできる方法について話そう。

22 見よ、神は永遠から永遠にわたつて存在し、すべてのことを御存じであるために、見よ、天使たちを遣わして、人の子らに仕えさせ、キリストの来臨について明らかにされた。キリストにあつて、善いものがことごとく來るのである。

23 また神は、キリストが來られることを御自身の口を通して、預言者たちに宣言された。

24 見よ、いろいろな方法によつて、神は人の子らに善いものを明らかにされた。そして、善いものは

すべてキリストから来る。そうでなければ、人は堕落した状態になつたので、善いものはまつたく人に及ばなかつたことであろう。

さて、天使の働きによつて、また神の口から出でる一つ一つの御言葉によつて、人はキリストを信じるようになつた。その結果、信仰によつて人は善いものを作りごとく手にした。キリストの来臨までそうであつた。

また、キリストが来られた後も、人はキリストの御名を信じる信仰によつて救われた。信仰によつて人は神の子となつてゐる。キリストが生きておられるように確かに、キリストはわたしたちの先祖にこのように言われた。すなわち、『あなたがたが与えられると信じて、信仰をもつてわたしの名によつて父に求めるものは、正當であれば、見よ、何でもあなたがたに与えられる。』

さて、わたしの愛する同胞よ、キリストは、人の子らに対して持つておられる御自分の憐れみの権利を御父に求めるために、天に昇つて神の右の座に着かれたので、奇跡がやんてしまつたのであるうか。

キリストは律法の目的を達せられた。そして、キリストを信じるすべての者を、御自分に属するものと主張しておられる。また、キリストを信じる者は一切の善いものを固く守るので、キリストはひと人の子を弁護してくださいさる。そして、キリストは永遠に天に住まわれる所以である。

わたしの愛する同胞よ、キリストがこのように行われたので、奇跡はやんてしまつたのであるうか。見よ、そうではないと、わたしはあなたがたに言う。また天使たちも人の子らに仕えることをやめではない。

見よ、天使はキリストに従つており、深い信仰と確固とした心をもつて、あらゆる方法で神を敬う者に自分自身を示し、キリストの命じられる御言葉のとおりに仕えている。

天使の務めは、人を招いて悔改めさせることと、御父が人の子らに立てられた聖約の業を果たして実行することと、主の選ばれた器にキリストの御言葉を告げ知らせることによつて彼らがキリストについて証を述べるようにして、人の子らの中に道を備えることである。

32 このようにして、主なる神は道を備えて、残りの人々もキリストを信じる信仰を持ち、聖靈がその力によつて彼らの心の中に宿られるようになされたのである。このような方法で、御父は人の子らに立てられた聖約を果たされる。

33 キリストは言われた。『あなたがたはわたしを信じるならば、わたしの心にかなうことを何事でも行う力を持つであろう』と。

34 また、『地の果てに至るすべての人に、悔い改めなさい』と、キリストは言われた。

35 さて、わたしのものに来て、わたしの名によつてバブテスマを受けなさい。救われるためにはわたしを信じて、わたしのもとに話して、わたしの愛する同胞よ、あなたがたに話をしなければならないからである。したがつて、もしこれらのことがなくなつてゐるとすれば、それは不信のためであり、すべてはむなしので、人の子らは災いである。

36 天使が人の子らに現れることは、終わつてしまつたのであるが、もしこれらのことが真実であれば、また神は、これらのことが真実であることを、終わりの日に力と大きな力がある栄光とをもつてあなたがたに示されるのであるが、もしこれらのことが真実であれば、奇跡の日は終わつてしまつたと言えるであろうか。神は聖靈の力を人の子らに与えられなくなつたのであるが、時が続くかぎり、

37 見よ、そうではないと、わたしはあなたがたに言う。奇跡が行われるのは信仰によるからである。したがつて、もしこれらのことがなくなつてゐるとすれば、それは不信のためであり、すべてはむなしので、人の子らは災いである。

38 キリストの御言葉にあるとおり、キリストの御名を信じなければ、だれも救われないからである。したがつて、もしこれらのことがなくなつてゐるとすれば、信仰もなくなつてゐる。そして、人はひどい状態にある。なぜならば、人はまるで贖いがまつたくなかつたかのようになるからである。

39 しかし見よ、わたしの愛する同胞よ、わたしはあなたがたのことをもつと良い状態にあると判断している。あなたがたが柔和であるのを見て、あなたにはキリストを信じる信仰があると思うからである。あなたがたはキリストを信じていなければ、キリストの教会の民の中に数えられるにふさ

39	37	36	35	34	33 32
①②	①	①②	①	①②	①①
エテ	エテ	モル	モル	エテ	マタタク「信仰」
GS	GS	モロ	モロ	GS	マタタク「信仰」
「ふさわしさ」	「19 18 24」	19	10 12 20 13	10 12 35 18	17 20 64 20
		58	4 11	4 5	20 65

わしくない。

また、わたしの愛する同胞よ、わたしは希望に
ついてあなたがたに話したいと思う。あなたがたに
希望がなければ、どうして信仰が得られるであろ
うか。

41 また、あなたがたは何を望めばよいのであろうか。
見よ、わたしあなたがたに言う。あなたがたは、キリストの贖罪とキリストの復活の力によつて永遠の命によみがえることを望まなければならぬ。あなたがたがキリストを信じることで、約束のとおりこれが果たされるのである。

42 したがつて、もし人に信仰があれば、必ず希望もあるに違ひない。信仰のない希望はあり得ないからである。

43 さらによ、あなたがたに言う。柔和で心のへりくだつた人でなければ、信仰と希望を持つことはできない。

44 たとえ持てたとしても、その人の信仰と希望はむなしいものである。柔和で心のへりくだつた人でなければ、神の御前に受け入れられないからである。また、人が柔和で、心がへりくだつており、

イエスがキリストであることを聖靈の力によつて認(2)みと

40
S ①
希望工テ 12・4、

40 また、わたしの愛する同胞よ、わたしは希望に
あい はらから
①きぼう

めのならば、その人には慈愛が必ずなければならぬ。慈愛がなければ、その人は何の価値もない。

希望がなければどうして信仰が得られるであら

49 慈愛は長く堪え忍ひ、親切でありますねたます

43 またあなたがたは何を望めはよいのであるか

事を少しも考えず 罪悪を喜はないで眞実を喜

は
キリストの贖罪とキリストの復活の力によつて
えいえん　いのち　のそ
うそ　うそ　うそ

すべてに耐える
あい
はらから

かたは慈愛がなければあなたがたは何の価値もない。
慈愛はいづまごとくおもてなすがつぶら

しかしで、もし人は信仰があれば必ず希望がある。言ひ得ない。

かなる
に、
しかも
すゞてこののは、なんら
魚たててこまう

からである。
さう見は、あなたがここ言う。
(1) にゅうわ こころ

からである
一か八二の慈悲はキリストの純粋な愛のみであつ

はで些ない。 信仰と希望を持つこと

といふに纏めて、紅れの日にこの惡い持つてゐる二忍かうれる人は、幸いである。

4たゞ、お持てたどして、その人の信仰と希望にゆうわくころひととも、心のへりくびつた人

は、御父おんちちが御子おんこイエス・キリストキリストこ眞しんこ①したが從つ者しゃす

る。また、人が柔軟で、心がへりくだつており、

今本子音の讀法

た神の子となれるよう、熱意を込めて御父に祈りなさい。また、御子が御自身を現されるときに、わたしたちはありのままの御姿の御子にまみえるので、御子に似た者となれるよう、またわたしたちがこの希望を持てるよう、さらにわたしたちが清められて清い御子と同じようになれるよう、熱意を込めて御父に祈りなさい。アーメン。」

第8章

幼児のバプテスマは邪悪な怠まわしい行いである。幼い子供たちは、贖罪のおかげでキリストによつて生きてゐる。信仰、悔い改め、柔軟で心のへりくだつた状態、聖靈を受けること、最後まで堪え忍ぶこと、これらは人々を救いに導く。紀元約四百一年から四百二十一年に至る。

1 わたしモロナイにて書かれた父モルモンの手紙は、次のとおりである。これは、わたしが神の務めに召されて間もなく、わたしにあてて書かれたものである。父はわたしに次のように述べている。

2 「愛する息子モロナイよ、わたしは、主イエス・

キリストがあなたを心にかけ、主の務めに、また主の聖なる業にあなたを召してくださいことを、非常に喜んでいる。

3 わたしは祈る度に、いつもあなたのことを心にかけ、御父の限りない慈しみと恵みによつて、またあなたが最後まで御父の聖なる御子イエスの御名を信じ続ける信仰によつて、御父があなたをお守りくださるようとに、御子イエスの御名により父なる神に絶えず祈つてゐる。

4 ところで、わが子よ、わたしが非常に憂慮している事柄についてあなたに述べよう。あなたがたの中に論争が起ころのは、わたしにとつて悲しいことである。

5 もしわたしの聞いたことが事実であれば、あなたがたの中には、幼い子供たちのバプテスマについて論争があつたといふことである。

6 わが子よ、わたしが願うのは、あなたが力を尽くして、この大きな過ちがあなたがたの中から取り除かれるようにすることである。わたしがこの手紙を書いたのはそのためである。

7 わたしは、あなたがたのこの状況を聞いた後す

48	4 ①	3 ③	1 ①	GS ④	3 ②	1 ①	GS 「祈り」
28	3 ②	27	27	GS 3	2 ②	19	モサ 1:1
18	3 ②	27	27	GS 「恵み」	28	29	ニフ 1:1
34	11	11	22				

ぐに、この件について主に尋ねた。すると、主の御
言葉が聖靈の力によつてわたしに下つてこう言わ
れた。

8 『あなたがたの贖い主、あなたがたの主、あなた
がたの神であるキリストの言葉を聴きなさい。見
よ、わたしがこの世に来たのは、義人を招くためで
なく、罪人を招いて悔い改めさせるためであ
る。健康な人には医者は要らない。要るのは病人
である。幼い子供たちは、罪を犯すことができな
いので健康である。したがつて、アダムののろい
は、わたしによつて彼らから取り去られており、彼
らを支配する力を持つていない。また、割礼の律
法もわたしによって廢されている。』

9 聖靈がこのように神の御言葉をわたしに明らか

にしてくださつたので、愛する息子よ、わたしは、
幼い子供たちにバプテスマを施すことが、神をひ
どくあざける行為であることを知つてゐる。

10 見よ、わたしはあなたに言う。あなたがたは責
任を負うことができ、罪を犯す可能性のある者
に、このこと、すなわち悔い改めとバプテスマに
ついて教えなさい。親たちに、悔い改めてバプテ

スマを受け、幼い子供たちのようにへりくだらな
ければならないことを教えなさい。そうすれば、彼
らは皆、幼い子供たちとともに救われるであらう。

11 幼い子供たちは悔い改めもバプテスマも必要な
い。見よ、バプテスマは悔い改めに導くものであ
り、罪の赦しを得るための戒めを守ることである。

12 幼い子供たちは、世の初めからキリストによつ
て生きている。もしそうでなければ、神は不公平
な神であり、気まぐれな神であり、人を偏り見る
御方である。何と多くの幼い子供たちが、これまで
バプテスマを受けることなく死んだことであろう。

13 もし幼い子供たちがバプテスマなしでは救われ
ないとすれば、これらの子供たちは無窮の地獄へ
行つたに違ひない。

14 見よ、わたしはあなたに言うが、幼い子供たちに
もバプテスマが必要であると考える者は、苦汁の
中におり、罪悪の縄目を受けている。このような
者には信仰も希望も慈愛もない。したがつて、そ
のような考え方を抱いたまま絶たれることにでもな
れば、地獄に下つて行かなければならない。

15 ある子供はバプテスマを受けたので神によつて

14 教義	12 ②③ GS	11 ①「子供」	10 ②④ GS	8 ⑦ GS
13 38	2 ニフ	2 バプテスマ「資格」	GS「罪の赦し」	「言葉（神の）」
16	26	33	GS「創世記」	マコ 10:17
1章	1コリ	エベ 6:9	17 10-11	モサ 3:16
23	13	エベ 6:9	18 「責任を負う」	モサ 2:25-27
25	エテ	エベ 6:9	「謝罪」	創世記 2:25-27
28	モロ	エベ 6:9	「堕落（アダムと	モサ 3:16
	7	エベ 6:9	エバの）」	モサ 3:16
	12	エベ 6:9	「賛美」	モサ 3:16
	6	エベ 6:9	「謝罪」	モサ 3:16
	1	エベ 6:9	「謝罪」	モサ 3:16

救われるが、ほかの子供はバプテスマを受けていないので滅びる、と考えることは恐ろしい悪である。

16 このよう^(の)に主^(しゆ)の道を曲げる者たちは災いである。このよう^(の)な者は、悔い改めなければ滅びるからである。見よ、わたしは神から授けられた権能を持つてゐるので、大胆^(だいあん)語る。わたしは人のすることは恐れない。完全な愛はあらゆる恐れを取り除くからである。

17 わたしは慈愛^(じあい)、すなわち永遠の愛で満たされてゐるので、すべての子供はわたしにとつて等しい存在である。したがつて、わたしは完全な愛をもつて幼い子供たちを愛している。幼い子供たちは皆等しい存在であり、救いにあずかる者である。

18 わたしは神^(かみ)が不公平な神ではなく、気まぐれな御方でもなく、永遠から永遠にわたつて変わらない御方であることを知つている。

19 幼い子供たちは悔い改めることができないので、おかな子供たちへの神の清い憐れみを否定することは、恐ろしい惡である。幼い子供たちは皆、神の憐れみのおかげで、神によつて生きているからで

20 幼い子供たちにバプテスマが必要であると言う
ものは、キリストの憐れみを否定し、キリストの贖罪とキリストの贖いの力を軽んじる者である。

21 このような者は災いである。このような者は、死しと地獄と無窮の苦痛を被る恐れがあるからである。わたしは神から命じられたのでこのことを大いに語る。これらの御言葉に耳を傾け、注意を払えよ、すべての幼い子供たちはキリストによつて生きていける。律法のない者たちも皆同じである。

22 贖いの力は律法を持たないすべての者に及ぶからである。したがつて、罪に定められない者、すなわち罪の宣告を決して受けない者は、悔い改めることができないので、このような者にとつてバプテスムだ行いに頼るものである。

23 むしろ、それは神をあざける行為であり、キリストの憐れみと神の聖なる御靈の力を否定し、死しない。悔い改めは罪の宣告を受ける者、律法を犯さない。

してのろいを受ける者のためにあるのである。

25 悔い改めの最初の実はバブテスマである。バブテスマは信仰によつて行われ、戒めを守ることである。そして、戒めを守ることは罪の赦しを生じ、26 罪の赦しは柔軟で心のへりくだつた状態を生じ、柔軟で心のへりくだつた状態であれば聖靈の訪れがある。この慰め主は、希望と完全な愛をひとことに満たされる。そしてこの愛は、熱心に祈ることによつて、すべての聖徒が神とともに住む終わりの日が来るまで続くのである。

27 見よ、わが子よ、わたしがすぐにレーマン人に向かつて出て行くことがなければ、またあなたに書こう。見よ、この国民、すなわち二ーファイ人の民は、悔い改めなければ高慢のために滅びてしまう。

28 わが子よ、彼らが悔い改められるように、彼らのために祈りなさい。しかし見よ、御靈がすでに彼らを励ますのをやめているのではないかと、わたしは懸念している。この地方の者たちも、神から出ているすべての権威と権能を倒そうとしており、また聖靈を否定している。

29 わが子よ、彼らはこれまで理解していたそのよ

うに大きいなる知識を拒んだので、間もなく滅びるに違いない。そして、預言者たちの述べた預言と、わたしたちの救い主御自身の御言葉が成就するであろう。

30 わが子よ、わたしがまたあなたに書くときまで、あるいはあなたに会うときまで別れを告げる。アーメン。』

モルモンが息子モロナイにあてた第一の手紙。

次の第九章がそれに相当する。

第 9 章

二ーファイ人もレーマン人もともに邪悪になり、墮落している。彼らは互いに苦しめ合い、殺し合う。モルモン、恵みと慈しみがどこしえにモロナイにあるように祈る。紀元約四百一年。

1 「愛するわが子よ、わたしは自分がまだ生きていることを知らせるためにまたあなたに書いている。

25	① GS	「バブテスマ」
26	② GS	「柔軟」
27	③ GS	「希望」
28	④ GS	「熱心」
29	⑤ GS	「聖徒」
30	⑥ GS	「聖靈」
31	⑦ GS	「祈り」
32	⑧ GS	「別れ」
33	⑨ GS	「告げる」
34	⑩ GS	「アーメン」
35	⑪ GS	「うに大きいなる知識を拒んだので、間もなく滅びるに違いない。そして、預言者たちの述べた預言と、わたしたちの救い主御自身の御言葉が成就するであろう。」
36	⑫ GS	「モロナイトの歴史」
37	⑬ GS	「モロナイトの歴史」
38	⑭ GS	「モロナイトの歴史」
39	⑮ GS	「モロナイトの歴史」
40	⑯ GS	「モロナイトの歴史」
41	⑰ GS	「モロナイトの歴史」
42	⑱ GS	「モロナイトの歴史」
43	⑲ GS	「モロナイトの歴史」
44	⑳ GS	「モロナイトの歴史」
45	㉑ GS	「モロナイトの歴史」
46	㉒ GS	「モロナイトの歴史」
47	㉓ GS	「モロナイトの歴史」
48	㉔ GS	「モロナイトの歴史」
49	㉕ GS	「モロナイトの歴史」
50	㉖ GS	「モロナイトの歴史」
51	㉗ GS	「モロナイトの歴史」
52	㉘ GS	「モロナイトの歴史」
53	㉙ GS	「モロナイトの歴史」
54	㉚ GS	「モロナイトの歴史」
55	㉛ GS	「モロナイトの歴史」
56	㉜ GS	「モロナイトの歴史」
57	㉝ GS	「モロナイトの歴史」
58	㉞ GS	「モロナイトの歴史」
59	㉟ GS	「モロナイトの歴史」
60	㉟ GS	「モロナイトの歴史」

しかし、悲しいことを多少書くことになる。

2 見よ、わたしはレーマン人と激しい戦いをしたが、勝利は得なかつた。アルキアンタスは剣に倒れ、ルラムとエムロンも倒れた。また、わたしたちは優秀な兵を多数失つてしまつた。

3さて見よ、わが子よ、わたしはレーマン人がこの民を減ぼしてしまうのではないかと恐れている。この民が悔い改めず、サタンが絶えずこの民をあおり立てて、互いを怒るように仕向けているからである。

4 見よ、わたしは絶えず彼らに働きかけている。しかし、わたしが厳しく神の御言葉を告げると、彼らは身を震わせてわたしに対して怒り、また、わたしが厳しく言わないと、神の御言葉に対して心をかたくにする。だからわたしは、主の御靈がすでに彼らは、死をも恐れない見えるほどにひどく怒つている。互いにに対する愛をすでに失つており、いつも血と報復を渴望している。

6さて、愛するわが子よ、彼らがかたくなであつて

も、わたしたちは力を尽くそう。働くことをやめれば、わたしたちは罪の宣告を受けるに違いない。

わたしたちには、あらゆる義の敵を打ち破つて、神の王国で安息を得るために、この土の幕屋に宿つてゐる間に果たさなければならぬ務めがあるからである。

7さて、わたしはこの民の被つてゐる苦難について少し書こう。わたしがアモーロンから受けた知識によれば、見よ、レーマン人にはシエライザの塔から連れ去つた多くの捕虜がいるとのことである。捕虜は、男もいれば女もおり、子供もいた。

8そしてレーマン人は、女子供の夫や父親を殺して、おどし夫の肉を妻に、父親の肉を子供に食べさせて、また水はほんの少ししか与えていない。

9レーマン人の行いは、このようにひどく忌まわしいものではあるが、モリアンタムでのわたしたちの民の行いはそれ以上である。見よ、わたしたちの民はレーマン人の多くの娘たちを捕虜にし、あらゆるものに勝つて最も大切で貴いもの、すなわち純潔と徳を奪つた後、

10彼らはこのようなことをした後、非常にむごい方

法で彼女たちをなぶり殺しにした。そして、彼らはそうした後、心がかたくなあつたので、野獸のよにその娘たちの肉を食べてしまい、それを勇気のある証拠としている。

11 おお、愛するわが子よ、どうしてこのような野蛮な民に対して、

12 (わずか数年前まで、彼らは礼儀正しい喜ばしい民であったが)

13 おお、わが子よ、どうしてこのようにひどい忌まわしい行いを喜びとするこのような民に対して、神が裁きの御手をとどめてくださるなどと期待できよ

15 見よ、わたしの心は、『この民は災いだ。おお、神よ、裁きを下して、この民の罪と悪事と忌まわしい行いを、あなたの御前から隠してください』

16 また、わが子よ、シエライザには多くのやもめとその娘たちが残っている。レーマン人が運び去らなかつた食糧は、見よ、すでにゼネファイの軍隊が運び去つてしまい、やもめたちとその娘たち

は、食べ物を求めてさまようままに放置されている。そして多くの老女たちは、行き倒れになり死んでいる。

17 また、わたしとともにいる軍隊は弱く、しかもレーマン人の軍隊がシエライザとわたしの間にいる。これまでアロンの軍隊に逃げ込んで行つた者は皆、彼らの恐ろしい蛮行の犠牲となつた。

18 おお、わたしの民は何と堕落したことか。彼らには秩序もなく、情けもない。見よ、わたしはただの人であり、わたしにはひとりの力しかない。わたしはもはや命令を実行させることはできない。

19 彼らは邪惡の度を増し、皆同じように残忍になり、老若の区別なくだれの命も助けない。また、彼らは善いことでなければどんなことでも喜ぶ。この地の全面でニーフアイ人の女子供の被つてゐる苦難は、あらゆるもの超越えており、まことに、筆舌に尽くし難い。

20 さて、わが子よ、わたしはこのすさまじい有様についてはもう述べない。見よ、あなたはこの民の悪事を知つております、また彼らが道義心のない、

心の鈍い民であることも知つてゐる。彼らの悪事はレーマン人の悪事を越えてゐる。

21 見よ、わが子よ、わたしは神に打たれるのを恐れて、この民を神に推薦することができない。

22 しかし見よ、わが子よ、あなたのこととは神に推薦しよう。わたしは、あなたが救われるであろうといふことについて、キリストに信頼を寄せている。

また、神があなたの命を助けて、神の民が神に立ち返るところを、あるいは彼らが完全に滅びるところを、あなたに見せてくださるように、わたしは神に祈つてゐる。彼らが悔い改めて神に立ち返らなければ、必ず滅びることを知つてゐるからである。

23 もし彼らが滅びるとすれば、それはヤレド人と同様であり、彼らが強情であつて、彼らが血と報復を求めてそなうるのである。

24 また、もし彼らが滅びるならば、わたしたちが知つてゐるように、わたしたちの同胞の多くがすでにレーマン人のもとに脱走して行つたが、もっと多くの者がレーマン人のもとに脱走して行くであろう。ところで、もしあなたが命を助けられ、わたしが死んであなたに会えないようであれば、少し

書き記しなさい。しかしわたしは、もうすぐあなたに会えると確信している。あなたに渡したい神圣な記録を持つてゐるからである。

25 わが子よ、キリストに忠実でありなさい。わたしの書いたことを悲しんで、打ちひしがれて死ぬことのないようだ。キリストに支えられて、キリストの苦しみと死、キリストがわたしたちの先祖に御自分の体を示されたことと、キリストの憐れみと寛容と、キリストの栄光と永遠の命とを願う望みが、とこしえにあなたの心の中にとどまるようだ。

26 天の高い所にある王座に着いておられる父なる神の恵みと、また万物が従うまで神の右に座する主イエス・キリストの恵みが、とこしえにあなたとともににあるようだ。アーメン。」

第 10 章

『モルモン書』についての証は、聖靈の力によつて与えられる。御みならの賜物は忠実な者に分け与えられる。靈的な賜物は必ず信仰に伴う。モロナイの言葉は地から語る。キリストのもとに来て、キリストによつて完全になり、清められなさい。紀元約四百二十一年。

26	25	24	23	22 20
アルモサ	使徒	① ③ ② ① ② ① ② ① ①	モル	ヒラ
28 5	徒ル	G S G S G S	モル	モル
12 9	カ	「『永續罪』	エテ	ラ 8 6
55 22		6 45 4 15	10 11 3	ニラ 3 7
		56,	12 31	3 3 34
		15	24	35

さて、わたしモロナイは、自分がよいと思うま
まに少し書き記す。わたしは同胞であるレーマン
人に書き記す。キリストの来臨のしるしが現れて
から、すでに四百二十年以上たつたことを知つてほ
しい。

ことの真理を知るであろう。
6 善いものは何であろうと、正しくて眞実である。
したがつて、善いものはキリストを否定することなく、キリストがおられることを認める。

2わたしはあなたがたへの勧めとして少しの言葉は述べた後、この記録を封じることにする。
3見よ、わたしはあなたがたに勧めたい。あなたがたにとつてこの記録を読むことが、神の知恵にかなうようであれば、あなたがたはこれを読むと、アダムが造られてからあなたがたがこれを

受けたときまで、主が人の子らにどれほど憐れみをかけてこられたかを思い起こし、それを心の中に深く考えてほしい。

4 また、この記ききを受うけるとき、これが真まじんじん實じかいどうかキリストの名なによつて永遠えいえんの父ちちなる神かみに問ううように、あなたがたに勧すすめたい。もしキリストを信しんじながら、誠心せいしん誠意せいい問うならば、神かみはこれが真まじんじん實じであることを、聖靈せいれいの力ちからによつてあなたがたに明あきららかにしてくださる。

5 そして聖靈の力によつて、あなたがたはすべて

8 さらに、わたしは同胞であるあなたがたに、神の賜物は多いので、これらの賜物を否定しないよう勧める。これらの賜物は同じ神から出る。これらの中の賜物の与えられ方は様々であるが、すべての人の中ですべての働きをされるのは同じ神である。

9 見よ、ある人は神の御靈によつて、知恵の言葉を教える賜物が授けられ、

10 あるには同じ御靈によつて、知識の言葉を教える賜物、

さらには、わたしは同胞であるあなたがたに、神の賜物は多いので、これらの賜物を否定しないよう勧める。これらの賜物は同じ神から出る。これららの賜物の与えられ方は様々であるが、すべてのひとの中ですべての働きをされるのは同じ神である。これらの賜物は人を益すために、神の御靈の現れによつて人に授けられるのである。

見よ、ある人には神の御靈によつて、知恵の言葉を教える賜物が授けられ、

ある人には同じ御靈によつて、知識の言葉を教

「そしてあなたがたは、キリストをおられることを聖靈の力によつて知ることができる。したがつて、わたしはあなたがたに、神の力を否定しないよう」と勧めたい。神は今日も、明日も、とこしえに同じ御方で、人の子らの信仰に応じて力をもつて働かれる。

6 善いものは何であろうと、正しくて実である。たたかれて、善いものはキリストを否定することなく、キリストがおられることを認めること。

11 ある人には非常に深い信仰、ある人には同じ御み
靈によつて癒しの賜物、
12 また、ある人には大きな奇跡を行ふ賜物、
13 また、ある人にはあらゆる事柄について預言す
る賜物、

14 また、ある人には天使と仕える靈を見る賜物、
15 また、ある人にはあらゆる異言、
16 また、ある人には様々な言語といろいろな異言
を解釈する賜物が授けられる。

17 これらの賜物はすべて、キリストの御靈によつ
て授けられる。そして、キリストの望まれるままで
に、それぞれすべての人に授けられるのである。
18 わたしは愛する同胞であるあなたがたに、あら
ゆる善い賜物はキリストから来るということを覚え
ておくよう勧めたい。

19 また、わたしは愛する同胞であるあなたがたに
勧めたい。キリストは昨日も、今日も、とこしえに
変わらない御方であるということ、わたしが述べた
これらの靈的な賜物はすべて、人の子らが不^②ふ
信仰になるときでなければ、世界のあるかぎり決
してなくならないことを覚えておきなさい。

20 したがつて、信仰がなければならぬ。もし信
仰がなければならぬとすれば、希望もまたなけれ
ばならない。そして、もし希望がなければならな
いとすれば、慈愛もまたなればならない。
21 あなたがたに慈愛がなければ、あなたがたは決
して神の王国に救われない。また、信仰がなけれ
ば神の王国に救われないし、また希望がなけれ
ば救われない。

22 もしあなたがたに希望がなければ、あなたがた
は必ず絶望を味わうであろう。絶望は罪惡のため
に生じる。

23 キリストは、まことにわたしたちの先祖に、「信
仰があれば、あなたがたは、わたしの心にかなうす
べてのことを行ふことができる」と言われた。

24 さて、わたしは地の果てに至るすべての人に告
げる。もしあなたがたの中に、神の力と賜物のな
くなる時が来るとすれば、それは不信仰のためで
していなかからである。もしあなたがたの中に

25	24 23	21 20	19 18 16 12	11
① ② ① ① GS 「慈愛」	モロ 7 1 GS 「奇跡」	モロ 7 1 GS 「福音」	モロ 7 1 GS 「福音」	モロ 7 1 GS 「福音」
ロマ 3:10	モロ 7:33	モロ 7:37	モロ 7:37	モロ 7:37
ロマ 3:10	モロ 7:33	モロ 7:37	モロ 7:37	モロ 7:37

〔付録〕 GS 「不信仰」
ロマ 3:10
ロマ 3:10
ロマ 3:10
ロマ 3:10

善を行つ者がいれば、その人は神の力と賜物をもつて働くであろう。

26 これら のものを絶やして死ぬ者たちは災いである。彼らは罪のうちに死ぬので、神の王国に救われるることはあり得ないからである。わたしはこのことを、キリストの言葉のとおりに告げる。わたしは偽りを言わない。

27わたしは、これらのことを見ておくように勧める。わたしが偽りを言つていいことが、あなたがたに分かる時がすぐに来るからである。あなたがたは、神の法廷でわたしに会うであろう。そして、主なる神はあなたがたに、「わたしはあなたがたが

たに、死者の中から叫ぶもののように、まことに地の中から語るもののように、この人が書き記したわたしの言葉を告げなかつたか」と言われるであろう。

28 わたしがこれらのことと告げるのは、預言が成就するためである。見よ、これらのこととは永遠の神の口から出でるであろう。そして、神の言葉は代々響き渡るであろう。

29 また神は、わたしの書き記しててきたことが事実

う。あるということをあなたがたに示^{しめ}されるであろう。

さらに、わたしはあなたがたにキリストのもとに来て、あらゆる善い賜物を得るように、また悪い賜物や清くないものに触れないよう勧めたい。
おお、エルサレムよ、目を覚まして地から立ち上がりなさい。おお、シオンの娘よ、美しい衣を着なさい。おお、イスラエルの家よ、あなたの杭を強くし、あなたの境をどこしえに広げて、決して二度と乱されることのないようにし、また永遠の御父があなたに立てられた聖約が果たされるようにしなさい。

32 まことに、キリストのもとに来て、キリストによつて完全になりなさい。神の御心に添わないものをして拒みなさい。もしあなたがたが神の御心に添わないものをすべて拒み、神力と思いと力を尽くして神を愛するならば、神の恵みはあなたがたに十分であり、あなたがたは神の恵みにより、キリストによつて完全になることができる。そしてあなたがたは、神の恵みによりキリストによつて完全になれば、決して神の力を否定することができます。

がない。

33 さらにあなたがたは、神の恵みによりキリストによつて完全になり、神の力を否定しなければ、神の恵みによりキリストによつて聖められる。それはキリストの血が流されたことによるものである。

者となるのである。

さて、わたしはすべての者に別れを告げる。わたしは間もなく行つて、神のパラダイスで安息を得る。その後、わたしの靈と体は再び結合する。そしてわたしは勝利を得て空中に上げられ、生者と死者双方の永遠の裁き主である大いなる工ホバ⁽⁸⁾の楽しい法廷⁽⁹⁾であなたがたに会うことになる。アーメン。

完

付録

聖句ガイド

年表

福音書対観表

聖句ガイド

『聖句ガイド』は、『聖書』や『モルモン書』、『教義と聖約』、『高価な真珠』にある教義や原則、人物、地名の中から主要なものを選んで、その意味を解説したものである。また、各項目について学習ができるように、聖句のおもな参照箇所も付記した。この『聖句ガイド』は、個人や家族による聖典の学習に役立てることができる。また、福音に関する疑問の答えを見つけたり、テーマ別に聖典を研究したり、話やレッスンの準備をしたり、福音についての知識や証を深めたりする際にも活用できるであろう。

『聖句ガイド』の項目の例に関する説明は以下のとおりである。

項目は太字で示す—— 地球（地） 「創造、創造する」「世」 —— される。
参照

項目の簡潔な定義。—— わたしたちが今住んでいる惑星。人の試しの生涯の場として、イエス・キリストを通して神により創造された。地球は最終的には栄光を受け、昇栄した状態になる（教義 77:1-2; 130:8-9）。また、日の榮えにふさわしい生活をした人々の永遠の住まいとなる（教義 88:14-26）。その人々は御父と御子の前に住む（教義 76:62）。——

時々『聖句ガイド』の中の別の項目に、探しれている情報が含まれていることがある。鉤括弧の項目はそれを調べるのに役立つ。

項目によっては、このように再分類しているものもある。分類項目は字体を変えて表示してある。—— 人のために創造された：神は人に地を従わせる権威を与えた、創世 1:28（モセ 2:28）。地は主のものである、出エ 9:29（詩篇 24:1）。主は地を人の子らに与えられた、詩篇 115:16。わたしは地を造って、その上に人を創造した、イザ 45:12。

括弧内の聖句は、項目の解説をさらに深く理解できるようにするためのものである。

神の言葉の力によって人は大地の面に現れ、ヤコ 4:9。

地は自分の導き手として聖なる御靈みたまを受け入れる人々に与えられる、教義 45:56-58（教義 103:7）。福音に従う人は地の良いものを報いとして受ける、教義 59:3。地の貧しい者と柔軟な者はそれを受け継ぐ、教義 88:17（マタ 5:5; 3ニフ 12:5）。

参考聖句には、その聖句の引用または内容を短くまとめたものが付いている。

() の中は関連聖句である。

時々その項目の中に見つけたい情報がないことがある。そのときは鉤括弧の項目を調べてみる。

復活祭 「イエス・キリスト」「復活」 参照

参照項目の中で再分類してあるものについては、一を用いて示してある。

世の終わり 「世—世の終わり」 参照

アーメン

アーメン 「祈り」参照

「そうでありますように」あるいは「そのとおりです」の意味。これは、心から厳肅に受け入れて同意すること（申命27：14-26）、あるいは自分の語ることが真実であること（列上1：36）を示すために述べる言葉。今日では、祈りや証、話の後で、同意し、受け入れたことを示すために、それを聞いた人々がこの言葉を声に出して唱える。

旧約の時代には、誓いを立てるときに「アーメン」と唱えるように求められた（歴上16：7、35-36；ネヘ5：12-13；8：2-6）。キリストは「アーメンたる者、忠実な、まことの証人」と呼ばれている（黙示3：14）。この言葉はまた、預言者の塾で聖約のしるしとして用いられた（教義88：133-135）。

愛 「哀れみ」「慈愛」「敵意」参照

心から大切に思い、そのために献身すること。神への愛には、献身、礼拝、敬虔、思いやり、憐れみ、赦し、同情、優しさ、奉仕、感謝、親切などの要素が含まれる。御自身の子供たちに対する神の愛は、イエス・キリストの無窮の贍罪の中に最もよく示されている。

あなた自身のようにあなたの隣人を愛さなければならない、レビ19：18（マタ5：43-44；22：37-40；ロマ13：9；ガラ5：14；新ヤコ2：8；モサ23：15；教義59：6）。あなたは心をつくして、あなたの神、主を愛さなければならない、申命6：5（モロ10：32；教義59：5）。あなたがたの神、主はあなたがたが主を愛するか、どうかを知ろうと、あなたがたを試みられる、申命13：3。主は、愛する者を、戒められる、箴言3：12。友はいずれの時にも愛する、箴言17：17。

神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった、ヨハ3：16（教

義138：3）。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい、ヨハ13：34（ヨハ15：12、17；モセ7：33）。もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである、ヨハ14：15（教義42：29）。人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない、ヨハ15：13。ペテロよ、わたしを愛するか、ヨハ21：15-17。どんな被造物も、わたしたちの主イエス・キリストにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできない、ロマ8：35-39。目がまだ見なかつたことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた、1コリ2：9。愛をもって互に仕えなさい、ガラ5：13。夫たる者よ。妻を愛しなさい、エペ5：25（コロ3：19）。世を愛してはいけない、1ヨハ2：15。神は愛である、1ヨハ4：8。わたしたちが愛し合うのは、神がまずわたしたちを愛して下さったからである、1ヨハ4：19。

人の子らに対して愛にあふれた優しさと寛容に富んでおられる、1ニフ19：9。神とすべての人を愛して力強く進まなければならない、2ニフ31：20。子供たちに、互いに愛し合い、互いに仕え合うようく教える、モサ4：15。贍いをもたらす愛の歌を歌おうと感じたことがあるのであれば、今でもそのように感じられるか、アル5：26。聖なる御靈の導きを得て、謙遜になり、愛に富み、アル13：28。激情をすべて制し、愛で満たされるようにしなさい、アル38：12。民の心の中に宿っていた神の愛のために、地の面にはまったく争いがなかった、4ニフ1：15。神を愛するように誘い、促すものはすべて、神の靈感を受けているのである、モロ7：13-16。慈愛はキリストの純粋な愛であって、モロ7：47。完全な愛はあらゆる恐れを取り除く、モロ8：16（1ヨハ4：18）。

愛を持つ者には、神の業に携わる資格がある、**教義 4:5**（**教義 12:8**）。聖めは、神を愛し、神に仕えるすべての人に与えられる、**教義 20:31**。あなたはわたしを愛するならば、わたしに仕え、わたしのすべての戒めを守るべきである、**教義 42:29**（ヨハ 14:15）。あなたの正した、すなわち言い聞かせた人にいっそうの愛を示しなさい、**教義 121:43**。

神よりもサタンを愛した、**モセ 5:13, 18, 28**。

哀歌

『旧約聖書』の中の1書。エレミヤが書いたもの。エルサレムとイスラエル人の国の滅亡を嘆く詩と歌の集成。哀歌はエルサレムが滅ぼされた後の紀元前586年ごろに書かれた。

**あかし
証「証する」「証人、証」「聖霊」参照**

聖霊によって与えられる知識と靈的な確信。個人が真理として理解していることを公式に、あるいは法律に基づいて宣言する証言も証の一つである（**教義 102:26**）。

わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる、**ヨブ 19:25-26**。

わたしたちの主のあかしをすることを、決して恥ずかしく思ってはならない、**2テモ 1:8**。イエスのあかしは、すなわち預言の靈である、**黙示 19:10**。

いつでも神の証人になる、**モサ 18:9**。純粹な証をもって責めるほかに、人々を改心させる方法がない、**アル 4:19-20**。わたしはすべての事物をもって、これらのことが真実であると証する、**アル 30:41-44**。信仰が試されてからでなければ、証は得られないからである、**エテ 12:6**。

わたしはあなたの思いに平安を告げなかつたであろうか。神からの証よりも大

いなる証があるであろうか、**教義 6:22-23**。そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである、**教義 76:22-24**。わたしは、人々に証し警告するためにあなたがたを遣わした、**教義 88:81-82**。その遺言者たちは今や死に、彼らの遺言は効力を持つ、**教義 135:4-5**。

エノクは、天使たちが御父と御子のことを証するのを見た、**モセ 7:27**。示現を見たと言ったことで憎まれ、迫害されたとしても、それは真実であった、**ジエ歴史 1:24-25**。

**あかし
証する「証」参照**

聖霊の力によって証言をすること、また自分の知識や信念に基づいて厳肅に真理を宣言すること。

助け主はわたしについてあかしをするであろう、**ヨハ 15:26**。人々に宣べ伝え、またあかしするようにと、神はわたしたちにお命じになった、**使徒 10:42**。

3人はその書物が真実であることを証する、**2ニフ 27:12**。聖霊の力がそれを人の子らの心に伝えるからである、**2ニフ 33:1**。聖文はキリストを証している、**ヤコ 7:10-11**（ヨハ 5:39）。わたしは、自分が語ってきたこれらのことが真実であることを知っている、**アル 5:45**（アル 34:8）。

あなたがたは神の力によってこれらのものについて証しなければならない、**教義 17:3-5**。御靈があなたがたに証する事柄を行うように、**教義 46:7**。わたしは、人々に証し警告するためにあなたがたを遣わした、**教義 88:81**。

**あがな
贖い、贖う「イエス・キリスト」「死（肉体の）」「死（靈の）」「贖罪」「救い」「墮落（アダムとエバの）」参照**

代価を払って人を束縛の境遇から自由

赎い主

にするように、人を解放したり、買い取ったり、人のために賠償をしたりすること。赎いという言葉は、イエス・キリストの贖罪と罪からの解放を指す。イエスの贖罪は、全人類を肉体の死から贖う。贖罪により、キリストを信じる信仰をもって悔い改める人は、靈の死からも贖われる。

わたしはあなたをあがなった、イザ 44：22。彼らを死から、あがなう、ホセ 13：14（詩篇 49：15）。

わたしたちはキリストの血を通して贖いを得ている、エペ 1：7、14（ヘブ 9：11-15；1ペテ 1：18-19；アル 5：21；ヒラ 5：9-12）。

主はわたしを地獄から贖ってくださった、2ニフ 1：15。贖いは聖なるメシヤによって、またメシヤを通じてもたらされる、2ニフ 2：6-7、26（モサ 15：26-27；26：26）。彼らは贖いをもたらした愛について歌った、アル 5：9（アル 5：26；26：13）。悪人はあたかも贖いがなかったかのような有様であり、アル 11：40-41（アル 34：16；42：13；ヒラ 14：16-18）。イエス・キリストは世の贖いをもたらされた、モル 7：5-7。贖いの力は律法を持たないすべての者に及ぶ、モロ 8：22（教義 45：54）。

信じない者は靈的な堕落からの贖いを受けることができない、教義 29：44。幼い子供たちは、世の初めから贖われていて、教義 29：46。主はその民を贖われた、教義 84：99。ジョセフ・F・スマスは示現の中で死者の贖いを見た、教義 138 章。

アダムとエバは、贖いを受けられることを喜んだ、モセ 5：9-11。

**あがな
赎い主 「イエス・キリスト」「救い主」
参照**

しょくざい 贖罪によって全人類の罪の代価を払い、万人が復活できるようにされたイエス・キリストは、人類の偉大な贖い主で

あられる。

わたしをあがなう者は生きておられる、ヨブ 19：25。わたしはあなたを助ける。あなたをあがなう者はイスラエルの聖者である、イザ 41：14（イザ 43：14；48：17；54：5；59：20）。あなたの救主、またあなたのあがない主であることを知る、イザ 49：26（イザ 60：16）。

その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をもろもろの罪から救う者となるからである、マタ 1：21。人の子がきたのも、多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである、マタ 20：28（1テモ 2：5-6）。主なるイスラエルの神はその民を顧みてこれをあがない、ルカ 1：68。わたしたちは御子の死によって神との和解を受けた、ロマ 5：10。キリストが、わたしたちのためにご自身をささげられたのは、わたしたちすべての不法からあがない出して、聖別するためにほかならない、テト 2：13-14。イエス・キリストは、その血によってわたしたちを罪から解放された、黙示 1：5。

贖いは聖なるメシヤによって、またメシヤを通じてもたらされる、2ニフ 2：6-7、26。御子は人の子らの罪悪と背きを身に負い、彼らを贖い、正義の要求を満たされる、モサ 15：6-9、18-27。キリストは、悔い改めのためのバプテスマを受ける人々を贖うために来られる、アル 9：26-27。神の御子は御自分の民を贖うために、将来この世に来られ、アル 11：40-41。贖いは悔い改めを条件に成し遂げられる、アル 42：13-26。イエス・キリストが世を贖うために来られる、ヒラ 5：9-12。キリストは人類を肉体の死と靈の死から贖われた、ヒラ 14：12-17。キリストによって贖いは可能になる、3ニフ 9：17。わたしは、自分の民を贖うために世の初めから備えられた者である、エテ 3：14。

主なるあなたがたの贖い主は、肉体に

おいて死を受けた、**教義** 18:11。神であるわたしはすべての人に代わって苦しみを負い、**教義** 19:1, 16-20。幼い子供たちは、独り子によって贖われている、**教義** 29:46。わたしは、世の贖いのためにわたしの独り子を世に遣わし、**教義** 49:5。キリストは世の光であり、世の贖い主である、**教義** 93:8-9。ジョセフ・F・スミスは死者の贖いに関する示現を受けた、**教義** 138章。

わたしたちは、キリストの贖罪により、全人類は救われ得ると信じる、**箇条** 1:3。

**あがな
贖いの計画** 「イエス・キリスト」「**贖罪**」「**救い**」「**墮落（アダムとエバの）**」「**福音**」参照

人の不死不滅と永遠の命をもたらすために定められたイエス・キリストの完全な福音。その中には、創造や墮落、贖罪、ならびに神から与えられたすべての律法と儀式と教義が含まれる。この計画によってすべての人が昇栄し、永遠に神とともに住むことができるようになった(2ニフ2:9章)。この計画は聖典の中で、**救いの計画**、**幸福の計画**、**憐れみの計画**とも呼ばれている。

彼はわれわれのとがのために傷つけられ、**イザ** 53:5 (**モサ** 14:5)。

わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていない、**使徒** 4:12。アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである、**1コリ** 15:22。あなたがたの救われたのは、信仰によるのである、**エペ** 2:8 (2ニフ25:23)。神が永遠の昔に約束された永遠のいのち、**テト** 1:2。彼は永遠の救の源となり、**ヘブ** 5:8-9。贖いの計画が死者にも伝えられた、**1ペテ** 3:18-20; 4:6 (教義138章)。

死は大いなる創造主の憐れみに満ちた計画を成就する、**2ニフ** 9:6。わたした

ちの神の計画の何と偉大なことよ、**2ニフ** 9:13。贖いの計画は復活と罪の赦しをもたらす、**アル** 12:25-34。アロンはラモーナイ王の父に贖いの計画について教えた、**アル** 22:12-14。アミュレクは救いの計画について説明した、**アル** 34:8-16。アルマは救いの計画について説明した、**アル** 42:5-26, 31。

近代の啓示の中で創造や墮落、贖罪、バプテスマの教義が確認された、**教義** 20:17-29。この計画は世界が存在する前に定められた、**教義** 128:22。

人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である、**モセ** 1:39。これが、すべての人に与えられる救いの計画である、**モセ** 6:52-62。わたしたちはこれによって彼らを試し、**アブ** 3:22-26。

悪魔 「地獄」「反キリスト」「**滅びの子**」「**滅ぼす者**」「ルシフェル」「靈—惡靈」参照

サタン。悪魔は義の敵であり、また神の御心を行おうと努める人々の敵である。悪魔は実際には神の靈の子であり、かつては神の前で権威を持っていた天使であった(イザ14:12; 2ニフ2:17)。しかし、彼は前世で御父に背き、御父の靈の子供の3分の1を説きつけて背かせた(教義29:36; モセ4:1-4; アブ3:27-28)。彼らは天から投げ落とされ、肉体を受けて現世の生活を体験する機会を与えられず、やがては永遠の罰の定めを受ける。悪魔は天から投げ落とされて以来、絶えずすべての人を欺いて神の業から遠ざけ、自分と同じように惨めにしようとしている(黙示12:9; 2ニフ2:27; 9:8-9)。

イエスがおしかりになると、悪魔は出で行った、**マタ** 17:18。悪魔とその使たちとのために永遠の火が用意されている、**マタ** 25:41。悪魔に立ちむかいなさい。

アグリッパ

そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう、**新ヤコ 4:7。**

邪悪な人々は悪魔に束縛されるようになる、**1ニフ 14:7。** 悪魔はあらゆる偽りの父である、**2ニフ 2:18 (モセ 4:4)。** 悪魔は、すべての人が自分のように慘めになることを求めている、**2ニフ 2:27。** もしも肉体がもう二度と起き上がることができないとすれば、わたしたちの靈は、悪魔となったあの天使に従うようになり、**2ニフ 9:8-9。** 悪魔は、荒れ狂い、人々をなだめ、へつらう、**2ニフ 28:20-23。** 悪いものは悪魔から出る、**オム 1:25 (アル 5:40; モロ 7:12, 17)。** あなたがたの中に争いが起らないように、また悪靈に従おうとすることのないように気をつけなさい、**モサ 2:32。** もし良い羊飼いの羊でなければ、悪魔があなたがたの羊飼いであり、**アル 5:38-39。** 悪魔は終わりの日には自分の子らを助けるとせず、**アル 30:60。** 悪魔の誘惑に惑わされることのないように、絶えず祈りに心を配る、**アル 34:39 (3ニフ 18:15, 18)。** 贈^{あがな}い主の上に基を築けば、悪魔の大嵐に屈することはない、**ヒラ 5:12。** サタンはあらゆる罪の根源である、**ヒラ 6:26-31。**

悪魔は狡猾な計画を企ててきた、**教義 10:12。** 悪魔が人の子らを誘惑するのは必要である。そうでなければ、人の子らは自ら選択し行動する者とはなれない、**教義 29:39。** アダムは誘惑に負けたので、悪魔の意に従うことになった、**教義 29:40。** 減びの子たちは、悪魔やその使いとともに永遠に治める、**教義 76:32-33, 44。** 悪魔は千年の間縛られる、**教義 88:110 (黙示 20:2)。** 邪悪な者が光と真理を取り去る、**教義 93:39。**

サタンはその第一の位を守らなかつた、**アブ 3:28。**

悪魔の教会：純粹で完全な福音をねじ曲げ、神の小羊に戦いを挑む、この世の

すべての邪悪で世俗的な組織。

悪魔は大きな忌まわしい教会を設けた、**1ニフ 13:6 (1ニフ 14:9)。** 教会は二つしかない。一つは神の小羊の教会であり、もう一つは悪魔の教会である、**1ニフ 14:10 (アル 5:39)。**

悪魔の教会のほか、いかなる教会とも争ってはならない、**教義 18:20。** 大きな忌まわしい教会は、倒されるであろう、**教義 29:21。**

アグリッパ 「パウロ」参照

『新約聖書』の中の人物。ヘロデ・アグリッパ1世の息子。ペルニケとドルシラの兄弟。レバノンのカルキスの王。彼は使徒パウロの言葉に耳を傾け、もう少しでクリスチヤンとなるほどの確信を得た（使徒25-26章；ジ—歴史1:24）。

悪靈 「靈—悪靈」参照

アサ

『旧約聖書』の中の人物。ユダ王国3代目の王。『聖書』には「アサの心は一生の間、主に対して全く真実であった」（列上15:14）と記されている。彼は在位中に軍隊を強化して、エジプトのくびきを断ち、偽りの偶像を取り除き、民にエホバを求めるという誓いを立てさせた（列上第15-16章；歴下第14-16章）。しかし、足を病んだときには主の助けを求めず、死んだ（列上15:23-24；歴下16:12-13）。

欺き 「偽り」参照

聖典では、人に真実でないものを信じさせるという意味で用いられる。

偽って誓わない者は主の山に登る、**詩篇 24:3-4。** よこしまな人からわたしを助け出してください、**詩篇 43:1。** わざわいなるかな、彼らは悪を呼んで善と

いい、善を呼んで悪といい、イザ 5:20 (2 ニフ 15:20)。

だれも自分を欺いてはならない、1 コリ 3:18。だれにも不誠実な言葉でだまされてはいけない、エペ 5:6。悪人は人を惑わし人に惑わされる、2 テモ 3:13。全世界を惑わしたサタンは地に投げ落とされた、黙示 12:9。サタンは諸国民を惑わすことがないようにつながれた、黙示 20:1-3。

主を欺くことはできない、2 ニフ 9:41。御子に従い、神の前に決して欺きを行なうことがなければ、あなたがたは聖靈を受ける、2 ニフ 31:13。シーレムは、自分が悪魔の力によって欺かれていたことを告白した、ヤコ 7:18。ノア王の民はへつらいの言葉にだまされた、モサ 11:7。

賢い者は自分の導き手として聖なる御靈を受け、欺かれないと、教義 45:57。欺く者は災いである、教義 50:6。

彼はサタン、すなわち、あらゆる偽りの父である悪魔となって、人々を欺き、惑わし、モセ 4:4。

アセル 「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとレアのつかえめジルバの間に生まれた息子（創世 30:12-13）。

アセルの部族：ヤコブはアセルに祝福を授け（創世 49:20）、モーセはアセルの子孫に祝福を授けた（申命 33:1, 24-29）。アセルの子孫は「えりぬきの大勇士」と呼ばれた（歴上 7:40）。

アダム 「アダム・オンダイ・アーマン」「エデン」「エバ」「堕落（アダムとエバの）」「天使長、天使のかしら」「ミカエル」参照

地上で創造された最初の人。

アダムは地上の人類の始祖、族長であ

る。エデンの園での背きにより（創世 3 章；教義 29:40-42；モセ 4 章）、アダムは「堕落」し、死すべき者となった。それは人類がこの地上で進歩するのに必要な一つの段階である（2 ニフ 2:14-29；アル 12:21-26）。したがってアダムとエバは、人類に成長の機会を与えるという役割を果たしたことで、称賛を受けるに値する。アダムは日の老いたる者であり、またミカエルという名でも知られている（ダニ 7 章；教義 27:11；107:53-54；116 章；138:38）。アダムは天使長であり（教義 107:54）、人類家族の長として再び地上を訪れる（教義 116 章）。

神は自分のかたちに人を創造された、創世 1:26-28（モセ 2:26-28；アブ 4:26-28）。神は人に地を従わせる権威を与える、ふえよ、地に満ちよ、と命じられた、創世 1:28-31（モセ 2:28-31；アブ 4:28-31）。神はエデンの園にアダムとエバを置き、善悪を知る木からは取って食べてはならないと命じられた、創世 2:7-9, 15-17（モセ 3:7-9, 15-17；アブ 5:7-13）。アダムはすべての生き物に名を与えた、創世 2:19-20（モセ 3:19-20；アブ 5:20-21）。アダムとエバは神によって夫婦となった、創世 2:18-25（モセ 3:18-25；アブ 5:14-21）。アダムとエバはサタンに誘惑され、禁断の実を食べたために、エデンの園から追放された、創世 3 章（モセ 4 章）。アダムは930歳で死んだ、創世 5:5（モセ 6:12）。

アダムは最初の人であった、教義 84:16。アダムは死ぬ前に、義にかなった子孫をアダム・オンダイ・アーマンに呼び集め、彼らに祝福を受けた、教義 107:53-57。

アダムは犠牲をささげた、モセ 5:4-8。アダムはバブテスマを受け、聖靈を受け、神権に聖任された、モセ 6:51-68。

アダム・オンダイ・アーマン

アダム・オンダイ・アーマン 「アダム」
参照

アダムが自らの死の3年前に、義にかなった子孫に祝福を授けた場所（教義107：53-56）。再臨の前にアダムはこの地を訪れる（教義116章）。

新しくかつ永遠の聖約 「聖約（契約）」
参照

イエス・キリストの完全な福音（教義66：2）。背教の時代の後に新たに啓示されるイエス・キリストの完全な福音は、いつの場合も新しいということができる。またそれは神の聖約であり、進んで受け入れようとする人々がいたすべての神権時代に授けられてきたという意味では、永遠である。新しくかつ永遠の聖約は、預言者ジョセフ・スミスを通して、イエス・キリストにより再び地上の人々に明らかにされた。その中には、神権の権能によって執行されるバプテスマや神殿結婚などの神聖な儀式も含まれる。これらの儀式は人の救い、不死不滅、永遠の命の備えとなるものである。人々が福音を受け入れ、神の戒めを守ると約束するときに、神は新しくかつ永遠の聖約に伴う祝福を与えると聖約される。

わたしはあなたと契約を立て、創世17：7。これは彼とその後の子孫に永遠の祭司職の契約となるであろう、民数25：13。とこしえの契約を破った、イザ24：5（教義1：15）。わたしは、あなたがたと、とこしえの契約を立てて、イザ55：3（エレ32：40）。これは彼らの永遠の契約となる、エゼ37：26。

神は、「新しい」と言われたことによつて、初めの契約を古いとされた、ヘブ8：13。新しい契約の仲保者イエス、ヘブ12：24（教義76：69）。

これは一つの新しくかつ永遠の聖約である、教義22：1。わたしの永遠の聖約

を世に送って、教義45：9（教義49：9）。主は完全な福音、すなわち永遠の聖約を送られた、教義66：2（教義133：57）。日の栄えの王国の最高の階級を得るためにには、人は結婚の新しくかつ永遠の聖約に入らなければならない、教義131：1-2。新しくかつ永遠の聖約が、主の完全な栄光のために定められた、教義132：6, 19。

悪口 「争い」「偽り」「うわさ」「うわさ話」参照

正しくない、人を傷つけるような、惡意のあることを口にすること。聖典では、人を苦しめようとの意図を持つ人の言動を指していることが多い。

あなたの舌をおさえて惡を言わせず、詩篇34：13（1ペテ3：10）。よこしまな人は惡を企てる、箴言16：27。

人々があなたがたに対し偽って様々の悪口を言う時には、あなたがたは、さいわいである、マタ5：11（3ニフ12：11）。悪い思いは、心の中から出てくるのであって、マタ15：19（マコ7：21）。民のかしらを悪く言ってはいけない、使徒23：5。いっさいの惡意を捨て去りなさい、エペ4：31。互に悪口を言い合つてはならない、新ヤコ4：11。

陰口、悪口のないように取り計らう、教義20：54。

アッシリヤ

宿敵バビロニアと同様、旧約の時代に長期にわたって、シリアとパレスチナの国々の多くを支配した古代帝国。アッシリア人（アッシリヤ人）は紀元前12世紀中ごろから紀元前7世紀末にかけて大きな勢力を振るっていたが、決して安定した政治体系を確立することはできなかつた。彼らは火と剣で敵を壊滅させる、あるいは民の大部分を帝国内の他の地域

に追放して弱体化を図るなど、恐怖による統治を行った。アッシリアの支配下に置かれた民は絶えず帝国に逆らって戦った（列下18-19章；歴下32章；イザ7：17-20；10章；19：37）。

アナニヤ（エルサレムの）

『新約聖書』の中の人物。妻のサッピラとともに、主に奉獻した金錢の一部を差し出さずに、主を欺いた。ペテロに見破られ、二人は地に倒れ、息絶えた（使徒5：1-11）。

アナニヤ（ダマスコの）「パウロ」参照

ダマスコにいたキリストの弟子。パウロにバプテスマを施した（使徒9：10-18；22：12）。

アハブ「イゼベル」参照

『旧約聖書』の中の人物。北王国の非常によこしまな強権を誇った王。シドンの王女イゼベルと結婚。彼女の影響によって、イスラエルにバアルとアシタロテへの礼拝が持ち込まれ（列上16：29-33；列下3：2），預言者を殺し、エホバ礼拝を滅ぼそうとの企てがなされた（列上18：13）。

サマリヤで22年イスラエルを治めた、列上16：29（列上16-22章）。彼よりも先にいたすべての者にまさって、主の目の前に悪を行った、列上16：30。戦いで殺された、列上22：29-40。

アビナダイ「殉教者、殉教」参照

『モルモン書』の中のニーファイ人の預言者。

悔い改めなければ、神が邪惡なノア王の民を罰せられると預言した、モサ11：20-25。ノア王とその民の滅亡を預言したために投獄された、モサ12：1-17。

ノア王の邪惡な祭司たちにモーセの律法とキリストについて教えた、モサ12-16章。アルマは彼の言葉を信じてそれを記録した、モサ17：2-4。ノア王によつて焼き殺された、モサ17：20。

油「油注ぎ」「オリーブの木」「病人への癒しの祝福」参照

一般的に、聖典に出てくる油という言葉は、オリーブ油を指す。旧約の時代から、オリーブ油は神殿や幕屋での儀式、また油注ぎに用いられ、灯火用や食用にも使われてきた。時として、オリーブ油は純粹さや、聖なる御靈とその影響力の象徴とされることもある（サ上10：1、6；16：13；イザ61：1-3）。

祭司は油を右の耳たぶにつけなければならない、レビ14：28-29。主は、わたしをつかわし、あなたに油をそそいで、その民イスラエルの王とされました、サ上15：1。やもめの油のびんは空にならなかつた、列上17：10-16。わたしのこうべに油をそそがれる、詩篇23：5。

大ぜいの病人に油をぬっていやした、マコ6：13。教会の長老たちを招き、オリーブ油を注いで祈つてもらうがよい、新ヤコ5：13-15。

あなたがたのランプの芯しんを切りそろえて火をともし、油を備えて、教義33：17（マタ25：1-13）。

油注がれた者「イエス・キリスト」

「メシヤ」参照

イエスはキリスト（ギリシャ語）あるいはメシヤ（アラム語）と呼ばれるが、これらはどちらも「油注がれた者」の意味である。イエスは人類の救いに関するすべての事柄について、御父の代理を務める者として、御父から油を注がれた御方である。

主がわたしに油を注いで、イザ61：1-3。

油注ぎ

主は福音を宣べ伝えさせるために、聖別してくださった、ルカ4：16-22。イエスは父なる神から油を注がれた、使徒4：27。神はイエスに油を注がれた、使徒10：38。

油注ぎ 「油」「病人への癒しの祝福」
参照

昔、主の預言者は、アロンや祭司、イスラエルを治める王など、特別な務めを果たす人々に油を注いだ。今日の教会では、特別な祝福の一部として、頭に聖別された油を少量注ぐ。これは、メルキゼデク神権の権能と権威によってのみ行われる。油が注がれた後、一人のメルキゼデク神権者がその油注ぎを結び固め、油注ぎを受けた人に対して特別な祝福を授けることができる。

彼らに油を注ぎ、彼らを聖別し、わたしに仕えさせなければならない、出エ28：41（レビ8：6-12, 30）。その人に油を注いで、わたしの民イスラエルの君としなさい、サ上9：16；10：1。

長老たちは病人に油を注ぎ、祝福を授ける、新ヤコ5：14-15（教義42：44）。

アブラハム 「アブラハムの聖約(契約)」
参照

テラの息子。カルデヤのウルの生まれ（創世11：26, 31；17：5）。アブラハムは主の預言者であり、主は彼と永遠の聖約（契約）を交わされた。その聖約を通して地上のあらゆる国民が祝福を受ける。アブラハムの元の名はアブラムであった。

ハランに移住した、創世11：31-32（アブ2：1-5）。神から召されてカナンへ旅をし、神聖な契約を受けた、創世12：1-8（アブ2：4, 15-17）。エジプトに旅をした、創世12：9-20（アブ2：21-25）。ヘブロンに住んだ、創世13：

18。ロトを救った、創世14：1-16。メルキゼデクに会った、創世14：18-20。ハガルが息子イシマエルを産んだ、創世16：15-16。名をアブラハムと変えられた、創世17：5。主はアブラハムとサラに男の子を授けると言われた、創世17：15-22；18：1-14。サラが息子イサクを産んだ、創世21：2-3。イサクを犠牲としてささげるように命じられた、創世22：1-18。サラが死んで葬られた、創世23：1-2, 19。アブラハムは死んで葬られた、創世25：8-10。

アブラハムがイサクをささげようとしたことは、神と神の独り子の相似であつた、ヤコ4：5。メルキゼデクに十分の一を納めた、アル13：15。キリストの来臨を予見して、証した、ヒラ8：16-17。

メルキゼデクから神権を受けた、教義84：14。忠実な人々はアブラハムの子孫となる、教義84：33-34（ガラ3：27-29）。啓示によってすべてのものを受け、すでに昇栄を得ている、教義132：29。

先祖の祝福と神権に任じられることを求めた、アブ1：1-4。カルデヤの偽りの祭司から迫害された、アブ1：5-15。主によって救い出された、アブ1：16-20。太陽と月と数々の星について学んだ、アブ3：1-14。前世と創造について学んだ、アブ3：22-28。

アブラハム書：アブラハムが書いた古代の記録で、1835年に当教会の所有となった。この記録は幾体かのミイラとともに、アントニオ・レボロがエジプトの地下納骨堂で発見したもので、レボロによりマイケル・チャンドラーに遺贈された。チャンドラーは1835年にアメリカ合衆国の各地でこれらを展示した。ジョセフ・スミスの友人たちがこれらをチャンドラーから買い求め、預言者に贈った。そこで預言者ジョセフ・スミスはこれを翻訳した。現在、この記録の一部は『高

価な真珠』の中に収められている。

第1章には、カルデヤのウルでアブラハムの身の上に起ったことが記録されている。ウルの邪悪な祭司たちは、アブラハムを犠牲としてささげようとした。第2章には、アブラハムのカナンへの旅の様子が述べられている。主がアブラハムに現れ、聖約（契約）を交わされた。第3章には、アブラハムが宇宙を見て、様々な天体の間の関係を理解したことが記されている。第4-5章は、天地創造に関する記録である。

アブラハムの子孫：イエス・キリストの福音の律法と儀式に従うことにより、神がアブラハムに授けられた約束と聖約（契約）を受ける人々。アブラハムの血統に属する人、また福音を受け入れてバプテスマを受けることにより、アブラハムの家族に養子縁組された人は、男女を問わずこの祝福にあずかることができる（ガラ3：26-29；4：1-7；教義84：33-34；103：17；132：30-32；アブ2：9-11）。しかし、ア布拉ハムの文字どおりの子孫であっても、不従順によって祝福を失うことがある（ロマ4：13；9：6-8）。

アブラハムの子孫 「アブラハム—アブラハムの子孫」参照

アブラハムの聖約（契約） 「アブラハム」

「割礼」「聖約（契約）」参照

アブラハムは福音を受け入れ、大神権に聖任され（教義84：14；アブ2：11），昇栄の聖約である日の栄えの結婚をした（教義131：1-4；132：19，29）。アブラハムは、これらの聖約に伴うすべての祝福が地上の自分の子孫にも授けられるという約束を受けた（教義132：29-31；アブ2：6-11）。これらの聖約と約束は、まとめてアブラハムの聖約（契約）と呼ばれる。この聖約の回復が、終わりの時における福音の回復であった。それ

は、地上のすべての国民がこの聖約を通して祝福を受けるためである（ガラ3：8-9，29；教義110：12；124：58；アブ2：10-11）。

アブラム 「アブラハム」参照

アベデネゴ 「ダニエル」参照

『旧約聖書』の中の人物。シャデラク、メシャク、アベデネゴの3人のイスラエルの若者は、ダニエルとともにバビロンの王ネブカデネザルの宮廷に召された。アベデネゴのヘブライ語名は、アザリヤである。この4人の若者は、王の食物と酒を口にして自らを汚すのを拒んだ（ダニ1章）。シャデラク、メシャク、アベデネゴは王によって火の燃える炉の中に投げ込まれたが、奇跡的に守られた（ダニ3章）。

アベル 「アダム」「カイン」参照

『旧約聖書』の中の人物。アダムとエバの息子。

兄カインがささげた犠牲よりも優れた犠牲を神にささげた、創世4：4-5（ヘブ11：4；モセ5：16-21）。カインに殺された、創世4：8（モセ5：32）。

アダムから神権を受けた、教義84：16。

サタンはアベルを殺すようにカインと謀った、モセ5：28-31（ヒラ6：27）。

アマリキヤ

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の反逆者。レーマン人の中で権力を握り、彼らをニーファイ人と戦わせた（アル46-51章）。

アマレカイ人

神の教えに背いたニーファイ人のグループ。ニーファイ人と戦うようにレー

アマレク人

マン人をそそのかした（アル 21-24 : 43 章）。

アマレク人

アラバと地中海の間にあるパランの荒れ野に住んでいたアラブの1部族。彼らはモーセの時代（出エ 17:8）からサウルやダビデの時代（サ上 15 章 : 27 : 8 ; 30 章；サ下 8 : 11-12）に至るまで、絶えずヘブライ人と戦った。

アミュレク 「アルマ（アルマの息子）」
参照

『モルモン書』の中の人物。息子アルマの同僚宣教師。

天使の訪を受けた、アル 8:20;10:7。アルマを自分の家に迎えた、アル 8 : 21 - 27。アモナイハの民に、教えを説いた、アル 8:29-32;10:1-11。ニーファイ、リーハイ、マナセの子孫であった、アル 10 : 2-3。真理について証した、アル 10 : 4-11。人々に悔い改めを呼びかけたが、拒まれた、アル 10 : 12-32。ゼーヴロムと論じ合った、アル 11 : 20-40。復活と裁き、回復について教えた、アル 11 : 41-45。信じた人々の殉教を阻止したいと思った、アル 14 : 9-10。アルマとともに投獄された、アル 14 : 14-23。信仰によって牢から解放された、アル 14 : 24-29。贖罪と憐れみ、正義について証した、アル 34 : 8-16。祈りについて教えた、アル 34 : 17-28。悔い改めを引き延ばすことのないように人々に勧めた、アル 34 : 30-41。牢を地に倒したのは、アルマとアミュレクの信仰であった、エテ 12 : 13。

アムリサイ、アムリサイ人

『モルモン書』中の人物。さばきつかさの治世に、王を望むニーファイ人の一団を率いた。アムリサイ人と呼ばれた

このニーファイ人たちは公然と神に背き、そのためにのろいを受けた（アル 2 - 3 章）。

アモス

旧約の預言者。ユダの王ウジヤとイスラエルの王ヤラベアムの時代に、紀元前 792-740 年ごろにかけて預言した。

アモス書：『旧約聖書』の中の1書。アモスの預言の多くは、イスラエルとその近隣諸国に、義に立ち返れとの警告を発している。

第1-5章では、イスラエルとその隣諸国に悔い改めを呼びかけている。第3章では、主が預言者に隠れたことを啓示されること、また、イスラエルが背きのために敵から滅ぼされることが述べられている。第6-8章では、アッシリヤ（アッシリア）の侵攻よりもはるか以前にイスラエルが没落することが預言されている。第9章では、イスラエルがやがて彼らの所有の地に回復されることが預言されている。

歩む（神とともに）「義」「従順、従う」「道」参照

神の教えに従い、神が望んでおられる生活をすること。聖霊の促しを受け入れ、それに従うこと。

主は直く歩む者に良い物を拒まれることはありません、詩篇 84:11。彼らがわたしの定めに歩み、わたしのおきてを守って行い、わたしの民となるためである、エゼ 11:20-21（申命 8:6）。主のあなたに求められることは、ただへりくだって神と共に歩むことではないか、ミカ 6:8（教義 11:12）。

神が光の中にいますように、わたしたちも光の中を歩くならば、1ヨハ 1:7(2 ヨハ 1:6; 3ヨハ 1:4; 4ニフ 1:12)。

命に至る細い道を歩み、2ニフ 33:9。

ベニヤミン王は澄んだ良心をもって神の前を歩んだ、モサ2：27。あなたがたが神の御前を罪のない状態で歩めるように、アル7：22。

信仰深い歩みと会話によって、すなわち主の前を聖く歩むことによって、教義20：69。わたしの前に聖さを尽くして歩み、預言者の言葉を心に留めなければならない、教義21：4。子供たちに祈ることと、主の前をまっすぐに歩むことを教えなければならない、教義68：28。

あなたはわたしにつながっていなさい。そうすれば、わたしはあなたとつながっていよう。それゆえ、わたしとともに歩みなさい、モセ6：34。

洗い 「贖罪」「バプテスマ」参照

肉体的あるいは靈的に清めること。悔い改めた人は、象徴的な意味において、イエス・キリストの贖いの犠牲を通して、罪を負った生活とその結果から清められる。正当な神權の権能の下に執行される洗いは、神聖な儀式の中に数えられていく。

祭司は衣服を洗い、水に身をすいで、民数19：7。わたしの不義をことごとく洗い去り、詩篇51：2、7。身を洗って、清くなり、悪を行ふことをやめ、イザ1：16-18。

イエスは弟子たちの足を洗われた、ヨハ13：4-15（教義88：138-139）。バプテスマを受け、あなたの罪を洗い落としなさい、使徒22：16（アル7：14；教義39：10）。

だれも衣を白く洗い清められないかぎり、救いを得られない、アル5：21（3ニフ27：19）。彼らの衣はキリストの血によって白く洗い清められた、アル13：11（エテ13：10）。

戒めを守ることによって、彼らが自分のすべての罪から洗われて清くされ、教義76：52。あなたがたの油注ぎと、あ

なたがたの洗いは、わたしの聖なる家の儀式によって定められる、教義124：39-41。

争い 「背く」参照

不和、敵対、論争など。特に主の教会の会員同士の争い、家族同士の争いは、主の不興を招く。

わたしとあなたの間に争いがないようにしましょう、創世13：8。高ぶりはただ争いを生じる、箴言13：10。

もし互に責むべきことがあれば、ゆるし合いなさい、コロ3：13。愚かな議論と争いを避けなさい、テト3：9。

主なる神は、互いに言い争ってはならないと命じられた、2ニフ26：32。あなたがたは、自分の子供たちが互いに戦うのも、争い合うのもほうってはおかないのである、モサ4：14。アルマは、教會員の間に決して争いがないように指示した、モサ18：21。サタンはうわさと争いを広め、ヒラ16：22。惡魔は争いの父であり、互いに怒って争うように人々の心をあおり立てる、3ニフ11：29（モサ23：15）。

わたしの福音を確立し、ひどい争いがないようにするためである、教義10：62-64。互いに言い争うのをやめなさい、教義136：23。

アルコール飲料 「知恵の言葉」参照

アルパとオメガ 「イエス・キリスト」参照

アルパはギリシャ語アルファベットの最初の文字で、オメガは最後の文字である。これはまた、イエス・キリストに与えられた名称でもあり、キリストが初めてあり終わりでもある御方であることを示す象徴として用いられている（黙示1：8；教義19：1）。

アルマ（アルマの息子）

アルマ（アルマの息子）「アミュレク」
「アルマ（父）」「モーサヤの息子たち」
 参照

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の國の最初の大さばきつかさであり、預言者であった人。初め彼は教会を滅ぼそうとした（モサ 27：8-10）。しかし天使の現れを受けて、福音に心を向けた（モサ 27：8-24；アル 36：6-27）。後に、人々に教えを宣べるために、大さばきつかさの職を辞した（アル 4：11-20）。

アルマ書：『モルモン書』の中の1書。アルマの息子であった預言者アルマと、その子ヒラマンの記録を要約したもの。アルマ書に書かれているのは、紀元前約91-52年にかけての出来事である。63の章から成っている。第1-4章には、ニーホルやアムリサイに従った者たちのニーファイ人に対する反逆の様子が述べられている。その結果起きた戦争は、それまでのニーファイ人の歴史の中で最も悲惨なものであった。第5-16章には、良い羊飼いに関する説教（アル5章）や、アモナイハの町でアミュレクと行った宣教など、アルマの初期の伝道での話が述べられている。第17-27章には、モーサヤの息子たちについて、またレーマン人の中での彼らの働きについての記録が収められている。第28-44章には、アルマの説教の中でも特に重要なものが幾つか含まれている。第32章で、アルマは御言葉を種にたとえている。第36章では、息子ヒラマンに自分が改心したいきさつを述べている。第39-42章には、道徳的な過ちを犯した息子コリアントンへの勧告が記されている。この重要な説教は、正義、あわ憐れみ、復活、贖罪について説明したものである。第45-63章には、当時のニーファイ人の戦争と、ハゴスのもとでの移住のことが述べられて

いる。司令官モロナイ、テアンクム、リーハイなどの偉大な指導者が、勇気と時宜を得た行動によって、ニーファイ人を窮地から救っている。

アルマ（父）

『モルモン書』中のニーファイ人の預言者。邪悪なノア王の時代に教会を設立した。

邪悪な王ノアの祭司で、ニーファイの子孫であった、モサ 17：1-2。アビナダイの言葉を聞いて信じたが、王に追い出された。彼は逃げて身を隠し、アビナダイの言葉を記録した、モサ 17：3-4。悔い改めてアビナダイの言葉を教えた、モサ 18：1。モルモンの泉でバブテスマを施した、モサ 18：12-16。教会を設立した、モサ 18：17-29。民とともにゼラヘムラの地に着いた、モサ 24：25。教会を管理する権能を与えられた、モサ 26：8。教会員を裁き、導いた、モサ 26：34-39。息子を大祭司の職に聖任した、アル 4：4（モサ 29：42；アル 5：3）。

アロン（モーサヤの息子）「モーサヤ（ベニヤミンの息子）」「モーサヤの息子たち」参照

『モルモン書』中の人物。モーサヤ王の息子。アロンは宣教師として働き、その熱心な努力によって多くの人がキリストに帰依することとなった。

不信仰で、教会を滅ぼそうとした、モサ 27：8-10、34。天使が彼と彼の仲間に現れた、モサ 27：11。悔い改めて、神の言葉を宣べ伝え始めた、モサ 27：32-28：8。王位を受けることを辞退し、神の言葉を宣べ伝えるためにレーマン人の地へ行った、アル 17：6-9。導きを求めて断食し、祈った、アル 17：8-11。ラモーナイ王の父を教えた、アル 22：1-26。ゾーラム人のもとに行って

御言葉を宣べ伝えた、アル 31：6-7。

アロン（モーセの兄）「アロン神権」「モーセ」参照

『旧約聖書』の中の人物。アムラムとヨケベデの息子。レビの部族（出エ 6：16-20）モーセの兄（出エ 7：7）。

モーセを助けてイスラエルの子らをエジプトから導き出すように、またモーセの代弁者となるように主から召された、出エ 4：10-16, 27-31；5：1-12；51。モーセはシナイ山で、アロンとその4人の息子をアロン神権に任じることについて指示を受けた、出エ 28：1-4。民の求めに応じて金の子牛を造った、出エ 32：1-6, 21, 24, 35。ホル山で123歳で死んだ、民数 20：22-29（民数 33：38-39）。

主はアロンとその子孫にも、代々一つの神権を確認した、教義 84：18, 26-27, 30。神権の召しを尊んで大いなるものとする者はモーセの息子たち、またアロンの息子たちとなる、教義 84：33-34。

アロン神権「アロン（モーセの兄）」「神権」「モーセの律法」参照

小神権（ヘブ 7：11-12；教義 107：13-14）。アロン神権にはビショップ、祭司、教師、執事の職がある（教義 84：30；107：10, 14-15, 87-88）。古代においてはモーセの律法の下に大祭司、祭司、レビ人がいた。古代のイスラエル人が神に背いたため、モーセと聖なる神権が彼らから取り去られ、小神権が存続した。彼らは、聖めを受けることと、メルキゼデク神権とその儀式を受けることを拒んでいた（教義 84：23-26）。アロン神権は、律法と福音の実務上また外形上の儀式を執り行う（歴上 23：27-32；教義 84：26-27；107：20）。アロン神

権は、天使の働きの鍵と、悔い改めの福音の鍵と、バプテスマの鍵を持つ（教義 13 章）。アロン神権は、この神権時代において、1829年5月15日に地上に回復された。バプテスマのヨハネが、ペンシルベニア州ハーモニー近くで、ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリーにアロン神権を授けた（教義 13 章；ジ—歴史 1：68-73）。

彼は永遠の神権の聖約を交わすであろう、KJ 民数 25：13。主はレビの子らを清められる、マラ 3：3（3 ニフ 24：3）。

だれもこの栄誉ある務を自分で得るのではなく、ヘブ 5：4。レビ神権によつて完全になることはない、ヘブ 7：11。

レビの子らがささげ物をささげるまで、この神権は決して再び地上から取り去られることはない、教義 13 章。ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリーはアロン神権に聖任された、教義 27：8。小神権は天使の働きの鍵を持つ、教義 84：26（教義 13 章）。二つの神権、すなわち、メルキゼデク神権とアロン神権がある、教義 107：1。第二の神権は、アロンの神権と呼ばれる、教義 107：13。

哀れみ「愛」「憐れみ」「慈愛」参照

聖典の中では、同情や気の毒に思う心、慈しみなどの意味で用いられる。

主は民に哀れみを示すように求められた、ゼカ 7：8-10。

彼らを深くあわれまれた、マタ 9：36（マタ 20：34；マコ 1：41；ルカ 7：13）。あるサマリヤ人が彼を見て気の毒に思い、ルカ 10：33。同情し合いなさい、1ペテ 3：8。

キリストは人の子らを哀れむ思いに満たされている、モサ 15：9。わたしの心は、あなたがたに対する哀れみに満たされている、3 ニフ 17：6。

ジョセフ・スミスは主の哀れみを祈り

憐れみ

求めた、**教義** 121:3-5。

**あわ
懐れみ** 「イエス・キリスト」「贖罪」
「正義」「恵み」「赦し」参照

同情、優しさ、赦しの精神。憐れみは神の属性の一つである。イエス・キリストは贖いの犠牲を通してわたしたちに憐れみをかけられる。

主は、あわれみあり、恵みあり、**出エ** 34:6(申命4:31)。そのいつくしみはとこしえに絶えることがない、歴上16:34。恵みといつくしみとが伴うでしょう。詩篇23:6。貧しい人をあわれむ者はさいわいである、箴言14:21。わたしはいつくしみを喜び、犠牲を喜ばない、**ホセ** 6:6。

あわれみ深い人々は、さいわいである、彼らはあわれみを受けるであろう、マタ5:7(ニニフ12:7)。もっと重要な、公平とあわれみと忠実とを見のがしている、マタ23:23。あなたがたの父なる神が慈悲深いように、あなたがたも慈悲深い者となれ、ルカ6:36。わたしたちの行った義のわざによってではなく、ただ神のあわれみによって、救われたのである、テト3:5。

**あわ
主の深い憐れみ**は、すべての者のうえに及び、**1ニニフ** 1:20。悔い改めない者には憐れみは及ばない、モサ2:38-39。神は御自分の御名を信じるすべての人に憐れみをかけられる、アル32:22。憐れみは正義の要求を満たし、アル34:16。あなたは憐れみが正義から何を奪うことができると思うか、アル42:25(アル42:13-25)。幼い子供たちは皆、神の憐れみのおかげで、神によって生きている、モロ8:19-20(教義29:46)。

**あわ
かがな
懐れみの腕があなたがたの罪に対する贖いをした者**、**教義** 29:1。わたしは、わたしの名を信じたすべての者を受け入れた者である。わたしが流した血によっ

て、父の前で彼らのために弁護をしてきた、**教義** 38:4。聖約を守ってきた者は憐れみを受ける、**教義** 54:6。主なるわたしは罪を赦し、またへりくだった心をもって自分の罪を告白する者たちに憐れみ深い、**教義** 61:2。主なるわたしは、柔軟な者すべてに憐れみを示す、**教義** 97:2。幼子のようにあなたを受け入れる者は、わたしの王国を受ける。彼らは憐れみを受けるからである、**教義** 99:3。

憐れみはあなたの前を進み、モセ7:31。

**あんじゅ
接手** 「聖任」「聖靈の賜物」「任命」
「病人への癒しの祝福」参照

神権の儀式の一部として、人の頭に手を置く行為。聖任や祝福、病人への癒しの祝福、教会員としての確認、聖靈の授与など、神権の儀式の多くがこの接手によって行われる。

モーセは主が命じられたようにし、彼の上に手をおき、**民数** 27:18, 22-23(申命34:9)。

病人に手をおいていやされた、マコ6:5(モル9:24)。使徒たちは祈って手を彼らの上においた、使徒6:5-6。手を彼らの上においたところ、彼らは聖靈を受けた、使徒8:14-17。アナンヤはサウロの上に手をおいて彼が再び見えるようになした、使徒9:12, 17-18。パウロは手を彼の上においていやしてやった、使徒28:8。パウロはバブテスマや接手についての教義を教えた、ヘブ6:2。

アルマは接手により祭司たちと長老たちを聖任した、アル6:1。イエスは弟子たちに、接手によって聖靈を授ける力を与えられた、3ニニフ18:36-37。あなたがたが手を置く者に聖靈を授ける、モロ2:2。

長老たちは子供に手を置き、彼らに祝福を授けなければならない、**教義** 20:

70。按手によって人々は聖靈を受けるであろう、**教義 35:6**（箇条 1:4）。長老たちは病人に按手をしなければならない、**教義 42:44**（**教義 66:9**）。子供たちはバプテスマの後で按手を受けなければならない、**教義 68:27**。神権は按手によって授けられる、**教義 84:6-16**。

安息 「安息日」「平安、平和」参照

心配事や不安から解放された安らぎの状態。主は忠実に従う人々に、現世においてこのような安息を与えると約束された。また主はこのような人々のために、来世にも安息の場を備えておられる。

わたし自身が一緒に行くであろう。そしてあなたに安息を与えるであろう、**出エ 33:14**。

すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう、**マタ 11:28-29**。

わたしたちは、民が神の安息に入るようにするために、民の中で熱心に働いて、**ヤコ 1:7**（**ヘブ 4:1-11**）。悔い改める者はだれであろうと、わたしの安息に入るであろう、**アル 12:34**。清められて、主なる神の安息に入った人々は大勢おり、非常に多くの数に上った、**アル 13:12-16**。パラダイスと呼ばれる幸福な状態、すなわち安息の状態、**アル 40:12**（**アル 60:13**）。わたしの血により衣を洗われた者のほかには、父の安息に入る者はいない、**3ニフ 27:19**。

この民に悔い改めを告げて人々をわたしのもとに導き、父の王国で彼らとともに安息を得られるように、**教義 15:6**（**教義 16:6**）。死ぬ者はその労苦をすべて解かれて休み、**教義 59:2**（**黙示 14:13**）。主の安息とは、主の完全な栄光のことである、**教義 84:24**。

あんそくにち
安息日 「安息」「創造、創造する」参照

休息と礼拝のために設けられた、週に1度の聖日。神は万物を創造された後、7日目に休まれた。そして週の1日を、人々に神を思い起こさせるための安息の日とするように命じられた（**出エ 20:8-11**）。

キリストの復活まで、教員はユダヤ人と同じように週の最後の日を安息日として守っていた。復活後は、ユダヤ人であれ異邦人であれ、教員は主の復活を記念するために週の最初の日（主の日）を安息日とするようになった。今日の教員も週の1日を、神を礼拝し世の働きを休む聖なる安息日として守り続けている。

安息日は人々に靈的な養いの必要性と神に従う義務を思い起こさせる。安息日の遵守をおろそかにする国は、生活全般にその影響を受け、その宗教生活が崩れ始める（**ネヘ 13:15-18**；**エレ 17:21-27**）。

神は第7日に休まれた、**創世 2:1-3**。イスラエルの民は安息日にはマナを集めなかった、**出エ 16:22-30**。安息日を覚えて、これを聖とせよ、**出エ 20:8-11**（**モサ 13:16-19**）。安息日は神と人との間のしるしとして与えられた、**出エ 31:12-17**（**エゼ 20:12, 20**）。安息日には売り買いをしてはならない、**ネヘ 10:31**。安息日を喜びの日と呼び、主の聖日を尊ぶべき日ととなえ、おのが楽しみを求めず、**イザ 58:13-14**。

安息日は人のためにあるもので、人が安息日のためにあるのではない、**マコ 2:23-28**。人の子は安息日の主である、**ルカ 6:1-10**。イエスは安息日に会堂で教え、病人を癒された、**ルカ 13:10-14**。

ニーファイ人は安息日を聖なる日として守った、**ジェロ 1:5**。安息日を守つて聖なる日として保つ、**モサ 18:23**。

わたしの聖日に祈りの家に行って、

アンタイ・ニーファイ・リーハイ人

聖式をささげなければならない、教義

59：9-13。シオンに住む者はまた、安息日を守らなければならない、教義 68：29。

神であるわたしは、わたしのすべての業を離れて休んだ、モセ 3：1-3（創世 2：1-3；アブ 5：1-3）。

アンタイ・ニーファイ・リーハイ人

「アンモン（モーサヤの息子）」「ヒラマンの息子たち」「モーサヤの息子たち」参照

『モルモン書』の中の、モーサヤの息子たちによって改宗したレーマン人の呼び名。アンモンの民とも呼ばれたこの人々は、改宗した後、生涯従順であった（アル 23：4-7, 16-17；27：20-27）。

彼らは、自分たちをアンタイ・ニーファイ・リーハイ人と名付けた、アル 23：16-17；24：1。彼らは人の血を流すことを拒み、武器を埋めた、アル 24：6-19。彼らの息子たちは戦争に備え、ヒラマンを自分たちの指揮官に選んだ、アル 53：16-19；56-58 章（これらの息子たちは2千人の若い兵士としても知られていた）。

アンデレ

『新約聖書』の中の人物。シモン・ペテロの兄弟。イエスが地上で務めを果たしておられたときに召された十二使徒の一人（マタ 4：18-19；マコ 1：16-18, 29）。

アンナ

『新約聖書』の中の人物。アセル族の女預言者。イエスの降誕のときに、彼女は年老いた寡婦かふであった。彼女は神殿に連れて来られた幼子イエスを見て、贖い主あがなであると認めた（ルカ 2：36-38）。

アンナス 「カヤパ」参照

『新約聖書』の中の人物。サンヒドリン（議会）の有力者。イエスは逮捕されたとき、まずアンナスのもとに連行された（ヨハ 18：13）。使徒たちの裁判においても指導的な役割を演じた（使徒 4：3-6）。

アンモン（ゼラヘムラの子孫）「リムハイ」参照

『モルモン書』の中の人物。屈強な力の強い男で、ゼラヘムラからニーファイ・リーハイの地へ向かう搜索隊を率いた（モサ 7：1-16）。昔の記録を見せられて、聖見者とは何かを説明した（モサ 8：5-18）。後に、リムハイ王とその民をレーマン人から解放する手助けをし、彼らをゼラヘムラに連れ戻した（モサ 22 章）。

アンモン（モーサヤの息子）「アンタイ・ニーファイ・リーハイ人」「モーサヤ（ベニヤミンの息子）」「モーサヤの息子たち」参照

『モルモン書』の中の人物。モーサヤ王の息子。アンモンは宣教師として働き、彼の熱心な努力によって多くの人がキリストに帰依することとなった。

不信仰で、教会を滅ぼそうとした、モサ 27：8-10, 34。天使が彼と彼の仲間に現れた、モサ 27：11。悔い改めて、神の言葉を宣べ伝え始めた、モサ 27：32-28：8。王位を受けることを辞退し、神の言葉を宣べ伝えるためにレーマン人の地へ行った、アル 17：6-9。導きを求めて断食し、祈った、アル 17：8-11。縛られてラモーナイ王の前に連れて行かれた、アル 17：20-21。ラモーナイの羊の群れを取り戻した、アル 17：26-39。ラモーナイに教えを説いた、アル 18：1-19：13。神に感謝し、喜びのあまり力を失ってしまった、アル 19：

14。彼が改宗に導いた人々は、二度と道を踏み外さなかった、アル 23：6。神の手に使われる者となり、何千もの人々を真理に導けたことを喜んだ、アル 26：1-8（アル 26 章）。アンタイ・ニーファイ・リーハイの民を安全な地に導いた、アル 27 章。アルマに会って、大きな喜びを感じた、アル 27：16-18。

言い伝え

代々伝えられていく考え方や習慣（2 テサ 2：15）。主は聖典の中で義人に対し、人の邪悪な言い伝えを避けるよう絶えず警告しておられる（レビ 18：30；マコ 7：6-8；モサ 1：5；教義 93：39-40）。

イエス・キリスト 「贖い、^{あがな}贖う」「贖いの主」^{あがな}「贖いの計画」「油注がれた者」「アルバとオメガ」「イエス・キリストの再臨」「生ける水」「命のパン」「岩」「インマヌエル」「生まれる、産む、もうける」「エホバ」「解放者」「神、神会」「神の小羊」「犠牲」「悔い改め」「ゴルゴタ」「山上の垂訓」「主」「十字架」「十字架の刑」「昇天」^{しきくさい}「贖罪」「信仰」「救い主」「隅の石」^{せいき}「聖餐」「創造、創造する」「墮落（アダムとエバの）」「血」^{ちゅう}「仲保者」「長子、初子」「罪の赦し」「慰め主、助け主」「初め」「花婿」「光、キリストの光」「羊飼い」「人の子」「福音書」「復活」「蛇（青銅の）」「弁護者」「変貌—キリストの変貌」「マリヤ（イエスの母）」「道」「無窮」「恵み」「メシヤ」「良い羊飼い」「良心」「わたしは有る」参照

キリスト（ギリシャ語）とメシヤ（ヘブライ語）はともに「油注がれた者」の意味。イエス・キリストは靈における御父の長子であり（ヘブ 1：6；教義 93：21），肉における御父の独り子であられる（ヨハ 1：14；3：16）。またイエス・キリストはエホバであり（教義 110：3-4），世界が創造される前に、その偉大

な召しに予任された。イエスは御父の指示の下に、地球と地上の万物を創造された（ヨハ 1：3，14；モセ 1：31-33）。イエスはマリヤの子としてベツレヘムで生まれ、罪のない生活をし、また血を流し、十字架上で命をささげることによって、全人類の罪を完全に贖われた（マタ 2：1；1 ニフ 11：13-33；3 ニフ 27：13-16；教義 76：40-42）。イエスは死者の中からよみがえり、全人類がやがては復活できるようにされた。自分の罪を悔い改め、神の戒めに従う人は、イエスの贖罪と復活を通して、永遠にイエスと御父とともに住むことができる（2 ニフ 9：10-12；21-22 章；教義 76：50-53，62）。

イエス・キリストはこの地上に生を受ける者の中で、最も偉大な御方である。その生涯は、すべての人にいかに生きるべきかを教える完全な模範である。祈りや祝福、神権の儀式はすべてイエス・キリストの名によって行われなければならない。イエス・キリストは主の主、王の王、創造主、救い主、全地の神であられる。

イエス・キリストは福千年の間地上を統治するために、力と栄光とをもって再び来られる。終わりの日に、イエス・キリストは全人類を裁かれる（アル 11：40-41；ジーマタ 1 章）。

イエス・キリストの生涯の要約（出来事順）：イエスの降誕と使命が預言された、ルカ 1：26-38（イザ 7：14；9：6-7；1 ニフ 11 章）。イエスの降誕、ルカ 2：1-7（マタ 1：18-25）。割礼を受けられた、ルカ 2：21。神殿へ連れて行かれた、ルカ 2：22-38。博士たちが訪れて來た、マタ 2：1-12。マリヤとヨセフに連れられてエジプトへ逃れられた、マタ 2：13-18。ナザレに連れて帰られた、マタ 2：19-23。12 歳のとき、神殿に行かれた、ルカ 2：41-50。弟や妹がいた、マタ 13：55-56（マコ 6：3）。バブテスマを

イエス・キリスト

受けられた、マタ 3：13-17（マコ 1：9-11；ルカ 3：21-22）。悪魔に試みられた、マタ 4：1-11（マコ 1：12-13；ルカ 4：1-13）。弟子たちを召された、マタ 4：18-22（マタ 9：9；マコ 1：16-20；2：13-14；ルカ 5：1-11，27-28；6：12-16；ヨハ 1：35-51）。十二弟子に権威をお授けになった、マタ 10：1-4（マコ 3：13-19；ルカ 6：12-16）。山上の垂訓を述べられた、マタ 5-7章。御自身の死と復活を予告された、マタ 16：21（マタ 17：22-23；20：17-19；マコ 8：31；9：30-32；10：32-34；ルカ 9：22；18：31-34）。変貌された、マタ 17：1-9（マコ 9：2-8；ルカ 9：28-36）。七十人を遣わされた、KJ ルカ 10：1-20。エルサレムに勝利の入城をされた、マタ 21：1-11（マコ 11：1-11；ルカ 19：29-40；ヨハ 12：12-15）。聖餐を定められた、マタ 26：26-29（マコ 14：22-25；ルカ 22：19-20）。ゲツセマネで苦しみ、祈られた、マタ 26：36-46（マコ 14：32-42；ルカ 22：39-46）。裏切られ、捕らえられ、見捨てられた、マタ 26：47-56（マコ 14：43-53；ルカ 22：47-54；ヨハ 18：2-13）。十字架につけられた、マタ 27：31-54（マコ 15：20-41；ルカ 23：26-28，32-49；ヨハ 19：16-30）。復活された、マタ 28：1-8（マコ 16：1-8；ルカ 24：1-12；ヨハ 20：1-10）。復活の後に御姿を現された、マタ 28：9-20（マコ 16：9-18；ルカ 24：13-48；ヨハ 20：11-31；使徒 1：3-8；1コリ 15：5-8）。天に昇られた、マコ 16：19-20（ルカ 24：51-53；使徒 1：9-12）。

ニーファイ人に御姿を現された、3ニフ 11：1-17（3ニフ 11-26章）。

ジョセフ・スミスに御姿を現された、ジーゴ歴史 1：15-20。

前世におけるキリスト：主はアブラムに現れ、創世 12：7（創世 17：1；18：1；

アブ 2：6-8）。主はモーセと顔を合わせて語られた、出エ 33：11（申命 34：10；モセ 1：1-2）。わたしは祭壇のかたわらに立っておられる主を見た、アモ9：1。

初めに言があった。言は神と共にあつた。そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った、ヨハ 1：1，14（1ヨハ 1：1-3）。アブラハムの生れる前からわたしは、いるのである、ヨハ 8：58。父よ、世が造られる前に、わたしがみそばで持っていた栄光で、今み前にわたしを輝かせて下さい、ヨハ 17：5。

ニーファイやヤコブが贖い主にまみえたと同じように、イザヤも贖い主にまみえた、2ニフ 11：2-3。明日、わたしは世に来る、3ニフ 1：12-14。世の始まる前からすでにおられた、3ニフ 26：5（ヨハ 6：62）。わたしはあなたに現れているように、将来肉にあってわたしの民に現れる、エテ 3：14-17。

エノクは主にまみえ、主とともに歩んだ、教義 107：48-49。

初めからわたしが愛し選んだ者であるわたしの愛する子、モセ 4：2。主は言われた。「わたしはだれを遣わそうか。」すると、一人が人の子のように答えた。「わたしがここにいます。わたしをお遣わしください。」アブ 3：27。

降誕と死に関する預言：おとめがみごもって男の子を産む、イザ 7：14（1ニフ 11：13-20）。ベツレヘムから、イスラエルを治める者が出て、ミカ 5：2。

レーマン人サムエルは、2昼1夜がまるで1日になる日、暗くならない夜、新しい星、そのほかのしるしについて預言した、ヒラ 14：2-6。レーマン人サムエルは、暗闇や雷、稲妻、地震について預言した、ヒラ 14：20-27。キリスト降誕のしるしが成就した、3ニフ 1：15-21。イエスの死のしるしが成就した、3ニフ 8：5-23。

キリストの予型と象徴：アベルは群れの初子をささげた、創世4:4（モセ5:20）。あなたのひとり子イサクを燔祭としてささげなさい、創世22:1-13（ヤコ4:5）。主はイスラエルの子らに、傷のない子羊をささげるよう命じられた、出エ12:5, 21, 46（民数9:12; ヨハ1:29; 19:33; 1ペテ1:19; 黙示5:6）。これは主があなたがたの食物として賜わるパンである、出エ16:2-15（ヨハ6:51）。岩を打ちなさい。水がそれから出て、民はそれを飲むことができる、出エ17:6（ヨハ4:6-14; 1コリ10:1-4）。やぎは彼らのもろもろの悪をになって、レビ16:20-22（イザ53:11; モサ14:11; 15:6-9）。モーセは、それを仰ぎ見る人々を救うために青銅のへびを掲げた、民数21:8-9（ヨハ3:14-15; アル33:19; ヒラ8:14-15）。ヨナは3日3夜その魚の腹の中にいた、ヨナ1:17（マタ12:40）。

これは、御父の、恵みと真理に満ちている独り子の犠牲のひながたである、モセ5:4-8。

権威：まつりごとはその肩にあり、イザ9:6（2ニフ19:6）。

権威ある者のように教えられた、マタ7:28-29（マコ1:22）。人の子は地上で罪をゆるす権威をもっている、マタ9:6。イエスが権威をもって命じられると、汚れた靈は従った、マコ1:27（ルカ4:33-36）。イエスは12人を立て、権威を受けられた、マコ3:14-15。イエスの言葉には権威があった、ルカ4:32。裁きのことはすべて御父からゆだねられた、ヨハ5:22, 27。神はイエスに聖靈と力とを注がれ、使徒10:38。創世の前から予任されていた、1ペテ1:20（エテ3:14）。地獄と死との鍵を持っておられる、黙示1:18。

すべての人が大いなる創造主に従うようになる、2ニフ9:5。天地の父、時の

始めからの万物の創造主であられる、ヒテ14:12。

父の御心を行うために、父の御心によって来られた、教義19:24。御父の完全な栄光を受け、また一切の権威を受けられた、教義93:3-4, 16-17（ヨハ3:35-36）。

模範：わたしは手本を示した、ヨハ13:15。わたしは道であり、真理であり、命である、ヨハ14:6。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、御足の跡を踏み従うようにと、模範を残されたのである、1ペテ2:21。

人は生ける神の御子の模範に倣って、最後まで堪え忍ばなければ救われない、2ニフ31:16。わたしが完全であるように、あなたがたも完全になることを、わたしは望んでいる、3ニフ12:48。あなたがたは、わたしがしたように、いつもこれを行うように努めなさい、3ニフ18:6。わたしはあなたがたのために模範を示した、3ニフ18:16。わたしが行うを見たそのとおりのことを、あなたがたも行いなさい、3ニフ27:21, 27。イエス・キリストに真に従う者は御子に似た者となる、モロ7:48。

栄光：主の栄光が幕屋に満ちた、出エ40:34-38。その栄光は全地に満つ、イザ6:3（2ニフ16:3）。主の栄光があなたの上にあらわれる、イザ60:1-2。

人の子は父の栄光のうちに来る、マタ16:27。父よ、世が造られる前に、わたしがみそばで持っていた栄光で、今み前にわたしを輝かせて下さい、ヨハ17:5。

イスラエルの聖者が大いなる栄光をもって必ず統治される、1ニフ22:24。キリストの栄光を待ち望んでいた、ヤコ4:4。神の御子は栄光を帯びて来られる、アル5:50。イエスは世の初めから将来御自分が栄光のうちに来られるときまでのすべてのことについて説き明かさ

イエス・キリスト

れた、**3ニフ 26:3。**

わたしの使徒たちは、わたしと同じように栄光を受けて、**教義 29:12**（教義 45:44）。わたしたちは御父の右に御子の栄光を見、**教義 76:19-23**。ヨハネはわたしの完全な栄光を見て、^{あかし}証した、**教義 93:6**（ヨハ 1:14）。その顔は太陽の輝きに勝って光り輝いていた、**教義 110:3。**

神の栄光がわたしのうえにあり、わたしは神の御顔を見た、**モセ 1:1-11**。これがわたしの業であり、わたしの栄光である、**モセ 1:39。**

^{かしら}教会の頭：キリストが教会のかしらであって、**エペ 5:23**（エペ 1:22; 4:15）。自らは、そのからだなる教会のかしらである、**コロ 1:18。**

これはわたしの教会である、**モサ 26:22**（モサ 27:13）。彼らの信仰の創始者であり完成者である、**モロ 6:1-4。**

わたしはこの教会を設け、**教義 33:5**（**ニフ 27:3-8**）。

御名を受ける：わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、だれにも与えられていない、**使徒 4:12**（**2ニフ 31:21**）。使徒たちは、御名のために恥を加えられるに足る者とされたことを喜び、**使徒 5:38-42**。その戒めというのは、神の子イエス・キリストの御名を信じることである、**1ヨハ 3:23。**

バブテスマを受けることによって、キリストの名を喜んで受けることを御父に証明する、**2ニフ 31:13**。キリストの御名を受けてほしい、**モサ 5:6-12**（モサ 1:11）。神の名を受けることを望んだ者はだれでも皆、神の教会に加わった、**モサ 25:23**。キリストのまことの信者であった人々は皆、クリスチャンという名を喜んで受けた、**アル 46:15**。天の門はイエス・キリストの名を信じようとする人々に開かれている、**ヒラ 3:28**。終わりの日

に、わたしの名に忠実であると認められる者は幸いである、**エテ 4:19**。進んで御子の御名を受け、**モロ 4:3**（教義 20:77）。

キリストの名を受けなさい、**教義 18:21-25。**

^{あかし}イエス・キリストについての証：パウロはイエスがキリストであることを証した、**使徒 18:5**。惡靈でさえも、イエスを知っていると証した、**使徒 19:15**。聖靈によらなければ、だれも「イエスは主である」と言うことができない、**1コリ 12:3**。あらゆるもののがひざをかがめ、また、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と告白し、**ピリ 2:10-11。**

わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、**2ニフ 25:26**。『モルモン書』は、イエスがキリストであられることをユダヤ人と異邦人に確信させる、**2ニフ 26:12**（『モルモン書』のタイトルページ）。預言者と聖文はキリストについて証している、**ヤコ 7:11, 19**。預言者たちと使徒たちが書き記してきたイエスを求めるように、**エテ 12:41。**

ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは小羊を見、小羊が御父の独り子であられるという証の声を聞いた、**教義 76:20-24**。永遠の命とは、神とイエス・キリストとを知ることである、**教義 132:24。**

わたしたちは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと、聖靈とを信じる、**箇条 1:1**。わたしたちは、キリストが自ら地上を統治されることを信じる、**箇条 1:10。**

死後の現れ：イエスはよみがえって、まずマグダラのマリヤに御自身をあらわされた、**マコ 16:9**（ヨハ 20:11-13）。

18)。イエスはエマオへの道で二人の弟子と一緒に歩き、話をされた、ルカ 24：13-34。イエスが弟子たちに御姿を現され、弟子たちはその手と足に触れた、ルカ 24：36-43（ヨハ 20：19-20）。イエスはトマスに御姿を現された、ヨハ 20：24-29。イエスはテベリヤの海べで、ご自身をまた弟子たちにあらわされた、ヨハ 21：1-14。イエスは復活の後、40日にわたって人々を教え導かれた、使徒 1：2-3。ステパノは、イエスが神の右に立っておられるのを見た、使徒 7：55-56。イエスはサウロに御姿を現された、使徒 9：1-8（JS 使徒 9：7；使徒 26：9-17）。キリストは500人以上上の兄弟たちに御姿を現された、1コリ 15：3-8。

イエス・キリストはニーファイの民に御自身を示された、3ニフ 11：1-17。2,500人の人々がイエスにまみえ、その声を聞いた、3ニフ 17：16-25。モルモンは主の訪れを受けた、モル 1：15。

ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは神の右にイエスを見た、教義 76：22-23。ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリは、カートランド神殿で主にまみえた、教義 110：1-4。

ジョセフ・スミスはイエスを見た、ジー歴史 1：15-17。

キリストによる福千年の統治：まつりごとはその肩にあり、イザ 9：6（2ニフ 19：6）。わたしが来て、あなたの中に住むからである、ゼカ 2：10-12（ゼカ 14：9）。

神は彼に父ダビデの王座をお与えになり、ルカ 1：30-33。主は世々限りなく支配なさる、黙示 11：15。キリストと共に千年の間、支配した、黙示 20：4（教義 76：63）。

聖者の民の義のために、サタンはまったく力を持たず、1ニフ 22：26（黙示 20：1-3）。

わたしは千年の間地上で人々とともに義のうちに住む、教義 29：11（教義 43：29-30）。治める権利を持つ者が治めるまで、今ある権力に従いなさい、教義 58：22（1コリ 15：25）。

キリストが自ら地上を統治される、箇条 1：10（イザ 32：1）。

裁き：主は正義をもって世界をさばき、詩篇 9：8（3ニフ 27：16）。主は地をさばくために来られる、詩篇 96：13。神は正しい者と悪い者とをさばかれる、伝道 3：17。彼はもろもろの国のあいだにさばきを行い、イザ 2：4（ミカ 4：3；2ニフ 12：4）。正義をもって貧しい者をさばき、イザ 11：2-4。

さばきのことはすべて、子にゆだねられた、ヨハ 5：22。もしわたしがさばくとすれば、わたしのさばきは正しい、ヨハ 8：16。生者と死者との審判者として神に定められたかたである、使徒 10：42（2テモ 4：1）。神がキリスト・イエスによって人々の隠れた事がらをさばかれる、ロマ 2：16。わたしたちはみな、キリストのさばきの座の前に立つのである、KJ ロマ 14：10（2コリ 5：10；アル 12：12；モル 3：20；7：6；エテ 12：38；教義 135：5）。

人は皆、神の内にある真理と聖さによって裁かれる、2ニフ 2：10。行いに応じて裁かれるために神の御前に立つ、アル 5：15（アル 12：15；33：22；3ニフ 27：14）。

神とキリストが万民の審判者であられる、教義 76：68。

イエス・キリストの教会 「神の王国、天の王国」「教会の名称」「聖徒」「福音の回復」「まことの教会のしるし」「末日聖徒イエス・キリスト教会」
参照

バプテスマと確認によってイエス・キリストの名を受けた信者の組織。まこと

イエス・キリストの降誕と死のしるし

の教会であるということは、主の教会でなければならない。すなわち、主の権能、教え、律法、儀式、御名を持ち、主から任せられた代表者を通して、主によって治められていなければならない。

主は、救われる者を日々仲間に加えて下さった、使徒2：47。わたしたちも数は多いが、キリストにあって一つのからだであり、ロマ12：5。わたしたちは皆、一つの御靈みたまによって、一つのからだとなるようにバプテスマを受け、1コリ12：13。教会は使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられる、エペ2：19－20。使徒や預言者は教会に欠かせない、エペ4：11－16。キリストが教会のかしらであって、エペ5：23。

多くの教会があったにもかかわらず、それらはすべて一つの教会であった、モサ25：19－22。教会は清められ、秩序が確立された、アル6：1－6。キリストの教会は、キリストの名で呼ばれなければならない、3ニフ27：8。教員は断食し、祈るために語り合うためにしばしば集まった、モロ6：5。

これは唯一まことの生ける教会である、教義1：30。この終わりの時にキリストの教会が起こされた、教義20：1。主は御自分の教会を築き上げるために僕しもべを召される、教義39：13。わたしの教会は、終わりの時にこのように呼ばれなければならない、教義115：4。

イエス・キリストの降誕と死のしるし 「イエス・キリスト」参照

イエス・キリストの降誕と死に伴つて起きた数々の出来事。

降誕：おとめがみごもって男の子を産む、イザ7：14。ベツレヘムから、イスラエルを治める者が出る、ミカ5：2。

レーマン人サムエルは、2昼1夜があるで1日になる日、暗くならない

夜、新しい星、その他のしるしについて預言した、ヒラ14：2－6。しるしが成就した、3ニフ1：15－21。

死：レーマン人サムエルは、暗闇や雷、稲妻、地震について預言した、ヒラ14：20－27。しるしが成就した、3ニフ8：5－23。

イエス・キリストの再臨 「イエス・キリスト」「ゴグ」「時のしるし」「ハルマゲドン」「マゴグ」参照

福音千年の初めに、キリストは地上に戻って来られる。この出来事は、地球の現世の状態の終わりを告げるものである。悪人は地から除かれ、義人は地球が清められている間、雲の中に取り上げられる。キリストが再び来られる正確な日時はだれにも分からぬが、キリストは、再臨の時が近いことを示すしるしとして、わたしたちが待ち受けるべきものを幾つか与えてくださった（マタ24章；ジーマタ1章）。

後の日に彼は必ず地の上に立たれる、ヨブ19：25。すべてのひざはわが前にかがみ、すべての舌は誓いをたてる、イザ45：23（教義88：104）。人の子のような者が、天の雲に乗ってきて、ダニ7：13（マタ26：64；ルカ21：25－28）。彼らはその刺した者を見る、ゼカ12：10。人が彼に「あなたの背中の傷は何か」と尋ねるならば、ゼカ13：6（教義45：51）。その来る日には、だれが耐え得よう。彼は金をふきわける者の火のようであり、マテ3：2（3ニフ24：2；教義128：24）。

人の子は父の栄光のうちに来る、マタ16：27（マタ25：31）。その日、その時は、だれも知らない。ただ父だけが知つておられる、マタ24：36（教義49：7；ジーマタ1：38－48）。このイエスは、天に上つて行かれるのを見たがたが見たのと同

じ有様で、またおいでになるであろう。
使徒 1：11。主ご自身が天から下つてこられる、**1 テサ 4：16**。主の日は盜人のように襲つて来る、**2 ペテ 3：10**。主は無数の聖徒たちを率いてこられた、**ユダ 1：14**。彼は、雲に乗つてこられる。すべての人の目は、彼を仰ぎ見るであろう、**黙示 1：7**。

わたしが立つて世の人々を裁く、**3 ニフ 27：14-18**。

あなたがたは備えなさい。備えなさい。主は近いからである、**教義 1：12**。わたしは力をもつて、天から姿を現し、千年の間地上に住む、**教義 29：9-12**。声をあげ、悔い改めを叫んで、主の再臨のために道を備えるように、**教義 34：5-12**。わたしはイエス・キリストである。わたしは突如わたしの神殿に来る、**教義 36：8**（**教義 133：2**）。あなたがたがわたしを見て、わたしのいることを知る日がすぐに来る、**教義 38：8**。わたしを畏れる者は、人の子の来臨のしるしを待ち望むであろう、**教義 45：39**。主の顔が現される、**教義 88：95**。主の大いなる恐るべき日が近く、**教義 110：16**。救い主が御姿を現されるとき、わたしたちは、救い主をありのままに見るであろう、**教義 130：1**。救い主がその民のただ中に立ち、すべての肉なるものを治める、**教義 133：25**。染めた衣をまとつて天の神のみもとから降つて来られるこの御方はどなたか、**教義 133：46**（**イザ 63：1**）。

生かす 「復活」 参照

神のもとにいることができるよう、人を命ある者とし、復活させ、変えること。

神はわたしたちを、キリストと共に生かし、**エペ 2：4-5**（コロ 2：6, 12-13）。キリストは、肉においては殺されたが、靈においては生かされたのである、

1 ペテ 3：18（**教義 138：7**）。

御靈によって変えられないかぎり、いまだかつて肉体において神を見た者はいない、**教義 67：11**。贖いは、万物を生かす者によって来る、**教義 88：16-17**。聖徒たちは、身を変えられて、キリストに会うために引き上げられる、**教義 88：96**。

アダムは内なる人において生かされる者となった、**モセ 6：65**。

怒り 「愛」「憎しみ、憎む」 参照

腹を立てた状態。主は聖徒たちに、怒りを抑えるように戒められた（マタ 5：22）。家庭にあっては、親も子供も互いをののしまつてはならない。聖典では、怒りはしばしば火にたとえられる（**2 ニフ 15：25**；**教義 1：13**）。

カインは大いに憤って、顔を伏せた、**創世 4：5**。主は怒ることおそく、いくくしみ豊かです、**詩篇 145：8**。柔らかい答は憤りをとどめ、**箴言 15：1**。憤りやすい者は争いをおこし、怒りをおそくする者は争いをとどめる、**箴言 15：18**（**箴言 14：29**）。わが名のために、わたしは怒りをおそくする、**イザ 48：9**。民に、わたしはひねもす手を伸べて招いた。この民はまのあたり常にわたしを怒らせ、**イザ 65：2-3**。

もし、だれかがあなたの右の頬を打つなら、ほかの頬をも向けてやりなさい、**マタ 5：39**。父たる者よ。子供をおこらせないで、**エペ 6：4**。

わたしが真実を告げたので、あなたがたはわたしに対して怒っている、**モサ 13：4**。主は怒つてこの民を罰し、**アル 8：29**。

すべてのことの中に神の手を認めない者のほかに、どのような人に向かっても神の激しい怒りは燃えない、**教義 59：21**。主なるわたしは悪人のことを怒つており、**教義 63：32**。

憤り

憤り 「怒り」参照

生ける水 「イエス・キリスト」参照

主イエス・キリストとその教えの象徴。

肉体の命を保つのに水が不可欠であるよう、永遠の命を得るには、救い主とその教え（生ける水）が欠かせない。

あなたがたは喜びをもって、^{すくい}救の井戸から水をくむ、イザ 12：3。生ける水の源であるわたしを捨てて、エレ 2：13。

わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがない、ヨハ 4：6-15。だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい、ヨハ 7：37。

鉄の棒は人を生ける水の源に導く、1ニフ 11：25。

価なしに命の水を飲む、教義 10：66。主の戒めは生ける水の井戸となる、教義 63：23。

^{たまもの}異言の賜物 「舌」「御靈の賜物」参照

聖霊の賜物の一つ。靈感を受けた人はこの賜物によって、自分が知らない言語を話したり、理解したり、通訳したりすることができる。わたしたちは異言の賜物を信じている（箇条 1：7）。

一同は聖霊に満たされ、いろいろの他の国言葉で語り出した、使徒 2：4。異言を語る者は、人にむかって語るのではなく、神にむかって語るのである、1コリ 14：1-5、27-28。異言は未信者のためのしるしである、1コリ 14：22-28。

火と聖霊によるバプテスマを受ける。すると天使の言葉で語ることができる、2ニフ 31：13-14。異言で語る賜物を信じるように説き勧めよう、オム 1：25。

ある人には、異言で語ることが許される。また、別の人には、異言の解釈が与えられる、教義 46：24-25（1コリ 12：10；モロ 10：8、15-16）。異言の賜物

が注がれますように、教義 109：36。

イサク 「アブラハム—アブラハムの子孫」参照

『旧約聖書』の中の族長。老年のアブラハムとサラにイサクが生まれたのは、一つの奇跡であった（創世 15：4-6；17：15-21；21：1-8）。アブラハムが進んでイサクをささげたことは、神と神の独り子の相似であった（ヤコ 4：5）。イサクはアブラハムの聖約に伴う約束を受け継ぐ者であった（創世 21：9-12；1ニフ 17：40；教義 27：10）。

誕生、創世 21：1-7。モリヤの山で犠牲としてささげられることになった、創世 22：1-19（教義 101：4）。結婚した、創世 24章。息子たちへの対応、創世 27：1-28：9。

アブラハムやヤコブとともに昇栄を受けた、教義 132：37（マタ 8：11）。

イザヤ

旧約の預言者。紀元前 740-701 年にかけて預言した。イザヤはヒゼキヤ王の中心的な相談役として、宗教と政治の両面で大きな影響力を持っていた。

イエスは他のどの預言者の預言よりもイザヤの預言を多く引用された。イザヤの言葉は、ペテロ、ヨハネ、パウロによっても、『新約聖書』によく引用されている。『モルモン書』と『教義と聖約』は、他のどの預言者の言葉よりもイザヤの言葉を多く含み、その解釈に大きな貢献をしている。ニーファイはイザヤの言葉を引いて民を教えた（2ニフ 12-24章；イザ 2-14 章）。主はニーファイ人に「イザヤの言葉はまことに偉大」であり、イザヤの預言したすべてのことは成就すると言われた（3ニフ 23：1-3）。

イザヤ書：『旧約聖書』の中の1書。イザヤの預言の多くは贖い主の来臨につい

て述べたものであり、主の地上での務め（イザ 9：6）と末日における偉大な王としての来臨（イザ 63 章）の両面を含んでいる。イザヤはイスラエルの将来について多くの預言を残している。

第 1 章は、イザヤ書全体に対する序章である。イザヤ 7：14；9：6-7；11：1-5；53 章；61：1-3 は、救い主の使命をあらかじめ示すものである。第 2：11；12；35 章には、福音が回復され、イスラエルが集められ、乾いた地がばらのように花咲く、末日の数々の出来事が記されている。第 29 章には、『モルモン書』の出現に関する預言がある（2 ニフ 27 章）。第 40-46 章には、エホバが異教徒の礼拝する偶像神をしのぐまことの神であることが宣言されている。残る第 47-66 章には、主がその民の中にとどまられることとともに、イスラエルの最終的な回復とシオンの設立に伴う様々な出来事が描かれている。

イザヤス

アブラハムの時代の預言者（教義 76：100；84：13）。

イシマエル（アブラハムの息子）

「アブラハム」「ハガル」参照

『旧約聖書』の中の人物。アブラハムとハガルの子供。ハガルはエジプト人で、サラのつかえめであった（創世 16：11-16）。主はアブラハムとハガルに、イシマエルは大いなる国民の父祖になると約束された（創世 21：8-21）。

契約はイシマエルではなく、イサクとの間に立てられた、創世 17：19-21（ガラ 4：22-5：1）。神はイシマエルに、多くの子孫を得させるとの祝福を与えられた、創世 17：20。アブラハムを埋葬した、創世 25：8-9。イシマエルの 12 人の息子の名が述べられる、創世 25：12-16。

イシマエルの死、創世 25：17-18。エサウはイシマエルの娘マハラテを妻にめた、創世 28：9。

イシマエル（ニーファイの義父）「リーハイ（ニーファイの父）」参照

『モルモン書』の中の人物。約束の地へ旅するリーハイの一行に、家族とともに加わった。

イシマエルとその家族は、リーハイやその家族と一緒に約束の地へ行くよう招きを受けた、1 ニフ 7：2-5。リーハイの子供たちとイシマエルの子供たちが結婚した、1 ニフ 16：7。荒れ野で死んだ、1 ニフ 16：34。

イスラエル「アブラハム—アブラハムの子孫」「ヤコブ（イサクの息子）」「養子縁組」参照

『旧約聖書』には、イサクの子でありアブラハムの孫であるヤコブに、主がイスラエルという名を与えられたことが記されている（創世 32：28；35：10）。このイスラエルという名は、ヤコブやその子孫に対して、またその子孫がかつて旧約の時代に築いた王国に対して用いられる（サ下 1：24；23：3）。イスラエルの子らは、モーセによってエジプトの奴隸の状態から導き出された（出エ 3-14 章）後、300 年以上にわたって士師により治められた。サウル王から始まりソロモンの死に至るまで、統一イスラエルは王による統治を受けた。ソロモンの死に際して、10 の部族がレハベアムに背いて、別の国を作った。イスラエル王国の分裂後、数において勝っていた北の諸部族はイスラエルの名を継承したが、一方、南の王国はユダと呼ばれた。今日では、カナンの地もイスラエルと呼ばれている。別の意味で、イスラエルはキリストを心から信じる者を指す（ロマ 10：1；11：7；

イスラエル

ガラ 6：16；エペ 2：12)。

イスラエルの十二部族：アブラハムの孫でイスラエルと改名したヤコブには、12人の息子がいた。彼らの子孫は、イスラエルの十二部族、あるいはイスラエルの子らと呼ばれる。以下がその十二部族の名である。ルベン、シメオン、レビ、ユダ、イッサカル、ゼブルン（以上はヤコブとレアの子）、ダンとナフタリ（ヤコブとビルハの子）、ガドとアセル（ヤコブとジルバの子）、ヨセフとベニヤミン（ヤコブとラケルの子）（創世 29：32-30：24；35：16-18）。

ヤコブは死を前にして、各部族の指導者に祝福を与えた（創世 49：1-28）。詳細については、ヤコブのそれぞれの息子の項を参照のこと。

ヤコブの最初の妻レアの第一子ルベンは、不品行のゆえに（創世 49：3-4），長子の特権の祝福と2倍の相続分とを失ってしまった。そして長子の特権は、ヤコブの2番目の妻ラケルの第一子ヨセフに与えられることになった（歴上 5：1-2）。レビは、神権の務めに携わる者として仕えるよう主から選ばれた部族であり、全部族の中で仕えるよう特別な召しを受けたため、受け継ぎの地は与えられなかった。これによってヨセフは2倍分を相続し、二人の息子エフライムとマナセがそれを分け（歴上 5：1；エレ 31：9），この二人はそれぞれ独立した部族と見なされた（JS 創世 48：5-6 [付録]）。

メシヤが来られるまでは、ユダの部族に属する者がイスラエルの民を統治することになっていた（創世 49：10；JS 創世 50：24 [付録]）。終わりの時に、エフライムの部族は世の人々に福音の回復の知らせを伝え、散らされたイスラエルを集めると特権を持つ（申命 33：13-17）。イエス・キリストの福音により、エフライムがイスラエルの全部族を統一させる業において指導的な役割を果たす

時が来る（イザ 11：12-13；教義 133：26-34）。

イスラエルの散乱：主はイスラエルの十二部族を、その不義と背反のゆえに散らし、苦しめられた。しかし、主は選ばれた民をこのように国々の中に散乱させ、それによってその国々に祝福をもたらす機会とされた。

わたしはあなたがたを国々の間に散らし、レビ 26：33。主はもうろの民のうちにあなたがたを散らされるであろう、申命 28：25, 37, 64。わたしは彼らを地の万国に忌みきらわれるものとなし、エレ 29：18-19。わたしはイスラエルの家を万国民のうちにふるう、アモ9：9（ゼカ 10：9）。

イエスはイスラエルの家の失われた羊に遣わされた、マタ 15：24。わたしにはまた、この囲いにいない他の羊がある、ヨハ 10：16。

イスラエルは地の全面に散らされる、1ニフ 22：3-8。ヤコブ、栽培されたオリーブの木と野性のオリーブの木についての、ゼノスの述べた比喩を引用する、ヤコ 5-6 章。父の業は、散らされた者の中で始まるであろう、3ニフ 21：26。

イスラエルの集合：イスラエルの家は、キリストの来臨に先立って終わりの時に集められる（箇条 1：10）。主が御自分の民イスラエルを集められるのは、彼らが主を受け入れ、主の戒めを守るときである。

主は旗をあげて招き、彼らは走って来る、イザ 5：26。わたしは大いなるあわれみをもってあなたを集める、イザ 54：7。イスラエルとユダは彼らの地に集められる、エレ 30：3。主はイスラエルの家の者を、その散らされたもうろの民の中から集められる、エゼ 28：25。

時の満ちる神権時代に、神はすべての

ものを、キリストにあって一つに帰せしめようとされた、エペ1：10。

イスラエルは散らされるが、また集められる、1ニフ15：12-17。主はイスラエルの家に属する民をすべて集められる、1ニフ19：16（3ニフ16：5）。彼らはその受け継ぎの地に集められます。そして暗黒から連れ戻されます、1ニフ22：12。神はその子らを集めて、数えられる、1ニフ22：25。異邦人の国民はイスラエルを受け継ぎの地に連れ戻す、2ニフ10：8（3ニフ16：4）。わたしの民は集め戻され、わたしの言葉も一つに集められる、2ニフ29：13-14。

長老たちは選民を集めるために召されている、教義29：7（教義39：11）。わたしはわたしの選民を集めよう、教義33：6。あなたがたが義にかなった民としてわたしのもとに集められるために、教義38：31-33。わたしがイスラエルの家に属するわたしの民を再び元に戻す、教義39：11。聖徒たちは地の四方から出て来るであろう、教義45：46。モーセが集合の鍵をゆだねた、教義110：11。

義と真理は洪水のように地を満たし、主の選民を集め、モセ7：62。集合が、死体にはげたかが集まることにたとえられる、ジーマタ1：27。

行方の知れない十部族：イスラエルの北王国を成していた十部族は、紀元前721年にアッシャリア（アッスリヤ）に捕囚として連れ去られた。それから彼らは「北の地」へ向かい、やがて消息を絶つた。この十部族は終わりの時に戻って来る。

わたしは北にむかって「ゆるせ」と言い、イザ43：6。人々は北から来る、イザ49：12（1ニフ21：12）。ユダとイスラエルは北の地から出て、共に来る、エレ3：18。イスラエルの民を北の国から

導き出した主は生きておられる、エレ16：14-16。わたしは彼らを北の国から連れ帰り、エレ31：8。

ニーファイ人とユダヤ人は、イスラエルの行方の知れない部族の言葉を得る、2ニフ29：12-13。わたしはイスラエルの行方の知れない部族にもわたし自身を現そう、3ニフ17：4。福音がイスラエルの家の残された者たちに宣べ伝えられるとき、行方の知れない部族が彼らの受け継ぎの地に戻される、3ニフ21：26-29。

モーセがジョセフ・スマスとオリバー・カウドリにイスラエルの集合の鍵をゆだねた、教義110：11。北の地にいる者たちは主の前に覚えられるようになる、教義133：26-32。

わたしたちは、イスラエルの文字どおりの集合を信じる、箇条1：10。

イスラエルの家 「イスラエル」参照

イスラエルの子ら 「イスラエル」参照

イスラエルの集合 「イスラエル—イスラエルの集合」参照

イスラエルの十二部族 「イスラエル—イスラエルの十二部族」参照

イスラエルの聖者 「イエス・キリスト」参照

イゼベル 「アハブ」参照

『旧約聖書』の中の人物。フェニキア出身の邪悪な女。エリヤが預言者であったときのイスラエルの王アハブの妻（列上16：30-31）。

イゼベルとアハブの結婚は、他のいかなる出来事にも増して、イスラエルの北王国の衰亡の大きな原因となった。イゼベルは、母国フェニキアからイスラエルに、エホバ礼拝に代えて最も邪悪な偶像

イッサカル

礼拝の様式を持ち込んだのである（列上 18：13，19）。

神の預言者を大勢殺した、列上 18：4。エリヤを殺そうとした、列上 19：1-3。イゼベルの悪行は悲惨な死をもって終わった、列下 9：30-37。

イッサカル 「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとレアの息子（創世 30：17-18；35：23；46：13）。イッサカルの子孫はイスラエルの十二部族の一つとなった。

イッサカルの部族：ヤコブがイッサカルに授けた祝福は、創世 49：14-15 に記されている。カナンに定住した後、この部族はエスドラエロン平原を含むパレスチナで最も肥沃な地を与えられた。イッサカルの領域には、カルメル、メギド、ドタン、ギルボア、エズレル、タボル、ナザレ（ヨシ 19：17-23）など、ユダヤ人の歴史の中で重要な場所が幾つかあった。

一致 「神、神会」参照

思いや望み、目的において、まず天の御父とイエス・キリスト、次に他の聖徒たちと一つになること。

兄弟が和合して共におるのはいかに麗しく楽しいことであろう、詩篇 133：1。

わたしと父とは一つである、ヨハ 10：30（教義 50：43）。わたしたちが一つであるように、彼らも一つとなるためであります、ヨハ 17：11-23（3ニフ 19：23）。お互^{たがい}の間に分争がないようにし、堅く結び合っていてほしい、1コリ 1：10。

思いを一つにし、心を一つにして決意を固め、あらゆることに結束しなさい、2ニフ 1：21。互いに和合し、愛し合つて結ばれた心を持ち、モサ 18：21。イ

エスはニーファイ人の間に一致があるようすに祈り求められた、3ニフ 19：23。弟子たちは集まり、一つになって熱烈に祈り、断食をした、3ニフ 27：1。

御父と御子と聖霊は、一つの神である、教義 20：27-28（教義 35：2；50：43）。まことの教会に加わるのが、あなたの務めである、教義 23：7。あなたがたが信仰をもって求めるものは、何でも与えられるであろう、教義 29：6。もしもあなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない、教義 38：27。

主はその民をシオンと呼ばれた。彼らが心を一つにし、思いを一つにし、義のうちに住んだからである、モセ 7：18。

一夫多妻制 「結婚—多妻結婚」参照

偽り 「欺き」「悪口」「正直」参照

欺くことを目的に、真実でないことを言うこと。

互に偽ってはならない、レビ 19：11。わたしは偽りを憎み、忌みきらいます、詩篇 119：163。偽りを言うくちびるは主に憎まれ、箴言 12：22。彼らはわが民、偽りのない子らである、イザ 63：8。

彼は偽り者であり、偽りの父である、ヨハ 8：44（2ニフ 2：18；エテ 8：25；モセ 4：4）。あなたは人を欺いたのではなくて、神を欺いたのだ、使徒 5：4（アル 12：3）。「神を愛している」と言いながら兄弟を憎む者は、偽り者である、1ヨハ 4：20。すべて偽りを言う者は第二の死を報いとして受ける、黙示 21：8（教義 63：17）。

偽りを言う者は災いである。彼は地獄に突き落とされるからである、2ニフ 9：34。少しばかり偽りを言っても悪いことではない、と言う者が大勢いる、2ニフ 28：8-9（教義 10：25）。主に向かって偽りを言えるであろうか、アル 5：17。

あなたは真理の神であり、偽りを言わることはありません、エテ 3:12 (民数 23:19; サ上 15:29; テト 1:2; ヘブ 6:18; エノ 1:6)。

偽りを言って悔い改めようとしない者は、追い出されなければならない、教義 42:21。偽りを言う者は星の栄えの世界を受け継ぐ、教義 76:81, 103-106。

わたしたちは、正直であるべきことを信じる、箇条 1:13。

命 「永遠の命」「光、キリストの光」 参照

神の力によってこの世的また靈的な存在が可能とされているもの。

わたしは、きょう、命とさいわいをあなたの前に置いた、申命 30:15-20。あなたはいのちの道をわたしに示される、詩篇 16:11。正義を追い求める者は、命を得る、箴言 21:21。

自分の命を得ている者はそれを失い、わたしのために自分の命を失っている者は、それを得るであろう、マタ 10:39 (マタ 16:25; マコ 8:35; ルカ 9:24; 17:33)。この言に命があった。そしてこの命は人の光であった、ヨハ 1:4。わたしをつかわされたかたを信じる者は、死から命に移っている、ヨハ 5:24。わたしは道であり、真理であり、命である、ヨハ 14:6。もしわたしたちが、この世の生活でキリストにあって単なる望みをいだいているだけだとすれば、わたしたちは、最もあわれるべき存在となる、1コリ 15:19-22。信心は、今のいのちと後の世のいのちとが約束されてるので、万事に益となる、1テモ 4:8。

キリストの内にある命を待ち望むことができるようとする、2ニフ 25:23-27。現世は人が神にお会いする用意をする時期である、アル 34:32 (アル 12:24)。わたしは世の光であり命である、3ニフ 9:18 (モサ 16:9; 3ニフ 11:11;

エテ 4:12)。

忠実な者は、生きるも死ぬも幸いである、教義 50:5。永遠の命とは、神とイエス・キリストとを知ることである、教義 132:24。

人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である、モセ 1:39。

命の木 「エデン」参照

エデンの園と神のパラダイスにある木 (創世 2:9; 黙示 2:7)。リーハイの夢の中の命の木は神の愛を象徴し、神のあらゆる賜物の中で最も大いなるものとされている (1ニフ 8章; 11:21-22, 25:15:36)。

ケルビムと、回る炎のつるぎとを置いて、命の木の道を守らせられた、創世 3:24 (アル 12:21-23; 42:2-6)。

ヨハネは命の木と、その木の葉が諸国民を癒す力を持っているのを見た、黙示 22:2。

リーハイは命の木を見た、1ニフ 8:10-35。ニーファイは父が見た木を見た、1ニフ 11:8-9。鉄の棒は命の木に導く神の言葉である、1ニフ 11:25 (1ニフ 15:22-24)。恐ろしい淵が悪人を命の木から隔てていた、1ニフ 15:28, 36。禁断の実に対しては命の木がある、2ニフ 2:15。わたしのもとに来なさい。あなたがたは命の木の実を食べるであろう、アル 5:34, 62。もしもわたしたちの始祖が行って命の木から食べることができたとすれば、こしえに不幸な状態でいたことであろう、アル 12:26。御言葉を養おうとしなければ、あなたがたは決して命の木の実を得ることができない、アル 32:40。

主は園の中央に命の木を植えられた、モセ 3:9 (アブ 5:9)。神は、アダムが命の木からも取って食べ、永久に生きることのないように、彼をエデンの園から

追い出された、モセ4：28-31。

命の書 「覚えの書」参照

ある意味で命の書とは、人の思いと行いを一まとめにしたもので、人生の記録である。しかし聖典は、忠実な人について記録が残されているとも教えている。その書には忠実な人々の名前と、彼らの義にかなった行いが記されている。

主は罪を犯した者を主の書から消し去られる、出エ32：33。

勝利を得る者は、その名をいのちの書から消されない、黙示3：5。もう一つの書物が開かれた。これはいのちの書であった、黙示20：12（教義128：6-7）。

義人の名は命の書に書き記される、アル5：58。

あなたがたの祈りは聖められた者の名前の書に記録されている、教義88：2。

命のパン 「イエス・キリスト」「聖餐」 参照

イエス・キリストは命のパンである。聖餐のパンはキリストの体を象徴的に表している。

わたしが命のパンである、ヨハ6：33-58。

命のパンを食べ、命の水を飲みなさい、アル5：34。キリストの体の記念にパンを食べる、3ニフ18：5-7。

パンはキリストの肉の象徴である、教義20：40、77（モロ4章）。

祈り 「アーメン」「深く考える」「求める」「礼拝」参照

神に感謝し、祝福を願い求める、厳肅な神との交わり。祈りはイエス・キリストの名によって天の御父にささげる。祈りは声に出すこともできるし、心の中で唱えることもできる。神に向けられたものであれば、人が心に思うことも祈りと

いえる。義人の歌もまた神への祈りとなる（教義25：12）。

祈りの目的は、神の御心を変えることではなく、神がわたしたちに与えようすでに備えておられる祝福を、自分のため、また人々のために得ることである。しかし、それを得るには求めなければならない。

わたしたちはキリストの名によって御父に祈る（ヨハ14：13-14；16：23-24）。自分の望みとキリストが望んでおられることが一致するときに、わたしたちは眞の意味でキリストの名により祈ることができる（ヨハ15：7；教義46：30）。そうするときに、わたしたちは、正当であって神が与えるのをよしとされることを願い求めるのである（3ニフ18：20）。祈りによっては、キリストが望んでおられることではなく、人間の利己心から出たものであるために、聞き届けられないものもある（新ヤコ4：3；教義46：9）。確かに、不当なことを神に求めるなら、それは罪の宣告となるのである（教義88：65）。

この時、人々は主の名を呼び始めた、創世4：26。祭壇の所に行き、そこでアブラムは主の名を呼んだ、創世13：4。アブラハムの僕はイサクの妻を見つけるよう助けを祈り求めた、創世24：10-19。わたしは、あなたがたのために祈ることをやめて主に罪を犯することは、けっしてしないであろう、サ上12：23。主は正しい者の祈いのりを聞かれる、箴言15：29。あなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば、わたしはあなたがたに会う、エレ29：12-13。

迫害する者のために祈れ、マタ5：44（ルカ6：28；3ニフ12：44）。隠れた所においてになるあなたの父に祈りなさい、マタ6：5-8（3ニフ13：5-8）。だから、あなたがたはこう祈りなさい、マタ6：9-13（ルカ11：2；3ニフ13：9）。

求めよ、そうすれば、与えられるであろう、マタ7:7(3ニフ14:7;教義4:7;6:5;66:9)。イエスは祈るためひそかに山へ登られた、マタ14:23。誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい、マタ26:41(マコ14:38;3ニフ18:15-18;教義31:12)。疑わないで、信仰をもって願い求めなさい、新ヤコ1:5-6(教義42:68;46:7)。義人の祈りは、大いに力があり、新ヤコ5:16。

祈るように人に教えてくださる御靈に耳を傾ける、2ニフ32:8-9。わたしは熱烈な祈りをもって造り主に呼び求めた、エノ1:4。わたしは幾日もの間、断食をして祈ってきた、アル5:45-46(アル26:22)。しばしば祈り、また断食もした、アル17:3。ゼノスが祈りについて、すなわち礼拝について述べたものを覚えているだろうか、アル33:3。へりくだって、神に祈り続けなさい、アル34:18-27。あなたのすべての行いについて主と相談しなさい、アル37:37。あなたがたは、わたしの名によって常に父に祈らなければならない、3ニフ18:19-20。あなたがたの家族の中で祈りなさい、3ニフ18:21。イエスは御父に祈られた、3ニフ19:31-34(ヨハ17章;3ニフ18:16)。イエスは、心の中で祈ることはやめないようにと命じられた、3ニフ20:1。神に祈っても、真心からしなければ、その人にとって何の役にも立たない、モロ7:6-9。

求めてはならないものを求めないようにしなさい、教義8:10。勝利者となるために、常に祈りなさい、教義10:5。あなたに命じる。あなたは心の中で祈るだけでなく、声に出しても祈りなさい、教義19:28。御靈は信仰の祈りによってあなたがたに与えられるであろう、教義42:14。祈りの家に行って、聖式をささげなければならない、教義59:9(マタ21:13)。子供たちに祈ることを教え

なければならない、教義68:28。主なる彼らの神は、彼らの祈りを聴くのを遅くする、教義101:7-8(モサ21:15)。謙遜でありなさい。そうすれば、主なるあなたの神はあなたの祈りに答えを与えるであろう、教義112:10。

アダムは、御子の名によって神に呼び求めるように命じられた、モセ5:8。御父と御子がジョセフ・スミスの祈りにこたえて御姿を現された、ジー歴史1:11-20。

異邦人

聖典で用いられている「異邦人」という言葉には幾つかの意味がある。あるときはイスラエルの血統に属さない人々を指し、あるときはユダヤ人の血統以外の人々を指す。あるいは、イスラエルの血が幾分入っていても、福音を持っていない民を指す場合もある。この最後の用法は、『モルモン書』や『教義と聖約』に特に顕著である。

イスラエル人は異邦人と婚姻してはならない、申命7:1-3。わたしはあなたを、もうもろの国びとの光として与え、イザ42:6。

ペテロは異邦人に福音を伝えるように命じられた、使徒10:9-48。神は、異邦人にも悔改めをお与えになった、使徒11:18。わたしたちは、ユダヤ人もギリシヤ人も、一つのからだとなるようにバプテスマを受け、1コリ12:13。異邦人が、福音によりキリストにあって、共に神の國をつぐ者となり、エペ3:6。

『モルモン書』は異邦人のために記録された、『モルモン書』のタイトルページ(モル3:17)。異邦人の中の一人の男が大海を渡った、1ニフ13:12。ほかにも幾つかの書物が異邦人から伝わった、1ニフ13:39。完全な福音が異邦人に与えられ、1ニフ15:13(3ニフ16:7;教義20:9)。この地は異邦人にとって

戒め（神の）

自由の地となり、**2ニフ 10:11**。異邦人は野性のオリーブの木にたとえられる、**ヤコ 5章**。

福音は異邦人の時にもたらされる、**教義 45:28**（**教義 19:27**）。御言葉が地の果てまで、すなわちまず異邦人のもとに出て行き、それから、ユダヤ人に向かう、**教義 90:8-10**。七十人は異邦人に対する特別な証人となる、**教義 107:25**。わたしの教会の長老たちを、もろもろの国民に遣わしなさい。まず異邦人へ、次いでユダヤ人へと呼びかけなさい、**教義 133:8**。

戒め（神の） 「言葉（神の）」「十戒」「従順、従う」「罪」「律法」参照

神が人類に対し、個人的にあるいは一つの民としてお授けになる律法や要求。戒めを守る人には、主の祝福が授けられる（**教義 130:21**）。

ノアはすべて神の命じられたようにした、**創世 6:22**。わたしの定めに歩み、わたしの戒めを守って、**レビ 26:3**。わたしの戒めを守って、命を得よ、**箴言 4:4**（**箴言 7:2**）。

もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである、**ヨハ 14:15**（**教義 42:29**）。願い求めるものは、なんでもいただけるのである。それは、わたしたちが神の戒めを守っているからである、**1ヨハ 3:22**。神の戒めはむずかしいものではない、**1ヨハ 5:3**。

主の戒めを守ることにおいて揺るぎなくあるように、**1ニフ 2:10**。主が命じられることには道が備えられており、それでなくては、主は何の命令も下されない、**1ニフ 3:7**。わたしは神の厳しい命令に従ってこれを果たさなければならぬ、**ヤコ 2:10**。あなたがたはわたしの命令を守るかぎり地に栄える、**ジェロ 1:9**（**アル 9:13; 50:20**）。神の戒めを守

ることを若いうちに習慣としなさい、**アル 37:35**。

これらの戒めはわたしから出でおり、**教義 1:24**。これらの戒めを調べなさい、**教義 1:37**。戒めを守らなければ、救われることはできない、**教義 18:46**（**教義 25:15; 56:2**）。わたしの戒めは靈にかかるものだからである。それらは自然のものでも、現世のものでもなく、**教義 29:35**。あなたがたに戒めを与えて、あなたがたがわたしの思いを理解できるようにする、**教義 82:8**。

わたしには分かりません。ただ、主がわたしに命じられたのです、**モセ 5:6**。主は、御自分が命じるすべてのことを人がなすかどうかを御覧になる、**アブ 3:25**。

戒めの書 「教義と聖約」「啓示」参照

預言者ジョセフ・スミスが受けた多くの啓示が、1833年に、**A Book of Commandments for the Government of the Church of Christ**（『キリストの教会の統治のための戒めの書』）という書名で出版されることになり、その準備が進められた。主は御自分の僕たちとの交わりを続けられ、2年後に増補版が『教義と聖約』として出版された。

教義と聖約第1章は、主の戒めの書へのしがきである、**教義 1:6**。主は最も賢い者に、『戒めの書』の中の最も小さい啓示と同等のものを書くように挑まれた、**教義 67:4-9**。啓示を出版するために管理人となる者たちが聖任された、**教義 70:1-5**。

忌まわしい行い 「罪」参照

聖典では、義人や清い人々に不愉快な思いや嫌悪感を抱かせるものとして用いられる言葉。

偽りを言うくちびるは主に憎まれる、

箴言 12:22。

高慢は主の目に忌まわしいことである、ヤコ 2:13-22。悪人は自分の忌まわしい行いの恐ろしい思いに引き渡される、モサ 3:25。不貞は、人を殺すことや聖靈を否定することを除いて、最も忌まわしい罪である、アル 39:3-5。

主の憤りは、彼らの忌まわしい行いに向かって燃えている、教義 97:24。

忌まわしい教会 「悪魔—悪魔の教会」

参照

いやし 「油注ぎ」「病人への癒しの祝福」

参照

肉体的また靈的に健康な状態に戻すこと。聖典には、主とその僕による奇跡的な癒しの実例が数多く記録されている。

わたしは主であって、あなたをいやすものである、出エ 15:26。ナアマンは7たびヨルダンに身を浸すと、清くなった、列下 5:1-14。その打たれた傷によって、われわれはいやされた、イザ 53:5(モサ 14:5)。義の太陽がのはり、その翼には、いやす力を備えている、マラ 4:2。

イエスはあらゆるわずらいをおいやしになった、マタ 4:23(マタ 9:35)。イエスは十二弟子にあらゆるわずらいをいやす権威をお授けになった、マタ 10:1。主はわたしをつかわして、打ちひしがれている者に自由を得させ、ルカ 4:18。

人々は神の小羊の力によって癒され、1ニフ 11:31。キリストの贖いを信じるならば、あなたは癒しを得られます、アル 15:8。イエスは、連れて来られた者をことごとく癒された、3ニフ 17:9。

癒されるという信仰を持っている者は、癒されるであろう、教義 42:48。わたしの名によって、彼らは病人を癒す、教義 84:68。

わたしたちは、^{たまもの}癒しの賜物があることを信じる、箇条 1:7。

岩 「イエス・キリスト」「啓示」「福音」

参照

堅固な土台であり支えであるイエス・キリストとその福音を象徴的に示す(教義 11:24; 33:12-13)。神が人に福音を明らかにされる手段である啓示を指す言葉としても用いられる(マタ 16:15-18)。

主は岩であって、そのみわざは全く、申命 32:4。主はわが岩、わたしは彼に寄り頼む、サ下 22:2-3。一つの石が人手によらずに切り出されて、ダニ 2:34-35。

岩を土台としているからである、マタ 7:25(3ニフ 14:25)。イエス・キリストは家造りらに捨てられた石である、使徒 4:10-11。この岩はキリストにほかならない、1コリ 10:1-4(出エ 17:6)。

岩の上に建てられる者は喜んで神の真理を受け入れる、2ニフ 28:28。ユダヤ人はその上に建物を建てることのできる石を拒む、ヤコ 4:15-17。贖い主の岩の上に基を築かなければならない、ヒラ 5:12。キリストの教義の上に建てる者はキリストの岩の上に建てるのであり、洪水が起こっても倒れない、3ニフ 11:39-40(マタ 7:24-27; 3ニフ 18:12-13)。賢い人は岩の上に家を建てる、3ニフ 14:24。

あなたがたがわたしの岩の上に建てられるならば、それら〔この世と地獄〕は打ち勝つことができない、教義 6:34。この岩の上に建てる者は、決して倒れることはない、教義 50:44。

わたしはメシヤであり、シオンの王であり、天の岩である、モセ 7:53。

インマヌエル 「イエス・キリスト」

参照

イエス・キリストの呼び名の一つ。「神われらとともにいます」という意味のへ

ウイリアムズ、フレデリック・G

プライ語から出た言葉。

インマヌエルは神の救いのしとしと与えられた呼称である（イザ7：14）。マタイは、インマヌエルに関するイザヤの言葉はイエスの降誕の預言であると、明確な指摘をしている（マタ1：18－25）。この呼び名は末日聖典にも出てくる（2ニフ17：14；18：8；教義128：22）。

ウイリアムズ、フレデリック・G

回復された教会の初期の指導者。一時、大神権の大管長会で顧問を務めた（教義81章；90：6，19；102：3）。

受け継ぐ者

物質的あるいは靈的な賜物を受け継ぐ権利を持つ人。聖典には、義人は神が持つておられるすべてのものを受け継ぐ者になることが約束されている。

アブラムは家を継ぐ者を欲していた、創世15：2－5。

アブラハムは信仰の義によって、世界を相続する者となった、ロマ4：13。神の相続人であって、キリストと共同の相続人なのである、ロマ8：16－17（教義84：38）。あなたがたは子である。また神による相続人である、ガラ4：7。神は御子を万物の相続者と定め、ヘブ1：2。

自分たちの罪の赦しを待ち望んでいる者は神の王国を受け継ぐ、モサ15：11。彼らはキリストの子であり、神の王国を受け継ぐ者であった、4ニフ1：17。

福音を知らずに死んだ者は、神の日の榮えの王国を受け継ぐ者となる、教義137：7－8。悔い改める死者は、救いを受け継ぐ者である、教義138：58－59。

アブラハムは、その義によって正当な相続人となった、アブ1：2。

失われた聖典 「聖文—失われた聖文」
参照

失われた聖文 「聖文—失われた聖文」

参照

歌う 「音楽」「贊美歌」参照

歌によって神を礼拝し、贊美すること。

主に向かって歌え、歴上16：23－36（詩篇96篇）。主をほめうたい、感謝せよ、詩篇30：4。主にむかって喜ばしき声をあげよ、詩篇100：1。

彼らは、さんびを歌った後、オリブ山へ出かけて行った、マタ26：30。

歌うことも、聖靈の力によって導かれるままに行われた、モロ6：9。

義人の歌はわたしへの祈りである、教義25：12。あなたは楽しければ、歌をもって主をほめたたえなさい、教義136：28。

打ち碎かれた心 「犠牲」「悔い改め」「謙遜」「心」「柔和」参照

打ち碎かれた心を持つとは、謙遜であり、罪を悔い、柔軟であること、すなわち神の御心をよく感じ取ることのできる状態をいう。

わたしは心碎けて、へりくだる者と共に住み、イザ57：15。

メシヤは、打ち碎かれた心と悔いる靈を持つすべての人のために、御自身をささげられる、2ニフ2：7。打ち碎かれた心と悔いる靈を、犠牲としてわたしにささげなさい、3ニフ9：20（教義59：8）。打ち碎かれた心と悔いる靈を持つ者だけがバプテスマを認められる、モロ6：2。

イエスが世の罪のために、すなわち悔いる心に罪の赦しをもたらすために、十字架につけられた、教義21：9。悔いる靈を持っている者は受け入れられる、教義52：15。悔いる状態の人には聖なる御靈が約束されている、教義55：3。わたしの御靈はへりくだって悔いる者を照

らすために、世に送られている、教義 136: 33。

ウッドラフ、 ウィルフォード 「公式の宣言一」「宣言」参考

預言者ジョセフ・スミスを通して福音が回復された後の教会の第4代大管長。1807年に生まれ、1898年に死去した。

十二使徒評議会の空席を満たすために召された、教義 118: 6。時満ちる時代に来るようになると認められていた選ばれた靈たちの中にいた、教義 138: 53。教会における多妻結婚を中止する啓示を受けた、公式 1。

促し 「聖靈」参考

何かをするように、あるいはしないようにとの強い働きかけ。特に、聖靈の影響や力によるものを指す。

わたしのうちの靈がわたしに迫る、ヨブ 32: 18。

キリストの愛がわたしたちに強く迫っている、2コリ 5: 14。

わたしはラバパンを殺すように強く御靈に促された、1ニフ 4: 10。御靈が、わたしを制されます、アル 14: 11。わたしは、聖約に応じて、強く促されています、アル 60: 34。アマロンは聖靈に強く促されて、神聖な数々の記録を隠した、4ニフ 1: 48。

上から来るものは、御靈の促しによつて語るようにしなければならない、教義 63: 64。

うぬぼれ 「高慢」参考

偽り、欺き、慢心。

あの大きく広々とした建物は、うぬぼれた空想と高慢である、1ニフ 12: 18。

虚栄と不信仰は全教会に罪の宣告を招いた、教義 84: 54-55。わたしたちが

生まれる、産む、もうける

自分のうぬぼれた野望を満たそうとするとき、天は退き去り、教義 121: 37。

生まれながらの人 「現世的」「堕落（アダムとエバの）」「再び生まれる」参考

聖なる御靈の促よりも、激情、情欲、欲望、肉欲に影響された選択をする人。このような人は、物質的なことは理解できても、靈的なことは理解できない。アダムとエバの堕落によって、人は皆肉欲に従い、死すべき状態にある。生まれながらの状態から抜け出すには、イエス・キリストの贖罪を通して、再び生まれなければならぬ。

生れながらの人は、神の御靈の賜物を受けいれない、1コリ 2: 14。

生まれながらの人は神の敵であり、モサ 3: 19。自分自身の肉の性質の中にとどまる者は、その堕落した状態にとどまって、モサ 16: 5（アル 42: 7-24；教義 20: 20）。生まれながらの人でこれらのことを知っている人がいるだろうか、アル 26: 19-22。生まれながらの状態、すなわちこの世的な状態にあるすべての人は、この世で神なしに生きている、アル 41: 11。

その背きのゆえに、彼は靈的に死ぬことになった、教義 29: 41。生まれながらの人はだれも神の臨在に堪えられない、教義 67: 12。

人々は肉欲や官能におぼれ、悪魔に従う者となり始めた、モセ 5: 13（モセ 6: 49）。

生まれる、産む、もうける 「神の息子、娘」「キリストの子」「独り子」「再び生まれる」参考

聖典では、神によって生まれるということを指して用いられる場合が多い。イエス・キリストは肉において御父がもうけられた唯一の子であるが、人はだれで

もキリストを受け入れ、その戒めに従い、聖霊の力によって新たな人となることにより、靈的にキリストから生まれることができる。

きょう、わたしはおまえを生んだ、詩篇 2:7 (使徒 13:33; ヘブ 1:5-6; 5:5)。

それは父のひとり子としての栄光であって、ヨハ 1:14 (ニヒラ 25:12; アル 12:33-34; 教義 76:23)。神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった、ヨハ 3:16 (教義 20:21)。

キリストが靈的にあなたがたを子としてもうけられた、モサ 5:7。

主によって生まれる者は皆、長子の教会である、教義 93:22。

敬う 「敬虔」「尊ぶ」 参照

通常、聖典では、何かを尊び、礼を尽くすことの意味で用いられる。

あなたの父と母を敬え、出エ 20:12 (ニヒラ 17:55; モサ 13:20)。あなたの財産をもって主をあがめよ、箴言 3:9。

もしわたしに仕えようとする人があれば、その人を父は重んじて下さるであろう、ヨハ 12:26。夫は妻を尊ばなければならぬ、1ペテ 3:7。

この民は唇ではわたしをあがめるが、ニヒラ 27:25 (イザ 29:13)。わたしは世の誉れを求めず、アル 60:36。

悪魔は、「わたしにあなたの誉れを与えてください」と言って、わたしに背いた、教義 29:36。忠実であれば、誉れを冠として与えられるであろう、教義 75:5 (教義 124:55)。主なるわたしは、わたしに仕える者に誉れを与えるのを喜びとする、教義 76:5。なぜ彼らは選ばれないのであろうか。人の誉れを得ることを望んでいるためである、教義 121:34-35。

わたしたちは、法律を守り、尊び、支

えるべきことを信じる、箇条 1:12 (教義 134:6)。

ウリムとトンミム 「聖見者」「胸当て」 参照

人が啓示を受けたり翻訳をしたりするのを助ける目的で、神が備えられた道具。ヘブライ語で「光と完全」を意味する。ウリムとトンミムは銀のつるにはめた二つの石で、胸当てとともに使われることもあつ (教義 17:1; ジー歴史 1:35, 42, 52)。この地球は聖められて不滅の状態になると、一つの雄大な「ウリムとトンミム」となる (教義 130:6-9)。

あなたはさばきの胸當にウリムとトンミムを入れて、出エ 28:30。

勝利を得る者には、白い石を与えよう、黙示 2:17。

その方は、あるものを持っていて、それを使って見れば翻訳することができまし、モサ 8:13。これらの二つの石をあなたに与えよう、エテ 3:23-24, 28 (エテ 4:5)。

ジョセフ・スミスはウリムとトンミムによって数々の啓示を受けた、教義 6, 11, 14-16 章の前書き。あなたはウリムとトンミムによって翻訳する力を与えられた、教義 10:1。三人の証人は、ヤレドの兄弟が山の上で授けられたウリムとトンミムを目にすると、教義 17:1。神が住んでおられる所は、一つの雄大な「ウリムとトンミム」である、教義 130:6-11。

わたしアブラハムは、ウリムとトンミムを持っていました、アブ 3:1, 4。

ウル

『旧約聖書』の中の地名。カルデア (カルデヤ) のウルはアブラハムが初め住んでいた場所である (創世 11:27-28, 31; 15:7; ネヘ 9:7; アブ 2:1, 4)。

うわさ 「悪口」「うわさ話」参照

サタンは人々を神とあらゆる善いものから遠ざけるために、うわさ話や争いを広める（ヒラ 16：22；ジ—歴史 1：1）。それらは一部事実に基づいていることもある。イエス・キリストの再臨のしるしの一つとして、人々の間での戦争や戦争のうわさがある（マタ 24：6；教義 45：26；ジ—マタ 1：23）。

うわさ話 「悪口」「うわさ」参照

ほかの人について、本人の許しもなくとやかく言うこと。

人はその語る無益な言葉に対して、言い開きをしなければならない、マタ 12：36。聖徒たちは、むだごとをしゃべったり、いたずらに動きまわったり、口にしてはならないことを言ったりしないよう勧告されている、1テモ 5：11-14。

あなたは隣人の悪口を言ってはならない、教義 42：27。あなたのすべての生き方により、あなたの兄弟たちを強めなさい、教義 108：7。

永遠の命 「命」「冠」「昇栄」「贖罪」「日の榮え」参照

神の家族として、親しく神の前に永遠に住むこと（教義 132：19-20, 24, 55）。永遠の命は、人に与えられる神の最も大いなる賜物である。

永遠の命の言葉をもっているのはあなたです、ヨハ 6：68。永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります、ヨハ 17：3（教義 132：24）。信仰の戦いをりっぱに戦いぬいて、永遠のいのちを獲得しなさい、1テモ 6：12。

人には自由と永遠の命を選ぶ自由がある、2ニフ 2：27（ヒラ 14：31）。靈的な

思いを抱くことは永遠の命である、2ニフ 9：39。そのとき、あなたがたは、永遠の命に至る細くて狭い道にいることになる、2ニフ 31：17-20。イエスを信じて最後まで堪え忍ぶ、2ニフ 33：4（3ニフ 15：9）。

永遠の命を持つ者は豊かである、教義 6：7（教義 11：7）。永遠の命は、神のあらゆる賜物の中で最も大いなるものである、教義 14：7（ロマ 6：23）。義の業を行う者は、この世において平和を、また来るべき世において永遠の命を受ける、教義 59：23。最後まで堪え忍ぶ者は永遠の命の冠を受ける、教義 66：12（教義 75：5）。福音を知らずに死んだ者で、もしとどまるなどを許されていたらそれを受け入れたであろう者は皆、神の日の榮えの王国を受け継ぐ者となる、教義 137：7-9。

人の不死不滅と永遠の命をもたらすことが神の業であり、神の榮光である、モセ 1：39。神がすべての従順な者に与えてくださる永遠の命、モセ 5：11。

永遠の御父 「神、神会」「天の御父」 参照

永遠の聖約 「新しくかつ永遠の聖約」 「聖約（契約）」参照

榮光 「榮光の階級」「真理」「光、キリストの光」参照

聖典では、神の光と真理を指す言葉としてしばしば用いられる。また賛美、誉れ、永遠の命に伴うある特定の状態、神の榮光を指す場合もある。

聖なるかな、万軍の主、その榮光は全地に満つ、イザ 6：3（2ニフ 16：3）。

わたしたちは、榮光から榮光へと、主と同じ姿に変えられていく、2コリ 3：18。

神がわたしをよみがえらせ、榮光のう

栄光の階級

ちに御自身とともに住めるようにしてくださる, アル 36:28。

復活の時に受ける栄光は, 義に応じて違いがある, 教義 76:50-119。神の栄光は英知である, 教義 93:36。

神の栄光は, 人の不死不滅と永遠の命をもたらすことである, モセ 1:39。わたしは筆紙に尽くし難い輝きと栄光を持つ二人の御方を見た, ジー歴史 1:17。

栄光の階級 「月の栄え」「日の栄え」 「星の栄え」参照

天の様々な王国。最後の裁きにおいて, 滅びの子を除くすべての者がそれぞれにふさわしい栄光の王国において永遠の住まいを受け継ぐ。

わたしの父の家には, すまいがたくさんある, ヨハ 14:2 (エテ 12:32)。日の栄光があり, 月の栄光があり, 星の栄光がある, 1コリ 15:40-41。パウロは第三の天にまで引き上げられた, 2コリ 12:2。

栄光がなく, また永遠の罰を受ける所がある, 教義 76:30-38, 43-45。3つの栄光の階級がある, 教義 76:50-113; 88:20-32。

英知 「真理」「光, キリストの光」「靈」 参照

英知という言葉には幾つかの意味があり, 以下はその中の3つの意味である。(1) 宇宙の万物に命と光を与える真理の光。これは常に存在してきた。(2)「英知たち」という言葉で神の靈の子供たちを指す場合がある。(3) 聖典では, 人が靈の子供としてもうけられる前から存在していた靈の元素を指して英知ということもある。

英知は英知に結びつき, 教義 88:40。英知は, 創造されることも, 作られることもないものである, 教義 93:29。す

べての英知は, 神がそれを置かれた領域において独立している, 教義 93:30。神の栄光は英知である, 教義 93:36-37。この世において得る英知の一切は, 復活の時にわたしたちとともによみがえる, 教義 130:18-19。

主はすべての英知たちを治めておられる, アブ 3:21。主はアブラハムに, 世界が存在する前に組織された英知たちをお見せになった, アブ 3:22。

エサウ 「イサク」「ヤコブ (イサクの息子)」参照

『旧約聖書』の中の人物。イサクとリベカの長男。双子として生まれたヤコブの兄。エサウとヤコブは生まれたときから対抗的な関係にあった(創世 25:19-26)。エサウの子孫であるエドム人とヤコブの子孫であるイスラエル人は, 互いに張り合う民となった(創世 25:23)。

エサウは長子の特権をヤコブに売った, 創世 25:33 (ヘブ 12:16-17)。エサウはヘテびとを妻にめとり, 両親にとって心の痛みとなった, 創世 26:34-35。ヤコブとエサウは和解した, 創世 33章。

エジプタス

ハムの妻と娘の名前。この名はカルデア語で「エジプト」すなわち「禁じられたもの」という意味である(アブ 1:23-25)。

エジプト

アフリカの北東の隅にある国。エジプトの多くは不毛の荒れ野である。ほとんどの住民は約 900km にわたって伸びるナイル渓谷に住んでいる。

古代のエジプトは豊かで繁栄していた。灌漑用水路, 堅固な要塞都市, そし

て特にピラミッドと呼ばれる墓や神殿などの王家の記念建造物に代表される壮大な公共建築物は、今なお世界の驚異としてその姿をとどめている。一時期エジプトでは、神權の族長制度を模倣した政体が取られていた（アブ1：21-27）。

アブラムとヨセフはエジプトへ導かれ、家族を飢饉から救った、創世12：10（創世37：28）。ヨセフはエジプトに売られた、創世45：4-5（1ニフ5：14-15）。ヤコブはエジプトへ導かれた、創世46：1-7。モーセはイスラエルの子らをエジプトから導き出した、出エ3：7-10；13：14（ヘブ11：27；1ニフ17：40；モセ1：25-26）。エジプトは悪を象徴した、エゼ29：14-15（ホセ9：3-7；アブ1：6，8，11-12，23）。

幼な子とその母を連れて、エジプトに逃げなさい、マタ2：13（ホセ11：1）。

エステル

エステル記に登場する主要人物で、偉大な信仰の女性。

エステル記：『旧約聖書』の中の1書。自分の民を滅亡から救うために働いた、王妃エステルの偉大な勇気の物語が描かれている。

第1-2章には、ユダヤ人モルデカイの養女であったユダヤ人工エステルが、その美しさのゆえにペルシャの王妃として選ばれた経緯が記されている。第3章には、王宮で王の次に権力を得ていたハマンが、モルデカイを憎み、すべてのユダヤ人を殺害する詔を得たことが書かれている。第4-10章には、エステルが大きな危険を冒して、自分がユダヤ人であることを王に明かし、詔の取り消しを許されたことが書かれている。

エズラ

『旧約聖書』の中の祭司、学者。一部

のユダヤ人をバビロンでの捕囚の境遇からエルサレムへ連れ戻した（エズ7-10章；ネヘ8：12章）。紀元前458年に、エズラはペルシャの王アルタシャスタから、自ら希望するユダヤ人を捕囚の境遇からエルサレムへ連れ戻る許しを得た（エズ7：12-26）。

エズラの時代より以前は、律法と呼ばれる文書化された聖典の朗読は、ほぼ祭司が掌握していたが、エズラの助けによってどのユダヤ人も聖文を手にすることができるようになった。「律法の書」の公開朗読は最終的にはユダヤ国民の生活の中心となった。エズラの最も偉大な教えは、心の準備をして主の律法を調べ、それを行い、人に教えるという彼自身の模範から生じたものであろう（エズ7：10）。

エズラ記：第1-6章には、紀元前537年のクロス王の勅令とゼルバベルの下に行われたユダヤ人の帰還など、エズラがエルサレムに到着する60年から80年前に起きた出来事が記録されている。第7-10章には、エズラのエルサレムへの帰還の様子が描かれている。エズラは同行した民とともに守りを求めて断食し、祈った。彼らはエルサレムで、以前にゼルバベルに率いられて帰っていたユダヤ人男性の多くが聖約外の結婚をし、自らを汚しているのを見た。エズラは彼らのために祈り、妻を離縁することを誓わせた。エズラのその後の生涯については、ネヘミヤ記に記されている。

エゼキエル

『旧約聖書』のエゼキエル書を書いた預言者。エゼキエルはザドクの家系の祭司であり、ネブカデネザルにとりことして連れ去られたユダヤ人の一人であった。彼はユダヤの捕囚の民とともにバビロンに住み、紀元前592-570年の22年間、預言者として働いた。

エッサイ

エゼキエル書：エゼキエル書は4つの部分に分けることができる。第1-3章には、神の啓示とエゼキエルへの召しが述べられている。第4-24章には、エルサレムへの裁きとその原因が書かれている。第25-32章では国々への裁きの宣告がなされ、第33-48章には末日のイスラエルに関する示現が書かれている。

エッサイ 「ダビデ」参照

『旧約聖書』の中の人物。ダビデの父。キリストとユダ王国のすべての王の先祖。

ルツの息子オベデはエッサイの父であった、ルツ4:17, 22。ユダに至るまでのエッサイの先祖が述べられる、歴上2:5-12（マタ1:5-6）。

エテル 「ヤレド人」参照

『モルモン書』の中のヤレド人の最後の預言者（エテ12:1-2）。

エテル書：『モルモン書』の中の1書。この書の中には、ヤレド人の記録の一部が含まれている。ヤレド人は、リーハイの民より何世紀も前に西半球にいた。エテル書はリムハイの民が発見した24枚の版から取られたものである（モサ8:8-9）。

第1-2章には、ヤレド人がバベルの塔の時代に故郷を離れて、現在アメリカ大陸として知られている地へ旅を始めた経緯が書かれている。第3-6章には、ヤレドの兄弟が肉体を受けられる前の救い主にまみえたこと、またヤレド人が8隻の船で旅をしたことが書かれている。第7-11章には、ヤレド人の歴史を色濃く染めていた悪事の数々が書かれている。エテルの記録を編集したモロナイは、第12-13章の中で、信仰によって行われた奇跡について、またキリストと将来の新エルサレムについて記録している。

る。第14-15章には、強大な国家となつたヤレド人が、悪事に帰因する内乱により滅びた経緯が記されている。

エテロ 「モーセ」参照

『旧約聖書』の中の人物。ミデアンの地の有力者、祭司。エジプトから逃れてきたモーセを迎えた。エテロはリウエルとも呼ばれた（出エ2:18）。モーセは後に、エテロの娘チッポラを妻とした（出エ3:1; 4:18; 18:1-12）。エテロはモーセに委任について教えた（出エ18:13-27）。モーセはエテロからメルキゼデク神権を受けた（教義84:6-7）。

エデン 「アダム」「エバ」参照

人類の最初の両親であるアダムとエバの住んでいた所（創世2:8-3:24; 4:16; 2ニフ2:19-25; モセ3-4章；アブ5章）。東の方、エデンに園があった。アダムとエバは、禁断の実を食べて死すべき存在となった後、エデンを追われた（モセ4:29）。末日の啓示は、エデンの園に関する『聖書』の記述を確認し、さらにエデンの園は現在北アメリカ大陸と呼ばれている地にあったという重要な知識を提供している。

エデンの園 「エデン」参照**エノク 「シオン」参照**

シオンの町の民を導いた預言者。エノクの働きについては、『旧約聖書』と『高価な真珠』の両方に記録されている。彼はアダムから数えて7代目の族長であり、ヤレドを父とし、メトセラの父であった（創世5:18-24; ルカ3:37）。

エノクは偉大な人物であり、『聖書』中の彼に関する短い記録が示す以上の重要な働きをした。『聖書』には彼が身を変えられたことが記されているが（ヘブ

11:5), その働きの詳細は示されていない。ユダ1:14には、エノクが残した預言が引用されている。末日の啓示にはエノクについてはるかに多くのこと、具体的には彼の宣教の働き、シオンと呼ばれた彼の町、彼が受けた示現、および彼の預言が記されている(教義107:48-57;モセ6-7章)。シオンはそこに住む民の義のゆえに、天に取り上げられた(モセ7:69)。

神はエノクに御自身を現された、モセ6:26-37。エノクは福音を教えた、モセ6:37-68。エノクは人々を教え、シオンを確立した、モセ7:1-21。エノクはまことに世の終わりに至るまですべてのことを見た、モセ7:23-68。

エノス(ヤコブの息子)

『モルモン書』の中のニーファイ人の預言者、記録者。エノスはキリストを信じる信仰を通して罪の赦しを祈り求め、それを受けた(エノ1:1-8)。主はエノスに対して、レーマン人に『モルモン書』を授けると聖約された(エノ1:15-17)。

エノス書:『モルモン書』の中の1書。この書には、エノスが罪の赦しのため、また自分の民と他の人々のために主に祈ったことが書かれている。主はエノスに、『モルモン書』が保存され、将来レーマン人に伝えられることを約束された。エノス書には一つの章しかないが、祈りの中で神を求め、神の戒めに従って生活し、この世において贖い主を知った人物の力強い物語が描かれている。

エバ「アダム」「エデン」「墮落(アダムとエバの)」参照

この地上に生を受けた最初の女性(創世2:21-25;3:20)。アダムの妻であった。この名前はヘブライ語で「命」を意味す

る。「すべての命ある者の母」であるためにこの名が与えられた(モセ4:26)。彼女と最初の人アダムは、全人類の永遠の進歩を可能にするという彼らの務めを果たしたことに対して、ともに永遠の栄光を受ける。

エバは誘惑され、禁断の実を食べた、創世3章(2ニフ2:15-20;モセ4章)。

ジョセフ・F・スミス大管長は、靈界についての示現の中でエバを見た、教義138:39。

エバは墮落が必要であったことと贖いの喜びを知った、モセ5:11-12。
あがな

エフライム「イスラエル」「マナセ」

「モルモン書」「ヨセフ(ヤコブの息子)」
参照

『旧約聖書』の中の人物。ヨセフとアセナテの2番目の息子(創世41:50-52;46:20)。エフライムはそれまでの習わしに反して、長男のマナセに代わって長子の特権の祝福を受けた(創世48:17-20)。エフライムはエフライムの部族の先祖となった。

エフライムの部族:エフライムはイスラエルにおける長子の特権を与えられた(歴上5:1-2;エレ31:9)。終わりの時における彼らの特権と責任は、神権を受け、世の人々に回復された福音の教えを伝え、散乱したイスラエルを集めるために旗を掲げることである(イザ11:12-13;2ニフ21:12-13)。エフライムの子らは、終わりの時に北の地から戻る人々に栄光を冠として授ける(教義133:26-34)。

エフライムまたはヨセフの木:エフライムの部族で、紀元前600年ごろにエルサレムからアメリカに導かれた民の記録。この民の記録は、エフライムまたはヨセフの木、すなわちモルモン書と呼ばれる。この木(モルモン書)とユダの木(聖書)

エフライムの木

は一つとなって、主イエス・キリストとその復活、またイスラエルの家のこれら二つの群れの中で主がなされた業を証している。

エフライムの枝が折り取られ、キリストについてのもう一つの証を記す、JS 創世 50：24-26, 30-31。ユダの木とヨセフの木は一つになる、エゼ 37：15-19。

ユダの記録とヨセフの記録が一つに合わされる、2ニフ 3：12。主は多くの国民に語られる、2ニフ 29章。

エフライムの木の記録の鍵がモロナイにゆだねられた、教義 27：5。

エフライムの木 「エフライム—エフライムまたはヨセフの木」参照

エペソ人への手紙 「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の1書。使徒パウロがエペソの聖徒たちにあてた手紙。この手紙は、キリストの教会についてのパウロの教えが含まれている点で非常に重要なものである。

第1章には通常のあいさつが述べられている。第2-3章には、人々が教会員となるとき、すなわち一つの教会の中で異邦人とユダヤ人が一致し、聖徒たちと同じ国籍の者となるときに、彼らに生じる変化が説明されている。第4-6章には、使徒と預言者の役割、一致の必要性、神の武具を身に着けなければならないことが説かれている。

エホバ 「イエス・キリスト」「わたしは有る」参照

イスラエルの神の契約名または固有名。「わたしは有る」の意（出エ 3：14；ヨハ 8：58）。エホバは肉体を受けられた前のイエス・キリストであり、マリヤの子として地上に来られた（モサ 3：8；

15：1；3ニフ 15：1-5）。「旧約聖書」に出てくる「主」という言葉は、通常、エホバを指している。

エホバはキリストである：古代の預言者たちはエホバを知っていた（KJ 出エ 6：3；アブ 1：16）。使徒パウロは、キリストは旧約のエホバであると教えている（出エ 17：6；1コリ 10：1-4）。「モルモン書」のヤレドの兄弟は、肉体を受けられる前のキリストにまみえ、礼拝した（エテ 3：13-15）。モロナイもキリストをエホバと呼んでいる（モロ 10：34）。カートランド神殿において、ヨセフ・スミスとオリバー・カウドリは復活されたエホバにまみえた（教義 110：3-4）。

エライアス 「エリヤ」参照

エライアス（邦訳『新約聖書』中では、エリヤと訳されている）という名前あるいは称号は、聖典の中において幾つか異なる用い方をされている。

エリヤ：マタ 17：3-4；ルカ 4：25-26；新約ヤコブ 5：17などに出てくるエライアス（邦訳『聖書』では、エリヤ）は、列王紀上、列王紀下にその働きが記されている古代の預言者エリヤである。

先駆ける者：エライアスは先駆ける者の称号でもある。例えば、バプテスマのヨハネはエライアスであった。彼はイエスのために道を備えるように遣わされた（マタ 17：12-13）。

回復する者：エライアスという称号は、黙示者ヨハネ（教義 77：14）や、ガブリエル（ルカ 1：11-20；教義 27：6-7；110：12）など、特別な使命を持つ人々に対しても用いられる。

アブラハムの神権時代の人：アブラハムの時代にいたと思われる、イザヤスあるいはエライアスと呼ばれる一人の預言者（教義 84：11-13；110：12）。

選ばれた者 「召し、神の召し」参照

神によって選ばれて特別な責任を受けた者。

わたしはわたしの選んだ者と契約を結び、詩篇 89：3。

あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、1ペテ 2：9。

キリストは、初めから神が愛し選んだ者である、モセ 4：2。

選び 「召しと選び」参照

神は、前世におけるふさわしさに基づいて、アブラハムの子孫となり、イスラエルの家に属する者となり、また聖約（契約）の民となる者を選ばれた（申命 32：7-9；アブ 2：9-11）。これらの人々は世のすべての国民を祝福できるよう、特別な祝福と義務を与えられている（ロマ 11：5-7；1ペテ 1：2；アル 13：1-5；教義 84：99）。しかし、これらの選ばれた人といえども、救いを得るには、この世において召され、また選ばれなければならない。

選ぶ 「自由」「選択の自由」「召し、神の召し」参照

主が個人やグループを選ばれるとき、その人々に奉仕の召しをお与えになるのが普通である。

あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい、ヨシ 24：15（アル 30：8；モセ 6：33）。わたしは苦しみの炉をもつてあなたを試みた、イザ 48：10（1ニフ 20：10）。

招かれる者は多いが、選ばれる者は少ない、マタ 22：14（マタ 20：16；教義 95：5；121：34, 40）。あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである、ヨハ 15：16。神は、知者をはずかしめるために、この

世の愚かな者を選び、1コリ 1：27。神は天地の造られる前から、わたしたちを選び、エペ 1：4。

人は、自由と永遠の命を選ぶことも、束縛と死を選ぶことも自由である、2ニフ 2：27。

初めに選ばれた、高潔で偉大な者たち、教義 138：55-56。

イスラエルは神により選ばれた、モセ 1：26。アブラハムは生まれる前に選ばれた、アブ 3：23。

エリ 「サムエル（旧約の預言者）」

参照

『旧約聖書』の中の人物。主がサムエルを預言者に召された当時の大祭司、士師（サ上 3 章）。主はエリを、息子たちの罪悪を見過ごしにしたことで叱責された（サ上 2：22-36；3：13）。

エリコ

ヨルダン渓谷の城塞都市。^{じょうさい}海面下約 250m の低い位置にある。エリコは、イスラエル人が約束の地に初めて足を踏み入れたときに川を渡った場所の近くにあった（ヨシ 2：1-3；3：16；6 章）。

イスラエル人はエリコで戦った、ヨシ 6：1-20。ヨシュアはエリコにのろいを置いた、ヨシ 6：26（列上 16：34）。エリコはベニヤミンの領地の中にあった、ヨシ 18：11-12, 21。

主はエルサレムへの最後の旅のときにエリコを訪れられた、マコ 10：46（ルカ 18：35；19：1）。

エリサベツ 「ヨハネ（バプテスマの）」

参照

『新約聖書』中の人物。ザカリヤの妻。バプテスマのヨハネの母。マリヤの親族であった（ルカ 1：5-60）。

エリシャ

エリシャ

『旧約聖書』の中の人物。イスラエルの北王国の預言者。北王国の王たちに顧問として信頼された。

エリシャは燃えるような熱意の師エリヤとは趣を異にし、温和で優しい人物であった。よく知られているエリシャの奇跡（列下2-5；8章）は、彼がエリヤの後を継いで預言者となったときに、確かにエリヤの力を受けたことを証している（列下2:9-12）。エリシャの奇跡としては、悪い水を清めたこと、ヨルダン川の水を分けたこと、やもめの油を増やしたこと、子供を生き返らせたこと、らい病人を癒したこと、おのを水面に浮かさせたこと、スリヤびとの目をくらませたこと（列下2-6章）がある。エリシャの働きは、ヨラム、エヒウ、エホアハズ、ヨアシの治世にわたり、50年以上続いた。

エリヤの外套を受け取った、**列下2:13**。やもめの油を増やした、**列下4:1-7**。シェネムの女の子を生き返らせた、**列下4:18-37**。スリヤ人ナアマンを癒した、**列下5:1-14**。スリヤ人の兵たちの目をくらまし、また、エリシャの召し使いの目が開かれた、**列下6:8-23**。

エリヤ 「エライアス」「救い」「結び固め」
参照

ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリーに結び固めの力の鍵を授けるため、末日に再び地上を訪れた旧約の預言者。エリヤはこの世にいたとき、イスラエルの北王国で務めを果たした（列上17-22章；列下1-2章）。彼は主に対して大いなる信仰を持ち、多くの奇跡をなした人として知られている。彼の求めに応じて、神は3年半にわたって雨をとどめられた。彼は死んだ少年を生き返らせ、天から火を呼び寄せた（列上17-18章）。ユ

ダヤ教の人々は、マラキが預言したようにエリヤが戻って来るのを、今も待ち望んでいる（マラ4:5）。彼らは、ユダヤ人の過越の祭のときには戸を開け放ち、一つの席を空け、いまだにエリヤを客として招いている。

預言者ジョセフ・スミスは、エリヤはメルキゼデク神権の結び固めの力を持つ預言者であり、またイエス・キリスト以前の時代にこの力を持っていた最後の預言者であると語っている。エリヤは変貌の山にモーセとともに現れ、ペテロ、ヤコブ、ヨハネに神権の鍵を授けた（マタ17:3）。エリヤは1836年4月3日にも、モーセなどとともにオハイオ州のカートランド神殿に現れ、同じ鍵をジョセフ・スミスとオリバー・カウドリーに授けた（教義110:13-16）。これはすべて、マラキ4:5-6に述べられているように、主の再臨への備えとしてなされた。

エリヤが持っていた力は、神権の結び固めの力であり、これによって地上でつながれ、解かれることは、天においてもつながれ、解かれるのである（教義128:8-18）。今日この世で主に選ばれた僕もこの結び固めの力を持ち、生者と死者のために福音の救いの儀式を執行することができる（教義128:8）。

雨も露も降らせらず、からずに養われた、**列上17:1-7**。やもめに、かめの粉は尽きず、びんの油は絶えないと告げた、**列上17:8-16**。やもめの子供を生き返らせた、**列上17:17-24**。バアルの預言者たちを打ち破った、**列上18:21-39**。静かな細い声が彼に語りかけた、**列上19:11-12**。火の車に乗って天に上った、**列下2:11**。マラキは末の日にエリヤが再び遣わされることを預言した、マラ4:5-6（ニフ25:5）。

1836年にオハイオ州カートランドの神殿に現れた、教義110:13-16。

エルサレム

現代のイスラエルにある都市。『聖書』の歴史の中で最も重要な都市。エルサレムにはキリスト教徒やユダヤ教徒、イスラム教徒が最も神聖視している場所が幾つかあり、多くの信心深い人々が定期的に訪れる。しばしば聖なる都と言われる。

かつてはサレムと呼ばれていた（創世14：18；詩篇76：2）。ダビデに攻め取られるまで、エルサレムはエブス人の町であった（ヨシ10：1；15：8；サ下5：6-7）。ダビデはここを都とした。海拔約800mのこの場所は、それまではおもに山中のとりでとして機能を果たしていた。北側を除く全面が深い谷で囲まれている。

ダビデ王はエルサレムでの治世の間、木造の宮廷に住んでいた。しかし、ソロモン王の治世に、民は王宮や神殿の建設をはじめとして、エルサレムを美しい都とするために多くのことを行った。

イスラエル王国とユダ王国に分裂した後も、エルサレムは引き続きユダ王国の都であった。エルサレムはしばしば侵略軍の攻撃にさらされた（列上14：25；列下14：13；16：5；18-19章；24：10；25章）。ヒゼキヤの時代にエルサレムは宗教の中心地となったが、紀元前320年、168年、65年に町の一部が破壊された。その後ヘロデが城壁と神殿を再建したが、紀元70年にローマ軍によって完全に破壊されてしまった。

メルキゼデクはサレムの王であった、創世14：18（ヘブ7：1-2）。イザヤはエルサレムに美しい衣を着るように叫んだ、イザ52：1。主の言葉はエルサレムから出る、ミカ4：2。

キリストはエルサレムの行く末を嘆かれた、マタ23：37-39（ルカ13：34）。エルサレムは生ける神の都である、ヘブ12：22。

悔い改めなければエルサレムは滅ぼされる、1ニフ1：4、13、18（2ニフ1：4；ヒラ8：20）。破壊の後に、エルサレムは再び民の住む所となる、3ニフ20：46。エルサレムが再び築かれる、エテ13：5。

キリストは、エルサレムに警告されたように、末日聖徒にも警告を与えられた、教義5：20。ユダに属する人々はエルサレムに逃げなさい、教義133：13。主はエルサレムから語られる、教義133：21。

エルサレム（新しい）「シオン」「新エルサレム」参照

エルバアル「ギデオン（旧約聖書）」参照

『旧約聖書』の中のギデオンの別名。バアルの祭壇を打ち壊した後に彼に付けられた名（士師6：32；7：1；9章；サ上12：11）。

エレミヤ「哀歌」参照

旧約の預言者。祭司の家系に生まれ、紀元前626-586年にかけて、ユダ王国で預言した。エレミヤと大体同時代の偉大な預言者としては、リーハイ、エゼキエル、ホセア、ダニエルがいる。

エレミヤは前世において、預言者となるように聖任された（エレ1：4-5）。預言者として活動した約40年の間、エレミヤはユダヤ人の中に見られた偶像礼拝と不道徳を糾弾した（エレ3：1-5；7：8-10）。エレミヤは絶えず抵抗と侮辱を受けた（エレ20：2；36：18-19；38：4）。エルサレム陥落後、エジプトへ逃げたユダヤ人たちはエレミヤも連れて行き（エレ43：5-6），言い伝えによると、その地で彼を石で打ち殺したということである。

エレミヤ書：第1-6章には、ヨシヤの治世に与えられた預言が記されている。

エロヒム

第7-20章には、エホヤキムの時代の預言が記録されている。第21-38章には、ゼデキヤの治世のことが採り上げられている。第39-44章には、数々の預言と、エルサレム陥落後の歴史上の出来事が述べられている。第45章には、エレミヤの筆記者バルクに対して与えられた、彼の命は守られるという約束が記されている。第46-51章には、諸外国に対する預言が述べられており、第52章は歴史的結末である。エレミヤの預言の幾つかは、ニーファイが手に入れたラバーンの真鑑版にも含まれていた（1ニフ5：10-13）。エレミヤについては、『モルモン書』の中で、ほかに2度言及されている（1ニフ7：14；ヒラ8：20）。

エレミヤ書には、人の前世とエレミヤの予任に関する記述もある（エレ1：4-5）。また、イスラエルは町から一人、氏族から二人とシオンに集められて、その散らされた状態から帰り、ユダとイスラエルが良い地で安全に安らかに住むようになるという預言（エレ3：12-19）や、主は多くの「漁夫」や「獵師」を遣わしてイスラエルの民を探し、北の地から集められるという預言（エレ16：14-21）もある。末日におけるこの業は、モーセがイスラエルをエジプトから導き出したときよりも規模の大きなものとなるであろう（エレ16：13-15；23：8）。

エロヒム 「神、神会」「天の御父」
参照

エンダウメント 「神殿、主の宮」参照

一般的には、神からの力の賜物。資格のある教員は、神殿の儀式を通して力の賜物を授かることができる。その賜物は、昇栄を得るのに必要な聖なる神権の教えと聖約を授けるものである。エンダウメントには救いの計画に関する教えが含まれている。

あなたがたはそこで、高い所から力を授けられるであろう、**教義**38：32, 38（ルカ24：49；教義43：16）。わたしはこの家の中で、わたしが選んだ者たちに力を授けようと考えている、**教義**95：8。わたしは、一つの大いなるエンダウメントと祝福を用意している、**教義**105：12, 18, 33。幾千幾万の人の心が、僕たちに授けられるエンダウメントのゆえに、大いに喜ぶであろう、**教義**110：9。栄光と誉れとエンダウメントは、わたしの聖なる家の儀式によって定められる、**教義**124：39。アロンのように、御父から召された人々は神権の鍵を授けられる、**教義**132：59。

王政党

『モルモン書』に出てくる党派。ニーファイ人の政府の転覆を謀った（アル51：1-8）。

大きな忌まわしい教会 「悪魔—悪魔の教会」参照

奥義（神の） 「神の奥義」参照

行い

人が行うことで、善いことも悪いことも含む。人は皆、自分の行いによって裁かれる。

主はおののの行いにより、人に報いられる、箴言24：12。

あなたがたの光を人々の前に輝かし、人々があながたのよいおこないを見て、マタ5：16（3ニフ12：16）。御父の御心を行なう者だけが天国に入る、マタ7：21。行いのない信仰は死んだものである、新ヤコ2：14-26。

肉体をもってなした行いによって裁かれなければならない、1ニフ15：32（モサ3：24）。わたしたちが自分の行えることをすべて行った後に、神の恵みに

よって救われることを知っている、**2ニフ** 25：23。善い行いをするのに決して疲れず、**アル** 37：34。人々が自分の行いに応じて裁かれるることは必要である、**アル** 41：3。あなたがたはその行いによって彼らを見分けるのである、**モロ** 7：5（教義 18：38）。

主なるわたしは、すべての人をその行いに応じて裁く、**教義** 137：9。

行う 「従順、従う」参照

幼い子供たちの救い 「子供」「救い—幼い子供たちの救い」参照

教える、教師 「聖霊」参照

人に知識、特に福音の真理についての知識を与え、義に導くこと。福音を教える人は御靈の導きを受けなければならぬ。親は皆、それぞれの家族の中にあって教師である。聖徒たちは、主と指導者の教えを求め、進んで受け入れなければならない。

それらのことを、あなたの子孫に知らせなければならない、**申命** 4：8-9。努めてこれをあなたの子らに教え、**申命** 6：7（**申命** 11：18-19）。子をその行くべき道に従って教えよ、**箴言** 22：6。あなたの子らはみな主に教をうけ、**イザ** 54：13（**3ニフ** 22：13）。

わたしたちはあなたが神からこられた教師であることを知っています、**ヨハ** 3：2。なぜ、人を教えて自分を教えないのか、**ロマ** 2：21。

わたしは父が学んだすべてのことの中から幾らかの教えを受けた、**1ニフ** 1：1（**エノ** 1：1）。力の限り神の言葉を民に教えなければ、民の罪を自分たちの頭に受ける、**ヤコ** 1：18-19。耳を開いて聞き、**モサ** 2：9。互いに愛し合い、互いに仕え合うように教えるであろう、**モサ** 4：15。神の人でなければ、だれも、あ

なたがたの教師としてはならない、**モサ** 23：14。主は、御言葉を受け入れるように彼らの心を備えさせるために、その地の全面に主の御靈を注がれた、**アル** 16：16。神の力と権能をもって教えた、**アル** 17：2-3。母親から教わっていた、**アル** 56：47（**アル** 57：21）。

知恵を求めたならば、教えを授けられるため、**教義** 1：26。わたしがあなたがたを任命したその職に応じて、互いに教え合いなさい、**教義** 38：23。『聖書』と『モルモン書』の中にあるわたしの福音の原則を教えなければならない、**教義** 42：12。あなたがたは高い所から教えを受けなければならない、**教義** 43：15-16。親は子供たちに教えなければならない、**教義** 68：25-28。互いに王国の教義を教え合わなければならない、**教義** 88：77-78、118。あなたがた自身の中から一人の教師を任命しなさい、**教義** 88：122。あなたは、あなたの子供たちに光と真理を教えてこなかった。あなたが苦難を受けてきた原因はこれである、**教義** 93：39-42。

あなたの子供たちに次のことを率直に教えなさい、**モセ** 6：57-61。

御靈によって教える：語る者は、あなたがたではなく、あなたがたの中にあって語る父の靈である、**マタ** 10：19-20。**聖書**を説き明してくださったとき、お互の心が内に燃えたではないか、**ルカ** 24：32。福音は御靈の力によって宣べ伝えられる、**1コリ** 2：1-14。

神から受けた力と権能をもって語り、**モサ** 13：5-9（**アル** 17：3；**ヒラ** 5：17）。

人々を確信に導く神の力を受けるであろう、**教義** 11：21。あなたが慰め主によつて教えるすべてのことを、教員は聞かなければならない、**教義** 28：1（**教義** 52：9）。御靈を受けなければ、あなたがたは教えてはならない、**教義** 42：14（**教義** 42：6）。御靈の力によって人の子ら

畏れ、恐れ

に教える、**教義** 43：15。長老たちは御靈によって福音を宣べ伝えなければならぬ、**教義** 50：13－22。必要な部分が、必要なそのときに授けられるであろう、**教義** 84：85（**教義** 100：5－8）。

畏れ、恐れ 「敬虔」「信仰」「勇敢、勇気」
参照

次の二つの意味があると考えられる。
(1) 神を畏れるとは、神に対して畏敬の念を持ち、その戒めに従うことである。
(2) 人やこの世の様々な危難、苦しみ、悪を恐れるとは、これらを怖がり、不安を抱くことである。

神への畏れ：この所には神を恐れるということが、まったくない、**創世** 20：11。あなたの神、主を恐れ、**申命** 6：13（ヨシ 24：14；サ上 12：24）。恐れをもって主に仕え、**詩篇** 2：11。主を恐れることは知恵のはじめである、**詩篇** 111：10。主を恐れて、悪を離れよ、**箴言** 3：7。神をかしこみ、み前に恐れをいだく者には幸福がある、**伝道** 8：12。

恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい、**ビリ** 2：12。神をおそれ、神に栄光を帰せよ、**黙示** 14：7（**教義** 88：104）。

主を畏れる気持ちを抱くように、絶えず民を奮い立たせ、**エノ** 1：23。アルマとモーサヤの息子たちは地に伏した。主への畏れを覚えたからである、アル36：7。主の前に恐れおののいて、自分の救いを達成しなさい、**モル** 9：27。

わたしを畏れない者を乱し、おののかせよう、**教義** 10：56。わたしを畏れる者は、人の子の来臨のしるしを待ち望むであろう、**教義** 45：39。

人への恐れ：恐れてはならない。わたしはあなたと共にあって、**創世** 26：24（イザ 41：10）。主がわたしたちと共におられますから、彼らを恐れてはなりません、

民数 14：9。恐れることはない。われわれと共にいる者は彼らと共にいる者よりも多いのだから、**列下** 6：16。肉なる者はわたしに何をなし得ましょうか、**詩篇** 56：4。人のそりしを恐れてはならない、**イザ** 51：7（**ニヒ** 8：7）。

神がわたしたちに下さったのは、**臆する** 灵ではなく、**2テモ** 1：7。完全な愛は恐れをとり除く、**1ヨハ** 4：18（**モロ** 8：16）。

ヒラマンの息子たちは死を恐れなかつた、**アル** 56：46－48。悪人の胸に満ちているあのひどく死を恐れる気持ち、**モル** 6：7。人のすることは恐れない、**モロ** 8：16。

あなたは人を神よりも恐れてはならなかった、**教義** 3：7（**教義** 30：1，11；122：9）。善を行うのを恐れてはならない、**教義** 6：33。だれでもわたしの教会に属する者は、恐れる必要がない、**教義** 10：55。備えていれば恐れることはない、**教義** 38：30。恐れを除き去り、**教義** 67：10。元気を出しなさい。恐れてはならない。主なるわたしはあなたがたとともにおり、**教義** 68：6。敵を恐れてはならない、**教義** 136：17。

夫 「家族」「結婚」参照

おとめ 「マリヤ（イエスの母）」参照

異性との交わりを持ったことのない結婚適齢期の女性。

おとめがみごもって男の子を産む、**イザ** 7：14（**マタ** 1：23；**2ニフ** 17：14）。

天国は、十人のおとめが花婿を迎えて行くのに似ている、**マタ** 25：1－13。

ナザレの町に一人のおとめを見たが、それは神の御子の母であった、**1ニフ** 11：13－18。マリヤはおとめであって、尊い、選ばれた器である、**アル** 7：10。

オバデヤ

旧約の預言者。エドムの滅亡を預言した。オバデヤが預言したのは、ヨラム王の治世（紀元前848-844年）、あるいは紀元前586年のバビロニアによる侵略の時期と思われる。

オバデヤ書：『旧約聖書』の1書。1章のみから成る。その中でオバデヤはエドムの滅亡について記し、また救う者たちがシオンの山に立つことを預言した。

オベデ 「ボアズ」「ルツ」参照

『旧約聖書』の中の人物。ボアズとルツの息子で、エッサイの父。エッサイはダビデ王の父である（ルツ4:13-17, 21-22）。

覚えの書 「命の書」「系図」参照

最初にアダムが作ったもので、彼の子孫の行いが記録された。また、そのとき以来預言者や忠実な教会員によって作られた同様の記録をも指す。アダムとその子孫は、靈感によって書いた「覚えの書」と、系図を記した「歴代の書」を書き残した（モセ6:5, 8）。これらの記録は、わたしたちの最後の裁きを確定する際に用いられることが十分に考えられる。

覚え書がしるされた、マテ3:16-18（3ニフ24:16-18）。

覚えの書に記されていない者は皆、その日に何の受け継ぎも見いださず、教義85:9。死者は彼らの行いの記録が載せられている書物に基づいて裁かれる、教義128:7。わたしたちの死者の記録を載せた書をささげましょう、教義128:24。

覚えの書が記された、モセ6:5-8。覚えの書を記してきた、モセ6:46。アブラハムは子孫のために記録を書こうと努めた、アブ1:31。

オムナー 「モーサヤ（ベニヤミンの息子）」「モーサヤの息子たち」参照

『モルモン書』の中の人物。モーサヤ王の息子。兄弟たちとともにレーマン人への伝道の旅に出かけた（モサ27:8-11, 34-37; 28:1-9）。

オムナイ

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の記録者。紀元前361年ごろに記録を残した（ジェロ1:15; オム1:1-3）。

オムナイ書：『モルモン書』の中の1書。ニーファイの小版から翻訳されたものの。1章のみから成るこの書には、ニーファイ人とレーマン人の間の戦争のことが記されている。オムナイが記録したのは、この書の初めの3節だけである。ニーファイの版は、アーロン、ケミシ、アビナドム、そしてアマレカイへと順に伝えられた。アマレカイはこの版をゼラヘムラのベニヤミン王に渡した。

オメガ 「アルパとオメガ」「イエス・キリスト」参照

思い 「選択の自由」「深く考える」参照

人の心の中に生じる考え方や印象。考える力は神からの賜物であり、わたしたちはこの力をどう使うか自由に選択することができる。わたしたちがどういう思いを抱くかは、態度や行動、また来世での状態にも大きな影響を与える。義にかなった思いは人を救いに導き、悪い思いは罰の定めに至る。

主はすべての思いを悟られる、歴上28:9。人はその心の中で思うそのとおりの人である、KJ箇言23:7。わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、イザ55:7-9。

イエスは彼らの思いを見抜いて、マタ12:25（ルカ5:22; 6:8）。内部から、

思い、心

人の心の中から、悪い思いが出て来る。マコ 7:20-23。すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ、2コリ 10:5。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて純真なこと、すべて愛すべきことがあれば、それらのものを心にとめなさい、ピリ 4:8。

肉の思いを抱くことは死であり、靈的な思いを抱くことは永遠の命であることを覚えておきなさい、2ニフ 9:39。もし自分自身や自分の思いに注意を払わなければ、あなたがたは滅びるに違いない、モサ 4:30。思いもわたしたちを罪に定める、アル 12:14。

あなたの心の思いと志を知っている者は神のほかにだれもいない、教義 6:16(教義 33:1)。あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい、教義 6:36。命の言葉をあなたがたの心の中に大切に蓄えるようにしなさい、教義 84:85。あなたがたの無益な思いを遠くに捨ててしまいなさい、教義 88:69。人の心の思いは明らかにされる、教義 88:109。絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい、教義 121:45。

すべての人がいつも悪いことばかりを考えている、モセ 8:22。

思い、心

精神能力。思考力。

まつた 全き心をもって喜び勇んで彼に仕えなさい、歴上 28:9。

心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ、マタ 22:37。

肉の思いを抱くことは死であり、靈的な思いを抱くことは永遠の命である、2ニフ 9:39。主の声がわたしの思いに告げて、エノ 1:10。御言葉は剣よりも民の心に力強い影響を及ぼした、アル 31:5。

わたしはあなたの思いに告げよう、教義 8:2。心の中でそれをよく思い計り、

教義 9:8。永遠の厳肅さを心にとどめなさい、教義 43:34。あなたがたの思いは過去に暗くなることがあった、教義 84:54。早く床に就きなさい。あなたがたの体と精神が活氣づけられるように、早起きをしなさい、教義 88:124。

サタンは神の思いを知らなかった、モセ 4:6。主はその民をシオンと呼ばれた。彼らが心を一つにし、思いを一つにしたからである、モセ 7:18。

重い皮膚病

『旧約聖書』と『新約聖書』の両方で言及されている病気。モーセ(出エ4:6-7)とその姉ミリアム(民数12:10)、ナアマン(列下5章)、ウジヤ王(歴下26:19-21)など、『聖書』の著名な人物の中にこの病気に苦しんだ人がいる。

イエスは何度か、重い皮膚病にかかっていた人を癒された、マタ 8:2-4(マコ 1:40-45; ルカ 5:12-15; 3ニフ17:7-9)。イエスは重い皮膚病にかかっていた10人の人を癒された、ルカ 17:11-19。

親「父(現世の)」「母」参照

父親と母親。神殿での結婚において正しく結び固められたふさわしい夫婦は、永遠にわたって親としての役割を果たすことができる。「両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも靈的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。」(『家族—世界への宣言』『リアホナ』2010年11月号、129)

両親に従いなさい、エペ 6:1-3(コロ 3:20)。

わたしたちの最初の先祖であるアダム

とエバ、**1ニフ5:11**。その責任が両親の頭に帰するように、**2ニフ4:6**。親たちに、悔い改めてバプテスマを受けなければならぬことを教えなさい、モロ8:10。

親は子供たちに福音を教えるように命じられている、**教義68:25**。すべての子供たちはその親に扶養を求める権利がある、**教義83:4**。

両親の罪がその子供たちの頭に帰することはあり得ない、**モセ6:54**。

オリーブの木 「油」「イスラエル」参照

イスラエルに広く分布している樹木。『聖書』の舞台となった地域では、オリーブは重要な農産物である。木材にしたり、果実を採取したり、油を探ったりするために栽培される。オリーブの木は聖典の中で、イスラエルの家の象徴として頻繁に用いられている。

イスラエルの家は、枝が折られて地の全面に散らされるオリーブの木にたとえられる、**1ニフ10:12**（**1ニフ15:12**）。主はイスラエルの家を栽培されたオリーブの木にたとえられた、**ヤコ5-6章**。

ジョセフ・スミスは教義と聖約88章の啓示をオリーブの葉と呼んだ、**教義88章**の前書き。ある身分の高い人が僕たちに、自分の果樹園へ行って12本のオリーブの木を植えるようにと言った、**教義101:43-62**。

オリーブ山 「ゲツセマネ」参照

エルサレムの東方のケデロンの谷の東にある丘。西側斜面のふもと近くにゲツセマネの園がある。山頂と東側斜面に、ベテバゲとベタニヤがある。この山は、かつて『聖書』に述べられている数多くの出来事の舞台となり（マタ24:3），また将来も末日の様々な出来事の舞台となる（ゼカ14:3-5；教義45:48-54；133:20）。

終わりの時、末日「イエス・キリストの再臨」「時のしるし」参照

わたしたちが生きている今の時代。主の再臨の直前の時代（あるいは神権時代）。

後の日に、あなたがたの上に起ることを、告げましょう、**創世49:1**。後の日に彼は必ず地の上に立たれる、**ヨブ19:25**。終りの日に主の家の山は堅く立ち、**イザ2:2**。

終りの時には、苦難の時代が来る、**2テモ3:1-7**。終りの時に、あざける者たちが再臨を否定する、**2ペテ3:3-7**。

わたしはあなたがたに、終わりのについて預言する、**2ニフ26:14-30**。

わたしの教会は、終わりの時に、末日聖徒イエス・キリスト教会と呼ばれなければならない、**教義115:4**。

キリストは終わりの時に来られる、**モセ7:60**。

音楽 「歌う」「賛美歌」参照

喜びや賛美や礼拝の気持ちを表現するために、旋律や拍子に合わせて歌い、演奏することは、『聖書』の時代の初期から行われていた（サ下6:5）。音楽は祈りの一形式でもある。詩篇は楽器の演奏に合わせて単純な旋律で歌われたものと思われる。

アロンの姉、女預言者ミリアムはタンパリンを取り、女たちも皆タンパリンを取って、踊り、**出エ15:20**。レビビとの歌うたう者はシンバルと、^{たてごと}立琴と、琴をとって立ち、120人の祭司は彼らと一緒に立ってラッパを吹いた、**歴下5:12**。

彼らは、さんびを歌った後、オリーブ山へ出かけて行った、**マタ26:30**。互に教えまた訓戒し、詩とさんびと靈の歌によって、神をほめたたえなさい、**コロ3:16**。

女

^{あがな}贖いをもたらす愛の歌を歌おうと感じたことがあるか、アル 5：26。

わたしは心の歌を喜ぶからである。まことに、義人の歌はわたしへの祈りである、教義 25：12。歌と、音楽と、踊りをもって主をほめたたえなさい、教義 136：28。

女 「兄弟」「姉妹」「人」参照

神の娘。聖典では、婦人という言葉が敬意を込めて用いられている場合がある（ヨハ 19：26）。

神は男と女とを創造された、創世 1：27（モセ 2：27；6：9；アブ 4：27）。賢い妻は宝石よりもすぐれて尊い、箴言 31：10-31。

女は、また男の栄光である、1コリ 11：7。主にあっては、男なしには女はないし、女なしには男はない、1コリ 11：11。女はつましい身なりをし、1テモ 2：9-10。

主なる神であるわたしは、婦人たちの貞節を喜ばしく思う、ヤコ 2：28。

見よ、あなたの罪は赦されている。あなたは、わたしが召した、選ばれた婦人である、教義 25：3。女たちは夫に扶養を要求する権利がある、教義 83：2。

女預言者 「預言」参照

^{あかし}イエスの証を受け、啓示の靈を享受している女性。神権や神権の鍵を持つことはない。聖典の中で女預言者と呼ばれている女性はわずかであるが、リベカやハンナ、エリサベツ、マリヤなど、預言をした女性は多い。

ミリアムは女預言者と呼ばれた、出エ 15：20。デボラは女預言者と呼ばれた、士師 4：4。ホルダは女預言者と呼ばれた、列下 22：14（歴下 34：22）。

アンナは女預言者と呼ばれた、ルカ 2：36。

カーセージの監獄（アメリカ合衆国）

「スミス、ジョセフ、ジュニア」

「スミス、ハイラム」参照

ジョセフ・スミスとハイラム・スミスは、1844年6月27日にアメリカ合衆国イリノイ州カーセージの監獄で暴徒により殺された（教義 135 章）。

カートランド神殿、オハイオ州（アメリカ合衆国）

近代に教会が建設した最初の神殿。聖徒たちは主の戒めに従って、カートランドにこの神殿を建設した（教義 94：3-9）。カートランド神殿建設の目的の一つは、ふさわしい教員が靈的な力と権能、啓発を受けることのできる場所を提供することであった（教義 109-110 章）。カートランド神殿は1836年3月27日に奉獻された。奉獻の祈りは啓示によって預言者ジョセフ・スミスに与えられた（教義 109 章）。主はこの神殿において幾つかの重要な啓示を下し、必要な神権の鍵を回復された（教義 110：137 章）。カートランド神殿では、今日数々の神殿で行われている儀式がすべて執行されたわけではない。

カイザル

『新約聖書』に出てくる称号。幾人かのローマ皇帝はこの称号で呼ばれた。聖典では、世俗的な支配や権威の象徴として用いられている。

カイザルのものはカイザルに返しなさい、マタ 22：21（マコ 12：17；ルカ 20：25；教義 63：26）。

改宗 「弟子」「再び生まれる」参照

信念や心や生活を変えて神の御心を受け入れ、御心に従って生活することになる（使徒 3：19）。

改宗には、以前の習慣をやめ、キリストの弟子になるという意識的な決意が含

まれる。改宗は、悔い改め、罪の赦しのためのバプテスマ、按手により聖靈を受けること、さらに主イエス・キリストを信じる信仰を持ち続けることによって完全なものとなる。生まれながらの人も、キリストなるイエスにより再び生まれて、聖められた新しい人となることができる（2コリ5：17；モサ3：19）。

心をいれかえて幼な子のようにならなければ、マタ18：3（モサ3：19）。あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい、ルカ22：32。彼の勧めの言葉を受けいたした者は、バプテスマを受けた、使徒2：37-41。罪人を迷いの道から引きもどす、新ヤコ5：20。

エノスは改心した、エノ1：2-5。ベニヤミン王の言葉は民の心の中に大きな変化を生じさせた、モサ5：2（アル5：12-14）。全人類は再び生まれなければならない。人は神から生まれなければならない、モサ27：25。アルマとモーサヤの息子たちは改心した、モサ27：33-35。ラモーナイ王の父が改宗した、アル22：15-18。神の力と言葉によって主を信じるようになった、アル53：10。悔い改めは心の変化をもたらす、ヒラ15：7。心を改めた者は皆、神の御靈を与えられたことを、民に実際に示した、3ニフ7：21。レーマン人は改心したときに戦士を信じたので、火と聖靈によるバプテスマを受けた、3ニフ9：20。

彼らは出て行き、悔い改めを宣べ伝えなければならない。そして、多くの人が改宗する、教義44：3-4。

会堂 「ユダヤ人」参照

宗教的な目的で使われた集会所。新約の時代は、内部の調度は一般的に質素で、律法を書いた巻き物など神聖な記録を収める箱、机、礼拝者用の座席が備えられていた。

長老によって構成される各地域の評

議会がそれぞれの会堂を管理した。彼らは会堂にだれを入れ、また会堂からだれを追放するかの決定も下した（ヨハ9：22；12：42）。最も重要な役職は会堂司であった（マコ5：22；ルカ13：14）。会堂司は通常、律法学者であり、建物の管理や様々な行事の監督を行った。そして、会衆が様々な聖職者の務めを果たした（ルカ4：20）。

パレスチナでもその他の地域でも、ユダヤ人が住んでいる町には必ず会堂があった。これはイエス・キリストの福音を伝える大きな助けとなつた。教会の初期の宣教師たちは普通、会堂で話をすることができたからである（使徒13：5, 14；14：1；17：1, 10；18：4）。これと同じことが『モルモン書』の中の宣教師（アル16：13；21：4-5；32：1）や、この神権時代の初期の宣教師たちの間でも行われた（教義66：7；68：1）。

回復 「福音の回復」参照

取り去られたり、失われたりした物や状態が元に戻ること。

靈と体は再び結合して完全な形になり、アル11：43-44。回復とは悪を悪に、義を義に再び返すことである、アル41：10-15。

わたしたちは、十部族の回復と、地球が更新されて楽園の栄光を受けることを信じる、箇条1：10（教義133：23-24）。

解放者 「イエス・キリスト」参照

イエス・キリストは、すべての人を死の束縛から解放し、悔い改める人を罪のもたらす罰から救うことから、人類の解放者である。

主はわが岩、わが城、わたしを救う者、サ下22：2（詩篇18：2；144：2）。あなたはわが助け、わが救主です、詩篇

40：17（詩篇 70：5）。

救う者がシオンからきて、**ロマ 11：26**。
聖徒たちは、神の御子を贖い主および解放者として受け入れた、**教義 138：23**。

カイン 「アダム」「アベル」「殺人」「秘密結社」参照

アダムとエバの息子。弟のアベルを殺した（創世 4：1-16）。

主はカインの供え物を顧みられなかつた、**創世 4：3-7**（モセ 5：5-8, 18-26）。弟アベルを殺した、**創世 4：8-14**（モセ 5：32-37）。主はカインに一つのしをつけられた、**創世 4：15**（モセ 5：37-41）。

アダムとエバは、彼が生まれる前にも多くの息子、娘をもうけていた、**モセ 5：1-3, 16-17**。神よりもサタンを愛した、**モセ 5：13, 18**。サタンと邪悪な誓いを立てた、**モセ 5：29-31**。

カウドリ、オリバー

回復された教会の第二の長老。『モルモン書』の神聖な起源と真実性を証した三人の証人の一人。ジョセフ・スミスが金版から『モルモン書』を翻訳していたときに、筆記者として働いた（ジー歴史 1：66-68）。

『モルモン書』の翻訳が真実であるとの証を受けた、**教義 6：17, 22-24**。バプテスマのヨハネによって聖任された、**教義 13 章**（教義 27：8；ジー歴史 1：68-73。71 節の付記を参照）。あなたがたは信仰を得て、自分の目でこれらのものを見た後、これらの中を見たことを証しなければならない、**教義 17：3, 5**。わたしは、あなたが記してきたものが真実であることを、度々わたしの御靈によって示してきた、**教義 18：2**。数々の啓示についての管理人となるように、選

ばれ、聖任された、**教義 70：3**。ジョセフ・スミスとともに神権の鍵を授けられた、**教義 110 章**。

顔

人の顔には、その人の靈性や精神状態が表れることがよくある。

王の顔色は変り、その心は思い悩んで乱れ、**ダニ 5：6**。

その顔は、太陽のようであった、**黙示 1：16**。

あなたがたの顔に神の面影を受けているか、**アル 5：14, 19**。アンモンは王の顔色が変わったのを見た、**アル 18：12**。

楽しげな心と表情をもって断食と祈りをする、**教義 59：14-15**。その顔は太陽の輝きに勝って光り輝いていた、**教義 110：3**。

雅歌

『旧約聖書』の中の1書。預言者ジョセフ・スミスは、雅歌は靈感によって書かれたものではないと教えた。

確信、信頼 「信仰」「信じる」「信頼」参照

何かに対して、特に神とイエス・キリストに対して、より頼むこと。

主に寄り頼むは人にたよるよりも良い、**詩篇 118：8**。主があなたの信頼する者であり、**箴言 3：26**。

キリストが現れる時に、確信を持つためである、**1ヨハ 2：28**。

邪悪なニーファイ人は子供たちの信頼を失った、**ヤコ 2：35**。

神の前においてあなたの自信は増すであろう、**教義 121：45**。

確認 「接手」参照

陰口 「悪口」参照

家族 「結婚」「子供」「父（現世の）」「母」参照

聖典で言われている家族とは、夫、妻、子供、また時にはその他の親族を含めて、同じ家に、あるいは一人の家長のもとに暮らす共同体を指す。家族という言葉は、一人の親と子供、また子供がない夫婦、独り暮らしの独身者に対して用いることもある。

一般的な聖句：地のすべてのやからは、あなたによって祝福される、創世 12:3 (創世 28:14; アブ 2:11)。わたしはイスラエルの全部族の神となり、エレ 31:1。

アダムとエバは全地の家族をもたらした、2ニフ 2:20。

その栄光とは、とこしえに子孫が続くことである、教義 132:19。わたしは彼に、永遠の世では永遠の命の冠を授けよう、教義 132:55。親子の結び固めは、時満ちる神権時代の大いなる業の一部である、教義 138:48。

わたしは、彼らを祝福して言った。「生めよ、増えよ」、モセ 2:27-28。人が独りでいるのは良くない、モセ 3:18。アダムとエバはともに働いた、モセ 5:1。

親の責任：アブラハムは子らと家族とに命じて主の道を守らせ、創世 18:17-19。努めてこれをあなたの子らに教え、申命 6:7 (申命 11:19)。子を愛する者は、つとめてこれを懲らしめる、箴言 13:24 (箴言 23:13)。子をその行くべき道に従って教えよ、箴言 22:6。あなたはその愛する妻と共に楽しく暮すがよい、伝道 9:9。あなたの子らはみな主に教をうけ、イザ 54:13 (3ニフ 22:13)。

主の薰陶と訓戒とによって、彼らを育てなさい、エペ 6:1-4 (エノ 1:1)。もしもある人が、その親族を、ことに自分の家族をかえりみない場合には、その信仰を捨てたことになる、1テモ 5:8。

父は優しい親の情を込めて勧めた、1ニフ 8:37。わたしたちはキリストのことを話し、どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせる、2ニフ 25:26。レーマン人の夫と妻は子供たちを愛している、ヤコ 3:7。互いに愛し合い、互いに仕え合うように教える、モサ 4:14-15。あなたがたは血を流しても自分たちの家族を守りなさい、アル 43:47。あなたがたの妻子が祝福を受けるように、あなたがたの家族の中で祈りなさい、3ニフ 18:21。

両親は子供に福音を教えなければならない、教義 68:25。自分の家族を扶養する義務を負っている、教義 75:28。すべての子供たちはその親に扶養を求める権利がある、教義 83:4。あなたがたの子供たちを光と真理の中で育てるよう、教義 93:40。自分自身の家を整えなければならない、教義 93:43-44, 50。神権者は偽りのない愛により、人々に影響を及ぼすべきである、教義 121:41。

アダムとエバは子供たちにすべてのことを知らせた、モセ 5:12。

子供の責任：あなたの父と母を敬え、出エ 20:12。わが子よ、あなたは父の教訓を聞き、箴言 1:8 (箴言 13:1; 23:22)。

イエスは両親にお仕えになった、ルカ 2:51。イエスは御父の御心を行われた、ヨハ 6:38 (3ニフ 27:13)。主にあって両親に従いなさい、エペ 6:1 (コロ 3:20)。

その子供たちが悔い改めるならば、あなたは憤りを解かなければならぬ、教義 98:45-48。エバの忠実な娘たちもまことの生ける神を礼拝した、教義 138:38-39。

永遠の家族：『教義と聖約』には、婚姻関係と家族の永遠性について述べられて

家族歴史

いる。日の榮えの結婚と家族単位の存続によって、夫と妻は神々になることができるのである（教義 132：15－20）。

家族歴史 「系図」「死者の救い」参照

型

人がそれに従って何らかの結果を得られる手本となるもの。通常聖典では、型は生活の仕方の模範、あるいは何かを作るためのひながたとなるものを意味する。

主はイスラエル人に、モーセに示す型に従って幕屋を造るよう命じられた、出エ 25 章。

永遠のいのちを受ける者の模範となる、1テモ 1：16。

あなたがたが欺かれないとために、わたしはすべてのことに関して規範を与えよう、教義 52：14。

割礼 「アブラハムの聖約（契約）」参照

旧約の神権時代に、イスラエルの男子に与えられたアブラハムの聖約（契約）のしるし（創世 17：10－11、23－27；JS 創世 17：11〔付録〕）。割礼では男の幼児また成人の「前の皮」を切る。割礼を受けた者は数々の特権を受けるとともに、その聖約に伴う責任をも受け入れた。聖約のしるしとしての割礼は、キリストの働きをもって廃された（モロ 8：8；教義 74：3－7）。

ガデアントンの強盗団 「秘密結社」参照

『モルモン書』の中の強盗団。ガデアントンという邪悪なニーファイ人によって作られた。彼らの組織は秘密主義と魔的な誓いを基にしていた。

ガデアントンはニーファイ人の国の滅亡をもたらした、ヒラ 2：12－13。悪魔

はガデアントンに秘密の誓いの言葉と誓約を与えた、ヒラ 6：16－32。秘密結社がヤレド人の国を滅亡させた、エテ 8：15－26。

家庭 「家族」参照

家庭は、福音と家族の活動の中心となるべき場所である。

束縛なく家にいて、そのめとった妻を慰めなければならない、申命 24：5。

イエスは彼を家に帰された、マコ 8：26。子供たちに自分の家で孝養を尽くすことを学ばせるべきである、1テモ 5：4。慎み深く、純潔で、家事に努め、テト 2：5。

自分の家に帰り、わたしが述べたことを深く考えなさい、3ニフ 17：2－3。わたしは、自分たちの妻子と家と家庭を守るために戦うように、彼らに勧めた、モル 2：23。

自分自身の家を整えなければならぬ、教義 93：43－44、48－50。

ガド（聖見者） 「聖文—失われた聖文」参照

旧約の預言者。ダビデの忠実な友であり、助言者であった（サ上 22：5；サ下 24：11－19）。彼が書いたダビデの事績の書は、失われた聖典の一つとなっている（歴上 29：29）。

ガド（ヤコブの息子） 「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとジルバの息子（創世 30：10－11）。彼の子孫はイスラエルの1部族となった。

ガドの部族：ヤコブが息子ガドに与えた祝福については、創世 49：19 を参照。モーセがガドの部族に与えた祝福については、申命 33：20－21 を参照。これらの祝福によると、ガドの子孫は好戦的な

民になるとある。彼らがカナンの地で与えられたのはヨルダン川東方の地で、水利に恵まれた、牧草地として良い土地を含んでいた。

カナン、カナン人^{びと}

『旧約聖書』の中の人物。ハムの四男(創世9:22;10:1,6)。ノアの孫。「カナン人」とは、カナンが最初に住んだ地にいた人、およびカナンの子孫を指す。パレスチナの地中海沿いの低地に住んでいた民も「カナン人」と呼ばれていた。ギリシャ人がフェニキヤ人と呼んでいた、ヨルダン川の西方の地域に住むイスラエル以外のすべての民を指して用いられたこともある。

ガブリエル 「天使」「ノア（族長）」「マリヤ（イエスの母）」参照

ダニエル（ダニ8:16;9:21）、ザカリヤ（ルカ1:11-19；教義27:7）、マリヤ（ルカ1:26-38）、その他の人々（教義128:21）に遣わされた天使。預言者ジョセフ・スマスは、ガブリエルは旧約の預言者ノアであると述べている。

ガマリエル 「パリサイ人」参照

『新約聖書』の中の人物。著名なパリサイ人でユダヤの律法に通じ、それを人々に教えていた。使徒パウロは彼の下で学んだ（使徒22:3）。ガマリエルはサンヒドリンで非常に影響力のある人物であった（使徒5:34-40）。

神、神会 「イエス・キリスト」「主」「聖霊」「天の御父」参照

神会はそれぞれ独立した御三方、すなわち、永遠の父なる神、御子イエス・キリスト、聖霊によって構成される。わたしたちはそれぞれの御方を信じている（箇条1:1）。末日の啓示は、御父と御

子は触ることのできる骨肉の体を持っておられること、また聖霊は骨肉の体を持たない靈の御方であられることを教えている（教義130:22-23）。この御三方は目的と教えにおいて完全に一致、調和し、一つであられる（ヨハ17:21-23;2ニフ31:21;3ニフ11:27,36）。

父なる神：一般に、神という称号で呼ばれている御方は、御父、すなわちエロヒムを指す。御父と呼ばれるのは、人間の靈の父親だからである（民数16:22;27:16;マラ2:10;マタ6:9;エペ4:6;ヘブ12:9）。父なる神は宇宙の至高の統治者であられる。また全能（創世18:14;アル26:35;教義19:1-3）、全知（マタ6:8;2ニフ2:24）の御方であり、御靈を通して遍在される（詩篇139:7-12;教義88:7-13,41）。人類は、他のいかなる被造物とも異なり、神と特別な関係にある。人は男女を問わず、神の靈の子供である（詩篇82:6;1ヨハ3:1-3;教義20:17-18）。

父なる神が人に御姿を現し、語りかけられたことを示す記録は少ない。聖典には、父なる神がアダムとエバに語りかけられたこと（モセ4:14-31）、また幾度かイエス・キリストを紹介されたこと（マタ3:17;17:5;ヨハ12:28-29;3ニフ11:3-7）が記録されている。父なる神は、ステパノに（使徒7:55-56）、またジョセフ・スマスに（ジー歴史1:17）、そして後にはジョセフ・スマスとシドニー・リグドンの二人に（教義76:20,23）御姿を現された。時として神は、神を愛して御前に自らを清める人に、その御姿を目にして神の実在を自ら知る特權をお与えになる（マタ5:8;3ニフ12:8;教義76:116-118;93:1）。

わが神、わが神、マコ15:34。この人々は、いと高き神の儀たちで、使徒16:17。われわれは神の子孫なのである、使徒17:28-29。

神から生まれる

いと高き方に礼拝をささげる、教義
59:10-12。

エノクは神が造られた靈たちを見た、
モセ6:36。聖なる人とは神の名である、
モセ6:57。

子なる神：エホバとして知られている神は、御子イエス・キリストである（イザ12:2;43:11;49:26;1コリ10:1-4;1テモ1:1;黙示1:8;2ニフ22:2）。イエスは御父の指示の下に働きをなし、御父と完全に一致しておられる。全人類は、イエス・キリストの弟妹である。イエス・キリストはエロヒムの靈の子供の長兄だからである。イエス・キリストに対して、神という言葉を用いている聖句も幾つかある。例えば、「神は天と地とを創造された」（創世1:1）という聖句があるが、これは実際には、父なる神の指示の下に、創造主として働かれたイエスを指している（ヨハ1:1-3,10,14;ヘブ1:1-2）。

主は御自身を「わたしは有る」と言われた、出エ3:13-16。ただわたしのみ主（エホバ）である。わたしのほかに救う者はいない、イザ43:11（イザ45:21）。

わたしは世の光である、ヨハ8:12。アブラハムの生れる前からわたしは、いるのである、ヨハ8:58。

主は土の幕屋に宿り、人々の中で御業を行われる、モサ3:5-10。アビナダイは、キリストがどのような意味で御父であり御子であるのかを説明した、モサ15:1-4（エテ3:14）。主がヤレドの兄弟に御姿を現された、エテ3章。あなたがたの贍い主、あなたがたの主、あなたがたの神であるキリストの言葉を聴きなさい、モロ8:8。エホバは生者と死者双方の永遠の裁き主である、モロ10:34。

イエスがジョセフ・スマスとシドニー・リグドンに御姿を現された、教義76:

20, 23。主エホバがカートランド神殿に御姿を現された、教義110:1-4。

エホバがアブラハムに語りかけられた、アブ1:16-19。イエスがジョセフ・スマスに御姿を現された、ジ—歴史1:17。

聖靈なる神：聖靈も神であり、聖なる御靈、御靈、神の御靈など、ほかにも様々な類似した呼び名や称号で呼ばれている。人は聖靈の助けによって、父なる神の御心を知り、またイエスがキリストであることも知ることができる（1コリ12:3）。

言うべきことは、聖靈が教えてくださる、ルカ12:12。聖靈は助け主とも呼ばれる、ヨハ14:26（ヨハ16:7-15）。イエスは使徒たちに、聖靈によって命じられた、使徒1:2。聖靈は神とキリストについて証される、使徒5:29-32（1コリ12:3）。聖靈もまた、わたしたちにあかしをして、ヘブ10:10-17。

聖靈の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう、モロ10:5。

聖靈は啓示の靈である、教義8:2-3（教義68:4）。

神から生まれる 「再び生まれる」参照

神の王国、天の王国 「イエス・キリストの教会」「日の栄え」参照

地上における神の王国は、末日聖徒イエス・キリスト教会である（教義65章）。教会の目的は、教員に日の栄えの王国すなわち天の王国で永遠に住むための備えをさせることである。しかし、聖典の中では、教会は地上における天の王国であるという意味で、教会を天の王国と呼ぶことがある。

末日聖徒イエス・キリスト教会は地上における神の王国であるが、この王国

という表現は、現在は宗務の範囲にとどまっている。しかし福音千年には、政治的にも宗務的にも、神の王国となるのである。

主はとこしえに王でいらせられる、詩篇 10：16（詩篇 11：4）。天の神は一つの国を立てられます。これはいつまでも滅びることがなく、ダニ 2：44（教義 138：44）。

悔い改めよ、天国は近づいた、マタ 3：2（マタ 4：17）。御国がきますように。みこころが地にも行われますように、マタ 6：10。まず神の国を求めなさい、マタ 6：33（ミニフ 13：33）。わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう、マタ 16：19。さあ、あなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい、マタ 25：34。わたしの父の国であなたがたと共に、新しく飲む、マタ 26：26-29。アブラハム、イサク、ヤコブすべての預言者たちが、神の国にはいっている、ルカ 13：28。正しくない者が神の国をつぐことはない、1コリ 6：9。肉と血とは神の国を継ぐことができない、1コリ 15：50。

富を求める前に神の王国を求めなさい、ヤコ 2：18。清くない者は決して天の王国を受け継ぐことができない、アル 11：37。

父の王国で彼らとともに安息を得られるように、教義 15：6。あなたがたに王国、言い換えれば、教会の鍵が授けられた、教義 42：69（教義 65：2）。神の王国が進み行きますように。それによって、天の王国が来て、教義 65：5-6。この王国の鍵があなたから取り去られることは決してない、教義 90：3。幼子のようにあなたを受け入れる者は、わたしの王国を受ける、教義 99：3。わたしの教会は、終わりの時にこのように、すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会と呼ばなければならない、教義 115：4。天がわたしたちに開かれ、わたしは神の日の栄え

の王国とその栄光を見た、教義 137：1-4。

神の奥義

神の奥義とは、啓示によってのみ知ることのできる靈的な真理である。神は福音に従順な人に奥義を示される。神の奥義の中には、まだ明らかにされていないものもある。

あなたがたには、天国の奥義を知ることが許されている、マタ 13：11。あらゆる奥義とあらゆる知識とに通じていても、もし愛がなければ、わたしは無に等しい、1コリ 13：2。

ニーファイは神の奥義を深く知った、ミニフ 1：1。神の奥義を知ることは多くの人に許されている、アル 12：9。悔い改めて信仰を働かせ、善い行いをし、絶えず祈り続ける人には、神の奥義を知ることが許され、アル 26：22。これらの奥義は、まだ全部はわたしに知られていない、アル 37：11。神御自身のほかだれも知らない隠されている奥義がたくさんある、アル 40：3。

神性の奥義は何と深いことか、教義 19：10。あなたは求めれば、数々の奥義を知ることができる、教義 42：61, 65（1コリ 2：7, 11-14）。わたしの戒めを守る者に、わたしは、わたしの王国の奥義を与えよう、教義 63：23。わたしは彼らにすべての奥義を明らかにし、教義 76：7。大神権は王国の奥義の鍵を持つ、教義 84：19。主が来るその日に、主はすべてのことを明らかにする、教義 101：32-33。メルキゼデク神権は天の王国の奥義を受ける特権を持つ、教義 107：19。

神の御子 「イエス・キリスト」「神、神会」参照

神の国 「神の王国、天の王国」参照

神の子

神の子 「神の息子、娘」「人」参照

神の小羊 「イエス・キリスト」「贖罪」
「過越」参照

救い主に対する呼び名の一つ。イエスが人類のための犠牲のささげ物であることを示している。

ほふり場にひかれて行く小羊のように、イザ 53:7 (モサ 14:7)。

見よ、世の罪を取り除く神の小羊、ヨハ 1:29 (アル 7:14)。あがない出されたのは、きずも、しみもない小羊のようなキリストの尊い血によった、1ペテ 1:18-20。ほふられた小羊こそはふさわしい、黙示 5:12。わたしたちは、小羊の血によってサタンに打ち勝つ、黙示 12:11。

この人々の衣は、小羊を信じる信仰のために小羊の血によって白くされた、1ニフ 12:11。神の小羊が永遠の御父の御子であって、世の救い主であられる、1ニフ 13:40 (1ニフ 11:21)。小羊の血によって清められるように、イエスの名によって熱烈に御父に叫び求めなさい、モル 9:6 (黙示 7:14; アル 34:36)。

小羊は世の初めからほふられている、モセ 7:47。

神の息子、娘 「生まれる、産む、もうける」「キリストの子」「贖罪」「人」「再び生まれる」参照

この言葉は、聖典の中では二つの意味で用いられている。一つは、人は皆文字どおり天の御父の靈の子供であるという意味であり、もう一つは、キリストの贖罪を通して再び生まれた人を神の息子、娘という場合である。

御父の靈の子：あなたがたは神だ、あなたがたは皆いと高き者の子だ、詩篇 82:6。

われわれは神の子孫なのである、使徒 17:29。たましいの父に服従し、ヘブ 12:9。

わたしは神の子だ、モセ 1:13。

贖罪を通して再び生まれた子供：彼を受けいれた者には、彼は神の子となる力を与えた、ヨハ 1:12 (ロマ 8:14; 3ニフ 9:17; 教義 11:30)。わたしたちは今や神の子である、1ヨハ 3:1-2。

あなたがたはキリストの子と呼ばれ、キリストの息子および娘と呼ばれる、モサ 5:7。人は神から生まれ、神の息子や娘にならなければならない、モサ 27:25。これらの者はわたしの息子となり、娘となる、エテ 3:14。あなたがたは必ずキリストの子となる、モロ 7:19。

わたしの福音を受け入れる者は皆、息子であり、娘だからである、教義 25:1。彼らは神々、すなわち神の子である、教義 76:58。

このようにして、すべての者はわたしの子となることができる、モセ 6:68。多くの者は信じて神の子となり、モセ 7:1。

カヤパ 「アンナス」「サドカイ人」参照

『新約聖書』の中の人物。アンナスの義理の息子で大祭司。カヤパはイエスとその弟子たちに対立する立場を取り、そのため積極的な働きをした (マタ 26:3-4; ヨハ 11:47-51; 18:13-14)。

からし種

からしの木の種。種は非常に小さいが、それから生長する木の丈は非常に高くなる。イエスは天の王国をからし種にたとえられた (マタ 13:31)。

からし種一粒ほどの信仰があるなら、マタ 17:20。

死 「死（肉体の）」「死すべき状態」

「人（靈を持つ存在としての）」「復活」
参照

神の形に創造された死すべき骨肉の組織物。靈と結びつき、生ける人間を作り上げている。復活の時に、男女を問わず人の肉体は、再び靈と永遠に結合する。時として聖文は、結合した肉体と靈を命あるものと述べている（創世2:7；教義88:15；モセ3:7, 9, 19；アブ5:7）。

主なる神は土のちりで人を造り、創世2:7（モセ3:7）。

さわって見なさい。靈には肉や骨はない、ルカ24:39。自分のからだを打ちたたいて服従させるのである、1コリ9:27。肉のからだがあるのであるから、靈のからだもあるわけである、1コリ15:44。靈魂のないからだは死んだものである、新ヤコ2:26。

死すべき体は不死不滅の体によみがえる、アル11:43-45。体のあらゆる部分が体そのものに回復される、アル41:2。イエスは復活した御自分の体をニーファイ人に示された、3ニフ10:18-19；11:13-15。

御父は人間の体と同じように触れるとのできる骨肉の体を持っておられる。御子も同様である、教義130:22。

神は彼らを、御自分の体の形に、男と女に創造された、モセ6:9（創世9:6）。

ガラテヤ人への手紙 「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の1書。もともとは使徒パウロがガラテヤ一帯の聖徒に書き送った手紙であった。この手紙の主題は、眞の自由はイエス・キリストの福音に従って生活することによってのみ得られるというものである。もし聖徒たちがモーセの律法の遵守を主張するユダヤ主義的キリスト教徒の教えを取り入れるならば、すでにキリストの中に見いだして

いた自由を狭めるか、あるいは失ってしまうことになる。パウロはこの手紙の中で、使徒としての自分の立場を明確にし、信仰による義の教えを説き、靈的な教えの価値を断言している。

パウロは第1-2章で、ガラテヤ人の間に背教が起こっているという知らせに對して遺憾の意を表し、使徒の中における自分の立場を明らかにしている。第3-4章では、信仰と行いについての教義を論じている。第5-6章には、信仰についての教義から実際にどのような成果を得られるかが述べられている。

刈り入れ

この言葉は聖典の中で、地上における神の王国である教会に人々を導くこと、あるいはイエス・キリストの再臨などの裁きの時を指して、象徴的に用いられることがある。

刈入れの時は過ぎ、夏もはや終った、しかしけわれわれはまだ救われない、エレ8:20（教義56:16）。

収穫は多いが、働き人が少ない、マタ9:37。収穫とは世の終りのことである、マタ13:39。人は自分のまいたものを、刈り取ることになる、ガラ6:7-9（教義6:33）。

畑はすでに白くなり刈り入れを待っている、教義4:4。刈り入れが終わり、あなたがたが救われない、教義45:2。刈り入れの時は来ており、わたしの言葉は必ず成就する、教義101:64。

ガリラヤ

ヨルダン川とガリラヤの海の西に当たるイスラエル最北の地。ガリラヤは、南北約95km、東西約50kmの広がりを持つ地域である。古代のガリラヤには、イスラエルで最も肥沃な土地と繁華な町が含まれていた。また、ダマスコ、エジプ

ト、イスラエル東部へ続く要路がガリラヤを通過していた。恵まれた気候と肥沃な土壤で、オリーブ、小麦、大麦、ぶどうを多く産した。ガリラヤの海での漁獲は多大な輸出をもたらし、人々はそれから多くの富を得た。救い主はその生涯多くをガリラヤで過ごされた。

ガリラヤに大いなる光が現れる、イザ 9：1-3（2ニフ 19：1-3）。

イエスはガリラヤの全地を巡り歩いて、教え、宣べ伝え、わずらいをおいやしになった、マタ 4：23。イエスは復活後、ガリラヤで人々に御姿を現された、マコ 14：28（ヨハ 21：1-14）。イエスの名声はガリラヤの地方全体に広まった、ルカ 4：14。イエスは最初のしるしをガリラヤのカナで行われた、ヨハ 2：11。

ガリラヤの海：ガリラヤの海は北部イスラエルに位置している。『旧約聖書』ではキンネレテの海、『新約聖書』ではゲネサレ湖、テベリヤの海とも呼ばれている。イエスは幾度かここで教えを説かれた（マタ 13：2）。この海は西洋梨の形をしており、南北 20km、東西の幅は最も広い所で 12km ある。海面は地中海よりも 200m 余り低く、そのために周辺の気温が非常に高くなることがよくある。丘陵部から吹き下りる冷気が湖面上の暖気とぶつかり、突然の嵐となることが多い（ルカ 8：22-24）。

カルバリ 「ゴルゴタ」参照

カレブ

エジプトを出てから 2 年目に、カナンの地を探るためにモーセによって遣わされた者の一人。カレブとヨシュアだけがカナンの地について真実の報告をした（民数 13：6, 30；14：6-38）。エジプトを出た者のうち、荒れ野での 40 年を生き延びて（民数 26：65；32：12；申命 1：

36）カナンに入ったのはこの二人だけであった（ヨシ 14：6-14；15：13-19）。

軽んじる 「憎しみ、憎む」参照

姦淫 「純潔」「性的不道徳」「同性愛行為」「肉欲」「不貞」参照

男女の不法な性の交わり。姦淫という言葉は、一般には既婚者が配偶者以外の者と性の交わりを持つことを指すが、聖典では、未婚者についてもこの言葉が用いられる。

姦淫という言葉は時として、一つの国家や民全体が主の道から背き去ることの象徴として用いられる（民数 25：1-3；エレ 3：6-10；エゼ 16：15-59；ホセ 4 章）。

ヨセフはこの大きな悪を行わず、神に対して罪を犯さなかった、創世 39：7-12。あなたは姦淫してはならない、出エ 20：14。

情欲をいたいで女を見る者は、心の中すでに姦淫をしたのである、マタ 5：28。不品行な者や姦淫をする者は、神の王国を受け継ぐことはない、1コリ 6：9-10。神は、不品行な者や姦淫をする者をさばかれる、ヘブ 13：4。

姦淫の罪は、罪のない者の血を流すことや聖霊を否定することを除いて、どのような罪よりも非常に忌まわしい行為である、アル 39：3-5。

姦淫をして悔い改めない者は、追い出されなければならない、教義 42：23-26。心の中で姦淫をするならば、彼らは御靈を持たなくなる、教義 63：14-16。

勧告、勧め 「預言者」参照

主や聖任を受けた指導者から与えられる助言、警告、忠告、指示。

わたしはあなたに助言する、出エ 18：19。あなたはさとしをもってわたしを導き、詩篇 73：24。勧告がなければ民は

倒れる、KJ 箴言 11：14。

パリサイ人と律法学者たちとは、神のみこころを無にした、ルカ 7：30。

神の勧告に聞き従うならば、学識のあるのはよいことである、2ニフ 9：29。

あなたがたを聖任した者の勧告を聴きなさい、教義 78：2。わたしが任命した者から助言を受け、教義 108：1。彼はわたしが定めた助言の代わりに、自分の助言を確立しようと切望している、^{しもべ}教義 124：84。わたしの僕ジョセフの助言に聞き従い、教義 124：89。わたしの勧告を求めなければ、彼は何の力も持たず、教義 136：19。

勧告する、勧める

この言葉は聖典で用いられているように、助言や指示を与えることを意味している。

あなたに勧める。わたくしら火で精錬された金を買いなさい、黙示 3：18。

主に助言しようとしている。ヤコ 4：10。神は御自分が造られたすべてのものに知恵をもって助言を与えられる、アル 37：12。

あなたがたの罪はわたしのもとに上ってきてている。あなたがたが自分の方法で勧めをしようとするからである、教義 56：14。

感謝 「祝福」「礼拝」参照

神から受けた祝福をありがたいと思うこと。神は人が感謝を表すことを喜ばれる。真の礼拝には神への感謝が含まれる。わたしたちはすべてのことについて主に感謝をしなければならない。

主に感謝するのはよいことです、詩篇 92：1。感謝をもって、み前に行き、詩篇 95：1-2。主に感謝し、そのみ名をほめまつれ、詩篇 100 篇。

絶えず感謝している、エペ 1：15-

16。感謝していなさい、コロ 3：15。さんび、栄光、感謝、ほまれが、われらの神にあるように、黙示 7：12。

あなたがたはどれほど天の王に感謝すべきであろうか、モサ 2：19-21。日々感謝しながら生活するように、アル 34：38。朝起きるときに、神への感謝で心を満たしなさい、アル 37：37。

祈りと感謝をもってすべてのことを行い、教義 46：7。あなたがたは神に感謝をしなければならない、教義 46：32。感謝してこれらのことを行うならば、教義 59：15-21。感謝の心をもって主の手からこの祝福を受ける、教義 62：7。すべてのことを感謝して受け入れる者は、栄光を与えられるであろう、教義 78：19。すべてのことについて感謝しなさい、教義 98：1 (1テサ 5：18)。賛美と感謝の祈りをもって主をほめたたえなさい、教義 136：28。

感じる 「聖霊」 参照

^{みなま}御靈の促しを自覚すること。

あなたがたは心が鈍っていたので、その言葉を感じることができませんでした、1ニフ 17：45。種がふくらみつつあるのを感じると、これは良い種であると思う、アル 32：28。

あなたはそれが正しいと感じるであろう、教義 9:8。主の宮の敷居を越えて入ってくるすべての者が、あなたの力を感じ、教義 109：13。

完全

完成されて欠点がなく、余すところなく成長し、義においても非の打ちどころがないこと。また完全とは、罪や惡のないことも意味する。すべての面で完全であられたのはキリストだけである。キリストに心から従う人々は、キリストの恵みと贖罪によって完全になることができる。

冠

主に対して、心は全く真実でなければならぬ、**列上 8：61。**

あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい、**マタ 5：48**（**3 ニフ 12：48**）。言葉の上であやまちのない人があれば、そういう人は、完全な人である、**新ヤコ 3：2。**

信仰とは物事を完全に知ることではない、**アル 32：21, 26。**神は御自分が完全な神であり続けるために、頼いをされる、**アル 42：15。**モロナイは完全な理解力を備えた人であり、**アル 48：11-13, 17-18。**善惡の違いは、完全に理解してわきまえることができる。すべての人にキリストの御靈が与えられているからである、**モロ 7：15-17。**キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい、**モロ 10：32。**

完全になるまで忍耐し続けなさい、**教義 67：13。**これらは、イエスを通じて完全な者とされた正しい人々である、**教義 76：69。**教会の職は聖徒たちの完成のためにある、**教義 124：143**（**エペ 4：11-13**）。死者なしには、生者も完全な者とされることはない、**教義 128：15, 18。**

ノアは正しい人であり、その時代の人々の中で完全であった、**モセ 8：27。**

冠 「永遠の命」参照

統治者が頭にかぶった環状の装身具。冠は日の栄えの力と主権と神の位にあることの象徴ともされる。神の戒めをすべて守って最後まで堪え忍ぶ者は、永遠の命の冠を受ける（**教義 20：14；モセ 7：56；ジーマタ 1：1 参照**）。

義の冠がわたしを待っている、**2 テモ 4：8。**しほむことのない栄光の冠を受けるであろう、**1 ペテ 5：4。**

主にあって死んだ者は義の冠を受ける、**教義 29：13。**彼らは父の住まいでの冠を受けるであろう、**教義 59：2。**あな

たがたが備えられた冠を受け、**教義 78：15。**わたしの右手における栄光の冠をあなたがたに約束した、**教義 104：7。**

管理人、管理人の職 「召し、神の召し」 参照

託された仕事や財産に対して責任を負う人。管理人に託されたものを管理人の職という。地上のものはすべて主のものであり、わたしたちは主の管理人である。わたしたちは主に報告をする責任があるが、管理人の職についての報告は、神から権能を受けている代表者に対して行うことができる。わたしたちは主や主より権能を与えられた僕から奉仕の召しを受けるが、その管理人の職には、靈的なことと物質的なことの両方が含まれる（**教義 29：34。**）。

わずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう、**マタ 25：14-23。**多く与えられた者からは多く求められ、**ルカ 12：48**（**教義 82：3**）。イエスは不正な家令のたとえを話された、**ルカ 16：1-8。**

だれでも忠実で、正しく、賢い管理人であると認められる者は、主の喜びに入り、**教義 51：19。**人は皆、管理人の職について報告しなければならない、**教義 72：3-5。**忠実で賢い管理人は、すべてのものを受け継ぐ、**教義 78：22。**この世のものもろもろの祝福に対する管理人としての責任をすべての人に取らせる、**教義 104：11-17**（**教義 42：32**）。努めて、賢い管理人となるようにしなければならない、**教義 136：27。**

管理ビショップ

中央幹部の中に数えられる役職の一つ。管理ビショップは教会の物質面での福祉に対して全般的な責任を持つ（**教義 107：68**）。管理ビショップとその顧問は

ともに中央幹部であり、教会のアロン神権を管理する（教義 68：16－17；107：76，87－88）。

エドワード・パートリッジがビショップに聖任された、教義 41：9。ビショップは大管長会によって召され、任命されなければならない、教義 68：14－15。アロンの直系の子孫であり長子である者は、大管長会から召され任命された場合、ビショップの職に就く権利を持つ、教義 68：16，18－20。大管長会の前でのみ審理を受けることができる、教義 68：22－24（教義 107：82）。

義 「歩む（神とともに）」「戒め（神の）」「高潔」「不義」「ふさわしさ」参照

正しく、聖く、徳高く、高潔あること。神の戒めに従って行動すること。罪を避けること。

主は正しい者を祝福し、詩篇 5：12。主の目は正しい人をかえりみ、詩篇 34：15，17（1ペテ 3：12）。正しい者が権力を得れば民は喜び、箴言 29：2（教義 98：9－10）。

義に飢えかわいでいる人たちは、さいわいである、マタ 5：6（3ニフ 12：6）。まず神の国と神の義とを求めなさい、マタ 6：33。正しい者は永遠の生命に入るであろう、マタ 25：46。義人の祈は、大いに力があり、新ヤコ 5：16。

義にかなった者は神から恵みを受けます、1ニフ 17：35。神は義人を守られる。したがって、義人は恐れるには及ばない、1ニフ 22：17，22。聖者の民の義のために、サタンはまったく力を持たず、1ニフ 22：26。もし義がなければ、幸福はない、2ニフ 2：13。義人は神の王国を受け継ぐ、2ニフ 9：18。義人は真理の言葉を恐れない、2ニフ 9：40。人は義の状態に変わらなければならない、モサ 27：25－26。義人の名は命の書に書

き記される、アル 5：58。あなたがたは、罪悪を行なながら幸福を求めてきた。それは義の本質に反することである、ヒラ 13：38。

義人の歌はわたしへの祈りである、教義 25：12。立って、正義の胸当てを着け、教義 27：16（エペ 6：14）。義人にとつて死は甘い、教義 42：46。義人はすべての國の中から集められ、教義 45：71。人は自由意志によって、義にかなう多くのことを成し遂げなければならない、教義 58：27。義の業を行なう者はその報いを受ける、すなわち、この世において平和を、また来るべき世において永遠の命を受ける、教義 59：23。再臨の時に、義人と悪人の完全な分離がある、教義 63：54。天の力は義の原則に従つてしま制御できない、教義 121：36。義人の間には平安があった、教義 138：22。

シオンの民は義のうちに住んだ、モセ 7：18。アブラハムは義に従う者であった、アブ 1：2。

聞き従う、聴く「従順、従う」「耳」参照

主の声や教えを聞き、それに従うこと。

主はモーセのような預言者を起こさる。民は彼に聞き従わなければならない、申命 18：15。聞くことは雄羊の脂肪にまさる、サ上 15：20－23。われわれはしもべなる預言者たちが告げた言葉に聞き従いませんでした、ダニ 9：6。

預言者たちの言葉に聞き従う義人は、減びを受けない、2ニフ 26：8。もしあなたがたがその良い羊飼いの声を聴こうとしないならば、あなたがたはその良い羊飼いの羊ではない、アル 5：38（ヒラ 7：18）。

聴きなさい、おお、わたしの教会の人々よ、教義 1：1。御靈の声を聞くすべての人は、神のもとに来る、教義 84：46－47。彼らは主の声に聞き従うのが遅

儀式

かった。それゆえ、主なる神は、彼らの祈りを聴くのを遅くする、**教義 101:7-9。** 戒めに聞き従わない者は懲らしめを受ける、**教義 103:4** (モセ 4:4)。

儀式 「系図」「神殿、主の宮」「救い」「結び固め」「死者の救い」参照

神聖な儀礼や祭式。儀式は、靈的な意味を持つ所作を通して執行される。

教会の儀式には、病人への癒しの祝福(新ヤコ 5:14-15)、聖餐の祝福(教義 20:77, 79)、水に沈めるバプテスマ(マタ 3:16; 教義 20:72-74)、幼児の祝福(教義 20:70)、聖霊の授与(教義 20:68; 33:15)、神権の授与(教義 84:6-16; 107:41-52)、神殿の儀式(教義 124:39)、新しくかつ永遠の聖約による結婚(教義 132:19-20)が含まれる。

民は神の儀式を厳密に守った、アル 30:3。

キリストの贖罪により、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得る、**箇条 1:3。**

身代わりの儀式：生者が死者の身代わりとして行う儀式。これらの儀式は、死者がその儀式を受け入れ、それに伴う聖約を守り、約束の聖なる御靈によって結び固められたときにのみ効力を生ずる。今日、このような身代わりの儀式は神殿内で執行されている。

もし死者が全くよみがえらないとすれば、なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか、**1コリ 15:29。**

死者のためのバプテスマは神殿で執行される、**教義 124:29-36。** 靈界の靈たちは、罪の赦しのための身代わりのバプテスマについて教えを受けた、**教義 138:29-34。**

キシクメン 「ガデアントンの強盗団」参照

『モルモン書』の中の人物。後にガデアントンの強盗として知られた邪悪なグループの指導者(ヒラ 1:9-12; 2章)。

犠牲 「イエス・キリスト」「打ち碎かれた心」「贖罪」「聖餐」「血」参照

古代において、犠牲は何かの物あるいは人を聖なるものとする手段であった。今は、主と主の王国のために、この世的なものを捨てたり、甘んじてそれらを失うまにしたりすることをいうようになった。主の教会の会員は、主のためにすべてのものを進んで犠牲にしなければならない。ジョセフ・スミスは次のように教えている。「すべてのものを犠牲にすることを求める宗教は、命と救いに至るに必要な信仰を生み出すほど、十分な力を決して持つことはない。」永遠という観点に立てば、犠牲によって得られる祝福は、そのためにささげたどのよくなものよりも偉大である。

アダムとエバがエデンの園を追われた後、主は二人に犠牲の律法を授けられた。この律法には、群れの初子をささげることが含まれていた。この犠牲は神の独り子によってささげられる犠牲を象徴していた(モセ 5:4-8)。この犠牲はイエス・キリストが亡くなるまで続き、その死によって福音の儀式として動物を犠牲にすることは終わりを告げた(アル 34:13-14)。今日の教会では、教員は、イエス・キリストの犠牲を記念してパンと水の聖餐を受ける。また今日のキリストの教会の会員は、打ち碎かれた心と悔いる靈をささげるよう求められている(3ニフ 9:19-22)。つまり、へりくだって、悔い改め、進んで神の戒めに従うように求められているのである。

アブラハムはその子イサクを縛って祭壇の上に載せた、**創世 22:1-18**(ヤコ 4:5)。あなたは燔祭をささげなければならぬ、**出エ 20:24。** 主に犠牲としてさ

さげる動物は傷のないものでなければならない、申命 15：19-21。従うことは犠牲にまさり、サ上 15：22。

愛するということは、すべての燔祭や犠牲よりも、はるかに大事なことです、マコ 12：32-33。わたしたちはキリストの犠牲を通して聖められる、ヘブ 10：10-14。

メシヤは、罪に対する犠牲として御自身をささげられる、2ニフ 2：6-7。この大いなる最後の犠牲となるのが神の御子であるので、これは無限にして永遠の犠牲である、アル 34：8-14。燔祭は取りやめなさい。打ち碎かれた心と悔いる靈を、犠牲としてわたしにささげなさい、3ニフ 9：19-20（詩篇 51：16-17；教義 59：8）。

今日は犠牲の日であり、教義 64：23（教義 97：12）。犠牲を払って自分の聖約を進んで守ろうとするすべての者は、わたしに受け入れられる、教義 97：8。ジョセフ・F・スミスは、救い主の犠牲のひながたとして犠牲をささげた正しい者の靈を見た、教義 138：13。神の御子の十字架上での犠牲によって贖いが行われた、教義 138：35。

奇跡 「しるし」「信仰」参照

神の力によって起こる驚くべき出来事。奇跡はイエス・キリストの業の中の大重要な要素である。奇跡には、いや死の蘇生、復活などが含まれる。奇跡はイエス・キリストの福音の一部である。奇跡が現れるためには、信仰が必要である（マコ 6：5-6；モル 9：10-20；エテ 12：12）。

パロがあなたがたに、「不思議をおこなって証拠を示せ」と言う時、出エ 7：9。

だれでもわたしの名で力あるわざを行なながら、すぐそのあとで、わたしをそしることはできない、マコ 9：39。カナ

はイエスが最初のしるしを行われた場所である、ヨハ 2：11。

わたしは神である。奇跡の神である、2ニフ 27：23。数々の奇跡を行われた神の力、アル 23：6。イエスは、アメリカ大陸の人々の深い信仰のゆえに、彼らに大きな奇跡を示された、3ニフ 19：35。神は奇跡の神であることをやめてはおられない、モル 9：15。

わたしがあなたがたに命じないかぎり、奇跡を求めてはならない、教義 24：13-14。ある人には、奇跡の働きが与えられる、教義 46：21（モロ 10：12）。

偽善売教

利益や世の誉れを得るために、説教をしたり、世の光であると自称したりすること。このような人は、シオンの幸いとなることを求めようとはしない（2ニフ 26：29）。

神の羊の群れを牧しなさい。恥ずべき利得のためではなく、1ペテ 5：2。

利を得るために設けられるすべての教会は、地に引き倒されなければならない、1ニフ 22：23（モル 8：32-41）。人々は、偽善売教と罪惡のために、キリストを十字架につける、2ニフ 10：5。民の中で偽善売教が行われれば、民は完全に滅びてしまうであろう、アル 1：12。異邦人はあらゆる偽善売教にふける、3ニフ 16：10。

ギデオン（旧約聖書）

イスラエルをミデアン人から救い出した指導者（士師 6：11-40；7-8章）。

ギデオン（モルモン書）

忠実なニーファイ人の指導者。

屈強な男で、ノア王を敵としていた、モサ 19：4-8。リムハイ王に助言した、モサ 20：17-22。レーマン人の束縛か

義認、義とされる

ら逃れるための計画を提案した、モサ 22:3-9。ニーホルに殺された、アル 1:8-10。

義認、義とされる 「聖め」「贖罪」
参照

罪に対する罰を容赦され、罪がないと認められること。人は救い主を信じる信仰を通して、救い主の恵みにより義とされる。この信仰は、悔い改めと、福音の律法と儀式に対する従順によって示される。人はイエス・キリストの贖罪によって、悔い改めて義と認められ、罰を免れる。ほかに、罰を免れる道はない。

イスラエルの子孫は皆主によって勝ち誇ることができる、イザ 45:25。

律法を聞く者が、神の前に義なるものではなく、律法を行う者が、義とされる、ロマ 2:13。人はキリストの血によって義とされる、ロマ 5:1-2, 9。あなたがたは、主イエスの名によって、義とされたのである、1コリ 6:11。わたしたちは、キリストの恵みによって義とされる、テト 3:7。わたしたちの父祖アブラハムは、行いによって義とされたのではないか、新ヤコ 2:21。人が義とされるのは、行いによるのであって、信仰だけによるのではない、新ヤコ 2:14-26。

律法によって義とされる者はだれもいない、2ニフ 2:5。わたしの義にかなった僕は多くの者を義とするが、それは、彼が彼らの罪悪を身に負うからである、モサ 14:11（イザ 53:11）。あなたがたは、自分の衣はキリストの血によって清められていると言えるであろうか、アル 5:27。

イエス・キリストの恵みによる義認は、正しく、かつ真実である、教義 20:30-31（教義 88:39）。

御靈によって義とされ、モセ 6:60。

希望 「信仰」参照

約束された義の祝福を固い確信をもって待ち望むこと。聖典では、イエス・キリストを信じる信仰により永遠の命を待ち望むこととして、この言葉がしばしば用いられている。

主を頼みとする人はさいわいである、エレ 17:7。

聖書の与える忍耐と慰めとによって、望みをいだかせる、ロマ 15:4。わたしたちを新たに生れさせて生ける望みをいだかせ、1ペテ 1:3。この望みをいだいている者は皆、自らをきよくする、1ヨハ 3:2-3。

完全な希望の輝きを持ち、力強く進まなければならない、2ニフ 31:20。あなたがたは信仰と希望、慈愛を必ず持つようにしてほしい、アル 7:24（1コリ 13:13；モロ 10:20）。永遠の命を得る希望を抱き、アル 13:27-29。もし信仰があれば、あなたがたはまだ見ていない真実のことを持ち望むのである、アル 32:21（ヘブ 11:1）。望みは信仰から生じ、人々にとって錨となる、エテ 12:4（ヘブ 6:17-19）。人は希望を持たなければなりません。さもなければ、受け継ぎを得ることができません、エテ 12:32。モルモンは信仰と希望と慈愛について述べた、モロ 7:1。あなたがたは、キリストの贖罪とキリストの復活の力によって永遠の命によみがえることを望まなければならない、モロ 7:40-43。聖靈は希望を人の心に満たす、モロ 8:26（ロマ 15:13）。

栄光ある復活の望みを確固として持つて死すべき世を去った、教義 138:14。

義務 「従順、従う」参照

聖典の中ではしばしば、主や主の僕から与えられる仕事、割り当て、責任などを意味する言葉として用いられている。

神の命令を守れ。これはすべての人の本分である。伝道 12:13。主のあなたに求められることは、ただ公義をおこない、ミカ 6:8。

人間に従うよりは、神に従うべきである。使徒 5:29。

彼らは、自分たちの義務を思い出すように促すひどい艱難に悩まされた、モサ 1:17。

長老と祭司、教師、執事の義務が述べられる、教義 20:38-67。神権者は家庭におけるすべての義務を果たすようにしなければならない、教義 20:47, 51。バプテスマを受けた後の会員の義務が述べられる、教義 20:68-69。彼らの義務とわたしがその手に求めるに関してもっと十分に知るためである、教義 105:9-10。人は皆、自分の義務を学び、教義 107:99-100。

逆境 「懲らしめ」「堪え忍ぶ」「迫害」「誘惑」参照

人は試練、困苦、悲しみなどの逆境を通して多くの経験をし、そのことによって主に心を向け、靈的成長と永遠の進歩を遂げる。

神御自身があなたがたをすべての悩みと苦しみの中から救われる、サ上 10:19。彼らはその悩みのうちに主に呼ばわった、詩篇 107:6, 13, 19, 28。主はあなたがたに悩みのパンと苦しみの水を与えられても、あなたの師は再び隠れることはなく、イザ 30:20-21。

すべての事物には反対のものがなければならない、2ニフ 2:11。

苦いことを経験しなければ、甘いことを知ることができない、教義 29:39。あなたの逆境とあなたの苦難は、つかの間にすぎない、教義 121:7-8。これらのこととはすべて、あなたに経験を与える、あなたの益となるであろう、教義 122:

5-8。

彼らは善を尊ぶことを知るために、苦さを味わう、モセ 6:55。

旧約聖書 「五書」「聖書」「聖文」参照

聖なる御靈の力を受けて働き、幾世紀にもわたってキリストとその来るべき務めについて証した古代の預言者たちの記録。これには、アブラハムから始まる、彼とその子孫の歴史記録、および主がアブラハムやその子孫と交わされた聖約、すなわち契約も含まれている。

『旧約聖書』の最初の5書、すなわち創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記は、モーセによって書かれた。創世記は、地球や人類、言語、民族の起源、またイスラエルの家の始まりについて述べている。

歴史書は、イスラエルの中で起きた様々な出来事について述べたものである。歴史書には、ヨシュア記、士師記、ルツ記、サムエル記上・下、列王紀上・下、歴代志上・下、エズラ記、ネヘミヤ記、エステル記が含まれる。

詩歌には、預言者たちの知恵と文学が記録されている。その中にはヨブ記、詩篇、箴言、伝道の書、雅歌、哀歌が含まれる。

預言者たちはイスラエルの罪に対して警告を与え、また従順がもたらす祝福について証した。また預言者たちは、罪を悔い改めて儀式を受け、福音に従う人々を贖ってくださるキリストの来臨についても預言した。預言書には、イザヤ書、エレミヤ書、エゼキエル書、ダニエル書、ホセア書、ヨエル書、アモス書、オバデヤ書、ヨナ書、ミカ書、ナホム書、ハバクク書、ゼバニヤ書、ハガイ書、ゼカリヤ書、マラキ書が含まれる。

『旧約聖書』のほとんどの書はヘブライ語で書かれた。ヘブライ語と同族のアラム語で書かれた部分もある。

キュビト

キュビト

ヘブライ人が一般に用いた長さの単位。もともとは、肘から手の指先までの長さをいった。

聖い 「清さ」「聖さ」「聖く」「聖め」参照

神聖なこと。神の御心にかなった性質。靈的また道德的に汚れのないこと。この言葉の反対は、俗惡、卑俗である。

あなたがたはわたしに対して祭司の國となり、また聖なる民となるであろう、**出エ 19:5-6** (1ペテ 2:9)。わたしは聖なる者であるから、あなたがたは聖なる者とならなければならない、**レビ 11:44-45**。聖所に立つべき者はだれか。手が清く、心のいさぎよい者、**詩篇 24:3-4**。わが民に、聖と俗との区別を教え、**エゼ 44:23**。

神はわたしたちを救い、聖なる招きをもって召して下さった、**2テモ 1:8-9**。幼い時から、聖書に親しみ、**2テモ 3:15**。人々が聖靈に感じ、神によって語つたもの、**2ペテ 1:21**。

人は皆、神の内にある真理と聖さによって裁かれる、**2ニフ 2:10**。主なるキリストの贖罪により、生まれながらの人を捨てて聖徒となり、**モサ 3:19**。神の聖なる位に従つて歩めるように、**アル 7:22** (**アル 13:11-12**)。肉にあって聖められ、聖なる者となり、**3ニフ 28:1-9**、**36-39**。

神聖なものを軽んじないようにしなさい、**教義 6:12**。あなたはわたしから与えられなければ、神聖なことを書くことはできない、**教義 9:9**。あなたがたは、聖さを尽くして行動する義務を自ら負わなければならない、**教義 43:9**。わたしの弟子たちは聖なる場所に立ち、**教義 45:32**。上から来るものは神聖であり、**教義 63:64**。幼い子供たちは聖い者である、**教義 74:7**。その場所を聖別して、

聖なる所としよう、**教義 124:44**。

主は聖なる都に選民を集められる、**モセ 7:62**。

清いものと清くないもの 「清さ」「汚れ」「モーセの律法」参照

『旧約聖書』の中で、主はモーセと古代のイスラエル人に対して、ある種の食べ物のみが清いものと見なされる、言い換れば、食べるのに適しているという啓示を与えられた。イスラエル人が行った清いもの、清くないものという食物の区別は、彼らの宗教生活や社会生活に大きな影響を与えた。ある種の動物、鳥、魚は清いので食べてもよいとされたが、汚れているということで食べるのを禁じられたものもあった（**レビ 11章**；**申命 14:3-20**）。ある種の病気にかかった人も、汚れていると考えられていた。

靈的な意味での清い状態とは、罪や罪深い欲望と無縁の状態をいう。この意味において清いという言葉は、高潔で清らかな心の人を指すのに用いられる（**詩篇 24:4**）。神の聖約（契約）の民は、清くあるようにとの特別な教えをいつも授けられてきた（**3ニフ 20:41**；**教義 38:42**；**133:5**）。

手が清く、心のいさぎよい者は主の山に登る、**詩篇 24:3-5**。

どんな人間をも清くないとか、汚れているとか言ってはならない、**使徒 10:11-28**。

あなたがたはその日、純真な心と清い手をもって神を仰ぎ見ることができるか、**アル 5:19**。

主は清くなるまでシオンを懲らしめる、**教義 90:36**。主の器を担う者たちよ、清くありなさい、**教義 133:4-5**、**14** (**イザ 52:11**)。

教会（イエス・キリストの） 「イエス・キリストの教会」参照

教会（大きな忌まわしい）「悪魔—悪魔の教会」 参照

教会の名称 「イエス・キリストの教会」「末日聖徒イエス・キリスト教会」「モルモン」 参照

『モルモン書』によると、イエス・キリストは復活後間もなく義にかなったニーファイ人を訪れ、キリストの教会には、キリストの名を付けなければならぬと言われた（3ニフ27：3-8）。近代において主は、この教会の名を「末日聖徒イエス・キリスト教会」とするようにとの啓示を与えられた（教義115：4）。

教義と聖約 「戒めの書」「スマス、ジョセフ、ジュニア」「正典」「聖文」 参照

末日における神の啓示と靈感による宣言を集めた書。主はそれらを、終わりの時に神の王国を地上に設立し治めるために、ジョセフ・スマスとその継承者たちに与えられた。『教義と聖約』は、『聖書』『モルモン書』『高価な真珠』とともに、末日聖徒イエス・キリスト教会の標準聖典の一つに数えられている。しかし、昔の記録の翻訳ではないという点で、『教義と聖約』は特異な聖典である。主は神の王国を回復するために、近代の選ばれた預言者たちに啓示を与えられたのである。これらの啓示を読む人には、主イエス・キリストの優しい、それでいて確固とした声が聞こえてくる（教義18：35-36）。

『教義と聖約』は終わりの時における教会の基であり、世に益をもたらすものであると、ジョセフ・スマスの歴史に述べられている（教義70章の前書き）。『教義と聖約』に含まれる啓示は、世界が始まって以来預言者たちによって語られたすべての言葉を成就するものとして、主の再臨に道を備える業を開始するものとなつた。

教師（アロン神権の）「アロン神権」 参照

アロン神権の中の一つの職。

教師の義務は教員を見守ることである、教義20：53-60。教師の職は、小神権に属する、なくてはならない付属の職である、教義84：30, 111。教師定員会会长は24人の教師を管理する、教義107：86。

兄弟 「女」「姉妹」「人」 参照

天の御父の子供として、すべての人は男女を問わず、靈的な意味で兄弟姉妹である。末日聖徒イエス・キリスト教会では、男性の会員や教会に好意的な男性を兄弟と呼ぶことがよくある。

あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい、ルカ22：32。兄弟を愛さない者は、死のうちにとどまっている、1ヨハ3：10-17。

同胞を自分自身のように思いなさい、ヤコ2：17。

それぞれ自分の兄弟を自分自身のように尊ぶようにしなさい、教義38：24-25。あなたのすべての生き方により、あなたの兄弟たちを強めなさい、教義108：7。

共同制度 「奉獻、奉獻の律法」 参照

回復された教会の初期の聖徒たちが、奉獻の律法の実践を目指して運営した組織。各個人が財産や利益を共有し、必要に応じてその中から幾つかを受け取った（教義51：3；78：1-15；104章）。

現世のものについて、あなたがたは平等でなければならない、教義70：14。聖徒たちは自らを備えかつ組織して、すべてのことについて平等になるようにしなければならない、教義78：3-11（教義82：17-20）。主は共同制度に啓示と

清くないもの

戒めを与えられた、**教義** 92:1。ジョン・ジョンソンは共同制度の一員とならなければならぬ、**教義** 96:6-9。主は共同制度の運営について指示を与えられた、**教義** 104章。わたしの民は、日の栄えの王国の律法により求められている和合一致に従って結束していない、**教義** 105:1-13。

清くないもの 「清いものと清くないもの」参照

清さ 「清いものと清くないもの」「**聖め**」参照

罪のない状態。非難されることがないこと。思いと行いがあらゆる点で正しいとき、人は清くなる。罪を犯した人は、イエス・キリストを信じ、悔い改め、福音の儀式を受けることによって清くなることができる。

手が清く、心のいさぎよい者は主から祝福を受ける、**詩篇** 24:3-5。主の器をになう者は、おのれを清く保て、**イザ 52:11**（**教義** 133:4-5）。

心の清い人たちは、さいわいである、**マタ 5:8**（**3ニフ 12:8**）。純真なことがあれば、それらのものを心にとめなさい、**ビリ 4:8**（**箇条 1:13**）。

あなたがた、心の清いすべての人よ、頭を上げて、喜びをもたらす神の御言葉を受け入れなさい、**ヤコ 3:2-3**。あなたがたはその日、純真な心と清い手をもって神を仰ぎ見ることができるか、**アル 5:19**。神の御前に清く、染みのない状態になったので、罪を見て忌み嫌うのを禁じることができなかつた、**アル 13:12**。清められて清い御子と同じようになれるよう、**モロ 7:48**（**モル 9:6**）。

キリストは一つの清い民を御自身のために残される、**教義** 43:14。主はシンオンに一つの家を建てるように命じられた。心の清い者はそこで神を見るであろ

う、**教義** 97:10-17。心の清い者、これこそシオンである、**教義** 97:21。

聖さ、**聖く** 「聖い」「清さ」「聖め」参照

靈的また道德的に完全であること。聖さとは人の心と思いが清いことを示す。

会員は主の前を聖く歩むことによって自分が教会にふさわしいことを示さなければならない、**教義** 20:69。主の宮は聖さのある所である、**教義** 109:13。

「聖なる人」とは神の名の一つである、**モセ 6:57**（**モセ 7:35**）。

聖め 「イエス・キリスト」「義認、義とされる」「贖罪」参照

イエス・キリストの贖罪を通して、罪から解放された、純粹で、清く、聖なる状態となる過程（**モセ 6:59-60**）。

神があなたがたを初めから選んで、御靈によるきよめによって、救を得させようとしたし、**2テサ 2:13**。イエス・キリストのからだがささげられたことによって、わたしたちはきよめられた、**ヘブ 10:10**。イエスもまた、ご自分の血で民をきよめるために、苦難を受けられた、**ヘブ 13:12**。

大祭司は聖められて、彼らの衣は小羊の血によって白く洗い清められた、**アル 13:10-12**。聖めは、彼らが心を神に従わせたために受けたのである、**ヒラ 3:33-35**。悔い改めなさい。そうすれば、あなたがたは聖靈を受けて聖められる、**3ニフ 27:20**。

イエス・キリストの恵みによる聖めは、正しく、かつ眞実である、**教義** 20:31。イエスは、世を聖めるため世に来た、**教義** 76:41。あなたがたの思いがひたすら神に向いたものとなるように、自らを聖めなさい、**教義** 88:68。

キリスト 「イエス・キリスト」参照

キリストの教義 「贖いの計画」「福音」
参照

イエス・キリストの福音の原則と教え。

わたしの教は雨のように降りそそぎ、
申命 32:2。つぶやく者も教をうける、
イザ 29:24。

群衆はその教にひどく驚いた、マタ 7:
28。わたしの教はわたし自身の教ではなく、
わたしをつかわされたかたの教である、ヨハ
7:16。聖書はすべて人を教えるのに有益である、2テモ
3:16。

これがキリストの教義であって、御父の唯一の真正な教えである、2ニフ
31:21 (2ニフ 32:6)。わたしの教義の要点について、論争が、今後決してあなたがたの中にあってはならない、3ニフ
11:28, 32, 35, 39-40。

サタンは人々の心をあおり立て、わたしの教義の要点について争わせる、教義
10:62-63, 67。子供たちに、悔い改め、キリストを信じる信仰、バプテスマ、
聖靈の賜物の教義を教える、教義 68:
25。互いに王国の教義を教え合わなければならぬ、教義 88:77-78。神権の教義はあなたの心に滴るであろう、教義
121:45。

キリストの子 「イエス・キリスト」「生まれる、産む、もうける」「神の息子、娘」「再び生まれる」 参照

イエス・キリストの福音を受け入れた人。

幼な子のように自分を低くする者が、いちばん偉いのである、マタ
18:1-4。光のある間に、光の子となるために、光を信じなさい、ヨハ
12:36。

生まれながらの人を捨てて、子供のようになりなさい、モサ
3:19; 27:25-26。聖約のために、あなたがたはキリストの子と呼ばれ、モサ
5:7。あなたが

たが良いものをことごとく手にすれば、あなたがたは必ずキリストの子となる、モロ
7:19。

わたしを受け入れたすべての者に、わたしの子となる力を与えた、教義 39:4。幼い子供たちよ、恐れてはならない。あなたがたはわたしのものであり、教義
50:40-41。

あなたはわたしにあって一つであり、神の子である、モセ 6:68。

ギレアデの乳香

芳香性の樹脂または香料で、傷を癒すために用いられたもの（創世 43:11；エレ
8:22; 46:11; 51:8）。旧約の時代に乳香の原料となる樹脂を分泌する木がギレアデで特によく生育したため、「ギレアデの乳香」として知られるようになった（創世 37:25；エゼ 27:17）。

金錢 「什分の一」「富」「物欲」「施し」
参照

物品や受けたサービスへの支払いに用いられる貨幣、紙幣、証券類。物質主義の象徴として用いられることがある。

あなたがたは、金を出さずにあがなわれる、イザ
52:3。

十二使徒は、パンも、袋も、金も持たず旅をするように命じられた、マコ
6:8。神の賜物が、金で得られるなどと思っているのか、使徒 8:20。金錢を愛することは、すべての悪の根である、1テモ
6:10。

価値のないものに金を使ってはならない、2ニフ
9:50-51 (イザ 55:1-2; 2ニフ 26:25-27)。もしも金錢のため働くならば、滅びるであろう、2ニフ
26:31。富を求める前に神の王国を求めなさい、ヤコ
2:18-19。「金錢と引き換えにあなたがたの罪は赦される」と言う教会が設けられている時代に、モル
8:

禁断の実

32, 37。

福音を宣言する者に食物を与え、衣服を与える、あるいは金銭を与える者は、決してその報いを失うことはない、**教義** 84: 89–90。

禁断の実 「エデン」「堕落（アダムとエバの）」参照

欽定訳聖書

1611年に英国王ジェームズ1世の命によって翻訳編集された英訳『聖書』。末日聖徒イエス・キリスト教会の英文公認『聖書』となっている。

金版 「版」「モルモン書」参照

金の版に書かれた記録。金版には、アメリカ大陸の二大文明の物語が記録されている。ジョセフ・スミスはこれらの版の一部を翻訳し、出版した。この翻訳された記録が『モルモン書』と呼ばれている。(詳細については『モルモン書』巻頭の「序文」ならびに「預言者ジョセフ・スミスの証」^{あかし}を参照)

キンボール、スペンサー・W 「公式の宣言二」参照

教会が1830年に設立されてから12代目の大管長。1973年12月から1985年11月まで大管長の任にあった。1895年に生まれ、1985年に90歳で死去した。

大管長会は、1978年6月に、神権と神殿の祝福がすべてのふさわしい男性会員に授けられるという啓示がキンボール大管長に下されたことを発表した、**公式2。**

悔い改め 「イエス・キリスト」「打ち碎かれた心」「告白」「贖罪」「罪の赦し」「赦し」参照

神と自分自身また生活全般に対して新

たな姿勢をもたらす思いと心の変化。悔い改めとは、神の戒めと望みに従い、罪を捨てて、邪悪なことから遠ざかり、自分の心と思いを神に向けるという意味を含んでいる。真の悔い改めは、神への愛と、神の戒めに従いたいという心からの望みの結果として生じる。自分の行いに責任の取れる人はだれでも罪を犯す。したがって、救いに向かって成長していくには悔い改めなければならない。悔い改めはイエス・キリストの贖罪によってのみ有効なものとなり、神に受け入れられる。

主にざんげして、エゼ 10: 11。あなたがたの悪い行いを除き、悪を行なうことをやめ、イザ 1: 16。悔い改めて、あなたがたのすべてのとがを離れよ、エゼ 18: 30–31。

悔い改めよ、天国は近づいた、マタ 3: 2。罪人がひとりでも悔い改めるなら、よろこびが、天にあるであろう、ルカ 15: 7。神は、みな悔い改めなければならないことを命じておられる、使徒 17: 30 (2ニフ 9: 23; 3ニフ 11: 31–40; 教義 133: 16)。神のみこころに添うた悲しみは、救を得させる悔改めに導き、**2コリ 7: 10。**

みたま 御靈は、わたしたちが悪を行なう性癖をもう二度と持つことなく、絶えず善を行う望みを持つように、わたしたちの心中に大きな変化を生じさせ、モサ 5: 2。その者があなたとわたしの前で罪を告白し、悔い改めるならば、その者をあなたは赦しなさい、モサ 26: 29。アルマが人々に語り終えた後、多くの人がアルマの言葉を信じ、悔い改めて、アル 14: 1。悔い改めの日を引き延ばすことのないように、アル 34: 33。アルマは、自分の悔い改めと改心についてヒラマンに教えた、アル 36章 (モサ 27: 8–32)。罰がなければ、人は悔い改めをすることができなかつた、アル 42: 16。自分の罪に

だけ心を悩まし、その悩みによって悔い改めに導かれるようにしてもらいたい、アル 42：29。あなたがたは打ち砕かれた心と悔いる靈を、犠牲としてわたしにささげなさい、3ニフ 9：20。悔い改めて幼子のようにわたしのもとに来る者を、わたしはだれでも受け入れよう、3ニフ 9:22。地の果てに至るすべての者よ、悔い改めなさい、3ニフ 27：20。悔い改めた者は、その度に赦された、モロ 6:8。

この時代の人々には、悔い改めのほかに何も語ってはならない、教義 6：9（教義 11：9）。人が悔い改めるとき、主の喜びはいかに大きいことか、教義 18：13。人は皆必ず悔い改めなければならない。そうしなければ苦しみを受ける、教義 19：4。罪を犯して悔い改めない者は、追い出されなければならない、教義 42：28。自分の罪を悔い改めた者は赦され、教義 58:42-43。悔い改める死者は、^{あがな}贖われるであろう、教義 138：58。

わたしたちは悔い改めを信じる、箇条 1：4。

悔いる靈 「打ち砕かれた心」参照

偶像礼拝

偶像を礼拝の対象とすること。あるいは、何かに過度に愛着を抱いたり、心を奪われたりすること。

あなたはわたしのほかに、なにものも神としてはならない、出エ 20：3（モサ 12：35；13：12-13）。もし他の神々に従うならば、あなたがたはきっと滅びるであろう、申命 8：19。強情は偶像礼拝の罪に等しい、サ上 15:23。あなたは金、銀の神々をほめたたえた、ダニ 5：23。

あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない、マタ 6：24。^{ぶんよく}貪欲は偶像礼拝にはかならない、コロ 3：5。子たちよ。気をつけて、偶像を避けなさい、1ヨハ 5：21。

偶像を礼拝する者は災いである、2ニフ 9：37。ニーファイの民の偶像礼拝が彼らに戦争と滅亡を招いた、アル 50：21。

すべての人が自分の神の像を求めて歩む、教義 1：16。偶像礼拝が行われないように、自分の手を使って働きなさい、教義 52：39。

アブラハムの父は偶像礼拝に惑わされた、アブ 1：27。

くじ

幾つかの選択肢の中からあるものを選び出すための方法。あらかじめ用意した紙片や木片の中から一つを選び出すという方法で行われることが多い。

彼らはくじを引いて、その着物を分け、マタ 27：35（詩篇 22：18；マコ 15：24；ルカ 23：34；ヨハ 19：24）。ふたりのためにくじを引いたところ、マッテヤに当った、使徒 1：23-26。

わたしたちは、だれがラバノの家に入って行くか、くじを引いた、1ニフ 3：11。

くびき 「弟子」参照

複数の家畜や人間の首に固定して、一緒に決まった仕事をさせるための道具。キリストのくびきは、キリストの弟子であることの象徴である。一方、奴隸のくびきは、圧制の象徴である。

わたしのくびきは負いややすく、わたしの荷は軽いからである、マタ 11：29-30。不信者と、つり合わないくびきを共にするな、2コリ 6：14。奴隸のくびきにつながれてはならない、ガラ 5：1。

だれかに奴隸のくびきをかけたいと思っているためでもない、アル 44：2。

聖徒が受けた苦しみは、鉄のくびきであり、強い縄、地獄の鎖である、教義 123：1-3, 7-8。

クモラの丘

クモラの丘 「スミス、 ジョセフ、 ジュニア」「モルモン書」「モロナイ（モルモンの息子）」参照

アメリカ合衆国ニューヨーク州西部にある小さな丘。モロナイという古代の預言者は、ニーファイ人とヤレド人の民に関する幾つかの記録を載せた金版をこの丘に隠した。ジョセフ・スミスは、復活したモロナイにより1827年にこの丘に導かれ、その金版を受け取って一部を翻訳することになった。その翻訳されたものが、『モルモン書』である。

ニーファイ人がクモラに集まった、モル6:2-4。クモラは多くの水のある地にあった、モル6:4。モルモンは記録をクモラの丘に隠した、モル6:6。クモラで、24人を除くすべてのニーファイ人が切り倒された、モル6:11。

わたしたちはクモラからの喜びのおとずれを聞く、教義128:20。

ジョセフ・スミスはクモラの丘で版を受け取った、ジー歴史1:42, 50-54, 59。

倉「福祉」参照

ビショップが末日聖徒からささげられるものを受け取り、保管し、貧しい人に配るための施設。倉はそれぞれの状況によって規模が異なる。忠実な聖徒は、才能や技術、物品、金銭を、助けが必要な貧しい人々のためにビショップにささげる。したがって倉は、労働奉仕や金銭、食糧、その他の日用品などを資源として備えることができる。ビショップは倉の代理人であり、必要に応じて、また主の御靈に導かれるままに様々な物品や労働奉仕を割り振る（教義42:29-36; 82:14-19）。

7年の飢饉^{ききん}に備えて食糧を彼らに集めさせた、創世41:34-36, 46-57。十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい、マラ3:10(3ニフ24:10)。

ビショップはこの教会のために倉を設けなさい、教義51:13。必要以上のものは主の倉に渡さなければならない、教義70:7-8。聖徒たちは倉を整え確立しなければならない、教義78:1-4。子供たちは、親が受け継ぎを与える分を持っていなければ、主の倉に求める権利がある、教義83:5。

暗闇（外の）「悪魔」「死（靈の）」「地獄」

「滅びの子」参照

暗闇（靈的な）「邪惡」参照

邪惡なこと、または靈的な事柄に関して無知なこと。

わざわいなるかな、彼らは暗きを光とし、イザ5:20(2ニフ15:20)。暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおう、イザ60:2。

イエスは暗黒の中に住む者を照される、ルカ1:79。光はやみの中に輝いている。そして、やみはこれに勝たなかつた、ヨハ1:5(教義45:7)。やみのわざを捨てて、光の武具を着けようではないか、ロマ13:12。実を結ばないやみのわざに加わらないで、エペ5:8-11。

あなたがたが求めもせず、それゆえ、光の中に導かれず、闇の中で滅びてしまうに違いない、2ニフ32:4。サタンは闇の業を広める、ヒテ6:28-31。

闇の力は地上に広く及んでいる、教義38:8, 11-12。全世界は暗闇の下で、また罪の束縛の下でうめいでいる、教義84:49-54。あなたがたが神の栄光にひたすら目を向けるならば、あなたがたの中に暗さがないであろう、教義88:67。

闇の業はすべての人の子らの中に広がり始めた、モセ5:55。

クリスチャン「聖徒」「弟子」参照

イエス・キリストを信じる人々に付けられた呼び名。この言葉は全世界的に広

く用いられているが、主はキリストに心から従う人々を聖徒と呼ばれる（使徒9：13、32、41；1コリ1：2；教義115：4）。

弟子たちはクリスチャンと呼ばれた、使徒11：26。クリスチャンとして苦しみを受けるのであれば、恥じることはない、1ペテ4：16。

聖約のために、あなたがたはキリストの子と呼ばれ、モサ5：7。まことの信者は皆、教会に属していない者たちからクリスチャンと呼ばれていた、アル46：13-16。

来る 「従順、従う」「弟子」参照

聖典では「キリストのもとに来て、キリストによって完全になりなさい」（モロ10：32）という言い回しにあるように、従うことによってだれかにさらに近づくということを表現する場合がよくある。

耳を傾け、わたしにきて聞け、イザ55：3。

すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい、マタ11：28。幼な子らをそのままにしておきなさい。わたしのところに来るのをとめてはならない、マタ19：14。だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、ルカ9：23。わたしに来る者は決して飢えることがなく、ヨハ6：35。

主は、御自分のもとに来るよう、すべての人を招かれる、2ニフ26：33。わたしのもとに来て救いを得なさい、3ニフ12：20。キリストのもとに来て、モロ10：32。

キリストのもとに来るようすべての人を招かなければならぬ、教義20：59。わたしのもとに来て、教義45：46。

クロス

『旧約聖書』の中の人物。ペルシャの王。ユダヤ人に神殿再建のためのエルサ

レム帰還を許してバビロニア捕囚を部分的に終結させ、イザヤの預言を成就した（歴下36：22-23；イザ44：28；45：1）。イザヤの預言は、この王が帰還を許可する約180年前になされていた。

計画 あがな（頗りの） 「頗りの計画」参照

敬虔 けいけん 「敬う」おそ「畏れ、恐れ」参照

神聖な事柄に対する深い敬意。

くつを脱ぎなさい。あなたが立っているその場所は聖なる地だからである、出エ3：4-5。主は恐るべき神、恐るべき者です、詩篇89：7。

恐れかしこみ、神に喜ばれるように、仕えていこう、ヘブ12：28。

モロナイは地にひれ伏し、熱烈に神に祈った、アル46：13。群衆は地に伏して、キリストを拝した、3ニフ11：12-19。

わたしの前に身をかがめて、教義5：24。その御座の前に、すべてのものが恭しく身をかがめ、教義76：93。自分の受けたものを軽々しく扱ったために、あなたがたの思いは過去に暗くなることがあった、教義84：54-57。すべてのひざがかがみ、すべての舌が告白する、教義88：104。至高者の名を敬い尊ぶことから、教員は、この神権をメルキゼデクにちなんでメルキゼデク神権と呼んだ、教義107：4。主の宮で主を敬う人々に数々の祝福が注がれる、教義109：21。

警告 「見守る、見守る者」参照

注意を与えること。預言者や指導者、親は、主とその教えに従順であるよう人々に警告し、教える。

ヤコブはニーファイの民に、あらゆる罪について警告した、ヤコ3：12。

警告の声は、すべての民に及ぶ、教義1：4。あなたがたの教えを説くことが警告の声となるように、教義38：41。今

啓示

は警告の時であり、**教義** 63:58。警告を受けた人は皆、その隣人に警告しなければならない、**教義** 88:81。わたしはあなたがたに警告を与えており、またこの知恵の言葉を与えることによって、あらかじめ警告するものである、**教義** 89:4。

啓示 「声」「言葉（神の）」「示現」「聖霊」「光、キリストの光」「夢」「預言」「靈感」参照

神が地上の神の子らに御心を示されること。啓示はキリストの光や聖霊を通して、靈感や示現、夢、天使の訪れなどの方法により授けられる。啓示は、忠実な人を日の栄えの王国における永遠の救いに導く助けを与える。

主はその御業を預言者に明らかにし、また信じる人々に対して、預言者への啓示が真実であるとの確認をお与えになる（アモ3:7）。導きを求め、信仰を持ち、悔い改めてイエス・キリストの福音に従うすべての人に、主は啓示を通して個人的な導きを与えられる。ジョセフ・スマスは、「聖霊は啓示者であり、だれも啓示を受けずに聖霊を授かる事はない」と語っている。

主の教会の大管長会と十二使徒定員会は、教会と世に対する預言者、聖見者、啓示者である。教会の大管長は、教会のために啓示を受けるように主から権能を託された唯一の人である（教義28:2-7）。人は皆自分自身のために個人的な啓示を受けることができる。

人は主の口から出るすべてのことばによって生きる、**申命** 8:3（マタ4:4；**教義** 98:11）。主は静かな細い声で語られる、**列上** 19:12。示現がなければ民は滅びる、**KJ 箴言** 29:18。主なる神は、そのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされない、**アモ** 3:7。

バルヨナ・シモン、あなたはさいわい

である。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である、**マタ** 16:15-19。**御霊**は人をあらゆる真理に導き、来るべき事を知らせる、**ヨハ** 16:13。あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、神に、願い求めるがよい、**新ヤコ** 1:5。

世の終わりまでに起こることがすべて、人の子らに示される、**2ニフ** 27:11。教えに教えを加えて、それを人の子らに与えよう、**2ニフ** 28:30。秘密のことで明らかにされることはなく、**2ニフ** 30:17。聖霊はなすべきことをすべて示される、**2ニフ** 32:5。主の道は、啓示されないかぎりだれも知ることはできない、**ヤコ** 4:8。アルマは啓示を求めて断食して祈った、**アル** 5:46。忠実な者には、まだ明らかにされていないことが明らかにされる、**アル** 26:22。啓示を否定する者は、イエス・キリストの福音を知らない者、聖文を読んだことのない者である、**モル** 9:7-8。信仰が試されてからでなければ、証は得られない、**エテ** 12:6。

わたしの言葉はすべて成就する、**教義** 1:38。わたしはこの件についてあなたの思いに平安を告げなかったであろうか、**教義** 6:22-23。わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう、**教義** 8:2-3。もしそれが正しければ、わたしはあなたの胸を内から燃やそう、**教義** 9:8。啓示の靈を否定してはならない、**教義** 11:25。求めれば、啓示の上に啓示を受け、**教義** 42:61。何であろうと聖霊に動かされて語ることは、主の声となり、**教義** 68:4。神は知識を、あなたがたに与えてくださる、**教義** 121:26。

ジョセフ・スマスは御父と御子にまみえた、**ジー歴史** 1:17。わたしたちは、神がこれまでに啓示されたすべてのこと、また神がこの後も啓示されることを信じる、**箇条** 1:7, 9。

系図 「覚えの書」「家族」「儀式—身代わりの儀式」「死者の救い」「救い」「バプテスマ—死者のためのバプテスマ」参照

家族の系譜をたどった記録。神権の職や祝福が特定の家系に限られていた場合、聖文に記された系図は非常に重要であった（創世5：10；25：46章；歴上1-9章；エズ2：61-62；ネヘ7：63-64；マタ1：1-17；ルカ3：23-38；ニフ3：1-4；5：14-19；ジェロ1：1-2）。今日の回復された教会において、教員は各自の家系の調査を続いている。その目的の一つは、亡くなった先祖に関する情報を得て、彼らのための救いの儀式が執行されるようすることである。それらの儀式は、靈界でイエス・キリストの福音を受け入れる死者にとって有効なものとなる（教義127-128章）。

軽率 「悪口」参照

神聖なものを軽々しく扱うこと（教義84：54）。

無益な思いと過度の笑いを遠くに捨ててしまいなさい、教義88：69。すべての高慢と軽薄、すべての邪惡な行いをやめなさい、教義88：121。

契約 「聖約（契約）」参照

契約の箱 「幕屋」参照

エホバの箱、証の箱としても知られているこの契約の箱は、長方形の木箱で、金で覆わっていた。この箱は、イスラエル人の宗教上の象徴の中で最も古くかつ神聖なものであった。ふたの部分に当たる贖罪所は、エホバが地上で住まわれる所と見なされていた（出エ25：22）。契約の箱は、神殿が完成するとその中最も神聖な所である至聖所に置かれた（列上8：1-8）。

モーセは神の戒めにより箱を造った、出エ25章。レビの子らは契約の箱を守る責任を与えられた、民数3：15、31。契約の箱は、彼らに先立って行き、民数10：33。この律法の書をとって、契約の箱のかたわらに置きなさい、申命31：24-26。ヨルダンの水は契約の箱の前で流れをせきとめられた、ヨシ3：13-17；4：1-7。祭司たちはエリコを征服するときに契約の箱をかついだ、ヨシ6：6-20。ベリシテびとが神の箱を奪った、サ上5章。主は、神の箱のゆえにオベデエドムの家を祝福された、サ下6：11-12。ウザは戒めに従わず手を伸べて箱を押えたため、主に撃たれた、歴上13：9-12（教義85：8）。たって主なる神の聖所を建て、契約の箱を携え入れなさい、歴上22：19。

契約の箱の中に納められていたものについて述べられる、ヘブ9：4。

汚れ 「清いものと清くないもの」「邪悪」「罪」「不義」「不信心」参照

自分の意志で神に従わずに引き起こした靈的に清くない状態。

シオンの娘らの汚れを洗い、イザ4：4（ニフ14：4）。

神の王国は汚れてはいません、1ニフ15：34（アル7：21）。汚れている者は、そのまま汚れた状態にある、2ニフ9：16（モル9：14）。汚れた衣を着たまま神の法廷に立つ人がいるとすれば、その人はどのように感じるであろうか、アル5：22。

彼らはなお汚れたままでいなければならぬ、教義88：35。

わたしはいつ安息を得て、汚れから清められるのか、モセ7：48。

結婚 「家族」「離婚」参照

1組の男女を夫婦とする合法的な誓約、または契約。結婚は神によって定め

結婚

られた（教義 49：15）。

人がひとりでいるのは良くない、創世 2：18（モセ 3：18）。人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである、創世 2：24（マタ 19：5；アブ 5：18）。

神が合わせられたものを、人は離してはならない、マタ 19：6（マコ 10：9）。偽り者どもは、結婚を禁じたり、1 テモ 4：1-3。結婚を重んずべきである、ヘブ 13：4。

主はリーハイの息子たちに、イシマエルの娘たちを妻に迎えるように命じられた、1 ニフ 7：1, 5（1 ニフ 16：7-8）。

神はアダムとエバを創造して夫婦とされた、モセ 3：7, 18, 21-25。

結婚の新しくかつ永遠の聖約：福音の律法と聖なる神権の下に行われた結婚は、この世と永遠の世において効力を有する。神殿で結び固められて結婚したふさわしい男女は、永遠にわたって夫婦でいることができる。

イエスは結婚の律法について教えられた、ルカ 20：27-36。主にあっては、女なしには男はない、1 コリ 11：11。いのちの恵みを共どもに受け継ぐ者として、1 ペテ 3：7。

あなたが地上で結ぶことは何でも天で結ばれ、ヒラ 10：7（マタ 16：19）。

日の栄えの王国の最高の階級を得るためには、人は結婚の新しくかつ永遠の聖約に入らなければならない、教義 131：1-4。彼がわたしによらずにめとるならば、彼らの誓いと結婚は、彼らが死ぬと、効力がない、教義 132：15。もしもある男がわたしの言葉によって、また新しくかつ永遠の聖約によって妻をめとり、そしてそれが約束の聖なる御靈により結び固められるならば、彼らがこの世の外に去るときにも完全に効力がある、教義 132：19。

異なる信仰を持つ人との結婚：宗教的信条や慣習を異にする男女間の結婚。

カナンびとのうちから、娘をわたしの子の妻にめとてはならない、創世 24：3。もしヤコブがヘテビとの娘を妻にめとるなら、わたしは生きていて、何になりましたよう、創世 27:46（創世 28:1-2）。イスラエルはカナンびとと婚姻をしてはならない、申命 7：3-4。イスラエルはカナンびとを妻にめとり、偽りの神々に仕えたため、のろわれた、士師 3：1-8。ソロモンの妻たちは彼の心を転じて偽りの神々に従わせた、列上 11：1-6。われわれはこの地の民らにわれわれの娘を与えず、われわれのむすこに彼らの娘をめとらない、ネヘ 10：30。

不信者と、つり合わないくびきを共にするな、2 コリ 6：14。

主は、ニーファイ人がレーマン人と縁を結んで間違った言い伝えを信じることがないように、レーマン人にしるしを付けられた、アル 3：6-10。

彼がわたしによらずにめとるならば、彼らの誓いと結婚は、彼らが死ぬと、効力がない、教義 132：15。

人の子らは自分たちの選んだ者を妻とした、モセ 8：13-15。

多妻結婚：一人の男性が生存中の二人以上の女性と結婚すること。律法にかなうのは、主から啓示によって特に命じられないかぎり（ヤコ 2：27-30），一人の男性が一人の女性のみと結婚することである。啓示によって、旧約の時代と回復された教会の初期の時代に、神権の鍵を持つ預言者の指示により多妻結婚が行われた（教義 132：34-40, 45）。しかし今日、当教会では多妻結婚は行われておらず（公式 1），複数の女性を妻とする者は、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員としての資格を持つことができない。

サライはアブラムにハガルを妻として

与えた、創世 16:1-11。ヤコブはレアとラケル、またそのつかえめたちを妻として受け入れた、創世 29:21-28（創世 30:4, 9, 26）。たとい、ほかに女をめとることがあっても、前の女に食物と衣服を与えることを絶えさせてはならない、出エ 21:10。ダビデは二人の妻とヘブロンへ上った、サ下 2:1-2。

アブラハム、イサク、ヤコブは複数の妻を受け入れることにおいて、命じられたことを行った、教義 132:37。ダビデとソロモンは、神から与えられなかつたものを除いては、どのようなことについても罪を犯さなかった、教義 132:38-39。

結社 「秘密結社」参照

ゲツセマネ 「オリブ山」「贖罪」^{しょくざい} 参照

『新約聖書』の中の地名。オリブ山近くの園の名前。アラム語で「ゲツセマネ」は「オリーブしほり」の意味。イエスは、ユダが裏切った夜にこの園へ行き、そこで祈り、人類の罪のために苦しみを受けられた（マタ 26:36, 39；マコ 14:32；ヨハ 18:1；アル 21:9；教義 19:15-19）。

ゲツセマネの園 「ゲツセマネ」参照

ケルビム

天上の生き物の象徴。正確な姿は知られていない。ケルビムは神聖な場所を守る召しを与えられている。

神はケルビムを置いて、命の木の道を守らせられた、創世 3:24（アル 12:21-29；42:2-3；モセ 4:31）。贖罪所の上には象徴であるケルビムが置かれた、出エ 25:18, 22（列上 6:23-28；ヘブ 9:5）。エゼキエルが受けた示現の中で、ケルビムについて語られている、エゼ 10章；11:22。

権威、権限、機能 「神権」「神権の鍵」「聖任」「力」「召し、神の召し」参照

神の業を行ふに当たって、父なる神またはイエス・キリストのためにその代理として行動するように召され、聖任される人々に、この地上で与えられる承認。

わたしがあなたをつかわした、出エ 3:12-15。わたしが命じることを、ことごとく告げなければならぬ、出エ 7:2。

イエスは十二弟子に権威をお授けになった、マタ 10:1。あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである、ヨハ 15:16。

ニーファイとリーハイは、大きな力と権能をもって教えを説いた、ヒラ 5:18。民はニーファイを、神から授けられた大いなる力と権能を持つ神の人として尊んだ、ヒラ 11:18（3ニフ 7:17）。イエスは12人のニーファイ人に力と権能を授けられた、3ニフ 12:1-2。

ジョセフ・スミスは神から召され、聖任された、教義 20:2。聖任され、そして権能を持っていることが教会展員に知られないかぎり、だれもわたしの福音を宣べ伝えること、あるいはわたしの教会を築き上げることは許されない、教義 42:11。長老は福音を宣べ伝え、権能を行使しなければならない、教義 68:8。メリキゼデク神権は靈的な事柄をつかさどる権能を持つ、教義 107:8, 18-19。神聖な権能によって行われたことは律法となる、教義 128:9。

福音を宣べ伝え、その儀式を執行するためには、人は権能を持つ者によって、神から召されなければならない、箇条 1:5。

健康 「知恵の言葉」参照

現世的 「生まれながらの人」「堕落（アダメとエバの）」「肉欲」参照

靈的でない物事を指す言葉。具体的には、一時的でこの世的なこと（教義 67:

原則

10)、もしくは世俗的、肉感的、官能的なことを意味するのに用いられる（モサ 16：10-12）。

肉の思いを抱くことは死であり、**2ニフ 9：39**。悪魔は人々をなだめ、彼らを欺いて現世での安全を確信させる、**2ニフ 28：21**。彼らは、自分たちがこの世的な状態にあると思った、**モサ 4：2**。自分自身の肉の性質の中にとどまる者は、その堕落した状態にとどまる、**モサ 16：5**。人は神から生まれ、肉欲にふける堕落した状態から義の状態に変わらなければならない、**モサ 27：25**。人類は肉欲や官能におぼれ、悪魔に従う者となつた、**アル 42：10**。

自分の思いと肉の欲望に従う人々は必ず落ちる、**教義 3：4**。人は肉の思いをもつて神を見ることはできない、**教義 67：10-12**。

人々は肉欲や官能におぼれ、悪魔に従う者となり始めた、**モセ 5：13；6：49**。

原則 「福音」参照

基本となる教義や真理、律法。福音の第一の原則は、主イエス・キリストを信じる信仰と悔い改めである（箇条 1：4）。

わたしたちはキリストの教義の原則をおざりにすることなく、完成を目指して進もうではないか、**JSヘブ 6：1**。

長老と祭司と教師は、聖典の中にあるわたしの福音の原則を教えなければならない、**教義 42：12**。原則において、教義において、すべてのことにおいて、さらに完全に教えられるためである、**教義 88：78**（教義 97：14）。すべての人がわたしの与えた道徳的な選択の自由に応じて、未来に関する教義と原則に従って行動できるようにし、**教義 101：78**。

謙遜 「打ち碎かれた心」「高慢」「柔和」「貧しい」「弱さ」参照

柔軟で、素直なこと。また、神に頼らなければならないことを理解し、神の御心に従いたいと望むことも含まれる。

神はイスラエルを謙遜にするために、40年の間荒れ野で導かれた、**申命 8：2**。貧しくて賢いわらべは、老いて愚かで、もはや、いさめをいれることを知らない王にまさる、**伝道 4：13**。わたしはへりくだる者と共に住み、**イザ 57：15**。

この幼な子のように自分を低くする者が、天国でいちばん偉いのである、**マタ 18：4**。自分を低くする者は高くされるであろう、**マタ 23：12**（ルカ 14：11；18：14）。イエスはおのれを低くして、死に至るまで従順であられた、**ピリ 2：8**（ルカ 22：42；23：46）。神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜う、**1ペテ 5：5-6**（2ニフ 9：42）。

心底謙遜にへりくだって、**モサ 4：11**（2ニフ 9：42；3ニフ 12：2）。あなたがたは、十分にへりくだっていると言えるであろうか、**アル 5：27-28**。謙遜な人々はますます謙遜になった、**ヒラ 3：33-35**。わたしは人を謙遜にするために、人に弱さを与える、**エテ 12：27**。

謙遜であることはバプテスマを受けるための一つの条件である、**教義 20：37**。わたしの前にへりくだるならば、あなたがたはわたしを見て、わたしがいることを知るであろう、**教義 67：10**。謙遜でありなさい。そうすれば、主なるあなたの神はあなたの祈りに答えを与えるであろう、**教義 112：10**。知識のない者は、へりくだって知恵を得なさい、**教義 136：32**。御靈はへりくだって悔いる者を照らすために、世に送られている、**教義 136：33**。

憲法 「政府」「律法」参照

『教義と聖約』の中で述べられている「憲法」とは、福音の回復に道を備えるために神の靈感によって定められたアメ

リカ合衆国憲法を指している。

合憲的な法律は擁護しなければならない、**教義 98:5-6**。主はその憲法の制定に関与された、**教義 101:77, 80**。

紅海 「モーセ」参照

エジプトとアラビアの間にある海。紅海北部の二つの湾に挟まれた所にシナイ半島がある。モーセに導かれたイスラエル人が乾いた地を通って行けるように、主の奇跡によって紅海の水が分けられた（出エ 14:13-31；ヘブ 11:29）。モーセが紅海の水を分けたことは、末日の啓示の中でも確認されている（1ニフ 4:2；ヒラ 8:11；教義 8:3；モセ 1:25）。

高価な真珠 「スミス、ジョセフ、ジュニア」「正典」「聖文」参照

地上の神の王国は「高価な真珠」にたとえられる（マタ 13:45-46）。

末日聖徒イエス・キリスト教会の標準聖典と呼ばれる4書の中の一つ。『高価な真珠』の初版は1851年に出版され、その中には現在の『教義と聖約』にある幾つかの文書も含まれていた。1902年以降の版には以下の記録が含まれている。(1)「モーセ書」と呼ばれる創世記のジョセフ・スミス訳の抜粋、ならびに「ジョセフ・スミスマタイ」と呼ばれるマタイ24章のジョセフ・スミス訳。(2)1835年に得たエジプトのパピルスをジョセフ・スミスが翻訳した記録。これは「アブラハム書」と呼ばれている。(3)ジョセフ・スミスが1838年に書いた教会の歴史からの抜粋。これは「ジョセフ・スミス歴史」と呼ばれている。(4)教会の信条と教義を13箇条に要約した「信仰箇条」。

高潔 「義」「正直」参照

義にかない、正直で、誠実であること。

わたしは死ぬまで、潔白を主張してやめない、ヨブ 27:5。欠けた所なく、正しく歩む人、箴言 20:7。

彼らは託されたことは何であろうと、いつでも誠実に果たす者たちであった、アル 53:20。

主はハイラム・スミスを、その心の高潔さのゆえに愛された、**教義 124:15**。

公式の宣言一 「ウッドラフ、ウィルフォード」「結婚—多妻結婚」「宣言」参照

『教義と聖約』の終わりの部分に掲載されている宣言。「公式の宣言一」の最初の部分は「宣言」としても知られている。ウィルフォード・ウッドラフ大管長が発表し、1890年10月6日の総大会の席上、教員に提示された。1862年以来25年間、アメリカ合衆国では多妻結婚を違法とする様々な法律が作られた。聖徒が多妻結婚をやめなければ何が起こるかを、主は示現と啓示によってウィルフォード・ウッドラフに示された。この宣言は、多妻結婚がもはや行われていないことを正式に表明するものであつた。

公式の宣言二 「キンボール、スペンサー・W」「神権」参照

神権がだれに授けられるかについての教義的な声明。『教義と聖約』の末尾に掲載されている。1978年6月の初めに、主はスペンサー・W・キンボール大管長に、神権が教会のすべてのふさわしい男性会員に授けられることを啓示された。これによって、人種や肌の色にかかわりなく、すべてのふさわしい男性が神権を受けることができ、またすべてのふさわしい会員が神殿の祝福にあずかれるようになった。1978年9月30日、この宣言は教会の総大会において提示され、全会一致で受け入れられた。

高等評議会

高等評議会

12人の大祭司から成る評議会。

回復された教会の初期の時代には、高等評議会という言葉は次の二つの異なる管理体を指すものとして用いられた。(1)教会の十二使徒定員会(教義107:33, 38)。(2)各ステークで務めを果たす高等評議会(教義102章:107:36)。

幸福、幸せ 「喜び」 参照

高慢 「うぬぼれ」「金銭」「謙遜」「富」「物欲」 参照

謙遜さや素直さを欠いた状態。人は高慢になると互いに反目し、神に対しても敵対的になる。高慢な人は自分を人よりも優れていると考え、神の御心よりも自分の意志に従おうとする。うぬぼれ、ねたみ、冷酷さ、傲慢さは、高慢な人によく見られる特徴である。

金銀が増し、持ち物がみな増し加わるとき、おそらく心にたかぶり、申命8:11-14。わたしは高ぶりと、おごりを憎む、箴言8:13(箴言6:16-17)。高ぶりは滅びにさきだち、箴言16:18。その日には目をあげて高ぶる者は低くせられ、イザ2:11-12(2ニフ12:11-12)。あなたの心の高ぶりは、あなたを欺いた、オバ1:3。すべて高ぶる者は、わらのようになる、マラ4:1(1ニフ22:15;3ニフ25:1;教義29:9)。

自分を高くする者は低くされ、マタ23:12(教義101:42)。神は高ぶる者をしりぞけ、1ペテ5:5。

あの大きく広々とした建物が世の人々の高慢である、1ニフ11:36(1ニフ12:18)。人は学識があると自分は賢いと思い、2ニフ9:28-29。ほかの者より豊かに富を得たことで心が高慢になり、ヤコ2:13, 16(アル4:8-12)。あなたがたは高慢な心を取り去っているか、アル5:28。

民の心の中には大変にひどい高慢が入り込んでいた、ヒラ3:33-36。人の子らは何と高慢になるのが早いことか、ヒラ12:4-5。この国民は、高慢のために滅びてしまう、モロ8:27。

あなたがたはニーファイ人のようにならないよう、高慢に気をつけなさい、教義38:39。すべての高慢と軽薄、すべての邪悪な行いをやめなさい、教義88:121。

声 「啓示」 参照

聖典の中では、主御自身あるいは天使の、人の耳に聞こえる言葉を指す場合がある。御靈の声は耳に聞こえなくても、心に語りかけることがある。

主なる神の声を聞いた、KJ創世3:8(モセ4:14)。主は静かな細い声でエリヤに語りかけられた、列上19:11-13。

義人はよい羊飼の声を聞いて従う、ヨハ10:1-16。だれでも真理につく者は、わたしの声に耳を傾ける、ヨハ18:37。

わたしは御靈の声に従い、1ニフ4:6-18。わたしに声が聞こえた。「エノスよ、あなたの罪は赦された。あなたは祝福を受けるであろう。」エノ1:5。それはまったく優しい静かな声であり、それでいて心の底までも貫いた、ヒラ5:29-33(3ニフ11:3-7)。

わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである、教義1:38。何であろうと聖靈に動かされて語ることは、主の声となり、教義68:2-4。わたしの声に従う者は皆、わたしの顔を見て、わたしがいることを知るであろう、教義93:1。

ゴグ 「イエス・キリストの再臨」「マゴグ」 参照

マゴグの王。エゼキエルは、主の再臨

の時にゴグがイスラエルを攻めると預言した（エゼ 38：39 章）。ゴグとマゴグの戦いと呼ばれる別の戦いが福千年の後に起こる（黙示 20：7-9；教義 88：111-116）。

告白 「悔い改め」^{ゆる}「赦し」参照

聖典はこの言葉を少なくとも二つの意味で用いている。一つは、イエスがキリストであることを告白するというように、何かに対する自分の信仰を表明する場合である（マタ 10：32；ロマ 10：9；1ヨハ 4：1-3；教義 88：104）。

もう一つは、罪を告白する場合のように、自分に罪があるのを認めることである。人は皆、自分の罪をすべて主に告白して、その赦しを得なければならぬ（教義 58：42-43）。場合によっては、自分が罪を犯した相手に対して告白する必要がある。重大な罪については、教会の役員に（ほとんどの場合、ビショップに）告白しなければならない。

その罪を犯したことを見出し、レビ 5：5。彼らが自分の罪を告白するなら、レビ 26：40-42。イスラエルの神、主に榮光を歸し、あなたのしたことを告げなさい、ヨシ 7：19。

人々が自分の罪を告白し、ヨルダン川でヨハネからバプテスマを受けた、マタ 3：5-6。

罪を告白する者は赦される、モサ 26：29。

あなたの罪を告白しなさい。そうしなければ、罰を受けて苦しむであろう、教義 19：20。悔い改めた人は罪を告白して捨てる、教義 58：43。主なるわたしは、へりくだつた心をもって自分の罪を告白する者たちに憐れみ深い、教義 61：2。主なるわたしは、自分の罪を告白して赦しを求める者たちについて罪を赦す、教義 64：7。

心 「打ち碎かれた心」「再び生まれる」 参照

人の理性と意志の象徴。喜怒哀樂の象徴的な源でもある。

あなたは心をつくして、あなたの神、主を愛さなければならない、申命 6：5（申命 6：3-7；マタ 22：37；ルカ 10：27；教義 59：5）。主は自分の心にかなう人を求めて、サ上 13：14。人は外の顔かたちを見、主は心を見る、サ上 16：7。手が清く、心のいさぎよい者は主から祝福をうけ、詩篇 24：3-5（2ニフ 25：16）。人はその心の内で思うそのとおりの人である、KJ 箴言 23：7。エリヤは父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる、マラ 4：5-6（ルカ 1：17；教義 2：2；110：14-15；138：47；ジ—歴史 1：38-39）。

心の清い人たちは、さいわいである、マタ 5：8（3ニフ 12：8）。心からあふれ出ることを、口が語る、ルカ 6：45。

あなたがたは靈的に神から生まれているか。あなたがたは心の中に、この大きな変化を経験したか、アル 5：14。打ち碎かれた心と悔いる靈を、犠牲としてわたしにささげなさい、3ニフ 9：20（3ニフ 12：19；エテ 4：15；モロ 6：2）。

聖靈によって、わたしはあなたの心に告げよう、教義 8：2。

五旬節 「モーセの律法」参照

モーセの律法の一部として、過越の祭の50日後に五旬節すなわち初穂の祭が行われた（レビ 23：16）。五旬節は収穫を祝うためのものであり、『旧約聖書』では刈入れの祭あるいは七週の祭とも呼ばれた。エルサレムで使徒たちが聖靈に満たされ、異言を語ったのは、この祭が祝われていたときであった（使徒 2章；教義 109：36-37）。

五書 「旧約聖書」「出エジプト記」「申命記」「創世記」「民数記」「モーセ」「レビ記」参照

『旧約聖書』の最初の5つの書、すなわち創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記を指す。ユダヤ人はこの五書を、トーラーすなわち律法と呼んだ。五書はモーセによって書かれた（1ニフ5：10-11）。

言葉 「イエス・キリスト—前世におけるキリスト」参照

言葉（神の） 「戒め（神の）」「啓示」「聖文」参照

神から授けられる教えや戒め、知らせ。神の子供たちは、御靈による啓示を通して直接に、あるいは主の選ばれた僕を通して間接的に御言葉を受けることができる（教義1：38）。

人は主の口から出るすべてのことばによって生きる、申命8：3（マタ4：4；教義84：43-44）。あなたのみ言葉はわが足のともしび、わが道の光です、詩篇119：105。

一同は聖靈に満たされて、大胆に神のことばを語り出した、使徒4：31-33。

鉄の棒は命の木に導く神の言葉である、1ニフ11：25（1ニフ15：23-25）。あなたがたは心が鈍っていたので、その言葉を感じることができませんでした、1ニフ17：45-46。神の言葉を拒む者は災いである、2ニフ27：14（2ニフ28：29；エテ4：8）。キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、2ニフ31：20（2ニフ32：3）。彼らは自分の不信仰のために、神の言葉を理解できなかった、モサ26：3（アル12：10）。神の言葉を知るために聖文を熱心に調べて、アル17：2。神の言葉の力を使う、アル31：5。アルマは御言葉を一つの種にたとえた、アル

32：28-43。

何であろうと聖靈に動かされて語ることは、主の言葉となり、教義68：4。神の口から出る一つ一つの言葉に従って生きなければならない、教義84：44-45。

だれでもわたしの言葉を大切に蓄える者は、惑わされることがない、ジーマタ1：37。

言葉、言語

情報や思想、観念を伝達するために特定の形式にまとめた一連の音声文字あるいは記述文字。言葉遣いは、神や人に対する思いを表す。主イエス・キリストは再臨の時に、すべての人に純粋な言葉をお授けになる（ゼバ3：8-9）。

全地は同じ発音、同じ言葉であった、創世11：1。主が全地の言葉を乱された、創世11：4-9。

彼らの生れ故郷の国語で、使徒たちが話しているのを、だれもかれも聞いて、使徒2：1-6。福音はあらゆる国民、部族、国語の民、民族に宣べ伝えられる、黙示14：6-7（2ニフ26：13；モサ3：13, 20；教義88：103；112：1）。

主なる神は人の言葉に倣って語られる、2ニフ31：3（教義1：24）。ベニヤミンは、先祖のすべての言葉によって息子たちが教育を受けられるようにした、モサ1：2-5。主はすべての国民に、その国民を使い、その国民の言葉を使って主御言葉を教えることを許される、アル29：8。この版はあらゆる国民、部族、国語の民、民族に明らかに示される、アル37：4。

言葉が柔和で人を教化する者は、わたしの定めに従うならば、神から出ている、教義52：16。すべての人が自分の言葉で完全な福音を聞く、教義90：11。もうろの言語と国語と民族に通じるようにならなければならない、教義90：15。

アダムとその子供たちの言葉は清らかで汚れないものであった, モセ6:5-6, 46。神はエノクに大いなる言葉の力を授けられた, モセ7:13。

子供 「家族」「祝福—子供の祝福」「贖罪」「救い—幼い子供たちの救い」「責任を負う」「幼児のバプテスマ」参照

年ごろになる以前の年少者。父親と母親は神の御心に従うように自分の子供を訓練しなければならない。責任を負う年齢に達するまで、子供には罪がない(モロ8:22; 教義68:27)。

子供たちは神から賜わった嗣業であり、詩篇127:3-5。子をその行くべき道に従って教えよ、箴言22:6。

幼な子らをそのままにしておきなさい。わたしのところに来るのをとめてはならない、マタ19:14。両親に従いなさい、エペ6:1-3(コロ3:20)。

墮落がなかったならば、アダムとエバは子供を持たなかったであろう、2ニフ2:22-23。子供たちに真理の道をまじめに歩むように教えなさい、モサ4:14-15。幼い子供たちも永遠の命を得る、モサ15:25。イエスは幼い子供たちを一人一人抱いて祝福し、3ニフ17:21。あなたの子孫は皆、主によって教えを受け、あなたの子孫の平安は深い、3ニフ22:13(イザ54:13)。幼い子供たちは悔い改めもバプテスマも必要ない、モロ8:8-24。

幼い子供たちは、わたしの独り子によって世の初めから贖われている、教義29:46-47。両親は子供に福音の原則と生活習慣を教えなければならない、教義68:25, 27-28。幼い子供たちは、イエス・キリストの贖罪によって聖められているので、聖い者である、教義74:7。両親は子供たちを光と真理の中で育てるようにと命じられている、教義93:40。

責任を負う年齢に達する前に死ぬ子供たちは皆、天の日の榮えの王国に救われる、教義137:10。

ゴモラ 「ソドム」参照

『旧約聖書』の中の町。主によって滅ぼされた(創世19:12-29)。

懲らしめ 「逆境」参照

個人やグループの改善と強化のためになされる矯正や懲戒。

全能者の懲らしめを軽んじてはならない、ヨブ5:17(箴言3:11)。主よ、あなたによって懲らされる人はさいわいです、詩篇94:12。

聖書はすべて、人を戒め、正しく導くのに有益である、2テモ3:16。主は愛する者を訓練し、ヘブ12:5-11。

主は御自分の民を懲らしめるのを、御心にかなうことと見ておられる、モサ23:21-22。主が御自分の民を懲らしめられなければ、彼らは主を思い起こそうとしない、ヒラ12:3。主はヤレドの兄弟と話し、彼を懲らしめられた、エテ2:14。

懲らしめを受けて、悔い改められるようにするため、教義1:27。わたしはまた、愛する者たちを懲らしめる。それは、彼らの罪が赦されるためである、教義95:1。懲らしめに耐えない者は皆、聖められることはあり得ない、教義101:2-5。わたしの民は従順を学ぶまで、必ず懲らしめを受けなければならない、教義105:6。懲らしめに耐えない者は、わたしの王国にふさわしくない、教義136:31。

ゴリアテ 「ダビデ」参照

『旧約聖書』の中の人物。イスラエル軍に戦いを挑んだペリシテの巨人。ダビデはゴリアテの挑戦を受け入れ、主の助けによって彼を殺した(サ上17章)。

コリアンタマー

コリアンタマー 「ヤレド人」参照

『モルモン書』の中の人物。ヤレド人の王。ヤレドの民の最後の残存者。

ゼラヘムラの民によって発見された、オム 1:21。全地を治める王であった、エテ 12:1-2。シェレドによって囚われの身となつたが、息子たちによって自由の身となつた、エテ 13:23-24。様々な敵と戦つた、エテ 13:28-14:31。悔い改めた、エテ 15:3。シズと最後の戦いをした、エテ 15:15-32。

コリアントン 「アルマ(アルマの息子)」参照

『モルモン書』の中の人物。息子アルマの子。

ゾーラム人の中に出かけて行った、アル 31:7。務めを放棄して、娼婦を追つて行った、アル 39:3。アルマは彼に、人の死後の状態と復活と贖罪について教えた、アル 39-42 章。再び御言葉を宣べ伝えるように求められた、アル 42:31。船で北方の地へ行った、アル 63:10。

コリホル 「反キリスト」参照

『モルモン書』の中の人物。神の力の証拠としてしるしを求めた反キリスト。主はコリホルを物が言えないようにされた（アル 30:6-60）。

コリント人への手紙 「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の2書。もともとはパウロがコリントの聖徒に、彼らの中に見られる無秩序を正すために書き送った手紙であった。コリント人は道徳的に邪悪な社会に住んでいた。

コリント人への第一の手紙：第1章に

は、パウロのあいさつと、一つになるようについて聖徒たちへの勧告が記されている。第2-6章にはコリント人の過ちをたしなめるパウロの言葉、第7-12章には、幾つかの質問に対するパウロの答えが記されている。第13-15章は、慈愛や霊的な賜物、復活に関連した内容になっている。第16章には、信仰を強く保つようにとのパウロの勧告が含まれている。

コリント人への第二の手紙：第1章には、パウロのあいさつと慰めの言葉が記されている。第2章には、テトスへの個人的な助言が含まれている。第3-7章には、聖徒と指導者の生活における福音の力が採り上げられている。第8-9章には、貧しい人々に喜んで与える人になるようにとの聖徒への勧告が記されている。第10-12章では、パウロが使徒としての自分の立場を明確にしている。第13章には、完全になるようにとの勧告が記されている。

ゴルゴタ 「イエス・キリスト」「十字架の刑」参照

アラム語で「されこうべ」の意味。キリストが十字架につけられた場所（マタ 27:33；マコ 15:22；ヨハ 19:17）。ラテン語ではカルバリと呼ばれる。

コルネリオ 「異邦人」「百卒長」「ペテロ」参照

ペテロからバプテスマを受けたカイザリア（カイザリヤ）の百卒長（使徒10章）。ユダヤ教への改宗を経ずに教会に加わった最初の異邦人であったと思われる。コルネリオとその家族のバプテスマは、異邦人への福音宣教の開始を告げるものであった。この宣教を指導したのは、當時、地上における神の王国の鍵を持っていた使徒の頭ペテロであった。

コロサイ人への手紙 「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の1書。これはもともと使徒パウロがコロサイの教会の伝道者エパフラスの訪問を受けた後に、コロサイ人に書き送った手紙であった（コロ1：7-8）。エパフラスはパウロに、コロサイ人が重大な過ちに陥ろうとしていると述べた。彼らは、幾つかの外形的儀式に注意深く従い（コロ2：16）、また物質的な欲求を断ち、天使礼拝を行つてゐるということで自分たちが他の人々よりも優れていると考えていたのである（コロ2：18）。コロサイ人たちは、このような行きのゆえに、自分たちは聖められていると考えていた。彼らはまた、自分たちは他の教員よりも、宇宙の奥義を深く理解していると思っていた。パウロはその手紙の中で、贖いはキリストを通してのみ与えられること、また教員は賢くあってキリストに仕えなければならないことを教え、彼らの過ちを正した。

第1章には、コロサイ人へのパウロのあいさつが記されている。第2-3章は教義的な内容であり、贖い主としてのキリスト、偽りの礼拝の危険性、復活の重要性などについて述べている。第4章では、聖徒はすべてのことにおいて賢くなければならないと教えている。

殺す 「殺人」「死刑」参照

コロブ

神の御座に最も近い位置にある星（アブ3：2-3、9）。

アブラハムはコロブと数々の星を見た、アブ3：2-18。主の時はコロブの計算による、アブ3：4、9（アブ5：13）。

罪悪感 「悔い改め」参照

罪に伴う後悔や悲しみの情。

罪を犯し、とがを得たならば、レビ6：1-6。

罪のある者は、真理を厳しいものと思う、1ニフ16：2。わたしたちは、自分で罪があることについて、すべて完全な知識を得る、2ニフ9：14。わたしの罪がすでにぬぐい去られた、エノ1：6。罰が定められ、良心のとがめを生じさせた、アル42：18。自分の罪にだけ心を悩まし、その悩みによって悔い改めに導かれるようにしてもらいたい、アル42：29。

あなたがたのある者はわたしの前に罪悪があるが、わたしは、あなたがたを憐れもう、教義38：14。

神の御子は最初のとがを贖われ、モセ6：54。

最後の裁き 「イエス・キリスト—裁き」

「裁き」「罪の宣告」参照

復活の後に行われる最終的な裁き。神はイエス・キリストを通して、一人一人の人間がどの永遠の栄光を受けるか決めるために、裁きを行われる。この裁きは、イエス・キリストの贖いの犠牲を受け入れたかどうかを含めて、神の戒めに対する各人の従順さを基準にして行われる。

父はだれをもさばかない。さばきのことはすべて、子にゆだねられた、ヨハ5：22。わたしたちはみな、キリストのさばきの座の前に立つのである、KJロマ14：10。死人は、書かれていることにしたがって、さばかれた、黙示20：12（教義128：6-7）。

あなたがたは自分のすべての行いについて裁きを受ける、1ニフ10：20。十二使徒と12人のニーファイ人の弟子はイスラエルを裁く、1ニフ12：9-10（教義29：12）。すべての人は、イスラエルの聖者の裁きの座の前に出なければならない、2ニフ9：15。あの榮えある日の

ために、あなたがた自身を備えなさい、
2 ニフ 9：46。神の裁きの座に連れ出される自分自身を、心に描くことができるであろうか、アル 5：17-25。イエス・キリストは立って世を裁かれる、3 ニフ 27：16。

主は裁きのためにろいをもって、神を敬わない者のうえに降って来られる、
教義 133：2。

最後の晩餐 「過越」「聖餐」参照

『新約聖書』に書かれている、イエスが捕縛されて十字架につけられる前に取られた最後の食事（ルカ 22：14-18）。イエスと12人の使徒たちは過越のときにこの食事をされた（マタ 26：17-30；マコ 14：12-18；ルカ 22：7-13）。

イエスはパンとぶどう酒を祝福し、弟子たちに与えられた、マタ 26：26-29（マコ 14：22-25；ルカ 22：7-20）。イエスは弟子たちの足を洗われた、ヨハ 13章。イエスはユダが裏切ろうとしていると言われた、ヨハ 13：21-26（マタ 26：20-25）。

祭司（アロン神権の）「アロン（モーセの兄）」「アロン神権」「大祭司」参照

アロン神権の職の一つ。古代において祭司の職は、アロンとその子孫だけに授けられた、レビ神権の最高位の職であった。キリストがモーセの律法を成就されたことにより、この制限は取り除かれた。

回復された教会の祭司の義務が述べられる、教義 20：46-52。

祭司（メルキゼデク神権の）「大祭司」「メルキゼデク神権」参照

ほかの人々のために、神に対して宗教上の儀式を執行する人。聖典に述べられている祭司は、実際はメルキゼデクの

位に従う大祭司を指していることが多い（アル 13：2）。復活の後に神の完全な榮光を受ける人々は、日の榮えの世界で祭司となり王となる。

メルキゼデクはいと高き神の祭司であった、創世 14：18。あなたはメルキゼデクの位にしたがってとこしえに祭司である、詩篇 110：4（ヘブ 5：6；7：17，21）。

わたしたちを、父なる神のために、王とし、祭司として下さった、KJ 黙示 1：6（黙示 5：10；20：6）。

主なる神が、聖なる位に従って祭司たちを聖任されたことを覚えておいてほしい、アル 13：1-20。

正しい者の復活の時に出て来る人々は祭司であり、王である、教義 76：50，55-60。

最初の示現 「スミス、ジョセフ、ジュニア」「福音の回復」参照

ある森の中で父なる神と御子イエス・キリストが預言者ジョセフ・スミスに御姿を現された出来事。

1820年春、ジョセフ・スミス・ジュニアは14歳であり、家族とともにニューヨーク州パルマイラという町に住んでいた。彼らの家から西へ少し行った所に大きな木の生い茂る森があった。ジョセフはその森へ行き、どの教会が正しいかを知るために、神に祈りをささげた。以前、『聖書』を読んでいて、その答えを神に求めなければならないと強く心に感じていたのである（新ヤコ 1：5-6）。ジョセフの祈りにこたえて御父と御子が御姿を現し、それらのどれにも加わってはならない、すべて間違っているからである、と言われた（ジー歴史 1：15-20）。この神聖な体験は、福音とイエス・キリストのまことの教会の回復をもたらす出来事の始まりを告げるものであった。

祭壇 「犠牲」参照

犠牲や供え物をささげたり礼拝したりするために用いられる構築物。

ノアは主に祭壇を築いて、燔祭をささげた、創世8：20。アブラムは主のために祭壇を築いた、創世12：7-8。アブラハムはその子イサクを縛って祭壇の上に載せた、創世22：9（創世22：1-13）。ヤコブは祭壇を築き、その所をエル・ベテルと名づけた、創世35：6-7。エリヤは祭壇を築き、バアルの預言者たちに挑んだ、列上18：17-40。

祭壇に供え物をささげようとする場合、まず兄弟と和解しなさい、マタ5：23-24。神の言のゆえに殺された人々の靈魂が、祭壇の下にいるのを、わたしは見た、黙示6：9（教義135：7）。

リーハイは石で一つの祭壇を築き、主に感謝をささげた、1ニフ2：7。

アブラハムはエルケナの祭壇上で死から救われた、アブ1：8-20。

再臨（イエス・キリストの）「イエス・キリストの再臨」参照

サウル（イスラエルの王）

『旧約聖書』の中の人物。分裂前のイスラエルの最初の王。治世の当初は義人であったが、後に高慢になり、神に対し不従順になった（サ上9-31章）。

サウロ（タルソの）「パウロ」参照

ザカリヤ「エリサベツ」「ヨハネ（バプテスマの）」参照

『新約聖書』の中の人物。バプテスマのヨハネの父。祭司の職にあって、神殿で務めを果たした。

聖所と祭壇との間で殺された、マタ23：35（ルカ11：50）。天使ガブリエルは、ザカリヤとその妻エリサベツに、男の子

が授けられると約束した、ルカ1：5-25（教義27：7）。口が開けて舌がゆるみ、神をほめたたえた、ルカ1：59-79。

ささげ物「犠牲」「什分の一」「断食」「福祉」「施し」参照

主への贈り物。『旧約聖書』では、犠牲あるいは燔祭を指す言葉としてしばしば用いられている。今日の教会は、断食献金や自由意志によるささげ物を（時間や才能や持ち物を含め）、貧しい人々への援助やその他の価値ある事柄のために用いている。

あなたがたは、わたしの物を盗んでいる。十分の一と、ささげ物をもってである、マテ3：8-10。

まず兄弟と和解し、それから供え物をささげることにしなさい、マタ5：23-24。

自分自身をキリストへのささげ物としてささげ、オム1：26。人はささげ物をしても、真心からしなければ、その人にとて何の役にも立たない、モロ7：6。

レビの子らが再び義をもってささげ物を主にささげるまで、アロン神権は決して再び地上から取り去られることはない、教義13章。主の日に、あなたはないと高き方にあなたの供え物と式をささげなければならない、教義59：12。わたしたちは教会として、また民として、また末日聖徒として、義をもってささげ物を主にささげましょう、教義128：24。

定め「儀式」参照

神の律法や掟を意味する。

彼らに定めと判決を教えなさい、出エ18：20。わたしの定めを守って行い、エゼ11：20。

神の定めを守ってきたことが、どんな益になっているか、3ニフ24：13-14。

祈り、また悔いる靈を持っている者は、わたしの定めに従うならば、わたしに受け入れられる、**教義 52:14-19。**

サタン 「悪魔」参照

殺人 「カイン」「死刑」参照

故意に、また不当に人命を奪うこと。殺人は時の初めから罰すべき罪としてとがめられてきた（創世 4:1-12；モセ 5:18-41）。

人の血を流すものは、人に血を流される、**創世 9:6** (JS 創世 9:12-13；出エ 21:12；アル 34:12)。あなたは殺してはならない、**出エ 20:13** (申命 5:17；マタ 5:21-22；モサ 13:21；教義 59:6)。

殺すな、**マタ 19:18**。人殺しは第二の死を報いとして受ける、**黙示 21:8**。

あなたがたは心の中で人殺しをした、**1ニフ 17:44**。故意に人を殺す者は災いである、**2ニフ 9:35**。主なる神は、人を殺してはならないと命じられた、**2ニフ 26:32**。殺人は主にとって忌まわしい行いである、**アル 39:5-6**。

殺す者は赦しを得られない、**教義 42:18**。人を殺すならば、その者を引き渡し、その地の法律に従って処置することになる、**教義 42:79**。

サドカイ人 「ユダヤ人」参照

ユダヤ人の中では少数派であったが、政治的に有力な一派であった。彼らはモーセの律法に字義どおりに従う厳密な信条と、靈や天使の存在ならびに復活と永遠の命の教義の否定によって最もよく知られていたと思われる（マコ 12:18-27；使徒 4:1-3；23:7-8）。

裁き 「イエス・キリスト—裁き」「最後の裁き」「罪の宣告」参照

福音の原則との関連において行いを評

価すること。判断を下すこと。善惡を区別すること。

モーセは座して民をさばいた、**出エ 18:13**。正義をもって隣人をさばかなければならない、**レビ 19:15**。

人をさばくな。自分がさばかれないためである、**マタ 7:1** (JS マタ 7:1-2；ルカ 6:37；ニフ 14:1)。律法のもとで罪を犯した者は、律法によってさばかれる、**ロマ 2:12**。聖徒は世をさばく、**1コリ 6:2-3**。

永遠の神の御子は世に裁かれた、**1ニフ 11:32**。小羊の十二使徒はイスラエルの十二部族を裁く、**1ニフ 12:9** (教義 29:12)。死と地獄と悪魔と、それらに捕らえられたすべての者は、裁かれる、**2ニフ 28:23** (1ニフ 15:33)。物乞いをする人を、あなたがたが裁くならば、自分の持ち物を与えないことで罪に定められることの方が、もっと理にかなってはないだろうか、**モサ 4:22**。人々が自分の行いに応じて裁かれる、**アル 41:3**。義にかなって裁き、絶えず善を行ひなさい、**アル 41:14**。これから書き記される数々の書によって、民は裁かれるであろう、**3ニフ 27:23-26** (黙示 20:12)。この民の残りの者は、イエスがエルサレムの地で選ばれた12人から裁きを受ける、**モル 3:18-20**。モルモンは善惡を判断する方法を説明した、**モロ 7:14-18**。

義にかなって裁くように導く御靈を信頼しなさい、**教義 11:12**。あなたがたは心の中で言うべきである。すなわち、「神がわたしとあなたの間を裁いてくださるように」と、**教義 64:11**。主の教会はもろもろの国民を裁く、**教義 64:37-38**。御子は獄にいる靈を訪れ、彼らが肉において人間として裁きを受けることができるようになされた、**教義 76:73** (1ペテ 4:6)。ビショップはイスラエルの判士となる、**教義 107:72-74**。主なるわたしは、すべての人をその行いに応じ

て、またその心の望みに応じて裁く、**教義** 137:9。

サマリヤ 「サマリヤ人」参照

『旧約聖書』の中の地名。イスラエルの北王国の首都（列上 16:23-24）。丘の上に位置するという軍事上の利点から、アッシリア人（アッシリヤ人）も3年にわたる包囲の末にようやく占領できたほどである（列下 17:5-6）。ヘロデがこれを再建し、セバステと呼んだ。新約の時代には、サマリア（サマリヤ）はヨルダン川西域のパレスチナ中央部全体を指す地名として用いられていた。

サマリヤ人 ^{びよ} 「サマリヤ」参照

『聖書』の中の民。イスラエルの北王国がアッシリア人（アッシリヤ人）に占領された後に、サマリア（サマリヤ）に住んだ人々。サマリア人（サマリヤ人）は、イスラエル人と異邦人の混血であった。彼らの宗教は、ユダヤ人と異教徒の信仰と慣習の混じり合ったものである。ルカ 10:25-37 の良いサマリア人のたとえからは、サマリア人がイスラエルの宗教に背を向けていたことで、ユダヤ人が彼らに憎しみを募らせていたことがうかがえる。主は使徒たちに、サマリア人にも福音を教えるように命じられた（使徒 1:6-8）。ピリポ^のはサマリアの人々にキリストの福音を宣べ伝え、彼らの間で数多くの奇跡を行った（使徒 8:5-39）。

サム 「リーハイ（ニーファイの父）」 参照

『モルモン書』の中の人物。リーハイの三男（1ニフ2:5）。正しく聖なる人で、主に従うことを選んだ（1ニフ2:17; 2ニフ5:5-6; アル3:6）。

サムエル（旧約の預言者）

旧約の預言者。エルカナとハンナの

サムエル（旧約の預言者）

息子。母の祈りへの答えとして生まれた（サ上1章）。幼年時代、サムエルはシロに置かれていた幕屋で大祭司の務めにあつたエリのもとで育てられた（サ上2:11; 3:1）。主は年若いサムエルを預言者として召された（サ上3章）。エリの死後、サムエルはイスラエルの偉大な預言者、士師となり、律法と秩序、規則にのつとった宗教礼拝を回復した（サ上4:15-18; 7:3-17）。

サムエル上 28:5-20 には、サウル王の要請でエンドルの口寄せがサムエルを死から呼び起こしたという記述がある。しかし、これを神からの示現と考えることはできない。口寄せやその他の靈媒には、自分の求めに従って預言者を登場させるような力はないからである。

サムエル記上・下：『聖書』によっては、この上下巻をまとめて1書としているものもあり、2書に分けられているものもある。この2書は、サムエルの誕生からダビデ王の死の直前までの約130年の期間を扱っている。

サムエル記上：第1-3章には、主がエリの家族に災いを宣告して、罰を下されたこと、またサムエルを大祭司と士師の職に召されたことが書かれている。第4-6章には、契約の箱がペリシテ人の手に渡ったときさつが述べられている。第7-8章には、偽りの神々と悪い王を持つことに対するサムエルの警告が書かれている。第9-15章には、サウルの戴冠と、王としての彼の治世が述べられている。第16-31章には、ダビデの経験と彼が力をつけていく様子が描かれている。サムエルはゴリアテを倒したダビデに油を注いだ。サウルはダビデを憎んだ。しかしダビデは機会があったにもかかわらず、サウルを殺そうとしたしなかった。

サムエル記下：この書には、ユダの王、また後には全イスラエルの王としてのダ

サムエル（レーマン人）

ダビデの治世が詳細に描かれている。第1-4章には、ダビデがユダの王になった後も、ダビデの支持者とサウルの支持者の間で長い争いがあったことが記されている。第5-10章には、ダビデが多くの地域で権勢を伸ばしていった様子が描かれている。第11-21章には、自分自身の罪と家族の内部から起きた反逆のために、ダビデの靈的な力が衰えていく様子が描かれている。第22-24章には、ダビデの神との和解への試みが描かれている。

サムエル（レーマン人）

『モルモン書』の中の人物。レーマン人の預言者。ニーファイ人に教えと警告を与えるために、救い主の降誕直前に主から遣わされた。サムエルはイエス・キリストの降誕と死のしるし、ならびにニーファイ人の滅亡について預言した（ヒラ13-16章）。

サムソン

『旧約聖書』の中の人物。イスラエルの12番目の士師。サムソンは怪力で知られていたが、道徳的な選択と行いという面で幾つか過ちを犯した（士師13：24-16：31）。

サラ 「アブラハム」参照

『旧約聖書』の中の人物。アブラハムの最初の妻。老年になって、イサクを産んだ（創世18：9-15；21：2）。

サライア 「リーハイ（ニーファイの父）」参照

『モルモン書』の中の人物。リーハイの妻（1ニフ5：1-8；8：14-16；18：19）。子供として、レーマン、レムエル、サム、ニーファイ、ヤコブ、ヨセフ、それに何人かの娘がいた（1ニフ2：5；2ニフ5：6）。

サレム 「エルサレム」「メルキゼデク」参照

『旧約聖書』の中の地名。メルキゼデクが統治した町。この町は現在のエルサレムと同じ場所にあったと思われる。「サレム」という名は「平和」を意味するヘブライ語によく似ている。

サレムの王メルキゼデクはパンとぶどう酒とを持ってきた、創世14：18。

メルキゼデクはサレムの王であり、いと高き神の祭司であった、ヘブ7：1-2。

メルキゼデクは、サレムの地を治める王であった、アル13：17-18。

賛意の表明 「同意の律法」参照**産児制限 「家族」「結婚」参照**

妊娠を避けたり、抑制したりして、子供の出産数を制限すること。

生めよ、ふえよ、地に満ちよ、創世1：28（モセ2：28）。子供たちは神から賜わった嗣業である、詩篇127：3-5。

リーハイの家族は主のために子供をもうけられるようにした、1ニフ7：1。

結婚は人のために神によって定められている、教義49：15-17。とこしえにいつまでも子孫が満ちて続く、教義132：19、63。

山上の垂訓 「イエス・キリスト」「至福の教え」参照

主イエス・キリストが、これから召しを受けて人々の間に遣わされることになっていた弟子たちに向けて語られた説教（マタ5-7章；ルカ6：20-49）。主がこの教えを説かれたのは、十二使徒を召された直後である。

この説教の内容は、『聖書』のジョセフ・スマミス訳と3ニーファイ12-14章に記録されている同様の説教によって意味が

明確になっている。また、これら二つの記録により、マタイの記録から説教の重要な部分が失われていることが分かる。

三人の弟子（ニーファイ人の）「弟子」「ニーファイ人」「身を変えられた人」参照

『モルモン書』の中の人物。キリストが選ばれた3人の弟子。

主はこの3人の弟子に、^{愛する}弟子ヨハネと同じ祝福を受けられた。それは、主が再び来られるまで地上にとどまり、人々をキリストのもとに導くことができるというものである。彼らは苦しみを感じることも死ぬこともないように、身を変えられた（3ニフ28章）。

キリストは、その来臨の時まで生き長らえたいという3人の弟子たちの願いを聞き入れられた、3ニフ28:1-9。死の苦しみや悲しみを感じることがない、3ニフ28:7-9。彼らは満ちみちる喜びを得る、3ニフ28:10。一時的に天に引き上げられた、3ニフ28:13-17。彼らは民に仕え、迫害に耐えた、3ニフ28:18-23。モルモンを教え導いた、3ニフ28:24-26（モル8:10-11）。異邦人、ユダヤ人、散らされた部族、およびすべての国民に仕える、3ニフ28:27-29。サタンは彼らを支配する力をまったく持てない、3ニフ28:39。

賛美 「栄光」「感謝」参照

賛美歌 「歌う」「音楽」参照

神をたたえる歌。

十二使徒が賛美の歌を歌った後、主はゲツセマネへ行かれた、マタ26:30。

主は賛美歌を選ぶためにエマ・スミスを召された、教義25:11。義人の歌はわたしへの祈りである。それに対する答えとして、彼らの頭に祝福が注がれるで

死（肉体の）

あろう、教義25:12。歌と音楽をもって主をほめたたえなさい、教義136:28。

サンヒドリン 「ユダヤ人」参照

行政と宗教の両面における、ユダヤの最高議会、最高法廷。サンヒドリンは、祭司長、律法学者、長老の中から選ばれた71人の議員で構成されていた。『聖書』の中ではしばしば「議会」と呼ばれている（マタ26:59；マコ14:55；使徒5:34）。

散乱（イスラエルの）「イスラエル—イスラエルの散乱」参照

死（第二の）「死（霊の）」参照

死（肉体の）「死すべき状態」「救い」「墮落（アダムとエバの）」「復活」参照

肉体と霊の分離。アダムの墮落以前、地上にいた命あるものは死ぬことがなかった（2ニフ2:22；モセ6:48）が、墮落によって、地上に腐朽と死がもたらされた。しかし、イエス・キリストの贖罪が死を征服したので、すべての人が復活するようになった（1コリ15:21-23）。復活は、現世において善をなしたか悪をなしたかにかかわらず、すべての人に無料で与えられる賜物である（アル11:42-44）。人は皆肉体の死を一度だけ経験するが、一度復活した後は、二度と死なない体になる（アル11:45）。

すべての肉は共に滅び、人はちりに帰るであろう、ヨブ34:15。主の聖徒の死はそのみ前において尊い、詩篇116:15。ちりは土に帰り、靈は神に帰る、伝道12:7。

死がひとりの人によってきた、1コリ15:21。死と黄泉とのかぎを持っている、黙示1:18。もはや、死もなく、悲しみもない、黙示21:4。

死がすべての人に及ぶようになった。
2ニフ9:6, 11（アル12:24）。死を少しも恐ろしいと思わなかった、アル27:28。アルマは死と復活の間の人の状態について説明した、アル40:11。

わたしにあって死ぬ者は死を味わわないであろう、教義42:46。死に定められていらない者は、癒されるであろう、教義42:48。死に至るまでも、あらゆる点であなたがたを試す、教義98:14。

あなたはちりに帰る、モセ4:25。アダムの墮落によって死が生じ、モセ6:48。

死（靈の）「悪魔」「地獄」「救い」「墮落（アダムとエバの）」「罰の定め」「滅びの子」参照

神とその影響からの分離。義に関する事柄について死んだ状態になること。ルシフェルと天の衆群の3分の1は、天から投げ落とされたときに靈の死を受けた（教義29:36-37）。

靈の死はアダムの墮落によって世にもたらされた（モセ6:48）。思いや言葉や行いが邪悪な人は、たとえこの世に生きていたとしても、靈的には死んでいる（1テモ5:6）。イエス・キリストの贖罪を通して、また福音の原則と儀式に従うことにより、人は男女を問わず罪から清められ、靈の死に打ち勝つことができた。

靈の死は肉体の死の後にも起こる。復活した人に対しても、悪魔やその使いに対しても、裁きは行われるのである。福音の光と真理に故意に背く者は靈の死を受ける。この死はしばしば第二の死と呼ばれる（アル12:16；ヒラ14:16-19；教義76:36-38）。

悪を行う者は断ち滅ぼされ、詩篇37:9。

肉の思いは死である、ロマ8:6（2ニ

フ9:39）。情欲は人を滅びと破壊とに沈ませる、1テモ6:9。罪は死を生み出す、新ヤコ1:15。勝利を得る者は、第二の死によって滅ぼされることはない、黙示2:11。この人たちに対しては、第二の死はなんの力もない、黙示20:6, 12-14。火と硫黄の燃えている池が、邪悪な人々の受けべき報いである。これが第二の死である、黙示21:8（教義63:17-18）。

人は、自由と永遠の命を選ぶことも、束縛と死を選ぶことも自由である、2ニフ2:27（2ニフ10:23；アル29:5；ヒラ14:30-31）。神は死と地獄から逃れる道を備えてくださっている、2ニフ9:10。第二の死であるあの火と硫黄の池に投げ込まれることのないように、地獄の苦しみから自分自身を解き放しなさい、ヤコ3:11。生まれながらの人は神の敵であり、モサ3:19。主があなたがたに悔い改めることを許してくださって、あなたがたが第二の死を受けることのないように願っている、アル13:30。アルマは永遠の死の鎖に縛られていた、アル36:18。悪人は義にかかわることに関して死んだ状態になる、アル40:26（アル12:16）。墮落は全人類に靈の死ももたらした、アル42:9（ヒラ14:16-18）。

アダムは墮落したとき、靈的に死ぬことになった、教義29:40-41, 44。

慈愛「愛」「哀れみ」「福祉」「奉仕」参照

キリストの純粹な愛（モロ7:47）。キリストが人の子らに対して抱いておられる愛、また人の子らが互いに抱くべき愛（2ニフ26:30; 33:7-9；エテ12:33-34）。単なる愛慕の情ではなく、最も気高く、尊く、しかも強い愛。

知識は人を誇らせ、愛は人の徳を高める、1コリ8:1。慈愛すなわち純粹な愛は、

他のいかなるものよりも大いなるものである。1コリ13章。この命令は、清い心から出てくる愛を目標としている。1テモ1:5。兄弟愛に愛を加えなさい。2ペテ1:7。

人は皆、慈愛すなわち愛を持つようにとの戒めを与えられた。2ニフ26:30(モロ7:44-47)。あなたがたは信仰、希望、慈愛を必ず持つようにしてほしい。アル7:24。あなたが人の子らに対して抱いておられたこの愛が慈愛である。エテ12:33-34。人は慈愛を持たなければ、あなたが御父の住まいに用意してくれださった場所を受け継ぐことができません。エテ12:34(モロ10:20-21)。モロナイは、信仰と希望と慈愛について述べたモルモンの言葉を記録した。モロ7章。

慈愛を持つ者には、主の業に携わる資格がある。教義4:5-6(教義12:8)。慈愛のきずなを、身にまといなさい。教義88:125。あなたの心が慈愛で満たされるようにしなさい。教義121:45。

シーレム 「反キリスト」参照

『モルモン書』の中の人物。キリストを否定し、しるしを求めた(ヤコ7:1-20)。

ジェロム

『モルモン書』中の人物。エノスの息子で、リーハイの曾孫に当たる。ジェロムは紀元前420-361年までの60年間、ニーファイ人の記録を保管した(エノ1:25; ジェロ1:13)。彼は歴史的な記録をあまり書かなかつたが、忠実な人物であった(ジェロ1:2)。

ジェロム書:『モルモン書』の中で、この書はわずか15節しかない。ジェロムは、ニーファイ人がモーセの律法を守り続け、キリストの来臨を待ち望んでいた

ことを記録している。ニーファイ人は信仰の篤い王たちによって導かれた。彼らは、預言者や祭司、教師の言葉を心に留めたときには榮えた。

塩

古代世界においては、食物の保存料として重要であった。また、生命の維持に不可欠のものと考えられていた。

ロトの妻は塩の柱になった。創世19:26。

あなたがたは、地の塩である。マタ5:13(ルカ14:34; 3ニフ12:13)。

永遠の聖約を交わすとき、彼らは地の塩と見なされる。教義101:39-40。聖徒が人々の救い手でなければ、彼らは塩気を失った塩のようである。教義103:9-10。

シオン 「エノク」「新エルサレム」参照

心の清い者(教義97:21)。シオンという言葉には、心の清い人々が住む所という意味もある。エノクとその民が築き、ついに義のゆえに天に取り上げられた町はシオンと名付けられた(教義38:4; モセ7:18-21, 69)。末日にシオンという名の町がミズーリ州ジャクソン郡の近くに建設される。そしてイスラエルの諸部族がここに集合する(教義103:11-22; 133:18)。聖徒たちは、世界のどこに住んでいるかにかかわらず、その地でシオンを築くように勧告されている。

ダビデの町はシオンと呼ばれた。列上8:1。律法はシオンから出る。イザ2:2-3(ミカ4:2; 2ニフ12:2-3)。贖い主はシオンに来られる。イザ59:20。町からひとり、氏族からふたりを取って、あなたがたをシオンへ連れて行こう。エレ3:14。シオンの山とエルサレムとに、のがれる者があるからである。ヨエ2:32(オバ1:17)。

死海

わたしのシオンを起こそうと努める者は幸いである。1ニフ13:37。シオンの娘たちは高ぶり、2ニフ13:16（イザ3:16）。シオンでのんきに暮らす者は、災いである、2ニフ28:19-25。

シオンの大義を起こして確立するよう努めなさい、教義6:6（教義11:6）。わたしは、善のために大いなる力をもってシオンの大義を推し進めるようにと彼に靈感を与えた、教義21:7。新エルサレムはシオンと呼ばれる、教義45:66-67。ミズーリ州インディペンデンスは、シオンの町のための場所である、教義57:1-3。悔い改めるまで、シオンの子らのうえに懲らしめが残る、教義84:58。

主はその民をシオンと呼ばれた。彼らが心を一つにし、思いを一つにし、義のうちに住んだからである、モセ7:18-19。シオンがアメリカ大陸に築かれる、箇条1:10。

死海

ヨルダン渓谷南端の塩湖。「塩の海」と呼ばれた。湖面は地中海の海面より約400m低い。湖岸近くには、ソドム、ゴモラ、またペラとも呼ばれたゾアルなどの町があった（創世14:2-3）。

預言の成就として、また救い主の再臨のしるしの一つとして、死海の水は清くなり、多くの生き物が住むようになる（エゼ47:8-9）。

識別の賜物 「御靈の賜物」参照

御靈の力によって理解すること、知ること。識別の賜物は御靈の賜物の一つである。この賜物には、人の本来の姿や、靈的な現れの源や意味を理解することも含まれる。

人は外の顔かたちを見、主は心を見る、サ上16:7。彼らは悪を呼んで善といい、

イザ5:20（2ニフ15:20）。

神につけることは御靈によって判断される、1コリ2:14。ほかの人には靈を見わける力が与えられている、1コリ12:10。

思いを見抜くことができた、アル18:18。小さな声でありながら、聞いた人々の心の中まで貫いた、3ニフ11:3。

欺かれないと熱心に最善の賜物を求める、教義46:8, 23。教会の指導者は御靈の賜物を見分ける力を与えられる、教義46:27。光に満たされるその体はすべてのことを悟る、教義88:67。

モーセは地を見た。彼は神の御靈によってそれを見極めた、モセ1:27。

死刑「殺人」参照

犯罪者に対してその命を絶つ刑罰。特に殺人罪に対する罰として行われる。

人の血を流すものは、人に血を流される、創世9:6（JS創世9:12-13）。故殺人は必ず殺されなければならない、民數35:16。

故意に人を殺す者は災いである。彼は死ぬからである、2ニフ9:35。法律により、あなたに死刑を宣告する、アル1:13-14。人を殺す者は死刑に処せられた、アル1:18。法律は人を殺した当人の命を要求する、アル34:12。

殺す者は、死ななければならない、教義42:19。

示現「啓示」「最初の示現」「夢」参照

聖靈の力を通して与えられる、出来事や人物、物事についての目に見える啓示。

重要な啓示として、次のような例を挙げることができる。終わりの時についてのエゼキエルの示現（エゼ37-39章）、神の右にイエスが立っておられるのを見たステパノの示現（使徒7:55-56）、終わりの時についてのヨハネの黙示（黙

示4-21章), リーハイとニーファイの命の木の示現(1ニフ8:10-14章), 主の天使を見た息子アルマの示現(モサ27章), 地に住むすべての民を見たヤレドの兄弟の示現(エテ3:25), 栄光の示現(教義76章), カートランド神殿でジョセフ・スミスとオリバー・カウドリーに与えられた示現(教義110章), 死者の^{あがな}贖いに関するジョセフ・F・スミスの示現(教義138章), 神と創造についてのモーセの示現(モセ1章), 神にまみえたエノクの示現(モセ6-7章), ジョセフ・スミスの最初の示現(ジ—歴史1)。

示現がなければ民は滅びる, KJ 箴言29:18。若者たちは幻を見る, ヨエ2:28(使徒2:17)。

神は, 示現によってわたしに知識を授けられた, 2ニフ4:23。

神の前から遣わされた使者である, ジ—歴史1:33。わたしたちは, 預言, 啓示, 示現があることを信じる, 箇条1:7。

地獄 「悪魔」「死(靈の)」「罰の定め」「滅びの子」参照

末日の啓示では, 地獄という言葉は少なくとも二つの意味で用いられている。一つは, 現世において不従順であった人々が靈界で一時的にとどまる場所を指す。この意味では, 地獄にも終わりがある。靈たちはそこで福音を教えられ, 悔い改めた後に, 自分にふさわしい栄えの階級に復活する。悔い改めないながらも, 滅びの子とはならない者は, 福千年の間地獄にとどまる。この苦しみの千年の後に, 彼らは星の栄えの栄光に復活する(教義76:81-86; 88:100-101)。

もう一つは, イエス・キリストの贖罪によって贖われない者が永久にとどまる所を指す。この意味では, 地獄は永久的である。この地獄は「汚れたまま」の者のためにある(教義88:35, 102)。

サタンとその使い, ならびに滅びの子, すなわち御父から御子を示された後に御子を否定した者たちが永遠に住む場所である(教義76:43-46)。

聖典には, 地獄を外の暗闇と表現している箇所が幾つかある。

あなたはわたしを陰府に捨ておかれず, 詩篇16:10(詩篇86:13)。

地獄の消えない火の中に落ち込む, マコ9:43(モサ2:38)。金持が黄泉にいて苦しみながら, 目をあげると, ルカ16:22-23(教義104:18)。死も黄泉もその中にいる死人を出し, 默示20:13。

用意された場所が一つあります。まことに, それはあの恐ろしい地獄です, 1ニフ15:35。肉の思いは, 悪魔の靈に力を与え, あなたがたを捕らえて地獄に落とし, 2ニフ2:29。キリストは死と地獄から逃れる道を備えてくださった, 2ニフ9:10-12。汚れている者は永遠の苦痛の中に入る, 2ニフ9:16。悪魔は人々をだまし, 巧みに地獄に誘い落とすのである, 2ニフ28:21。イエスがわたしを地獄から贖ってくださった, 2ニフ33:6。地獄の苦しみから自分自身を解き放しなさい, ヤコ3:11。悪魔に捕らえられて, 悪魔の意のままに滅びに引き込まれる。地獄の鎖とはこのことを意味する, アル12:11。悪人の靈は外の暗闇に追い出され, 復活の時までその状態にとどまる, アル40:13-14。汚れた者が神とともに住むときの悲惨は, 地獄で罰の定めを受けている者たちとともに住むときの悲惨よりもひどいであろう, モル9:4。

わたしの手から与えられる罰は無窮の罰である, 教義19:10-12。地獄は悪魔とその使いのために用意された場所である, 教義29:37-38。神を認める者は死と地獄の鎖から解放される, 教義138:23。

支持（教会指導者の）

支持（教会指導者の）「同意の律法」

参照

中央また地元の教会指導者として働く人々を支えると誓うこと。

全会衆の前に立たせて、彼らの前で職に任じなさい、民数 27：18-19。民はみな「王万歳」と叫んだ、サ上 10：24。主の預言者を信じなさい。そうすればあなたがたは成功するでしょう、歴下 20：20。

あなたがたの指導者たちに従いなさい、ヘブ 13：17。

あなたはつぶやくことがなかったので、主から恵みを受けるであろう、1ニフ 3：6。預言者たちを受け入れた人々は命を助けられた、3ニフ 10：12-13。この12人の言葉に注意を払うならば、あなたがたは幸いである、3ニフ 12：1。

わたし自身の声によろうと、わたしの声によろうと、それは同じである、^{しかも}教義 1：38。あたかもわたし自身の口から出ているかのように、彼の言葉を受け入れなければならない、教義 21：5。この神権を受けるすべての者は、わたしを受け入れるのである、教義 84：35-38。だれでもわたしを受け入れる者は、わたしが遣わした者を受け入れる、教義 112：20。わたしが任命したこれらの者の声にも聞き従おうとしなければ、祝福されないのである、教義 124：45-46。

士師記

『旧約聖書』の中の1書。士師記は、ヨシュアの死からサムエルの誕生に至るまでのイスラエル人を扱ったものである。

第1-3章は、士師記全体の序に当たり、イスラエル人が敵をことごとく追い出すことをしなかったために（士師 1：16-35）、信仰の喪失、不信者との結婚、偶像礼拝という結果を招いてしまっ

たことが説明されている。第4-5章には、イスラエルをカナン人から救ったデボラと巴拉クの話が記されている。第6-8章は、主の祝福を受けてイスラエルをミデアン人から救った、信仰を鼓舞するギデオンの話である。第9-12章には、イスラエルの民のほとんどが背教し、異国の支配者により治められていたときにイスラエルの士師として働いた幾人かの話が載せられている。第13-16章には、最後の士師サムソンの隆盛と衰亡が描かれている。最後の第17-21章は付録に相当するもので、イスラエルの罪の深さを明らかにしている。

死者の救い 「^{あがな}贖いの計画」「覚えの書」「系図」「救い」参照

福音の救いの儀式を受けることなく死んだ人々のために、生きているふさわしい教会員が神殿でこれらの儀式を執行すること。死者は靈界で福音を教えられ、地上で彼らのために執行された儀式を受け入れることができる。

忠実な教会員は、先祖の名前や出生年月日を明らかにすることにより、彼らのための救いの儀式が執行されるように、家族の歴史を調べ、記録を作成する。

捕えられた人に「出よ」と言い、イザ 49：9（イザ 24：22；1ニフ 21：9）。捕われ人に放免を告げ、イザ 61：1（ルカ 4：18）。父の心をその子供たちに向けさせ、マラ 4：5-6（3ニフ 25：5-6；教義 110：13-16）。

死んだ人たちが、神の子の声を聞く時が来る、ヨハ 5：25。なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか、1コリ 15：29。獄に捕われている靈どものところに下って行き、宣べ伝えることをされた、1ペテ 3：18-20。死人にさえ福音が宣べ伝えられたのは、1ペテ 4：6。

獄にとどめられた人々の靈に、御子

が訪れて、福音を宣べ伝えられた、**教義 76:73**。獄において彼らの分を受けた者たちの贖いが来る、**教義 88:99**。わたしの聖徒たちが死者の代わりにバプテスマを受けるバプテスマフォントが地上にない、**教義 124:29**。福音を知らずに死んだ者で、受け入れたであろう者は皆、日の栄えの王国を受け継ぐ者となる、**教義 137:7-10**。神の御子が現れて、忠実であった囚われ人に自由を宣言された、**教義 138:18**。

獄にいた靈たちの多くが出て来て、**モセ 7:57**。

シズ 「ヤレド人」参照

『モルモン書』の中の人物。ヤレド人の軍隊の指導者。シズはヤレド人の国家全体を滅ぼした大戦争の最後に死んだ(エテ 14:17-15:31)。

死すべき状態 「体」「死（肉体の）」「墮落（アダムとエバの）」「世」参照

誕生から肉体の死に至るまでの期間。第二の位と呼ばれることがある。

それを取って食べると、きっと死ぬであろう、**創世 2:16-17**(モセ 3:16-17)。ちりは土に帰り、靈は神に帰る、**伝道 12:7**(創世 3:19; モセ 4:25)。

死ぬべきからだを罪の支配にゆだねることをせず、**ロマ 6:12**。死ぬものは必ず死がないものを着ることになる、**1コリ 15:53**(エノ 1:27; モサ 16:10; モル 6:21)。

人の状態は試しの状態となった、**2ニフ 2:21**(アル 12:24; 42:10)。アダムが墮落したのは人が存在するためであり、**2ニフ 2:25**。この死すべき体がよみがえって不死のものとなり、**アル 5:15**。現世は人が神におお会いする用意をする時期である、**アル 34:32**。

死に至るまでも恐れてはならない。こ

の世ではあなたがたの喜びは満たされない、**教義 101:36**。

第二の位を守る者は、どこしえに栄光をその頭に付け加えられる、**アブ 3:26**。

至聖所 「神殿、主の宮」「幕屋」参照

モーセの幕屋の中で、また後には神殿の中で最も神聖な部屋(出エ 26:33-34)。

舌 「異言の賜物」参照

口から出る言葉の象徴。聖徒は舌を制しなければならない。つまり、口から出る言葉を制しなければならないということである。舌はまた言語と民の象徴でもあり、その場合は「国語の民」と訳出される。最後には、すべてのひざがかがみ、すべての舌が神を認めて告白する(イザ 45:23; ロマ 14:11)。

あなたの舌をおさえて悪を言わせず、詩篇 34:13(1ペテ 3:10)。口と舌とを守る者はその魂を守って、悩みにあわせない、**箴言 21:23**。

もし人が舌を制することをしないならば、その人の信心はむなしい、**新ヤコ 1:26**。言葉の上であやまちのない人があれば、そういう人は、完全な人である、**新ヤコ 3:1-13**。

わたしの言葉を得るように努めなさい。そうすればその後、あなたの舌は緩められる、**教義 11:21**。

七十人 「使徒」「メルキゼデク神権」参照

男性が任じられるメルキゼデク神権の職の一つ。今日、七十人定員会として、中央幹部で構成される定員会と地域七十人で構成される定員会がある。七十人は大管長会と十二使徒定員会の指示の下で主の名によって務めを果たす(教義

十戒

107:34)。中央幹部の七十人は全時間を御業にささげている。

主は別に七十人を選ばれた。KJ ルカ 10:1。

七十人も召されて、福音を宣べ伝え、イエス・キリストの特別な証人となる。教義 107:25-26。七十人は、十二使徒会、すなわち巡回高等評議会の指示の下に主の名において行動し、教会を築き上げ、すべての国々において教会の諸事をすべて整える。教義 107:34。必要とされれば、70 の 7 倍まで、別の七十人を選び、教義 107:93-97。この定員会は、全世界でわたしの名について証する巡回長老のために設けられている。教義 124:138-139。

十戒 「戒め（神の）」「モーセ」参照

道徳的規範として預言者モーセを通して神から与えられた 10 の律法。

十戒を表すヘブライ語は「10 の言葉」という意味である。十戒は「契約」（申命 9:9）あるいは「あかし」（出エ 25:21;32:15）とも呼ばれている。神がモーセに十戒を与え、さらにモーセを通してイスラエルに与えられたことは、出エジプト 19:9-20:23;32:15-19;34:1 に記録されている。十戒は 2 枚の石の板に刻まれ、その板は箱の中に収められた。そのため、この箱は「契約の箱」（民数 10:33）と呼ばれた。主は申命 6:4-5 とレビ 19:18 を引用して、十戒を「ふたつの大切な戒め」に要約された（マタ 22:37-39）。

十戒は末日の啓示の中でも繰り返し述べられている（JS 出エ 34:1-2, 14 [付録]；モサ 12:32-37; 13:12-24；教義 42:18-28; 59:5-13）。

執事 「アロン神権」参照

使徒パウロの時代における教会の奉仕

の召し（ピリ 1:1; 1 テモ 3:8-13）。アロン神権の職の一つ（教義 20:38, 57-59; 84:30, 111; 107:85）。

使徒 「啓示」「弟子」参照

使徒に相当するギリシャ語には、「遣わされた者」の意味がある。これは、イエスが地上で務めを果たしておられたときに、最も身近な弟子となり助け手となるように選び聖任された 12 人々に、御自身でお与えになった呼び名である（ルカ 6:13; ヨハ 15:16）。イエスは昇天の後、御自身の代理人として、御自身に代わって務めを果たさせるために彼らを遣わされた。昔も、また今日の回復された教会の十二使徒定員会においても、使徒はイエス・キリストの神性と死者の中からの復活とを証する、全世界への特別な証人である（使徒 1:22；教義 107:23）。

キリストの教会は使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられる。エペ 2:20; 4:11。

リーハイとニーファイは、イエスに従う 12 人の使徒を見た、1 ニフ 1:10; 11:34。使徒たちがイスラエルの家を裁く、モル 3:18。

預言者たちや使徒たちの言葉を心に留めようとしている者たちが、民の中から絶たれる。教義 1:14 (3 ニフ 12:1)。十二使徒の召しと使命が明らかにされた、教義 18:26-36。ジョセフ・スマスが使徒に聖任された、教義 20:2; 21:1。使徒はキリストの名の特別な証人であり、その務めの鍵を持つ、教義 27:12 (教義 112:30-32)。十二使徒は、大管長会と同等の権能と力を持つ定員会を構成する、教義 107:23-24。十二使徒会は巡回管理高等評議会である、教義 107:33。十二使徒は伝道活動の鍵を持つ、教義 107:35。使徒の務めの幾つかが述

べられる、**教義** 107：58。わたしは十二使徒のすべてに言う。わたしに従い、わたしの羊を養いなさい、**教義** 112：14–15。

わたしたちは、使徒があることを信じる、**箇条** 1：6。

使徒の選任：使徒は主によって選ばれた（ヨハ 6：70；15：16）。

イエスは弟子たちの中から12人の使徒を選ばれた、**ルカ** 6：13–16。マッティヤが使徒として選ばれた、**使徒** 1：21–26。

オリバー・カウドリとデビッド・ホイットマーは十二使徒を探し出すように命じられた、**教義** 18：37–39。

使徒行伝 「ルカ」参照

ルカが書いてテオピロに献呈した2部作の2番目の書である。1番目の書は「ルカによる福音書」として知られている。第1–12章には、救い主の死と復活から間もなく、ペテロの指導の下に行われた十二使徒のおもな伝道活動が記されている。第13–28章は、使徒パウロの旅と伝道のあらましを伝えている。

シナイ山 「モーセ」「モーセの律法」参照

シナイ半島にある山。モーセとイスラエル人は、エジプトから脱出した後3か月間この近くに宿営した。この山はホレブ山とも呼ばれる（出エ 3：1）。ここで神はイスラエルの家のために、モーセに律法を受けられた。またここで幕屋が建設された（出エ 19：2；20：18；24：12；32：15）。

至福の教え 「山上の垂訓」参照

イエスが山上の説教の中で述べられた一連の教えで、優れた靈的特質につい

て説明したものである（マタ 5：3–12；ルカ 6：20–23）。一つ一つの教えがそれぞれに、前に述べられている教えを基にして組み立てられている。3ニーファイ12章には、この至福の教えがさらに包括的かつ正確な形で記録されている。

シプロン 「アルマ（アルマの息子）」参照

『モルモン書』の中の人物。息子アルマの息子。シプロンはゾーラム人に福音を教え、その義のために迫害された。主はその忠実さと忍耐とを御覧になって、彼を迫害から救い出された（アル 38章）。シプロンは一時期、ニーファイ人の記録を保管した（アル 63：1–2，11–13）。

詩篇 「音楽」「ダビデ」参照

靈感によって作られた詩、または贊美歌。

詩篇：『旧約聖書』の中の1書。詩を集めたもので、その多くはキリストのことを述べている。詩篇は『新約聖書』にしばしば引用されている。

詩篇の多くはダビデによって書かれた。詩篇は神への贊美として書かれ、その多くに旋律が付けられた。

姉妹 「女」「兄弟」「人」参照

天の御父の子供として、すべての人は男女を問わず、靈的な意味で兄弟姉妹である。末日聖徒イエス・キリスト教会では、女性の会員や教会に好意的な女性を姉妹と呼ぶことがよくある。

わたしの父のみこころを行う者はだれでも、わたしの兄弟、また姉妹なのである、マタ 12：50（マコ 3：35）。

教会の兄弟姉妹間の罪に関する告白について律法が定められる、**教義** 42：88–93。

自慢、誇り

自慢、誇り 「高慢」参照

シメオン 「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとその妻レアの間に生まれた2番目の息子（創世29：33；35：23；出エ1：2）。シメオンはレビとともにシケム人を虐殺した（創世34：25-31）。シメオンについてのヤコブの預言は、創世49：5-7に記されている。

シメオンの部族：シメオンの子孫はしばしばユダの部族とともに生活し、ユダ王国の領土内に住んだ（ヨシ19：1-9；歴上4：24-33）。シメオンの部族はユダと連合して、カナン人と戦った（士師1：3,17）。彼らは後にダビデの軍隊に加わった（歴上12：25）。

シモン（カナン人）

『新約聖書』の中の人物。イエス・キリストが最初に召された十二使徒の一人（マタ10：2-4）。

シモン・ペテロ 「ペテロ」参照

邪悪 「暗闇（靈的な）」「汚れ」「罪」「不義」「不信心」参照

よこしまで悪いこと。神の戒めに従わないこと。

どうしてわたしはこの大きな悪をおこなって、神に罪を犯すことができましょう、創世39：7-9。主は惡しき者に遠ざかり、正しい者の祈^{いのう}を聞かれる、箴言15：29。惡しき者が治めるとき、民はうめき苦しむ、箴言29：2（教義98：9）。

その悪人を、あなたがたの中から除いてしまいなさい、1コリ5：13。わたしたちの戦いは、天上にいる惡の靈に対する戦いである、エペ6：12。

悪人から去り、離れ、彼らの清くない

ものに触れてはならない、アル5：56-57（教義38：42）。これが悪人の最後の状態である、アル34：35（アル40：13-14）。悪事は決して幸福を生じたことがない、アル41：10。悪人によって悪人が罰せられる、モル4：5（教義63：33）。

そのときに、義人と悪人の完全な分離がある、教義63：54。

悪人の終わりが来る、ジーマタ1：55。

ジャクソン郡、ミズーリ州（アメリカ合衆国）「新エルサレム」参照

終わりの時における聖徒の集合地。ここは聖徒たちが新エルサレムを建設する中心の場所である（教義57-58；82章；101：69-71；105：28）。

シャデラク 「ダニエル」参照

『旧約聖書』の中の人物。シャデラク、メシャク、アベデネゴの3人のイスラエルの若者は、ダニエルとともにバビロンの王ネブカデネザルの宮廷に召された。メシャクのヘブライ語名は、ミシャエルである。この4人の若者は、王の食物と酒を口にして自らを汚すのを拒んだ（ダニ1章）。シャデラク、メシャク、アベデネゴは王によって火の燃える炉の中に投げ込まれたが、奇跡的に守られた（ダニ3章）。

主 「イエス・キリスト」「神、神会」参照

父なる神と救い主イエス・キリストに対する深い尊敬の念を示す呼び名。この呼び名は、被造物に対する愛に満ちた至高の主としての御二方の位を示している。

主にとって不可能なことがありますようか、創世18：14。主はモーセと顔を

合わせて語られた。出エ 33:11。あなたの神、主を愛さなければならない、申命 6:5 (マタ 22:37; マコ 12:30)。わたしとわたしの家とは共に主に仕えます、ヨシ 24:15。主はわたしの牧者であって、詩篇 23:1。強く勇ましい主、戦いに勇ましい主である、詩篇 24:8。主なる神はわが力、イザ 12:2 (2 ニフ 22:2)。主なるわたしが、あなたの救主、また、あなたのあがない主、イザ 60:16。

主なるあなたの神を押し、マタ 4:10 (ルカ 4:8)。主がどんなに大きなことをしてくださったか、マコ 5:19。唯一の主イエス・キリストのみがいますのである、1コリ 8:6。主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ、エペ 4:5。主ご自身が天から下ってこられる、1テサ 4:16。

わたしは行って、主が命じられたことを行います、1ニフ 3:7。主なる神は、義をもって貧しい者を裁き、2ニフ 30:9。アブラハムの神である主なる神は、イスラエル人を奴隸の状態から救い出された、アル 29:11。主イエス・キリストを信じる以外に、何事もこの民を救うことはできない、ヒラ 13:6 (モサ 3:12)。

あなたの主であるイエス・キリストの言葉に耳を傾けなさい、教義 15:1。常に主の顔を求めなさい、教義 101:38。主は赤い装いで再臨される、教義 133:48 (イザ 63:1-4)。

アブラハムは顔と顔を合わせて主と語った、アブ 3:11。わたしたちは、福音の第一の原則は主イエス・キリストを信じる信仰であることを信じる、箇条 1:4。

自由 「選択の自由」「とりこ」参照

何の束縛もなく行動し、考えることのできる状態。福音の原則に従順な人は、罪という靈的な束縛から解放される (ヨ

ハ 8:31-36; モサ 5:8)。

わたしはあなたのさとしを求めるので、自由に歩むことができます、詩篇 119:45。

真理は、あなたがたに自由を得させるであろう、ヨハ 8:32。罪から解放される者は永遠の命を受ける、ロマ 6:19-23。主の靈のあるところには、自由がある、2コリ 3:17。自由を得させるために、キリストはわたしたちを解放して下さった、ガラ 5:1 (教義 88:86)。

人は、自由と永遠の命を選ぶことも自由である、2ニフ 2:27。イスラエルの家の一本の義にかなった枝が、束縛から自由へ連れ出される、2ニフ 3:5。この地は自由の地となり、2ニフ 10:11。彼らは主なる神に、自由を保つことができるように呼び求めた、アル 43:48-50。モロナイはニーファイ人の中に自由の旗を掲げさせた、アル 46:36。モロナイは自分の国が自由であることを喜びとした、アル 48:11。神の御靈は自由の精神である、アル 61:15。

わたしに従いなさい。そうすれば、あなたがたは自由な民となり、教義 38:22。主とその僕たちは囚われ人に自由を宣言された、教義 138:18, 31, 42。

収穫 「刈り入れ」参照

十字架 「イエス・キリスト」「ゴルゴタ」「十字架の刑」「贖罪」「聖餐」参照

イエス・キリストの十字架の刑に使われた木製の刑具 (マコ 15:20-26)。世の多くの人々は今日、十字架をキリストの十字架の刑と贖いの犠牲の象徴と考えている。しかし主は、十字架の刑と犠牲の御自身の象徴として、聖餐のパンと水を定められた (マタ 26:26-28; 教義 20:40, 75-79)。聖典には、自分の十字架を負う者は、イエス・キリストを深く愛して、不信心とあらゆる世の欲を捨

十字架の刑

て、主の戒めを守ると説かれている（JS マタ 16：25－26〔付録〕）。

十字架を負うて、わたしに従ってきなさい、マコ 8：34（3 ニフ 12：30；教義 23：6）。イエスは、十字架を忍び、神の御座の右に座するに至った、ヘブ 12：2。

神の小羊は世の罪のために十字架につけられて殺された、1 ニフ 11：33。世の十字架を堪え忍んできた人々は、神の王国を受け継ぐ、2 ニフ 9：18。父は、わたしが十字架に上げられるようにと、わたしを遣わされた、3 ニフ 27：14－15。

自分の十字架を負ってわたしに従おうとせず、またわたしの戒めを守ろうとしない者は、救われないであろう、教義 56：2。

人の子が十字架に上げられるのが見えた、モセ 7：55。

十字架の刑 「イエス・キリスト」「ゴルゴタ」「十字架」「贖罪」参照

新約の時代に広く行われたローマの死刑執行法。この刑を受ける者は、手足を十字架に縛り付けられるか、釘を打ち付けられるかして殺された。普通この刑は、奴隸や重罪人に対してのみ行われた。多くの場合、十字架につけられる前に鞭打ちの刑が執行された（マコ 15：15）。この刑を受ける者は通常、自分で十字架を刑場まで運ばされた（ヨハ 19：16－17）。またその衣服は、刑を執行する兵士のものとなった（マタ 27：35）。十字架は、受刑者の足が地上からわずか30ないし60cmの高さになるように、地中に打ち立てられた。また、受刑者が息を引き取るまで、兵士は十字架を見張った。絶命まで3日かかることもあった（ヨハ 19：31－37）。

イエス・キリストが十字架につけられたのは、カイザルへの反逆の罪と、自らを神の子と唱える冒瀆の罪を犯したとい

う、不信者たちの偽証のためであった。イエスは紫の上着を着せられ（ヨハ 19：2），またいばらの冠をかぶせられて、ほかにも様々な辱めを受けられた（マタ 26：67；マコ 14：65）。

邪悪な者たちはメシヤの手と足を刺し貫く、詩篇 22：11－18。キリストはほふり場にひかれる小羊のように行く、イザ 53：7。

イエスは御自身が十字架につけられることを予告された、マタ 20：18－19。キリストの十字架の刑について述べられる、マタ 27：22－50（マコ 15：22－37；ルカ 23：26－46；ヨハ 19：17－30）。

ニーファイは、神の小羊が十字架につけられるのを示現で見た、1 ニフ 11：33。ニーファイはキリストの苦しみと十字架の刑について述べた、1 ニフ 19：9－14。ヤコブはイスラエルの聖者の働きと十字架の刑について述べた、2 ニフ 6：9。アメリカ大陸に起った暴風雨、地震、火事、旋風で、エルサレムでのキリストの十字架の刑が証明された、3 ニフ 8 章。

わたしは十字架につけられたイエスである、教義 45：51－52。死者の中での救い主の働きは、十字架上の死と復活の間の短い時間に限られていた、教義 138：27。

従順、従う 「歩む（神とともに）」「戒め（神の）」「聞き従う、聴く」「祝福」「喜び」「律法」参照

靈的な意味で、従順とは神の御心を行うことである。

ノアはすべて神の命じられたようにした、創世 6：22。アブラハムは主に従つた、創世 22：15－18。わたしたちは主が仰せられたことを皆、従順に行います、出エ 24：7。イスラエルよ、聞いて、それを守り行え、申命 6：1－3。主を愛して、その声を聞き、主につき従わなければ

ばならない。申命 30:20。従うことは犠牲にまさり、サ上 15:22。神を恐れ、その命令を守れ、伝道 12:13-14。

みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行なう者だけが、はいるのである、マタ 7:21 (3 ニフ 14:21)。神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこのおしゃれ教が神からのものか、わかるであろう、ヨハ 7:17。人間に従うよりは、神に従うべきである、使徒 5:29。主にあって両親に従いなさい、エペ 6:1 (コロ 3:20)。

わたしは行って、主が命じられたことを行います、みたま1 ニフ 3:7。わたしは御靈の声に従い、1 ニフ 4:6-18。もし人の子らが神の戒めを守るならば、神は彼らを養い、1 ニフ 17:3。悪靈に従おうとすることのないように気をつけなさい、モサ 2:32-33, 37 (教義 29:45)。人は自分が従った靈に応じて報いを刈り取る、アル 3:26-27。

人は多くのことをその自由意志によって行わなければならぬ、教義 58:26-29。神の手を認めない者と、神の戒めに従わない者のほかに、人はどのようなことについても神を怒らせるとはない、教義 59:21。あなたがたがわたしの言うことを行うとき、主なるわたしはそれに対して義務を負う、教義 82:10。わたしの声に従う者は皆、わたしの顔を見て、わたしがいることを知るであろう、教義 93:1。民は従順を学ぶまで、必ず懲らしめを受けなければならない、教義 105:6。神から祝福を受けるときは、それが基づく律法に従うことによる、教義 130:21。

アダムは従順であった、モセ 5:5。わたしたちは彼らを試し、何であろうと、主が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう、アブ 3:25。

十二使徒評議会 「使徒」 参照

自由の旗 「モロナイ（司令官）」 参照

『モルモン書』の中でニーファイ人の軍隊の総司令官モロナイが掲げた旗。モロナイは、自分たちの宗教と自由と平和と家族を守るようニーファイ人を奮い立たせるためにこの旗を作った。

モロナイは自分の衣を裂いて、自由の旗を作った、アル 46:12-13。この旗を立てて守ろうとする者たちは聖約を交わした、アル 46:20-22。モロナイはすべての塔の上に自由の旗を掲げさせた、アル 46:36 (アル 51:20)。

十部族 「イスラエル」 参照

什分の一 「金銭」「ささげ物」 参照

教会を通して主にささげる自分の年収の 10 分の 1。什分の一基金は教会や神殿の建築、伝道活動の支援など、地上に神の王国を築くために用いられる。

アブラムはメルキゼデクにすべての物の十分の一を贈った、創世 14:18-20 (ヘブ 7:1-2, 9; アル 13:15)。十分の一はすべて主のものであって、主に聖なる物である、レビ 27:30-34。あなたはすべての産物の十分の一を必ず取り分けなければならない、申命 14:22, 28。イスラエルの人々はすべての物の十分の一をおびただしく携えて来た、歴下 31:5。人は神の物を盗むことをするだろうか。十分の一と、ささげ物をもってである、マラ 3:8-11 (3 ニフ 24:8-11)。

什分の一を納める者は、主の来臨の時に焼かれない、教義 64:23 (教義 85:3)。主の家は主の民の什分の一によって建てられる、教義 97:11-12。主は什分の一の律法を啓示された、教義 119 章。什分の一は評議会によって配分される、教義 120 章。

祝福

祝福 「感謝」「祝福師の祝福」「病人への癒しの祝福」「恵み」「律法」参照

神の恵みを人に授けること。真の幸福、喜び、成功に寄与するものはすべて祝福である。

祝福はすべて永遠の律法に基づいて与えられる（教義 130：20–21）。神は御自身の子供たちに人生の中で喜びを見いだすように望んでおられる（2ニフ 2：25）。そのために神は、戒めに従うことへの結果として（教義 82：10）、また祈りや神権の儀式への答えとして（教義 19：38；107：65–67），あるいは恵みによって（2ニフ 25：23）人に祝福をお授けになる。

祝福された幸いな状態について述べたものとしてよく知られているのが、至福の教えである（マタ 5：1–12；3ニフ 12：1–12）。

一般：わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、創世 12:2–3（1ニフ 15：18；アブ 2：9–11）。正しい者のこうべには祝福があり、箴言 10：6。忠実な人は多くの祝福を得る、箴言 28：20。主は天の窓を開いて、あふれる恵みを注がれる、マラ 3：10（3ニフ 24：10）。

至福の教えによって祝福が約束される、マタ 5：1–12（3ニフ 12：1–12）。小羊の婚宴に招かれた者は、さいわいである、黙示 19：9。

義にかなった者は神から恵みを受けます、1ニフ 17：35（モサ 10：13）。聞き従うならば、わたしはあなたがたに祝福を残そう、2ニフ 1：28。わたしは同じ祝福をあなたがたに残す、2ニフ 4：9。神はすぐに祝福を授けてくださる、モサ 2：24。主を信頼する者たちを、主は祝福し、栄えさせられる、ヒラ 12：1。

わたしの業を起こす助けをしなさい。そうすれば、あなたは祝福されるであろ

う、教義 6：9。常に祈りなさい。そうすれば、あなたの祝福は大いなるものとなる、教義 19：38。バプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたはわたしの御靈みたまと、かつて知らなかったほどの大いなる祝福を受けるであろう、教義 39：10。多くの艱難かんなんの後に祝福は来る、教義 58：4。人々が従わないと、わたしは命じたことを取り消し、彼らは祝福を受けない、教義 58：32。あなたがたは、父がどれほどの大いなる祝福をあなたがたのために備えておられるかを理解していない、教義 78：17。大神権者から、儀式の執行と教会員への祝福が来る、教義 107：65–67。不变の律法があり、すべての祝福はこれに基づいている、教義 130：20。祝福を受けたいと思う者は皆、律法に従わなければならない、教義 132：5。主を愛する者たちのために取つておかれたすべての祝福にあずかる者となる、教義 138：52。

アブラハムは先祖の祝福と、それらの祝福をつかさどる権利とを得ようと努めた、アブ 1：2。

子供の祝福：彼らを抱き、手をその上において祝福された、マコ 10：16。

イエスは幼い子供たちを一人一人抱いて祝福し、3ニフ 17：21。

長老たちは、イエス・キリストの名によって子供を祝福しなければならない、教義 20：70。

祝福師 「祝福師の祝福」「父（現世の）」「伝道者」「メルキゼデク神権」参照

メルキゼデク神権の職の一つ。伝道者と言われることもある。祝福師は、ふさわしい教会員に特別な祝福を授ける。

彼は、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、エペ 4：11（箇条 1：6）。

十二使徒は、福音の奉仕者を聖任しなければならない、教義 107：39。ハイ

ラムが神権の祝福師の職に就くためである, 教義 124: 91–92, 124: 135: 1。

祝福師の祝福 「祝福師」「父(現世の)」「伝道者」参照

祝福師がふさわしい教会員に授ける祝福。祝福師の祝福には、それを受けた人に対する主の勧告と、イスラエルの家における血統の宣言が含まれる。

イスラエルは右の手を伸べてエフライムの頭に置いた, 創世 48: 14。ヤコブは息子たちとその子孫に祝福を受けた, 創世 49 章。

リーハイは子孫に祝福を受けた, 2 ニフ 4: 3–11。

取税人 「ローマ帝国」参照

古代ローマにおいて政府のために税の徴収を行った人。一般に、ユダヤ人は取税人を嫌っていた。取税人の中には、すぐに福音を受け入れた人々がいた(マタ 9: 9–10; ルカ 19: 2–8)。

出エジプト記 「五書」参照

モーセによって書かれた『旧約聖書』の中の1書。この書にはエジプトからのイスラエル人の脱出の様子が描かれている。出エジプト記に書かれている古代イスラエルの歴史は、次の3つの部分に分けることができる。(1) エジプトにおけるイスラエルの民の奴隸の境遇。(2) モーセの指導の下に行われたエジプトからの脱出。(3) 宗教上ならびに政治上の生活における神の業への献身。

最初の部分である出エジプト 1: 1–15: 21 には、イスラエルがエジプトで受けた圧迫、モーセの生涯の初期の物語と彼に与えられた召し、エジプトからの脱出と過越、紅海への行進、パロの軍勢の滅亡、モーセの勝利の歌が記されている。

第2の部分の出エジプト 15: 22–18: 27 には、イスラエルの^{あがな}贖い、紅海からシナイへの旅の途中での出来事、メラの苦い水の奇跡、うずらとマナが与えられたこと、安息日の遵守、レピデムでの水の奇跡とアマレク人との戦い、イスラエルの陣営へのエテロの到着と民の統治に関するエテロの助言が記されている。

第3の部分の第 19–40 章には、シナイでの神聖な出来事の間に、イスラエルの民が神の務めに献身したことが記されている。主はイスラエルの民を祭司の国とし、聖なる民とされた。また彼らに十戒を与え、幕屋とその調度品について、また幕屋内での礼拝について指示を与えられた。続いて金の子牛を礼拝した民の罪についての記録があり、最後に幕屋の建設とそこでの務めに関する規定が書かれている。

主の祈り 「祈り」参照

すべての祈りのひながたとして、救い主が弟子たちのためにささげられた祈り(マタ 6: 9–13; 3 ニフ 13: 9–13)。

主の晚餐 「聖餐」参照

主の日 「安息日」「イエス・キリストの再臨」「最後の裁き」参照

主の宮 「神殿、主の宮」参照

殉教者、殉教

キリストや福音、義にかなった信条や原則を捨ててよりは、自分の命を捨てる方を選ぶ人。

アベルの血からザカリヤの血に至るまで、義人の血の報いが、ことごとくあなたがたに及ぶであろう、マタ 23: 35 (ルカ 11: 50)。キリストのため、また福音のために自分の命を失う者は、それを救うであろう、マコ 8: 35 (教義 98: 13)。

ステパノに石を投げつけ、**使徒** 7:59（使徒 22:20）。遺言には、遺言者の死の証明が必要である、**ヘブ** 9:16-17。

アビナダイは倒れて焼け死んだ、**モサ** 17:20。改心したアモナイハの民は火の中に投げ込まれた、**アル** 14:8-11。多くの預言者が、これらのことについて^{おかし}証したために殺された、**3ニフ** 10:15。

わたしの大義において自分の命を捨てる者は、永遠の命を見いだすであろう、**教義** 98:13-14。ジョセフ・スミスとハイラム・スミスは福音の回復のための殉教者であった、**教義** 135章。ジョセフ・スミスは血をもって自分の証を確実なものとした、**教義** 136:39。

純潔 「姦淫」「徳」「肉欲」「不貞」参照

男性と女性の性的な清さ。

ヨセフはボテパルの妻の誘惑を退けた、**創世** 39:7-21（**教義** 42:24; 59:6）。あなたは姦淫してはならない、**出エ** 20:14。賢い妻はその夫の冠である、**箴言** 12:4（**箴言** 31:10）。

あなたがたは知らないのか。自分のからだは、聖霊の宮であって、**1コリ** 6:18-19。あなたは純潔にも、信者の模範になりなさい、**1テモ** 4:12。

清くない者は神とともに住むことができない、**1ニフ** 10:21。主なる神であるわたしは、婦人たちの貞節を喜ばしく思う、**ヤコ** 2:28。性的な罪は忌まわしい行いである、**アル** 39:1-13。純潔と徳はあらゆるものに勝って最も大切で貴いものである、**モロ** 9:9。

わたしたちは、純潔であるべきことを信じる、**箇条** 1:13。

昇栄 「永遠の命」「冠」「贖罪」「人一天の御父のようになる可能性を持った人間」「日の栄え」参照

日の栄えの王国の中で最も幸福で栄光

に満ちた状態。

あなたの前には満ちあふれる喜びがあり、**詩篇** 16:11。

彼らは神々、すなわち神の子である。それゆえ、すべてのものは彼らのものである、**教義** 76:58-59。聖徒たちは受け継ぎを得、小羊と等しい者とされる、**教義** 88:107。これらの天使たちはわたしの律法に従わなかった。それゆえ、彼らは昇栄することなく、それぞれ独りのままでいることになる、**教義** 132:17。昇栄を得るには神の律法に従って結婚しなければならない、**教義** 132:19-20。昇栄に至る門は狭く、その道は細い、**教義** 132:22-23。アブラハム、イサク、ヤコブは、昇栄に入った、**教義** 132:29, 37。わたしはあなたに昇栄を結び固め、**教義** 132:49。

正直 「高潔」参照

偽りがなく、誠実なこと。

真実を行う者は主に喜ばれる、**箴言** 12:22。あなたの誓ったことを必ず果せ、**伝道** 5:4-5。

異邦人の中にあって、りっぱな行いをしなさい、**1ペテ** 2:12。

偽りを言う者は災いである。彼は地獄に突き落とされるからである、**2ニフ** 9:34。御靈は真実を語り、偽りを言われることがない、**ヤコ** 4:13。隣人から物を借りたなら、その物を約束どおりに返すようにしなければならない、**モサ** 4:28（**教義** 136:25）。公正に振る舞い、義にかなって裁き、絶えず善を行ひなさい、**アル** 41:14。

すべての人が正直に振る舞うようにしなさい、**教義** 51:9。その心が正直なすべての者は、わたしに受け入れられる、**教義** 97:8。公務に就く人として、正直、賢明、善良な人々を熱心に捜し求めなければならない、**教義** 98:4-10。あなた

は隣人の失ったものを熱心に捜して、**教義** 136 : 26。

わたしたちは、正直であるべきことを信じる、**箇条** 1 : 13。

象徴

何かを用いて、他の事柄を想起、連想させること。聖典の中では、福音の原則や教えを表現するために、日常よく見受けられる物や出来事、あるいは状況が象徴として用いられる。例えば、『モルモン書』の預言者アルマは、神の言葉を表すのに種を用いている（アル 32 章）。

聖典の様々な箇所で、預言者たちは象徴を用いながら、イエス・キリストについて教えてている。その例としては、典礼や儀式（モセ 6 : 63）、犠牲（ヘブ 9 : 11 - 15；モセ 5 : 7 - 8）、聖餐（JS マコ 14 : 20 - 24 [付録]；ルカ 22 : 13 - 20）、バプテスマ（ロマ 6 : 1 - 6；教義 128 : 12 - 13）などがある。『聖書』に出てくる名称にも象徴的なものが数多くある。幕屋で行われた典礼やモーセの律法は、永遠の真理を象徴している（ヘブ 8 - 10 章；モサ 13 : 29 - 32；アル 25 : 15；ヒラ 8 : 14 - 15）。他の例として、マタイ 5 : 13 - 16；ヨハネ 3 : 14 - 15；ヤコブ 4 : 5；アルマ 37 : 38 - 45 を参照。

昇天 「イエス・キリスト」「イエス・キリストの再臨」参照

救い主が復活から 40 日後に、改まった形で地上を去って行かれた出来事。この昇天は弟子たちが見守る中、オリブ山の一地点で起こった（マコ 16 : 19；ルカ 24 : 51）。そのとき、二人の天使が、主は将来「同じ有様」で戻って来られると証した（**使徒** 1 : 9 - 12）。

証人（モルモン書の） 「証人、証」「モルモン書」参照

主は預言者ジョセフ・スミス以外の幾

人かの人々に『モルモン書』が神から与えられたものであることを証するように命じられた（**教義** 17 章；128 : 20）。『モルモン書』の中の「三人の証人の証」、「八人の証人の証」を参照。

わたしは 3 人の言葉をもって、わたしの言葉を確かなものとする、**2 ニフ** 11 : 3。人の子らに神の言葉について証を述べる、**2 ニフ** 27 : 12 - 13。3 人の証人の口を通してこれらのこととは確認される、**エテ** 5 : 4。

信仰によって、三人の証人は版を見るであろう、**教義** 17 章。

証人、証 「証」参照

証人とは、自分が知っている事柄を基に、それらの証言をしたり、証拠を提出したりする人。証とは、ある事柄について、それが真実であると述べること、あるいはそれを裏付ける証拠。

あなたは偽証してはならない、**出エ** 20 : 16。

福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられる、**マタ** 24 : 14（ジーマタ 1 : 31）。あなたがたはわたしの証人となるであろう、**使徒** 1 : 8。御靈みづから、わたしたちの靈と共に、あかしして下さる、**ロマ** 8 : 16（1 ヨハ 5 : 6）。

いつでも神の証人になる、**モサ** 18 : 8 - 9。わたしたちは、戒めを守り、いつも御子を覚えていることを御父に証明するために聖餐を受ける、**3 ニフ** 18 : 10 - 11（モロ 4 - 5 章；教義 20 : 77 - 79）。信仰が試されてからでなければ、証は得られないからである、**エテ** 12 : 6。

証人の法律：二人または三人の証人の口によって、すべての言葉が確定される、**教義** 6 : 28（申命 17 : 6；マタ 18 : 16；2 コリ 13 : 1；エテ 5 : 4；教義 128 : 3）。あなたがたを使徒およびわたしの名の特

職

別な証人として確認し、**教義 27:12**（教義 107:23）。七十人は異邦人と全世界に対する特別な証人となる、**教義 107:25**。記録者がいるようにしなさい。そして、彼があなたがたのバプテスマの見証者となり、**教義 127:6**（教義 128:2-4）。

職 「神権」「聖任」参照

組織の中の権能や責任を伴う地位。聖典の中では神権の権能を伴う地位を意味する言葉としてしばしば用いられている。

すべての会員が同じ職を受けるのではない、**ロマ 12:4**。

主に対して自分たちの務めを尊んで大いなるものとした、**ヤコ 1:19**。メルキゼデクは大神権の職を受けた、**アル 13:18**。天使の務めは、人を招いて悔い改めさせることである、**モロ 7:31**。

その教会の賛意の表明がなければ、だれもこの教会におけるいかなる職にも聖任されることはない、**教義 20:65**。各人をそれぞれの職に就かせ、**教義 84:109**。これら二つの神権におけるそれぞれの職に聖任された者たちの中から、会長、すなわち管理役員が出来るように、**教義 107:21**。神権定員会を管理する者の義務が述べられる、**教義 107:85-98**。人は皆、自分の義務を学び、任命されている職務をまったく勤勉に遂行するようになさい、**教義 107:99-100**。わたしは、わたしの神権に属する役員をあなたがたに与え、**教義 124:123**。

しょくざい 賛罪 「贊い、贊う」「贊いの計画」「憐れみ」「イエス・キリスト」「神の息子、娘」「犠牲」「義認、義とされる」「聖め」「キリストの子」「悔い改め」「ゲツセマネ」「十字架」「十字架の刑」「救い」「聖餐」「堕落（アダムとエバの）」「血」「罪の赦し」「不死不滅」「復活」「恵み」「赦し」参照

神に対して人を執り成すこと。

聖典に書かれているように、贖罪とは、罪の行いに対する罰を引き受け、それによって悔い改める人から罪がもたらす影響を除き、神との和解を可能にすることである。イエス・キリストは全人類のために完全な贖罪をなし得る唯一の御方である。イエス・キリストが完全な贖罪をなし得たのは、この世が造られる前に天上の大会議において選ばれ、予任されていたからであり（エテ 3:14；モセ 4:1-2；アブ 3:27），また御自身が神の御子であり、罪のない御方であったからである。イエス・キリストの贖罪には、全人類の罪のために苦しまれたこと、そして御自身の血を流されたこと、また死とそれに続く墓からの復活が含まれる（イザ 53:3-12；ルカ 22:44；モサ 3:5-11；アル 7:10-13；教義 19:16-19）。贖罪によって、すべての人が不死不滅の体をもって死者の中からよみがえるようになった（1コリ 15:22）。また贖罪は、罪の赦しを受けて、永遠に神とともに住む道をわたしたちのために備えるものである。しかし、責任を負う年齢に達して律法を受け入れた人は、イエス・キリストを信じる信仰を持ち、罪を悔い改め、救いの儀式を受け、神の戒めに従うことによってのみ、これらの祝福にあずかることができる。責任を負う年齢に達していない人と律法を持たない人は、贖罪によって贖われる（モサ 15:24-25；モロ 8:22）。聖典は、キリストによる贖罪がなかったならば、いかなる律法も儀式も犠牲も正義の要求を満たすことができず、人は神のもとに戻ることはできないと明確に教えていた（2ニフ 2:9章）。

これは、罪のゆるしを得させるようにと、多くの人のために流すわたしの血である、マタ 26:28。その汗が血のしたたりのように地に落ちた、ルカ 22:39

–44。わたしが与えるパンは、世の命のために与えるわたしの肉である、ヨハ 6:51。わたしはよみがえりであり、命である、ヨハ 11:25。キリストは、御自分に従順であるすべての人に対して、永遠の救いの源となられる、ヘブ 5:9。わたしたちはキリストの血が流されたことによって聖められる、ヘブ 9章:10:1–10。キリストも、ひとたび罪のゆえに死なれた、1ペテ 3:18。イエス・キリストの血が、すべての罪からわたしたちをきよめる、1ヨハ 1:7。

神の小羊が世の罪のために十字架につけられて殺された、1ニフ 11:32–33。贖いは打ち砕かれた心と悔いる靈を持つすべての人々に及ぶ、2ニフ 2:3–10, 25–27。メシヤは、罪に対する犠牲として御自身をささげられる、2ニフ 2:7。贖罪は人々を堕落から解放し、死と地獄から救う、2ニフ 9:5–24。贖罪は無限の贖罪でなければならない、2ニフ 9:7。キリストの贖罪を通じて神と和解しない、ヤコ 4:11。この御方の血は、気づかないで罪を犯した者たちの罪も贖う、モサ 3:11–18。人は贖罪によって救いを受けた、モサ 4:6–8。贖罪がなければ、彼らは滅びるほかはない、モサ 13:27–32。キリストは世の罪を贖われる、アル 34:8–16。神は憐れみの計画を成し遂げるため、御自分で世の罪の贖いをされる、アル 42:11–30。キリストは全地の神であり、世の罪のために殺された、3ニフ 11:14。

神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、教義 19:16。幼い子供たちは、わたしの独り子によって贖われている、教義 29:46–47。罪を犯したことがない者の、苦しみと死を御覧ください、教義 45:3–5。

これは独り子の犠牲のひながたである、モセ 5:7。キリストの贖罪により、全人類は救われ得る、箇条 1:3。

ジョセフ・スミス・ジュニア 「スミス、ジョセフ、ジュニア」参照

ジョセフ・スミス訳 (JS) 「スミス、ジョセフ、ジュニア」参照

預言者ジョセフ・スミスが1830年6月に始めた『欽定訳聖書』の改訂あるいは翻訳をいう。ジョセフ・スミスは神からその翻訳をするよう命じられ、それを預言者としての自分の召しの一部と考えた。

ジョセフは1833年7月までにこの翻訳をほとんど終えていたが、出版のための原稿を準備しながら、1844年の死に至るまで加筆訂正を続けた。彼は生前その一部を出版したが、もし生き長らえて全部を出版していたとすれば、さらに変更を加えていたであろうと思われる。復元イエス・キリスト教会は、ジョセフ・スミスが靈感によって翻訳した『聖書』の初版を1867年に発行し、以来何度か版を重ねてきた。

預言者はこの翻訳の過程で多くのことを学んだ。『教義と聖約』の幾つかの章(教義 76:77; 91:132章など)は、この翻訳をきっかけに与えられたものである。また主はこの翻訳に関して、ジョセフに具体的な指示を与えられた。その指示は『教義と聖約』に記録されている(教義 37:1:45:60–61; 76:15–18:90:13:91章; 94:10:104:58:124:89)。『高価な真珠』に収められているモーセ書とジョセフ・スミス—マタイはジョセフ・スミス訳から直接取ったものである。

ジョセフ・スミス訳は、『聖書』から抜き取られた分かりやすく貴い部分を回復した(1ニフ 13章)。ジョセフ・スミス訳は、末日聖徒イエス・キリスト教会公認の『聖書』ではないが、多くの興味深い洞察を与え、『聖書』を理解するうえで非常に有益である。また、預言者ジョセフ・スミスの神聖な召しと務めを証するものである。

しるし

しるし 「奇跡」「時のしるし」「まことの教会のしるし」参照

人々が何かの証拠あるいは証明として理解する出来事や経験。しるしという言葉は通常、神から与えられる奇跡的な現れを指す。サタンもまた、ある条件の下でしるしを示す力を持っている。聖徒は御靈の賜物を求めるべきであるが、好奇心を満足させたり、信仰の支えとしたりするためにしるしを求めてはならない。主は、信じる者にとってふさわしいと判断されたときに、しるしを与えられる（教義 58：64）。

主はみずから一つのしるしをあなたがたに与えられる、イザ 7：14（2ニフ 17：14）。天においても、地においても、しるしと奇跡とをおこない、ダニ 6：27。

邪悪で不義な時代は、しるしを求める、マタ 12：39（マタ 16：4；ルカ 11：29）。信じる者には、このようなしるしが伴う、マコ 16：17（モル 9：24；エテ 4：18；教義 84：65）。

シーレムはしるしを求めた、ヤコ 7：13-20。コリホルはしるしを求めた、アル 30：48-60。しるしを見せてくれば、信じよう、アル 32：17。民の大半がしるしと不思議を信じた、3ニフ 1：22。民は数々のしるしと不思議を忘れ始め、3ニフ 2：1。信仰が試されてからでなければ、^{あかし}証は得られない、エテ 12：6。

わたししがあなたがたに命じないかぎり、奇跡を求めてはならない、教義 24：13。信仰はしるしによっては生じないが、信じる者にはしるしが伴う、教義 63：7-11。

それらの日には、偽キリストたちや偽預言者たちも起こって、大きなしるしと不思議を示すであろう、ジーマタ 1：22。

しるし（イエス・キリストの降誕と死のしるし） 「イエス・キリストの降誕と死のしるし」参照

しるし（時のしるし） 参照

しるし（まことの教会のしるし） 「まことの教会のしるし」参照

新エルサレム「シオン」 参照

聖徒が集合し、キリストが福千年の間聖徒とともに自ら統治される場所。シオン（新エルサレム）はアメリカ大陸に築かれる。そして地球は更新されて、楽園の栄光を受ける（箇条 1：10）。新エルサレムは、福千年の初めに天から降って来る聖なる都を指すこともある。

律法はシオンから出、ミカ 4：2。

神の都の名は新エルサレムである、黙示 3：12。ヨハネは聖なる都、新しいエルサレムを見た、黙示 21：1-5。

わたしはこの民をこの地に立てて、この地は新エルサレムとなる、3ニフ 20：22。新エルサレムはアメリカに築かれる、エテ 13：3-6, 10。

新エルサレムの都が備えられる、教義 42：9, 35, 62-69。聖徒たちは集合し、新エルサレムを築かなければならぬ、教義 45：63-75。新エルサレムがミズーリに建てられる、教義 84：1-5（教義 57：1-3）。小羊がシオンの山と、聖なる都である新エルサレムに立つ、教義 133：56。

わたしの幕屋はシオン、すなわち新エルサレムと呼ばれるであろう、モセ 7：62。

神権「アロン神権」「權威、權限、權能」「神権の鍵」「神権の誓詞と聖約」「聖任」「力」「メルキゼデク神権」 参照

神が人の救いのためにあらゆることを行なう授けられた権能と力（教義 50：

26-27)。神権を持つ教会の男性会員は、定員会に組織され、儀式を執行し、教会内の特定の管理機能を果たす権限を受ける。

彼らが油そそがれることは、代々ながく祭司職のためになすべきことである、出エ 40:15 (民数 25:13)。

わたしがあなたがたを立てた、ヨハ 15:16。あなたがたも、靈の家に築き上げられ、聖なる祭司となって、1ペテ 2:5。あなたがたは、選ばれた種族、祭司の國、1ペテ 2:9 (出エ 19:6)。

大祭司は非常に深い信仰と善い行いのために召される、アル 13:1-12。わたしはあなたに力を授ける、3ニフ 11:21。聖靈を授ける力を持つであろう、モロ 2:2。

わたしは預言者エリヤの手によってあなたがたに神権を現そう、教義 2:1 (歴史 1:38)。主はアロンとその子孫にも、代々一つの神権を確認した、教義 84:18。この大神権は福音をつかさどり、教義 84:19。主は彼らの中からモーセを取り去り、また聖なる神権も取り去った、教義 84:25。神権に伴う誓詞と聖約が述べられる、教義 84:33-42。先祖の血統を通して神権が続いてきた、教義 86:8。教会には二つの神権がある、教義 107:1。メルキゼデク神権は、神の御子の位に従う聖なる神権である、教義 107:2-4。神権の権利は天の力と不可分のものとして結びついており、教義 121:36。いかなる力も影響力も、神権によって維持することはできない、あるいは維持すべきではない。ただ、説得により、偽りのない愛により、教義 121:41。教会のすべてのふさわしい男性会員は、神権への聖任を受けることができる、公式 2。

わたしたちは、神から召されなければならないと信じる、箇条 1:5。

しんげん 箴言

簡潔な格言または勧告の言葉。

箴言：『旧約聖書』の中の1書。多くのたとえや格言、詩を含む。その一部はソロモンが書いた。箴言は『新約聖書』にしばしば引用されている。

第1-9章には、眞の知恵についての説明が述べられている。第10-24章は、正しい生き方と誤った生き方についての教訓を集めたものである。第25-29章には、ユダの王ヒゼキヤに属する人々が記録したソロモンの箴言が収められている。第30-31章は、徳高い女性について述べたものである。

神権時代 「神権」「神権の鍵」「福音」「福音の回復」参照

福音の神権時代とは、権能を与えられた、聖なる神権の鍵を持つ僕を少なくとも一人、主が地上に置かれる時代をいう。

アダム、エノク、ノア、アブラハム、モーゼ、イエス・キリスト、ジョセフ・スマスなどは、それぞれに新しい福音の神権時代を開いてきた。主は一つの神権時代を起こされるとき、その時代の人々が救いの計画を知るに当たって過去の神権時代に頼る必要がないように、新たに福音を啓示される。ジョセフ・スマスによつて始められた神権時代は「時満ちる神権時代」と呼ばれている。

天の神は一つの国を立てられます、ダニ 2:44 (教義 65 章)。

終りの時には、わたしの靈をすべての人に注ごう、使徒 2:17 (ヨエ 2:28)。イエスは、万物更新の時まで、天にとどめておかれねばならなかった、使徒 3:21。時の満ちる神権時代に、神はすべてのものをキリストにあって一つに帰せしめようとされた、エペ 1:10。

わたしは彼らの中にわたしの教会を設けよう、3ニフ 21:22。

神権の鍵

主は、終わりの時代のために、御自分の王国の鍵と福音の神権時代とをゆだねた、**教義 27:13**。この神権時代の鍵はあなたがたの手にゆだねられている、**教義 110:12-16**。過去の神権時代のすべての鍵が時満ちる神権時代に回復されてきた、**教義 128:18-21**。

神権の鍵 「神権」「神権時代」「大管長会」参照

鍵とは、長の職に伴う権利、すなわち、地上において神権を管理し、統制し、治めるために神から人に授けられる権威である。長の職に召された神権者は、自分を管理する権能を持つ人から鍵を受けれる。神権者は、鍵を持つ人が指示する範囲内でのみ、神権を行使する。教会の大管長は、神権のすべての鍵を持ち、それらを行使する権限を与えられている地上で唯一の人である（**教義 107:65-67, 91-92; 132:7**）。

ペテロは天国の鍵を授けられた、**マタイ 16:19**。

ミカエルはイエス・キリストの指示の下に救いの鍵を受けた、**教義 78:16**。王国の鍵は常に大神権の大管長会に属する、**教義 81:2**。メルキゼデク神権は神の知識の鍵を持つ、**教義 84:19**。十二使徒会は特別な鍵を持っている、**教義 107:35; 112:16, 32; 124:128**。ヨセフ・スマスとオリバー・カウドリは、イスラエルの集合とアブラハムの福音と結び固めの力に関する鍵を授けられた、**教義 110:11-16**。大管長会と十二使徒会は、時満ちる神権時代の鍵を持つ、**教義 112:30-34**。神権に属する役員は鍵を持つ、**教義 124:123**。鍵を持つ人は知識を得ることができる、**教義 128:11**。

アロンの神権は天使の働きの鍵と、悔い改めの福音の鍵と、バプテスマの鍵を持つ、**ジ—歴史 1:69**（**教義 13 章**）。

神権の誓詞と聖約 「神権」「聖約(契約)」

「誓い」参照

誓詞とは、交わした約束に誠実かつ忠実であるという誓いの言葉である。また、聖約とは、当事者の間で交わされる厳肅な約束をいう。アロン神権は聖約のみで授けられる。メルキゼデク神権者は聖約と無言のうちの誓詞によって神権を受ける。忠実であり、神が命じられるままに召しを尊ぶ神権者は、神から祝福を受ける。また最後まで忠実で、神から求められるすべてのことを行う人は、御父が持つておられるすべてを受ける（**教義 84:33-39**）。

主はアブラハムと契約を結ばれ、アブラハムは従った、**創世 15:18; 17:1; 22:16-18**。エゼキエルの時代の祭司たちは群れを養わなかった、**エゼ 34:2-3**。マラキの時代の祭司たちは契約を破つた、**マラ 1-2 章**。

神権の聖任 「聖任」参照**信仰 「イエス・キリスト」「希望」「信じる」「信頼」参照**

あるものに信頼を寄せること。聖典に何度も言われているように、信仰とはイエス・キリストに対する確信と信頼であり、その確信と信頼があれば、人はイエス・キリストに従うようになる。人を救いに導く信仰は、イエス・キリストを中心としたものでなければならない。また末日聖徒は、父なる神、聖霊、神権の力、また回復された福音のその他の重要な事柄に対しても信仰を持っている。

信仰には、まだ見ていない真実のことと待ち望むことも含まれる（**ヘブ 11:1; アル 32:21; エテ 12:6**）。信仰は、神から遣わされた正当な権能を持つ者が教える福音を聞くことから始まる（**ロマ 10:14-17**）。奇跡が信仰を生み出すの

ではなく、イエス・キリストの福音に従うことによって強い信仰がはぐくられるのである。言い換えれば、信仰は義から生じるのである（アル 32：40-43；エテ 12：4, 6, 12；教義 63：9-12）。

眞の信仰は奇跡や示現、夢、癒し、おより神が聖徒にお授けになるあらゆる賜物をもたらす。人は信仰によって罪の赦しを得、最後には神の前で生活できるようになる。信仰の欠如は、人を罪悪の結果である絶望に至らせる（モロ 10：22）。

義人はその信仰によって生きる、ハバ 2：4。

あなたの信仰があなたを救ったのです、マタ 9：22（マコ 5：34；ルカ 7：50）。あなたがたの信仰どおり、あなたがたの身になるように、マタ 9：29。からし種一粒ほどの信仰があるなら、あなたがたにできない事は、何もないであろう、マタ 17：20（ルカ 17：6）。わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った、ルカ 22：32。イエスの名が、それを信じる信仰のゆえに、この人を強くした、使徒 3：16。信仰は神の言葉を聞くことによる、ロマ 10：17。もしキリストがよみがえらなかつとしたら、あなたがたの信仰もまたむなしい、1コリ 15：14。信仰は愛によって働く、ガラ 5：6。あなたがたの救われたのは、恵みにより、信仰によるのである、エペ 2：8（2ニフ 25：23）。信仰のたてを手に取りなさい、エペ 6：16（教義 27：17）。わたしは走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした、2テモ 4：7。信仰とは、望んでいる事がらを確信し、ヘブ 11：1。信仰がなくては、神に喜ばれることはできない、ヘブ 11：6。信仰も、行いを伴わなければ、死んだものである、新ヤコ 2：17-18, 22。

わたしは行って、主が命じられたこと

を行います、1ニフ 3：7。人の子らが主を信じる信仰を働くせば、主は彼らのために何でもおできになります、1ニフ 7：12。リアホナの指針は人々の信仰に応じて働く、1ニフ 16：28。聖者に対して完全な信仰を抱きながら、悔い改めて、神の御名によってバプテスマを受けなければならない、2ニフ 9：23。イエスは、人の子らの中で、彼らの信仰に応じて大きな奇跡を行われる、2ニフ 26：13（エテ 12：12；モロ 7：27-29, 34-38）。エノスはキリストを信じる信仰のゆえに罪を赦された、エノ 1：3-8。主イエス・キリストを信じるのでなければ、このような者には決して救いは与えられない、モサ 3：12。キリストの御名を信じて心が改まった、モサ 5：7。神の僕たちの祈りが、彼らの信仰に応じてかなえられる、モサ 27：14。わたしたちの信仰に応じて、自由になる力をわたしたちにお与えください、アル 14：26。信仰をもって神の御名を呼ぶ、アル 22：16。信仰とは物事を完全に知ることではない、アル 32：21（エテ 12：6）。それがふくらみ始めたら、あなたがたの信仰によってそれを養い育ててほしい、アル 33：23（アル 32：28）。彼らが守られたのは、神の奇跡を起こす力によつたものと考えざるを得ません、アル 57：25-27。信仰をもって神の御子を仰ぎ見る者は皆、生きることができる、ヒラ 8：15。あなたがたの信仰がわたしから癒しを受けるのに十分であることも、わたしは知っている、3ニフ 17：8。信仰とは待ち望んでいたながらまだ見ていないものである、エテ 12：6。奇跡を行つた者は皆、信仰によって奇跡を行つた、エテ 12：12-18。もし彼らがわたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう、エテ 12：27-28, 37。モルモンは、信仰と希望と慈愛について教えた、モロ 7章。あなたがたが与えら

信仰箇条

ると信じて、信仰をもってわたしの名によって父に求めるものは、正当であれば、何でもあなたがたに与えられる、モロ7：26。キリストを信じる者は一切の善いものを固く守る、モロ7：28。キリストを信じながら問うならば、神はこれが真実であることを明らかにしてくださる、モロ10：4。

信仰がなければ何も行えない。それゆえ、信仰をもって求めなさい、教義8：10。彼らが祈りで示した信仰に応じてそれがかなえられる、教義10：47、52。すべての人はキリストの名を信じて最後まで堪え忍ばなければならない、教義20：25、29。御靈は信仰の祈りによってあなたがたに与えられるであろう、教義42：14。信仰はしるしによっては生じないが、信じる者にはしるしが伴う、教義63：9-12。両親は子供にキリストを信じる信仰を教えなければならない、教義68：25。研究によって、また信仰によつて学問を求めなさい、教義88：118。

主イエス・キリストを信じる信仰は、福音の第一の原則である、箇条1：4。

信仰箇条 「高価な真珠」「スマス、 ジョセフ、 ジュニア」参照

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員がよりどころとする13の基本的信条。

ジョセフ・スマスは、末日聖徒の信条を質問してきた*Chicago Democrat*（『シカゴ・デモクラット』）紙の編集者ジョン・ウェントワースに答える書簡の中で最初にこれを記した。この書簡は後に、*Wentworth Letter*（ウェントワース書簡）として知られるようになり、1842年3月に*Times and Seasons*（『タイムズ・アンド・シーズンズ』）紙上で初めて公にされた。1880年10月10日に、「信仰箇条」は教員の支持の挙手により正式に聖文として受け入れられ、『高価な真珠』の一部としてその中に収められた。

信じる 「イエス・キリスト」「信仰」「信赖」「不信仰」参照

何かを真実であるとして受け入れること。神の王国に救われるには、悔い改めて、イエス・キリストを信じなければならない（教義20：29）。

あなたがたの神、主を信じなさい。主の預言者を信じなさい、歴下20：20。ダニエルは神を信じていたので、ししの穴の中で何の害も受けなかった、ダニ6：23。

あなたの信じたとおりになるように、マタ8：13。祈のとき、信じて求めるものは、みな与えられるであろう、マタ21：22。恐れることはない。ただ信じなさい、マコ5：36。信する者には、どんな事でもできる、マコ9：23-24。信じてバプテスマを受ける者は救われる、マコ16：16（2ニフ2：9；3ニフ11：33-35）。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである、ヨハ3：16、18、36（ヨハ5：24；教義10：50）。わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています、ヨハ6：69。わたしを信じる者は、たとい死んでも生きる、ヨハ11：25-26。わたしたち信じている者は、安息にはいることができる、ヘブ4：3。イエス・キリストの御名を信じ、互に愛し合うべきことである、1ヨハ3：23。

メシヤは、御自分を信じる者を一人も滅ぼさない、2ニフ6：14。ユダヤ人はキリストを信じるようになるまで迫害される、2ニフ25：16。これらのことすべて信じるならば、必ずそれを実行しなさい、モサ4：10。神の御子は御自分の御名を信じる人々の背きを負われる、アル11：40。進んで神の御言葉を信じる人は幸いである、アル32：16。信じようとする望みを持つだけでもよい。その望みを育ててゆけ、アル32：27。あ

なたがたは、イエス・キリストの御名を信じるならば、罪をすべて悔い改めるであろう、ヒラ 14:13。わたしを信じる者は父をも信じるのである、3ニフ 11:35。ヤレドの兄弟ほど深く主を信じた者はいなかった、エテ 3:15。キリストを信じるように勧めるものはすべて、キリストの力によって送り出されている、モロ 7:16-17。

主の言葉を信じる者は御靈の現れを与える、^{みたま}教義 5:16。主の名を信じる者は神の子となる、教義 11:30（ヨハ 1:12）。ある人には、ほかの人の言葉を信じることが許される、教義 46:14。信じる者には数々のしるしが伴う、教義 58:64（教義 63:7-12）。

信じ、悔い改め、バプテスマを受けるならば、^{たまもの}聖靈の賜物を受ける、モセ 6:52。

神性 「永遠の命」「昇栄」「人一天の御父のようになる可能性を持った人間」
参照

神聖な 「聖い」「聖さ、聖く」
参照

真鑑版 「版」
参照

世の初めから紀元前 600 年までのユダヤ人の記録で、預言者の数多くの書が含まれている（1ニフ 5:10-16）。この記録はエルサレムにいたユダヤ人の長老の一人、ラバヌによって保管されていた。リーハイは家族とともに荒れ野にいたとき、この記録を手に入れるために息子たちをエルサレムに送り返した（1ニフ 3-4 章）。（詳細については『モルモン書』の「『モルモン書』についての概説」を参照。）

神殿、主の宮 「エンダウメント」「儀式」「至聖所」「幕屋」
参照

神殿は文字どおり主の宮である。主は

いつも御自分の民に、神殿を建てることを命じてこられた。神殿は聖なる建物であり、ふさわしい聖徒たちがその中で、自分自身と死者のために神聖な福音の儀式を執行する。主は神殿を訪れる。したがって神殿は、礼拝する場所としては最も神聖な所である。

モーセとイスラエルの子らが建てた幕屋は可動式の神殿であった。イスラエル人はエジプトから出て旅をしている間、幕屋を使っていました。

『旧約聖書』の中で最もよく知られている神殿は、ソロモンがエルサレムに建てたものである（歴下 2-5 章）。この神殿は紀元前 587 年にバビロニア人によって破壊され、およそ 70 年後にゼルバベルによって再建された（エズ 1-6 章）。この神殿は紀元前 37 年に一部が焼失したが、後にヘロデ大王によって再建された。しかし、紀元 70 年にローマ人によって破壊された。

『モルモン書』でも、神に従う義にかなった人々は導きを受けて神殿を建て、そこで神を礼拝した（2ニフ 5:16; モサ 1:18; 3ニフ 11:1）。神殿を建設し正しく使用することは、現在の回復された教会も含めて、どの神権時代においても、まことの教会のしるしなっている。この神権時代に建設されて主に奉獻された最初の神殿は、カートランド神殿である。それ以来、全世界の多くの国々で神殿が奉獻されている。

その聖所に立つべき者はだれか、詩篇 24:3-5。ヤコブの神の家へ行こう、イザ 2:2-3（ミカ 4:1-2; 2ニフ 12:2-3）。主は、たちまちその宮に来る、マラ 3:1（3ニフ 24:1; 教義 36:8; 42:36）。

イエスは宮清めをされた、マタ 21:12-16（マコ 11:15-18; ルカ 19:45-48）。

聖徒たちはミズーリ州に神殿を建て

神殿結婚

るよう命じられた、**教義** 57：3（**教義** 84：3-5）。神の家を建てなさい、**教義** 88：119（**教義** 109：8）。主は神殿を建てるのを怠ったために聖徒たちを懲らしめられた、**教義** 95：1-12。わたしは清くない神殿には来ない、**教義** 97：15-17。わたしはこの家を受け入れた。わたしの名はここにあるであろう、**教義** 110：7-8。主の民は、主の聖なる名のために神殿を建てるようにと常に命じられる、**教義** 124：39。神殿で行われる大いなる業の中には、親子の結び固めも含まれる、**教義** 138：47-48。神殿の建設は大いなる末日の業に含まれる、**教義** 138：53-54。

神殿結婚 「結婚」参照

申命記 「五書」参照

『旧約聖書』の5番目の書。

申命記には、モーセが身を変えられる直前にモアブの地で話した最後の3つの説教が載っている。最初の説教（第1-4章）は導入である。第2の説教（第5-26章）は次の二つの部分から成っている。(1) 第5-11章：十戒とその実践的説明。(2) 第12-26章：申命記全体の核となる律法の規定。第3の説教（第27-30章）には、イスラエルと神の間の聖約（契約）の厳肅な更新、また従順に伴う祝福と不従順の招くのろいに関する記述がある。第31-34章には、律法がレビ人に渡されたこと、またモーセの歌と最後の祝福、モーセの最期が記されている。

新約聖書 「聖書」「聖文」参照

イエス・キリストや使徒、イエス・キリストに従ったその他の人々の生涯と働きについて、靈感によって書かれた記録を集めたもの（ギリシャ語で書かれた）。『新約聖書』は通常、福音書、使徒行伝、

パウロの手紙、その他の手紙、黙示録に分類される。

マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの四福音書は、キリストの生涯についての記録である。使徒行伝は教会の歴史と使徒たちの働きについて、特にキリストが亡くなられた後のパウロの伝道の旅について記録している。パウロの手紙は、教会の指導者や会員に教えを授けるためのものである。その他の手紙は他の使徒たちによって書かれ、初期の聖徒たちに新たな勧告を与えていている。使徒ヨハネによって書かれた黙示録は、おもに終わりの時に関する預言を記録している。

信頼 「確信、信頼」「信仰」参照

人あるいは何かの物事を信じて頼りとすること。靈的な意味では、神とその御靈に頼ることが含まれる。

たとえ神がわたしを殺しても、わたしは神を信頼する、KJヨブ13：15。心をつくして主に信頼せよ、箴言3：5。神は自分に寄り頼むしもべらを救った、ダニ3：19-28。

あなたを頼ってまいります、2ニフ4：34。喜び、神に頼りなさい、モサ7：19。主に頼る者はだれであろうと、終わりの日に高く上げられる、モサ23：22。神に頼る者はだれであろうと、試練や災難や苦難の中にあって支えられ、アル36：3、27。

肉の腕に頼ることのないように、**教義** 1：19。善を行いうるように導く御靈を信頼しなさい、**教義** 11：12。ビショップはわたしを頼りなさい。そうすれば、打ち破られることはない、**教義** 84：116。

真理 「英知」「知識」「光、キリストの光」参照

現在あるとおりの、過去にあったとおりの、また未来にあるとおりの、物事に

についての知識(教義 93:24)。真理はまた、天からの光と啓示を指す言葉としても用いられる。

まことは地からはえ、詩篇 85:11 (モセ 7:62)。

また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう、ヨハ 8:32。わたしは道であり、真理であり、命である、ヨハ 14:6。もし、罪がないと言うなら、真理はわたしたちのうちにはない、1ヨハ 1:8。

罪のある者は、真理を厳しいものと思う、1ニフ 16:2。義人は真理を愛しており、2ニフ 9:40。御靈は真実を語り、偽りを言われることがない、ヤコ 4:13。あなたは真理の神であり、偽りを言われることはありません、エテ 3:12。聖靈の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう、モロ 10:5。

真理はとこしえにいつまでも変わらない、教義 1:39。あなたが真理の御靈に照らされた、教義 6:15。真理と神の言葉が載っている『モルモン書』、教義 19:26。真理を教えるために遣わされた慰め主、教義 50:14。真理の御靈によって御言葉を受ける者は、真理の御靈によって宣べられるままにそれを受ける、教義 50:17-22。わたしがあなたがたに与えた啓示に従って真理を宣言しなさい、教義 75:3-4。真理であるものはすべて光であり、教義 84:45。キリストの光は真理の光である、教義 88:6-7、40。わたしの御靈は真理である、教義 88:66。英知すなわち真理の光は、創造されることもなく、教義 93:29。神の榮光は英知である。言い換えれば、光と真理である、教義 93:36。わたしはあなたがたに、あなたがたの子供たちを光と真理の中で育てるようにと命じた、教義 93:40。

わたしの独り子は、恵みと真理に満ちている、モセ 1:6。

**すがこし
過越** 「神の小羊」「最後の晩餐」参照

**すがこし
過越**の祭は、滅ぼす天使が自分たちの家を過ぎ越して、エジプト人から救われたときのことをイスラエルの子らが覚えていられるようにするために定められたものである(出エ 12:21-28; 13:14-15)。古代においては、傷のない子羊の血がイスラエルを救うためのしとして用いられたが、この傷のない子羊は、全人類を贖うるために犠牲となられた神の小羊イエス・キリストの象徴である。

過越の祭の定めは次のとおりである、出エ 12:43。

イエスと弟子たちは最後の晩餐のときに過越を守った、マタ 26:17-29(マコ 14:12-25)。見よ、世の罪を取り除く神の小羊、ヨハ 1:29、36。わたしたちの過越の小羊であるキリストは、すでにほぶられたのだ、1コリ 5:7。あなたがたがあががない出されたのは、きずも、しみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである、1ペテ 1:18-19。

神の小羊は世の罪を取り除く御方である、アル 7:14。

知恵の言葉に従う聖徒たちは、イスラエルの子らのように守られる、教義 89:21。

小羊は世の初めからほぶられている、モセ 7:47。

**あがな
救い** 「贖い、贖う」「贖いの計画」

「イエス・キリスト」「死(肉体の)」「死(靈の)」「昇栄」「贖罪」「恵み」参照

肉体の死と靈の死から救われること。人は皆、イエス・キリストの死と復活を通して、神の恵みにより肉体の死から救われる。またイエス・キリストを信じる信仰を通して、神の恵みにより靈の死からも救われる。この信仰は、福音の律法と儀式に従順な生活とキリストへの奉仕の中に示される。

救い（死者の）

主はわたしの光、わたしの救だ、詩篇 27:1。神こそわが岩、わが救、詩篇 62:2。

福音は救を得させる神の力である、ロマ 1:16（教義 68:4）。恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい、ピリ 2:12。神があなたがたを初めから選んで、きよめによって、救を得させようとし、2 テサ 2:13。

救いは無料である、2 ニフ 2:4。

救いの賜物に勝る大いなる賜物はない、教義 6:13。

イエス・キリストは、その名によって人の子らに救いが及ぶ、天下に与えられる唯一の名である、モセ 6:52（使徒 4:10-12）。わたしたちは、キリストの贖罪により、全人類は救われ得ると信じる、箇条 1:3。

幼い子供たちの救い：心をいれかえて幼な子のようにならなければ、天国にはいることはできないであろう、マタ 18:3。

幼い子供たちも永遠の命を得る、モサ 15:25。幼児のバプテスマは忌まわしい行いである。幼い子供たちは贖罪のおかげでキリストによって生きている、モロ 8:8-24。

幼い子供たちは、独り子によって贖われている。サタンには幼い子供たちを誘惑する力が与えられない、教義 29:46-47。子供たちに福音を教え、8歳のときにはバプテスマを施さなければならぬ、教義 68:25-28。幼い子供たちは、イエス・キリストの贖罪によって聖められている、教義 74:7。人々は、幼児の状態で、再び罪のない者となった、教義 93:38。責任を負う年齢に達する前に死ぬ子供たちは皆、天の日の栄えの王国に救われる、教義 137:10。

子供たちは世の初めから罪がない、モセ 6:54。

救い（死者の）「死者の救い」参照

救い主「イエス・キリスト」参照

救いをもたらす御方。イエス・キリストは贖罪によって、全人類に救いと救いを与えようとされた。「救い主」は、イエス・キリストの名であり、称号である。

主はわたしの光、わたしの救だ、詩篇 27:1（出エ 15:1-2；サ下 22:2-3）。ただわたしのみ主である。わたしのほかに救う者はいない、イザ 43:11（教義 76:1）。

その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をもろもろの罪から救う者となるからである、マタ 1:21。きょう救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである、ルカ 2:11。神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。この世が救われるためである、ヨハ 3:16-17。キリストの名のほかに、人を救い得る名はない、使徒 4:10-12（2 ニフ 25:20；モサ 3:17; 5:8；教義 18:23；モセ 6:52）。救主、主イエス・キリストのこられるのを、わたしたちは待ち望んでいる、ピリ 3:20。父が御子を世の救主としておつかわしになった、1 ヨハ 4:14。

主なる神はメシヤ、言い換えれば、世の救い主を立てられる、1 ニフ 10:4。神の小羊は世の救い主であられる、1 ニフ 13:40。救い主についての知識が、あらゆる国民、部族、国語の民、民族の間に広まる、モサ 3:20。イエス・キリストは必ず死ななくてはならない。救いがもたらされるためである、ヒラ 14:15-16。

イエス・キリストの恵みによる義認と聖めは、正しく、かつ真実である、教義 20:30-31。わたしは世の救い主イエス・キリストである、教義 43:34。

わたしの独り子は、救い主である、モセ 1:6。御子を信じて自分の罪を悔い

改めるすべての者は救われる。モセ5：15。

救いの計画 「贖いの計画」参照

ステーク

末日聖徒イエス・キリスト教会の組織上また管理上のユニット。ステークは、幾つかのワードや支部で構成される。通常、ステークには地理的な境界があり、イザヤ54：2に描かれた天幕を連想させる。「あなたの網を長くし、あなたの杭を強固にせよ。」(イザヤ54:2) 杭(stake)が天幕を支えているように、シオンの各ステークは教会を強くするための支えとなり、助けとなっている。ステークは、散乱したイスラエルの残りの者たちの集合場所である(教義82:13-14;101:17-21)。

あなたの杭を強くし、あなたの境をとこしえに広げて、モロ10:31(教義82:14)。

このステークのほかに、シオンのために他のステークも定めてください、教義109:59。シオンの地とそのステークに集合することが、防御のためとなり、教義115:6(教義101:21)。他の場所がステークとして定められる、教義115:18。大祭司定員会会长は、ステーク会長に任命される者たちに資格を与える目的で置かれた、教義124:133-134。あなたがたはシオンの地へ行って、シオンのステークが強くされるようにしなさい、教義133:9。

ステパノ

『新約聖書』の中の人物。救い主と教会のために殉教した。ステパノの宣教はパウロの偉大な働きを予告するものであり、パウロに影響を与えたと思われる。ステパノがサンヒドリンで弁明をしていたとき、パウロはその場にいた(使徒8:

1:22:20)。

十二使徒を助ける責任に任じられた、使徒6:1-8。めざましい奇跡としとを行っていた、使徒6:8。ユダヤ人たちと議論した、使徒6:9-10。訴えられ、議会で裁判を受けた、使徒6:11-15。弁論を行った、使徒7:2-53。聖靈に満たされて、示現の中で御父と御子を見た、使徒7:55-56。その証のゆえに殉教した、使徒7:54-60。

スミス、エマ・ヘイル 「スミス、ジョセフ、ジュニア」参照

預言者ジョセフ・スミスの妻。主はエマに、教会のために賛美歌の選定をするよう命じられた。エマはまた扶助協会の初代会長を務めた。

主の御心について啓示が与えられた、教義25章。主は結婚について勧告を与えられた、教義132:51-56。

スミス、サミュエル・H 「スミス、ジョセフ、ジュニア」参照

預言者ジョセフ・スミスの弟(ジー歴史1:4)。1808年に生まれ、1844年に死去した。『モルモン書』の八人の証人の一人であり、回復された教会のために最初の宣教師の一人として務めを果たした(教義23:4;52:30;61:33-35;66:7-8;75:13)。

スミス、ジョセフ、シニア 「スミス、ジョセフ、ジュニア」「スミス、ルーシー・マック」参照

預言者ジョセフ・スミスの父。1771年7月12日に生まれた。ルーシー・マックと結婚し、9人の子供をもうけた(ジー歴史1:4)。末日の回復の業を忠実に信じ、初代の大祝福師となった。1840年9月14日に死去した。

スミス、ジョセフ、ジュニア

神は息子ジョセフを通して指示を与えた。教義4章：23：5。わたしの年老いた僕を、彼の家族とともに引き続き住まわせなさい、教義90：20。アブラハムの右に座している、教義124：19。ジョセフ・スミス・ジュニアは、日の栄えの王国の示現の中で自分の父を見た、教義137：5。

使者がジョセフ・スミス・ジュニアに受けた示現のことを父親に告げるようにと命じた、ジ—歴史1：49—50。

スミス、ジョセフ、ジュニア 「教義と聖約」「高価な真珠」「最初の示現」「ジョセフ・スミス訳（JS）」「福音の回復」「モルモン書」参照

地上にイエス・キリストの教会を回復するために選ばれた預言者。ジョセフ・スミスは1805年にアメリカ合衆国バーモント州で生まれ、1844年に世を去った。

1820年に父なる神とイエス・キリストの現れを受けたジョセフ・スミスは、地上にある教会はどれも正しくないことを知らされた（ジ—歴史1：1—20）。後に天使モロナイの訪れを受けた。このモロナイは、アメリカ大陸の古代の住民の記録が刻まれている金版の隠し場所を彼に明らかにした（ジ—歴史1：29—54）。

ジョセフはその金版を翻訳し、1830年に『モルモン書』として出版した（ジ—歴史1：66—67、75）。1829年に彼は、バプテスマのヨハネ、またペテロとヤコブとヨハネから神権の権能を受けた（教義13章：27：12；128：20；ジ—歴史1：68—70）。

1830年4月6日に、ジョセフは神の命に従い、他の数人とともに回復されたイエス・キリストの教会を組織した（教義20：1—4）。ジョセフの指導の下に、教会はカナダや英國、合衆国東部、特にオハイオやミズーリ、イリノイで発展した。しかし、ジョセフと聖徒たちの住む

所では必ず迫害が起こった。1844年6月27日、ジョセフと兄ハイラム・スミスはアメリカ合衆国イリノイ州カーセージで殉教した。

ヤコブの息子であるヨセフは、ジョセフ・スミスについて預言した、2ニフ3：6—15。

来るべき災いを知っておられた主は、ジョセフ・スミス・ジュニアを訪れられた、教義1：17（教義19：13）。イエス・キリストの使徒、また、この教会の第一の長老に聖任された、教義20：2。ペテロとヤコブとヨハネによって使徒に聖任された、教義27：12。ジョセフとシドニー・リグドンは、御父の独り子を見たことを証した、教義76：23。オリバー・カウドリとともに示現の中で主にまみえた、教義110：1—4。主はジョセフを、管理長老とし、翻訳者、啓示者、聖見者、預言者として召された、教義124：125。ただイエスは別として、他のいかなる人よりも、この世の人々の救いのために多くのことを成し遂げた、教義135：3。

預言者ジョセフ・スミスが著した聖文：ジョセフは天使モロナイから託された金版の一部を翻訳し、1830年に『モルモン書』として出版した。彼はまた、教会の基本的な教義や組織について述べた多くの啓示を主から受けた。その啓示の多くは、現在『教義と聖約』として知られている書物に編さんされている。またジョセフ・スミスの働きによって『高価な真珠』も出版されるに至った。『高価な真珠』には、モーセやアブラハム、マタイの記録、またジョセフの自伝と証の抜粋、教会の教義と信条を13にまとめた信仰箇条が含まれている。

スミス、ジョセフ・F

教会の第6代大管長。ハイラム・スミスとメアリー・フィールディングの間に

生まれたただ一人の男子。1838年11月13日に生まれ、1918年11月19日に死去した。

ジョセフ・F・スミスは死者の贖いに関する示現を受けた、**教義**138章。

スミス、ハイラム 「スミス、ジョセフ、ジュニア」参照

ジョセフ・スミスの兄で、忠実な友でもあった。ハイラムは1800年2月9日に生まれた。彼は教会の長であったジョセフの補佐として、また教会の2代目の大祝福師として働いた。1844年6月27日、ジョセフ・スミスとともにカーセージの監獄で殉教した。

神はジョセフ・スミスを通して指示を与えられた、**教義**11章：23：3。心が高潔だったので、主から愛された、**教義**124：15。教会の祝福師の職に就くよう命じられた、**教義**124:91–96, 124。ジョセフとハイラムはカーセージの監獄で殉教した、**教義**135章。ハイラム・スミスやその他の選ばれた靈たちは、時満ちる時代に来るようとにどめられていた、**教義**138：53。

スミス、ルーシー・マック 「スミス、ジョセフ、シニア」「スミス、ジョセフ、ジュニア」参照

預言者ジョセフ・スミスの母。ジョセフ・スミス・シニアの妻（ジ—歴史1:4, 7, 20）。1776年7月8日に生まれ、1856年5月5日に死去した。

ジョセフ・スミスは、日の栄えの王国の示現の中で自分の母を見た、**教義**137：5。

隅の石 「イエス・キリスト」参照

建物の基礎の隅に据えられる重要な石。イエス・キリストは隅のかしら石と

呼ばれる（エペ2:20）。

家造りらの捨てた石は隅のかしら石となった、詩篇118:22（マタ21:42–44；マコ12:10；ルカ20:17；使徒4:10–12）。

ユダヤ人は隅の石を拒んだ、ヤコ4:15–17。

正義 「憐れみ」「贖罪」参照

義にかなった思いと行いに対しては、結果として祝福が必ず与えられ、悔い改めなかかった罪に対しては罰が課せられること。正義とは、神の律法が破られるたびに罰を要求する永遠の律法である（アル42:13–24）。罪を犯した人は悔い改めなければその代価を支払わなければならない（モサ2:38–39；教義19:17）。しかし悔い改めれば、救い主が**あわ**憐れみをかけて、贖罪によりその代価を支払ってくださる（アル34:16）。

罪を犯した魂は必ず死ぬ、エゼ18:4。主のあなたに求められることは、ただ公義をおこない、ミカ6:8。

神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、1ヨハ1:9。

神の正義は悪人を義人から隔てている、1ニフ15:30。贖罪は、神の正義の要求を満たす、2ニフ9:26。全人類は堕落した状態になり、正義の支配下に入った、アル42:14。贖罪は正義の要求を満たす、アル42:15。あなたは憐れみが正義から何を奪うことができると思うか、アル42:25。悔い改めなければ、神の裁きが迫る、アル54:6。

正義と裁きは、わたしの律法に付随する罰である、**教義**82:4。正義はその道を進み続けてその権利を主張し、**教義**88:40。神の正義と律法から免れる者はだれもおらず、**教義**107:84。

聖見者 「ウリムとトンミム」「預言者」

聖餐

参照

神が世の人々から隠されたことを、靈の目をもって見るのを許された人（モセ6：35-38）。聖見者は啓示者であり、また預言者でもある（モサ8：13-16）。『モルモン書』の中でアンモンは、聖見者だけが特別な解説器すなわちウリムとトンミムを使うことができると教えている（モサ8：13；28：16）。聖見者は、過去、現在、未来の出来事を理解している。古代において、預言者はしばしば聖見者（先見者）と呼ばれた（サ上9：9；サ下24：11）。

ジョセフ・スミスは末日の偉大な聖見者である（教義21：1；135：3）。また、大管長会と十二使徒評議会は、預言者、聖見者、啓示者として支持を受ける。

先見者の記録のうちにしるされてい
る、歴下33：19。

わたしはあなたの腰から出た者の中か
ら、一人のえり抜きの聖見者を立てよう、
2ニフ3：6-15。

ここに知恵がある。それは、聖見者、
啓示者、翻訳者、および預言者となるこ
とである、教義107：92。主はハイラム・
スミスを、預言者、聖見者、啓示者に任
命された、教義124：91-94。

せいしん
聖餐 「イエス・キリスト」「生ける水」「命
のパン」「犠牲」「最後の晚餐」「十字架」
〔しょくさい〕「贖罪」「バプテスマ」参照

末日聖徒にとって聖餐とは、キリスト
〔あかな〕の贖いの犠牲を記念するパンと水にあず
かる儀式を指す。裂かれたパンは主の引
き裂かれた肉を象徴し、水は人の罪を贖
うために流された主の血を象徴している
(1コリ11：23-25；教義27：2)。ふさ
わしい教員はこの聖餐にあずかるとき
に、キリストの名を受け、いつもキリストを覚え、その戒めを守ることを約束す
る。教員はこの儀式を通して、バプテ

スマの聖約を新たにするのである。

イエスは最後の晚餐のときに、十二使
徒と食事を共にして、聖餐の儀式につい
て説明された（マタ26：17-28；ルカ
22：1-20）。

イエスはパンを取り、祝福し、また杯
を取り、感謝し、マタ26：26-28（マコ
14：22-24；ルカ22：19-20）。わたし
の肉を食べ、わたしの血を飲む者には、
永遠の命があり、ヨハ6：54。主のから
だをわきまえないと飲み食いする者は、
その飲み食いによって自分にさばきを招
く、1コリ11：29（3ニフ18：29）。

イエスはニーファイ人の十二弟子に、
聖餐について教えられた、3ニフ18：1
-11。イエスは弟子たちに、ふさわしく
ない人々が聖餐にあずかるのを禁じるよ
うに教えられた、3ニフ18：28-29（モ
ル9：29）。聖餐の祈りが述べられる、
モロ4-5章（教義20：75-79）。

聖餐は祭司または長老によって執行
される、教義20：46, 76。教師や執事
には聖餐の祝福をする権能はない、教義
20：58。聖餐にはぶどう酒以外の飲み物
を使うことができる、教義27：1-4。

聖書 「エフライム—エフライムまたは
ヨセフの木」「旧約聖書」「新約聖書」
「聖書外典」「正典」「聖文」「ユダ—ユ
ダの木」参照

神聖な啓示を載せたヘブライ語文献と
キリスト教文献の集成。聖書を表すバイ
ブルという言葉には、「書物」という意
味がある。『聖書』は、聖なる御靈の感
化の下に創いた、多くの預言者と靈感を
受けた記録者が書き残したものである(2
ペテ1：21)。

キリスト教徒が用いる聖書は、『旧約
聖書』ならびに『新約聖書』として広く
知られる二つの部分から成る。『旧約聖
書』は、主がこの世で務めを果たしてお

られたときに、パレスチナのユダヤ人の間で用いられていた聖典である。『新約聖書』は使徒の時代に属する記録を含み、ユダヤ人の聖典と同じ神聖さと権威を備えていると見なされている。『旧約聖書』の各書は幾世紀にも及ぶ民族的文学の中から選ばれたものであり、そのほとんどがヘブライ語で書かれた。一方、『新約聖書』の各書は1世代の間に、おもにギリシャ語で記録された。

『旧約聖書』の「旧約」は、古い聖約（契約）の意味である。古い聖約とは、この世が始まって以来神の民が受けた完全な福音をイスラエルが拒んだときに、モーセに与えられた律法である。新しい聖約とは、イエス・キリストによって教えられたままの福音である。

ヘブライ語聖書（旧約聖書）の各書は、律法、預言者、諸書の3つに分類された。キリスト教界の中で用いられた『聖書』は、その内容により歴史書、詩歌、預言書などに分類されている。

『新約聖書』の各書は、一般に四福音書と使徒行伝、またパウロの手紙、ヤコブ、ペテロ、ヨハネ、ユダの公同書簡、ヨハネの黙示録の順序で配列されている。

末日聖徒イエス・キリスト教会は、『聖書』を尊ぶとともに、人類に対する神の計らいを記した『聖書』の記述を支持し確認する新たな啓示を、主が終わりの時に主の預言者を通して引き続き与えてくださると宣言している。

ユダの木（聖書）とヨセフの木（モルモン書）は主の手で一つになる、エゼ 37：15-20。

『聖書』の真実性が末日の聖典によって確立される、1ニフ 13：38-40。『聖書』と『モルモン書』が一つに合わされて、偽りの教義を打ち破る、2ニフ 3：12。聖書か、聖書か。我々はすでに聖書を持っている、2ニフ 29：3-10。『聖書』

を信じる人は『モルモン書』も信じるであろう、モル 7：8-10。

長老は、『聖書』と『モルモン書』の中にあるわたしの福音の原則を教えないければならない、教義 42：12。

わたしたちは、正確に翻訳されているかぎり、『聖書』は神の言葉であると信じる、箇条 1：8。

聖書（ジョセフ・スミス訳）「ジョセフ・スミス訳（JS）」参照

聖書外典 「聖書」「聖文」参照

ユダヤ人が神聖なものと見なした諸書で、ヘブライ語『聖書』には含まれていなかったが、幾つかのキリスト教会の『聖書』には収録されているもの。これらの書物は『旧約聖書』と『新約聖書』の歴史的つながりを知るうえで役立つことが多く、末日聖徒イエス・キリスト教会では有益なものと見なされている。

聖書外典は大部分正確に翻訳されているが、真実でない書き入れ文も含まれている、教義 91：1-3。聖書外典は御靈みたまに照らされる者を益する、教義 91：4-6。

性的不道德 「姦淫」「肉欲」「不貞」 参照

姦淫、不貞、同性愛行為、近親相姦など、不淨で、不自然で、不純な、意図的に行われる性的行為。

父に酒を飲ませ、共に寝た、創世 19：30-36。ルベンは父のそばめビルハのところへ行って、これと寝た、創世 35：22（創世 49：4；歴上 5：1）。同性愛行為やその他の性倒錯は憎むべきことである、レビ 18：22-23。男が女を犯したならば、その男だけが罪ありとされる、申命 22：25-27。

情欲をいたいで女を見る者は、心の中ですでに姦淫をしたのである、マタ 5：28

(3 ニフ 12:28)。不品行、汚れ、情欲、悪欲、また貪欲は偶像礼拝にはかならない、コロ 3:5。

性的な罪悪は忌まわしい行いである、アル 39:3-5。

正典 「教義と聖約」「高価な真珠」「聖書」「聖文」「モルモン書」参照

正式に認められ、権威あるものと見なされた神聖な書物。末日聖徒イエス・キリスト教会では、正典は標準聖典と呼ばれ、この中には『旧新約聖書』『モルモン書』『教義と聖約』『高価な真珠』が含まれる。

聖徒 「イエス・キリストの教会」「クリスチャン」「末日聖徒イエス・キリスト教会」参照

イエス・キリストの教会の忠実な会員。

わが聖徒をわたしのもとに集めよ、詩篇 50:5。

サウロはエルサレムで聖徒たちを大いに苦しめた、使徒 9:1-21。ペテロはルダに住む聖徒たちのところへも下って行った、使徒 9:32。ローマにいる、召された聖徒一同へ。恵みと平安とが、あなたがたにあるように、ロマ 1:7。あなたがたは、聖徒たちと同じ国籍の者であり、エペ 2:19-21。

神の聖徒である小羊の教会の人々が見えた、1 ニフ 14:12。キリストの贖罪を通じて聖徒とならないかぎり、生まれながらの人は神の敵である、モサ 3:19。

主なるわたしは、地をわたしの聖徒たちが使うために祝福して、教義 61:17。彼は神の聖徒たちに戦いを挑み、教義 76:28-29。熱心に働きなさい。来るべき裁きの時に對して聖徒たちを備えさせるためである、教義 88:84-85。聖徒は貧しい者や苦しんでいる者に持ち物を分け与えなければならない、教義 105:3。

以上の職とその鍵をわたしがあなたがたに授けたのは、奉仕の業とわたしの聖徒たちの完成のためである、教義 124:143 (エペ 4:12)。

聖なる人 「神、神会」「天の御父」「人子」参照

父なる神の別称 (モセ 6:57)。

聖なる御靈 みたま 「聖靈」参照

聖なる森 「最初の示現」参照

聖任 「接手」「権威、権限、權能」「召し、神の召し」「職」「神權」参照

権能を受けたり職に任じたりすること。主の教会で権能を行使するには、預言によって、また権能を持つ者による按手によって、神から召されなければならない (箇条 1:5)。人は聖任によって権能を受けることができるが、その権能に対する鍵を持つ者の指示の下にそれを行使する。

あなたを立てて万国の預言者とした、エレ 1:5。

あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた、ヨハ 15:16。

アルマは神から権能を授かっていたので、祭司たちを聖任した、モサ 18:18。大祭司は聖なる位に従って聖任された、アル 13:1-9。イエスは十二弟子を選び、聖任された、3 ニフ 12:1。長老は按手によって祭司と教師を聖任する、モロ 3 章。

もうしばらくの間待たなければならぬ。あなたはまだ聖任されていないからである、教義 5:17。ジョセフ・スマミスはイエス・キリストの使徒に聖任された、教義 20:2 (教義 27:12)。その教会の賛意の表明がなければ、だれも聖

任されることはない、**教義** 20：65。だれか権能を持つ者によって聖任されないかぎり、だれもわたしの福音を宣べ伝えるために出て行くことは許されない、**教義** 42：11。長老たちは福音を宣べ伝えるために聖任される、**教義** 50：13-18。十二使徒には、教会の他のすべての役員を聖任する務めがある、**教義** 107：58。

わたしは先祖の祝福と、わたしが聖任されるべき権利を得ようと努めた、**アブ** 1：2。ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリは互いにアロン神権に聖任し合った、**ジー歴史** 1：68-72。

政府 「憲法」参照

イエス・キリストは地上に戻って来られると、義にかなった政府を打ち立てられる。

まつりごとはその肩にあり、**イザ** 9：6（**2ニフ** 19：6）。

カイザルのものはカイザルに返しなさい、**マタ** 22：21（**教義** 63：26）。上に立つ権威に従うべきである、**ロマ** 13：1。王たちと上に立っているすべての人々のために、祈いのりをささげなさい、**1テモ** 2：1-2。支配者、権威ある者に服し、これに従い、**テト** 3：1。あなたがたは、すべて人の立てた制度に、主のゆえに従いなさい、**1ペテ** 2：13-14。イエス・キリストは地を最後に治める者となれる、**黙示** 11：15。

正しい人をいつも王に頂く、**モサ** 23：8。あなたがたは民の声によって職務を果たすように、**モサ** 29：26。

わたしが来るとき、わたしはあなたがたを治める者となる、**教義** 41：4。神の律法を守る者は、その地の法律を破る必要がない、**教義** 58：21。邪悪な者が治めるとき、民は嘆き悲しむ、**教義** 98：9-10。政府は人間のために神によって設けられた、**教義** 134：1-5。人は政府を支持し、支える義務を負う、**教義** 134：5。

わたしたちは、王、大統領、統治者、長官に従うべきことを信じる、**箇条** 1：12。

聖文 「**教義と聖約**」「**高価な真珠**」「**言葉**（神の）」「**聖書**」「**正典**」「**モルモン書**」参照

神の聖なる人々が聖靈に動かされて書いたり、話したりした言葉。当教会が今日、公式の正典として認めている聖文は、『**聖書**』『**モルモン書**』『**教義と聖約**』『**高価な真珠**』である。イエスと『**新約聖書**』の著者たちは、『**旧約聖書**』の各書を聖文と見なしていた（マタ 22：29；ヨハ 5：39；2 テ モ 3：15；2 ペ テ 1：20-21）。付録の「年表」も参照。

聖書を説き明してくださったとき、お互たがいの心が内に燃えたではないか、**ルカ** 24：32。聖文を調べなさい。わたしについてあかしをするものである、KJ ヨハ 5：39。

キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げる、**2ニフ** 32：3。聖文を信じるように導かれた者は皆、信仰において確固として堅固である、**ヒラ** 15：7-8。

人々は聖文を曲げて解釈し、それを理解しない、**教義** 10：63。これらの言葉は人々から、人間から出ているのではなく、わたしから出ているのである、**教義** 18：34-36。『**モルモン書**』の出現は、聖文が真実であることを世に証明している、**教義** 20：2, 8-12。聖文を研究することに時間を費やしなさい、**教義** 26：1。聖文は聖徒を教えるために与えられている、**教義** 33：16。聖文は選民の救いのために与えられる、**教義** 35：20。『**聖書**』と『**モルモン書**』の中にあるわたしの福音の原則を教えなければならない、**教義** 42：12。これらのことに関するわたしの律法がわたしの聖文の中に与えられている、**教義** 42：28。何であろうと聖靈の

聖文

影響の下で語ることは、聖文となり、**教義** 68：4。

失われた聖文：聖典の中に言及されているが、今わたしたちが手にしていない神聖な記録が数多くある。以下はそれらの記録や著者の一部である。「契約の書」（出エ 24：7）、「主の戦いの書」（民数 21：14）、「ヤシャルの書」（ヨシ 10：13；サ下 1：18）、「ソロモンの事績の書」（列上 11：41）、「先見者サムエルの書」（歴上 29：29）、「預言者ナタンの書」（歴下 9：29）、「預言者シマヤの書」（歴下 12：15）、「預言者イドの書」（歴下 13：22）、「エヒウの書」（歴下 20：34）、先見者の記録（歴下 33：19）、エノクの言葉（ユダ 1：14）、ゼノク、ニアム、ゼノスの言葉（1ニフ 19：10）、ゼノス（ヤコ 5：1）、ゼノクとイザイアス（ヒラ 8：20）、覚えの書（モセ 6：5）、コリント人への手紙（1コリ 5：9）、エペソ人への手紙（エペ 3：3）、ラオデキヤからの手紙（コロ 4：16）、ユダからの手紙（ユダ 1：3）。

保存されるべき聖文：これらの記録を入れるのは、神の知恵です。そうすれば預言者の口を通して語られてきた御言葉を残すことができる、**1ニフ 3：19-20**。この小さい版はわたしが保存しなければならない、**ヤコ 1：3**。これらのが神の御手によって書き継がれ、そして残された、**モサ 1：5**。これらの神聖なものを大切にしなさい、**アル 37：47**。

聖文は安全に保存されなければならぬ、**教義 42：56**。

保存するためあらゆる努力を尽くす、**ジー歴史 1：59**。

聖文の価値：あなたはイスラエルのすべての人の前でこの律法を読んで聞かせなければならない、**申命 31：10-13**。律法の書をあなたの口から離すことなく、**ヨシ 1：8**。主のおきては完全であつて、魂を生きかえらせ、**詩篇 19：7**。あ

なたのみ言葉はわが足のともしび、**詩篇 119：105**。

わたしについてあかしをするものである、**ヨハ 5：39**。聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、導くのに有益である、**2テモ 3：15-16**。

すべての聖文を自分たちに当てはめて、それが自分たちの利益となり、**1ニフ 19：23**。わたしは聖文に喜びを感じる、**2ニフ 4：15-16**。わたしたちは、キリストを信じるように説き勧めるために、熱心に記録し続けようと努めている、**2ニフ 25：23**。民は聖文を詳しく調べ、二度とこの邪悪な男の言葉に聞き従わなかつた、**ヤコ 7：23**（アル 14：1）。この版がなかったならば、わたしたちは無知のままでいたに違ひない、**モサ 1：2-7**。神の言葉を知るために聖文を熱心に調べてきた、**アル 17：2-3**。聖文は人々を救いに導くために保存される、**アル 37：1-19**（**2ニフ 3：15**）。神の言葉はキリストの人を導く、**ヒラ 3：29**。

何であろうと聖霊によって語ることは、聖文となり、救いを得させる神の力となる、**教義 68：4**。わたしの教会を築き上げ、彼らを備えるためである、**教義 104：58-59**。

だれでもわたしの言葉を大切に蓄える者は、惑わされることがない、**ジーマタ 1：37**。

出現を預言された聖文：イザヤは『モルモン書』の出現を預言した、**イザ 29：11-14**。あなたは1本の木を取り、その上に『ユダのために』と書き、**エゼ 37：15-20**。

ほかにも幾つかの書物が現れる、**1ニフ 13：39**。わたしの言葉がすべてそこに含まれていると思ってはならない、**2ニフ 29：10-14**。キリストの福音を手にしなさい。キリストの福音はこの記録だけでなく、あなたがたに伝わる記録に

よってもあなたがたに知らされるであろう、モル7：8-9。この記録を明るみに出す者は幸いである、モル8：16。これらのこと書き記して封じなさい。わたしは自分がふさわしいと思うときに、これらのこと人の子らに知らせよう、エテ3：27（エテ4：7）。

わたしたちは、神がこの後多くのことを啓示されると信じる、箇条1：9。

聖約（契約）「新しくかつ永遠の聖約」「アブラハムの聖約（契約）」「神権の誓詞と聖約」「誓い」参照

神と人との間で交わされる合意。ただし、この合意は対等の関係によるものではない。神は聖約に関して条件を定め、人は神から求められることを行うという同意をする。そして神は、人が従順であることに対して定められた祝福を与えると約束される。

原則や儀式は聖約によって与えられる。このような聖約を交わす教会員は、それを尊ぶことを約束する。例えば、教会員はバプテスマのときに主と聖約を交わし、聖餐を受けることによってその聖約を更新する。教会員はまた神殿でもさらに聖約を交わす。主の民は聖約の民であり、主との聖約を守るときに、豊かに祝福される。

わたしはあなたと契約を結ぼう、創世6：18。わたしの契約を守るならば、あなたがたはわたしの宝となるであろう、出エ19：5。彼ら、および彼らの神々と契約を結んではならない、出エ23：32。安息日を覚え、永遠の契約としなければならない、出エ31：16。わたしはあなたと結んだ契約を決して破ることはない、士師2：1。いけにえをもってわたしと契約を結んだわが聖徒、詩篇50：5（教義97：8）。

その聖なる契約をおぼえ、ルカ1：72

（教義90：24）。

神の力が主の聖約の民のうえに下る、1ニフ14：14。アブラハムに立てられた聖約は末日に成就する、1ニフ15：18（3ニフ16：5、11-12；21：7；モル9：37）。ベニヤミンの民は神の御心を行うという聖約を交わした、モサ5：5。バプテスマは神に仕えるという聖約を神と交わした証拠である、モサ18：13。あなたがたは聖約の子孫だからである、3ニフ20：25-26。天使は、御父が人の子らに立てられた聖約の業を果たして実行する、モロ7：29-31。キリストの血が流されたのは、聖約されたことによる、モロ10：33。

キリストのこの教会に属している人は皆、すべての聖約を守るように努めなければならない、教義42：78。聖約を守ってきた者は幸いである、教義54：6。聖約を破る者は教会における自分の職と立場を失い、教義78：11-12。神権を受ける者は皆、この誓詞と聖約を受け入れる、教義84：39-40。犠牲を払って自分の聖約を進んで守ろうとするすべての者は、わたしに受け入れられる、教義97：8。結婚の聖約は永遠のものとすることができる、教義132章。主のすべての定めに従って歩むことが、わたしたちの聖約となる、教義136：4。

聖靈 「神、神会」「啓示」「聖靈の賜物」「慰め主、助け主」「鳩のしるし」「バプテスマ」「約束の聖なる御靈」「赦されない罪」「靈感」参照

神会の第三の御方（1ヨハ5：7；教義20：28）。靈の御方であり、骨肉の体は持つておられない（教義130：22）。聖靈はしばしば、御靈、神の御靈と呼ばれる。

聖靈は救いの計画の中で幾つかの重要な役割を果たされる。（1）御父と御子を証される（1コリ12：3；3ニフ28：11；エテ12：41）。（2）すべてのこと

聖霊の賜物

ついて真理を明らかにされる（ヨハ 14：26；16：13；モロ 10：5；教義 39：6）。（3）悔い改めてバプテスマを受けた人を聖められる（ヨハ 3：5；ニフ 27：20；モセ 6：64–68）。（4）約束の聖なる御霊として働くかれる（教義 76：50–53；132：7，18–19，26）。

聖霊の力は、まだバプテスマを受けていない人们にも及び、福音が真実であることを証する。しかし、ふさわしい人に与えられる、聖霊を常に伴侶とする権利は、権能を持つ人々からイエス・キリストのまことの教会に入るためのバプテスマを受けた後に、メルキゼデク神権者の^{あんじゆ}按手によってのみ授けられる賜物である。

イエスは、聖霊に対する冒瀆^{ぼうとく}_{ゆる}を除いて、すべての罪が赦されると教えられた（マタ 12：31–32；マコ 3：28–29；ルカ 12：10；ヘブ 6：4–8；教義 76：34–35）。

わが靈をあなたがたのうちに置いて、エゼ 36：27。

使徒たちは、父と子と聖霊との名によって人々にバプテスマを施す権能を与えられた、マタ 28：19。聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、ヨハ 14：26。人々が聖霊に感じ、神によって語つたもの、2ペテ 1：21。

ニーファイは御霊に導かれて行った、1ニフ 4：6。神の奥義は聖霊の力によって人々に明らかにされる、1ニフ 10：17–19。聖霊は、あなたがたがなすべきことをすべてあなたがたに示されるであろう、2ニフ 32：5。聖霊の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう、モロ 10：5。

聖霊によって、わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう、教義 8：2。御霊は公正に行動するように導く、教義 11：12。聖霊はすべてのことを知っておられる、教義 35：19。聖霊は王国にかかる平和をもたらす事柄を教えられ

る、教義 36：2（教義 39：6）。御霊を受けなければ、あなたがたは教えてはならない、教義 42：14。聖霊は御父と御子のことを証される、教義 42：17（1コリ 12：3；3ニフ 11：32，35–36）。ある人々には、イエス・キリストが神の子であることを知ることが、聖霊によって許される、教義 46：13。何であろうと聖霊に動かされて語ることは、聖文となり、教義 68：4。聖霊が注がれて、あなたがたの述べるすべてのことを証するであろう、教義 100：8。聖霊は常にあなたの伴侶となり、教義 121：45–46。

聖霊の賜物 「神、神会」「聖霊」「賜物」
「御霊の賜物」参照

絶えず聖霊の影響力を受けることは、バプテスマを受けて教員となったすべてのふさわしい人に授けられる権利である。イエス・キリストのまことの教会に入るためのバプテスマを受けた人は、正当な権能を持つ人の^{あんじゆ}按手によって聖霊の賜物を受ける（使徒 8：12–25；モロ 2章；教義 39：23）。聖霊の賜物を受けることは、しばしば火によるバプテスマと呼ばれる（マタ 3：11；教義 19：31）。

人々は、悔い改めてバプテスマを受け、聖霊の賜物を受けるように命じられている、使徒 2：38。ペテロとヨハネは按手によって聖霊の賜物を授けた、使徒 8：14–22。聖霊は按手によって授けられる、使徒 19：2–6。

火と聖霊によって罪の赦しが与えられる、2ニフ 31：17。

わたしたちは、聖霊の賜物を授けるための按手を信じる、箇条 1：4。

ゼーズロム

『モルモン書』の中の人物。アモナイハの町の法律家。アルマとアミュレクは、ゼーズロムが偽りを言っていることを御

靈によって見抜いた。後に彼は改心してキリストの福音に従った（アル 11：21－46；15：1－12）。

ゼカリヤ

旧約の預言者。紀元前520年ごろに預言した。預言者ハガイと同時代の人である（エズ5：1；6：14）。

ゼカリヤ書：この書は、キリストのこの世での務めと再臨についての預言でよく知られている（ゼカ9：9；11：12－13；12：10；13：6）。第1－8章には、神の民の将来についての一連の示現が記されている。第9－14章には、メシヤ、終わりの時、イスラエルの集合、最後の大戦争、再臨についての示現が述べられている。

責任を負う 「選択の自由」参照

主は、人は皆自分自身の思い、態度、望み、行動に対して責任があると言われた。

責任を負う年齢とは、子供が自分の行いに対して責任を有し、また罪を犯した後に悔い改めをすることができると見なされる年齢。

わたしはあなたがたを、おのれのその行いに従ってさばく、エゼ18：30。

人はその語る無益な言葉に対して、言い開きをしなければならない、マタ12：36。あなたの会計報告を出しなさい、ルカ16：2。わたしたちひとりびとりは、神に対して自分の言いひらきをすべきである、ロマ14：12。死人はそのしづざに応じて、さばかれた、黙示20：12。

わたしたちの言葉と行いと思ははわたしたちを罪に定める、アル12：14。人々は善を行うか悪を行いうか自分で判断する、アル41：7。あなたがたは随意に行動することを許されている、ヒラ14：29－31。悔い改めとバプテスマについて

教えなさい、モロ8：10。

責任を負う年齢に達した人はすべて悔い改めて、バプテスマを受けなければならぬ、教義18：42。彼らがわたしの前に責任を負うようになるまで、サタンには幼い子供たちを誘惑する力が与えられない、教義29：46－47。子供たちは、8歳のときにバプテスマを受けなければならない、教義68：27。各々が裁きの日に自分自身の罪に対する責任を負う、教義101：78。

善惡を知ることが彼らに許される。それゆえ、彼らは自ら選択し行動する者である、モセ6：56。人は自分の罪のゆえに罰せられる、箇条1：2。

責任を負う年齢 「子供」「責任を負う」「バプテスマ—幼児には不要」「幼児のバプテスマ」参照

セツ 「アダム」参照

『旧約聖書』の中の人物。義人。アダムとエバの息子。

完全な人であり、その姿は彼の父に生き写しであった、教義107：42－43（創世5：3）。靈界で力ある者たちの中にいた、教義138：40。

神はセツに御自身を現された、モセ6：1－3、8－14。

ゼデキヤ 「ミュレク」参照

『旧約聖書』の中の人物。ユダ王国の最後の王（列下24：17－20；25：2－7）。預言者エレミヤを投獄した（エレ32：1－5）。エレミヤはゼデキヤが囚われの身となることを預言した（エレ34：2－8、21）。リーハイとその家族は、ゼデキヤの治世第1年にエルサレムに住んでいた（1ニフ1：4）。ゼデキヤの息子たちは一人を除き全員が殺された。ゼデキヤの息子ミュレクは西半球へ逃れた（エレ52：10；オム1：15；ヒラ8：21）。

ゼニフ

ゼニフ

『モルモン書』の中の人物。ニーファイの地に帰る人々を率いた。そして彼らの王となり、義にかなって導いた（モサ9-10章）。

ゼノク

旧約の時代のイスラエルの預言者。その名は『モルモン書』にのみ出てくる。

キリストの死について預言した、**1ニフ19:10**。神の御子について話した、**アル33:15**（アル34:7）。真理のために殉教した、**アル33:17**。メシヤの来臨について預言した、**ヒラ8:20**。

ゼノス

旧約の時代のイスラエルの預言者。キリストの働きについて述べた彼の預言は、『モルモン書』にのみ記録されている。

キリストの埋葬と3日間の暗闇について預言した、**1ニフ19:10, 12**。イスラエルの集合を預言した、**1ニフ19:16**。ヤコブは、栽培されたオリーブの木と野性のオリーブの木の、ゼノスの比喩を引用した、**ヤコ5章**。ヤコブがゼノスの比喩を解き明かした、**ヤコ6:1-10**。祈りと礼拝について教えた、**アル33:3-11**。贖いが神の御子を通して与えられることを教えた、**アル34:7**。大胆に証し、そのために殺された、**ヒラ8:19**。レーマン人の回復について預言した、**ヒラ15:11**。キリストの死のときに起こる破壊について証した、**3ニフ10:15-16**。

ゼパニヤ

『旧約聖書』の中の人物。ヨシヤ王の治世の預言者（紀元前639-608年）。

ゼパニヤ書：第1章には、怒りと悩みに満ちた来るべき日のことが述べられて

いる。第2章には、正義と謙遜さを求めよとのイスラエルの民への勧告が記されている。第3章には、すべての国民が集まって戦いをするときに再臨があることが述べられている。主は彼らのただ中で統治される。

ゼブルン 「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとレアの息子（創世30:19-20）。

ゼブルンの部族：ヤコブはゼブルンの部族に祝福を受けた（創世49:13）。ゼブルンの部族は、デボラや巴拉クとともにイスラエルの敵と戦った（士師4:4-6, 10）。彼らはまた、ギデオンとともにミデアン人と戦った（士師6:33-35）。

セム 「ノア（族長）」参照

『旧約聖書』の中の人物。義人。ノアの息子。伝承によると、アラブ人、ヘブライ人、バビロニア人、シリア人、フェニキア人、アッシリア人を含む、セム族の始祖とされている（創世5:29-32; 6:10; 7:13; 9:26; 10:21-32; モセ8:12）。末日の啓示の中で、セムは「偉大な大祭司」と言われている（教義138:41）。

ゼラヘムラ 「アンモン（ゼラヘムラの子孫）」「ミュレク」参照

『モルモン書』の中の人物や地名。民。(1) ミュレクの移民団を導いた人物。(2) 彼にちなんで名付けられた町。(3) ゼラヘムラの地。(4) 彼に従った民。

主がモーサヤの民を遣わされたので、ことのほか喜んだ、オム1:14。先祖の系図を述べた、オム1:18。アンモンはゼラヘムラの子孫であった、モサ7:3, 13。教会がゼラヘムラの町に設けられた、

アル 5:2。この町が今救われているのは、義を守っている者たちのおかげである、ヒラ 13:12。キリストの死のときに、ゼラヘムラの町は火で焼き尽くされた、3ニフ 8:8, 24。

ゼルバベル

『旧約聖書』の中の人物。クロスがユダヤ人にパレスチナへの帰還の許可を与えたとき、ゼルバベルは知事、すなわちユダヤの王家の代表に任じられた。彼のペルシャ語名は、セシバザルである（エズ 1:8）。彼はエルサレムの神殿の再建に従事した（エズ 3:2, 8:5; 2）。

宣言 「ウッドラフ、ウィルフォード」「結婚—多妻結婚」参照

1890 年にウィルフォード・ウッドラフ大管長が出した公式の宣言。当教会とその会員は国法に従い、多妻結婚を実施していないことを明確に宣言している（公式 1）。ウッドラフ大管長は神からの示現と啓示に従ってこの宣言を出した。

前世 「天上の会議」「天での戦い」「初め」「人」参照

地上に生まれる前の生活。男女を問わず人は皆、死すべき存在として地上に来る前は、神の靈の子供として神のもとにいた。前世は第一の位と呼ばれることがある（アブ 3:26）。

わたしが地の基をすえた時、どこにいたか。かの時には明けの星は相共に歌い、神の子たちはみな喜び呼ばわった、ヨブ 38:4-7。靈はこれを授けた神に帰る、伝道 12:7。わたしはあなたをまだ母の胎につくらないさきに、あなたを知り、エレ 1:4-5。

われわれは神の子孫なのである、使徒 17:28。神は天地の造られる前から、わたしたちを選び、エペ 1:3-4。わたし

たちは、たましいの父に服従して、ヘブ 12:9。第一の位を保たなかつた御使使徒たちは、永遠の鎖で縛られた、KJ ユダ 1:6（アブ 3:26）。サタンとその使いは投げ落とされた、黙示 12:9。

世の初めから召され、備えられていた、アル 13:3。

世界が造られる前に永遠の大いなる広がりと天の衆群を見た者、教義 38:1。人もまた初めに神とともにいた、教義 93:29（ヒラ 14:17；教義 49:17）。神の教会で治める者となるように初めに選ばれた、高潔で偉大な者たち、教義 138:53-55。多くの者が靈の世界において最初の教えを受けた、教義 138:56。

すべてのものは、それらが地の面に自然に存在するに先立つて靈的に創造された、モセ 3:5。わたしは世界を造り、また人々を、彼らが肉体にある前に造つた、モセ 6:51。アブラハムは、世界が存在する前に組織された英知たちを見た、アブ 3:21-24。

戦争 「平安、平和」参照

戦闘。武器を用いて戦うこと。主は聖徒たちに、家族や財産、権利、特権、自由を守る最後の手段として戦うことを認めておられる（アル 43:9, 45-47）。

血を流しても自分の民と、自分の権利と、自分の国と、自分の宗教を守ると固く誓つて、アル 48:10-17。

ジョセフ・スマスは、戦争に関する啓示と預言を受けた、教義 87 章。戦争を放棄して、平和を宣言しなさい、教義 98:16, 34-46。わたしたちは信じる。人が自分自身と友人と財産と政府を守ることは正当である、教義 134:11。

わたしたちは、法律を守り、尊び、支えるべきことを信じる、箇条 1:12。

選択 「選ぶ」「選択の自由」参照

選択の自由

選択の自由 「自由」「責任を負う」参照

神が人に授けられた、自分自身で選び、行動する能力と特権。

どの木からでも心のままに取って食べよろしい、創世2：16。あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい、ヨシ24：15（アル30：8；モセ6：33）。

人は、誘われなければ、思いのままに行動することはできなかった、2ニフ2：15-16。人は、自由と永遠の命を選ぶことも、束縛と死を選ぶことも自由である、2ニフ2：27。あなたがたは自由であり、あなたがたは随意に行動することを許されている、ヒラ14：30。

天の衆群の3分の1が、彼らの選択の自由によって背き去った、教義29：36。悪魔が人の子らを誘惑するのは必要である。そうでなければ、人の子らは自ら選択し行動する者とはなれない、教義29：39。各人に自ら選ばせなさい、教義37：4。すべての人がわたしの与えた道徳的な選択の自由に応じて、行動できるようにし、教義101：78。

サタンは人の選択の自由を損なおうとした、モセ4：3。主は人に選択の自由を与えた、モセ7：32。

全知 「神、神会」参照

神の属性で、すべての知識を有すること（マタ6：8；2ニフ2：24）。

全能 「神、神会」参照

神の属性で、すべての力を有すること（創世18：14；アル26：35；教義19：1-3）。

選民

選民とは、心を尽くして神を愛し、神に喜ばれる生活をしている人々をいう。そのような弟子と呼ばれるにふさわしい生活をする人は、いつの日か主にえり分けられ、選ばれた子らの中に数えられる。

できれば、選民をも惑わそうとするであろう、マタ24：24。ヨハネは選ばれた婦人の子たちが忠実で信仰深いことを喜んだ、2ヨハ1章。

あなたの罪は赦されている。あなたは、選ばれた婦人である、教義25：3。わたしの選民はわたしの声を聴き、その心をかたくなにしない、教義29：7。同じように、わたしは地の四方からわたしの選民を集めよう、教義33：6。聖文が授けられ、わたしの選民は救われるであろう、教義35：20-21。神権の召しを尊んで大いなるものとする者は神の選民となる、教義84：33-34。

選民のためには、聖約に従ってその期間が縮められるであろう、ジーマタ1：20。

創世記 「五書」参照

創世記は『旧約聖書』の最初の書であり、預言者モーセによって書かれた。創世記には、地球の創造、地上に動物や人間が置かれたこと、アダムとエバの堕落、アダムへの福音の啓示、部族や人種の始まり、バベルでの様々な言語の発生、イスラエルの家の創成につながるアブラハムの家族の始まりなど、多くの事柄の起源が記録されている。創世記には、イスラエルを救う者としてのヨセフの役割が強調して描かれている。

末日の啓示は創世記の記録の真実性を立証し、明らかにしている（1ニフ5章；エテ1章；モセ1-8章；アブ1-5章）。

創世記の第1-4章には、世界が創造され、アダムの家族が増え始めたことが書かれている。第5-10章には、ノアにまつわる歴史が記録されている。第11-20章には、イサクの時代に至るまでのアブラハムとその家族のことが記されている。第21-35章にはイサクの家族のこと、また第36章にはエサウとそ

の家族のことが書かれている。そして第37-50章には、ヤコブの家族のことと、ヨセフがエジプトへ売られ、やがてイスラエルの家を救う者になったことが載っている。

創造、創造する 「安息日」「イエス・キリスト」「地球（地）」「初め」「靈の創造」参照

組織すること。神は御子イエス・キリストの働きを通して、自然界の元素を組織し、天と地を形造られた。天の御父といエスは御自分たちの形に人を創造された（モセ2：26-27）。

はじめに神は天と地とを創造された、**創世1：1**。われわれにかたどって人を造り、**創世1：26**（モセ2：26-27；アブ4：26）。

すべてのものは、キリストによってできた、ヨハ1：3、10。万物は、天にあるものも、みな御子にあって造られた、コロ1：16（モサ3：8；ヒラ14：12）。神は御子によって、もうもろの世界を造られた、ヘブ1：2。

人は初めて造られた、モサ7：27。わたしは天地とその中にある万物を創造した、3ニフ9：15（モル9：11、17）。すべての人は初めてわたし自身の形に造られたのである、エテ3：15。

イエス・キリストは天と地を創造された、**教義14：9**。神は人を創造された。すなわち、御自分の形に、男と女に創造された、**教義20：18**。

無数の世界を、わたしは創造した、モセ1：33。わたしの独り子によって、わたしはこれらのものを創造した、モセ2：1。主なる神であるわたしは、すべてのものを、それらが地の面に自然に存在するに先立って靈的に創造した、モセ3：5。この地球のような幾百万の地球も、あなたが創造されたものの数の始めにも至りません、モセ7：30。神々は、天と地を

組織し、形造られた、アブ4：1。

創造主 「イエス・キリスト」「創造、創造する」参照

相続人 「受け継ぐ者」参照

ゾーラム、ゾーラム人

『モルモン書』の中の人物。ラバンの召し使いであったが、ニーファイやリーハイとともに約束の地へ向かった（1ニフ4：31-38）。ゾーラムの忠実さを見たリーハイは、自分の息子たちだけでなく、ゾーラムにも祝福を授けた（2ニフ1：30-32）。彼の子孫はゾーラム人として知られるようになった（ヤコ1：13）。

族長 「父（現世の）」参照

家族や部族の長。父親は自分の家族の族長として特別な祝福を授けることができる。しかし、教会はその祝福を記録することも、保管することもない。

ヤコブは息子たちとその子孫に祝福を授けた、**創世49：1-28**。

族長ダビデについては、わたしはあなたがたにむかって大胆に言うことができる、**使徒2：29**。

リーハイは子孫に勧告と祝福を与えた、**2ニフ4：3-11**。

わたしは先祖に属する権利を持つ正当な相続人、大祭司となった、**アブ1：2-4**。

外の暗闇 「地獄」参照

ソドム 「ゴモラ」参照

『旧約聖書』に出てくる邪惡な町。主によって滅ぼされた（創世19：12-29）。

背く 「悪魔」「つぶやき」「罪」「背教、背信」参照

主に反抗したり、敵対したりするこ

ソロモン

と。主の選ばれた指導者に従うのを拒んだり、故意に主の戒めに従わなかつたりすることも含まれる。

主にそむいてはなりません、**民数 14：9**。悪しき者はただ、そむく事のみを求める、**箴言 17：11**。そむける子らはわざわいだ、**イザ 30：1**。

主は、御自分に背いて罪の中で死ぬ者については、決して贖いをなさらない。**モサ 15：26**。アムリサイ人は公然と神に背いた、**アル 3：18-19**。

背く者は深い悲しみに刺し貫かれる、**教義 1：3**。主の怒りは背く者に向かつて燃えている、**教義 56：1**（**教義 63：1-6**）。

サタンは神に背いた、**モセ 4：3**。

ソロモン 「ダビデ」「バテシバ」参照

『旧約聖書』の中の人物。ダビデとバテシバの息子（サ下 12：24）。イスラエル王であった。

ダビデはソロモンを王とした、**列上 1：11-53**。ダビデはソロモンに、主の道に歩むよう命じた、**列上 2：1-9**。主は彼に聞き分ける心を与えると約束された、**列上 3：5-15**。二人の女の間を裁き、どちらが子供のほんとうの母親かを言い当てた、**列上 3：16-28**。箴言と歌を残した、**列上 4：32**。神殿を建てた、**列上 6章；7：13-51**。神殿を奉獻した、**列上 8章**。シバの女王の訪れを受けた、**列上 10：1-13**。外国の女と結婚し、その妻たちは彼の心を転じて偽りの神々に従わせた、**列上 11：1-8**。主はソロモンを怒られた、**列上 11：9-13**。ソロモンの死、**列上 11：43**。ダビデはソロモンの輝かしい統治を預言した、**詩篇 72 篇**。

ソロモンは多くの妻とそばめを得たが、その中のある者たちは主から与えられた者ではなかった、**教義 132：38**（**ヤコ 2：24**）。

大管長会 「啓示」「神権の鍵」「長」

参照

末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長と顧問たち。3人の大祭司から成る定員会を構成し、教会全体を管理する。大管長会は神権のすべての鍵を持つ。

王国の鍵は常に大神権の大管長会に属する、**教義 81：2**。大神権の大管長会は、すべての職務を行う権利を持つ、**教義 107：9, 22**。だれでもわたしを受け入れる者は、大管長会を受け入れる、**教義 112：20, 30**。大管長会は全教会のために神託を受ける、**教義 124：126**。

大祭司 「アロン神権」「メルキゼデク神権」参照

神権の職の一つ。この言葉は聖典の中で、次の二つの意味で用いられている。

(1) メルキゼデク神権の職の一つ。(2) モーセの律法の下での、アロン神権の管理役員。

イエス・キリストを偉大なる大祭司と呼ぶのは、最初の意味による。アダムとすべての族長も大祭司であった。今日、3人の管理大祭司が大管長会を構成し、他の神権者と教会のすべてを管理している。また、今日の教会では、必要に応じてふさわしい人が大祭司に聖任される。大祭司がビショップとして召され、任命と聖任を受けることもある（**教義 68：19；107：69-71**）。

アロン神権の管理役員がモーセの律法の下で大祭司と呼ばれたのは、2番目の意味による。この職は世襲であり、アロンの家系の長子を通して受け継がれた。アロン神権の初代大祭司はアロン自身であった（出エ 28-29 章；レビ 8 章；**教義 84：18**）。

メルキゼデクはいと高き神の祭司であった、**創世 14：18**（**アル 13：14**）。

大祭司は世の初めから召され、備えら

れていた、アル 13：1-10。

大祭司は靈的な事柄をつかさどる、教義 107：10, 12, 17。

大神權 「メルキゼデク神權」参照

怠惰

義にかなった働きをおろそかにすること、またそれを果たさないこと。

働くことしない者は、食べることもしてはならない、2テサ 3：10。

彼らは、悪意と狡猾さに満ちた怠惰な民となり、2ニフ 5：24。怠惰にならないようにしなさい、アル 38：12。

怠惰な者は働く者のパンを食べてはならない、教義 42：42。自分自身の手で働くことしない者は、災いである、教義 56：17。熱心に善いことに携わり、教義 58：27。怠惰であるのをやめなさい、教義 88：124。

第二の位 「死すべき状態」参照

第二の慰め主 「慰め主、助け主」参照

堪え忍ぶ 「逆境」「忍耐」「誘惑」参照

誘惑や反対や逆境に負けることなく、神の戒めに忠実であろうという決意を固く守り続けること。

最後まで耐え忍ぶ者は救われる、マタ 10：22（マコ 13：13）。根がないので、しばらく続くだけである、マコ 4：17。愛はすべてを耐える、1コリ 13：7。アブラハムは忍耐強く待ったので、約束のものを得たのである、ヘブ 6：15。

彼らは最後まで堪え忍ぶならば、終わりの日に高く上げられて、1ニフ 13：37。戒めに従順で最後まで堪え忍ぶならば、救われるでしょう、1ニフ 22：31（アル 5：13）。キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、あなたがたは永遠の命を受ける、

2ニフ 31：20（3ニフ 15：9；教義 14：7）。わたしの名を受け、最後まで堪え忍ぶ者は、救われるであろう、3ニフ 27：6。

教会にあって最後まで堪え忍ぶ者を、わたしはわたしの岩の上に建てよう、教義 10：69。信仰をもって堪え忍ぶ者は、世に打ち勝つ、教義 63：20, 47。すべての王位と主権が示されて、イエス・キリストの福音のために勇敢に堪え忍んだすべての者に授けられるであろう、教義 121：29。

多妻結婚 「結婚—多妻結婚」参照

たとえ

靈的な真理や原則を説明したり、教えたるのに使われる簡単な物語。たとえば、ありふれた事物を真理になぞらえたもので、受け入れる靈的な備えができるない人々は、それを聞いても言外の意味やメッセージを理解できないことが多い（マタ 13：10-17）。

イエスはしばしばたとえを用いて教えた。イエスが話された重要なたとえについては、付録の「福音書対観表」を参照。

ダニエル

『旧約聖書』のダニエル書の中の人物。神の預言者であり、偉大な信仰の人であった。

貴族の出身と思われるが（ダニ 1：3），その両親については何も知られていない。ダニエルはとりとしてバビロンへ連れて行かれ、そこでペルテシャザルと名付けられた（ダニ 1：6-7）。ダニエルと他の3人のところは、宗教上の理由から王の食物を拒んだ（ダニ 1：8-16）。

ダニエルは夢を解き明かす能力によつて、ネブカデネザルとダリヨスの寵愛を得た（ダニ 2：4；6章）。彼はまた壁に

たばこ

指で描かれた文字を読み、解き明かした（ダニ 5 章）。ダニエルは敵意を持つ者たちの策略によって、ししの穴に投げ入れられたが、主にその命を守られた（ダニ 6 章）。

ダニエル書：この書は二つに区分される。第 1-6 章はダニエルとその 3 人の同輩に関する物語、第 7-12 章はダニエルが見た預言的な示現である。ダニエル書は神に忠実であることの大切さを教え、主が忠実な者を祝福されることを説いている。

ダニエル書が大きく貢献しているのは、ネブカデネザル王の夢の解き明かしが記されていることである。その夢の中では、終わりの時における神の王国が、山から切り出される石として描かれている。その石は転がり進んで、やがて全地に満ちるであろう（ダニ 2 章；教義 65:2）。

たばこ 「知恵の言葉」参照

ダビデ 「詩篇」「バテシバ」参照

『旧約聖書』の中の人物。古代イスラエルの王。

ダビデはユダ族のエッサイの息子であった。彼は勇敢な若者で、ししやくま、ペリシテ人の巨人ゴリアテを倒している（サ上 17 章）。彼はイスラエルの王に選ばれ、油を注がれた。サウルと同じように、成人してから大きな罪を犯したが、サウルと違うのは、心から罪を悔いたことである。それによって、ウリヤの殺害を除いては赦しを得ることができた（教義 132:39）。ダビデの一生は次の 4 期に分けることができる。（1）羊飼いとして暮らしたベツレヘム時代（サ上 16-17 章）、（2）サウル王の宮廷で過ごした時代（サ上 18:1-19:18）、（3）逃亡生活の時代（サ上 19:18-31:13；サ下 1 章）、（4）ヘブロンでユダの王として治めた時代（サ下 2-4 章）と、後に

全イスラエルの王となった時代（サ下 5-24 章；列上 1:1-2:11）。

ダビデはバテシバとの間に犯した姦淫の罪によって、人生最後の 20 年間を数々の不幸に苦しめられた。ダビデの治世に、国そのものは繁栄したが、彼自身は罪を犯したことで苦しみを味わった。家族の間に絶えず反目があり、アブサロムとアドニヤの場合は、公然とした反乱にまで至った。それらの出来事は、罪を犯したダビデに預言者ナタンが下した宣告の成就である（サ下 12:7-13）。

これらの不幸にもかかわらず、ダビデの治世にイスラエルが最盛期に達したのは、彼が（1）諸部族を一つの国家に統一し、（2）領土を確保し、（3）真実の宗教を基とした政体を築いて、神の御心をイスラエルの法としたからである。これらの理由により、ダビデの治世は後に、イスラエルの黄金時代と言われ、メシヤ来臨時のより輝かしい時代をあらかじめ示すものと見なされた（イザ 16:5；エレ 23:5；エゼ 37:24-28）。

ダビデの生涯は、人は皆義にかなった生活をして最後まで堪え忍ばなければならないことを教えていている。若いときには、主の「心にかなう人」（サ上 13:14）と言われ、長じてからも御靈によって語り、多くの啓示を受けた。しかしそのダビデも、神の戒めに不従順であったために大きな代価を払うことになってしまった（教義 132:39）。

ダマスコ

シリアの古代都市。

ダマスコは砂漠の端の沃野に位置し、バラダ川を豊かな水源としている。ダマスコの名は聖典の中に何度も登場する（初出は創世 14:15）。パウロはダマスコに向かう途中、復活された主の訪れを受けた（使徒 9:1-27；22:5-16；26:12-20）。

**たまもの
賜物** 「聖靈の賜物」「御靈の賜物」参照

神は人に多くの祝福と賜物をお与えになる。

靈の賜物は種々ある、**1コリ 12:4-10**。更に大いなる賜物を得ようと熱心に努めなさい、**1コリ 12:31**。あらゆる完全な賜物は、光の父から来る、**新ヤコ 1:17**。

聖靈の力は神の賜物である、**1ニフ 10:17**。賜物がないと言う者は、キリストの福音を知らない者である、**モル 9:7-8**。あらゆる善い賜物はキリストから来る、**モロ 10:8-18**。

永遠の命は、神のあらゆる賜物の中でも最も大いなるものである、**教義 14:7** (**1ニフ 15:36**)。賜物は主を愛する者に与えられる、**教義 46:8-11**。すべての人があらゆる賜物を与えられるわけではない、**教義 46:11-29**。

**たまもの
賜物（聖靈の）** 「聖靈の賜物」参照

**たまもの
賜物（御靈の）** 「御靈の賜物」参照

墮落（アダムとエバの） 「^{あがな}贖い、贖う」「^{あがな}贖いの計画」「アダム」「イエス・キリスト」「生まれながらの人」「エバ」「死（肉体の）」「死（靈の）」「死すべき状態」「^{しきい}贖罪」参照

人類がこの地上で死すべき状態となつた過程。アダムとエバは禁断の実を食べて、死すべき状態、すなわち、罪と死に支配される者となつた。アダムは地上で「最初の肉なるもの」(モセ 3:7)となつた。末日の啓示は、「墮落」が一つの祝福であり、アダムとエバは全人類の始祖として尊ばれるべきであるということを明らかにしている。

墮落は人類の進歩に必要な一つの段階であった。神は墮落が起こることを承知しておられたので、前世で救い主を遣わす計画を立てられたのである。イエス・

キリストはアダムの墮落に対して贖いをし、また悔い改めを条件に一人一人の罪を贖うために、時の中間に来られた。

それを取って食べると、きっと死ぬであろう、**創世 2:17** (モセ 3:17)。エバはその実を取って食べた、**創世 3:6** (モセ 4:12)。

アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである、**1コリ 15:22**。

すべての人類は、迷い墮落した状態にあり、**1ニフ 10:6**。人の墮落以来、方法が用意されており、**2ニフ 2:4**。アダムとエバは禁断の実を食べた後、エデンの園から追い出され、**2ニフ 2:19**。アダムが墮落したのは人が存在するためであり、**2ニフ 2:15-26**。生まれながらの人は神の敵であり、アダムの墮落以来そうであって、**モサ 3:19**。アロンはラモナイ王の父に墮落について教えた、**アル 22:12-14**。贖罪が行われることは必要である。すべての人は、墮落し、迷った状態にある、**アル 34:9**。わたしたちの始祖は、肉体的にも靈的にも主の御前から絶たれてしまった、**アル 42:2-15** (ヒラ 14:16)。墮落のために、わたしたちの性質は絶えず悪くなっています、**エテ 3:2**。

これらの聖なる律法を破ったことによって、人は墮落した者となった、**教義 20:20** (教義 29:34-44)。

あなたは墮落したので、贖いを受けることができる、**モセ 5:9-12**。背きによつて墮落が生じ、**モセ 6:59**。人は自分の罪のゆえに罰せられる、**箇条 1:2**。

タラント

ひょうりょう 古代に用いられた秤量の単位。あるいは高額の通貨単位。またタラントは、イエス・キリストの福音など、非常に価値あるものの象徴としても使われた (マ

ダリヨス

タ 25:14-29; エテ 12:35; 教義 60:2, 13)。

ダリヨス 「バビロン、バベル」参照

『旧約聖書』の中の人物。ベルシャザルの死後バビロンを治めたメディア人(メデア人)の王(ダニ 5:31; 6:9, 25-28; 9:1; 11:1)。

ダン 「イスラエル」「ヤコブ(イサクの息子)」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとラケルのつかえめビルハの間に生まれた男の子(創世 30:5-6)。

ダンの部族: ヤコブがダンに与えた祝福については、創世 49:16-18 を参照。モーセがダンの部族に与えた祝福については、申命 33:22 を参照。カナンに定住した後に、ダンの部族が受けた土地は、狭いものであったが非常に肥えていた(ヨシ 19:40-48)。その地をメディア人(士師 1:34)やペリシテ人(士師 13:2, 25; 18:1)から守るのは非常に困難であった。結果的に、ダンの部族はパレスチナ北部のライシに移り(士師 18 章)、この町の名をダンと改めた。この町は「ダンからペエルシバまで」広がるパレスチナの北辺の地としてよく知られている。

短気 「怒り」参照

断食 「ささげ物」「福祉」「施し」「貧しい」参照

主にさらに近づき、その祝福を求めるという目的の下に自分の意志で飲食を断つこと。個人的にあれ、グループとしてあれ、断食をする人は神の御心を理解し、靈的な力をさらに強めることができるように祈るべきである。いつの時代にも、まことの信者は断食を行ってきた。

今日の教会では、月に1度、安息日に断食を行うことになっている。断食の間、教員は一定時間飲食をしない。そして、もし食事をしていればかかったと思われる金額を、教会にささげる。これを断食献金という。教会は貧しい人や乏しい人のために断食献金を用いる。

われわれは断食して、われわれの神に求めた、エズ 8:21-23, 31。わたしは断食して天の神の前に祈って、ネヘ 1:4。わたしのために断食してください。3日のあいだ食い飲みしてはなりません、エス 4:16。わたしは断食してわが身を苦しめた、詩篇 35:13。このようなものは、わたしの選ぶ断食であろうか、イザ 58:3-12。わが顔を主なる神に向け、断食をなし、願い求めた、ダニ 9:3。心をつくし、断食をもってわたしに帰れ、ヨエ 2:12。ニネベの人々は神を信じ、断食をふれ、ヨナ 3:5。

イエスは40日40夜、断食をされた、マタ 4:2(出エ 34:28; 列上 19:8; ルカ 4:1-2)。断食をしていることが人に知れないで、マタ 6:18(3ニフ 13:16)。このたぐいは、祈と断食とによらなければ、追い出すことはできない、マタ 17:21。

断食と祈りを続け、オム 1:26(4ニフ 1:12)。彼らは断食して、主なる自分たちの神に祈り始め、モサ 27:22。わたしは自分でこれらのことを探ることができるよう、幾日もの間、断食をして祈ってきた、アル 5:46。神の子たちは、しばしば集まって、ともに断食し、アル 6:6。モーサヤの息子たちはしばしば祈り、また断食もした、アル 17:3, 9。断食と祈りを重ねた時であった、アル 28:5-6。彼らは大いに断食し、大いに祈り、アル 45:1(ヒラ 3:35)。

あなたの食物を真心を込めて準備して、あなたの断食が完全になるように、教義 59:13-14。あなたがたは祈りと

断食を続けなければならない、教義 88 : 76。

血、「イエス・キリスト」「犠牲」^{しゆく}
「罪」^{ざい}参照

古代イスラエルにおいても今日の数多くの社会においても、血は生命の源、肉なる者の活力と考えられている。旧約の時代に、主は血を食することをイスラエルに禁じられた（レビ 3:17; 7:26-27; 17:10-14）。

犠牲の贖いの力は血の中に存在した。なぜなら血は生命に欠かせないものと考えられていたからである。『旧約聖書』に述べられている動物の犠牲は、後にイエス・キリストによって果たされる偉大な犠牲の象徴であった（レビ 17:11；モセ 5:5-7）。イエス・キリストの贖いの血は、悔い改める人を罪から清める（ヨハ 1:7）。

その汗が血のしたたりのように地に落ちた、ルカ 22:44。わたしたちはキリストの血が流されたことによって聖められる、ヘブ 10:1-22。

あらゆる毛穴から血が流れ出る、モサ 3:7（教義 19:18）。

主の血が罪の赦しのために流された、教義 27:2。イエスは、自らの血を流すことによって完全な贖罪を成し遂げられた、教義 76:69。

血によって聖められる、モセ 6:60。

知恵 「真理」「知識」「理解」参照

正しい判断を下せるように神から与えられた能力すなわち^{たまもの}賜物。人は経験と学習によって、また神の勧告に従うことにより知恵を得ることができる。神の助けなくして、真の知恵を得ることはできない（2ニフ 9:28; 27:26）。

神はソロモンに非常に多くの知恵と悟りを受け、列上 4:29-30。知恵は重要

なものである、知恵を得よ、KJ 箴言 4:7。知恵を得る者は自分の魂を愛し、箴言 19:8。

幼な子は、ますます知恵に満ち、ルカ 2:40, 52。知恵に不足している者があれば、神に、願い求めるがよい、新ヤコ 1:5（教義 42:68；ジ—歴史 1:11）。

わたしがこれらのこと語るのは、あなたがたに知恵を得させるためである、モサ 2:17。若いうちに知恵を得なさい、アル 37:35。

知恵と、知識の大いなる宝、すなわち隠された宝さえ見いだすであろう、教義 89:19。知識のない者は、へりくだつて主なる神に呼び求めることによって知恵を得なさい、教義 136:32。

知恵の言葉

聖徒の肉体と靈のために主から啓示された健康の律法（教義 89 章）。主は従う人々に、健康のための原則をいつも教えてこられた。主はジョセフ・スミスに、どのような種類の食物を取るべきか、また避けるべきかを明らかにされた。これには、知恵の言葉に従う人に与えられる肉体的または靈的な祝福が約束として添えられている。

ぶどう酒と濃い酒を飲んではならない、レビ 10:9。酒は人をあざける者とし、濃い酒は人をあばれ者とする、箴言 20:1。濃き酒はこれを飲む者に苦くなる、イザ 24:9。ダニエルは王の食物と、王の飲む酒とをもって、自分を汚すまいと、心に思い定め、ダニ 1:8。

もし人が、神の宮を破壊するなら、神はその人を滅ぼすであろう、1コリ 3:16-17。酒に酔う者は、神の国をつぐことはない、1コリ 6:10（ガラ 5:21）。

人は肉を食べてはならないとして禁じる者は、神から聖任されていない、教義 49:18-21。地から生じるすべてのものは、思慮分別をもって、度を越さず使う

誓い

ようにしなければならない、**教義 59：20**。主は聖徒たちに、ぶどう酒や強い飲み物、たばこ、および熱い飲み物を利用しないよう勧告された、**教義 89：1-9**。草や果実、肉、穀物が人や動物のために備えられた、**教義 89：10-17**。知恵の言葉に従うなら、肉体的な祝福と霊的な祝福を受けることができる、**教義 89：18-21**。

誓い 「神権の誓詞と聖約」「聖約（契約）」参照

聖典では通常、神聖な誓いや約束を表す言葉として用いられる。しかし、サタンとその使いを含む邪悪な者たちも、そのよこしまな目的を遂げるために誓いを立てる。旧約の時代には誓いが認められていたが、イエス・キリストは神の名や被造物にかけて誓ってはならないと教えられた（マタ 5：33-37）。

わたしがあなたの父アブラハムに誓った誓いを果そう、**創世 26：3**。もし人が主に誓願をかけるならば、その言葉を破ってはならない、**民数 30：2**。神の律法に歩み、誓いに加わった、**ネヘ 10：29**。

誓ったことは、すべて主に対して果せ、**マタ 5：33**（伝道 5：4-5；3ニフ 12：33）。神は忠実な人々は救われることを、誓いによって保証された、**ヘブ 6：13-18**。

ゾーラムがわたしたちに誓ったので、彼についての心配はなくなった、**1ニフ 4：37**。アンモンの民は決して血を流さないと誓いを立てた、**アル 53：11**。邪悪なニーファイ人たちはサタンと秘密の誓いを交わした、**ヒラ 6：21-30**。

人は神権に伴う誓詞と聖約を通して永遠の命を得る、**教義 84：33-42**。約束の聖なる御靈により結ばれない聖約や契約、きずな、義務、誓詞はすべて死をもつて終わる、**教義 132：7**。

誓う、ののしる 「誓い」「不敬」「冒瀆、汚す罪」参照

力 「権威、権限、権能」「神権」参照

何かを行う能力。人あるいは事物に対して力を持つとは、それらを治めたり、命じたりする能力を持つということである。聖典では、力は神の力あるいは天の力を指すことが多い。多くの場合、神に代わって行動する許可すなわち権利である神権の権能と密接な関連がある。

わたしがあなたをながらえさせたのは、あなたにわたしの力を見せるため、**出エ 9：16**。あなたの手に善をなす力があるならば、これをさし控えてはならない、**箴言 3：27**。わたしは主のみたまによつて力に満ち、**ミカ 3：8**。

わたしは、天においても地においても、いっさいの権威を受けられた、**マタ 28：18**。その言葉に権威があったので、彼らはその教に驚いた、**ルカ 4：32**。上から力を授けられるまでは、あなたがたは都にとどまっていなさい、**ルカ 24：49**。彼を受けいれた者には、彼は神の子となる力を与えた、**ヨハ 1：12**（教義 11：30）。聖靈があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、**使徒 1：8**。存在している権威は、すべて神によって立てられたものだからである、**ロマ 13：1**。あなたがたは、救にあずかるために、信仰により神の御力に守られている、**1ペテ 1：3-5**。

わたしは神の力に満たされている、**1ニフ 17：48**。キリストのことは、聖靈の力によってもわたしに明らかにされました、**ヤコ 7：12**。大きな力が神から授けられることもあります、**モサ 8：16**。神の力と権能をもって教えた、**アル 17：2-3**。ニーファイは、力と大きな権能をもって教えた、**3ニフ 7：15-20**（3ニフ 11：19-22）。

たとえある人が多くの力ある業を行う

力を持つとしても、もし自分の力を自慢するならば、彼は必ず落ちるであろう、**教義 3:4**。善を行う力が人の内にある、**教義 58:27-28**。メルキゼデク神権の儀式によって神性の力が現れる、**教義 84:19-22**。神権の権利は天の力と不可分に結びついており、**教義 121:34-46**。

わたしの力はあなたのうえにあるであろう、**アブ 1:18**。

地球（地）「創造、創造する」「世」 参照

わたしたちが今住んでいる惑星。人の試しの生涯の場として、イエス・キリストを通して神により創造された。地球は最終的には栄光を受け、昇栄した状態になる（**教義 77:1-2; 130:8-9**）。また、日の榮えにふさわしい生活をした人々の永遠の住まいとなる（**教義 88:14-26**）。その人々は御父と御子の前に住む（**教義 76:62**）。

人のために創造された：神は人に地を従わせる権威を与えた、**創世 1:28**（モセ 2:28）。地は主のものである、**出エ 9:29**（詩篇 24:1）。主は地を人の子らに与えられた、**詩篇 115:16**。わたしは地を造って、その上に人を創造した、**イザ 45:12**。

神の言葉の力によって人は大地の面に現れ、**ヤコ 4:9**。

地は自分の導き手として聖なる御靈みたまを受け入れる人々に与えられる、**教義 45:56-58**（**教義 103:7**）。福音に従う人は地の良いものを報いとして受ける、**教義 59:3**。地の貧しい者と柔軟な者はそれを受け継ぐ、**教義 88:17**（マタ 5:5; 3ニフ 12:5）。

これらの者が住む地を造ろう。そして彼らを試し、**アブ 3:24-25**。

生命を持つ存在：地は永遠に変わらない、**伝道 1:4**。

ガラスの海とは、聖められた、不滅かつ永遠の状態にある地球である、**教義 77:1**。地球は日の榮えの栄光に備えられるように、聖められなければならない、**教義 88:18-19**。

地が嘆き悲しむ声を上げた、**モセ 7:48**。

分かれた地：水は一つ所に集まり、かわいた地が現れよ、**創世 1:9**。ペレグの時代に地が分かれた、**KJ 創世 10:25**。

水がこの地の面から引いた後、この地がえり抜きの土地になった、**エテ 13:2**。

陸地はそれが分けられる前の時代のようになる、**教義 133:24**。

地球の清め：40日40夜、地に雨が降った、**創世 7:4**。

地は、さばきの日に火で焼かれる時までそのまま保たれる、**2ペテ 3:7**。

今日が過ぎると、焼き払いがある、**教義 64:24**。

地は汚れから清められることを望んでいる、**モセ 7:48**。

最終的な状態：大地が巻き物のように巻かれ、天地が過ぎ去る、**3ニフ 26:3**（**教義 29:23**）。新しい天と新しい地がある、**エテ 13:9**（**教義 29:23**）。

ガラスの海とは、聖められた、不滅かつ永遠の状態にある地球である、**教義 77:1**。地球は日の榮えの栄光に備えられるように、聖められなければならない、**教義 88:18-19**。この地球は水晶のようになり、一つの「ウリムとトンミム」になる、**教義 130:8-9**。

千年の間、地は安息を得るであろう、**モセ 7:64**。地球は更新される、**箇条 1:10**。

知識 「真理」「知恵」「理解」参照

何かに対する理解。特に御靈みたまによって教えられ、確認された真理に対する理解。

父（現世の）

主はすべてを知る神であって、サ上2:3。主は完全な知識を持っておられる、ヨブ37:16。主を恐れることは知識のはじめである、箴言1:7。言葉を少なくする者は知識のある者、箴言17:27。主を知る知識が地に満ちる、イザ11:9（ニフ21:9;30:15）。

あなたがたは、知識のかぎを取りあげて、ルカ11:52。人知をはるかに越えたキリストの愛、エペ3:19。あなたがたの信仰に徳を加え、徳に知識を、2ペテ1:5。

ニーファイは神の慈しみを深く知った、1ニフ1:1。彼らは自分たちの贖い主を知るようになる、2ニフ6:11。義人は、自分の義について完全な知識を得、2ニフ9:14。御靈は理解を与えてくださる、アル18:35。あなたがたの知識はそのことに関しては完全である、アル32:34。レーマン人は彼らの贖い主について真実の知識に導かれる、ヒラ15:13。神から出ていることを完全に理解してわきまえることができる、モロ7:15-17。

聖徒たちは知識の大いなる宝を見いだすであろう、教義89:19。純粋な知識は心を大いに広げる、教義121:42。神権の鍵を授けられる者にとって、数々の事実を知ることは少しも難しいことではない、教義128:11。この世でほかの人よりも多くの知識と英知を得るならば、来るべき世でそれだけ有利になる、教義130:19。人が無知で救われることは不可能である、教義131:6。

父（現世の）「親」「家族」「族長」参照

子供をもうけた男性、あるいは正式に子供を養子にした男性を指す神聖な呼び名。

あなたの父と母を敬え、出エ20:12（申命5:16；マタ19:19；モサ13:20）。父はその愛する子を戒める、箴言3:12。

父たる者よ。子供をおこらせないで、エペ6:1-4。

わたしは父が学んだすべてのことの中から幾らかの教えを受けた、1ニフ1:1。わたしは、父が正しい人であったことを知っている、エノ1:1。アルマは息子のために祈った、モサ27:14。アルマは息子たちに戒めを与えた、アル36-42章。ヒラマンは息子たちに先祖の名を付けた、ヒラ5:5-12。モルモンは祈りの中で、いつも息子のことを心にかけていた、モロ8:2-3。

大いなることが彼らの父親に求められる、教義29:48。自分の家族を扶養する義務を負っている、教義75:28。

モロナイはジョセフに、父のところへ行くようにと命じた、ジー歴史1:49。

父（天の）「天の御父」参照

チッポラ「モーセ」参照

『旧約聖書』の中の人物。エテロの娘。モーセの妻（出エ2:21;18:2）。

中央幹部「管理ビショップ」「七十人」「使徒」「大管長会」参照

ちゅうおう は しや
仲保者「イエス・キリスト」「贖罪」
しょくざい
参照

執り成しをする者。イエス・キリストは神と人の間の仲保者である。キリストの贖罪は、人々が罪を悔い改め、神と和解する道を開いた。

だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない、ヨハ14:6。神と人の間の仲保者もただひとりであって、1テモ2:5。キリストはさらにはさった契約の仲保者である、ヘブ8:6（ヘブ9:15;12:24；教義107:19）。

メシヤはすべての人の子らのために執り成しをしてくださる、2ニフ2:9（イザ53:12；モサ14:12）。偉大な仲保者

に頼り、**2 ニフ 2:27-28。**

新しい聖約の仲保者イエスを通じて完全な者とされ、**教義 76:69。**

長 「大管長会」「預言者」参照

組織を管理する役員の呼称。教会の大管長は、預言者、聖見者、啓示者であり（教義 21:1; 107:91-92）、教会員は教会の預言者を「大管長」と呼ぶように求められている（教義 107:65）。教会の大管長は、神権のすべての鍵を行使する権限を持つ地上でただ一人の人である。

神権定員会や教会の他の組織の長は、会長と呼ばれる。

主はヨセフ・スミスに王国の数々の鍵を受けられた、**教義 81:1-2。**3人の管理大祭司が、教会の大管長会の定員会を構成する、**教義 107:21-24。**長はマルキゼデクの位に従って聖任された、**教義 107:29。**執事、教師、祭司、長老のそれぞれの会長の義務が述べられる、**教義 107:85-89**（教義 124:136-138, 142）。七十人は七十人の人々の中から選ばれた7人の会長によって管理される、**教義 107:93-95。**ステークの会長が任命された、**教義 124:133-135。**

長子、初子 「イエス・キリスト」「長子の特権、生得権」参照

古代の族長の時代においては、長男が長子の特権を受け（創世 43:33）、父親の死とともに家族を統率する任務を引き継いだ。長子はこの責任を引き受けるにふさわしくなければならず（歴上 5:1-2）、不義な行いをすれば長子の特権を失うこともあった。

モーセの律法の下では、長男は神に属する者と見なされた。長子は、父親の財産から他の者の2倍を受け継いだ（申命 21:17）。父親の死後、長子は母親と姉妹の世話をする責任があった。

長子の特権、生得権

動物の初子も神に属するものとされていた。清い動物は犠牲としてささげられたが、清くない動物は貰うか、売るか、または殺さなければならなかつた（出エ 13:2, 11-13; 34:19-20；レビ 27:11-13, 26-27）。

初子はイエス・キリストと地上における主の務めを象徴し、偉大なメシヤの来臨を人々に思い起こさせた（モセ 5:4-8；6:63）。

イエスは天の御父の靈の子供の長子であり、また御父の肉における独り子であり、復活によって死者の中からよみがえられた最初の御方である（コロ 1:13-18）。忠実な聖徒は永遠に長子の教会の会員となる（教義 93:21-22）。

あなたのういごを、わたしにささげなければならない、**出エ 22:29。**イスラエルのういごをわたしに帰せしめた、**民數 3:13。**

それは、御子を多くの兄弟の中で長子とならせるためであった、**ロマ 8:29。**神は、その長子を世界に導き入れ、**ヘブ 1:6。**

彼らは長子の教会である、**教義 76:54, 94。**

それは先祖からわたしに授けられた。それは長子の権利であり、**アブ 1:3。**

長子の特権、生得権 「聖約（契約）」「長子、初子」参照

長子に与えられる相続権。広い意味では、ある家族や文化の中に生まれた人に与えられる権利の一部、あるいはすべてを含んだもの。

まずあなたの長子の特権をわたしに壳りなさい、**創世 25:29-34**（創世 27:36）。長子は長子としてすわらせられた、**創世 43:33。**彼はエフライムをマナセの先に立てた、**創世 48:14-20**（エレ 31:9）。長子の権はヨセフのものとなつ

長老

た、歴上 5：2。

エサウは長子の権利を売り渡した、ヘブ 12：16。

あなたがたは正当な相続人であり、教義 86：9。シオンは血統によって神権を受ける権利を持っている、教義 113：8（アブ 2：9-11）。

長老 「神権」「メルキゼデク神権」参照

長老という言葉は、『聖書』では様々な意味で用いられている。『旧約聖書』では、通常政治的な務めを託された部族内の高齢者を指すことが多い（創世 50：7；ヨシ 20：4；ルツ 4：2）。彼らの勧告は、その年齢と経験のゆえに重んじられた。彼らの地位は、必ずしも神権の召しではなかった。

旧約の時代には、メルキゼデク神権の長老に聖任されていた者もいた（出エ 24：9-11）。『新約聖書』では、長老は教会の神権の職の一つとして述べられている（新ヤコ 5：14-15）。ニーファイ人の中にも神権の長老に聖任された者がいた（アル 4：7、16；モロ 3：1）。現在の神権時代においては、ジョセフ・スマスとオリバー・カウドリーが初めて長老に聖任された（教義 20：2-3）。

現在、長老という言葉は、全メルキゼデク神権者を指す言葉として用いられている。例えば、男性の宣教師は長老と呼ばれている。また、使徒も長老であり、十二使徒定員会や七十人定員会の会員について話すときには長老と呼ぶのがふさわしい（教義 20：38；1ペテ 5：1）。今日の教会の聖任された長老の義務については、末日の啓示の中に書かれている（教義 20：38-45；42：44；46：2；107：12）。

モーセは律法を書いて、イスラエルのすべての長老たちに授けた、申命 31：9。

バルナバは教会の長老たちに援助を送った、使徒 11：30。教会ごとに長老

が任命された、使徒 14：23（テト 1：5）。病んでいる者は、教会の長老たちを招き、祈ってもらうがよい、新ヤコ 5：14。

按手によって長老たちが聖任された、アル 6：1。

長老たちは子供に祝福を授けなければならない、教義 20：70。長老たちは、聖なる御靈に導かれるままに集会を執り行う、教義 46：2。長老たちは、自分の管理人の職について報告しなければならない、教義 72：5。長老たちは、もちろんの國民に福音を宣べ伝えなければならぬ、教義 133：8。

仕える 「神権」「奉仕」参照

地上における主の業に携わること。神の選ばれた僕は、神の業に仕えるために、神から召されなければならない。心から仕える者たちが主の御心を行うとき、彼らはその公式の務めにあって主を代表し、主の代理人として行動することになる（教義 64：29）。そのようにして、人類の救いに必要な働きをするのである。主は聖徒たちを完全な者とし、奉仕の業を行わせるために、使徒、預言者、伝道者、大祭司、七十人、長老、ビショップ、祭司、教師、執事を立てられた（1コリ 12：12-28；エペ 4：11-16；教義 20：107 章）。

主が彼を選び出して、主の名によって立って仕えさせられる、申命 18：5。

人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、マタ 20：26-28。わたしがあなたに現れたのは、これを伝える務に、あなたを任じるためである、使徒 26：16-18。あなたがたがかつて聖徒に仕え、今もなお仕えて、御名のために示してくれた愛、ヘブ 6：10。奉仕する者は、神から賜わる力による者にふさわしく奉仕すべきである、1ペテ 4：10-11。

彼らは互いに教え、互いに仕え合った、3ニフ 26：19。

十二使徒は、福音の奉仕者を聖任しなければならない、**教義 107: 39-40**。これらの七十人は巡回奉仕者となる、**教義 107: 93-97**。長老たちは教会の常任奉仕者となるために聖任されている、**教義 124: 137**。

仕える天使 「天使」参照

月の榮え 「栄光の階級」参照

最後の裁きの後に人々が住む3つの榮えの階級で2番目のもの。

パウロは月の輝きにたとえられる月の栄光を見た、**1コリ 15: 40-41**。

ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは月の榮えの世界の栄光を見た、**教義 76: 71-80**。月の榮えの世界の栄光は、星の榮えの世界の栄光に勝っている、**教義 76: 91**。月の榮えの王国の律法に従えない者は、月の榮えの栄光に堪えられない、**教義 88: 23, 30, 38**。

慎み 「謙遜」参照

謙虚で節度ある上品な行いや外見。慎み深い人は、度を越した行為や見せかけの行動をしない。

神は皮の着物を作って、アダムとエバに着せられた、**創世 3: 21**（モセ 4: 27）。

女はつましい身なりをし、適度に慎み深く身を飾るべきであって、**1テモ 2: 9**。慎み深く、純潔で、家事に努め、**テト 2: 5**。

自分の衣服が高価なことで強情になつて高ぶり、**ヤコ 2: 13**。

あなたの衣服はすべて簡素であるようにしなさい、**教義 42: 40**。

わたしたちは、純潔、徳高くあるべきことを信じる、**箇条 1: 13**。

つぶやき 「背く」参照

神の目的や計画、また神の僕に対して不平や不満を言うこと。
しもべ

民はモーセにつぶやいて言った、**出エ 15: 23-16: 3**。

ユダヤ人らは、イエスについてつぶやき始めた、**ヨハ 6: 41**。

レーマンとレムエルは多くのことでつぶやいた、**1ニフ 2: 11-12**（**1ニフ 3: 31; 17: 17**）。

あなたは見ていないものでつぶやいてはならない、**教義 25: 4**。

妻 「家族」「結婚」参照

つまずく、つまずかせる

神の律法を破ること。罪を犯すこと。人を苦しめたり、傷つけたりすること。人を不愉快にしたり、いらだたせたりすること。

もしあなたの右の目が罪を犯させるなら、それを抜き出して捨てなさい、**マタ 5: 29**。わたしを信ずるこれらの小さい者のひとりをつまずかせる者は、海の深みに沈められる方が、その人の益になる、**マタ 18: 6**（**教義 121: 19-22**）。

多くの人がつまずき、また互いに裏切り、憎み合う、**ジーマタ 1: 8**。

罪 「忌まわしい行い」「つまずく、つまずかせる」「汚れ」「邪悪」「背く」「不義」「不信心」参照

神の戒めに故意に従わないこと。

その罪を隠す者は榮えることがない、**箴言 28: 13**。あなたがたの罪は紺のようであっても、雪のように白くなる、**イザ 1: 18**。罪人は死に、義人は救われる、**エゼ 18 章**。

神の小羊は世の罪を取り除く、**ヨハ 1: 29**。バプテスマを受け、あなたの罪を洗い落としなさい、**使徒 22: 16**。罪の支払う報酬は死である、**ロマ 6: 23**。人が、なすべき善を知りながら行わなければ、それは彼にとって罪である、**新ヤコ 4: 17**。

罪がない

わたしが罪の兆しに震えおののくようにしてください、**2ニフ4:31**。罪を抱いたまま死ぬ者は皆、災いである、**2ニフ9:38**。罪を見て忌み嫌うのを禁じることができなかった、**アル13:12**。罪から幸福へ回復されると思ってはならない、**アル41:9-10**。主はほんのわずかでも、罪を見過ごしにされることはない、**アル45:16**（教義1:31）。幼い子供たちは、罪を犯すことができない、**モロ8:8**。

悔い改めるには、罪を告白して捨てなければならぬ、**教義58:42-43**。赦さない者の中にはもっと大きな罪が残る、**教義64:9**。いっそう大きい光に対して罪を犯す者は、いっそう大きな罪の宣告を受ける、**教義82:3**。罪を犯す者には以前の罪が戻る、**教義82:7**。わたしたちが自分の罪を覆い隠そうとするとき、天は退き去る、**教義121:37**。

罪がない

責められるべき点がないこと。

墮落前のアダムとエバは、罪のない状態にあった、**2ニフ2:23**。罪のない者の血は彼らを責める証拠となり、**アル14:11**。

人の靈は皆、初めに罪がなかった、**教義93:38**。罪のない者が正しくない者とともに罪に定められることのないため、**教義104:7**。ジョセフ・スミスとハイラム・スミスには何の罪もなかった、**教義135:6-7**。

子供は世の初めから罪がない、**モセ6:54**。

罪の宣告 「最後の裁き」「裁き」参照

罪に対して裁決を下すこと、あるいは神によって罪ありとされること。

悪い計りごとを設ける人は主に罰せられる、**箴言12:2**。

それは、この世と共に罪に定められな

いたために、主の懲らしめを受けることなのである、**1コリ11:32**。

わたしたちの言葉、行い、思いはわたしたちを罪に定める、**アル12:14**。これらの事柄を知っていて行わないで、罪の宣告を受けることになり、**ヒラ14:19**。働くことをやめれば、わたしたちは罪の宣告を受けるに違いない、**モロ9:6**。

自分の兄弟の過ちを赦さない者は、主の前に罪があるとされる、**教義64:9**。いっそう大きい光に対して罪を犯す者は、いっそう大きな罪の宣告を受ける、**教義82:3**。彼らが悔い改めて、『モルモン書』を思い起こすまで、全教会は依然としてこの罪の宣告の下にある、**教義84:54-57**。

罪の赦し 「イエス・キリスト」「悔い改め」「贖罪」「赦し」参照

悔い改めを条件に過ちが赦されるごと。罪の赦しは、イエス・キリストの贖罪によって可能になる。キリストを信じる信仰を持ち、罪を悔い改め、またバプテスマの儀式と、聖靈の賜物を受けるための握手の儀式を受け、神の戒めに従う人は、罪の赦しを得る（箇条1:3-4）。

あなたがたの罪は紺のようであっても、雪のように白くなる、**イザ1:16-18**。

これは、罪のゆるしを得させるようにと、多くの人のために流すわたしの血である、**マタ26:28**（ヘブ9:22-28；教義27:2）。悔い改めなさい。そして、罪のゆるしを得るために、バプテスマを受けなさい、**使徒2:38**（ルカ3:3；教義107:20）。イエスを信じる者は、罪のゆるしが受けられる、**使徒10:43**（モサ3:13）。

キリストは、わたしたちが罪の赦しを求めることのできる源である、**2ニフ25:26**。罪の赦しを保つには、貧しい人や乏しい人に助けを与えなければならな

い、モサ 4：11－12、26。悔い改める者はだれであろうと、憐れみを受け、罪の赦しを得る権利を持つ、アル 12：34。戒めを守ることは罪の赦しを生じ、モロ 8：25。

アロンの神権は罪の赦しのために水に沈めるバプテスマの鍵を持つ、教義 13 章（教義 84：64、74；箇条 1：4）。自分の罪を悔い改めた者は赦され、教義 58：42－43（エゼ 18：21－22）。これらの者は、罪の赦しのための身代わりのバプテスマについて教えを受けた、教義 138：33。

テアンクム

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の軍隊の偉大な指導者（アル 50：35；51－52 章；61－62 章）。

定員会 「神権」参照

定員会という言葉は、次の二つの意味で用いられる。(1) 同一の神権の職を持つ男性が構成する特定のグループ。(2) 教会の業務を遂行するために集会に出席すべき過半数すなわち定足数の神権者のグループ（教義 107：28）。

大管長会、十二使徒、七十人の定員会と、その相互の関係が述べられる、教義 107：22－26、33－34（教義 124：126－128）。これらの定員会が下す決議も皆、全会一致の声によってなされなければならない、教義 107：27。定員会の決議は、完全な義により下されなければならぬ、教義 107：30－32。神権定員会の会長の義務が述べられる、教義 107：85－96。長老の定員会は常任奉仕者となるために設けられている、教義 124：137。

テーラー、ジョン

末日聖徒イエス・キリスト教会の第3代大管長。

十二使徒評議会に召された、教義

118：6（教義 124：128－129）。殉教の場で負傷した、教義 135：2。ジョセフ・F・スミスが見た、靈界の偉大な者たちの中にいた、教義 138：53－56。

敵意 「愛」「ねたみ」「報復」参照

聖典では、反抗、敵対、憎しみの意味を表す言葉として用いられる。

わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、創世 3：15（モセ 4：21）。

肉の思いは神に敵する、ロマ 8：7。世を友とするのは、神への敵対である、新ヤコ 4：4。

その日、敵意がわたしの前からなくなるであろう、教義 101：26。

敵対する者 「悪魔」参照

テサロニケ人への手紙 「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の2書。紀元50年ごろ、初めてヨーロッパを訪れたパウロが、コリント滞在中にテサロニケ人に書き送った手紙。テサロニケでのパウロの働きについては、使徒 17 章に述べられている。パウロはテサロニケへ帰ることを望んだが、そうできなかった（1テサ 2：18）。そこでパウロは改宗者を励まし、彼らの近況を知るためにテモテを派遣した。第一の手紙は、テモテが帰って直ちに書かれたパウロの感謝の気持ちである。

テサロニケ人への第一の手紙：第 1－2 章には、聖徒たちへのパウロのあいさつと祈りが記されている。第 3－5 章には、靈的な成長や愛、純潔、勤勉、イエス・キリストの再臨についての教えが書かれている。

テサロニケ人への第二の手紙：第 1 章には、聖徒のための祈りが記されている。第 2 章には、やがて背教が起こることが述べられている。第 3 章には、福音の目

的が達せられるようにとのパウロの祈りが書かれている。

弟子 「改宗」「くべき」「クリスチャン」「使徒」参照

イエス・キリストに従い、その教えのとおりに生活をする人（教義 41：5）。弟子という言葉は、キリストが地上で務めを果たしておられたときに召された十二使徒を指す場合に用いられる（マタ 10：1-4）。また、イエスがニーファイ人とレーマン人の中で教会の指導者として選ばれた 12 人を指す場合にも使われる（3 ニフ 19：4）。

おしえ
教をわが弟子たちのうちに封じておこう、イザ 8：16。

もしわたしの言葉のうちにとどまつておるなら、あなたがたはわたしの弟子なのである、ヨハ 8：31。

モルモンはイエス・キリストの弟子であった、3 ニフ 5：12-13。あなたがたはわたしの弟子である、3 ニフ 15：12。三人の弟子たちは死を味わうことがない、3 ニフ 28：4-10。

警告の声は、わたしが選んだ弟子たちの口を通して及ぶ、教義 1：4。わたしの弟子たちは聖なる場所に立ち、教義 45：32。貧しい者と乏しい者、病気の者と苦しんでいる者を思い起こさない者は、わたしの弟子ではない、教義 52：40。わたしのために進んで自分の命を捨てない者は、わたしの弟子ではない、教義 103：27-28。

デゼレト 「ヤレド人」参照

『モルモン書』の中のヤレド人の言葉で蜜蜂みつばちを意味する（エテ 2：3）。

テトス 「テトスへの手紙」「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の人物。パウロと

もにエルサレムへ旅をし、後に宣教師となつた信頼できるギリシャ人改宗者（ガラ 2：1-4；2 テモ 4：10）。テトスはコリントの聖徒たちに、パウロの最初の手紙を届けた（2 コリ 7：5-8、13-15）。

テトスへの手紙 「テトス」「パウロ」「パウロの手紙」参照

パウロは一時的にローマでの獄中生活から解放されたとき、クレテにいたテトスにこの手紙を書いた。この手紙はおもに、教会の内部規律や組織についての問題を扱っている。

第 1 章には、パウロのあいさつと指示、ならびに監督（ビショップ）に求められる一般的な資格が述べられている。第 2-3 章には、一般的な教えとクレテの教会の様々な層の人々への対処の仕方が書かれている。パウロは聖徒たちに不品行をやめ、慎み深く、忠実であり、善い業を続けるよう励ましている。

デボラ

『旧約聖書』の中の人物。イスラエルを裁き、巴拉クにカナン人と戦うよう励ましを与えた女預言者（士師 4 章）。デボラと巴拉クは、イスラエルが東縛から解放されたことを祝って歌った（士師 5 章）。

テモテ 「パウロ」参照

『新約聖書』の中の人物。パウロが伝道したときの若い同僚宣教師（使徒 16：1-3；2 テモ 1：1-5）。父はギリシャ人、母はユダヤ人であった。テモテは両親とともにルステラで暮らしていた。

パウロはテモテを「信仰によるわたしの真実な子」と呼んでいる（1 テモ 1：2、18；2 テモ 1：2）。テモテはパウロにとつて最も信頼できる有能な助け手であったと思われる（ピリ 2：19-23）。

**テモテへの手紙 「テモテ」「パウロ」
「パウロの手紙」参照**

『新約聖書』の中の2書。パウロがテモテに書き送った手紙。

テモテへの第一の手紙：パウロはこの第一の手紙を最初の獄中生活の後に書いた。彼はまた戻って来るつもりで、テモテをエペソに残していた（1テモ3:14）。しかし、遅れることになると感じて、テモテにこの手紙を書き送った。恐らくマケドニアからと思われる（1テモ1:3）。その目的は、テモテに義務を果たすよう勧め励ますことであった。

第1章には、パウロのあいさつと、教会に入り込んできた様々な空論に関するパウロの教えが載っている。第2-3章には、公の礼拝行事と、神に仕える者としてのるべき姿と行いについての指示が書かれている。第4-5章では、末日の背教の様子と、テモテが導いていた人々にどのように仕えるべきかについての彼への勧告が述べられている。第6章は、忠実さを認められるように、またこの世の富を避けるようにとの勧めである。

テモテへの第二の手紙：この第二の手紙は、2度目の獄中生活の間、殉教の直前に書いたものである。この手紙にはパウロの最後の言葉が書かれ、死に立ち向かう彼のすばらしい勇気と信頼が示されている。

第1章には、パウロのあいさつとテモテへの指示が書かれている。第2-3章では、将来に待ち受ける危険に立ち向かうようにとの励ましとともに、様々な警告や訓戒が与えられている。第4章には、背教者にどう対処すべきかの助言を含めて、パウロの友人たちに送る言葉が書かれている。

デリラ 「ペリシテ人」参照

『旧約聖書』の中の人物。サムソンを

だまして裏切ったペリシテ人の女（士師16章）。

天 「神の王国、天の王国」「パラダイス」「日の榮え」参照

聖典に出てくる「天」という言葉には、二つの基本的な意味がある。（1）神が住んでおられる所、また聖徒が将来住む所（創世28:12；詩篇11:4；マタ6:9）。（2）地球を取り巻く広がり（創世1:1, 17；出エ24:10）。天とパラダイスは明らかに異なる。パラダイスは、世を去った忠実な靈が一時的にとどまる場所を指す。イエスは、十字架上で息を引き取った後にパラダイスを訪れた。しかし3日目に、イエスはマリヤに、御自分がまだ御父のもとに行っていないことを告げられた（ルカ23:39-44；ヨハ20:17；教義138:11-37）。

わたしは、あなたの指のわざなる天を見、詩篇8:3。もろもろの天は主のみことばによって造られ、詩篇33:6。あなたは天から落ちてしまった、イザ14:12（2ニフ24:12）。もろもろの天は卷物のように巻かれ、イザ34:4。わたしは新しい天と、新しい地とを創造する、イザ65:17。わたしが天の窓を開いて、マラ3:10。

天にいますわれらの父よ、御名があがめられますように、マタ6:9（3ニフ13:9）。パウロは第三の天にまで引き上げられた、2コリ12:2。天に静けさがあった、黙示8:1（教義88:95-98）。

最後まで忠実であり続けるならば、彼らは天に迎えられ、モサ2:41。天におられるあなたがたの父の子となるためである、3ニフ12:45。

天の雲の中を来る、教義45:16。エリヤは死を味わうことなく天に取り去られた、教義110:13。神権の権利は天の力と不可分のものとして結びついてお

天国

り、**教義 121:36**。天に2種の存在者がいる、**教義 129:1**。

シオンが天に取り上げられた、**モセ 7:23**。

天国 「神の王国、天の王国」参照

天使

天には天使と呼ばれる2種の存在者がいる。靈の状態の者と骨肉の体を持つ者である。靈の状態の天使は、まだ骨肉の体を得ていない。すなわち、かつては死すべき体を持っていたが、今は復活を待っている者である。骨肉の体を持つ天使は、死者の中からよみがえった者か、または身を変えられた者である。

聖典には天使の働きに関する多くの記述がある。時には、雷のような声で神の御告げを伝えることがある（モサ 27:11-16）。義人が天使と呼ばれることもある（JS 創世 19:15〔付録〕）。天上の神の御座を取り囲む天使もいる（アル 36:22）。

聖典には悪魔の使いのことも記されている。前世でルシフェルに従い、神の前から追い払われ、地上に投げ落とされた靈たちである（黙示 12:1-9; 2ニフ 9:9, 16；教義 29:36-37）。

ヤコブは神の使たちが上り下りしているのを見た、**創世 28:12**。神の使たちがヤコブに会った、**創世 32:1-2**。ギデオンは顔を合わせて主の使を見た、**士師 6:22**。天の使が手をエルサレムに伸べてこれを滅ぼそうとした、**サ下 24:16**。天の使が彼にさわり、「起きて食べなさい」と言った、**列上 19:5-7**。ダニエルは示現の中で天使ガブリエルを見た、**ダニ 8:15-16**。天使の長ミカエルが来て、ダニエルを助けた、**ダニ 10:13**。

天使ガブリエルが神から遣わされた、**ルカ 1:19, 26-27**。悪魔の使たちはさ

ばきのために、しばりつけたまま、閉じ込めておかけた、**ユダ 1:6**（2ペテ 2:4）。

人々は天使が天から降って来るのを見た、**3ニフ 17:24**。モロナイは天使の働きについて記録した、**モロ 7:25-32**。

アロンの神権は天使の働きの鍵を持つ、**教義 13章**。モロナイ、パプテスマのヨハネ、ペテロとヤコブとヨハネ、エリヤ、エライアスが、天使としてジョセフ・スミスを訪れた、**教義 27:5-12**。あなたがたは天使たちの働きにも堪えることができない、**教義 67:13**。天使長ミカエルはアダムである、**教義 107:54**。天使とは、骨肉の体を持つ復活した人々である、**教義 129章**。この地球において仕える天使たちで、この地球に属していない者はだれもいない、**教義 130:5**。神の永遠の結婚の律法に従わない人は、めどることも、嫁ぐこともなく、天において天使に任じられる、**教義 132:16-17**。

天使長、天使のかしら 「アダム」「ミカエル」参照

ミカエルすなわちアダムは、天使長すなわち天使のかしらである。

主ご自身が天使のかしらの声の鳴り響くうちに、天から下ってこられる、**1テサ 4:16**。ミカエルは御使のかしらである、**ユダ 1:9**（教義 29:26; 88:112; 128:20-21）。

天上の会議 「贖いの計画」「前世」「天での戦い」参照

前世において開かれた会議。この会議で御父はこの地球に来ることになっていたすべての靈の子供たちに、御自身の計画を明らかにされた。

神の子たちはみな喜び呼ばわった、**ヨブ 38:4-7**。わたしの王座を高く神の星の上におき、**イザ 14:12-13**。

天では戦いが起った。黙示 12:7-11。

彼らは生まれる前に、靈の世界において最初の教えを受け、教義 138:56。

サタンは前世で背いた、モセ 4:1-4。英知は、世界が存在する前に組織された、アブ 3:22。神々は協議された、アブ 4:26。神々は協議したすべての業を離れて休まれた、アブ 5:2。

天での戦い 「前世」「天上の会議」参照

前世において神の靈の子供たちの間に起きた戦い。

サタンは天を追われ、地に投げ落された、黙示 12:4, 7-9。

悪魔と天の衆群の3分の1が落とされた、教義 29:36-37。ルシフェルは独り子に背いた、教義 76:25-26。

サタンは御父の誉れを求め、人の選択の自由を損なおうとした、モセ 4:1-4（イザ 14:12-15；アブ 3:27-28）。神に従った者たちは第一の位を守り、地球上に来て肉体を受けた、アブ 3:26。

伝道活動 「宣べ伝える」「福音」参照

言葉と模範によりイエス・キリストの福音を伝えること。

救を告げる者の足は山の上にあって、なんと麗しいことだろう、イザ 52:7。わたしは、わたしみずからわが羊を尋ねて、これを搜し出す、エゼ 34:11。

すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ、マコ 16:15（モル 9:22）。目をあげて畑を見なさい。はや色づいて刈入れを待っている、ヨハ 4:35。つかわされなくては、どうして宣べ伝えることがあろうか、ロマ 10:15。

力の限り神の言葉を民に教え、ヤコ 1:19。主はすべての国民に、主の御言葉を教えることを許される、アル 29:8。

福音は弱い者や純朴な者によって宣べ

られる、教義 1:23。驚くべき業が現れようとしている、教義 4:1。生涯力を尽くし、一人でもわたしのもとに導くなれば、あなたがたの喜びはいかに大きいことか、教義 18:15。わたしの選民はわたしの声を聞き、その心をかたくなにしない、教義 29:7。二人ずつ組んでわたしの名によってわたしの福音を宣べ伝え、教義 42:6。この知らせはこの地から全世界に出て行く、教義 58:64。口を開いて、わたしの福音を宣言し、教義 71:1。啓示と戒めに従って真理を宣言しなさい、教義 75:4。警告を受けた人は皆、その隣人に警告しなければならない、教義 88:81（教義 38:40-41）。主は福音を宣べ伝える人々の家族を扶養される、教義 118:3。神の僕たちは出て行って、教義 133:38。忠実な長老たちが、死すべき世を去っても彼らの働きを続け、教義 138:57。

伝道者 「祝福師」「祝福師の祝福」参照

イエス・キリストの福音のよきおとずれを証し、宣言する人。ジョセフ・スマスは、伝道者とは祝福師のことであると教えた。祝福師は、祝福師の祝福と呼ばれる特別な祝福を与えるために、十二使徒の指示の下に召され、聖任される。

ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、エペ 4:11。伝道者のわざをなし、2テモ 4:5。

わたしたちは、使徒、預言者、牧者、教師、祝福師などがあることを信じる、箇条 1:6。

伝道の書

『旧約聖書』の中の1書。人生の幾つかの難問に関する深い思索が書かれている。

著者である伝道者は、福音の知識を持たない人の観点からこの書の多くの部分

天の御父

を書いている。世の人々、つまり「日の下」（伝道1：9）の人々の考えに立って書いているのである。この書には、否定的で悲観的に思える箇所が多くある（伝道9：5、10）。しかし、それは主がわたしたちに望んでおられる人生観ではなく、光を受けていない世の人々の目に様々な事象がどう映るかを、伝道者が観察した結果である。この書の中で最も靈的な部分は、第11章と第12章の中にある。そこで著者は、不变の価値を持つのはただ一つ、神の戒めに従うことであると結論づけている。

天の御父 「神、神会」参照

全人類の靈の父（詩篇82：6；マタ5：48；ヨハ10：34；ロマ8：16-17；ガラ4：7；ヨハ3：2）。イエスは肉における御父の独り子であられる。人は御父に従い、畏敬の念を持ち、イエスの名によって御父に祈るように命じられている。

もしも、あなたがたが、人々のあやまちをゆるすならば、あなたがたの天の父も、あなたがたをゆるして下さるであろう、マタ6：14（マタ18：35；ニフ13：14）。あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである、マタ6：26-33（ニフ13：26-33）。天の父はなおさら、求めて来る者に聖靈を下さらないことがあろうか、ルカ11：11-13。ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神、エペ1：3。

あなたがたは天の御父にとこしえに恩を受けている、モサ2：34。キリストは御父の名の栄光を表し、エテ12：8。

御父がその隠れ場から出て来られるに先立って、聖徒たちは受けた迫害について証言すべきである、教義123：1-3、6。

わたしたちは天の御父からの大いなる栄光ある祝福を受けた、ジー歴史1：73。

同意の律法 「イエス・キリストの教会」

「支持（教会指導者の）」参照

教員はこの原則によって、教会の奉仕の職に召された人への支持、また会員の支持が必要な教会の決定事項への支持を行う。通常、右手を挙げてその意を示す。

イエス・キリストは御自身の教会のかしら頭である。イエス・キリストは聖靈による靈感を通して、重要な決定や決裁について教会の指導者を導かれる。しかし教員はすべて、指導者の決定や決裁に対して支持・不支持の意を示す権利と特権を持っている。

民はみな同音に答えて言った、出エ24：3（民数27：18-19）。

使徒と長老たちは衆議一決した、使徒15：25。

その教会の賛意の表明がなければ、だれも聖任されることはない、教義20：65-66。すべてのことは、教員の同意を得て行わなければならない、教義26：2（教義28：13）。すべてのことを会員の一一致に従って行いなさい、教義104：21。

同性愛行為 「姦淫」「肉欲」参照

同性間の性的関係。主はこの種の性的関係を禁じておられる。

それをここに出しなさい。われわれは彼らを知るであろう、創世19：1-11（モセ5：51-53）。あなたは女と寝るよう男と寝てはならない。これは憎むべきことである、レビ18：22（レビ20：13）。イスラエルの男子は神殿男娼となつてはならない、申命23：17。ソドムのようにその罪をあらわして隠さない、イザ3：9（ニフ13：9）。

男も互にその情欲の炎を燃やし、ロマ1：27。男色をする者は、神の国をつぐことはない、1コリ6：9-10。律法は正

しい人のために定められたのではなく、男色をする者のために定められている、**1テモ 1:9-10**。不自然な肉欲に走った人々は、永遠の火の刑罰を受け、人々の見せしめにされている、**ユダ 1:7**。

道徳 「姦淫」「純潔」「性的不道徳」「不貞」参照

尊ぶ 「敬う」「敬虔」^{けいけん} 参照

特に福音的な観点から、人や物事を価値ある有益な存在として大切に思うこと。

彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった、**イザ 53:3-4**。

人々の間で尊ばれるものは、神のみまえでは忌みきらわれる、**ルカ 16:15**。人を自分よりすぐれた者としない、**ピリ 2:3**。

主はすべての人を公平に重んじられ、**1ニフ 17:35**。すべての者は隣人を自分自身のように尊ばなければならない、**モサ 27:4**（教義 38:24-25）。

平穏な日には、彼らはわたしの勧告を軽んじた、**教義 101:8**。

時のしるし 「イエス・キリストの再臨」「終わりの時、末日」「しるし」参照

神の業の中で何か重要なことがすでに起きていること、あるいは間もなく起こることを示すために、神が人々に与えられる出来事や経験。末日には、救い主の再臨を告げる多くのしるしが預言されている。それらのしるしは忠実な人々に神の計画を意識させ、警告を与え、備えをさせる。

主の家の山は、もろもろの山のかしらとして堅く立ち、**イザ 2:2-3**。主は旗をあげて、イスラエルを集められる、**イザ 5:26**（ニフ 15:26-30）。太陽は出ても暗く、月はその光を輝かさない、イ

ザ 13:10（ヨエ 3:15；教義 29:14）。民が律法にそむき、とこしえの契約を破る、**イザ 24:5**。ニーファイ人はちりの中からの声のように語る、**イザ 29:4**（2ニフ 27章）。イスラエルは力をもって集められる、**イザ 49:22-23**（1ニフ 21:22-23；3ニフ 20-21章）。天の神は一つの国を立てられます。これはいつまでも滅びることがなく、**ダニ 2:44**（教義 65:2）。戦争や夢、示現が再臨に先立つ、**ヨエ 2章**。万国の民を集めて、エルサレムを攻め撃たせる、**ゼカ 14:2**（エゼ 38-39章）。炉のように燃える日が来る、**マラ 4:1**（3ニフ 25:1；教義 133:64；ジー歴史 1:37）。

その時には、大きな患難^{かんなん}が起る、**マタ 24章**（ジーマタ 1章）。パウロは終りの時の背教と苦難の時代について説明した、**2テモ 3-4章**。エルサレムでふたりの預言者が殺され、復活する、**黙示 11章**（教義 77:15）。終わりの日に、天使の働きにより福音が回復される、**黙示 14:6-7**（教義 13:27章；110:11-16；128:8-24）。バビロンが打ち立てられるが、やがて倒れる、**黙示 17-18章**。

イスラエルは力をもって集められる、**1ニフ 21:13-26**（イザ 49:13-26；3ニフ 20-21章）。あなたがたが知ることのできるように、一つのしるしをあなたがたに示そう、**3ニフ 21:1**。『モルモン書』は将来神の力によって出る、**モル 8章**。

レーマン人はばらのよう花咲く、**教義 49:24-25**。悪人は悪人を殺し、恐怖がすべての人に及ぶ、**教義 63:32-35**（黙示 9章）。戦争がすべての国々のうえに押し寄せる、**教義 87:2**。数々のしるしや自然界の大変動、天使の現れが主の来臨の道を備える、**教義 88:86-94**。暗闇が地を覆い、**教義 112:23-24**。主は聖徒たちに再臨に備えるように命じられた、**教義 133章**。

徳

徳 「高潔」「純潔」「力」参照

高潔さ、道徳的な美点。道徳的な清さ（モロ 9：9）。

あなたがりっぱな女であることを知っている、ルツ 3：11。主の聖所に立つべき者はだれか。手が清く、心のいさぎよい者こそ、その人である、詩篇 24:3-4。賢い妻はその夫の冠である、箴言 12:4。賢い妻は宝石よりもすぐれて尊い、箴言 31：10-31。

あなたがたの信仰に徳を加え、2 ペテ 1：5（教義 4：6）。

絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい、教義 121：45。

わたしたちは徳高くあるべきことを信じる、箇条 1：13（ピリ 4：8）。

独身主義 「結婚」参照

毒麦

小麦によく似た草で毒を持つもの。生長して大きくなるまでは、小麦と見分けがつかない（マタ 13：24-30；教義 86：1-7）。

トマス

『新約聖書』の中の人物。救い主が地上で務めを果たしておられたときに最初に選ばれた十二使徒の一人（マタ 10：2-3；ヨハ 14：5）。ギリシャ語では、デドモと呼ばれていた（ヨハ 20：24-29；21：2）。トマスは自分の目で救い主を見るまで、イエスの復活を疑っていた。しかし、彼は強い意志の持ち主で、進んで迫害に立ち向かい、主とともに死のうとした（ヨハ 11：16；20：19-25）。

富 「金銭」「高慢」参照

金品などの財産。主は聖徒たちに、善を行なうためでなければ、この世の富を求めてはならないと勧告された。聖徒は神

の王国を求める前にこの世の富を追い求めてはならない。神の王国には永遠の富が用意されているのである（ヤコ 2：18-19）。

富の増し加わるとき、これに心をかけてはならない、詩篇 62：10。宝は怒りの日に益なく、箴言 11：4。自分の富を頼む者は衰える、箴言 11：28。令名は大いなる富にまさり、箴言 22：1。

財産のある者が神の国にはいるのは、なんとむづかしいことであろう、マコ 10：23（ルカ 18：24-25）。金銭を愛することは、すべての悪の根である、1 テモ 6：10。

彼らの心は彼らの富にあるので、富が彼らの神となっている、2 ニフ 9：30。義人は、富に執着することなく、すべての人に分かち与えた、アル 1：30。人々は富のゆえに高慢になり始めた、アル 4：6-8。民は、彼らの富の多少に応じて階級に区別され始めた、3 ニフ 6：12。

富を求めずに、知恵を求めなさい、教義 6：7（アル 39：14；教義 11：7）。地の富はわたしのものであり、わたしがそれを与えるのである。高慢に気をつけなさい、教義 38：39。

永遠の富：天に、宝をたくわえなさい、マタ 6：19-21。

永遠の命の富の声により、わたしはあなたがたを幾度呼んできたことであろう、教義 43：25。永遠の富はわたしのものであり、わたしが与えるものである、教義 67：2（教義 78：18）。

とりこ 「自由」参照

肉体的あるいは靈的に束縛された状態にあること。

イスラエルの家が、その惡によって捕え移された、エゼ 39：23。

とりこになるべき者は、とりこになっていく、黙示 13：10。

邪悪な人々は悪魔に束縛されるようになる、**1ニフ 14:4, 7**。人は、自由と永遠の命を選ぶことも、束縛と死を選ぶことも自由である、**2ニフ 2:27**。肉の思いは、悪魔の靈に力を与え、あなたがたを捕らえて、**2ニフ 2:29**。あなたがたは、先祖が囚われの状態にあったことをよく覚えているか、**アル 5:5-6**。心をかたくにする者は悪魔に捕らえられる、**アル 12:11**。あなたがたは悪魔に誘惑されないように、また悪魔に捕らえられないうように、常に目を覚ましていて祈らなくてはならない、**3ニフ 18:15**。

貪欲、むさぼり 「ねたみ」参照

聖典でいう貪欲とは、人をうらやんだり、何かを過度に欲しがったりすることである。

あなたはむさぼってはならない、**出エ 20:17**（申命 5:21；モサ 13:24；教義 19:25）。不正の利を憎む者は長命を得る、**箴言 28:16**。彼らは田畠をむさぼつてこれを奪い、**ミカ 2:2**。

貪欲に対してよくよく警戒しなさい、**ルカ 12:15**。律法は「むさぼるな」と言っている、**ロマ 7:7**。終りの時には、人々は金を愛する者となる、**2テモ 3:1-2**。

ラパンはわたしたちの持っているものを目にして、欲しくてたまらなくなった、**1ニフ 3:25**。

あなたは自分の財産をむさぼることなく、**教義 19:26**。むさぼるのをやめなさい、**教義 88:123**。兄弟のものをむさぼってはならない、**教義 136:20**。

ナアマン 「エリシャ」参照

『旧約聖書』の中の人物。シリアの王の軍勢の長。ナアマンは重い皮膚病になったが、イスラエル人の娘の信仰により、預言者エリシャに会うためにイスラエルへ行った。ナアマンはへりくだって、

預言者エリシャに言われたとおりヨルダ川で7度身を洗い、重い皮膚病を癒された（列下 5:1-19；ルカ 4:27）。

ナオミ 「ルツ」参照

『旧約聖書』の中の人物。義にかなった女性でエリメレクの妻であった（ルツ 1-4 章）。エリメレクとナオミは、飢饉を避けて家族をモアブへ連れて行った。エリメレクと二人の息子の死後、ナオミは嫁のルツとともにベツレヘムに帰った。

慰め主、助け主 「イエス・キリスト」「聖霊」参照

聖典には慰め主として御二方が挙げられている。聖霊（ヨハ 14:26-27；モロ 8:26；教義 21:9；42:17；90:11）と、主イエス・キリスト（ヨハ 14:18, 21, 23）である。ある人が第二の慰め主を得ると、イエス・キリストは時々その人に現れ、御父を現し、顔と顔を合わせて教えを授けられる（教義 130:3）。

ナザレ 「イエス・キリスト」参照

ガリラヤ湖西方の丘陵地帯にある村落。ナザレはイエスの故郷であった（マタ 2:23）。イエスはナザレの会堂で教え、御自身がイザヤ 61:1-2 の預言を成就したことを宣言された（マタ 13:54-58；マコ 6:1-6；ルカ 4:16-30）。

ナタナエル 「バルトロマイ」参照

『新約聖書』の中の人物。キリストの使徒の一人で、ピリポの友人（ヨハ 1:45-51）。ガリラヤのカナの出身（ヨハ 21:2）。キリストはナタナエルのことを、心に偽りのないイスラエル人と言われた（ヨハ 1:47）。一般に、ナタナエルとバルトロマイは同一人物であったと考えられている（マタ 10:3；マコ 3:18；ルカ 6:14；ヨハ 1:43-45）。

ナタン

ナタン 「ダビデ」参照

『旧約聖書』の中の人物。ダビデ王の時代の預言者。ダビデが主のために神殿を建てたいと申し出たとき、主はナタンに、それを建ててはならないとダビデに告げるよう命じられた。ナタンはまた、ダビデが家来のウリヤを死に追いやり、その妻バテシバを奪ったことで、ダビデを責めた（サ下 12：1-15；教義 132：38-39）。ザドクはナタンとともに、ダビデの息子ソロモンに油を注いで王とした（列上 1：38-39、45）。

ナフタリ 「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

ヤコブの12人の息子の中の6番目で、ラケルのつかえめビルハの2番目の子供（創世 30：7-8）。ナフタリには4人の息子がいた（歴上 7：13）。

ナフタリの部族：ナフタリに授けられたヤコブの祝福は、創世 49：21 に記録されている。また申命 33：23 には、この部族に対するモーセの祝福が記録されている。

ナホム

『旧約聖書』中のガリラヤの預言者。紀元前 642-606 年ごろに預言を記した。

ナホム書：第1章には、再臨の時に地が焼かれることと、主の憐れみと力のこととが書かれている。第2章は、ニネベの滅亡について述べている。ニネベの滅亡は末日に起る事柄をあらかじめ示している。第3章は、続けてニネベの悲惨な滅亡を預言している。

ニーファイ（ニーファイの息子、ヒラマンの孫）「弟子」「ニーファイ（ヒラマンの息子）」参照

『モルモン書』中の人物。復活され

たイエス・キリストによって選ばれた12人のニーファイ人の弟子の一人（3ニフ 1：2-3；19：4）。この預言者は民のために熱烈に主に祈り、主の声を聞いた（3ニフ 1：11-14）。またニーファイは天使の訪を受け、悪霊を追い出し、自分の兄弟をよみがえらせ、打ち消すことのできない証を述べた（3ニフ 7：15-19；19：4）。ニーファイは聖文が記された記録を保管した（3ニフ 1：2-3）。

第三ニーファイ：『モルモン書』中の1書。ニーファイの息子ニーファイによって書かれたもの。第1-10章には、主の来臨についての預言が成就したことが示されている。キリストの降誕のしるしが与えられると民は悔い改めたが、後に民はまた悪事を行うようになった。最後にキリストの死のしるとして、嵐や地震、大暴風、ひどい滅亡が起こった。第11-28章には、アメリカ大陸へのキリストの訪が記録されている。これが第三ニーファイの中心である。ここで語られているキリストの言葉の多くは、『聖書』に記されているものとよく似ている（例えば、マタ 5-7章と3ニフ 12-14章）。第29-30章には、末日の人々に向けられたモルモンの言葉が記されている。

第四ニーファイ：この書には全部で49節から成る一つの章しかないが、約300年にわたるニーファイ人の歴史が網羅されている（紀元 34-321 年）。この書は、数世代にわたりニーファイを含む幾人かによって記録された。第1-19節には、復活されたキリストの訪問の後、ニーファイ人とレーマン人がすべて心を改めて福音に従ったことが述べられている。平和と愛と一致が人々の間に広がった。再臨の時まで地上にとどまることをキリストから許された3人のニーファイ人の弟子（3ニフ 28：4-9）が民に仕えた。ニーファイは息子のアモスに記録を託し

た。第19-47節には、アモスの働き（84年間）とその息子アモスの働き（112年間）が記されている。紀元201年に、高慢が原因となって民の間に様々な問題が起きた始め、民は階級に分かれ、偽りの教会が利益を得るようになった（4ニフ1：24-34）。

第四ニーファイの終わりの方には、民が再び悪事を犯すようになったことが記されている（4ニフ1：35-49）。紀元305年、アモスの息子アモスが亡くなり、その兄弟アマロンが神聖な記録をすべて安全に守るために隠した。アマロンは後にそれらの記録をモルモンに託した。そしてモルモンは自分の生涯にあった数多くの出来事を記録し、後にそれらの記録を要約した（モル1：2-4）。

ニーファイ（ヒラマンの息子）「ヒラマン（ヒラマンの息子）」「リーハイ（ニーファイ人の宣教師）」参照

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の偉大な預言者、宣教師。

ヒラマンの長男、ヒラ3：21。大きさに任じられた、ヒラ3：37。彼は兄弟のリーハイとともに多くのレーマン人を福音に帰依させた、ヒラ5：18-19。火に包まれ、牢から解放された、ヒラ5：20-52。自分の庭にある塔の上で祈った、ヒラ7：6-10。大きさの暗殺を暴いた、ヒラ8：25-28；9：1-38。主から大いなる力を与えられた、ヒラ10：3-11。飢餓を起こすこと、そして飢餓を止めることを主に求めた、ヒラ11：3-18。

ニーファイ（リーハイの息子）「ニーファイ人」「リーハイ（ニーファイの父）」参照

『モルモン書』の中の人物。義人。リーハイとサライアの息子（1ニフ1：1-4；

ニーファイ（リーハイの息子）

2：5）。ニーファイは神の言葉に深い信仰を持ち（1ニフ3：7）、偉大な預言者、記録者、民の指導者となった。

従順であり、信じて祈り求めた、1ニフ2：16。真鑑版を手に入れるためにエルサレムに戻った、1ニフ3-4章。イシマエルの家族を荒れ野へ連れて来るためにエルサレムに戻った、1ニフ7章。リーハイと同じ示現を受けた、1ニフ10：17-22；11章。示現の中で自分の民の将来と福音の回復とを見た、1ニフ12-13章。命の木の示現を解き明かした、1ニフ15：21-36。弓を折ってしまったが、信仰によって食糧を得ることができた、1ニフ16：18-32。船を造り、約束の地へ向けて旅をした、1ニフ17-18章。ニーファイ人とレーマン人が分かれた、2ニフ5章。最後の証を述べた、2ニフ33章。

ニーファイ第一書：1ニーファイ1章-18：8には、預言者リーハイとその家族がエルサレムを去ってからの旅の様子がおもに描かれている。彼らは不毛の荒れ野を旅し、やがて海に着いた。1ニーファイ18：9-23には、レーマンやレムエルの反逆があったにもかかわらず、主に導かれるままに約束の地に向かった彼らの航海の様子が述べられている。第19-22章には、主なる贖い主を忘れないようにすべての人に説き勧めるという、ニーファイが記録を残した目的が述べられている（1ニフ6章：19：18）。彼はイザヤの言葉を引用し（1ニフ20-21章）、すべての人にイエス・キリストが彼らの救い主であり贖い主であることを知ってほしいという望みをもって、その言葉を解き明かした（1ニフ22：12）。

ニーファイ第二書：第1-4章には、リーハイが死を前にして残した最後の教えと預言が幾つか述べられている。その中には息子や子孫たちへの祝福も含まれてい

ニーファイ人

る。第5章には、ニーファイ人がレーマン人から分かれた理由が説明されている。ニーファイ人は神殿を建て、モーセの律法を教え、記録を残した。第6-10章には、ニーファイの弟ヤコブの言葉が記されている。ヤコブはユダの歴史を振り返り、預言者イザヤの記録の一部を引きながら、メシヤについて預言している。第11-33章には、キリストについてのニーファイ自身とヤコブの証^{あかし}、終わりの時にに関する預言、また『旧約聖書』の一つの書であるイザヤ書から引いた幾つかの章が記録されている。

ニーファイの版：「版」の項を参照

ニーファイ人 「ニーファイ（リーハイの息子）」「モルモン書」「レーマン人」参照

『モルモン書』の中の民。その多くはリーハイの息子である預言者ニーファイの子孫であった。彼らはレーマン人から分かれ、一般にレーマン人よりも義にかなっていた。しかし、悪事のためにレーマン人に減ぼされることとなった。

ニーファイ人はレーマン人のもとを去った、2ニフ5:5-17。レーマン人でない民はニーファイ人であった。ヤコ1:13。ニーファイ人はもっと良い動機に励まされていた、アル43:6-9,45。ニーファイの民にとって、モロナイの時代以上に幸せな時はかつて一度もなかった、アル50:23。ニーファイ人は義人の祈りのおかげで救われた、アル62:40。ニーファイ人は不信仰に陥るようになった、ヒラ6:34-35。キリストはニーファイ人の中で教えと導きを施された、3ニフ11:1-28:12。民は皆、主に帰依し、すべてのものを共有した、4ニフ1:2-3。民の心の中に宿っていた神の愛のために、まったく争いがなかった。彼ら以上に幸せな民は確かにあり得なかった、4

ニフ1:15-16。心の中で誇り、虚栄心が強くなり始めた、4ニフ1:43。地の全面でニーファイ人とレーマン人の双方に流血と虐殺が広がった、モル2:8。ニーファイ人の罪悪が募ったために、モルモンは指揮官になることを断った、モル3:9-11。24人を除く、すべてのニーファイ人が殺された、モル6:7-15。キリストを否定しないニーファイ人はすべて殺された、モロ1:2。

ニーファイ人はその罪悪と忌まわしい行いのゆえに滅ぼされた、教義3:18。あなたがたはニーファイ人のようにならないよう、高慢に気をつけなさい、教義38:39。

ニーファイ人の弟子 「三人の弟子(ニーファイ人の)」参照

ニーホル 「偽善売教」「反キリスト」参照

『モルモン書』の中の人物。悪人。ニーホルはニーファイ人の間で偽善売教を行った最初の人である。偽りの教えを説き、ギデオンを殺した後で、死刑に処せられた（アル1章）。ニーホルに従った者たちは、ニーホルの死後も長くその邪悪な行いと教えとを続けた。

アルマとアミュレクは、ニーホルの教団に属するさばきつかさによって投獄された、アル14:14-18。殺された者たちがニーホルの教団に属し、アル16:11。多くがニーホルの教団に属していた、アル21:4。多くの同胞^{はらから}を殺した者の大多数は、ニーホルの教団に属する者であった、アル24:28。

肉 「生まれながらの人」「体」「現世的」「死すべき状態」参照

肉という言葉には幾つかの意味がある。(1) 人間、動物、鳥、魚などの体を

形造る柔らかな組織。(2) 死すべき状態。
(3) 人間の物質欲あるいは肉欲。

肉体を形造る組織：生きて動くものはあなたがたの食物となるであろう、創世9:3。不必要に動物を殺してはならない、JS 創世9:10-11（教義49:21）。

野の獣と空の鳥は、食物として、また着る物として人が使うように定められている、教義49:18-19（教義59:16-20）。肉は控えめに用いなければならぬ、教義89:12-15。

死すべき状態：イエスは御父の独り子であった、ヨハ1:14（モサ15:1-3）。

アダムは最初の肉なるものとなった、モセ3:7。

人間の肉欲：肉なる者を自分の腕とする人は、のろわれる、エレ17:5。

心は熱しているが、肉体が弱いのである、マコ14:38。肉の欲は、父から出たものではなく、1ヨハ2:16。

ニーファイは自分の肉と罪惡のために苦悩した、2ニフ4:17-18, 34。惡魔の意志と肉の思いに自らを従わせてはならない、2ニフ10:24。

憎しみ、憎む 「愛」「敵意」「報復」 参照

人や物事に対する強い嫌悪感のこと。

主であるわたしは、わたしを憎むものには、父の罪を子に報いて、出エ20:5。主の憎まれるもののが6つある、箴言6:16。愚かな人はその母を軽んじる、箴言15:20。彼は侮られて人に捨てられ、イザ53:3。

一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである、マタ6:24。あなたがたは、わたしの名のゆえにすべての人に憎まれるであろう、マタ10:22。惡を行っている者はみな光を憎む、ヨハ3:20。あなた

は、年が若いために軽んじられてはならない、1テモ4:12。

彼らは自分が富んでいるので、貧しい者をさげすみ、2ニフ9:30。神の啓示を侮ってはならない、ヤコ4:8。彼らはわたしたちに対して、永遠の憎しみを抱いていた、ヤコ7:24。

人々が神の勧告を無視し、神の言葉を軽んじても、教義3:7。

たとえ示現を見たと言ったことで憎まれ、迫害されたとしても、ジ—歴史1:25。

肉欲 かんいん 「姦淫」「純潔」「性的不道徳」「不貞」「欲望」参照

性的不品行に代表される不義な肉体的快楽への願望、愛着。

主人の妻はヨセフに目をつけ、創世39:7。

情欲をいだいて女を見る者は、心の中ですでに姦淫をしたのである、マタ5:28（3ニフ12:28）。たましいに戦いをいどむ肉の欲を避けなさい、1ペテ2:11。肉の欲、目の欲は、父から出たものではなく、1ヨハ2:16。

これからはもう自分の目の欲を追うことなく、アル39:9。

聖なる律法を破ったことによって、人は官能におぼれるようになった、教義20:20。だれか心の中で姦淫をするならば、彼らは御靈みたまを持たなくなり、教義63:16。すべての惡悪な行いをやめなさい、教義88:121。

人々は肉欲や官能におぼれ、惡魔に従う者となり始めた、モセ5:13（モサ16:3; モセ6:49）。

ニコデモ 「パリサイ人」参照

『新約聖書』の中の人物。義人。ユダヤ人の指導者（サンヒドリンの一員であったと思われる）。パリサイ人（ヨハ3:1）。

夜イエスのもとにきて言った、ヨハ3：1-21。パリサイ人に対してキリストを弁護した、ヨハ7：50-53。イエスの埋葬のために香料を持って来た、ヨハ19：39-40。

虹 「ノア（族長）」「ノアの時代の洪水」「箱舟」参照

神がノアと交わされた聖約（契約）のしるし（創世9：13-17）。ヨセフ・スミス訳創世9：21-25（付録）では、この聖約には約束として、大地は二度と洪水で覆われないこと、エノクのシオンが戻って来ること、そして主が地上に住むために再び来臨されることが含まれていたと説明されている。

日曜日 「安息日」参照

ニネベ 「アッシリヤ」「ヨナ」参照

『旧約聖書』の中の地名。アッシリア（アッシリヤ）の首都で、200年以上にわたり、チグリス川東岸の商業の一大中心地であった。紀元前606年、アッシリア帝国の滅亡と一緒に陥落した。

アッシリヤの王セナケリブはニネベにいた、列下19：36。この町に悔い改めを叫ぶためにヨナが遣わされた、ヨナ1：1-2（ヨナ3：1-4）。ニネベの人々は悔い改めた、ヨナ3：5-10。

イエスはユダヤ人に対し、悔い改めの模範としてニネベの例を挙げられた、マタ12：41。

柔和 「打ち碎かれた心」「謙遜」「忍耐」 参照

神を畏れる、義にかなった、謙遜な、素直な、苦難に耐える、などの意味を持つ言葉。柔和な人は福音の教えに喜んで従う。

モーセは非常に柔和であった、民数

12：3。柔軟な者は国を継ぎ、詩篇37：11（マタ5：5；3ニフ12：5；教義88：17）。

わたしは柔軟で心のへりくだつた者である、マタ11：29。柔軟は御靈の実である、ガラ5：22-23。反対する者を柔軟な心で教え導くべきである、2テモ2：24-25。柔軟でしとやかな霊は、神の前にきわめて尊いものである、1ペテ3：4。

生まれながらの人を捨てて柔軟になる、モサ3：19（アル13：27-28）。柔軟で心のへりくだつた者になるように教えなさい、アル37：33。わたしの恵みは柔軟な者に十分であり、エテ12：26。あなたがたが柔軟であるのを見て、あなたがたにはキリストを信じる信仰があると思う、モロ7：39。柔軟で心のへりくだつた人でなければ、神の御前に受け入れられない、モロ7：44。罪の赦しは柔軟な状態を生じ、柔軟な状態であれば聖霊の訪れがある、モロ8：26。

わたしの御靈の柔軟な道を歩みなさい、教義19：23。柔軟に家を治め、教義31：9。いかなる力も影響力も、温厚と柔軟により、教義121：41。

忍耐 「堪え忍ぶ」「柔軟」参照

心静かに耐えること。不平を言ったり報復をしたりせずに、苦しみや辱め、侮蔑などに耐える力。

主の前にもだし、耐え忍びて主を待ち望め、詩篇37：7-8。怒りをおそくる者は大いなる悟りがあり、箴言14：29。

あなたがたは耐え忍ぶことによって、自分の魂をかち取るであろう、ルカ21：19。聖書の与える忍耐と慰めとによって、望みをいだかせる、ロマ15：4。信仰と忍耐とをもって約束のものを受け継ぐ人々に見習う者となるように、ヘブ6：12-15。完全な、でき上がった人となるように、その忍耐力を十分に働かせるが

よい、新ヤコ 1:2-4。あなたがたは、ヨブの忍耐のことを聞いている、新ヤコ 5:11。

彼らは心楽しく忍耐して、主の御心にすべて従った、モサ 24:15。主があなたとともにおられたので、あなたは忍耐してこれらすべてのことに耐えた、アル 38:4-5。

完全になるまで忍耐し続けなさい、教義 67:13。

任命 「接手」「召し、神の召し」参照

聖なる目的のために選ばれ、任じられること。この任命は、正当な権能を持つ人の接手により教会の組織で特定の奉仕の務めを受ける人に対して行われる。神権定員会を管理する人だけが、任命を受けるときに鍵を授けられる。神権定員会の長以外の職に任命される人は、神権の祝福を受けることはできるが、それに伴って鍵を授けられることはない。

バルナバとサウロとを、わたしのために聖別して、仕事に当らせなさい、使徒 13:2-3。

ほかのビショップたちが任命される、教義 68:14。ビショップは一般判士であり、この務めに任命されなければならない、教義 107:17, 74。

人は預言によって、また権能を持つ者による接手によって、神から召されなければならない、箇条 1:5。

盗み

不正直あるいは不法な手段で人のものを取ること。主はその子らに、盗んではならないと命じてこられた（出エ 20:15；マタ 19:18；2 ニフ 26:32；モサ 13:22；教義 59:6）。

自分のため、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい、マタ 6:19-21。

ニーファイ人が攻撃されたのは、彼らの高慢や富、略奪、盗みなどが原因であった、ヒラ 4:12。

盗んで悔い改めようとしない者は、追い出されなければならない、教義 42:20。盗みを働く者をその地の法律に引き渡さなければならない、教義 42:84-85。

ねたみ 「どんよく貪欲、むさぼり」「ねたむ」参照

聖典によると、他人の幸せをうらやましく思うのは悪いことである。

族長たちは、ヨセフをねたんで、エジプトに売りとばした、使徒 7:9。愛はねたむことをしない、1コリ 13:4（モロ 7:45）。高慢から、ねたみが生じる、1テモ 6:4。ねたみのあるところには、混乱とあらゆる忌むべき行為とがある、新ヤコ 3:16。

主なる神は、ねたんではならないと命じられた、2ニフ 26:32。ニーファイの民の中には、ねたみがなかった、4ニフ 1:15-18。

人のねたみと憤りが生涯を通じてわたしの日常のことであった、教義 127:2。

ねたむ 「ねたみ」参照

聖典では、この言葉は二つの意味で用いられている。(1) 何かに対して一途な思いや、鋭敏で奥深い感情を持つこと。(2) ほかの人をうらやむこと、またほかの人の優れた点を快く思わないこと。

一途な思いを持つこと：わたしは、ねたむ神である、出エ 20:5（申命 5:9；6:15；モサ 11:22）。わが聖なる名のために、ねたみを起す、エゼ 39:25。わたしはエルサレムのため、シオンのために、大いなるねたみを起し、ゼカ 1:14。

人をうらやむこと：ねたみは、その夫

を激しく怒らせる、箴言 6:32-35。
エーキシは息子をねたむようになり、
エテ 9:7。
ねたみと恐れを除き去り、教義 67:
10。

熱心

たゆまず雄々しく努力すること。特に、
主に仕え、主の言葉に従うことについて
用いられる。

わたしによく聞き従え、イザ 55:2。
力の限りをつくして、あなたがたの信
仰に徳を加え、2ペテ 1:5。

力の限り神の言葉を民に教え、ヤコ 1:
19。聖文を熱心に調べて、アル 17:2。
この少数のレーマン人は喜んで力の限り
主の戒めを守っていた、3ニフ 6:14。
わたしたちは力を尽くそう、モロ 9:6。

熱心に善いことに携わらなければなら
ない、教義 58:27。怠けることもなく、
あなたがたの勢力を尽くして働く、教義
75:3。永遠の命の言葉を熱心に心に留
めるようにしなさい、教義 84:43。人は皆、
自分の義務を学び、任命されている職務
をまったく勤勉に遂行するようにしなさ
い、教義 107:99。

**ネブカデネザル 「ダニエル」「バビロン、
バベル」参照**

『旧約聖書』の中の人物。バビロンの
王（紀元前 604-561 年）。ユダを征服し
(列下 24:1-4)，エルサレムを包囲し
た (列下 24:10-11)。紀元前 600 年ご
ろ、預言者リーハイはエルサレムから逃
れるように命じられ、囚われの身となっ
てバビロンへ連れ去られることがないよ
うにされた (1ニフ 1:4-13)。そのバ
ビロニア捕囚で、ネブカデネザルはゼデ
キヤ王と民を連れ去った (列下 25:1,
8-16, 20-22)。ダニエルはネブカデネ
ザルの夢を解き明かした (ダニ 2:4 章)。

ネヘミヤ

『旧約聖書』の中の人物。バビロンに
いた高貴な身分のイスラエル人（レビ人
またはユダの部族に属していた）で、アル
タシャスタ王の宮廷で給仕役の地位に
あった。ネヘミヤはアルタシャスタから
エルサレムの城壁の再建を認めるとの許
可を得た。

ネヘミヤ記：この書はエズラ記の続編
である。ユダヤ人がバビロニア捕囚から
帰還した後の、エルサレムでの工事の進
展と数々の障害についての記録が含まれ
ている。第 1-7 章には、ネヘミヤの第
1 回エルサレム訪問と、大きな障害にも
かかわらず城壁が再建されたことが書か
れている。第 8-10 章には、ネヘミヤが
実施しようとした宗教上の改革と社会改
革について述べられている。第 11-13
章には、エルサレムに住む資格のある
人々の名前が列挙され、また城壁の奉獻
の様子が記録されている。第 13 章の第
4-31 節には、12 年間在職した後のネヘ
ミヤの 2 度目のエルサレム訪問のことが
記されている。

眠る

活動することも意識することもない休
息の状態。主は聖徒に、必要以上に眠ら
ないように勧告しておられる（教義 88:
124）。眠りは靈の死（1コリ 11:30; 2
ニフ 1:13）や、肉体の死（モル 9:13）
の象徴となることもある。

年表

付録の「年表」を参照。

ノア（ゼニフの息子）

『モルモン書』の中の人物。邪悪な王。
ニーファイの地に住むニーファイ人を支
配していた。

多くの罪を犯した、モサ 11：1-15。預言者アビナダイを殺すように命じた、モサ 13：1（モサ 17：1, 5-20）。焼き殺された、モサ 19：20。

ノア（族長）「ガブリエル」「虹」「ノアの時代の洪水」「箱舟」参照

『旧約聖書』の中の人物。レメクの息子。アダムから数えて10人目の族長（創世5：29-32）。ノアはキリストについて誓し、邪悪な世人々に悔い改めを宣べ伝えた。神は人々がノアの言葉を拒んだとき、箱舟を造るようにノアに命じられた。邪悪な世人々を滅ぼすため地を洪水が覆うときに、ノアの家族とすべての生き物をそれに乗せて守るために乗った（創世6：13-22；モセ8：16-30）。預言者ジョセフ・スミスは、ノアは天使ガブリエルであり、救いの鍵を持つという点でアダムに次ぐ位にあると教えた。

ノアとその息子たちヤベテ、セム、ハムと、彼らの妻たちは、神に命じられて箱舟を造り、救われた、創世6-8章（ヘブ11：7；1ペテ3：20）。主はエノクと交わした契約を、ノアと更新された、創世9：1-17（JS創世9：15, 21-25；モセ7：49-52）。

メトセラの手の下で聖任されたとき、10歳であった、教義107：52。

人々は彼の命を取ろうとしたが、主の力が彼を守った、モセ8：18。義を説く者となり、イエス・キリストの福音を教えた、モセ8：19, 23-24（2ペテ2：5）。

ノアの時代の洪水「虹」「ノア（族長）」「箱舟」参照

ノアの時代に、地球は完全に水で覆われた。これは地球のバプテスマであり、清めを象徴していた（1ペテ3：20-21）。

わたしは地の上に洪水を送って、肉な

るものを滅ぼし去る、創世6：17（モセ7：34, 43, 50-52；8：17, 30）。洪水が地に起った、創世7：10。神は契約のししとして雲の中にじを置かれた、創世9：9-17。

水が地の面から引いた後、アメリカの地はえり抜きの土地になった、エテ13：2。

洪水の中で滅びるであろう、モセ7：38；8：24。

ノーブー、イリノイ州（アメリカ合衆国）

1839年に末日聖徒がイリノイ州に建設した町。ミシシッピ川をセントルイスから約320kmさかのぼった所にある。

ミズーリ州での迫害により、聖徒たちはミシシッピ川を越えて北東へ約320km移動し、前よりも恵まれた状態のイリノイ州へ入った。やがて聖徒たちはコマースという名の未開発の町の近くに土地を購入した。そこは数戸の粗末な建物しかないまったく未開の湿地であった。聖徒たちは土地の排水をし、家を建てた。ジョセフ・スミスも自分の家族を小さな丸太造りの家に移した。その町のコマースという名は、「美しい」を意味するヘブライ語にちなんで「ノーブー」と変えられた。

『教義と聖約』の幾つかの章はノーブーで記録された（教義124-129；132；135章）。聖徒たちはノーブーに神殿を建てるように告げられた（教義124：26-27）。彼らは1846年に自分たちの家を追われる前に、神殿を建設し、シオンのステークを組織した。この迫害の結果、聖徒たちはノーブーを去り、西へ向かつた。

宣べ伝える「伝道活動」「福音」参照

福音の原則や教義についてさらに深い理解を与えるメッセージを伝えること。

主がわたしに油を注いで、貧しい者に福音を宣べ伝えることをゆだね、イザ

61:1（ルカ4:16-21）。立って、ニネベに行き、これに伝えよ、ヨナ3:2-10。

この時からイエスは教を宣べはじめて、マタ4:17。全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ、マコ16:15。わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝える、1コリ1:22-24。彼は獄に捕われている靈どものところに下って行き、宣べ伝えることをされた、1ペテ3:19。

主を畏れる気持ちを抱くように、絶えず彼らを奮い立たせるほかに、方法はなかった、エノ1:23。悔い改めと、主を信じる信仰のほかは、何も説かないように指示した、モサ18:20。御言葉を説き教えることは民に正しいことを行わせるのに大きな効果があり、アル31:5。

あなたは召しを受けるまで、教えを説くために召されたと思うには及ばない、教義11:15。聖任されないかぎり、だれも宣べ伝えるために出て行くことは許されない、教義42:11。この福音はあらゆる国民に宣べ伝えられるであろう、教義133:37。

福音は最初から宣べ伝えられた、モセ5:58。

飲み物 「知恵の言葉」参照

のろい 「罰の定め」「不敬」参照

聖典におけるのろいとは、物や個人、民に対して裁きとその結果が及ぶことを許す神の律法が適用されることである。その第1の原因は不義である。のろいは、神の愛と正義の表である。のろいは、神が直接に下されることもあれば、権能を授けられた僕が宣言することもある。時には、のろいが下された理由が人に知られないこともある。故意に神に背くことによって主の御靈から遠ざかる者は、こののろいの状態を経験する。

主は、イエス・キリストを信じる信仰と福音の律法と儀式への従順さを示した個人や民からのろいを取り除かれる（アル23:16-18;3ニフ2:14-16;箇条1:3）。

神は蛇を、アダムとエバをだましたことでのろわれた、創世3:13-15（モセ4:19-21）。地はアダムとエバのためにのろわれた、創世3:17-19（モセ4:23-25）。主はカインを、アベルを殺したことでのろわれた、創世4:11-16（モセ5:22-41）。主はカナンとその子孫をのろわれた、創世9:25-27（モセ7:6-8；アブ1:21-27）。イスラエルは神に従順であれば祝福され、不従順であればのろわれる、申命28章（申命29:18-28）。ガハジとその子孫はのろわれ、ナアマンの重い皮膚病を受けた、列下5:20-27。主は昔のイスラエルの民を、什分の一とさげ物を納めなかったことでのろわれた、マラ3:6-10。

いちじくの木がイエスののろいによって枯れた、マコ11:11-14, 20-21。イエスはコラジンやベツサイダ、カペナウムの町をのろわれた、ルカ10:10-15。

主に聞き従わなかつたレーマン人は、主の前から絶たれ、のろわれた、2ニフ5:20-24。主は、御自分のもとに来るよう、すべての人を招かれる、2ニフ26:33。主はみだらなことを行う者をのろわれる、ヤコ2:31-33。ニーファイ人は、悔い改めなければレーマン人よりもひどいのろいを受ける、ヤコ3:3-5。反抗的な人々は自分自身にのろいを招く、アル3:18-19（申命11:26-28）。コリホルは人々を神から離れさせたことでのろわれた、アル30:43-60。主なる神は、のろいが地に下るように、またあなたがたの富にも下るようにされた。それはあなたがたの罪悪のためである、ヒラ13:22-23（2ニフ1:7；アル37:31）。主は邪惡なヤレド人をのろわれた、エテ9:

28-35。キリストの贖罪は、幼い子供たちからアダムののろいを取り去る、モロ口8:8-12。

主に背く者はのろわれる、教義41:1。先祖と子孫の間に堅いつながりがなければ、地はのろいをもって打たれる、教義128:18(マラ4:5-6)。

不敬:「のろい」という言葉は、冒瀆や不敬、侮辱の言葉を用いるという意味でも使われる。

人は自分の父や母をのろってはならない、出エ21:17(マタ15:4)。民の司をのろってはならない、出エ22:28(伝道10:20)。男も女も神をのろってはならない、レビ24:13-16。

ペテロはイエスとのかかわりを否定したとき、のろいの言葉さえ口にした、KJマタ26:69-74。

邪悪なニーファイ人は神をのろい、死ぬことを願った、モル2:14。

パートリッジ、エドワード

近代に回復された当教会の初期の会員で、指導者としての務めを果たした人物。当教会の最初のビショップ(教義36章; 41:9-11; 42:10; 51:1-18; 115章; 124:19)。

バアル 「偶像礼拝」参照

おもにフェニキアで礼拝された男性格の太陽神(列上16:31)。フェニキア以外の地でも、モアブ人のバアル・ペオル(民数25:1-3)、シケムのバアル・ベリテ(士師8:33; 9:4)、エクロンのバアル・ゼブブ(列下1:2)など様々な形で礼拝された。バアルは、バビロンのベルやギリシャのゼウスと同じとも考えられる。バアルという言葉は主人と奴隸の関係を示している。バアルは通常、雄牛をその象徴とした。一般に、バアルとともに、アシタロテという女神が礼拝

された。

バアルは時として、ほかの名前や言葉と結合し、バアル礼拝が行われた場所やバアルのような属性を備えた人など、バアルとの関連性を示す場合にも用いられた。後にバアルという言葉が非常に邪悪な意味合いを帯びてきたため、これらの結合語の名称では、バアルがボセテという言葉に置き換えられた。ボセテとは「恥」の意味である。

背教、背信 「背く」「福音の回復」参照

個人、教会、あるいは国民全体が真理に背くこと。

一般的な背教:イスラエルは主を離れてはならない、申命29:18。示現がなければ民は滅びる、KJ箴言29:18。とこしえの契約を破った、イザ24:5。

風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまう、マタ7:27。あなたがたがこんなにも早く、違った福音に落ちていくことが、わたしには不思議でならない、ガラ1:6。

人々は道を歩き始めたころはよかったです、霧の中で道を見失ってしまった、1ニフ8:23(1ニフ12:17)。人々は、その実を味わった後に、禁じられた道に踏み込んでしまった、1ニフ8:28。ニーファイ人の背教は教会に属していない者たちにとってつまずきの石となった、アル4:6-12。多くの教会員が高慢になり、ほかの教会員を迫害するようになった、ヒラ3:33-34(ヒラ4:11-13; 5:2-3)。主が御自分の民を栄えさせられるとき、彼らは心をかたくなにして、主なる神を忘れることがある、ヒラ12:2; 13:38。ニーファイ人は心をかたくなにして、サタンに支配された、3ニフ2:1-3。モロナイは終わりの時の背教について預言した、モル8:28, 31-41。

再臨の前に背教が起こる、教義1:13-16。

ハイド、オーソン

過去のキリスト教会における背教：この民は口をもってわたしに近づき、イザ 29:10, 13。暗きは地をおおい、イザ 60:2。主は、主の言葉を聞くことのきんを送られる、アモ 8:11。

にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、マタ 24:24。狂暴なおおかみが、あなたがたの中に入り込んできて、使徒 20:29。あなたがたがこんなにも早く、あなたがたをキリストの恵みの内へお招きになったかたから離れて、ガラ 1:6。再臨の前に背教が起こる、2 テサ 2:3。ある人々は真理からはずれている、2 テモ 2:18。ある人々は信心深い様子をしながらその実を捨てる者となる、2 テモ 3:2-5。^{おしえ}人々が健全な教に耐えられなくなる時が来る、2 テモ 4:3-4。民の間に、にせ預言者とにせ教師が現れる、2 ペテ 2:1。不信仰な人々がしのび込んできて、唯一の君であり、わたしたちの主であるイエス・キリストを否定している、ユダ 1:4。使徒と自称してはいるが、その実、使徒でない者たちがいる、黙示 2:2。

ニーファイは大きな忌まわしい教会が設立されるのを見た、1 ニフ 13:26。異邦人はつまずいた。そして多くの教会を設けた、2 ニフ 26:20。

彼らはわたしの定めから離れ去り、わたしの永遠の聖約を破った、教義 1:15。暗闇が地を覆い、深い闇が人々の心を覆い、教義 112:23。

ヨセフは、世の教会はすべて間違っていて、その心は神から遠く離れていると告げられた、ジ—歴史 1:19。

ハイド、オーソン

この神権時代に召された最初の十二使徒定員会の一員（教義 68:1-3; 75:13; 102:3; 124:128-129）。1841 年に行なったユダヤ人帰還のための聖地奉獻を含め、教会のために数多くの使命を果たした。

パウロ 「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の人物。使徒。パウロのヘブライ語名は、サウロであった。彼は異邦人に伝道を始めるまで、このサウロという名で知られていた。彼はかつて教会を迫害していたが、イエス・キリストの示現を受けた後に改宗して、教会が説く真理に従った。パウロは長期にわたる伝道の旅を 3 度行い、聖徒たちにあて多くの手紙を書いた。今日の『新約聖書』にはそのうちの 14 の手紙が載っている。最後に彼は囚人としてローマに連行され、紀元 65 年の春に殺されたと思われる。

ステパノを石で打つことに同意した、使徒 7:57-8:1。聖徒たちを迫害した、使徒 8:3。ダマスコへの旅の途中、イエスの現れを受けた、使徒 9:1-9。アナニヤからバプテスマを受けた、使徒 9:10-18。アラビヤに退いた後、宣べ伝えるためにダマスコへ戻った、使徒 9:19-25（ガラ 1:17）。改宗して 3 年後にエルサレムに戻った、使徒 9:26-30（ガラ 1:18-19）。3 度伝道の旅に出て、福音を宣べ伝え、ローマ帝国の各地に教会の支部を組織した、使徒 13:1-14:26；15:36-18:22；18:23-21:15。3 度目の伝道の旅の後、エルサレムに戻ったところで捕らえられ、カイザリヤに送られた、使徒 21:7-23:35。カイザリヤで 2 年間獄中にあった、使徒 24:1-26:32。裁判のためにローマへ送られる途中、船が難破した、使徒 27:1-28:11。

パウロの手紙 「パウロ」それぞれの手紙を参照

『新約聖書』の中の 14 書。使徒パウロが教会員にあてて書いた手紙で、次のように分類できる。

テサロニケ人への第一・第二の手紙（紀元 50-51 年）

パウロは2回目の伝道の旅で、コリントからテサロニケ人에게この手紙を書いた。テサロニケでのパウロの働きについては、使徒17章に述べられている。パウロはテサロニケへ帰ることを望んだが、そうできなかった(1テサ2:18)。そこでパウロは改宗者を励まし、彼らの近況を知るためにテモテを派遣した。第一の手紙は、テモテが帰って直ちに書かれたパウロの感謝の気持ちである。第二の手紙はその少し後に書かれた。

コリント人への第一・第二の手紙、ガラテヤ人への手紙、ローマ人への手紙(紀元55-57年)

コリント人への第一・第二の手紙は、パウロが3回目の伝道の旅のときに書いたもので、コリントの聖徒の疑問に答え、また彼らの中にあった無秩序を正そうとしたものである。

ガラテヤ人への手紙は、ガラテヤ一帯の諸教会にあてて書き送ったものと思われる。教会員の中には、ユダヤ教の律法に固執して福音を捨てる者がいた。この手紙の中でパウロは、モーセの律法の目的と、靈的な教えの大切さを説明した。

ローマ人への手紙は、パウロがコリントから書き送ったものである。パウロはローマの聖徒たちのもとを訪れたいと望んでいたが、聖徒たちをそれに備えさせるのがこの手紙の目的の一つであった。またこの手紙は、キリスト教に改宗した一部のユダヤ人たちが疑いをもって論じていた幾つかの教義について再確認している。

ピリピ人への手紙、コロサイ人への手紙、エペソ人への手紙、ピレモンへの手紙、ヘブル人への手紙(紀元60-62年)

パウロは、ローマでの最初の獄中生活のときにこれらの手紙を書いた。

ピリピ人への手紙はおもに、パウロ

がピリピの聖徒たちに感謝と愛の気持ちを伝え、長期にわたる自分の投獄のことで悲しむ彼らに慰めを与えるために書き送ったものである。

コロサイ人への手紙は、コロサイの聖徒たちが重大な過ちに陥っているという報告を受けてパウロが書いたものである。彼らは、キリストのような人格を伸ばすことよりも、むしろ外形的な儀式に厳格に従うことによって完全になれると信じていた。

エペソ人への手紙は、キリストの教会に関するパウロの教えが書かれているという点で非常に重要である。

ピレモンへの手紙は、主人ピレモンのものを盗んでローマへ逃亡した奴隸オネシモについての個人的な手紙である。パウロは、オネシモを赦すようにとの手紙を添えて、彼を主人のもとに送り返した。

ヘブル人への手紙は、モーセの律法がキリストにあって成就し、それに換えてキリストの福音の律法が与えられたことを、ユダヤ人教会員に理解させるために、パウロが書いたものである。

テモテへの第一・第二の手紙、テトスへの手紙(紀元64-65年)

パウロは、ローマでの最初の獄中生活から釈放された後に、これらの手紙を書いた。

パウロはエペソまで旅をして、様々な空論がはびこるのを食い止めるためにテモテをエペソに残し、自分はまた戻ってきて来るつもりでいた。パウロがテモテへの第一の手紙を書いたのは、マケドニアからと思われる。その目的は、テモテに義務を果たすよう勧め励ますことであった。

テトスへの手紙は、パウロが釈放期間中に書いたものである。パウロはテトスが働いていたクレテを訪ねた可能性が

ある。この手紙はおもに、義にかなった生活と教会内の規律について述べている。

テモテへの第二の手紙は、2度目の獄中生活の間、殉教の直前に書いたものである。この手紙にはパウロの最後の言葉が書かれ、死に立ち向かう彼のすばらしい勇気と信頼が示されている。

墓 「復活」参照

遺体を葬る場所。^{しょくさい}贖罪によって、すべての人が墓から復活する。

キリストの復活の後、墓が開け、多くの死体が生き返った、マタ 27:52-53 (3ニフ 23:9-13)。死よ、おまえの勝利は、どこにあるのか、1コリ 15:55。

墓はそこに囚われている肉体を解き放して、2ニフ 9:11-13。

墓の中で眠っていた者たちは出て来る、教義 88:97-98。バブテスマフォントは墓を象徴している、教義 128:12-13。

ハガイ

旧約の預言者。ユダヤ人がバビロニア捕囚から戻った直後の紀元前520年ごろ、エルサレムで預言した(エズ5:1; 6:14)。ハガイはエルサレムでの主の神殿再建について語り、神殿が完成していないかったことで民を叱責した。ハガイはまた、福千年の神殿と救い主の統治についても書き記している。

ハガイ書：第1章で、主は、神殿がまだ建てられていないにもかかわらず、民が自分の家を建てて住んでいることを非難された。第2章には、主は神殿の中で平安を与えてくださるというハガイの預言が記録されている。

ハガル 「アブラハム」「イシマエル(アブラハムの息子)」参照

『旧約聖書』の中の人物。サラに仕えたエジプト人のつかえめ。アブラハムの妻となり、イシマエルを産んだ(創世16章:25:12; 教義132:34, 65)。主はハガルに、イシマエルから大いなる国民が出ると約束された(創世21:9-21)。

迫害 「逆境」参照

信仰や社会的立場の違いを理由にほかの人を苦しめ悩ますこと。

義のために迫害されてきた人々は、さいわいである、マタ5:10(3ニフ12:10)。迫害する者のために祈れ、マタ5:44(3ニフ12:44)。

彼らは自分が富んでいるので、柔軟な者を迫害する、2ニフ9:30(2ニフ28:12-13)。どのような迫害を受けても、確固としてキリストを待ち望む義人は、滅びを受けない、2ニフ26:8。

これらのことはすべて、あなたに経験を与えるであろう、教義122:7。

ハゴス

『モルモン書』の中のニーファイ人。船の建造者(アル63:5-7)。

箱舟 「虹」「ノア(族長)」「ノアの時代の洪水」参照

『旧約聖書』に出てくる、ノアが大洪水のときに命あるものを救うために造った船。

あなたは、いとすぎの木で箱舟を造りなさい、創世6:14。箱舟はアララテの山にとどまった、創世8:4。

ヤレド人の船はノアの箱舟のようにしっかりしていた、エテ6:7。

初め 「イエス・キリスト」「前世」「創造、創造する」参照

一般には、現世より前の時、すなわち前世を指して用いられる。イエス・キリ

ストを「初め」と呼ぶ場合もある。

はじめに神は天と地とを創造された。
創世 1:1 (モセ 2:1)。

最初に言があった、ヨハ 1:1。

わたしはアルバでありオメガであり、
初めてあり終わりである、**3ニフ 9:18**。

キリストは初めてあり終わりである、
教義 19:1。新しくかつ永遠の聖約は初
めからあった、**教義 22:1**。人は初めに
神とともにいた、**教義 93:23, 29**。神
の教会で治める者となるように初めに
選ばれた、高潔で偉大な者たち、**教義
138:55**。

独り子は初めから神とともにおられ
た、**モセ 2:26**。

旗

人々が一つの目的の下に、あるいは
帰属するグループごとに集まるための目
印となるもの。古代においては、戦場で
の兵士の集合地点を示すために用いられた。『モルモン書』とイエス・キリスト
の教会は、地のすべての国民に対する旗
としての象徴的な存在である。

主は旗をあげて遠くから一つの国民を
招き、**イザ 5:26** (**2ニフ 15:26**)。エッ
サイの根が立って、もろもろの民の旗と
なり、**イザ 11:10** (**2ニフ 21:10; 教義
113:6**)。

平和の旗を掲げ、**教義 105:39**。

畠 「ぶどう園（果樹園）（主の）」「世」
参照

聖典では、耕作などに用いる土地を指
す。この世やこの世の民の象徴として用
いることもよくある。

畠は世界である、**マタ 13:38**。天国は、
畠に隠してある宝のようなものである、
マタ 13:44。

大きく広々とした野原が見えた、**1ニ
フ 8:9, 20**。畠は熟していた、**アル 26:5**。

畠はすでに白くなり刈り入れを待って
いる、**教義 4:4** (**教義 6:3; 11:3; 12:3; 14:3; 31:4; 33:3, 7**)。畠は世界であり、
教義 86:1-2。わたしはこれらの王国を、
畠を持っている一人の男にたとえよう、
教義 88:51。

パッテン、デビッド・W

末日の神権時代に選ばれた最初の十二
使徒定員会の一員。回復された教会の最
初の殉教者。1838年にクルックト川の
戦いで死んだ。

自分の事業を清算し、伝道の使命を
果たすように求められた、**教義 114:1**。
主のもとに迎えられた、**教義 124:19, 130**。

罰の定め 「悪魔」「死(靈の)」「地獄」「滅 びの子」参照

進歩が止まり、神の臨在と栄えを拒
まれた状態。罰の定めにも様々な段階が
ある。完全な日の栄えの昇栄を得ない人
は、進歩と特權がある程度制約され、そ
の程度に応じた罰の定めを受けることにな
る。

偽善な律法学者たちよ。あなたがたは、
わざわいである。あなたがたは、もっと
きびしいさばきを受けるに違いない、**マ
タ 23:14**。聖靈をけがす者は、永遠の
罪に定められる、**マコ 3:29**。悪をおこ
なった人々は、さばきを受けるためによ
みがえって、それぞれ出てくる、**ヨハ 5:
29** (**3ニフ 26:5**)。主のからだをわきま
えないで飲み食いする者は、その飲み食
いによって自分にさばきを招く、**1コリ
11:29** (**3ニフ 18:28-29**)。

悔い改めて神の御名を信じることを
せず、バプテスマを受けることなく、最
後まで堪え忍ぶことをしなければ、罰の

初穂

定めを受ける、**2ニフ9:24**（マコ16:16;エテ4:18;教義68:9;84:74）。悪人が神とともに住むときの悲惨は、地獄で罰の定めを受けている者たちとともに住むときの悲惨よりもひどい、**モル9:4。**

命じられるまで何事も行わない者は、罰の定めを受ける、**教義58:29。**新しくかつ永遠の聖約を受ける者は、その律法に従わなければならぬ。そうしなければ罰の定めを受ける、**教義132:6。**

初穂

季節の最初の収穫物。旧約の時代に、初穂は主にささげられた（レビ23:9-20）。イエス・キリストは神にささげられる初穂として、最初に復活された御方であった（1コリ15:20, 23; 2ニフ2:9）。福音を受け入れ、忠実に最後まで堪え忍ぶ人は、神に属する人であり、象徴的な意味で初穂ということができる。

小羊の行く所へは、どこへでもついて行く。彼らは、神と小羊とにささげられる初穂として、**黙示14:4。**

キリストとともに最初に降る者は初穂である、**教義88:98。**

バテシバ 「ダビデ」参照

ウリヤの妻。後にダビデの妻となる。ソロモンの母。ダビデ王は彼女と姦淫の罪を犯した。ダビデはまた彼女の夫を戦死させる画策をし（サ下11章）、その罪により永遠の報いを受けた（教義132:39）。

はと
鳩のしるし 「聖霊」参照

あらかじめ定められていたしりであり、バプテスマのヨハネはこのしるしによってメシヤを認めた（ヨハ1:32-34）。ジョセフ・スミスは、鳩のしるしは聖霊を証するものとして、この世が

創造される前に定められていたものであり、悪魔は鳩のしるしによって来ることはできないと教えている。

みたま
神の御靈がはとのように下った、**マタ3:16。**

イエスがバプテスマを受けられると、聖霊が鳩の形を取って降って来られた、**1ニフ11:27。**

わたしヨハネは証する。見よ、天が開かれ、聖霊が鳩の形を取って彼の上に降って、彼の上にとどまられた、**教義93:15。**

花婿 「イエス・キリスト」参照

聖典では、イエス・キリストを象徴的に花婿と呼ぶ。また、末日聖徒イエス・キリスト教会は、キリストの花嫁として象徴されている。

10人のおとめが花婿を迎えて行った、**マタ25:1-13。**花嫁をもつ者は花婿である、**ヨハ3:27-30。**小羊の婚宴に招かれた者は、さいわいである、**黙示19:5-10。**

花婿が来るときに用意ができているようになさい、**教義33:17。**花婿のために用意をせよ、**教義65:3。**

母 「エバ」「親」「家族」参照

子供を産んだ女性、あるいは子供を養子とした女性を指す神聖な呼び名。神の靈の子供たちに死すべき体を与えることにより、神の計画の助け手となる。

アダムはその妻の名をエバと名づけた。彼女がすべて生きた者の母だからである、**創世3:20**（モセ4:26）。あなたの父と母を敬え、**出エ20:12**（エペ6:1-3; モサ13:20）。母の教を捨ててはならない、**箴言1:8。**愚かな人はその母を軽んじる、**箴言15:20**（**箴言10:1。**年老いた母を軽んじてはならない、**箴言**

23:22。その子らは立ち上がって彼女を祝し、その夫もまた彼女をほめたたえて言う、箴言31:28。

十字架のそばには、イエスの母がたたずんでいた、ヨハ19:25-27。

レーマン人の2千人の兵士たちは母親から教えを受けていた、アル56:47(アル57:21)。

わたしたちの栄光ある母エバも、多くの忠実な娘たちとともにいた、教義138:38-39。

ハバクク

『旧約聖書』の中のユダ王国の預言者。ハバククはエホヤキンの治世のころに、民の罪悪について語った(紀元前600年ごろ)。

ハバクク書: 第1章には、エレミヤ書12章や教義と聖約121章に類似した、主と預言者の間で交わされた言葉が記されている。ハバククは、悪人が栄えている様子に心を悩ませていた。第2章で、主はハバククに、忍耐するように勧告し、義人は信仰によって生きるようにならなければならぬと教えられた。第3章には、神の公正さを知ったハバククの祈りが記録されている。

バビロン、バベル 「ネブカデネザル」「世」参照

バビロニアの首都。

バベルはニムロデによって興された町で、メソポタミアの地、すなわちシナルにおける最古の都市の一つであった(創世10:8-10)。主は人々がバベルの塔を築いていたときに、彼らの言葉を乱された(創世11:1-9; エテ1:3-5, 33-35)。バビロンは後にネブカデネザルの治める都となった。ネブカデネザルは壮大な都市を築き、その廃墟は今なお残っている。バビロンは非常に邪悪な都

市となり、以来この世の悪を象徴するようになった。

バビロンのうちからのがれ出て、エレ51:6。

バビロンは打ち立てられるが、やがて倒れる、黙示17-18章。

バビロンも滅ぼされる、2ニフ25:15。

バビロンは倒れる、教義1:16。わたしはバビロンにとどまる者をだれも容赦しない、教義64:24。バビロンから出なさい、教義133:5, 7, 14。

バプテスマ 「儀式」「聖霊」「再び生まれる」「幼児のバプテスマ」参照

ギリシャ語の原文で使用されていた語には、「浸す」または「沈める」という意味がある。権能を持つ者により水に沈められるバプテスマは、福音の最初の儀式であり、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になるために必要なものである。バプテスマに先立って、イエス・キリストを信じる信仰と悔い改めが求められる。この儀式の後に聖霊の賜物たまものを受けることによって、バプテスマは完全なものとなる(2ニフ31:13-14)。日の栄えの王国に入るには、水と聖霊によるバプテスマが必要である。バプテスマを受けた最初の人はアダムである(モセ6:64-65)。イエスもすべての正しいことを成就し、全人類に道を示すために、バプテスマをお受けになった(マタ3:13-17; 2ニフ31:5-12)。

地上のすべての人が、死すべき状態にある間に福音を受け入れる機会に浴するわけではない。そのため、主は死者のために代理人によってバプテスマを行うことを承認された。これによって、靈界で福音を受け入れる者は、神の王国に入る資格を得ることができるのである。

必要不可欠な条件: 今は受けさせても

バプテスマ

らいたい。すべての正しいことを成就するにはふさわしいことである、マタ3：15。イエスは出てきて、ヨハネからバプテスマをお受けになった、マコ1：9。パリサイ人と律法学者たちとはバプテスマを受けないで、神のみこころを無にした、ルカ7：30。だれでも、水と靈から生れなければ、神の国にはいることはできない、ヨハ3：5。悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりがバプテスマを受けなさい、使徒2：38。

神はすべての人に、神の御名によってバプテスマを受けなければならぬと命じておられる、2ニフ9：23-24。救いを得るために、人はバプテスマを受け、聖靈を授かり、最後まで堪え忍ばなければならない、2ニフ31章。キリストの教義とは、人は信じてバプテスマを受け、聖靈を受けなければならないというものである、3ニフ11：20-40。

あなたがたの言葉を信じることなく、わたしの名によってバプテスマを受けない者は、罰の定めを受ける、教義84：74。

神はアダムに、悔い改めとバプテスマが必要な理由を説明された、モセ6：52-60。

全身を水に沈める：イエスはバプテスマを受けるとすぐ、水から上がられた、マタ3：16（マコ1：10）。ヨハネもアイノンで、バプテスマを授けていた。そこには水がたくさんあったからである、ヨハ3：23。ピリポと宦官は水の中に降りて行った、使徒8：38。わたしたちは、バプテスマによって、彼と共に葬られたのである、ロマ6：4（コロ2：12）。

あなたがたの主であり救い主である御方に従い、水に入り、2ニフ31：13。アルマ、ヘラム、そのほかの人々が水に沈められた、モサ18：12-16。それから、あなたがたはその人を水中に沈めなさい、3ニフ11：25-26。

バプテスマの正しい執行方法が説明される、教義20：72-74。彼らはイエスの名によって水の中に沈められ、イエスの埋葬に倣ってバプテスマを受けた、教義76：50-51。

アダムは水に沈められ、そして水から連れ出された、モセ6：64。水に沈めるバプテスマは罪の赦しのために行われる、箇条1：4。

罪の赦しのための儀式：バプテスマを受け、あなたの罪を洗い落としなさい、使徒22：16。

バプテスマの後、火と聖靈によって罪の赦しが与えられる、2ニフ31：17。自分の罪から洗い清められるように、やつて来て、悔い改めのためのバプテスマを受けなさい、アル7：14。信じて、バプテスマを受ける人々は、幸いである。彼らは罪の赦しを受けるからである、3ニフ12：1-2。

悔い改めと救い主を信じる信仰、バプテスマによる罪の赦しを告げなさい、教義19：31。

わたしたちは、罪の赦しのために水に沈めるバプテスマを信じる、箇条1：4。

正当な権能：行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖靈との名によつて、彼らにバプテスマを施し、マタ28：19（教義68：8）。

リムハイと彼の民の多くの者は、バプテスマを受けたいと願った。しかしその地には、神から権能を授かっている者は一人もいなかった、モサ21：33。わたしはあなたに力を授ける。この力をもつてバプテスマを施しなさい、3ニフ11：19-21。

アロン神権は、罪の赦しのために水に沈めるバプテスマの鍵を持つ、教義13章。また彼らは、わたしの名によってバプテスマを施すために、わたしから聖任を受ける人々である、教義18：29。

バプテスマのヨハネは、バプテスマを施す権能をジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに授けた、**ジー歴史**1：68–69。

資格：悔い改めよ。わたしの愛する子の名によってバプテスマを受けよ、**2ニフ**31：11。あなたがたは悔い改め、再び生まれなければならない、**アル**7：14。ふさわしくないままでバプテスマを受けることのないようにしなさい、**モル**9：29。親たちに、悔い改めてバプテスマを受け、幼い子供たちのようにへりくだらなければならないことを教えなさい、**モロ**8：10。

バプテスマを受けたいと望む人々に求められる資格が説明される、**教義**20：37。子供たちは、8歳のときに罪の赦しのためのバプテスマを受けなければならぬ、**教義**68：25, 27。

交わす聖約：主に仕えて主の戒めを守るという聖約を主と交わした、**モサ**18：8–10, 13。

悔い改めて、キリストの名を受け、キリストに仕える決心をする人は、バプテスマによって受け入れられる、**教義**20：37。

死者のためのバプテスマ：死者のためにバプテスマを受ける人々は、なぜそれをするのだろうか、**1コリ**15：29。

死者のためのバプテスマは、罪の赦しを得させるために執行される、**教義**124：29；127：5–9；128：1；138：33。

幼児には不要：幼い子供たちにバプテスマを施すことは、神をひどくあざける行為である、**モロ**8：4–23。

子供たちは、8歳のときにバプテスマを受けなければならない、**教義**68：27。責任を負う年齢に達する前に死ぬ子供たちは皆、天の日の榮えの王国に救われる、**教義**137：10。

バホーラン

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の3代目の大きさばきつかさ（アル50：39–40；51：1–7；59–62章）。

ハム 「ノア（族長）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ノアの3番目の息子（創世5：32；6：10；モセ8：12, 27）。

ノアと息子たちと、彼らの妻とは箱舟に入った、創世7：13。ハムの子カナンはのろわれた、創世9：18–25。

ハムの政府は族長制であり、地の祝福と知恵の祝福を受けられたが、神権に関してはのろわれた、アブ1：21–27。ハムの妻エジプタスはカインの子孫であった。そして、彼らの娘エジプタスはエジプトに移り住んだ、アブ1：23, 25（詩篇105：23；106：21–22）。

破門 「背く」「背教、背信」参照

破門は、教会宗紀上の最も厳しい処置である。破門された人はもはや教会員ではない。教会役員は、該当する教会員が主の戒めに反する生活をすることを選び、それによって、自らをそれ以上教会員として認められない状態に置いたときにのみ、その教会員を破門する。

多くの者が心をかたくなにし、名が消された、アル1：24（アル6：3）。悔い改めなければ、わたしの民の中に数えてはならない、**3ニフ**18：31（モサ26章）。

姦淫かんいんをして悔い改めない者は、追い出されなければならない、**教義**42：24。罪を犯して悔い改めない者は、追い出されなければならない、**教義**42：28。教会内に起る重大な問題を解決するための手順が定められる、**教義**102章（**教義**42：80–93）。ピショップがイスラエルの判士に任命される、**教義**107：72。宗

パラダイス

教団体は秩序を乱す行為に対してその会員を処分する権利を持つ、**教義 134 : 10。**

パラダイス 「天」 参照

靈界の一部。この世を去った義人の靈はここで肉体の復活を待つ。パラダイスとは、幸福で平安な状態である。

パラダイスという言葉は聖典の中で、靈の世界（ルカ 23 : 43）、日の栄えの王国（2コリ 12 : 4）を意味する言葉としても使われ、また栄光を受けた福千年の地球の状態を表す「樂園」という言葉（箇条 1 : 10）もこれに当たる。

勝利を得る者には、神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べることをゆるそう、**黙示 2 : 7。**

神のパラダイスは義人の靈を解き放し、**2ニフ 9 : 13。** 義人の靈はパラダイスと呼ばれる幸福な状態に迎え入れられ、アル 40 : 11-12。イエスが選ばれた弟子たちは、3人を除いて、全員がすでに神のパラダイスへ行き、**4ニフ 1 : 14。** わたしは間もなく行って、神のパラダイスで安息を得る、モロ 10 : 34。

キリストはパラダイスの義人の靈たちに教えを受けられた、**教義 138 章。**

バラバ

十字架の刑のときにイエスの代わりに釈放された男。暴動を扇動した者、人殺し、強盗であった（マタ 27 : 16-26；マコ 15 : 6-15；ルカ 23 : 18-25；ヨハ 18 : 40）。

バラム

『旧約聖書』の中の預言者。金銭のためにイスラエルをのろおうとしたが、のろってはならないと主から命じられた（民数 22-24 章）。

バラムのろばは、主の使が道に立ちふ

さがっていたので先に進もうとしなかった、**民数 22 : 22-35。**

パリサイ人 「ユダヤ人」 参照

『新約聖書』の中のユダヤ教の一党派。パリサイという名には「分離された者」の意味がある。パリサイ人は、モーセの律法に厳格に従っていることと、異邦人とかかわりのあることをすべて避けていることを誇りとしていた。彼らは死後の生活や復活、天使と靈の存在を信じていた。また、口伝律法と伝承も、成文化された律法と同等の重要性を持つと信じていた。彼らの教えは宗教を規則の遵守という枠に押し込め、靈的慢心を助長した。そしてパリサイ人によって、多くのユダヤ人がキリストと福音に対して疑いを抱くようになった。マタイ 23 章；マルコ 7 : 1-23；ルカ 11 : 37-44 に記されているように、主はパリサイ人とその行いとを非難された。

ハリス、マーティン 「証人（モルモン書の）」 参照

『モルモン書』の神聖な起源と眞實性を証した三人の証人の一人。彼はジョセフ・スミスと教会に財政的な援助を与えた。主はマーティン・ハリスに、土地を売却してその金銭をささげることにより、『モルモン書』の出版の代金を支払い（教義 19 : 26-27, 34-35）、教会員の模範となり（教義 58 : 35）、また伝道に必要な支払いの援助をする（教義 104 : 26）ように求められた。

マーティン・ハリスは教会から破門されたが、後に教会員としての資格を完全に回復した。彼は生涯の終わりまで、天使モロナイに会ったことと、ジョセフ・スミスが『モルモン書』の翻訳に用いた金版を見たことを証した。

バルトロマイ 「ナタナエル」 参照

『新約聖書』の中の人物。キリストに選ばれた最初の十二使徒の一人（マタイ10：2-4）。

バルナバ

クプロ出身のレビ人ヨセフ（ヨセ夫とも呼ばれる）の別名。自分の土地を売り、その代金を使徒たちのところに持つて行った（使徒4：36-37）。最初に選ばれた十二使徒の一人ではないが、後に使徒となり（使徒14：4, 14）、幾度か伝道の旅に出た（使徒11：22-30；12：25；13-15章；1コリ9：6；ガラ2：1, 9；コロ4：10）。

ハルマゲドン 「イエス・キリストの再臨」「ゴゲ」「マゴゲ」参照

ハルマゲドンは、「メギドの山」を意味するヘブライ語の「ハル・メギド」から派生した言葉である。メギドの平野は、エルサレムの北方約80kmに位置するエスドラエロン平原の西部にあり、旧約の時代、幾度か激しい戦闘があった場所である。主の再臨近くに行われる大規模な最後の戦いがハルマゲドンの戦いと呼ばれるのは、それがこの地で始まるからである（エゼ39：11；ゼカ12-14章；特に12：11；黙示16：14-21）。

パロ 「エジプタス」「エジプト」参照

ハムの娘であるエジプタスの長男（アブ1：25）。また、エジプトの王たちに付けられた称号（アブ1：27）。

版 「金版」「モルモン書」参照

『モルモン書』の場合がそうであるように、幾つかの古代文明においては、金属の版に歴史や様々な記録を記した。詳細については、『モルモン書』の巻頭にある「『モルモン書』についての概説」を参照。

反キリスト 「悪魔」参照

人々事物を問わず真実の福音の救いの計画を装うもの、また公然か否かを問わざキリストに敵対するすべてのものを指す。黙示者ヨハネは反キリストを「惑わす者」と述べている（ヨハ2：18-22；4：3-6；2ヨハ1：7）。反キリストの最たる者はルシフェルであるが、彼には、靈の者と死すべき者の双方に数多くの助け手がいる。

滅びの子は、すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して立ち上がり、2テサ2：1-12。しるしで、地に住む人々を惑わす、黙示13：13-17。

シーレムはキリストを否定し、多くの人を欺いた、ヤコ7：1-23。ニーホルは偽りの教義を説き、教会を建て、偽善売教を始めた、アル1：2-16。コリホルは、キリストと贖罪と預言の靈をあざけった、アル30：6-60。

万軍の主 「イエス・キリスト」参照

イエス・キリストに対する呼び名の一つ。イエス・キリストは天と地の衆群を治め、悪に対抗して義人を導いてくださる（教義29：9；121：23）。

万軍の主、これこそ栄光の王である、詩篇24：10。

万軍の主であるイスラエルの神、1ニフ20：2。

わたしの御靈はいつでも人を励ますわけではないからである、と万軍の主は言う、教義1：33。

反対 「逆境」参照

ハンナ 「サムエル（旧約の預言者）」参照

旧約の預言者サムエルの母。主はハンナの祈りにこたえて、サムエルを与えら

火

れた（サ上1:11, 20-28）。ハンナはサムエルを主にささげた。ハンナの感謝の言葉は、イエスの母マリヤの言葉に対比できる（サ上2:1-10；ルカ1:46-55）。

火 「地獄」「聖霊」「地球（地）—地球の清め」「バプテスマ」参照

清め、純化、聖化の象徴。火は神の臨在の象徴としても用いられる。

あなたの神、主は焼きつくす火、**申命4:24**。主は火と炎をおのれのしもべとされる、**詩篇104:4**。万軍の主は焼きつくす火の炎をもって臨まれる、**イザ29:6**（2ニフ27:2）。主は火の中にあらわれて来られる、**イザ66:15**。彼は金をふきわける者の火のようであり、**マラ3:2**（3ニフ24:2；教義128:24）。

このかたは、聖霊と火とによっておまえたちにバプテスマをお授けになるであろう、**マタ3:11**（ルカ3:16）。

義人は火によって守られる、**1ニフ22:17**。悪人は火によって滅ぼされる、**2ニフ30:10**。ニーファイは火と聖霊によるバプテスマを受ける方法を説明した、**2ニフ31:13-14**（3ニフ9:20；12:1；19:13；エテ12:14；教義33:11）。

火すなわち聖霊による罪の赦しを告げなさい、**教義19:31**。大きな忌まわしい教会は、焼き尽くす火によって倒されるであろう、**教義29:21**。地球は火によるかのごとくに過ぎ去るであろう、**教義43:32**。主の臨在は物を溶かす燃える火のようであり、**教義133:41**。

アダムは火と聖霊によってバプテスマを受けた、**モセ6:66**。

光、キリストの光 「イエス・キリスト」「英知」「真理」「聖霊」「良心」参照

キリストを通して神から発せられ、万

物に命と光を与える神聖なエネルギーや力、影響力。天においても地上においても万物が治められる律法である（教義88:6-13）。またそれは、人々が福音の真理を理解し、救いに至る福音の道を歩めるように助けを与える（ヨハ3:19-21；12:46；アル26:15；32:35；教義93:28-29, 31-32, 40, 42）。

キリストの光を聖霊と混同してはならない。キリストの光は人格的な存在ではない。キリストの光は神から発する影響力であり、人に聖霊を受ける備えをさせるものである。また、人生においてすべての人を善に向かわせる力である（ヨハ1:9；教義84:46-47）。

キリストの光の一つの表れは、良心である。良心は善惡の選択ができるように人を助ける（モロ7:16）。福音について学べば学ぶほど、良心は鋭敏になる（モロ7:12-19）。キリストの光に聞き従う人々は、イエス・キリストの福音に導かれる（教義84:46-48）。

主はわたしの光、**詩篇27:1**。われわれは主の光に歩もう、**イザ2:5**（2ニフ12:5）。主はとこしえにあなたの光となり、**イザ60:19**。

すべての人を照すまことの光があつて、世にきた、**ヨハ1:4-9**（ヨハ3:19；教義6:21；34:1-3）。わたしは世の光である、**ヨハ8:12**（ヨハ9:5；教義11:28）。

光は何であろうと善である、**アル32:35**。キリストは世の命であり光である、**アル38:9**（3ニフ9:18；11:11；エテ4:12）。善惡をわきまえることができるよう、すべての人にキリストの御靈が与えられている、**モロ7:15-19**。

神から出ているものは光である。その光はますます輝きを増してついには真昼となる、**教義50:24**。御靈はすべての人に光を与え、**教義84:45-48**（教義93:1-2）。神の戒めを守る者は真理と

光を受け、**教義** 93: 27–28。光と真理はあの悪しき者を捨てる、**教義** 93: 37。

ビショップ 「アロン神權」参照

「見守る者」の意味を持つ言葉で、責任ある職または地位を指す。ビショップは聖任によって授けられるアロン神權の職の一つであり（**教義** 20: 67; 107: 87–88）、イスラエルの一般判士である（**教義** 107: 72, 74）。

聖靈は、あなたがたをその群れの監督者にお立てになったのである、**使徒** 20: 28。監督（ビショップ）の資格が述べられる、**1テモ** 3: 1–7（テト 1: 7）。

ビショップは聖任されなければならぬ、**教義** 20: 67。エドワード・パートリッジが教会のためにビショップとして召された、**教義** 41: 9。ビショップは靈的な賜物を見分ける、**教義** 46: 27, 29。大祭司はビショップの職務を行うことができる、**教義** 68: 14, 19（**教義** 107: 17）。ビショップは主から任命される、**教義** 72章。ビショップは貧しい人の世話をする、**教義** 84: 112。ビショップはすべて現世の事柄をつかさどる、**教義** 107: 68。ビショップはアロン神權の会長である、**教義** 107: 87–88。

ヒゼキヤ

『旧約聖書』の中の人物。ユダ王国を治めた義にかなった王。彼の治世は29年続き、その間イザヤがユダで預言者として働いた（列下 18–20章；歴下 29–32章；イザ 36–39章）。イザヤはヒゼキヤが教会と国家を改革するのを助けた。ヒゼキヤは偶像礼拝をやめさせ、神殿の祭儀を復活させた。ヒゼキヤは、祈りと信仰によって命を15年延ばされた（列下 20: 1–7）。彼の治世の初期は繁栄を享受したが、アッシリア（アッスリヤ）の王に背いた結果（列下 18: 7），2

度にわたってアッシリアの侵攻を受けた。最初の侵攻については、イザヤ 10: 24–32、2度目の侵攻については、列王下 18: 13–19: 7に記されている。2度目の侵攻のとき、エルサレムは主の天使によって救われた（列下 19: 35）。

羊飼い 「イエス・キリスト」「良い羊飼い」参照

主の子らを養う者を象徴的に表現した言葉。

主はわたしの牧者であって、**詩篇** 23: 1。牧者は群れを養うべき者ではないか、**エゼ** 34: 2–3。

人 「女」「神、神会」「神の息子、娘」「兄弟」「姉妹」「靈」「靈の創造」参照

男女の別なく全人類を指す言葉。男であれ女であれ、人は皆文字どおり天の御父の靈の子供である。この世に生まれるとき、人は死すべき肉の体を与えられる。この肉体は神の形に造られたものである（創世 1: 26–27）。忠実であって必要な儀式を受け、聖約を守り、神の戒めに従う人は、男女の別なく昇栄にあずかり、神のようになる。

神は自分のかたちに人を創造された、**創世** 1: 27（モサ 7: 27；**教義** 20: 17–18）。人は何者なので、これをみ心にとめられるのですか、**詩篇** 8: 4–5。人を頼みとし肉なる者を自分の腕としている人は、のろわれる、**エレ** 17: 5（2ニフ 4: 34；28: 26, 31）。

おとなとなった今は、幼な子らしいことを捨ててしまった、**1コリ** 13: 11。

人が存在するのは喜びを得るためにある、**2ニフ** 2: 25。生まれながらの人は神の敵であり、モサ 3: 19。あなたがたはどのような人物であるべきか、**3ニフ** 27: 27。

くじかれるのは神の業ではなく、人間

人（靈を持つ存在としての）

の業である、**教義 3：3**。あなたは人を神よりも恐れてはならなかった、**教義 3：7**（**教義 30：11；122：9**）。すべてのものは、人の益と利用のために造られている、**教義 59：18**。

わたしは、人は取るに足りないものであることが分かった、**モセ 1：10**。人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、**モセ 1：39**。

天の御父の靈の子供としての人間：神よ、すべての肉なる者の命の神よ、**民数 16：22**（**民数 27：16**）。あなたがたはあなたがたの神、主の子供である、**申命 14：1**。あなたがたは神だ、あなたがたは皆いと高き者の子だ、**詩篇 82：6**。あなたがたは生ける神の子である、**ホセ 1：10**。われわれの父は皆一つではないか。われわれを造った神は一つではないか、**マラ 2：10**。

われわれは神の子孫なのである、**使徒 17：29**。御靈みづから、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる、**ロマ 8：16**。たましいの父に服従し、**ヘブル 12：9**。

すべての人の靈は、彼らに命を与えられた神のみもとへ連れ戻される、**アル 40：11**。

世界に住む者は神のもとに生まれた息子や娘となる、**教義 76：24**。あなたがたも初めに神とともにおり、**教義 93：23，29**。

神は人を、地の面に自然に存在するに先立って靈的に創造された、**モセ 3：5-7**。わたしは神である。わたしは世界を造り、また人々を、彼らが肉体にある前に造つた、**モセ 6：51**。

天の御父のようになる可能性を持った人間：あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい、**マタ 5：48**（**3 ニフ 12：48**）。あなたがたの律法に、「あなたがたは神々

である」と書いてあるではないか、**ヨハ 10：34**（**教義 76：58**）。わたしたちは、神の相続人またキリストと共同の相続人なのである、**ロマ 8：17**。あなたがたは子である。また神による相続人である、**ガラ 4：7**。彼が現れる時、わたしたちは彼に似るものとなる、**1 ヨハ 3：2**。勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につかせよう、**黙示 3：21**。

わたしを受け入れた者に、わたしは神の子となることを許した、**3 ニフ 9：17**。

日の栄えの王国を受け継ぐ人々は、神々、すなわち神の子である、**教義 76：50，58**。それで、彼らは神々となる。彼らは一切の権威を持つからである、**教義 132：20**。

人（靈を持つ存在としての）「体」「靈」参照

聖典は靈を持つ存在としての人を次の3つに分類している。(1) 前世と来世における靈的存在（アル 40：11-14；アブ 3：23），(2) この世で一つに結合している靈と肉体（教義 88：15；アブ 5：7），(3) 復活して靈と肉体が分離しないように結合した不死不滅の人（2 ニフ 9：13；教義 88：15-16）。

それは人にとって最も喜ばしいものである、**1 ニフ 11：23**。悪魔は人々をだまし、**2 ニフ 28：21**。今の人々はキリストが来られる時代の人と同じように、神にとって貴い存在ではないだろうか、アル 39：17。聖餐のパンと水は、それを受ける人々のために聖められる、**モロ 4-5 章**（教義 20：77-79）。

人の価値は大いなるものである、**教義 18：10**。

あなたがたは水と血と、靈とによってこの世に生まれ、生けるものとなった、**モセ 6：59**。

人の価値：人は皆神の靈の子供である。

神は子供たち一人一人を心にかけ、各人を大切な存在と考えておられる。人は神の子であり、神のようになる可能性を持っている。したがって、人には大いなる価値がある。

罪人がひとりでも悔い改めるなら、よろこびが、天にあるであろう、ルカ15：10。神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった、ヨハ3：16。

彼らは、だれであろうと人が滅びるのに耐えられなかった、モサ28：3。今の人々はキリストが来られる時代の人と同じように、神にとって貴い存在ではないだろうか、アル39：17。

あなたにとって最も価値のあることは、人々をわたしのもとに導くことである、教義15：6。人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい、教義18：10-15。

人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である、モセ1：39。

一つ 「一致」「神、神会」参照

人の子 「イエス・キリスト」「神、神会」参照

イエス・キリストが御自身のことを語るときに用いられた呼び名（ルカ9：22；21：36）。聖なる人の子の意味。聖なる人とは、父なる神の名である。イエスは御自身を指して人の子と言い、御父との神聖な関係を公に宣言された。この呼び名は福音書の中に頻繁に出てくる。末日の啓示は、救い主のこの呼び名が特別な意味を持っており、神聖なものであることを確認している（教義45：39；49：6，22；58：65；モセ6：57）。

独り子 「イエス・キリスト」「生まれる、産む、もうける」参照

イエス・キリストの呼び名の一つ。イ

エス・キリストは御父の独り子である（ルカ1：26-35；ヨハ1：14；3：16；2ニフ11：18-20；2ニフ25：12；アル7：10；12：33；モセ7：62）。

日の老いたる者 「アダム」参照

日の榮え 「永遠の命」「榮光の階級」「昇榮」参照

人が死後に到達できる3つの段階の榮えの中で最高のもの。この榮えにおいて、義人は父なる神と御子イエス・キリストのもとで生活する。

天に属するものの榮光、1コリ15：40（教義76：96）。パウロは第三の天にまで引き上げられた、2コリ12：2。

日の榮えの榮光が示現で示された、教義76：50-70。日の榮えの世界の場所を望む聖徒は、備えなければならない、教義78：7。日の榮えの王国の律法に従えない者は、日の榮えの榮光に堪えられない、教義88：15-22。日の榮えの榮光には、3つの天、すなわち3つの階級がある。その最高の階級を得るための条件が示される、教義131：1-2。責任を負う年齢に達する前に死ぬ子供たちは皆、天の日の榮えの王国に救われる、教義137：10。

秘密結社 「カイン」「ガデアントンの強盗團」参照

邪悪な目的を果たすために誓いによって結束した人々の組織。

偽りの父は、人の子らをそそのかして人殺しをする秘密結社を作らせ、2ニフ9：9。隠れた闇の業を絶やさなければならない、2ニフ10：15。神の裁きが、秘密結社を作った者たちに下った、アル37：30。ニーファイ人国家の完全な滅亡は、ほとんどガデアントンにその原因があった、ヒラ2：4-13。サタンは人々

ヒムナイ

の心に秘密の誓いの言葉と誓約を思い起こさせた、 ヒラ 6:21-31。主は秘密結社によって事を行われることはなく、 エテ 8:19。秘密結社を支援する国民は滅ぼされる、 エテ 8:22-23。民は彼らの秘密結社のために、 預言者たちの言葉をことごとく拒んだ、 エテ 11:22。

カインの時代から秘密結社があり、 モセ 5:51。

ヒムナイ 「モーサヤ（ベニヤミンの息子）」「モーサヤの息子たち」参照

『モルモン書』の中の人物。モーサヤ王の息子。ヒムナイは兄弟たちとともにレーマン人のところへ行き、 教えを宣べ伝えた（モサ 27:8-11, 34-37; 28:1-9）。

百卒長

ローマ軍の階級の一つ。50人から100人までの兵士から成る隊を指揮した。このような隊が60集まってローマの一軍団が編成された（マタ 8:5；ルカ 23:47；使徒 10:1-8）。

病気

体に異常が起きること。聖典では、靈的健康を失った状態の象徴として病気を探り上げている箇所がある（イザ1:4-7; 33:24）。

わたしはあなたの祈りを聞き、あなたの涙を見た。見よ、わたしはあなたをいやす、列下 20:1-5（歴下 32:24；イザ38:1-5）。

イエスはあらゆる病気、あらゆるわざらいをおいやしになった、マタ 4:23-24（ニフ 11:31；モサ 3:5-6）。丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である、マタ 9:10-13（マコ 2:14-17；ルカ 5:27-32）。あなたがたの中に、病んでいる者があるか。その人は、教会

の長老たちを招き、新ヤコ 5:14-15。

神の御子は御自分の民の苦痛と病を身に受けられる、アル 7:10-12。イエスはニーファイ人の中の病気の者をすべて癒された、3ニフ 26:15。

優しさの限りを尽くし、薬草と柔らかい食物によって養われるよう、教義42:43（アル 46:40）。病気の者と苦しんでいる者を、すべてのことにおいて思い起こしなさい、教義 52:40。病人にあなたの手を置きなさい。そうすれば、快復するであろう、教義 66:9。

標準聖典 「正典」参照

病人への癒しの祝福 「油」「油注ぎ」「按手」「癒し」「神権」参照

メルキゼデク神権を持つ男性が、聖別された油を用いて病人に授ける祝福。

手をその上においてやって下さい、マタ 9:18。イエスは少数の病人に手をおいていやされた、マコ 6:5。キリストの使徒たちは、大勢の病人に油をぬって癒しを施した、マコ 6:13。長老たちは病人に油を注ぎ、癒しを施す、新ヤコ 5:14-15。

求められないかぎり、病人を癒してはならない、教義 24:13-14。長老たちは病人に按手をしなければならない、教義 42:44。病人にあなたの手を置きなさい。そうすれば、快復するであろう、教義 66:9。

ピラト、ポンテオ

紀元 26-36 年にユダヤを治めたローマ総督（ルカ 3:1）。ピラトはユダヤ人とその宗教を嫌い、何人かのガリラヤ人を殺した（ルカ 13:1）。イエスはピラトの前に訴えられ、十字架の刑の宣告を受けた（マタ 27:2, 11-26, 58-66；マコ 15 章；ルカ 23 章；ヨハ 18:28-19:38）。

ヒラマン（アルマの息子） 「アルマ（アルマの息子）」「アンタイ・ニーファイ・リーハイ人」「ヒラマンの息子たち」
参照

『モルモン書』の中の人物。父アルマの子であるアルマの長男（アル 31：7）。ヒラマンは預言者であるとともに軍隊の指導者でもあった。

アルマは息子ヒラマンに、自分の民の記録とヤレド人の記録を託した、アル 37：1-2, 21。アルマは民の歴史を書き続けるようヒラマンに命じた、アル 45-62章。ヒラマンは再び教会を設立した、アル 45：22-23。アンモン人の2千人の若い兵士たちはヒラマンが自分たちの指揮官になることを願った、アル 53：19, 22。ヒラマンと勇敢なアンモン人たちは、レーマン人と戦い、信仰によって守られた、アル 57：19-27。

ヒラマン（ヒラマンの息子）

『モルモン書』中の預言者、記録者。ニーファイの民を教えた。ヒラマンはアルマの息子アルマの孫であり、また自然界を治める権威を授けられたニーファイの父である。息子のニーファイとともに、ヒラマン書を記した。

ヒラマン書：第1-2章には、政治的に大きな混乱を来た様子が述べられている。第3-4章には、ヒラマンとニーファイ人の軍隊の司令官モロナイハの働きによって、しばらくの間平和な世になったことが示されている。しかし、これらの優れた人々の指導にもかかわらず、民は次第に邪悪になっていった。ヒラマン 5：1-6：14には、ニーファイがヒラマンの祖父アルマと同じように、人々を教えるために、さばきつかさの職を辞したことと記されている。民はしばらくの間は悔い改めた。しかし、ヒラマン 6：15-

12：26に述べられているように、ニーファイ人の国家は邪悪になっていった。最後の第13-16章には、レーマン人サムエルと呼ばれた預言者に関するすばらしい記録が載っている。サムエルは救い主の降誕と十字架の刑、また、それらの出来事に伴うしるしについて預言した。

ヒラマン（ベニヤミン王の息子）「ベニヤミン（モーサヤの父）」参照

『モルモン書』中の人物。ベニヤミン王の3人の息子の中の一人（モサ1：2-8）。

ヒラマンの息子たち「アンタイ・ニーファイ・リーハイ人」「ヒラマン（アルマの息子）」参照

『モルモン書』中の、アンモン人として知られる改宗したレーマン人の息子たち。ヒラマン指揮下の兵士となった（アル 53：16-22）。

ヒラマンは彼らを、自分の息子と呼ぶにふさわしいと考えた、アル 56：10。彼らの母親は、疑わなければ神が救ってくださると彼らに教えていた、アル 56：47。彼らはレーマン人を打ち破り、信仰によって守られ、だれ一人死ななかった、アル 56：52-54, 56：57：26。

ピリピ人への手紙「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』中の1書。パウロがローマで最初に投獄されていたときに、ピリピの聖徒たちに書き送った手紙。

第1章には、パウロのあいさつと、一致や謙遜さ、忍耐についての教えが書かれている。第2章では、すべての者がキリストの前にひざをかがめるようになること、また各人が自分の救いの達成に努めるべきことが強調されている。第3章には、パウロがキリストのためにすべて

ピリポ

を犠牲にしてきたことが述べられている。第4章には、ピリピの聖徒たちの助けに対するパウロの感謝の言葉が書かれている。

ピリポ

『新約聖書』の中の人物。救い主に召された十二使徒の一人で、ペツサイダの出身（マタ10：2-4；ヨハ1：43-45）。

十二使徒を補佐するために選ばれた7人の中に、ピリポという同名の人物がいた（使徒6：2-6）。彼はサマリア（サマリヤ）で宣べ伝え、エチオピア人（エチオピヤ人）の宦官を教えた（使徒8章）。

ピレモン 「パウロ」参照

『新約聖書』の中の人物。キリスト教徒。ピレモンにはオネシモという奴隸がいたが、彼は逃亡して、パウロのもとで教えを受け入れた。パウロは、オネシモを赦すようにとの手紙を添えて、彼をピレモンのもとに送り返した。

ピレモンへの手紙 「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の1書。パウロが書いた手紙。この手紙は、主人ピレモンのものを盗んでローマへ逃亡した奴隸オネシモについてのパウロの個人的な手紙である。パウロは、コロサイ人への手紙を託したテキコを同伴させて、オネシモをコロサイに住む主人のもとに送り返した。パウロは、オネシモを赦して同じキリスト教徒の仲間として再び受け入れてほしいとの願いを書いている。この手紙は、パウロがローマで最初に投獄されていたときに書いたものである。

フェイエット、ニューヨーク州（アメリカ合衆国）

ピーター・ホイットマー・シニア所有の農場があった場所。ジョセフ・スミ

スはここで数多くの啓示を受けた。1830年4月6日に、教会がこの地で組織された。また、この地で主の声が聞かれた（教義128：20）。

フェルプス、ウィリアム・W

1830年に回復された当教会の初期の会員で、指導者としての務めを果たした人物。主はウィリアム・W・フェルプスを教会のために印刷の仕事をするよう召された（教義57：11；58：40；70：1）。

フェローシップ 「愛」「一致」参照

末日聖徒にとってフェローシップとは、他の人々と親しく交わり、奉仕し、高め、強めることである。

あなた自身のようにあなたの隣人を愛さなければならない、レビ19：18（マタ19：19；教義59：6）。

あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい、ルカ22：32。互に愛し合うならば、あなたがたがわたしの弟子であることを、ヨハ13：35。わたしの羊を養いなさい、ヨハ21：15-17。彼らは聖徒たちへの奉仕に加わりたいと、熱心に願い出て、2コリ8：1-5。わたしたちの交わりとは、父ならびに御子イエス・キリストとの交わりのことである、1ヨハ1：3。

ニーファイ人とレーマン人は互いに親しく交わった、ヒラ6：3。

各人がそれぞれ自分の兄弟を自分自身のように尊び、教義38：24-25。もしもあなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない、教義38：27。あなたの友になり兄弟になるという、決意をもってあなたを仲間に迎え入れます、教義88：133。

深く考える 「祈り」「啓示」参照

聖句や神にかかる事柄について、し

ばしば瞑想し、十分に思い巡らすこと。これが祈りと結びついたときに、啓示が与えられたり、理解の目が開かれたりすることがある。

マリヤはこれらの事をことごとく心に留めて、思いめぐらしていた、ルカ2：19。

わたしは思いにふけりながら腰を下ろしていたとき、主の御靈に捕らえられて、**1ニフ 11：1**。聖文について心に深く考え、**2ニフ 4：15**。ニーファイも、主が自分に示してくださったいろいろなことを深く考えながら、家路に就いた、**ヒラ 10：2-3**。自分の家に帰り、わたしが述べたことを深く考えなさい、**3ニフ 17：3**。主が人の子らにどれほど憐れみをかけてこられたかを思い起こし、それを心の中で深く考えてほしい、モロ 10：3。

自分が受けた事柄について深く考え、**教義 30：3**。思いにふけていたときに、主はわたしたちの理解の目に御手を触れてくれたり、**教義 76：19**。わたしは自分の部屋にいて聖文に思いをはせ、**教義 138：1-11**。

わたしはこの言葉を再三再四思い巡らした、**ジー歴史 1：12**。

不義 「義」「汚れ」「邪惡」「罪」「不信心」参照

邪惡なこと。正しくないこと。神を愛さず、神にかかわることを大切にしないこと。また神の大義を行おうとしないこと。

正しくない者が神の国をつぐことはない、**1コリ 6：9-10**。真理を信じないで不義を喜んでいたすべての人を、さばく、**2テサ 2：12**。神はすべての不義からわたしたちをきよめて下さる、**1ヨハ 1：9**。

不義な王はあらゆる義の道を曲げる、**モサ 29：23**。法律家たちとさばきつかさたちの不義によって、滅亡の基が据え

られている、アル 10：27。

わたしは世の人々を不義な行いのゆえに責めるために、あなたがたを遣わす、**教義 84：87**。人はすべての不義から必ず聖められなければならない、**教義 88：17-18**。ほとんどすべての人は、不義な支配を始めようとする傾向がある、**教義 121：39**。

武具

武器による攻撃から身を守るためにまとうもの。この言葉は、誘惑や罪悪から人を守る靈的な特質を意味するものとしても用いられる。

神の武具を身につけなさい、エペ 6：10-18（教義 27：15-18）。

福音 あがな「贖いの計画」「キリストの教義」「神権時代」参照

イエス・キリストの贖罪しょくざいによって可能になった神の救いの計画。福音には、人が神のもとへ戻るのに必要な永遠の真理や律法、聖約、儀式が含まれる。神は預言者ジョセフ・スマスを通して、19世紀に、完全な福音を地上に回復された。

全世界に出て行って、福音を宣べ伝えよ、**マコ 16：15**。

小羊の福音の分かりやすくて大変貴い部分が差し止められた、**1ニフ 13：32**。福音とは、次のとおりである、**3ニフ 27：13-21**（教義 39：6）。

『モルモン書』には完全な福音が載っている、**教義 20：8-9**（教義 42：12）。福音はこれである、**教義 76：40-43**。メルキゼデク神権は福音をつかさどる、**教義 84：19**。すべての人が自分の言葉と自分の言語で完全な福音を聞くであろう、**教義 90：11**。御子は死者の靈に福音を宣べ伝えられた、**教義 138：18-21, 28-37**。

福音は最初から宣べ伝えられ、**モセ 5：**

58. 福音の第一の原則と儀式が述べられる、箇条1：4。

福音書 「マタイ」「マルコ」「ヨハネ（ゼベダイの子）」「ルカ」参照

『新約聖書』の最初の4書。イエスのこの世における生涯と、その務めにまつわる様々な出来事を記した4つの記録すなわち証。マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネによるこの4書は、キリストの生涯を記録した証である。『モルモン書』の第三ニーファイは、多くの点で『新約聖書』の4つの福音書と共通している。

『新約聖書』の各書はもともとはギリシャ語で書かれた。「福音」に当たるギリシャ語は「良い知らせ」の意味。良い知らせとは、イエス・キリストが全人類を死から贖い、各自の行いに応じて報いを与える贖罪の業を成し遂げられたということを知らせるものである（ヨハ3：16；ロマ5：10-11；2ニフ9：26；アル34：9；教義76：69）。

付録の「福音書対観表」も参照。

福音の回復 「神権時代」「スマス、ジョセフ、ジュニア」「背教、背信」「福音」参照

神がこの世の人々の間に福音の真理と儀式を再び確立されること。イエス・キリストの福音は、キリストの使徒たちが地上での働きを終えた後に起きた背教により、地上から失われた。この背教があつたために、福音の回復が必要となった。地上の人々に与えられた示現や天使の働き、啓示を通して、神は福音を回復された。この回復は預言者ジョセフ・スマスに始まり（ジー歴史1章；教義128：20-21）、主の生ける預言者たちの働きによって今まで続いている。

主の家の山は、もろもろの山のかしらとして堅く立つ、イザ2：2（ミカ4：2；

2ニフ12：2）。神は不思議な驚くべき業を行われる、イザ29：14（2ニフ25：17-18；教義4：1）。天の神は一つの国を立てられます。これはいつまでも滅びることがない、ダニ2：44。

エリヤがきて、万事を元どおりに改めるであろう、マタ17：11（マコ9：12；教義77：14）。万物更新の時が来る、使徒3：21（教義27：6）。時の満ちる神権時代に、神はすべてのものを一つに帰せしめようとされた、エペ1：10。ヨハネは永遠の福音を携えたもう一人の御使を見た、黙示14：6。

完全な福音が異邦人に与えられる、1ニフ15：13-18。ユダヤ人がまことの教会に回復される、2ニフ9：2。末日には真理が明らかにされる、3ニフ16：7。

わたしはアロンの神権を授ける、教義13章（ジー歴史1：69）。終わりの時代のために、王国の鍵をわたしがゆだねた、教義27：6、13-14（教義128：19-21）。イスラエルの部族を集め、万事を元どおりにする、教義77：9。この神権時代の鍵がゆだねられる、教義110：16（教義65：2）。この神権が時満ちる神権時代に与えられている、教義112：30。

わたしは二人の御方を見た、ジー歴史1：17。わたしは預言者エリヤの手によつてあなたがたに神権を現そう、ジー歴史1：38（マラ4：5-6）。

福音の第一の原則 「悔い改め」「信仰」「聖霊」「バプテスマ」参照

福祉 「ささげ物」「断食」「奉仕」「施し」「貧しい」参照

靈的また物質的な助けが必要な人に手を差し伸べること、またその手段。

あなたはあなたの兄弟の乏しい者と、貧しい者とに、手を開かなければならぬ、申命15：11。貧しい者に施す者は

物に不足しない、箴言 28:27。わたしが選ぶところの断食は、飢えた者に、あなたのパンを分け与え、貧しい者を、あなたの家に入れるなどの事ではないか、イザ 58:6-7。

あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、旅人であったときに宿を貸し、マタ 25:35-40。

乏しい人に自分の持ち物を与える、モサ 4:16-26。彼らは、各々の必要と入り用に応じて物質的にも靈的にも互いに助け合い、モサ 18:29。神の子たちは、神を知らない者たちの幸いのためにともに断食し、祈るように命じられた、アル 6:6。あなたがたの幸いと、あなたがたの周りの人々の幸いを気遣う気持ちを心に満たし、アル 34:27-28。彼らは、すべてのものを共有した、4ニフ 1:3。

貧しい者を思い起こし、教義 42:30-31。貧しい者と乏しい者を訪れ、教義 44:6。貧しい者と乏しい者を、すべてのことにおいて思い起こしなさい、教義 52:40。あなたがた、金持ちで自分の持ち物を貧しい者に与えようとしない者は、災いである、教義 56:16-17。

彼らの中に貧しい者はいなかった、モセ 7:18。

福千年 「イエス・キリストの再臨」

「地獄」参照

キリストが戻って来て自ら地上を統治されるときに始まる平和な千年間（箇条 1:10）。

つるぎをあげず、彼らはもはや戦いのことを学ばない、イザ 2:4（ミカ 4:3；2ニフ 12:4）。この荒れた地は、エデンの園のようになった、エゼ 36:35。

彼らは生きかえって、キリストと共に千年の間、支配した、黙示 20:4。

民の義のために、サタンはまったく力を持たず、1ニフ 22:26。

わたしは千年の間地上で義のうちに住む、教義 29:11。千年が終わるとき、わたしはしばしの間だけ地をそのままにしておこう、教義 29:22。大いなる福音千年が来る、教義 43:30。義人の子孫は罪のないまま成長する、教義 45:58。子供たちは高齢になるまで成長し、人々は一瞬のうちに変えられる、教義 63:51。第7の千年の初めに主なる神は地球を聖なるものとし、教義 77:12。千年が終わるまで再び、彼らは生きることはない、教義 88:101。サタンは縛られ、千年の間解放されない、教義 88:110。福音について述べられる、教義 101:23-34。

千年の間、地は安息を得る、モセ 7:64。

不敬 「冒瀆、汚す罪」参照

神聖なものを尊ばないこと、あるいは軽視すること。特に、神の名を敬わないこと。

あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない、出工 20:7（2ニフ 26:32；モサ 13:15；教義 136:21）。なにゆえ、われわれは先祖たちの契約を破って、マラ 2:10。

悪い者であるのに、どうして良いことを語ることができようか、マタ 12:34-37。同じ口から、さんびとのろいとが出て来る。このような事は、あるべきでない、新ヤコ 3:10。

わたしたちの言葉はわたしたちを罪に定める、アル 12:14（モサ 4:30）。

すべての人は、わたしの名をどのように口にするか気をつけなさい、教義 63:61-62。

負債 「ゆるし」参照

聖典にあるように、人から借りた金銭や財産は、借りた人をある種の束縛状態

ふさわしさ

に置く。イエスはそれとは別に、わたしたちが天の御父に負債を赦してくださるよう求めなければならぬこと、すなわち、自分に罪を犯した人を赦した後、イエス・キリストの贖罪しゃくざいを通して、罪の代価の支払いから解放してくださるよう求めなければならないことを教えられた（マタ 6：12；3ニフ 13：11）。

悪しき者は物を借りて返すことをしない、詩篇 37：21。借りる者は貸す人の奴隸となる、箴言 22：7。

あの負債を全部ゆるしてやったのだ……あわれんでやるべきではなかつたか、マタ 18：23-35。^{たかい}互に愛し合うことの外は、何人にも借りがあつてはない、ロマ 13：8。

あなたがたは、とこしえに神に恩を受けている、モサ 2：21-24、34。隣人から物を借りたなら、その物を返すようしなければならない、モサ 4：28。

負債を支払いなさい。束縛から自らを解放しなさい、教義 19：35。あなたがたの敵に対して負債を抱えることは、禁じられている、教義 64：27。すべての負債を返済することである、教義 104：78。主の家を建てるに当たってこれ以上負債を抱えさせないようにしなさい、教義 115：13。

ふさわしさ 「義」参照

個人として義にかなつた状態。また神と神に任じられた指導者の目から見て正しいと認められる状態。

また自分の十字架をとつてわたしに従つてこない者はわたしにふさわしくない、マタ 10：38。働き人がその報いを得るのは当然である、ルカ 10：7（教義 31：5）。

ふさわしい状態ですべてのことを行ひ、モル 9：29。ふさわしい実を結ばなければ、バブテスマを施されなかつた

モロ 6：1。

怠惰な者は、その職にいるにふさわしい者と見なされない、教義 107：100。懲らしめに耐えない者は、わたしの王国にふさわしくない、教義 136：31。すべてのふさわしい男性会員は、神権を受けることができる、公式 2。

不死不滅 「イエス・キリスト」「死すべき状態」「贖罪しゃくざい」「救い」「復活」参照

復活して、肉体の死に服することなく、永久に生きる状態。

イエスはよみがえつて、マコ 16：6。キリストにあってすべての人が生かされるのである、1コリ 15：22。この死ぬものが死なないものを着るとき、死は勝利にのまれてしまう、1コリ 15：53-54。キリストは死を滅ぼし、不死を明らかに示された、2テモ 1：10。

靈と体は再び本来のものに回復され、すべての人は不朽となり、不死となる、2ニフ 9：13。靈は体と結合して、不死不滅のものとなり、アル 11：45。

忠実であれば、不死不滅と、永遠の命を冠として与えられるであろう、教義 75：5。地球は聖められ、不滅の状態となる、教義 77：1（教義 130：9）。

人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である、モセ 1：39。

不信仰 「信じる」参照

神とその福音に対する信仰がないこと。

彼らの不信仰のゆえに、そこでは力あるわざを、あまりなさらなかつた、マタ 13：58。弟子たちは信仰が足りなかつたために、悪霊を追い出すことができなかつた、マタ 17：14-21。不信仰なわたしを、お助けください、マコ 9：23-24。イエスは彼らの不信仰と、心のかた

くななことをお責めになった、マコ 16：14。彼らのうちに不真実の者があったとしたら、その不真実によって、神の真実は無になるであろうか、ロマ 3：3。

一人の人が滅びるのは、一つの国民が不信仰に陥って滅びてしまうよりはよい、1ニフ 4：13。不信仰に陥る時が来ると、散らされ、打たれる、2ニフ 1：10-11（教義 3：18）。彼らは自分の不信仰のために、神の言葉を理解できなかつた、モサ 26：1-5。彼らの不信仰のゆえに、このように大きな奇跡を彼らに現すことができなかつた、3ニフ 19：35。

不信仰のために、あなたがたの思いは過去に暗くなることがあつた、教義 84：54-58。

不信心 「汚れ」「邪惡」「罪」「不義」
参照

神の御心や戒めに添わないこと。邪惡で汚れたこと。

悪しき者の道は滅びる、詩篇 1：6。

また義人でさえ、かろうじて救われるのだとすれば、不信なる者は、どうなるであろうか、1ペテ 4：18。

神の御心に添わないものをすべて拒みなさい、モロ 10：32。

報復は神を敬わない者のうえに速やかに及ぶ、教義 97：22。神を敬わない者の中では、御子の声は発せられず、教義 138：20。

再び生まれる 「生まれながらの人」「生まれる、産む、もうける」「改宗」「神の息子、娘」「キリストの子」「バプテスマ」参照

主の御靈によって心の中に大きな変化が起り、二度と悪を行おうとは思わず、それよりも神にかかる事柄を求めたいと望むようになること。

彼らのうちに新しい靈を授け、エゼ

11：19（エゼ 18：31；36：26）。

キリストの名を信じた人々は、血すじによらず、神によって生れた、ヨハ 1：12-13。だれでも、水と靈とから生れなければ、神の国にはいることはできない、ヨハ 3：3-7。わたしたちは神の言葉によって再び生まれる、1ペテ 1：3-23。すべて神から生まれた者は、罪にとどまることはない、JS1 ヨハ 3：9。すべて神から生まれた者は、世に勝つからである、1ヨハ 5：4。

キリストから生まれる人は、神と聖約する、モサ 3：19；5：2-7。全人類は再び生まれなければならない。人は神から生まれなければならない、モサ 27：25-26（アル 5：49）。あなたがたは靈的に神から生まれているか、アル 5：12-19。再び生まれなければならない天の王国を受け継ぐことができない、アル 7：14。

だれでもわたしの言葉を信じる者は、水と御靈によって生まれるであろう、教義 5：16。

あなたがたは再び天の王国に生まれなければならない、モセ 6：59。

復活 「イエス・キリスト」「体」「死（肉体の）」「贖罪」「不死不滅」「靈」参照

死後、靈体と骨肉の体が再び結合すること。復活後は、靈と肉体は決して再び分離することなく、人は不死不滅となる。イエス・キリストが死に打ち勝たれたため、地上に生を受けた人はすべて復活する（1コリ 15：20-22）。

イエス・キリストはこの地上で復活した最初の御方である（使徒 26：23；コロ 1：18；黙示 1：5）。『新約聖書』には、イエスの墓が空になっていたこと、またイエスが魚と蜜を食べられたこと（KJ ルカ 24：42）、人々がイエスの体に触れたこと、天使が主の復活を証したことなど、イエスが肉体をもってよみがえられたことを示す証拠が数多く記されている（マ

コ 16：1-6；ルカ 24：1-12, 36-43；ヨハ 20：1-18)。末日の啓示もキリストと万人の復活が確かなことを確認している(アル 11：40-45；40章；3ニフ 11：1-17；教義 76章；モセ 7：62)。

すべての人が同じ栄光の状態に復活するわけではない(1コリ 15：39-42；教義 76：89-98)。またすべての人が同じ時に復活するのでもない(1コリ 15：22-23；アル 40：8；教義 76：64-65, 85；88：96-102)。キリストの復活後、多くの聖徒が復活した(マタ 27：52)。義人は悪人よりも先に復活し、第一の復活の時に出て来る(1テサ 4：16)。罪を悔い改めない者は最後の復活の時に出てくる(黙示 20：5-13；教義 76：85)。

たとえこの体が滅ぼされようとも、肉にあって、わたしは神を見るであろう、KJ ヨブ 19：26 (モセ 5：10)。わたしはあなたがたの墓を開き、あなたがたを墓からとりあげ、エゼ 37：12。

墓が開け、眠っている多くの死体が生き返った、マタ 27：52-53 (3ニフ 23：9)。主はよみがえられた、ルカ 24：34。霊には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ、ルカ 24：39。わたしはよみがえりであり、命である、ヨハ 11：25。十二使徒はイエスがよみがえられたことを教えた、使徒 1：21-22 (使徒 2：32；3：15；4：33)。キリストにあってすべての人が生かされる、1コリ 15：1-22。キリストにあって死んだ人々が、まず最初によみがえる、1テサ 4：16。この第一の復活にあずかる者は、さいわいな者であり、また聖なる者である、黙示 20：6。

聖なるメシヤは、御自分の命を一度捨て、そして、死者の復活をもたらすために御靈の力によって再びそれを得られた、2ニフ 2：8 (モサ 13：35；15：20；アル 33：22；40：3；ヒラ 14：15)。復活がなければ、わたしたちはサタンに従

うようになる、2ニフ 9：6-9。復活はすべての人に及ぶ、2ニフ 9：22。アビナダイは第一の復活について教えた、モサ 15：21-26。悪人はあたかも贖いがなかったかのような有様であり、ただ死の縛目からの解放だけがある、アル 11：41-45。アルマは死ぬ時と復活の時の間の人の状態について説明した、アル 40：6, 11-24。

主の来臨の時に、キリストにあって死んだ者が出て来る、教義 29：13 (教義 45：45-46；88：97-98；133：56)。特に、栄光ある復活の望みがない者のために涙を流す、教義 42：45。律法を知らなかつた者は第一の復活にあずかる、教義 45：54。彼らは死者の中からよみがえり、その後死ぬことはなく、教義 63：49。死者の中からの復活は、人の贖いである、教義 88：14-16。分離しないように結合した霊と元素は、満ちみちる喜びを受ける、教義 93：33。天使とは、骨肉の体を持つ復活した人々である、教義 129：1。わたしたちがこの世において得る英知の一切は、復活の時にわたしたちとともによみがえる、教義 130：18-19。

復活祭 「イエス・キリスト」「復活」
参照

物欲 「金銭」「高慢」「富」「むなしさ」
参照

靈的な事柄をおおざりにして、金品に対する欲を持つこと。

たとい人が全世界をもうけても、自分の命を損したら、なんの得になろうか、マタ 16：26。

人々は俗世のむなしいものに執着するようになり、アル 4：8 (アル 31：27)。

あなたはこの世のものを捨てて、教義 25：10。彼らがあまりにもこの世のものに執着し、教義 121：35。

不貞 「姦淫」「純潔」「肉欲」参照

婚姻関係にない男女が行う不法な性の交わり。聖典では、背教を象徴する言葉としても時々用いられる。

不品行を避け、使徒 15：20。からだは不品行のためではなく、主のためであり、1コリ 6：13-18。不品行に陥ることのないために、男子はそれぞれ自分の妻を持つがよい、1コリ 7：2-3。神のみこころは、あなたがたが不品行を慎み、
1テサ 4：3。

ヤコブはニーファイの民に、不貞について警告した、ヤコ 3：12。あなたがたは、殺人と不貞と悪事のために滅びの機を熟させつつある、ヒラ 8：26。

不貞を働いた者が教会に入るには悔い改めなければならない、教義 42：74-78。

ぶどう園(果樹園)(主の) 「イスラエル」「畑」参照

靈的な働きをする場の象徴。聖典の中では、この言葉は普通、イスラエルの家あるいは地上の神の王国を指すものとして用いられる。世の人々全体を指すこともある。

万軍の主のぶどう畠はイスラエルの家であり、イザ 5：7 (2ニフ 15：7)。

イエスはぶどう園の労働者のたとえを話された、マタ 20：1-16。

わたしはあなたを、人が自分の果樹園に植えて養いを与えた、1本の栽培されたオリーブの木にたとえよう、ヤコ 5章。主の僕たちが主の果樹園に養いを与え、刈り込みを行なうために主の力をもって出て行く、ヤコ 6章。

わたしのぶどう園で働くすべての人を祝福しよう、教義 21：9 (アル 28：14)。あなたがたはわたしのぶどう園で最後の働きをしなさい、教義 43：28。

不道德 「邪惡」「純潔」「性的不道德」「肉欲」参照

プラット、オーソン

近代の教会の回復後に召された最初の十二使徒の一人（教義 124：128-129）。教員になってわずか6週間で、ジョセフ・スミスを通して主から啓示を受けた（教義 34 章）。教会の宣教師として働き（教義 52：26；75：14），また数年間教会歴史記録者としても務めを果たした。

プラット、パーリー・パーカー

オーソン・プラットの兄。近代の教会の回復後に召された最初の十二使徒の一人（教義 124：128-129）。何度か宣教師として働いたが、最初の伝道は、1830年10月にジョセフ・スミスを通して主から授けられた啓示によるものであった（教義 32 章；50：37）。

平安, 平和 「安息」「福千年」「平和をつくり出す人」参照

聖典では、神が忠実な聖徒に授けられる、御靈がもたらす内面的な安らぎや慰め（平安），また争いや混乱から解き放された状態（平和）を意味する言葉として用いられている。

争いや混乱から解き放された状態：主は戦いをやめさせ、詩篇 46：9。彼らはもはや戦いのことを学ばない、イザ 2：4。

あなたがたは、できる限りすべての人と平和に過ごしなさい。自分で復讐をしないで、ロマ 12：18-21。

地は依然として引き続き平和であつた、4ニフ 1：4，15-20。

戦争を放棄して、平和を宣言しなさい、教義 98：16。平和の旗を掲げなさい、教義 105：39。

従順な者に神から与えられる状態：救い

平和をつくり出す人

主は平和の君と呼ばれる、イザ 9：6。

悪い者には平安がない、イザ 48：22。

地の上では、平和があるように、ルカ 2：13-14。わたしは平安をあなたがたに残して行く、ヨハ 14：27。人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安、ピリ 4：7。

ベニヤミン王の民は良心の安らぎを得た、モサ 4：3。平和を告げて広める者たちの足は、山の上にあって何と麗しいことであろう、モサ 15：14-18（イザ 52：7）。アルマは主に呼び求め、安息を得た、アル 38：8。義人の靈は平安な状態に迎え入れられ、アル 40：12。

わたしはこの件についてあなたの思いに平安を告げなかつたであろうか、教義 6：23。わたしの御靈の柔軟な道を歩みなさい。そうすれば、あなたはわたしによって平安を得るであろう、教義 19：23。この世において平和を、また来るべき世において永遠の命を受ける、教義 59：23。完全と平和のきずなである慈愛のきずなを、外套のように身にまといなさい、教義 88：125。息子よ、あなたの心に平安があるように、教義 121：7。

わたしのためにさらに大いなる幸福と平安と安息があるのを知り、わたしは先祖の祝福を得ようと努めた、アブ 1：2。

平和をつくり出す人 「平安、平和」

参照

平和をもたらす人、または広めようとする人（マタ 5：9；3 ニフ 12：9）。福音を宣言する人も平和をつくり出す人であるといえる（モサ 15：11-18）。

ベタニヤ

イエス・キリストがこの世の生涯の最後の週に滞在した村（マタ 21：17；マコ 11：11）。オリブ山の南東斜面に位置し、ラザロ、マリヤ、マルタの家がここにあつた（ヨハ 11：1-46；12：1）。

ベツレヘム

エルサレムの南約 8km にある小さな町。ヘブライ語で「パンの家」の意味。「実り豊かな」の意のエフラタとも呼ばれる。イエス・キリストはこのベツレヘムでお生まれになった（ミカ 5：2；マタ 2：1-8）。ラケルの埋葬地でもある（創世 35：19；48：7）。

ルツとボアズはここに住んだ、ルツ 1：22。サムエルはここでダビデに油を注いだ、サ上 16：1-13；17：12，15；20：6，28。

ヘロデがここで子供たちを殺した、マタ 2：16。

ペテル

ヘブライ語で「神の家」を意味する。イスラエルで最も神聖な場所の一つ。エルサレムの北約 16km に位置する。アブラハムはカナンの地に最初に着いたとき、ここに祭壇を築いた（創世 12：8；13：3）。この地でヤコブは、天に達するはしごを示現のうちに見た（創世 28：10-19）。ペテルはサムエルの時代にも神聖な場所とされていた（サ上 7：16；10：3）。

ペテロ

『新約聖書』の中の人物。ペテロは、シメオンあるいはシモンとして知られていた（2ペテ 1：1）。ベツサイダの漁師で、妻とカペナウムで暮らしていた。イエスはペテロの妻の母の病を癒された（マコ 1：29-31）。ペテロは兄弟のアンデレとともに、イエス・キリストの弟子として召された（マタ 4：18-22；マコ 1：16-18；ルカ 5：1-11）。「聖見者」あるいは「岩」を意味するアラム語名「ケバ」は、主御自身から与えられたものである（ヨハ 1：40-42；JS ヨハ 1：42〔付録〕）。『新約聖書』にはペテロの肉体的な弱さ

が幾つか述べられているが、それと同時に、ペテロが肉体的な弱さを克服し、イエス・キリストを信じる信仰によって強くされたことも描かれている。

ペテロは、イエスがキリストであり、神の御子であることを告白した（ヨハ6：68-69）。そして主はペテロを選び、地上における王国の鍵を持つ者とされた（マタ16:13-19）。ペテロは変貌の山で、変貌された救い主、ならびにモーセとエリヤを目にした（マタ17:1-9）。

ペテロは当時の使徒の頭であった。救い主の死と復活と昇天の後、ペテロは教員会を集め、イスカリオテのユダに代わる使徒を召す指示を与えた（使徒1：15-26）。ペテロとヨハネは生まれながら足の不自由な人を癒した（使徒3：1-16）。また二人は、奇跡的な方法で獄から解放された（使徒5：11-29；12：1-19）。福音が初めて異邦人に伝えられるようになったのは、ペテロの働きによる（使徒10-11章）。ペテロは末日にヤコブやヨハネとともに天から降って来て、ジョセフ・スマスとオリバー・カウドリにメルキゼデク神権とその鍵を授けた（教義27：12-13；128：20）。

ペテロの第一の手紙：この手紙は、ネロがキリスト教徒への迫害を始めた直後に、「バビロン」（恐らくローマ）から、現在小アジアと呼ばれている地域の聖徒たちに書き送られたものである。

第1章には、キリストが予任されていた贖い主としての務めのことが書かれている。第2-3章には、キリストが教会の隅のかしら石であること、また聖徒が王国の神権を受けられた者であること（KJ1ペテ2：9）、キリストが獄にいる靈たちに宣べ伝えられたことが述べられている。第4-5章には、福音が死者に宣べ伝えられた理由、また長老たちが羊の群れを牧するように求められている理由が説明されている。

蛇（青銅の）

ペテロの第二の手紙：第1章には、召しと選びとを確かなものにするようにとの、聖徒たちへの勧めの言葉が記されている。第2章には、偽教師に対する警告が述べられている。第3章には、末日とキリストの再臨のことが書かれている。

ベニヤミン（モーサヤの父）「モーサヤ（ベニヤミンの息子）」参照

『モルモン書』の中の預言者、王（モサ1-6章）。

平和を確立するために数々の重要な問題を処理した、オム1：23-25（モ言1：12-18）。息子たちを教えた、モサ1：1-8。王位を息子モーサヤに譲った、モサ1：9-18。民は彼の最後の言葉を聞くために集まった、モサ2：1-8。民に語った、モサ2：9-4：30。彼の民は主と聖約を交わした、モサ5-6章。

ベニヤミン（ヤコブの息子）「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとラケルの2番目の息子（創世35：16-20）。

ベニヤミンの部族：ヤコブはベニヤミンに祝福を授けた（創世49：27）。ベニヤミンの子孫は好戦的であった。ベニヤミンの部族から出た二人の重要な人物としては、イスラエル王国初代の王サウル（サ上9：1-2）と『新約聖書』の使徒パウロ（ロマ11：1）がいる。

蛇（青銅の）「イエス・キリスト」「モーセ」参照

荒れ野で火の蛇（毒蛇）にかまれたイスラエル人を癒すために、神の命令によってモーセが造った青銅の蛇（民数21：8-9）。この青銅の蛇はさおにかけられ、「それを仰ぎ見ようとした者はだ

ヘブライ語

れでも、生き延びられるようにされた」(アル 33:19-22)。主は御自身が十字架につけられることの象徴として、荒れ野でこの蛇が掲げられたことを述べておられる(ヨハ 3:14-15)。末日の啓示は、火の蛇と人々の癒しについての話が実際のものであったことを確認している(1ニフ 17:41; 2ニフ 25:20; ヒラ 8:14-15)。

ヘブライ語 「イスラエル」参照

イスラエルの民が話したセム系言語の一つ。

ヘブライ語は、イスラエルの民がバビロニア捕囚から帰還するまで使っていた言葉である。帰還後は、アラム語が日常語として用いられるようになった。イエスの時代、ヘブライ語は学者の言葉であり、律法や宗教書を著すために用いられた言語であった。

ヘブル人への手紙 「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の1書。パウロは、モーセの律法の重要な部分がキリストにあって成就し、さらに高度なキリストの福音の律法がそれに取って代わったことを説き教えるために、この手紙をユダヤ人の教会員に書き送った。パウロは3度目の伝道を終えてエルサレムに戻ったとき(紀元60年ごろ)、多くのユダヤ人教会員がまだモーセの律法に固執しているのを見た(使徒21:20)。これは、エルサレムにおける教会の大会で、モーセの律法の幾つかの儀式は異邦人のクリスチャントの救いに不必要であるとの決議がされてから少なくとも10年後のことであった。パウロはそれから間もなく、ヘブライ人(ヘブル人)にあてて手紙を書き、彼らの聖書と確かな根拠に基づいて、もはやモーセの律法に従う必要がない理由を明らかにした。

第1-2章には、イエスが天使よりも偉大な御方であることが説かれている。第3-7章は、イエスをモーセならびにモーセの律法と比較し、イエスがそのいずれよりも偉大であることを証している。また、メルキゼデク神権がアロン神権よりも偉大であることを教えている。第8-9章は、モーセの律法の下で定められていた事柄が民をキリストの御業に備えさせたこと、またキリストが新しい聖約の仲保者であることを説いている(アル 37:38-45; 教義84:21-24)。第10章は、熱心な働きと信仰の奨励である。第11章には、勧告とあいさつの言葉が記されている。第13章には、結婚が尊ばれるべきものであること、また従順の大切さが記されている。

ヘブロン

エルサレムの南約30kmの所にあったユダヤの昔の町。アブラハムとその家族が葬られた地でもある(創世49:29-32)。ダビデ治世初期の都(サ下5:3-5)。

ペリシテ人

『旧約聖書』の中の民族。カフトルから来た民族(アモ9:7)で、アブラハムの時代以前に、ヨッパからエジプトの砂漠に至る地中海沿岸の肥沃な平地を領有していた(創世21:32)。ペリシテ人とイスラエル人の間には、長い年月にわたって軍事的な対立があった。後に、ペリシテ人の領地を表す「パレスチナ」という言葉が、聖地全土を指すものとして親しまれるようになった。

イスラエルは40年の間ペリシテ人の手に渡された、士師13:1。サムソンはペリシテ人と戦った、士師13-16章。ゴリアテはガテのペリシテ人であった、サ上17章。ダビデはペリシテ人を打ち破った、サ上19:8。

ペルシャザル 「バビロン、バベル」
参照

『旧約聖書』の中の人物。バビロニアの最後の王。クロスに征服される前に統治していた。ネブカデネザルの息子で、父の後を継いで王となった（ダニ5:1-2）。

ペレグ

『旧約聖書』の中の人物。エベルの息子。セムの孫の孫。ペレグの時代に地が分かれた（KJ創世10:22-25）。

ヘロデ家

イエス・キリストの時代の前後にユダヤを統治した家系。『新約聖書』に記された多くの出来事に深くかかわっている。この家系の最初の統治者はヘロデ大王であり、彼は救い主の誕生を恐れ（マタ2:3）、ベツレヘム地方に住む幼子を虐殺する命令を出した。彼の息子として、アリストプロスやヘロデ・ピリポ（マタ14:3;マコ6:17）、領主ヘロデ・アンティパス（マタ14:1;ルカ9:7）。ヘロデ王としても知られる〔マコ6:14〕）、アケラオ（マタ2:22）、イツリヤの領主ピリポ（ルカ3:1）がいる。ヘロデ・アグリッパ1世（使徒12:1-23）とその姉妹ヘロデヤ（マタ14:3;マコ6:17）は、アリストプロスの子供である。ヘロデ・アグリッパ1世には数人の子供があり、ヘロデ・アグリッパ2世（使徒25:13）やペルニケ（使徒25:13）、ペルクスの妻ドルシラ（使徒24:24）は、『新約聖書』に名前が登場するヘロデ・アグリッパ1世の子供である。

ヘロデヤ

『新約聖書』の中の人物。ヘロデ・アグリッパの姉妹。叔父ヘロデ・ピリポの妻となり、娘サロメをもうける。ヘロデ

ヤはサロメとともに、バブテスマのヨハネの斬首を画策した（マタ14:3-11）。

弁護者 「イエス・キリスト」 参照

イエス・キリストは御父に対するわたしたちの弁護者であり（モロ7:28）、わたしたちのために御父に対して弁護をしてくださる。

イエス・キリストは御父に対するわたしたちの弁護者である、1ヨハ2:1（教義110:4）。

メシヤはすべての人の子らのために執り成しをしてくださる、2ニフ2:9（ヘブ7:25）。イエスは死に対して勝利を得、人の子らのために執り成しをする力を授けられる、モサ15:8。

わたしは父に対するあなたがたの弁護者だからである、教義29:5。イエス・キリストはあなたがたのために弁じる、教義45:3-5。

遍在 「神、神会」 参照

みたま
御靈によってどこにでも存在し得る神の能力（詩篇139:7-12；教義88:7-13, 41）。

変貌 「イエス・キリスト」「神権の鍵」
参照

天におられる御方の臨在や栄光に堪えられるように外見や肉体の性質が一時的に変えられた人の状態。つまり、靈的に高い水準に変えられた状態。

キリストの変貌：ペテロとヤコブとヨハネは、主が栄光を受けて身を変えられた様子を目撃した。救い主はそれ以前に、天の王国の鍵を授けるとペテロに約束しておられた（マタ16:13-19;17:1-9;マコ9:2-10;ルカ9:28-36;2ペテ1:16-18）。この重大な出来事があったときに、救い主とモーセとエリヤがその

約束の神権の鍵をペテロとヤコブとヨハネに授けた。これらの神権の鍵によって、使徒たちは、イエスが昇天された後も王国の業を続ける力を得たのである。

ジョセフ・スミスは、変貌の山でペテロとヤコブとヨハネも身を変えられたと教えている。3人は、将来地球が栄光を受ける様子を示現で見た（教義63：20-21）。そしてモーセとエリヤという身を変えられた二人の人物を目にして、御父の声を聞いた。御父は次のように言われた。「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。これに聞け。」（マタ17：5）

変貌した人：彼らはイスラエルの神を見た、出エ24:9-11。主と語ったゆえに、顔の皮は光を放っている、出エ34:29（マコ9：2-3）。

イエスの姿が変り、その顔は日のように輝き、マタ17：2（マコ9：2-3）。イスラエルの子らは、モーセの顔の消え去るべき栄光のゆえに、その顔を見つめることができなかった、2コリ3：7。

彼の顔は非常な輝きを放っていた、モサ13：5-9。二人は火の中に立っているようであり、ヒラ5：23, 36, 43-45（3ニフ17：24；19：14）。彼らも、イエスの顔のように白くなった、3ニフ19：25。彼らには変貌したように思われた、3ニフ28：15。

神の御靈によって変えられないかぎり、いまだかつて肉体において神を見た者はいない、教義67：10-12。御靈の力によってわたしたちの目は開かれ、教義76：12。

神の栄光がモーセのうえにあった、モセ1:2。神の栄光がわたしのうえにあり、わたしは神の御前で変貌したので、神の御顔を見た、モセ1：11。わたしは天が開くのを見て、栄光に包まれました、モセ7：3-4。

ボアズ 「ルツ」 参照

ルツの夫（ルツ4：9-10）。イスラエルの王ダビデの曾祖父（ルツ4：13-17）。王の王であるキリストの直系先祖（ルカ3：32）。

ホイットニー、ニューエル・K

回復された教会の初期の指導者。オハイオ州カートランドのビショップ。後に教会の管理ビショップを務めた（教義72：1-8；104；117章）。

ホイットマー、ジョン

回復された教会の初期の指導者。『モルモン書』の八人の証人の一人。『モルモン書』の中の「八人の証人の証」を参照。彼はまた福音を宣べ伝えるように召された（教義30：9-11）。

ホイットマー、デビッド

回復された教会の初期の指導者。『モルモン書』の神聖な起源と真実性を証した三人の証人の一人（教義14：17-18章）。教義と聖約14章：30：1-4の中で、主は彼に個人的な指示を授けられた。

ホイットマー、ピーター、ジュニア

回復された教会の初期の指導者。『モルモン書』の八人の証人の一人。『モルモン書』の中の「八人の証人の証」を参照。教義と聖約16章：30：5-8の中で、主は彼に個人的な指示を授けられた。

奉獻, 奉獻の律法 「神の王国, 天の王国」「共同制度」 参照

ささげること、あるいは聖くすること、または義の状態になること。奉獻の律法とは、神の王国の建設と確立のため時間や才能や財産を進んでささげるという、神から与えられた原則である。

きょう、主に身をささげ、出エ32：29。

信者たちは、いっさいの物を共有にし、使徒2：44-45。

彼らはすべてのものを共有したので、物持ちも貧しい者もなく、4ニフ1：3。

主は奉獻の原則について説明された、教義42：30-39（教義51：2-19；58：35-36）。人がほかの人以上のものを持つようには定められていない、教義49：20。各人はその家族に応じて平等に受取分を与えられた、教義51：3。天のものとのきずなにおいて平等になり、地上のものにおいても平等になるためである、教義78：4-5。あなたがたは、それぞれ自分の入り用と必要に応じて財産を要求する平等な権利がある、教義82：17-19。日の榮えの王国の律法の諸原則によらなければ、シオンを築くことはできない、教義105：5。

シオンの民は心を一つにし、思いを一つにし、義のうちに住んだ。そして、彼らの中に貧しい者はいなかった、モセ7：18。

奉仕 「愛」「福祉」参照

神と人のためになされる働き。人に奉仕するのは、神に仕えることでもある。

あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい、ヨシ24：15。

これらの最も小さい者のひとりにしたのは、わたしにしたのである、マタ25：35-45。あなたがたのからだを、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき礼拝である、ロマ12：1。愛をもって互に仕えなさい、ガラ5：13。

神に仕えて生涯を送るであろう、2ニフ2：3。あなたがたが同胞のために務めるのは、あなたがたの神のために務めるのである、モサ2：17。約束の地を所

有する者は神に仕えなければならない。さもなければ一掃される、エテ2：8-12。

神の務めに出で立とうとする人々よ、心を尽くして神に仕えなさい、教義4：2。神は、御自分を愛し、御自分に仕えるようにとの戒めを与えた、教義20：18-19。イエス・キリストの名によって、神に仕えなければならない、教義59：5。主なるわたしは、わたしに仕える者に誉れを与えるのを喜びとする、教義76：5。

神を礼拝しなさい。あなたは神にのみ仕えるべきである、モセ1：15。

冒瀆、汚す罪 「不敬」「^{ゆる}赦されない罪」
参照

神や神聖な物事に対して不敬な言葉を口にすること。

イエスは冒瀆の言葉を口にしたとユダヤ人から非難されたことが何度かある。その理由とされたのは、罪を赦す権利があると主張したこと（マタ9：2-3；ルカ5：20-21）、また自らを神の子と呼んだこと（ヨハ10：22-36；19：7）、自分が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのをユダヤ人たちが見ると述べたことなどである（マタ26：64-65）。もしイエスがそれらの言葉どおりの御方でなかったら、ユダヤ人たちの批判は当たっていたと言える。サンヒドリン（ユダヤの議会）での裁判において偽証によりイエスに課せられた罪状（マタ26：59-61）は、神殿を汚したというものであった。聖霊に対する冒瀆とは、キリストについて完全な知識を受けながら、自らの意志でキリストを否定することであり、それは赦されることのない罪である（マタ12：31-32；マコ3：28-29；教義132：27）。

主の名を汚す者は必ず殺されるであろう、レビ24：11-16。

報復

主は、敵が御名を汚すのをそのままにしてはおかれない、**教義** 105：15。報復が主を冒瀆した者のうえに及ぶ、**教義** 112：24-26。

報復 「敵意」参照

害を加えた者に仕返しをすること。

あなたがたの神は報復をもって臨み、
イザ 35：4。

^{ふくしゅう} 復讐はわたしのすることである。わたし自身が報復する、**ロマ** 12：19（モル3：15；8：20）。

報復の剣があなたがたに迫っている、**モル** 8：40-41。

わたしは悪人に報復しよう。彼らが悔い改めようとしないからである、**教義** 29：17。

主は悪事と報復の時代に来られた、**モセ** 7：45-46。

ホサナ

ヘブライ語からの言葉で、「お救いください」の意味。賛美や嘆願の中で用いられる。

主がイスラエルを救い出して約束の地に導いてくださったことを祝う仮庵の祭で、人々は詩篇第118篇を唱え、なつめやしの枝を打ち振った。主がエルサレムへの勝利の入城をされたときに、群衆は「ホサナ」と叫び、イエスが通られる所になつめやしの枝を敷いた。それは、イエスが昔イスラエルを救い出された主と同じ御方であることを、彼らが理解していたことの表れである（詩篇118：25-26；マタ21：9, 15；マコ11：9-10；ヨハ12：13）。彼らは、長く待ち望んできたメシヤとしてキリストを認めたのであった。「ホサナ」という言葉は、いつの時代にあっても、メシヤをたたえるものとなってきた（1ニフ11：6；3ニフ11：14-17）。ホサナ齊唱はカートラ

ンド神殿の奉獻式の際に行われ、現在も神殿の奉獻式の際に行われている（**教義** 109：79）。

星の榮え 「栄光の階級」参照

最後の裁きの後に人々が住む3つの榮えの階級でいちばん低いもの。

パウロは星の栄光を見た、**1コリ** 15：40-41。

ジョセフ・スマスとシドニー・リグドンは、星の榮えの世界の栄光を見た、**教義** 76：81-90。星の榮えの世界に住む者は星のように数限りなかった、**教義** 76：109-112。星の榮えの王国の律法に従えない者は、星の榮えの栄光に堪えられない、**教義** 88：24, 31, 38。

ホセア

旧約の預言者。ヤラベアム2世の治世後期に、イスラエルの北王国で預言した。イスラエルの罪惡が原因で国が衰え滅んでいく時代に生きた人物。

ホセア書：この書の基本的な主題は、民に対する神の愛である。神の懲らしめはすべて愛をもって課せられ、イスラエルの回復も、神の愛の結果である（ホセ2：19；14：4）。対照的に、ホセアはイスラエルの背信と不敬を指摘した。それでも神は、イスラエルが最後には贖われることを待ち望まれるのである（ホセ11：12-14：9）。

施し 「ささげ物」「断食」「福祉」「貧しい」参照

貧しい人を助けるために物を差し出すこと。

自分の義を、見られるために人の前で行わないように、**マタ** 6：1-4（3ニフ13：1-4）。あの貧しいやもめは、だれよりもたくさん入れたのだ、**マコ** 12：

41-44。受けるよりは与える方が、さいわいである、使徒 20:33-35。

貧しい人に分け与えるようにしてほしい、モサ 4:26。教会の人々が各々自分の持っている分に応じて持ち物を分け与えるように、モサ 18:27。

ポルノ、ポルノグラフィー 「姦淫」「純潔」「不貞」参照

滅び 「滅びの子」参照

滅びの子 「悪魔」「死（靈の）」「地獄」「罰の定め」「赦されない罪」参照

サタンに従う者たち。サタンとともに永遠の苦しみを味わう。滅びの子と呼ばれるのは、次の者たちである。(1) 前世でサタンに従って反逆したために、天から追放された者。(2) 肉体を受けてこの世に生まれることを許されながら、サタンに仕え、神にことごとく背いた者。後者は死者の中から復活するが、第二の死（靈の死）からは贖われず、栄光の王国に住むことはできない（教義 88:32, 35）。

滅びの子だけが滅び、ヨハ 17:12。ふたたび悔改めにたち帰ることは不可能である、ヘブ 6:4-6（ヘブ 10:26-29）。

そのような者には憐れみは及ばない。また、その者の最後の状態は、決して終わることのない苦痛に耐えることである、モサ 2:36-39。その者はあたかも贖いがなかったかのようである、モサ 16:5。利益を得るために、イエス・キリストによって行われる奇跡などないと言う者は、滅びの子のようになる、3ニフ 29:7。

この世でも来るべき世でも赦されることがない、教義 76:30-34（教義 84:41; 132:27）。第二の死から贖われるのは彼らだけである、教義 76:34-48。聖なる御靈を受けた後にそれを否定し

た、教義 76:35。御父から御子を示された後に御子を否定する者である、教義 76:43。

カインは滅びと呼ばれる、モセ 5:22-26。

滅ぼす者 「悪魔」参照

サタンを指す言葉。

主は滅ぼす者が、あなたがたの家にはいるのを許されないのであろう、出エ 12:23。

滅ぼす者が水の面を進んで行く、教義 61:19。滅ぼす者の手からわたしの果樹園を救うことができたであろうに、教義 101:51-54。

翻訳

ある言語で表現された概念の意味を別の言語のそれに対応する言葉で表現すること（モサ 8:8-13; 箇条 1:8）。聖典にはこの能力について、神からの賜物と述べている箇所が幾つかある（アル 9:21; 教義 8章:9; 7:9-9）。翻訳という言葉は、ある言語にすでに翻訳されているものを改訂したり、失われた部分を復元したりすることを意味する場合もある（教義 45:60-61）。ジョセフ・スミスは『欽定訳聖書』を靈感によって翻訳するよう命じられた（教義 42:56; 76:15）。

ジョセフ・スミス・ジュニアは、神の憐れみによって、神の力により翻訳する力を受けた、教義 1:29。あなたは翻訳する賜物を持っている、教義 5:4。もしあなたがわたしに望むならば、わたしはあなたに翻訳する賜物を授ける、教義 6:25。『モルモン書』を翻訳するために、神は高い所からジョセフ・スミスに力を授けられた、教義 20:8。

ウリムとトンミムによってそれらの多くを翻訳した、ジー歴史 1:62（モサ 8:13; 28:13）。

マーシュ、トーマス・B

マーシュ、トーマス・B

1830年に教会が回復されてからの十二使徒定員会の初代会長。十二使徒会に関する王国の鍵を持ち（教義112：16）、また1838年には、主の言葉を出版するように啓示によって命じられた（教義118：2）。『教義と聖約』の第31章は、彼に対して与えられたものである。マーシュは1839年に破門されたが、1857年7月に再バプテスマを受けた。

幕

聖典の中では次の意味で用いられている。(1)幕屋や神殿で用いられる仕切り。(2)神と人が隔てられた状態にあることの象徴。(3)神が人々の前世の記憶を消されたこと。

^{たれまく}その垂幕は聖所と至聖所とを隔て分ける、出エ26：33。

神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた、マタ27：51（マコ15：38；ルカ23：45）。わたしたちは、今は、鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には、顔と顔とを合わせて、見るであろう、1コリ13：12。

王の心から不信仰という暗黒の覆いが取り除かれつつある、アル19：6。ヤレドの兄弟は幕の内側を見るのを禁じられなかった、エテ3：19（エテ12：19）。

幕は裂け、あなたがたはわたしを見て、教義67：10（教義38：8）。神殿を覆っている幕は取り去られて、教義101：23。わたしたちの心から幕が取り去られ、教義110：1。

暗黒の幕が地を覆うであろう、モセ7：61。

幕屋 「契約の箱」「至聖所」「神殿、主の宮」参照

主の宮。エジプトから出て旅をしている間、イスラエルの子らの礼拝の場とし

て中心を成すものであった。幕屋は実際は可動式の神殿であり、分解したり組み立てたりすることができた。イスラエルの子らは、ソロモンの神殿を建てるまで幕屋を使っていた（教義124：38）。

神はモーセに幕屋の型を示し（出エ26-27章）、イスラエルの子らはその型に従って幕屋を建てた（出エ35-40章）。幕屋が完成したとき、雲が天幕を覆い、主の栄光が幕屋に満ちた（出エ40：33-34）。その雲は神の臨在のしであり、夜は雲の中に火が現れた。雲が天幕の上にとどまっている間は、イスラエルの子らは宿營を続けた。そして雲が動くと、彼らもそれに伴って移動した（出エ40：36-38；民数9：17-18）。イスラエルの子らは、砂漠での放浪の間、またカナンの地を征服するまでの間、この幕屋を持ち運んだ。カナンの地を征服した後、幕屋は主が選ばれた地シロに置かれた（ヨシ18：1）。イスラエルの子らがソロモン神殿を建てた後は、幕屋は完全に歴史からその姿を消した。

主とイザヤは幕屋を、主の再臨の時のシオンとエルサレムの象徴として用いている（イザ33：20；モセ7：62）。

マゴグ 「イエス・キリストの再臨」「ゴグ」参照

『聖書』に出てくる、黒海近くの地とそこに住む民の名。彼らの王ゴグは、キリストの再臨前の最後の大戦争でマゴグの軍勢を指揮する（エゼ38：2；39：6）。聖典には、福千年の後に神の軍勢と悪の軍勢の間で行われる、ゴグとマゴグの戦いと呼ばれるもう一つの大戦争についても述べられている（黙示20：7-9；教義88：111-116）。

まことの教会のしるし 「イエス・キリストの教会」「しるし」「末日聖徒イエス・キリスト教会」参照

まことの教会は、神によって認められた教義と機能を備えた教会である。主はそれを通して主の子らがすべての祝福を得られるように定められた。まことの教会のしるしは次のとおりである。

神会についての正しい理解：神は自分のかたちに人を創造された、創世1：26－27。主はモーセと顔を合わせて語られた、出エ33：11。

永遠の命とは、父なる神とイエス・キリストとを知ることである、ヨハ17：3。

御父と御子は骨肉の体を持っておられる、教義130：22－23。

御父と御子がジョセフ・スマスに御姿を現された、ジー歴史1：15－20。わたしたちは、永遠の父なる神を信じる、箇条1：1。

第一の原則と儀式：だれでも、水と靈とから生れなければ、神の国にはいることはできない、ヨハ3：3－5。悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりひとりがイエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい、使徒2：38。そこで、ふたりが手を彼らの上においたところ、彼らは聖靈を受けた、使徒8：14－17。キリスト・イエスにある信仰によって、神の子なのである、ガラ3：26－27。

悔い改めよ。わたしの愛する子の名によってバプテスマを受けよ、2ニフ31：11－21。

信じた人々はバプテスマを受け、^{あんしゅ}按手によって聖靈を受けた、教義76：50－53。

バプテスマを施し、聖靈の賜物を授けるには正しい神権が必要である、ジー歴史1：70－72。福音の第一の原則と儀式について述べられる、箇条1：4。

啓示：示現がなければ民は滅びる、KJ 箴言29：18。主は預言者に隠れたことを示される、アモ3：7。

まことの教会のしるし

教会は啓示の岩の上に建てられる、マタ16：17－18（教義33：13）。

主はもはや啓示によって業を行われることはないと言う者は、災いである、3ニフ29：6。

戒めと啓示は任命された者を通してのみ授けられる、教義43：2－7。

わたしたちは、神がこれまでに啓示されたすべてのことを信じる、箇条1：9。

預言者：教会は使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられる、エペ2：19－20。使徒や預言者は教会に欠かせない、エペ4：11－16。

ジョセフ・スマスは聖見者、預言者、使徒と呼ばれた、教義21：1－3。

わたしたちは、預言者があることを信じる、箇条1：6。

権能：イエスは弟子たちに力と権威とをお授けになった、ルカ9：1－2（ヨハ15：16）。

ヒラマンの息子ニーファイは、神から大いなる権能を授けられた、ヒラ11：18（3ニフ7：17）。

預言者は教員のために戒めを受ける、教義21：4－5。権能を持つ者によって聖任されないかぎり、だれも福音を宣べ伝えるために出て行くこと、あるいは教会を築き上げることは許されない、教義42：11。長老は福音を宣べ伝え、権能を行使しなければならない、教義68：8。

福音を宣べ伝え、その儀式を執行するためには、人は権能を持つ者によって、神から召されなければならない、箇条1：5。

追加して出される聖典：ユダの木はヨセフの木と一つになる、エゼ37：15－20。

末日の聖典の出現が予告された、1ニフ13：38－41。

わたしたちは、神がこの後も、神の王国に関する多くの偉大で重要なことを啓示されると信じる、箇条1：9。

貧しい

教会の組織：教会は使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられる、**エペ 2：19-20**。使徒や預言者は教会に欠かせない、**エペ 4：11-16**。キリストが教会のかしらであって、**エペ 5：23**。

キリストの教会は、キリストの名で呼ばなければならぬ、**3 ニフ 27：8**。

わたしたちは、初期の教会にあったと同一の組織があることを信じる、**箇条 1：6**。

伝道活動：それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民に教えよ、**マタ 28：19-20**。福音を宣べ伝えるために七十人が召された、**KJ ルカ 10：1**。

救いがすべての造られたものに告げ知らされることを願った、**モサ 28：3**。

長老は出て行き、二人ずつ組んで福音を宣べ伝えなければならない、**教義 42：6**。福音はすべての造られたものに宣べ伝えられ、**教義 58：64**。

靈的な賜物：一同はいろいろの他国の言葉で語り出した、**使徒 2：4**。長老たちは病人に癒しを施す、**新ヤコ 5：14**。

賜物を否定しないように勧める、**モロ 10：8**。

靈的な賜物が列挙される、**教義 46：13-26**（**1 コリ 12：1-11**；**モロ 10：9-18**）。

神殿：わが聖所を永遠に彼らの中に置く、**エゼ 37：26-27**。主は、たちまちその宮に来る、**マラ 3：1**。

ニーファイは神殿を建てた、**2 ニフ 5：16**。

聖徒たちは、主の宮を建てるのを怠つたために懲らしめを受けた、**教義 95 章**（**教義 88：119**）。主の民は、聖なる儀式の執行のためにいつも神殿を建てる、**教義 124：37-44**。神殿の建設と儀式の執行は、大いなる末日の業に含まれる、**教義 138：53-54**。

貧しい　けんそん 「謙遜」「ささげ物」「断食」「福祉」「施し」参照

聖典の中で貧しいという言葉は、（1）衣食住など、生活に必要なものが足りない人に対して、また（2）高慢な思いがなく謙遜な人に対して用いられる。

物質的に貧しい人：貧しい兄弟にむかって手を閉じてはならない、**申命 15：7**。悪しき者は高ぶって貧しい者を激しく責めます、**詩篇 10：2**。貧しい者に施す者は物に不足しない、**箴言 28：27**。貧しい者を、あなたの家に入れ、**イザ 58：6-7**。

完全になりたいと思うなら、貧しい人々に施しなさい、**マタ 19：21**（**マコ 10：21**；**ルカ 18：22**）。神は、この世の貧しい人たちを選んで、**新ヤコ 2：5**。

彼らは自分が富んでいるので、貧しい者をさげすみ、**2 ニフ 9：30**。罪の赦しを続けて受けるために、持ち物を貧しい人に分け与えるようにしてほしい、**モサ 4：26**。彼らは貧しい者に自分の持ち物を分け与えた、**アル 1：27**。もし乏しい人を追い払ったりするならば、あなたがたの祈りはむなしく、何の役にも立たない、**アル 34：28**。すべてのものを共有したので、物持ちも貧しい者もなく、**4 ニフ 1：3**。

あなたは貧しい者を思い起こし、**教義 42：30**（**教義 52：40**）。貧しい者で心が打ち碎かれていないう者は、災いである、**教義 56：17-18**。貧しい者が小羊の婚宴に来る、**教義 58：6-11**。ビショップは貧しい者を捜さなければならない、**教義 84：112**。福音の律法には、貧しい者への援助についての定めがある、**教義 104：17-18**。

彼らの中に貧しい者はいなかった、**モセ 7：18**。

心の貧しい人：貧しいためにやむを得ずへりくだるのではなく、自ら進んで心

からへりくだる人は、なおさら祝福を受ける、アル 32：4-6, 12-16。わたしのもとに来る心の貧しい人々は、幸いである、3ニフ 12：3（マタ 5：3）。

貧しい者と柔軟な者に福音が宣べ伝えられる、教義 35：15。

マタイ 「福音書」参照

イエス・キリストの使徒。『新約聖書』の最初の書の著者。マタイはカペナウムでローマ人のための税の取り立てをしていたユダヤ人であり、ヘロデ・アンティパスに雇われていたと推測される。改宗する前は、アルパヨの子レビとして知られていた（マコ 2：14）。イエスの弟子となるように召されて間もなく、彼は食事の席を設け、主もそこに来られた（マタ 9：9-13；マコ 2：14-17；ルカ 5：27-32）。マタイは『旧約聖書』の聖句について広範な知識を持ち、そのために主の生涯における預言の成就を詳細に理解できたと思われる。この使徒の晩年についてはほとんど知られていない。殉教したという言い伝えもある。

マタイによる福音書：『新約聖書』の最初の書。マタイのこの福音書は、当初、パレスチナに住むユダヤ人が用いるために書かれたと思われる。『旧約聖書』からの多くの引用文が使われている。マタイがおもに目的としたのは、イエスは旧約の預言者たちが語ったメシヤであるということを示すことであった。彼はまた、イエスが人々の王であり、裁き主であることも強調している。

マタイによる福音書に述べられている救い主の生涯における出来事の一覧については、付録の「福音書対観表」を参照。

末日聖徒イエス・キリスト教会 「イエス・キリストの教会」「教会の名称」「福音の回復」「まことの教会のしるし」参照

他の神権時代の教会と区別するために、末日におけるキリストの教会に付けられた名称（教義 115：3-4）。

主は末日聖徒の頭に天から知識を注がれる、教義 121：33。ジョセフ・スミスは、末日聖徒イエス・キリスト教会の預言者および聖見者である、教義 127：12。末日聖徒のために主の大いなる日は近づいている、教義 128：21, 24。ジョセフ・スミスは末日聖徒の集合を助けた、教義 135：3。アメリカ合衆国の西部に旅をするために、末日聖徒の部隊を組織しなければならない、教義 136：2。結婚についての律法が末日聖徒に向けて明らかにされた、公式 1。末日聖徒イエス・キリスト教会のすべてのふさわしい男性会員は、神権への聖任を受けることができる、公式 2。

すべての末日聖徒に向けて述べられた最初の示現の記録、ジー歴史 1：1。

マッテヤ 「使徒—使徒の選任」参照

イスカリオテのユダに代わり、十二使徒定員会の一員として選ばれた人物（使徒 1：15-26）イエス・キリストが地上の務めを果たしておられた間、彼はずつと弟子として仕えていた（使徒 1：21-22）。

マナ 「命のパン」「出エジプト記」参照

蜜を入れた菓子（出エ 16：14-31）あるいは油菓子（民数 11：7-8）のような味がする、小さな丸い食物。主は荒れ野での40年間、イスラエルの民を養うためにこのマナを与えられた（出エ 16：4-5, 14-30, 35；ヨシ 5：12；1ニフ 17：28）。

イスラエルの子らはこれを、「これはなんであろう」という意味のマナ（あるいはヘブライ語で「マンマー」と呼んだ。彼らは、それが何か知らなかったからで

マナセ

ある（出エ 16：15）。マナは「天使のパン」また「天よりのパン」とも呼ばれた（詩篇 78：24-25；ヨハ 6：31）。マナは命のパンとなるキリストの象徴であった（ヨハ 6：31-35）。

マナセ 「イスラエル」「エフライム」「ヨセフ（ヤコブの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。エジプトに売られたヨセフとアセナテの長男（創世 41：50-51）。マナセと弟エフライムはヤコブ（イスラエル）の孫であったが、ヤコブに養子縁組され、ヤコブ自身の子供のように祝福を受けられた（創世 48：1-20）。

マナセの部族：マナセの子孫はイスラエルの部族の中に数えられた（民数 1：34-35；ヨシ 13：29-31）。モーセがヨセフの部族に授けた祝福は申命 33：13-17 に記録されており、その祝福はエフライムとマナセにも及んだ。マナセに割り当てられた土地の一部は、ヨルダン川の西の地域で、エフライムの地と隣接していた。マナセはまたバシャンやギレアデの肥沃な牧地など、ヨルダン川の東にも所領を得ていた。マナセの部族は終わりの時に、エフライムの部族を助けて、散らされたイスラエルを集合させる（申命 33：13-17）。『モルモン書』の預言者リーハイはマナセの子孫であった（アル 10：3）。

マラキ

旧約の預言者。紀元前 430 年ごろに預言者として働き、記録を残した。

マラキ書：マラキ書すなわちマラキの預言の書は、『旧約聖書』の巻末に收められている。マラキ書は次の 4 つの主題に添って書かれていると思われる。（1）イスラエルの罪—マラキ 1：6-2：17；3：8-9。（2）不従順のゆえにイスラエ

ルに下される裁き—マラキ 1：14；2：2-3，12；3：5。（3）従順に対する約束—マラキ 3：10-12，16-18；4：2-3。（4）イスラエルについての預言—マラキ 3：1-5；4：1，5-6（教義 2 章；128：17；ジ—歴史 1：37-39）。

マラキはその預言の中で、バプテスマのヨハネ（マラ 3：1；マタ 11：10）、じゅうぶん什分の一の律法（マラ 3：7-12）、主の再臨（マラ 4：5）、エリヤの帰還（マラ 4：5-6；教義 2 章；128：17；ジ—歴史 1：37-39）について記している。救い主はニーファイ人のために、マラキ書の第 3 章と第 4 章のすべてを引用された（3 ニフ 24-25 章）。

マリヤ（イエスの母） 「イエス・キリスト」「ヨセフ（マリヤの夫）」参照

『新約聖書』の中の人物。父なる神から、肉における御子の母となるように選ばれたおとめ。イエスの誕生後、マリヤは幾人かの子供をもうけた（マコ 6：3）。

ヨセフと婚約していた、マタ 1：18（ルカ 1：27）。ヨセフはマリヤを離縁したり、婚約を解消したりしないように告げられた、マタ 1：18-25。博士たちがマリヤを訪れた、マタ 2：11。マリヤとヨセフは幼な子を連れてエジプトに逃げた、マタ 2：13-14。ヘロデが死んだ後、ヨセフの家族はナザレへ戻った、マタ 2：19-23。天使ガブリエルの訪れを受けた、ルカ 1：26-38。親族のエリサベツを訪ねた、ルカ 1：36，40-45。主を賛美した、ルカ 1：46-55。ヨセフとともにベツレヘムへ行った、ルカ 2：4-5。生まれたイエスを飼葉かいばおけの中に寝かせた、ルカ 2：7。羊飼いたちはベツレヘムへ行って幼子キリストを捜し当てた、ルカ 2：16-20。マリヤとヨセフはイエスをエルサレムの神殿へ連れて行った、ルカ 2：21-38。マリヤとヨセフはイエスを過越すがこしの祭に連れて行った、ルカ 2：41-52。カ

ナの婚礼の場にいた、ヨハ 2:2-5。イエスは十字架につけられていたとき、御自分の母の世話をするようヨハネに告げられた、ヨハ 19:25-27。キリストが天に上げられた後、マリヤは使徒たちとともにいた、使徒 1:14。

マリヤはほかのどんなおとめにも勝つて美しく、また麗しいおとめであった、1ニフ 11:13-20。キリストの母はマリヤと呼ばれる、モサ 3:8。マリヤはおとめであって、尊い、選ばれた器である、アル 7:10。

マリヤ(ベタニヤの) 「マルタ」「ラザロ」参照

『新約聖書』の中の人物。ラザロとマルタの姉妹。

イエスの足もとにすわって、御言みことばに聞き入っていた、ルカ 10:39, 42。マリヤとその姉妹マルタは人をイエスのもとに遣わした、ヨハ 11:1-45。香油をイエスの足に塗った、ヨハ 12:3-8。

マリヤ(マグダラの)

『新約聖書』の中の人物。イエス・キリストの献身的な弟子となった女性。マグダラはマリヤの出身地であり、ガリラヤ湖西岸に位置する。

十字架の近くにいた、マタ 27:56(マコ 15:40; ヨハ 19:25)。キリストの埋葬の場にいた、マタ 27:61(マコ 15:47)。復活の日の朝に、墓を見に来た、マタ 28:1(マコ 16:1; ルカ 24:10; ヨハ 20:1, 11)。イエスはよみがえって、まずマグダラのマリヤに御自身をあらわされた、マコ 16:9(ヨハ 20:14-18)。7つの悪霊を追い出してもらった、ルカ 8:2。

マリヤ(マルコの母) 「マルコ」参照

『新約聖書』の中の人物。マルコによ

る福音書を書いたヨハネ・マルコの母(使徒 12:12)。

マルコ 「福音書」参照

『新約聖書』の中の人物。ヨハネ・マルコはマリヤの息子で、エルサレムに住んでいた(使徒 12:12)。彼はバルナバのいとこ(または、おい)であったと考えられている(コロ 4:10)。マルコはパウロとバルナバの最初の伝道旅行に同行してエルサレムをたち、ペルガで彼らと別れた(使徒 12:25; 13:5, 13)。後にマルコはバルナバに同行してクプロへ行った(使徒 15:37-39)。彼はパウロとともにローマにおり(コロ 4:10; ピレ 1:24)、ペテロとともにバビロン(恐らくローマを指す)にいた(1ペテ 5:13)。最後に、彼はエベソでテモテとともにいた(2テモ 4:11)。

マルコによる福音書:『新約聖書』の2番目の書。マルコのこの福音書は、ペテロの指示の下に書かれたと思われる。マルコのねらいは、人々の中で生活し行動した神の御子としての主を描くことであった。マルコは精力的かつ謙虚な態度で、人々がイエスから受けた印象を書いている。言い伝えによると、マルコはペテロの死後、エジプトに行ってアレクサンドリア(アレキサンデリヤ)で教会を組織し、殉教したとのことである。

マルコによる福音書に述べられている救い主の生涯における出来事の一覧については、付録の「福音書対観表」を参照。

マルタ 「マリヤ(ベタニヤの)」「ラザロ」参照

『新約聖書』の中の人物。ラザロとマリヤの姉妹(ルカ 10:38-42; ヨハ 11:1-46; 12:2)。

ミカ

旧約の預言者。ミカはユダの平野のモ

ミカエル

レセテ・ガテ出身の人物で、ヒゼキヤが王位にあった時に預言者としての務めを果たした（ミカ 1：1-2）。

三力書：ミカ書は、メシヤがお生まれになる場所としてベツレヘムの名を挙げた『旧約聖書』中のただ一つの書である（ミカ 5：2）。主はこの書の中で御自分の民に勧告を与えるとともに、過去に与えた数々の慈しみを列挙し、彼らに正義と憐れみと謙遜さを求められた（ミカ 6：8）。

ミカエル 「アダム」「天使長、天使のかしら」参照

アダムの前世における名。天使長と呼ばれる。ヘブライ語で「神のような者」の意。

天使の長のひとりであるミカエルがきて、ダニ 10：13, 21（教義 78：16）。大いなる君ミカエルが立ちあがります、ダニ 12：1。

御使のかしらミカエルは、悪魔と論じ争った、ユダ 1：9。ミカエルとその御使たちとが、龍と戦った、黙示 12：7（ダニ 7 章）。

ミカエルはアダムである、教義 27：11（教義 107：53-57；128：21）。天使長ミカエルはラッパを吹き鳴らす、教義 29：26。ミカエルは彼の軍勢を集め、サタンと戦う、教義 88：112-115。悪魔を暴いたミカエルの声、教義 128：20。

身代わり 「儀式—身代わりの儀式」「死者の救い」参照

ミズーリ 「新エルサレム」参照

**み たま たまもの
御靈の賜物 「賜物」参照**

ふさわしい人に主がお授けになる特別な霊的祝福。この賜物はその人自身を益するため、またそれを用いて他の人々

に祝福をもたらすために授けられる。御靈の賜物の説明については、教義と聖約 46：11-33；1コリント 12：1-12；モロナイ 10：8-18 を参照のこと。

さら 更に大いなる賜物を得ようと熱心に努めなさい、1コリ 12：31（1コリ 14：1）。

ニーファイ人は多くの御靈の賜物を受けた、アル 9：21。主はもはや賜物、聖靈の力によって業を行われることはないと言う者は、災いである、3ニフ 29：6。神は忠実な者たちに賜物を与えられる、モル 9：7。賜物はすべて、キリストの御靈によって授けられる、モロ 10：17。

賜物は多くあり、各人に神の御靈によって一つの賜物が与えられるのである、教義 46：11。教会の指導者は御靈の賜物を識別する力を与えられる、教義 46：27。教会の大管長は神が教会の長に授けられるすべての賜物を持つ、教義 107：91-92。

道 「歩む（神とともに）」「イエス・キリスト」参照

人が従って行く進路。イエスは御自身を道と呼ばれた（ヨハ 14：4-6）。

あなたの神、主の命令を守り、その道に歩んで、申命 8：6。子をその行くべき道に従って教えよ、箴言 22：6（2ニフ 4：5）。わが道は、あなたがたの道とは異なると主は言われる、イザ 55：8-9。

命にいたる門は狭く、その道は細い、マタ 7：13-14（3ニフ 14：13-14；27：33；教義 132：22, 25）。のがれる道も備えて下さる、1コリ 10：13。

主が命じられることには、道が備えられており、それでなくては、主は何の命令も下されない、1ニフ 3：7（1ニフ 9：6；17：3, 13）。その門を通る以外に、ほかの道はない、2ニフ 9：41。あなたがたは、永遠の死の道を選ぶことも、永遠の命の道を選ぶことも自由である、2ニフ 10：

23. これが道である。そして、このほかには道も名もない、**2ニフ 31:21**（モサ 3:17；アル 38:9；ヒラ 5:9）。

すべての人が自分の道を歩む、**教義 1:16**。

◆ ◆ ◆ 使い 「天使」参照

見守る、見守る者 「警告」参照

絶えず警戒すること、用心すること。絶えず心を配り、従う人は備えができる状態にある。見守る者とは、人々のために特定の責任を受けるよう主の代表者から召された指導者を指す。また指導者として召された人々には、世の残りの人々に対しても見守る者となる特別な責任がある。

わたしはあなたを見守る者とした、**エゼ 3:17-21**。わたしはあなたを立てて、イスラエルの家を見守る者とする、**エゼ 33:7-9**。

だから、目をさましていなさい。いつの日に主がこられるのか、わからぬからである、**マタ 24:42-43**（マタ 25:13；マコ 13:35-37；教義 133:10-11）。誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい、**マタ 26:41**（3ニフ 18:15, 18）。

もし自分自身や自分の思い、言葉、行いに注意を払わないならば、あなたがたは滅びるに違いない、**モサ 4:30**。アルマは教会を管理し見守る祭司たちと長老たちを聖任した、**アル 6:1**。

救い主を待ち受けない者は絶たれる、**教義 45:44**。教会を見守るように神が選んで聖任する人々には、すべての賜物を見分けることが許される、**教義 46:27**。主は果樹園に見張り人たちを置かれた、**教義 101:44-58**。

耳 「聞き従う、聴く」参照

聖典では、神に関する事柄を聞いて

理解する能力の象徴としてよく用いられる。

耳があっても聞くことができない、**詩篇 115:6**。わたしの耳をさまして、**イザ 50:4-5**（2ニフ 7:4-5）。

耳のある者は聞くがよい、**マタ 11:15**。その耳は聞えにくく、**マタ 13:15**（モセ 6:27）。目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた、**1コリ 2:9**（教義 76:10）。

悪魔は彼らの耳にささやいて、**2ニフ 28:22**。耳を開いて聞き、**モサ 2:9**（3ニフ 11:5）。幾度となく呼ばれたが、わたしは聞こうとしなかった、**アル 10:6**。わたしの言葉に耳を傾けなさい、**アル 36:1**（アル 38:1；教義 58:1）。

耳として聞かないものではなく、**教義 1:2**。耳が開かれるように、へりくだつて主なる神に呼び求める、**教義 136:32**。

ミュレク 「ゼデキヤ」参照

『旧約聖書』の王ゼデキヤの息子（紀元前589年ごろ）。『聖書』には、ゼデキヤの息子たちは皆殺されたように書かれている（列下 25:7）が、『モルモン書』は、ミュレクが生き延びたことを明確に述べている（ヒラ 8:21）。

ゼラヘムラはミュレクの子孫であった、**モサ 25:2**。ミュレクの民とニーファイ人が一つになった、**モサ 25:13**。主はミュレクを北の地へ導かれた、**ヒラ 6:10**。ゼデキヤの息子たちはミュレクを除いて皆殺された、**ヒラ 8:21**。

ミリアム 「モーセ」参照

『旧約聖書』の中の人物。モーセの姉（民数 26:59）。

パピルスで編んだかごを見守った、**出エ 2:1-8**。タンバリンを手にした女た

身を変えられた人

ちがその後に従った、出エ 15：20–21。モーセを非難し、重い皮膚病となつたが、いや癒された、民数 12：1–15（申命 24：9）。

身を変えられた人

復活して不死不滅となるまで、痛みや死を味わうことがないように体の状態を変えられた人。

エノクは神とともに歩み、神が彼を取られたので、いなくなつた、創世 5：24（ヘブ 11：5；教義 107：48–49）。今日までモーセの墓を知る人はない、申命 34：5–6（アル 45：19）。エリヤはつむじ風に乗って天にのぼつた、列下 2：11。

わたしの来る時まで彼が生き残つてゐることを、わたしのが望んだとしても、あなたにはなんの係わりがあるか、ヨハ 21：22–23（教義 7：1–3）。

あなたがたは決して死を味わうことがない、3ニフ 28：7。彼らが死を味わわないように、ある変化が彼らの体に生じ、3ニフ 28：38（4ニフ 1：14；モル 8：10–11）。

主から愛されたヨハネは、主が来られるときまで生き長らえる、教義 7 章。わたしは自分の懷にエノクのシオンを受け入れた、教義 38：4（モセ 7：21, 31, 69）。エノクとその同胞は、義の日が来るまで残しておかかる町である、教義 45：11–12。エリヤは死を味わうことなく天に取り去られた、教義 110：13。

聖靈が多くの者に降り、彼らはシオンに連れ去られた、モセ 7：27。

民数記 「五書」 参照

『旧約聖書』の4番目の書。この書はモーセによって書かれた。民数記は、シナイ山からカナンの国境にあるモアブの平地に至るまでのイスラエル人の旅の物語を描いている。民数記の重要な教訓の一つは、神の民が成功の道を歩み続ける

には、神の約束を信頼し、信仰によって歩まなければならないということである。民数記には、イスラエル人の不従順に対して下された神の罰と、イスラエルの律法に関する事柄が記録されている。民数記という書名は、氏族の数の調査に由来する（民数 1–2, 26 章）。

第 1–10 章には、イスラエル人のシナイを出発する準備の様子が記録されている。第 11–14 章には、旅そのもの、またカナンの地への斥候の派遣、イスラエル人が約束の地に入るのを拒まれたことが記録されている。第 15–19 章には、様々な律法と歴史上の出来事が記されている。第 20–36 章には、荒れ野で過ごした最後の年の出来事が述べられている。

無窮 「神、神会」 参照

神に対する呼び名の一つ。神の永遠性を示している（教義 19：10–12；モセ 1：3；7：35）。

むさぼる 「貪欲、むさぼり」 参照

結び固め 「エリヤ」「儀式」「神權」 参照

神權の権能によって地上で執行された儀式を、天においても有効なものとすること。儀式は約束の聖なる御靈^{みたま}すなわち聖靈による承認を受けた時に結び固められる。

あなたが地上でつなぐことは、天でもつながれ、マタ 16：19（マタ 18：18；教義 124：93；132：46）。あなたがたも、約束された聖靈の証印をおされたのである、エペ 1：13。

あなたが地上で結ぶことは何でも天で結ばれるよう、わたしはあなたに力を授ける、ヒラ 10：7。

地上でも天でも結ぶ力が与えられる、

教義 1:8。 日の栄えの世界にいる者は約束の聖なる御靈によって結び固められた人々である、**教義 76:50-70。** エリヤが結び固めの権能の鍵をジョセフ・スミスの手にゆだねた、**教義 110:13-16。** これは結び固め、かつ、つなぐ力であり、**教義 128:14。** いっそう確実な預言の言葉とは、人が永遠の命に結び固められたことを知ることである、**教義 131:5。** 約束の聖なる御靈により結ばれない聖約はすべて死をもって終わる、**教義 132:7。** 神殿で行われる大いなる業の中には、親子の結び固めも含まれる、**教義 138:47-48。**

むなしさ 「高慢」「物欲」参照

空虚なこと、価値のないこと。

その聖所に立つべき者はだれか。その魂がむなしい事に望みをかけない者、**詩篇 24:3-4。**

祈る場合、くどくどと祈るな、**マタ 6:7。**

あなたがたは俗世のむなしいものに執着し続けるつもりか、**アル 5:53。** この世のむなしいものを求めてはならない。見よ、あなたはそれらのものを携えて行くことはできないからである、**アル 39:14。**

胸當て 「ウリムとトンミム」参照

聖典には2種類の胸當てが出てくる。(1) 兵士の防御用の衣服やよろいの前の部分。象徴的な意味で、聖徒は悪に対して自らを守るために胸當てを身に着けなければならない(イザ 59:17; エベ 6:14)。(2) モーセの律法において大祭司が着用した衣装の一つ(出エ 28:13-30; 39:8-21)。亞麻布でできており、12個の宝石が取り付けてあった。時として、ウリムとトンミムと関連して述べられることがある(教義 17:1; ジー歴史 1:35, 42, 52)。

目

聖典ではしばしば、神の光を受ける能力の象徴として用いられる。目は象徴的な意味で、霊的な状態と神に関する事柄への理解を示すこともある。

主の戒めはまじりなくて、眼を明らかにする、**詩篇 19:8。** 愚かな者は、目があっても見えない、**エレ 5:21 (マコ 8:18)。**

目はからだのあかりである、**マタ 6:22 (ルカ 11:34; 3ニフ 13:22; 教義 88:67)。** あなたがたの目は見ており、さいわいである、**マタ 13:16。** 心の目を明らかにして下さるように、**エペ 1:17-18。**

自分で見て賢いと思う者は災いである、**2ニフ 15:21 (イザ 5:21)。** 断食して、神に祈り始め、民の目が開かれることを請い願った、**モサ 27:22。** サタンは彼らの目をくらまし、**3ニフ 2:2。**『モルモン書』を出す力は、神の榮光にひたすら目を向けるのでなければ、だれも持つことができない、**モル 8:15。**

御靈の力によってわたしたちの目は開かれ、わたしたちの理解に光が注がれた、**教義 76:12。** 光は、あなたがたの目を明らかにする者によって来る、**教義 88:11。** あなたがたが神の榮光にひたすら目を向けるならば、あなたがたの全身は光に満たされ、**教義 88:67。**

瞑想する 「深く考える」参照

恵み 「憐れみ」「イエス・キリスト」「贖罪」「救い」参照

信仰を実践し、悔い改め、全力を尽くして戒めを守る人に神から授けられる力。この力によって、人はこの世で数々の祝福を受け、永遠の命と昇栄を授かることができる。このような神聖な助けや力は、神の憐れみと愛を通して授けられる。アダムの堕落と、人間としての弱さ

召し、神の召し

のゆえに、人は皆、神の恵みを必要としている。

めぐみとまこととは、イエス・キリストをとおしてきた、ヨハ1：17。主イエスのめぐみによって、われわれは救われる、使徒15：11（ロマ3：23-24；教義138：14）。わたしたちは、この恵みに信仰によって導き入れられ、ロマ5：2。あなたがたの救われたのは、恵みにより、信仰によるのである、エペ2：8。すべての人を救う神の恵みが現れた、テト2：11。はばかることなく恵みの御座に近づこうではないか、ヘブ4：16。神はへりくだる者に恵みを賜う、1ペテ5：5。

聖なるメシヤの功德と憐れみと恵みによらなければ、だれも神の御前に住める者がいない、2ニフ2：8。あなたがたが救われるには、ただ神の恵みによること、また神の恵みを通じてであること、2ニフ10：24。わたしたちが自分の行えることをすべて行った後、神の恵みによって救われる、2ニフ25：23。このようなことを行う力がわたしたちにあるのは、神の恵みによる、ヤコ4：7。それぞれの行いに応じた恵みに回復してくださるように、ヒラ12：24。わたしの恵みは柔軟な者に十分であり、わたしの前にへりくだるすべての者に対して、わたしの恵みは十分である、エテ12：26-27。異邦人が慈愛を持てるように、主が彼らに恵みを授けてくださることを主に祈つた、エテ12：36、41。あなたがたは神の恵みにより、キリストによって完全になることができる、モロ10：32-33。

イエスは恵みに恵みを加えられた、教義93：12-13、20。

召し、神の召し 「選ばれた者」「選ぶ」

「聖任」「管理人、管理人の職」「権威、権限、權能」参照

神から召されると、定められた方法で神に仕えるために、神または神より正

当な権威を授けられた教会の指導者から任命または要請を受けることである。

彼の上に手をおき、彼を任命した、民数27：23。わたしはあなたを預言者とした、エレ1：5。

わたしがあなたがたを選んだ、ヨハ15：16。パウロは召されて使徒となつた、ロマ1：1。だれもこの栄誉ある務を自分で得るのではなく、神の召しによって受けるのである、ヘブ5：4。イエスは神によってメルキゼデクに等しい大祭司となえられた、ヘブ5：10。

わたしは啓示と預言の靈によって、神の御言葉を宣べ伝えるように召され、アル8：24。祭司たちは世の初めから召され、備えられていた、アル13：3。

あなたがたは神に仕えたいと望むならば、その業に召されている、教義4：3。わたしがあなたを召した業にしっかりと立ちなさい、教義9：14。あなたは召しを受けるまで、教えを説くために召されたと思うには及ばない、教義11：15。あなたがたはわたしの選民を集めるために召されている、教義29：7。聖任されないかぎり、だれも主の教会を築き上げることは許されない、教義42：11。召される者は多いが、選ばれる者は少ない、教義121：34。

人は神から召されなければならない、箇条1：5。

召しと選び 「選び」参照

キリストに従う義にかなった人々は、昇栄を保証される選民の中に数えられる。この召しと選びは悔い改めとバプテスマから始まり、「キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶ」ときに完全なものとなる（2ニフ31：19-20）。聖典はこの過程を、「召しと選びとを確かなものにする」と表現している（2ペテ1：4-11；教義131：5-6）。

あなたがたはわたしに対して祭司の國となり、出工 19:5-6(黙示 1:6)。

神は救いを得させようとして、初めから選民を選ばれた、2テサ 2:13。ますます励んで、あなたがたの受けた召しと選びとを、確かなものにしなさい、2ペテ 1:10。

キリストから御自分のものとして印を押されるように、モサ 5:15。あなたが永遠の命を受けると聖約する、モサ 26:20。

忠実な神権者は、神の教会となり、神の王国となり、神の選民となる、教義 84:33-34。いっそう確実な預言の言葉とは、人が永遠の命に結び固められたことを知ることである、教義 131:5-6。わたしはあなたに昇栄を結び固め、教義 132:49。

メシヤ 「油注がれた者」「イエス・キリスト」参照

「油注がれた者」の意のアラム語とヘブライ語の一形態。『新約聖書』でイエスはキリストと呼ばれているが、これはメシヤに相当するギリシャ語である。その意味は油注がれた預言者、祭司、王、救い主であり、ユダヤ人はその訪れを熱望していた。

多くのユダヤ人は、ローマの支配からの解放と国家としてのいっそうの繁栄を望んでいたにすぎなかった。メシヤが来られたとき、指導者や多くの民が拒んだのは、そのためであった。ナザレ人イエスの中に真のキリストを見いだすことができたのは、謙遜で忠実な人々だけであった(イザ 53章;マタ 16:16;ヨハ 4:25-26)。

メシヤは御靈を受け、福音を宣べ伝え、^{みたま}の解放を告げられる、イザ 61:1-3(ルカ 4:18-21)。

わたしたちはメシヤ(訳せば、キリスト)

ト)にいま大会、ヨハ 1:41(ヨハ 4:25-26)。

主なる神はユダヤ人の中にメシヤ、言い換えれば、世の救い主を立てられる、1ニフ 10:4。来るべきメシヤである神の御子、1ニフ 10:17。贖いは聖なるメシヤによって、またメシヤを通じてもたらされる、2ニフ 2:6。時が満ちると、メシヤが来られる、2ニフ 2:26。メシヤが死者の中からよみがえり、2ニフ 25:14。

メシヤの御名によって、わたしはアロンの神権を授ける、教義 13章。

わたしはメシヤであり、シオンの王であり、モセ 7:53。

メシャク 「ダニエル」参照

『旧約聖書』の中の人物。シャデラク、メシャク、アベデネゴの3人のイスラエルの若者は、ダニエルとともにバビロンの王ネブカデネザルの宮廷に召された。メシャクのヘブライ語名は、ミシャエルである。この4人の若者は、王の食物と酒を口にして自らを汚すのを拒んだ(ダニ 1章)。シャデラク、メシャク、アベデネゴは王によって火の燃える炉の中に投げ込まれたが、奇跡的に守られた(ダニ 3章)。

メトセラ 「エノク」参照

『旧約聖書』の中の人物。エノクの息子。メトセラは969歳まで生きた(創世 5:21-27;ルカ 3:37;モセ 8:7)。メトセラはエノクの町が天に取り上げられたときに地上に残された義にかなった預言者である。彼は地上にとどまって子孫を残し、後にノアが生まれることになった(モセ 8:3-4)。

メルキゼデク 「サレム」「メルキゼデク神権」参照

『旧約聖書』の中の人物。洪水後のア

メルキゼデク神権

abrahamの時代に生きていた偉大な大祭司、預言者、指導者。彼はサレム（エルサレム）の王、また平和の王、義の王（「メルキゼデク」とはヘブライ語で「義の王」の意味）、いと高き神の祭司とも呼ばれた。

アブラムはメルキゼデクに十分の一を納めた、創世14：18-20。メルキゼデクの民は義を行い、天を得た、JS創世14：25-40。

あなたこそは、永遠に、メルキゼデクに等しい祭司である、ヘブ5：6。メルキゼデクはサレムの王であり、いと高き神の祭司であった、ヘブ7：1-3。

メルキゼデクよりも偉大な人は一人もいなかった、アル13：14-19。

アブラハムはメルキゼデクから神権を受けた、教義84：14。至高者の名を敬い尊ぶことから、昔の教会員は、この神権をメルキゼデク神権と呼んだ、教義107：1-4。

メルキゼデク神権 「神権」「長老」「メルキゼデク」参考

メルキゼデク神権は大神権であり、アロン神権は小神権である。メルキゼデク神権には、教会の靈的な祝福の鍵が含まれる。この大神権の儀式を通して神性の力が人々に現れる（教義84：18-25；107：18-21）。

神は最初にこの大神権をアダムに示された。あらゆる神権時代の族長と預言者がこの権能を持っていました（教義84：6-17）。初めは「神の御子の位に従う聖なる神権」と呼ばれ、後にメルキゼデク神権として知られるようになった（教義107：2-4）。

イスラエルの子らがメルキゼデク神権の特権と聖約にふさわしい生き方ができなかつたとき、主はその高い律法を取り去り、小神権と低い律法とを授けられた（教義84：23-26）。それはアロン神権ならびにモーセの律法と呼ばれた。イエス

は地上に来られたとき、ユダヤ人にメルキゼデク神権を回復し、彼らの中に教会を築き始められた。しかし、この神権と教会は背教によって再び失われてしまった。そして後に、ジョセフ・スミス・ジュニアを通して回復されたのである（教義27：12-13；128：20；ジー歴史1：73）。

メルキゼデク神権には、長老、大祭司、祝福師、七十人、使徒の職がある（教義107章）。メルキゼデク神権は常に、地上における神の王国の一部を成す。

末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長は、大神権すなわちメルキゼデク神権の大管長であり、地上における神の王国に関するすべての鍵を持つ。教会の大管長の召しは一時期に一人の人にしか与えられない。また、教会の大管長はすべての神権の鍵を行使する権能を持つ地上でただ一人の人である（教義107：64-67；132：7）。

あなたはメルキゼデクの位にしたがつてとこしえに祭司である、詩篇110：4（ヘブ5：6、10；7：11）。

メルキゼデク神権は福音をつかさどる、ヘブ7章（教義84：18-25）。

メルキゼデクは力強い信仰を働かせ、大神権の職を受けた、アル13：18。

メルキゼデク神権がジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに授けられた、教義27：12-13（ジー歴史1：72）。この神権は誓詞と聖約によって授けられる、教義84：33-42。二つの区分、すなわち大きな部類がある。一つはメルキゼデク神権であり、他はアロン神権である、教義107：6。メルキゼデク神権は靈的な祝福をつかさどる権能を持つ、教義107：8-18。モーセとエライアスとエリヤがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに神権の鍵を受けた、教義110：11-16。わたしは今、わたしの神権に属する役員をあなたがたに与えて、あなたがたがその鍵を持てるようにする、教義124：123。

モアブ 「ロト」参照

旧約の時代の死海東方の地域。モアブ人はロトの子孫であり、イスラエルとは縁続きであった。モアブ人はヘブライ語に似た言葉を話した。モアブ人とイスラエル人は絶えず戦争を繰り返した（士師3：12-30；11：17；サ下8：2；列下3：6-27；歴下20：1-25；イザ15章）。

モーサヤ（ベニヤミンの父）「ゼラヘムラ」「ベニヤミン（モーサヤの父）」参照

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の預言者。ゼラヘムラの民を治めた王。

ニーファイの地から逃げ出すように警告を受けた、オム1：12。ゼラヘムラの民を発見した、オム1：14-15。ゼラヘムラの民に自分の言葉を教えさせた、オム1：18。連合した民の王に選任された、オム1：19。息子ベニヤミンが彼に代わって治めた、オム1：23。

モーサヤ（ベニヤミンの息子）「ベニヤミン（モーサヤの父）」「モーサヤの息子たち」参照

『モルモン書』の中の人物。義人。ニーファイ人の王、預言者。父の義にかなった模範に従った（モサ6：4-7）。ヤレド人の記録を含む24枚の金版を翻訳した（モサ28：17）。

モーサヤ書：『モルモン書』の中の1書。第1-6章には、民に向けて語ったベニヤミン王の力強い説教が記録されている。主の御靈に感動した民は、心を改め、悪を行おうとする思いを二度と抱かなかった。第7-8章には、レーマン人の地で暮らすようになったニーファイ人の一団のことが書かれている。彼らを探し出すために捜索隊が派遣された。捜索

隊の指導者アンモンは彼らを見つけ、彼らがレーマン人の圧制によって苦しみを受けてきたことを聞いた。第9-24章には、その圧制の様子、またゼニフ、ノア、リムハイという彼らの指導者がレーマン人の下でどのような生き方をしたかが記されている。アビナダイという預言者の殉教についても記録されている。アルマはアビナダイの裁判を機に改心した。第25-28章には、アルマの息子とモーサヤ王の4人の息子が改心するに至った話が書かれている。第29章には、モーサヤ王が王制に代えてさばきつかさの制度を設けるように勧めたことが書かれている。アルマの息子アルマが最初の大さばきつかさに選ばれた。

モーサヤの息子たち「アロン（モーサヤの息子）」「アンモン（モーサヤの息子）」「オムナー」「ヒムナイ」「モーサヤ（ベニヤミンの息子）」参照

『モルモン書』の中の人物。天使の訪れを受け、悔い改めを求められて改心したモーサヤ王の4人の息子。彼らの名前は、アンモン、アロン、オムナー、ヒムナイといった（モサ27：34）。彼らは14年にわたってレーマン人に福音を宣^のべ伝え、成功を収めた。アルマ17-26章には、レーマン人の間での彼らの働きが記録されている。

以前は不信仰で、教会を滅ぼそうとしていた、モサ27：8-10（アル36：6）。天使に叱責され、悔い改めた、モサ27：11-12、18-20。レーマン人に宣^のべ伝える許しを得た、モサ28：1-7。

モーセ「アロン（モーセの兄）」「五書」「十戒」「変貌—キリストの変貌」「モーセの律法」参照

旧約の預言者。イスラエル人をエジプトの奴隸の状態から導き出し、神によっ

モーセ

て示されるままに、宗教、社会、食生活に関する一連の律法を彼らに授けた。

モーセの務めは、彼のこの世での生涯という枠を越えるものであった。ジョセフ・スミスは、モーセがエリヤとともに変貌の山に来て、神権の鍵をペテロとヤコブとヨハネに授けたと教えてている（マタ 17：3-4；マコ 9：4-9；ルカ 9：30；教義 63：21）。

1836年4月3日、モーセはオハイオ州カートランドの神殿でジョセフ・スミスとシドニーリグドンに現れ、イスラエルの集合の鍵を二人に授けた（教義 110：11）。

末日の啓示はモーセについて多くのことを語っている。モーセの名は『モルモン書』にも何度も出てくる。また『教義と聖約』からは、モーセの務め（教義 84：20-26）と、義父エテロから神権を受けたこと（教義 84：6）が分かる。

また末日の啓示は、イスラエルの子らの間でモーセがなした働きに関する『聖書』の記録を確認し、彼が『旧約聖書』の最初の5書の著者であることを再確認している（1ニフ 5：11；モセ 1：40-41）。

パロの娘に救われた、出エ 2：1-10。ミデヤンの地へ逃れた、出エ 2：11-22。主の使いは、しばら中の炎のうちに彼に現れた、出エ 3：1-15。エジプト人に下る災いを宣言した、出エ 7-11章。主は彼を通して過越の祭を定められた、出エ 12：1-30。イスラエルの民を率いて紅海を渡った、出エ 14：5-31。主は荒れ野でマナを与えられた、出エ 16章。ホレブで岩を打つと、そこから水が出た、出エ 17：1-7。アロンとホルは、ヨシュアがアマレクに打ち勝つよう、モーセの手を支えた、出エ 17：8-16。エテロから助言を受けた、出エ 18：13-26。民を備えてシナイ山で主にまみえさせようとした、出エ 19章。主から十戒を与えられた、出エ 20：1-17。モーセと七十

人の長老たちは神を見た、出エ 24：9-11。証の板を碎き、金の子牛を壊した、出エ 32：19-20。主と顔を合わせて語った、出エ 33：9-11。

イエスの変貌のときに現れた、マタ 17：1-13（マコ 9：2-13；ルカ 9：28-36）。

モーセのように強くなろうではありませんか、1ニフ 4：2。主がお立てになるモーセのような預言者とは、キリストである、1ニフ 22：20-21（申命 18：15；3ニフ 20：23）。

啓示によってイスラエルを導いた、教義 8：3。偉大な靈たちの中にいた、教義 138：41。

顔と顔を合わせて神にまみえた、モセ 1：2、31。独り子にかたどられていた、モセ 1：6、13。創造について啓示されたことを記録するように命じられた、モセ 2：1。

モーセ書：『高価な真珠』の中の1書。ジョセフ・スミスが靈感によって行った創世記の最初の7章の翻訳が含まれている。

第1章には、モーセが神にまみえたときの示現が記されている。神はモーセに救いの計画のすべてを啓示された。第2-5章は、創造と人の堕落についての記録である。第6-7章には、エノクと彼の地上での務めに関する示現が述べられている。第8章には、ノアと大洪水についての示現が含まれている。

モーセの五書：「創世記」「出エジプト記」「レビ記」「民数記」「申命記」の項を参照

『旧約聖書』の最初の5書は、モーセの書として知られている。ニーファイがラバムから得た真鑑版はモーセの五書を含んでいた（1ニフ 5：11）。

ニーファイはモーセの書に書かれた多くの事柄を読んだ、1ニフ 19：23。

モーセの律法 「アロン神權」「清いものと清くないもの」「モーセ」「律法」参照

神はモーセを通してイスラエルの家に律法をお授けになったが、それは彼らが従うことのできなかったより高度な律法に代えて与えられたものであった（出エ34章；JS 出エ34:1-2；JS 申命10:2〔付録〕）。モーセの律法は、人々に義務と責任を思い起こさせるための多くの原則や規則、祭儀、象徴から成っていた。それは、道徳的、かつ倫理的、宗教的、肉体的な戒めと勤めを伴う律法を含むものであり、神と神への義務を民に思い起こさせること（モサ13:30）を目的とした様々な犠牲（レビ1-7章）を伴っていた。また、十戒や倫理的かつ道徳的に大きな価値のある他の多くの戒めと同じように、信仰と悔い改め、水によるバプテスマ^{ゆる}、罪の赦しもその律法の一部であった。祭儀的律法の多くは、血を流す犠牲を終わらせたイエス・キリストの死と復活によって成就した（アル34:13-14）。モーセの律法はアロン神權の下に執行された。またそれは、従う人々をキリストに導く備えの福音であった。

わたしは初めの時のように、彼らに律法を授けよう。しかしそれは、肉の戒めの律法にかかわるものである、JS 出エ34:1-2。

律法はわたしたちをキリストに連れて行く養育掛^{よういくかけり}となった、ガラ3:19-24。

モーセの律法を守り、確固としてキリストを待ち望む、2ニフ25:24-30。モーセの律法だけでは救いは得られない、モサ12:27-13:32。わたしによつてモーセの律法は成就している、3ニフ9:17。モーセに与えられた律法は、わたしによって成就している、3ニフ15:1-10。

主はモーセと聖なる神權をイスラエル

黙示録（ヨハネの）

の民から取り上げ、肉の戒めの律法を与えた、教義84:23-27。

黙示文書「黙示録（ヨハネの）」参照

『新約聖書』の最後に収められている啓示の書。他の特筆すべき啓示を指してこのように呼ぶこともある。「明らかにされた」または「覆いを取った」を意味するギリシャ語が語源である。

黙示録（ヨハネの）「黙示文書」「ヨハネ（ゼベダイの子）」参照

『新約聖書』の中の最後の書。使徒ヨハネに与えられた啓示が載せられている。ヨハネは世界の歴史、特に終わりの時の状態を見ることを許された（黙示1:1-2；1ニフ14:18-27；教義77章）。

ヨハネは主の日にパトモス島でこの啓示を受けた（黙示1:9-10）。パトモス島はエペソからさほど遠くない、アジャの地の沖合にある。この啓示が与えられた正確な日時は不明である。

1ニーファイ14:18-27と教義と聖約77章（エテ4:15-16）には、黙示録を理解するための鍵が記されている。

第1-3章には、この書の序文と、アジヤの7つの教会への手紙が記されている。ヨハネは聖徒たちが幾つかの問題を解決できるよう助けを与えるためにこの手紙を書いた。第4-5章には、神とキリストの尊厳と義なる力を示す、ヨハネが受けた数々の示現が記録されている。第6-9、11章でヨハネは、7つの封印で封じられた巻き物を見たことを記録している。それぞれの封印は、地球の現世の歴史の各千年間を示している。これらの章には、第7の封印に含まれる出来事がおもに記されている（黙示8-9章；11:1-15）。第10章には、ヨハネが食べた巻き物のことが述べられている。この巻き物は、ヨハネが将来果たすべき使命を象徴している。第12章には、サタ

求める

ンが天で背いて投げ落とされたときに始まる悪についての示現が記録されている。天で始まったその戦いは、この地上でも続いている。第13、17-19章でヨハネは、サタンに支配された地上の諸々の邪悪な王国について述べ、悪の最終的な滅亡を含め、それらの国々の行く末を記録している。第14-16章には、キリストの再臨の直前に悪のただ中にあって義を守る聖徒たちのことが書かれている。第20-22章には、福千年、美しい新エルサレムの都、地球の歴史の最後に起こる出来事が書かれている。

求める 「祈り」 参照

問い合わせ、尋ねること。または、特別な恵みを神に請い願うこと。

求めよ、そうすれば、与えられるであろう、マタ7:7。知恵に不足している者があれば、神に、願い求めるがよい、**新ヤコ1:5**（**ジ—歴史1:7-20**）。

信仰をもってわたしに求めれば、**1ニフ15:11**。理解できないとすれば、それはあなたがたが求めないためである、**2ニフ32:4**。真心から求めなさい、**モサ4:10**。神は信仰をもって求める正当なものをすべて与えてくださる、**モサ4:21**。これが真実かどうか神に問うように、**モロ10:4**。

彼らは光よりも闇を愛している。そのため、彼らはわたしに求めようとしない、**教義10:21**。あなたがたはすべてのことについて、神に願い求めるように命じられている、**教義46:7**。

モルモン 「イエス・キリストの教会」「末日聖徒イエス・キリスト教会」 参照

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員を指す「モルモン」というニックネームは、この教会の会員でない人々が付けたものである。昔の預言者モルモンが編さ

んした『モルモン書』と題する神聖な書物がその由来である。しかし、この教会の会員を指すものとして主から与えられた名称は「聖徒」である。この教会の正しい名称は、末日聖徒イエス・キリスト教会である。

モルモン（ニーファイ人の預言者）「モルモン書」 参照

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の預言者、総司令官、記録者。モルモンは紀元311-385年ごろに生きていた（モル1:2, 6; 6:5-6; 8:2-3）。モルモンは15歳のときから、その生涯のほとんどを軍隊の指導者として過ごした（モル2:1-2; 3:8-12; 5:1; 8:2-3）。アマロンはモルモンに、記録の管理と作成の責任を引き受けるために自らを備えるように指示した（モル1:2-5; 2:17-18）。モルモンは自分の生涯の出来事を記録してから、モルモンの版に、ニーファイの大版を要約した。後にモルモンはこの神聖な記録を息子モロナイに託した。ジョセフ・スマスが『モルモン書』として翻訳した記録の一部がこの版である。

モルモンの言葉：『モルモン書』の中の小書。記録全体の編者であったモルモンは、オムナイ書にあるアマレカイの最後の言葉とモーサヤ書の最初の言葉の間に、この小さな書を挿入した（『モルモン書』卷頭の「『モルモン書』についての概説」を参照）。

モルモン書：『モルモン書』として知られる聖典の中に含まれる独立した1書。第1-2章には、ニーファイ人の預言者アマロンがモルモンに、いつ、どこで版を手に入れるように指示したかが書かれている。また、大規模な戦争が始まったこと、そして民の罪惡のために三人のニーファイ人が取り去られたことも記録

されている。第3-4章には、モルモンが民に悔い改めを叫んだものの、彼らの心が鈍く、過去のイスラエルよりもひどい悪事が広がっていたことが記録されている。第5-6章には、ニーファイ人とレーマン人の最後の戦争のことが記録されている。モルモンも多くのニーファイ人とともに殺された。第7章でモルモンは、死ぬ前に、当時の人々と将来の人々に向かって悔い改めを叫んでいる。第8-9章には、モルモンの息子モロナイが最後にただ一人残されたことが書かれている。モロナイは、ニーファイ人の滅亡を含めて、死と殺戮の最後の様子を記録し、また、将来の世の人々とこの記録の読者にあててメッセージを残した。

モルモン書 「エフライム—エフライムまたはヨセフの木」「金版」「証人（モルモン書の）」「スマス、ジョセフ、ジュニア」「正典」「聖文」「版」「モルモン（ニーファイ人の預言者）」参照

末日聖徒イエス・キリスト教会によつて聖典として受け入れられている4巻の聖典の一つ。アメリカ大陸に住んでいた昔の民の記録をモルモンという名の古代の預言者が要約した書。イエスがキリストであることを証するために書かれた。神の賜物と力によってこの記録を翻訳した預言者ジョセフ・スマスは、次のように語っている。「わたしは兄弟たちに言った。『モルモン書』はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にもまして神に近づくことができる。」（『モルモン書』序文を参照）

『モルモン書』は、旧世界からアメリカ大陸へ移住した3つの民の宗教上の記録である。これらの民を導いたのは預言者であり、彼らは金属版に宗教と世俗の歴史を記した。『モルモン書』には、イ

エス・キリストが復活の後にアメリカ大陸の住民を訪れられたことが記録されている。そのキリストの訪れの後、200年間平和な時代が続いた。

ニーファイ人の最後の預言者兼歴史記録者モロナイは、紀元421年ごろ、これらの民についての要約した記録を封じて隠した。復活したモロナイは、1823年にジョセフ・スマスを訪れ、後にこれらの昔の神聖な記録を彼に託し、それを翻訳させ、イエス・キリストのもう一つの証として世に出させた。

ヨセフは実を結ぶ若木。その枝は、かきねを越えるであろう、創世49:22-26。まことは地からはえ、詩篇85:11（モル8:16；モセ7:62）。主は旗をあげて遠くから一つの国民を招き、彼らを呼ばれる、イザ5:26。あなたの声は地から出、イザ29:4（2ニフ26:14-17）。このすべての幻は、あなたがたには封じた書物の言葉のようになり、イザ29:11（イザ29:9-18；2ニフ27:6-26）。ヨセフの木とユダの木は主の手で一つになる、エゼ37:15-20。

わたしにはまた、この囲いにいない他の羊がある、ヨハ10:16（3ニフ15:16-24）。

『モルモン書』と『聖書』が一つに合わされる、2ニフ3:12-21。主の言葉は地の果てまで響き渡る、2ニフ29:2。主は『モルモン書』をレーマン人に伝えるとエノスに聖約された、エノ1:15-16。『モルモン書』は、わたしたちに『聖書』を信じさせるために記録された、モル7:9。この書物は世の人々に対する証となる、エテ5:4。これが真実かどうか神に問うように、モロ10:4。

キリストは『モルモン書』が真実であると証された、教義17:6。『モルモン書』にはイエス・キリストの完全な福音が載っている、教義20:9（教義20:8-12；42:12）。

モロナイ（司令官）

わたしたちは『モルモン書』が神の言葉であると信じる、箇条1：8。

モロナイ（司令官）「自由の旗」参照

『モルモン書』の中の人物。紀元前100年ごろに生きていた、ニーファイ人の軍隊の司令官、義人。

モロナイはニーファイ人の全軍の司令官に任命された、アル43：16-17。自由のために戦うように、ニーファイ人の兵を奮い立たせた、アル43：48-50。自分の衣で自由の旗を作った、アル46：12-13。神の人であった、アル48：11-18。政府が国を守るのに冷淡であるということで腹を立てた、アル59：13。

モロナイ（モルモンの息子）「モルモン（ニーファイ人の預言者）」「モルモン書」参照

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の最後の預言者（紀元421年ごろ）。モルモンは死ぬ少し前に、モルモンの版という歴史記録を息子モロナイに渡し（モ言1：1），モロナイがそのモルモンの版の編さんを終えた。彼は、モルモン書に第8章と第9章を付け加え（モル8：1），エテル書を要約して版に加え（エテ1：1-2），さらにモロナイ書という自分自身の記録も付け加えた（モロ1章）。それから、版を封じて、クモラの丘に隠した（モル8：14；モロ10：2）。1823年、モロナイはジョセフ・スミスに『モルモン書』を現すために、復活体をもって遣わされた（教義27：5；ジー歴史1：30-42, 45）。モロナイは1823年から1827年にかけて、この若い預言者に毎年教えを授け（ジー歴史1：54），そしてついに1827年、彼に版を渡したのである（ジー歴史1：59）。ジョセフ・スミスは翻訳を終えた後、その版をモロ

ナイに返した。

モロナイ書：『モルモン書』の中の最後の書。ニーファイ人の最後の預言者モロナイによって書かれた。第1-3章には、ニーファイ人の最終的な滅亡と、聖靈と神権の授与についての教えが書かれている。第4-5章には、聖餐の具体的な執行方法が書かれている。第6章には、教会で行われていたことが要約されている。第7-8章は、福音の第一の原則についての説教であり、信仰、希望、慈愛、また善悪の判断の方法に関するモルモンの教えも含まれている（モロ7章）。また幼い子供たちはキリストによって生きており、バプテスマは不要であるとのモルモンの説明も書かれている（モロ8章）。第9章には、ニーファイ人の民の堕落が描かれている。第10章は、モロナイの最後のメッセージであり、『モルモン書』が真実であることを知るための方法も書かれている（モロ10：3-5）。

モロナイハ（司令官モロナイの息子）

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の司令官、義人（紀元前60年ごろ）。

モロナイは、軍の指揮権をモロナイハという名の息子の手にゆだねた、アル62：43。ゼラヘムラの町を取り返した、ヒラ1：33。ニーファイ人を悔い改めに導き、また所有地の半分を取り返した、ヒラ4：14-20。

約束の聖なる御靈「聖靈」参照

聖靈は約束の聖なる御靈である（使徒2：33）。聖靈は人の義にかなった行いや儀式、聖約を、神に受け入れられるものとして確認される。約束の聖なる御靈は、救いの儀式が適切に執行されたこと、またそれに伴う聖約が守られていることを御父に証される。

約束の聖なる御靈によって結び固められる人々は御父が持っておられるすべてを受ける、**教義 76：51-60**（エペ 1：13-14）。すべての聖約は、約束の聖なる御靈により結び固められなければ、次の世では効力がない、**教義 132：7, 18-19, 26。**

約束の地

主が忠実に従う者やその子孫に受け継ぎとして与えると約束された地。多くの約束の地がある。『モルモン書』でしばしば述べられている約束の地は、アメリカ大陸である。

わたしはあなたの子孫にこの地を与えます、**創世 12：7**（アブ 2：19）。わたしはあなたと後の子孫とにカナンの全地を与える、**創世 17：8**（創世 28：13）。モーセはカナンでイスラエルの地の境を定めた、**民数 34：1-12**（民数 27：12）。

約束の地に導かれるであろう、**1ニフ 2：20**（1ニフ 5：5）。主は義人を貴い地へ導き、**1ニフ 17：38**。神の戒めを守るかぎり、リーハイの子孫は約束の地で繁栄する、**2ニフ 1：5-9**。イスラエルはやがて自分たちの約束の地に帰る、**2ニフ 24：1-2**（イザ 14：1-2）。この地を所有する国民はどの国民も神に仕えなければならない。さもなければ、彼らは一掃される、**エテ 2：9-12**。

ここは約束の地であり、シオンの町のための場所である、**教義 57：2**。ユダの子らが、アブラハムに与えられた土地に帰り始めますように、**教義 109：64**。

新エルサレムがアメリカ大陸に築かれる、**箇条 1：10**。

ヤコブ（アルバヨの子）

イエスが地上で務めを果たしておられたときに選ばれた十二使徒の一人（マタ 10：3；マコ 3：18；ルカ 6：15；使徒 1：13）。

ヤコブ（イサクの息子）「イサク」「イスラエル」「エサウ」参照

『旧約聖書』の中の族長、預言者。イサクとリベカの間に生まれた双子のうちの弟（創世 25：19-26）。ヤコブは兄エサウに代わって長子の特権を得た。これはヤコブがふさわしい生活をし、聖約による結婚をした結果であった。一方、エサウは長子の特権を軽んじ、聖約外の結婚をした（創世 25：30-34；26：34-35；27章；28：6-9；ヘブ 12：16）。

リベカはエサウがヤコブに仕えるようになることを主から知らされた、**創世 25：23**。エサウから長子の特権を買った、**創世 25：29-34**。天に通じるはしごの夢を見た、**創世 28章**。レアならびにラケルと結婚した、**創世 29：1-30**。12人の息子と1人の娘をもうけた、**創世 29：31-30；24：35；16-20**。ビルハならびにジルバと結婚した、**創世 30：3-4, 9**。名をイスラエルと変えられた、**創世 32：28**。顔と顔をあわせて神を見た、**創世 32：30**。どの子よりもヨセフを愛した、**創世 37：3**。家族とともにエジプトへ行った、**創世 46：1-7**。息子たちとその子孫に祝福を授けた、**創世 49章**。ヤコブの死、**創世 49：33**。

戒めを守り、今はアブラハム、イサクとともに昇栄し、天の王座に着いている、**教義 132：37**。

ヤコブ（主の兄弟）

『新約聖書』の中の人物。主の兄弟（ガラ 1：19）。ほかにヨセフ、シモン、ユダという名の兄弟と幾人かの姉妹がいた（マタ 13：55-56；マコ 6：3；ユダ 1：1）。彼はまた、義人ヤコブとしても知られ、エルサレムの教会で重要な地位にあった（使徒 12：17；15：13；1コリ 15：7；ガラ 2：9-12）。ヤコブの手紙は、彼が書いたと思われる。

ヤコブ（ゼベダイの子）

ヤコブの手紙：『新約聖書』の中の1書。もともとは国外に離散しているイスラエルの十二部族にあてた手紙で、エルサレムから書き送ったと思われる。この手紙には、教える実践についての幾つかの事柄が明確に宣言されている。その一つに、知恵に不足している者は神に助けを求めるようにという、第1章の重要な助言もある（新ヤコ1：5-6；ジ—歴史1：9-20）。第2章には、信仰と行いについての記述がある。第3-4章には、舌を制する必要性と、互いに悪口を言い合ってはならないという聖徒への勧告が記されている。第5章には、忍耐強くあり、また病気のときは長老を呼んで祝福を求めるようにとの聖徒への勧めが記されている。さらに、人の改心を助けることによって得られる祝福についても教えられている。

ヤコブ（ゼベダイの子）

イエスが地上で務めを果たしておられたときに選ばれた十二使徒の一人。ヨハネの兄弟。ヤイロの娘の蘇生（マコ5：37）、変貌（マタ17：1；マコ9：2；ルカ9：28）、ゲツセマネ（マタ26：37；マコ14：33）など、幾つかの重要な場に、イエスとともにいるように選ばれた3人の使徒の一人。ペテロおよびヨハネとともに、ジョセフ・スマスとオリバー・カウドリを聖任することによって、地上にメルキゼデク神権を回復した（教義27：12；128：20；ジ—歴史1：72）。

ヤコブ（リーハイの息子）「リーハイ（ニーファイの父）」参照

『モルモン書』の中の預言者。ニーファイ第二書とヤコブ書に記されている幾つかの説教の著者（2ニフ6-11章；ヤコ1-7章）。

ヤコブ書：『モルモン書』の3番目の書。

第1章には、ニーファイがヤコブに記録を渡し、その後ヤコブとその弟ヨセフを民を導く祭司と教師に任せたことが記されている。第2-4章は、道徳的に清くあるように民を諭す説教である。ヤコブはまた、人類を贖うメシヤの来臨について教え、イスラエルの民の中に地上に来るメシヤを受け入れようとしない人々がいる理由を挙げている。第5-6章には、イスラエルの民の歴史と使命に関する預言的な比喩とヤコブの証が記されている。第7章には、シーレムという博学な反抗者についての話が載っている。シーレムはヤコブの神聖な証に打ち負かされた。

ヤペテ「ノア（族長）」参照

『旧約聖書』の中の人物。預言者ノアの長男（モセ8：12）。

ノアはヤペテをもうけた、創世5：32（創世6：10；モセ8：12）。ヤペテとその妻は箱舟に入った、創世7：13。箱舟から出た、創世9：18。神はヤペテを大いならしめ、創世9：27。

やもめ「福祉」参照

夫に先立たれ、再婚していない女性。

孤児と寡婦を呼んで、それを食べさせ、満足させなければならない、申命14：29。

あの貧しいやもめは、だれよりもたくさん入れたのだ。生活費全部を入れたからである、マコ12：41-44。困っている孤児や、やもめを見舞い、新ヤコ1：27。

主はやもめを虐げる者に対して速やかに証を立てられる、3ニフ24：5（ゼカ7：10）。

やもめと孤児を扶養しなければならない、教義83：6（教義136：8）。

ヤラベアム

『旧約聖書』の中の人物。分裂してできたイスラエルの北王国の初代の王。エフライムの部族。邪悪なヤラベアムはユダの家とダビデの家に対する反乱を指揮した。

ヤラベアムは、民が礼拝するようにダンとペテルに偶像を置いた。**列上 12:28-29**。ヤラベアムをアヒヤが叱責した。**列上 14:6-16**。ヤラベアムはイスラエルに恐ろしい罪を犯させたことで名を知られた、**列上 15:34**（**列上 12:30**）。

ヤレド 「ヤレド人」「ヤレドの兄弟」

参照

『モルモン書』の中の指導者。兄弟とともに、バベルの塔から西半球の約束の地へ民を率いた（エテ 1:33-2:1）。

ヤレドは彼の兄弟に、自分たちの家族と友人たちの言語を乱さないよう主に祈ってほしいと頼んだ、**エテ 1:34-37**。海辺まで旅をし、4年間そこに住んだ、**エテ 2:13**。約束の地へ船出した、**エテ 6:4-12**。

ヤレド人 「モルモン書」「ヤレド」「ヤレドの兄弟」 参照

『モルモン書』の中の民。ヤレドとヤレドの兄弟、また彼らの友人たちの子孫（エテ 1:33-41）。バベルの塔から約束の地であるアメリカ大陸へ神によって導かれた（エテ 1:42-43; 2-3 章; 6:1-18）。一時は何百万もの民がいたが、悪事に端を発した内乱によって全滅した（エテ 14-15 章）。

ヤレドの兄弟 「ヤレド」「ヤレド人」 参照

『モルモン書』の中の預言者。兄弟とともにバベルの塔から西半球の約束の地

へ民を導き、ヤレド人の國の基を築いた（エテ 1-6 章）。彼は、主と顔と顔を合わせて語るほど偉大な信仰を持っていた（教義 17:1）。彼についての話は、エテル書に記録されている。

ヤレドの兄弟は体の大きな強い人であり、主から大いに恵みを受けていた、**エテ 1:34**。信仰のゆえに、ヤレドの兄弟は主の指を見た、**エテ 3:6-9**（エテ 12:20）。キリストがヤレドの兄弟に御自分の靈体を示された、**エテ 3:13-20**。ヤレドの兄弟に明らかにされたこと以上に大いなることは、いまだかつて明らかにされたことがない、**エテ 4:4**。ヤレドの兄弟は王政について民に警告を発した、**エテ 6:22-23**。主はヤレドの兄弟にすべてのものをお見せになった、**エテ 12:21**。物を書き記す力のある者とされた、**エテ 12:24**。信仰によってゼリン山を動かした、**エテ 12:30**。

ヤング、ブリガム

この神権時代の初期の使徒。末日聖徒イエス・キリスト教会の第2代大管長。聖徒たちをイリノイ州ノーブーからソルトレーク盆地へ導いた。また合衆国西部の偉大な植民者であった。

十二使徒巡回評議会を管理する会長として召された、**教義 124:127**。その働きを褒められ、将来外国に旅をするのを免除される、**教義 126 章**。主は西部への旅のために聖徒たちを編制する方法についてブリガム・ヤングに指示を与えられた、**教義 136 章**。靈界で選ばれた者たちの中にいた、**教義 138:53**。

勇敢、勇気 「畏れ、恐れ」「信仰」 参照

恐れないこと。特に正しい行動をするのを恐れないこと。

強く、かつ勇ましくなければならない、

誘惑

申命 31:6 (ヨシ 1:6-7)。堅く立って、しるされていることを、ことごとく守つて行わなければならない、ヨシ 23:6。

神がわたしたちに下さったのは、臆する靈ではなく、**2 テモ 1:7**。

聞くや、心が奮い立ち、アル 15:4 (アル 62:1)。ヒラマンの息子たちは非常に勇敢であった、アル 53:20-21。わたしはこれまでこのようないいなる勇気を一度も見たことがありません、アル 56:45。

兄弟たちよ、勇気を出してください。勝利に向かって進み、進んでください、**教義 128:22**。

誘惑 「悪魔」「選択の自由」「堪え忍ぶ」
参照

悪を遠ざけ善を選ぶ力を試されること。罪を犯し、神ではなくサタンに従うように誘われること。

この大祭司は、わたしたちと同じよう誘惑に遭われた、**ヘブ 4:14-15**。

敵対する者の誘惑や火の矢も、彼らを打ち破って盲目とし、滅びに至らせることはない、**1 ニフ 15:24** (ヒラ 5:12)。人は、一方に誘われるか他方に誘われるかでなければ、思いのままに行動することはできなかった、**2 ニフ 2:11-16**。自分が耐えられないような誘惑を受けないように、目を覚ましていて絶えず祈りなさい、アル 13:28。主イエス・キリストを信じる信仰をもって、悪魔のあらゆる誘惑に立ち向かうように教えなさい、アル 37:33。わたしたちを誘ゆう惑わくに陥おちいらせることのないようにし、悪くからお救すくいください、**3 ニフ 13:12**。悪魔に誘惑されないように、常に祈らなくてはならない、**3 ニフ 18:15, 18** (教義 20:33; 31:12; 61:39)。

誘惑に陥ることのないように、高慢に

気をつけなさい、**教義 23:1**。アダムは誘惑に負けたので、悪魔の意に従うことになった、**教義 29:39-40**。

わたしはあらゆる誘惑を受けるに任せられた、**ジー歴史 1:28**。

行方の知れない部族 「イスラエル—行方の知れない十部族」 参照

ユダ 「イスラエル」「聖書」「ユダヤ人」
参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとレアの間に生まれた4番目の息子 (創世 29:35; 37:26-27; 43:3, 8; 44:16; 49:8)。ヤコブはユダに、彼が自分の子らの中にあって生まれながらの指導者となり、シロ (イエス・キリスト) がその子孫から出るであろうとの祝福を授けた (創世 49:10)。

ユダの部族：ユダの部族はカナンに定住した後、指導的役割を果たした。ユダと肩を並べる部族の筆頭はエフライムであった。モーセはユダの部族を祝福した (申命 33:7)。ソロモンの治世後、ユダの部族はユダ王国となった。

ユダ王国：ソロモンの領土は、エフライムとユダの部族間の嫉妬がおもな原因で、レハベアムの治世に二つの王国に分裂した。南王国すなわちユダ王国は、ユダの部族と、ベニヤミンの部族の半数以上を含み、エルサレムを都と定めた。ユダ王国は、エホバの礼拝においては総じて北王国よりも忠実であった。また、北方や東方からの攻撃にさらされることも少なかった。そして、その統治権は、バビロニア捕囚までダビデの一族の手にあった。人口や勢力において勝るイスラエル王国の滅亡後も、ユダ王国は135年間存続した。

ユダの木：これはユダの家の記録である『聖書』を指している (エゼ 37:15

－19)。終わりの時に、イスラエルの家から様々に分かれた民が集合するとき、彼らの神聖な記録もまた一つに集められる。これらの神聖な記録は互いに補い合い、一つの証となって、イエスがキリストであり、またイスラエルの神、全地の神であられることを宣言する (JS 創世 50:24-36 [付録]; 2ニフ 3:29 章)。

ユダ（イエスの兄弟）

『新約聖書』の中の人物。イエスの兄弟の一人。ユダの手紙の著者と思われる (マタ 13:55; ユダ 1:1)。

ユダの手紙:『新約聖書』の中の1書で、信仰が弱くなっているある聖徒たちにユダが書き送った手紙。その聖徒たちの信仰を弱めていたのは、彼らの中にあってクリスチャンと自称しながら、不道徳な異教礼拝を行い、自分たちは道德律の適用を受けないと主張する人々であった。ユダはこの聖徒たちの靈的危機感を目覚めさせ、信仰を守り通すように励ましを与えたようとした。

ユダの手紙の中で特によく知られているのは、第6節と第14-15節である。第6節には、天上の戦いと、またルシフェルとその使いが前世の状態から追い出されたことが記されており (アブ 3:26-28), 第14-15節には、エノクの述べた預言が引用されている。

ユダ（イスカリオテの）

『新約聖書』の中の人物。イエスが召された十二使徒の一人 (マタ 10:4; マコ 14:10; ヨハ 6:71; 12:4)。彼の姓イスカリオテは「ケリオテの人」の意味。ユダの部族の出身であり、当時の使徒の中でガリラヤ人でなかったのはユダだけであった。ユダは主を裏切った。

祭司長たちにキリストを引き渡し、銀貨30枚を受け取った、マタ 26:14-16

(ゼカ 11:12-13)。接吻して主を裏切った、マタ 26:47-50 (マコ 14:43-45; ルカ 22:47-48; ヨハ 18:2-5)。首をつって死んだ、マタ 27:5。サタンがユダに入った、ルカ 22:3 (ヨハ 13:2, 26-30)。ダビデはユダがイエスを裏切ることを預言していた、使徒 1:16 (詩篇 41:9)。

ユダ（ヤコブの兄弟）

『新約聖書』の中の人物。イエス・キリストが最初に召された十二使徒の一人 (ルカ 6:13-16)。このユダはタダイとも呼ばれていたと思われる (マタ 10:2-4)。

ユダの木 「ユダ—ユダの木」参照

ユダヤ人 「イスラエル」「ユダ」参照

ユダヤ人という言葉は次のような意味で用いられる。(1) ヤコブの12人の息子の一人であるユダの子孫。(2) 古代ユダ王国(南王国)の民。(3) 血統的にユダヤ人かどうかを問わず、ユダヤ教の教えや生活様式、伝統に従う人々。ユダヤ人という言葉でヤコブのすべての子孫を指すことが慣例となりつつあるが、これは誤りである。ユダヤ人という言葉は、ユダ王国の民、また現代においてはもっと限定的に、ユダの部族とそれに連合した部族の民を指すと考えるべきである。

つえはユダを離れず、シロの来る時までに及ぶであろう、創世 49:10。

キリストの福音は、ユダヤ人をはじめ、すべて信じる者に救を得させる神の力である、ロマ 1:16。

主なる神はユダヤ人の中に一人の預言者すなわちメシヤを立てられる、1ニフ 10:4。その書物がユダヤ人の口から出て来た当時は、書き記されたことは分かりやすく純粹であり、1ニフ 14:23。ユダヤ人はすべての国民の中に散らされる、2ニフ 25:15。ユダヤ人は昔主が聖

夢

約を交わされた民である。2ニフ29:4。散らされているユダヤ人もキリストを信じ始め、2ニフ30:7。ユダヤ人は、その上に建物を建てることのできる石を拒む、ヤコ4:14-16。ユダヤ人は、イエスがまことのキリストであることについて別の証人を与えられる、モル3:20-21。

終わりの時に、ユダヤ民族に対して二人の預言者が立てられる、教義77:15。まず異邦人へ、次いでユダヤ人へと、すべての国民に呼びかけなさい、教義133:8。

そのときには、ユダヤ人に大きな艱難が起こる、ジーマタ1:18。

夢「啓示」参照

神が地上の人々に御心を示すのに用いられる一つの方法。しかし、夢がすべて啓示というわけではない。靈感による夢は、信仰の結果として与えられるものである。

ヤコブは夢の中で天に達するはしごを見た、創世28:12。ヨセフは夢を見て、創世37:5。夢をもって、これと語るであろう、民数12:6。ネブカデネザルは夢を見、ダニ2:1-3。老人たちは夢を見、ヨエ2:28(使徒2:17)。

主の使が夢に現れて、マタ1:20(マタ2:19)。

リーハイは夢で見たことをたくさん書き記した、1ニフ1:16。リーハイは夢を見た、1ニフ8章。

**ゆる
赦されない罪** 「殺人」「聖靈」「冒瀆、
汚す罪」「滅びの子」参照

聖靈を否定する罪。この罪を犯す者は赦しを受けることができない。

聖靈を汚す言葉は、ゆるされることはない、マタ12:31-32(マコ3:29;ルカ12:10)。いったん聖靈にあづかる者

となりながら、ふたたび悔改めにたち帰ることは不可能である、ヘブ6:4-6。もしわたしたちが、真理の知識を受けたのちにもなお、ことさらに罪を犯しつづけるなら、罪のためのいけにえは、もはやあり得ない、ヘブ10:26。

あなたがその聖靈を否定するならば、しかも自分で聖靈を否定していることを知っているならば、これは赦されない罪である、アル39:5-6(ヤコ7:19)。

独り子を否定し、また独り子を自ら十字架につけた者たちは、赦されることはない、教義76:30-35。この世でもこの世の外でも赦されることのない、聖靈に対する冒瀆とは、新しくかつ永遠の聖約を受け入れた後に、罪のない者の血を流すことである、教義132:26-27。

**ゆる
赦し** 「悔い改め」「告白」「贖罪」「罪の赦し」参照

聖典に出てくる赦しという言葉は、一般に次の二つのうちのどちらかの意味で用いられる。(1) 神が人を赦すとは、罪に対して定められた罰を取り消し、破棄することである。罪の赦しは、キリストの贖罪を通して、悔い改めを行うすべての人に与えられる。しかし、殺人または聖靈に対する赦されない罪を犯した者は除外される。(2)人が互いに赦し合うとは、互いにキリストのような愛をもって接し、自分を傷つけた人に悪い感情を持たないことである(マタ5:43-45;6:12-15;ルカ17:3-4;1ニフ7:19-21)。

主は怒ることおそらく、いくしみに富み、罪とがをゆるす者、民数14:18。たといあなたがたの罪は絆のようであつても、雪のように白くなるのだ、イザ1:18。

わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもおゆるしください、マタ6:12(ルカ11:4;3ニフ13:11)。人の子は罪をゆるす

権威をもっている、マタ 9:6 (マタ 18:35; マコ 2:10; ルカ 5:20-24)。兄弟がわたしに対して罪を犯した場合、幾たびゆるさねばなりませんか、マタ 18:21-22 (教義 98:40)。聖靈をけがす者は、いつまでもゆるされず、マコ 3:29 (アル 39:6)。もしあなたの兄弟が悔い改めたら、ゆるしてやりなさい、ルカ 17:3。父よ、彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです、ルカ 23:34。

赦しを求めて祈るように勧めた、1ニフ 7:21。わたしたちが罪の赦しを受け心が清められるように、キリストの贖いの血の効力を及ぼしてください、モサ 4:2。もしその者があなたとわたしの前で罪を告白し、悔い改めるならば、その者をあなたは赦しなさい、モサ 26:29-31。

悔い改めて主の戒めを守る者は赦されるであろう、教義 1:32。心を尽くして鎌を入れなさい。そうすれば、あなたの罪は赦されて、教義 31:5 (教義 84:61)。自分の罪を悔い改めた者は赦され、主なるわたしはもうそれを思い起こさない、教義 58:42。わたしは、わたしが赦そうと思う者を赦す。しかし、あなたがたには、すべての人を赦すことが求められる、教義 64:10。あなたがたが互いに過ちを赦し合ったので、主なるわたしは同じようにななたがたを赦す、教義 82:1。わたしはまた愛する者たちを懲らしめる。それは、彼らの罪が赦されるためである、教義 95:1。

わたしはあなたの背きを赦した、モセ 6:53。

世 「死すべき状態」「地球（地）」「バビロン、バベル」参照

地球。死すべき人間が試しを受ける場所。象徴的な意味で、神の戒めに従わない人々。

死すべき状態：この世ではなやみがある、ヨハ 16:33。

死に至るまでも恐れてはならない。この世ではあなたがたの喜びは満たされない、教義 101:36。

戒めに従わない人々：わたしはその惡のために世を罰し、イザ 13:11 (2ニフ 23:11)。

もしこの世があなたがたを憎むならば、あなたがたよりも先にわたしを憎んだことを、知っておくがよい、ヨハ 15:18-19。

あの大きく広々とした建物が世の人々の高慢である、1ニフ 11:36。

見よ、世の罪悪は熟しつつある、教義 18:6。世の汚れに染まらずに、教義 59:9。忠実であって堪え忍ぶ者は、世に打ち勝つであろう、教義 63:47。世の方法によらずに、教義 95:13。

世の終わり：わたしは新しい地を創造する。さきの事はおぼえられることなく、イザ 65:17 (黙示 21:1; 箇条 1:10)。

毒麦が集められて火で焼かれるように、世の終りにもそのとおりになるであろう、マタ 13:40, 49 (マラ 4:1; ヤコ 6:3)。

わたしは自分の果樹園を火で焼かせよう、ヤコ 5:77 (教義 64:23-24)。

わたしは、世の終わりに、サタンと彼の業を滅ぼす、教義 19:3。地球は死ぬにもかかわらず、再び生かされる、教義 88:25-26。

世の終わりに至るまですべてのことを示された、モセ 7:67。

良い羊飼い 「イエス・キリスト」参照

イエス・キリストは良い羊飼いである。イエス・キリストに従う人は、象徴的な意味で、イエス・キリストの見守りを受けている羊ということができる。

主はわたしの牧者であって、詩篇 23:

養子縁組

1。主は牧者のようにその群れを養い、
イザ 40:11。わたしはわが羊を捜し出し、
エゼ 34:12。

わたしはよい羊飼であって、ヨハ 10:
14-15。イエスは羊の大牧者である、ヘ
ブ 13:20。

聖者はその羊を數えられ、羊は聖者
を知るようになります、1ニフ 22:25。
良い羊飼いはあなたがたを呼んでおら
れる、アル 5:38, 60。ついに一つの群
れ、一人の羊飼いとなるであろう、3ニ
フ 15:21 (ヨハ 10:16)。

養子縁組 「アブラハム—アブラハムの
子孫」「イスラエル」「神の息子、娘」
「キリストの子」参照

聖典には、2種類の養子縁組について
述べられている。

(1) イスラエルの血統に属さない人は、
イエス・キリストを信じ、悔い改め、水
に沈めるバプテスマを受け、聖靈を受ける
ことによって、アブラハムの家族とな
り、イスラエルの家の一員となる (2ニ
フ 31:17-18; 教義 84:73-74; アブ 2:
6, 10-11)。

(2) 福音の救いの儀式を受けた人は、
引き続き主の戒めに従うことによって、
イエス・キリストの息子、娘となる (ロ
マ 8:15-17; ガラ 3:24-29; 4:5-7;
モサ 5:7-8)。

幼児のバプテスマ 「子供」「救い—幼い
子供たちの救い」「責任を負う」「バプ
テスマ—幼児には不要」参照

8歳未満で責任能力がない乳児や子供
にバプテスマを施す不必要的慣行。主は
幼児のバプテスマを非難しておられる
(モロ 8:10-21)。子供は罪のない無垢
な状態で生まれてくる。サタンは、子供
が責任を負えるようになるまでは、彼ら
を誘惑する力を持たない (教義 29:46
-47)。したがって、幼児は悔い改めや

バプテスマの必要がない。子供は8歳で
バプテスマを受けるべきである (教義
68:25-27)。

ヨエル

『旧約聖書』の中の、ユダの地の預言者。
生没年は不明であるが、紀元前850年よ
り以前のヨアシの治世と、ユダ部族のバ
ビロニア捕囚からの帰還の間に生きていた
人物と思われる。

ヨエル書：この書の主題は、ユダの地
がひどい干ばつといなごによる被害を受
けた後にヨエルが発した預言の中に述べ
られている (ヨエ 1:4-20)。ヨエルは人々
に、悔い改めを通して再び神の祝福にあ
ずかれるようになると励ました (ヨエ 2:
12-14)。

第1章は、主の家における聖会の招
集である。第2章には、福千年に先立つ
て起こる戦争と荒廃が述べられている。
第3章は末日について述べ、すべての國
民が戦いをするが、最終的に主はシオン
に住まわれると断言している。

ペテロは五旬節の日に、人々に御靈
が注がれるというヨエルの預言を引用し
ている (ヨエ 2:28-32; 使徒 2:16-
21)。天使モロナイもこの聖句を引用し
てジョセフ・スミスに語った (ジ—歴史
1:41)。

欲望 「肉欲」参照

何かに対する不適切かつ強い願望。

彼女の麗しさを心に慕ってはならな
い、箴言 6:25。

情欲をいたいで女を見る者は、心の中
ですでに姦淫かんいんをしたのである、マタ 5:
28 (3ニフ 12:28)。男も互にその情欲
の炎を燃やし、ロマ 1:27。

ラバはわたしたちの持っているもの
を目にし、欲しくてたまらなくなった、
1ニフ 3:25。これからはもう自分の目

の欲を追うことなく、アル 39:3-4, 9。情欲を抱いて女を見る者は、信仰を否定するのであり、教義 42:23。すべてのみだらな欲望を捨てなさい、教義 88:121。

預言 「女預言者」「啓示」「聖見者」「預言者」参照

人が啓示によって聖靈から受ける神の靈感に満ちた言葉や記録。イエスの証は預言の靈である（黙示 19:10）。預言の内容は、過去、現在、未来を問わない。預言をする者は、神がその人に知つてほしいと望んでおられることを、自らのため、また人々のために語ったり記したりする。人は自分自身の生活のために、預言や啓示を受けることができる。

主の民がみな預言者となることは願わしいことだ、民数 11:29。あなたがたのむすこ、娘は預言をし、ヨエ 2:28（使徒 2:17-18）。主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされない、アモ 3:7。

聖書の預言はすべて、自分勝手に解釈すべきでない、2ペテ 1:20。

ニーファイ人は多くの啓示と預言の靈を受けられていた、ヤコ 4:6, 13。アルマとアミュレクはゼーズロムの心の思いを預言の靈によって知った、アル 12:7。主はもはや預言によって業を行われるとはないと言う者は、災いである、3ニフ 29:6。イザヤの預言を調べなさい、モル 8:23。

預言はすべて成就する、教義 1:37-38。

人は預言によって、神から召されなければならぬ、箇条 1:5。

預言者 「啓示」「聖見者」「長」「預言」参照

神によって召され、神に代わって語

る人。神の使いとして神から戒めや預言、啓示を受ける。その責任は、人類に神の御心と眞の属性を知らせるることと、人類に対する神の計らいの意図するところを示すことである。預言者は罪を非難し、罪のもたらす結果を予告する。預言者は義の説教者である。時には、人類のために将来について予告をするように靈感を受けることがある。しかしながら、預言者の本来の務めは、キリストについて証することである。末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長は、今日の地上における神の預言者である。大管長会と十二使徒会の会員は、預言者、聖見者、啓示者として支持される。

主の民がみな預言者となることは願わしいことだ、民数 11:29。もし、預言者があるならば、主なるわたしは幻をもって、これにわたしを知らせ、民数 12:6。主はすべての預言者によってイスラエルを戒め、列下 17:13（歴下 36:15-16；エレ 7:25）。あなたを立てて万国の預言者とした、エレ 1:5, 7。主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされない、アモ 3:7。

聖なる預言者たちの口によってお語りになった、ルカ 1:70（使徒 3:21）。預言者たちは皆、キリストを証した、使徒 10:43。神は教会の中で、人々を立てて、預言者とし、1コリ 12:28（エペ 4:11）。教会は使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられる、エペ 2:19-20。

民は預言者たちの言葉を拒んだ、1ニフ 3:17-18（2ニフ 26:3）。すべてのことは御靈によって預言者たちに知らされる、1ニフ 22:1-2。キリストは、聖なる預言者たちの口を通して語ってきたすべてのことを成就するために、ニーファイ人のもとに来られた、3ニフ 1:13（教義 42:39）。

預言者たちの言葉を心に留めようとし

預言者の塾

ない者たちが、民の中から絶たれる、**教義 1:14**。預言者たちの言葉を信じる人は永遠の命を得る、**教義 20:26**。あたかも主御自身の口から出ているかのように、預言者の言葉を受け入れなければならない、**教義 21:4-6**。啓示と戒めは、任命された人を通してのみ授けられる、**教義 43:1-7**。大管長の義務は、全教会を管理し、モーセのようであることであり、預言者となることである、**教義 107:91-92**。

わたしたちは、預言者があることを信じる、**箇条 1:6**。

預言者の塾 「スミス、ジョセフ、ジュニア」参照

主はジョセフ・スミスに、福音と神の王国にかかるすべてのことについて兄弟たちを訓練するために、1832年から1833年にかけての冬に、オハイオ州カートランドで一つの塾を組織するように命じられた。この塾から教会初期の数多くの指導者が出了。ミズーリ州ジャクソン郡では、パリーー・P・プラットが別に預言者あるいは長老の塾を開いた（**教義 97:1-6**）。聖徒たちが西部に移住して間もなく、同じような塾が幾つか開かれたが、短期間で姿を消した。福音は今日、家庭や神権定員会、様々な補助組織、また教会が経営する学校やセミナリー、インスティテュートのクラスで教えられている。

自らを聖め、互いに王国の教義を教え合わなければならぬ、教義 88:74-80。熱心に求め、互いに教え合いなさい、**教義 88:118-122**。預言者の塾の規律が定められる、**教義 88:127-141**。大管長会は預言者の塾の鍵を持つ、**教義 90:6-7**。

ヨシヤ

紀元前 641-610 年にかけて在位した

ユダの義にかなった王（列下 22-24 章；歴下 34-35 章）。彼の治世に、主の宮で律法の書が発見された（列下 22:8-13）。

ヨシャバテ

『旧約聖書』の中の人物。ユダの忠実な王（列上 15:24; 22 章）。

ヨシュア 「エリコ」参照

『旧約聖書』の中の人物。預言者、指導者、モーセの後継者。イスラエルの子らが脱出する以前にエジプトで生まれた（民数 14:26-31）。ヨシュアとカレブは、ほかの 10 人とともにカナンの地に斥候として送られた。カナンの地について良い報告をしたのは、ヨシュアとカレブだけであった（民数 13:8, 16-33; 14:1-10）。ヨシュアは 110 歳で世を去った（ヨシ 24:29）。ヨシュアは預言者と戦士の両方の務めを忠実に果たした偉大な模範であった。

ヨシュア記：この書はヨシュアの名を冠しているが、それは彼が主要な登場人物だからであり、ヨシュア自身がこれを記録したということではない。第 1-12 章はカナンの地の征服について述べたものであり、また、第 13-24 章には、イスラエルの部族が土地を分けたこととヨシュアの最後の勧告が記されている。

ヨシュア記で特によく知られている二つの箇所は、聖文について深く考えるようにとのヨシュアに与えられた主の戒め（ヨシ 1:8）と、主に忠実であるようにとのヨシュアの呼びかけ（ヨシ 24:15）である。

ヨセフ（アリマタヤの）

アリマタヤのヨセフはサンヒドリンの議員であるとともに、キリストの弟子でもあった。裕福で忠実なイスラエル人で

あり、主への罪の宣告には関与しなかつた。十字架の刑の後、ヨセフは救い主の遺体をきれいな亜麻布で包み、岩を掘つて造った自分の墓に納めた（マタ 27：57-60；マコ 15：43-46；ルカ 23：50-53；ヨハ 19：38-42）。

ヨセフ（マリヤの夫）「イエス・キリスト」「マリヤ（イエスの母）」参照

イエスの母マリヤの夫。ヨセフはダビデの子孫で（マタ 1：1-16；ルカ 3：23-38）、ナザレに住んでいた。ヨセフはマリヤと婚約していた。結婚を間近に控えたあるとき、マリヤは天使ガブリエルの訪れを受け、救い主の母になる者として選ばれたことを告げられた（ルカ 1：26-35）。ヨセフもまた、救い主の降誕について啓示を受けた（マタ 1：20-25）。

マリヤは、この世におけるイエスの親としては唯一の人である。父なる神がイエスの父だからである。しかし、ユダヤ人たちはヨセフをイエスの父親であると考え、イエス自身もヨセフにそのように接した（ルカ 2：48, 51）。夢の中で天使から警告を受けたヨセフは、エジプトへ逃れて幼子イエスの命を守った（マタ 2：13-14）。ヘロデの死後、天使はヨセフに、幼いキリストを連れてイスラエルに帰るように告げた（マタ 2：19-23）。

ヨセフ（ヤコブの息子）「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとラケルの間に生まれた最初の息子（創世 30：22-24；37：3）。

ヤコブの最初の妻の長子ルベンが過ちを犯してイスラエルの長子の特権を失つたので、ヨセフはその特権を得た（歴上 5：1-2）。ヨセフはふさわしかったので、ヤコブの2番目の妻の長子として、次に

その祝福にあずかる順位にいたのである。ヨセフはまた、父ヤコブが死ぬ直前に、彼から祝福を受けた（創世 49：22-26）。

ヨセフは高潔で「さとく賢い」人物であった（創世 41：39）。ポテパルの妻の誘惑を拒んだことは、信仰、純潔、高潔の模範である（創世 39：7-12）。ヨセフはエジプトで兄たちに自分がだれかを明かしたとき、彼らが行ったことを責めず、逆に感謝の気持ちを示した。兄たちの行いが、神の御心を成就する助けになつたと信じていたのである（創世 45：4-15）。

末日の啓示は、終わりの時にヨセフの子孫が果たすさらに大きな使命を明らかにしている（JS 創世 50：24-38 [付録]；2ニフ 3：3-24；3ニフ 20：25-27）。

ヤコブはヨセフを深く愛して、彼のために長そでの着物を作った、創世 37：3。ヨセフの兄たちは、ねたみからヨセフを憎んで殺そうとしたが、結局エジプトへ行く途中の商人たちに彼を売り渡した、創世 37：5-36。主はエジプトでヨセフを栄えさせ、彼はポテパルの家をつかさどる者となった、創世 39：1-4。ポテパルの妻はヨセフが自分を誘惑しようとしたと、うそをつき、ヨセフは無実の罪で投獄された、創世 39：7-20。ヨセフはパロの給仕役と料理役の夢を解き明かした、創世 40章。パロは自分の夢を解き明かしたヨセフを重んじるようになり、エジプト全国のつかさとした、創世 41：14-45。マナセとエフライムをもうけた、創世 41：50-52。父や兄弟を迎えて入れた、創世 45-46章。エジプトにおいて、110歳で死んだ、創世 50：22-26。

ヨセフの木「エフライム—エフライムまたはヨセフの木」「モルモン書」参照

ヨナ 「ニネベ」参照

旧約の預言者。ニネベの町に対して悔い改めを説くよう、主に召された（ヨナ1：1-2）。

ヨナ書：ヨナの生涯の出来事を記した『旧約聖書』の中の1書。この書はヨナ自身が記したものではないと思われる。ヨナ書の主題は、エホバは全地を治める御方であり、一つの国または民だけを偏愛する御方ではないということである。

第1章には、主がニネベに教えを宣べる召しをヨナに与えられたことが書かれている。ヨナは主から命じられたことに従わず、船で逃げたが、大きな魚にのみ込まれた。第2章には、ヨナが主に祈り、魚がヨナを陸に吐き出したことと書かれている。第3章には、ヨナがニネベに行き、滅亡を預言したことが書かれている。この結果、人々は悔い改めた。そして第4章には、ニネベの民が救われたことで怒っているヨナに対する主の叱責の言葉が記されている。

イエスは、ヨナが魚にのみ込まれたことは御自身の死と復活のしるしであると教えられた（マタ12：39-40；16：4；ルカ11：29-30）。

ヨナタン 「サウル（イスラエルの王）」「ダビデ」参照

『旧約聖書』の中の人物。イスラエルの王サウルの息子。ダビデの親友であった（サ上13-23；31章）。

予任せ 「前世」参照

雄々しい靈の子供たちに現世で、ある使命を果たさせるために、神が前世で行わされた聖任。

神は民の境を定められた、申命32：8。わたしはあなたをまだ胎につくらないさきに、あなたを預言者とした、エレ1：5。

神はそれぞれに時代を区分された、使徒17：26。神はあらかじめ知っておられる者たちを、あらかじめ定めて下さった、ロマ8：28-30。天地の造られる前から、キリストにあってわたしたちを選び、エペ1：3-4。イエス・キリストは^{おがな}頼い主として予任された、1ペテ1：19-20（黙示13：8）。

祭司たちは世の初めから召され、備えられていた、アル13：1-9。

わたしは、初めに選ばれた、高潔で偉大な者たちを見た、教義138：55-56。

初めからわたし^がが愛し選んだ者であるわたしの愛する子、モセ4：2。アブラハムは生まれる前に選ばれた、アブ3：23。

世の終わり 「世一世の終わり」参照

ヨハネ（ゼベダイの子）「使徒」「福音書」「身を変えられた人」「メルキゼデク神権」「黙示録（ヨハネの）」参照

『新約聖書』の中の十二使徒の一人。ゼベダイの子で、ヤコブの兄弟。初めは漁師であった（マコ1：17-20）。ヨハネ1：40に出てくる名前の分からないバブテスマのヨハネの弟子は、このヨハネと思われる。後にイエス・キリストの弟子となる召しを受けた（マタ4：21-22；ルカ5：1-11）。ヨハネによる福音書と3つの手紙、それに黙示録は、彼の手によるものである。彼は、ヤイロの娘の蘇生（マコ5：35-42）、変貌の山（マタ17：1-9）、ゲツセマネ（マタ26：36-46）にイエスとともにいた3人の弟子の一人である。ヨハネは自らの記録の中で自分自身を、イエスの愛された者（ヨハ13：23；21：20），また「もうひとりの弟子」（ヨハ20：2-8）と述べている。またイエスは、ヨハネとその兄弟をボアネルグ、すなわち「雷の子」（マコ3：17）と呼ばれた。十字架の刑と復活に関する記述

の中には、ヨハネについての言及が数多く見受けられる（ルカ22：8；ヨハ18：15；19：26-27；20：2-8；21：1-2）。ヨハネは後にパトモス島に流刑になり、そこで黙示録を書いた（黙示1：9）。

ヨハネの名は、末日の啓示の中で何度も述べられている（ニフ14：18-27；3ニフ28：6；エテ4：16；教義7章；27：12；61：14；77章；88：141）。これらの聖句は、『聖書』のヨハネの記録を確認するとともに、彼が新約の時代と終わりの時に地上でなすように主から託された業の重要性と、彼自身の偉大さについても理解を与えてくれる。末日の聖典は、ヨハネが死んでおらず、主の再臨の時まで奉仕の僕として地上にとどまるのを許されたことを明らかにしている（ヨハ21：20-23；3ニフ28：6-7；教義7章）。

ヨハネの手紙：この3つの手紙の著者は自分自身の名前を挙げていないが、言葉遣いが使徒ヨハネと非常によく似ているために、ヨハネによって書かれたと推測されている。

第一の手紙の第1章は、神との交わりにあずかるようにとの聖徒への勧告である。第2章は、聖徒が神を知るのは従順によることを強調し、世を愛さないよううにと教えている。第3章は、すべての人に対して、神の子となり、互いに愛し合うように呼びかけている。第4章では、神は愛であり、御自身を愛する者の中に住まわれることが説かれている。また第5章では、聖徒とはキリストを信じることによって神から生まれた者であることが説かれている。

第二の手紙は第一の手紙とよく似ている。ヨハネはこの手紙の中で、「選ばれた婦人」の子供たちが従順であることに喜びを表している。

第三の手紙では、忠実さと、真理を愛する人々を助けたことについて、ガイ

オという人物をたたえている。

ヨハネによる福音書：『新約聖書』のこの書の中で、使徒ヨハネは以下の事柄を証している。（1）イエスはキリスト、すなわちメシヤである。（2）イエスは神の御子である（ヨハ20：31）。ヨハネはこの目的を念頭に置いて、イエスの生涯の中の様々な出来事を慎重に選び、配列した。この書は、キリストは神とともにあり、神であり、万物の創造主であった、という前世におけるキリストの状態についての言葉で始まる。キリストは御父の独り子として肉体をもってお生まれになった。ヨハネはイエスの神性と死者の中からの復活を特に強調しながら、イエスの働きの跡をたどった。ヨハネは、奇跡や証、預言者の言葉、キリスト御自身の声を証拠として、イエスが神の御子であると断言している。またヨハネは、光と闇、真理と誤り、善と惡、神と悪魔を対比しながら教えている。イエスの聖さと支配階級のユダヤ人の不信仰をこれほど分かりやすく述べた記録は、ほかにないであろう。

マタイやマルコ、ルカがガリラヤにおけるキリストの働きに重きを置いて書いているのに対し、ヨハネはユダヤにおける働き、特にこの世で過ごされた最後の週に重きを置いている。この福音書に記録されている幾つかのことが、末日の啓示の中で明確にされた（教義7章；88：138-141）。

ヨハネによる福音書に述べられていく救い主の生涯における出来事の一覧については、付録の「福音書対観表」を参照。

黙示録：「黙示録（ヨハネの）」の項を参照

ヨハネ（バプテスマの） 「アロン神権」「エライアス」参照

『新約聖書』の中の人物。ザカリヤとエリサベツの息子。ヨハネは、人々にメ

ヨブ

シヤを受け入れる備えをさせるために遣わされた（ヨハ1：19-27）。アロン神権の鍵を持ち、イエス・キリストにバブテスマを施した。

イザヤをはじめ、預言者たちはヨハネの使命について預言した。イザ40:3（マラ3:1;1ニフ10:7-10;2ニフ31:4）。

獄に入れられ、首をはねられた、マタ14:3-12（マコ6:17-29）。ガブリエルはザカリヤに、ヨハネの誕生とその働きについて伝えた、ルカ1:5-25。イエスは、バブテスマのヨハネは偉大な預言者であると教えられた、ルカ7:24-28。イエスを神の子であると証した、ヨハ1:29-34。ヨハネの弟子たちはイエスの弟子となった、ヨハ1:25-29, 35-42（使徒1:21-22）。ヨハネはなんのしも行わなかった、ヨハ10:41。

復活した者として、ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリをアロン神権に聖任するために遣わされた、教義13章（教義27:7-8；ジー歴史1:68-72）。生後8日で神の天使によって聖任された、教義84:28。

ヨブ

『旧約聖書』の中の人物。非常な苦しみを受けながらも、忠実に神への信仰の中に踏みとどまつた義人。その話はヨブ記に記されている。

ヨブ記：この書はヨブの苦難についての記録であるが、ヨブ（あるいはだれか他の人）の苦しみ、ならびに家族や財産の喪失の理由が何かという問い合わせに対して、すべての答えを与えていたわけではない。ヨブ記が明らかにしているのは、苦難は必ずしもその人が罪を犯した結果として受けるのではないということである。主は苦難を罰としてだけではなく、経験や訓練や教育を与えるためにも用いられる（教義122章）。

ヨブ記は4部に分けることができる。第1-2章は全体の序である。第3-31章には、ヨブと3人の友人の間で交わされた一連の対話が記録されている。第32-37章には、4人目の友エリフの語ったことが載っている。エリフは初めの3人とは異なる理由を挙げてヨブを非難した。第38-42章はこの書の結びであり、ヨブは自分の生き方が初めから正しいものであったという確認を得ている。

ヨブ記は、神について正しい知識を持ち、神に受け入れられる生活をするなら、訪れる試練にさらによく耐えられるであろうということを教えている。ヨブの不屈の信仰は、「神がわたしを殺されても、わたしは神を信頼する」（KJヨブ13:15）という言葉によく表れている。ヨブについては、エゼキエル書14:14；新約ヤコブ5:11；教義と聖約121:10でも言及されている。

ヨルダン川

ガリラヤの海から死海に向かって流れる川。ヘルモン山からの幾つかのわき水を集め、約160kmの長さがある。イスラエルで最も重要な川である。

この川にまつわる二つの重要な出来事として、イスラエルの民のために主が川の水をせき止められたこと（ヨシ3:14-17）と、イエス・キリストのバブテスマ（マタ3:13-17;1ニフ10:9）がある。

喜び 「従順、従う」参照

義にかなった生活から得られる非常に幸せな状態。現世の目的はすべての人が喜びを得ることである（2ニフ2:22-25）。満ちみちる喜びは、イエス・キリストを通してのみ得られる（ヨハ15:11；教義93:33-34;101:36）。

柔軟な者は主によって新たなる喜びを得、イザ29:19（2ニフ27:30）。

大きな喜びを、あなたがたに伝える。ルカ2:10。その喜びをあなたがたから取り去る者はいない、ヨハ16:22。御靈の実は、愛、喜び、平和、ガラ5:22。

その木の実を食べると、わたしの心は非常に大きな喜びに満たされた、1ニフ8:12。人が存在するのは喜びを得るためにある、2ニフ2:25。義人の喜びはとこしえに満たされる、2ニフ9:18。彼らは、決して終わりのない幸福な状態で神とともに住める、モサ2:41。この大きな喜びを得るために、わたしは持ち物をすべて捨てよう、アル22:15。神の御手に使われる者となって幾人かでも悔い改めに導けること、これがわたしの誇りであり、喜びである、アル29:9。何という喜びであったことか。何という驚くべき光をわたしは見たことか、アル36:20。

わたしの御靈はあなたの靈に喜びを満たすであろう、教義11:13。父の王国で彼とともに受けたあなたがたの喜びはいかに大きいことか、教義18:15-16。この世ではあなたがたの喜びは満たされないが、わたしにあってあなたがたの喜びは満たされるからである、教義101:36。

わたしはこの世で喜びを受け、モセ5:10-11。

弱さ 「謙遜」参照

死すべき状態にあって、能力や体力、技能が不足していること。弱さは死すべき状態に必ず伴うものである。人は皆弱い存在であり、義にかなったことを行う力を受けるのは、ただ神の恵みによる(ヤコ4:6-7)。この弱さは、個人の短所やもろさとなって表れることがある。

あなたがたは弱った手を強くし、イザ35:3-4。

心は熱しているが、肉体が弱いのである、マタ26:41(マコ14:38)。

肉においてのわたしの弱さのためにあると申し開きをしよう、1ニフ19:6。わたしが、弱点があるにもかかわらず、これらのこと書き記すように命じられた、2ニフ33:11。あなたの僕があなたの御前にあって弱いからということで、あなたの僕をお怒りにならないでください、エテ3:2。わたしたちの物を書き記す力が弱いので、異邦人はこれらのことあざけるでしょう、エテ12:23-25, 40。わたしは彼らに各々の弱さを示そう、エテ12:27-28。あなたは自分の弱さを認めたので、強くされて、エテ12:37。

あなたがたの中の弱い者は、この後、強くされるであろう、教義50:16。イエス・キリストは人の弱さを知っておられる、教義62:1。

ラケル 「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブの妻(創世29-31; 35章)。ヨセフとベニヤミンの母。

ラザロ 「マリヤ(ベタニヤの)」「マルタ」参照

『新約聖書』の中の人物。マルタとマリヤの兄弟。イエスはラザロを蘇生させられた(ヨハ11:1-44; 12:1-2, 9-11)。イエスが教えられたとえに登場する物乞いのラザロとは別の人物(ルカ16:19-31)。

ラバン（真鑑版の保管者）「真鑑版」参照

『モルモン書』の中の人物。リーハイと同時代にエルサレムで真鑑版を保管していた。ニーファイとその兄弟たちから財宝を奪い取り、彼らを殺そうとした(1

ラバン（リベカの兄）

ニフ3:1-27)。ニーファイはその版を手に入れるため、ラバンを殺すように御靈に促された（1ニフ4:1-26）。

ラバン（リベカの兄）「リベカ」参照

『旧約聖書』の中の人物。リベカの兄。ヤコブの妻となったレアとラケルの父（創世24:29-60;27:43-44;28:1-5;29:4-29;30:25-42;31章）。

ラファエル「天使」参照

万物の回復に関わった主の天使（教義128:21）。

ラミアンプトム

『モルモン書』に出てくる高い台。ゾラム人と呼ばれた背教したニーファイ人たちがこの台に上って祈った（アル31:8-14, 21）。

ラモーナイ「アンモン（モーサヤの息子）」参照

『モルモン書』の中の人物。レーマン人の王。主の御靈と、アンモンの靈感に満ちた働きと教えによって改宗した（アル17-19章）。

リアホナ

『モルモン書』に出てくる真鑑^{しんぢゅう}製の球。羅針盤のように方角を示す2本の指針が付いていた。また、リーハイとその一行が義にかなっていたときには、彼らに靈的な指示も与えた。主はリアホナを授けるとともに、それを通して様々な指示を与えられたのである。

純良な真鑑でできていた、その球の内部には2本の指針がある、1ニフ16:10。人々の信仰と熱意と注意力に応じて働いた、1ニフ16:28-29（アル37:40）。ベニヤミンはその球を息子にゆだねた、モサ1:16。その球すなわち指示

器はリアホナと呼ばれた、アル37:38。リアホナはキリストの言葉にたとえられた、アル37:43-45。

『モルモン書』の三人の証人は、リーハイが授かった指示器を目にする、教義17:1。

リーハイ（ニーファイ人の軍隊の司令官）

『モルモン書』の中の人物。ニーファイ人の軍隊の司令官（アル43:35-53;49:16-17;52:27-36;53:2:61:15-21）。

リーハイ（ニーファイ人の宣教師）「ヒラマン（ヒラマンの息子）」参照

『モルモン書』の中の人物。ヒラマンの息子であるヒラマンの息子。偉大な宣教師であった（ヒラ3:21:4:14）。

先祖を思い起こせるように、リーハイと名付けられた、ヒラ5:4-6。ニーファイとともに、多くの人を改心させ、投獄され、火に閉まれ、天使と語った、ヒラ5:14-48。日々多くの啓示を受けていた、ヒラ11:23。

リーハイ（ニーファイの父）

『モルモン書』中のヘブライ人の預言者。紀元前600年ごろに家族と自分に同行する人々を、エルサレムから西半球の約束の地へと導いた。リーハイは、『モルモン書』に登場する民の最初の預言者であった。

主の命令により、家族とともにエルサレムを脱出した（1ニフ2:1-4）。エジプトに売られたヨセフの子孫であった（1ニフ5:14）。主は彼に命の木の示現をお与えになった（1ニフ8:2-35）。リーハイとその息子たちは1隻の船を造り、西半球へ向けて船出した（1ニフ17-18章）。リーハイとその子孫は新たな地に定住した（1ニフ18:23-25）。死を前

にして、息子たちに祝福を授け、キリストについて、また末日に『モルモン書』が出されることについて教えた（2ニフ1：1-4：12）。

リーハイ書：ジョセフ・スミスは『モルモン書』の翻訳に際して、まずリーハイ書から始めた。これは、モルモンがリーハイの版から要約した記録であった。この書を原稿の116ページ分まで翻訳したジョセフは、短期間自分の筆記者として働いたマーティン・ハリスにその原稿を貸し与えた。そして、その原稿は失われてしまった。ジョセフはその分をリーハイ書から再翻訳せず、金版から関連のあるほかの部分を別に翻訳した（教義3章と10章の前書きを参照）。この別の翻訳が『モルモン書』の最初の6つの書である。

リウエル 「エテロ」参照

理解 「真理」「知恵」「知識」参照

生活への応用という点も含めて、真理について知り、その意味を把握すること。

あなたが何を得るにしても、悟りを得よ、箴言4：7。

イエスは多くのたとえを語られたが、ある人々はそれを理解できなかった、マタ13：12-17。イエスは彼らの心を開いて、ルカ24：45。

あなたがたが理解できないとすれば、それはあなたがたが求めないためである、2ニフ32：4（3ニフ17：3）。これらのものが残されたのは、これを読んで神の奥義を理解するためであって、モサ1：2-5。彼らは自分の不信仰のために、神の言葉を理解できなかった、モサ26：3。彼らは正しい理解力を備えた人々であり、アル17：2-3。これはわたしの心を広げ、わたしの理解力に光を注ぎ、アル32：28。

あなたがたが理解できるように、わたしたちは論じ合おう、教義50：10-12、19-23。親は子供に、理解するよう教えなければならない、^{みたま}教義68：25。主の業と奥義は、聖なる御靈の力によってのみ理解することができる、教義76：114-116。サタンが彼らの心を真理からそらそうとしている、教義78：10。キリストの光はわたしたちの理解を活気づける、教義88：11。

リグドン、シドニー

回復された当教会の初期の改宗者。1830年代から1840年代初頭にかけての指導者。大管長会の第一顧問として一時期ジョセフ・スミスに仕えた（教義35章；58：50、57：63；55-56；76：11-12、19-23；90：6；93：44；100：9-11；124：126）。後に背教し、1844年9月に破門された。

離婚 「結婚」参照

国法あるいは宗教上の律法により婚姻関係を解消すること。『新約聖書』によると、神は人々の心がかたくなであったため、幾つかの条件の下に離婚を許された。しかし、イエスが説かれたように、「初めからそうではなかった」のである（マタ19：3-12）。聖典では一般に、離婚をしないようにとの勧告がなされ、夫と妻に対して、義をもって互いに愛し合うようにとの助言が与えられている（1コリ7：10-12；教義42：22）。

離散 「イスラエル—イスラエルの散乱」参照

律法 「戒め（神の）」「従順、従う」「祝福」「モーセの律法」参照

神が定められた戒め、あるいは定め。天においても地上においても、祝福や罰はすべて律法に基づいて与えられる。神

律法学者

の律法に従う人々は約束された祝福を受ける。預言者ヨセフ・スミスは、人は国法にも従い、それを尊び、支持しなければならないと教えた（箇条1：12）。

モーセの律法は、人々をキリストに導くための備えの律法であった。モーセの律法は、制限的規定や規則、儀式を定めたものであった。モーセの律法を成就した現在のキリストの律法は、完全な福音すなわち「完全な自由の律法」（新ヤコ1：25）である。

神はアダムに数々の戒めを与えられた、創世1：28；2：16-17。神はノアに律法を与えられた、創世9：1。主のおきては完全であって、魂を生きかえらせ、詩篇19：7。

立法者であるかたは、ただひとりであって、新ヤコ4：12。

律法がないところには罰がない、2ニフ9：25。律法が与えられている、アル42：17-22。人は律法により裁かれる、アル42：23。キリストは律法である、3ニフ15：9。

律法はすべて靈にかかるものである、教義29：34。ヨセフ・スミスは啓示により教会の律法を授けられた、教義42章。神の律法を守る者は、その地の法律を破る必要がない、教義58：21。キリストの光は万物を治める律法である、教義88：7-13。神は万物に律法を与えられた、教義88：42-43。人々は国の法律を守らなければならない、教義98：4-5。神から祝福を受けるときは、それが基づく律法に従うことによる、教義130：20-21。教会がこの世の法律に関する所信を宣言した、教義134章。

全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得る、箇条1：3。

律法学者

旧約の時代に聖文を筆写する務めを持っていた「書記」（エレ8：8）が、後

に律法を解釈する者になり、新約の時代には「律法学者」と呼ばれるようになつた（マタ13：52；マコ2：16-17；11：17-18；ルカ11：44-53；20：46-47）。

リバティーの監獄、ミズーリ州（アメリカ合衆国）「スミス、ヨセフ、ジュニア」参照

1838年11月から1839年4月にかけて、預言者ヨセフ・スミスと幾人かの人々が不当に収監された小さな監獄。この困難な状況の中で、ヨセフ・スミスは幾つかの啓示を受け、預言をし、聖徒たちに重要な手紙を書き送るように靈感を受けた。それらの一部が教義と聖約第121-123章に収められている。

リベカ 「イサク」参照

『旧約聖書』の中の人物。族長イサクの妻（創世24-27章）。エサウとヤコブの母（創世25：23-26）。

リムハイ 「ノア（ゼニフの息子）」参照

『モルモン書』の中の人物。ニーフアイの地に住んでいたニーファイ人の義にかなった王。ノア王の息子（モサ7：7-9）。リムハイ王は神に仕えるという聖約を交わした（モサ21：32）。リムハイは民をレーマン人の束縛から導き出し、ゼラヘムラに帰った（モサ22章）。

良心 「光、キリストの光」参照

すべての人にキリストの光から来る心の中の善惡の感覺（モロ7：16）。キリストの光がすべての人に与えられているので、人は生まれながらに善惡をわきまえる能力を持っている（教義84：46）。人はこの能力があるために、責任を負う存在となっている。他の能力と同じように、良心も罪や誤用によってその働きが鈍くなることがある。

律法学者たちやパリサイ人たちは良心のとがめを感じた、ヨハ8：9。彼らの良心も共にあかしをして、ロマ2：14-15。背教者は良心に焼き印を押されている、1テモ4：2。

人は善悪をわきまえることを十分に教えられている、2ニフ2：5。ペニヤミン王は神の前で澄んだ良心を持っていた、モサ2：15。ニーファイ人は良心の安らぎを得たので、喜びに満たされた、モサ4：3。ゼーズロムは、自分の罪を自覚して心をひどく苦しめた、アル14：6。喜びを望もうと良心のとがめを望もうと、自分の望むままに与えられる、アル29：5。罰が定められ、公正な律法が与えられて、それらが人に良心のとがめを生じさせた、アル42：18。善悪をわきまえることができるよう、すべての人にキリストの御靈みたまが与えられている、モロ7：16。

各個人は良心の自由な行使が保証されなければならない、教義134：2。わたしの良心は責められることがない、教義135：4。

わたしたちは、自分の良心の命じるところに全能の神を礼拝する特権があると主張し、箇条1：11。

ルカ 「使徒行伝」「福音書」参照

『新約聖書』のルカによる福音書と使徒行伝の著者。パウロの伝道の同僚。ギリシャ人を両親として生まれ、医者であった（コロ4：14）。ルカはかなりの教育を受けた人物であった。彼自身の言葉によると、トロアスで使徒パウロと合流し、その同僚になったという（使徒16：10-11）。パウロのエルサレムへの最後の旅においても、ルカはピリビでパウロと行動を共にした（使徒20：6）。また二人は、ローマに着くまで一緒にいた

（2テモ4：11）。言い伝えによると、彼らは殉教したことである。

ルカによる福音書：ルカがイエス・キリストとその現世の働きについて書いた記録。使徒行伝は、ルカによる福音書の続編である。ルカは、イエスがユダヤ人にとっても異邦人にとっても救い主であることを述べ、イエスの働きについて詳細な記録を残した。ルカはイエスの教えと行きについて多くのことを書き記した。ルカによる福音書のみに記述が見られるものとして、以下のものが挙げられる。ザカリヤとマリヤへのガブリエルの訪れ（ルカ1章）、幼な子イエスへの羊飼いの来訪（ルカ2：8-18）、イエスが12歳のときの神殿での出来事（ルカ2：41-52）、七十人の選任と派遣（KJルカ10：1-24）、イエスが血の汗を流されたこと（ルカ22：44）、十字架上でのイエスと犯罪人の会話（ルカ23：39-43）、イエスが復活後に魚を食べられたこと（ルカ24：42-43）。

ルカによる福音書に述べられている救い主の生涯における出来事の一覧については、付録の「福音書対観表」を参照。

ルシフェル 「悪魔」「地獄」「反キリスト」「滅びの子」「滅ぼす者」参照

ルシフェルという言葉には、「光り輝く者」あるいは「光を持つ者」の意味がある。「暁の子」としても知られている。ルシフェルは天の御父の靈の息子の一人であり、前世で反逆を指揮した。ルシフェルという名が『聖書』に出てくるのはイザヤ14：12に1度だけであるが、日本語訳『聖書』では「黎明の子」と訳されている。末日の啓示は、ルシフェルの墮落についてさらに詳細に伝えている（教義76：25-29）。

前世で落ちてしまった、イザ14:12（ルカ10：18；2ニフ24：12）。

ルツ

落とされてから、サタンすなわち悪魔となつた。教義 76:25-29 (モセ 4:1-4)。

ルツ 「ボアズ」参照

『旧約聖書』の中の人物。モアブ人。イスラエル人であるナオミとエリメレクの息子の妻。夫の死後、ルツはナオミの親戚ボアズと再婚した。ルツとボアズの子オベデは、ダビデとキリストの先祖に当たる。ルツの物語は、イスラエル人でない者が改心してイスラエルの群れに加わった次第を美しく描いている。ルツは自分の神や生活を捨てて、イスラエルの神に仕え、その信仰の家族に加わったのである (ルツ 1:16)。

ルツ記：第1章には、モアブでのエリメレクとその家族の生活が描かれている。夫たちの死後、ナオミとルツはベツレヘムに移った。第2章には、ルツがボアズの畠で落ち穂拾いをしたことが述べられている。第3章には、ナオミがルツに打ち場へ行ってボアズの足もとで寝るように告げたことが書かれている。第4章は、ルツとボアズの結婚について記している。二人はオベデという息子を得た。ダビデとキリストはこのオベデの子孫である。

ルベン 「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとレアの長男（創世 29:32; 37:21-22, 29; 42:22, 37）。ルベンは長子であったが、罪のために長子の特権を失った（創世 35:22; 49:3-4）。

ルベンの部族：ヤコブがルベンに授けた祝福は、創世 49:3 と申命 33:6 に記されている。この部族は民の数が次第に減り、部族としては存続したものの、政治的な影響力は低下していった。ルベンの長子の特権は、ヨセフがヤコブの2番

目の妻ラケルの長男であったため、ヨセフとその子孫に移った（歴上 5:1-2）。

レア 「ヤコブ（イサクの息子）」「ラバン（リベカの兄）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ラバンの長女。ヤコブの妻の一人（創世 29 章）。レアは6人の息子と1人の娘の母となった（創世 29:31-35; 30:17-21）。

靈 「死（肉体の）」「人」「人（靈を持つ存在としての）」「復活」参照

現世に生まれる前に存在し、現世で肉体に宿り、死後復活の時まで分離した状態で生きて存在する要素。すべての生き物、すなわち、人間や動物、植物は、地上に生物が存在する前に靈として存在していた（創世 2:4-5；モセ 3:4-7）。靈体の形は肉体に似ている（1ニヒ 11:11；エテ 3:15-16；教義 77:2; 129 章）。靈は物質であるが、この世の元素や物質より微細すなわち純粹である（教義 131:7）。

人は皆文字どおり神の息子、娘であり、地上の肉による両親のもとに生まれる前に、天の両親の間に靈として誕生している（ヘブ 12:9）。地上に生を受けている人は皆、骨肉の体のほかに不滅の靈の体を持っている。聖典の中で何度も定義されているように、靈と肉体が一つになって靈を持つ存在としての人が形成されているのである（創世 2:7；教義 88:15；モセ 3:7, 9, 19；アブ 5:7）。靈は肉体がなくても生きることができるが、肉体は靈なしに生きられない（新ヤコ 2:26）。肉体の死とは、靈が肉体から分離することである。復活の時に、靈はかつて現世で結びついていた同じ骨肉の体と再結合するが、復活体は次の二つの点で現世の体と著しく異なる。第1に、靈と肉体が再び分離することは決してなく、第2に、その体は不死不滅で完全な

状態である（アル 11：45；教義 138：16－17）。

靈には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ、ルカ 24：39。御靈みづから、わたしたちの靈と共に、わたしたちが神の子であることわかしして下さる、ロマ 8：16。自分の体をもって、また自分の靈をもって、神の栄光を表しなさい、KJ1コリ 6：20。

この体は、わたしの靈の体である、エテ 3：16。

人は靈である、教義 93：33。キリストはパラダイスの義人の靈の中で教えを授けられた、教義 138：28－30（1ペテ 3：18－19）。

あなたがたは水と血と、靈とによってこの世に生まれ、モセ 6：59。神は靈であったこれらの者の中に立って、アブ 3：23。

惡靈：イエスは多くの惡靈を追い出された、マコ 1：27、34、39。けがれた靈よ、この人から出て行け、マコ 5：2－13。

惡靈は祈ってはならないと人に教える、2ニフ 32：8。彼は、イエスの名によつて惡靈と汚れた靈を追い出し、3ニフ 7：19。

偽りの靈である多くの靈があり、世人々を欺いている、教義 50：2、31－32。ジョセフ・スミスは、靈が神からのものか惡魔からのものかを見分ける3つの鍵について説明した、教義 129 章。

靈界 「地獄」「前世」「パラダイス」参照

靈感 「啓示」「聖靈」参照

神から与えられる神聖な導き。靈感は御靈により、しばしば様々な方法で人の思いと心にもたらされる。

火の後に静かな細い声が聞えた、列上 19：12。

聖靈は、あなたがたにすべてのことを教え、ヨハ 14：26。真理の御靈は、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれる、ヨハ 16：13。

わたしは、前もって自分のなすべきことを知らないまま、御靈に導かれて行った、1ニフ 4：6。主の声がわたしの思いに告げて、エノ 1：10。善を行いうように誘い、促すものはすべて、神の靈感を受けているのである、モロ 7：13－16。

わたしはあなたの思いに平安を告げなかつたであろうか、教義 6：23。わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう、教義 8：2。わたしの御靈はあなたの思いを照らし、あなたの靈に喜びを満たすであろう、教義 11：13。あなたが語り、また書き記すべきことは、まさにその瞬間にあなたに与えられるであろう、教義 24：6（教義 84：85）。静かな細い声は万物を貫き通してささやく、教義 85：6。

靈の獄 「地獄」参照

靈の死 「死（靈の）」参照

靈の創造 「創造、創造する」「人」参照

主は万物を物質的に創造する前に、靈的に創造された（モセ 3：5）。

植物が地にある前に、主はそれらを造られた、創世 2：4－6（アブ 5：5）。

わたしの御靈の力によって、わたしは靈的なものと物質的なものの両方についてすべてのものを創造した、教義 29：31－32。現世のものは靈のものの形である、教義 77：2。

わたしは世界を造り、また人々を、彼らが肉体にある前に造った、モセ 6：51。

礼拝 「神、神会」参照

神への愛や敬虔な思い、奉仕、献身（教

レーマン

義 20:19)。礼拝には、祈りや断食、教会での奉仕、福音の儀式に加わること、また神への献身と愛を示す行いも含まれる。

あなたはわたしのほかに、なにものでも神としてはならない、出エ 20:3(出エ 32:1-8, 19-35; 詩篇 81:9)。

靈とまこととをもって父を礼拝する、ヨハ 4:23。天と地とを造られたかたを、伏し拝め、黙示 14:7(教義 133:38-39)。

あなたがたの勢力と思いと力を尽くし、キリストを拝さなければならない、2ニフ 25:29。キリストを信じ、キリストの名によって御父を拝した、ヤコ 4:5。ゼノスは、人はどのような所にいても、祈り、礼拝しなければならないと教えた、アル 33:3-11。どこにいても靈とまことをもって神を礼拝するように、アル 34:38。彼らはイエスの足もとに伏して、イエスを拝した、3ニフ 11:17。

すべての人は悔い改めてイエス・キリストの名を信じ、イエス・キリストの名によって御父を礼拝し、教義 20:29。あなたがたが礼拝する方法を理解して知り、また自分が礼拝するものを知ることによって、教義 93:19。

わたしはこの唯一の神のみを礼拝する、モセ 1:12-20。わたしたちは、全能の神を礼拝する特権があると主張し、箇条 1:11。

レーマン 「リーハイ(ニーファイの父)」「レーマン人」参照

『モルモン書』の中の人物。リーハイとサライアの長男。ニーファイの長兄(1ニフ 2:5)。レーマンは善よりも悪を選ぶ傾向が強かった。

レーマンは多くのことで父に対してつぶやいた、1ニフ 2:11-12。義人である弟のニーファイに背いた、1ニフ 7:6

(1ニフ 3:28-29)。リーハイの示現の中で、命の木の実を食べなかった、1ニフ 8:35-36。のろいがレーマンと彼に従う者たちに下された、2ニフ 5:21(アル 3:7)。

レーマン人 「ニーファイ人」「モルモン書」「レーマン」参照

『モルモン書』の中の民。その多くはリーハイの長男レーマンの子孫である。レーマン人は、ニーファイとその子孫から不当な扱いを受けたと考えていた(モサ 10:11-17)。その結果、彼らはニーファイ人に敵対し、しばしば福音の教えを拒んだ。しかし、キリスト降誕の直前に、レーマン人は福音を受け入れ、ニーファイ人よりも義にかなった民になった(ヒラ 6:34-36)。キリストのアメリカ大陸への訪れから200年後、レーマン人とニーファイ人はともに悪魔的な民となり、互いに戦うようになった。紀元400年ごろに、レーマン人はニーファイ人の国家を完全に滅ぼした。

ニーファイの子孫を打ち負かした、1ニフ 12:19-20。ニーファイ人を憎んだ、2ニフ 5:14。ニーファイ人にとって鞭となる、2ニフ 5:25。『モルモン書』はレーマン人に、彼らの先祖とキリストの福音についての知識を再び得させる、2ニフ 30:3-6(『モルモン書』のタイトルページ)。

レーマン人はユダヤ人の残りの者である、教義 19:27。主の大いなる日が来る前に、レーマン人はばらのように花咲くであろう、教義 49:24。

歴代志

『旧約聖書』の中の2書。天地創造から始まり、クロスが布告によってユダヤ人のエルサレム帰還を許したとき年至るまで、数々の出来事を簡潔に記した歴史

記録。

歴代志上：第1-9章には、アダムからサウルに至るまでの系図が記されている。第10章にはサウルの死、第11-22章にはダビデの統治に関連する出来事が記録されている。第23-27章にはソロモンの王位継承とレビ人の職務編成、第28章にはダビデがソロモンに与えた神殿建設の命令、第29章にはダビデの死が記録されている。

歴代志下：第1-9章には、ソロモンの統治に関連する出来事が記録されている。第10-12章には、イスラエル統一王国が南王国と北王国に分裂した、ソロモンの息子レハベアムの治世について記録されている。第13-36章には、ネブカデネザルによりユダ王国が征服されるまでの様々な王の統治が記録されている。そして、囚われの状態のユダの子らにエルサレム帰還を許したクロス王の布告で締めくくられている。

列王紀

『旧約聖書』の中の2書。列王紀には、ダビデ王の4番目の息子アドニヤの反乱（紀元前1015年ごろ）から、ユダが最終的に捕囚となるまで（紀元前586年ごろ）のイスラエルの歴史が描かれている。また、王国の分裂からアッシリア（アッスリヤ）によって北の地に連れ去られて捕囚となるまでの北王国（イスラエルの十部族）の全歴史が含まれている。付録の「年表」も参照。

列王紀上：第1章には、ダビデの晩年が描かれている。第2-11章には、ソロモン王の生涯が記録されている。第12-16章には、ソロモンの後を継いで王となったレハベアムとヤラベアムのことが述べられている。ヤラベアムはイスラエル王国の分裂を引き起こした。

また、その他の王たちのことも記されている。第17-21章には、イスラエルの王アハブへの勧告など、エリヤの働きの一部が書かれている。第22章には、アハブとユダの王ヨシャバテが同盟して行ったシリヤとの戦争が記録されている。預言者ミカヤは王たちに下る災いを預言した。

列王紀下：列王下1:1-2:11には、エリヤのことが引き続き述べられている。第2-9章には、信仰と偉大な力によるエリシャの働きが記されている。第10章には、エヒウ王について、また彼がアハブの家とバアルの祭司たちをどのようにして滅ぼしたかが述べられている。第11-13章には、ヨアシの義にかなった治世と、エリシャの死が記録されている。第14-17章には、イスラエルやユダを治めた王たちのことが述べられている。彼らは邪悪な統治をすることが多かった。第15章には、イスラエルの十部族がアッシリア（アッスリヤ）の捕囚となったことが記録されている。第18-20章には、ユダの王ヒゼキヤの義にかなった生き方と、預言者イザヤのことが記されている。第21-23章には、マナセ王とヨシヤ王のことが述べられている。言い伝えによると、イザヤの殉教を引き起こしたのはマナセである。ヨシヤは義にかなった王で、ユダヤ人の間に律法を再び確立した。第24-25章には、バビロニア捕囚のことが記されている。

レハベアム 「ソロモン」 参照

『旧約聖書』の中の人物。ソロモン王の息子。父の後を継ぎ、エルサレムで17年間統治した（列上11:43; 14:21, 31）。レハベアムの治世に、王国は北のイスラエル王国と南のユダ王国に分裂した（列上11:31-36; 12:19-20）。レハベアムはユダ王国を治めた。

レビ

レビ 「イスラエル」「ヤコブ（イサクの息子）」参照

『旧約聖書』の中の人物。ヤコブとレアの間に生まれた3番目の息子（創世29：34；35：23）。レビはイスラエルの一つの部族の始祖となった。

レビの部族：ヤコブはレビとその子孫に祝福を授けた（創世49：5-7, 28）。レビの子孫はイスラエルの聖所における務めを果たした（民数1：47-54）。アロンはレビ人で、彼の子孫は祭司であった（出エ6：16-20；28：1-4；29章）。レビ人は祭司であるアロンの息子たちを助けた（民数3：5-10；列上8：4）。レビ人は時には音楽を奏したり（歴上15：16；ネヘ11：22）、犠牲の動物をほふつたりしたが（歴下29：34；エズ6：20），普通は神殿の務めを果たしていた（ネヘ11：16）。レビ人は主の務めをなす者としてささげられ、イスラエルの子らのための儀式を執行した。レビ人自身が、イスラエルの子らに代わってささげられたのである（民数8：11-22）。それによってレビ人は長子の身代わりとして主にささげられ、特別に神に属する者となったのである（民数8：16）。彼らは聖別はされなかつたが、その務めのために清められた（民数8：7-16）。レビ人はカナンで受け継ぎの土地を持たなかつたが（民数18：23-24），十分の一（民数18：21）と，48の町（民数35：6）と，祭日に民の施しにあづかる権利（申命12：18-19；14：27-29）を受けた。

レビ記 「五書」参照

『旧約聖書』の中の1書。イスラエルの祭司の義務について述べたもの。神の聖さと，神の民が聖い者となるために守るべき掟を強調している。この書の目的は、儀式を通して、モーセの律法の中の道徳的概念と宗教的真理を教えることに

ある。レビ記はモーセによって書かれた。第1-7章には、犠牲の儀式が説明されている。第8-10章には、祭司を聖別するために行う儀式が説明されている。第11章には、食べてよいものとよくないもの、また、清いものと汚れているものについての説明がある。第12章には、産後の女性に関する規定が記されている。第13-15章には、汚れの清めに関する規定が記されている。第16章には、贖罪の日に行う儀式が記されている。第17-26章には、信仰生活、社会生活上の規定が記されている。第27章には、主がイスラエルに、収穫物や家畜をささげるよう命じられたことが書かれている。

レビ神權 「アロン神權」参照

レムエル 「リーハイ（ニーファイの父）」「レーマン」「レーマン人」参照

『モルモン書』の中の人物。リーハイの次男。ニーファイの兄の一人。レーマンと一緒にになってニーファイに反対した。

リーハイはレムエルに、谷のように確固としているように諭した、1ニフ2：10。ニーファイに腹を立て、レーマンの言葉に聞き従った、1ニフ3：28。レムエル人はレーマン人の中に数えられた、ヤコ1：13-14（アル47：35）。

ローマ 「ローマ帝国」参照

『新約聖書』に出てくるローマ帝国の首都（使徒18：2；19：21；23：11）。イタリアのティベル川沿いに築かれた。パウロはローマ政府の下で囚われの身となっていたときに、ローマで福音を教えた（使徒28：14-31；ロマ1：7, 15-16）。

ローマ帝国 「ローマ」参照

古代ローマの帝国。使徒の時代に、ロー

マ帝国は世界の一大勢力であった。ユーフラテス川、ドナウ川、ライン川、大西洋、サハラ砂漠に囲まれた全域を領有していた。パレスチナは紀元前63年ポンペイウスのエルサレム攻略により、ローマの属州となった。ローマ人はユダヤ人に数多くの特権を与えたが、ユダヤ人はローマの統治を嫌い、絶えず反乱を起こした。

ローマ市民であったパウロは、帝国内で最も広く話されていたギリシャ語を用いて、福音を帝国中に宣べ伝えた。

カイザルのものはカイザルに返しなさい、マタ22:17-22。パウロはローマ市民としての権利を主張した、使徒16:37-39(使徒22:25-29)。

ローマ人への手紙 「パウロ」「パウロの手紙」参照

『新約聖書』の中の1書。パウロがローマの聖徒たちに書き送った手紙。パウロはエルサレムへ行くことを考えていたが、その旅が危険なものとなるのは確実であった。パウロは危機を脱したら、その後でローマに行くことを望んでいた。この手紙には、ローマに着いたときに自分を受け入れる備えを教会員にさせる意図が含まれていた。またこの手紙には論争的になっていた幾つかの教義に関する明確な主張が載っていると考えられている。パウロはそれらの問題については最終的な決着がついていると考えていた。

第1章には、ローマ人へのパウロのあいさつが書かれている。第2-11章では、信仰や行い、憐れみの教義について幾つ

かの主張がなされている。第12-16章には、愛、義務、聖さについての実際的な教えが述べられている。

ロト 「アブラハム」参照

『旧約聖書』の中の人物。ハランの息子で、アブラハムのおい(創世11:27, 31; アブ2:4)。ハランはウルの地で飢餓のために死んだ(アブ2:1)。ロトはアブラハム、サラとともにウルを去り、カナンへの旅に出た(創世12:4-5)。ロトは自ら選んでソドムに住んだ。主はロトに使いを送り、民の悪事のゆえにソドムを滅ぼすに先立ち、ソドムから逃れるように警告された(創世13:8-13; 19:1, 13, 15)。しかし、振り返ってソドムの滅亡を見たロトの妻は塩の柱となつた(創世19:26)。『新約聖書』にはロトについての幾つかの記述がある(ルカ17:29; 2ペテ2:6-7)。アブラハムと別れてから後のロトの生涯については、創世13:14; 19章に描かれている。

わたしは有る 「イエス・キリスト」「エホバ」参照

主イエス・キリストの呼び名の一つ。

神はモーセに言われた、「わたしは、有って有る者」、出エ3:14-15。わたしは主である、出エ6:2-3。

アブラハムの生れる前からわたしはある、ヨハ8:56-59。

わたしは有るという大いなる者、イエス・キリストの声を聴きなさい、教義29:1(教義38:1; 39:1)。

年表

以下の略年表によって『聖書』と『モルモン書』の時代の出来事の流れをある程度理解することができる。その年代、特に旧約の時代の年代については、多くがおよその年代である。

古代族長時代の出来事（この区分に入る出来事の正確な年代特定は困難であるため、年数表記はしていない。）

紀元前

4000 アダムの墮落

エノクの働き

ノアの働き；洪水が地を覆う

バベルの塔が建てられる；ヤレド人、約束の地に向かって旅をする

メルキゼデクの働き

ノアの死

アブラム（アブラハム）の誕生

イサクの誕生

ヤコブの誕生

ヨセフの誕生

ヨセフがエジプトに売られる

ヨセフ、パロの前に出る

ヤコブ（イスラエル）と家族がエジプトに下って行く

ヤコブ（イスラエル）の死

ヨセフの死

モーセの誕生

モーセがエジプトからイスラエルの子らを導き出す（出エジプト）

モーセ、身を変えられる

ヨシュアの死

ヨシュアの死後、士師の時代が始まる。最初の士師はオテニエル、最後の士師はサムエル。その他の士師の順序と時期は明確ではない

サウルが油を注がれて王となる

イスラエル統一王国の出来事

1095 サウルの治世が始まる

1063 ダビデがサムエルにより王として油を注がれる

1055 ダビデがヘブロンで王となる

1047 ダビデがエルサレムで王となる；ナタンとガドが預言をする

1015 ソロモンが全イスラエルの王となる

- 991 神殿が完成する
 975 ソロモンの死；北の10の部族がソロモンの息子レハベアムに対して反乱を起こし、イスラエルが分裂する

イスラエル王国の出来事	ユダ王国の出来事	『モルモン書』の歴史中の出来事
975 ヤラベアムがイスラエルの王となる	949 エジプトの王シシャクがエルサレムを略奪する	
875 アハブがサマリヤでイスラエル北部を統治する；エリヤが預言をする		
851 エリシャが偉大な奇跡を行う		
792 アモスが預言をする		
790 ヨナとホセアが預言をする	740 イザヤが預言を始める；(ローマ建国；ナボナサル, バビロンの王として在位(747年)；ティグラテピレスル3世, アッシリアの王として在位(747-734年))	
721 北王国の滅亡；10の部族はとら囚とら囚われの身となる；ミカが預言をする	728 ヒゼキヤ, ユダの王となる；(シャルマネセル4世, アッシリアの王として在位)	
		642 ナホムが預言をする

イスラエル王国の出来事	ユダ王国の出来事	『モルモン書』の歴史中の出来事
	628 エレミヤとゼバニヤが預言をする	
	609 オバデヤが預言をする；ダニエルがバビロンへ捕囚として連行される；(ニネベが606年に陥落する；ネブカデネザルがバビロンの王として在位(604-561年))	
		600 リーハイがエルサレムをたつ
	598 エゼキエルがバビロンで預言をする；ハバククが預言をする；ゼデキヤ、ユダの王となる	
		588 ミュレクが約束の地を目指してエルサレムをたつ
		588 ニーファイ人がレーマン人から分かれる(588-570)
	587 ネブカデネザルがエルサレムを占領する	

ユダヤの歴史中の出来事	『モルモン書』の歴史中の出来事
537 クロスがユダヤ人にバビロンからの帰国を許す布告を出す	
520 ハガイとゼカリヤが預言をする	
486 エステルの働き	
458 エズラが任じられて改革を行う	
444 ネヘミヤがユダヤの総督に任命される	
432 マラキが預言をする	
	400 ジェロムが版を受け継ぐ
	360 オムナイが版を受け継ぐ

ユダヤの歴史中の出来事	『モルモン書』の歴史中の出来事
332 アレクサンドロス大王がシリアとエジプトを征服する	
323 アレクサンドロスの死	
277 『七十人訳聖書』(ユダヤ人の『聖書』のギリシャ語訳)の翻訳が始まる	
167 マカベア家のマッタティアがシリアに反乱を起こす	
166 ユダ・マカベアがユダヤ人の指導者になる	
165 神殿が清められ、再奉獻される：ハヌカー祭の始まり	
161 ユダ・マカベアの死	
63 ポンペイウスがエルサレムを征服し、マカベア家によるイスラエル統治が終わり、ローマ帝国による統治が始まる	148 アビナダイの殉教；アルマがニーファイ人の間に教会を再建する
51 クレオパトラの支配	124 ベニヤミンがニーファイ人に最後の説教をする
41 ヘロデとファサエルがユダヤの共同領主に任じられる	100 息子アルマとモーサヤの息子たちが働きを始める
37 ヘロデがエルサレムの指導者となる	91 ニーファイ人の間でさばきつかさの統治が始まる
31 アクティウムの海戦；アウグストゥス（アウグスト），ローマ皇帝として在位（前31－後14）	
30 クレオパトラの死	
17 ヘロデが神殿を修復する	6 レーマン人サムエルがキリストの降誕を預言する

キリスト教徒の歴史における出来事		『モルモン書』の歴史中の出来事
紀元	紀元	
	イエス・キリストの降誕	
30	キリストの働きが始まる	
33	キリストの十字架刑	33 または 34 復活されたキリストのアメリカ大陸への訪れ
35	パウロの改宗	
45	パウロが最初の伝道の旅に出る	
58	パウロがローマに送られる	
61	使徒行伝の歴史が終わる	
62	ローマの大火；ネロがキリスト教徒を迫害する	
70	キリスト教徒はペラに逃れる；エルサレムは包囲され、占領される	
95	ドミティアヌスがキリスト教徒を迫害する	
		385 ニーファイの民の滅亡
		421 モロナイが版を隠す

福音書対観表

マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの福音書に書かれている救い主の教えを相互に、また末日の啓示と比較対照すると次のようになる。

出来事	マタイ	マルコ	ルカ	ヨハネ	末日の啓示
イエスの系図	1 : 1-17		3 : 23-38		
バプテスマの ヨハネの誕生			1 : 5-25, 57-58		
イエスの誕生	2 : 1-15		2 : 6-7		1 ニフ 11 : 18- 20 : 2 ニフ 17 : 14 : モサ 3 : 5-8 : アル 7 : 10 : ヒラ 14 : 5-12 : 3 ニフ 1 : 4-22
シメオンとアンナの預言			2 : 25-39		
宮もうで (^{すゑこし} 過越の祭)			2 : 41-50		
ヨハネの働きの開始	3 : 1, 5-6 1 : 4		3 : 1-3		教義 35 : 4 : 84 : 27-28
イエスのバプテスマ	3 : 13-17 1 : 9-11	3 : 21-22	1 : 31-34	1 ニフ 10 : 7- 10 : 2 ニフ 31 : 4-21	
イエス、誘惑を受ける	4 : 1-11	1 : 12-13	4 : 1-13		
バプテスマの ヨハネの証				1 : 15-36	教義 93 : 6-18, 26
カナの婚礼 (イエスの最 初の奇跡)				2 : 1-11	
最初の宮清め				2 : 14-17	
ニコデモの来訪				3 : 1-21	
井戸端のサマリヤの女				4 : 1-42	
イエス、ナザレで 拒まる			4 : 16-30		
人間をとるように召され た漁師	4 : 18-22	1 : 16-20			
網が魚でいっぱいになっ た奇跡			5 : 1-11		

出来事	マタイ	マルコ	ルカ	ヨハネ	末日の啓示
十二使徒、召され 聖任される	10:1-4	3:13-19	6:12-16		1ニフ 13:24- 26, 39-41; 教義 95:4
山上の垂訓	5-7章		6:17-49		3ニフ 12-14章
主の祈り	6:5-15		11:1-4		3ニフ 13:5-15
やもめの息子の蘇生 <small>よせい</small>			7:11-15		
イエス、女により香油を 塗られる			7:36-50		
イエスのたとえは、日常の事物や出来事を真理になぞらえた短い物語である。イエスはたとえを用いてしばしば靈的真理を教えられた。					
種まき:	13:3-9, 18-23	4:3-9, 14-20	8:4-8, 11-15		
毒麦:	13:24-30, 36-43				教義 86:1-7
からし種:	13:31-32	4:30-32	13:18-19		
パン種:	13:33		13:20-21		
畑に隠してある宝:	13:44				
高価な真珠:	13:45-46				
魚を囲み入れる網:	13:47-50				
一家の主人:	13:51-52				
無慈悲な僕 <small>じちべ</small> :	18:23-35				
良い羊飼い:				10:1-21	3ニフ 15:17-24
良いサマリヤ人:			10:25-37		
婚宴の席での謙虚:			14:7-11		
盛大な晚餐会:			14:12-24		
迷い出た羊:	18:12-14 も参照		15:1-7		
なくした銀貨:			15:8-10		
放蕩息子 <small>ほうとう</small> :			15:11-32		
不正な家令:			16:1-13		
ラザロと金持ち:			16:14-15, 19-31		

出来事	マタイ	マルコ	ルカ	ヨハネ	末日の啓示
不義な裁判官：			18:1-8		
ぶどう園の労働者： ふたりの子：	20:1-16 も参照	10:31			
ミナ：			19:11-27		
悪い農夫たち：	21:33-46	12:1-12	20:9-19		
王子の婚宴：	22:1-14		14:7-24と 比較		
10人のおとめ：	25:1-13		12:35-36 も参照		教義 45:56-59
タラント：	25:14-30				
羊と山羊：	25:31-46				
嵐を静める	8:23-27	4:35-41	8:22-25		
悪霊の群れを豚に 送り込む	8:28-34	5:1-20	8:26-29		
ヤイロの娘の蘇生	9:18-20, 23-26	5:21-24, 35-43	8:41-42, 49-56		
長血を患っている女の 癒し	9:20-22	5:25-34	8:43-48		
十二使徒への指示	10:5-42	6:7-13	9:1-6		教義 18章
5千人に食物を与える	14:16-21	6:33-44	9:11-17	6:5-14	
イエス、水の上を歩く	14:22-33	6:45-52		6:15-21	
命のパンの説教				6:22-71	
ペテロ、キリスト について証する	16:13-16 あかし	8:27-29	9:18-21		
王国の鍵がペテロに 約束される	16:19				
変貌；神権の鍵が 託される	17:1-13	9:2-13	9:28-36		教義 63:20-21; 110:11-13
七十人が任命され、派遣 される			10:1-12		教義 107:25, 34, 93-97; 124:138 -140
安息日に盲目の人を癒す				9章	

出来事	マタイ	マルコ	ルカ	ヨハネ	末日の啓示
ラザロの蘇生 <small>そせい</small>				11:1-53	
10人の重い皮膚病に かかった人の癒し <small>いやし</small>			17:11-19		
子供たちへの祝福	19:13-15	10:13-16	18:15-17		
マリヤ、キリストの足に香油を塗る	26:6-13	14:3-9		12:2-8	
勝利の入城	21:6-11	11:7-11	19:35-38	12:12-18	
神殿の両替人を追い出す	21:12-16	11:15-19	19:45-48		
やもめのささげ物		12:41-44	21:1-4		
エルサレムの滅亡と再臨 <small>すがこし</small> のしるし	24章	13章	21:5-38		教義45:16-60; ジーマタ1章
イエスの最後の過越 <small>すがこし</small> 聖餐を定める;十二使 徒への教え;弟子たち の足を洗う	26:14-32	14:10-27	22:1-20	13-17章	
イエスはぶどうの木				15:1-8	
ゲツセマネでの苦しみ	26:36-46	14:32-42	22:40-46	18:1	2ニフ9:21-22; モサ3:5-12; 教義19:1-24
ユダの裏切り	26:47-50	14:43-46	22:47-48	18:2-3	
カヤバの審問	26:57	14:53	22:54, 66-71	18:24, 28	
ピラトの審問	27:2, 11-14	15:1-5	23:1-6	18:28-38	
ヘロデの審問			23:7-12		
イエスへの侮辱と嘲り <small>あざけ</small>	27:27-31	15:15-20		19:1-12	
十字架の刑	27:35-44	15:24-33	23:32-43	19:18-22	ヒラ14:20-27; 3ニフ8:5-22; 10:9
復活	28:2-8	16:5-8	24:4-8		
イエス、弟子たちに 現れる		16:14	24:13-32, 36-51	20:19-23	
イエス、トマスに現れる				20:24-29	
昇天		16:19-20	24:50-53		